地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター年報

令 和 元 年 度

地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター

緒　　言

当センターは平成21年４月より地方独立行政法人として運営を始め、当センターの基本理念、「高齢者の心身の特性に応じた適切な医療の提供、高齢者のQOLを維持向上させるための研究を通じて健康長寿を目指し、超高齢社会の都市モデルの創造に寄与する」に沿って、中期計画を策定し、年度ごとの計画に反映してきました。

現在は中期計画の第３期目にあたり、システム構築と経営を含めた基盤の構築強化を継続して図りつつ、臨床と研究の成果の社会実装、見える化を図る最難関のステージに入っています。

令和元年度は、経営面ではこれまでの形態を全面的に見直し、診療科別損益会計を導入し、運営交付金の適切効率的な運用を図るとともに、契約関係の見直しに着手しました。診療面では、大都市部における超高齢社会の大きな課題である「認知症」「フレイル」に予防的に対応し、ケアの受け皿モデルを作るため、翌年度以降にこれらを骨格とするプロジェクトの準備を進めて参りました。

年度末になり、新型コロナウイルス感染症が拡大し、当センターでも施設内感染予防対策を策定するだけでなく、城北部の感染対策医療機関として、近隣医療機関と連携して、ECMOを含む最重症患者の受け入れ体制を整え、地域のかかりつけ医からのPCR検査の受け皿となる「連携検査外来」を設置する準備を行い、令和2年早々に稼働にこぎつけました。近隣医療機関の検査と合わせ、板橋区をはじめとする近隣区のPCR需要に十分な供給ができてきました。今後も、臨機応変な体制を心がけるようにいたします。

研究面では、独居高齢者でも近隣とのコミュニケーションがあれば、高い活動性を保つことができるという力強いメッセージのある研究成果や、ガンや認知症の新しい病態解明の研究成果を得ることができ、診断や治療に結びつけるべく今後努力してまいります。

ここに、東京都健康長寿医療センターの令和元年度の事業・活動内容をまとめた「地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター年報」が完成しましたのでお届けいたします。

令和元年６月から、40年以上当センターに奉職された井藤前理事長の後任として、浅学非才ではありますが、皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

理事長　鳥羽　研二

目　　次

緒言

第一部　概要 …… 1
1　概要 …… 2
2　沿革 …… 3
3　基本理念及び運営方針 …… 6
(1) 基本理念 …… 6
(2) 運営方針 …… 6
(3) 患者権利章典 …… 6
4　組織 …… 7
(1) 組織図 …… 7
(2) 職員構成 …… 9
(3) 看護部配置状況 …… 9
(4) 非常勤職員配置状況 …… 10
5　予算 …… 11
6　センターにおける会議・委員会 …… 12
(1) 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター運営協議会 …… 12
(2) 会議 …… 12
(3) 各種委員会 …… 13
7　指定・許可・学会認定 …… 14
(1) 指定・許可状況 …… 14
(2) 各種学会認定状況 …… 15
(3) 各種学会施設認定に伴う指導医等一覧 … 15
8　事務局 …… 17
9　令和元年度業務実績の全体的な概要 … 19
(1) 総括と課題 …… 19
(2) 事業の進捗状況及び特記事項 …… 20

第二部　病院部門 …… 25
Ⅰ　令和元年度運営報告 …… 25
内科総括 …… 26
総合診療科 …… 29
膠原病・リウマチ科 …… 31
腎臓内科・血液透析科 …… 32
糖尿病・代謝・内分泌内科 …… 33
循環器内科 …… 35
呼吸器内科 …… 36
消化器内科 …… 38
神経内科・脳卒中科 …… 39
血液内科 …… 41
感染症内科 …… 42
精神科 …… 43
もの忘れ外来 …… 45
緩和ケア内科 …… 46
外科総括 …… 48
外科 …… 49
血管外科 …… 50
心臓外科 …… 52
脳神経外科 …… 53
呼吸器外科 …… 54
整形外科・脊椎外科 …… 55
皮膚科 …… 56
泌尿器科 …… 57
眼科 …… 58
耳鼻咽喉科 …… 59
歯科口腔外科 …… 60
救急診療部 …… 62
麻酔科 …… 64
中央手術室 …… 66
特定集中治療室 …… 68
リハビリテーション科 …… 70
放射線診断科 …… 74
放射線治療科 …… 76
内視鏡科 …… 77
化学療法科 …… 78
臨床検査科 …… 79
輸血・細胞療法科 …… 80

病理診断科 …… 81
薬剤科 …… 83
栄養科 …… 85
臨床工学科 …… 87
認知症支援推進センター …… 89
認知症疾患医療センター …… 92
高齢者バイオリソースセンター …… 96
高齢者健康増進センター …… 97
がん相談支援センター …… 98
看護部 …… 99
医療連携室 …… 109
在宅医療・福祉相談室（医療福祉相談） … 110
老年学情報センター …… 112
養育院・渋沢記念コーナー …… 114

Ⅱ　令和元年度研究活動報告 …… 116
名誉理事長　井藤英喜 …… 117
理事長　鳥羽研二 …… 119
センター長　許俊鋭 …… 121
副院長　原田和昌 …… 123
副院長　黒岩厚二郎 …… 127
副院長　荒木厚 …… 128
総合診療科 …… 136
膠原病・リウマチ科 …… 137
腎臓内科・血液透析科 …… 139
糖尿病・代謝・内分泌内科 …… 141
循環器内科 …… 150
呼吸器内科 …… 155
神経内科・脳卒中科 …… 156
血液内科 …… 159
感染症内科 …… 161
精神科・もの忘れ外来 …… 162
外科 …… 164
血管外科 …… 165
心臓外科 …… 167
脳神経外科 …… 169
呼吸器外科 …… 170
整形外科・脊椎外科 …… 172
皮膚科 …… 175
眼科 …… 176
耳鼻咽喉科 …… 178
歯科口腔外科 …… 179
麻酔科 …… 188
リハビリテーション科 …… 189
放射線診断科 …… 192
化学療法科 …… 197
臨床検査科 …… 198
輸血・細胞療法科 …… 202
病理診断科 …… 203
薬剤科 …… 209
栄養科 …… 210
高齢者バイオリソースセンター …… 211
高齢者健康増進センター …… 218
病院部門課題研究費で行われた研究 … 220

Ⅲ　統計 …… 222
外来診療の状況
１．診療科別外来患者数 …… 223
２．診療科・初診・再診別外来患者数 … 223
３．外来初診予約時の状況 …… 224
４．救急患者取扱状況 …… 226

入院退院の状況
５．病床利用状況 …… 227
６．病床利用率 …… 227
７．月別入退院状況 …… 228
８．平均在院日数 …… 228
９．入院患者の年齢別内訳 …… 229
10．入院患者平均年齢（入院時） …… 229
11．地域別入院患者数 …… 230
12．退院者の在院期間 …… 231

入院患者の死亡状況
13．死亡者内訳及び剖検数 …… 232
14．年齢別死亡者数 …… 233
15．死亡原因別死亡者数 …… 234
16．死亡者の入院期間 …… 234

部門別業務状況
17．手術件数 …… 235
18．疾病別手術件数 …… 238
19．リハビリテーション取扱実績 …… 242
20．理学療法実施状況 …… 243
21．作業療法実施状況 …… 243

22. 言語療法実施状況…… 243
23. 心理検査等取扱件数…… 243
24. 調剤実施状況…… 244
25. 製剤実施状況…… 244
26. 院外処方箋発行率…… 244
27. 薬品管理状況…… 245
28. 薬効別薬品使用比率（薬価）…… 245
29. 麻薬取扱状況…… 246
30. 向精神薬・覚醒剤原料取扱業務… 247
31. 外来服薬指導実施状況…… 247
32. 外来がん患者指導業務…… 247
33. 病棟業務実施状況…… 248
34. 無菌製剤（抗がん剤・TPN・末梢点滴混注）処方箋取扱数…… 248
35. 医薬品情報業務…… 248
36.輸血用血液およびアルブミン製剤取扱状況…… 249
37. 病理学的業務実施状況…… 250
38. 臨床検査　検査実施状況…… 251
39. 放射線部門取扱数…… 252
40. 給食実施状況…… 254
41. 再加工及び禁止・個人対応食の状況254
42. 個人栄養食事指導実施状況…… 255
43. 集団栄養食事指導実施状況…… 255
44. 在宅看護相談室の看護実施状況… 256
45. 在宅酸素療法実績…… 257
46. 在宅人工呼吸療法実績…… 257
47. 病歴取扱状況…… 258
48. 医療相談室相談件数…… 259

診療費の収入状況

49. 診療実績…… 261
50. 診療実績：前年度比較…… 262
51. 診療実績（入院）…… 264
52. 診療実績（外来）…… 265
53. 入院患者（入院時）保険種別内訳… 266
54. 外来患者（新患）保険種別内訳… 267

疾病統計

55. 退院患者の疾患内訳
（ICD10コードによる大分類）…… 268
56. 退院患者の悪性新生物患者数内訳
（ICD10コードによる中分類）……274

第三部　研究部門……279
Ⅰ　チーム研究等……279
チーム研究……280
老化機構研究チーム……281
老化制御研究チーム……295
老化脳神経科学研究チーム……305
老年病態研究チーム……315
老年病理学研究チーム……326
神経画像研究チーム……338
社会参加と地域保健研究チーム……349
自立促進と精神保健研究チーム……376
福祉と生活ケア研究チーム……404
Ⅱ　研究支援施設等……428
アイソトープ施設……429
実験動物施設……430
高齢者健康増進事業支援室……433
研究情報管理室……435
東京都介護予防推進支援センター…436
健康長寿イノベーションセンター…438

Ⅲ　長期縦断研究等……443
SONIC研究……444
虚弱（frailty）の予防戦術の解明を目的とした長期縦断研究……446
板橋お達者健診（コホートおよび介入研究）……449
認知症を中心とした老年医学・老年学研究のプラットフォームの構築（高島平長期縦断研究）……451
全国高齢者の健康と生活に関する長期縦断研究（JAHEAD）……453
健康長寿のまちづくり研究事業(気仙沼モデルの創生)……455

Ⅳ　普及活動等……462
1　新聞・雑誌・テレビ等……463
2　プレス発表……468
3　老年学・老年医学公開講座等……469
4　友 の 会……470

第四部　補助金等……471
研究補助金・助成金等受入状況……472
1　受託研究……472
2　共同研究……472
3　奨学寄附……473
4　国庫補助……474
5　民間助成金……475
6　受託事業……476
7　学術指導……477
8　科学研究費……477
9　日本医療研究開発機構委託研究開発
……481
10　研究委託費……483

第一部　概　　要

１　概　　要

■名称　　地方独立行政法人　東京都健康長寿医療センター
■所在地　　東京都板橋区栄町35番２号
■電話　　03－3964－1141（病院部門代表）　03－3964－3241（研究部門代表）
■設立団体　　東京都
■開設年月日　　平成21年４月１日
■役員　　理事長　井藤　英喜（令和元年５月31日まで）
　　鳥羽　研二（令和元年６月１日より）
　　理　事　許　　俊鋭
　　監　事　鵜川　正樹　溝口　敬人
■建物　　構造－鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造）
　　規模－地下２階、地上12階、塔屋１階
　　面積－延61,628.28㎡

〈病院部門〉
■診療規模　　医療法定床　550床（一般520床、精神30床）
　　外来　平均794人／日（平成31年度実績）
■診療科目　　［内科系］内科、リウマチ科、腎臓内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、血液内科、感染症内科、緩和ケア内科、精神科
　　［外科系］外科、血管外科、心臓外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科口腔外科、救急科、麻酔科
　　【その他部門】リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科
　　※臨床研修指定病院（医師法、歯科医師法）
　　※診療科以外にも、臨床検査科、病理診断科を設置
　　（令和２年３月31日現在）

■施設基準等の届出関係（令和元年10月１日現在）

・歯科外来診療環境体制加算1
・一般病棟入院基本料
・精神病棟入院基本料
・超急性期脳卒中加算
・診療録管理体制加算1
・医師事務作業補助体制加算1
・急性期看護補助体制加算
・療養環境加算
・重症者等療養環境特別加算
・無菌治療室管理加算1
・無菌治療室管理加算2
・精神科身体合併症管理加算
・精神科リエゾンチーム加算
・栄養サポートチーム加算
・医療安全対策加算1
・感染防止対策加算1
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・総合評価加算
・後発医薬品使用体制加算1
・病棟薬剤業務実施加算1
・データ提出加算
・入退院支援加算
・認知症ケア加算【加算1】
・特定集中治療室管理料3
・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・地域包括ケア病棟入院料2
・緩和ケア病棟入院料1
・入院時食事療養（Ⅰ）・入院時生活療養（Ⅰ）
・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料
・がん患者指導管理料イ
・がん患者指導管理料ロ
・がん患者指導管理料ハ
・移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算
・療養・就労両立支援指導料の注2に規定する相談体制充実加算
・がん治療連携計画策定料
・薬剤管理指導料
・医療機器安全管理料1
・医療機器安全管理料（歯科）
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査
・有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査
・検体検査管理加算(Ⅰ)
・検体検査管理加算(Ⅳ)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ヘッドアップティルト試験
・人工膵臓検査、人工膵臓療法
・神経学的検査
・補聴器適合検査
・内服・点滴誘発試験

・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ＣＴ撮影及びＭＲＩ撮影
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・外来化学療法加算1
・無菌製剤処理料
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・がん患者リハビリテーション料
・歯科口腔リハビリテーション料2
・医療保護入院等診療料
・人工腎臓
・導入期加算1
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・磁気による膀胱等刺激法
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
（過活動膀胱）
・CAD／CAM冠
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)（センチネルリンパ節生検(単独)）
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・経皮的中隔心筋焼灼術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
（リードレスペースメーカー）
・両心室ペースメーカー移植術
及び両心室ペースメーカー交換術
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術
及び経静脈電極抜去術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び
両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
・経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
・腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、
腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)
悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・膀胱水圧拡張術
・胃瘻造設術
（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を
含む。）
（医科点数表第2章第10部手術の通則の16に規定する手術）
・輸血管理料Ⅰ
・輸血適正使用加算
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・麻酔管理料(Ⅰ)
・放射線治療専任加算
・外来放射線治療加算
・高エネルギー放射線治療
・定位放射線治療
・保険医療機関間の連携による病理診断
・病理診断管理加算2
・悪性腫瘍病理組織標本加算
・口腔病理診断管理加算2
・クラウン・ブリッジ維持管理料
・人工尿道括約筋植込・置換術
・ポジトロン断層撮影

■救急告示　　昭和40年３月18日（更新平成29年２月１日）

〈研究部門〉

■研究体制　　［自然科学系研究］老化機構研究チーム、老化制御研究チーム、老化脳神経科学研究チーム、老年病態研究チーム、老年病理学研究チーム、神経画像研究チーム

［社会科学系研究］社会参加と地域保健研究チーム、自立促進と精神保健研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム

２　沿革

明治５．10．15　養育院創立
５．12．１　病室建築に着手
６．２．３　病室を建築し、嘱託医師入所者の医療業務を開始
８．４．８　東京府下生活困窮者の伝染病治療をはじめる
10．６．７　東京府下生活困窮者の無料診療、施薬開始
22．11．26　出獄罹病者診療のための収容開始
37．10．７　ハンセン氏病患者収容室、結核患者病室設置

大正３．10．24　肺結核・癆疾患者の隔離治療のため板橋分院を開始
４．12．27　板橋分院に一病棟増設、定員33名

昭和５．10．１　本院医療施設、病院として開設許可
８．２．９　本院作業室の一部を改造、高齢患者の病後静養室開設
11．４．10　外来診療所を開所、救護法による患者診療の実施
11．５．２　本院医療施設、定員731名で認可
16．10．１　医療保護法による医療保護施設として府知事より認可
17．３．18　医療保護施設として定員763名
20．４．13　米空軍Ｂ29による大空襲により、病院焼失
20．９．25　板橋の元陸軍造兵廠工員宿舎を借り、病院として再発足
22．７．24　医務課を廃止、付属病院開設
33．３．31　附属病院建設工事竣工（470床）
44．１．　美濃部都知事、1,000床の老人専門病院建設の意向表明
44．３．１　老人病院建設準備室設置

45. 7.　老人病院建設工事着工
45. 10.　老人病院開設準備委員会設置
47. 4.　東京都老人総合研究所開所（研究部門）
47. 4. 1　村上元孝病院長就任
47. 4.　新附属病院及び「老人総合研究所」開設
47. 6. 1　外来診療開始
47. 6. 7　旧病院より新病院へ入院患者を移送
47. 8. 31　第１回養育院附属病院運営協議会開催
（現在の病院は、昭和47年に竣工したものであり、この時より一般都民も利用できる高齢者医療の専門病院という形で運営されている。）
53. 6. 1　病院防災工事開始
53. 8. 20　第11回国際老年学会の事務局となる
54. 5. 11　精神科病棟開設
56. 10.　財団法人東京都老人総合研究所に改組（研究部門）
59. 1. 4　「老年学情報センター」開設
59. 4. 1　村上元孝病院長は名誉院長となる
59. 4. 2　豊倉康夫病院長就任
59. 9.　米国国立老化研究所（NIA）との間で研究協力に関する協定の締結（研究部門）
59. 12. 1　事務室医事課における医事事務の電算化を実施
60. 12. 3　血液科病棟においてクリーンルーム（２床）を開設
61. 4. 1　「老人医療センター」と名称を変更
62. 4. 1　臨床研修病院の指定を受ける
63. 3. 25　MR棟竣工
63. 3.　中華人民共和国北京老年病医療研究中心との研究交流事業に関する協定に調印（研究部門）
63. 9.　ソビエト連邦医学アカデミー老年学研究所との間で研究協力覚書の交換（研究部門）（現ウクライナ医学アカデミー老年学研究所）
63. 10. 5　結核病棟を廃止、普通病棟とする

平成２. 4. 1　豊倉康夫院長は名誉院長となる
２. 4. 1　藏本築院長就任
２. 7. 1　精神科病棟内に痴呆病床10床開床
２. 7. 2　外来処方・予約コンピュータ導入
２. 8. 6　研究系１研究施設に組織改正（研究部門）
２. 9.　ポジトロン医学研究施設開設（研究部門）
３. 2. 15　病棟改修のため４病棟閉鎖
３. 4. 1　病棟改修工事着工
４. 7. 4　20周年記念講演会都民ホールで開催
５. 4. 2　小澤利男院長就任
６. 5. 31　全病棟改修工事竣工
６. 6. 11　第１回養育院老年学会開催
６. 7. 1　総合診療病棟開設
７. 3. 30　養育院老人医療センター運営基本方針策定
７. 6. 10　第２回養育院老年学会開催
８. 3. 15　老人医療センター改修工事竣工
８. 4. 10　ICU・CCU開設
８. 9. 28　第３回養育院老年学会開催
９. 4. 1　藏本院長は名誉院長となる
９. 4. 2　折茂肇院長就任
９. 7. 16　高齢者施策推進室の発足
９. 9. 1　脳卒中診療のユニットの開設
９. 10. 8　第４回東京都老年学会開催
９. 12. 1　エイズ診療拠点病院の指定を受ける
９. 12. 10　板橋区、板橋区医師会との地域連携３事業開始
10. 10. 8　研究系１研究施設に組織改正（研究部門）
10. 10. 8　第５回東京都老年学会開催
11. 1. 11　もの忘れ外来開設
11. 4. 1　小澤病院長は名誉院長となる
11. 5.　「中期経営計画」策定（研究部門）
11. 7. 26　区西北部医師会、歯科医師会、薬剤師会と医療連携に関する協定締結を開始（11. 12. 13　協定締結終了）
11. 9. 30　デイホスピタル終了
11. 10. 4　ペインクリニック外来の開設
11. 10. 18　国際高齢者年記念講演会開催
11. 10. 29　第６回東京都老年学会開催
12. 1.　区西北部二次保健医療圏等医療連携協議会の開催
12. 4. 1　老人医療センターホームページを開設
12. 10.　地域連携室の開設
12. 10. 13　第７回東京都老年学会開催
13. 1.　高血圧外来、不整脈外来、めまい外来の開設

13. 2. 東洋医学外来の開設
13. 4. 1 高齢者施策推進室は福祉局に統合となる
13. 12. 老人医療センター院内LAN稼働
13. 12. 18 第８回東京都老年学会開催
14. 4. 地域福祉財団と統合し、新たに財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団　東京都老人総合研究所として発足　グループ研究制に組織改正（研究部門）
14. 9. 21 老人医療センター30周年記念式典開催
14. 10. 1 林泰史院長就任
14. 11. 29 第９回東京都老年学会開催
15. 7. 16 オーダーメード医療実現化プロジェクト参画
15. 10. 15 第10回東京都老年学会開催
15. 12. 8 高齢者いきいき外来の開設
16. 8. 1 「福祉局」と「健康局」が統合され「福祉保健局」となる
16. 8. 23 病院機能評価認定
16. 11. 5 第11回東京都老年学会開催
18. 1. 12 東京都老年学会と東京都保健医療学会が統合され東京都福祉保健医療学会として開設
17. 4. コア研究体制に組織改正（研究部門）
18. 4. 1 井藤英喜院長就任
18. 7. 13 東京都が発表した「行財政改革実行プログラム」の中で、老人医療センターと老人総合研究所は、地方独立行政法人への移行を目指すことに決定。
18. 11. 2 平成18年度東京都福祉保健医療学会開催
19. 5. 31 福祉保健局が「板橋キャンパス再編整備基本構想」を公表。
21. 4. 1 東京都老人医療センターと東京都老人総合研究所が統合し、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターとして新たに出発。
松下正明理事長、井藤英喜センター長、中村彰吾経営企画局長就任
外来化学療法室の開設
新施設開設建設室の設置
23. 1. 新施設建設着工
23. 9. 緩和ケア内科の開設
24. 1. 救急診療部の開設
24. 2. 東京都認知症疾患医療センターの指定を受ける
24. 3. 東京都大腸がん診療連携協力病院の指定を受ける
25. 3. 在宅医療連携病床の新設
25. 4. 1 呼吸器外科の開設
25. 6. 新施設開設
旧病院より新病院へ入院患者を移送
電子カルテシステムの導入
25. 6. 30 新施設開設建設室の廃止
25. 12. 東京都災害拠点病院指定
26. 4. 1 婦人科の廃止
27. 4. 1 井藤英喜理事長、許俊鋭センター長就任
事務部門の組織改正（事務部長の設置、４課から３課体制に改編）
認知症支援推進センターの設置
27. 7. 1 臨床試験管理センターの設置、治験管理センター（治験事務局）の廃止
28. 1. 1 がん相談支援センターの設置
28. 4. 1 医療戦略室の設置
29. 1. 4 病院機能評価認定
29. 6. 12 第10,000例目の病理解剖を実施
29. 10. ICU・CCUの再編・SCUの開設
30. 8. 1 健康長寿イノベーションセンターの設置
31. 1. 1 電子カルテシステムの更新
令和元. 6. 1 鳥羽研二理事長就任
元. 6. 1 井藤英喜名誉理事長就任

3　基本理念及び運営方針

(1) 基本理念

センターは、高齢者の心身の特性に応じた適切な医療の提供、臨床と研究の連携、高齢者のQOLを維持・向上させるための研究を通じて、高齢者の健康増進、健康長寿の実現を目指し、大都市東京における超高齢社会の都市モデルの創造の一翼を担う。

(2) 運営方針

ア　病院運営方針

・患者さま本位の質の高い医療サービスを提供します。
・高齢者に対する専門的医療と生活の質（QOL）を重視した全人的包括的医療を提供します。
・地域の医療機関や福祉施設との連携による継続性のある一貫した医療を提供します。
・診療科や部門・職種の枠にとらわれないチーム医療を実践します。
・高齢者医療を担う人材の育成及び研究所との連携による研究を推進します。

イ　研究所運営方針

・東京都の高齢者医療・保健・福祉行政を研究分野で支えます。
・地域の自治体や高齢者福祉施設と連携して研究を進めます。
・国や地方公共団体、民間企業等と活発に共同研究を行います。
・諸外国の代表的な老化研究機関と積極的に研究交流を行います。
・最先端技術を用いて老年病などの研究を行います。
・研究成果を公開講座や出版によりみなさまに還元します。

(3) 患者権利章典

患者さまは、人間として尊厳を有しながら医療を受ける権利を持っています。また、医療は、患者さまと医療提供者とが、信頼関係に基づいてともにつくり上げていくものです。

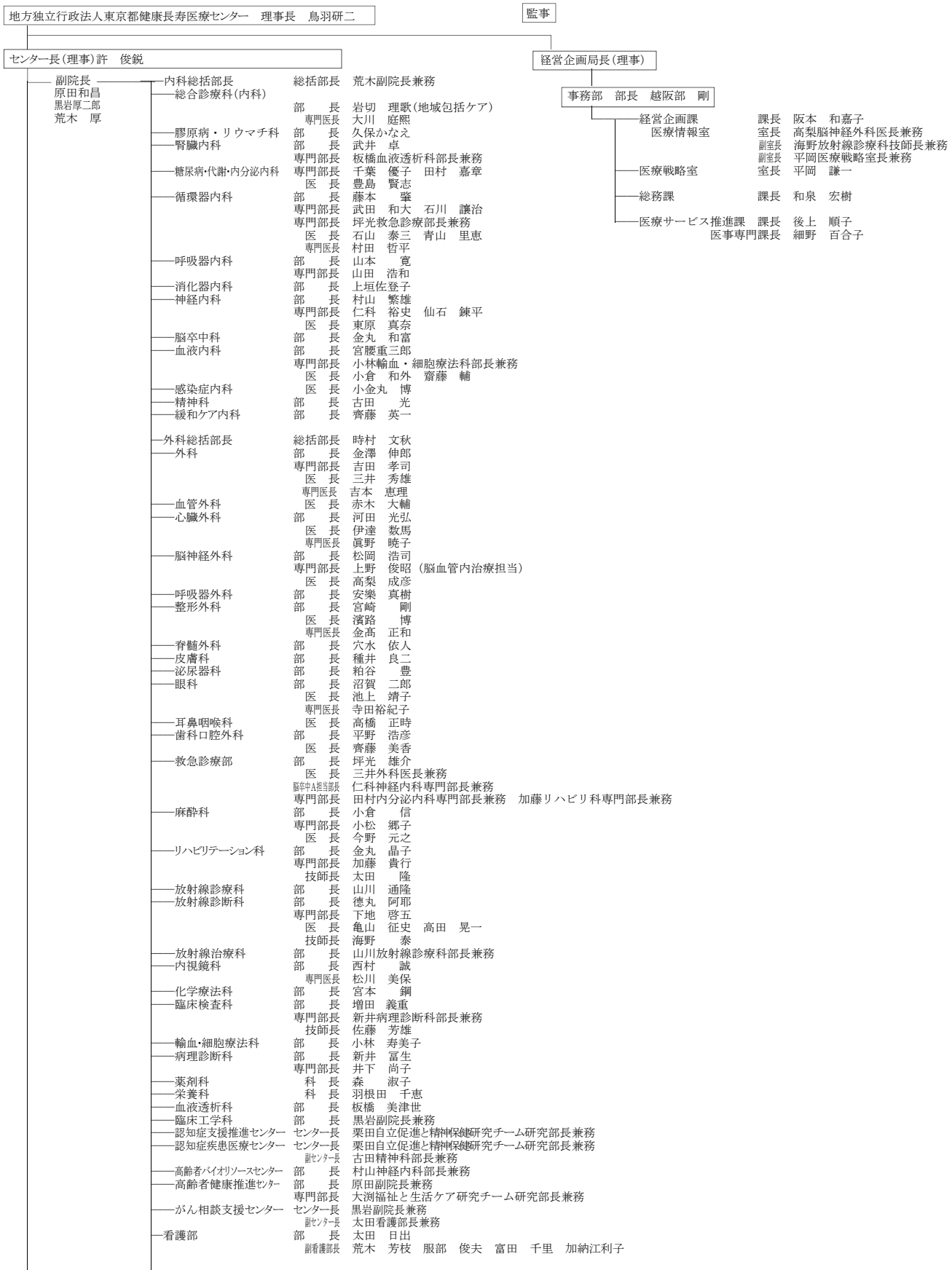
当センターは、このような考え方に基づき「患者権利章典」を制定し、これを守り、患者さま中心の医療を実践していきます。

患者さまもこの趣旨をご理解いただき、自らの意思と責任で医療に参加してくださるようお願いいたします。

1　だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
2　だれもが、一人の人間として尊重され、医師や看護師など医療提供者との相互協力のもとで医療を受ける権利があります。
3　病気や検査、治療について、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明を受ける権利があります。
4　治療方法などを自分の意思で選択する権利があります。
5　自分の診療記録の開示を求める権利があります。
6　診療の過程で得られた患者さまの個人情報や療養中のプライバシーが守られる権利があります。
7　研究途上にある医療に関し、目的や危険性などについて十分な情報提供を受けたうえで、その医療を受けるかどうか決める権利と、何らの不利益を受けることなくいつでもその医療を拒否する権利があります。
8　良質な医療を実現するためには、医師をはじめとする医療提供者に対し、患者さま自身の健康に関する情報をできるだけ正確に提供する責任と義務があります。
9　納得できる医療を受けるために、医療に関する説明を受けてもよく理解できなかったことについて、十分理解できるまで質問する責任と義務があります。
10　すべての患者さまが適切な医療を受けられるようにするため、患者さまには、他の患者さまの治療や病院職員による医療提供に支障を与えないよう配慮する責任と義務があります。

4　組織

(1)　組織図　（令和２年３月31日現在）




副所長
(自然科学系)
重本　和宏
老化機構研究チーム　研究部長　井上　聡
研究副部長　萬谷　博　三浦　ゆり
老化制御研究チーム　研究部長　石神　昭人
研究副部長　大澤　郁朗
老化脳神経科学研究チーム　研究部長　遠藤　昌吾　堀田　晴美
専門副部長　内田　さえ
老年病態研究チーム　研究部長　重本副所長兼務
研究副部長　豊田　雅士　上住　聡芳
老年病理学研究チーム　研究部長　石渡　俊行　村山神経内科部長兼務
専門副部長　相田　順子
神経画像研究チーム　研究部長　石井　賢二
研究副部長　豊原　潤
副所長
(社会科学系)
新開　省二
社会参加と地域保健研究チーム　研究部長　藤原　佳典　北村　明彦
研究副部長　小林　江里香
専門副部長　青柳　幸利
自立促進と精神保健研究チーム　研究部長　栗田　主一　金　憲経　平野歯科口腔外科部長兼務
専門副部長　小原　由紀　岩崎　正則
福祉と生活ケア研究チーム　研究部長　石﨑　達郎　大渕　修一
研究副部長　島田　千穂
研究支援施設等
アイソトープ施設　研究副部長　三浦老化機構研究チーム研究副部長兼務
実験動物施設　研究部長　重本副所長兼務
高齢者健康増進事業支援室　研究部長　大渕福祉と生活ケア研究チーム研究部長兼務
研究情報管理室　研究部長　重本副所長兼務
介護予防推進支援センター　研究部長　大渕福祉と生活ケア研究チーム研究部長兼務
健康長寿イノベーションセンター
センター長　原田副院長兼務
副センター長　原田副院長兼務
副センター長　新開副所長兼務
研究開発ユニット　ユニット長　金井　信雄
専門副部長　田中　紀子
事務ユニット　ユニット長　阪本経営企画課長兼務
医療安全対策室
感染対策室

(2) 職員構成（職種と定数）

（令和２年３月31日現在）

職種		計画数
事務系	一般事務	86
	計	86
福祉	福祉（MSW）	11
	心理	8
	福祉技術（ST）	4
	計	23
医師	医師	121
	歯科医師	3
	計	124
研究員	研究員	88
	計	88

※　役員は含んでいない。

職種			計画数
医療技術	薬剤師		36
	診療放射線技師		30
	歯科衛生士		1
	歯科技工士		1
	理学療法士		17
	作業療法士		8
	臨床検査技師		44
	栄養士		7
	医療技術（臨床工学技士）		15
	視能訓練士		2
	技能		1
	計		160
看護	看護師		481
	計		481
計			964

(3) 看護部配置状況

（令和２年３月31日現在）

病棟・診療科		定床数	現員				夜勤体制（準－深）
			管理職	看護師長（次）	看護師	計	
５東 循環器内科、心臓外科、心臓リハ		37		1	22	23	3-3
５西 循環器内科		37		1	24	25	3-3
６東 整形外科、脊椎外科、リハビリ科		38		1	21	22	3-3
６西 整形外科、脊椎外科、内科系診療科、リハビリ科、在宅医療連携病床		37		1	21	22	3-3
７東 外科、血管外科、眼科		37		1	21	22	3-3
７西 外科、血管外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科		38		1	22	23	3-3
８東 膠原病・リウマチ科、消化器内科		38		1	21	21	3-3
８西 消化器内科		38		1	19	20	3-3
９東 総合診療科、感染症内科、呼吸器内科、緩和ケア科		38		1	21	22	3-3
９西 糖尿病・代謝・内分泌内科、歯科口腔外科、腎臓内科、総合診療科		38		1	22	23	3-3
10東 神経内科、脳卒中科、脳神経外科、皮膚科、内科系診療科		37		1	20	21	3-3
10西 神経内科、脳卒中科		37		1	21	22	3-3
11東 精神科		30		1	15	16	2-2
11西 血液内科、化学療法科		36		1	21	22	3-3
12階 緩和ケア内科		20		1	17	18	3-3
特定集中治療室（ICU／CCU）		8		1	25	26	4-4
SCU		6		1	14	15	2-2
手術室				1	22	23	
外来				1	19	20	
内視鏡					3	3	
救急外来				1	16	17	
在宅看護				1	1	2	
看護部			5	5	2	12	
再掲	セーフティーマネージャー			1		1	
	病床管理担当			1		1	
	感染管理認定看護師			1		1	
	皮膚・排泄ケア認定看護師			1		1	
	認知症看護認定看護師				1	1	
	がん看護専門看護師				1	1	
	研修教育担当			1		1	
合　　計			5	26	410	441	

※産休、育休等の職員は含んでいない

（4）非常勤職員配置状況

（令和２年３月31日現在）

種別＼科目	総合診療科（内科）	膠原病・リウマチ科	腎臓内科	糖尿病・代謝・内分泌内科	循環器内科	ICU／CCU	呼吸器内科	消化器内科	神経内科	血液内科	感染症内科	精神科	緩和ケア内科	外科	血管外科	心臓外科	脳神経外科	呼吸器外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	救急診療部	歯科口腔外科	麻酔科	リハビリテーション科	放射線診療科	放射線診断科	内視鏡科	化学療法科	臨床検査科	病理診断科	薬剤科	栄養科	血液透析科	臨床工学科	認知症支援推進センター	認知症疾患医療センター	臨床研究推進センター	臨床試験管理センター	バイオリソースセンター	看護部	研究部門	経営企画課	総務課	医療サービス推進課	総計
専門医		5	2	2	26		5	5	12		2	4	4	1	3	8	1	12	6		4	8	4	5	2	13			26	4			4			3								1		2	174
研修医	2	3	6	5	5		2	4	3	1	1	2		2					1	1		5		2	2			1				4														52
研究員																																										109				109
医療技術				2					2			6	4									3			2		2	2			13	2	4	7		2		2							2	60
看護師																															3										39	3				45
事務				3	1																							1			2	6				3	1					47	1	14	24	102
総計	2	8	8	11	32		7	9	17	1	3	12	8	3	3	8	1	12	7	1	4	16	4	7	6	13	2	3	27	4		16	12	10	7	3	2	3	3			39	164	2	14	28	542

５　予算（令和元年度）

（単位：百万円）

区　　分	金　　額
収入	
営業収益	18,329
医業収益	13,551
研究事業収益	67
運営費負担金	2,584
運営費交付金	1,962
補助金	30
寄附金	－
雑益	135
営業外収益	155
寄附金	1
雑収益	154
資本収入	－
運営費交付金	－
長期借入金	－
その他の資本収入	－
受託研究等外部資金収入	708
計	19,193
支出	
営業費用	18,656
医業費用	16,154
給与費	8,135
材料費	4,354
委託費	1,477
設備関係費	1,168
研究研修費	70
経費	950
研究事業費用	1,820
給与費	1,110
材料費	45
委託費	176
設備関係費	164
研究研修費	187
経費	139
一般管理費	682
営業外費用	－
資本支出	1,099
建設改良費	322
長期借入金償還金	777
その他の支出	－
受託研究等外部資金支出	651
計	20,406

６　センターにおける会議・委員会

（令和２年３月31日現在）

(1) 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター運営協議会

○目　　的：外部有識者による意見や助言を受け、都民ニーズに応えた業務運営を実施するため
○審議事項：センターの事業内容及び運営方針、その他運営上必要な事項に関すること
○構成委員：以下のとおり

（敬称略）

氏名	所属
折　茂　　肇	公益財団法人骨粗鬆症財団　理事長
鈴　木　隆　雄	桜美林大学　老年学総合研究所　所長
新　田　國　夫	一般社団法人全国在宅療養支援診療所連絡会　会長
秋　山　正　子	株式会社ケアーズ　代表取締役 白十字訪問看護ステーション 統括所長 暮らしの保健室　室長
坂　本　　健	板橋区長
平　川　博　之	公益社団法人東京都医師会　副会長
髙　橋　清　輝	公益社団法人豊島区医師会　会長
増　田　幹　生	一般社団法人東京都北区医師会　会長
齋　藤　英　治	公益社団法人板橋区医師会　会長
金　子　　治	公益社団法人東京都板橋区歯科医師会　会長
伊　藤　大　介	一般社団法人練馬区医師会　会長
植　木　　浩	患者代表
村　田　由　佳	東京都福祉保健局高齢社会対策部長
鳥　羽　研　二	東京都健康長寿医療センター　理事長
許　　俊　鋭	東京都健康長寿医療センター　センター長
越 阪 部　　剛	東京都健康長寿医療センター　経営企画局長(代)　事務部長

(2) 会議

ア　理事会

○メンバー：理事長、センター長、経営企画局長、監事
○理事長が必要と認めたとき開催

イ　経営戦略会議

○メンバー：理事長、センター長、経営企画局長、副院長、副所長、看護部長、事務部長、経営企画課長、医療戦略課長、総務課長、医療サービス推進課長、医事専門課長
○毎月第３木曜日開催

ウ　病院運営会議

○メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長、経営企画局長、副院長、内科総括部長、外科総括部長、看護部長、事務部長、リハビリテーション科主任技術員、放射線診断科技師長、臨床検査科技師長、臨床工学科主任技術員、病理診断科主任技術員、薬剤科長、栄養科長、経営企画課長、医療戦略室長、総務課長、医療サービス推進課長、医事専門課長

○毎月第２、第４月曜日開催

エ　病院幹部会

○メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長、経営企画局長、副院長、各診療部門長・技師長、各診療部門専門部長、各臨床研究部門長、看護部長、副看護部長、事務部長、経営企画課長、総務課長、医療サービス推進課長

○毎月第４火曜日開催

オ　研究推進会議

○メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長、副所長、自然科学系研究部長、社会科学系研究部長、事務部長（オブザーバー）、研究開発ユニット長、事務ユニット長

○毎月第１、第３木曜日開催

カ　研究所幹部会議

○メンバー：センター長、理事長(オブザーバー)、副所長、各研究部長、各研究専門部長、各研究副部長、各研究専門副部長、研究開発ユニット長、健康データ科学研究室長、健康長寿イノベーションセンター顧問、事務ユニット長

○毎月第１、第３木曜日開催

キ　トランスレーショナルリサーチ推進会議

○メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長、副院長、副所長、病理診断科部長、看護部長、経営企画課長、健康長寿イノベーションセンター研究開発ユニット長(オブザーバー)、健康長寿イノベーションセンター顧問（オブザーバー）、健康長寿イノベーションセンター特命担当部長（オブザーバー）

○隔月第３木曜日開催

(3) 各種委員会

安全衛生委員会、広報委員会、指名業者選定委員会、仕様書策定委員会、図書委員会、ボランティア委員会、特定感染症予防対策委員会、感染症対策小委員会、診療検討委員会、救急部会、手術室運営部会、特定集中治療室運営部会、クリニカルパス推進委員会、薬事委員会、診療材料委員会、NST・栄養委員会、血管再生治療委員会、保険委員会、医療安全管理委員会、医療機器安全管理委員会、医療ガス安全・管理委員会、病歴委員会、臨床検査委員会、輸血・細胞療法委員会、研修管理委員会、研修管理小委員会、歯科臨床研修管理委員会、放射線安全委員会、個人情報保護推進委員会、事例検討会議院内事故調査委員会、情報システム委員会、リスクマネジメント推進会議、患者サービス向上委員会、がん診療委員会、行動制限最小化委員会、DPC・原価計算経営管理委員会、緩和ケア委員会、臨床試験審査委員会、研究倫理審査委員会、治験審査委員会、臨床研究審査委員会、高難度新規医療技術評価委員会、未承認新規医薬品等評価委員会、内科専門研修プログラム管理委員会、眼科専門研修プログラム管理委員会、化学療法委員会、研究所外部評価委員会、研究所内部評価委員会、研究不正防止委員会、利益相反委員会、職務発明審査会、海外渡航審査会、幹部研究職員候補者選考委員会、研究員等候補者選考委員会、国外研究員候補者選考委員会、研究審査委員会、研究部門倫理委員会、事例検討会、研究機器整備委員会、介護予防主任運動指導員等修了試験委員会、バイオハザード実験安全委員会、組換えDNA実験安全委員会、短寿命放射性薬剤臨床利用委員会、動物実験委員会、研究所アイソトープ委員会、研究所情報管理委員会、広報委員会老人研部会、環境安全委員会

7　指定・許可・学会認定

(1) 指定・許可状況

指定・許可年月日	事　項	根拠法令等
昭和５．10．１	開設許可	医療法第７条
25．５．４	生活保護法指定医療機関	生活保護法第49条
37．４．16	結核予防法指定医療機関（医療機関指定書第4251号）	結核予防法第36条第１項
40．３．18	救急病院告示医療機関	厚生省「救急病院等を定める省令」
45．６．１	保険医療機関指定	保険医療機関及び保険薬局並びに保険医及び保険薬剤師の登録に関する省令
45．６．１	国民健康保険法療養取扱機関	国民健康保険法第37条第３項
46．４．10	東京都以外の区域の保険者に係る療養の給付を担当する旨の申し出について（46養病医第556号）	国民健康保険法第37条第5項
48．12．１	地公災東京都支部協定医療機関	地方公務員災害補償法第26条（都立病院との協定に準ずる）
52．１．１	被爆者一般疾病医療機関（指定番号　原病176） 東京都職員共済組合契約医療機関 心身障害者(児)医療費助成制度にもとづく同意医療機関 特殊疾病対策医療費助成制度にもとづく契約医療機関 公害医療機関	原子爆弾被爆者の医療等に関する法律 共済組合との契約による心身障害者の医療費の助成に関する条例 東京都医療費助成実施要綱及び厚生事務次官通知 公害健康被害補償法第20条（全健保適用医療機関）
54．10．７	心臓循環器（CCU）救急医療事業協力医療施設	都　心臓循環器（CCU）救急医療実施要綱（衛生局）
61．６．１	紹介型病院の承認	厚生省告示第177号
62．３．16	病院群による臨床研修を行う病院	医師法第16条の２第１項
平成９．12．１	エイズ診療拠点病院	都　エイズ診療協力病院運営要綱（衛生局）
15．11．１	救急救命士再教育（病院実習）実施医療機関	救急救命士の再教育（病院実習）に関する協定書
15．11．19	臨床研修病院	医師法第16条の２第１項
19．１．31	指定自立支援医療機関（精神通院医療）	障害者自立支援法第59条第１項
19．４．１	指定自立支援医療機関（免疫）	障害者自立支援法第59条第１項
19．７．10	東京都肝臓専門医医療機関	東京都難病患者等に係る医療費等の助成に関する規則
21．１．30	東京都脳卒中急性期医療機関	東京都脳卒中急性期医療機関設置要綱第３の３
21．４．１	開設許可（東京都健康長寿医療センター）	医療法第７条
24．２．９	東京都認知症疾患医療センター	東京都認知症疾患医療センター運営事業実施要綱（福祉保健局）
24．３．22	東京都大腸がん診療連携協力病院	東京都大腸がん診療連携協力病院設置要綱（福祉保健局）
25．12．19	東京都災害拠点病院	東京都災害拠点病院設置運営要綱（福祉保健局）
26．４．23	臨床修練指定病院	外国医師等が行う臨床修練に係る医師法第17条等の特例等に関する法律第２条第４号
27．１．１	難病医療費助成指定医療機関	難病の患者に対する医療等に関する法律第14条第１項

(2) 各種学会認定状況

日本内科学会認定教育施設（教育病院）	日本老年歯科医学会認定研修歯科診療施設
日本老年医学会認定施設	日本感染症学会認定研修施設
日本消化器病学会認定医制度認定施設	日本透析医学会専門医制度教育関連施設
日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設	日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設
日本神経学会認定教育施設	日本腎臓学会専門医制度研修施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	日本手外科学会研修施設
日本呼吸器学会認定医制度認定施設	日本脳卒中学会専門医制度研修教育病院
日本血液学会認定血液研修施設	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本糖尿病学会認定教育施設	腹部ステントグラフト実施施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設	日本精神神経学会精神科専門医研修施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術実施施設
日本整形外科学会専門医研修施設	日本脳神経外科学会専門医研修プログラム研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設	日本脳神経外科学会専門医研修プログラム関連施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	胸部ステンドグラフト実施施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設	日本核医学会専門医教育病院
日本皮膚科学会認定専門医研修施設	日本脈管学会認定研修指定施設
日本麻酔科学会認定研修施設	日本眼科学会専門医制度眼科研修プログラム施行施設
日本リウマチ学会教育施設	日本緩和医療学会認定研修施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
日本リハビリテーション医学会研修施設	日本臨床細胞学会施設
日本病理学会研修認定施設	呼吸器外科専門医関連施設
日本臨床細胞学会教育研修施設	日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設
日本高血圧学会専門医認定研修施設	日本内科学会認定医教育病院
日本認知症学会専門医教育施設	経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設（TAVI）
日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設	日本核医学会　PET撮像施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設	日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本消化器外科学会専門医修練施設	非血縁者間骨髄採取認定施設
日本気管食道科学会専門医研修施設	非血縁者間末梢幹細胞採取認定施設
日本臨床検査医学会認定研修施設	補助人工心臓治療関連学会協議会IMPELLA実施施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設	NCD参加施設
日本栄養療法推進協議会NST稼働施設認定	日本動脈硬化学会専門医制度教育病院
日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設	日本肝臓学会関連施設
日本老年精神医学会専門医制度認定施設	日本脳卒中学会一時脳卒中センター

(3) 各種学会施設認定に伴う指導医等一覧

（令和２年３月31日現在）

学会名	指導医等名（卒業年次）		
日本内科学会	鳥羽　研二　（S53）	村山　繁雄　（S54）	金丸　和富　（S58）
	荒木　　厚　（S58）	宮腰重三郎　（S59）	原田　和昌　（S60）
	小林寿美子　（S61）	岩切　理歌　（H１）	加藤　貴行　（H２）
	武田　和大　（H２）	宮本　　鋼　（H３）	仁科　裕史　（H３）
	山田　浩和　（H４）	上垣佐登子　（H５）	坪光　雄介　（H５）
	石川　譲治　（H６）	武井　　卓　（H７）	千葉　優子　（H７）
	久保かなえ　（H７）	板橋美津世　（H８）	田村　嘉章　（H８）
	藤本　　肇　（H８）	石山　泰三　（H８）	眞野　暁子　（H８）
	山本　　寛　（H９）	西村　　誠　（H９）	小倉　和外　（H10）
	仙石　錬平　（H11）	東原　真奈　（H13）	小金丸　博　（H13）
	豊島　堅志　（H16）	青山　理恵　（H17）	村田　哲平　（H17）
	大庭　和人　（H18）	鳥羽　梓弓　（H18）	松川　美保　（H18）
	大友　亮　（H18）	伊賀　祥子　（H20）	大川　庭熙　（H21）
	石橋　昌幸　（H21）	松川　美穂　（H21）	小寺　玲美　（H22）
	佐塚まなみ　（H23）	野木森智江美　（H23）	渋川　茉莉　（H25）
日本老年医学会	鳥羽　研二　（S53）	荒木　　厚　（S58）	宮腰重三郎　（S59）
	原田　和昌　（S60）	岩切　理歌　（H１）	宮本　　鋼　（H３）
	石川　譲治　（H６）	千葉　優子　（H７）	田村　嘉章　（H８）
	藤本　　肇　（H８）	山本　　寛　（H９）	豊島　堅志　（H16）
	青山　理恵　（H17）	鳥羽　梓弓　（H18）	伊賀　祥子　（H20）
	片岡　　愛　（H20）	小寺　玲美　（H22）	齊藤　陽子　（H24）
日本消化器病学会	黒岩厚二郎　（S54）	金澤　伸郎　（H１）	
	上垣佐登子　（H５）	松川　美保　（H18）	小西　治子　（H18）
日本消化器内視鏡学会	金澤　伸郎　（H１）	上垣佐登子　（H５）	吉田　孝司　（H７）
	西村　　誠　（H９）	小西　治子　（H18）	
日本神経学会	村山　繁雄　（S54）	金丸　和富　（S58）	加藤　貴行　（H２）

学会名	指導医等名（卒業年次）		
	仁科　裕史　（Ｈ３）	仙石　錬平　（H11）	東原　真奈　（H13）
	大友　亮　（H18）	松川　美穂　（H21）	松原　知康　（H23）
	渋川　茉莉　（H25）		
日本循環器学会	許　俊鋭　（Ｓ49）	原田　和昌　（Ｓ60）	武田　和大　（Ｈ２）
	坪光　雄介　（Ｈ５）	石川　譲治　（Ｈ６）	石山　泰三　（Ｈ８）
	藤本　肇　（Ｈ８）	眞野　暁子　（Ｈ８）	河田　光弘　（Ｈ９）
	青山　理恵　（H17）	村田　哲平　（H17）	鳥羽　梓弓　（H18）
	十菱　千尋　（H17）		
日本呼吸器学会	山田　浩和　（Ｈ４）	山本　寛　（Ｈ９）	片岡　愛　（H20）
	石橋　昌幸　（H21）	佐塚まなみ　（H23）	野木森智江美　（H23）
日本血液学会	宮腰重三郎　（Ｓ59）	小林寿美子　（Ｓ61）	岩切　理歌　（Ｈ１）
	宮本　鋼　（Ｈ３）	小倉　和外　（H10）	齋藤　輔　（H10）
	橘　盛昭　（H24）		
日本糖尿病学会	荒木　厚　（Ｓ58）	千葉　優子　（Ｈ７）	田村　嘉章　（Ｈ８）
	豊島　堅志　（H16）	大庭　和人　（H18）	小寺　玲美　（H22）
日本超音波医学会	許　俊鋭　（Ｓ49）	上垣佐登子　（Ｈ５）	石川　譲治　（Ｈ６）
日本外科学会	許　俊鋭　（Ｓ49）	黒岩厚二郎　（Ｓ54）	金澤　伸郎　（Ｈ１）
	吉田　孝司　（Ｈ７）	三井　秀雄　（Ｈ８）	安樂　真樹　（Ｈ８）
	河田　光弘　（Ｈ９）	赤木　大輔　（H10）	根元　洋光　（H18）
	吉本　恵理　（H19）	伊達　数馬　（H19）	瀬尾　明彦　（H21）
	村田　知洋　（H22）	吉岡　孝房　（H22）	
日本整形外科学会	時村　文秋　（Ｓ61）	穴水　依人　（Ｈ３）	宮崎　剛　（Ｈ５）
	濱路　博　（Ｈ７）	正田奈緒子　（H15）	金髙　正和　（H18）
	金子　雅子　（H16）	中村　伸哉　（H21）	
日本眼科学会	沼賀　二郎　（Ｓ59）	池上　靖子　（Ｓ61）	寺田裕紀子　（H18）
	山本　裕樹　（H19）	福田　祥子　（H20）	高尾　博子　（H21）
日本耳鼻咽喉科学会	髙橋　正時　（H15）	大野　慶子　（H19）	
日本泌尿器科学会	粕谷　豊　（Ｈ２）	永田　卓士　（H15）	吉田　香苗　（H21）
日本皮膚科学会	種井　良二　（Ｓ62）	宮澤理恵子　（H21）	
日本麻酔科学会	小倉　信　（Ｓ57）	小松　郷子　（Ｓ60）	廣瀬　佳代　（H18）
日本リウマチ学会	山田　浩和　（Ｈ４）	宮崎　剛　（Ｈ５）	久保かなえ　（Ｈ７）
	伊賀　祥子　（H20）		
日本医学放射線学会	山川　通隆　（Ｓ54）	徳丸　阿耶　（Ｓ60）	下地　啓五　（H10）
	高田　晃一　（H10）		
日本リハビリテーション医学会	村山　繁雄　（Ｓ54）	金丸　晶子　（Ｓ61）	加藤　貴行　（Ｈ２）
	正田奈緒子　（H15）		
日本病理学会	新井　冨生　（Ｓ59）	井下　尚子　（Ｈ６）	種井　善一　（H20）
	野中　敬介　（H22）		
日本臨床細胞学会	新井　冨生　（Ｓ59）	井下　尚子　（Ｈ６）	野中　敬介　（H22）
日本高血圧学会	原田　和昌　（Ｓ60）	石川　譲治　（Ｈ６）	青山　理恵　（H17）
日本認知症学会	鳥羽　研二　（Ｓ53）	村山　繁雄　（Ｓ54）	金丸　和富　（Ｓ58）
	仁科　裕史　（Ｈ３）	古田　光　（Ｈ８）	仙石　錬平　（H11）
日本心血管インターベンション学会	武田　和大　（Ｈ２）	坪光　雄介　（Ｈ５）	藤本　肇　（Ｈ８）
	青山　理恵　（H17）	村田　哲平　（H17）	
日本消化器外科学会	黒岩厚二郎　（Ｓ54）	金澤　伸郎　（Ｈ１）	
日本臨床検査医学会	新井　冨生　（Ｓ59）		
日本内分泌学会	千葉　優子　（Ｈ７）	田村　嘉章　（Ｈ８）	
日本老年精神医学会	古田　光　（Ｈ８）	栗田　主一　（Ｓ59）	藤原　佳典　（Ｈ５）
	河上　緒　（H18）	大森　佑貴　（H22）	
日本老年歯科医学会	平野　浩彦　（Ｈ２）	齊藤　美香　（Ｈ７）	
日本透析医学会	武井　卓　（Ｈ７）	板橋美津世　（Ｈ８）	
日本腎臓学会	武井　卓　（Ｈ７）	久保かなえ　（Ｈ７）	板橋美津世　（Ｈ８）
日本手外科学会	時村　文秋　（Ｓ61）		
日本脳卒中学会	村山　繁雄　（Ｓ54）	仙石　錬平　（H11）	大友　亮　（H18）
日本心臓血管外科学会	許　俊鋭　（Ｓ49）	河田　光弘　（Ｈ９）	赤木　大輔　（H10）
	伊達　数馬　（H19）		
日本精神神経学会	古田　光　（Ｈ８）	河上　緒　（H18）	松井　仁美　（H21）
	大森　佑貴　（H22）		
日本脳神経外科学会	松岡　浩司　（Ｓ56）	上野　俊昭　（Ｈ１）	高梨　成彦　（H14）
日本脈管学会	河田　光弘　（Ｈ９）	赤木　大輔　（H10）	青山　理恵　（H17）
	村田　哲平　（H17）	瀬尾　明彦　（H21）	
日本アレルギー学会	山田　浩和　（Ｈ４）		
日本口腔外科学会	渡邊　裕　（Ｈ６）	森　美由紀　（H18）	

学会名	指導医等名（卒業年次）		
日本大腸肛門病学会	金澤　伸郎　（Ｈ１）		
日本肝臓学会	上垣佐登子　（Ｈ５）	小西　治子　（H18）	
日本医師会産業医	増田　義重　（Ｓ58）	宮腰重三郎　（Ｓ59）	山田　浩和　（Ｈ４）
	穴水　依人　（Ｈ３）	田村　嘉章　（Ｈ８）	赤木　大輔　（H10）
	小金丸　博　（H13）	金子　雅子　（H16）	小西　治子　（H18）
	片岡　愛　（H20）	大森　佑貴　（H22）	野木森智江美　（H23）
日本病態栄養学会	荒木　厚　（Ｓ58）		
日本臨床腫瘍学会	宮腰重三郎　（Ｓ59）		
日本胸部外科学会	許　俊鋭　（Ｓ49）		
日本呼吸器内視鏡学会	山本　寛　（Ｈ９）	石橋　昌幸　（H21）	
日本顎咬合学会	齊藤　美香　（Ｈ７）		

８　事務局

経営企画局事務部

（ア）経営企画課

経営企画課は、理事長のトップマネジメントを補佐する役割を担い、課内はもとより総務課、医療サービス推進課及び医療戦略室と情報を共有し綿密に意思疎通を図りながら、センター第三期中期計画及び年度計画の達成に向け、病院及び研究所の円滑な業務運営をサポートした。また、第三期中期計画の３年目となる令和２年度計画を策定するとともに、センターが抱える諸課題の解決に向けて果断に取り組んだ。

①　経営改善に向けた取組

センター経営の改善・効率化を図るため、経営戦略会議及び病院運営会議等の各種会議において、センターの収支、実績等の報告及び分析を行い、課題点と改善策の検討を行った。検討にあたり、より実効性ある経営改善につなげるため、原価計算や年度計画の進捗状況に関する各診療部門からのヒアリングなどを実施した。さらに、令和２年度予算の策定にあたっては、予算要求部署へのヒアリングを行い、既存業務の見直しを図るなど、一層の経費の削減に努めた。

②　電子カルテ等各種システムの維持管理

平成31年１月１日に更新した医療情報システムの課題に対し、システムベンダや各部署の職員と連携を取りながら迅速に改善し、より効率的な診療業務ができるよう推進した。また、財務会計システム及び人事給与システムが安定的に稼働するようサポートをした。

③　経営状況の把握と効率的な会計処理方法の検討

適時の経営判断に資するため、長期的な資金計画の策定や更新、月次決算などの充実を図り、財務内容の分析をきめ細かく行った。また、法人が抱えるリスクを洗い出し、適法性、合理性及び効率性の観点から適切な内部監査を実施したほか、会計監査人及び監事監査の指摘や意見について適切に対応した。

④　研究活動の推進に向けた取組

研究活動の推進に向けて、研究関係諸会議（研究推進会議、研究所幹部会議、研究審査委員会、外部評価委員会、研究不正防止委員会、研究部門倫理委員会、研究員等選考委員会等）を運営するとともに、協力研究員・研究生・連携大学院生・特別研究員（ＰＤ）の受入や、平成27年度に構築した研究費不正使用防止対策のもと、研究費の受入・執行（契約・検査を含む。）等に係る諸手続きを行った。

（イ）総務課

①　人材確保及び人材養成

高齢者医療を安定的・継続的に提供するため必要な法人の人材として、令和元年度は医師16名、研究員9名、看護師90名、医療技術員12名、事務21名を採用した。看護師採用については７対１看護導入を受け積極的に行い、修学資金貸与、保育料の助成制度等の看護師確保対策・離職防

止対策を実施した。

医療従事者及び研究者の育成については、医科・歯科研修医61名、都立看護学校を始め計36施設から783名の実習生及び研修生を受け入れたほか、連携大学院や大学・研究機関から学生や研究者を受け入れた。

② 契約状況

令和元年度の契約状況は、物品の買い入れ303件、修理・修繕27件、印刷製本160件、委託346件、物品借り入れ102件、工事４件で、合計942件であった。

③ 施設・設備の維持・管理と環境整備

施設・設備に不具合が生じた際には、必要性・緊急性なども考慮しながら順次改善を図っている。また、新施設稼働から７年経過したこともあり、経年劣化への対応や消耗部品の交換など、計画的に修理・補修を行い、施設を最善の状況に保つよう留意している。さらに、光熱水費等についても、使用量の管理と適切な需給契約締結により、省エネルギーの実現と経費節減に向けた対策を実施している。

④ 災害・危機管理対策の実施

災害拠点病院としての任務を果たすために、迅速かつ効果的な医療提供が円滑にできるよう体制強化を図った。７月には、東京都主催の「病院端末装置を活用した情報共有訓練」に参加し、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、多数傷病者発生時における円滑な救急受入体制の構築について検証を行った。８月には内閣府、厚生労働省DMAT事務局、東京都福祉保健局主催の令和元年度年度大規模地震時医療活動訓練に参加し、首都直下型地震が発生したというシナリオにより、自院で他県のＤＭＡＴの受入訓練を実施した。また、この訓練と同日に、政府のシナリオに合わせ、発災翌日に本部職員が交代することを想定し、１日目の管理師長から２日目の管理師長への情報伝達を実践形式で行い、その妥当性を検証する「発災後２日目訓練研修」を行った。また、10月には、医療職を対象に、トリアージ研修会を実施し、トリアージに必要な知識・技術を習得した。その上で、東京都立板橋看護専門学校の学生を模擬患者役とし、首都直下型地震を想定した大規模災害訓練を実施した。

⑤ 国際交流の推進

中国、タイ、シンガポール、マレーシアなどから視察を受け入れた。

⑥ 診療内容及び研究成果の広報普及

診療内容及び研究成果についてマスコミ等へ情報提供するほか、理解・利用してもらうために、区等から共催・後援を得て、老年学・老年医学公開講座等の講演会を都内各地で開催した。

さらに、センター（法人、病院、研究所）のホームページ、「糸でんわ」、「研究所NEWS」、各種パンフレット等を活用し広く都民に情報の提供を行った。職員向けには「ひだまり」を発行した。

老年学・老年医学公開講座	年間４回開催
科学技術週間参加行事	年間１回開催
「糸でんわ」	年間６回発行
「研究所NEWS」	年間６回発行
「ひだまり」	年間４回発行

（ウ）医療サービス推進課

高齢者の急性期病院として、医療資源の有効活用と健全な病院経営を目指し、在院日数の短縮と病床稼働率の確保を組織的な目標として揚げている。在院日数の短縮について、退院調整チームの活動や各病棟別の在院患者一覧表による管理を実施することにより、令和元年度平均在院日数は12.4日、病棟稼働率は83.0％であった。診療録の開示については203件、セカンドオピニオン利用患者数は35名であった。

院内の医療安全管理対策については、医療安全管理委員会等の事務局として、院内各診療科・各部門との協力体制により年度活動計画を策定し、医療安全管理講習会の開催、各種研修会・勉強会及び医療安全推進週間を設定し、安全管理体制の徹底と職員の医療安全に対する意識の向上に取り

組んでいる。令和元年度は、医療安全・院内感染講演会を２回開催し、年出席率は94.6%であった。
患者さんの声（ご意見箱への投書）は「意見・要望」150件、「感謝」34件であった。また、入院患者満足度調査を適宜実施しているほか、外来患者を対象とした患者満足度調査を２回実施している。
※令和元年度入院患者満足度　89.3%　（平成30年度　90.6%）
※令和元年度外来患者満足度　82.5%　（平成30年度　80.8%）

（エ）医療戦略室

医療情報システム等に蓄積されている情報やDPCデータを用い、経営指標数値の抽出及び傾向分析、診療報酬改定に伴う影響試算や対策立案を行った。
また、診療科別の原価計算を実施し、科別の費用配分により収支状況を可視化することで、各科の課題解決や行動計画策定に資する経営指標の発信を推進した。
さらに、入院時業務の均てん化と入退院の円滑化による業務効率向上のため、入退院サポートセンターの設置検討を行った。導入に伴う運用課題の洗い出しや、入院前の聴取内容の標準化を検討し、令和2年度の導入に向けた体制整備を行った。

①　原価計算による収支分析

診療科別の原価計算を実施するとともに、病院幹部会において計算結果を配布し、各科の収支課題の可視化を図った。また、経営企画課の実施する病院部門ヒアリングにおいても同計算結果を活用し、収支実績の改善に向けて各科が行動計画を策定し、経営幹部との意見交換を行った。

②　医療の質評価とＤＰＣデータの公表

今年度も全国自治体病院協議会による「医療の質の評価・公表等推進事業」に引き続き参加し、データ提供を行った。また、ＤＰＣデータを使用した「病院情報の公表」や、医療実績のホームページ掲載を継続し、センターにおける診療実績の発信に努めた。

③　入退院サポートセンターの設置検討

入退院サポートセンターの設置検討ＷＧを実施し、各部署の介入方法等の運用課題を洗い出すとともに、入院前の聴取内容の標準化等、診療の質向上を踏まえた検討を行った。これにより、令和2年度の円滑な設置に向けた体制整備と入退院の円滑化による業務効率向上を図った。

④　診療報酬改定の対策立案

消費税増税に伴う令和元年度の臨時診療報酬改定、及び令和２年度診療報酬改定について、早期に影響分析と情報発信を行うことにより、収入変動や基準変更に伴う運用影響の周知を進めた。加えて、医療サービス推進課とも協働し、各診療科に個別的な改定影響の説明と意見交換を行うことにより、円滑な改定対応と収入確保を図った。

９　令和元年度業務実績の全体的な概要

（１）総括と課題

第三期中期目標期間の２年目となる令和元年度は、三つの重点医療や生活機能の維持・回復のための医療の提供を進めるとともに、積極的な救急患者の受入れ、地域医療機関との連携強化などを推進し、急性期病院としての役割を果たし、地域医療の体制確保に貢献した。
また、東京都における公的研究機関として高齢者の健康増進や自立した生活の継続に向けた研究を推進し、成果の普及・還元に努めた。
さらに、事業の実施に当たり一層の経営基盤の強化を図るなど、中期計画及び年度計画に定める内容を着実に実施し、「高齢者医療モデル」の確立と普及に向けた取組を推進した。

ア　組織運営

理事会や経営戦略会議を定期的及び随時開催し、法人運営の重要事項を審議・決定するとともに、病院部門、研究部門の幹部職員で構成する会議等を通じて、事業運営の検討や情報の共有を図った。

また、外部有識者で構成する運営協議会を開催し、法人運営に関する意見や助言を受けるとともに、研究活動の妥当性について、外部評価委員会からの評価を受けるなど、透明性及び都民ニーズに的確に対応した法人運営を行った。

イ　病院運営

病院幹部職員で構成する病院運営会議において、病院運営に関する課題の把握や検証を行い、改善すべき事項や新たに取り組むべき事業の検討を行うとともに、中間ヒアリング及び期末ヒアリングにより、各診療科の診療実績の検証や課題の把握、改善に向けた行動計画の策定を行った。

また、引き続き三つの重点医療を中心に高度な治療の提供や積極的な救急患者の受け入れ等を推進するとともに、地域医療機関との連携強化のために、医療機関への訪問や、医療関係者向けの各種セミナー開催等を実施した。

さらに、抗菌薬適正使用支援チーム加算を取得し、医療の安全、感染症防止対策の一層の強化に取り組んだ。

ウ　研究所運営

研究所幹部職員で構成する研究推進会議において、定期的に研究所運営や研究支援に関する意見交換を行うとともに、外部評価委員会、内部評価委員会等により、各研究の進行管理と評価を実施した。

また、臨床研究法や各種倫理指針に基づく厳正な倫理審査など、研究者や臨床医師が行う研究を包括的に支援する組織「健康長寿イノベーションセンター（ＨＡＩＣ）」において、認定臨床研究審査委員会の運営や、知的財産活動の普及・促進のための体制整備など、研究推進のための基盤強化に取り組んだ。

さらに、昨年度を上回る外部研究資金の獲得により、さらに質の高い研究を着実に実施するとともに、トランスレーショナルリサーチを推進した。

エ　経営改善

各診療科が経営改善に向けた具体的な行動計画を作成し収支改善に向けた取組を推進した。また、外部研究資金の積極的な獲得等に努めたほか、一層のコスト削減策の検討・実施を行うなど、経営改善に向けた取組を推進した。

（２）事業の進捗状況及び特記事項

以下、中期計画及び年度計画に記された主要な事項に沿って、令和元年度の事業進捗状況を記す。

１）高齢者の特性に配慮した医療の確立・提供と普及

（ア）３つの重点医療を始めとする高齢者医療の充実

センターが重点医療として掲げる血管病・高齢者がん・認知症について、研究所と連携しながら、高齢者の特性に配慮した低侵襲な医療の提供及び患者が安心できる医療体制を推進する。

①　血管病医療への取組

最新かつ低侵襲な治療により、高齢者の身体的負担に配慮した医療を提供した。特に、従来ステントグラフトによる治療が困難であった弓部大動脈瘤について、新たなデバイスによる治療を実施することで、ステントグラフト内挿術による治療を一層推進した。

また、高齢糖尿病患者に対するSAP(Sensor Augmented Pump)療法を導入するとともに、人工すい臓を導入し、より適切な周術期の血糖管理に役立てた。

さらに、経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）について、経食道心エコーの件数、開心術大動脈弁置換術件数、ステントグラフト内挿術の件数が、施設基準条件を満たし、TAVI治療を令和２年４月１日から再開できることが確定した。

② 高齢者がん医療への取組

正確かつ低侵襲ながん診断のため、超音波気管支鏡ガイド下針生検(EBUS-TBNA)、ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法(EBUS-GS)を積極的に行った。Rapid on-site evaluation (ROSE)も同時に行い、なおかつ、仮想気管支鏡画像を確認しながら、正確に、必要最低限の侵襲度で検査を遂行した。

また、無菌病棟を活用し、臍帯血移植などの造血幹細胞移植療法を安全に実施した。特に高齢者血液疾患に対して、臍帯血移植を含む造血幹細胞移植療法など安全かつ効果的な治療を推進した。

③ 認知症医療への取組

病院と研究所が一体となって認知症診断の精度向上に向けた取組を推進したほか、MRIや脳血流SPECT等を着実に実施し、認知症の早期診断に積極的に取り組んだ。

また、認知症患者に対するケア体制の整備を進め、精神科・緩和ケア病棟を除く全病棟において認知症ケア加算の算定を継続するとともに、DASC-21を原則全入院患者に施行するなど、センターにおける認知症対応力の向上に努めた。

さらに、認知症疾患医療センターにおいて、専門職のみならず認知症患者の家族等、都民からのもの忘れ・認知症に関する相談を受け付け、地域における認知症医療の向上に貢献した。また、東京都区西北部における認知症の疑いのある人に対し、各区が設置する認知症支援コーディネーターと連携してのアウトリーチを行い、状況に応じて適切な医療・介護サービスにつなげる支援を行った。

④ 生活機能の維持・回復のための医療

フレイル外来において、糖尿病入院患者に対してフレイルや認知機能の評価を行い、その結果を治療方針のほか要介護申請や社会サービス導入への助言に活用した。

また、多職種が協働し、入院早期からの経口摂取開始に取り組むことにより、経口摂取患者の増加や禁食率への効果が得られ、患者の早期回復や重症化予防につながった。

さらに、担当管理栄養士の病棟時間常駐に取り組み、栄養介入を行い、患者の栄養管理を推進した。

⑤ 医療の質の確保・向上

看護師の専門能力の向上のため、研修派遣等を計画的に推進し、東京都認知症対応能力研修等への派遣を行った。

また、院内研修において、高齢者看護スキルアップ研修を実施した。

（イ）地域医療の体制の確保

① 救急医療

二次救急医療機関及び「救急医療の東京ルール」に定められた区西北部医療圏における東京都地域救急医療センターとして、地域の救急医療機関とも協力・連携して救急患者の受入れを行った。

また、急性期脳卒中患者に対するより適切な医療提供体制を確立するため、SCU（脳卒中ケアユニット）を６床運用し、十分に活用した。

② 地域連携の推進

医療機関への訪問、各種セミナー・ＣＰＣの開催、地域連携ＮＥＷＳの発行、ＷＥＢ上での外来予約、連携医療機関の増加や連携医の確保に努めた。また、地域連携ＮＥＷＳのデザインを刷新し、一層の連携の強化を図った。

また、脳卒中地域連携パスを活用して回復期を担う病院や診療所、介護保険施設、訪問看護ステーション、地域包括支援センター等への円滑な退院調整を行うことで、患者やその家族が退院後も安心して治療を受け、地域で生活していけるように医療連携体制の強化に取り組んだ。

③　医療安全対策の徹底

抗菌薬適正使用支援チーム加算を取得し、適正使用支援の活動を開始した。また都立病院などが参加する抗菌薬適正使用に向けた調査に加わり、自施設での年度比較及び他施設との比較なども実施した。

また、リスクマネジメント推進会議及び安全管理委員会において、インシデント・アクシデントレポートの集約・分析を行い、特に注意喚起事例に関しては、部門別で具体的な事例を挙げ、その要因と再発防止策の検討を行うとともに、病院幹部会議での報告や全職員が閲覧できるように周知徹底を図るなど、医療安全管理体制の強化及び業務改善を図った。

④　患者中心の医療の実践・患者サービスの向上

医師事務作業補助者の積極的な採用及び業務の拡大により、紹介状の返書、診断書・証明書等の交付期間の短縮化を図るとともに、カルテの入力代行など医師の事務負担軽減に努め、患者サービスの向上を推進した。

また、ご意見箱に寄せられた要望・苦情や患者満足度調査の結果について、病院運営会議や病院幹部会にて報告・検討を行い、患者サービスの向上を図った。

２）高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

（ア）高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究

糖鎖のGM2が膵がんの細胞表面に発現することを発見し、GM2ががんの増殖、浸潤などに関与していることを明らかにした。論文発表とプレス発表を行なうとともに、膵がんの新たな治療標的となると考えられることから、特許を出願した。

また、咀嚼をイメージすることによる咀嚼運動の中枢指令が、認知機能に重要な大脳皮質血流を増加させることを明らかにし、論文発表するとともにプレス発表した。

（イ）高齢者の地域での生活を支える研究

社会的フレイルの定義見直しに係る研究成果として、地域在住高齢者を対象とした縦断調査から、特に独居高齢者におけるリスク要因と見なされていた「孤食」に関して、単に社会的ネットワーク（他者との交流の幅）の多寡が問題であり、孤食は独居の結果であることを明らかにした。

また、認知症本人のQOLを評価するための尺度となる日本語版DEMQOL、日本語版DEMQOL－PROXYを開発し、研究成果を国際誌に報告するとともに、研究所のWEB上で広く公開した。

さらに、レセプトデータを用いて、東京都の75歳以上の外来患者における多剤処方の状況と併用パターンを把握した。

（ウ）老年学研究におけるリーダーシップの発揮

国内外の学会へ積極的に参加し、研究成果の公表、普及啓発に努めた。

また、医療と研究が一体となった取組を推進するため、国立長寿医療研究センター併設の健康長寿支援ロボットセンターと認知行動学研究室への視察及び意見交換を行い、ロボット技術等の医療現場への実装に向けた活動を開始した。

（エ）研究推進のための基盤強化と成果の還元

積極的な外部資金獲得に向けて支援を実施し、前年度に引き続き過去最高獲得額を更新した。

また、新規に知財ポリシー制定、知財規程、関連要綱等の改定・新設、知財業務フロー作成を行い業務の見える化を図るなど、センター全体への知財活動の普及・促進を実施した。

３）医療と研究が一体となった取組の推進

（ア）トランスレーショナル・リサーチの推進（医療と研究の連携）

健康長寿イノベーションセンター（HAIC）において、新規治療法開発や、実用化が見込まれる研究について、トランスレーショナルリサーチ（TR）助成として、資金および研究進捗、出口戦略コンサルテーションを行い、実用化研究を重点支援した。

また、２研究が実用化に進むこととなり、企業に成果を導出して高齢者の健康寿命延伸に資するシステムやアプリケーションが開発されることとなった。

（イ）認知症支援の推進に向けた取組

認知症支援推進センターにおいて、医療従事者の認知症対応力向上への支援を実施した。

（ウ）介護予防の推進及び健康の維持・増進に向けた取組

東京都介護予防推進支援センターとして、地域づくりにつながる介護予防に取り組む区市町村の支援を行った。

４）高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成

高齢者医学セミナーを開催して医学生へのPRを実施し、医師臨床研修マッチング試験は過去最高の倍率となった。

また、高齢者看護エキスパート研修を開講し、都立病院等外部からも研修生を募集したほか、公開講座を開催し、都立病院・区西北部保健医療圏の病院等11施設が参加した。

さらに、連携大学院協定に基づき、連携大学院や他大学の修士・博士課程の学生を受入れ、若手老年学・老年医学研究者の育成に貢献した。

５）業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

医師の事務負担軽減と将来的な医師事務作業補助者体制加算20：１の取得に向けて医師事務作業補助者の継続的な採用に努めるとともに、院外研修への参加を促し、院内の他職種を講師に迎えた院内研修会を積極的に開催して、個人能力の向上に努めた。

また、会議等を通じて幹部等に有給休暇の積極的な取得の推進や、ライフ・ワーク・バランスに配慮した職場環境の整備について周知徹底を図り、繁忙期などを考慮して、早い時期から計画的に有給休暇の取得ができるようなスケジュールの設定についての働きかけや、有給休暇取得月間の設定など、年次有給休暇の平均取得日数の向上を図った。

さらに、病院事業の根幹である診療報酬請求の管理体制について、専門スタッフ（保健指導顧問医）の意見を参考にして監査を行った。

この他、会計監査人監査や内部監査を実施し、改善が必要である事項については迅速かつ適切に対応するとともに、研究費の適正な執行や事務処理ルールをまとめた「研究費使用等ハンドブック2019」の発行や研究不正防止研修会及び事務処理方法説明会の開催、モニタリングの実施など研究活動における不正防止対策に取り組むなど、内部管理を適切に実施した。

６）財務内容の改善に関する事項

病院部門ヒアリングにおいて、診療科別原価計算結果や医事会計データ、ＤＰＣデータ等を活用し、各診療科が経営改善に向けた具体的な行動計画を作成することで、経営参画意識の向上と各改善行動の実効性確保に努めた。

また、公的研究費（科研費等）への応募や産学公連携活動（共同研究・受託研究・受託事業等）を推進し、外部研究資金獲得金額、研究員一人あたりの外部研究資金獲得金額が過去最高記録を更新した。

さらに、経営戦略会議において、月次の経営実績報告のほか、各診療科別収支の対前年比較及び増減理由、各科収益力などを分析・報告するとともに、経営改善に向けてコスト削減策を検討し、委託費や手当等の見直しを実施して経費の節減を図った。

この他、後発医薬品の積極的導入に取り組み、昨年度を上回る後発医薬品の使用割合を達成するなど医薬品費の削減に努めるとともに、診療材料の購入にあたっては、診療材料委員会や病院運営会議において価格や必要性等について十分に審議を行うなど、コストの適正化に取り組んだ。

７）その他業務運営に関する重要事項（センター運営におけるリスク管理）

情報セキュリティ研修と個人情報保護研修についてeラーニング形式で実施し、研修会終了後の活動として、研修資料を全職員が閲覧可能な院内ポータルサイトに掲載し、研修内容を振り返ることができる環境の整備をするとともに、所属長を通し研修会未受講者へ資料の確認を促すよう事務局より連絡を行い「未受講者へのフォローアップ活動」を実施した。

また、東京都災害拠点病院として、大規模災害訓練などセンターの災害対応力を高める取組を行った。令和元年10月に開催した大規模災害訓練においては、板橋看護専門学校と協力し学生による

模擬患者役を設けるなど、より実際の災害に近い形での対応訓練を実施した。平成26年度に編成されたＤＭＡＴ（災害派遣医療チーム）については、内閣府が主催する大規模地震時医療活動訓練及び日本ＤＭＡＴ関東ブロック訓練に参加するなど、災害発災時の対応力の更なる向上に努めた。

第二部　病 院 部 門

Ⅰ　令和元年度運営報告

内科総括

内科総括部長　荒木　厚

1　人員体制

〈部長〉

荒木厚（副院長・内科総括部長）、岩切理歌（総合内科部長・包括ケア病棟担当）、藤本肇（循環器内科部長）、石川譲治（循環器内科専門部長）、武田和大（循環器内科専門部長）、坪光雄介（救急診療部部長）、村山繁雄（神経内科部長）、金丸和富（脳卒中科部長）、仁科浩史（神経内科専門部長）、仙石錬平（神経内科専門部長）、上垣佐登子（消化器内科部長）、西村誠（内視鏡科部長）、千葉優子（糖尿病・代謝・内分泌内科専門部長）、田村嘉章（糖尿病・代謝・内分泌内科専門部長）、宮腰重三郎（血液内科部長）、宮本鋼（化学療法科部長）、小林寿美子（輸血・細胞療法科）、武井卓（腎臓内科部長）、板橋美津世（血液透析科部長）、山本寛（呼吸器内科部長）、山田浩和（呼吸器内科専門部長）、久保かなえ（膠原病・リウマチ科部長）、齊藤英一（緩和ケア内科部長）、古田光（精神科部長）、増田義重（臨床検査科部長）、

〈医長〉

石山泰三、村田哲平（循環器内科医長）、青山里恵（循環器内科医長）、東原真奈（神経内科医長）、松川美保（内視鏡科専門医長）、豊島堅志（糖尿病･代謝･内分泌内科医長）、小金丸博（感染症内科医長）、大川庭熙（総合内科医長）、小倉和外（血液内科医長）、齋藤輔（血液内科医長）

〈常勤〉

（総合内科）片岡愛、（循環器内科）杉江正光、十菱千尋、清水瑠理、（消化器内科）剛﨑有加、藤井悠子、（神経内科）広吉祐子、本山りえ、渋川茉莉、松川美穂、大友亮平、（糖尿病・代謝・内分泌内科）大庭和人、小寺玲美、（膠原病・リウマチ科）伊賀祥子（呼吸器内科）佐塚まなみ、石橋昌幸、野木森智江美、（精神科）筒井卓実、松井仁美、大森佑貴、大矢雅樹、山口友子（緩和ケア内科）小西治子

〈人事異動〉

令和元年度の入職者は平成31年4月1日付けで膠原病・リウマチ科部長に久保かなえを迎えた。常勤医師は10月1日付けで神経内科の松川美穂、大友亮平、精神科の大森佑貴、山口友子、1月1日付けで緩和ケア内科の小西治子が赴任した。

退職された先生は3月31日付けで内視鏡内科部長の西村誠、神経内科専門部長の仙石錬平である。常勤医師では6月30日付けで神経内科の本山りえ、8月31日付けで神経内科の広吉祐子、9月30日付けで消化器内科の剛﨑有加、12月2日付けで精神科の筒井卓実、3月31日付けで伊賀祥子、藤井悠子、渋川茉莉、大友亮平、大矢雅樹、山口友子が退職した。これまでセンターの診療の発展に貢献された先生方に感謝の意を表する。

〈シニアレジデント〉

（糖尿病内科）渡部創、石井秀明（4月～9月）、小藤知輝（10月～3月）、舘鼻彩、全秀剛、豊島弘一、（神経内科）小林敬、木村友彦、（腎臓内科）松野志　歩、山中法子、橘靖子、（消化器内科）白倉英知（豊島病院で研修）、羽鳥清華、大隅　瞬（4月～9月）、松本康祐（10月～3月）、（循環器内科）橘昌利、廣田圭祐、佐久間隆貴、（総合内科など）碩みはる、（精神科）野村絵里香（4月～9月）、大村卓也は11月より研究所研究員となった。

〈ジュニアレジデント〉

（１年目）は佐藤元彌、杉本光、松尾佳紀、菊池あき、小松大樹、武久佳央、張琢成、森川涼介、勝俣悠、東京大学からのたすき掛けで、稲生宏泰、鳥海莞土が研修した。(2年目）は松田洋樹、松尾佳紀、渡部和玄、関谷葵、松浦智之、関章秀、赤星美帆、上江田優美、東京大学からのたすき掛けで、三野華、竹田佳世が研修した。全員研修を修了した。

2　診療活動・実績

（1）外来部門

	H30	R１	対前年比
延外来患者数	117,472	110,699	94.2%
初診算定外来者数	3,947	4,112	104.2%
１日平均外来患者数	481.4	461.26	95.8%

（2）救急部門

	H30	R1	対前年比
救急外来受診数	5,476	5,958	108.8%

内科系の外来患者数は延外来患者数、１日の平均外来患者数はやや減少したが、初診診算定外来患者数は昨年

度より増加した。
内科外来自体は、指導医とシニアレジデントの2人が主として担当し、シニアレジデントの外来の教育を兼ねて行っている。
救急外来は二次救急として24時間体制で行った。日勤帯は常勤医の医師が指導医として3週に１回担当し、ジュニアレジデント１年目と2~4年目の医師の3人体制で救急外来を担当した。救急外来受診患者数は昨年度に比べ、微減を示した。
フレイル外来は、フレイルや認知機能などを総合的に評価する外来であるが、574人と14.6%増加した。

（3）入院

	H30	R1	対前年比
内科延入院患者数	116,288	104,994	90.3%
内科新規入院患者数	5,238	4,544	86.8%
内科転入院患者数	2,419	2,180	90.1%
内科退院患者数	7,260	6,438	88.7%
病床利用率	99.4	89.6	―
内科在院日数	17.4	17.9	―
転入出込在院日数	14.1	14.6	―

内科系の新規入院患者、延入院患者数、病床利用率が昨年度と比べて減少した。これは消化器内科、膠原病内科・リウマチ科、神経内科の人員減が原因である。それでも89.6%の病床利用率を保てたのは、シニアレジデントが活躍し、内科各科が協力し、肺炎などの救急患者を診ることができたからと思われる。また、外科の先生が当直時間帯の消化器系の患者を担当していただいたことも内科の救急診療体制を維持することにつながり、感謝したい。
地域包括ケア病棟は総合内科の岩切先生を中心に、内科病棟から在宅復帰のための患者を受け入れ、在院日数短縮、患者・家族の負担軽減、経営の効率化に貢献した。
「在宅医療支援病床」は大川先生が担当し、患者数が2倍近く増加した。

3　研修・教育活動

研修医は新たにジュニアレジデント10名が4月より研修を開始し、2年目と合わせて計20名が研修を行った。研修医は、所属の科のカンファともに、モーニングカンファ、昼のクルズス、病院CC、病院CPC、研修医CPC、プラネックス研修などに参加し、幅広い研修が行われた。JMECCの研修も村田哲平先生が中心に１回行うことができた。
病院CCは研修医教育のために毎週木曜日に行われ、ジュニアレジデントが発表し、シニアレジデントまたは若手医師がコメンテーター、指導医が指導する3人体制で行っている。
モーニングカンファはレジデントが夜間の一般内科救急患者の症例の検討を救急診療部の坪光先生、田村先生、加藤先生などの指導のもとに行った。昼のクルズスは千葉先生、板橋先生を中心に管理し、毎週１回、内科のみならず、全科の先生が講義を行った。
レジデントと多くの指導医がプラネックス研修に参加した。研修医のリクルート活動として、レジナビ（年3回）に参加し、高齢医学セミナー（年１回）を行った。初期研修医の定員は8人から9人と増えたにも関わらず、マッチングの試験には約6倍の医学生が応募し、第一希望者も過去最高の3.2倍となった。
内科専攻医プログラムは当センターのプログラムとして新たに3人が研修を開始した。また、東京大学、多摩総合医療センター、帝京大学からの派遣もあり、合計19人（新制度10人、旧制度9人）が当センターで、1人は豊島病院で研修を行った。

4　学会発表・論文発表

今年度の内科系学会への学会発表数は143、研修医の発表数は27と昨年と比べて増加した。誌上発表数は120と減少した。内科地方会または内科学会総会への発表も2にとどまった。内科学会への発表数の低下が続いているので、来年度は計画的に各科に割り当てを行って4以上にふやすことが必要である。病院CCでは学会発表レベルの症例が多いので、指導医がこれまで以上に学会発表や論文作成を促すことが大切である。

5　今後の課題

今後の課題として新規入院患者の獲得、働き方改革、教育体制の充実、臨床研究の推進、COVID-19 感染症対策がある。
今年度の内科入院患者の減少は内科のsub-specialtyの人員の減少が主たる原因である。この対策としては人

員の確保することが必要であることは言うまでないが、東京都の専攻医のシーリングの影響で大学病院での人員の余裕がなくなり、すぐには確保が難しいようである。したがって、総合的に診療する医師を増やすことでこの問題を解決できたらと考える。次年度からは老年医学を研修したい医師を確保し、総合内科を高齢診療科として、診療の拡充を図る予定である。

働き方改革は、単に労働時間の問題だけでなく、どのように医師が業務の効率化を図るかが問われている。当直後の休みの確保は研修医だけでなく常勤医でも検討すべき課題の一つである。また、カンファレンスを診療時間内に行うことは、診療後に自己研鑽としての学会発表や研究の時間を確保することにつながる。そのためには、外来も含めて複数の主治医体制を作ることや少数の科同士が組んでグループ診療体制を構築することが必要である。外来診療の効率化は外来診療向上WGで行っているが、医師事務補助を効率的に活用することや画像検査予約の変更の権限を医師以外に移譲することで、効率化を図り、16時には診療を終え、カンファや会議に参加できるような体制を作ることが望ましい。

来年度から、初期臨床研修制度が変わり、外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科、地域医療が必須科目となり、外来研修を行うことが求められている。また、研修の評価も基本的な診療能力だけでなく、医師としてのプロフェッショナリズム、コミュニケーション能力、チーム医療の実践、医療の質と安全の管理、科学的探究、生涯にわたって共に学ぶ姿勢などを指導医が評価する必要があり、専攻医評価と合わせて、これまで以上に指導医が教育にかける時間的な負担が増えることが予想される。教育に貢献した医師への何等かの評価があることが望ましい。

臨床研究の推進のためには、これまで以上に病院と研究所との情報共有や交流を行うことが必要である。それぞれの研究計画の立案に両者が加わるような試みがあってもいいと思われる。ちなみに今年度、日本老年医学会のGGIの優秀論文賞を受賞したDASC-8の研究は研究所の粟田先生のグループと病院の共同研究であり、こうした研究が推進されることを期待する。また、入退院支援センターを利用した病院全体のデータベースの構築も次年度以上の大きな課題の一つであり、研究の推進に必須である。

COVID-19 感染症は今年度の3月から流行し、当センターでも救急外来の診療などに大きな影響を及ぼしている。こうした感染症対策においても、内科各科が一致協力することが最も大切である。こうした状況においては他者や他科と比較することをせず、自らが病院における診療・教育・研究において何か貢献できることをさがす姿勢が最も大切であり、それが当センターの一体感を高め、この困難を克服することにつながるのではないかと思われる。

総合診療科

部長　岩切　理歌

1　人員体制

〈部長〉岩切理歌
〈専門医長〉(在宅療養病床担当) 大川庭熙
〈医員〉片岡愛
〈初期研修医〉上江田優美
〈後期研修医〉碩みはる、渡部創、橋本征治、橘正則、松野志歩、小林敬

2　診療活動・実績

■外来診療の実績

（1）総合内科外来

総合内科の他、循環器内科、神経内科、感染症内科の医師と後期研修医が半年ずつ担当。
年間初診料算定患者数：574人（前年度544人）
1日平均初診料算定外来患者数：2.4人（前年度2.2人）
食欲不振・体重減少精査、発熱精査、めまい精査目的の患者が多くを占めている。

（2）在宅支援・ポリファーマシー外来

2018年10月、火木の午後に開設した。薬のことで問題を抱えている患者（多すぎて内服が困難、飲み残しが多くなった、回数が多くて飲めないなど）を対象とし、内服状況や副作用の有無について確認し、必要に応じて内服回数の軽減や、内服数の軽減の提案を目的としている。
令和元年度は、約30人の患者が受診。かかりつけ医と相談しながら薬の調整を行った。

■入院診療の実績

（1）総合内科9東病棟

年間243人（前年度198人）の患者を担当。他院からの転院患者、救外からの緊急入院患者、内科外来からの精査目的の患者の診察にあたった。
病床利用率は感染症内科との合算で169.8%%であった。

■診療内容

・感染症や脱水症などの治療。
・食欲不振、体重減少、発熱などの精査。
・在宅療養環境の調整など。

■地域包括ケア病棟

病状が安定した後、数日から約3週間という期間限定で自宅退院に向けての生活機能向上を目的とした調整を行っている。年間入棟患者数は623人。整形外科140人、糖尿・代謝・内分泌科76人、循環器内科65人、総合内科55人、在宅医療連携病床54人、神経内科37人、脊椎外科35人、と続く。在宅復帰率6か月平均は87.1%であった。

■在宅療養病床

在宅療養患者の訪問診療を行っている連携医からの希望を受け、数日から最大2週間の入院期間で、原疾患の病状評価やレスパイトを行っている。神経難病の患者は、神経内科にお願いしている。入院患者数：70名

3　研修・研究活動

（1）入院患者についての症例検討会
毎週一回、感染症内科と合同で施行。

（2）抄読会
月一回、感染症内科と合同で施行。

（3）ポリファーマシーカンファレンス

総合内科、循環器内科医師、6階担当薬剤師を中心に、週一回、6階地域包括ケア病棟、整形・脊椎外科病棟に入院中の内服数が多い患者に対し、副作用や同効薬重複の有無、また有害性が有益性を上回る薬剤の有無等に

ついて検討。さらに服薬管理能力に応じた服薬回数減など、薬の調整が必要と判断した場合には主治医に提案している。約6割の患者に対し変更を提案し、うち約6割の患者において、提案が採択された。

（4）お昼のクルズス　9月,2019年
　　ポリファーマシー対策について

（5）エンド・オブ・ライフケア研修会　2月14日,2020：高齢者の意思決定「食べられなくなったらどうする？」

膠原病・リウマチ科

部長　久保　かなえ

1　人員体制

〈部長〉久保かなえ
〈医員〉伊賀祥子

2　診療活動・実績

■外来診療の実績

専門外来　久保；月曜/水曜午前午後、伊賀；火曜午前午後、非常勤として松本；火曜、楠田；火曜、板宮；水曜、瀬理；木曜、杉原；金曜

常勤医数減少後も昨年度同等の新患を受け入れ、病状の安定した症例の逆紹介や病診連携を進めながら外来患者数を維持した。高齢発症の関節炎疾患として高齢発症関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、RS3PE症候群が多いが、比較的若年症例も増加傾向にあり、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、皮膚筋炎／多発性筋炎などの膠原病、巨細胞性動脈炎やANCA関連血管炎を含む血管炎症候群など多彩な難病診療を継続して行った。

■入院診療の実績

人員減少のため8東病棟において8床に減じて運営した。昨年度までのような一般内科疾患の受け入れは出来なくなり、当科外来症例に合併した一般内科疾患についても他病棟で加療していただいたが、濃密に専門的精査加療を要する症例の診療を行った。

毎日病棟カンファレンスとラウンドを行い、最新の文献を確認しながら診療を行うことを心掛けた。週1回専門領域の文献で抄読会を行い、evidence-based medicine実践の土台とした。

3　研修・教育活動

当院は日本リウマチ学会の教育指定病院である。久保医師は日本リウマチ学会認定専門医、指導医、評議員として学会関連の仕事、教育目的の総説の作成、臨床研究業務に従事し、医員や研修医の専門診療教育と臨床研究および学会発表の指導を行った。

当科で研修をした初期研修医において、1名は2019年度日本内科学会関東地方会で症例報告し、2名は2020年度日本リウマチ学会発表に採択され、それぞれ症例報告と臨床研究をまとめており、2名は院内ＣＣで症例発表を行った。伊賀医師の臨床研究は2020年度日本リウマチ学会発表に採択された。

腎臓内科・血液透析科

部長　武井　卓・板橋　美津世

1　人員体制

〈腎臓内科部長〉武井卓
〈血液透析科部長〉板橋美津世
〈後期研修医〉山口靖子、山中法子、橋本征治(4-6月)、白木小百合(10-3月)、碩みはる(10-11月)、松野志歩
〈初期研修医〉8名（1-2ヶ月ローテーション）
〈非常勤医〉湯村和子、清水章、齋藤誉子、鶴田悠木、櫻井裕子　　以上が診療に当たった。

2　診療活動・実績

（１）外来

外来は腎臓内科一般、特に高齢者の腎障害を中心に診療を行っている。腎炎・血管炎にも力を入れ、紹介を頂いている。令和元年度延べ外来患者数8,379名（前年度+835名）,初診患者数は160名(前年度+43名)であった。

透析センター(17床)は、業務を月水金および火木土の午前・午後の4クールで運営している。治療法はHD, ECUM, OHDF, オフラインHDFであった。さらに腹膜透析を開始し、腹膜透析外来を開設した。また外来透析患者の質的向上を目指しフットケア回診、フレイル・栄養評価を継続した。平成29年度よりとりいれたエルゴメータなどを利用しての運動療法も継続的に施行した。

（２）病棟

病棟診療においては、クリニカルパスを利用したネフローゼ症候群やANCA関連血管炎に対するリツキシマブ治療および腎生検入院を積極的に行った。また腎機能検査（イヌリンクリアランス検査)、腎不全保存期教育入院、透析導入入院、維持透析合併症治療入院などを行っている。腎生検は他科依頼の症例に対しても施行し、検体採取のみにとどまらず、当院病理診断科と組織診断まで首尾一貫して行っている。透析導入に関しては令和元年度より腹膜透析導入も可能とし、腎代替療法選択が可能となった。平成30年度の病床利用率150.9%であったため令和元年度は病床数が10床から25床まで増床し、延べ入院患者数5,645名（前年度+138名）であった。また平均在院日数は17.3日であった。

（３）透析センター

透析センターでの治療法はHD、ECUM、OHDF、オフラインHDF、CHDF、血漿交換、吸着療法及び関連診療として血管再生・末梢血幹細胞移植のためのリンパ球分離である。血液透析新規導入は35例、腹膜透析新規導入は3例であった。維持透析は延べ数は5,679例であった。

3　研修・教育活動

当院は日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設に認定されている。

研修医の学会報告を推進している（平成31年度日本腎臓学会総会に後期研修医2例、東部会に後期研修医3例、日本透析医学会に後期研修医1例発表)。

院内では病棟カンファレンスを週1回、透析カンファランスを週1回、腎病理カンファレンスを月1回、CPCカンファレンスを2回/年、透析部門スタッフ対象の透析診療セミナーは週1回行った。また実習生・見学生の受け入れを行った。

板橋美津世は東京女子医科大学第四内科講師として東京女子医科大学医学部腎臓内科講義、人間関係教育など学生教育に貢献した。

糖尿病・代謝・内分泌内科

副院長・内科総括部長　荒木　厚

1　人員体制

糖尿病・代謝・内分泌内科は、常勤6名とシニアレジデントは5名で運営した。
〈副院長・内科総括部長〉荒木厚
〈専門部長〉田村嘉章、千葉優子
〈医長〉豊島堅志
〈医員〉大庭和人、小寺玲美
〈シニアレジデント〉豊島弘一、館鼻彩、大村卓也（10月まで)、渡部創、全秀剛、石井秀明（前期)、小藤知輝(後期)
〈非常勤医〉森聖二郎、服部明徳、飯塚あい

2　診療活動・実績

■外来診療の実績

外来患者数は1日67.2人（昨年64.8人)、延外来患者数は16,124人（昨年15,812人）とやや増加した。初診算定患者数は283人と昨年度の230人と比べて**約23%増加**した。透析予防外来は年間39人であり、医師、栄養士、看護師による集約的な腎症進行予防の指導が行われた。フットケア外来は年間499人となっている。

毎週金曜日に低血糖や血糖の変動性を評価する持続血糖モニター（CGM）やFGMを導入するCGM外来を行っている。また、高齢者でも1型糖尿病患者でSAP療法を始めて導入した。外来診療の専門性が高くなったことにより、専門性を持つ看護師を含めた診療体制の強化がますます必要となってきている。

■入院診療の実績

病床は9階西病棟の31床から41床（9階西38床＋9階東3床）に増やし、9西病棟は当科単独となった。糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、内分泌疾患、低血糖などの患者の他、多くの内科救急患者を担当した。

新入院患者289人と転入（救急）患者506人を合わせた795人を受け入れ、昨年度より**約24.4%増加**した。延入院患者も**約34.2%増加**した。転入込みの在院日数は16.5日と昨年度と1.2日増加した。病床利用率は92.4%であり、病床数を10床増やしたにも関わらず高値を維持できた。指導医とシニアレジデント、または初期研修医を加えた2～3人による担当医による診療体制により、多くの患者を受け入れることができた。

当科は医師、看護師、栄養士、薬剤師などのチーム医療による糖尿病教育と治療を行っている。入院患者の医師による糖尿病教室は毎週月曜日の午後に行われている。週2回の多職種による退院支援カンファレンスなどにより在院日数の短縮に努めているが、地域包括病床への転床をもう少し早くすることが望まれる。

また、入院および外来患者に対して、フレイル外来を利用し、認知機能やフレイルの評価を含めた高齢者総合機能評価（CGA）を行っている。CGAの情報に基づいて退院後の生活を考慮した治療の単純化や2型糖尿病患者のインスリン治療の脱強化療法などを行う医療を行っている。

また、外科、心臓外科、MEのスタッフなどの協力のおかげで人工膵臓による周術期の血糖管理が開始された。

3　研修・教育活動

糖尿病・代謝・内分泌内科は毎週月曜日の午後5時30分より臨床カンファレンスを行い、患者の治療方針の詳細な検討とレジデント教育を行っている。毎週水曜日の午前8時30分より最新の英語論文またはADAの糖尿病教科書を読むジャーナルクラブを行った。

J-CDEの数は21名（看護師9名、栄養士8名、薬剤師3名、PT1名）で、糖尿病の教育で活躍している。

4　患者教育・患者会

医師、看護師、栄養士、薬剤師、検査技師、事務部門が協力し、糖尿病患者を対象に糖尿病教室を年3回開催した。

糖尿病の患者会活動にも力を入れており、育寿会をサポートし、糖尿病教室、ノルディックウォーキングの会、バス旅行などの活動を行なった。また、運動指導士の小池日登美さんや松木重村さんの協力のもとに、年2回のノルディックウォーキングの会や運動教室を開催した。

1）世界糖尿病デー行事：11月15日午前に糖尿病相談、血糖測定などを行った。
2)ノルディックウォーキングの会：11月16日に開催した。
3）院内の糖尿病教室は10月30日「糖尿病と骨粗鬆症」、2月18日「体調が悪い時に慌てないために」に行い、城北ブロック糖尿病教室を7月6日に「フレイル・サルコペニア」をテーマに開催した。

5　社会活動

以下の論文査読を行った。
荒木 厚：Geriatrics and Gerontology International, BMC Geriatrics, Diabetology International, BMC neurology, Diabetes, Obesity and Metabolism,　日本老年医学会雑誌
田村嘉章：Geriatrics and Gerontology International, Journal of Aging Research
千葉優子：Geriatrics and Gerontology International
豊島堅志：Geriatrics & Gerontology International

循環器内科

部長　藤本　肇

1　人員体制

〈副院長〉原田和昌
〈部長〉藤本肇
〈専門部長〉坪光雄介、石川譲治、武田和大
〈医長〉石山泰三、青山里恵、村田哲平
〈常勤〉杉江正光、小松俊介、鳥羽梓弓、十菱千尋、清水瑠璃、
〈非常勤医師〉桑島巌、鈴木康子、安佐里、山本文、鈴木歩
〈研修医〉佐久間隆貴、橘昌利、宮脇正次

病棟は、循環器内科・心臓外科・呼吸器外科で5階東西病棟を運営している。従前より日本循環器学会教育施設・日本心血管インターベンション学会研修施設という教育施設認定を受け、診療面では東京都CCUネットワーク/大動脈スーパーネットワーク支援施設に加盟している。体制面では4月より橘昌利医師が多摩総合医療センターから、10月より東京大学老年病科から宮脇正次医師が後期レジデントとして勤務している。

2　診療活動・実績

	H30	R1(H31)	対前年	対前年比
延入院患者数	26,479	21,929	-4550	82.8%
新入院患者数	1,310	1,207	-103	92.1%
病床利用率	113.4	93.6	-19.8	82.5%
平均在院日数	14.5	13.2	-1.3	91.0%
延初診外来患者数	835	869	+34	104.1%
延外来患者数	33078	31702	-376	95.8%

当院は東京都CCUネットワークに加入し、また大動脈スーパーネットワークの支援病院として東京都の循環器救急医療の一躍を担っている。疾患別に見ると、近隣の救急病院の循環器科では虚血性心疾患・不整脈疾患が多数を占めるのに対し、当院では心不全症例を積極的に受け入れているのが特徴的である。

主な検査・治療件数は心臓カテーテル検査718件、カテーテルインターベンション治療289件（うち緊急 50件, ロータブレーター 23件、エキシマレーザー39件）であった。カテーテル治療の新しいデバイスとして2019年8月よりダイヤモンド・バックを導入し19件施行した。不整脈ならびに心室再同期療法については、ペースメーカー植え込み術 103件（うち新規 63件)、電気生理検査9件、カテーテルアブレーション43件（うち心房細動 30件)、CRT 3件（新規2件)、CRTD 6件（新規1件）であった。特に2018年より開始した心房細動のアブレーションの件数が伸びている。

また、2018年以降中止していた、経皮的大動脈弁形成術が2020年4月より再開する運びとなった。

3　研修・教育活動

毎朝8時15分よりCCUで症例検討カンファを行い、月曜夕方にクリニカル・カンファ、ジャーナル・クラブを、水曜午前に回診、夕方に外科との合同カンファ、カテーテル症例カンファを開いている。また別紙のとおり、学会・研究会での発表が非常に多いが、必ず発表前にカンファの場で予行を行い、全員の目で発表内容を検討するようにしている。

また、2019 年 12 月 7 日に東京医大　武井康悦先生をディレクターとして JMECC コース（日本内科学会認定）を開催し、当科からインストラクターとして村田哲平医師、佐久間隆貴医師が参加した。

呼吸器内科

部長　山本　寛

1　人員体制

〈部長〉山本寛
〈専門部長〉山田浩和
〈医員〉佐塚まなみ、石橋昌幸、野木森智江美
〈非常勤〉臼井裕、望月英明、齋藤朗、村野陽子

2　診療活動・実績

■入院診療の実績

病床数24床。退院（転科を含む）症例は計414例（▼66例）で、男性263例、女性151例。入院患者の年齢中央値は80歳（19-99歳）、緊急入院が48.3%（▼3.0%）。死亡退院は33例（剖検あり0例）。入院日数の中央値は14日（1-169日）、平均在院日数は20.4日（▼0.5日）、病床利用率は83.0%であった。入院患者の疾患内訳（のべ）は下記の通り（主なもののみ示す）。

原発性肺癌	210
原発性肺癌の疑い	47
COPD	161
間質性肺炎	127
気管支喘息	63
肺炎・気管支肺炎・気管支炎	160
非結核性抗酸菌症	15
気管支拡張症	12
気胸	30
胸水貯留	58
睡眠時無呼吸症候群	16

■外来診療の実績

令和元年度の初診料算定外来患者数は156人（△35人）、延外来患者数は10,013人（△310人）といずれも増加した。年間275件(△70件)の外来化学療法加算を算定していた。重症喘息に対する生物学的製剤の投与も可能となり、症例数が徐々に増加している。

■手術・検査実績

令和元年度の気管支鏡検査施行症例数

気管支鏡検査施行症例数		85
（内訳）	TBLB/TBB	47
	EBUS-GS	37
	EBUS-TBNA	21
	BAL	8

Synapse Vincentによる仮想気管支鏡画像を用いた気管支ナビゲーション、（極）細径気管支鏡を用いて正確に関与気管支を同定し、EBUS-GSでwith-inを確認して生検、さらに、ROSE（rapid on-site evaluation）を行うことで診断精度が高まり、当センターの志向する、高齢者にもやさしい質の高い検査が可能になった。

3　研修・教育活動

呼吸器内科カンファ：毎週火曜日16:30-
呼吸器内科、呼吸器外科、病理診断科合同カンファ：毎週金曜日16:30-（令和2年度からは放射線治療科も合同）
退院支援カンファ：毎週水曜日13:30-
呼吸器病理示説：令和元年度は実績なし
呼吸サポートチーム（RST）活動：毎週月曜日14:00-
主な活動内容：院内の呼吸器装着患者における適切な呼吸器管理の評価、適切な呼吸器ウィニングに関する助言、呼吸関連デバイスや吸引主義の教育、体位ドレナージや適切な気道確保のための呼吸理学療法の提案、呼吸状態が不安定な患者における呼吸回数測定の推奨

●病棟勉強会

① 佐塚まなみ：気胸．令和元年5月27日．
② 佐塚まなみ：肺小細胞癌．令和1年11月26日．
③ 山本寛：高齢者がん医療と栄養介入．令和元年8月7日．

④ 山本寛：高齢者総合的機能評価　高齢がん患者に対する介入計画作成へ向けてのグループワーク. 令和1年10月30日.

●院内講演会

① 山本寛：高齢者肺がん治療の未来を考える. 高齢医学セミナー. 令和元年7月27日.

●お昼のクルズス

① 山本寛：今日から役立つ肺音聴診法. お昼のクルズス. 平成31年4月16日.

●外部講習会

2019年度第3回臨床研修指導医講習会：佐塚医師

●専門医取得

なし

（文責：山本寛）

消化器内科

部長　上垣　佐登子

１　人員体制

〈部長〉上垣佐登子
〈常勤〉剛﨑有加、藤井悠子
〈非常勤〉佐々木美奈、野口三四朗、秦弘恵
〈研修医〉シニア：羽鳥清華、橋本征治、白倉英知（外部研修中）
ジュニア：松尾佳紀、松田洋樹、上江田優美、森川涼介、勝俣悠、鳥海莞土、武久佳央、佐藤元彌、菊池あき

消化器内科と内視鏡科は、8階西病棟の37床と8階東病棟の18床の計55床の担当から、途中8東病棟10床にの計47床と減少した。

常勤医師として、浅野医師が3月で、剛﨑医師が9月で退職となった。4月から藤井医師が国内留学から戻った。当科医師と内視鏡科の松川医師とで外来・病棟・検査業務を行った。

後期研修医では、シニアで羽鳥医師が加わり、また白倉医師は外部研修となった。

初期研修医は、合計9人の先生が、１～２ヵ月毎のローテーションで当科を研修された。

後期研修医の羽鳥医師も上級医のもと、病棟業務だけでなく外来及び検査業務も行った。橋本医師もローテーション頂いた。

初期研修医では、多くの研修医の先生方には病棟を中心に、検査にも参加し活躍頂いた。

検査の面では、内視鏡検査では多数の非常勤医師の検査をお願いしている。処置では、内視鏡科の西村医師が留学中のため、ESDには内視鏡科非常勤医師のサポートも得ながら行った。

２　診療活動・実績

外来業務は、月曜日に松川医師、上垣、火曜日に藤井医師、水曜日に佐々木医師と剛﨑医師、上垣、木曜日に佐々木医師と上垣、金曜日に松川医師と羽鳥医師と、各曜日の外来体制で行った。その他、胃癌大腸癌検診で2次検診希望の方のための外来も行った。実働の医師数の減少もあり、協力しての外来業務となった。

病棟での診療業務は、看護師の大きな協力体制により、安全に行うことを目標に行ってきた。悪性疾患や複数の併存疾患の方も多く、全人的治療が強く求められるケースにおいては、他科医師や多職種でのチームとしての治療も心がけた。

検査に関しては、今年度は毎週月曜日と月に1回程度の木曜日で内視鏡下粘膜下層剥離術の処置日とし、その他超音波内視鏡下での観察や穿刺術や逆行性内視鏡下膵胆管造影術、また腸管の金属ステント留置術などは症例ごとにflexbleに１週間を通じて行い、適切な治療方針を検討し治療を行った。ラジオ波焼灼療法や肝生検は、病棟の処置室で水曜日を中心に行った。

当院は高齢者の方も負担なく大腸内視鏡検査検査がうけられるように、ご希望に応じて外来でも入院でも対応可能としている。また日数も前処置の必要性に応じて日帰り～2泊3日のパスまで運用可能な状態である。鎮静下での内視鏡検査は、2016年から導入され、希望者も増加し順調である。安全面の確認を行いつつ、外来での対応可能な年齢の検討を継続している。

疾患の内訳としては胃癌、大腸癌、膵臓癌、食道癌、肝癌等を含めた悪性腫瘍の治療の一方、胆道感染症、イレウス、出血性病変による吐下血などの緊急対応が必要な患者が多い状況は変わらなかった。

年間で、3000件を超える上部内視鏡検査、約1600件の下部内視鏡検査、174件の逆行性内視鏡下膵胆管造影術を行った。病棟における大腸内視鏡検査パスは本年度も多く、80歳以上の鎮静上部内視鏡パスもひき続き希望される方あも多かった。上下部の内視鏡下粘膜下層剥離術も100例を超え、パスでの対応も安全に行っている。今年度は大腸癌に対しての金属ステント留置術症例も増加していた。胆膵の悪性腫瘍を中心に化学療法を行う症例も増加していた。

内視鏡治療を中心に、高齢者に対して負担が少ない治療を行えるよう、協力している。効率的に入院日数を短縮し対応しているが、平均在院日数は今年も約8日程度で高い回転率での運営を継続している。

３　研修・教育活動

検査・手技が多い当科では、マンパワーが必要な処置もあり協力して検査を行ってきた。毎週カンファランスを行い、症例の共有を行っている。実際に後期研修医も含めてかなりの検査を実際に行える環境を目指している。内視鏡検査・処置に関しては、当院でかなりの内容が学ぶことが可能な状況である。

神経内科・脳卒中科

部長　村山　繁雄・金丸　和富

1　人員体制

〈部長〉村山繁雄、金丸和富
〈専門部長〉仁科裕史、仙石錬平
〈医長〉東原真奈（2019年12月まで海外研修）
〈医員〉本山りえ、広吉祐子、徳本健太郎、渋川茉莉
〈兼任〉石井賢二、石橋賢士（神経画像研究チーム）
〈外来非常勤〉江口桂、山崎幹大、森本悟、吉野正俊、松原知康、元田敦子（高齢者バイオリソースセンター）、神経心理：武田克彦、てんかん：松平敬史、筋電図：大石知端子、脳波：大南伸也

その他後期研修医2名、前期研修医1-2名の体制で、常勤の日本神経学会専門医は8人体制である。神経変性疾患から脳梗塞まで、幅広い専門的な対応が可能となっている。

2　診療活動・実績

病棟：10階西病棟37床、10階東病棟 3床の合計40床。脳梗塞超急性期のtPA治療等は集中治療室（SCU 6床）で診療している。脳卒中ユニットSCUは脳神経外科とともに運営し、24時間対応で急性期脳卒中診療を行うとともに、リハビリ科との協力により急性期リハビリにも積極的に取り組んでいる。慢性期脳梗塞再発予防治療として、抗血小板剤や脳塞栓に対する抗凝固療法を行っている。令和元年度の新入院患者数は488人、転入患者数 254人。初診外来患者数は767人である。入院では脳梗塞など脳卒中急性期が多く188人、うちtPA治療は11人で行っている。神経変性疾患ではパーキンソン病および関連疾患が多く（パーキンソン病 73人）、パーキンソン検査パス入院を設けている。また、アルツハイマー病などの変性型認知症には認知症入院パスを設けている（アルツハイマー型認知症など認知症入院 6人）。今年度も神経難病のレスパイト入院を継続（14人）した。胃瘻チューブ交換短期入院パスも継続した。神経・筋疾患については、電気生理学的検査・適応決定の上生検を行っている。肺炎・尿路感染症・脱水症などの内科疾患にも対応している。病棟では、毎朝のモーニングカンファ、月曜日問題症例回診、水曜日研修医回診、金曜日新患回診を行い、問題症例は週1回の症例カンファで討論している（村山）。

外来：神経内科外来は予約制であり、月曜日から金曜日まで常勤スタッフおよび石井、石橋（研究所神経画像研究チーム）、吉野（吉野内科クリニック）、江口、山崎、森本が、初診・再来患者診療を行った。救急対応は、救急外来、また、毎日設けている神経内科外来予約外診療（予約新患にも対応）にて行っている。毎週月（井原）、水曜日午後（交代制）には“物忘れ外来”も担当。また、てんかん外来（松平）、神経心理外来（武田）も継続している。その他、眼瞼痙攣を対象にボツリヌス治療を行っている（金丸）。神経心理検査は常勤（小幡）・非常勤心理士が対応している。

検査：針筋電図、神経伝導検査、誘発電位など電気生理学的検査（東原）、神経・筋生検（仁科（裕））、匂い検査・皮膚生検（仙石）、頸部ドップラー（本山）、脳脊髄液バイオマーカー検査（tau、Aβ42）（金丸）を行っている。神経・筋はバイオリソースセンター組織リソース、脳脊髄液はバイオマーカーリソースとして蓄積を継続している（令和元年度、髄液検体数 75）。病理診断は神経病理専門医（村山）が行っている。

放射線検査として、CTおよびMRIが24時間対応可能で、神経放射線専門医が対応している。問題症例は、研究所に依頼しPET検査を積極的に行っている（石井・石橋）。

死亡患者の剖検許可をご遺族より得て高齢者ブレインバンクに登録することに加え、生前同意を得る努力も行っており、臨床・画像・病理連関に基づき、診療に生かす努力を高齢者ブレインバンク・バイオバンクプロジェクトとして行っている（村山）。

在宅診療：板橋区医師会神経難病の在宅往診診療を行っている（金丸）。

3　研修・教育・研究活動

検討会：毎日朝8時30分より、夜間当直時間帯に入院した脳卒中急性期を含む救急入院症例の検討を行っている。神経内科入院中の問題症例については、毎週火曜日に症例検討会を行い診断および治療方針の検討を行っている。死亡例については、高齢者ブレインバンクと共同でブレインカッティングおよび臨床病理検討会（CPC）を行い診療レベルの向上に努めている。また、月1回、精神科・放射線科・リハビリテーション科と合同で物忘れカンファを行っている。脳卒中患者の治療には、発症早期にリハビリテーション科に依頼しリハビリテーションを導入、リハビリ科との検討会を定期的に行い、リハビリ継続が必要なケースは回復期リハビリ病院への転院やリハビリ科転科をすすめ、ADL・QOLの改善を目指している。また、板橋区医師会の共催を得て、当センター神経内科・脳卒中科セミナーを開催し、病診連携への貢献も継続している。

学会発表：国内学会として、神経学会総会・関東地方会、神経病理学会総会・関東地方会、Neuromuscular Conference、Spinal Cord Club、脳卒中学会、認知症学会、自律神経学会、パーキンソン病・運動障害疾患コングレスに発表を行っている。

国際学会として、American Academy of Neurology, International Parkinson and Movement Disorder Society, Alzheimer Association International Conference, International Symposium on ALS/MNDに発表を行っている。

またオールジャパン研究として、JALPAC, JACCALS, JAMSACに協力している。

血液内科

部長　宮腰　重三郎

1　人員体制

〈血液内科部長〉宮腰重三郎
〈血液内科医長〉小倉和外　斉藤輔
〈血液内科　移植コーディネーター〉赤川順子
〈輸血細胞療法科部長　血液内科専門部長〉小林寿美子

血液内科は主に血液造血組織に関する疾患を扱っている。病床数は完全無菌室36床、例年通り入院患者の90%以上が血液疾患症例であり、このうち約半数が急性骨髄性白血病を中心とした急性白血病と骨髄異形成症候群であった。今年度も入院患者の80%以上が移植関連の症例が占めていた。

2　診療活動・実績

〈外来〉延べ外来患者数は昨年度と同様であった。造血幹細胞移植目的での紹介が多く、セカンドオピニオン外来も昨年より増加した当院全セカンドオピニオン35件中25件を血液内科が占めた。紹介患者の大部分は区西北部医療圏の地域連携での患者である。大学病院など公的病院、一般病院での高齢者血液悪性疾患患者の受け入れは十分といえず、当科が受け皿となっている現状は例年と変わりはなかった。特に順天堂練馬病院と連携を強化し、高齢者血液疾患で、移植適応のある症例を数多く紹介いただいた。
〈入院〉前年度に比較し、延べ入院患者数、病床利用率は昨年より減少したが、2017年度21例、2018年度は計25例であった造血幹細胞移植症例は26例であった。平均在院数は例年通りであった。移植に関しては、65歳以上の高齢者は20例で、特に当科の特徴である70歳代の移植症例が増加し、26例中12例であった。多剤耐性菌のブレークスルーがないように細心の注意を払い、ブレークスルーは認めなかった。新施設は11階西病棟に36床の無菌病室（管理加算－1：3000点/日対応　14個室、管理加算－2：2000点/日　対応の多床室22ベッド）
病院情報局による骨髄異形成症候群の症例数別ランキングでは東京都内3位であった。

また、2017年1月に骨髄バンク認定採取病院になり、さらに2017年4月日本造血細胞移植学会認定の移植認定病院となった。このことにより非血縁者間臍帯血移植以外にも骨髄バンクからの骨髄移植や末梢血幹細胞移植が可能となった。さらに本年度は骨髄バンクドナー13件（骨髄採取10件、末梢血幹細胞採取3件）を受け入れ開始し、細胞採取ならびに処理を実施し昨年度8件よりもバンク関連業務の拡大につながった。

3　研修・教育活動

例年と同様に新臨床研修制度を充実させるため、骨髄標本読み会を通して、血液疾患に対する理解を深めている。特に骨髄標本読み会においては、大型モニターを利用し、同時に多くの先生とディスカッションできるように工夫をしている。血液悪性疾患の治療にはコメディカルの協力が不可欠である。このため血液疾患の特性、治療上の留意点など、さらに理解を深めてもらうため定期的に病棟カンファランスを開催している。病棟薬剤師、栄養士の方々も参加してもらった。血液悪性疾患についてのカンファランスを行った。
回診も強化し、週3回の回診と毎日朝の移植症例回診を充実させた。

研究面では、高齢者血液悪性疾患に対する造血幹細胞移植の安全性確立に関して、移植後合併症をいかに減少させるかに注力し、その成果を学会で発表した。移植関連死亡は減少傾向にあり、当センターでの70歳代の移植成績も、70歳未満の年齢層と遜色がなくなりつつある。また、当院トランスレーショナルリサーチ研究にて「トロンボモジュリンアルファの移植前処置併用効果」を実施中である。
図１に移植後サイトメガロウイルス再活性化症例におけるトロンボモジュリンアルファ使用の有無による移植関連死亡を示す。使用群に関連死亡が少ない。

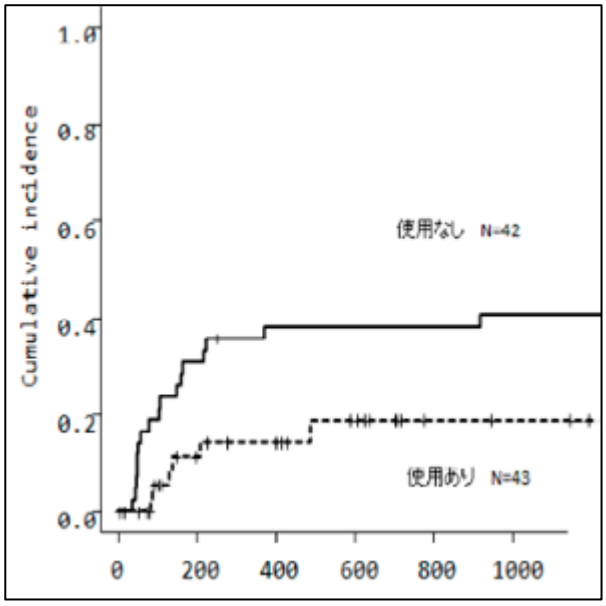


図１：60歳以上の臍帯血移植関連死亡

感染症内科

医長　小金丸　博

1　人員体制

〈医長〉小金丸博
〈非常勤医〉稲松孝思、吉田敦

2　診療活動・実績

■外来診療の実績

外来業務として、感染症内科外来4単位、総合内科外来１単位を担当した。
感染症内科外来では、肺炎、結核などの呼吸器疾患、梅毒などの性行為感染症、発熱疾患などの診療を行った。
肺炎球菌ワクチン（ニューモバックス)、インフルエンザワクチンの接種を行った。

■入院診療の実績

感染症内科は、9東病棟38床を総合診療科、呼吸器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科と共に運用した。
1年間で受け持った入院患者は78名で、発熱を主訴とする緊急入院患者が多く、呼吸器感染症36例（うち肺結核1例、COVID-19 1例)、尿路感染症12例、皮膚軟部組織感染症7例、消化器感染症2例、インフルエンザ3例、血流感染症3例などであった。また、脱水、めまい、低ナトリウム血症などの一般内科疾患も担当した。死亡は4例（うち剖検0例）だった。入院患者の年齢層は31歳～101歳と幅広く、平均年齢は81.8歳と高齢だった。

■院内感染対策の取り組み

病院全体の院内感染対策を中心的立場で取り組み、特定感染症予防対策委員会、感染症対策小委員会の運営を担っている。血液培養陽性例に対しては、原則全例診療録に所見を記載し、担当医の診療の一助となるように努めた。また、院内感染対策チーム、抗菌薬適正使用支援チームの一員として、週1回の血液培養陽性例、広域抗菌薬の長期投与例、コンサルト例に対して回診を行った。
令和元年度は、板橋区の感染対策加算に係る合同カンファレンスを主催し、環境衛生について意見交換をおこなった。1月以降は、新型コロナウイルス感染症の診断、治療、院内感染対策に関して、中心的な立場で取り組んだ。

3　研修・教育活動

(1) 第1回院内感染対策講演会　2019/6/19
(2) 第2回院内感染対策講演会　2019/11/28
(3) 初期研修医対象感染症講習会　2019/4/11
(4) 初期研修医対象勉強会　抗菌薬の使い方（基礎知識編）　2019/6/12
(5) 初期研修医対象勉強会　抗菌薬の使い方（実践編）　2019/6/19
(6) ICT 緊急セミナー　正しく恐れよう新型コロナウイルス感染症　2020/2/12

精神科

部長　古田　光

1　人員体制

〈部長〉古田光
〈常勤医員〉松井仁美、大矢雅樹
〈シニアレジデント〉伊佐治千明
〈非常勤医員〉上田諭、松本健二、長谷川裕美
〈臨床心理士〉
〈常勤〉扇澤史子、岡本一枝、今村陽子
〈非常勤〉堀内隆裕、川端麻美、青島希、植田那月、　高岡陽子（産休中）

常勤医師：古田光、筒井卓実、松井仁美（2020年3月末まで産休取得）、大矢雅樹の体制で年度がスタートした。筒井医師が2019年11月に開業の為退職し、その後は非常勤医師として外来業務を継続した。2020年3月末大矢医師が退職した。2019年10月～2020年3月山口医師が赴任した。

シニアレジデント：2018年10月勤務を開始した伊佐治千明が、2020年9月末で退職した。2019年4月野村絵里香医師が2019年4月赴任し、同年11月産休に入り、2020年3月末退職した。2019年4月～2020年3月砂原医師が赴任。2019年10月～2020年3月本川友紀子医師が赴任。非常勤医師として松本健二、上田諭が外来診療を継続した。松井医師が2018年産休に入った。

他院シニアレジデント：2020年1月～3月松沢病院シニアレジデント中村公哉医師が勤務した。

院内初期臨床研修医計：6名（小沢理音、北郷萌、小笹静佳、小林敬、朴文英、馬場口紘成）が豊島病院神経科の協力を得て、精神科で研修を行った。

臨床心理士:2019年6月青島希が産休に入り、代替として岩崎絵里が入職した。2020年3月川端麻美が退職した。常勤、非常勤ともにすべての心理士が2019年度中に公認心理師資格を取得した。

2　診療活動・実績

［1］外来

2019年度の総初診患者数は再初診も含め計491名（男性170名、女性321名）、平均年齢79.5±9.8歳（35-99歳）、初診時主診断はICD-10分類F0（認知症・せん妄を含む器質性精神疾患）63.3%、F1（アルコール依存等精神作用物質による障害）0.8%、F2（妄想性障害を中心とする統合失調症圏）5.5%、F3（うつ病など気分障害）12.4%、F4（身体表現性障害、適応障害などの神経症圏）7.9%、F5（不眠症や摂食障害等）2.4%、F6・F7（パーソナリティー障害や精神遅滞）0.6%、Gコード（てんかんや薬剤性パーキンソニズムなどの神経系の疾患）1.6%であった。他病院からの紹介患者55.0%、院内紹介が18.3%であった。初診患者の居住地は板橋区58.7%、豊島区10.6%、練馬区12.2%、北区9.0%と区西北部二次医療圏の患者で90.4%を占めた。

［2］入院

定数30床＋定数外の保護室2床の閉鎖病棟で、看護基準10：1の体制を継続した。有料個室1室の運用を継続した。2019年度の入院患者数はのべ289名（男性107名、女性183名）、平均年齢79.7±7.6歳（50-99歳）、退院時主診断のICD-10分類、F0：66.8%、F1：0.7%、F2：7.6%、F3：23.9%、F4：1.4%であった。平均在院日数は34.7日であった。ECTの施行件数は計294件であった。

［3］コンサルテーションリエゾン

■入院中他科コンサルテーションリエゾン

2018年度精神科に診察依頼のあった他病棟入院中患者は計239名（男性112名、女性127名）、平均年齢は77.7±11.5歳（22-98歳）であった。64歳以下の非高齢者の割合は13.4%であった。精神科主診断内訳はF0が45.2%と約半数を占めた。麻酔科のラメルテオンせん妄予防研究に協力しせん妄の有無診断や心理検査を行った。

■精神科リエゾンチーム

白取認知症看護認定看護師、精神科医師、心理士、精神保健福祉士、薬剤師で構成する精神科リエゾンチームが週1回全病棟の回診と都度の臨時対応を継続した2019年度はのべ131名に介入を行った。

［4］緩和ケアチーム

松井医師産休に伴い、古田が担当した。

3　研修・教育活動

各種学会で医師、コメディカルらが発表を行うとともに、種々の講演会や勉強会の講師をつとめた。首都大学看護学部学生、認知症看護認定看護師、東京医科歯科大学医学部学生の実習を受け入れた。東京都立板橋看護専門学校の精神看護学講義を引き続き担当した。認知症支援推進センターの島しょ地域の認知症対応力向上に向け

た支援事業に医師、臨床心理士を派遣した。認知症疾患医療センターとの共催で行動制限最小化委員会の勉強会を2回開催した。詳細は認知症疾患医療センターの報告書を参照のこと。

もの忘れ外来

精神科部長　古田　光

１　人員体制

もの忘れ外来では引き続き精神科・神経内科・研究所の協力態勢で診療を行った。精神科・神経内科の常勤・非常勤医師のほか、研究所社会参加と地域保健研究チーム研究部長藤原佳典医師、研究所自立促進と精神保健研究チーム研究部長粟田主一医師、専門部長岡村毅医師がもの忘れ外来診療をご継続くださった。

２　診療活動・実績

もの忘れ外来では区西北部二次保健医療圏患者の優先診療を継続した。初診患者（再初診含む）は979名、平均年齢80.6±7.5歳（47-99歳）であった。（男性334名,平均年齢80.2±7.6歳：女性645名,平均年齢80.8±7.4歳）。患者居住地域は板橋区63.1%、豊島区10.8%、北区8.4%、練馬区11.3%と区西北部4区在住の患者で93.7%を占めた。他医療機関からの紹介患者は76.8%、院内他科からの依頼は4.0%であった。初診時診断は、正常または健常11.6%、軽度認知障害（MCI）26.4%、アルツハイマー型認知症37.8%、血管性認知症4.6%、レビー小体型認知症7.4%、前頭側頭型認知症0.7%、その他の認知症7.8%、認知症以外の精神疾患3.5%、認知症以外の神経疾患0.2%であった。

引き続き認知症専門相談室でトリアージを行い、緊急性の高い患者は個別での対応を行った。認知症初期集中支援チーム、認知症疾患医療センターアウトリーチ事業、板橋区おとしより専門相談事業と連携した受診調整も行った。昨年度に引き続き、東京都公安委員会からの依頼による臨時適正検査を継続した。

３　その他

2020 年度も引き続き東京都認知症疾患医療センター運営事業の委託を受け活動した。患者・家族のサポート事業として、認知症はじめて講座、認知症センター家族交流会、私たちで話そう会、外来回想療法を継続した。初めて講座については 2019 年 8 月から「はじめて講座+カフェ」と言う形で、講座+カフェの形で運営を開始した。教育研修機関として、院内外の医師、医学生、看護師、看護学生、臨床心理士学生、PSW 学生等の研修を受け入れた。詳細は認知症疾患医療センターの項を参照のこと。

緩和ケア内科

部長　齊藤　英一

1　人員体制

〈部長〉齊藤英一
〈医師〉小西治子（常勤）佐藤深雪（非常勤）長澤陽子（非常勤）香西友佳（非常勤）
〈公認心理士〉道家木綿子、小野恵理香、大野麻美
〈音楽療法士〉進藤雅子、吉原揚子
〈園芸療法士〉近藤範孫

2　診療活動・実績

（1）病棟

12階緩和ケア病棟は約83%の病床利用率で、前年度に比べて入棟患者数は約28%増加した。緩和ケア病棟からの自宅等への退院率は約25%で、他院後は当科外来に通院して頂いたり地域の在宅支援診療所と連携し在宅緩和ケアを受ける体制も整えている。
緩和ケア外来や救急外来からの一般病床への緊急入院も増加した。

入院患者数

	平成30年度	令和元年度
入院者数	230	295
病床利用率（%）	77.5	83.2

緊急入院件数

	平成30年度	令和元年度
緊急入院件数	40	59

緊急入院と在宅療養支援

限られた病床数とスタッフのために、緊急入院は紹介元での対応を原則としているが、緩和ケア外来に定期的に通院したり緩和ケア病棟の入退院を繰り返したりしている患者については、上記のように緊急対応の体制が整えている。

入院中の在宅療養支援や在宅支援診療所、訪問看護ステーションとの連携、病棟看護師による在宅訪問により、緊急時の相談先や入院先を保障しながら望む場所での療養を支えている。

また入院審査会を終えているが即座の緩和ケア病棟入院を希望していない待機者は、240名前後となっている。これらの方々については病棟師長、MSW、臨床心理士が協力して定期的な電話相談や必要に応じて外来受診を調整している。

多職種チームケアについては、多職種カンファレンスを定期開催し、リハビリやMSW、栄養士との情報共有に努めると共に、新たに臨床心理士や音楽療法士、園芸療法士が病棟のケアチームに加わった。とりわけ臨床心士の増員は病棟、外来、緩和ケアチームでの活動を充実させている。ボランティアの組織が進み、定期的な活動が始まった。

（2）緩和ケア病棟入院相談外来

入院相談外来は、前年度よりも約20%減少した。しかし、入院相談外来は、がん相談支援センターと併せて必ずしも入院相談だけの働きだけではなく、今後の過ごし方や療養の場を相談する働きも強めている。さらに入院相談から緩和ケア外来への受診者も増加し、早期からの緩和ケア介入が可能となっている。

院内からの紹介や緩和ケアチームで介入している患者については臨時で相談を持つことで相談までの待ち時間や転棟までの待機日数も縮小した。

ア　緩和ケア病棟入院相談件数

	院内	院外
相談件数	111	369
内受診に至った件数	107	196
未受診	4	165

※未受診理由：患者死亡　概要説明のみ希望　状態悪化　他院へ入院　　本人希望せず　など

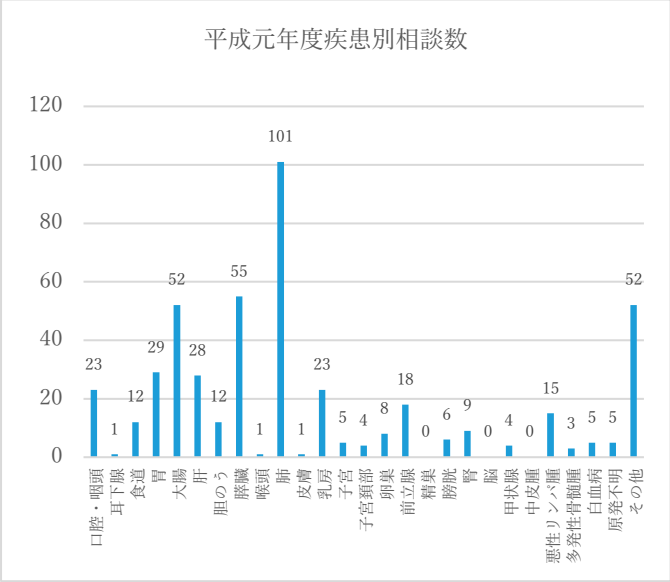
イ　平均待機日数

	院内	院外
申し込み～受診	12.8	11.7
受診～入院	6.8	

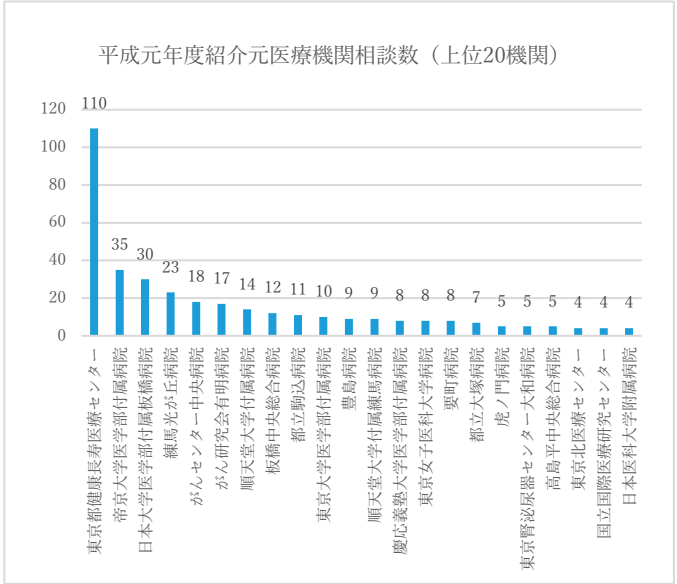
ウ　平均年齢

院内：79.5歳　　院外：73.7歳

エ　疾患別相談件数



オ　紹介元医療機関



（３）緩和ケア内科外来

症状マネージメントと意思決定支援を中心に開いている。相談外来より、症状マネージメントが必要な患者が緩和ケア外来に受診したり、抗がん治療中の患者の支持療法や意思決定支援に受診する患者も少なくない。紹介元との連携も緩和ケア外来の大切な働きである。緩和ケア外来に通院している患者の緊急入院や臨時の外来もあった。また緩和ケアチームで介入した患者の退院後の主科受診に合わせて緩和ケア外来での併診も行っている。

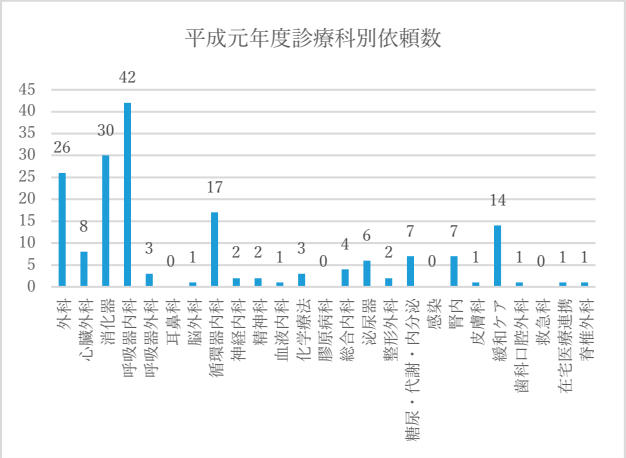
３　緩和ケアチーム

緩和ケアチームは、回診とカンファレンスを定期的に開き、患者家族、病棟看護師、医師、MSWと緩和ケアチームへの依頼を職種や部署を限定しないようにしている。

ア　緩和ケアチーム依頼件数

依頼総数	179
がん	152
非がん	27

イ　診療科別依頼件数



ウ　依頼目的

第１依頼目的	件数
症状緩和	126
意思決定支援	3
療養環境調整	6
気持ちのつらさ	22
家族ケア	9
その他	13

エ　転記

転記	件数
自宅退院	43
死亡退院	38
転院	20
PCU入棟	76
不変	0
軽快	1
その他	0

外科総括

外科総括部長　時村　文秋

１　人員体制

令和元年度の外科系診療体制は、外科、血管外科、心臓外科、脳神経外科、呼吸器外科、整形外科、脊椎外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科の12科であった。また当然ながら手術を支える麻酔科、中央手術室と密接に連携をとって診療にあたっている。

人事異動

本年度新たに赴任された外科系の先生は（以下敬称略)、、平成31年4月、伊達数馬（心臓血管外科医長)、田所賢人・松本一馬（麻酔科)、別府大嘉繁（歯科口腔外科)、山崎美香・北野まり恵（眼科)、平山雅啓（脳神経外科)、7月瀬尾明彦（血管外科)、安楽真樹（呼吸器外科部長)、10月、吉岡孝房（呼吸器外科)、金子雅子・安江健佑（整形外科)、加藤三咲子（脊椎外科）の各先生方である。

退職された先生は令和元年7月、似鳥純一（呼吸器外科部長)、8月、桝永浩一（泌尿器科医長)、9月、平山雅啓（脳神経外科)、永井雄高・熊川義人（整形・脊椎外科)、令和2年3月黒岩厚二郎（外科副院長)、中吉田智幸・川崎恵理（外科)、穴水依人（脊椎外科部長)、田中将兵（耳鼻咽喉科)、吉田香苗（泌尿器科)、小倉信（麻酔科部長)・今野元之（麻酔科医長)、山崎美香（眼科)、千代侑香（歯科口腔外科）の先生方であった。

なお平成31年4月1日付で寺田裕紀子先生（眼科専門医長)、加藤孝之先生（リハビリテーション科専門部長がそれぞれ昇任した。

２　診療活動・実績

本年度の外科系各科の中央手術室利用件数は5163件と昨年度（4663件）より500件増加した。、

内訳は、眼科（2585件）を筆頭に、外科（457件)、血管外科（440件)、整形外科（363件)、泌尿器科（298件)、脳神経外科（152件)、脊椎外科（115件)、心臓外科（95件)、呼吸器外科（92件)、耳鼻咽喉科（76件)、皮膚科（33件)、歯科口腔外科（11件）の順であった。

眼科が339件と大幅に増加した他、泌尿器科が58件、整形外科が42件、血管外科が33件、呼吸器外科が32件、心臓外科が14件増加した一方、脊椎外科が37件、脳神経外科が33件、外科が8件、皮膚科が4件減少した。なお整形外科では両側の人工膝関節置換術が34件（平成30年度は27件）とさらに増加しており、実際の手術件数は397件と増加した。

３　研修・教育活動

令和元年度は、新たに10名の初期研修医を受け入れた。当センターの初期研修プログラムでは内科研修が主体であるが、外科系各科での研修も行っていただいた。　特に初期研修2年目の先生方は皮膚科、麻酔科、三次救急（帝京)、眼科、泌尿器科、外科、呼吸器外科、産婦人科（帝京)、整形外科での研修を行っていただいた。

地域連携の一環として、毎年、地域連携ニュースに各診療科の案内を掲載している。外科系では令和2年3月呼吸器外科安楽部長の紹介記事を掲載した。

高齢者に対する専門病院としての地位を確固たるものとすべく、各職員が日々努力しているのはいうまでもない。外科系各診療科では安全確実、適切な手術、診療を行うことにより、患者さまへ満足できるサービスを提供したいものと考える。そのために、新たな人材の育成、日々の診療を行いながらの新しい技術の習得・研鑽に努めていきたいと考えている。

外科

部長　金澤　伸郎

1　人員体制

〈副院長〉黒岩厚二郎
〈部長〉金澤伸郎
〈専門副部長〉 吉田孝司
〈医長〉三井秀雄（救急部兼務）
〈専門医長〉吉本恵理
〈常勤医〉飯塚童一郎、吉田智幸

外科と血管外科は独立した科となっているが、臨床では血管外科と合同で当直を行っている。人員体制としては、前年度末に藤巻医師が退職し、帝京大学から1年間派遣されていた藤條医師も退職されたため、7人体制で業務を行った。

2　診療活動・実績

外科外来は、月曜から金曜まで消化器外科を中心に一般外科、乳腺・内分泌外科など幅広く診療に当たっている。専門外来は木曜に内視鏡下胃瘻造設に対応するためPEG専門外来、及びストマケア・スキンケア外来を行い、皮膚・排泄ケア認定看護師とともに人工肛門管理に加え、褥瘡の処置・指導を行っている。また、がん検診からの受け皿として便潜血外来を、腹腔鏡手術の増加に伴い、腹腔鏡外科外来を週4日間開設している。術前検査センターも活用し、術前検査を外来で施行する頻度が高まり入院期間が短縮されている。DPCが導入されたこともあり、外来での検査が増加傾向にある。

外科・血管外科で当直も含め、24時間、365日、2名でのon call 体制を取っており、緊急手術も含めた救急医療に対応している。

一昨年度、外科は厳しい年であったが、開業医訪問やセミナーへの参加、こまめな診療情報提供書の作成など、地道な地域への働きかけの甲斐もあってか、人員が2名減ったにもかかわらず、初診患者数、入院患者数、及び、総手術件数は増加した。腹腔鏡下手術を含め、ヘルニア根治術は堅調に手術件数を伸ばしたが、胃癌、大腸癌手術件数は微減しており、このようなメジャー手術の症例数増加が喫緊の課題と考える。低侵襲手術である腹腔鏡下手術は順調に例数を重ねており、胃・大腸における、腹腔鏡手術の占める割合は増加傾向にある。

他科の外来・入院患者への検査、治療にも積極的に対応しており、依頼があれば、リンパ節生検やCV（ポートも含めた）挿入術などは、曜日にかかわらず迅速に対応している。毎週に行われる褥瘡回診、栄養療法のためのNST回診にも積極的に参加している。東京都がん診療連携協力病院としての対象となっている大腸がん、胃がんに関しては、東京都医療連携手帳の活用も行っている。新たにはじまった板橋区胃がん検診（内視鏡検査）にも、消化器内科・内視鏡科と協力して外科も参加している。

他科との連携も密に取っており、消化器内科・内視鏡科・病理診断科とのキャンサーボード（消化器CPC）、緩和ケア認定看護師・がん化学療法看護認定看護師、がん看護専門看護師と共同で、がん患者に対するカウンセリングを行っている。

3　研修・研究活動

外科カンファランスは毎週火曜、木曜に行い、画像診断技術の向上に努めるとともに、カンファランスにより治療方針の決定を行っている。又、術中、術後写真も用いた術後症例検討会も同時に行っている。キャンサーボード（消化器CPC）も病理診断科、消化器内科、内視鏡科と共同で定期的に開催している。

院外研修は特に若手医師に学会発表を奨励し、日本外科学会による外科専門医修得や論文作成などにも力を入れている。また、腹腔鏡下手術の技術獲得を目的として、腹腔鏡手術手技研修会などへの参加を促し、手技向上を図っている。

院内活動では、病院研修の一環として、初期研修医に対する様々なシミュレーション研修（プラネックス）の指導を行った。(2019年6月22日)

年度末には、第5回となる、消化器フォーラム2020を開催する予定であったが、コロナ騒動で残念ながら中止となった。

血管外科

医長　赤木　大輔

1　人員体制

〈血管外科医長〉赤木大輔　診療科責任者
〈血管外科医員〉根元洋光、瀬尾明彦
〈外科医員〉飯塚童一郎、吉田智幸

病棟は引き続き外科・血管外科が合同で診療する体制となっている。昨年までいた部長が退職し、4-6月は専属常勤医師は、赤木大輔、根元洋光の2人であったが、7月より瀬尾明彦が赴任し3名体制に戻り、前部長在職時以前よりactivityが上昇した。外科の協力により総員合計5名であった。

赤木が本年度平成30年4月に東京大学から赴任したことで東京大学などから非常勤を呼んで手術をする必要がなくなり、非常勤医は超高難度手術の際に日本トップレベルの慶應義塾大学放射線科医師１名のみであった。なお、術後管理は外科と共同で行う体制である。

2　診療活動・実績

平成30年度に赤木の赴任により、数年間無風状態であった当センター血管外科診療が大きく変化した。赤木により「世界標準レベルの血管外科診療の遂行」というテーマを掲げ、診療レベルの向上と診療システム刷新を行った。高い技術力を元に昨年まで当センターでは手術適応でないとされた困難症例も適切に手術可能となった。この傾向は赤木が診療科責任者となった本年度も継続実践されている。大動脈ステントグラフト内挿術は今年度31件と増加したのみならず、腎動脈再建（スノーケル法）や内腸骨動脈の分枝再建などの難度の高い手術を積極的に施行した。腹部大動脈瘤破裂症例も適切に救命した。また7階東／西病棟の協力を得て日曜日休日のクリニカルパス入院を継続施行するなど、手術件数が昨年に引き続き増加し400件を超えた(415件)。新入院患者数は415人（平成30年度340人)、延入院患者3,540人(平成30年度2,888人)と著増した。血管内治療(endovascular therapy; EVT)は症例数を伸ばすと共に、内容的にも関東有数の施設となった。大量局所浸潤麻酔（TLA麻酔）下手術の導入により、全身麻酔を必要としないEVTとopen surgeryを同時に行う低侵襲ハイブリッド手術も増加した。

総手術実績　415例（/年；平成31-令和元年度実績）

主要な手術実績

・腹部大動脈瘤（31例、うち腎動脈再建併施3例）
・閉塞性動脈硬化症、下肢末梢動脈閉塞症（血行再建193例、うち血管内治療160例、バイパス手術8例など）
・下肢静脈瘤（血管内焼灼術83例108肢）
・透析用内シャント造設（73例）

血管外科外来は火曜、水曜、金曜に行っている。診療体制を拡充し、9月より担当医交代制ながら火曜日に初診外来を開設した。赤木が水曜日の午前午後を担当することで初診患者の来院機会が週5コマとなり、初診患者数は昨年度より増加した。
また、検査部生理検査室の協力により超音波検査を含む無侵襲血管機能検査の拡充も進めている。

近隣の医師向けの血管病セミナーを2回院内で行った(5月、10月)。近隣の開業医を含め多くの参加者を集め。盛会であった。最近の当科の進歩した血管外科治療についての紹介のみならず、大動脈プラークや凝固線溶系の考察に基づいた血栓症治療について学術的な講演を行い、好評であった。そして紹介患者増加につながったと考えられた。

3　研修・教育活動

外科・血管外科カンファランスは毎週火曜・木曜に行い、カンファランスにより治療方針の決定と同時に術後症例検討会も同時に行っている。

当科の豊富な症例数は他施設や医学部学生の知るところとなり、血管外科志望で当センター研修希望の東京大学学生に対し夏季に教育を行った。

院内研修にも積極的に携わり、上記の院内の公開セミナーにとどまらず、院内の各部署に赤木が講師として勉強会を開催した。

新たな試みとして、赤木が引率し手術部看護師やハイブリッド室を担当する放射線技師に日本有数の症例数を持つ他施設の見学機会を設けた。診療レベル向上ため個々のチーム員が自ら考えるようになる基礎作りに主眼を置き、チーム医療レベル向上と質標準化、世界に通用する人材育成を図っている。

院外研修は、昨年同様積極的な全国学会での参加口演にとどまらず、赤木が各種シンポジスト、パネリスト、WEBセミナー講師を務めた。根元、瀬尾とも各種学会専門医実施位資格を取得した。EVTについては他施設の医師の教育と世界における当科の地位向上のために当科でワークショップを（9月および11月）開催した。向上した診療研究を基に、血管外科全体の進歩、技術標準化に資するとともにと当科の質の更なる向上に努めている。

心臓外科

部長　河田　光弘

1　人員体制

〈センター長〉許俊鋭
〈部長〉河田光弘
〈医長〉 伊達数馬
〈専門医長〉眞野暁子
〈医員〉村田知洋
〈顧問〉小野稔（東京大学心臓外科・教授）
〈非常勤〉竹谷剛（三井記念病院心臓外科・科長）木下修（東京大学心臓外科・講師）山本真由（帝京大学放射線科・講師）近藤浩史（帝京大学放射線科・教授）

平成31年4月1日　心臓血管外科専門医である伊達数馬医師が医長として赴任された。それにより心臓外科の診療活動度、学術的活動度は確実に上昇した。

5階東病棟を一般床として、術前管理、術後から退院までの治療を行い、特定集中治療室にて術直後集中治療を行っている。

2　診療活動・実績

令和元年度は、前年9月に中断となってしまった経カテーテル的大動脈弁植込み術（TAVI）を復活させるため、手術件数、検査件数の基準を満たせるように、毎月正確なカウントを行ってきた。

病院としても、施設基準等管理部会を設置して頂き、定期的に施設基準を維持してゆくために、必要な条件を満たしていない手術、検査を明らかにして、それを満たせるように努力してきた。

それにより、来年度(令和2年度)4月1日から経カテーテル的大動脈弁植込み術（TAVI）を再開できることが、決定した。

急性大動脈スーパーネットワーク緊急大動脈支援病院として24時間体制で緊急手術も積極的に受け入れている。定時手術においては、これまでと同様に自己血貯血を積極的に行い、出来る限り無輸血での開心術、大血管手術を目指している。

胸部ステントグラフト治療も緊急対応可能である。Impellaによる心原性ショックに対する緊急循環補助対応も可能で、新しいdeviceであるImpella CPも使用可能となった。

糖尿病患者さんに対する手術では人工膵臓による周術期の血糖コントロールを前年同様に積極的に行っている。

外来診療は、紹介患者さん、術前患者さんの評価、指導を術前検査センターの協力を得て行っている。術前の検査がすべて済んでいるか、手術前に休薬する内服薬は無いか、術前からの呼吸練習の指導なども体系的に見落としなく行える環境になってきた。

3　研修・教育活動

術前カンファレンスはこれまで通りに心臓外科、麻酔科、臨床工学士（ME)、手術室、輸血部、集中治療室、病棟看護師、栄養科、リハビリテーション科と共に水曜日午後に実施している。

症例検討については、ハートチーム（心臓外科・循環器内科・麻酔科・リハビリテーション科・手術室・集中治療室・病棟看護師・エコー技師・臨床工学士（ME)・放射線技師・医師事務）として水曜日午後に実施している。また、病棟カンファランス、VADカンファランスは金曜日に、それぞれ多職種で行い情報共有を行っている。

全症例をNational Clinical Database（NCD）へ登録している。NCDから算出されるJapan Scoreを用いて患者さん・ご家族への手術説明の際の危険度を具体的に提示する事で理解を深めていただいている。

4　その他

当院での日常診療である高齢者に対する心臓大血管手術の現状、成績、問題点を定期的にまとめて学会発表・論文発表を行っている。

国際学会での発表も毎年行っている。

来年度(令和2年度)から診療科名を心臓血管外科に変更する事が決まった。

脳神経外科

部長　松岡　浩司

１　人員体制

脳神経外科は常勤医師3名で構成され、内訳は、松岡浩司脳神経外科部長(日本脳神経外科学会専門医、日本医療安全学会高度医療安全推進者)、上野俊昭脳神経外科専門部長(日本脳神経外科学会専門医、脳血管内治療専門医)、高梨成彦医長(日本脳神経外科学会専門医、脳血管内治療専門医)である。非常勤医は、西山恭平(脳神経外科・神経内科)が毎週半日勤務3～4回と当直業務を担当した。

脳神経外科外来は、週日の一般外来のほか、特殊外来として、脳血管障害・頭部外傷・頭痛・水頭症・めまい・脳腫瘍等の診療を行っている。入院業務は、10階東病棟に定床数15床で、皮膚科、神経内科、歯科口腔外科等との混合病棟であった。2017年10月に開床された4階のSCU病床6床を、神経内科とともに運営した。

毎週月、水、金曜日朝、勤務医師全員による回診と症例検討、火、木曜日に部長回診、金曜日午後3時からの脳卒中カンファランス（神経内科、リハビリテーション科合同）に参加した。全身麻酔の手術前後と重要症例については、随時検討会を行った。定時の手術日は毎週火曜（開頭術・水頭症)、木曜午後（血管内治療）の2日で、必要時に応じてその他の週日に定時手術を追加し、随時の緊急手術を行った。脳卒中の救急入院はSCUで診療し、大手術後の患者は原則として特定集中治療室で術後管理を行った。

２　診療活動・実績

令和元年度(平成31年度)脳神経外科の外来診療は、外来患者数 3441人(1日16.3人、前年度 14.2)、初診料算定患者数 307人(1日1.5人、前年度 1.0)で、いずれも前年度を上回った。

脳神経外科の延入院数は290人であった。内訳は脳血管障害159人（脳出血60、くも膜下出血/脳動脈瘤40、脳梗塞59)、脳腫瘍17人、頭部外傷74人（外傷性頭蓋内出血35、慢性硬膜下血腫39)、水頭症18人、その他22人であった。

脳血管障害が全体の55%、頭部外傷が26%、水頭症6%を占め、前年と同傾向だった。

中央手術室における手術件数は総数122件で、ハイブリッド室で実施した低侵襲の血管内手術が55件（脳動脈瘤等のコイル塞栓術21、頸動脈狭窄症に対するステント留置術17、脳血管障害の急性期再開通10、その他7）と全手術の45%を占めた。その他の手術は、予定の髄液シャント
術12 と、緊急の慢性硬膜下血腫の穿頭術37、が主となり、脳腫瘍の摘出術、外傷及び脳血管障害の減圧術が続いた。

脳卒中ホットラインを運用して、24時間の脳卒中救急患者受入れ態勢を強化した。東京都脳卒中救急搬送体制によるtPA患者の受入れに協力し、必要に応じて急性期再開通療法を行った。

３　研修・教育活動

松岡浩司が板橋看護学校の脳神経外科の講義（年3回）を担当した。金曜日午後に抄読会を開催した。

日本脳神経外科学会により2015年開始されたJNR(Japan Neurosurgery Registry. National Clinical Database を利用した手術症例の登録事業)から、2018年1月に発展的に移行した、施設ごとの脳神経外科全入院症例登録:JND(Japan Neurosurgical Database) に、305症例を登録した。

東京大学脳神経外科の専門研修プログラムに研修施設として参加した。帝京大学脳神経外科の専門研修プログラムに連携施設として参加した。

呼吸器外科

部長　安樂　真樹

1　人員体制

〈部　長〉似鳥純一（～R1.8）
　　安樂真樹（R1.7～）
〈医　員〉吉岡孝房（R1.10～）
〈顧　問〉中島淳（東京大学呼吸器外科）
〈非常勤〉似鳥純一（似鳥クリニック）
　　星野竜広（三井記念病院呼吸器外科）
　　登祐哉（東京大学呼吸器外科）

2　診療活動・実績

2019年7月より安樂真樹が、同年11月より吉岡孝房が赴任し、常勤医2名体制で診療を行っている。
主な対象疾患は、胸部良悪性腫瘍（原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍など）、続発性気胸、膿胸、感染性肺疾患等である。

（1）外来・入院

月曜、水曜、金曜午後が外来日である。外来患者数、入院患者数ともに増加している。毎週月曜午前には呼吸器内科と共同で呼吸器腫瘍外来を開設した。また検診異常陰影を指摘された症例の受け入れとして検診外来も行っている。

外来患者数

	R1	H30	対前年	対前年比
1日平均外来患者数	6.5	5.5	+1.0	118%
初診患者数	66	54	+12	122%

入院患者数

	R1	H30	対前年	対前年比
新規入院患者数	84	56	+28	150%
平均在院日数	15.4	14.1	+1.3	110%

(2) 手術

毎週火曜日、隔週金曜日が手術日である。

H31の手術総数は90件で、対前年で30件増加（150%）であった。疾患内訳（下記）では肺癌が最も多く、全体の6割を占める。全体の約7割（67.8%）、肺癌症例の85.7%に胸腔鏡下手術による低侵襲手術が施行された。

術後診断	R1	疾患割合（%）
肺癌	56	62.2
気胸	10	11.1
肺良性腫瘍	7	7.8
胸腺腫瘍	6	6.7
膿胸	3	3.3
転移性肺腫瘍	2	2.2
その他	6	6.7

3　研修・教育活動

呼吸器内科、放射線治療科、病理部との合同カンファレンスを毎週金曜日に行い、手術・化学療法・放射線治療、緩和医療などの適応・方針について検討を行っている。当科ローテートを希望する研修医には手術、論文等の指導を行っている。

4　その他

・板橋区医師会の検診読影班での活動（安樂）
・National Clinical Database (NCD)登録
・呼吸器外科専門研修連携施設登録（日本呼吸器外科学会）

整形外科・脊椎外科

部長　宮崎　剛

1　人員体制

令和元年度は、整形外科は時村（外科総括部長）、宮崎、濱路、金高、中村、熊川の6名と脊椎外科の穴水、永井の合計8名体制でスタートした。10月１日より、新たに金子が赴任、永井・熊川の後任として加藤・安江が赴任した。9名は、外来・病棟・手術・勉強会などすべて協力して活動した。非常勤医としては例年通り、石橋、村木が外来を担当し、税田、三浦、山本（前整形外科部長）が手術指導を担当した。

2　診療活動・実績

新病院移転後、7年目となり、新たに開設した人工関節センターも4年目を迎えた。新任医師の赴任に際しても大きな混乱はなかった。予定入院が多く、医療連携経由の手術目的の転院、さらに緊急入院も加わり、有料個室も高い稼働率を維持している。

整形外科・脊椎外科外来は処置室以外に4ブースの割り当てがあり、合計5部屋で診療を行った。外来は月曜から金曜日まで水曜日を除き、再診2列、初診1列、処置1列の計4ブースないし5ブースで診察を行った。ブロック等の処置患者で混雑し、ブースが不足した際は処置室をさらにカーテンで区切って使用した。内科のブースを使用させていただくこともあった。処置内容は例年通り、関節内注射・仙骨硬膜外ブロックが主で、ギプス巻きも時に行った。専門外来としては脊椎外来（穴水、永井、加藤)、人工関節外来（宮崎、濱路、金高)、股関節外来・膝外来（濱路)、ロコモ外来（石橋)、骨粗鬆症外来（時村、金子）を行った。

令和元年度延外来患者数は15,139名（整形外科11,226名、脊椎外科3,913名)、初診外来患者数は1,153名（整形外科1,024名、脊椎外科129名)、１日平均外来患者数は整形外科49.0名、脊椎外科93.2名で、前年度とほぼ同レベルであった。

病棟は6東病棟38床と6西病棟16床の合計54床を定床として利用した。

入院患者は例年通り、変形性膝関節症、変形性股関節症、腰部脊柱管狭窄症、頚椎症性脊髄症、大腿骨頚部骨折、腰椎圧迫骨折、手根管症候群などが主体であった。延入院患者数は14,912名、新規入院患者数は599名といずれも前年とほぼ同程度だった。

平均在院日数は、昨年度より23.5日と0.3ポイント改善、病床利用率は65.7％と低下した。

手術は合計535件であり、昨年度に続き増加した。内訳は大腿骨頚部骨折関連113件（人工骨頭置換術47件、観血的整復内固定術66件[ガンマネイル54件、ピンニング12件])、人工膝関節置換術110件、人工股関節置換術56件、脊椎関連手術108件（頚椎手術22件、胸椎手術14件、腰椎手術66件、椎体形成術13件など)、手外科関連手術78件（手根管開放術30件)、その他の骨折手術9件等であった。人工関節手術件数の推移は以下の通り[82件(H26)→106件(H27)→143件(H28)→148件(H29)→150件(H30)→170件(R1)]。

3　研修・教育活動

例年通り、月曜夕方の術前カンファレンス、抄読会、水曜朝および夕方のレントゲンカンファレンス、病棟カンファレンス、外来カンファレンス以外に、有志で火曜・金曜朝に自主勉強会を行った。

研究に関しては、東大整形外科関連施設で行う、清潔整形外科手術部位感染に関する臨床研究に参加し、現在も解析中である。平成26年度以来、現在もトランスレーショナルリサーチ：骨代謝イメージングNaF-PET研究を継続し、症例数を伸ばしている。学会発表は、時村、穴水、宮崎、濱路、金高、中村が行った。

論文は、時村、宮崎、濱路が作成した。

臨床研究、論文作成、学会発表は次年度も積極的に行う予定である。

4　その他

時村・宮崎が日本学術振興会科学研究費を獲得。

(1) 2017-2019 年度　基盤研究 C　整形外科領域における手術部位感染予防に関する多施設共同研究（時村文秋[研究代表者]、宮崎剛)

皮膚科

部長　種井　良二

1　人員体制

〈部長〉種井良二
〈医員〉宮澤理恵子

以上2名で当センターの皮膚科外来受診患者や入院患者の診療、他科入院患者の診察・往診、研修医の指導などの業務に従事した。

2　診療活動・実績

当院の皮膚科受診患者は湿疹や皮膚掻痒症、蕁麻疹や痒疹、皮膚真菌症、帯状疱疹や単純性疱疹、丹毒・蜂巣炎、薬疹・中毒疹、皮膚壊疽・血行障害・褥瘡、熱傷、皮膚良性・悪性腫瘍、疥癬、膠原病・血管炎、角化異常症、爪の疾患、皮膚の加齢徴候、アレルギー性皮膚炎が主な対象疾患である。令和元年度の皮膚科外来患者数は9135人で、初診患者数は351人であった。例年通り連携病院、高齢者保健施設、他科入院中の患者の診療や生検依頼が非常に多く、専門医による視診やダーモスコピーあるいは皮膚生検により、診断を確定（種井は皮膚病理報告書を病理専門医と共同作成している）し、内服・外用・光線療法や手術による治療でこれに対応した。

入院は10階東病棟にお世話になっている。令和元年度の新入院患者数は135人、病床利用率(定床8) 105.4%、平均在院日数は21.1日であった。また、地域包括病棟の６階西病棟にも自宅・施設退院前の患者さんを多く受け入れていただいた。主な入院対象疾患は帯状疱疹や丹毒・蜂巣炎の点滴治療、皮膚癌・癌前駆症や皮膚良性腫瘍の手術、類天疱瘡のステロイド全身投与治療、熱傷・褥瘡の治療、皮膚壊疽・血行障害の精査と治療、薬疹・中毒疹や重症湿疹・痒疹などの原因検索や治療であり、例年通り帯状疱疹や類天疱瘡あるいは褥瘡などの疾患では病診連携や救急依頼での入院症例が多くみられた。

また、毎週水曜日に執り行なわれている褥瘡ラウンドでは宮澤医師が中心メンバーとして参加して、各科入院中患者の褥瘡の評価・治療に尽力した。

令和2年度より斉藤拓也先生が皮膚科専攻医としてスタッフに加わったので、よりActivityの高い診療を行えるものと考えている。

3　研修・教育活動

皮膚科の短期研修を希望する研修医5名（松田洋樹先生、赤星美帆先生、上江田優美先生、鳥海莞士先生、関谷葵先生）に皮膚科診療の基本的な取り組みかた（発疹の診方、各種検査や治療の方法）・手技（皮膚生検や皮膚外科）などについて宮澤・種井が指導医となり研修指導を実施した。

院内・院外の研修・教育活動として種井がお昼のクルズスで「知っておきたい高齢者の皮膚疾患」を、宮澤が板橋看護学校で「皮膚科看護」の講義を各々行った。

泌尿器科

部長　粕谷　豊

１　人員体制

〈部長〉粕谷豊

〈常勤〉永田卓士、吉田香苗

〈非常勤〉枡永浩一、

泌尿器科は粕谷部長および永田医員、吉田医員の枡永浩一非常勤医の4名で腎臓癌、尿路上皮癌、前立腺癌、前立腺肥大症、尿路結石、排尿障害の診療にあった。

令和元年度の人事面では、永田医師と吉田先生が4月より産休から復帰したが、枡永医師が10月より非常勤で週一勤務となりの3.2人体制で泌尿器科疾患の診断・治療を行った。

２　診療活動・実績

（１）外来

現在、外来を2列で診療に当たっているが、外来延べ患者数14325名で、903名増加したが新規患者数は453名で12名の減少であった、紹介患者数は485名で107名増加した。外来収入は18％強増加した。

（２）入院

手術件数は277件で23％ほど増加した、腎・腎尿管悪性腫瘍手術が9症例（小切開）にとどまった。前立腺癌の腹腔鏡下小切開根治的前立腺拡大全摘術が4例であった。膀胱癌症例では可能な限りPDDを使用したTUR-Bｔを行った。経尿道的手術も84例であった20％収益増加した。病床利用率は65.0％でやや改善した。

３　研修・教育活動

（１）臨床手技の完全解説2018～19年度版　粕谷豊

（２）枡永浩一、吉田香苗、永田卓志、粕谷豊 第 107 回日本泌尿器科学会総会 2019.04.20　陰部皮膚への軽い触刺激が夜間頻尿に与える影響（無作為二重盲検交差試験による検討）

眼科

部長　沼賀　二郎

1　人員体制

〈部長〉沼賀二郎
〈医長〉池上靖子、〈専門医長〉寺田裕紀子
〈常勤〉山本裕樹、福田祥子、髙尾博子、
〈係長〉植沙織（ORT)、
〈常勤〉佐野友弘（ORT）
〈非常勤医師〉新家眞、太田良枝、中原正彰、本庄恵、青木彩、坂田礼、外山琢
〈研修医〉野田拓也、藤田あさひ、北野まり恵、山崎美香

2　診療活動・実績

［１］外来

	H30	R1(H31)	対前年	対前年比
延外来患者数	16981	17010	29	100.2%
初診外来者数	1268	1310	42	103.3%
１日平均外来患者数	69.6	70.9	1.3	101.9%

［２］外来手術件数（レーザー治療）

	H30	R1(H31)	対前年	対前年比
マルチカラー	234	189	-45	80.8%
ヤグ	176	125	-45	71.0%

［３］入院

	H30	R1(H31)	対前年	対前年比
延入院患者数	4599	5285	420	110.1%
新規入院患者数	2217	2576	113	105.3%
病床利用率	78.8	90.2	7.2	110.1%
１日平均入院患者数	12.6	14.4	1.8	114.3%

［４］入院手術件数（中央手術室）

	H30	R1(H31)	対前年	対前年比
白内障関連	1780	2054	274	115.4%
硝子体関連	83	94	11	113,3%
緑内障関連	15	19	4	126.7%
外眼部関連	64	73	9	114.1%
硝子体注射	329	366	37	111.2%

3　研修・教育活動

スタッフは時間があるかぎり東大病院、眼科専門外来（ぶどう膜、糖尿病網膜症、黄斑）に参加し、研修を行った。

■講師等院外活動（講演・放送等）

1. 沼賀二郎「理想の周術期、抗炎症薬」興和創薬社内講演会(東京)4 月 4 日
2. 沼賀二郎「東京都健康長寿医療センターにおける緑障治療薬処方実態」興和（株社内講演（東京）6月18日
3. 沼賀二郎 第 34 回 JSCRS 学術総会　教育セミナー3 白内障手術患者の認知症・超高齢者対策（東京）6 月 28 日
4. 沼賀二郎 第 5 回網膜疾患を考える会　座長メトロポリタンホテル　池袋（東京）8 月 21 日
5. 沼賀二郎 東邦大学医療センター　大橋病院科クルズ 「ぶどう膜炎の診断と治療」10 月 29 日
6. 沼賀二郎 第9回　症例に学ぶOCT研究会 座長メトロポリタンホテル　池袋（東京）11月27日
7. 沼賀二郎 第 12 回城北網脈絡膜研究会 座長メトロポリタンホテル　池袋（東京）2 月 19 日
8. 沼賀二郎 第 7 回　眼科新薬を基礎・臨床から学ぶ会座長（千寿製薬）東京ドームホテル水道橋（東京）2 月 21 日
9. 寺田裕紀子:「 高齢者の白内障手術～認知　　症を中心に～.」第 34 回 JSCRS 学術総会　教育セミナー(京都）6 月 30 日
10. 山本裕樹「Paracentral acute middle maculpathy の 3 例」第 12 回城北網脈絡膜研究会 メトロポリタンホテル　池袋（東京）2 月 19 日

耳鼻咽喉科

医長　高橋　正時

1　人員体制

〈医長〉高橋正時
〈医員〉大野慶子、田中祥兵
〈非常勤医師〉岸本誠司、杉浦むつみ、川島慶之
〈非常勤臨床検査技師〉船田美佐子

耳鼻咽喉科の令和元年度の診療体制は、常勤医師3名で診療にあたった。その他、外来担当非常勤医2名、手術指導担当非常勤医3名と非常勤聴力検査技師1名で構成された。病棟は7階西病棟の4床を運用した。主に中耳炎・副鼻腔炎の手術パス入院症例と顔面神経麻痺・突発性難聴パス入院症例が多かった。また、低侵襲手術の導入により入院日数の大幅な削減を継続しており、今後手術症例の増加に努める予定である。

2　診療活動・実績

（1）外来

外来診療実績は、年度末の新型コロナウイルス感染症の影響で年度末は激減したが、年度を通じて延べ外来患者数、初診外来患者数とも増加した。紹介患者もかなり増えており、地域に密着した診療が実現てきている。

	R1	H30	対前年	対前年比
延外来患者数	8129	7886	243	103%
初診外来者数	580	568	12	102%
1日平均外来患者数	35.2	32.3	2.9	108%

（2）入院

入院患者数は、減少した。年度末のコロナウイルス感染症の影響で予定手術を延期し、入院患者が激減したことが要因と考えた。低侵襲手術により在院日数は引き続き減少した。現在は外来患者も回復し、入院患者、手術症例も増えている。

	R1	H30	対前年	対前年比
延入院患者数	810	893	-83	90%
新規入院患者数	115	118	-3	97%
退院患者数	121	120	1	101%
病床利用室	55.3	61.2	-5.9	90%
退平均在院日数	8.0	8.4	-0.4	95%

3　研修・教育活動

毎週月曜日、水曜日、金曜日の外来終了後に紹介患者の症例検討会を行い、臨床技術の向上、症例のブラッシュアップを行っている。また、臨床研究のデータ蓄積のためのカンファレンスも同時に行っており、専門外来の補聴器外来カンファレンスも行い質の高い診療を目指す。

4　その他

超高齢社会の到来により、今後増加すると思われる加齢性難聴、高齢者平衡障害に対するアプローチとして、補聴器外来の充実、難聴、平衡障害の他覚的精密検査枠の拡大を目指してきた。その成果により外来聴覚検査を大幅に増加することが可能となり、ABR検査枠増加、平衡機能検査枠の増加、補聴器適合検査を施行することができるようになった。今後も質の高い聴平衡覚診療を実現させ、超高齢者のQOLを向上させることを目標に診療を行う予定である。

歯科口腔外科

部長　平野　浩彦

1　人員体制

〈歯科口腔外科部長〉平野浩彦
〈歯科口腔外科医長〉斉藤美香
〈常勤〉森美由紀
〈非常勤〉 大鶴洋、高野智史
〈初期研修医〉千代侑香、別府大嘉繁
〈歯科衛生士〉常　勤：高橋恵子、五十嵐麻奈三
　　非常勤：宮本敦子、市川果歩

2　診療活動・実績

（１）運営方針以下を目標とした。

①　医療連携を強化する

地域歯科医師会の口腔保健センターなどを通じ、施設入所患者、在宅療養患者などの要介護高齢者の歯科治療の受け入れを実施した。特に認知症患者の受け入れを積極的に行った。

骨吸収抑制薬（BPまたはデノスマブ）関連顎骨壊死患者および骨吸収抑制薬服用患者の紹介が増加した。

抗血栓療法実施患者の抜歯など観血的処置も積極的に実施した。

また、地域歯科医院への逆紹介も積極的に実施し円滑な初診患者受け入れの体制を整備した。

②　口腔衛生・機能管理支援の充実

手術（がん、心臓血管、人工股関節置換など）、化学療法対象患者への対応を各該当科と連携しきめ細かく行い、周術期口腔管理を実施した。また病棟への歯科衛生士派遣を積極的に行い、患者負担の軽減を図った。これまでの周術期口腔管理に実施状況データをまとめ課題の抽出を行い対応の検討を適宜行った。

入院療養に際して生じる口腔衛生・機能低下への対応を、他科と連携し病棟ラウンドなどを通し積極的に実施した。

（２）患者数：令和元年度の各患者数を表に示す。

	外来患者数		前年度比
	平成30年度	令和元年度	
初診	2,218	2,488	(12.1%増)
再診	10,263	10,165	(0.9%減)

	月平均外来患者数		前年度比
	平成30年度	令和元年度	
初診	185	207	(12.1%増)
再診	855	847	(0.9%減)

	周術期管理患者数		前年度比
	平成30年度	令和元年度	
初診	323	480	(48.6%増)

3　研修・教育活動

（１）臨床研修

ア　千代侑香、別府大嘉繁が臨床研修を行った。

イ　臨床研修歯科医第22期生として5名の応募があり、河合絢が選考された。

（２）院内研修

・もの忘れ外来家族交流会､オレンジの会などに講師を派遣し､患者および家族への口腔衛生の具体的な手法、摂食嚥下機能低下への対応法などの啓発を実施している。
・高齢者看護エキスパート研修会、栄養士研修会など院内各職域研修へ講師を派遣し、口腔衛生および機能管理の視点および手法についての実習なども含めた研修を行っている。

4　その他

今後の課題と展望
ア　自己収支比率の改善を図る。
イ　周術期口腔管理を充実する。
ウ　臨床研修を充実する。
エ　歯科衛生士の育成を図る。

救急診療部

部長　坪光　雄介

1　人員体制

坪光雄介（循環器内科専門部長）
加藤貴行（リハビリテーション科専門部長）
田村嘉章（糖尿病・代謝・内分泌内科先生専門部長）
仁科裕史（神経内科専門部長，脳卒中A担当部長）
三井秀雄（外科医長）

「断らない救急医療」の徹底を重要課題とし、救急診療部を2012年1月に新設、救急診療部の核となる医師（各科の主力メンバー）を配置している。日中の救急外来診療には、当番医（指導医1名、初期・後期研修医2～3名）に加えて、毎日（月～金曜日）帝京大学医学部附属病院救命救急センターより非常勤医師を派遣して頂いている。初期研修医を後期研修医が指導、後期研修医を指導医が指導する「屋根瓦方式」にて研修・実践をしている。救急医療のさらなる充実に向けて取り組みを行なっている。

2　診療活動・実績

当センターは救急告示医療機関であり、東京都の二次救急医療機関に指定されている。休日・全夜間問わず積極的な救急の受け入れを行なっている。加えて区西北部保険医療圏内における東京ルール事案（受入困難症例）の受け入れ、または受け入れ調整を行う「地域救急医療センター」としての役割も担っている。また高齢者だけに限らず、若い年代層においても救急患者の受け入れを積極的に行なっている。

夜間当直帯の内科系救急患者を円滑に受け入れるために、毎日救急病床4病床を確保（月替わりで各病棟から1病床、合計4病床）、優先的に救急患者の受け入れを行っている。翌日には朝カンファランスにての症例の検討を踏まえ、より専門性の高い病棟への振り分けを病床担当看護師長らとともに行なっている。

救急診療部開設当時（2012年度）は、救急患者数は約6,630名であったが、新病院移転（2013年6月）5年目（2017年）には9,312人に達した。以降は減少傾向にあったために、2019/12/2～12/8救急隊受入キャンペーンを行った。お断り件数が16件減少、受入件数が14件増加、入院率40％以上維持、約580万円の収入がアップ、この状態を継続すると月換算でおよそ2,480万円の増収が見込めるという結果を残すことができた。2020年1月にもキャンペーンを予定したが、新型コロナウイルスの流行により、発熱等の入院制限を行なったために、キャンペーンを実施することができなかった。今年度は、救急患者の増加を期待できないが、新型コロナウイルスの第2波に備えて感染症対策を十分に行ったうえで救急患者の受入を積極的に行っていきたいと考えている。

当直体制の救急外来の受入体制に関する運用変更おおまかに救急部会等にて議論し変更とした。

① 腹痛及び吐下血は7番当直をﾌｧｰｽﾄｺｰﾙ
② 看護師判断により『かかりつけ患者』の救急受入
③ 呼吸器外科による気胸の受け入れ

各系列が協力して一人でも多くの救急患者を受け入れる姿勢は変わりがない。

	2017	2018	2019
救急患者受入総数（名）	10,218	9,782	9,667
救急車受入台総数（台）	4,497	4,247	4,143
救急患者お断り率※（%）	12.0	12.2	13.1

※2018以降のお断り率は救急端末ＯＦＦ除外

3　研修・教育活動

「朝カンファランス」

今年度より働き方改革に伴い、毎朝8時から開始時間を8時15分とした。提示する症例を2症例限定とし、当直し診療に携わった初期研修医より夜間当直帯入に入院した症例について、主訴、バイタルサイン、血液検査、画像所見などをもとに何を鑑別診断として挙げ、暫定診断に至った経緯をプレゼンテーションしている。指導医は指導・教育を行なっている。また、当直研修医が直接に診察していない専門当直の診察した科（循環器内科・神経内科・外科症例）においても、指導医を通して症例の解説を加えている。

「テルモメディカルプラネックス研修」

2019年6月22日（土）テルモプラネックス研修（出張シュミレーショントレーニング）を行った。

内容：

① 縫合（手洗い・ガウンテクニック・豚皮を用いた縫合術：消毒、局麻、縫合、結節縫合、埋没縫合）
② 中心静脈カテーテル挿入（シュミレーター（模擬人形）を用いた超音波ガイド下にて内頸静脈より中心静脈カテーテル挿入）
③ 気管切開（豚気管を用いたミニトラック：トラヘルパー挿入術の実践、および気管切開）
④ 気管内挿管（模擬人形）麻酔科医指導
⑤ シムマン（模擬人形）を用いたシミュレーション（急変時対応）研修

麻酔科

部長　小倉　信

1　人員体制

【常勤】

〈部長〉小倉信

〈専門部長〉小松郷子

〈医員〉今野元之、廣瀬佳代、松本一馬、田所賢人

【非常勤】相川和之、脊山雅子、縄田瑞木、久保田涼、仁多健剛、木ノ内万里子、室屋充明、桑島謙、露嵜仁志、服部貢士、五十嵐健史、榊原舞花、筒井冨美

令和元年度は、鄭仁熙医師に変わり松本一馬医師、渡邉健司医師に代わり田所賢人医師が常勤採用された。また専攻医の榊原舞花医師は専門研修プログラム3年目に入り東大で研修が始まったため4月より非常勤となった。非常勤には、毎週火曜日に、術前検査センターを通った症例の外来診察と説明同意取得を相川医師に、一般手術麻酔を脊山、縄田、木ノ内医師（以上週3日）に来ていただいていたが、スタッフ病欠により6月から久保田医師にも週3日来ていただいた。また仁多医師（毎週木曜）、五十嵐医師（毎週木曜日）に加え、心臓麻酔指導を露嵜（毎月曜）、室屋（毎水曜）、服部医師（毎木曜）にお願いした。上記以外に心臓外科緊急手術に対応するため週末のオンコール待機として東大桑島医師およびフリーランスの筒井医師に応援を依頼した。

2　診療活動・実績

(1) 手術麻酔

R1年度の麻酔科関与手術件数は1,665件と、前年比99件の増加であった【表1】。

表1. 麻酔科関与手術件数

H29	H30	**R1**	対前年	対前年比
1,691	1,566	**1,665**	+99	+6.3%

（2）術前評価

麻酔科が行う術前評価のうち、術前検査センターからのコンサルト（カルテ診察・外来診察）は対前年比26件（5.7%）減少した【表2】。

表2. 術前検査センター症例を麻酔科が評価した件数

H29	H30	**R1**	対前年	対前年比
391	460	**434**	-26	-5.7%

（3）ペインクリニック外来

本年度も毎週月・金にペインクリニック外来を開き、その初診枠は、各科の術前評価外来枠と共通で運用した。いずれも小倉が担当した。延べ患者数は増加したが新規患者は15.9%減少した【表3】。

表3. ペインクリニック外来件数

	H29	H30	**R1**	対前年比
延べ患者数	1,457	1,567	**1,820**	+16.1%
初診料算定患者数	32	44	**37**	-15.9%

3　研修・教育活動

（1） 本年度麻酔科を回った初期研修医は、関谷葵（4/1-5/7、2/18-3/19）、赤星美帆（5/8-6/4）、三野華（6/5-7/2）、松浦智之（7/3-7/30）、竹田佳世（7/31-8/27）、関章秀（8/28-9/24）、上江田優美（11/20-12/17）、

松尾佳紀（12/18-1/21)、松田洋樹（1/22-2/18）の各医師である。

（２）院内での教育活動は例年通り、東大医学部医学科 6 年生（一部 5 年生）1-2 名に対して数か月間毎週木曜日に当センター手術室にて麻酔科臨床実習を行った。また院内研修として当センター看護師対象に静脈注射講習を行った。

（３）院外では 4−7 月に、隣接する板橋看護専門学校において看護学生 2 年生に対して、手術麻酔に関する講義を 7 回にわたって行った。

（４）職員対象の第一回健康長寿医療センターICLS コースに麻酔科からもインストラクターとして参加した。

４　その他

今後、専攻医の採用を想定して、当科でも機構専門医を目指す専門研修プログラムを毎年策定することとした。令和元年度は、2020 年開始のプログラムを策定し認可された。

中央手術室

外科総括部長　時村　文秋

１　人員体制

中央手術室の運営方針は手術室運営部会で検討されるが、日々の運営は小倉前麻酔科部長、小松部長を中心に、麻酔科と手術室看護師により行われた。

手術は一般手術室9室＋ハイブリッド手術室の全10室を利用している。電子カルテシステム、手術室管理システム、映像管理システムなどのシステムが導入されているが、日常の手術室管理においては、看護師が非常に大きな役割を担っている。看護師は熊谷看護師長を中心に日々の業務を担当した。手術材料については、日中は、SPDがその大半を管理し、手術用物品の効率的運用と看護師の管理業務の負担軽減が計られている。また手術用医療機器の維持管理に関しては、臨床工学士が担当している。

２　診療科活動・実績

令和元年度の中央手術室の利用件数は5163件と平成30年度から500件増えた（表）。例年通り、眼科（2585件）を筆頭に、外科（457件）、血管外科（440件）、整形外科（363件）、泌尿器科（298件）、精神科(294件)、脳神経外科（152件）、循環器内科（127件）、脊椎外科（115件）、心臓外科（95件）、呼吸器外科（92件）、耳鼻咽喉科（76件）、皮膚科（33件）、歯科口腔外科（11件）、消化器内科（7件）、血液内科（4件）、麻酔科（4件）、リハビリテーション科（2件）、腎臓内科（1件）と続いていた。眼科が339件と大幅に増加した他、泌尿器科が58件、整形外科が42件、血管外科が33件、呼吸器外科が32件、精神科が25件、心臓外科が14件増加した一方、脊椎外科が37件、脳神経外科が33件、外科が8件、皮膚科が4件、腎臓内科が4件減少した。なお整形外科では両側の人工膝関節置換術が34件（平成30年度は27件）とさらに増加しており、実際の手術件数は397件と増加した。

年間の救急手術件数は248件と昨年（206件）に比べ42件増加した。

令和元年度の手術室運営部会は、奇数月の6回、開催され、手術室に関する報告、審議などを行った。内容は、患者のアレルギー情報を確実に入力すること。手術入室時、執刀助手への入室時間の連絡は各科で行うこと。局所麻酔下の手術で、局麻アレルギーに関するリスク説明・記載を加えること。緊急手術の場合でもサインインを実施すること。呼吸器外科の手術件数増加に伴い、金曜午前の外科枠を月2回（第1、3金曜）、呼吸器外科枠とすること。手術申し込み時には手術時間をできるだけ正確に記載すること。予定手術については前もって麻酔科へのコンサルト、術前検査センターの利用を行っていただくこと。働き方改革の導入に伴い、次年度以降は、審議事項がある場合に手術室運営部会を招集すること。招集する場合は基数月の第3金曜、外科系医師の会の後にすることなどを決定した。

手術室の円滑な運用開始のため、麻酔科及び各診療科、手術室看護師、コメディカル、事務方等多くの部門に協力をいただいており、今後さらに各科、各部門の協力を得て、手術室の安全と効率的運用を目指していく予定である。

表．科別手術室利用件数　　（単位：件）

区　　分	平成30年度	令和元年度
外科	465	457
血管外科	407	440
脳神経外科	185	152
整形外科	321	363
脊椎外科	152	115
泌尿器科	237	295
眼科	2246	2585
耳鼻咽喉科	71	76
精神科	269	294
麻酔科	5	4
循環器内科	90	127
皮膚科	37	33
心臓外科	81	95
呼吸器外科	60	92
歯科口腔外科	9	11
消化器内科	10	7
神経内科	2	4
血液内科	9	10
腎臓内科	5	1
リハビリ	2	2
合計	4663	5183

特定集中治療室

副院長　黒岩　厚二郎

特定集中治療室（特治）は平成30年度10月より8床で運用されており、CCU（冠動脈疾患ユニット)、ICU（集中治療ユニット、脳卒中以外の脳外科、神経内科の患者を含む)、RCU（呼吸器疾患ユニット）が共用で重症患者を受け入れ、その治療を行った。急性期脳卒中患者に対しては、脳卒中ケアユニット（SCU）6床を独立させて治療にあたった。混雑時には状態の安定した患者さんは早期に一般病棟に戻れるように、また満床時にさらに重症の患者さんが生じた場合には、主治医と相談のうえで状態が安定している患者さんを病棟へ移動するなど、各病棟の協力を得て、積極的に重症患者の受け入れに努めている。

１　人員体制

特定集中治療室の運営は、藤本循環器内科部長が室長を務め（CCU担当)、金澤外科部長（ICU担当)、金丸脳卒中科部長、松岡脳神経外科部長（脳神経疾患担当)、山本呼吸器内科部長（RCU担当）が副室長として、お互いに協力して行なわれている。

入室患者さんは担当科の主治医が受け持ち医となり、病態により副室長ないし他科専門医の協力を得ながら重症患者の治療にあたっている。看護体制は2：1看護であり、定期的にカンファレンスや勉強会を行い、業務に関する専門的な知識や技術の習得に努めている。また薬剤師1名が特治担当となり、薬剤の使用状況の把握や安全管理に努めている。

２　診療活動・実績

令和元年度の入室患者数は654例と昨年度（739例）に比較して85例減少した。内訳はCCU：174例、ICU：402例SCU：77例、RCU：1例であり、年間平均病床利用率ICU61.4%、SCU80.4%であった。

また例年と同様に季節による変動があり、冬季は心臓・血管疾患、呼吸器感染症などが増加し利用率が高く、春、秋には低下したが、ベッド数の減少により特に冬季はベッドが満床となる場合も多く、室長、副室長、看護師長を中心に状態の落ち着いた患者さんは病棟への移動をお願いし、また術後の患者さんであっても手術直後から病棟で治療をお願いするなど、各病棟に協力をお願いした。

CCU症例は、急性心筋梗塞、狭心症、心不全、不整脈などが主であり、虚血性心疾患の適応症例には緊急冠動脈インターベンション治療が行われた。昨年度同様東京都CCUネットワークに参画し、当番日には特治に空床を確保して、ホットライン要請に応えられるよう努めた。

ICUの入室者は、外科136例、呼吸器外科87例、心臓外科83例、感染症内科・血液内科32例、血管外科28例、泌尿器科18例、消化器内科14例、整形外科・脊椎外科4例で外科系各科の術後管理目的が大半を占めた。

SCUを利用した診療科の内訳は脳神経外科57例、神経内科20例であった。

今年度は呼吸器外科の手術件数がさらに増加し、ICU利用患者数も増加した。また脳神経疾患では、脳外科術後管理、痙攣重積、全身状態悪化などの患者さんであり、急性期脳卒中はSCUで受け入れた。RCUは新規の呼吸器患者受け入れが困難であったため、昨年同様入室者は少なかった。

また、新たに心臓外科手術後のリハビリテーション、栄養に関するプロトコールを作成、術後の回復に努めている。

特治の運営に関しては特治運営部会で検討が行われ、特に特治のベッド混雑時であっても重症患者さんの受け入れがスムーズになるよう、救急外来、病棟との協力体制について検討が行われた。

３　研修・教育活動

今年度も集中治療室で行われる専門的医療の充実、技術習得を目指し、計画的に各種研修会への参加を推進した。その結果、看護師1名がACLS受講、資格取得した。

引き続き、特治の治療体制の充実、向上を目指す方針である。

令和元年度　特定集中治療室入室実績表

単位：人

令和元年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CCU		13	11	14	12	16	12	13	13	19	17	19	15	174
ICU	外科	16	8	10	8	11	7	14	14	13	8	15	12	136
	血管外科	2	4	3	3	2	3	2	2	3	0	0	4	28
	心臓外科	11	6	10	9	2	4	8	7	3	10	6	7	83
	呼吸器外科	5	8	4	5	9	2	16	7	8	12	9	2	87
	整形外科	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	4
	泌尿器科	2	2	0	1	1	0	3	1	4	0	2	2	18
	消化器内科	0	0	0	0	4	2	1	0	0	1	0	6	14
	感染・血液他	9	1	3	2	2	1	3	1	2	1	2	5	32
SCU	脳外科	6	3	4	8	7	5	1	6	1	2	3	11	57
	神経内科	1	0	1	5	1	2	2	0	2	1	1	4	20
RCU		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
合計		65	43	50	54	55	39	63	51	55	52	59	68	654

平均在室日数	17.25	27	9.74	18.5	18	24	16.5	17.1	18.43	13.4	10.86	9.62
病床利用率（対 ８床）	59.60%	54.50%	48.80%	59.70%	63.40%	71.30%	68.60%	73.80%	71.80%	64.20%	50.50%	60.70%

リハビリテーション科

部長　金丸　晶子

1　人員体制

〈部長〉金丸晶子
〈専門部長〉加藤貴行
〈医員〉正田奈緒子，齊藤陽子
〈理学療法士〉太田隆，寺澤泉，榎本洋司，髙山祐子，江渕貴裕，熊木陽平，池田光範，篠山絵里奈，山口真依，樋口和奏，工藤卓人，真藤嗣正，鈴木圭，木村和哉，舘智憲，塚本原太(9月退職)，藤本静香，田嶋真由美，大町梨奈
〈作業療法士〉秋元美穂，本田拓也，清水彩，増田典子，奥野由佳，高橋佳子，山田大翔，榎戸理沙，澁野由希奈
〈言語聴覚士〉田中春奈，西山千香子，大村有希，植村ほのか，齋藤尚子
〈臨床心理士〉桑田直弥，河地由恵，菅原康宏，平岡共，牧田彩加，岩本美由紀
〈非常勤職員〉藤田博暁（理学療法士）
小野安咲子（作業療法士、産休代替）　内、産休･病休 7～8名

2　診療活動・実績

■外来診療の実績

2019年度のリハビリテーション外来の初診総数は、1907件（内訳は、院内他科入院中1617件、当院に入院していない症例の初診290件）であった。1907件中、リハビリテーションを処方したのは1658件で、残りの249件は診察と医師によるリハビリテーション方法などの指導であった。

初診1907件の疾患内訳は、中枢病変（脳血管・神経変性疾患等）837件、廃用症候群（膠原病・消化器疾患・感染症などによるADL低下症例など）278件、脊椎疾患・運動器（骨関節など）121件（整形外科入院症例を除く）、心大血管311件、呼吸器187件、悪性疾患116件、その他57件であった。

火曜日午前中の装具診療の初診は56件、延べ203件で、脳血管障害後遺症・リウマチ・脳性麻痺後遺症などによる変形に対し補装具処方や装具の再調整などを実施した。適宜、義肢装具士・担当理学療法士・外来看護師らと協力し、補装具に関連した創部や皮膚の処置を実施した。

火曜日午後のボトックス外来は、延べ42件に対しボトックス施注を実施した。PT・OTと共同で、ボトックス外来とは別枠で施注前評価・施注後のリハビリも実施した。

高齢者いきいき外来の2019年度初診は189件で、前年を大きく上回った。

■入院診療の実績

入院症例55例の疾患内訳は、脳卒中等（神経変性疾患含む）が26例、廃用9例、運動器7例、その他11例であった。

■リハビリテーション科外来取扱実績：リハビリテーション科医師の初診数・処方数（表1-5）

表１　リハビリテーション科初診数とリハビリテーション処方数

疾患別 リハビリテーション分類	初診総数	リハビリテーション 処方有	リハビリテーション 処方無
廃用症候群	278	263	15
中枢（CVD, PDなど）	837	766	71
脊髄疾患	3	1	2
運動器（骨関節）	118	96	22
心大血管	311	275	36
呼吸器	187	155	32
悪性疾患	116	96	20
その他	57	6	51
合計	1907	1658	249

表2　リハビリテーション科での理学療法（PT）処方数

理学療法（PT）	リハビリテーション科			整形脊椎			総計
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	
中枢（CVD,PD,脊髄など）	609	46	655	36	0	36	691
廃用症候群	261	1	262	0	0	0	262
運動器（骨関節）	96	10	106	729	0	729	835
心大血管	320	0	320	0	0	0	320
呼吸器	161	0	161	0	0	0	161
がん	29	0	29	0	0	0	29
算定なし	65	0	65	0	0	0	65
合計	1541	57	1598	765	0	765	2363

表3　リハビリテーション科での作業療法（OT）処方数

作業療法（OT）	リハビリテーション科			整形脊椎			総計
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	
中枢（CVD,PD,脊髄など）	574	32	606	34	0	34	640
廃用症候群	164	1	165	0	0	0	165
運動器（骨関節）	56	16	72	60	0	60	132
心大血管	23	0	23	0	0	0	23
呼吸器	78	0	78	0	0	0	78
がん	11	0	11	0	0	0	11
算定なし	41	14	55	0	0	0	55
合計	947	63	1010	94	0	94	1104

表4　リハビリテーション科での
言語聴覚療法（ST）処方数

言語聴覚療法（ST）	リハビリテーション科		
	入院	外来	合計
中枢（CVD,PD,脊髄など）	455	33	488
廃用症候群	84	1	85
がん	1	0	1
算定なし	1	0	1
摂食･嚥下	27	1	28
合計	568	35	603

表5　リハビリテーション科での臨床心理（CP）処方数

臨床心理（CP）	リハビリテーション科		
	入院	外来	合計
算定なし[中枢（CVD,PD,脊髄など）]	356	13	369
算定なし[中枢（CVD,PD,脊髄など）以外]	187	203	390
合計	543	216	759

■SCU実績

SCUでの新規リハビリテーション診察数は286例、処方件数は282件（全例で早期加算）と、前年度とほぼ同等であった。リハビリテーション訓練の実施件数および単位数は、前年度に比し約1.3倍と大きく増加を示した。

表6　SCUの件数と単位数

SCU	件数	単位数
理学療法	683	953
作業療法	739	1061
言語聴覚療法	611	818
臨床心理	357	535
合計	2390	3367

■リハビリテーション訓練取扱実績

SCUからスタートする脳血管障害の急性期リハビリテーション、心臓外科周術期のリハビリテーション、その他の心大血管・呼吸器のリハビリテーション、廃用症候群のリハビリテーションなどを実施した。必要症例に、土曜日もリハビリテーションを行うなど、急性期の早期介入に努めた。

理学療法

表7　理学療法の総件数と総単位数、および、
早期件数と早期加算単位数

理学療法（PT）	すべて		*早期*	
	件数	単位数	件数	単位数
中枢（CVD, PD, 脊髄など）	8505	14756	5692	9721
廃用症候群	3098	5276	1735	2922
運動器（骨関節）	9477	18560	7190	13845
心大血管	3760	6585	2736	4728
呼吸器	1841	3195	1446	2497
がん	324	533	0	0
算定なし	365	511	0	0
合計	27370	49416	18799	33713

作業療法

表8　作業療法の総件数と総単位数、および、
早期件数と早期加算単位

作業療法（OT）	すべて		*早期*	
	件数	単位数	件数	単位数
中枢（CVD, PD, 脊髄など）	7945	14078	5547	9670
廃用症候群	1993	3585	1141	2050
運動器（骨関節）	1578	3092	843	1601
心大血管	290	398	189	265
呼吸	883	1578	719	1290
がん	124	218	0	0
算定なし	465	740	0	0
合計	13278	23689	8439	14876

言語聴覚

表9　言語聴覚療法の総件数と総単位数、および、
早期件数と早期加算単位数

言語聴覚療法（ST）	すべて		*早期*	
	件数	単位数	件数	単位数
中枢（CVD, PD, 脊髄など）	5801	9910	3748	6092
廃用症候群	916	1389	530	765
がん	7	13		
算定なし	20	59		
摂食･嚥下	219	219		
合計	6963	11590	4278	6857

臨床心理

表10　臨床心理療法の総件数と総単位数

臨床心理（CP）	すべて	
	件数	単位数
算定なし［中枢(CVD, PD, 脊髄など)］	4049	7470
算定なし［中枢(CVD, PD, 脊髄など)以外］	2379	4838
合計	6428	12308

■地域包括ケア病棟実績
地域包括ケア病棟でのリハビリテーションの現状と病棟ケア件数について、表11に示す。

表 11　リハビリテーションと病棟ケア

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年間
リハビリ提供総単位数	1,210	1,005	1,268	1,289	1,211	1,250	1,352	918	956	1,183	1,297	1,181	1176.7	14,120
リハビリ１日平均単位数	2.21	2.03	2.22	2.22	2.10	2.16	2.32	2.49	2.14	2.20	2.18	2.22		2.20
病棟ケア依頼件数	8	8	3	12	7	7	16	7	10	11	2	8	8.3	99

■廃用防止ラウンド（TRAHAD）
当センターでは急性期医療現場で、2015年より急性期に廃用防止ラウンド（以下、TRAHAD：Team-Round Against Hospitalization -Associated Disability）を開始している。
TRAHADを実施し、患者を評価して病棟ケアやリハビリ科が必要かどうかを判断している。
病棟ケアで対応できる症例については、その点を病棟に伝え、場合によっては離床指導を実施、病棟ケアで対処が難しい症例でリハビリテーション適応がある症例についてリハビリテーション処方を行った。

表12　TRAHAD実施回数・リハビリテーション処方数

	TRAHAD 回数	TRAHAD 月毎 実施症例数	各回の平均 症例数	月毎の リハビリテーション 処方数	各回の平均 リハビリテーション 処方数
4月	4	40	10.0	16	4.0
5月	4	26	6.5	4	1.0
6月	4	32	8.0	9	2.3
7月	4	24	6.0	7	1.8
8月	5	40	8.0	12	2.4
9月	4	35	8.8	7	1.8
10月	5	36	7.2	9	1.8
11月	4	40	10.0	16	4.0
12月	4	32	8.0	16	4.0
1月	4	28	7.0	13	3.3
2月	4	33	8.3	12	3.0
3月	4	22	5.5	4	1.0
平均	4.2	32.3	7.8	10.4	2.5
合計	50	388		125	

■NSTラウンド
言語聴覚士は毎週のNSTラウンドに参加、リハビリテーション科医師は月1回ラウンドを担当した。問題症例は、必要に応じ往診などで評価を実施。時には、STだけでなくPTと協同して摂食嚥下に対するアプローチを行うことが多かった。継続的なアプローチが望まれる症例では、摂食嚥下療法を処方し、嚥下訓練・食形態の検討・摂食介助方法の指導を実施した。

表13　NSTでの月毎の嚥下評価件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
NSTでの 嚥下評価件数	8	11	5	7	12	7	11	12	4	5	6	10	98

■経口摂取開始チャートの運用
言語聴覚士、管理栄養士、摂食・嚥下障害看護認定看護師、リハビリテーション科医師が協力し、経口摂取開始チャートの改定を実施した。
実際の経口摂取開始チャートを運用するために、栄養士･言語聴覚士のペアがチャート運用方法を各病棟で指導を行った。少なくとも16病棟各1回ずつ指導を実施した。
経口摂取開始チャートの正しい運用につなげる目的で、2019年度も嚥下学習用e-ラーニングを作成し、2019年12月末～2月初旬にかけて実施した。病棟看護師のe-ラーニング受講率100%であったが、医師の受講率は依然低いままのため工夫をしていく予定である。

３　研修･教育活動

1) リハビリ科内研修：
- ●2019/5/9：新人スタッフ向け勉強会　医療安全
- ●2019/5/16：臨床実習指導者研修会と新生涯システム（講師：藤田博暁）
- ●2019/8/29：急変時対応演習①（送迎待機中の患者急変対応）
- ●2019/10/8：脳卒中急性期のリハにおけるリスク管理（講師：加藤貴行）
- ●2020/3/18：　急変時対応演習②（個室急変時の移動対応-リフティング）

2) ADL介助法の研修：看護･ケアの技術向上に貢献するため、理学療法士が講師となり、新入看護職員研修を2019/4/10に実施した（板橋看護学校の十分広い部屋を借用)。

3) 板橋看護学校におけるリハビリテーション教育：リハビリテーション科医師・リハビリテーション病棟看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が、リハビリテーション講義担当

4) 院内研修講義2019年度看護研修レベルⅠ「摂食・嚥下」：田中春奈・西山千香子（講義）,大村有希・植村ほのか（実技指導）　センター3階会議室　2019/10/15

5) 緩和ケア病棟での研修会（症例検討会)：増田典子 2019/12/6

6) リハビリ科内での情報・技術伝達：外部研修を受けてきた職員は、スタッフ間で伝達講習を実施した。

7) カンファランス・勉強会

① リハビリテーション病棟カンファランス：毎週金曜日に、医師・看護師・リハビリテーション科スタッフ・薬剤師でリハビリ科入院症例の検討会を実施

② MCIカンファランス（月１-2回)：医師とリハビリテーション科各部門の代表メンバーが参加、MCI研究の進捗状況と問題点、症例検討など

③ 神経内科・脳外科・SCUとの脳卒中カンファランス（毎週金曜日)：リハビリテーション科医師・神経内科医師・脳外科医師・病棟看護師・PT・OT・ST・CP・MSWで、情報交換とリハビリを含めた方針の検討

④ 心臓外科・VADカンファランス（毎週金曜日)：心臓外科医・看護師（病棟やICU)・ME・PT等で症例検討

⑤ SCU朝のケースカンファランス：SCU看護師長、医師（脳外科・神経内科・リハビリテーション科)、PT、MSWが参加

⑥ 研修医のための朝カンファランス：平日朝8時より実施、リハビリテーション科医師（加藤貴行・救急部兼務）も協力してカンファランス運営を実施

４　その他

■一般向け講演会

リハビリテーション科主催で“健康長寿リハビリテーション講演会 脳の老化への挑戦”を、当センター３階会議室を使用し2019年度は1回のみの実施となった(3月に予定していた講演会は､COVID-19感染拡大のため中止)。

1) 第14回健康長寿リハビリテーション講演会 脳の老化への挑戦：2019年8月3日開催　①「これだけは知っておきたいクスリのはなし」 当センター薬剤科 瀧川美和　②「実践！心身レクササイズ」 余暇問題研究所 山﨑律子（リハビリテーション科非常勤）　③「軽度認知機能障害について」　リハビリテーション科 加藤貴行

- 参加者：139名と盛会であった。

■わくわくホームワーク(2016年度のTRで作製)の解答集作製

介護現場や一般高齢者が、わくわくホームワークを使用できるように、2019年度の病院研究として解答集作製をおこなった。

補足：手引書に関しては、研究所の費用を活用し

･使用の手引書：一般高齢者向け

･使用の手引書：指導者向け

を試作した。今後、更に検討の余地を残している。

放射線診断科

部長　德丸　阿耶

1　人員体制

〈部長〉德丸阿耶
〈専門部長〉下地啓五
〈医長〉亀山征史、高田晃一
〈医員〉飯島健
〈非常勤医〉15名

2　診療活動・実績

（１）検査件数

・RI総検査数：2101件（2018年度2,380件）

① 脳血流SPECT：909件
②DaTスキャン：336件
③MIBG心筋シンチ：256件
①～③は、アルツハイマー病、レビー小体病、パーキンソン病診断に有用で、国際診断基準にも採用されている。

・保険収載PET件数584件

①FDG腫瘍：524件
②その他：60件　アンモニアPET13件。
①は、早期の悪性腫瘍評価、転移評価に有用である。

・アミロイドPET：103件
・タウPET：27件

アミロイド、タウPETは、アルツハイマー病や嗜銀顆粒性認知症、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症等高齢者タウオパチーなどの病因に迫る検査法であり、高精度の認知症診断技術開発に直結する。アルツハイマー病治療薬開発治験にも欠かせないツールとなっており、PETセンター、認知症センター、関係各科との協力、カンファレンスを通じ臨床および研究、治験が施行されている。

・CT検査総数：18,705件
・MRI検査総数：7,668件

（２）放射線診断

・CT検査総数は18,705件。
・MR検査総数は、7,668件
・認知症関連MRIは1,358例。保険収載範囲で、認知症の背景を推定する技術開発が進み、その診断技術は国内外をリードする。

（３）地域連携

・MRI検査数は169件、CT検査数は149件
・オンライン予約：かかりつけ医（地域の主治医）の先生方が各種画像診断をインターネットで24時間いつでも予約できるシステム（地域医療連携システム）が稼働して4年目となり、28.7%がオンライン予約となった。特にCOVID19感染拡大がみられた2020年1月から連携検査数は大幅な縮小があったが、オンライン予約の割合は3月には75%と、非常時における有用性の一端を示し血得る可能性がある。電話でお待たせすることなく、土日・祝日を含む時間外にも検査内容の選択、患者情報などの入力だけで予約が可能なオンライン連携システムを無料で地域の医療機関に提供させていただいており、COVID19感染終息後においても、さらに非常時を含めたオンライン検査の有用性の検証を進める意義があると考える。

（４）画像診断報告書

・放射線診断専門医による画像診断報告書の重要性は日々高まっている。
・CT報告書作成率：98.7%、MRI報告書作成率は98%（報告書作成中を含めるとほぼ100%）で推移していたが、2019年12月より管理加算Iを回復し、CT、MRI、RIともに100%読影を実現している。
・2020年1月からCOVID19流行があり、国、東京都のテレワーク推進、オンライン会議推進を受け、診断科体制をチームに分け、テレワーク体制の試行を始めている。現時点では、回線や機器は最適とは言い難く業務量に限

定があるが、緊密なオンライン上での情報交換と併せ、非常時の態勢について試行を試みた。オンライン会議は、週1回+随時必要に応じ、滞りなく施行された。

３　研究教育活動

徳丸は、東邦大学佐倉医療センター放射線科客員教授、帝京大学医学部非常勤講師として大学院、および医学部生に対し神経放射線診断の基礎及び臨床応用、認知症診断最前線の講義を行い、また多施設共同研究において、認知症、進行性核上性麻痺、皮質基底核変性症など早期診断研究に供されるMR画像の中央診断に関与している。神経病理学会関東地方会神経画像コンサルタント、日本神経放射線学会評議員、NR懇話会世話人等。下地は生理学研究所と基礎生物学研究所を中核機関とする先端バイオイメージング支援プラットフォームに参画し、北海道大学、東北大学、国立精神・神経医療研究センター、名古屋大学、九州大学など全国各地の研究機関と脳画像解析に関連した共同研究や技術支援を行っている。高田は、帝京大学医学部生に骨軟部、乳癌領域の診断について講義を行っている。亀山は、脳循環代謝学会評議員、Fellow of Asian Nuculear Medicine Boardとなり、国内外での臨床および研究活動の幅を広げている。

常勤医師と後期研修医は火曜日に行われる神経内科、認知症カンファレンス、水曜日に行われる病理解剖スライドカンファレンス、木曜日に行われる臨床各科と病理診断科によるCPCカンファレンスへの参加を継続している。

４　その他

放射線診断科は、病院のスタンダードを守る砦であり、一同そのスタンダードレベルを上げることに腐心してきた。重点医療のがん診断における画像診断の意義は大きく、できるだけ遅滞なく検査を施行し、また翌診療日までに診断レポートを提出することに努めている。さらに、最新検査機器を育て、十全に機能させることにまい進したい。

画像検査の重要性が増すとともに検査依頼件数の増加は著しい一方、対応する機械・人員には限界があり、予約待ちの増加が課題となっており、常勤技師、放射線科専門看護師、常勤医師の増員が課題となる。高齢者救急病院として、救急における緊急検査に可及的すみやかな対応を重ねているが、十全な対応維持のためにも、医療スタッフの充実、高磁場MRの増設が課題となる。

重点医療の認知症診断において、当センターもの忘れ外来、関係各科、ブレインバンクのレベルの高さは言を俟たない。画像診断もまた、今日の認知症診断においては欠かせない重要診断ツールとなっている。早期の正確な診断は、その後の治療、介護、看護の適切な介入に直結するものであり、保険収載されている診断技術の洗練とともに、最新鋭の診断技術との連携を経て、最新の正確な診断技術を提供することが、本院放射線診断科の役割である。

日本医学放射線学会教育修練施設に認定され、初期研修医及び、後期研修医教育を行っている。

放射線治療科

部長　山川　通隆

1　人員体制

〈放射線治療科部長〉山川通隆

2　診療活動・実績

■診療実績　（　）内の数字は前年度実績

令和元年度も施設基準が満たされ、放射線治療料の10割保険請求を維持できている。
放射線治療専任加算（330点）、外来放射線治療加算（100点/日）、定位放射線治療（63,000点）の請求も維持できている。

年間のべ治療患者数は、高エネルギーＸ線：1,721人（1,738人）、3,846件（3,478件）、
高エネルギー電子線：113人（211人）、113件（211件）、放射線治療管理料：164例（146例）であった。

令和元年度の放射線治療症例数は121例（116例）と若干の増加であった。

	2016	2017	2018	2019
治療患者数	122	130	116	121
治療件数	131	131	130	145
80～89 歳			33 例	36 例
90 歳以上	11 例	10 例	14 例	8 例
緩和的照射件数		11 例 22 件	22 例 27 件	55 例 64 件
原発部位				
肺	49	28	27	34
乳腺	9	19	21	12
血液	25	18	23	10
消化管/器	16	11	15	26
頭頸部	5	6	9	9
泌尿器	3	13	8	12
皮膚	15	10	5	3
その他	0	25	8	15

■放射線治療患者数と原発巣

放射線治療症例の原発部位としては、肺癌および消化管/消化器癌が多かった。

治療目的としては緩和照射が最もおおく、緩和ケア内科よりの依頼をはじめとする緩和照射の症例数が近年増加している。これは、当院の基本理念である高齢者の心身の特性に応じた適切な医療の提供が考えられる。

肺癌の定位放射線治療（63,000点）は、令和元年度は2例（2例）であり合計65例となった。

3　研修・教育活動

松井技師は放射線治療専門放射線技師に認定されている。山川は日本放射線腫瘍学会および日本医学放射線学会の放射線治療専門医に共同認定されており、日本医学放射線学会研修指導者として認定されている。

城西放射線技術専門学校、東京電子専門学校・診療放射線学科、日本医療科学大学・診療放射線学科の学生に、放射線治療について教育実習を行っている。

4　その他

東京都がん診療連携協力病院に認定されており（平成28年４月１日～令和2年3月31日）、必要な放射線治療を提供している。

内視鏡科

部長　西村　誠

1　人員体制

〈部長〉西村誠（国外留学中）
〈専門医長〉松川美保

2　診療活動・実績

■外来診療の実績

延外来患者数　12,391人（前年比-2,925人）

令和元年度は実働１人であり、かつ西村部長不在のため、延外来患者数は減少傾向となった。しかしながら初診患者数は微増し、新規の患者さんの受け入れには成功している。

西村部長は顧問の立場となり、今後は診療に復帰する可能性はなくなった。円滑な診療なため医師事務や外来看護師との連携も十分図ったが、結果として大幅な減少となってしまった。今年度は外勤医師を増やし検査数、初診数の可能な限りの増加を図りたい。また、胆膵専門外来の造設を外科とも協力して行うことを検討している。

■入院診療の実績

延入院患者数 14,812人（前年比-3,926人）

年度末の移動や、病欠者等、欠員が重なることが多く、入院患者数も減少してしまった。今年度は8西病棟のみで消化器疾患を中心に病棟を埋めて、少人数ではあるが病棟の稼働率を上げていきたい。

■手術・検査実績

内視鏡的粘膜下層剥離術	76件
内視鏡的逆行性膵胆管造影検査	164件
超音波内視鏡下穿刺吸引法	38件

■救急疾患の診療

人員減にも関わらず、救急疾患に関して、可能な限り迅速に対応し、上下部内視鏡検査、ERCP、PTBD/PTGBD、消化管ステント等をおこなっている。

昨年度の夜間休日緊急内視鏡検査は計42件であり、主な疾患は、上下部消化管出血、胆管炎、軸捻転、異物除去であった。

3　研修・教育活動

カンファレンスは週1回月曜午後で、1時間半程度かけて、入院患者と外来や他科患者の相談症例、化学療法症例の検討を行った。

また、月1回第一月曜には、外科と消化器内科、病理診断科合同の症例検討会を行った。

EUS-FNA症例に関しては月1回金曜午後に病理診断科と消化器内科の合同カンファを行った。

研修医は、模型を使用し内視鏡検査の練習をおこなったり、エコーの積極的な施行をしたりと、消化器内科ならではの研修を行った。

今年度は外科と内視鏡科で、特に胆膵疾患の症例に関して、手術・抗癌剤症例を中心に、月1回勉強会の開催を検討している。

化学療法科

部長　宮本　鋼

1　人員体制

〈部長〉宮本鋼

〈医員〉橘盛昭

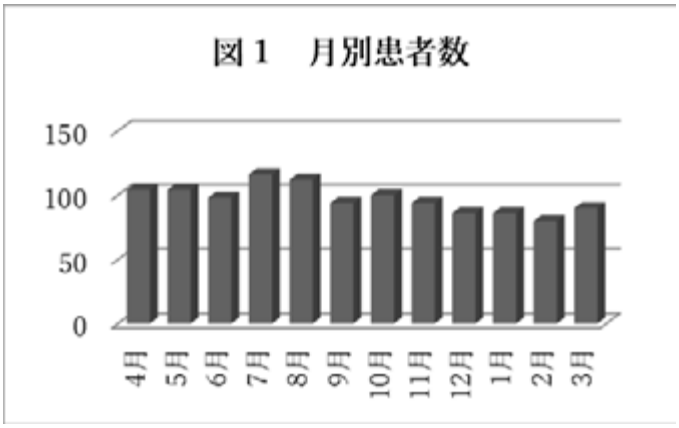
2　診療活動・実績

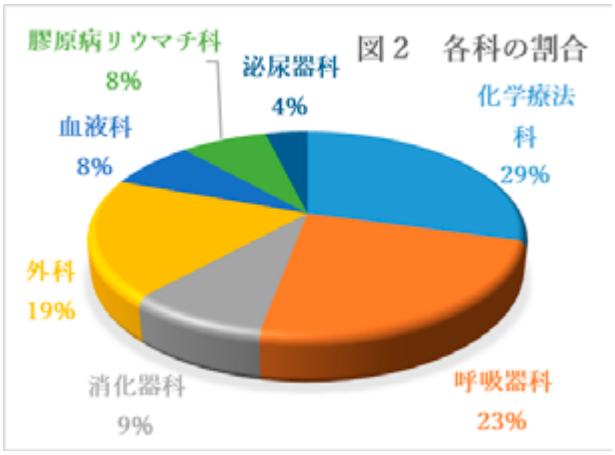
化学療法科は外来部門である外来化学療法室および 11 階西病棟を中心に運営されている。11 階西病棟に 10 床を擁し、血液悪性疾患を対象として入院加療を行っている。

外来化学療法室においては、7 床で運営し、呼吸器内科、膠原病・リウマチ科、血液内科、外科、消化器内科、泌尿器科による御協力を頂き運用した。関係各位に深く御礼申し上げる。運用の実績としては年間患者総数 1164 名であり昨年度より微増した（図 1）。内訳は下記の如くである（図2)。

化学療法科単独での外来については年間実績で延外来患者数 2389 人であり、前年に比し微減だった。年間実績で延初診患者数は 41 人であり、前年より微増したが、この数値は院外よりの紹介新患数のみである。当科の性質上、院内紹介による初診患者は多数受け入れているため、真の新規患者総数を推測するものとしての新規入院患者は 137 人であり昨年とほぼ同等の結果だった。

化学療法科単独での全体の入院加療については年間実績で延入院患者数 3083 人であり、前年より 16%の減少であり成長の停滞が見られたが、新規薬剤導入が一巡したためのであり、今後は別途新規薬剤の再導入のタイミングで再度増加が見られると考えている。





3　研修・教育活動

ベットサイドカンファレンスを血液内科と月曜正午より共同運営している。年の悪性リンパ腫、骨髄腫対象の薬物療法は長足の発展を遂げ、その開発スピードは目を見張るものがある。当科に於いても適時導入しているが、その適応の判断は時に困難な場合もあり、悪性リンパ腫、骨髄腫専門カンファレンスを木曜午後に運営している。別紙のごとく研修医の方は、学会発表を必須のものとして指導している。

4　その他

外来化学療法の存在意義は悪性疾患患者管理において非常に大きい。2020 年度では、前年度に引き続き増患の傾向が確認され、後ますます増大していくであろう。高額な抗腫瘍薬も次々に認可、使用開始されており、これからも安全かつ的確な化学療法の施行を第一に運用していく。

臨床検査科

部長　増田　義重

1　人員体制

〈部長〉増田義重
〈専門部長〉新井冨生（病理診断科部長兼務）
〈技師長〉　佐藤芳雄
〈副技師長〉桜山千恵子、太田和志
〈生理機能部門〉：清水優、高梨大輔、河野ますよ、前田哲平、釜井愛、藤田昭寿、江原美和、奥野恵子、小野秀子、小林敬翔、夏目采、倉部美奈、
非常勤：高荷香奈　吉村由香子　池田紗若子　谷口絵莉
〈検体検査部門〉岩澤大地、猪股聡史、真井沙織、矢部孝春、高橋秀明、但馬夕季、高山紗桜理、福田香織　今井伶佳
非常勤：高野麻衣　伊藤知子　奥山由美
〈細菌検査部門〉浅見諒子、野口穣、古川友子、矢作和規
非常勤：東條未希
〈採血室〉非常勤：奥野瑞穂、藤宮真奈美、倉持恵美子、櫻井英利子、田中真理子、金子由加里
看護師：高橋晴美　後藤マリ子
令和元年度は常勤2名退職　産休/育休3名　非常勤7名採用　1名退職
当直に関しては、輸血・細胞療法科所属の臨床検査技師4名と協力して行っている、

2　診療活動・実績

新技師長が4月に着任し、副技師長・主任を中心に生理機能部門・検体検査部門・細菌検査部門協力して、日常業務・作業マニュアル等の改定を行った。

検体検査部門は診療支援部門として、365日24時間体制の緊急検査の報告時間短縮、安全対策、検査精度の向上など業務改善を実施している。検体受付から報告までの工程管理を強化し、TATの短縮に貢献できるようにした。　検査件数は、横ばいか微増している。昨年度減少した血液像は50%増加し、その対応に当たっている。

生理機能部門においても定期的な内部勉強会を実施し、検査技術と知識的部分の向上を図っている。超音波検査については、心臓超音波、血管超音波件数が年々増加している。心臓超音波は7700件を超えている。

細菌検査部門では、微生物分類同定分析装置（質量分析器）、全自動細菌同定感受性検査装置、連結型マルチプレプレックス遺伝子解析装置（Filmarray Torchシステム）、抗酸菌PCR検査装置、分子疫学解析用遺伝子検査装置（キャピラリー電気泳動装置）を一括して導入した。血液培養陽性検体を中心に、病原菌同定および抗菌薬感受性検査の迅速化につながっている。

患者サービス向上では、患者様に不愉快な思いをさせない接遇を心がけている。生理検査部門と外来採血室においては待ち時間短縮と患者間違い防止に注力し、各職員の技術向上に努めている。また、混雑時の応援体制の強化と非常勤職員を採用し、待ち時間に対する患者クレームは対応した。

チーム医療として、生理検査部門はハートチームの一員としてカンファランスに参加し、TAVI術中エコーへの参画、VAD・ECMO症例では臨床側と積極的に連携して検査を行っている。脊椎手術の術中神経モニタリングを開始した。

細菌検査部門では新規導入装置を活用して検査を迅速化しICT/ASTに積極的に参画している。

薬剤科、栄養科とともにNSTにも参画している。

若手の女性の多い職場であり、産休/育休による人員の減少への対策を考慮していく必要がある。

3　研修・教育活動

臨床検査技師の分野においても専門性を求められる中で、ベテラン職員による若手技師への技術指導と知識の向上など人材育成にも力を注ぎ、各職員が認定資格取得を目指して研鑽している。定期的な検査科全体での勉強会の他、部門内でも勉強会を実施している。また、各学会や研修会に参加できるよう勤務調整の他、参加費等の援助も行っている。

技師2名が認定の資格を取得している。係長試験に1名、主任試験に2名合格した。

輸血・細胞療法科

部長　小林　寿美子

1　人員体制

〈医師〉小林寿美子（部長）、小倉和外
〈常勤〉谷田部元野、小菅隆雄、土田紗貴、阿部真愛、

当科のスタッフは、医師2名（2名とも認定医）、常勤臨床検査技師4名の計6名体制である。

2　診療活動・実績

主な業務内容は、1）輸血関連検査（血液型検査・不規則抗体検査・交差適合試験）、2）輸血用血液製剤の管理、3）移植細胞の管理、4）自己血貯血と管理である。令和元年度（平成31年4月～令和2年3月）の輸血実績は、赤血球製剤（自己血除く）3,186件（6,381単位）、濃厚血小板1,324件（13,860単位）、新鮮凍結血漿528件（1,898単位）で前年度とほぼ同様であった。平成30年度の自己血輸血の実績は、113例（313単位）で対前年比同等であった。自己血貯血の実施は週４回で年齢の上限を設けずに高齢者対応を行っている。

当科の最大の目標である安全な輸血療法の実施に向けて、1）適応に合致する輸血療法の実施、2）人為的ミスの排除、3）輸血療法による副作用への対策を柱として、現状の把握と改善策の具体化を常に心がけている。1）については輸血療法の適応について担当医との協議を行い、また当院での適正な輸血療法の指針を具体的に提案し、輸血・細胞療法委員会で審議の上、院内に周知している。安全な輸血医療の実践のための輸血・細胞療法委員会は、年6回実施している。2）については輸血用血液およびアルブミン製剤を輸血・細胞療法科が一元的管理を行い、製剤の品質管理を徹底している。ABO不適合の移植患者では、移植後使用する血液製剤が製剤種毎に血液型が異なるため、システム化し製剤毎の血液型不適合輸血を防止に努めている。また輸血委員会が中心となり平成30年度も廃棄率の徹底と準備使用率の低下は2年連続でほぼ100%に達成が維持されている。3）については輸血副作用の情報収集につとめ、事後処理が適切に行えるよう必要な情報を担当医に速やかに提供する体制を整えている。このような業務管理により、血液製剤の使用および管理の適正性が評価され、診療報酬の輸血管理料Ⅰ及び輸血適正使用加算を継続中ある。平成30年3月末には日本骨髄バンク認定採取施設（末梢血幹細胞採取、DLI採取、骨髄採取）を取得し以降、骨髄バンクカテゴリIを維持し、1年間で15件の採取を受け入れ前年より1例増加した。順調に骨髄バンク活動に貢献中である。

3　細胞採取プロセッショング

さらに細胞プロセッシング業務として、造血幹細胞移植での細胞採取に参画し細胞処理業務を行った。血液内科との連携のもと、骨髄移植は1例、末梢血幹細胞移植5例,本年度より新規業務として骨髄バンクドナー15症例（骨髄採取10例，末梢血幹細胞採取2例，ドナーリンパ球採取3例）を継続受け入れしており、細胞採取ならびに処理を実施しバンク関連業務の拡大に寄与している。また臍帯血移植保存管理は19例で対前年と同等であった。

4　研修・教育活動

1）研修医の研修では、当直時間帯における血液型検査、血液製剤の適正使用について教育を行った。年度初めには全員への啓蒙を実施した。
2）令和元年度も看護師を対象にした輸血勉強会を実施し、血液製剤の適正使用、取り扱い時の注意点などについて啓蒙した。
3）平成30年度に採用された臨床検査科職員を中心に輸血関連検査等の研修を実施し、当直時にも対応できる体制を整え新システムのコンピュータに対応可能な教育を随時行なっている。
4）東京都職員輸血分野別検討会で行われた都立病院・東京都医療公社施設全技師対象の輸血精度管理事業「輸血凝集サーベイ」に参加した。
5）臨技臨床検査精度管理調査に参加した。
6）自己血貯血・周術期ならびに瀬輸血に関するシンポジウムに対して技師研修目的で、教育セミナーに合計3回参加し最新情報の入手に努めた。
7）都内医療大学より実習生を4名受け入れ研修教育活動を実施した。
8）平成29年度に発足した院内輸血セミナーを実施し啓蒙活動を充実させ年二回で継続中。

病理診断科

部長　新井　冨生

1　人員体制

〈部長〉新井冨生
〈専門部長〉井下尚子
〈医員〉野中敬介
〈後期研修医〉柿﨑元恒、元田敦子、髙熊将一朗、小松明子、牛草健（10～12月）
〈非常勤医師〉熊坂利夫、坂本啓、倉田盛人
〈技師等〉鈴木明美、白幡浩人、江坂四季音、浜島裕理、今泉雅之、木曽有里、児島宏哉、木村勇里、緑川広紀
〈非常勤〉岸律子

2　診療活動・実績

■生検・手術、細胞診、術中迅速検体、免疫染色、電子顕微鏡検査

検査種類	H30	R１（H31）	対前年	対前年比
生検・手術検体	3,213	3,154	−59	98.2%
細胞診	1,680	1,723	+43	102.6%
術中迅速	82	100	+18	122.0%
免疫染色	699	966	+267	138.2%
電子顕微鏡	15	139	+124	926.7%
検査中迅速（細胞診）	15	20	+5	133.3%

生検・手術検体、細胞診はほぼ横ばいであったが、術中迅速、免疫染色、検査中迅速、電子顕微鏡検査の増加がみられた。

■病理解剖の実績

	H30	R1（H31）	対前年	対前年比
解剖数	47	63	+16	134.0%
院内剖検率	6.9%	10.2%	+3.3%	147.8%

解剖数・院内剖検率ともに昨年度より改善がみられた。

■慰霊祭

平成30年度病理解剖例を慰霊する目的で、令和元年10月10日に慰霊祭が板橋区立グリーンホールにて執り行なわれた。

3　研修・教育活動

（１）研修医・細胞検査士の教育体制

当センター病理診断科は日本専門医機構から基幹病院として承認されている。「東京都健康長寿医療センター病理研修プログラム」により平成31年4月から1名の後期研修医が研修を開始し、合計後期研修医3名が研修した。また、「国立がん研究センター病理研修プログラム」で研修中の専攻医1名が連携施設である当センターで3カ月間（10月～12月）病理解剖を中心に研修した。

（２）剖検のカンファレンス

オルガンコントロールを33回（第1474～1506回)、スライドカンファレンスを33回（第1696～1728回）実施した。

（３）臨床病理検討会（CPC）

CPCを11回（第830～840回）開催した。11回のCPCには、公開CPC 3回、豊島病院との合同CPC 1回が含まれる。

（４）Weekly review、細胞診と組織診の対比の会

病理診断に関わる知識・技能の向上を目的として、典型例・診断困難例・稀有例などを木曜日午後、病理医が全員集まって鏡検する検討会を31回開催した。また、細胞検査士が中心となり細胞診と組織診の対比の勉強会を14 回開催した。

（５）消化器CPC

主に消化器内科、内視鏡科、外科と合同で消化器疾患の生検・手術症例に関する検討会を7回（第39～45回）開催した。

（６）EUS-FNA検討会

超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）検討会を7回（第39～45回）開催した。

（７）その他のカンファレンス

高齢者の呼吸器疾患の診療の向上のために病理診断科、呼吸器内科、呼吸器外科共同で検討会を2回開催した。また、高齢者泌尿器疾患の診療の向上のため、病理診断科、泌尿器科共同で検討会を3回開催した。

薬剤科

科長　森　淑子

1　人員体制

常勤薬剤師34名、非常勤薬剤師4名（2.8名）、非常勤事務員6名（4.2名）により運営した。

2　診療活動・実績

（1）調剤

外来院内処方箋取扱枚数は3,848枚（前年度比3.8%減）、院外処方箋発行率は97.1%（同増減なし）入院処方箋は96,814枚（同21.9%減）であった。

注射セット出し107,403枚（同1.4%減）であった。内服定期処方の配薬セットは継続して行った。

（2）薬剤管理指導・病棟薬剤業務

全病棟に継続して薬剤師を配置して業務を展開し、年間約2,300万円の診療報酬を計上した。

薬剤管理指導料算定件数は、特に安全管理が必要な医薬品（ハイリスク薬）が使用されている患者（380点）が7,020件、それ以外の患者（325点）が6,449件の合計13,469件（前年度比5.3%減）であった。これらの減少については病床稼働率の低下が要因の一つと考えられる。また、地域包括ケア病棟を中心に行っているポリファーマシーについては継続して取り組みを行っている。

（3）医薬品安全管理

医薬品の安全管理対策として、令和元年度の疑義照会件数は2,107件であり、その中でも重要な事例については、日本病院薬剤師会へプレアボイドとして322件を報告した。

ハイリスク薬及び規制医薬品の適正使用の推進及び適正在庫管理を目的とした医薬品安全管理点検業務を毎月1回実施した。更にICU及び手術室には薬剤師が出向き麻薬、毒薬及び向精神薬などの重点規制医薬品の補充及び使用実績の確認業務を行っている。

（4）医薬品管理

令和元年度末での採用医薬品数は1,610品目と前年度より28品目増加した。年間出庫金額は薬価ベースで15億121万円（前年度比1.1%減）であった。品目数の増加は多規格の腹膜透析液の採用によるもので、金額の減少は後発品への切り替えによる影響と考えられる。

（5）医薬品情報（DI）

医薬品情報提供は、毎月の薬事委員会結果報告、院内副作用情報、隔月発行の薬局ジャーナル等、各部署へのお知らせにより行っている。

（6）無菌製剤（抗がん剤混合調製、TPN及び末梢点滴の混合調製）

抗がん剤の混合調製は、外来及び全病棟の全患者に休祭日を含めた全日を対象に行っている。全病棟を対象にしたTPN混合調製業務及び11階西病棟の末梢点滴の混合調整は平日を対象に行っている。

（7）外来がん患者指導業務

令和元年度も薬剤師による「がん患者指導管理料3」の算定を継続して行っている。

3　研修・教育活動

（1）長期実務実習受け入れ

令和元年度は実習生の受け入れは第1期3名、第2期4名、第3期2名の計9名を受け入れた。令和2年以降も継続して3期/年での学生受け入れ、教育活動にも更に力を入れる予定である。

（2）各種認定取得について

令和元年度末現在の主な認定取得状況は、NST専門療法士4名、日本糖尿病療養指導士3名、老年薬学会認定薬剤師2名、認定実務実習指導薬剤師8名、日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師2名、日本病院薬剤師会認定指導薬剤師4名、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師6名、日病薬病院薬学認定薬剤師10名、日本臨床薬理学会認定CRC1名、日本臨床試験学会認定GCPﾊﾟｽﾎﾟｰﾄ1名、がん薬物療法認定薬剤師3名、外来がん治療認定薬剤師2名、感染制御専門薬剤師1名、感染制御認定薬剤師2名、抗菌化学療法認定薬剤師2名、精神科薬物療法認定薬剤師1名、

骨粗鬆症マネージャー3名、公認スポーツファーマシスト1名、管理栄養士1名となっている。

４　その他

チーム医療への参画

栄養サポートチーム（NST）、感染制御チーム（ICT）、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）、緩和ケアチーム（PCT）
精神科リエゾンチーム（PLT）

栄養科

科長　羽根田　千恵

1　人員体制

〈科長〉羽根田千恵

令和元年度は、常勤8名、非常勤7名で運営した。

2　活動内容・実績

臨床栄養管理推進と患者サービスの向上を図ることを目的に、治療食の調整等食事療養業務、入院時の臨床栄養管理及び栄養食事指導に努めた。

（1）栄養食事指導

個別指導は、入院及び外来患者とその家族を対象に実施し、入院918件、外来3,090件の計4,008件で前年度に比較して74件増であった。対象疾患は、糖尿病が2,086件52%と最も多く、腎臓病、心臓・高血圧症の順であった。他の指導項目の中では、「がん」が162件、「胃腸病」が122件と前年度より増加した。上部消化管術後の患者に対し退院後のフォローを強化したこと、血液内科の患者に対し入院中及び退院後のフォローを行ったことなどが増加に結び付いていると考える。集団指導は、糖尿病食について行い加算165名、非加算16名が受講した。

（2）治療食の調整等入院時食事療養業務

1日当たり給食数は1,089食であり、内訳は、一般治療食526食（48%）、特別治療食563食（52%）であった。前年度と同様、特別食の割合が高かった。これに伴い、特別食加算の算定率も26.7%となった。特別治療食の内訳では、食塩エネルギー調整食が21.7%と最も多く、2番目が嚥下調整食13.9%だった。

嚥下調整食の食数はここ数年で安定しており、誤嚥の心配な患者には嚥下調整食の必要性があるという認識が定着した結果であろう。

また、きざみやブレンダーなどの再加工食は、総食数の28.5%を占め、患者の病状や嗜好等に配慮した禁止・個別対応食は、36.1%と前年度より増加した。

上記のような食数の変化は、以前より力を入れて取り組んでいる病棟活動による患者への適切な特別食への変更提案や、必要な患者へ個別対応の結果から増加していると考える。低栄養患者への早期介入を行い、個別の患者対応を行うことで、必要エネルギー量・たんぱく質量が充足された結果と考える。

（3）臨床栄養管理について

入院患者へ、医師、看護師と共に栄養状態等の評価を行い、栄養状態・食形態を個別に考慮した「栄養管理計画書」を作成し、栄養改善が必要な患者には、病棟担当の管理栄養士が医師や看護師と連携して栄養管理の提案を行った。また、禁食中の患者に対して摂食嚥下機能に即した経口摂取開始のためのプロトコールを作成し、啓蒙活動を前年度に引き続き行った。この結果、禁食率は15%と低割合を維持することができた。

NST回診総件数は336件であった。必要栄養量の評価、食事の内容や形態、経管栄養剤の調整がNSTの主な提案内容であり、エネルギー及びたんぱく質の充足率をアップさせ、治療に貢献できるように取り組みを行った。

3 研修・教育活動

（1）研修

高齢患者を中心とした臨床栄養管理が実践できることを目標に局研修・各種学会研修やその他の研修に参加した。

（2）各種認定取得

令和元年度末の主な認定取得状況は、日本糖尿病学会認定糖尿病療養指導士7人、日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士5人、日本病態栄養学会認定管理栄養士3人、日本病態栄養学会認定がん病態栄養専門管理栄養士3人、日本栄養士会　摂食えん下リハビリテーション栄養専門管理栄養士1人、災害支援チーム（JDA-DAT）1人となっており、今後も、専門・高度化する臨床栄養に対応する人材を養成し、治療に貢献していく。

（3）実習生の受け入れ

大学院生（臨床研究）の受け入れ、大学生の受け入れとして2大学3グループの研修を行った。

4　その他

当センターの患者は、平均年齢が78歳の急性期高齢者であり、原疾患による栄養調整はもとより、合併症や加齢による摂食嚥下問題を有する患者も多い。病棟担当管理栄養士が、カンファレンスの参加やラウンドを行うことにより患者の病態把握に努め、適切な時期に食事内容や形態の提案を行えるよう体制を強化している。

さらに元年度からは、患者や家族及び退院後の行先に入院中の食事内容の説明を文書化した様式50を作成し、退院後の栄養管理に繋がるよう取り組みを開始した。

また、がん化学療法室において治療中に個別栄養指導を行う取り組みを開始した。化学療法中の患者に伴いやすい、食事における愁訴への対応方法や、食欲不振時における捕食対応などを提案し、継続して取り組んでいきたい。

今後とも、多職種と連携し、管理栄養士が中核となって患者の栄養管理に取り組み、発展させて行きたい。

臨床工学科

部長　黒岩　厚二郎

1　人員体制

〈部長〉副院長　黒岩厚二郎
〈統括係長〉副技士長　高岡祐子
〈主任技術員〉石井正晃
〈次席〉本田博一
〈主任〉小澤直人・新谷剛・和田智至・村野井一樹
〈主事〉若杉卓矢・小川真悠子・菅原美希・柴村真希・玉田史織・佐藤優・益山春香・石田みのり・金澤佑樹
〈非常勤〉奥山麻衣子・吉田誠徳
4月に村野井一樹が主任昇任。金澤佑樹入職。3月に吉田誠徳が一身上の都合で退職。3月末の時点で、常勤16名（育休1名）、非常勤1名である。

2　診療活動・実績

1）新業務

【人工膵臓】

周術期における人工膵臓管理業務が4月から本格始動。主に心臓外科手術で使用した。（33名に対し計63日）

【エキシマレーザー・ダイヤモンドバック】

心臓カテーテルでのデバイス2機種への操作開始。（エキシマレーザー42件、ダイヤモンドバック19件）

2）当直体制

現在10名がローテーションで当直をおこなっている。夜間帯は特定集中治療室（ICU）での血液浄化・補助循環管理、病棟機器トラブル対応、緊急心臓カテーテル業務、EMコール対応をおこなっている。オンコール者を毎日１名配置し、緊急手術や特殊治療対応などの複数名必要とする業務も安全に務められるように配慮している。

3）透析センター

17床を月～土曜日の午前午後の2クール制で運営している。臨床工学技士4～6名を固定配置しているが、多忙時間には他部署スタッフが応援しないと治療が厳しい状況である。透析治療延べ数は5699名（入院2163名、外来3536名）であり、昨年度より280名程度増加。透析センター内の特殊血液浄化として、緩和ケアからの腹水濾過濃縮依頼が増えている（26名・29件）。その他血漿交換（2名・14日）や、ICUの血液浄化などの緊急依頼についても透析センターMEが回路交換や治療管理対応している。

4）末梢血幹細胞業務

透析センター内で血液内科依頼の末梢血幹細胞採取業務を臨床工学技士2名体制とし、安全で確実な細胞採取に努めている。（採取9名・11回）

5）手術室・ICU補助循環業務

手術室では心臓外科手術時は3名体制とし（89件）、手術日以外は自己血回収装置の操作（70件）、手術室内の機器トラブル対応可能者を1～2名日勤させているが常駐はおこなっていない。

ICUでのIABP、IMPELLA、PCPSなどの補助循環業務時に

は準備から維持管理まで医師・看護師と連携対応している。持続血液透析濾過や、エンドトキシン吸着などの血液浄化については　（31名・310日）施行。補助循環として、IMPELLA5名（26日）、IABP名（11件37日）PCPS11名（57日）対応した。

6）補助人工心臓管理

MEの人工心臓管理技術認定士6人が中心となり、植込型補助人工心臓患者（VAD）の適正管理に貢献している。

7）血管撮影室・ハイブリット室業務

1名体制で循環器内科依頼の心臓カテーテル業務（775件）、血管内超音波IVUS（229件）、光干渉断層法OCT（56件）の操作。肺静脈隔離術における呼吸器や麻酔深度測定装置への対応。血管外科からのIVUS操作依頼や、循環器からの新デバイス対応でME対応業務が増加している。緊急カテ（118件）についても時間問わず全例対応。

8）ペースメーカ管理・EP/アブレーション業務

2名体制でペースメーカ外来（910件）恒久的ペースメーカ植込（120件）、MRI・病棟立ち合い（200件）遠隔モニタリング管理（46名380件）については　4機種と増え毎月医師とチェックとカンファレンスを行い、医師業務負担軽減やメーカー立ち合い件数を減らせるよう努めている。

9）MEセンター業務

1～2名体制で、人工呼吸器管理業務や中央管理機器の貸出・返却・保守・点検、院内すべての修理一元管理を行っている。呼吸器については土日祝日含めて1日最低1回のラウンド、開始時のサポートやトラブル対応してい

る。医療機器の勉強会は少人数から対応することで、院内の安心・安全に貢献している。
　点検・修理業務は年々増加傾向であったが、今年度は院外修理が減ったが修理不能品が増加傾向にある。(院内969件・院外870件）適正な更新が必要な機器が今後も増えていくため、事務と連携し、業務に支障が起きないような修理・更新対応を行っていく。
１０）特殊業務
　消化器内科依頼のラジオ波焼灼術、和温療法、呼吸器装着患者転院時の搬送同行等、様々な依頼について対応できるような体制づくりを構築している。

３　今後の事業拡大について
　様々な科から毎年新業務依頼があるなかで、人員が増えないながら対応可能者を育成してきた。
　今後も、臨床工学技士が関与できる業務として、内視鏡業務への参入や、手術室への常駐者の配置、集中治療室に対する常駐者の配置を進めていけるように人員確保を目指しつつ、勉強会や資格取得させることで、医師・看護師への業務負担の軽減、適正な機器使用及び管理が促進されると考える。人員的な補充を進めつつ、長期計画を立てながら業務拡大をおこなっていく。

認知症支援推進センター

センター長　粟田　主一

1　設置目的

認知症支援推進センターは、東京都から委託を受け、都内全体の認知症ケアに携わる医療専門職等や、区市町村において指導的な役割を担う人材等を育成することにより、認知症対応力の向上を図ることを目的とし設置したものである。（平成27年4月1日設置、5年度目）

2　人員体制

〈医師〉粟田主一（センター長、研究所部長）
〈常勤〉畠山啓（精神保健福祉士・社会福祉士）
　　宮前史子（研究員）
　　岩本貴子（事務）
　　飯塚身佳（事務）
〈非常勤・その他〉事務等
※島しょ地域等認知症医療サポート事業及び島しょ地域の認知症対応力向上研修の実施については認知症疾患医療センターの職員等と連携して実施した。

3　活動内容・実績

（１）医療従事者の認知症対応力向上に向けた支援
① 認知症医療従事者向け支援検討会の開催
ア 認知症疾患医療ｾﾝﾀｰ職員研修内容検討会
認知症支援推進センターが実施する認知症疾患医療センターの相談員等の令和元年度の研修内容等の検討を行う会議を開催した。

開催日	委 員 構 成	出席者数
6月14日	認知症支援推進センター（1名） 認知症疾患医療センター（9名） 計10名	10名
3月13日	新型コロナウイルス感染症対策に伴い中止	

イ 看護師認知症対応力向上研修検討会
東京都における看護師認知症対応力向上のために実施した令和元年度の研修内容等の検証及び令和2年度に実施する研修内容等の検討を行う会議を開催した。

開催日	委 員 構 成	出席者数
2月18日	関係団体（1名） 認知症疾患医療センター（12名） 計13名	12名

ウ 認知症医療従事者向け支援検討会
認知症支援推進センター及び地域拠点型認知症疾患医療センターが実施した令和元年度の研修内容等の検証及び令和2年度に実施する研修内容等の検討を行う会議を開催した。

開催日	委 員 構 成	出席者数
3月6日	学識経験者（1名） 関係団体（1名） 行政関係者（4名） 認症疾患医療センター（3名） 計9名	9名

② 認知症サポート医フォローアップ研修
認知症サポート医のスキルアップ及び活動の促進を図るため、認知症の診断・治療及び地域連携等に関す

る内容の研修を実施した。

開催日	研　修　内　容	修了者数
9月7日	・東京都における認知症サポート医の役割について ・東京都の認知症施策について ・これからの認知症医療について	169名
11月30日	・糖尿病と認知症 ・認知症診療のなかでの医科歯科連携	156名
1月26日	・認知症疾患の鑑別診断 ・これからの成年後見制度と意思決定支援	186名
2月29日	新型コロナウイルス感染症対策に伴い令和2年度に延期	

③ 認知症疾患医療センター職員研修

認知症疾患医療センターの相談員及び臨床心理技術者等のスキルアップ並びに相互の情報交換、連携の促進を図るため、専門医療相談、検査技術及び地域連携等に関する内容の研修を実施した。

開催日	研　修　内　容	修了者数
8月23日 （基礎編）	・我が国における認知症疾患医療ｾﾝﾀｰの動向について ・認知症疾患医療ｾﾝﾀｰ相談員がおさえておきたい福祉制度や社会資源の基礎 ・グループワーク演習	26名
10月4日 （応用編）	・プロジェクトの創造と仕方と育て方 ・グループワーク演習	51名

④ 看護師認知症対応力向上研修Ⅱ

病院に勤務する指導的役割の看護職員として必要な個々の認知症の特徴や症状に対する実践的な対応等の取得に資する研修を実施した。

開催日	研　修　内　容	修了者数
7月6日	・認知症のチームケアと情報共有 ・認知症ケアに関する知識 ・認知症の退院調整と地域連携 ・演習 せん妄に関するアセスメントとケア 退院支援計画	175名
8月29日		174名
9月21日		168名
11月16日		153名

（２）区市町村における認知症支援体制の構築に向けた支援

① 認知症地域対応力向上研修

区市町村において認知症の人への支援に携わる専門職の支援技術等の向上を図るため、地域における認知症の人の個別支援等に関する内容の研修を実施した。

開催日	研　修　内　容	修了者数
9月27日	・暮らしの保健室-敷居の低い相談支援のありよう ・認知症の人の意思決定支援について ・事例発表（グループワーク含む）	177名
12月11日	・パーソン・センタード・ケアとバリュー・ベースド・アプローチ ・本人とともにつくる暮らしと社会 ・事例発表（グループワーク含む）	132名

② 認知症多職種協働講師養成研修

区市町村において地域の実情に応じ認知症多職種協働研修を実施することができるよう、講師として必要な知識、研修の企画等に関する内容の研修を実施した。

開催日	研　修　内　容	修了者数
7月12日	・認知症ケアにおける多職種協働研修の重要性 ・多職種協働研修の方法論に関する理論「統合ケア」と「チームアプローチ」 ・認知症多職種協働研修の企画運営 板橋区の取り組みについて ・グループワーク演習	78名

③ 島しょ地域等認知症医療サポート事業

島しょ地域等の医療従事者等に対し、認知症の診断及び治療等に係る相談支援を行うとともに、認知症初期集中支援チームのチーム員会議に参加し専門的見地からの助言等を行った。（対象：大島町、利島村、新島

村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村、檜原村）

実 施 内 容	実施地区
診断及び治療等に係る相談	小笠原村

④ 島しょ地域の認知症対応力向上研修

島しょ地域における認知症の人と家族を支える体制作りを進めるため、住民、介護･医療・行政専門職を対象に、各島の地域特性に応じた研修及び初期集中支援チーム員研修・テストを実施した。

訪問日	訪問先	研修内容及訪問者
10月1日～10月2日	八丈町	・認知症基礎講座 ・認知症とともに生きるために ・ＤＡＳＣ研修 ・せん妄ケア ・神経心理検査入門 ・高齢者の精神疾患について ・その他関係者ミーティング等（訪問者：医師外4名）
12月12日～12月13日	神津島村	・せん妄ケア ・その他関係者ミーティング等（訪問者：医師外3名）
2月12日～2月17日	小笠原村	・せん妄ケア ・認知症とともに生きるために ・集団療法の進め方 ・高齢者の精神疾患について ・認知症の予防と備え ・その他関係者ミーティング、初期集中支援チーム員テスト等 （訪問者：医師外3名）

（３）都内全体の医療専門職等の認知症対応力向上に向けた取組

① 研修テキストの作成及び配布

各地域拠点型認知症疾患医療センターが実施する研修テキストの作成及び配布を行った。

〈研修テキストの印刷〉

・かかりつけ医認知症対応力向上研修 1,500部
・看護師認知症対応力向上研修　2,000部
・認知症多職種協働研修 300部

② その他

都における医療従事者向けの認知症対応力向上研修の実施状況について、随時都に情報提供を行い、必要に応じて打合せの場を設けて議論等を行った。

認知症疾患医療センター

センター長　粟田　主一

1　設置目的

認知症疾患医療センターは、東京都から平成24年2月9日付で指定を受け、二次医療圏毎に1ヶ所設置される地域拠点型認知症疾患医療センターであり、区西北部（豊島区・北区・板橋区・練馬区）を主な活動圏域としている。平成29年4月1日付で指定の更新（4ヵ年）を行い、8年目を迎えたところである。

本事業は、保健医療・介護機関等と連携を図りながら、認知症疾患に関する鑑別診断とその初期対応、身体合併症と行動・心理症状への対応、専門医療相談等を実施するとともに、地域の保健医療・介護関係者への研修等を行うことにより、地域において認知症について進行予防から地域生活の維持などに必要となる医療を提供できる機能体制の構築を図ることを目的としている。

2　人員体制

〈医師〉粟田主一（センター長、研究所部長）
古田光（副センター長、精神科部長）
〈常勤〉畠山啓（認知症支援推進センター担当係長兼務/精神保健福祉士・社会福祉士）
齋藤久美子（認知症疾患医療センター主任専従/精神保健福祉士・社会福祉士）
白取絹恵（看護部師長/認知症看護認定看護師）
扇澤史子（精神科主任技術員/公認心理師）
岡本一枝（精神科主任/公認心理師）
今村陽子（精神科主任/公認心理師）
〈非常勤〉佐伯恵美（精神保健福祉士）（令和元年5月まで）
先崎安津子（社会福祉士）
岩元高子（社会福祉士）（令和元年7月から）
佐々木優子（事務）
三好幸子（事務）
〈派遣〉酒井由紀（事務）

認知症疾患医療センターに設置される認知症専門相談室では、精神保健福祉士（以下「PSW」）専従1名の他、PSW・社会福祉士等3名、認知症看護認定看護師1名、専任を含む公認心理師（以下「CPP」）3名、事務職2名で相談及び研修業務を行い、関係機関との連携や、連携協議会の運営等については、認知症支援推進センターの事務局と連携し対応している。もの忘れ外来の受診前相談とインテーク、近隣医療機関からの受診・入院相談も積極的に対応した。また、全入院患者に対し地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート（DASC）を実施した。派遣社員1名を採用して、配布・回収、集計を行った。

3　活動内容・実績

（1）専門外来

もの忘れ外来のページを参照のこと。

（2）専門医療相談

もの忘れ外来受診を希望する患者家族や未受診・他医療機関に通院する患者家族に対し、相談内容に応じて介護相談や心理相談、社会資源の情報提供等を行った。実績（いずれも件数・人数は述べ）については下記のとおりである。

相談総件数は、15,340件であった。そのうち、PSW・社会福祉士が受けた相談件数は、11,650件、その他の構成員（CPP等）が受けた相談件数は、3,549件、認知症ケア加算Ⅰに関連してチームが相談対応した件数は、141件であった。相談内容の内訳は、転院・入院に関する援助が2,982件と最も多く、続いて退院に関わる援助が2,163件、関係機関との連絡調整に関わる援助が2,132件と続いている。また、区高齢者主管課や地域包括支援センター等の地域の医療機関から緊急性が高いと判断された相談についても、救急当番医と連携し、適切な対応を行った。関係機関別の連携内訳は、医療機関（2,372件）、介護保険施設（867件）、区高齢者主管課等（344件）、ケアマネジャー（270件）の順になっている。年度後半には、新型コロナウイルス感染症関係で、専門外来のキャンセルが相次ぎ、受診・受療相談数も下降傾向であった。

（3）認知症疾患医療・介護連携協議会の開催

地域の認知症疾患に関する医療及び介護の連携体制強化のために認知症疾患医療・介護連携協議会を組織し

開催した。主に認知症疾患医療センターの実績報告、アウトリーチ事業及び各研修の説明と報告、国と都の動向の情報提供、各区医師会及び行政機関からの認知症対策の取り組みの報告など情報交換及びかかりつけ医認知症研修の内容検討など2 回開催した。

開催日	内容	主な参加者
6月19日	第1回区西北部認知症疾患医療・介護連携協議会（医療部会）	区医師会代表者及び 認知症疾患医療センター代表者等
2月21日	第2回区西北部認知症疾患医療・介護連携協議会	区医師会代表者 区高齢者主管課代表職員及び認知症疾患医療センター代表者等

（4）普及啓発

認知症疾患医療センターの周知活動や認知症に関する普及啓発を行った。関係機関及び地域住民に対して、事業の周知を目的に作成したリーフレットや都や近隣区が作成したパンフレット等を配布した。また、家族介護者（ケアラー）支援として、家族教室（心理教育）、家族会（相互交流、ピアカウンセリング）の提供を行った。

○家族教室及び認知症カフェの開催

家族教室として「病気の知識と治療編」と「ケア・サポート編」の2つの講座を開催した。もの忘れ外来や精神科等を受診し、認知症と診断された患者・患者家族が参加するもので、前者は精神科医師による講義、後者はコメディカルスタッフが、認知症に対するケアと利用できるサービスについて講義を行った。講座としては、4月から7月までに8回開催し、8月以降は、新規事業として立ち上げた認知症カフェ（認知症はじめて講座ぷらすカフェ）内の講座として開催した。講座参加者は224名、カフェのみの参加者は13名であった。2月と3月は、新型コロナウイルス感染症対策に伴い開催を見合わせた。

○当事者の会「私たちで話そう会」の開催

認知症あるいはMCIと診断された方が、認知症と共に生きる上で抱える生活上の困りごとや悩みを相談できるサポートグループとして、「私たちで話そう会」を開催した。予定管理や探し物、服薬管理等の生活障害や記憶障害に起因する不安や悩みをグループで共有し、心理職から具体的な助言などを行った。年10回開催し、参加者総数は、52人であった。2月と3月に予定していた回は、新型コロナウイルス感染症対策に伴い中止した。

○家族交流会の開催

もの忘れ外来・精神科・神経内科等を受診している患者家族を対象に、医師等の講義と交流会を開催した。参加者総数は、116人であった。

開催日	講義内容	担当
4月9日	BPSD（周辺症状）の薬物療法	古田医師
5月14日	介護経験者と語ろう	介護経験者
6月12日	活用しよう！薬剤師	谷古宇薬剤師
7月9日	知らなかった！口腔内のトラブル	平野歯科医師
8月13日	データで見る認知症介護	岡本CPP
9月10日	活用上手になろう！認知症介護で使える制度やサービス	齋藤PSW
10月8日	こころとからだのメンテナンス	今村CPP
11月12日	介護でこころが疲れないために、家族が知っておきたいいくつかのポイント	扇澤CPP
12月10日	脳卒中（脳梗塞、脳出血など）を予防しよう	仁科医師
1月14日	社会資源の活用法！Q&Aで教えます	齋藤PSW
2月18日	快適な排便のコツ・家族ができるスキンケア	白取看護師 野島看護師
3月については新型コロナウイルス感染症対策に伴い中止		

○院内勉強会の開催

専門的な知識・経験を有する医師・看護師等の育成を目指し、院内の研修会を開催した。参加総数は、441人であった。

開催日	講義内容	担当
4月8日	認知症やせん妄に配慮した薬物療法のポイント	谷古宇薬剤師
5月13日	認知症の基礎知識	古田医師
6月10日	DASC-21を使いこなす	古田医師
7月8日	認知症の人への退院支援	齋藤PSW

開催日	講義内容	担当
9月9日	せん妄～治療と予防～	古田医師
10月7日	DASC-21を使いこなす	古田医師
11月11日	認知症の人の食支援を考える	白取看護師 扇澤CPP
12月9日	認知症のエンドオブライフと家族支援	白取看護師 扇澤CPP 畠山PSW
1月20日	高齢者のうつ	古田医師
2月10日	認知症と排泄の関係	白取看護師 野島看護師
3月については新型コロナウイルス感染症対策に伴い中止		

○かかりつけ医認知症研修の開催

高齢者が日頃より受診する診療所等の主治医（かかりつけ医）に対し、適切な認知症診療の知識・技術や患者とその家族を支える知識と方法の習得と支援体制の構築を図るための研修会を、圏域4区医師会、地域連携型認知症疾患医療センター協力の元に開催した。

開催日	内容他	修了者数
10月5日	（講義） かかりつけ医の役割・診断治療・連携と制度 （演習） 症例のグループワーク	35名
11月7日		27名
1月18日		28名

○看護師認知症対応力向上研修Ⅰの開催

急性期医療に関わる一般病院の看護師が、入院から退院後の在宅生活まで視野に入れた認知症ケアについての知識を学ぶことで、認知症の人が病院で治療を受けること、退院後にもとの生活に戻ることができることを促進するために研修会を開催した。講師は、内容によって各職種が担当し、グループワークでは、認知症専門相談室のスタッフがファシリテーターとして参加した。

開催日	内容他	修了者数
7月19日	（講義・グループワーク） 認知症に関する知識、認知症ケアに関する知識、認知症の人を支える連携等について	70名
8月20日		18名
11月22日		70名
3月13日	新型コロナウイルス感染症対策に伴い中止	

○認知症初期集中支援チーム支援研修の企画

複数の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援などの初期の支援を包括的に行い、自立生活のサポートを行うために各区が設置している認知症初期集中支援チームの技術支援等の向上を目的に研修を企画した。新型コロナウイルス感染症対策に伴い中止とした。

開催日	内容他
2月25日	（講義・グループワーク） 男の看方と、その見方　介護におけるジェンダー問題を理解し支援に活かす 新型コロナウイルス感染症対策に伴い中止

○認知症多職種協働研修への協力

患者が状態に応じて適切な医療・介護・福祉の支援を受けることができるよう、認知症の人の支援に携わる専門職や行政関係者を対象として、認知症ケアに関わる多様な職種や支援者の視点を相互に理解し、認知症の人が必要な支援を役割分担し、かつ統合的に提供できるようにすることを学ぶために板橋区が主催した研修への協力を行った。

○認知症地域カンファランスの開催

平成24年度より、実際に今困っている事例を挙げて多職種で意見交換を行う認知症地域カンファランスを開催している。参加者は、アウトリーチ事業を運営する板橋区・豊島区の行政関係職員、地域包括支援センター職員、周辺の精神科病床を有する医療機関PSW等が中心であった。

開催日	内容他	参加者数
5月8日	認知症症状のある一人暮らしの高齢女性への支援について	29名
7月10日	若年性認知症患者と、軽度うつ病を患う介護者への支援方法の検討	28名
9月11日	家族からの支援依頼があるが本人に会うことができないケース	19名
11月13日	老々介護の高齢者夫婦への支援	26名
1月8日	若年性認知症の人への支援方法の検討	23名
3月については新型コロナウイルス感染症対策に伴い中止		

○講師等派遣

板橋区や東京都福祉保健財団、各区医師会等からの依頼により、研修会等へ講師派遣を行った。区西北部医療圏内の会議・研修会等への参加件数は、8件であった。

（5）認知症アウトリーチチーム事業

平成25年度よりモデル事業として開始し、平成27年度より認知症疾患医療センター事業に移行された。区市町村が配置する認知症支援コーディネーターと、認知症疾患医療センター等の医療機関に配置する認知症アウトリーチチームが協働して、認知症の疑いのある人を把握・訪問し、状態に応じて適切な医療・介護サービスに結びつける等の取り組みを行った。区西北部医療圏域内の認知症支援コーディネーターを配置する板橋区と豊島区が対象となっている。対象者5人、訪問回数5回であった。職種別にみると医師3回、PSW5回、CPP5回であった。

医療機関の知識や技術を地域で活かすことでよりよい支援に繋がり、受診困難者が早期に受診することができた。また、未受診患者の家族等に対して、具体的なアドバイスを行うことにより、介護負担が軽減したケースもあった。例年に引き続き、認知症専門相談室スタッフ間でケースカンファレンスを繰り返し行ったことで、どのスタッフでも訪問支援ができる体制を整えた。また、認知症初期集中支援チームのバックアップを目的に、板橋区内の初期集中支援チーム員会議に、スタッフが参加し、チーム員と共に対象者の支援方法等について協議した。初期集中支援チームの依頼で認知症アウトリーチチームの介入に繋がった事例もあり、2つの事業の連携がより深まる結果となった。

（6）精神科リエゾンチームの一員として

カンファレンスに参加し、各病棟をラウンドして病棟における認知症ケアの実施状況を把握するとともに患者家族及び病棟職員に対し助言等を行った。詳細は、精神科のページを参照のこと。

（7）入院患者の認知症日常生活自立度の把握

65歳以上の入院患者に対し問診票（DASC）を配布・回収を行った。12,470枚配布し、回収率86%（10,742枚回収）であった。その内、認知症日常生活自立度Ⅲ以上は2,012件、同Ⅱは839件であった。同Ⅲ以上の患者は、認知症ケア加算の対象候補として、精神科リエゾンチーム及び各病棟へ情報の提供を行った。多職種間でその情報を共有することで、個々の状態に合ったケアの提供に繋がった。

（8）その他

島しょ地域等認知症サポート事業及び島しょ地域の認知症対応力向上研修などの支援を認知症支援推進センターと連携して実施した。詳細は、認知症支援推進センターを参照のこと。

（認知症疾患医療センター係長　畠山啓）

高齢者バイオリソースセンター

部長　村山　繁雄

1　人員体制

〈部長〉村山繁雄（兼務　神経内科部長、研究所神経病理研究部長）
(医師)松原知康、種井善一、河上緒
〈臨床心理士〉小幡真希
〈臨床検査技師〉牛木志保（7月まで)、古賀裕（12月より）
　この他、非常勤研究員または兼務として約10名が活動している。バイオリソースセンターは、脳神経内科、研究所神経病理学テーマと密接に連携している。

2　診療活動・実績

　当センターにおける開頭剖検に加わり、研究所神経病理部門と協力し、半脳凍結を原則として死後脳リソースの蓄積を継続した。当施設神経病理診断は、国内外で高い評価を得ている。蓄積したバイオリソースは、高齢者ブレインバンクを通じて医学研究のために役立てられた。高齢者ブレインバンクでは、新学術コホート・生体試料支援プラットフォーム、(http://cohort.umin.jp/)、高齢者ブレインバンク（http://www.mci.gr.jp/brainbank/）の2つのホームページより、リソースを希望する研究者からの申請計画を受付ている。申請計画は、各施設における倫理審査承認を前提とし、外部学術委員による守秘義務下の学術審査承認後、健康長寿倫理委員会迅速審査承認を経るプロセスを踏む。利用希望者の要望に最適なリソース提供を目的に、Skypeを用いたネットカンファレンスを行う。令和元年度のバイオリソース共同研究数（高齢者ブレインバンクを含む）は44件であり、2019年度にはNature関連2件を含む、原著英文論文22件に貢献できた。
　欧米のブレインバンクは脳だけの蓄積であるのに対し、本邦では全身剖検を前提とするため、末梢臓器の部分凍結も貴重な試料となる。今年度も継続的に蒐集を行った。髄液、血清についても蓄積を継続し、認知症に関連するサロゲートバイオマーカー検査結果と紐付けしてデータベース化することで、バイオバンク構築を継続した。
　高齢者ブレインバンク生前献脳事前登録のため、治験と同様責任者が説明を行い、常勤臨床心理士がコーディネーターとして、同意取得を行った。高齢者ブレインバンク生前同意事前登録者は2019年12月時点で累積172名、死亡後剖検し、高齢者ブレインバンクに本登録者の累計は60名となった。
　ブレインバンク事業を全国規模に拡大するため、高齢者ブレインバンクを中核とする日本ブレインバンクネットワークの構築を進めており、国立大学、国立病院機構の協力を得ている。生前献脳同意登録者の死亡時、ブレインバンク本登録支援に、日本の各地に拠点を形成するために出張支援を行うことで、オールジャパン体制の確立に貢献出来た。

3　研修・教育活動

　脳神経内科、研究所神経病理部門と共同で、毎週剖検例についてブレインカッティング、および臨床病理検討会（CPC）をWebで配信し、若手医師の脳神経内科診療レベルの向上と、神経病理学的診断のトレーニングを行っている。また、連携大学院生および研究生を多数受け入れ、教育的指導を行っている。
　国内学会として、日本神経学会総会・関東地方会、日本神経病理学会総会・全国地方会、日本認知症学会、運動障害学会、自律神経学会、神経感染症学会、日本神経科学会、TOBIRA等において、NPO、POを含む研究者に対する教育・広報活動を行い、リソースを用いた研究発表を支援した。国際学会としては、国際アルツハイマー会議、国際パーキンソン病学会、米国神経病理学会、北米神経科学会等で、高齢者ブレインバンクの活動報告を行っている。

4　その他

　本邦唯一のブレインバンクとして、国際的知名度を高める努力に加え、今後さらに精進していく予定である。

高齢者健康増進センター

部長　原田　和昌

1　人員体制

〈部長〉原田和昌副院長
〈副部長〉大渕修一（研究所）
〈医員〉杉江正光
〈非常勤〉高橋哲也（順天堂大学保健医療学部理学療法学科教授）奈良毬那（一般社団法人日本健康寿命延伸協会）

2　診療活動・実績

高齢者健康増進センターは平成23、24年度、「経済産業省　医療介護周辺サービス産業創出調査事業」への参画を通して、地域在住高齢者を対象に健康増進の取り組みを実施し、平成25年の日本再興戦略：戦略市場創造プラン『国民の「健康寿命」の延伸』の施策に合致した健康寿命の延伸事業を行っている。施策に基づき健康寿命延伸産業の「創出と育成」を実施し、健康寿命延伸効果の可視化法の特許申請も行ってきた。現在の実施モデルはフレイル高齢者を対象に「有酸素及びレジスタンス運動」「遠赤外線低温サウナ」「高齢者健康寿命総合評価（特許第6281690号）」を実施。「有酸素及びレジスタンス運動」「遠赤外線低温サウナ」共に健康寿命延伸効果が認められ、また社会保障費抑制効果も認められ、学会報告やメディアでの掲載も行われた。本事業のニーズは非常に高く、新規参加を希望される高齢者が続出しており、2018年度における新規参加者受け入れを中止した経緯がある。この為、高齢者健康増進センター受託事業者であり協力研究員所属機関である一般社団法人　日本健康寿命延伸協会と連携し、地域高齢者の健康寿命延伸を目的とした地域包括ケアに資する社会モデルの構築を目指し活動している。

現在、高齢者健康増進センターモデルは、群馬県富岡市の医療機関、神奈川県小田原市の事業者が導入、加えて2018年より群馬県南牧村や2019年より千代田区が導入している。

本事業は、内閣官房健康医療戦略室や厚労省、経産省、また神奈川県庁、広島県呉市を始めとする自治体や、また神奈川県横浜市、横須賀市、熊本市、釧路市などの医療機関、更にはロシア、シンガポール、マレーシア、中国、韓国、タイ、インドネシアからの視察も受け入れている。

高齢者の運動の可否及び適正運動負荷量自動算出が可能なシステム開発を行っている（2020年特願）。

また、アジア健康長寿イノベーション賞において高齢者健康増進センターと一般社団法人　日本健康寿命延伸協会との取り組みが優秀事例となった。

3　研修・教育活動

高齢者健康増進センターは毎週月・火・木に運営を行っており、民間事業者と委託型運営における「安全性・効率化・マニュアルの最適化」、また健康増進センタープログラムに関する「介入効果・研究・解析・新規開発共同研究」に関した勉強会及びカンファレンスを実施している。また、健康増進センター利用者を対象としたBLS実習を、民間事業者スタッフも含めて、循環器内科村田医師より指導を実施して頂いた。

更には高齢者健康増進センターでは患者主催による「健康増進する友の会」が、フレイル予防に向けた活動だけでなく、食事会、旅行などを通した社会的フレイル対策の一端を担う活動も実施されている。

4　その他

2019年1月より利用者の修了制度を履行したことから、現在比較的円滑に待機される高齢者の受け入れが可能となった。

5　今後の展望

1. 高齢者健康増進センターでは、今後病院－研究所をつなぐトランスレーショナルな研究を実施するフィールドを目指したい。
2. 現在、IT企業や製薬会社、セキュリティー会社などと連携の上、高齢者の健康増進に資するIoT、AI環境の構築を目指し協議を重ねており、今後高齢者の健康を支えるIoT、AI領域の研究開発の実施を目指したい。
2. 本モデルは高齢社会を支えるモデルとして注目されており、フレイル対策及び地域包括ケアモデルの一端を担えるものと思われる。医療・介護周辺サービス産業の創出（経産省）と健康寿命延伸産業の創出（日本再興戦略）といった指針が施策として掲げられるなか、実際にこれらと連携して、地域住民の健康寿命の延伸を支える地域体制は見当たらない。様々な企業や団体と連携の上、地域包括ケアモデルの一端を担うモデルの構築を実施し、その普及活動を行っていきたい。

（文責：杉江　正光）

がん相談支援センター

センター長　黒岩　厚二郎

１　人員体制

東京都がん診療連携協力病院として平成28年度4月1日よりがん相談支援センターを開設。令和元年度は副院長 黒岩(がん相談支援センター長)、看護部長 太田(同副センター長)、MSW 川口(専従相談員)、MSW 秋元(専任相談員)、年度途中からMSW 中馬（専任相談員）の5名を配置。また、サポーターとして看護師 飯野(がん性疼痛認定看護師)へ運営協力を仰ぎ、その他薬剤科、臨床心理士や歯科衛生士等と連携し相談支援の充実を図った。

２　診療活動・実績

がん相談支援センターは、患者・家族のほか、地域住民を対象に、がんに関する治療や療養生活全般、地域の医療機関などについての相談支援、がんに関する情報提供･啓発を行うことを目的としている。

令和元年度相談件数は807件。相談内容は、緩和ケア相談・転院相談・治療に関する相談が上位を占めている。

広報活動は、院内外来エリア・病棟にポスターを掲示。呼吸器内科外来診察室にはリーフレットを設置した。地域住民に向けて、ホームページ掲載、院内渋沢サロンにがん情報コーナーを設置した。

がん患者への情報提供や交流の場として、患者サロン「おれんじの会」を年度内に3回開催。年度計画では4回開催予定だったが新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和元年2月開催分を中止した。内容はミニ勉強会と茶話会の2部構成とし、勉強会の講師を薬剤師、臨床心理士、感染管理看護師が務めた。

３　研修・教育活動

専従・専任相談員、サポーターの認定看護師等とともに定期的にミーティングを実施し、相談内容の確認やケース相談を行った。

看護師 飯野、MSW 奥村が国立がん相談員基礎研修(3)を修了した。基礎研修(1)(2)はMSW 清水、竹原が修了した。

４　課題

令和元年度は前年度から引き続き①院内外来診療との連携、②「おれんじの会」の充実について中心的に取り組んだ。①に関しては、がん相談支援センターの役割、機能についてさらなる周知が必要である。医師・外来看護師との連携、がん相談支援センタースタッフ間で密な情報共有が行える体制の構築が課題である。診断時から継続した相談支援が行える体制を目指していく。②は次年度内において4回の開催を予定。アンケート結果に基づき、患者の生活に根ざした講義内容の工夫、患者同士が語り合える機会の充実を図る。

今後も院内、院外問わずがん患者･家族が必要とする支援を提供し、患者・家族に寄り添えるがん相談支援センターを目指していく。

（文責：MSW 中馬　かつら）

看護部

部長　太田　日出

1　人員体制

〈部長〉太田日出
〈副看護部長〉荒木芳枝、服部俊夫、富田千里、加納江利子

令和元年度は、看護師定数473名。採用者数は、新人看護師54名、経験者看護師25名であった。東京都職員の派遣解消は4名であった。

2　診療活動・実績

（1）看護部の目標への取り組み

看護部では、①安全で信頼できる質の高い高齢者看護を提供する。②部署の課題を的確に把握し、柔軟な発想のもと解決策を実践できる組織を作る。③目標を持った取組と、自ら学ぶ職員を育成する。④病院経営に参画する。の4つの目標の基、委員会、主任研修等で取り組んだ。

（2）看護師定着のための取り組み

新人看護師、及び経験者採用看護師の定着に向け、院内研修の充実を図った。また、学校内と、企業の就職説明会に参加し、人材確保に努めた。

3　研修・教育活動

（1）看護実習の受け入れ

都立看護専門学校1校、看護大学5校の老年看護学等の実習を受け入れた。また、認定看護師教育課程実習2名(認知症看護・慢性心不全看護)や専門看護師教育課程2名(急性・重症患者)、実習指導者研修実習2名を受け入れた。

（2） 各種認定の取得

認知症看護認定看護師、皮膚･排泄ケア認定看護師の資格を各1名が取得した。学会認定ストーマサイトマーキングを受講しストーマ認定士を1名が取得した。さらに認定看護師教育課程がん化学療法分野と、老人看護専門看護師教育課程の派遣研修を各1名が修了した。新たに糖尿病看護認定看護師教育課程（特定行為研修を含むB課程）2名と、認定看護師対象特定行為研修2名が合格した。

（3）学会発表

日本看護学会や老年看護学会等にて、看護研究や委員会活動のまとめを18件発表した。

＜委員会活動＞

1　教育委員会

活動内容：キャリアラダーに基づき、院内研修を企画・運営し、看護部運営会議で研修サマリーを報告し、研修の成果の活用を図った。また、経験者採用職員の定着に向けて「フォローアップ研修」を実施した。

（1）新人看護職員臨床研修

臨床研修時から部署指導者を演習援助者として活用し、院全体で新人を育成する体制を整備した。

（2）院内研修

認定・専門看護師や高齢者看護エキスパート研修1期生・外部講師を活用し、育成の推進を図った。

＊令和元年度看護部院内研修一覧参照

成果：キャリアラダーレベルⅠ50名、レベルⅡ36名、レベルⅢ34名が修了した。またJNAラダーに則り改定した「看護の核となる実践能力」評価ツールにてレベルⅣ1名を認定した。

2　看護記録委員会

活動内容：看護記録質監査、看護記録記載基準の更新、重症度、医療・看護必要度研修の実施に取り組んだ。

（1）看護記録質監査数144例、看護計画の変更及び経過記録の評価が低かった。次年度は項目の検討が必要。

（2）看護記録記載基準の更新を実施した。急変時の看護記録の学習会2回開催（63名）

（3）重症度、医療・看護必要度の研修は対象者287名中207名実施し、研修修了者を除く対象職員の72.1％終了。監査表作成し、監査を42名実施した。課題は監査方法の統一。

3　実習指導者委員会

活動内容：実習環境の向上に向け、これまで部署で直接回収していたアンケートを「専用ボックス」を設置し回収方法変更、さらに委員会内で「病棟別アンケート集計結果」及び新たに作成した「実習指導状況報告表」を用

い情報共有と対策の検討を行った。実習満足度(十分できた、できたの割合)は　96.7%だった。

４　看護サービス向上委員会

活動内容：看護サービス向上を目的に取り組んだ。

（１）接遇自己･他者点検の実施

接遇自己・他者点検を2回（6月、11月）実施した。改善策を立案し2回目の点検を実施。前後の結果から課題を明確にした。

（２）身だしなみ点検の実施

身だしなみアンケートを7月に実施。結果を検討し、髪色、髭、靴下の色等についてのマニュアル内容を見直した。

（３）板橋区民祭りイベント参加

10月に実施されたイベントに参加した。健康相談・AED展示および操作練習コーナー・子供の白衣試着と記念撮影などを実施し来場者356名であった。

５　システム・クリニカルパス委員会

活動内容：クリニカルパス運用、バリアンス分析、新電子カルテ導入後のクリニカルパス未移行の完成、システム改善要望のとりまとめとマスター作成、運用規定、操作マニュアルの作成を行った。

成果：

（１）クリニカルパス運用マニュアル改定、バリアンス分析年間有効率96.3%、月別実績年間間適応率42.8%であった。

（２）移行したクリニカルパスは整形外科・血管外科など22件実施した。

（３）システム運用要望に伴い改善し、周知するためのニューズレターを3回発行した。

６　看護部感染対策委員会

活動内容：衛生的な環境の提供、交差感染防止対策の強化、医療関連感染の低減、職業感染防止対策への取り組みを継続・強化した。

（１）安全な看護の提供

　アウトブレイク0件を目標に、手指衛生と環境衛生に取り組んだ。耐性菌の検出を1病棟で認めたため、病棟内全エリアの一斉清掃や手指衛生の徹底を図り、医師および看護師の手指衛生90%以上遵守を達成し継続した検出を認めなかった。

（２）手指衛生の徹底

　正しいタイミングで手指衛生実施状況を看護部全体で他者チェックによる評価を行った。全体の遵守率は74.3%であった。

（３）新型コロナウイルス感染症の知見向上

　日本環境感染学会に委員8名参加し、新型コロナウイルス感染症に関する情報や他施設での取り組みを聴講し新たな知見の習得や自施設の感染対策強化を図った。

７　リスクマネジメント看護分科会

活動内容：安全な看護の提供を目指し下記の3点について取り組みを行った。

（１）正しい患者確認照合行動の習得

　現場で指差し呼称を正しく行えているか全看護師のチェックを実施した（内服と点滴）薬剤患者誤認件数は平成30年度で14件だったが、令和元年度は6件に減少した。

（２）2回目以上の転倒件数の減少

　転倒転落した患者のベッドサイドカンファレンスを導入した。

（３）急変時対応能力の向上

　EMコール参集部署の見直しと急変時対応DVDの作成をした。DVDは全看護師が閲覧し、発見者・応援者の各々の役割で急変対応訓練を全看護師が実施した。

８　褥瘡・栄養サポート委員会

活動内容：褥瘡対策および栄養サポートに関する知識・技術の向上、褥瘡・スキン-テアの発生予防、栄養状態の維持改善を目標に取り組んだ。

（１）褥瘡発生防止対策

褥瘡に関するデータ集計と分析、褥瘡対策チームラウンドおよびカンファレンスを毎週実施した。院内褥瘡発生率1.2%（全国平均値1.2%)、医療機器関連圧迫創傷（医原性）は、0.3%（全国平均値0.24～0.26%）の成果

を挙げた。
（２）禁食患者に対する経口摂取開始への取組み
誤嚥性肺炎患者に対し、オーラルヘルスアセスメントツール(OHAT)を用いたケアの統一と経口摂取開始チャートを用いた実践による経口摂取移行に取り組み、経口摂取移行率46.5%の成果を挙げた。

９　退院支援チーム
活動内容：リンクナースへの教育体制の構築、退院支援内容の強化に取り組んだ。主な内容は以下の４点で退院支援実践能力の向上につなげた。
（１）訪問看護ステーション派遣研修
（２）地域連携セミナー開催
（３）事例検討の実施
（４）ラダー評価の活用

10　認定看護師・専門看護師連絡会
活動内容：連絡会主催の勉強会、地域医療機関との連携強化のための「たんぽぽ会」を実施した。
（１）連絡会主催勉強会
　専門看護師2分野2名、認定看護師12分野16名の看護師で「急性期病院におけるせん妄ケア」をテーマに1回開催し、院内84名連携病院からは10名の参加があった。
（２）「たんぽぽ会」開催
　地域連携の強化と看護の質向上目的として今年度は「ＡＣＰ」をテーマにたんぽぽ会を２回開催した。合計50名の参加があった。

11　認知症ケア委員会
活動内容： 認知機能障害についてのアセスメント能力の向上とケアの質向上を図る。
（１）委員の研修、リエゾンチームラウンド参加
　リンクナースが中心となり勉強会や事例検討を実施した結果、身体抑制の実施数の減少、早期離床の取り組みの強化につながった。
　リンクナース全員がリエゾンチームラウンドに参加した。また、委員の東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅰ・Ⅱ受講を促進し全員が受講した。
（２）せん妄アセスメントシートの活用
　せん妄アセスメントシートを作成し、全病棟で活用した。活用率103.9%であり成果をあげた。（パス入院患者が除外としていたが、各病棟で必要と判断し活用していたため、100%以上となった。）

1　令和元年度　看護部院内研修

資料1

コース名		対象者		研修名	時間	講師	会場等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ベーシックコース	レベルⅠ	2019年4月採用者	新人看護職員臨床研修	看護部概要Ⅰ、Ⅱ	2H	看護部	3階AB	2（火）											
				看護倫理　Ⅰ	1H	看護部	3階AB	2（火）											
				臨床研修ガイダンス、災害時対応	2H	看護部	3階AB	3（水）											
				医療安全Ⅰ(安全・感染)	6H	専従	3階AB	4（木）											
				医療安全Ⅰ(輸液管理・ME機器含)	7.5H	専従 院内講師	3階AB	8（月）											
				高齢者看護Ⅰ（観論、摂食・嚥下）	7.5H	院内講師	3階AB	9（火）											
				高齢者看護Ⅰ （皮膚・排泄ケア、トランスファー）	6H	院内講師	3階AB	10（水）											
				ビジネスマナー研修	7.5H	外部講師	3階AB	11（木）											
				臨床研修Ⅰまとめ・配属発表	4H	院内講師	3階AB	12（金）											
				看護記録Ⅰ、看護必要度	4H	院内講師	3階AB	18（木）2部制											
				フィジカルアセスメントスキルチェック	3.5H	院内講師	トレーニング ルーム	18（木）19（金） 4部制											
				医療安全（採血演習）	3.5H	院内講師	3階AB	19（金）2部制											
				サポートカンファレンス	1H	院内講師	3階AB トレーニングルーム	25（木）	17（金）							6(金) PM			
				臨床研修総合	7.5H	院内講師	3階AB		7（火）										
				救急蘇生法（関連ME機器含む）	2H	院内講師	3階AB		17（金）2部制										
				電子カルテ操作訓練	4H	外部講師	カンファレンス室	18（木）19（金）											
			メンタルヘルス		3H	外部講師	3階AB			28日（金）									
			事例検討Ⅰ		0.5H, 4H	院内講師	3階AB						6（金）PM				10（金）発表 14（月）発表		
			高齢者看護Ⅰ（摂食・嚥下）		4H	認定看護師	3階AB							15（火）2部制					
			高齢者看護Ⅰ（認知機能障害）		4H	院内講師	3階AB									6（金）AM			
			高齢者看護Ⅰ（フィジカルアセスメント）		4H	院内講師	3階AB								29(金) 2部制				
			看護倫理Ⅰ		3H	院内講師	3階AB									6（金）PM			
			医療安全Ⅰ（安全管理）		3H	セーフティマネジャー	3階AB						30（月）PM						
			高齢者看護Ⅰ（退院調整）		1H	院内講師	3階AB						30（月）PM						
			高齢者看護Ⅰ（コミュニケーション）		1.5H	院内講師	3階AB						6（金）AM						
			看護記録Ⅰ		6H	院内講師	3階AB						6（金）						
			リーダーシップⅠ メンバーシップ　多重課題・優先順位		4H	院内講師	板橋看護学校 模擬病棟				5（金）2部制								
			静脈注射		4H	院内講師	3階AB										31（金）AM		
					111														
	レベルⅡ	レベルⅠ 修了者	事例検討Ⅱ		2H, 4H	院内講師	3階AB		27(月) AM							20（金）発表 23（月）発表			
			高齢者看護　Ⅱ（退院調整）		6H	院内講師	3階AB		27(月)										
			高齢者看護　Ⅱ（認知機能障害）		3.5H	認定看護師	3階AB							10（木）PM					
			高齢者看護　Ⅱ(皮膚・排泄ケア)		4H	認定看護師	3階AB						3（火）AM						
			高齢者看護　Ⅱ（コミュニケーション）		2H	臨床心理士	3階AB								26（水）PM				
			看護倫理　Ⅱ		4H	院内講師	3階AB								26(水) AM				
			医療安全Ⅱ（安全管理）		3H	セーフティマネジャー	3階AB			10（月）PM 24(月) PM									
			医療安全Ⅱ（感染管理）		4H	認定看護師	3階AB			10（月）AM 24(月) AM									
			看護記録　Ⅱ		7.5H	院内講師	3階AB				30(火)								
			リーダーシップⅡ		3H	院内講師	3階AB												12日（木）PM
					43														
	レベルⅢ	レベルⅡ 修了者	事例研究		6H, 6H	院内講師	3階AB		31（金）									17(月) 発表	
			高齢者看護 Ⅲ(事例検討)		3H	認定看護師	3階AB								25(月) PM				
			高齢者看護 Ⅲ(エンド・オブ・ライフケア)		4H	認定看護師	3階AB				12（金）AM								
			医療安全管理Ⅲ（安全管理）		4H	セーフティマネジャー	3階AB				12（金）PM								
			医療安全Ⅲ（感染管理）		2H	認定看護師	3階AB						12（木）PM						
			重症度、医療・看護必要度		7.5H	院内講師	3階AB			18（火）									
			リーダーシップⅢ		2H	院内講師	3階AB										9（木）PM		
			キャリア開発		1.5H	院内講師	3階AB		31（金）PM										
					36														
ジェネラルコース	レベルⅣ	レベルⅢ 修了者	高齢者看護Ⅳ（フィジカルアセスメント）		4H	院内講師	3階AB				26（金）AM								
			高齢者看護Ⅳ（スキルアップ研修）		3H×2	院内講師	3階A等								27（木）PM	9(月) PM			
			看護記録Ⅳ　看護記録指導者研修		7.5H, 4H	外部講師	3階A						19(木)		19（火）PM				
			リーダーシップⅣ		7.5H, 3H	外部講師	3階A			4(火)				30（水）PM					
			高地指導者		6H, 4H, 2H	外部講師 院内講師	3階A			25（火）								10（月）2部制 次年度指導者	6(金) PM
			教育担当者		2H	院内講師	3階A											6(木) PM	
			看護倫理　Ⅳ		7.5H	院内講師	3階A							7(月)					
			看護研究		7.5H×3	研究所職員	トレーニング ルーム等									25（水）		13（木）	23（月）
			高齢者看護エキスパートコース		7.5H×6	外部講師 院内講師	3階A等						13(金)	11（金）	16（土）	3(火)	28（火）	19（水）	
					121														
		経験者採用	経験者採用職員研修		7.5H×8	院内講師	トレーニング ルーム等	2（火）3（水）		3（月）			2（月）	1（火）	1（金）		6（月）		2（月）
			高齢者看護（スキンケア）		1H	認定看護師	2階2・3		30日（木）										
			高齢者看護（認知機能障害）		1H	院内講師	2階2・3							31（木）					
			フォローアップ研修（1ヶ月・6ヶ月）		1H×2	教育委員	3階AB		30日（木）					31（木）					
					64														
マスターコース		マネジメントコース	主任昇任研修（固有）		2H	看護部	トレーニング ルーム									24（火）			
			主任課題研修		2H×8	看護部	トレーニング ルーム等			6（木）	4（木）		5（木）	3（木）	7（木）	5（木）	30（木）	21（木）	
			医師昇任研修		1 H	看護部	トレーニング ルーム												24（火）
			看護マネジメント研修		1.5H×9	看護部	3階A等	11（木）	23（木）	27（木）	25（木）			24（木）	28（木）	26（木）	23（木）	27（木）	
					32.5														
看護助手研修		看護助手	移乗、接遇		1 H×2	看護部	トレーニング ルーム等			13（木） 25（火）									
			認知機能障害患者の対応		1 H×2	認定看護師等	トレーニング ルーム等			13（木） 25（火）									
			食事介助、移動・移送		2H	院内講師	トレーニング ルーム等							29（火）					
			医療安全(感染・安全)		2H	専従	トレーニング ルーム等									9（月） 12（木）			

２　令和元度　看護部院外研修派遣実績

研修内容	対象者数(人)	研修日数（日）	延べ人数（人）
職層別研修「課長代理研修」 第1回（5月21日～22日、5月30日～31日、6月3日～4日） 第2回（9月10日、9月12日、9月13日）	4	3	12
院内教育担当者 6/7、6/20、7/18、7/25、9/5	2	2	4
看護倫理入門 6/26	2	1	2
病院経営課題「医療安全」 7/5	1	1	1
認定看護管理者教育課程（ファーストレベル） 9/10～12/19、3/18	2	22	44
事業推進研修　病院運営課題「診療報酬（令和2年度改定）」 3/16	1	1	1
職種職務専門研修　「看護記録監査者」 5/10、6/4、18、7/2・23、9/9	1	1	1
都立看護専門学校運営会議全体会「ワークショップ」 12/20	7	1	7
東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅰ 7/9、8/20、11/22	14	1	14
東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅱ 7/6、8/29、9/21、11/６、11/16	5	1	5
東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅲ 2/8	1	1	1
職種職務専門研修　リスクマネジメント（基礎） 7/3、10/2	2	2	4
院内教育担当者 6/７、6/20、7/18、7/25、9/5	2	5	10
看護記録 5/30、6/4、6/18、7/2、7/23、9/9	2	6	12
臨地実習指導者（公開講座） 4/24	1	1	1
コンプライアンス推進 7/29	1	1	1
管理監督者研修「業績評価（医療系）」 10/8、9、10	3	1	3
職層別研修　管理者研修　病院幹部マネジメント研修「看護」 11/19	1	1	1
臨床実習指導者 10/25～12/20（40日）	2	4	8
臨床実習指導者（公開講座） 6月30日	1	1	1
「リスクマネジメント」（専任リスクマネジャー） 1/17	1	1	1
看護倫理入門 6/26	2	1	2
看護倫理リーダー 9/18、9/20、9/26、10/11、11/7	2	5	10
救急自動車同乗派遣研修 9/20、10/21	2	1	2
腹膜透析ケア研修会 7/10	1	1	1
医療安全管理者養成研修 5/27、28、6/3、4、5、10、11	1	7	7
東京都看護協会マネジメント組織管理能力Ⅱ　新米師長のマネジメント能力を強化する 10/23、24、25	1	3	3
実習指導者研修　第3回	1	40	40
都立広尾病院ジェネラルコースグロウアップ研修　PNSマインド醸成への道 5/20	3	1	3
豊島病院看護部　公開講座「手指衛生の正しいタイミング」 5/30	1	1	1
透析療法従事者研修 7/20、21	1	2	2
がん相談センター相談員基礎研修（３）非拠点コース 7/20、21	1	2	1
関東ブロックDMAT技能維持研修 6/18、19	1	2	2
福井大学医学部付属病院PNS研修 7/１～3、7/8～10、11/11～13、11/18～20、12/2～4、12/9～11	14	3	42
東京ストーマリハビリテーション講習会 10/5-6	1	2	2
救急自動車同乗研修 9月20日、10月21日	2	1	2
同種造血幹細胞移植後フォローアップのための看護師研修会 6月27日～29日	1	3	3
東京ストーマリハビリテーション講習会・リーダシップコース 7/24～27	1	2	2
腹膜透析患者ケア研修会 7/10	2	1	2
入門ＰＮＳ新看護方式　準備・導入・運営法 11/10	2	1	2
クリニカルパス教育セミナー（基礎編） 7/6	3	1	3
看護師長シャドー研修 7/18、7/24	3	1	3
駒込病院緩和ケア病棟ＰＮＳ研修 8/28	1	3	3
広尾病院総合防災訓練 9/3	1	2	1
新任管理職研修 10/7、8	1	2	1
エキスパートコース「感染管理」【洗浄・消毒・滅菌】【職業感染防止】 11/13、12/9	1	2	1
第5医療圏看護管理者連絡会議研修会「働き方改革関連法の重要ポイント」 11/6	2	1	1
日本看護サミット2019　訪問看護サミット2019 12/6	1	1	1
治験・倫理審査委員会委員研修 2/7	1	1	1
訪問看護ステーション研修 10/1、2、3、4、8、9、10、11、15、16、17、23、24、25、28、29、30、31	19	1	19
重症度・医療・看護必要度研修 6/30	20	1	20
合計	67	86	317

3　令和元年度　学会派遣実績

NO	学会名称	開催日	対象者数（人）	研修日数（日）	延べ人数（人）
1	日本老年看護学会第24回学術集会	6/7～8	6	2	12
2	第24回日本緩和医療学会学術大会	6/21～22	2	2	4
3	第64回日本透析医学会学術集会	6/28～30	1	3	3
4	第15回クリティカルケア学会学術集会	6/15～16	1	2	2
5	第11回日本下肢救済・足病学会学術集会	6/28～29	1	2	2
6	第50回日本看護学会　急性期看護	7 /18～19	1	2	2
7	第50回日本看護学会　看護教育	8/8～ 9	2	2	4
8	日本看護研究学会第45回　学術集会	8/20～21	1	2	2
9	日本看護学教育学会第29回学術集会	8/3～4	1	2	2
10	第20回日本褥瘡学会学術集会	8/23～24	3	2	6
11	日本家族看護学会第26回学術集会	9/14～15	1	2	2
12	第25回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術集会	9/6～ 7	2	2	4
13	日本エンドオブライフケア学会第3回学術集会	9/14～15	2	2	4
14	第50回日本看護学会　看護管理	10/23～24	1	2	2
15	第24回板橋医師会医学会	12/7	8	1	8
16	第23回　日本心不全学会学術集会	10/4～6	4	3	12
17	第58回　全国自治大病院学会	10/24～25	1	2	2
18	第33回日本手術看護学会	10/11	2	1	2
19	第32回サイコオンコロジー学会総会	10/11	3	1	3
20	第16回日本循環器看護学会学術集会	11/2～3	2	2	4
21	第57回日本人工臓器学会大会	11/12～15	1	3	3
22	第22回日本腎不全看護学会学術集会	11/9～10	1	2	2
23	第14回医療の質・安全学会	11/29～30	4	2	8
24	第43回日本死の臨床研究会年次大会	11/3～4	1	2	2
25	日本看護科学学会　第39回学術集会	11/30～12/1	1	2	2
26	東京都福祉保健医療学会	12/20	5	1	5
27	第20回日本クリニカルパス学会学術集会	1/17～18	4	2	8
28	第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	2/7～8	1	2	2
29	第35回日本臨床栄養代謝学会学術集会	2/27～28	1	2	2
30	第35回日本環境感染学会学術集会	2/14～15	8	2	16
31	日本がん看護学会第34回学術集会	2/22～23	4	2	8
合計			76	61	140

4　令和元年度　研修生受け入れ実績

	研修内容	受入数	実習日数	延人数	主催施設
都立看護専門学校教員臨床研修 8月9日、8月13日～8月5日	臨地実習	1	5	5	東京都福祉保健局
クリティカルケア看護学実践演習Ⅱ 6月10日～28日	臨地実習	1	10	10	高知県立大学大学院看護学研究科
認知症チームケアラウンド等見学 4月24日	病院見学実習	1	0.5	0.5	同愛記念病院
認定看護管理者教育課程サードレベル 「統合演習Ⅲ（実習）」 9月19日	臨地実習	1	1	1	東京都看護協会
感染管理システム見学 1月17日	病院見学実習	2	1	2	東京武蔵野病院
認定看護師教育課程「認知症看護」 9月12日～10月16日	臨地実習	2	22	44	島根県立大学
認定看護師教育課程「慢性心不全看護」 2020年1月14日～2月18日	臨地実習	2	25	50	北里大学看護キャリア開発・研究センター
急性期看護学　実習ⅡA 7月16日～8月16日	臨地実習	1	11	11	聖路加国際大学大学院看護学研究科
合計		10	70.5	123.5	

5　看護実習生受け入れ実績

学 校 名	学生数	実習日数	延人数	実習科目
都立板橋看護専門学校	48	5	240	基礎実習Ⅰ
	36	10	360	基礎実習Ⅱ
	36	10	360	老年看護Ⅰ
	6	10	60	老年看護Ⅱ
	30	11	330	成人看護学Ⅰ
	42	11	462	成人看護学Ⅲ
	44	10	440	統合
首都大学東京	5	12	60	高齢者看護
東京女子医科大学看護学部	4	12	48	統合Ⅰ・Ⅱ
	39	7	273	老年看護
文京学院大学保健医療技術学部看護学科	18	8	144	老年看護学実習
帝京平成大学	70	1	70	基礎看護学Ⅰ－①
	69	2	138	基礎看護学Ⅰ－②
	52	8	416	基礎看護学Ⅱ
日本医療科学大学保健医療学部看護学科	21	1	21	基礎看護学Ⅰ－①
	21	7	147	基礎看護学Ⅱ
	24	7	168	統合実習
	21	10	210	高齢者看護学Ⅱ
合計	586	142	3,947	

6　令和元年度　看護体験受け入れ実績

行事名	開催日	体験者数	体験日数	延人数	主催施設
一日看護体験（高校生3年生）	5月27日	2	1	2	東京都ナースプラザ
一日看護体験（高校生）	7月27日	9	1	9	東京都ナースプラザ
看護インターンシップ夏期（前期）	7月24日～7月26日	2	1	2	当センター看護部
看護インターンシップ夏期（後期）	8月26日～8月28日	18	1	18	当センター看護部
合計		31	4	31	

7　令和元年度　講師派遣実績

	講師名	科目（講義内容）	時間数	回数	施設名
1	荒木芳枝	看護管理	8時間	4回	東京都立板橋看護専門学校
2	飯野君江	ELENEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム講師	2日間	1回	深谷赤十字病院
3	石川峻	ラピッドレスポンスについて	1時間	1回	都立松沢病院
4	石川峻	急変時対応研修	4時間	1回	東部地域病院
5	今野真希	一般社団法人糖尿病支援ネットワーク「第16回西東京教育看護研修会」	1時間半	1回	一般社団法人臨床糖尿病支援ネットワーク
6	蛯原大作	東京オリンピック・パラリンピック競技大会医療スタッフ外傷初期診療アプローチ方法指導	8時間	2回	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
7	片岡祐佳理	転倒・転落防止リスクアセスメント	3時間	2回	東京都看護協会
8	亀井めぐみ	高齢者の褥瘡予防	1時間	2回	特別養護老人ホームいずみの苑
9	亀井めぐみ	高齢者の健康障害時の看護（褥瘡）	8時間	4回	東京都立板橋看護専門学校
10	木村陽子	東京都看護師認知症対応能力向上研修Ⅰ 「認知症ケアに関する知識」グループワークファシリテーター	4時間	2回	公益財団法人東京都保健医療公社荏原病院
11	木村陽子	JR交通学会シンポジウムⅣ「高齢者のいのちと暮らしを支える看護」	1時間15分	1回	日本交通医学会
12	木村陽子	東京都看護師認知症対応能力向上研修Ⅰ	4時間	1回	認知症疾患医療センター
13	木村陽子	認知症看護　せん妄ケアに関する基礎知識	45分	1回	赤羽リハビリテーション病院
14	木村陽子	高齢者看護学特論Ⅴ（認知症看護論） 「認知症を持つ高齢者への援助方法」 ⑥疾病治療・管理に伴う生活活動の制限に対する	90分	1回	順天堂大学大学院　医療看護学研究科
15	木村陽子	高齢者施設における認知症ケアの実際	1時間	1回	特別養護老人ホームいずみの苑
16	木村陽子	統合実習臨床講義	1時間	1回	帝京平成大学
17	佐々木知輝	北海道医療大学看護福祉学部看護学科キャリアガイダンス 「働く卒業生の講話　-看護職のキャリアを考える-」	1時間20分	1回	北海道医療大学　看護福祉学看護学科
18	白取絹恵	認知症の人とのコミュニケーション	3時間	2回	東京都看護協会
19	白取絹恵	高齢者のELENEC-J研修	2日間	1回	埼玉県看護協会
20	白取絹恵	看護師研修会「これからの認知症看護に求められるもの」	2時間半	1回	全国自治体病院協議会看護部会
21	白取絹恵	福祉用具指定講習会 高齢者と介護・医療に関する基礎知識　からだと心の理解	3時間	1回	公益財団法人東京都福祉保健財団
22	白取絹恵	認知症ケア加算の具体的な取り組みについて	2時間半	1回	第8医療圏看護管理者連絡会
23	白取絹恵	視野拡大研修　認知症患者の看護	4時間	1回	都立墨東病院看護部
24	白取絹恵 野島陽子	2019年白十字介護の日　特別セミナー 「認知症高齢者における知識向上」	3時間半	1回	白十字株式会社
25	白取絹恵	高齢者看護学特論Ⅴ（認知症看護論） 「認知症を持つ高齢者への援助方法」 ⑦ADLの維持・拡大に向けた援助	90分	1回	順天堂大学大学院　医療看護学研究科
26	杉山純子	訪問看護ターミナルケア集中講座 「臨死期のケアと専門職が行うエンゼルケア」	1時間45分	1回	全国訪問看護事業協会
27	杉山純子	臨死期のケアと専門職が行うエンゼルケア	1時間45分	1回	大阪府社会福祉協議会会議室
28	出崎奈美	放射線科業務における感染対策	1時間半	1回	日本医療科学大学診療放射線学科
29	出崎奈美	園内研修「感染症対策研修」	2時間	1回	東京都八王子福祉園
30	野島陽子	高齢者の皮膚の特徴とスキンケア、創傷（褥瘡含む）ケアの実際を学ぶ	3時間	2回	東京都看護協会
31	野島陽子	ナースのためのストーマケアにおける大事な知識	6時間半	2回	医学の友社
32	野島陽子	ストーマケア学術セミナー「高齢者に向けたストーマケアの知識向上」」	4時間	1回	株式会社ホリスター　ダンサック営業部
33	野島陽子	高齢者に向けたストーマケアと装具選択	2時間	1回	株式会社ザンタック
34	野島陽子 白取絹恵	CAPE褥瘡予防ケアスキルアップセミナー　東京会場 認知症患者における褥瘡予防ケア	4時間	1回	株式会社ケープ
35	平野哲	手術看護セミナー（消化器外科編）器械出しのキーポイント	6時間半	5回	医学の友社
36	細萱順一	救急・災害看護論	1時間90分	1回	公立大学法人　宮城大学
37	細萱順一	看護フィジカルアセスメント論	3時間	1回	東邦大学大学院看護学研究科
38	細萱順一	ELENEC-Jコアカリキュラム	3時間50分	1回	ELENEC-JCC開発研究会
39	細萱順一	フィジカルアセスメント高齢者	3時間	1回	東京都看護協会
40	細萱順一	ELENEC-J開発研究会指導者育成プログラム講師及びファシリテーター	30時間	8回	ELENEC-JCC開発研究会
41	松崎弘美	ALSと診断を受けて　初めの一歩 「在宅療養を開始するために必要なことは」	50分	1回	日本ALS協東京支部
42	蛯原大作	アメリカ心臓協会　JSISH-ITC BLSプロバイダーコース　インストラクター	4時間	1回	日本医療教授システム学会 東京都健康長寿医療センター
43	蛯原大作	アメリカ心臓協会　JSISH-ITC BLSプロバイダーコース　インストラクター	4時間	2回	日本医療教授システム学会 国際医療福祉大学　成田キャンパス
44	蛯原大作	アメリカ心臓協会　JSISH-ITC ACLSプロバイダーコース　インストラクター	12時間	3回	日本医療教授システム学会 東京都健康長寿医療センター
45	石川峻	アメリカ心臓協会　JSISH-ITC BLSプロバイダーコース　インストラクター	4時間	4回	日本医療教授システム学会 東京都健康長寿医療センター
46	石川峻	アメリカ心臓協会　JSISH-ITC ACLSプロバイダーコース　インストラクター	12時間	3回	日本医療教授システム学会 東京都健康長寿医療センター
47	吉村秀平	アメリカ心臓協会　JSISH-ITC BLSプロバイダーコース　インストラクター	4時間	2回	日本医療教授システム学会 東京都健康長寿医療センター
48	吉村秀平	アメリカ心臓協会　JSISH-ITC BLSプロバイダーコース　インストラクター	4時間	1回	日本医療教授システム学会 大宮医師会看護専門学校
49	宮本有花里	アメリカ心臓協会　JSISH-ITC BLSプロバイダーコース　インストラクター	4時間	4回	日本医療教授システム学会 東京都健康長寿医療センター

8　令和元年度　著書（執筆）実績

	著者名	論文名	書名	出版社
1	細萱　順一	ナーシング・スキル日本版改定 ・術後疼痛管理 ・手術翌日～回復期のケア	ナーシングスキル日本語版	エルゼビア・ジャパン
2	細萱　順一	ELENEC-Jクリティカルケアカリキュラム指導用ガイド2018改訂版	ELENEC-Jクリティカルケアカリキュラム指導用ガイ	ELENEC-J開発研究会
3	細萱　順一	院内における予期せぬ急変（院内急変）を未然に防ぐ	隔月刊誌　呼吸・循環・脳　実践ケア 2019年10月11月号	日総研出版
4	細萱　順一	予期せぬ急変の兆候を見逃さない 第12回【知識・実践編】高齢者における急変前の予兆とは	看護技術 2019年12月号 Vol.65 No14	メヂカルフレンド社
5	野島　陽子 木村　陽子 千葉　まり 高木　美那 治久丸　尚美 大野　尚美 今野　真希	認知症高齢者のスキンケア Part1 認知症高齢者と皮膚障害について Part2 事例で学ぶ 認知症高齢者のスキンケア【 基本のケア】 Part3 事例で学ぶ 認知症高齢者のスキンケア【 トラブル別対応】	看護技術 2020年4月号 Vol.66No.4	メヂカルフレンド社
6	大塚　渉 佐藤　妙子 治久丸　尚美 吉村　秀平	白内障術前オリエンテーションにおけるDVD導入の効果	看護管理 第30巻第3号	医学書院
7	池田　理子 蛯原　大作	実習でもう迷わない！ 高齢者とのかかわり方	Clinical Study 11月号	メジカルフレンド社

9 令和元年度　学会発表実績

NO	研究者名	演　題　名	学会名称	年月日	発表形式
1	佐藤　恵理　澤　縁 今野　真希　木村　陽子	高齢糖尿病患者へのフットケア実践指導によるセルフケア意欲と行動変容に関する調査	日本老年看護学会第24回学術集会	令和元年6月6日～7日	示説
2	蒔田　伶奈　亀谷　由佳子 蛯原　大作　伊東　美緒 小佐野　のぞみ　林　優子	高齢者専門の急性期病院の整形外科・脊椎外科における せん妄発症に関連する要因	日本老年看護学会第24回学術集会	令和元年6月6日～7日	示説
3	山田　由香理	終末期がん患者の家族支援 ～家族が患者のケアに参加する効果の分析～	日本家族学会　第26回　学術集会	令和元年9月14日～15日	口頭
4	山田　由香理 中村　百合子　杉山　純子 永窪　佳子　亀井　春美 多田　みゆき　伊東　美緒	緩和ケア病棟配属1年未満の看護師が抱える困難感 ～終末期がん患者のケアに対する困難感尺度とインタビューの分析から～	第34回　日本がん看護学会学術集会	令和2年2月22日～23日	口頭
5	飯野　君江　亀谷　由佳子 杉山　純子　佐藤　雅美	緩和ケアリンクナース教育に「緩和ケアに関する医療者の知識・実践・困難感尺度」を用いた評価に対する取り組み	第34回　日本がん看護学会学術集会	令和2年2月22日～23日	示説
6	荒木　健太郎　石堂　正枝 片岡　祐佳理　荒木　芳枝	アセスメント能力向上を目指したKYTラウンドの取り組み	第14回　医療の質・安全学会学術集会	令和元年11月29日～30日	示説
7	出﨑　奈美	蛍光塗料による確認で見えた高頻度接触面清掃のピットフォール	第35回　日本環境感染学会学術集会	令和2年2月14日～15日	示説
8	平塚　香澄	リウマチ性疾患診断初期患者が援助を依頼する苦悩	第15回　東京都福祉保健医療学会	令和元年12月20日	示説
9	飯野　君江	高齢者急性期病院における「生活のしやすさに関する質問票」を用いた苦痛のスクリーニング	第15回　東京都福祉保健医療学会	令和元年12月20日	示説
10	菅原　志保	認知症患者の言動の真意を理解しようと関わった看護実践の考察	第15回　東京都福祉保健医療学会	令和元年12月20日	示説
11	神永　智子	心臓外科手術後のリハビリテーションにおける看護介入 ～多職種連携を通して～	第24回　板橋区医師会医学会	令和元年12月7日	口頭
12	池田　圭佑	自宅退院を望む外国人末期心不全患者に、EOLケアによってもたらされた心理的変化を明らかにする	第24回　板橋区医師会医学会	令和元年12月7日	口頭
13	三﨑　春奈	急性期病院における高齢者の最期の迎え方の意思決定に関する調査１例 ～呼吸不全の高齢者に焦点を当てて～	第24回　板橋区医師会医学会	令和元年12月7日	口頭
14	野呂　夏希	がん患者の意思決定を支援する看護師の関わり	第24回　板橋区医師会医学会	令和元年12月7日	口頭
15	皆川　小波	高齢の糖尿病患者を支える妻の気持ちを考えた看護	第24回　板橋区医師会医学会	令和元年12月7日	口頭
16	前田　浩子	長期入院高齢者に対するセルフケア再獲得に向けて	第24回　板橋区医師会医学会	令和元年12月7日	口頭
17	雨宮　早織	食事摂取が進まない意思疎通が困難な患者との関り ～患者が示したしぐさを振り返って～	第24回　板橋区医師会医学会	令和元年12月7日	口頭
18	蟻川　朋美	末期心不全患者への苦痛緩和にむけた関わり	第24回　板橋区医師会医学会	令和元年12月7日	口頭

医療連携室

次席　宮澤　翔太

1　令和元年度の活動

○令和元年度実績について
紹介率　65.2%（平成30年度 70.0%）
返送・逆紹介率　75.7%（平成30年度76.1%）
紹介状受取件数　13,913件（平成30年度12,936件）
連携医医療機関登録数　767医療機関（平成30年度726医療機関）

○センターのPRのため、医療機関への訪問、連携NEWSの発行、製薬会社と共催にて各種セミナー、公開CPCの開催（日本医師会生涯教育制度における単位取得）連携医療機関数の増加に努めた。

・平成31年4月22日（月）
超高齢者医療を考える会－健康寿命を延ばすための治療とは－「超高齢社会における心房細動と心不全管理のポイント」
・令和元年5月7日（火）
血管外科セミナー「ACS患者における厳格脂質管理」
・令和元年8月5日（月）
「糖尿病セミナーCGMを用いた糖尿病治療の最適化」
・令和元年10月3日（木）
Parkinson’s Disease Seminar「皮脂欠乏症に対する外用療法の基本と応用」
・令和元年10月15日（火）
老年医学セミナー「日常診療でよく遭遇する高齢者呼吸器疾患～肺炎球菌ワクチン接種の実際～」
・令和元年10月29日（火）
血管病セミナー「担がん患者のリスクマネジメントと腫瘍循環器医の役割－心毒性から血栓症までがん研有明病院の経験から－」
・令和元年11月19日（火）
消化器セミナー「患者満足度向上を目指した慢性便秘診療」
・令和元年12月3日（火）
心不全治療の医療連携を考える会「これからの心不全診療－心不全パンデミック時代を迎えて－」
・令和元年12月16日（月）
消化器病セミナー「十二指腸腫瘍に対する内視鏡診断と治療」
・令和元年12月19日（木）
老年医学セミナー「糖尿病性腎臓病2019」
・令和2年2月6日（木）
神経内科・脳卒中科連携セミナー「脳卒中とてんかん－病態に基づく治療戦略－」

○救急外来患者増加を目指し、救急部会の事務局として活動している。
救急患者受入総数9,667人（平成30年度9,782人）
救急車受入件数は4,143台（平成30年度4,247台）
断り率は13.1%（平成30年度12.1%）断り率（救急端末ＯＦＦを除外）の増加は、専門医不在、病床満床等の理由である。

○病床利用率（病院全体）83.0%（平成30年度87.2%）
平均在院在院日数（病院全体）12.4日（平成30年度12.9日）

○第24回板橋区医師会医学会
令和元年12月7日に板橋区立文化会館にて開催される医学会にて13演題を提出した。

○令和元年度職員提案
優秀賞「余力創出で新規獲得～急性期病院の果たす役割～」

在宅医療・福祉相談室（医療福祉相談）

室長　奥村　真木

MSW 病棟担当制は 9 年目を迎え、今年度も引き続き、積極的に早期介入・早期退院、在院日数の短縮、ベッド稼働率のバランスに努めた 1 年であった。具体的には、日々病棟カンファレンスへの参加、病棟ラウンドを実施。医師・看護師・コメディカル・事務員等スタッフとの情報共有、方針協議を日々積極的に行い、早期退院、在院日数の短縮、安定的なベッド稼働に繋がるようチーム医療の構築に努めた。更に、入院前からの介入を心掛け、外来及び入院受付スタッフ、医療連携室等と密に連携を取り、早期介入を遂行している。

今年度も引き続き、平成 30 年度より新設された「入退院支援加算 1」（旧：退院支援加算）の算定に尽力した。算定要件としては従前同様、入院後 3 日以内に患者の状況を把握し、7 日以内に患者・家族の意向確認を行い、同じく 7 日以内に 4 者（病棟看護師・病棟専任ＭＳＷ・在宅看護師・専従社会福祉士）間でカンファレンスを実施することが要件である。「入退院支援加算 1」の取得には算定基準・施設基準共に高いハードル設定だが、退院時に 600 点/件の加算が取得可能なことから、病棟・在宅看護師等と連携・協働し積極的なコスト算定に努めた。令和元年度のコスト件数は、2,369 件である。

また、「入退院支援加算 1」には、20 医療機関と年 3 回面会し情報共有を行うことも条件として挙げられており、それらをクリアするため地域の病院及び介護施設等関係機関との密な連携強化に努めている。

更に、前年に引き続き速やかな退院支援促進の観点から【脳卒中地域連携パス】も積極的に推進。今年度より、回復期リハビリテーション連携協定病院が更に 2 カ所（イムス板橋リハビリテーション病院・慈誠会練馬駅リハビリテーション病院）加わり、計 8 病院との連携を開始し速やかな転院調整を進めた。

この病病連携における速やかな退院支援への評価として「地域連携診療計画加算」（300 点/退院時に 1 回）の算定が可能となり、積極的なコスト算定に努めている。令和元年度コスト算定件数は 41 件であった。

更に、専従 MSW によるセンター全体の長期入院患者管理を開始して 4 年目を迎えた。これは、入院が長期化している理由を解明し、今後の方向性を各診療科部長及び主治医等に確認し速やかな退院支援を推し進めるものである。今後も、専任 MSW 及び医師・看護師等多職種で協働しながら長期入院患者数の削減に努めていく。

院外においては、慈誠会グループ及び赤羽リハビリテーション病院、東京腎泌尿器センター大和病院等との積極的な連携体制の構築に取り組み、後方連携病院獲得に努めた。慈誠会グループとは定例会議を開催し、患者情報、空床情報、病院機能に関する情報共有を行い毎月顔の見える連携を図り信頼関係を築いている。

そして、相談室は患者満足度向上の一端として高齢者にとってわかりやすい情報提供が行えるようよう独自に医療・福祉情報紙『ご存知ですか?』を作成・配布している。制度及び医療機関情報は常に変化しているので、定期的に更新・改訂を行い最新の医療・介護・保健・福祉情報が提供出来るよう心掛けている。

令和元年度 MSW は、奥村真木、中馬かつら、清水義尉、川口東子、竹原史穂、瀬川寿行、岩上香菜子、西山亜矢子、賀来尚人、非常勤 秋元貞男（産休代替）、田口由美（産休代替）の計 11 名体制。

〈相談業務内容〉

相談業務件数：相談業務総件数は 99.335 件。

相談の特徴及び内容：当センターは急性期医療の病院であるため、退院に伴う相談が最も多く 77.2%（内、転院・施設入所の相談が 81%、自宅退院に向けての相談が 4.8%）であった。ほか、入院相談が 8.8%、経済相談が 3.2%、療養上の相談が 2.7%、福祉制度の相談が 1.9%である。

転院相談では、長期療養可能な療養型病院をはじめ、治療継続な一般病院、回復期リハビリテーション病院、認知症専門病院、緩和ケア病棟など様々なニーズに応じて情報提供を行った。自宅への退院調整には、ケース内容（点滴・酸素・吸引など医療行為がある患者で手技指導が必要な場合）により同室の在宅看護相談室と協力し

ながら進めている。

〈その他の業務〉

・退院支援チーム参加（12 回/年）
・東京都脳卒中地域連携パス合同会議（4 回/年）
・板橋区脳卒中懇話会 SW 部会（3 回／年）
・板橋区大腿骨頚部骨折パス地域連携会議（2 回/年）
・北区・板橋区 MSW 勉強会（6 回/年）
・慈誠会 SW 部会参加（3 回/年）
・地域医療機関への挨拶・訪問（年平均 20 カ所）
・看護部院内研修講師（2 回/年）
・看護部実習生対応（オリエンテーション）

老年学情報センター

宮本　孝一

老年学情報センターは、健康長寿医療センター職員用図書館として、臨床・教育・調査・研究を、資料の収集・提供及び学会発表の補助で支援している。

看護部の院内研修では、レベルⅡ・レベルⅣにおいて、文献検索・文献入手、老年学情報センターの利用案内、スライド作成について講義を行った。一部の看護研究グループに対しては学会ポスター発表に関わって、グラフ表現についてアドバイスを行った。

（1）老年学情報センターの改修工事

年度内に老年学情報センターの室内を改修し、健康長寿イノベーションセンターのオフィスをつくる計画が示された。老年学情報センター部分の縮小にあたり、継続保存する蔵書や機器類について図書委員会で提案を行った。老年学情報センター部分の改修の主な方針は下記の通り。

・雑誌・・・老年学・老年学関係誌は全点保存。他の雑誌は原則的に最新 5 年分保存。
・図書・・・職員が保存を希望した図書や、老年学情報センターでこれまで毎年購入している研究支援に関する図書を保存。
・その他・・・日本病理剖検輯報、過去のセンター・研究所刊行物は全点保存。
・グループ作業席、個人閲覧席、共用パソコン、大判プリンター等は継続して使用できる。電動書架の台数は半分に減らし、すべての蔵書（図書・雑誌その他）を収納する。

改修工事は令和 2 年 2 月-3 月に行われ、3 月中に業務を再開した。

（2）外国雑誌の購読予算削減

従来、外国雑誌予算は 2800 万円程度で推移していたが、2020 年購読分に関して 1000 万円程度の予算削減の方針が示された。副院長と研究所副所長による検討会で継続誌が検討され、2019 年に購読していたオンラインジャーナル 71 誌のうち 31 誌が購読中止となった。例年は部署ごとにアンケートを配布し購読希望調査を実施しているが、今回は購読タイトルを半数近く減らすこととなるため、希望調査は行わなかった。

＜運営報告＞

①資料の収集・整理　令和元年度

雑誌	外国雑誌	79　冊子 8　オンライン 71	+シュプリンガー・メドライン・コレクション約 400 誌パッケージ
	国内雑誌	53　冊子のみ	
図書	職員用図書	57　購入 46　寄贈 11	※厚生統計協会刊行の統計類除く
	一般向け図書	136　購入 115　寄贈 21	

②蔵書数　令和 2 年 3 月 31 日現在

雑誌	265
図書	1,128
一般向け図書	1,304

タイトル数　オンラインジャーナル単独誌契約含む　シュプリンガー・メドライン・コレクションは含まない
老人総合研究所・老人医療センター・健康長寿医療センター刊行物や厚生統計類除く
冊数

③貸出　令和元年度

職員用図書	雑誌	一般向け図書
87	234	353

④文献取り寄せへの対応　令和元年度

	都医学研	都立 （公社等） 病院	大学図書館	病院図書室	当室所蔵	WEB フリー公開	入手不能
入手	3	1	3,251	0	395	608	323
送付	5	42	0	2	－	－	－

養育院・渋沢記念コーナー

顧問医　稲松　孝思　老年学情報センター　宮本　孝一

平成25年度の新施設開設に際し、2階に『養育院・渋沢記念コーナー』が設置された。1階ホールの養育院幾星霜の図（山口晃）、養育院記念中央広場、渋沢栄一銅像、養育院本院跡碑、庭園とともに、患者等の来訪者に特徴ある癒し空間を提供している。このコーナーは、明治5年の養育院開設から現在の東京都健康長寿医療センターに至る歴史を紹介している。また、センター各部門の催しの広報、患者・家族のための医療・健康情報を提供している。さらに、飲食のできる読書と癒しの空間を提供し、診察予告表示板（コンピューター連動）があり、外来患者が待ち時間を過ごす場ともなっている。

令和元年には、2024年の1万円札肖像予定、2021年のＮＨＫ大河ドラマ主人公予定が発表され、注目度上昇。展示の一部に反映させた。

1)「養育院・渋沢記念コーナー」の利用状況

開設以来、毎日100名前後に利用され、病院施設では他にあまり例を見ない場所として好評を得ている。来院見学者への当センターの説明の場、新人職員の教育の場としての機能も果たしている。平成26-30年度の利用状況は、ボランティアが常駐している約4時間だけでも毎日平均70-80名、のべ19,000名/年の利用者がいた。なお、令和2年4月以降、新形コロナウイルス感染拡大防止のため、ボランティア活動は休んでいたが、7月より再開した。

2）歴史展示・櫻園通信

・当院の歴史資料とパネル、渋沢の墨跡、各種写真を展示、歴史ビデオ、講演スライドも供覧。
・展示物を解説した冊子「ようこそ養育院・渋沢記念コーナーへ」の内容を一部改訂して、第３版を出版した。
・歴史案内「櫻園通信（おうえんつうしん)」の作成、配布は継続し、従来の7～53号に加えて今年度は以下の号を発行した。
　54. 写真が語る大正初めの養育院：玉越慶弘
　55. 高齢者の体に合った医療を創る-日本の老年医学のはじまり：宮本孝一
　56.養育院が出来た時代―明治5年の東京：宮本孝一。なお、センターのホームページに掲載。

3）なるほど！からだラウンジ

・展示に、「フレイル対策」、「高齢者自粛対策」。
・疾患や治療法の理解を深めることに役立つ図書や、生活全般に役立つ図書の貸出（ボランティアがいる昼前後の時間帯のみ)。
・健康食品の使用上の注意など公的機関作成パンフレット類の展示、自己チェックシートの配布。
・フレイル・サルコペニアの解説を展示。

4）広報

・公開講座など、当院主催、共催講演会の広報。
・治験の募集案内。
・がん相談支援センター案内とリーフレット設置。

5）読書の愉しみ

・手続き不要の図書貸出コーナー。
・職員の出版した一般向け図書紹介と購入案内。
・寄贈図書の受け入れ。

6）記念コーナー維持ボランティア活動

約30人のボランティアが日替わりで10～14時に待機、本の貸し出し、展示の説明などをおこなっている。また、養育院関連の歴史資料のリスト整備、櫻園通信の発行などに協力頂いている。

・夏冬、年2回の維持ボランティア交流会で、展示、運営上の問題などを相談、懇親会を行う。
・谷中墓地見学会を行った。

7）講演会開催

養育院・渋沢記念講演会（センター3 階大会議室）2019. 9. 16.

・杉江正光；高齢者の健康管理
・稲松孝思：お札になる渋沢栄一の社会事業　参加者約 110 名と盛会であった。

8)「ヒポクラテスの木」について
・2012年に東大から分与されたヒポクラテスの木の実生苗を育成。2014年センター玄関巨石門脇に移植。医育機関のシンボルとして育成。

9)「養育院史」などに関する講演
・稲松孝思：渋沢栄一の社会事業の経年変化について。第120回日本医史学会.（名古屋）2019.6.2.
・稲松孝思:パネルディスカッション:渋沢栄一からなにを学ぶか。第4回全国社会福祉総合フェスティバル。2019.9.6.（さいたま市）
・稲松孝思：教養文化講演会：渋沢栄一の生き方に学ぶ。春日部市民公開講座。2019.10.26.
・稲松孝思:渋沢栄一に学ぶ日本の発展と養育院の役割。板橋産業見本市医工連携セミナー。2019.11.1.板橋区区商工会。
・NHK稲松孝思：渋沢栄一と養育院～渋沢栄一が取り組んだ社会福祉活動。全社協。令和元年度全国社会福祉大会。記念講演2019.11.22.メルパルH.
NHK衛星放送、TV東京衛星放送、取材協力
・稲松孝思：都区職員のための渋沢栄一。都政新報連載：(2019 年 9 月より月 1 回)

10）養育院開設150周年
令和3年秋に記念行事、記念出版予定。
なお、老年学情報センターのスタッフの大崎栄理が、栄畑南美に交代した。

Ⅱ 令和元年度研究活動報告

名誉理事長　井藤 英喜

＜雑誌論文＞

1. Seigo Mitsutake, Tatsuro Ishizaki, Chie Teramoto, Sayuri Shimizu, Hideki Ito：Patterns of co-occurrence of chronic disease among older adults in Tokyo, Japan. Preventing chronic disease　2019；16：E11
2. Chie Teramoto, Tatsuro Ishizaki, Seigo Mitsutake, Haruhisa Fukuda, Takashi Naruse, Sayuri Shimizu, Hideki Ito：Impact of a national medical fee schedule revision on the cessation of physician home visits among older patients in Tokyo: a retrospective study. Health & Social Care in the Community　2019；27(4)：899-906
3. Yasuyoshi Ouchi, Jun Sasaki, Hidenori Arai, Koutaro Yokote, Kazumasa Harada, Yasuo Katayama, Takao Urabe, Yasufumi Uchida, Masaru Hayashi, Naoto Yokota, Hirokazu Nishida, Takatoshi Otonari, Tadashi Arai, Ichiro Sakuma, Kazuo Sakabe, Masayasu Yamamoto, Takashi Kobayashi, Shinichi Oikawa, Shizuya Yamashita, Hiromi Rakugi, Takumi Imai, Shiro Tanaka, Yasuo Ohashi, Masanari Kuwabara, Hideki Ito：Ezetimibe Lipid-Lowering Trial on Prevention of Atherosclerotic Cardiovascular Disease in 75 or Older (EWTOPIA 75): A Randomized Controlled Trial. Circulation　2019；140：992-1003
4. Takuya Omura, Yoshiaki Tamura, Takuya Yamaoka, Yukio Yoshimura, Takashi Sakurai, Hiroyuki Umegaki, Chiemi Kamada, Satoshi Iimuro, Yasuo Ohashi, Hideki Ito, Atsushi Araki：the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial Research Group: The optimal energy intake of older patients with diabetes mellitus: from the analysis of association with all-cause mortality in the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial (J-EDIT). Geriatrics & gerontology international　2019：1-7
5. Seigo Mitsutake, Tatsuro Ishizaki, Rumiko Tsuchiya-Ito, Chie Teramoto, Sayuri Shimizu, Takuya Yamaoka, Akihiko Kitamura, Hideki Ito：Association of pharmacological treatments for hypertension, diabetes, and dyslipidemia with health checkup participation and identification of disease control factors among older adults in Tokyo, Japan. Preventive medicine reports　2020；17：101033

＜総説＞

1. 井藤英喜：「人生 100 年時代の私の生き方」-生きがいをもち、あるがままに今を楽しむ-. 公益財団長寿科学振興財団健康長寿ネット 2020　https://www.tyojyu.or.jp/net/index.html
2. 井藤英喜：老年医学・老年内科医の醍醐味と未来へのメッセージ「老年内科医としての私の歩みと老年医学の今後」. 老年内科　2020；1：38-41

＜学会・研究会発表＞

1. 豊島堅志，田村嘉章，舘鼻彩，豊島弘一，大村卓也，小寺玲美，大庭和人，千葉優子，井藤英喜，荒木厚：高齢者糖尿病におけるDASC-8（認知・生活機能質問票）を用いたカテゴリー分類とフレイルとの関連. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会(仙台)2019.5.23-25
2. 豊島弘一，田村嘉章，舘鼻彩，大村卓也，小寺玲美，大庭和人，豊島堅志，千葉優子，井藤英喜，荒木厚：高齢糖尿病患者におけるサルコペニアの旧基準と新基準における関連因子の違いについて. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会(仙台)2019.5.23-25
3. 大庭和人，田村嘉章，舘鼻彩，豊島弘一，大村卓也，小寺玲美，豊島堅志，千葉優子，石川譲治，藤田泰典，伊藤雅史，田中雅嗣，森聖二郎，井藤英喜，荒木厚：GDF-15は高齢糖尿病患者において筋力と下肢運動機能と関連しサルコペニア肥満のマーカーとなる可能性を持つ. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会(仙台)2019.5.23-25
4. 大庭和人，田村嘉章，豊島堅志，千葉優子，石川譲治，藤田泰典，伊藤雅史，田中雅嗣，井藤英喜，荒木厚：血清GDF-15値は高齢者のサルコペニア肥満やダイナペニア肥満のマーカーとなりうる. 第61回日老年医学会総会(仙台)2019.6.6-8
5. 島﨑良知，石川譲治，小原朋也，片原憂斗，瀧川美和，森淑子，岩切理歌，石崎達郎，荒木厚，井藤英喜：高齢者の薬物療法に関するアンケート調査. 第61回日老年医学会総会(仙台)2019.6.6-8
6. 金丸晶子，荒木厚，千葉優子，引地和佳子，羽根田千恵，府川則子，黒岩厚二郎，許俊鋭，井藤英喜：経口摂取開始チャート導入前後の嚥下食活用および禁食の推移. 第61回日老年医学会総会(仙台)　2019.6.6-87.

濱松晶彦，新井冨生，松田陽子，高熊将一朗，柿崎元恒，野中敬介，井藤英喜：病理解剖例における動脈硬化の時代変遷に関して．第61回日老年医学会総会(仙台)2019.6.6-8

7. 大庭和人，田村嘉章，石川譲治，舘鼻彩，豊島弘一，大村卓也，小寺玲美，豊島堅志，千葉優子，藤田泰典，伊藤雅史，田中雅嗣，井藤英喜，荒木厚：血清GDF-15値は高齢糖尿病患者の筋力と下肢運動機能の低下のバイオマーカーとなりうる．第92回日本内分泌学会学術総会(仙台)2019.5.9-11
8. 金澤伸郎，黒岩厚二郎，石崎達郎，荒木厚，井藤英喜，許俊鋭：シンポジウム『フレイル・サルコペニアと手術』;フレイルと手術適応-術前評価としてのフレイルの有用性に関する検討．日本麻酔科学会第66回学術集会(神戸)2019.5.30-6.1
9. Shinkai S, Seino S, Taniguchi Y, Amano H, Yokoyama Y, Narita M, Ikeuchi T, Kitamura A and Ito H: Hemoglobin A1c levels and the risk of total mortaltiy in community-dwelling older adults without known diabetes. IAGG Asia/Oceanis(Taipei)2019.10.24-27
10. Hideki Ito：Plenary Session；The role and prospective of hospital to establish integrated community care system in super-aged society, with the experience of Japan. The 10th Korea Healthcare Congress(Seoul)2019.4.4-5
11. Hideki Ito：Symposium 「How to change the functions and roles of hospitals in preparation for a super-aged society」； Change into the leading hospital to establish integrated community care system for older people, with the experience of Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital. The 10th Korea Healthcare Congress(Seoul)2019.4.4-5
12. Hideki Ito：Joint International Symposium 「Importance and Advances in Geriatric Medicine and Surgery」. Hallym University Dongtan Sacred Heart Hospital(Korea)2019.4.22

＜講師等院外活動（講演・放送等）＞

1. 井藤英喜：高齢化社会と医薬品：人生100年へ健康寿命延伸-鍵握るジェネリック医薬品．日本経済新聞　2019.5.27
2. 井藤英喜：健康長寿のひけつ．千代田区フレイル予防講演会(東京)　2019.9.3
3. 井藤英喜：地方独立行政法人-東京都健康長寿医療センターの経験．東京都病院経営本部講演会(東京)2019.9.19

＜単行書・報告書＞

1. 井藤英喜：介護をする家族のため介護と保健ガイドブック(2019 年度版)．一般社団法人日本保健情報コンソシウム　東京　2019
2. 井藤英喜監修：輝き続けるシニアのためのおもいやり BOOK　「尿モレが気になり始めたら･･･」．一般社団法人日本保健情報コンソシウム　東京　2020

理事長　鳥羽 研二

＜雑誌論文＞

1. Saji N, Murotani K, Hisada T, Tsuduki T, Sugimoto T, Kimura A, Niida S, Toba K, Sakurai T：The relationship between the gut microbiome and mild cognitive impairment in patients without dementia：a cross-sectional study conducted in Japan. Scientific Reports　2019；9(1)：19227
2. Sugimoto T, Ono R, Kimura A, Saji N, Niida S, Toba K, Sakurai T：Impact of Glycemic Control on Daily Living Activities Over 1-Year Follow-up in Memory Clinic Patients With Diabetes. Journal of the American Medical Directors Association　2019；20(6)：792-794
3. Ohshima H, Takeuchi S, Miyake A, Fujisaki A, Okubo N, Mimura E, Hisada M, Mizuno N, Iguchi R, Sakurai T, Toba K：[Clinical classification of fall risk using visually obtained information at a memory clinic]. Nihon Ronen Igakkai Zasshi 2019；56(2)：164-170
4. Hirashiki A, Adachi S, Okumura N, Nakano Y, Shimokata S, Shimizu A, Arai H, Toba K, Murohara T, Kondo TMedium-term ：health-related quality of life in patients with pulmonary arterial hypertension treated with goal-oriented sequential combination therapy based on exercise capacity. Health Qual Life Outcomes　2019；17(1)：103
5. Kounnavong S, Ratsavong K, Soundavong K, Xayavong S, Kariya T, Saw YM, Yamamoto E, Horibe K, Toba K, Hamajima N：Cognitive function measured with the Revised Hasegawa's Dementia Scale among elderly individuals in Lao PDR. Nagoya Journal of Medical Science　2019；81(2)：281-290
6. Kimura A, Sugimoto T, Kitamori K, Saji N, Niida S, Toba K, Sakurai T：Malnutrition is Associated with Behavioral and Psychiatric Symptoms of Dementia in Older Women with Mild Cognitive Impairment and Early-Stage. Alzheimer's Disease.　Nutrients　2019；11(8) pii：E1951
7. Sugimoto T, Ono R, Kimura A, Saji N, Niida S, Toba K, Sakurai T：Cross-Sectional Association Between Cognitive Frailty and White Matter Hyperintensity Among Memory Clinic Patients. Journal of Alzheimer's Disease　2019；72(2)：605-612
8. Kawashima K, Hirashiki A, Nomoto K, Kokubo M, Shimizu A, Sakurai T, Kondo I, Washimi Y, Arai H, Toba K, Murohara T：Peak Work Rate during Exercise Could Detect Frailty Status in Elderly Patients with Stable Heart Failure. International Heart Journal　2019；60(6)：1366-1372

＜総説＞

1. 鳥羽研二：「オレンジレジストリと認知症研究」. 日本老年医学会誌　2019；56(2)：97-106
2. 鳥羽研二:「特集Ⅰ　21 世紀の老年内科医の役割　老年医学・老年内科医の醍醐味と未来へのメッセージ」. 科学評論社　2019.7.10
3. 鳥羽研二:特集　令和新時代の医療トピックス 認知症施策推進大綱のポイント. クリニシアン　2020;67(1):13-18
4. 鳥羽研二：認知症施策推進大綱を受けて. Aging & Health　2019；93：6-11
5. 鳥羽研二：新オレンジプランから施策大綱へ. Aging&Health　2020
6. 鳥羽研二：序文：施策大綱を受けて. Geriatric Medicine　2020
7. 鳥羽研二：21 世紀の老年内科医の役割　老年医学・老年内科医の醍醐味と未来へのメッセージ　10)超高齢社会でのリーダーシップを. 日本老年内科　2020；1(1)：42-44

＜学会・研究会発表＞

1. 鳥羽研二：認知症予防は共生と共通の理念で並走する. 第 9 回日本認知症予防学会学術集会（名古屋）2019.10.18
2. 鳥羽研二：認知症への包括的アプローチ：非薬物療法をファーストチョイスに. 第 3 回日本老年薬学会. テーマ；健康長寿を目指した多職種協働による老年薬学の新たな挑戦（名古屋）2019.5.12
3. 鳥羽研二：認知症社会に備える医療，介護，社会制度. 第 22 回日本認知症学会（東京）2019.11.9

＜講師等院外活動（講演・放送等）＞

1. 鳥羽研二：認知症予防最近の話題. 東京医学会（東京）2019.5.29

2. 鳥羽研二：認知症診断と非薬物性治療について．2019 年度認知症短期集中リハビリテーション研修（医師対象）．全国老人保健施設協会（東京）2019.6.1
3. 鳥羽研二：認知症の予防とケア．神奈川鉄門会（横浜）2019.6.16
4. 鳥羽研二：高齢者の多病と多様性 1．2019 年度老人保健施設管理医師総合診療研修会（東京）2019.6.29
5. 鳥羽研二：政府の認知症施策推進大綱（6 月 18 日決定）について政府の認知症施策はどうあるべきか、特に研究の展望と課題について．毎日新聞社　2019.7.2
6. 鳥羽研二：フレイルの考え方、認知症予防に生かす．埼玉県福祉部高齢者福祉課(さいたま市)2019.7.18
7. 鳥羽研二：高齢者総合的機能評価（CGA）」．2019 年度老年医学サマーセミナー．国立長寿医療研究センター・日本老年医学会共催（愛知）2019.8.2
8. 鳥羽研二：認知症の予防と共生．実践体育学体操三井島システム記念講演（東京）2019.9.12
9. 鳥羽研二：認知症関連．日経新聞夕刊「ライフサポート面」（日本経済新聞社）2019.10.8
10. 鳥羽研二：講義 2　多病と多様性．令和元年度院内研修ジェネラルコース高齢者看護エキスパート研修．東京都健康長寿医療センター（東京）2019.10.11
11. 鳥羽研二：認知症の予防と共生．平成 31 年度専門医養成支援事業．高知医療再生機構（高知）2019.11.1
12. 鳥羽研二：認知症の共生と予防　NHK ガッテン！．主婦と生活社（東京）2019.11.13
13. 鳥羽研二：認知症施策推進大綱の具現化に向けて．第 8 回北多摩南部地域認知症連携を考える会．東京都地域拠点型認知症疾患医療センター（東京）2019.11.25
14. 鳥羽研二：フレイルの考え方とケア．第 6 回総合診療医認定講座．日本慢性期医療協会（東京）2019.12.14
15. 鳥羽研二：地域包括システムの課題　脳血管障害　認知症に見られる老年症候群をテーマに．第 34 回阪神北脳卒中地域連携研究会（宝塚）2019.12.18

センター長　許　俊鋭

＜雑誌論文＞

1. Mano A, Kilic A, Lampert BC, Smith SA, Whitson B, Hasan AK：Impact of change in body mass index on outcomes following left ventricular assist device implantation in obese patients. ASAIO Journal 2019；65：608-673
2. Mano A, Nishimura T, Murata T, Kawata M, Kyo S：A Case of HeartMate II Implantation in Non-Dilated Left Ventricle. Journal of Artificial Organs 2019；22：173-176
3. Suzuki A, Ishikawa J, Nemoto Y, Tanaka J, Nishimura T, Kyo S, Harada K：Acute Left Ventricular Free Wall Rupture Treated by Percutaneous Intra-Pericardial Fibrin-Glue Infusion. Journal of Echocardiography 2019；17：106-108
4. 河田光弘，村田知洋，眞野暁子，許俊鋭：急性冠症候群疑いにて CAG 施行後、A 型急性大動脈解離＋弓部嚢状大動脈瘤の診断となり緊急手術(total aortic arch replacement)となった一例. ICU と CCU 2019；43 別冊：S51-55
5. Kiyoyuki Chinzei, Akinobu Shimizu, Kensaku Mori, Kanako Harada, Hideaki Takeda, Makoto Hashizume, Mayumi Ishizuka, Nobumasa Kato, Ryuzo Kawamori, Shunei Kyo, Kyosuke Nagata, Takashi Yamane, Ichiro Sakuma, Kazuhiko Ohe, Mamoru Mitsuishi：Regulatory Science on AI-based Medical Devices and Systems. Advanced Biomedical Engineering 2018；7：118-123 （2018 補遺）

＜総説＞

1. 許俊鋭：特集「STOP! 医者の不養生」私の健康法-適度な飲酒. 月刊保団連 1 2020；1308
2. 許俊鋭：特集:「医療安全元年から 20 年を経て」:人工心肺トラブルシューティング 巻頭言. Clinical Engineering 2019；30(9)：811
3. 許俊鋭：特集:「医療安全元年から 20 年を経て」:人工心肺トラブルシューティング 人工心肺トラブルの成因とヒューマンエラー. Clinical Engineering 2019；30(9)：813-819

＜学会・研究会発表＞

1. 村田知洋，河田光弘，眞野暁子，許俊鋭：大動脈支援病院として救命できた心タンポナーデ合併の偽腔閉塞型 StanfordA 急性大動脈解離の 1 例. 第 34 回東京都循環器研究会（東京）2019.2.23
2. 眞野暁子，村田知洋，伊達数馬，河田光弘，許俊鋭：Biventricular Assist Device を Hybrid Extracorporeal Membrane Oxygenation に変更することで救命し得た劇症型心筋炎の一例. 第 47 回日本集中治療医学会学術集会（名古屋）2020.3.8
3. 村田知洋，伊達数馬，眞野暁子，河田光弘，許俊鋭：TAR，下行置換，Y grafting 後の残存 TAAA に対して開腹 debranching TEVAR を行った超高齢者への治療経験. Tokyo Heart Surgery Conference （東京）2019.5.10
4. 河田光弘，村田知洋，眞野暁子，許俊鋭：80 歳以上の弓部分枝病変合併急性 A 型大動脈解離に対する IPA-RCP の有用性. 会長要望演題 Malperfusion 合併急性 A 型解離に対する治療戦略. 第 47 回 日本血管外科学会学術総会（名古屋）2019.5.22-24
5. 河田光弘，村田知洋，眞野暁子，許俊鋭：85 歳以上の急性 A 型大動脈解離-弓部分枝病変合併例に対する IPA-RCP の有用性. 循環器疾患・動脈硬化. 第 61 回 日本老年医学会学術集会（仙台）2019.6.6-8
6. 村田知洋，伊達数馬，眞野暁子，河田光弘，許俊鋭：TAR，下行置換，Y grafting 後の残存 TAAA に対して開腹 debranching TEVAR を行った超高齢者への治療経験. 第 180 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会（東京）2019.6.8
7. 村田知洋，伊達数馬，眞野暁子，河田光弘，許俊鋭：急性心筋梗塞 PCI 治療後，急性大動脈解離 StanfordA を発症した一例. 第 252 回日本循環器学会関東甲信越地方会（東京）2019.6.15
8. 河田光弘，武田和大，村田哲平，二見崇太郎，青山里恵，村田知洋，眞野暁子：CoreValve Evolut R プロクタリング期間において経験した遠位弓部大動脈破裂. 第 10 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会 JTVT2019（鎌倉）2019.7.14-15
9. 伊達数馬，村田知洋，眞野暁子，河田光弘，許俊鋭：緊急 TAVI から 1 年、入院加療を余儀なくされている超高齢者の 1 例. 第 39 回東京胸部外科懇話会（東京）2019.7.15

10. 眞野暁子，村田知洋，河田光弘，許俊鋭：Bridge to Decision に Impella 5.0 を用いた重症心不全の一例. 日本集中治療医学会 第 3 回関東甲信越支部学術集会（甲府）2019.7.27
11. 伊達数馬，村田知洋，眞野暁子，河田光弘，許俊鋭：直接穿刺塞栓を含む複数回の血管内治療を施行した解離性胸部大動脈瘤の 1 例. 第 23 回大動脈ステントグラフト研究会（東京）2019.8.21
12. 伊達数馬，村田知洋，眞野暁子，河田光弘，許俊鋭：多数の併存疾患を有する胸部大動脈瘤患者に対して局所麻酔下にステントグラフト内挿術を施行した 1 例. 第 27 回血管外科学会関東甲信越地方会（東京）2019.9.28
13. 伊達数馬，村田知洋，眞野暁子，河田光弘，許俊鋭：当院での開心術周術期の人工膵臓使用の現状と課題. 第 57 回日本人工臓器学会大会（大阪）2019.11.15
14. 伊達数馬，村田知洋，眞野暁子，村田哲平，青山里恵，武田和大，藤本肇，河田光弘，原田和昌，許俊鋭：Frailty 評価から見た高齢者に対する TAVI の効果. 第 10 回日本心臓弁膜症学会（東京）2019.11.29
15. 村田知洋，伊達数馬，眞野暁子，河田光弘，許俊鋭：緊急 TAVI から 1 年経過し入院加療を余儀なくされている超高齢者の 1 例. 第 24 回板橋区医師会医学会（東京）2019.12.7
16. 伊達数馬，村田知洋，眞野暁子，河田光弘，許俊鋭：急性心筋梗塞後の心原性ショックに対する Impella2.5 の使用経験. 第 33 回日本冠疾患学会学術集会（岡山）2019.12.14
17. Mitsuhiro Kawata, Tomohiro Murata, Akiko Mano, Kazuma Date, Shunei Kyo：Brachial-ankle pulse wave velocity changes in endoskeleton stent graft comparing to exoskeleton one for the aortic arch repair. ASCVTS 2020 (28th) (Chiang Mai) 2020.2.7-10
18. 伊達数馬，村田知洋，眞野暁子，河田光弘，許俊鋭：機械的補助循環を段階的に up grade するも救命に至らなかった急性心筋梗塞後重症心不全の 1 例. 第 48 回人工心臓と補助循環懇話会学術集会（札幌）2020.2（誌上開催）
19. 伊達数馬，村田知洋，眞野暁子，河田光弘，許俊鋭：周術期の人工膵臓使用における現状と問題点. 第 47 回日本集中治療医学会学術集会（名古屋）2020.3（誌上開催）
20. 伊達数馬，村田知洋，眞野暁子，河田光弘，許俊鋭：人工膵臓を使用した周術期血糖コントロールの現状と課題. 第 50 回日本心臓血管外科学会学術集会総会（福島）2020.3（2020 年 8 月に延期）
21. 金丸晶子，荒木厚，千葉優子，羽根田千恵，府川則子，黒岩厚二郎，許俊鋭，井藤英喜：経口摂取開始チャート導入前後の嚥下食活用および禁食の推移. 第 61 回日本老年医学会（仙台）2019.6.10

＜講師等院外活動（講演・放送等）＞

1. 許俊鋭：人生 100 年時代！～健康長寿研究でみえてきた心と身体の健康法～. 令和元年東京都健康長寿医療センター気仙沼スタディー（気仙沼）2019.6.21
2. 許俊鋭：本邦における心臓移植・補助人工心臓治療 現状と将来展望. 第 3 回練馬心不全フォーラム（豊島区）2019.11.7
3. 許俊鋭：植込型補助人工心臓の永久治療(DT= Destination Therapy)の動向と長期在宅管理. 第 22 回在宅血液透析研究会（甲府）2019.11.2
4. 許俊鋭：重症心不全の外科治療:本邦における心臓移植・補助人工心臓治療現状と将来展望. 第 26 回東海胸部人工臓器カンファランス（名古屋）2019.9.7
5. 許俊鋭：重症心不全の外科治療 ： 本邦における心臓移植・補助人工心臓治療の現状と将来展望. 第 43 回東京電機大学 ME 公開講座（足立区）2019.10.15
6. 許俊鋭：医療安全として日ごろ抱えている難問を解決する-成功事例に学ぶ-. 第 6 回日本医療安全学会 パネル討論会（文京区）2020.3.7

副院長　原田 和昌

＜雑誌論文＞

1. Toba A, Ishikawa J, Suzuki A, Tamura Y, Araki A, Harada K：Orthostatic blood pressure rise is associated with frailty in older patients. Geriatrics & Gerontology International 2019;19(6):525-529
2. Suzuki A, Ishikawa J, Nemoto Y, Tanaka J, Nishimura T, Kyo S, Harada K: Acute left ventricular free wall rupture treated by percutaneous intra-pericardial fibrin-glue infusion.Journal of Echocardiography　2019；17(2)：106-108
3. Ishikawa J, Yamanaka Y, Watanabe S, Toba A, Harada K: Cornell product in an electrocardiogram is related to reduced LV regional wall motion. Hypertension Research　2019；42(4)：541-548
4. Ouchi Y, Sasaki J, Arai H, Yokote K, Harada K, Katayama Y, Urabe T, Uchida Y, Hayashi M, Yokota N, Nishida H, Otonari T, Arai T, Sakuma I, Sakabe K, Yamamoto M, Kobayashi T, Oikawa S, Yamashita S, Rakugi H, Imai T, Tanaka S, Ohashi Y, Kuwabara M, Ito H.：Ezetimibe Lipid-Lowering Trial on Prevention of Atherosclerotic Cardiovascular Disease in 75 or Older (EWTOPIA 75)：A Randomized, Controlled Trial. Circulation　2019；140(12)：992-1003
5. Matsushita K, Harada K, Miyazaki T, Miyamoto T, Kohsaka S, Iida K, Yamamoto Y, Nagatomo Y, Yoshino H, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M.：Younger- vs Older-Old Patients with Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. Journal of American Geriatrics Society　2019；67(10)：2123-2128
6. Shiraishi Y, Kohsaka S, Katsuki T, Harada K, Miyazaki T, Miyamoto T, Matsushita K, Iida K, Takei M, Yamamoto Y, Shindo A, Kitano D, Nagatomo Y, Jimba T, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M.for Tokyo CCU Network Scientific Committee.：Benefit and harm of intravenous vasodilators across the clinical profile spectrum in acute cardiogenic pulmonary oedema patients. European Heart Journal-Acute Cardiovascular Care　2020；Jan 29：2048872619891075
7. Matsushita K, Harada K, Miyazaki T, Miyamoto T, Kohsaka S, Iida K, Yamamoto Y, Nagatomo Y, Yoshino H, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M：Reply to： Heart Failure With Preserved Ejection Fraction in Older Adults. Journal of American Geriatrics Society　2020；68(3)：665-666
8. Rie Aoyama, Joji Ishikawa, Kazumasa Harada.：The Efficacy of Tolvaptan in Treating Dasatinib-Induced Pleural Effusions in Patients With Chronic Myelogenous Leukemia. Journal of Cardiology　2020；75(2)：203-207
9. 鳥羽梓弓，原田和昌，石川譲治，桑島巌： 高血圧患者における血圧日誌の実態調査理想的な血圧日誌作成に向けて．日本医事新報　2019；4973 号：37-41
10. 村田哲平，眞野暁子，西村隆，藤本肇，村田知洋，河田光弘，許俊鋭，原田和昌．急性心筋梗塞後の遷延する心原性ショックに対し植込み型補助人工心臓を装着し自宅退院した一例．日本集中治療医学会雑　2019；26 (5)：396-400

＜総説＞

1. 原田和昌，杉江正光：【慢性疾患とサルコペニア】心不全とサルコペニア．医学のあゆみ　2019；271(3)：241-245
2. 原田和昌，新井康通：多臓器疾患を合併しやすい超高齢者の心不全の特徴と治療法は?低侵襲の TAVI と併存症を考慮した体液量の管理が主な治療法となる．日本医事新報　2019；4972 号：54-55
3. 原田和昌: 心不全患者併存症としての大動脈弁狭窄症（AS）．日経メディカル　2019；4 月号：24-25
4. 石川譲二，鳥羽梓弓，原田和昌：【高齢者の高血圧治療-高血圧治療ガイドラインと実臨床での課題】臨床に役立つ Q&A　高血圧診療において高齢者総合的機能評価(CGA)は必要ですか?　Geriatric Medicine　2019；57(9)：893-895
5. 原田和昌，川上利香，常喜信彦，藤井秀毅．腎機能に着目した急性心不全治療を考える(座談会)．臨床医のための循環器診　2020；32 号：3-17
6. 原田和昌，小林欣夫：専門医に聞く　虚血性心疾患の治療　アップデート．臨床医のための循環器診療　2020；32 号：37-42

＜学会・研究会発表＞

1. 原田和昌：セッション 3+「認知症のメカニズムを内視鏡から紐解く」コメンテーター. The 13th Trans Catheter Imaging Forum 2019（大阪）2019.4.26
2. Aoyama R, Ishikawa J, Fujimoto H, Harada K：4d flow magnetic resonance assessment of alcohol septal ablation for hypertrophic obstructive cardiomyopathy and surgical valve replacement for aortic valve stenosis. AHA 2019 (Philadelphia)2019.11.17
3. Jimba T, Yamasaki M, Shindo A, Takemura K, Iwasaki Y, Matsuda J, Yamamoto Y, Takei M, Kitano D, Shiraishi Y, Tsutamoto S, Kohsaka S, Nagatomo Y, Miyazaki T, Matsushita K, Miyamoto T, Iida K, Koba S, Otsuka T, Harada K, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M, :Tokyo CCU Network Scientific Committee: Lag effct of temperature and atmospheric pressure affects the incidents and the manner of acute heart failure. AHA 2019 (Philadelphia)2019.11.17
4. 田中文，石川譲治，奥野恵子，前田哲平，河野ますよ，桜山千恵子，二見崇太郎，鳥羽梓弓，村田哲平，原田和昌：S 字状中隔における心室中隔基部の Aliasing の臨床的意義について．超音波医学 2019；46 巻 Suppl.：584
5. 小林敬翔，桜山千恵子，藤田昭寿，河野ますよ，清水優，石川譲治，鳥羽梓弓，山本文，原田和昌，許俊鋭：新型エコーゼリーの臨床的比較．超音波医学 2019；46 巻 Suppl.：568
6. 青山里恵，村田哲平，石川譲治，武田和大，藤本肇，原田和昌：重度大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁留置術(Transcatheter Aortic Valve Implantation:TAVI)の血圧及び心機能に与えるへの短期的影響．第 61 回日本老年医学会学術集会（仙台）2019.6.6
7. 鳥羽梓弓，石川譲治，田村嘉章，荒木厚，原田和昌：外来通院中の高齢者における起立性血圧変動と認知症の関連．第 61 回日本老年医学会学術集会（仙台）2019.6.7
8. 杉江正光，原田和昌，高橋哲也，奈良毬那，藤本肇，小山照幸，許俊鋭，井藤英喜：「運動を行う事が出来ないと判断されたフレイル高齢者」対策としての乾式遠赤外線サウナ（FILTS）の可能性．第 61 回日本老年医学会学術集会（仙台）2019.6.7
9. 奈良毬那，杉江正光，高橋哲也,原田和昌，藤本肇，小山照幸，許俊鋭，井藤英喜：高齢化日本一の中山間地域におけるフレイル実態調査．第 61 回日本老年医学会学術集会（仙台）2019.6.7
10. 杉江正光，原田和昌，高橋哲也，奈良毬那，藤本肇，小山照幸，許俊鋭，井藤英喜：通院高齢者フレイル予防対策トレーニング介入後におけるフレイル改善群と悪化群の特徴．第 25 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会（大阪）2019.7.13
11. 佐藤瑞穂，津元裕樹，鳥羽梓弓，梅澤啓太郎，川上恭司郎，副島友莉恵，新井冨生，原田和昌，三浦ゆり，沢辺元司：左室駆出率が保たれた心不全のヒト心筋プロテオーム解析．電気泳動 2019；63 巻 Suppl.：236
12. 青山里恵，石川譲治，原田和昌：シンポジウム 15.高齢者冠動脈疾患と多臓器連関.高齢者冠動脈疾患における変動性も含めた血圧管理．第 67 回日本心臓病学会学術集会（名古屋）2019.9.14
13. 藤本肇，佐久間隆貴，十菱千尋，清水瑠璃，大川庭熙，青山里恵，石川譲治，坪光雄介，原田和昌：透析患者に対する第二世代、第三世代薬剤溶出性ステントの 1 年後成績の比較．第 67 回日本心臓病学会学術集会（名古屋）2019.9.14
14. 進藤彰人，山崎正雄，白石泰之，武井眞，飯田圭，松下健一，原田和昌，長尾建，山本剛，高山守正，東京都 CCU ネットワーク学術委員会：日本人の慢性透析患者で急性心不全を発症した患者の背景と短期予後について．日本心臓病学会学術集会抄録 2019；67 回：優秀 1-4
15. 青山里恵，石川譲治，坪光雄介，武田和大，藤本肇，原田和昌：肥大型閉塞性心筋症へのアルコール中隔心筋焼灼と大動脈弁狭窄への外科的弁置換前後での 4DFLOW MRI を用いた心室内血流評価．日本心血管インターベンション治療学会抄録集 2019；28 回：[MO34-001]
16. 石川譲治，原田和昌：シンポジウム 6.高齢者の生活機能を高める血圧管理 高齢者高血圧に対する降圧治療はフレイルへの移行に影響を与えるか．第 42 回日本高血圧学会総会（新宿）2019.10.26
17. 石川譲治，清野諭，鳥羽梓弓，豊島堅志，田村嘉章，北村明彦，荒木厚，新開省二，原田和昌：高齢者における体力年齢と血圧の関連．第 42 回日本高血圧学会総会（新宿）2019.10.27
18. 石川譲治，清野諭，鳥羽梓弓，豊島堅志，田村嘉章，北村明彦，荒木厚，新開省二，原田 和昌：高齢者における認知機能と血圧の関連 積極的降圧から減薬への移行ポイントの検討．第 42 回日本高血圧学会総会（新宿）2019.10.27
19. 武井眞，原田和昌，白石泰之，香坂俊，宮崎哲朗，宮本貴庸，飯田圭，谷本周三，矢川真弓子，松下健一，松田淳也，岩崎陽一，長友祐司，細田徹，山本剛，長尾建，高橋寿由樹，高山守正，東京都CCUネットワーク学術委員会：救急搬送を要した心不全再入院患者における受療遅延 CCU ネットワークデータベースからの解析．第 39 回東京 CCU 研究会（東京）2019.12.7

20. 藤本肇，小宮山浩太，及川恵子，朴沢英成，原田和昌，代田浩之，中村正人，山本剛，長尾建，高山守正，東京都 CCU ネットワーク学術委員会狭心症班：高齢不安定狭心症患者において急性心不全合併が入院死亡率に及ぼす影響について．第 39 回東京 CCU 研究会（東京）2019.12.7

＜講師等院外活動（講演・放送等）＞

1. 原田和昌：プライマリ医のための心不全治療について．地域で心不全パンデミックを考える～プライマリ医・メディカルスタッフの重要性～Samsca 双方向 Skype 講演会（東京）2019.4.8
2. 原田和昌：超高齢者と AF～低体重とフレイルを考える．脳卒中-脳・心の革新的連携医療フォーラム（京都）2019.4.11
3. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方．双方向 web 講演会（東京）2019.4.17
4. 原田和昌： 超高齢者の AF マネジメント～健康寿命の延長と脳卒中予防～．山梨抗凝固療法連携講演会 2019（山梨）2019.4.17
5. 原田和昌：超高齢者の AF マネジメント-健康寿命の延長と脳卒中予防-．Bayer Medical Conference（東京）2019.5.19
6. 原田和昌：血管ドック　血管の老化を防ぐ．名医の the 太鼓判 TBS テレビ　2019.5.20
7. 原田和昌：プライマリー医の為の高齢者心不全治療．　板橋区心不全医療連携講演会（東京）2019.5.21
8. 原田和昌：超高齢者の AF マネジメント．城南カンファレンス（東京）2019.5.22
9. 原田和昌：超高齢心不全治療の新しい考え方-ポリファーマシーと終末期医療を含めて-．在宅心不全診療ネットワーク～心不全と寄り添う為の診療～Vol.2（東京）2019.5.23
10. 原田和昌：超高齢者 AF における抗凝固療法～低体重とフレイルについて．高齢者トータルケアセミナー（埼玉）2019.5.29
11. 原田和昌：超高齢者 AF における抗凝固療法～低体重とフレイルについて．第 8 回湘南横浜血栓研究会（神奈川）2019.6.12
12. 原田和昌：高齢者心不全の新しい考え方～糖尿病と併存の意義～．静岡東部心不全懇話会(静岡）2019.7.4
13. 原田和昌：高齢者心不全における ARNI について．ノバルティスファーマ社内研修会（東京）2019.7.8
14. 原田和昌：高齢者心不全治療を考える．高齢者心不全治療 Web 講演会（東京）2019.7.10
15. 原田和昌：高齢者心疾患の最新治療．東京都健康長寿医療センター　高齢医学セミナー2019（東京）2019.7.27
16. 原田和昌：超高齢者 AF における抗凝固療法～低体重とフレイルについて～．第 482 回福山地区内科会学術講演会（広島）2019.7.31
17. 原田和昌：循環器医からみる高齢者における消化器疾患マネジメント．タケキャブ WEB 講演会（東京）2019.8.1
18. 原田和昌：循環器医からみる消化管マネージメント．最新治療 UP DATE in 板橋（東京） 2019.8.22
19. 原田和昌：超高齢者 AF 患者における抗凝固療法～フレイルと低体重～．Medical Up to Date（茨城）2019.9.2
20. 原田和昌：心血管イベントを考慮した糖尿病治療．　糖尿病合併症 UPDATE-動脈硬化と心不全-（東京）2019.9.3
21. 原田和昌：超高齢者心房細動の治療を考える～心不全,認知症,フレイルについて～．小樽の高齢者医療を考える会（北海道）2019.9.9
22. 原田和昌：超高齢者 AF における抗凝固療法～低体重とフレイルについて～．BRIDGE Forum in 甲南（滋賀）2019.9.12
23. 原田和昌：超高齢者 AF における抗凝固療法～低体重とフレイルについて～．高齢者トータルマネジメントセミナー（秋田）2019.9.17
24. 原田和昌：健康的なシニアライフの過ごし方ー老年医学の立場から．桜楓カウンセリング研修会（東京）2019.9.29
25. 原田和昌：超高齢者 AF 患者における抗凝固療法について．高齢者診療 Up To Date～高齢者診療にフォーカス～（茨城）2019.10.1
26. 原田和昌：超高齢者の AF マネジメント～健康寿命の延長と脳卒中予防．小樽市医師会講演会（北海道）2019.10.7
27. 原田和昌：循環器医からみる高齢者における消化器疾患マネジメント．循環器消化器 Joint Meeting in 城北（東京）2019.10.9
28. 原田和昌：糖尿病・循環器疾患の脂質管理．興和社内セミナー（東京）2019.10.30

29. 原田和昌：高齢者の生活機能を高める血圧管理-心房細動と健康寿命．Expert Meeting in Tokyo（東京）2019.11.2
30. 原田和昌：高齢者の動脈硬化リスク因子の管理に関する新しい話題．高齢者医療 Up to DATE フォーラム（東京）2019.11.5
31. 原田和昌：超高齢者の AF マネジメント-健康寿命の延長と脳卒中予防．STOP CVD 2019 in Sendai East Area（宮城）2019.11.6
32. 原田和昌：高齢者心不全について．web 講演会（東京）2019.11.11
33. 原田和昌：フレイルと健康寿命．下松医師会学術講演会（山口）2019.11.12
34. 原田和昌：この症状どの診療科へ行けばいいの?．名医とつながる!たけしの家庭の医学　テレビ朝日 2019.11.12
35. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方．城西の心不全連携を考える会（東京）2019.11.13
36. 原田和昌：超高齢者 AF 患者における抗凝固療法～フレイルと低体重．彩の国循環器セミナー（埼玉）2019.11.25
37. 原田和昌：心不全と栄養に関して．第 2 回令和心不全カンファレンス（東京）2019.11.26
38. 原田和昌：心臓を老けさせない 4 つの新事実．名医とつながる!たけしの家庭の医学 テレビ朝日　2019.11.26
39. 原田和昌：超高齢者の AF マネジメント～健康寿命の延長と脳卒中予防．第 18 回南部循環器カンファランス（神奈川）2019.11.29
40. 原田和昌：超高齢者 AF 患者における抗凝固療法～フレイルと低体重．IWATE Expert Meeting 2019（岩手）2019.11.30
41. 原田和昌：家庭でできる心不全の予防と早期発見．第 5 回東京 CCUnet 心不全フォーラム（東京）2019.12.14
42. 原田和昌：高齢者心不全ステートメントを踏まえた心不全治療．第２回利尿薬治療を考える会（愛知）2019.12.18
43. 原田和昌：高齢者の心血管疾患とフレイルの深い関係～心不全と心房細動を中心に～．地域で診る高齢者トータルケア～フレイルと糖尿病・心不全を考える（愛知）2020.1.11
44. 原田和昌：高齢者心不全治療の新しい考え方．Otsuka Web Seminar（東京）2020.1.15
45. 原田和昌：超高齢者 AF 患者における抗凝固療法～フレイルと低体重～．県南ハートブレイン抗凝固カンファレンス（茨城）2020.1.21
46. 原田和昌：身体の不調を改善、解消するクイズ．名医とつながる!たけしの家庭の医学 テレビ朝日　2020.1.21
47. 原田和昌：超高齢者心不全の新しい考え方．Heart Failure Forum（東京）2020.1.24
48. 原田和昌：心房細動と認知症．第 157 回老年学・老年医学公開講座（東京）2020.1.29
49. 原田和昌：高齢高血圧患者のフレイル・認知症に関する心拍変動解析の活用．第 4 回臨床自律神経機能 Forum（川崎）2020.2.1
50. 原田和昌：加齢に伴う臓器機能と心機能の変化～超高齢化時代の心不全診療～．naive 研究会（東京）2020.2.2
51. 原田和昌：疾病と治療 I 循環器：血圧異常．板橋看護学校講義（東京）2020.2.5
52. 原田和昌：超高齢者の AF マネジメント～健康寿命の延長と脳卒中予防～．松本・塩筑医療連携セミナー血栓症について考える会（長野）2020.2.6
53. 原田和昌：高齢者と亜鉛（肝臓と心臓）．板橋区学術講演会～亜鉛治療の肝腎かなめ～（東京）2020.2.17

＜単行書・報告書＞

54. 原田和昌：高血圧でもフレイルは防げる．小学館クリエイティブ　東京　2019
55. 原田和昌：心房細動を防ぐ．わかさ夢 MOOK107 不整脈　わかさ出版　東京　2019　p41
56. 原田和昌：しっかりケアで血管力を高めれば若々しい肌を保つことができる　毎日が発見　東京　2019　p84-87
4. 原田和昌：怖い「塩分過多」対策１ 高血圧から起きる心臓の拡張不全．夕刊フジ　2020.1.21．9 面
5. 原田和昌：怖い「塩分過多」対策２月 認知症リスクを回避するには．夕刊フジ　2020.1.22 ．9 面
6. 原田和昌（監修）：専門家が教える超入門フレイル予防講座『健康寿命をかなえよう』企画・編著　杉江正光（発行）一般社団法人日本健康寿命延伸協会

副院長　黒岩 厚二郎

＜学会・研究会発表＞

1. 金澤伸郎，黒岩厚二郎，石崎達郎，荒木厚，井藤英喜，許俊鋭：シンポジウム フレイル・サルコペニアと手術 フレイルと手術適応 -術前評価としてのフレイルの有用性に関する検討. 日本麻酔科学会第66回学術集会（神戸）2019.5.30
2. 金澤伸郎，野島陽子，吉田孝司，三井秀雄，吉本恵理，飯塚童一郎，吉田智幸，黒岩厚二郎：高齢者の人工肛門管理. 第81回日本臨床外科学会総会（高知）2019.11.16
3. 金澤伸郎，黒岩厚二郎，石崎達郎，吉田孝司，三井秀雄，吉本恵理，飯塚童一郎，吉田智幸，荒木厚，許俊鋭，井藤英喜：術前評価としてのフレイルの有用性に関する検討. JDDW2019，第17回 日本消化器外科学会大会（神戸）2019.11.23
4. 吉田智幸，三井秀雄，藤條開，吉本恵理，飯塚童一郎，吉田孝司，金澤伸郎，黒岩厚二郎：結腸膀胱瘻と結腸直腸瘻を合併したS状結腸憩室症の1例. JDDW2019，第17回 日本消化器外科学会大会（神戸）2019.11.22

副院長　荒木　厚

＜雑誌論文＞

1. Hatano Y, Araki A, Matsumoto M, Ishibashi S：Low hemoglobin A1c and low body mass index are associated with dementia and activities of daily living disability among Japanese nursing home residents with diabetes. Geriatrics and Gerontology International　2019；19(9)：854-860
2. Horikawa C, Aida R, Kamada C, Fujihara K, Tanaka S, Tanaka S, Araki A, Yoshimura Y, Moriya T, Akanuma Y, Sone H, Japan Diabetes Complications Study Group：Vitamin B6 intake and incidence of diabetic retinopathy in Japanese patients with type 2 diabetes：analysis of data from the Japan Diabetes Complications Study (JDCS). European Journal of Nutrition　2019
3. Toba A, Ishikawa J, Suzuki A, Tamura Y, Araki A, Harada K：Orthostatic blood pressure rise is associated with frailty in elderly patients. Geriatrics & Gerontology International　2019；19：525-529
4. Omura T, Tamura Y, Kodera R, Oba K, Toyoshima K, Chiba Y, Matsuda Y, Uegaki S, Kuroiwa K, Araki A：Pancreatic cancer manifesting as Sister Mary Joseph nodule during follow up of a patient with type 2 diabetes mellitus：A case report. Geriatrics & Gerontology International　2019；19(4)：363-364
5. Omura T, Tamura Y, Kodera R, Oba K, Toyoshima K, Chiba Y, Sugihara T, Itabashi M, Shigemoto K, Araki A：Oldest-old type 1 diabetes patient receiving insulin pump treatment with positive myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody complication：A case report. Geriatrics & Gerontology International　2019；19(9)：957-958
6. Oba K, Chiba Y, Matsuda Y, Kumakawa T, Aoyama R, Akahoshi M, Hashimoto S, Tachibana A, Toyoshima K, Kodera R, Toyoshima K, Tamura Y, Nagata T, Yamazaki Y, Sasano H, Araki A：Primary Aldosteronism Associated with Multiple Adrenocortical Micronodules in a Patient with Renal Cell Carcinoma. Case Reports in Endocrinology　2020：2808101
7. Sugimoto K, Rakugi H, Kojima T, Ishii S, Akishita M, Tamura Y, Araki A, Kozaki K, Senda K, Fukuoka H, Satake S, Arai H：Chapter 4 Frailty and specific diseases. Geriatrics & Gerontology International　2020；20(Suppl1)：25-37
8. Omura T, Motoyama R,Tamura Y, Koganemaru H, Sakuma R, Okawa T, Nonaka K, Tanei Z, Shigemoto K,Tokumaru A, Murayama S, Arai T, Araki A：Meningoencephalitis due to masked mastoiditis diagnosed during follow-up in an old adult with diabetes mellitus：an autopsy case report. Geriatrics & Gerontology International　2020；20：500-501
9. Omura T, Tamura Y, Yamaoka T, Yoshimura Y, Sakurai T, Umegaki H, Kamada C, Iimuro S, Ohashi Y, Ito H, Araki A：Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial Research Group. Assessing the association between optimal energy intake and all-cause mortality in older patients with diabetes mellitus using the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial. Geriatrics & Gerontology International　2020；20：59-65
10. 千葉優子，荒木厚：糖尿病とサルコペニア・フレイル．日本医師会雑誌2019；148(8)：1489-149
11. 武井卓，板橋美津世，小沢理音，山中法子，小金丸博，松田陽子，松原知康，新井冨生，荒木厚：結核性腹膜炎の治療7ヵ月後に呼吸不全で死亡した透析例．内科　2019；123(5)：1191-1202
12. 荒木厚：認知機能障害とフレイルからみた糖尿病：高齢者糖尿病診療ガイドラインを踏まえて．老年精神医学雑誌　2019；30(9)：998-1005
13. 荒木厚：高齢者の肥満症対策-日本老年医学会の取り組み．肥満研究　2019；25(3)：(印刷中)
14. 荒木厚：高齢者糖尿病とフレイル・ADL低下．糖尿病合併症　2019；33(1)：(印刷中)
15. 荒木厚：高齢者糖尿病治療のポイント．日本薬剤師会雑誌　2020；72：235-241

＜総説＞

1. 荒木厚：高齢者糖尿病における認知機能評価の重要性 ：J-EDITからDASC-8の開発まで．月刊糖尿病　2019；11：47-54
2. 荒木厚：高齢者糖尿病の食事療法（特集 糖尿病の食事療法を極める）．月刊糖尿病　2019；11：80-87，2019.

3. 荒木厚：高齢者の生活習慣病．Medical Science Digest　45：776-779
4. 荒木厚：DASC-8 を用いた認知機能・ADL の評価．Diabetes Journal 2019；47：111-115
5. 荒木厚，大村卓也：高齢者糖尿病の食事療法　メタボ対策からフレイル対策へのシフト．Geriatric Medicine　2020；58：19-23
6. 荒木厚：見事な老いと老年的超越を目指して．（巻頭言）やまい雑感．べんちのーと　2019；30(3)：1
7. 荒木厚：CGA、老年症候群、フレイル．私が目指す老年内科．老年内科　2020；1：58-60
8. 荒木厚：高齢者糖尿病の栄養管理 - 日本人のエビデンスを踏まえて．臨床栄養　2020；136：453-459
9. 荒木厚:高齢者の肥満症をどう考えるか？-高齢者肥満症診療ガイドライン 2018 を中心に.臨床栄養　2020；136：589-591
10. 荒木厚:糖尿病診療におけるフレイルの意義.高齢者疾患診療におけるフレイルの意義.診断と治療　2020；108(3)：357-362
11. 荒木厚，大村卓也：CareNet 第16回　新ガイドラインで総エネルギー摂取量の設定法はどう変わったか．高齢者糖尿病のコツ．　2020.1.28配信
12. 荒木厚，大村卓也：CareNet 第17回メタボ対策からフレイル対策へシフトするタイミング．CareNet高齢者糖尿病のコツ．2020.1.29配信
13. 稲垣暢也，荒木厚，植木浩二郎，池上博司，岡崎由希子，豊島堅志，馬場谷成：座談会 ACP と日本糖尿病学会の血糖コントロール目標値設定からガイドラインのあり方を考える．Diabetes strategy　2019；9(3)：93-107
14. 千葉優子，荒木厚：糖尿病の栄養管理．臨床栄養　2019；135(4)：448-45415．豊島堅志，荒木厚：糖尿病患者における認知機能と ADL の評価：DASC-8．糖尿病・内分泌科　2020；　50(3)：230-235
16. 豊島堅志，荒木厚：簡単にできる認知機能評価やADL評価とは？　Heart View　2020；24：402-40717．豊島堅志，荒木厚：認知症のリスクとしての糖尿病．Geriatric Medicine　2019；57：329-33318．豊島堅志，荒木厚：糖尿病のここがわからない!?（第33回)糖尿病診療におけるDASC-8の使い方．Diabetes strategy　2019；9(2)：70-7519．小寺玲美，荒木厚：糖尿病とサルコペニア．カレントテラピー　2019；12：44-4720．大庭和人，荒木厚：シックデイの対応がうまくいかず高浸透圧高血糖状態を起こした患者.看護技術　2019；65(11)：1144-1148
21. 大村卓也，荒木厚：メトホルミンと健康長寿 - UKPDSからTAME・GLINTへ．Geriatric Medicine　2019；57(8)：803-807
22. 豊島弘一，荒木厚：生活習慣病におけるサルコペニア・フレイル．JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION　2019；28(11)：1066-1073
23. 秋下雅弘，荒井秀典，荒木厚，清水惠一郎，江澤和彦，羽鳥裕，羽生春夫，松本吉郎，楽木宏美：超高齢社会におけるかかりつけ医のための，適正使用の手引き．（作成）日本医師会　（作成協力）日本老年医学会　東京　2019；3．糖尿病：1-11
24. 渡部創，田村嘉章，荒木厚：認知症患者における糖尿病性腎症看護について．看護技術　2019；65(11)：1122-1126
25. 大村卓也，田村嘉章，荒木厚：合併症：認知症．透析患者の糖尿病管理の新展開．臨床透析　2019；35：87-94
26. 舘鼻彩，千葉優子，荒木厚：認知症高齢者の糖尿病療養支援　糖尿病合併症を発症した際の困難とその対応　視力障碍と認知機能障害を伴った高齢糖尿病患者の治療と看護．看護技術　2019；65(11)：1118-1121
27. 石井秀明，千葉優子，荒木厚：認知症高齢者の糖尿病療養支援　糖尿病合併症を発症した際の困難とその対応　糖尿病神経障害　看護技術　2019；65(11)：1127-1131

＜学会・研究会発表＞

1. 荒木厚：健康長寿を目指した高齢者糖尿病の栄養療法-メタボ対策からフレイル対策へ．日本医学会連合加盟学会連携フォーラム．第73回日本栄養・食糧学会（静岡）2019.5.17
2. 荒木厚：（ランチョンセミナー）高齢者糖尿病における合併症としての感染症．第62回日本糖尿病学会年次学術集会（仙台）2019.5.24
3. 荒木厚：（教育講演）高齢者の糖尿病．第7回日本糖尿病療養指導学術集会（福岡）2019.7.21
4. 荒木厚：（ランチョンセミナー）フレイルを考慮した高齢者糖尿病の食事療法．日本臨床栄養学会2019年度認定臨床栄養研修会（港区）2019.7.21
5. 荒木厚：(シンポジウム１)合併症からみた血糖降下薬．血糖降下薬と認知症．第34回日本糖尿病合併症学会（大阪）2019.9.27

6. 荒木厚：(シンポジウム 2) 糖尿病と認知症．糖尿病における認知機能障害の特徴、評価法、危険因子．第9回日本認知症予防学会（名古屋）2019.10.18
7. 荒木厚：(ランチョンセミナー)高齢者糖尿病と肥満症の管理．第9回日本認知症予防学会（名古屋）2019.10.18
8. 荒木厚：(ランチョンセミナー)サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病．第57回日本糖尿病学会九州地方会ランチョンセミナー（佐賀）2019.10.26
9. 荒木厚：（Meet The Expert21）高齢者糖尿病-最適な治療目標をどこに求めるか?．日本内分泌学会臨床内分泌代謝Update（高知）2019.11.30
10. 荒木厚：（座長）（クリニカルアワー6)高齢者糖尿病治療の最前線．第92回日本内分泌学会総会（仙台）2019.5.10
11. 荒木厚：（座長）（シンポジウム10）高齢者糖尿病患者の療養指導．第62回日本糖尿病学会年次学術集会（仙台）2019.5.24
12. 荒木厚：（座長）（シンポジウム)糖尿病における認知機能障害の評価法とその対策．第34回日本糖尿病合併症学会（大阪）2019.9.27
13. 荒木厚：（座長）（シンポジウム)糖尿病における認知機能障害とフレイル-脳 MRI 拡散テンソル画像による検討．第 38 回日本認知症学会総会（新宿区）2019.11.7
14. 田村嘉章，島堅志，荒木厚：高齢者糖尿病におけるフレイル・サルコペニアの適切な評価と望ましいアプローチ．(クリニカルアワー6)高齢者糖尿病治療の最前線．第92回日本内分泌学会総会（仙台）2019.5.19
15. 田村嘉章，豊島堅志，荒木厚：簡単にできる認知機能と身体機能の評価とその対策．（シンポジウム10）高齢者糖尿病患者の療養指導．第62回日本糖尿病学会年次学術集会（仙台）2019.5.24
16. 田村嘉章，豊島堅志，荒木厚：(シンポジウム)高齢者糖尿病と認知症-血糖管理目標と糖尿病治療における注意点．第9回日本脳血管・認知症学会総会（千代田区）2019.8.3
17. 田村嘉章，豊島堅志，粟田主一，荒木厚：(シンポジウム)糖尿病における認知機能障害の評価法とその対策．第34回日本糖尿病合併症学会．（大阪）2019.9.27
18. 田村嘉章，下地啓五，石川譲治，荒木厚：(シンポジウム)糖尿病における認知機能障害とフレイル-脳 MRI 拡散テンソル画像による検討．第 38 回日本認知症学会総会（新宿区）2019.11.7
19. 田村嘉章，豊島堅志，舘鼻彩，豊島弘一，大村卓也，小寺玲美，大庭和人，石川譲治，千葉優子，荒木厚：（優秀演題セッション）．GA/HbA1c 高値は高齢糖尿病患者のフレイルと歩行速度低下に関連する．第 61 回日本老年医学会学術集会（仙台）2019.6.6
20. 豊島堅志，田村嘉章，豊島弘一，舘鼻彩，大村卓也，小寺玲美，千葉優子，井藤英喜，荒木厚：（優秀演題セッション）高齢者における DASC-8 を用いたカテゴリー分類はフレイルを含む CGA の評価項目と関連し，カテゴリーII から要介護リスクが増加する．第 61 回日本老年医学会学術集会（仙台）2019.6.6
21. 田村嘉章，豊島堅志，舘鼻彩，豊島弘一，大村卓也，小寺玲美，大庭和人，石川譲治，千葉優子，荒木厚：高齢糖尿病患者における GA/HbA1c とフレイル，サルコペニアの関連．第 62 回日本糖尿病学会学術集会（仙台）2019.5.24
22. 田村嘉章，豊島堅志，舘鼻彩，豊島弘一，大村卓也，小寺玲美，大庭和人，石川譲治，千葉優子，荒木厚：GA/HbA1c 高値は高齢糖尿病患者のフレイルと歩行速度低下に関連する.第 61 回日本老年医学会学術集会(仙台）2019.6.6
23. 豊島堅志，田村嘉章，舘鼻彩，豊島弘一，大村卓也，小寺玲美，大庭和人，石川譲治，千葉優子，井藤英喜，荒木厚:高齢者糖尿病における DASC-8(認知・生活機能質問票)を用いたカテゴリー分類とフレイルとの関連．第 62 回日本糖尿病学会学術集会（仙台）2019.5.23
24. 豊島堅志，田村嘉章，豊島弘一，舘鼻彩，大村卓也，小寺玲美，千葉優子，井藤英喜，荒木厚：高齢者における DASC-8 を用いたカテゴリー分類はフレイルを含む CGA の評価項目と関連し、カテゴリーII から要介護リスクが増加する．第 61 回日本老年医学会学術集会（仙台）2019.6.7
25. 大庭和人，田村嘉章，石川譲治，舘鼻彩，豊島弘一，大村卓也，小寺玲美，豊島堅志，千葉優子，藤田泰典，伊藤雅史，田中雅嗣，井藤英喜，荒木厚：血清 GDF-15 値は高齢糖尿病患者の筋力と下肢運動機能の低下のバイオマーカーとなりうる．第 92 回日本内分泌学会学術総会（仙台）2019.5.9
26. 大庭和人，田村嘉章，舘鼻彩，豊島弘一，大村卓也，小寺玲美，豊島堅志，千葉優子，石川譲治，藤田泰典，伊藤雅史，田中雅嗣，森聖二郎、井藤英喜，荒木厚：血中 GDF-15 値は高齢糖尿病患者において筋力と下肢運動機能と関連し、サルコペニア肥満のマーカーとなりうる．第 62 回日本糖尿病学会学術集会（仙台）2019.5.24

27. 大庭和人，田村嘉章，豊島堅志，千葉優子，石川譲治，藤田泰典，伊藤雅史，田中雅嗣，井藤英喜，荒木厚：血清 GDF-15 値は高齢者のサルコペニア肥満やダイナペニア肥満のマーカーとなりうる．第 61 回日本老年医学会学術集会（仙台）2019.6.6
28. 小寺玲美，千葉優子，舘鼻彩，豊島弘一，大村卓也，大庭和人，豊島堅志，石川譲治，田村嘉章，荒木厚：高齢糖尿病患者における多剤併用とその関連因子について．第 62 回日本糖尿病学会学術集会（仙台）2019.5.25
29. 豊島弘一，田村嘉章，舘鼻彩，大村卓也，小寺玲美，大庭和人，豊島堅志，石川譲治，千葉優子，井藤英喜，荒木厚：高齢糖尿病患者におけるサルコペニアの旧基準と新基準における関連因子の違いについて．第 62 回日本糖尿病学会学術集会（仙台）2019.5.23
30. 豊島弘一，田村嘉章，石川譲治，大村卓也，小寺玲美，大庭和人，豊島堅志，千葉優子，井藤英喜，荒木厚：高齢糖尿病患者におけるサルコペニアの旧基準と新基準における関連因子の違い、および介護度との関連について．第 61 回日本老年医学会学術集会（仙台）2019.6.8
31. 舘鼻彩，千葉優子，小寺玲美，豊島弘一，大村卓也，大庭和人，豊島堅志，石川譲治，田村嘉章，荒木厚：多剤併用は高齢糖尿病患者におけるフレイルや腎機能と関連する．第 61 回日本老年医学会学術集会（仙台）2019.6.7
32. 大村卓也，田村嘉章，舘鼻彩，豊島弘一，小寺玲美，大庭和人，豊島堅志,千葉優子，荒木厚：高齢者とインスリン-インスリンポンプを使用中の超高齢 1 型糖尿病の一例．第 70 回日本老年医学会関東甲信越地方会（港区）2019.8.31
33. 松尾佳紀，田村嘉章，小寺玲美，大庭和人，豊島堅志，千葉優子，荒木厚：肥満高齢 2 型糖尿病の加療中に抗 GAD 抗体陽性となりインスリン導入した 1 例．第 57 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会（横浜）2020.1.18
34. 金丸晶子，荒木厚，千葉優子，黒岩厚二郎，引地和佳子，羽根田千恵，府川則子，許俊鋭，井藤英喜：経口摂取開始チャート導入前後の嚥下食活用および禁食の推移．第 61 回日本老年医学会学術集会（仙台）2019.6.8
35. 鳥羽梓弓，石川譲治，田村嘉章，荒木厚，原田和昌：外来通院中の高齢者における起立性血圧変動と認知症の関連．第 61 回日本老年医学会学術集会（仙台）2019.6.7
36. 島﨑良知，石川譲治，瀧川美和，森淑子，岩切理歌，石﨑達郎，荒木厚，井藤英喜：高齢者の薬物療法に関するアンケート調査．第 61 回日本老年医学会学術集会（仙台）2019.6.7
37. 岩切理歌，片岡愛，大川庭熙，小金丸博，石川譲治，瀧川美和，島﨑良知，増田義重，荒木厚，井藤英喜：高齢者急性期病院の入院患者における減薬後の経過について．第 61 回日本老年医学会学術集会（仙台）2019.6.7
38. 橋本征治，小寺玲美，舘鼻彩，豊島弘一，大庭和人，豊島堅志，仁科裕史，千葉優子，田村嘉章，荒木厚：ウレアーゼ産生菌の尿路感染症に伴う高アンモニア血症によって意識障害をきたしたレビー小体病(DLB)の一例．第 70 回日本老年医学会関東甲信越地方会（港区）2019.8.31
39. 石川譲治，清野諭，鳥羽梓弓，豊島堅志，田村嘉章，北村明彦，荒木厚，新開省二，原田和昌：高齢者における体力年齢と血圧の関連．第 42 回日本高血圧学会総会（新宿区）2019.10
40. 石川譲治，清野諭，鳥羽梓弓，豊島堅志，田村嘉章，北村明彦，荒木厚，新開省二，原田和昌：高齢者における認知機能と血圧の関連　積極的降圧から減薬への移行ポイントの検討.第 42 回日本高血圧学会総会（新宿区）2019.10
41. Toyoshima Kouichi, Tamura Y, Ishikawa J, Kodera R, Oba K, Toyoshima Kenji, Chiba Y, Ito H, Araki A：Difference in determinant factors for two criteria of sarcopenia, AWGS (Asian Working Group sarcopenia) and EWGSOP2 (European Working Group Sarcopenia in Older People 2) in older patients with diabetes mellitus. The 10th IAGG Master Class on Ageing in Asia (Changchun) 2019.6.14-16

＜講師等院外活動（講演、放送、メディア）＞

1. 荒木厚：（特別講演）認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療．Specialist Innovative Meeting（東京）2019.4.7
2. 荒木厚：（特別講演）フレイル・サルコペニアを考慮した高齢者糖尿病治療．東入間医師会学術講演会（埼玉）2019.4.12
3. 荒木厚：認知機能と ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理-DASC-8 を用いた検討．糖尿病インターネット講演会（東京）2019.4.16
4. 荒木厚：（特別講演）認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療．これからの糖尿病治療を考える会（岐阜）2019.4.18

5. 荒木厚：糖尿病，脂質異常症，甲状腺疾患．杏林大学医学部加齢医学講座 M4 講義（東京）2019.4.19
6. 荒木厚：座談会：米国内科学会の HbA1c 目標と日本糖尿病学会の目標、どちらがよいか？ （京都）2019.5.29
7. 荒木厚：（座長）特別講演「インクレチン関連薬を用いた高齢者の糖尿病治療」．今後の高齢者糖尿病を考えていく会（文京区）2019.5.30
8. 荒木厚：(ディスカッション司会)高齢者における SGLT2 阻害薬の使い方．Diabetes Academy-より良い高齢者医療を実践するために（東京）2019.5.31
9. 荒木厚：（特別講演）認知機能と ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理-DASC-8 を用いた検討．南河内生活習慣病学術講演会（大阪）2019.6.15
10. 荒木厚：（座長）特別講演「高齢者に対する DPP-4 阻害薬とメトホルミンの併用意義」．（東京）2019.6.18
11. 荒木厚：（特別講演）認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療．医療ネットワーク連携フォーラム（京都）2019.6.22
12. 荒木厚：認知機能と ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理-DASC-8 を用いた検討．郡山地区地域医療学術講演会（福島）2019.6.26
13. 荒木厚：（特別講演）認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療．第 5 回糖尿病と合併症研究会（新潟）2019.6.27
14. 荒木厚：（特別講演）サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者の糖尿病治療．メトホルミンセミナー in 米子（鳥取）2019.7.3
15. 荒木厚：第 46 回城北ブロック糖尿病教室（司会）糖尿病患者さんが語る体験談-こんなときどうする？ 糖尿病 Q&A（東京）2019.7.6
16. 荒木厚：（特別講演）フレイル・サルコペニアを考慮した高齢者の糖尿病治療．健康寿命延伸を考える会-百寿社会を目指して（福岡）2019.7.9
17. 荒木厚：認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の療養指導．第 3 回群馬県糖尿病看護実践力開発セミナー（群馬）2019.7.14
18. 荒木厚：（座長）講演「DPP-4 阻害薬と SGLT２阻害薬の引き立て方」．第 67 回板薬イブニングセミナー（豊島区）2019.7.18
19. 荒木厚：認知機能・ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理-DASC-8 を用いた検討．Medical Care Forum in Hadano（神奈川）2019.7.24
20. 荒木厚：高齢糖尿病患者の現状と課題．第 16 回西東京教育看護研修会（港区）2019.7.28
21. 荒木厚：脂質異常症の病態と栄養管理．東京都委託事業 栄養指導従事者教育事業（東京都福祉保健局・公益社団法人東京都栄養士会）（東京）2019.8.1
22. 荒木厚：（特別講演）認知症・ADL 低下を考慮した高齢者糖尿病の治療-高齢者糖尿病診療ガイドライン 2017 をふまえて．沖縄県中部糖尿病地域連携シンポジウム（沖縄）2019.8.2
23. 荒木厚：（座長）講演「CGM を用いた糖尿病治療の最適化」.糖尿病セミナー（東京）2019.8.5
24. 荒木厚：（特別講演）認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療．富岡市甘楽郡認知症カンファレンス（群馬）2019.8.22
25. 荒木厚：高齢者糖尿病の食事・運動療法-すすめ方と留意点．第 36 回糖尿病 Up・Date 賢島セミナー（三重）2019.8.24
26. 荒木厚：（特別講演）認知機能・ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理-DASC-8 を用いた検討．明日の高齢者糖尿病診療を考えるシンポジウム in 上越（新潟）2019.8.29
27. 荒木厚：サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病の療養指導．第 13 回神奈川糖尿病療養指導士認定機構研修会（神奈川糖尿病療養指導士認定機構）（神奈川）2019.9.1
28. 荒木厚：中年期から取り組むフレイル予防～元気でいきいき暮らすための秘訣～．令和元年度健康づくり事業推進指導者育成研修（新宿区）2019.9.5
29. 荒木厚：（特別講演）高齢者の新しい食事療法-薬物療法も含めて．Diabetes Academy（静岡）2019.9.6
30. 荒木厚：サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者の糖尿病治療．TAKEDA Diabetes WEB Seminar-高齢者糖尿病治療について考える（広島）2019.9.12
31. 荒木厚：(閉会の辞)第 7 回高齢者診療マスタークラス（GMC）（東京）2019.9.18
32. 荒木厚：高齢者糖尿病の食事療法の新しい考え方-メタボ対策からフレイル対策へのギアチェンジ．川越地域糖尿病療養研究会講演会（埼玉）2019.9.19
33. 荒木厚：高齢者糖尿病における認知症の問題とその対策．グルベス配合 OD 錠 Web 講演会（東京）2019.9.20

34. 荒木厚：（特別講演）認知機能・ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理-DASC-8 を用いた検討. 第 41 回横浜内科学会　糖尿病研究会（神奈川）2019.10.8
35. 荒木厚：（特別講演）認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 糖尿病治療 Update フォーラム（渋谷区）2019.10.9
36. 荒木厚：フレイルを考慮した高齢者糖尿病の薬物療法-DASC-8 から CGA へ. 第 2 回高齢者薬物療法領域薬剤師養成研究会（板橋区）2019.10.10
37. 荒木厚：(Closing Remarks)老年医学セミナー2019（板橋区）2019.10.15
38. 荒木厚：（特別講演）認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 第 56 回糖尿病センターとの病診連携の会（新宿区）, 2019.10.16
39. 荒木厚：2 型糖尿病：治療困難例の対応. 一般社団法人東京臨床糖尿病医会第 165 回例会（千代田区）2019.10.19
40. 荒木厚：（特別講演）認知機能・ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理-DASC-8 を用いた検討.　静岡東部糖尿病カンファレンス（静岡）2019.10.23
41. 荒木厚：（特別講演）認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 高齢者糖尿病治療を再考する（神奈川）2019.10.24
42. 荒木厚：フレイル・サルコペニアを考慮した療養指導. 第 22 回城北 CDE セミナー（豊島区）2019.10.27
43. 荒木厚：（特別講演）認知機能・ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理-DASC-8 を用いた検討.　高齢者糖尿病治療戦略セミナー（高知）2019.11.1
44. 荒木厚：(座長)「今日からできる！歯周病のセルフチェックとオーラルケアの基本. 中高年のための健康講座「糖尿病と歯周病のふか～い関係」（板橋区）2019.11.2
45. 荒木厚：サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療. 超高齢社会の医療を考える（立川）2019.11.5
46. 荒木厚：フレイルを考慮した糖尿病の食事療法と薬物療法. 第 16 回横浜西部・中部地区 CDE フォーラム（神奈川）2019.11.9
47. 荒木厚：高齢者の栄養管理-サルコペニア・フレイル対策も含めて. 荏原病院令和元年度 NST 講演会（大田区）2019.11.15
48. 荒木厚：みんなのきょうの料理特別セミナー～おいしい健康　健康づくりの秘訣・３つの柱（神奈川）2019.11.17
49. 荒木厚：高齢者糖尿病におけるフレイル・ポリファーマシー対策. ポリファーマシーを考える会（豊島区）2019.11.18
50. 荒木厚：（特別講演）認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 第 2 回フレイル対策と生活習慣病（静岡）2019.11.21
51. 荒木厚：（特別講演）サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療. 日本医師会生涯教育講座　第 17 回生活習慣病臨床医会（北海道）2019.11.22
52. 荒木厚：（特別講演）認知機能・ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理-DASC-8 を用いた検討. 白河 HCN 研究会（福島）2019.11.28
53. 荒木厚：（特別講演）高齢者糖尿病の転倒・骨折を防ぐために. 第 120 回東京都城北整形外科医会学術講演会（豊島区）2019.12.3
54. 荒木厚：肝疾患とインスリン抵抗性を考慮した糖尿病治療. 糖尿病と肝疾患フォーラム in 三島（大阪）2019.12.7
55. 荒木厚：（特別講演）新しい高齢者糖尿病の食事療法の考え方. 柏崎市刈羽郡医師会講演会（新潟）2019.12.10
56. 荒木厚：(座談会)糖尿病の食事療法-新しいガイドラインの考え方.　（東京）2019.12.12
57. 荒木厚：(座長)（特別講演）「糖尿病性腎臓病 2019」学術講演会-老年医学セミナー（板橋区）2019.12.19
58. 荒木厚：(座談会)サルコペニア診療の実際.　（文京区）2019.12.23
59. 荒木厚：フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療について. 地域で診る高齢者トータルケア-フレイルと糖尿病・心不全を考える（愛知）2020.1.11
60. 荒木厚：サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療. 第 363 回県北内科医会学術講演会（長崎）2020.1.23
61. 荒木厚：（特別講演）フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 糖尿病と合併症を学ぶ会（千葉）2020.1.29
62. 荒木厚：（特別講演）サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 地域で考える糖尿病フォーラム-北多摩北部医療圏（小平）2020.1.31

63. 荒木厚：高齢者の糖尿病とフレイル．令和元年度給食施設従事者講習会（江戸川）2020.2.4
64. 荒木厚：（特別講演）サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療．東大和市医師会学術講演会（東大和）2020.2.7
65. 荒木厚：（特別講演）健康寿命を目指した高齢者糖尿病の食事療法．第29回南大阪臨床栄養研究会（大阪）2020.2.8
66. 荒木厚：サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療．Diabetes Mellitus Total Care Symposium -糖尿病患者さんの高齢化を見据えて（北海道）2020.2.13
67. 荒木厚：（特別講演）フレイルを考慮した糖尿病の食事療法と運動療法．内分泌・代謝学シンポジウム 2020（文京区）2020.2.20
68. 荒木厚：糖尿病とフレイル・認知症．東京内科医会　第36回セミナー「糖尿病と Multi-morbidity(多疾患罹患状態)」（千代田区）2020.2.23
69. 荒木厚：サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療．KOWA Web Conference（東京）2020.3.3
70. 荒木厚：肥満・インスリン抵抗性を考慮した高齢者糖尿病の治療．WEB シンポジウム「肥満と糖尿病・疼痛」（東京）2020.3.17
71. 荒木厚：人生後半、食事内容をギアチェンジするタイミングがやってくる．第1回老化を防ぎ、健康寿命を延ばすカギは「たんぱく質」だった．日経グッデイ（Web 記事）2019.4.18
72. 荒木厚：老化防止にたんぱく質はどれだけ必要?「ロイシン」にも注目！．第2回「たんぱく質1日70g」をクリアする簡単ポイント計算法．日経グッデイ（Web 記事）2019.4.23
73. 荒木厚：たんぱく質だけでは不十分！ 筋トレも実践してこそ筋肉は保たれる．第3回「食事」と「運動」を両で回してこそ筋肉維持が可能に．日経グッデイ（Web 記事）2019.4.26
74. 荒木厚：～おいしい健康～ずっと元気でいるために!vol.1　みんなのきょうの料理．健康キッチン．NHK エデュケーショナル（Web 記事）2019.10.29
75. 荒木厚：～おいしい健康～ずっと元気でいるために!vol.2　みんなのきょうの料理．健康キッチン．NHK エデュケーショナル（Web 記事）2019. 11.11
76. 荒木厚：～おいしい健康～ずっと元気でいるために!vol.3　みんなのきょうの料理．健康キッチン．NHK エデュケーショナル（Web 記事）2019.10.29
77. 荒木厚：高齢者の肥満．心臓病やうつのリスク．夕刊讀賣新聞　2019.5.11
78. 荒木厚：糖尿病で注意すべき尿トラブル．コワイ病気が潜む「頻尿」の正しい対処法④．夕刊フジ　2019.6.28
79. 荒木厚：糖尿病＋頻尿＋喉の渇きは危険なサイン．コワイ病気が潜む「頻尿」の正しい対処法⑤．夕刊フジ　2019.6.29
80. 荒木厚：健康づくりの秘訣3つの柱．「おいしい健康セミナーイベントリポート」「きょうの料理」テキスト3月号　2020.2.21
81. 大村卓也，荒木厚：高齢の糖尿病患者では食べる量が少ないことも死亡リスクを高める　摂取エネルギー量と死亡率はU字型の関係-J-EDIT 研究．m3.com 臨床ダイジェスト．2020.1.10 配信
82. 大村卓也，荒木厚：高齢の糖尿病患者では食べる量が少ないことも死亡リスクを高める．CareNet．2020.1.23 配信
83. 大村卓也，荒木厚：高齢糖尿病患者では食べる量が少ないことも死亡リスクを高める-J-EDIT 研究．Health Day News 糖尿病短報．2020.1.16 配信
84. 大村卓也，荒木厚：糖尿病の食事　食べ過ぎ・少な過ぎは危険「あなたの適量は？」．糖尿病ネットワーク．2019.12.3 配信
85. 大村卓也，荒木厚：高齢者糖尿病患者の食事は、過不足なく取ることが重要と判明-都長寿研．QLifePro 医療ニュース．2019.11.27 配信

＜単行書・報告書＞

1. 荒木厚：高齢者の糖尿病（認知症を含む）．糖尿病診療ガイドライン 2019．日本糖尿病学会(編・著)　南江堂　東京　2019　p319-328
2. 荒木厚：第5章　内科疾患の理解．公認心理師カリキュラム準拠 人体の構造と機能及び疾病．武田克彦（編集），岩田淳（編集），小林靖（編集）．医歯薬出版株式会社　東京　2019　p81-93
3. 荒木厚：糖尿病と内分泌代謝疾患．老年学 第5版（標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野）．大内尉義（編）　医学書院　東京　2019　p205-217
4. 荒木厚：2型糖尿病．よくある疑問にエキスパートが答える 高齢者診療Standard Collection 32 大内尉義(監修)，藤村昭夫（編集）．株式会社じほう　東京　2019　p169-185

5. 荒木厚：高齢者糖尿病．日常診療に活かす診療ガイドラインUP-TO-DATE 2020-2021．門脇 孝（監修），小室一成（監修），宮地良樹（監修）．メディカルビュー社　大阪　2020　p1016-1021
6. 荒木厚：高齢者糖尿病におけるSGLT阻害薬の使用と注意点．ひと味違うSGLT2阻害薬の使い方．野出孝一（監修），豊田茂（編著），井上晃男（編著）．中外医学社　東京　2020　p64-69
7. 西村誠，荒木厚：高齢者の身体的機能、認知機能の評価法．どうする!? 高齢者の内視鏡診療．山本頼正（編集），西村 誠（編集）．文光堂　東京　2019　p2-5
8. 荒木厚：高齢者の糖尿病．DM Ensemble増刊号　2019；8：11
9. 荒木厚：気をつけよう高齢者糖尿病の6つの注意点．低血糖にご用心．NHKサービスセンター　2019
10. 荒木厚（監修）：高齢者糖尿病のフレイルを予防．NIPRO 株式会社　2019　p1-6
11. 日本老年医学会：改訂版健康長寿診療ハンドブック：実地医家のための老年医学のエッセンス．日本老年医学会(編)　メジカルビュー社　東京　2019(査読委員：荒木厚)

総合診療科

＜単行書に一部執筆＞

1. 岩切理歌：差分解説　高齢者のポリファーマシー対策．週刊日本維持新報4978，　pp51,2019
2. 岩切理歌：脳機能の衰えを示す“傾眠”　老親の医療を見直す節目にも，女性セブンpp124-125 ，2019.10.24
3. 岩切理歌：medicina ポリファーマシー「超」整理法 ポリファーマシー外来，医学書院 pp2206-2208，12 月号，2019
4. 瀧川美和、石川譲治、岩切理歌ほか：ソウル大学病院からのポリファーマシーカンファレンス見学訪問を受けて．　老年薬学誌．　2019；3：1-3.

＜学会発表＞

1. 岩切理歌、片岡愛、荒木厚ほか：急性期病院高齢者入院患者における減薬後の経過について．第61回日本老年医学会総会．仙台．6月、2019
2. 島﨑良知、石川譲治、岩切理歌ほか：高齢者の薬物療法に関するアンケート調査．第61回日本老年医学会学術集会　仙台，6月，2019年
3. 瀧川美和、島崎良知、岩切理歌ほか：「高齢者への不眠・せん妄に対する薬物療法」指針導入が睡眠薬の処方動向に与える影響．第3回日本老年薬学会学術大会．名古屋，5月，2019年
4. 小原朋也、島﨑良知、岩切理歌ほか：高齢者専門病院のポリファーシー対策～症例を通してみえてきた今後の課題～．第3回日本老年薬学会学術大会．名古屋，5月，2019年
5. 小原朋也、島﨑良知、岩切理歌ほか：大腿骨骨折入院患者におけるベンゾジアゼピン系薬剤の服用とポリファーマシーの現状．第29回日本医療薬学会年会．福岡，11月，2019年
6. 上江田優美、片岡愛、岩切理歌ほか：並存疾患がある高齢患者において苦慮したcrowned dens syndromeの一例．第71回日本老年医学会関東甲信越地方会．東京,3月,2020年
7. 瀧川美和、岩切理歌ほか：地域包括ケア病棟における入退院時の薬剤数および処方複雑性の変化．第71回日本老年医学会関東甲信越地方会．東京,3月,2020年

＜講師など院外活動＞

1. 岩切理歌：豊島区医師会学術講演会「ポリファーマシーの解消に向けて」，豊島区医師会館，4月17日，2019
2. 岩切理歌：板橋区ポリファーマシーを考える会 「ポリファーマシー外来」　池袋.11月18日，2019
3. 岩切理歌：Total Diabetic Management 2019，要介護状態の高齢者におけるポリファーマシーの現状と対策，福岡，11月24日，2019
4. 岩切理歌:千代田区医療職向け研修3回シリーズ第2弾　高齢者のポリファーマシー　～対策とリスク管理～千代田区．1月21日，2020
5. 岩切理歌：2月ココからミニ講座　ポリファーマシーとは　～賢いお薬の使い方～，高島平,2月22日,2020

膠原病・リウマチ科

＜雑誌論文＞

1. Kato R, Sumitomo S, Tsuchida Y, Tsuchiya H, Nakachi S, Sakurai K, Hanata N, Nagafuchi Y, Kubo K, Tateishi S, Kanda H, Okamura T, Yamamoto K, Fujio K. CD4+CD25+LAG3+ T Cells With a Feature of Th17 Cells Associated With Systemic Lupus Erythematosus Disease Activity. Front Immunol. 2019 Jul 12;10:1619.
2. Nakano M, Kubo K, Shirota Y, Iwasaki Y, Takahashi Y, Igari T, Inaba Y, Takeshima Y, Tateishi S, Yamashita H, Miyazaki M, Sato H, Kanda H, Kaneko H, Ishii T, Fujio K, Tanaka N, Mimori A. Delayed lupus nephritis in the course of systemic lupus erythematosus is associated with a poorer treatment response: a multicentre, retrospective cohort study in Japan. Lupus. 2019 Aug;28(9):1062-1073.
3. Yokoyama N, Kawasaki A, Matsushita T, Furukawa H, Kondo Y, Hirano F, Sada KE, Matsumoto I, Kusaoi M, Amano H, Nagaoka S, Setoguchi K, Nagai T, Shimada K, Sugii S, Hashimoto A, Matsui T, Okamoto A, Chiba N, Suematsu E, Ohno S, Katayama M, Migita K, Kono H, Hasegawa M, Kobayashi S, Yamada H, Nagasaka K, Sugihara T, Yamagata K, Ozaki S, Tamura N, Takasaki Y, Hashimoto H, Makino H, Arimura Y, Harigai M, Sato S, Sumida T, Tohma S, Takehara K, Tsuchiya N. Association of NCF1 polymorphism with systemic lupus erythematosus and systemic sclerosis but not with ANCA-associated vasculitis in a Japanese population. Sci Rep. 2019 Nov 8;9(1):16366.
4. Matsuda Y, Itabashi M, Tachibana Y, Sugihara T, Sakashita Y, Matsubara T, Murayama S, Yumura W, Shimizu A, Takei T, Arai T. Citrullinated histone H3 expression in anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in older Japanese autopsy patients. Geriatr Gerontol Int. 2019 Mar;19(3):259-264.
5. Omura T, Tamura Y, Kodera R, Oba K, Toyoshima K, Chiba Y, Sugihara T, Itabashi M, Shigemoto K, Araki A. Oldest-old type 1 diabetes patient receiving insulin pump treatment with positive myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody complication: A case report. Geriatr Gerontol Int. 2019 Sep;19(9):957-958.

＜総説＞

1. 久保かなえ：多発性筋炎・皮膚筋炎. Geriatric Medicine 57(12);p1173-1180, 2019
2. 久保かなえ：難治性ループス腎炎. 炎症と免疫 28(3);p46-52, 2020

＜単行本・報告書＞

1. 久保かなえ：若年者と高齢者の膠原病. 膠原病診療をスッキリまとめました, 南江堂 p56-64

＜学会・研究会発表＞

1. 栗山将一, 久保かなえ, 高橋幸利, 藤尾圭志, 他. 抗NMDA型グルタミン酸受容体抗体陽性のNeuropsychiatric SLEの一例. 医学生研修医の日本内科学会ことはじめ2019名古屋 2019.4
2. 菊池あき, 伊賀祥子, 寺田祐紀子, 久保かなえ. リウマチ性多発筋痛症に合併した側頭動脈生検陰性の無症候性血管炎性前部虚血性視神経症の１例. 第655回日本内科学会関東地方会 2019.11
3. 杉原毅彦. 高齢者リウマチ性疾患診療のポイント. 教育研修講演 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会 2019.4 京都
4. 杉原毅彦. 高齢者関節リウマチの治療のこつ. アニュアルレクチャーコース 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会 2019.4 京都
5. 岩崎由希子, 久保かなえ, 南学正臣, 藤尾圭志, 他. 当院における抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎に対する血漿交換の有用性について. ワークショップ 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会 2019.4 京都
6. 吉原理沙, 久保かなえ, 藤尾圭志, 他. 免疫抑制療法中の膠原病患者におけるCMVアンチゲネミア陽転化症例の臨床的特徴. ポスター 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会 2019.4 京都
7. 松田洋樹, 中原隆裕, 今井陽一, 土田真吏奈, 川崎和佳子, 伊賀祥子, 杉原毅彦. 大動脈炎で再燃した巨細胞性動脈炎に対してトシリズマブを使用した1例. 近未来のリウマチ医セッション 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会 2019.4 京都
8. 牛島俊征, 久保かなえ, 藤尾圭志, 他. メポリズマブが奏功した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の3例. 近未来のリウマチ医セッション 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会 2019.4 京都

＜講師等院外活動（講演・放送等）＞

1. 久保かなえ. 関節リウマチの治療戦略. RA Seminar for Pharmacists　2019.7 板橋
2. 久保かなえ. 女性に多い関節リウマチ講座. 令和元年度女性健康セミナー　2019.10　板橋
3. 伊賀祥子、久保かなえ. 当院における全身性エリテマトーデスの発症年代別の比較. 高齢者のリウマチ関連疾患を考える会　2019.12　豊島

腎臓内科・血液透析科

＜原著論文＞

1. Yamaguchi Y, Itabashi M, Yumura W, Takei T. Geriatric assessment of estimated glomerular filtration rate: a cross-sectional study. Clin Exp Nephrol. 2020;24:216-224.
2. Ino A, Kaori S, Takei T, Nitta K. Different effects of rituximab on a native kidney and a post-transplant kidney with recurrence of focal segmental glomerulosclerosis. CEN Case Rep. 2020 Jan 30. doi: 10.1007/s13730-020-00451-3.
3. Nonaka K, Matsuda Y, Kakizaki M, Takakuma S, Hamamatsu A, Sakashita Y, Matsubara T, Murayama S, Ishiwata T, Yamanaka N, Itabashi M, Takei T, Nakajima N, Hasegawa H, Arai T. Acute Liver Failure Associated with Influenza A Virus Infection: an Autopsy Case Report. Jpn J Infect Dis. 2019 Sep 19;72(5):347-349. doi: 10.7883/yoken.JJID.2018.494.
4. Omura T, Tamura Y, Kodera R, Oba K, Toyoshima K, Chiba Y, Sugihara T, Itabashi M, Shigemoto K, Araki A. Oldest-old type 1 diabetes patient receiving insulin pump treatment with positive myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody complication: A case report. Geriatr Gerontol Int. 2019 Sep;19(9):957-958.
5. 山口靖子, 山中法子, 仁科裕史, 板橋美津世, 武井卓, アプリンジンにより構音障害を呈した高齢透析患者の1例, 日本透析医学会雑誌 (1340-3451)52巻8号 Page485-489, (2019.08)
6. 武井卓, 山中法子, 松田陽子, 上江田優美, 野中敬介, 村山繁雄,坂下泰浩 CONFERENCE ROOM 高度の肝機能障害を呈したA型インフルエンザウイルス感染症の1例(症例検討会)東京都健康長寿医療センターCPC、内科；124巻6号 Page2553-2563(2019.12)
7. 武井卓, 板橋美津世, 小沢理音, 山中法子, 小金丸博, 松田陽子, 松原知康, 新井冨生, 荒木厚, CONFERENCE ROOM 結核性腹膜炎の治療7ヵ月後に呼吸不全で死亡した透析例(症例検討会)東京都健康長寿医療センターCPC、内科；123巻5号 Page1191-1202(2019.05)

＜総説＞

1. 山口靖子、清水章：腎生検から病院病態を読む、病因にみる病変バリエーション、腎と透析 vol87.621-625,(2019.10)
2. 板橋美津世：全身性疾患と腎、抗リン脂質抗体症候群-腎専門医の視点より-、腎と透析 vol86 東京医学社 Page50-53, (2019.6)

＜学会抄録＞

1. 山口靖子、松川美保、松野志歩、山中法子、赤木大輔、板橋美津世、武井卓、DAPT療法下でシャント手術中に大量出血した直腸のDeulafoy潰瘍を一度で止血得た高齢透析患者の一例、日本老年医学会関東甲信越地方会 東京 2020,3
2. 杉本光、山口靖子、松野志歩、山中法子、板橋美津世、武井卓、高齢発症のIgA血管炎とネフローゼ症候群を認めた3例、日本老年医学会関東甲信越地方会 東京 2020,3
3. 山口靖子, 上條由佳, 北山智草, 高上紀之, 小野慶介, 柳麻衣, 板橋美津世, 武井卓, 石橋由孝, 終末期ケアとしての高齢在宅腹膜透析(PD)3例, 日本腎臓学会東部学術大会、東京、2019.11
4. 橋本征治, 山中法子, 山口靖子, 板橋美津世, 武井卓, 高齢者IgG4関連腎臓病に対しリツキシマブ併用し少量ステロイドで寛解維持可能であった一例, 日本腎臓学会東部学術大会、東京、2019.11
5. 松野志歩, 山口靖子, 山中法子, 湯村和子, 板橋美津世, 武井卓, 膜性増殖性糸球体腎炎(MPGN)様の病変を来した高齢IgA血管炎の1症例、日本腎臓学会東部学術大会、東京、2019.11
6. Yamaguchi Y, Kamijo Y, Kitayama C, Kounoue N, Ono O Yanagi M, Itabashi M, Takei T, Ishibashi Y Three cases of home-based geriatric peritoneal dialysis (PD) with various cooperation of home health care in Japan, ISPD: Hiroshima Japan. 2019.9
7. 橘靖子, 山中法子, 高橋尚子, 齊藤英一, 板橋美津世, 武井卓, 透析の導入、差し控えの意思決定を支えた癌終末期患者の一例, 日本透析医学会総会、横浜、2019.06
8. 玉田史織, 荒井慎吾, 小澤直人, 和田智至, 高岡祐子, 鶴田悠木, 武井卓, 板橋美津世、ハッピーキャスC-PRO導入時の評価、日本透析医学会総会、横浜、2019.06
9. 山口靖子, 山中法子, 松田陽子, 新井冨生, 湯村和子, 清水章, 板橋美津世, 武井卓、尿異常を認めない高齢者剖検腎の病理学的特徴、日本腎臓学会総会、名古屋、2019.06
10. 山中法子, 橘靖子, 板橋美津世, 谷口優, 北村明彦, 武井卓、地域高齢者における腎機能とサルコペニアの

関連性、日本腎臓学会総会、名古屋、2019.0
11. 板橋美津世，橘靖子，山中法子，武井卓、高齢者における慢性腎臓病重症度分類と腎死リスクについて、日本腎臓学会総会、名古屋、2019.06
12. 武井卓，山中法子，橘靖子，谷口優，北村明彦，新開省二，板橋美津世、地域在宅高齢者の慢性腎臓病と認知機能障害の関連性、日本腎臓学会総会、名古屋、2019.06
13. 板橋美津世，武井卓，谷口優，北村明彦，新開省二、高齢者慢性腎臓病とフレイルの関連性、日本老年医学会総会、仙台、2019.06
14. 武井卓，板橋美津世，谷口優，北村明彦，新開省二、高齢者慢性腎臓病と認知機能障害の関連性、日本老年医学会総会、仙台、2019.06

＜講師等院外活動＞

1. 武井卓：当院における高齢者のDKDについて.老年医学セミナー、東京・板橋. 12月2019
2. 武井卓：慢性腎臓病とフレイル. 第7回腎疾患病病連携の会、東京・新宿. 11月 2019.
3. 武井卓：高齢者の腎臓と薬剤投与. 第３回北区CKD治療懇談会、東京・北　10月2019
4. 山口靖子：高齢在宅PDの経験例：IPD Practical seminar, 東京・板橋　9月　2019

糖尿病・代謝・内分泌内科

今年度も当科スタッフと多くの共同研究者によって盛んに研究を行い、その結果、誌上発表80、学会発表42、講演その他は104で総発表数は226と昨年と比べて増加した。当科の若い先生の症例報告や専門部長の発表が増えたことが特徴である。

研究のテーマは糖尿病と認知機能、フレイル・サルコペニアである。介護施設の糖尿病患者のHbA1cと認知症または要介護度との関係（荒木)、フレイル診療ガイド（田村)、高齢者糖尿病のエネルギー量と死亡との関連（大村)、腎癌と原発性アルドステロン症の合併例（大庭）の論文が英文誌に掲載された。また、豊島（堅）はDASC-8に関する研究論文でGeriatrics and Gerontology International の優秀論文賞を受賞し、日本老年医学会で表彰された。その他、J-MIND、高齢者の低栄養、オレンジレジストリーなどのAMED研究や長寿医療研究費研究に参加している。全国の大学病院等の糖尿病患者のレジストリー研究「J-DREAMS」に参加し、約1000人の患者を登録した。

当科スタッフは合同委員会の「高齢者糖尿病治療ガイド2021」、日本老年医学会の「高齢者薬物療法ガイドライン2021」「老年医学用語集」の作成に関与している。

＜雑誌論文＞

1. Hatano Y, Araki A, Matsumoto M, Ishibashi S. Low hemoglobin A1c and low body mass index are associated with dementia and activities of daily living disability among Japanese nursing home residents with diabetes. Geriatr Gerontol Int. 2019;19(9):854-860.
2. Horikawa C, Aida R, Kamada C, Fujihara K, Tanaka S, Tanaka S, Araki A, Yoshimura Y, Moriya T, Akanuma Y, Sone H; Japan Diabetes Complications Study Group. Vitamin B6 intake and incidence of diabetic retinopathy in Japanese patients with type 2 diabetes: analysis of data from the Japan Diabetes Complications Study (JDCS). Eur J Nutr. 2019 May 31.
3. Toba A, Ishikawa J, Suzuki A, Tamura Y, Araki A, Harada K. Orthostatic blood pressure rise is associated with frailty in elderly patients. Geriatr Gerontol Int 2019 ;19: 525-529.
4. Omura T, Tamura Y, Kodera R, Oba K, Toyoshima K, Chiba Y, Matsuda Y, Uegaki S, Kuroiwa K, Araki A. Pancreatic cancer manifesting as Sister Mary Joseph nodule during follow up of a patient with type 2 diabetes mellitus: A case report. Geriatr Gerontol Int. 2019; 19(4):363-364.
5. Omura T, Tamura Y, Kodera R, Oba K, Toyoshima K, Chiba Y, Sugihara T, Itabashi M, Shigemoto K, Araki A. Oldest-old type 1 diabetes patient receiving insulin pump treatment with positive myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody complication: A case report. Geriatr Gerontol Int. 2019; 19(9):957-958.
6. Akimoto Y, Yan K, Miura Y, Tsumoto H, Toda T, Fukutomi T, Sugahara D, Kudo A, Arai T, Chiba Y, Kaname S, Hart GW, Endo T, Kawakami H. O-GlcNAcylation and phosphorylation of β-actin Ser199 in diabetic nephropathy. Am J Physiol Renal Physiol. 2019; 317(5):F1359-F1374.
7. Miura Y, Hayakawa A, Kikuchi S, Tsumoto H, Umezawa K, Chiba Y, Soejima Y, Sawabe M, Fukui K, Akimoto Y, Endo T. Fumarate accumulation involved in renal diabetic fibrosis in Goto-Kakizaki rats. Arch Biochem Biophys. 2019; 678:108167.
8. Oba K, Chiba Y, Matsuda Y, Kumakawa T, Aoyama R, Akahoshi M, Hashimoto S, Tachibana A, Toyoshima K, Kodera R, Toyoshima K, Tamura Y, Nagata T, Yamazaki Y, Sasano H, Araki A. Primary Aldosteronism Associated with Multiple Adrenocortical Micronodules in a Patient with Renal Cell Carcinoma. Case Rep Endocrinol. Feb 24; 2020: 2808101.
9. Adachi Y, Toyoshima K, Nishimoto R, Ueno S, Tanaka T, Imaizumi A, Arashida N, Nakamura M, Abe Y, Hakamada T, Kaneko E, Takahashi S, Jinzu H, Shimokado K. Association between plasma α-aminobutyric acid and depressive symptoms in older community-dwelling adults in Japan. Geriatr Gerontol Int. 2019;19(3):254-258.
10. Sugimoto K, Rakugi H, Kojima T, Ishii S, Akishita M, Tamura Y, Araki A, Kozaki K, Senda K, Fukuoka H, Satake S, Arai H. Chapter 4 Frailty and specific diseases. Geriatr Gerontol Int. 2020;20 Suppl 1:25-37.
11. Omura T, Motoyama R, Tamura Y, Koganemaru H, Sakuma R, Okawa T, Nonaka K, Tanei Z, Shigemoto K, Tokumaru A, Murayama S, Arai T, Araki A. Meningoencephalitis due to masked mastoiditis diagnosed during follow-up in an old adult with diabetes mellitus: an autopsy case report. Geriatr Gerontol Int (in press).
12. Omura T, Tamura Y, Yamaoka T, Yoshimura Y, Sakurai T, Umegaki H, Kamada C, Iimuro S, Ohashi Y, Ito H, Araki A, Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial Research Group. Assessing the

association between optimal energy intake and all-cause mortality in older patients with diabetes mellitus using the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial. Geriatr Gerontol Int 20(1): 59-65, 2020.
13. 千葉優子, 荒木厚:糖尿病とサルコペニア・フレイル. 日本医師会雑誌 148(8):1489-1492, 2019.
14. 武井卓,板橋美津世,小沢理音,山中法子,小金丸博,松田陽子,松原知康,新井冨生,荒木厚. 結核性腹膜炎の治療7ヵ月後に呼吸不全で死亡した透析例. 内科:123 (5):1191-1202, 2019.
15. 荒木厚:認知機能障害とフレイルからみた糖尿病 : 高齢者糖尿病診療ガイドラインを踏まえて. 老年精神医学雑誌30(9):998-1005, 2019.
16. 荒木厚: 高齢者の肥満症対策―日本老年医学会の取り組み. 肥満研究25(3): 2019(印刷中).
17. 荒木厚: 高齢者糖尿病とフレイル・ADL低下. 糖尿病合併症33(1):43 -47, 2019. (印刷中).
18. 荒木厚: 高齢者糖尿病治療のポイント. 日本薬剤師会雑誌 72: 235-241, 2020.

(総説)

19. 荒木厚:高齢者糖尿病における認知機能評価の重要性 : J-EDITからDASC-8の開発まで. 月刊糖尿病11:47-54, 2019.
20. 荒木厚: 高齢者糖尿病の食事療法（特集 糖尿病の食事療法を極める). 月刊糖尿病 11:80-87, 2019.
21. 荒木厚: 高齢者の生活習慣病. Medical Science Digest 45:776-779, 2019.
22. 荒木厚: DASC-8 を用いた認知機能・ADL の評価. Diabetes Journal 47:111-115, 2019.
23. 荒木厚, 大村卓也: 高齢者糖尿病の食事療法 メタボ対策からフレイル対策へのシフト. Geriatric Medicine 58: 19-23, 2020.
24. 荒木厚: 見事な老いと老年的超越を目指して.（巻頭言）やまい雑感. べんちのーと 30(3) : 1, 2019.
25. 荒木厚: CGA、老年症候群、フレイル. 私が目指す老年内科 老年内科 1 : 58-60, 2020.
26. 荒木厚: 高齢者糖尿病の栄養管理 - 日本人のエビデンスを踏まえて. 臨床栄養 136: 453-459, 2020.
27. 荒木厚: 高齢者の肥満症をどう考えるか？－高齢者肥満症診療ガイドライン2018を中心に. 臨床栄養 136: 589-591, 2020.
28. 荒木厚:糖尿病診療におけるフレイルの意義. 高齢者疾患診療におけるフレイルの意義). 診断と治療 108(3): 357-362, 2020.
29. 荒木厚、大村卓也: CareNet 第16回 新ガイドラインで総エネルギー摂取量の設定法はどう変わったか. 高齢者糖尿病のコツ. 1月28日配信, 2020.
30. 荒木厚、大村卓也: CareNet 第17回メタボ対策からフレイル対策へシフトするタイミング. CareNet高齢者糖尿病のコツ. 1月29日配信, 2020.
31. 稲垣暢也,荒木厚,植木浩二郎,池上博司,岡﨑由希子,豊島堅志,馬場谷成.座談会 ACP と日本糖尿病学会の血糖コントロール目標値設定からガイドラインのあり方を考える。Diabetes strategy 9(3):93-107, 2019.
32. 千葉優子, 荒木厚 : 糖尿病の栄養管理. 臨床栄養135(4): 448-454, 2019.
33. 豊島堅志, 荒木厚 : 糖尿病患者における認知機能とADLの評価: DASC-8. 糖尿病・内分泌科 50(3):230-235, 2020.
34. 豊島堅志, 荒木厚 : 簡単にできる認知機能評価やADL評価とは？ Heart View 24:402-407, 2020.
35. 豊島堅志, 荒木厚: 認知症のリスクとしての糖尿病. Geriatric Medicine 57:329-333, 2019.
36. 豊島堅志, 荒木厚:糖尿病のここがわからない!? (第33回)糖尿病診療におけるDASC-8の使い方. Diabetes strategy 9(2):70-75, 2019.
37. 小寺玲美, 荒木厚 : 糖尿病とサルコペニア. カレントテラピー12 : 44-47, 2019.
38. 大庭和人, 荒木厚:シックデイの対応がうまくいかず高浸透圧高血糖状態を起こした患者.看護技術 65(11):1144-1148, 2019.
39. 大村卓也, 荒木厚 : メトホルミンと健康長寿 - UKPDSからTAME・GLINTへ. Geriatric Medicine57(8): 803-807, 2019.
40. 豊島弘一, 荒木厚 : 生活習慣病におけるサルコペニア・フレイル. JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION 28(11): 1066-1073, 2019.
41. 秋下雅弘、荒井秀典、荒木厚、清水惠一郎、江澤和彦、羽鳥裕、羽生春夫、松本吉郎、楽木宏美：超高齢社会におけるかかりつけ医のための適正使用の手引き. 3. 糖尿病（作成）日本医師会、(作成協力）日本老年医学会. 東京, 1-11, 2019.
42. 田村嘉章: 認知症が進行した高齢糖尿病患者にはどのように対応するか？内分泌・糖尿病・代謝内科 49: 429-434, 2019.
43. 田村嘉章: 糖尿病に伴う認知機能障害のMRI(脳画像). 月間糖尿病11: 55-61, 2019.
44. 田村嘉章: 高齢糖尿病患者の血糖コントロール目標の設定. 看護技術65: 1114-1117, 2019.
45. 田村嘉章: 事例にみる療養支援の実際 低血糖により認知機能障害をきたした患者. 看護技術65: 1149-

46. 田村嘉章: CareNet 第9回高齢者糖尿病の薬物療法（総論、SU薬）. 高齢者糖尿病診療のコツ, 2019.
47. 田村嘉章 : CareNet 第10回　高齢者糖尿病の薬物療法（メトホルミン、SGLT2阻害薬）. 高齢者糖尿病診療のコツ, 2019.
48. 田村嘉章: CareNet　第14回　高齢糖尿病患者の動脈硬化、介入や治療強化のタイミングは？高齢者糖尿病診療のコツ, 2019.
49. 田村嘉章: CareNet　第18回　高齢糖尿病患者の脂質管理、目標値や薬剤選択は？高齢者糖尿病診療のコツ, 2019.
50. 渡部創, 田村嘉章, 荒木厚:認知症患者における糖尿病性腎症看護について. 看護技術 65(11):1122-1126, 2019.
51. 大村卓也, 田村嘉章, 荒木厚:合併症: 認知症. 透析患者の糖尿病管理の新展開. 臨床透析35: 87-94, 2019.
52. 千葉優子 : SPPARMαへの期待　新しい脂質改善薬の位置付けと役割　編集 : 山下静也　フジメディカル出版 2019　SPPARMαの幅広い使い方　高齢者　p156-161
53. 千葉優子 : 高齢者の栄養管理パーフェクトガイド　高齢者の疾患・病態等の栄養管理　糖尿病の栄養管理 臨床栄養　135(4): 448-454, 2019.
54. 千葉優子 : 認知症高齢者の糖尿病療養支援　認知症高齢者の糖尿病療養支援　看護技術　65(11): 1110-1113, 2019.
55. 千葉優子 : 認知症高齢者の糖尿病療養支援　事例にみる療養支援の実際　フレイルにより身体活動量や意欲が低下した認知機能障害の患者　看護技術　65(11): 1160-1166, 2019.
56. 千葉優子 : CareNet第8回　高齢者の運動療法の進め方、工夫のポイント. 高齢者糖尿病診療のコツ, 2019/4/16公開
57. 千葉優子 : CareNet第15回　高齢糖尿病患者の高血圧、どこまで厳格に管理する？　高齢者糖尿病診療のコツ, 2019/11/26公開
58. 舘鼻彩、千葉優子、荒木厚 : 認知症高齢者の糖尿病療養支援　糖尿病合併症を発症した際の困難とその対応 視力障碍と認知機能障害を伴った高齢糖尿病患者の治療と看護　看護技術　65(11): 1118-1121, 2019.
59. 石井秀明、千葉優子、荒木厚 : 認知症高齢者の糖尿病療養支援　糖尿病合併症を発症した際の困難とその対応　糖尿病神経障害　看護技術　65(11): 1127-1131, 2019.
60. 豊島堅志 : コメント: 多様性と単純性をどう両立するか. ACPと日本糖尿病学会の血糖コントロール目標値設定から、ガイドラインのあり方を考える. Diabetes strategy 9:109, 2019.
61. 豊島堅志 : 大血管障害（動脈硬化症）. 看護技術65(11): 1132-1135, 2019.
62. 豊島堅志:事例にみる療養支援の実際　MCIからセルフケアが困難になった例. 看護技術65(11), 1139-1143, 2019.
63. 豊島堅志 : CareNet 第11回 高齢者でも！注射製剤の活用法」高齢者糖尿病診療のコツ, 2019年8月
64. 豊島堅志 : CareNet 第12回 低血糖、シックデイ、アドヒアー注射剤にまつわる問題への対処法. 高齢者糖尿病診療のコツ,2019年8月
65. 豊島堅志 : CareNet 第13回 糖尿病合併症の管理、高齢者では？高齢者糖尿病診療のコツ, 2019年10月
66. 豊島堅志 : DASC-8の使い方. 老年内科1(1):104-108, 2020.
67. 小寺玲美 : 糖尿病足病変. 認知症高齢者の糖尿病療養支援. 看護技術10 : 40-42, 2019.

(書籍・その他)

68. 荒木厚: 高齢者の糖尿病（認知症を含む）. 糖尿病診療ガイドライン 2019. 日本糖尿病学会(編・著). 南江堂, 東京, 319-328, 2019.
69. 荒木厚 : 第5章　内科疾患の理解. 公認心理師カリキュラム準拠 人体の構造と機能及び疾病. 武田克彦（編集), 岩田淳（編集), 小林靖（編集). 医歯薬出版株式会社, 東京, 81-93, 2019.
70. 荒木厚 : 糖尿病と内分泌代謝疾患. 老年学 第5版（標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野). 大内尉義（編). 医学書院, 東京, 205-217, 2019.
71. 荒木厚 : 2型糖尿病. よくある疑問にエキスパートが答える 高齢者診療Standard Collection 32 大内尉義(監修), 藤村昭夫（編集). 株式会社じほう, 東京, 169-185, 2019.
72. 荒木厚 : 高齢者糖尿病. 日常診療に活かす診療ガイドラインUP-TO-DATE 2020-2021. 門脇孝（監修), 小室一成（監修), 宮地良樹（監修). メディカルビュー社, 大阪, 1016-1021, 2020.
73. 荒木厚:高齢者糖尿病におけるSGLT阻害薬の使用と注意点. ひと味違うSGLT2阻害薬の使い方. 野出孝一（監修), 豊田茂（編著), 井上晃男（編著）. 中外医学社, 東京, 64-69, 2020.
74. 西村誠、荒木厚 : 高齢者の身体的機能、認知機能の評価法. どうする!? 高齢者の内視鏡診療. 山本頼正（編集), 西村誠（編集). 文光堂, 東京, 2-5, 2019.
75. 荒木厚: 高齢者の糖尿病. DM Ensemble 8: 11, 増刊号, 2019.
76. 荒木厚: 気をつけよう高齢者糖尿病の６つの注意点. 低血糖にご用心. NHKサービスセンター, 2019.
77. 荒木厚（監修）: 高齢者糖尿病のフレイルを予防. NIPRO 株式会社, 1-6, 2019.
78. 日本老年医学会: 改訂版健康長寿診療ハンドブック : 実地医家のための老年医学のエッセンス. 日本老年医

78. 日本老年医学会: 改訂版健康長寿診療ハンドブック：実地医家のための老年医学のエッセンス. 日本老年医学会(編).メジカルビュー社, 東京, 2019.(査読委員:荒木厚).
79. 田村嘉章.高齢者の脂質異常. 改訂版健康成就診療ハンドブック 日本老年医学会 （メジカルビュー社,東京）102-104, 2019.
80. 大村卓也: ALCAM/CD166のシェディング感受性を規定する分子機構と機能的意義の解明. 日本学術振興会特別研究員 実績報告書. 2020.

＜学会発表＞

1. 荒木厚：健康長寿を目指した高齢者糖尿病の栄養療法ーメタボ対策からフレイル対策へ. 日本医学会連合加盟学会連携フォーラム. 第73回日本栄養・食糧学会, 静岡, 5月17日, 2019.
2. 荒木厚：(ランチョンセミナー) 高齢者糖尿病における合併症としての感染症. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 5月24日, 2019.
3. 荒木厚：(教育講演) 高齢者の糖尿病. 第7回日本糖尿病療養指導学術集会. 福岡, 7月21日, 2019.
4. 荒木厚：(ランチョンセミナー) フレイルを考慮した高齢者糖尿病の食事療法. 日本臨床栄養学会2019年度認定臨床栄養研修会. 東京, 7月21日, 2019.
5. 荒木厚:血糖降下薬と認知症.（シンポジウム１)合併症からみた血糖降下薬.第34回日本糖尿病合併症学会. 大阪, 9月27日, 2019.
6. 荒木厚: 糖尿病における認知機能障害の特徴、評価法、危険因子.（シンポジウム 2）糖尿病と認知症. 第9回日本認知症予防学会. 名古屋, 10月18日, 2019.
7. 荒木厚:（ランチョンセミナー)高齢者糖尿病と肥満症の管理. 第9回日本認知症予防学会. 名古屋, 10月18日, 2019.
8. 荒木厚:(ランチョンセミナー)サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病. 第57回日本糖尿病学会九州地方会ランチョンセミナー. 佐賀, 10月26日, 2019.
9. 荒木厚: (Meet The Expert21) 高齢者糖尿病 --- 最適な治療目標をどこに求めるか? 日本内分泌学会臨床内分泌代謝Update. 高知, 11月30日, 2019.
10. 荒木厚:（座長）(クリニカルアワー6)高齢者糖尿病治療の最前線. 第92回日本内分泌学会総会. 仙台, 5月10日, 2019.
11. 荒木厚:（座長）(シンポジウム10) 高齢者糖尿病患者の療養指導. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 5月24日, 2019.
12. 荒木厚:（座長）(シンポジウム)糖尿病における認知機能障害の評価法と その対策. 第34回日本糖尿病合併症学会. 大阪, 9月27日, 2019.
13. 荒木厚:（座長）(シンポジウム)糖尿病における認知機能障害とフレイル-脳 MRI 拡散テンソル画像による検討. 第 38 回日本認知症学会総会. 東京, 11 月 7 日, 2019..
14. 田村嘉章、豊島堅志、荒木厚：高齢者糖尿病におけるフレイル・サルコペニアの適切な評価と望ましいアプローチ.（クリニカルアワー6)高齢者糖尿病治療の最前線. 第92回日本内分泌学会総会. 仙台, 5月10日, 2019.
15. 田村嘉章、豊島堅志、荒木厚：簡単にできる認知機能と身体機能の評価とその対策.（シンポジウム10）高齢者糖尿病患者の療養指導. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 5月24日, 2019.
16. 田村嘉章、豊島堅志、荒木厚:（シンポジウム)高齢者糖尿病と認知症―血糖管理目標と糖尿病治療における注意点.第9回日本脳血管・認知症学会総会. 東京, 8月3日, 2019.
17. 田村嘉章、豊島堅志、粟田主一、荒木厚: （シンポジウム)糖尿病における認知機能障害の評価法と その対策. 第34回日本糖尿病合併症学会. 大阪, 9月27日, 2019.
18. 田村嘉章、下地啓五、石川譲治、荒木厚:（シンポジウム)糖尿病における認知機能障害とフレイル-脳 MRI 拡散テンソル画像による検討. 第 38 回日本認知症学会総会. 東京, 11 月 7 日, 2019.
19. 田村嘉章、豊島堅志、舘鼻彩、豊島弘一、大村卓也、小寺玲美、大庭和人、石川譲治、千葉優子、荒木厚：（優秀演題セッション）. GA/HbA1c 高値は高齢糖尿病患者のフレイルと歩行速度低下に関連する. 第 61 回日本老年医学会学術集会. 仙台, 6 月 6 日, 2019.
20. 豊島堅志、田村嘉章、豊島弘一、舘鼻彩、大村卓也、小寺玲美、千葉優子、井藤英喜、荒木厚: （優秀演題セッション）高齢者における DASC-8 を用いたカテゴリー分類はフレイルを含む CGA の評価項目と関連し, カテゴリーII から要介護リスクが増加する. 第 61 回日本老年医学会学術集会. 仙台, 6 月 6 日, 2019.
21. 田村嘉章、豊島堅志、舘鼻彩、豊島弘一、大村卓也、小寺玲美、大庭和人、石川譲治、千葉優子、荒木厚：高齢糖尿病患者における GA/HbA1c とフレイル, サルコペニアの関連. 第 62 回 日本糖尿病学会学術集会. 仙台, 5 月 24 日, 2019.
22. 田村嘉章、豊島堅志、舘鼻彩、豊島弘一、大村卓也、小寺玲美、大庭和人、石川譲治、千葉優子、荒木厚. GA/HbA1c 高値は高齢糖尿病患者のフレイルと歩行速度低下に関連する. 第 61 回日本老年医学会学術集会. 仙台, 6 月 6 日, 2019.

23. 豊島堅志、田村嘉章、舘鼻彩、豊島弘一、大村卓也、小寺玲美、大庭和人、石川譲治、千葉優子、井藤英喜、荒木厚:高齢者糖尿病における DASC-8(認知・生活機能質問票)を用いたカテゴリー分類とフレイルとの関連. 第 62 回　日本糖尿病学会学術集会. 仙台, 5 月 23 日, 2019.
24. 豊島堅志、田村嘉章、豊島弘一、舘鼻彩、大村卓也、小寺玲美、千葉優子、井藤英喜、荒木厚：高齢者における DASC-8 を用いたカテゴリー分類はフレイルを含む CGA の評価項目と関連し、カテゴリーII から要介護リスクが増加する. 第 61 回日本老年医学会学術集会.　仙台,　6 月 7 日, 2019.
25. 大庭和人、田村嘉章、石川譲治、舘鼻彩、豊島弘一、大村卓也、小寺玲美、豊島堅志、千葉優子、藤田泰典、伊藤雅史、田中雅嗣、井藤英喜、荒木厚：血清 GDF-15 値は高齢糖尿病患者の筋力と下肢運動機能の低下のバイオマーカーとなりうる. 第 92 回日本内分泌学会学術総会.　仙台,　5 月 9 日, 2019.
26. 大庭和人、田村嘉章、舘鼻彩、豊島弘一、大村卓也、小寺玲美、豊島堅志、千葉優子、石川譲治、藤田泰典、伊藤雅史、田中雅嗣、森聖二郎、井藤英喜、荒木厚：血中 GDF-15 値は高齢糖尿病患者において筋力と下肢運動機能と関連し、サルコペニア肥満のマーカーとなりうる.　第 62 回日本糖尿病学会学術集会. 仙台,　5 月 24 日, 2019.
27. 大庭和人、田村嘉章、豊島堅志、千葉優子、石川譲治、藤田泰典、伊藤雅史、田中雅嗣、井藤英喜、荒木厚：血清 GDF-15 値は高齢者のサルコペニア肥満やダイナペニア肥満のマーカーとなりうる.　第 61 回日本老年医学会学術集会.　仙台,　6 月 6 日, 2019.
28. 小寺玲美、千葉優子、舘鼻彩、豊島弘一、大村卓也、大庭和人、豊島堅志、石川譲治、田村嘉章、荒木厚：高齢糖尿病患者における多剤併用とその関連因子について. 第 62 回　日本糖尿病学会学術集会　仙台, 5 月 25 日, 2019.
29. 豊島弘一、田村嘉章、舘鼻彩、大村卓也、小寺玲美、大庭和人、豊島堅志、石川譲治、千葉優子、井藤英喜、荒木厚：高齢糖尿病患者におけるサルコペニアの旧基準と新基準における関連因子の違いについて. 第 62 回　日本糖尿病学会学術集会, 仙台,　5 月 23 日, 2019.
30. 豊島弘一、田村嘉章、石川譲治、大村卓也、小寺玲美、大庭和人、豊島堅志、千葉優子、井藤英喜、荒木厚：高齢糖尿病患者におけるサルコペニアの旧基準と新基準における関連因子の違い、および介護度との関連について. 第 61 回　日本老年医学会学術集会　仙台,　6 月 8 日, 2019.
31. 舘鼻彩、千葉優子、小寺玲美、豊島弘一、大村卓也、大庭和人、豊島堅志、石川譲治、田村嘉章、荒木厚.多剤併用は高齢糖尿病患者におけるフレイルや腎機能と関連する.第 61 回日本老年医学会学術集会. 仙台, 6 月 7 日, 2019,
32. 大村卓也、 田村嘉章、 舘鼻彩、 豊島弘一、 小寺玲美、大庭和人、 豊島堅志、千葉優子、荒木厚: 高齢者とインスリン一インスリンポンプを使用中の超高齢 1 型糖尿病の一例. 第 70 回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京, 8 月 31 日, 2019.
33. 松尾佳紀、田村嘉章、小寺玲美、大庭和人、豊島堅志、千葉優子、荒木厚. 肥満高齢 2 型糖尿病の加療中に抗 GAD 抗体陽性となりインスリン導入した 1 例. 第 57 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会. 横浜, 1 月 18 日, 2020.
34. 金丸晶子、荒木厚、千葉優子、黒岩厚二郎、引地和佳子、羽根田千恵、府川則子、許俊鋭、井藤英喜：経口摂取開始チャート導入前後の嚥下食活用および禁食の推移. 第 61 回日本老年医学会学術集会, 仙台, 6 月 8 日, 2019.
35. 津元裕樹、梅澤啓太郎、千葉優子、新井冨生、秋元義弘、三浦ゆり、遠藤玉夫: 糖尿病性腎症患者剖検例のホルマリン固定パラフィン包埋切片を用いたプロテオーム解析. 基礎老化研究 (会議録)43(2): Page94, 2019.06
36. 鳥羽梓弓、石川譲治、田村嘉章、荒木厚、原田和昌. 外来通院中の高齢者における起立性血圧変動と認知症の関連. 第 61 回日本老年医学会学術集会. 仙台, 6 月 7 日, 2019.
37. 島﨑良知、石川譲治、瀧川美和、森淑子、岩切理歌、石﨑達郎、荒木厚、井藤英喜: 高齢者の薬物療法に関するアンケート調査. 第 61 回日本老年医学会学術集会, 仙台, 6 月 7 日, 2019.
38. 岩切理歌、片岡愛、大川庭熙、小金丸博、石川譲治、瀧川美和、島﨑良知、増田義重、荒木厚、井藤英喜. 高齢者急性期病院の入院患者における減薬後の経過について. 第 61 回日本老年医学会学術集会, 仙台, 6 月 7 日, 2019.
39. 橋本征治、小寺玲美、舘鼻彩、豊島弘一、大庭和人、豊島堅志、仁科裕史、千葉優子、田村嘉章、荒木厚. ウレアーゼ産生菌の尿路感染症に伴う高アンモニア血症によって意識障害をきたしたレビー小体病(DLB)の一例. 第 70 回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京, 8 月 31 日, 2019.
40. 石川譲治、清野諭、鳥羽梓弓、豊島堅志、田村嘉章、北村明彦、荒木厚、新開省二、原田和昌. 高齢者における体力年齢と血圧の関連. 第 42 回日本高血圧学会総会. 東京, 10 月, 2019.
41. 石川譲治、清野諭、鳥羽梓弓、豊島堅志、田村嘉章、北村明彦、荒木厚、新開省二、原田和昌. 高齢者における認知機能と血圧の関連　積極的降圧から減薬への移行ポイントの検討.第 42 回日本高血圧学会総会. 東京, 10 月, 2019.
42. Toyoshima Kouichi, Tamura Y, Ishikawa J, Kodera R, Oba K, Toyoshima Kenji, Chiba Y, Ito H, Araki

A. Difference in determinant factors for two criteria of sarcopenia, AWGS (Asian Working Group sarcopenia) and EWGSOP2 (European Working Group Sarcopenia in Older People 2) in older patients with diabetes mellitus. The 10th IAGG Master Class on Ageing in Asia. Changchun, June 14-16, 2019.

＜院外活動（講演など）＞

1. 荒木厚：(特別講演) 認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療. Specialist Innovative Meeting. 東京, 4月7日, 2019.
2. 荒木厚：(特別講演) フレイル・サルコペニアを考慮した高齢者糖尿病治療. 東入間医師会学術講演会. ふじみ野市, 4月12日, 2019.
3. 荒木厚：認知機能と ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理―DASC-8 を用いた検討. 糖尿病インターネット講演会. 東京, 4月16日, 2019.
4. 荒木厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. これからの糖尿病治療を考える会. 岐阜市, 4月18日, 2019.
5. 荒木厚：糖尿病, 脂質異常症, 甲状腺疾患. 杏林大学医学部加齢医学講座 M4 講義. 東京, 4 月19日, 2019.
6. 荒木厚：座談会：米国内科学会の HbA1c 目標と日本糖尿病学会の目標、どちらがよいか？ 京都, 5月29日, 2019.
7. 荒木厚：(座長) 特別講演「インクレチン関連薬を用いた高齢者の糖尿病治療」. 今後の高齢者糖尿病を考えていく会. 東京, 5月30日, 2019.
8. 荒木厚：(ディスカッション司会)高齢者における SGLT2 阻害薬の使い方. Diabetes Academy-より良い高齢者医療を実践するために. 東京, 5月31日, 2019.
9. 荒木厚：(特別講演) 認知機能と ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理―DASC-8 を用いた検討. 南河内生活習慣病学術講演会. 大阪, 6月15日, 2019.
10. 荒木厚：(座長) 特別講演「高齢者に対する DPP-4 阻害薬とメトホルミンの併用意義」. 東京, 6月18日, 2019.
11. 荒木厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 医療ネットワーク連携フォーラム. 京都, 6月22日, 2019.
12. 荒木厚：認知機能と ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理―DASC-8 を用いた検討. 郡山地区地域医療学術講演会. 郡山, 6月,26日, 2019.
13. 荒木厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 第5回糖尿病と合併症研究会. 新潟, 6月27日, 2019.
14. 荒木厚：(特別講演) サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者の糖尿病治療. メトホルミンセミナー in 米子. 米子, 7月3日, 2019.
15. 荒木厚：第46回城北ブロック糖尿病教室（司会）糖尿病患者さんが語る体験談―こんなときどうする？ 糖尿病 Q&A. 東京, 7月6日, 2019.
16. 荒木厚：(特別講演) フレイル・サルコペニアを考慮した高齢者の糖尿病治療. 健康寿命延伸を考える会―百寿社会を目指して. 久留米, 7月9日, 2019.
17. 荒木厚：認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の療養指導. 第3回群馬県糖尿病看護実践力開発セミナー. 前橋, 7月14日, 2019.
18. 荒木厚：(座長) 講演「DPP-4 阻害薬と SGLT２阻害薬の引き立て方」. 第67回医薬イブニングセミナー. 東京, 7月18日, 2019.
19. 荒木厚：認知機能・ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理―DASC-8 を用いた検討. Medical Care Forum in Hadano. 秦野, 7月24日, 2019.
20. 荒木厚：高齢糖尿病患者の現状と課題. 第16回西東京教育看護研修会. 東京, 7月28日, 2019.
21. 荒木厚：脂質異常症の病態と栄養管理. 東京都委託事業 栄養指導従事者教育事業（東京都福祉保健局・公益社団法人東京都栄養士会）. 東京, 8月1日, 2019.
22. 荒木厚：(特別講演)認知症・ADL 低下を考慮した高齢者糖尿病の治療 ―高齢者糖尿病診療ガイドライン 2017 をふまえて. 沖縄県中部糖尿病地域連携シンポジウム. 沖縄, 8月2日, 2019.
23. 荒木厚：(座長) 講演「CGM を用いた糖尿病治療の最適化」糖尿病セミナー. 東京, 8月5日, 2019.
24. 荒木厚：(特別講演) 認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療. 富岡市甘楽郡認知症カンファレンス. 富岡, 8月22日, 2019.
25. 荒木厚：高齢者糖尿病の食事・運動療法―すすめ方と留意点. 第36回糖尿病 Up・Date 賢島セミナー. 賢島, 8月24日, 2019.
26. 荒木厚：(特別講演) 認知機能・ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理―DASC-8 を用いた検討. 明日の高齢者糖尿病診療を考えるシンポジウム in 上越. 上越, 8月29日, 2019.
27. 荒木厚：サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病の療養指導. 第１３回神奈川糖尿病療養指導士認定機構研修会（神奈川糖尿病療養指導士認定機構）. 横浜, 9月1日, 2019.

28. 荒木厚：中年期から取り組むフレイル予防～元気でいきいき暮らすための秘訣～．令和元年度健康づくり事業推進指導者育成研修．東京(新宿)， 9 月 5 日，2019.
29. 荒木厚：(特別講演) 高齢者の新しい食事療法―薬物療法も含めて．Diabetes Academy． 富士，9 月 6 日，2019.
30. 荒木厚：サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者の糖尿病治療．TAKEDA Diabetes WEB Seminarー高齢者糖尿病治療について考える． 福山，9 月 12 日，2019.
31. 荒木厚：(閉会の辞)第 7 回高齢者診療マスタークラス (GMC)．東京，9 月 18 日，2019.
32. 荒木厚：高齢者糖尿病の食事療法の新しい考え方ーメタボ対策からフレイル対策へのギアチェンジ．川越地域糖尿病療養研究会講演会．川越，9 月 19 日，2019.
33. 荒木厚：高齢者糖尿病における認知症の問題とその対策．グルベス配合 OD 錠 Web 講演会．東京，9 月 20 日，2019.
34. 荒木厚：(特別講演) 認知機能・ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理ーDASC-8 を用いた検討． 第 41 回横浜内科学会 糖尿病研究会．横浜，10 月 8 日，2019.
35. 荒木厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療．糖尿病治療 Update フォーラム．東京（渋谷），10 月 9 日，2019.
36. 荒木厚：フレイルを考慮した高齢者糖尿病の薬物療法ーDASC-8 から CGA へ． 第 2 回高齢者薬物療法領域薬剤師養成研究会．東京（板橋），10 月 10 日，2019.
37. 荒木厚：(Closing Remarks) 老年医学セミナー2019．東京，10 月 15 日，2019.
38. 荒木厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療．第 56 回糖尿病センターとの病診連携の会．東京（新宿），10 月 16 日，2019.
39. 荒木厚:2 型糖尿病:治療困難例の対応．一般社団法人東京臨床糖尿病医会第１６５回例会．東京(千代田)，10 月 19 日，2019.
40. 荒木厚：(特別講演) 認知機能・ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理ーDASC-8 を用いた検討． 静岡東部糖尿病カンファレンス．三島，10 月 23 日，2019.
41. 荒木厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療．高齢者糖尿病治療を再考する．横浜，10 月 24 日，2019.
42. 荒木厚：フレイル・サルコペニアを考慮した療養指導．第 22 回城北 CDE セミナー． 東京（豊島），10 月 27 日，2019.
43. 荒木厚：(特別講演) 認知機能・ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理ーDASC-8 を用いた検討． 高齢者糖尿病治療戦略セミナー．高知，11 月 1 日，2019.
44. 荒木厚：(座長)「今日からできる！歯周病のセルフチェックとオーラルケアの基本．中高年のための健康講座「糖尿病と歯周病のふか～い関係」 板橋区医師会、板橋区歯科医師会、東京都健康長寿医療センター共催． 東京（板橋），11 月 2 日，2019.
45. 荒木厚：サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療．超高齢社会の医療を考える．立川，11 月 5 日，2019.
46. 荒木厚：フレイルを考慮した糖尿病の食事療法と薬物療法．第 16 回横浜西部・中部地区 CDE フォーラム．横浜，11 月 9 日，2019.
47. 荒木厚：高齢者の栄養管理ーサルコペニア・フレイル対策も含めて．荏原病院令和元年度 NST 講演会．東京（大田)，11 月 15 日，2019.
48. 荒木厚:みんなのきょうの料理特別セミナー～おいしい健康 健康づくりの秘訣・３つの柱．横浜，11 月 17 日，2019.
49. 荒木厚：高齢者糖尿病におけるフレイル・ポリファーマシー対策．ポリファーマシーを考える会．東京（豊島），11 月 18 日，2019.
50. 荒木厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療．第 2 回フレイル対策と生活習慣病．磐田，11 月 21 日，2019.
51. 荒木厚：(特別講演) サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療．日本医師会生涯教育講座 第 17 回生活習慣病臨床医会．札幌，11 月 22 日，2019.
52. 荒木厚：(特別講演) 認知機能・ADL の評価に基づいた高齢者糖尿病の管理ーDASC-8 を用いた検討． 白河 HCN 研究会．福島，11 月 28 日，2019.
53. 荒木厚：(特別講演) 高齢者糖尿病の転倒・骨折を防ぐために． 第 120 回東京都城北整形外科医会学術講演会．東京（豊島），12 月 3 日，2019.
54. 荒木厚：肝疾患とインスリン抵抗性を考慮した糖尿病治療．糖尿病と肝疾患フォーラム in 三島．大阪（豊中），12 月 7 日，2019.
55. 荒木厚：(特別講演) 新しい高齢者糖尿病の食事療法の考え方．柏崎市刈羽郡医師会講演会．柏崎，12 月 10 日，2019.
56. 荒木厚：(座談会)糖尿病の食事療法―新しいガイドラインの考え方．東京，12 月 12 日，2019.

日，2019.
58. 荒木厚：(座談会)サルコペニア診療の実際．東京（文京），12 月 23 日，2019.
59. 荒木厚：フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療について．地域で診る高齢者トータルケアーフレイルと糖尿病・心不全を考える．名古屋，1 月 11 日，2020.
60. 荒木厚:サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療．第 363 回県北内科医会学術講演会．佐世保，1 月 23 日，2020.
61. 荒木厚：(特別講演）フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療．糖尿病と合併症を学ぶ会．市川，1 月 29 日，2020.
62. 荒木厚：(特別講演）サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療．地域で考える糖尿病フォーラムー北多摩北部医療圏．小平，1 月 31 日，2020.
63. 荒木厚：高齢者の糖尿病とフレイル．令和元年度給食施設従事者講習会．東京（江戸川），2 月 4 日，2020.
64. 荒木厚：(特別講演）サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療．東大和市医師会学術講演会．東大和，2 月 7 日，2020.
65. 荒木厚：(特別講演）健康寿命を目指した高齢者糖尿病の食事療法．第 29 回南大阪臨床栄養研究会． 堺，2 月 8 日，2020.
66. 荒木厚：サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療．Diabetes Mellitus Total Care Symposium-糖尿病患者さんの高齢化を見据えて．帯広，2 月 13 日，2020.
67. 荒木厚：(特別講演）フレイルを考慮した糖尿病の食事療法と運動療法．内分泌・代謝学シンポジウム 2020. 東京（文京）， 2 月 20 日，2020.
68. 荒木厚：糖尿病とフレイル・認知症．東京内科医会　第 36 回セミナー「糖尿病と Multi-morbidity(多疾患罹患状態)」　東京，2 月 23 日，2020.
69. 荒木厚：サルコペニア・フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療．KOWA Web Conference．東京，3 月 3 日，2020.
70. 荒木厚：肥満・インスリン抵抗性を考慮した高齢者糖尿病の治療．　WEB シンポジウム「肥満と糖尿病・疼痛」　東京，3 月 17 日，2020.
71. 田村嘉章:生活習慣病と認知症～日常生活の中での認知症予防のヒント～．社会医療法人河北医療財団　多摩事業部　第 20 回市民公開講座．東京，10 月 5 日，2019.
72. 田村嘉章：高齢者糖尿病患者におけるインスリン導入の際の留意点．城北地区糖尿病治療検討会.東京，10 月 30 日，2019.
73. 田村嘉章：認知症と糖尿病．令和元年度 第２回 東京都認知症サポート医等フォローアップ研修 .東京，11 月 30 日，2019.
74. 田村嘉章：糖尿病性腎症と認知症．第 157 回老年学、老年医学公開講座.東京，1 月 29 日，2020.
75. 田村嘉章：認知症と糖尿病．東京都西北部糖尿病医療連携推進検討会糖尿病講演会.東京，2 月 14 日，2020.
76. 田村嘉章：糖尿病性腎症と認知症．第 157 回老年医学・老年医学公開講座 腎臓を守って、認知症を予防！めざせ、健康長寿！東京，3 月 18 日，2020.
77. 千葉優子：骨粗鬆症について．NPO 法人市民の図書館・公民館こがねい　東京，7 月 10 日，2019.
78. 千葉優子：骨粗鬆症について．板橋区女性健康支援センター(板橋区保健所)　東京，7 月 31 日，2019.
79. 千葉優子：丈夫な骨を保つ生活習慣．文京区保健サービスセンター．東京，8 月 26 日，2019.
80. 千葉優子：高齢者における脂質管理の意義．パルモディア WEB カンファレンス(興和株式会社主催)　東京，9 月 26 日，2019.
81. 千葉優子：糖尿病の合併症としての歯周病　中高年のための健康講座　糖尿病と歯周病のふか～い関係　板橋区医師会、板橋区歯科医師会、東京都健康長寿医療センター共催　東京，11 月 2 日，2019.
82. 千葉優子：転倒・寝たきり予防改善のためのアクアフィットネスの適応と禁忌(高齢者の運動処方概論)　一般社団法人日本スイミングクラブ協会　東京，2 月 1 日，2020.
83. 豊島堅志：老健管理医師総合診療研修会　グループワークファシリテーター．東京，　6 月 30 日，2019.
84. 豊島堅志：城北ブロック糖尿病教室　「フレイル・サルコペニアについて」東京，7 月 6 日，2019.
85. 豊島堅志：「高齢者の生活習慣病対策」高齢者医療研修会．東京，11 月 2 日，2019.
86. 大庭和人：板橋看護専門学校講義「内分泌総論」東京，11 月 20 日，2019.
87. 大庭和人：板橋看護専門学校講義「副腎と副甲状腺」東京，12 月 4 日，2019.
88. 小寺玲美：板橋看護専門学校講義「糖尿病と高脂血症」東京，11 月 8 日，2019.
89. 小寺玲美：板橋看護専門学校講義「甲状腺と骨粗鬆症」東京，11 月 15 日，2019.

(メディア等)

90. 荒木厚：(Web 記事）人生後半、食事内容をギアチェンジするタイミングがやってくる．第 1 回老化を防ぎ、健康寿命を延ばすカギは「たんぱく質」だった．日経グッデイ，4 月 18 日，2019.
91. 荒木厚：(Web 記事）老化防止にたんぱく質はどれだけ必要？ 「ロイシン」にも注目！：第 2 回「たんぱく質 1 日 70g」をクリアする簡単ポイント計算法．日経グッデイ，4 月 23 日，2019.

質 1 日 70g」をクリアする簡単ポイント計算法. 日経グッデイ, 4 月 23 日, 2019.
92. 荒木厚：(Web 記事) たんぱく質だけでは不十分！ 筋トレも実践してこそ筋肉は保たれる:第 3 回「食事」と「運動」を両輪で回してこそ筋肉維持が可能に. 4 月 26 日, 2019.
93. 荒木厚：(Web 記事) ～おいしい健康～ ずっと元気でいるために！vol.1 みんなのきょうの料理. 健康キッチン. NHK エデュケーショナル, 10 月 29 日, 2019.
94. 荒木厚：(Web 記事) ～おいしい健康～ずっと元気でいるために！vol.2 みんなのきょうの料理. 健康キッチン. NHK エデュケーショナル, 11 月 11 日, 2019.
95. 荒木厚：(Web 記事) ～おいしい健康～ずっと元気でいるために！vol.3 みんなのきょうの料理. 健康キッチン. NHK エデュケーショナル, 10 月 29 日, 2019.
96. 荒木厚: 高齢者の肥満. 心臓病やうつのリスク. 夕刊讀賣新聞, 5 月 11 日, 2019.
97. 荒木厚: 糖尿病で注意すべき尿トラブル. コワイ病気が潜む「頻尿」の正しい対処法④. 夕刊フジ, 6 月 28 日, 2019.
98. 荒木厚: 糖尿病+頻尿＋喉の渇きは危険なサイン. コワイ病気が潜む「頻尿」の正しい対処法⑤, 夕刊フジ, 6 月 29 日, 2019.
99. 荒木厚: 健康づくりの秘訣３つの柱. 「おいしい健康セミナーイベントリポート」「きょうの料理」テキスト 3 月号, 2 月 21 日, 2020.
100. 大村卓也、荒木厚: 高齢の糖尿病患者では食べる量が少ないことも死亡リスクを高める 摂取エネルギー量と死亡率は U 字型の関係―J-EDIT 研究. m3.com 臨床ダイジェスト. 1 月 10 日配信, 2020.
101. 大村卓也、荒木厚: 高齢の糖尿病患者では食べる量が少ないことも死亡リスクを高める: CareNet. 1 月 23 日配信, 2020.
102. 大村卓也、荒木厚: 高齢糖尿病患者では食べる量が少ないことも死亡リスクを高める―J-EDIT 研究. HealthDay News 糖尿病短報. 1 月 16 日配信, 2020.
103. 大村卓也、荒木厚: 糖尿病の食事 食べ過ぎ・少な過ぎは危険「あなたの適量は？」. 糖尿病ネットワーク. 12 月 3 日配信, 2019.
104. 大村卓也、荒木厚: 高齢者糖尿病患者の食事は、過不足なく取ることが重要と判明－都長寿研. QLifePro 医療ニュース. 11 月 27 日配信, 2019.

(プレスリリース)

荒木厚、大村卓也: 「食」で向き合う糖尿病 「あなたの適量がわかった‼」 食べ過ぎ・食べなさ過ぎの危険性. 東京都健康長寿医療センターホームページ. 11 月 25 日配信, 2019.

循環器内科

＜雑誌論文＞

1. 村田哲平, 眞野暁子, 西村隆, 藤本肇, 村田知洋, 河田光弘, 許俊鋭, 原田和昌 「急性心筋梗塞後の遷延する心原性ショックに対し植込み型補助人工心臓を装着し自宅退院した一例」日本集中治療医学会雑誌(1340-7988)26 巻 5 号 Page396-400(2019.09)
2. Toba A, Ishikawa J, Suzuki A, Tamura Y, Araki A, Harada K. Orthostatic blood pressure rise is associated with frailty in elderly patients Geriatr Gerontol Int. 2019;19(6):525-529
3. Ishikawa J, Yamanaka Y, Watanabe S, Toba A, Harada K. Cornell product in an electrocardiogram is related to reduced LV regional wall motion. Hypertens Res. 2019; 42: 541-548.
4. Ishikawa J, Yamanaka Y, Watanabe S, Toba A, Harada K. Cornell product in an electrocardiogram is related to reduced LV regional wall motion. Hypertens Res. 2019; 42: 541-548.
5. Aoyama R, Ishikawa J, Harada K. The efficacy of tolvaptan in treating dasatinib-induced pleural effusions in patients with chronic myelogenous leukemia. Journal of Cardiology 2020; 75: 203-207.

＜総説＞

1. 鳥羽梓弓 地域在住超高齢者において起立性低血圧、降圧薬治療が心血管死に及ぼす影響 先端医学社「血圧」2019 年 26 巻 7 号
2. 鳥羽梓弓、石川譲治、原田和昌、桑島巖 高血圧患者における血圧日誌の実態調査理想的な血圧日誌作成に向けて 日本医事新報 2019 年 4973 巻
3. 石川譲治 高齢者が食事後、特に昼食後に眠くなるのはなぜ？ 日本医事新報 質疑応答 2019 年 6 月
4. 石川譲治、鳥羽梓弓、原田和昌 特集：高齢者の高血圧治療 －高血圧治療ガイドラインと実臨床での課題－ 臨床に役立つ Q&A 2．高血圧診療において高齢者総合的機能評価（CGA）は必要ですか？ Geriatric Medicine, 2019 年 57 号
5. 専門家が教える超入門フレイル予防講座『健康寿命をかなえよう』監修 原田和昌 企画・編著 杉江正光（発行） 一般社団法人 日本健康寿命延伸協会

＜学会・研究会発表＞

1. 二見崇太郎、石川譲治、河野ますよ、桜山千恵子、原田和昌 Vector Flow Mapping を用いた左室空内のエネルギー損失と規定因子の検討 日本心エコー図学会 第 30 回学術集会、2019 年 5 月 10 日、松本
2. 奥野恵子、桜山千恵子、前田哲平、河野ますよ、二見崇太郎、鳥羽梓弓、田中文、石川譲治、原田和昌 経胸壁心エコー図検査で経過観察しえた両心型 たこつぼ心筋症の一例 2019 年 5 月 10 日、松本
3. 清水瑠理、青山里恵、村田哲平、坪光雄介、武田和大、藤本肇、原田和昌 「右冠動脈への PCI での洞結節枝閉塞後に洞停止が遷延した一例」第 54 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会、2019.05.11、東京
4. 山本文、石川譲治、奥野恵子、前田哲平、河野ますよ、桜山千恵子、二見崇太郎、鳥羽梓弓、村田哲平、原田和昌 S 字状中隔における心室中隔基部の Aliasing の臨床的意義について 日本超音波医学会第 92 回学術集会、2019 年 5 月 24 日、東京
5. 小寺玲美, 千葉優子, 舘鼻彩, 豊島弘一, 大村卓也, 大庭和人, 豊島堅志, 石川譲治, 田村 嘉章, 荒木厚 高齢糖尿病患者における多剤併用とその関連因子について 第 62 回糖尿病学会 2019 年 5 月 24 日～26 日、東京
6. 大庭和人, 田村嘉章, 舘鼻彩, 豊島弘一, 大村卓也, 小寺玲美, 豊島堅志, 千葉優子, 石川譲治, 藤田泰

典，伊藤雅史，田中雅嗣，森聖二郎，井藤英喜，荒木厚 GDF-15 は高齢糖尿病患者において筋力と下肢運動機能と関連し、サルコペニア肥満のマーカーとなる可能性を持つ 第 62 回糖尿病学会 2019 年 5 月 24 日～26 日、東京

7. 藤田昭寿、清水優、桜山千恵子、江原美和、小林敬翔、松川美保、新井冨生、石川譲治、森秀明　腹部超音波検査が有用であった壊死性胆嚢炎に合併した胆嚢周囲能用、腹壁膿瘍の一例　日本超音波医学会第 92 回学術集会、2019 年 5 月 24 日、東京
8. 小林敬翔、桜山千恵子、藤田昭寿、河野ますよ、清水優、石川譲治、鳥羽梓弓、山本文、原田和昌、許俊鋭　新型エコーゼリーの臨床的比較　日本超音波医学会第 92 回学術集会、東京、2019 年 5 月 25 日
9. 青山里恵「dRA を導入して」シンポジウム　SLENDER CLUB JAPAN 2019　Live Demonstration & Annual Meeting、 2019.06.02、兵庫
10. 青山里恵、二見崇太郎、村田哲平、石川譲治、武田和大、原田和昌　「重度大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁留置術（Transcatheter Aortic Valve Implantation: TAVI)の血圧及び心機能に与える短期的影響について」第 61 回日本老年医学会学術集会、2019 年 6 月 6 日、仙台
11. 鳥羽梓弓、石川譲治、原田和昌　「外来通院中の高齢者における認知症と起立性血圧変動の関連」　第 61 回日本老年学会学術集会　2019 年 6 月 7 日
12. 田村嘉章、豊島堅志、舘鼻彩、豊島弘一、大村卓也、小寺玲美、大庭和人、石川譲治、千葉優子、荒木厚 GA/HbA1c 高値は高齢糖尿病患者のフレイルと歩行速度に関連する。日本老年医学会、2019 年 6 月 6 日、仙台
13. 田村嘉章、豊島堅志、館鼻彩、豊島好一、大村卓也、小寺玲実、大庭和人、石川譲治、千葉優子、荒木厚 GA/HbA1c 高値は高齢糖尿病患者のフレイルと歩行速度低下に関連する　第 61 回日本老年医学会、2019 年 6 月 6 日、仙台
14. 大庭和人、田村嘉章、豊島堅志、千葉優子、石川譲治、藤田泰典、伊藤雅史、田中雅嗣、井藤英喜、荒木厚　血清 GDF-15 値は高齢者のサルコペニア肥満やダイナペア肥満のマーカーとなりうる　第 61 回日本老年医学会、2019 年 6 月 6 日、仙台
15. 石川譲治、廣瀬英夫、石川鎮清　組織繊維化マーカー（TIMP-1）の加齢による増加と脳卒中のリスク：ケースコントロールスタディー　第 61 回日本老年医学会 2019 年 6 月 7 日、仙台
16. 館鼻彩、千葉優子、小寺玲実、豊島弘一、大村卓也、大庭和人、豊島堅志、石川譲治、田村嘉章、荒木厚　多剤併用は高齢糖尿病患者におけるフレイルや腎機能と関連する　第 61 回日本老年医学会 2019 年 6 月 7 日、仙台
17. 豊島弘一、田村嘉章、石川譲治、大村卓也、小寺玲実、大庭和人、豊島堅志、千葉優子、井藤英喜、荒木厚　高齢糖尿病患者におけるサルコペニアの旧基準と新基準における関連因子の違い、および開度との関連について　第 61 回日本老年医学会 2019 年 6 月 7 日、仙台
18. 島崎良和、石川譲治、滝川美和、森淑子、岩切理歌、石崎達郎、荒木厚、井藤英喜　高齢者の薬物療法に関するアンケート調査　第 61 回日本老年医学会 2019 年 6 月 8 日、仙台
19. 岩切理歌、片岡愛、大川庭熙、小金丸博、石川譲治、滝川美和、島崎良和、増田義重、荒木厚、井藤英喜　高齢者急性期病院の入院患者における減薬後の経過について　第 61 回日本老年医学会 2019 年 6 月 8 日、仙台
20. 清水瑠理、青山里恵、村田哲平、石山泰三、石川譲治、坪光雄介、武田和大、藤本肇、原田和昌、渡邊雄介、片岡明久、上妻謙　「集学的治療により自宅療養が可能となった離島在住の重症心不全の一例」第 252 回日本循環器学会関東甲信越地方会、2019 年 06 月 15 日、東京
21. 藤本肇、佐久間隆貴、十菱千尋、清水瑠理、村田哲平、青山里恵、武田和大、石川譲治、坪光雄介、原田和昌　「透析患者に対する第二世代、第三世代薬剤溶出性ステントの 1 年後成績の比較」第 67 回日本心臓

病学会学術集会、 2019年9月13日、名古屋

22. 青山里恵、原田和昌 「高齢者冠動脈疾患における変動性も含めた血圧管理」シンポジウム15 高齢者冠動脈疾患と多臓器連関 第67日本心臓病学会学術集会、2019年09月14日、名古屋
23. 青山里恵、武田和大、藤本肇、原田和昌 「4D Flow Magnetic Resonance Assessment of Alcohol Septal Ablation for Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy and Surgical Valve Replacement for Aortic Valve Stenosis」第28回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、2019年09月19日、名古屋
24. 青山里恵、石川譲治、坪光雄介、武田和大、藤本肇、原田和昌「Valvular heart disease and mitral annulus calcification in women」Symposium15 Cardiovascular diseases in Women、第28回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、2019年09月20日、名古屋
25. 藤本肇 「複雑石灰化病変に対するカッティングバルーン、ロータブレーター、エキシマレーザーの併用療法の有効性」 シンポジウム 冠動脈石灰化病変に対する治療戦略 第28回日本心血管インターベンション治療学会学術集会、2019年9月20日、名古屋
26. 佐久間隆貴、石山泰三、清水瑠理、廣田佳祐、十菱千尋、青山里恵、村田哲平、石川譲治、坪光雄介、武田和大、藤本肇、原田和昌 「ATP投与による防湿電動の検討が有用であったAVNRTの一例」 第253回日本循環器学会関東甲信越地方会、2019年9月28日、東京
27. 青山里恵、清水瑠理、村田哲平、坪光雄介、武田和大、藤本肇、原田和昌「冠動脈起始部異常を有するLCXの狭心症に対してPCI中にLADが完全閉塞を来し、その後たこつぼ様変化を呈した1例」第55回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会、2019年10月12日、東京
28. 藤本肇、清水瑠璃、大川庭熙、村田哲平、青山里恵、坪光雄介、原田和昌、 足利貴志 「ロータワイヤー施行困難であった複雑高度石灰化病変に対してエキシマレーザーとロータブレー ターを併用してPCI施行し得た2症例」第55回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 2019年10月12日 東京
29. 藤本肇、大川庭熙、村田哲平、青山理恵、坪光雄介、原田和昌 「右冠動脈完全閉塞、左主幹部90%狭窄の、冠動脈バイパス術超高リスク不安定狭心症患者に対し経皮冠動脈形成術を施行した一例」 第55回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 2019年10月12日 東京
30. 佐久間隆貴 AVNRTに対するアブレーションに少量ATP投与が有用であった1例」 城北循環器カンファランス 2019年10月16日 東京都健康長寿医療センター
31. 石川譲治、原田和昌 シンポジウム 高齢者の生活機能を高める血圧管理 高齢者高血圧に対する降圧薬治療はフレイルへの移行に影響を与えるか 第42回日本高血圧学会総会 2019年10月26日、東京
32. 石川譲治、清野諭、鳥羽梓弓、豊島堅志、田村嘉章、北村明彦、荒木厚、新開省二、原田和昌 高齢者における認知機能と血圧の関連 ー積極的降圧から減薬への移行ポイントの検討ー 第42回日本高血圧学会総会 2019年10月27日、東京
33. 藤本肇、小宮山浩太、原田和昌、中村正人、山本剛、長尾健、高山守正 「心不全を合併した高齢非ST上昇型急性心筋梗塞患者に対する早期血行再建術の有効性についての検討-東京都CCUネットワークコホート研究-」 第39回東京CCU研究会 2019年12月7日 東京
34. 橘昌利、村田哲平、佐久間隆貴、清水瑠理、大川庭熙、十菱千尋、青山里恵、石山泰三、石川譲治、坪光雄介、武田和大、藤本肇、原田和昌 「心原性ショック，Killip 4の急性心筋梗塞に対し緊急PCI，Impellaを用いた治療が有効であった高齢患者の一例」 第254回日本循環器学会関東甲信越地方会、2019年12月7日、東京
35. 宮脇正次、橘昌利、清水瑠理、佐久間隆貴、十菱千尋、村田哲平、青山里恵、石山泰三、武田和大、石川譲治、坪光雄介、藤本肇、原田和昌 「治療に難渋した急性心不全に対してPCIが効果的であった高齢3枝病変の一例」 第35回東京都循環器研究会 2020年2月8日 東京
36. 青山里恵，村田哲平，武田和大，原田和昌，河田光弘 「BAV施行直後に左冠動脈主幹部の血栓閉塞から心肺停止となりPCPSサポート下に緊急TAVIを施行した1例」CHIP JAPAN 、2020年2月1日、東京
37. 大川庭熙、藤本肇、橘昌利、佐久間隆貴、清水瑠理、十菱千尋、村田哲平、青山里恵、石山泰三、石川譲治、坪公雄介、武田和大、原田和昌 「心原性ショックを伴う高齢急性心筋梗塞患者に対してImpellaを使用した一例」第255回 日本循環器学会関東甲信越地方会 2020年2月22日 東京
38. 村田哲平、宮脇正次、橘昌利、佐久間隆貴、清水瑠理、十菱千尋、青山里恵、石山泰三、石川譲治、坪光

雄介、武田和大、藤本肇、原田和昌「前壁中隔の急性心筋梗塞、心源性ショックに対して Impella2.5 を用いたが異なる転帰を辿った 2 症例」第 47 回日本集中治療医学会学術集会、 2020 年 3 月 6 日、名古屋

39. 武久佳央、青山里恵、十菱千尋、石川譲治、坪光雄介、藤本肇、原田和昌 「トルバプタン投与中の慢性心不全増悪した虚血性心筋症に対して五苓散の追加投与が有用であった一例」第 71 回日本老年医学会関東甲信越地方会、2020 年 3 月 7 日、東京
40. 宮脇正次、青山里恵、鳥羽梓弓、石川譲治、原田和昌 「過度の血圧変動性亢進から将来の臨床的レビー小体型認知症の発症が予測された一例」第 71 回日本老年医学会関東甲信越地方会、2020 年 3 月 7 日、東京
41. 石川譲治 転倒予防を考慮した心房細動、血圧管理 超高齢者医療を考える会 ー健康寿命を延ばすための治療とはー 2019 年 04 月 22 日、東京都健康長寿医療センター
42. 石川譲治 新しい高血圧治療ガイドラインと高血圧治療の今後 高齢者高血圧について 東京保険医協会循環器研究会 2019 年 11 月 20 日、東京保険医協会
43. 石川譲治 高齢者心不全の特徴と予後予測因子について 心不全の医療連携を考える会 2019年12月3日、東京都健康長寿医療センター
44. 石川譲治 抗凝固薬内服中の高齢者における転倒を考慮した血圧管理について Cardiorenal Disease Up To Date, 2020/01/23, 千葉市
45. 石川譲治 フレイルや転倒を考慮した高齢者の血圧管理 第 5 回東京戍亥 CHADS 研究会、ヒルトン東京、2020 年 1 月 30 日
46. 杉江正光, 原田和昌, 高橋哲也, 奈良毬那, 藤本肇, 小山照幸, 許俊鋭, 井藤英喜「運動を行う事が出来ないと判断されたフレイル高齢者」対策としての乾式遠赤外線サウナ（FILTS）の可能性 （第 61 回日本老年医学会学術集会）2019 年 6 月 6 日 東京
47. 奈良毬那,杉江正光, 高橋哲也, 原田和昌, 藤本肇, 小山照幸, 許俊鋭, 井藤英喜 「高齢化日本一の中山間地域におけるフレイル実態調査」 （第 61 回日本老年医学会学術集会）2019 年 6 月 6 日 東京
48. 通院高齢者フレイル予防対策トレーニング介入後におけるフレイル改善群と悪化群の特徴 杉江正光, 原田和昌, 高橋哲也, 奈良毬那, 藤本肇, 小山照幸, 許俊鋭, 井藤英喜 第 25 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 2019 年 7 月 13 日 大阪
49. Futami S, Ishikawa J, Kawano M, Sakurayama C, Harada K. The Determinants of Left Ventricular Energy Loss in Elderly Patients with Preserved Ejection Fraction. American Society of Echocardiography June 23rd, 2019, Portaland.
50. Rie Aoyama, Joji Ishikawa, Kazumasa Harada 「4D Flow Magnetic Resonance Assessment of Alcohol Septal Ablation for Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy and Surgical Valve Replacement for Aortic Valve Stenosis」American Heart Association Scientific Sessions 2019, 2019.11.16, Philadelphia
51. Rie Aoyama, Saeko Takahashi, Junko Honye, Reiko Tsukahara 「Women in Intervention Cardiology in Japan -Japanese Women’s Interventional Conference-」Cardiovascular Research Technologies (CRT) Conference 2020 、2020 年 2 月 24 日、Washington D.C. USA

＜講師等院外活動（講演・放送等）＞

1. 石川譲治 高齢者における血圧管理 JSH2014 から JSH2019 への期待 胎内市医師会講演会 2019 年 5 月 22 日、新潟
2. 石川譲治 高齢者における血圧管理 JSH2014 から JSH2019 への期待 ミネブロ新発売記念講演会 ～新たな高血圧治療の幕開け～ 2019 年 6 月 11 日、長岡市
3. 杉江正光 2019 年 4 月 18 日「老年症候群とその対策」一般社団法人日本健康寿命延伸協会主催（板橋区）
4. 杉江正光 2019 年 9 月 3 日「フレイル予防の重要性」千代田区主催

5. 杉江正光　2019 年 9 月 16 日「高齢者の健康増進とフレイル対策に向けた取り組み」東京都健康長寿医療センター渋澤講演会
6. 杉江正光　2019 年 10 月 21 日「フレイルと健康寿命」広島県呉市社会福祉協議会主催
7. 杉江正光　2019 年 12 月 17 日「フレイルって何？～どうしてフレイル予防しないといけないの！？～」日本健康寿命延伸協会主催（板橋区）
8. 杉江正光　2019 年 12 月 22 日「今からでも遅くない!?フレイル予防」大和ハウス工業株式会社主催（練馬区）
9. 杉江正光　2019 年 12 月 2 日「フレイル（サルコペニア・カヘキシア）とは？ その予測に関わる因子とは？」一般社団法人　科学技術と経済の会（千代田区）
10. 杉江正光　2020 年 1 月 27 日「フレイル予防講座 『健康寿命をかなえよう』」埼玉県本庄市主催
11. 杉江正光　2020 年 1 月 28 日「フレイル健診の重要性」群馬県南牧村主催
12. 杉江正光　2020 年 2 月 20 日「生活習慣病の予防に必要なこと」一般社団法人日本健康寿命延伸協会主催（板橋区）
13. 杉江正光　2020 年 2 月 25 日「フレイル予防及びその対策」群馬県南牧村主催
14. 杉江正光　2020 年 2 月 28 日「フレイル予防及び健康寿命延伸を目的とした東京都健康長寿医療センターの取組み」東和薬品主催（大阪府門真市）

呼吸器内科

＜雑誌論文＞

1. 佐塚まなみ、筑井恵美子、濱谷広頌、野木森智江美、山田浩和、山本寛. Osimertinibの投与とOmmayaリザーバーからの髄液ドレナージが癌性髄膜炎の治療に有効だった高齢者非小細胞肺癌の1例. 肺癌 59(3); 287-292, 2019.
2. 山本寛. 老化関連疾患 1) 肺炎（誤嚥性肺炎）. アンチエイジング医学 15(4); 38-43, 2019.
3. 山本寛. 肺音聴診 第一講 ー肺音を聴きに行こうー. Medical Practice 36(6); 4, 2019.
4. 山本寛. 肺音聴診 第二講 ー呼吸音と副雑音 前編ー. Medical Practice 37(3); 468, 2019.

＜学会・研究会発表＞

1. 石橋昌幸、佐塚まなみ、野木森智江美、髙田和典、加藤嘉明、山田浩和、山本寛: 80歳以上の肺癌患者における予後解析.第59回日本呼吸器学会学術集会講演会, 東京, 4月12日, 2019.
2. 山本寛：高齢がん患者が求める医療を実践するために～高齢者機能評価の活用について～. 第30回日本医学会総会2019中部 シンポジウム 柱1-5-3) 65歳以上が3000万人をこえる超高齢社会でがん患者にどのように対応すべきか？ 名古屋, 4月29日, 2019.
3. 齊藤英一、加登大介、佐藤深雪、佐塚まなみ、野木森智江美、山本寛、島崎良和、瀧川正紀、石橋美咲、杉山純子、佐藤雅美. 高齢者におけるstep2オピオイドとしてのヒドロモルフォン塩酸塩徐放錠2mgの使用経験. 第24回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, 6月21日, 2019.
4. 石橋昌幸、鈴木明美、佐塚まなみ、野木森智江美、髙田和典、加藤嘉明、山田浩和、新井冨生、山本寛：改変Ultrafast Papanicolaou染色を用いたRapid on site evaluation (ROSE)の紹介.第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 東京, 7月5日, 2019.
5. 山本寛：高齢者に対する適切ながん医療～高齢者総合機能評価の活用～. 第64回日本口腔外科学会総会・学術大会（シンポジウム 3) 高齢口腔がん患者の治療. 札幌, 10月26日, 2019.

＜講師など院外活動（講演・放送等）＞

1. 山本寛：当院における高齢者気管支喘息 その治療の実際. アストラゼネカ株式会社社内研修会. 東京, 4月17日, 2019.
2. 山本寛:高齢者COPD診療の勘所. 呼吸器疾患の未来を考える～最適なCOPD治療とは～. 東京, 4月24日, 2019.
3. 山本寛：高齢者喘息の臨床的特徴と薬物療法の留意点. 第10回相模原北部呼吸器研究会. 東京, 5月24日, 2019.
4. 山本寛：高齢者喘息の薬物療法における問題点とその解決法. Astellas & Astrazeneca TV Symposium. 東京, 6月21日, 2018.
5. 山本寛：名医が教える日本人の病気の最新治療 誤嚥性肺炎 ①治療とリハビリ. 週刊朝日. 6月21日増大号, 2019.
6. 山本寛:名医が教える日本人の病気の最新治療 誤嚥性肺炎 ②食事の工夫. 週刊朝日. 6月28日号, 2019.
7. 山本寛：名医が教える日本人の病気の最新治療 誤嚥性肺炎 ③口腔ケア. 週刊朝日. 7月5日号, 2019.
8. 山本寛：生活の場に即した医療提供 感染症対策・薬剤耐性菌等について. 老人保健施設管理医師総合診療研修会. 東京, 7月17日, 2019.
9. 山本寛：COPD、気管支喘息に関するリアルワールドの経験. グラクソ・スミスクライン株式会社勉強会. 東京, 8月28日, 2019.
10. 山本寛：高齢者における身体活動性の維持・向上の重要性～COPDを中心に～. エアロスフィア新発売記念講演会. 東京, 9月9日, 2019.
11. 山本寛:吸入指導の大原則と実臨床におけるpitfall. 第68回板薬イブニングセミナー（キョーリン板橋区薬剤師吸入療法講演会). 東京, 9月12日, 2019.
12. 山本寛:Special Meeting for G-CSF Opening Remarks. Special Meeting for G-CSF. 東京, 10月11日, 2019.
13. 山本寛：高齢者がん治療の将来を考える. 中外製薬株式会社社員研修会. 東京, 10月25日, 2019.
14. 山本寛：(座長) 赤木大輔. 高齢者における血栓症マネジメント～安全な治療を行うための凝固・線溶マーカーとは～. 東京, 10月29日, 2019.
15. 山本寛：医療の意思決定 高齢者のがん・後編. 読売新聞. 11月27日発行, 2019.
16. 山本寛：高齢がん患者の健康状態判定 治療の強度最適化. 日本経済新聞. 2月24日発行, 2020.
17. 山本寛：「高熱なし」「咳なし」は実は危ない 肺炎のサインを見逃すな. 週刊朝日. 3月13日増大号, 2020.

神経内科・脳卒中科

＜雑誌論文＞

（原著）

1. Imai M, Tanaka M, SakataM, Wagatsuma K, Tago T, Toyohara J, Sengoku R, Nishina Y, Kanemaru K, Ishibashi K, Murayama S, Ishii K. Metabolic network topology of Alzheimer’s disease and dementia with Lewy bodies generated using fluorodeoxyglucose positron emission tomography. J Alzheimers Dis 73: 197-207, 2020
2. Higashihara M, Menon P, van den BOS M, Pavey N, Vucic S: Reproducibility of motor unit number index and MScanFit motor unit number estimation across intrinsic hand muscles. Muscle Nerve (Epub ahead of print), 2020
3. Tago T, Toyohara J, Sengoku R, Murayama S, Ishii K. Monoamine oxidase B binding of 18F-THK5351 to visualize glioblastoma and associated gliosis: an autopsy-confirmed case. Clin Nucl Med 44: 507-509, 2019
4. Higashihara M, Menon P, Geevasinga N, van den Bos MAJ, Kiernan MC, Vucic S: Motor neuron disease with malignancy:Clinical and pathophysiological insights. Clin Neurophysiol, 130: 1557-1561, 2019.

＜総説＞

1. Sengoku R. Aging and Alzheimer’s disease pathology. Neuropathology, 40(1): 22-29, 2019.
2. Van den Bos MAJ, Geevasinga N, Higashihara M, Menon P, Vucic S: Pathophysiology and Diagnosis of ALS: Insights from Advances in Neurophysiological Techniques. Int J Mol Sci, 20(11): 2818, 2019
3. 仙石錬平.【高齢者に対する包括的感覚器ケアと疾患治療】高齢者の嗅覚障害に秘められた疾患（主にパーキンソン病). Geriatric Medicine. 58(2): 143-147, 2020
4. 東原真奈, 園生雅弘. 【神経生理検査-脊椎脊髄疾患とその鑑別疾患への応用】針筋電図 筋萎縮性側索硬化症(ALS)と脊椎脊髄疾患の鑑別のために. 脊椎脊髄ジャーナル 32(5): 535-540, 2019

＜学会発表＞

（海外）

1. Higashihara M, Menon P, Geevasinga N, Van den Bos MAJ, Kiernan M, Vucic S. Motor neuron disease with malignancy: Clinical and pathophysiological insights. ANZAN Annual Scientific Meeting, Sydney, Australia, 2019.5.20-24
2. Kanemaru K. Kanemaru A, Nishina Y, Sengoku R, Murayama S. Decreased Levels of CSF Abeta40 in Dementia with Lewy Bodies. Alzheimer’s Association International Conference AAIC, LA, USA. 2019. 7.15
3. Sengoku R. Workshop. Clinico-Pathological Session. Case 3: A 72-year-old Man with Speech Difficulties for 6 years. International Conference of Korean Movement Disorder Society, Busan, Korea, 2019.10.18-20.
4. Sengoku R. To conduct multicenter researches in Japan and Korea. 3rd Fingers Crossed Meeting: Japan-Korea Movement Disorders Expert Meeting, Gyeongju, Korea, 2019.12.20-22.
5. Matsubara T, Izumi Y, Miyamoto R, Oda M, Nodera H, Higashihara M, Sengoku R, Oki R, Fujita K, Kawarai T, Watanabe C, Saito Y, Kaji R, Murayama S: Validation study of clinical diagnosis of amyotrophic lateral sclerosis: the Brain Bank for Aging Research (BBAR) Project. 30th International Symposium on ALS/MND, Perth, Australia, 2019.12.4-6

6. Higashihara M, Menon P, Van den Bos MAJ, Geevasinga N, Kiernan M, Vucic S: Cortical hyperexcitability and cognitive dysfunction in ALS. 30th International Symposium on ALS/MND, Perth, Australia, 2019.12.4-6

（国内）

1. 仙石錬平．シンポジウム：α シヌクレイノパチーにおける自律神経障害と認知機能障害．レム睡眠行動障害における自律神経障害と認知機能障害．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5
2. 仙石錬平．教育コース：典型像と非典型像-病理と臨床の対話-老化とアルツハイマー病．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5
3. 渋川茉莉，仙石錬平，松原知康，石井賢二，徳丸阿耶，金丸和富，村山繁雄．Neuro CPC．歩行時ふらつきと易転倒性で発症した 83 歳女性ブレインバンク生前同意登録例．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5
4. 金丸和富，仙石錬平，仁科裕史，村山繁雄．レビー小体型認知症における脳脊髄液 Aβ40 の検討．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5
5. 山﨑幹大，仙石錬平，金丸和富，村山繁雄．簡易な嗅覚識別試験による嗅覚障害と MIBG 心筋新地所見の関連について．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5
6. 小幡真希，松原知康，仙石錬平，金丸和富，村山繁雄．臨床心理士職としてのコーディネーター活動報告-高齢者ブレインバンクプロジェクト-．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5
7. 小林敬，仁科裕史，仙石錬平，金丸和富，村山繁雄．ブコロームとワルファリン併用下で脳梗塞を繰り返した拡張型心筋症の 39 歳女性．第 229 回日本神経学会関東・甲信越地方会，2019.6.1
8. 渋川茉莉，仙石錬平，坂下泰浩，金丸和富，村山繁雄．めまい・失神を繰り返した経過 20 年の純粋自律神経不全の 88 歳男性剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
9. 村山繁雄，松原知康，仙石錬平，齊藤祐子．2019 Annual Report, the Brain Bank for Aging Research, Tokyo, Japan．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
10. 山﨑幹大，仙石錬平，松原知康，坂下泰浩，種井善一，元田敦子，河上　緒，齊藤祐子，村山繁雄．てんかん重積状態後に脳症を呈した高齢者の 1 剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-1
11. 徳本健太郎，仙石錬平，仁科裕史，金丸和富，石井賢二，高橋雅道，成田善孝，吉田朗彦，村山繁雄．「18F」THK-5351-PET で集積を認めた中枢神経原発悪性リンパ腫の 1 例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
12. 元田敦子，坂下泰浩，松原知康，山﨑幹大，種井善一，河上　緒，仁科裕史，仙石錬平，金丸和富，高梨成彦，村山繁雄．急性期脳梗塞に対して機械的血栓回収術を施行された一剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
13. 坂下泰浩，広吉祐子，仙石錬平，齊藤祐子，村山繁雄．頚椎症性脊髄症を合併し、特徴的なリン酸化タウ蛋白の蓄積を認めた筋萎縮性側索硬化症の 1 例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
14. 村山繁雄，松原知康，仙石錬平，齊藤祐子：レビー小体病理伝搬仮説の検証．第 13 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス．東京，2019.7.25-27
15. 永山寛，狩野修，村上秀友，濱田雅，戸田達史，仙石錬平，下泰司．Parkinson 病の気分障害における istradefylline の効果．第 13 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス．東京，2019.7.25-27
16. 山﨑幹大，仙石錬平，本山りえ，広吉祐子，徳丸阿耶，金丸和富，村山繁雄．純粋型レビー小体病の高齢者剖検例臨床・画像・髄液バイオマーカー・病理．第 13 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス．東京，2019.7.25-27

17. 小幡真希，松原知康，種井善一，渋川茉莉，本山りえ，広吉祐子，仙石錬平，仁科裕史，古田　光，新井冨生，村山繁雄：死後脳研究ドナー登録者の意識－高齢者ブレインバンク生前同意登録者を対象とした質的研究－．第 83 回日本心理学会大会，大阪，2019.9.11-13
18. 仙石錬平．目の前の患者さんの背景を考える-症状と画像、病理連関-．第 22 回西宮脳神経セミナー．兵庫，2019.10.24
19. 渋川茉莉、仙石錬平、村山繁雄．急性錐体外路症候群を呈した 79 歳女性例 若手神経内科のための SCC,東大:2019.10
20. 仙石錬平．シンポジウム：PART と SNAP の最新知見．Primary-age related tauopathy（PART）の剖検確定診断例の臨床像．第 38 回日本認知症学会学術集会，新宿，2019．11.
21. 仙石錬平．ホットトピック徹底討論：Aβ、ApoE、タウの病態形成における役割再考：Aβ、タウ、ApoE の病理学的な役割．第 38 回日本認知症学会学術集会，新宿，2019．11.
22. 仙石錬平．Debate Session：認知症早期診断の意義はある？ない？認知症速機診断の意義は「ない」の立場から．第 38 回日本認知症学会学術集会，新宿，2019．11
23. 金丸和富，金丸晶子，仁科裕史，仙石錬平，村山繁雄．レビー小体型認知症における CSF Aβ40 および Aβ42/40 の検討．第 38 回日本認知症学会学術集会，新宿，2019．11
24. 小幡真希，松原知康，種井善一，河上緒，渋川茉莉，仙石錬平，仁科裕史，古田光，新井富生，金丸和富，村山繁雄．ブレインバンク生前同意者への質的研究　家族性アルツハイマー病患者の語りの一例．第 38 回日本認知症学会学術集会，新宿，2019．11
25. 渋川茉莉，仙石錬平，坂下泰浩，金丸和富，村山繁雄．頻回なめまい・失神で発症した経過 20 年の純粋自律神経不全症（PAF）の 88 歳男性剖検例．第 72 回日本自律神経学会総会．小倉，2019.11
26. 山﨑幹大，仙石錬平，金丸和富，村山繁雄．ロチゴチン貼付で歩行時のふらつきが改善した起立性低血圧を伴うパーキンソン病の 72 歳男性例．第 37 回日本神経治療学会学術集会，横浜，2019.11.5-7
27. 小林敬，仁科裕史，仙石錬平，金丸和富，村山繁雄．起立性低血圧で発症し，後半な自律神経障害を呈した 49 歳男性．第 231 回日本神経学会関東・甲信越地方会，2019.12.7
28. 仙石錬平．パーキンソン病の進展．第 12 回パーキンソン病治療懇談会．岡山，2020.2.15

＜院外活動・講演＞

1. 仁科裕史：了徳寺大学健康科学部看護学科講義　「認知症ケア概論：認知症の病態」　東京　了徳寺大学　2019/5/28
2. 仁科裕史：令和元年度島しょ地域の認知症対応力向上に向けた支援事業講師　八丈島八丈町：2019.10.1-10.2
3. 仁科裕史：第 3 回東京都サポート医等フォローアップ研修講義　東京：　2020.1.26
4. 仙石錬平．腎臓を守って、認知症を予防！めざせ、健康長寿！脳微小血管と認知症予防．第 157 回老年学・老年医学公開講座，東京，2020.1.29

血液内科

＜学会報告＞

1. 齋藤輔、小林寿美子、小倉和外、宮腰重三郎　第 81 回日本血液学会学術集会　東京
臍帯血移植後に PRCA を合併しガンマグロブリンの反復投与により改善した高齢者 AML
2. 小倉和外、赤川順子、齋藤輔、小林寿美子、宮腰重三郎　高齢者骨髄系腫瘍症例に対する azacitidine 併用 CA±G-CSF 療法の検討
3. 橘盛昭、小島稔、宮腰重三郎、杉原毅彦、新井冨生、宮本鋼　高齢者悪性リンパ腫における末梢血 EBV DNA 定量の臨床的意義
4. 柳田正光、小沼貴晶、鍬塚八千代、近藤忠一、河田岳人、高橋聡、内田直之、宮腰重三郎、田中正嗣、小澤幸泰、澤正史、中前博久、青墳信之、諫田淳也、高梨美乃子、神田善伸、熱田由子、矢野真吾　成人急性骨髄性白血病に対する同種造血細胞移植に用いる臍帯血ユニット選択に関する検討
5. 勝俣悠、森川涼介、小林寿美子、斎藤輔、田中達郎、鷲足ひろみ、赤川順子、小倉和外、宮腰重三郎　第 42 回日本造血細胞移植学会総会 Blinatumomab をブリッジングとして用い再移植後寛解を維持している治療関連性 ALL
6. 伊藤真紀、羽根田千恵、赤川順子、齋藤輔、小倉和外、小林寿美子、宮腰重三郎　高齢者造血幹細胞移植における栄養管理評価第 2 報
7. 橋本麻耶、加藤菜生、野田千夏、平﨑誠人、高橋裕季、高橋真由美、鈴木千晴、伊東彩未、武野潤子、山崎綾佳、田中達郎、松島絵里子、武居美穂、廣岡真理奈、坂本早希、長南麻里絵、金真愛、中川遥、望月佳奈、齋藤康太郎、伊藤真紀、赤川順子、奈良岡綾子、猪瀬景子 70 歳後半の臍帯血移植を経験して
8. 赤川順子、斎藤輔、小倉和外、小林寿美子、宮腰重三郎 高齢移植患者の QOL の実態
9. 小倉和外、赤川順子、齋藤輔、小林寿美子、宮腰重三郎　高齢者に対する臍帯血ミニ移植における KIR ミスマッチが及ぼす影響
10. 齋藤輔、赤川順子、小倉和外、小林寿美子、宮腰重三郎　高齢者臍帯血移植におけるリコモジュリン投与歴と発熱性好中球減少症発生の検討

(論文)

1. Ayumi Fujimoto, Nobuhiro Hiramoto, Satoshi Yamasaki , Yoshihiro Inamoto, Naoyuki Uchida , Tetsuo Maeda, Takehiko Mori, Yoshinobu Kanda , Tadakazu Kondo, Souichi Shiratori , Shigesaburo Miyakoshi , Ken Ishiyama , Kazuhiro Ikegame, Yoshiko Matsuhashi , Junji Tanaka , Tatsuo Ichinohe, Yoshiko Atsuta, Masao Ogata, Ritsuro Suzuki Risk Factors and Predictive Scoring System For Post-Transplant Lymphoproliferative Disorder After Hematopoietic Stem Cell Transplantation Biol Blood Marrow Transplant .;25(7):1441-1449. 2019

2. Masamitsu Yanada, Takaaki Konuma , Yachiyo Kuwatsuka, Tadakazu Kondo, Takahito Kawata, Satoshi Takahashi, Naoyuki Uchida , Shigesaburo Miyakoshi, Masatsugu Tanaka, Yukiyasu Ozawa , Masashi Sawa, Hirohisa Nakamae , Nobuyuki Aotsuka , Junya Kanda, Minoko Takanashi , Yoshinobu Kanda, Yoshiko Atsuta, Shingo Yano Unit Selection for Umbilical Cord Blood Transplantation for Adults With Acute Myeloid Leukemia in Complete Remission: A Japanese Experience Bone Marrow Transplant 54(11):1789-1798 2019
3. Junya Kanda, Takakazu Kawase, Hidenori Tanaka, Hiroto Kojima, Yasuo Morishima, Naoyuki

Uchida, Koji Nagafuji, Yoshiko Matsuhashi, Takanori Ohta, Makoto Onizuka, Toru Sakura, Satoshi Takahashi, Shigesaburo Miyakoshi, Hikaru Kobayashi Tetsuya Eto, Junji Tanaka, Tatsuo Ichinohe , Yoshiko Atsuta, Satoko Morishima Effects of Haplotype Matching on Outcomes After Adult Single-Cord Blood Transplantation , HLA Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation

4. Takuya Yamashita,Akiyoshi Takami, Naoyuki Uchida, Takahiro Fukuda, Tetsuya Eto, Souichi Shiratori, Shuichi Ota, Takashi Akasaka, Shigesaburo Miyakoshi-, Tadakazu Kondo, Michihiro Hidaka, Junya Kanda, Yoshiko Atsuta, Shingo Yano Reduced-intensity Stem Cell Transplantation for Acute Myeloid Leukemia With Fludarabine-Based Conditioning With Intravenous Busulfan Versus Melphalan one Marrow Transplant . 2020 Mar 12. doi: 10.1038/s41409-020-0856-y. Online ahead of print.

（分担）

1. 標準理学療法学・作業療法学　老年学　第5版　2020年1月15日老年学　血液・免疫疾患　P 219 - 233　宮腰重三郎

感染症内科

＜総説＞

1. 小金丸博：院内感染発生の防止対策．呼吸器内科 35：307-311，2019.
2. 武井卓，板橋美津世，小沢理音，山中法子，小金丸博，松田陽子，松原知康，新井 冨生，荒木厚：CONFERENCE ROOM　結核性腹膜炎の治療7ヵ月後に呼吸不全で死亡した透析例(症例検討会)．内科 123：1191-1202，2019.

＜学会発表＞

1. 浅見諒子，野口穣，古川友子，矢作和規，小金丸博，吉田敦，増田義重，稲松孝思：10年間における市中感染型MRSAの経年的推移について．第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会．石川，1月31日，2020.
2. 矢作和規，浅見諒子，野口穣，古川友子，小金丸博，吉田敦，増田義重，稲松孝思：Listeria monocytogenesによる人工弁心内膜炎の1例．第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会．石川，2月1日，2020.

＜講師等院外活動（講演・放送等）＞

1. 小金丸博：療養病床・慢性期医療における感染制御．厚生労働省　平成31年度院内感染対策講習会事業．東京，１月23日，2020.

精神科・もの忘れ外来

＜学会・研究発表＞

1. 古田光：認知症診断の流れ「treatable dementia はこう見抜く！」（特集困っている"あなた"に届く認知症診療），総合診療第 29 巻第 12 号 1451-1455，2019
2. 古田光：認知症の種類と BPSD（特集社会に生きる認知症の人のためにできること），調剤と情報第 26 巻第 2 号，178-182，2020
3. 扇澤史子：認知症診療トピックス 認知症の心理アセスメント（特集困っている"あなた"に届く認知症診療），総合診療第 29 巻第 12 号 1501-1503，2019

＜学会・研究会発表＞

1. 古田光　第34会日本老年精神医学会　シンポジウム6 認知症疾患医療センターにおける認知症患者の救急・急性期医療仙台市，6月8日，2019
2. 畠山啓・古田光・筒井卓実・白取絹恵・扇澤史子・今村陽子・岡本一枝・谷古宇美佳・木村陽子・粟田主一　第20回日本認知症ケア学会大会　認知症サポートチームの現状と課題　精神保健福祉士の立場から，京都府京都市，5月24日，2019
3. 齋藤久美子，古田光，粟田主一　第20回日本認知症ケア学会，認知症疾患医療センターにおける認知症初期集中支援チーム活動支援内容の検討，京都，5月26日，2019

＜雑誌論文＞

1. 古田光　第34会日本老年精神医学会　シンポジウム6 認知症疾患医療センターにおける認知症患者の救急・急性期医療仙台市，6月8日，2019
2. 畠山啓・古田光・筒井卓実・白取絹恵・扇澤史子・今村陽子・岡本一枝・谷古宇美佳・木村陽子・粟田主一　第20回日本認知症ケア学会大会　認知症サポートチームの現状と課題　精神保健福祉士の立場から，京都府京都市，5月24日，2019
3. 齋藤久美子，古田光，粟田主一　第20回日本認知症ケア学会，認知症疾患医療センターにおける認知症初期集中支援チーム活動支援内容の検討，京都，5月26日，2019

＜講師等院外活動（講演・放送等）＞

1. 古田光：当院の2つの認知症センターの活動について 認知症・高次脳ステップアップ講座，中野区，　4月4日，2019
2. 古田光：認知症初期集中支援チーム員研修　6月2日札幌市、12月22日福岡市
3. 古田光：精神関連疾患における画像診断活用法症例で診る高齢者精神関連疾患の画像　第34会日本老年精神医学会ランチョンセミナー，仙台市，6月 7 日，2019
4. 古田光：高齢者の精神疾患を理解し、支援につなげる，東京都2019年度精神保健福祉研修（前期），世田谷区，6月11日，2019
5. 古田光：知っておきたい認知症のこと～認知症とともにより良く過ごすために～，認知症・認知症対策のための保険と“有料老人ホームセミナー，文京区，6月21日，2019
6. 古田光：認知症の人の理解と対応　令和元年度第7-10回認知症介護実践者研修，文京区，7月4日，2019
7. 古田光　認知症の基礎知識，令和元年度第1回東京都歯科医師認知症対応力向上研修，千代田区，7月12日，2019
8. 古田光：知っておきたい医療と治療 認知症の方を介護する家族のための講座，板橋区，7月16日，2019
9. 古田光：もの忘れ相談医として知っておきたい高齢者の精神障害，板橋区もの忘れ相談医研修，板橋区，9月13日，2019
10. 古田光　認知症の人との気持ちと支え方　ベネッセの認知症タウンミーティングin埼玉，さいたま市，9月23日，2019
11. 古田光：東京都における島しょ地域の認知症支援について，第15回島しょ医療研究会，11月15日，2019

12. 古田光：医療職として知っておきたい認知症の医療とケア， 千代田区医療職向け研修3回シリーズ第1弾, 千代田区, 12月3日, 2019
13. 古田光：認知症の人の気持ちと支え方、ベネッセセミナー, 板橋区, 1月17日, 2020
14. 古田光：認知症との付き合い方、板橋老人クラブ連合会講演会, 板橋区, 1月30日, 2020
15. 古田光：こうやって防ごう・つきあおう認知症， 第37回大宮シティクリニック講演会, さいたま市, 2月4日, 2020
16. 扇澤史子：神経心理学的アセスメントを認知症の見立てと生活支援に活かす～HDS-R・MMSEを中心に，中野区小野薬品工業株式会社・東京都地域連携型認知症疾患医療センターあしかりクリニック共催「認知症・高次脳ステップアップ講座」，中野区， 4月4日，2019
17. 扇澤史子：認知症とともに生きる方への接し方，板橋区おとしより保健福祉センター主催「認知症の方を介護する家族のための講座」，板橋区，6月21日，2019
18. 扇澤史子：高齢者臨床～基礎から多職種連携へ，日本臨床心理士会　2019年度定例研修会Ⅰ第16回高齢者支援研修会，江東区，10月6日，2019
19. 扇澤史子・今村陽子：認知症の心理アセスメント―講義・アクティブラーニング・困った検査場面のシェアと対策，黒川由紀子老年学研究所，港区，10月9日，2019
20. 扇澤史子：認知症とともに生きる人への心理支援～『ままならなさ』とともに生きる本人の希望を支えることを目指して～，三豊市立西香川病院主催第19回認知症を考える会“認知症になっても本人が希望を持って前向きに生きられる社会をつくろう”，香川，2月9日，2020
21. 今村陽子：板橋区二次予防事業「はつらつ教室」，NPO法人　ワーカーズコープ・バル板橋，板橋区，6月12日～1月15日，2019年度（計7回）
22. 今村陽子：認知症全般に対するケアについて，東京北医療センター介護老人保健施設さくらの杜，北区，10月23日，2019
23. 岡本一枝：認知症高齢者の理解と症状・進行に応じた対応方法について，葛飾区介護相談員研修，葛飾区，9月6日，2019畠山啓：高齢者専門病院における虐待関連事例への対応～ソーシャルワーカーの立場から～，第 71 回GHP研究会主催「多職種による高齢者虐待への対応と支援」，新宿区， 8月3日，2019
24. 畠山啓：事例を通して学ぶ～退院援助と院外連携～，香川大学医学部附属病院主催「第16回認知症疾患医療センター研修会　令和元年度認知症疾患医療センター事例検討会」，香川県高松市，9月19日，2019
25. 畠山啓：医療機関が知りたい情報と伝え方～認知症の方が入院する時～認知症疾患医療センターの取組みや認知症の方への支援，板橋区おとしより保健福祉センター主催研修会，板橋区，9月25日，2019
26. 畠山啓：支援につなぐアプローチ，横浜市主催「令和元年度認知症初期集中支援チーム員研修」， 神奈川県横浜市，10月18日，2019
27. 畠山啓：認知症の高齢者とのかかわり方～認知症の進行にあわせたケアの方法と社会資源との連携の重要性～，東京都福祉保健局主催令和元年度支援・相談員課題別研修「高齢者支援における連携」，文京区，11月12日，2019
28. 畠山啓：事例を通して学ぶ～退院援助と院外連携～，日本医療社会福祉協会主催「2019年度ソーシャルワーク　スキルアップ研修　認知症高齢者へのソーシャルワーク支援プログラム」，北海道札幌市，11月23日，2019

＜書籍＞

1. 齋藤久美子：女性の暮らしやすさを考えるソーシャルワーク研究会編著：ソーシャルワーカーのための女性支援ガイドブック，第2章７　熟年期-支え合い生きる、第4章8　　高齢期の社会資源　中央法規出版, 2019

外科

研究活動では臨床研究を中心に、特に高齢者における化学療法の忍容性や、切除術を遂行するに当たっての問題点や工夫について検討、報告した。若手医師による症例報告も行った。院外活動としては、医学の友社主催の看護セミナーの講演を行った。

＜学会・研究会発表＞

1. 金澤伸郎、黒岩厚二郎、石崎達郎、荒木厚、井藤英喜、 許俊鋭. シンポジウム フレイル・サルコペニアと手術 フレイルと手術適応 -術前評価としてのフレイルの有用性に関する検討-. 日本麻酔科学会第66回学術集会（神戸）5.30.2019
2. 金澤伸郎, 野島陽子, 吉田孝司, 三井秀雄, 吉本恵理, 飯塚童一郎, 吉田智幸, 黒岩厚二郎. 高齢者の人工肛門管理. 第81回日本臨床外科学会総会（高知）11.16.2019
3. 金澤伸郎, 黒岩厚二郎, 石崎達郎, 吉田孝司, 三井秀雄, 吉本恵理, 飯塚童一郎, 吉田智幸, 荒木厚, 許俊鋭, 井藤英喜. 術前評価としてのフレイルの有用性に関する検討. JDDW2019, 第17回 日本消化器外科学会大会（神戸）11.23.2019
4. 吉田智幸, 三井秀雄, 藤條開, 吉本恵理, 飯塚童一郎, 吉田孝司, 金澤伸郎, 黒岩厚二郎. 結腸膀胱瘻と結腸直腸瘻を合併したS状結腸憩室症の1例. JDDW2019, 第17回 日本消化器外科学会大会（神戸）11.22.2019

＜講師等院外活動（司会・講演）＞

1. 金澤伸郎. がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会（講師）.（関東中央病院）1.18.2020
2. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「手術室看護セミナー　外科編」（東京）7.20.2019
3. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「手術室看護セミナー　外科編」（神戸）9.1.2018
4. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「消化器外科看護セミナー」（福岡）9.22. 2019
5. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「消化器外科看護セミナー」（大阪）10.6. 2019
6. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「消化器外科看護セミナー」（東京）10.26. 2019
7. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「消化器外科看護セミナー」（福岡）1.13. 2020
8. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「消化器外科看護セミナー」（東京）3.28. 2020
9. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「ナースのためのストーマケア（消化器）における大事な知識」（東京）7.6.2019
10. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「ナースのためのストーマケア（消化器）における大事な知識」（東京）12.1.2019

血管外科

当科の診療教育研究の成果として、一昨年までと異なり、本年は血管外科本来の研究／発表となり、科の活動を反映したものとなった。

＜原著＞

1. Hashimoto T, Akagi D, Yamamoto S, Suhara M, Deguchi J, Sato O. Short Interposition with a Small-Diameter Prosthetic Graft for Flow Reduction of a High-Flow Arteriovenous Fistula. J Vasc Surg. 2020. *in press*
2. Sano M, Yamamoto K, Seo A, Akai A, Akagi D, Takayama T, Hoshina K. Wound healing and its risk factors after revascularization for critical limb ischaemia. Int Angiol. 2019;. 38(3): 225-229.
3. Makino Y, Miyahara T, Nitta J, Miyahara K, Seo A, Kimura M, Suhara M, Akai A, Akagi D, Yamamoto K, Hoshina K. Proresolving Lipid Mediators Resolvin D1 and Protectin D1 Isomer Attenuate Neointimal Hyperplasia in the Rat Carotid Artery Balloon Injury Model. J Surg Res. 2019;233:104-110.
4. 赤木大輔. 特集：高齢者の心疾患に対する低侵襲的治療の現状と今後 8. Seminar 腹部/胸腹部/胸部大動脈瘤に対するステントグラフト治療の現状と展望. Geriat. Med. 58 (3) : 235-240, 2020
5. 赤木大輔. 静脈性血管瘤に対する手術手技. 血管外科. 38(1). 36-39. 2019
6. 赤木大輔. 河野論文に対する Editorial Comment. 心臓. 51(6). 599. 2019

＜総説＞

1. 中澤達、赤木大輔、高山利夫. J-CLEAR 座談会「血管外科の進歩」腹部大動脈瘤／閉塞性動脈硬化症治療の新たな展開－ステントグラフトなどの新しいデバイス治療－. THERAPEUTIC RESEARCH. 2019; 40:89-96.

＜学会・研究会発表＞

1. Akagi D. Real World data of DCB treatments n SFA lesions. DCB JET 2020 -Single Center Experience, One and a half years-. Japan Endovascular Treatment Conference 2020 (JET2020) 20.Feb. 2020Osaka, Japan. oral.
2. Akagi D, Nemoto Y. Treatment strategy of femoropopliteal lesions with drug-coated balloons by vascular surgeons in JAPAN - single center experience Society for Vascular Surgery, Vascular Annual Meeting (VAM) 13.Jun. 2019, National Harbor. USA. Interactive poster
3. Akagi D, Nemoto Y. Treatment strategy of femoropopliteal lesions with drug-coated balloons by vascular surgeons. Japan Endovascular Treatment Conference 2019 (JET2019) February 22 2019. Tokyo, Japan, oral
4. Akagi D. Endoluminal bypass at complex SFA disease form Japan data. Annual Meeting of Taiwan Society for Vascular Surgery 2019. Taipei Marriott Hotel, Taipei, TAIWAN, September 07 2019 Invited lecture
5. Akagi D. Endoluminal bypass at complex SFA disease form Japan data. Gore Vascular Semibnar 2019. Courtyard by Taipei Marriott, Taipei, TAIWAN, September 06 2019 Invited lecture
6. 赤木大輔、根元洋光, 薬剤溶出性バルーンなどの新規デバイスを用いた大腿膝窩動脈病変治療戦略. 第 47 回日本血管外科学会学術総会. 2019 年 5 月 22 日 名古屋. 口演.
7. 赤木大輔、根元洋光, 血管炎に対する治療戦略　血管炎による末梢動脈閉塞の治療戦略. 第 60 回日本脈管学会総会. 2019 年 10 月 11 日. 東京. 口演

8. 赤木大輔,保科克行、Conte Michael. 脈管学の基礎研究　血行再建術後内膜肥厚のメカニズムとその基盤となる炎症制御に注目した治療戦略. 第 60 回日本脈管学会総会. 2019 年 10 月 11 日. 東京. 口演
9. 赤木大輔, 内臓動脈. 第 60 回日本脈管学会総会. 2019 年 10 月 10 日. 東京. 座長
10. 赤木大輔, 今井崇裕, 孟真, 小川智弘, 星野祐二, 細井温, 渡部芳子, 福田和歌子. 静脈疾患の分類と QOL 指標　CEAP 分類の日本語版案　日本静脈学会国際委員会. 第 39 回日本静脈学会総会. 2019 年 7 月 4 日. 名古屋. 学会委員会報告、シンポジウム
11. 赤木大輔、瀬尾明彦、根元洋光. 再発・切除不能悪性腫瘍による浮腫に関連した静脈還流障害に対する静脈ステント留置. 第 25 回日本血管内治療学会. 2019 年 8 月 22 日. 東京、口演
12. 赤木大輔、瀬尾明彦、根元洋光. 足背動脈バイパス術後グラフト閉塞後に血栓摘除と足背動脈の EVT で開存を得たがさらに抗凝固療法中止後グラフト閉塞、大切断となった 1 例. 第 2 回 Nara Endovascular eXperience and Technology (NEXT) . 2019 年 10 月 31 日. 奈良. ポスター
13. 赤木大輔, 高齢者データと凝固線溶マーカーから導かれる『成功』といえる VTE 診療の 着眼点と実際. 赤羽循環器カンファレンス. 2019 年 12 月 17 日. 東京. 招待講演
14. 赤木大輔,高齢者深部静脈血栓症における凝固・線溶マーカーより得られた知見と治療戦略. イグザレルト WEB カンファレンス,. 2019 年 10 月 7 日.東京. 招待講演(WEB 配信)
15. 赤木大輔, EVT カテーテル治療. EVT 講演会. 2019 年 11 月 26 日. 東京. 座長
16. 瀬尾明彦、赤木大輔、保科克行、栗木優五、小松徹、神谷真子、大崎寿久、浦野泰照. 腹部大動脈開腹手術への応用を目的とした蛍光ペプチターゼプローベライブラリーを用いた正常血管の客観的評価方法（JCAA 優秀賞受賞）. 口演第 60 回日本脈管学会総会 2019 年 10 月 10 日. 東京. 口演
17. 瀬尾明彦、根元洋光、赤木大輔, 閉塞後７年の外腸骨動脈-大腿動脈バイパスに対しバイアバーンを用いた血管内治療とバイパスを併用し血行再建した 1 例。第 18 回血管外科アカデミー。2019 年 9 月 7 日、大分、口演.
18. 赤木大輔,ALIー私の施設はこうしている. 第 3 回 JーMEAT. 2019 年 6 月 21 日. 東京. 座長
19. 赤木大輔、根元洋光, ALI-私の施設はこうしている. 第 3 回 JーMEAT. 2019 年 6 月 21 日. 東京. 口演
20. 赤木大輔,東北大での最近の血管治療の話題. 第 11 回関東バスキュラー倶楽部. 2019 年 4 月 12 日. 東京. 座長
21. 赤木大輔、根元洋光, SFA ステント閉塞を血栓摘除後動静脈瘻を形成した 1 例. 第 11 回関東バスキュラー倶楽部. 2019 年 4 月 12 日. 東京. 口演
22. 赤木大輔, 末梢動脈疾患・大動脈プラークのなりたちと治療戦略. 健康長寿血管外科セミナー. 2019 年 5 月 7 日. 東京. 口演.
23. 赤木大輔,高齢者における血栓症マネジメント　～安全な治療を行うための凝固・線溶マーカーとは～. 血管病セミナー 「高齢者血栓症と担がん患者」. 2019 年 10 月 30 日. 東京. 口演.

＜講師・院外向け活動＞

1. 赤木大輔, 日本静脈学会評議員、国際委員会. 静脈学国際指標の日本語翻訳事業.
2. 赤木大輔, 実績から DCB 治療を考える。DCB セミナー. 2019 年 6 月 17 日. 東京. 講師
3. 赤木大輔, 第 3 回 DCB ワークショップ. 2019 年 9 月.24 日 東京. 世話人
4. 赤木大輔, EVT カテーテル治療ワークショップ. 2019 年 11 月 26 日. 東京. 世話人

心臓外科

＜雑誌論文＞

1. Mano A, Nishimura T, Murata T, Kawata M, Kyo S. “HeartMate II implantation in non-dilated left ventricle.” J Artif Organs;2019 Feb 8.
2. Mano A, Kilic A, Lampert BC, Smith SA, Whitson B, Hasan AK. “Impact of change in body mass index on outcomes following left ventricular assist device implantation in obese patients.” ASAIO J 2019;65:608-673.
3. Suzuki A, Ishikawa J, Nemoto Y, Tanaka J, Nishimura T, Kyo S, Harada K : Acute Left Ventricular Free Wall Rupture Treated by Percutaneous Intra-Pericardial Fibrin-Glue Infusion. Journal of Echocardiography 2019 ; 17 : 106-108
4. Kiyoyuki Chinzei, Akinobu Shimizu, Kensaku Mori, Kanako Harada, Hideaki Takeda, Makoto Hashizume, Mayumi Ishizuka, Nobumasa Kato, Ryuzo Kawamori, Shunei Kyo, Kyosuke Nagata, Takashi Yamane, Ichiro Sakuma, Kazuhiko Ohe, Mamoru Mitsuishi : Regulatory Science on AI-based Medical Devices and Systems. Advanced Biomedical Engineering 2018 ; 7 : 118-123 (2018 補遺)
5. 河田光弘, 村田知洋, 眞野暁子, 許俊鋭. 急性冠症候群疑いにてCAG施行後、A型急性大動脈解離＋弓部嚢状大動脈瘤の診断となり緊急手術(total aortic arch replacement)となった一例. ICUとCCU 2019. Vol.43 別冊号 S51-55.

＜学会・研究会＞

1. 村田知洋、河田光弘、眞野暁子、許俊鋭. 大動脈支援病院として救命できた心タンポナーデ合併の偽腔閉塞型StanfordA急性大動脈解離の1例. 第34回東京都循環器研究会. 2019年02月23日 東京
2. 眞野暁子、村田知洋、伊達数馬、河田光弘、許俊鋭. Biventricular Assist DeviceをHybrid Extracorporeal Membrane Oxygenationに変更することで救命し得た劇症型心筋炎の一例. 第47回日本酒中治療医学会学術集会. 2020年3月8日 名古屋
3. 村田知洋、伊達数馬、眞野暁子、河田光弘、許俊鋭. TAR, 下行置換, Y grafting後の残存TAAAに対して開腹debranching TEVARを行った超高齢者への治療経験. Tokyo Heart Surgery Conference. 2019年5月10日 東京
4. 河田光弘、村田知洋、眞野暁子、許俊鋭. 80歳以上の弓部分枝病変合併急性A型大動脈解離に対するIPA-RCPの有用性. 会長要望演題 Malperfusion合併急性A型解離に対する治療戦略. 第47回 日本血管外科学会学術総会 2019.5.22-24. 名古屋
5. 河田光弘、村田知洋、眞野暁子、許俊鋭. 85歳以上の急性A型大動脈解離-弓部分枝病変合併例に対するIPA-RCPの有用性. 循環器疾患・動脈硬化. 第61回 日本老年医学会学術集会 2019.6.6-8. 仙台
6. 村田知洋、伊達数馬、眞野暁子、河田光弘、許俊鋭. TAR, 下行置換, Y grafting後の残存TAAAに対して開腹debranching TEVARを行った超高齢者への治療経験. 第180回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 2019年6月08日 東京
7. 村田知洋、伊達数馬、眞野暁子、河田光弘、許俊鋭. 急性心筋梗塞PCI治療後, 急性大動脈解離StanfordAを発症した一例. 第252回日本循環器学会関東甲信越地方会. 2019年6月15日 東京
8. 河田光弘、武田和大、村田哲平、二見崇太郎、青山里恵、村田知洋、眞野 暁子. CoreValve Evolut R プロクタリング期間において経験した遠位弓部大動脈破裂. 第10回 日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会 JTVT2019. 2019年7月14日-15日. 鎌倉
9. 伊達数馬、村田知洋、眞野暁子、河田光弘、許俊鋭. 緊急TAVIから1年、入院加療を余儀なくされている超高齢者の1例. 第39回 東京胸部外科懇話会 2019.7.15 東京
10. 眞野暁子、村田知洋、河田光弘、許俊鋭. Bridge to DecisionにImpella 5.0を用いた重症心不全の一例. 日本集中治療医学会 第三回関東甲信越支部学術集会. 2019年7月27日 甲府
11. 伊達数馬、村田知洋、眞野暁子、河田光弘、許俊鋭. 直接穿刺塞栓を含む複数回の血管内治療を施行した解離性胸部大動脈瘤の１例. 第23回大動脈ステントグラフト研究会 2019.8.21 東京
12. 伊達数馬、村田知洋、眞野暁子、河田光弘、許俊鋭. 多数の併存疾患を有する胸部大動脈瘤患者に対して局所麻酔下にステントグラフト内挿術を施行した1例. 第27回血管外科学会関東甲信越地方会 2019.9.28 東京
13. 伊達数馬、村田知洋、眞野暁子、河田光弘、許俊鋭. 当院での開心術周術期の人工膵臓使用の現状と課題.

第57回日本人工臓器学会大会 2019.11.15 大阪

14. 伊達数馬、村田知洋、眞野暁子、村田哲平、青山里恵、武田和大、藤本肇、河田光弘、原田和昌、許俊鋭. Frailty評価から見た高齢者に対するTAVIの効果. 第10回日本心臓弁膜症学会. 2019.11.29 東京
15. 村田知洋、伊達数馬、眞野暁子、河田光弘、許俊鋭. 緊急TAVIから1年経過し入院加療を余儀なくされている超高齢者の1例. 第24回板橋区医師会医学会. 2019年12月07日 東京
16. 伊達数馬、村田知洋、眞野暁子、河田光弘、許俊鋭. 急性心筋梗塞後の心原性ショックに対するImpella2.5の使用経験. 第33回日本冠疾患学会学術集会 2019.12.14 岡山
17. Mitsuhiro Kawata, Tomohiro Murata, Akiko Mano, Kazuma Date, Shunei Kyo. Brachial-ankle pulse wave velocity changes in endoskeleton stent graft comparing to exoskeleton one for the aortic arch repair. ASCVTS 2020 (28th) February 7-10, 2020. Chiang Mai, Thailand
18. 伊達数馬、村田知洋、眞野暁子、河田光弘、許俊鋭. 機械的補助循環を段階的にup gradeするも救命に至らなかった急性心筋梗塞後重症心不全の1例. 第48回人工心臓と補助循環懇話会学術集会. 2020.2 (誌上開催) 札幌
19. 伊達数馬、村田知洋、眞野暁子、河田光弘、許俊鋭. 周術期の人工膵臓使用における現状と問題点. 第47回日本集中治療医学会学術集会. 2020.3 (誌上開催) 名古屋
20. 伊達数馬、村田知洋、眞野暁子、河田光弘、許俊鋭. 人工膵臓を使用した周術期血糖コントロールの現状と課題. 第50回日本心臓血管外科学会学術集会総会. 2020.3 (2020年8月に延期) 福島
21. 金丸晶子, 荒木厚, 千葉優子, 羽根田千恵, 府川則子, 黒岩厚二郎, 許俊鋭, 井藤英喜：経口摂取開始チャート導入前後の嚥下食活用および禁食の推移. 第 61 回日本老年医学会 (仙台) 2019.6.10

＜総説＞

1. 許俊鋭：特集「STOP! 医者の不養生」私の健康法-適度な飲酒. 月刊 保団連 1 2020；1308
2. 許俊鋭：特集:「医療安全元年から 20 年を経て」:人工心肺トラブルシューティング〕巻頭言. Clinical Engineering 2019；30(9)：811
3. 許俊鋭：特集:「医療安全元年から 20 年を経て」:人工心肺トラブルシューティング〕人工心肺トラブルの成因とヒューマンエラー. Clinical Engineering 2019；30(9)：813-819

＜講師等院外活動（講演・放送等）＞

1. 許俊鋭：人生 100 年時代！～健康長寿研究でみえてきた心と身体の健康法～. 令和元年東京都健康長寿医療センター気仙沼スタディー (気仙沼) 2019.6.21
2. 許俊鋭:本邦における心臓移植・補助人工心臓治療 現状と将来展望. 第 3 回練馬心不全フォーラム (豊島区) 2019.11.7
3. 許俊鋭：植込型補助人工心臓の永久治療(DT= Destination Therapy)の動向と長期在宅管理. 第 22 回在宅血液透析研究会 (甲府) 2019.11.2
4. 許俊鋭：重症心不全の外科治療:本邦における心臓移植・補助人工心臓治療現状と将来展望. 第 26 回東海胸部人工臓器カンファランス (名古屋) 2019.9.7
5. 許俊鋭：重症心不全の外科治療 ： 本邦における心臓移植・補助人工心臓治療の現状と将来展望. 第 43 回東京電機大学 ME 公開講座 (足立区) 2019.10.15
6. 許俊鋭:医療安全として日ごろ抱えている難問を解決する-成功事例に学ぶ-. 第 6 回日本医療安全学会 パネル討論会 (文京区) 2020.3.7

＜座長＞

1. 河田光弘. 一般演題. Tokyo Heart Surgery Conference. 2019.5.10. 伊藤国際学術研究センター

＜書籍＞

1. 河田光弘. 第2章〈エッセイ〉イマドキ指導医. あの先生にちょっと聞きたい！ イマドキ医師の指導に困ったとき. 電子コンテンツ. 日本医事新報社 2019.12.19
2. 河田光弘. 第4章 循環器病学. 4 後天性心疾患. 分担執筆 臨床工学講座 臨床医学総論 第2版 医歯薬出版株式会社 2020.3.20

＜その他＞

河田光弘 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 幹事就任 2019.11.12

脳神経外科

学会研究活動は、脳血管障害、脳腫瘍、正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫などに関するテーマについて、臨床的および基礎的な検討を行っている。脳神経外科学会総会・コングレス・地方会、日本脳神経血管内治療学会、老年脳神経外科学会、老年病学会、板橋区医師会、などで活動している。

平成27年から参画していたNCDの脳神経外科手術全症例登録事業は、脳神経外科学会主導で発展的に拡張され、平成30年1月1日からの、Japan Neurosurgical Database（JND）研究事業に移行、センター脳神経外科で入院治療を行った全症例登録を行っている。

＜雑誌論文＞

上野俊昭（2019）.″未破裂脳動脈瘤のコイル塞栓術適応に関する医療経済学的な考察.″脳卒中の外科 47：248-254.

＜学会・研究会発表＞

上野俊昭（2019）. 脳血管内治療の手術手技における保険算定ルールとの乖離についての検討. 第 35 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 福岡.

呼吸器外科

＜雑誌論文＞

1. Aoki S, Yamashita H, Takahashi W, Nawa K, Ota T, Imae T, Ozaki S, Nozawa Y, Nakajima J, Sato M, Anraku M, Nitadori J, Karasaki T, Abe O, Nakagawa K. Salvage stereotactic body radiotherapy for post-operative oligo-recurrence of non-small cell lung cancer: A single-institution analysis of 59 patients. Oncology letters 19(4) 2695 - 2704, 2020.
2. Shargall Y, Brunelli A, Murthy S, Schneider L, Minervini F, Bertolaccini L, Agzarian J, Linkins LA, Kestenholz P, Li H, Rocco G, Girard P, Venuta F, Samama M, Scarci M, Anraku M, Falcoz PE, Kirk A, Solli P, Hofstetter W, Okumura M, Douketis J, Litle V. Venous thromboembolism prophylaxis in thoracic surgery patients: an international survey. European Journal of Cardio-thoracic Surgery 57(2) 331 - 337, 2020.
3. Nakao K, Anraku M, Karasaki T, Kitano K, Nagayama K, Sato M, Nakajima J. Impact of Previous Malignancy on Outcome in Surgically Resected Non-Small Cell Lung Cancer. The Annals of Thoracic Surgery 108(6) 1671 - 1677, 2019.
4. Tian D, Shiiya H, Sato M, Sun CB, Anraku M, Nakajima J. Tumor location may affect the clinicopathological features and prognosis of thymomas. Thoracic Cancer 10(11) 2096 - 2105, 2019.
5. Agzarian J, Litle V, Linkins LA, Brunelli A, Schneider L, Kestenholz P, Li H, Rocco G, Girard P, Nakajima J, Samama CM, Scarci M, Anraku M, Falcoz PE, Bertolaccini L, Lin J, Murthy S, Hofstetter W, Okumura M, Solli P, Minervini F, Kirk A, Douketis J, Shargall Y. International Delphi survey of the ESTS/AATS/ISTH task force on venous thromboembolism prophylaxis in thoracic surgery: the role of extended post-discharge prophylaxis. European Journal of Cardio-Thoracic Surgery 57(5) 854 - 859, 2020.
6. Terada Y, Takahashi T, Morita S, Kashiwabara K, Nagayama K, Nitadori JI, **Anraku M**, Sato M, Shinozaki-Ushiku A, Nakajima J. Spread through air spaces is an independent predictor of recurrence in stage III (N2) lung adenocarcinoma. Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery 29(3) 442 - 448, 2019.
7. Shiiya H, Tian D, Sato M, Karasaki T, Kitano K, Nagayama K, Anraku M, Kaga K, Matsui Y, Nakajima J. Differences Between Patients With Idiopathic Pleuroparenchymal Fibroelastosis and Those With Other Types of Idiopathic Interstitial Pneumonia in Candidates for Lung Transplants. Transplantation Proceedings 51(6) 2014 - 2021, 2019.
8. Anraku M. The role of lymph node assessment along with sublobar resection is now evident, but what about the role of sublobar resection in small non-small cell lung cancer? Journal of Thoracic Disease 11(Suppl 9) S1389 - S1392, 2019.

＜総説・著書＞

1. 登祐哉, 安樂真樹：臨床における膜型人工肺のあゆみ 現状と課題（特集:膜型人工肺の最先端）膜 44(6) 289 - 293, 2019.
2. 安樂真樹：膠原病に伴う間質性肺疾患　診断・治療指針 2020（分担執筆）第 5 章　薬物療法以外　肺移植日本呼吸器学会・日本リウマチ学会合同　膠原病に伴う間質性肺疾患診断・治療指針作成委員会　メディカルレビュー社

＜学会活動・研究会発表・講師等院外活動＞

1. Anraku M. Long-term respiratory support using artificial lungs and pumps for bridging to recovery or lung transplant: Devices under research. The 8th meeting of the International Federation for Artificial Organs, Osaka Japan, 2019.
2. Anraku M, Fukumoto K, Hara S, Isoyama T, Ono T, Fujii Y, Ono M, Nakajima J. Large animal model of testing an artificial lung applied between the pulmonary artery and the left atrium as a bridge to lung transplantation. XLVI Annual Meeting of European Society for Artificial Organs. Hannover, Germany 2019.
3. 安樂真樹, 勝井 恵子, 上村 夕香理, 福元健人, 唐崎 隆弘, 北野 健太郎, 長山 和弘, 佐藤 雅昭, 中島 淳 脳死肺移植における新たなレシピエント選択システム構築に向けて 第 35 回日本肺および心肺移植研究会 2019.
4. 安樂真樹:3 学会合同呼吸療法認定士認定委員会「認定更新のための講習会」2020 年 テキスト(分担執筆) ７．症例による呼吸管理の実際
5. 安樂真樹:(海外文献紹介) 肺高血圧症合併間質性肺疾患に対する肺移植の機会増加 Pulmonary Hypertension Update Vol.5 No.1, 2019.
6. 安樂真樹:(海外文献紹介) 肺高血圧症に対する肺移植における心肺サポート Pulmonary Hypertension Update Vol.5 No.1, 2019.
7. 安樂真樹:セミナー「脳死下臓器摘出シミュレーション」 東関東・東京高度医療人養成ネットワーク 自治医科大学 2019 年 2 月
8. 安樂真樹(研究代表者):「肺移植待機患者に装着可能な長期耐久型人工肺システムの開発」日本医療研究開発機構 (AMED) 医療分野研究成果展開事業 先端計測分析技術・機器開発プログラム

整形外科・脊椎外科

＜雑誌論文＞

1. T. Miyazaki, Z. Zhao, Y. Ichihara, D. Yoshino, T. Imamura, K. Sawada, S. Hayano, H. Kamioka, S. Mori, H. Hirata , K. Araki, K. Kawauchi, K. Shigemoto, S. Tanaka, L. F. Bonewald, H. Honda, M. Shinohara, M. Nagao, T. Ogata, I. Harada, Y. Sawada. Mechanical regulation of bone homeostasis through p130Cas-mediated alleviation of NF-kB activity. *Science Advances* 25 Sep 2019: Vol. 5, no. 9, eaau7802 DOI: 10.1126/sciadv.aau7802
2. Kaneko S, Kanetaka M, Wagatsuma K, Ishii K, Anamizu Y, Tokimura F, Miyazaki T. NaF PET assessment of bone metabolic changes around the femoral canal by intramedullary femoral alignment technique in total knee arthroplasty. *Clin Case Rep*. 2019 Jun; 7(6): 1211-1214. doi: 10.1002/ccr3.2187. eCollection 2019 Jun.
3. Kosei Nagata, Koji Yamada, Tomohiro Shinozaki, Tsuyoshi Miyazaki, Fumiaki T okimura, Hiroyuki Oka, Yasuhito Tajiri, Sakae Tanaka and Hiroshi Okazaki. Non-inferior comparative study comparing one or two day antimicrobial prophylaxis after clean orthopaedic surgery (NOCOTA study): a study protocol for a cluster pseudo-randomized controlled trial comparing duration of antibiotic prophylaxis *BMC Musculoskeletal Disorders* 2019 Nov 13;20(1):533. doi: 10.1186/s12891-019-2879-3.
4. Hayakawa K, Kurano M, Ohya J, Kano K, Nisikawa M, Uranbileg B, Kuwajima K, Sumitani M, Tanaka S, Aoki J, Yatomi Y, Chikuda H. Lysophosphatidic acids and their substrate lysophospholipids in cerebrospinal fuid as objective biomarkers for evaluating the severity of lumbar spinal stenosis. *Sci Rep* (2019) Jun 24;9(1):9144
5. 濱路博、金高正和：3D ポーラス人工股関節カップの高齢者変性臼蓋への初期固定の検討 日本人工関節学会誌 49:411-412, 2019
6. Koji Yamada, Koji Nakajima, Hideki Nakamoto, Kazuhiro Kohata, Tomohiro Shinozaki, Hiroyuki Oka, Kiyofumi Yamakawa, Takuya Matsumoto, Fumiaki Tokimura, Hiroyuki Kanai, Yujiro Takeshita, Tatsuro Karita, Yasuhito Tajiri, Hiroshi Okazaki, and Sakae Tanaka Association Between Normothermia at the End of Surgery and Postoperative Complications Following Orthopedic Surgery Clin Infect Dis. 2020 Jan 16;70(3):474-482. doi: 10.1093/cid/ciz213.
7. Kosei Nagata, Tomohiro Shinozaki, Koji Yamada (corresponding author), Koji Nakajima, Hideki Nakamoto, Kiyofumi Yamakawa, Takuya Matsumoto, Fumiaki Tokimura, Hiroyuki Kanai, Yujiro Takeshita, Yasuhito Tajiri, Hiroaki Abe, So Kato, Yuki Taniguchi, Yoshitaka Matsubayashi, Yasushi Oshima, Sakae Tanaka, Hiroshi Okazaki A sliding scale to predict postoperative complications undergoing posterior spine surgery J Orthop Sci. 2019 Jul 5:S0949-2658(19)30196-4. doi: 10.1016/j.jos.2019.06.012. Online ahead of print.
8. 山田浩司 岡﨑裕司、田尻康人、時村文秋、松本卓也、山川聖史、田中栄最新の整形外科手術部位感染対策 2019 臨床麻酔 Vol43 No1 45-54、2019
9. 山田浩司、田尻康人、時村文秋 手術種類別にみた SSI 対策の実際 ② 整形外科手術 感染対策 ICT ジャーナル Vol14 No4 324-331, 2019
10. 中元秀樹、山田浩司、中嶋香児、安部博昭、穂積高弘、竹下祐次郎、三好光太、東川晶郎、唐司寿一、穴水依人、國谷崇、渡邉健一、増田和浩 脊椎手術 SSI における深達度別のリスクファクター ～2465 例の解析結果～ Journal of Spine Research 10(9): 1262-1268, 2019.

＜学会・研究会発表＞

1. Tsuyoshi Miyazaki, Shinya Nakamura, Masakazu Kanetaka, Fumiaki Tokimura, Kei Wagatsuma, Kenji Ishii, and Seiichi Azuma. NaF-PET Assessment of Postoperative Bone Metabolic Changes Around Total Knee Arthroplasty, 36th Annual Meeting of the European Bone and Joint Infection Society. Antwerpen, Belgium. 2019.9.11-13
2. 中村伸哉、金高正和、穴水依人、時村文秋、宮崎剛：人工膝関節全置換術後の自然経過におけるインプラント周囲の骨代謝変化の検討 第34回日本整形外科学会基礎学術集会、横浜、2019.10.17-18

3. 中村伸哉、金高正和、穴水依人、時村文秋、宮崎剛：人工膝関節全置換術後の自然経過でのインプラント周囲の骨代謝変化の検討　第 37 回日本骨代謝学会、神戸、2019.10.12-1
4. 濱路博、金高正和：変形性股関節症に対する片側人工股関節全置換術後対側臼蓋形成不全股の予後の前向き研究 第 50 回日本人工関節学会、福岡、2020.2.21
5. 永井雄高、熊川義人、中村伸哉、金高正和、時村文秋、宮崎剛：整形外科領域での NaF PET 検査の有用性 第 14 回 OSCAR（Orthopaedic Specialization Conference of Academic Researchers）東京、2019.9.14
6. 中元秀樹、中嶋香児、竹下裕次郎、田尻康人、宮崎剛、山川聖史、松本卓也、金井宏幸、山田浩司、田中栄：清潔整形外科手術においてブドウ球菌を起因近とする SSI は夏季に増加する -8907 件の解析結果-　第 92 回日本整形外科学会学術集会、横浜、2019.5.9-12
7. 小幡一博、山田浩司、中嶋香児、松本卓也、金井宏幸、時村文秋、田尻康人、山川聖史、田中栄：清潔整形外科手術での予防的抗菌薬使用は 24 時間で十分か　第 92 回日本整形外科学会学術集会､パシフィコ横浜、2019.5.9-12
8. 山田浩司、岡崎裕司、時村文秋、田尻康人、松本卓也、山川聖史、田中栄　整形外科の手術部位感染予防 -予防抗菌薬の適正使用、術野汚染対策と正常体温維持を中心に-　第 92 回日本整形外科学会学術集会、パシフィコ横浜、2019.5.9-12
9. 永田向生、山田浩司、中嶋香児、松本卓也、金井宏幸、山川聖史、竹下裕次郎、時村文秋、田尻康人、岡崎裕司、田中栄　脊椎再手術例に予防的抗菌薬投与を術後 24 時間以上投与しても SSI 発生率は低下しない 第 92 回日本整形外科学会学術集会、パシフィコ横浜、2019.5.9-12
10. 早川謙太郎　頚椎前方固定術後に自然消失した、黄色靭帯石灰化症の 2 例　第 54 回日本脊髄障害医学会 2019.10.31-11.1
11. Kosei Nagata, Koji Yamada, Yujiro Takeshita,Yasuhito Tajiri, Takahiro Hozumi, Yorito Anamizu, Hiroyuki Kanai, Kazuhiro Masuda Akiro Higashikawa,Koji Nakajima Dose Postoperative Antimicrobial Prophylaxis Administration for more than 24 Hours Prevent Surgical Site Infection in Revision Spine Surgery?　第 48 回日本脊椎脊髄病学会 JSSR 2019　2019/4/18-20
12. 山田浩司、田尻康人、時村文秋、岡崎裕司、中嶋香児、中元秀樹、木幡一博　手術終了時正常体温（≧36℃）は術後 30 日以内死亡リスクを軽減する　日本骨関節感染症学会 2019/7/19-20

＜講師等院外活動（講演・放送・新聞等）＞

1. 宮﨑剛：韓国KBS TV　放送日：2020年1月1日（水曜日）22時～22時50分　番組名:KBS1TV「生老病死の秘密」　新年特集「限界を超えて－Super Ager、彼らが生きる方法」
2. 宮崎剛：「変形性膝関節症の病院での治療～薬・注射・手術・リハビリ～」第28回板橋いきいき講演会 板橋区立文化会館　2019.4.27
3. 宮崎剛：健康診断の異常値を放置しない！スポーツ習慣のない人は「休日の外出で足腰の鍛錬を」今から始めよう！70代まで働く健康術　Yahoo Japanニュース　2020.1.23 https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200123-00000008-ykf-soci
4. 宮崎剛：「今から始めよう！70代まで働く健康術：1日10分の筋トレ&スロージョギングで細胞の炎症予防」夕刊フジ（新聞）2020.1.15
5. 宮崎剛：「今から始めよう！70代まで働く健康術：健康診断の異常値を放置しない！スポーツ習慣のない人は「休日の外出で足腰の鍛錬を」zakzak 2020.1.22　http://www-origin.zakzak.co.jp/lif/news/200122/hea2001220001-n1.html
6. 宮崎剛：1日10分の筋トレ&スロージョギングで細胞の炎症予防 今から始めよう！70代まで働く健康術 Yahoo Japanニュース　2020.1.17 https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200117-00000018-ykf-soci
7. 宮崎剛：「今から始めよう！70代まで働く健康術：1日10分の筋トレ&スロージョギングで細胞の炎症予防」夕刊フジ（新聞）2020.1.15
8. 宮崎剛：「今から始めよう！70代まで働く健康術：1日10分の筋トレ&スロージョギングで細胞の炎症予防」zakzak 2020.1.15　https://www.zakzak.co.jp/lif/news/200115/hea2001150001-n1.html
9. 宮崎剛：「運動の刺激が細胞の炎症や老化を抑える！？　専門家「元気に働くために…50代、60代での運動習慣が大切」Yahoo Japanニュース　2020.1.11 https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200111-00000010-ykf-soci
10. 宮崎剛：「今から始めよう！70代まで働く健康術：運動の刺激が細胞の炎症や老化を抑える」夕刊フジ（新聞）2020.1.8

11. 宮崎剛：「今から始めよう！70代まで働く健康術：運動の刺激が細胞の炎症や老化を抑える」zakzak 2020.1.8　https://www.zakzak.co.jp/lif/news/200108/hea2001080002-n1.html
12. 宮崎剛：「骨の健康を保つ仕組み 日に10分の運動刺激を」地方紙と共同通信のよんななニュース 2019.11.12　https://www.47news.jp/4142145.html
13. 宮崎剛：「骨の健康を保つ仕組み解明 1日10分の運動刺激を」SankeiBiz ライフ&マネー ヘルスケア 2019.11.5　https://www.sankeibiz.jp/econome/news/191105/ecb1911051346001-n1.htm
14. 宮崎剛：「骨の健康を保つ仕組み解明 1日10分の運動刺激を」産経ニュース ライフ からだ 2019.11.5 https://www.sankei.com/life/news/191105/lif1911050008-n1.html
15. 宮崎剛：「骨代謝を維持し炎症を抑える"適度な運動蛋白質" 1日10分、骨に衝撃を」スポーツ栄養Web 2019.10.17　https://sndj-web.jp/news/000423.php
16. 宮崎剛：「運動時の骨への衝撃、健康維持に重要」健康博覧会 2019.10.9 https://www.this.ne.jp/news/2598/
17. 宮崎剛：「運動が体の老化を抑制するメカニズムを解明　骨に加わる力が炎症を抑制」糖尿病ネットワーク 2019.10.9　https://dm-net.co.jp/calendar/2019/029536.php
18. 宮崎剛：「運動が身体の炎症・老化を抑制する分子メカニズムを解明－都健康長寿医療センター」QLifePro 医療NEWS 医療　2019.10.01　http://www.qlifepro.com/news/20191001/exercise-suppresses-aging.html
19. 宮崎剛：「1日10分運動刺激、骨健康 タンパク質作用で維持」静岡新聞夕刊　5面　2019.11.12
20. 宮崎剛：「骨の健康保つ仕組み解明 都長寿センターなど 1日10分運動を」高知新聞　15面　2019.11.8
21. 宮崎剛：「骨の健康保つ仕組み解明 1日10分運動を」山梨日日新聞　12面　2019.11.4
22. 宮崎剛：「1日10分の運動刺激を 国立障害者リハビリセンターなど発表」山陽新聞　12面　2019.11.4
23. 宮崎剛：「1日10分運動 骨の健康保つ 仕組み初解明」岐阜新聞　10面　2019.11.2
24. 宮崎剛：「骨の健康保つ仕組み初解明 国立障害者リハビリセンターなど」室蘭新聞　12面　2019.10.30
25. 宮崎剛：「骨の健康保つ仕組み 1日10分 運動で刺激 国内研究チームが初解明」宮崎日日新聞　13面 2019.10.22
26. 宮崎剛：「骨の健康 仕組み解明 1日10分でも運動が大切!? 日本の研究チーム」下野新聞　6面 2019.10.22
27. 宮崎剛：「1日10分の刺激を 骨の健康を保つ仕組み解明 研究チーム、米誌に発表」秋田さきがけ　6面 2019.10.21
28. 宮崎剛：「骨の健康保つ仕組み 解明」徳島新聞　6面　2019.10.21

皮膚科

＜総説＞

1. Tanei R. Atopic dermatitis in older adults: a review of treatment options. Drugs & Aging 2020, 37:149-160.
2. 種井良二. 老人性紅皮症. MB Derma 2019, 284: 50-57.
3. 宮澤理恵子. 種井良二. 高齢者の治療関連合併症. MB Derma 2019, 290: 59-65.

＜学会・研究会発表＞

1. 種井良二. 教育講演 41「痒疹と皮膚そう痒症をどのように診るか？」 高齢者の痒み対策. 第 118 回日本皮膚科学会総会、名古屋、2019.6.9.

＜講師等院外活動＞

1. 種井良二. 第 118 回日本皮膚科学会総会⑬ 教育講演４１－４ 高齢者の痒み対策.ラジオ NIKKEI マルホ皮膚科セミナー. 2020.2.10

眼科

沼賀は内因性ぶどう膜炎の臨床研究、術後炎症に対する薬物療法、また新薬の評価及び新しい臨床応用についての検討。 池上は黄斑前膜の網膜形態の解析と炎症の関与の検討：OCT を解析し、フレア値と網脈絡膜厚との関連につき検討。また糖尿病患者の網膜形態の変化について：OCT、OCTA を解析し、糖尿病病期と網膜脈絡膜厚、血管密度、無血管領域形態との関連をしらべ、網膜症の病態を検討。糖尿病黄斑浮腫に対する NAVILAS レーザー網膜光凝固の効果の検討：治療の効果につき、OCT、OCTA、網膜感度計などにて解析。寺田はヘルペス性前部ぶどう膜炎の多施設後ろ向き研究及びぶどう膜炎臨床統計の全国調査。山本は網膜硝子体疾患の臨床研究。福田は高齢者のぶどう膜炎治療とその問題点についての臨床研究。高尾は加齢黄斑変性症の臨床研究。

＜雑誌論文＞

1. Ikegami Y, Takahashi M, Amino K. Evaluation of choroidal thickness, macular thickness, and aqueous flare after cataract surgery in patients with and without diabetes: a prospective randomized study. BMC Ophthalmol. 2020 ;20(1):102.原著
2. Takashi Ono, Yukiko Terada, Yosai Mori, Yasushi Kataoka, Masaaki Nakahara, Kazunori Miyata. Spontaneous resolution of myopic foveoschisis and a macular hole with retinal detachment. *American Journal of Ophthtalmology Case Reports*. 2019:13:143-146 原著
3. Takashi Ono, Takuya Iwasaki, Yukiko Terada, Kentaro Abe, Jinhee Lee, Manabu Mochizuki, Kazunori Miyata. Serum KL-6 elevation in a uveitis patient with Behcet’s disease treated with adalimumab. *American Journal of Ophthtalmology Case Reports*. 2020:18 原著
4. Kitano M, Tanaka R, Kaburaki T, Nakahara H, Shirahama S, Suzuki T, Komae K, Aihara M Clinical features and visual outcome of uveitis in Japanese patients younger than 18 years Ocul Immunol Inflamm. 2020 Mar 12:1-7. 原著
5. Fujita A, Yoshida J, Toyono T, Usui T, Miyai T. Severity Assessment of Acute Hydrops Due to Recurrent Keratoconus after Penetrating Keratoplasty Using Anterior Segment Optical Coherence Tomography.Curr Eye Res. 2019;44(11):1189‐1194. 原著
6. Fujita A, Yoshida J, Toyono T, Usui T, Miyai T.Severity Assessment of Acute Hydrops Due to Recurrent Keratoconus after Penetrating Keratoplasty Using Anterior Segment Optical Coherence Tomography.Curr Eye Res. 2019;44(11):1189‐1194. 原著
7. Fujita A, Ushiku T, Miyai T. Huge Corneal Fibroma. Ophthalmology. 2019;126(11):1526. 原著
8. Fujita A, Aoyama Y, Tsuneyoshi S, Sugiura A, Azuma K, Asano-Shimizu K, Soga H, Hashimoto Y, Asaoka R, Inoue T, Obata R Association between visual function and the integrity of residual ellipsoid zone in resolved central serous chorioretinopathy. Sci Rep. 2019;9(1):12433. Published 2019 Aug 27. 原著

＜単行書・報告書＞

1. 寺田裕紀子、蕪城俊克. 眼疾患アトラスシリーズ第 2 巻　後眼部アトラス　Vogt‐小柳‐原田病. 総合医学社.
2. 2019 年 10 月発行.270-271
3. 寺田裕紀子、蕪城俊克.　【実践メディカル眼科治療アップデート】メディカル眼科治療　ぶどう膜炎・眼内炎症・腫瘍性疾患　サルコイドーシス. 臨床眼科.2019: 73: 251-255
4. 寺田裕紀子、沼賀二郎. トピックス「超高齢者の白内障手術とその対策」. IOL&RS. 2020:

＜学会・研究会発表＞

1. 寺田裕紀子、蕪城俊克、高瀬博、後藤浩、中野聡子、井上幸次、丸山和一、宮田和典、南場研一、園田康平、金子優、沼賀二郎、望月學　ヘルペスウイルス性前部ぶどう膜炎の臨床像の解析　第 53 回日本眼炎症学会

（京都）　7月6日

2. 菊池あき、伊賀祥子、寺田裕紀子、久保かなえ　リウマチ性多発筋痛症に合併した側頭動脈生検陰性の無症候性血管炎性前部虚血性視神経症の1例　第655回日本内科学会関東地方会（東京）　11月9日
3. 北野まり恵，甘利達明，井上達也，東惠子,南貴頼，山成正宏，杉山聡，大島進，加藤聡，小畑亮　網膜色素上皮剥離を伴う加齢黄斑変性患者における偏光 OCT の有用性　第 73 回日本臨床眼科学会(京都)　10月 26 日
4. 藤田あさひ、坂田礼、上田晃史、中島康介、藤代貴志、本庄恵、白土城照、相原一
5. The long-term effectiveness of fornix-based trabeculectomy in glaucoma patients　第123回日本眼科学会総会（東京）4月18日
6. 南貴紘、藤田あさひ、小畑亮、山本素士、小松佳代子、小川麻湖、山藤大輔、青木伸頼、山成正宏、杉山聡、大島進、甘利達明、東惠子、井上達也、本庄恵、蕪城俊克、相原一、加藤聡 Fundus observation using PS-OCT entropy and near-infrared autofluorescence　第123回日本眼科学会総会（東京）4月19日
7. 坂田礼、藤田あさひ、中島康介、上田晃史、藤代貴志、本庄恵、白土城照、相原一
濾過手術前の中心視野評価　第123回日本眼科学会総会（東京）4月19日
8. 甘利達明、小畑亮、藤田あさひ、南貴紘、山本素士、小松佳代子、小川麻湖、山藤大輔、青木伸頼、山成正宏、杉山聡、大島進、東惠子、井上達也、本庄恵、蕪城俊克、相原一、加藤聡　偏光OCTによる眼底偏光特性の人種間比較　第123回日本眼科学会総会（東京）4月18日

耳鼻咽喉科

＜学会・研究会発表＞

1. 大野慶子，毛利香織，田中祥兵，高橋正時，岸本誠司：頬脂肪体を用いて再建を行った高齢者口腔癌の 1 例．第 120 回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会　大阪，2019 年 5 月
2. 大野慶子，木村百合香，高橋正時，田中祥兵，堤剛：慢性副鼻腔炎における血清 IgG4 値に関する検討．第 58 回日本鼻科学会総会・学術講演会　東京，2019 年 10 月
3. 田中祥兵，高橋正時，大野慶子，三輪好，堤剛：超高齢者の新規補聴器装用に関する検討　第 37 回御茶ノ水耳鼻咽喉科頭頸部外科研究会　東京，2019 年 12 月

＜マスコミ・取材＞

1. 高橋正時　第399回　健康カプセル元気の時間「母の難聴＆夫のコレステロール出動！家族の健康防衛隊」2020年3月29日 放送　TBSテレビ

＜研究助成金＞

1. 高橋正時　厚生労働科学特別研究事業：長寿・障害総合研究事業 認知症研究開発事業：「高齢者における聴覚障害と総合機能の包括的評価：難聴補正による認知症予防を目指した研究」課題管理番号 18dk0207041h0001　研究分担者

歯科口腔外科

＜原著＞

（海外）

1. Kentaro Igarashi, Yutaka Watanabe, Yoshihiro Kugimiya, Maki Shirobe, Ayako Edahiro, Koh Kaneda, Yoko Hasegawa, Masayasu Ito, Hirohiko Hirano, Kaoru Sakurai, Takahiro Ono, Hiroki Inagaki, Shuichi Awata, Yasuhiko Kawai. Validity of a visual scoring method using gummy jelly for evaluating chewing efficiency in a large‐scale epidemiological survey. Journal of Oral Rehabilitation. 46(5):409-416. 2019. **（査読あり）（IF:2.341）**
2. Ryota Sakurai, Hisashi Kawai, Hiroyuki Suzuki, Hunkyung Kim, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi, Yoshinori Fujiwara. Poor Social Network, Not Living Alone, Is Associated With Incidence of Adverse Health Outcomes in Older Adults. Journal of the American Medical Directors Association. 20(11):1438-1443, 2019. **（査読あり）（IF:4.899）**
3. Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Motonaga Kojima, Yutaka Watanabe, Keiko Motokawa, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Hunkyung Kim, Shuichi Obuchi. Definition of respiratory sarcopenia with peak expiratory flow rate. Journal of the American Medical Directors Association. 20(8):1021-1025. 2019. **（査読あり）（IF:4.899）**
4. Kayoko Ito, Ayako Edahiro, Yoshihiko Watanabe, Yuki Ohara, Yoshiko Motohashi, Shiho Morishita, Keiko Motokawa, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Makoto Inoue. Qualitative analysis of the vocabulary used in work logs of a preventive programme for elderly oral function and nutrition. Journal of Oral Rehabilitation. 46(8):723-729. 2019. **（査読あり）（IF:2.341）**
5. Manami Ejiri, Hisashi Kawai, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Hunkyung Kim, Kaori Ishii, Koichiro Oka, Shuichi Obuchi. Social participation reduces isolation among Japanese older people in urban area: A 3-year longitudinal study. PLoS One. 20;14(9):e0222887. 2019. **（査読あり）（IF:2.776）**
6. Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Hirihoko Hirano, Motonaga Kojima, Yutaka Watanabe, Keiko Motokawa, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Hunkyung Kim, Shuichi Obuchi. SARC-F: A validation study with community-dwelling older Japanese adults. Geriatrics Gerontology International. 19(11):1172-1178. 2019. **（査読あり）（IF:2.118）**
7. Keiko Motokawa, Jun Yasuda, Yurie Mikami, Ayako Edahiro, Shiho Morishita, Maki Shirobe, Yuki Ohara, Kanji Nohara, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe. The Mini Nutritional Assessment-Short Form as a predictor of nursing home mortality in Japan: A 30-month longitudinal study. Archives of Gerontology and Geriatrics. Epub 2019 Sep 12. **（査読あり）（IF:2.611）**
8. Kentaro Igarashi, Yutaka Watanabe, Hisashi Kawai, Keiko Motokawa, Kento Umeki, Masayasu Ito, Takeshi Kera, Motonaga Kojima, Kazushige Ihara, Yoshinori Fujiwara, Hunkyug Kim, Shuichi Obuchi, Hirohiko Hirano, Yasuhiko Kawai. Relation between knee extension torque and occlusal force in community-dwelling elderly adults. Journal of Oral Science. 27;61(4):508-511. 2019. **（査読あり）（IF:1.104）**
9. Kaori Yamamoto, Keiko Motokawa, Takahiro Yoshizaki, Tomohiro Yano, Hirohiko Hirano, Yuki Ohara, Maki Shirobe, Hiroki Inagaki, Shuichi Awata, Shoji Shinkai, Yutaka Watanabe. Association of dietary variety and appetite with sleep quality in urban-dwelling older Japanese adults. The Journal of Nutrition, Health & Aging, https://doi.org/10.1007/s12603-019-1297-4, 2019. **（査読あり）（IF:2.660）**
10. Daichi Hoshino, Yutaka Watanabe, Ayako Edahiro, Yoshihiro Kugimiya, Kentaro Igarashi, Keiko Motokawa, Yuki Ohara, Hirohiko Hirano, Mie Myers, Shouji Hironaka, Yasubumi Maruoka. Association between simple evaluation of eating and swallowing function and mortality among patients with advanced dementia in nursing homes: 1-year prospective cohort study. Archives of Gerontology and Geriatrics. In press. 2019. **（査読あり）（IF:2.611）**
11. Ohara Y, Motokawa K, Watanabe Y, Shirobe M, Inagaki H, Motohashi Y, Edahiro A, Hirano H, Kitamura A, Awata S, Shinkai S. Association of eating alone with oral frailty among community-dwelling older adults in Japan. Arch Gerontol Geriatr. In press, 2020. **（査読あり）（IF:2.611）**
12. Kugimiya Y, Watanabe Y, Igarashi K, Hoshino D, Motokawa K, Edahiro A, Ueda T, Takano T, Sakurai K, Taniguchi Y, Kitamura A, Nasu I, Shinkai S, Hirano H. Factors associated with masticatory

performance in community-dwelling older adults: A cross-sectional study. J Am Dent Assoc. In press, 2020. **(査読あり) (IF:2.572)**

13. Kugimiya Y, Watanabe Y, Ueda T, Motokawa K, Shirobe M, Igarashi K, Hoshino D, Takano T, Sakurai K, Taniguchi Y, Kitamura A, Shinkai S, Hirano H. Rate of oral frailty and oral hypofunction in rural community-dwelling older Japanese individuals. Gerogontology. In press, 2020. **(査読あり) (IF:1.46)**
14. Matsubara C, Furuya J, Watanabe Y, Obana M, Shirobe M, Ohara Y, Edahiro A, Nakajima J, Motokawa K, Inagaki H, Hirano H, Minakuchi S, Shinkai S, Awata S. A cross-sectional study of age-specific differences in salivary occult blood test results in older people. Journal of Oral Science. In press, 2019. (査読あり) (IF:1.104)

(国内)

1. 平野浩彦、認知症の人への歯科診療などの口腔健康管理を行うための基礎知識、日本歯科衛生学会雑誌(1884-5193)14巻1号 Page38-49、2019.
2. 平野浩彦、【重度認知症の医療・介護の現状】重度認知症の人の口腔衛生管理、日本精神科病院協会雑誌38巻10号 Page939-943、2019.
3. 平野浩彦、口腔機能低下症をどう診る? オーラルフレイルの視点から、北海道歯科医師会誌75号 Page1-4、2020.

＜報告書＞

1. 平野浩彦 (研究代表者) : 日本医療研究開発機構研究費長寿科学研究開発事業「認知症高齢者に対する歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究」報告書
2. 平野浩彦 (研究代表者) : 令和元年度度厚生労働省老人保健健康増進等事業補助金報告書, 居宅系サービス利用者等の口腔の健康管理等に関する調査研究事業
3. 平野浩彦、オーラルフレイル最前線、公益財団法人8020推進財団学術集会フォーラム8020報告書17回 Page14-18、2020.

(成書)

1. 平野浩彦、小原由紀、本川佳子、本橋佳子、村上正治、高城大輔 (著分担) : 認知症の人への歯科治療ガイドライン、医歯薬出版株式会社、2019.
2. 平野浩彦 (編著) : 歯科医院で認知症の患者さんに対応するための本 ガイドラインに基づいた理解・接遇・治療・ケア、医歯薬出版株式会社、2019.

(商業雑誌)

1. 平野浩彦、【認知症の人の食べるを守る】認知症の人の食を取り巻く課題 認知症の進行と食にまつわる課題、Modern Physician39巻4号 Page339-342、2019.
2. 平野浩彦、【サルコペニア・フレイルUPDATE】オーラルフレイル解消によるQOL向上への取り組み、臨床栄養(0485-1412)134巻5号 Page578-582、2019.
3. 平野浩彦、【サルコペニアに関する最近の知見-変革する概念】オーラルフレイルの概念、カレントテラピー37巻12号 Page1152-1157、2019.
4. 平野浩彦、認知症患者さんに安心を!実例で学べる特徴と対応(第1回) 認知症って何?、デンタルハイジーン 40巻1号 Page56-59、2020.
5. 平野浩彦、健康寿命の延伸 人生100年時代に向けて 口から考える健康長寿 オーラルフレイルの視点から、地域医療57巻3号 Page276-278、2020.
6. 平野浩彦、【フレイルとその予防対策】フレイルの病態と新たな知見 フレイルと口腔機能 オーラルフレイルの視点から、診断と治療 108巻3号 Page319-325、2020.
7. 平野浩彦、小原由紀、【2040年を見据えた超高齢社会対策とは】健康づくり～ケア 高齢者栄養管理 オーラルフレイル対策、老年内科 1巻3号 Page286-293、2020.
8. 平野浩彦、【オーラルケア最新事情】オーラルフレイルと予防対策、FOOD Style 21 24巻3号 Page92-95、2020.

(その他)

1. 平野浩彦、老年歯科学 Up to Date (DVD) 日本訪問歯科協会
   平野浩彦 (監修)、サンスター・オーラルフレイルケア・プロジェクトHP、
   https://jp.sunstar.com/oral-frail/2019.11.
2. 平野浩彦、飯島勝矢、Mouth & Body Topics Vol4,サンスターグループ、2019.7.
3. 平野浩彦、臨床座談 健康寿命の延伸を支える 「オーラルフレイル」を知る 前編 GC CIRCLT No.169 2019.6.
4. 平野浩彦、臨床座談 健康寿命の延伸を支える 「オーラルフレイル」を知る 後編 GC CIRCLT No.170

2019. 7.

＜学会・研究会発表＞

（国内）

1. 五十嵐憲太郎、渡邊裕、釘宮嘉浩、伊藤誠康、金田恒、長谷川陽子、櫻井薫、小野高裕、 平野浩彦、河相安彦. 疫学調査における咀嚼能力測定用グミゼリーを用いた視覚スコア法の妥当性の検証. 日本補綴歯科学会第127回学術大会, 札幌, 2019. 5. 10-12.
2. 伊藤誠康、五十嵐憲太郎、渡邊裕、中島純子、梅木賢人、古賀麻奈花、郡司敦子、平野浩彦、河相安彦. 地域在住高齢者の咬合支持状態の把握と評価～義歯装着時の機能的咬合支持の分類～. 日本補綴歯科学会第127回学術大会, 札幌, 2019. 5. 10-12.
3. 平野浩彦. 認知症の口を支える視点、日本口腔衛生学会シンポジム. 2019. 5. 24. 大津
4. 平野浩彦. 家族との語らいから始まる認知症の人への口の支援、合同シンポジウム1 認知症の人と家族への支援、日本老年学会、仙台、2019. 6. 6.
5. 平野浩彦. 認知症高齢者に対する歯科治療ガイドラインの活用、指定シンポジウム1 認知症歯科治療ガイドライン関連シンポジウム、第30回日本老年歯科医学会学術大会, 仙台, 2019. 6. 7-8.
6. 平野浩彦. 認知症対応力向上研修を考える、支部組織委員会シンポジウム、第30回日本老年歯科医学会学術大会, 仙台, 2019. 6. 7-8.
7. 森美由紀:「放置された歯性感染を契機に感染性心内膜炎に波及し、敗血症に至った認知症高齢患者の一例」第 30 回日本老年歯科医学会学術大会 2019 年 6 月、仙台
8. 齊藤美香、千代侑香、小田哲也、森美由紀、平野浩彦、相田順子、上唇に発生した腺房細胞癌の1例、第30回日本老年歯科医学会学術大会、仙台、2019. 6. 7-8.
9. 千代侑香、小田哲也、宮本敦子、森美由紀、齊藤美香、平野浩彦、構音障害を主訴に歯科口腔外科受診し筋委縮性側索硬化症が疑われた一例、第30回日本老年歯科医学会学術大会、仙台、2019. 6. 7-8.
10. 松原ちあき、白部麻樹、濱芳央子、五十嵐憲太郎、釘宮嘉浩、星野大地、渡邊裕、小原由紀、本川佳子、本橋佳子、枝広あや子、古屋純一、平野浩彦、水口俊介. 地域在住高齢者における唾液中潜血の変化と口腔機能に関する縦断的研究. 第30回日本老年歯科医学会学術大会, 仙台, 2019. 6. 7-8.
11. 枝広あや子、本川佳子、白部麻樹、松原ちあき、釘宮嘉浩、五十嵐憲太郎、本橋佳子、 小原由紀、平野浩彦、渡邊裕、粟田主一. 都市高齢者の認知機能低下と身体・口腔機能低下との関連. 第30回日本老年歯科医学会学術大会, 仙台, 2019. 6. 7-8.
12. 濱芳央子、岩佐康行、枝広あや子、本橋佳子、白部麻樹、村上正治、高松直美、 平野浩彦. 病棟職員による口腔ケアにユマニチュードケアを導入する効果と課題. 第30回日本老年歯科医学会学術大会, 仙台, 2019. 6. 7-8. 神奈川県「口腔ケアによる健康寿命延伸事業」に関する報告. 第30回日本老年歯科医学会学術大会, 仙台, 2019. 6. 7-8.
13. 小島成実、齋藤京子、吉田祐子、平野浩彦、大渕修一、島田裕之、鈴木隆雄、岩佐一、金憲経. 都市部在住の高齢女性における膝痛の予知因子. 第第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019. 6. 7-8.
14. 佐藤哲郎、菊谷武、白部麻樹、田中友規、玉置勝司、戸原玄、中條和子、西本美紗、 平野浩彦、弘中祥司、山本龍生、渡邊裕、石井拓男、飯島勝矢. 第30回日本老年歯科医学会学術大会, 仙台, 2019. 6. 7-8.
15. 星野大地、渡邊裕、本川佳子、白部麻樹、枝広あや子、本橋佳子、高橋知佳、平野浩彦、村上浩史、弘中祥司、丸岡靖史. 終末期ケアのための簡易摂食嚥下機能評価の検討. 第30回日本老年歯科医学会学術大会, 仙台, 2019. 6. 7-8. **一般部門優秀ポスター賞**
16. 本川佳子、白部麻樹、枝広あや子、田中弥生、河合恒、解良武士、大渕修一、平野浩彦、 渡邊裕. 地域在住高齢者、通所事業所利用者、介護保険施設入所者の栄養指標の比較. 第第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019. 6. 7-8.
17. 解良武士、河合恒、平野浩彦、渡邊裕、小島基永、藤原佳典, 井原一成, 金憲経, 大渕修一. SARC-Fはサルコペニアよりも身体機能の虚弱状態を反映する. 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019. 6. 7-8.
18. 大須賀洋祐、小島成実、吉田祐子、平野浩彦、鈴木隆雄、金憲経. 後期高齢者における食品と運動の多様性とフレイルの発生 2年間のコホート研究. 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019. 6. 7-8.
19. 河合恒、大渕修一、渡邊裕、平野浩彦、藤原佳典、井原一成、小林吉之、持丸正明、対馬栄輝、中村耕三. スマートフォン内蔵GPSによって測定した日常生活歩行速度とフレイル関連指標との関係. 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019. 6. 7-8.
20. 藤原佳典、桜井良太、河合恒、金憲経、鈴木宏幸、小川将、渡邊裕、平野浩彦、井原一成、大渕修一. 独居は認知機能低下のリスクとなるか? ソーシャルネットワークの多寡に着目した検討. 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019. 6. 7-8.

21. 江尻愛美、河合恒、藤原佳典、井原一成、渡邊裕、平野浩彦、金憲経、大渕修一. 都市高齢者における孤立の発生に対する社会参加の予防効果　3年間の縦断研究. 第61回日本老年医学会学術集会,仙台,2019.6.7-8.
22. 高橋知佳、小原由紀、白部麻樹、本橋佳子、枝広あや子、本川佳子、稲垣 宏樹、粟田主一、 平野浩彦、渡邊裕. 地域在住高齢者の縦断的な調査によるオーラルフレイルの関連因子の検討. 日本歯科衛生学会第15回学術大会.　名古屋　2019.9.15-16. 第31回日本老年医学会学術集会,仙台,2019.6.7-8.
23. 山本かおり、本川佳子、平野浩彦、小原由紀、吉﨑貴大、矢野友啓、稲垣宏樹、新開省二、粟田主一、渡邊裕. 地域在住高齢者の食品摂取の多様性と睡眠の質：前向きコホート研究. 第66回日本栄養改善学会学術総会. 富山. 2019.9.5-7.
24. 五十嵐麻奈三、髙橋恵子、宮本敦子、市川果歩、森美由紀、齊藤美香、平野浩彦：「某急性期病院における造血幹細胞移植患者に対する歯科衛生士の取り組みー高齢者を中心にー」　第 14 回日本歯科衛生学会学術大会　2019 年 9 月 14 日～16 日　愛知県
25. 森下志穂、小原由紀、高橋知佳、白部麻樹、本橋佳子、枝広あや子、本川佳子、川村孝子、平野浩彦、渡邊裕. 通所介護施設の継続に影響する口腔機能および栄養に関する因子の検討. 日本歯科衛生学会第15回学術大会.　名古屋　2019.9.15-16.
26. 松原ちあき、白部麻樹、古屋純一、小原由紀、大渕修一、金憲経、粟田主一、平野浩彦、水口俊介、渡邊裕. 地域在住高齢者における歯科保健指導による認知機能低下予防効果の検証. 日本歯科衛生学会第15回学術大会.　名古屋　2019.9.15-16.
27. 平野浩彦、教育講演座長、摂食嚥下障害とフレイル、第6回日本サルコペニア・フレイル学会大会、新潟、2019.11.9.
28. 平野浩彦、シンポジウム座長、食を支えるためのオーラルフレイル対策　―エビデンスから地域展開へ―、第 6 回日本サルコペニア・フレイル学会大会、新潟、2019.11.10.
29. 小原由紀, 白部麻樹, 本川佳子, 本橋佳子, 枝広あや子, 稲垣宏樹, 渡邊裕, 平野浩彦, 粟田主一, 新開省二. 地域在住高齢者におけるオーラルフレイルの実態と食生活との関連について. 第78回日本公衆衛生学会総会. 高知. 2019.11.23-25.
30. 川村孝子, 甫仮貴子, 遠藤孝子, 山口柳子, 森下志穂, 小原由紀, 白部麻樹, 本橋佳子, 枝広あや子, 本川佳子, 平野浩彦, 渡邊　裕, 畠山桂郎. 通所介護施設の継続に影響する口腔機能および栄養に関する因子の検討. 第72回東北地区歯科医学会. 秋田.　2019.11.30-12.1.
31. 齊藤美香、別府大嘉繁、千代侑香、森美由紀、平野浩彦、相田順子、上唇に発生した腺房細胞癌の1例、第24回板橋区医師会医学会　2019年12月、板橋
32. 千代侑香、別府大嘉繁、森美由紀、齊藤美香、平野浩彦、構音障害を主訴に来院し筋委縮側索硬化症が疑われた 1 例、第 24 回板橋区医師会医学会　2019 年 12 月、板橋

（海外）

1. Keiko Motokawa, Ayako Edahiro, Maki Shirobe, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe. Examination concerning indicators for body composition and nutritional status in each category of Functional Assessment Staging (FAST) among older people with Alzheimer's disease. Asian congress of nutrition, Bali, 2019.8.4-7.
2. Yuki Ohara, Maki Shirobe, Ayako Edahiro, Keiko Motokawa, Hirohiko Hirano, Hisashi Kawai, Hunkyung Kim, Kazushige Ihara, Yoshinori Fujiwara, Shuichi Obuchi, Yutaka Watanabe. Factors associated to poor oral health-related quality of life among community-dwelling older Japanese. 21st International Symposium on Dental Hygiene, Brisbane, 2019.8.15-17.
3. Maki Shirobe, Yuki Ohara, Yutaka Watanabe, Ayako Edahiro, Keiko Motokawa, Hirohiko Hirano, Hisashi Kawai, Hunkyung Kim, Kazushige Ihara, Yoshinori Fujiwara, Shuichi Obuchi. Factors Affecting Discontinuation of Dental Visits in the Elderly. 21st International Symposium on Dental Hygiene, Brisbane, 2019.8.15-17.
4. Daichi Hoshino, Ayako Edahiro, Yoshihiro Kugimiya, Kentaro Igarashi, Keiko Motokawa, Yuki Ohara, Hirohiko Hirano, Mie Myers, Shouji Hironaka, Yasubumi Maruoka. Association between simple evaluation of eating and swallowing function and mortality among patients with advanced dementia in nursing homes: 1-year prospective cohort study.　9th European society for swallowing disorders, Vienna, 2019.9.20.
5. Hirohiko Hirano. Oral Frailty Concept ： A New Concept as One of Preventive Strategies in the Eating Ability for the Elderly. Oral-Frailty Symposium. Moderator and symposiast　5TH ASIAN CONFERENCE FOR FRAILTY AND SARCOPENIA AT TAIPEI, 2019.10.23.

6. Keiko Motokawa, Yuki Ohara, Maki Shirobe, Ayako Edahiro, Masanori Iwasaki, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe. Qualitative research on nutrition improvement measures at adult daycare facilities in Japan. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
7. Yoshihiro Kugimiya, Yutaka Watanabe, Yuki Ohara, Kentaro Igarashi, Daichi Hoshino, Keiko Motokawa, Ayako Edahiro, Takayuki Ueda, Tomofumi Takano, Kaoru Sakurai, Yu Taniguchi, Akihiko Kitamura, Ikuo Nasu, Shoji Shinkai, Hirohiko Hirano. Investigation of masticatory performance-related factors associated with mixing ability and shearing ability in a community-dwelling older population. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
8. Maki Shirobe, Takeshi Kikutani, Tetsuro Sato, Tomoki Tanaka, Katsushi Tamaki, Haruka Tohara, Kazuko Nakajo, Misa Nishimoto, Hirohiko Hirano, Shouji Hironaka, Tatsuo Yamamoto, Yutaka Watanabe, Takuo Ishii, Shunsuke Minakuchi, and Katsuya Iijima. Dealing with deterioration of oral frailty in dental clinics ―a randomized comparative control study―. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
9. Kentaro Igarashi, Yutaka Watanabe, Yoshihiro Kugimiya, Hisashi Kawai, Keiko Motokawa, Masayasu Ito, Kazushige Ihara, Yoshinori Fujiwara, Shuichi Obuchi, Hirohiko Hirano, Yasuhiko Kawai. Prevalence of oral hypofunction in japanese community-dwelling elderly in an urban area. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
10. Hirohiko Hirano, Ayako Edahiro, Shuichi Awata, Tetsuo Ichikawa, Yutaka Wanabe. The statement of position for dental care and the dental treatment guideline for the elderly peoples with dementia. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
11. Hisashi Kawai, Shuichi Obuchi, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Hunkyung Kim, Yoshiyuki Kobayash, Masaaki Mochimaru, Eiki Tsushima, Kozo Nakamura. Association between frailty and daily living walking speed measured by smartphones with built-in global positioning system (GPS). 11th International of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27. **Best Poster Award**
12. Narumi Kojima, Kyoko Saito, Yuko Yoshida, Hirohiko Hirano, shuichi Obuchi, Hiroyuki Shimada, Takao Suzuki, Hajime Iwasa, Hunkyung Kim. Predictors of knee pain in older women living in urban areas. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
13. Masashi Yasunaga, Hisashi Kawai, Manami Ejiri, Takeshi Kera, Yutaka Watanabe, Yoshinori Fujiwara, Hirohiko Hirano, Motonaga Kojima, Harumi Nakada, Shuichi Obuchi. Effect of frequency of participating in the region activity on subjective well-being: 3-years prospective study of urban Japanese older adults. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
14. Misa Nishimoto, Tomoki Tanaka, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Takeshi Kikutani, Tetsuro Sato, Kazuko Nakajo, Katsuya Iijima. Oral frailty is associated with deterioration of both oral health behaviors. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27. **(Best Poster Award)**
15. Hirohiko Hirano. DENTAL TREATMENT GUIDELINE FOR THE ELDERS WITH DEMENTIA: THE JSG PROTOCOLS. The current situation of Dementia in JapanSymposium 23 NEW HORIZON OF THE GERODONTOLOGY FOR 2020 INTERACTIONS OF ORAL FUNCTIONS AND THE UNDERLYING LINKS TO SYSTEMIC ILLNESSES VS. HEALTH. Symposiast, 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
16. Ryota Sakurai, Hisashi Kawai, Shuichi Yanai, Hunkyung Kim, Hirohiko Hirano, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi, Yoshinori Fujiwara. The effects of hearing loss and mobility decline on cognitive function of older adults. GSA 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, USA. 2019.11-13-17.
17. Masashi Yasunaga, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Hiroyuki Suzuki, Yoshinori Fujiwara, Shuichi Obuchi. Effect of Frequency of Participating in the Region Activity on Functional Decline. GSA 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, USA. 2019.11-13-17.
18. Misa Nishimoto, Tomoki Tanaka, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Takeshi Kikutani, Tetsuro Sato, Kazuko Nakajo, Katsuya Iijima. Oral Frailty Is Associated With Multifaceted Frailty in Elderly

Outpatients at Community Dental Clinics. GSA 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, USA. 2019.11-13-17.

＜講師等院外活動（講演・放送等）＞

（新聞）

1. 平野浩彦. 人生100年は「口」が作る！、週刊文春、2019.10.17.
2. 平野浩彦. ささいな口の変化が、全身の衰えに　予防法を学ぶ講演会、神奈川新聞、2019.12.3.
3. 平野浩彦. 要介護になるリスクが2倍以上?!「オーラルフレイル」とは朝日新聞Reライフ.net 、2020.3.29.
4. 森美由紀：読売家庭版　ココロとカラダの相談室 2020 年 3 月号「顎関節症」

（放送）

1. 平野浩彦. 口の健康が長寿を支える ～ オーラルフレイル　最新研究～、TVシンポジウム、NHK Eテレ、2019.9.7.

（講演）

海外

1. Hirohiko Hirano. Oral Frailty Concept: A New Concept as One of Preventive Strategies in the Eating Ability for the Elderly in Japan. Sun medical center workshop. Daejeon, 2019.4.4.
2. Hirohiko Hirano. Oral Frailty Concept.10th KOREA HEALTHCARE Congress 2019. Seoul, 2019.4.5.
3. Hirohiko Hirano. Oral hypofunction. Sun medical center workshop. Daejeon, 2020.1.18.

国内

1. 平野浩彦. 認知症の人の食支援：難病摂食嚥下研究会.国立精神神経疾患医療センター.2019.4.20.
2. 平野浩彦. 食支援の視点から　看護師・介護士のための認知症看護　ケーススタディ＆周辺症状との向き合い方　エムハンク. 町田 2019.4.6.
3. 平野浩彦. 口腔機能低下症：オーラルフレイルの視点から日本老年歯科医学会　神奈川支部・山梨支部　合同セミナー.神奈川歯科大学.2019.4.20.
4. 平野浩彦. 食支援の視点から　看護師・介護士のための認知症看護　ケーススタディ＆周辺症状との向き合い方　エムハンク. 名古屋 2019.5.11.
5. 平野浩彦. 食支援の視点から　看護師・介護士のための認知症看護　ケーススタディ＆周辺症状との向き合い方　エムハンク. 札幌 2019.6.22.
6. 平野浩彦. 口腔機能低下症をどう診る：オーラルフレイルの視点からー高齢患者さんの口腔機能維持・向上への対応－第 37 回顎咬合学会学術大会・総会. 東京. 2019.6.23.
7. 平野浩彦. 介護予防を目的とした口腔と栄養へのアプローチーオーラルフレイルの視点からー、東京都介護予防推進支援センター研修会. 東京. 2019.6.26.
8. 平野浩彦. 健康長寿の延伸はオーラルケアから老いへの予防は“オーラルフレイル対策”にあり. 大阪医科大学. 2019.7.20.
9. 平野浩彦. 食支援の視点から　看護師・介護士のための認知症看護　ケーススタディ＆周辺症状との向き合い方　エムハンク. 仙台 2019.7.21.
10. 平野浩彦. 認知症の人の口を支える視点：受診を断わる理由にしないために、歯科医師認知症対応力力向上研修. 大分県歯科医師会. 大分. 2019.8.3.
11. 平野浩彦. 在宅療養高齢者歯科診療、日本歯科衛生士会. 神戸. 2019.8.4.
12. 平野浩彦. 口腔機能低下症をどう診る？オーラルフレイルの視点から、第 72 回北海道歯科学術大会. 札幌. 2019.8.17.
13. 平野浩彦. 食支援の視点から　看護師・介護士のための認知症看護　ケーススタディ＆周辺症状との向き合い方　エムハンク. 大阪 2019.8.18.
14. 平野浩彦. 最新研究でわかったお口と健康寿命の関係ーオーラルフレイルの視点からー、認知症講演会「今から始める認知症予防」、北区主催、王子、2019.8.17. 13.
15. 平野浩彦.　口から認知症を考えよう！　- いつまでも食を楽しむために - 令和元年度 認知症地域フォーラ

ム in 長岡 . 長岡. 2019.9.1.

16. 平野浩彦. 食支援の視点から　看護師・介護士のための認知症看護　ケーススタディ＆周辺症状との向き合い方　エムハンク. 博多 2019.9.7.
17. 平野浩彦. 認知症の人の口を支えるために　歯科治療ガイドラインからの提言、特別講演、日本歯科衛生学会第 14 回学術大会、名古屋、2019.9.16.
18. 平野浩彦. オーラルフレイル、今なぜフレイルが注目されるのか　口腔機能低下症を含めて考える、秩父郡市歯科医師会、2019.9.21.
19. 平野浩彦. 健康長寿を口から支える視点　オーラルフレイルとは？市民公開講座　オーラルフレイル・シンポジウムー健口で延ばす健康寿命ー、海老名市、2019.9.22.
20. 平野浩彦. オーラルフレイル口腔機能低下症について、口腔機能評価スキル向上研修会、富山県歯科医師会、富山市、2019.9.29.
21. 平野浩彦. オーラルフレイル、シンポジウム健康寿命の延伸　人生 100 年時代に向けて、第 59 回 全国国保地域医療学会、長崎、2019.10.5.
22. 平野浩彦. 認知症の人の口を支える視点受診を断わる理由にしないために NPO　日本･アジア健康科学支援機構健口管理士（第二種）認定研修会、東京、2019.10.6.
23. 平野浩彦. 在宅における認知症の対応、令和元年度神奈川県歯科医師会在宅歯科医療推進研修会、神奈川県歯科医師会、横浜、2019.10.6.
24. 平野浩彦. 中高年のための健康講座座長、東京都健康長寿医療センター、板橋、2019.11.2.
25. 平野浩彦. 認知症の人の口を支える視点：受診を断わる理由にしないために、歯科医師認知症対応力力向上研修. 鳥取県歯科医師会. 米子. 2019.11.3.
26. 平野浩彦. 認知症の人の口を支える基礎知識 - 認知症を歯科診療を断る理由にしないために - 、令和元年度東京都歯科医師認知症対応力向上研修、立川、2019.11.6.
27. 平野浩彦. 口からはじめる健康長寿　オーラルフレイルの視点から令和元年度 健康長寿新ガイドライン専門研修　人のからだを知って、口からはじめる健康長寿、気仙沼市、2019.11.15.
28. 平野浩彦. 超高齢社会に優しい歯科を考える視点　オーラルフレイル、蕨戸田歯科医師会研修会、蕨市、2019.11.16.
29. 平野浩彦. 認知症の食を支える視点　出来ない理由にしないために、北区摂食嚥下機能評価医要請フォローアップ研修、北区、2019.11.17.
30. 斉藤美香.　東京都がん診療連携協議会　評価・改善部会　区西北部　病院相互訪問「周術期口腔管理」、帝京大学、2019.11.19.
31. 平野浩彦. 認知症の食を支える視点　出来ない理由にしないために、GC 友の会　学術講演会　仙台ステップアップ講演会、GC 友の会　学術講演会　仙台ステップアップ講演会、仙台、2019.11.24.
32. 平野浩彦. 認知症の食を支える視点 出来ない理由にしないために、北佐久歯科医師会研修会、小諸市、2019.11.30
33. 平野浩彦. 認知症の食を支える視点 出来ない理由にしないために、松戸摂食嚥下研修会、松戸市、2019.12.6.
34. 平野浩彦. オーラルフレイルの予防と対策、更なる推進に向けて　オーラルフレイル最前線、公益財団法人 8020 推進財団「第 17 回　フォーラム 8020」、東京、2019.12.7
35. 平野浩彦. シンポジウム 1　フレイルと機能性食品　高齢期の食を支える新たな視点　オーラルフレイル、第 17 回日本機能性食品医用学会総会、東京、2019.12.7
36. 平野浩彦.『健康寿命を延ばすため「食力（しょくりき）」を考える』−超高齢社会における補綴歯科治療の役割−認知症の人への歯科治療日本補綴学会　令和元年度　東京支部学術大会　生涯学習公開セミナー、東京、2019.12.8.

37. 平野浩彦. 認知症と歯科について - いつまでも食を楽しむために - 、いわき市認知症を語る会 市民講座「認知症新時代」in 泉 2019、いわき市、2019.12.14.
38. 平野浩彦. 診療所からはじめる「オーラルフレイル」「口腔機能低下症」の予防・改善対策、オーラルフレイル対応力研修会神奈川県歯科医師会、横浜市、2019.12.15.
39. 平野浩彦. お口と健康寿命の関係ーオーラルフレイルの視点からー、青葉区オーラルフレイル予防講演会、神奈川県青葉区、2019.12.15.
40. 平野浩彦. 認知症の人の口を支える視点 出来ない理由にしないために、東京医科歯科大学歯科衛生士総合研修センター公開セミナー、東京、2020.1.12.
41. 平野浩彦. 認知症の人の口を支える基礎知識、茨城県歯科医師会歯科医師認知症対応力向上研修、水戸、2020.1.26.
42. 平野浩彦. 口から始める健康寿命 オーラルフレイルご存じですか？杉並区介護予防講演会、東京、2020.1.29.
43. 平野浩彦. 高齢期の食を支える新たな視点 オーラルフレイル, 旭川歯科医師会学術講演会、旭川、2020.2.1.
44. 平野浩彦. かかりつけ歯科医の役割 認知症の人の口を支えるために、相模原市歯科医師会歯科医師認知症対応力向上研修、相模原、2020.2.2.
45. 平野浩彦. 食支援の視点から 看護師・介護士のための認知症看護 ケーススタディ＆周辺症状との向き合い方 エムハンク. 名古屋 2020.2.8.
46. 平野浩彦. フレイルと向き合うために オーラルフレイルについて、第1回フレイルに立ち向かう会「フレイルの日」制定記念イベント、三島市、2020.2.9.
47. 平野浩彦. 高齢期の食を支える新たな視点 オーラルフレイルとは、釜石歯科医師会学術講演会、釜石市、2020.2.15.
48. 平野浩彦. 高齢期の食を支える新たな視点：オーラルフレイル、第 10 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 教育講演、東京、 2020.2.23.

（講義）

1. 平野浩彦. 高齢者歯科、東京歯科大学、4年次講義、東京、2019.6.20.
2. 平野浩彦. 高齢者歯科、日本大学松戸歯学部4年次講義、松戸、2019.7.2.
3. 斉藤美香. 高齢者の口腔ケアについて、板橋看護学校、2019.11.6.
4. 平野浩彦. 高齢期における歯科口腔機能の重要性
5. 平野浩彦. オーラルフレイルの視点から、東京大学 GLAFS 特論 IX、東京大学、2019.11.19.

＜講師等院内活動＞

1. 平野浩彦. オーラルフレイルって何？ 第10回GOC研修会. 2019.4.14.
2. 斉藤美香. 高齢者の口腔疾患について. クルズス. 2019.5.28.
3. 平野浩彦. 認知症の口を支える：認知症の人への歯科治療ガイドライン、第11回GOC研修会. 2019.8.25.
4. 平野浩彦. 食べられる口の評価とは？、NST研修会、2019.12.4.
5. 平野浩彦. オーラルフレイル、ジェネラルコースレベルⅣ、高齢者看護Ⅳスキルアップ研修、2019.11.27.
6. 平野浩彦. 認知症の人の口を支えるための基礎知識ーできない理由にしないためにー 歯科医療従事者が知るべき認知症の人へのアプローチ、第12回GOC研修会. 2020.1.19.
7. 平野浩彦. オーラルフレイル、エキスパートナース研修、2020.1.28.
8. 髙橋恵子、五十嵐麻奈三. 口腔環境を整える口腔ケア、看護師研修会、2019. 11. 21.

＜資格取得＞

・森美由紀：日本老年歯科医学会認定医
・高橋惠子：在宅療養指導・口腔機能管理認定歯科衛生士
　　医科歯科連携・口腔機能管理認定歯科衛生士

麻酔科

＜雑誌論文＞

1. Hirose Kayo, Ogura Makoto, Yamada Yoshitsugu. Anesthesia for a long-term anorexic patient with end-stage liver cirrhosis: A Case Report5: The Journal of Medical Investigation6. 337～339,2019

＜単行書・報告書＞

1. 小松郷子. Why do women leave surgical training? A qualitative and feminist study. CareNet解説,2019.2

＜学会・研究会発表＞

1. 小倉信：高齢者における麻酔の進歩と問題点. シンポジウム「超高齢者への医療の挑戦と限界」, 第 30 回日本医学会総会 2019 中部, 名古屋市, 2019.4.28
2. 須井翼, 藤枝俊宣, 廣瀬佳代, 梅津信二郎. 非拘束的な心電計測用電極の開発: 日本材料科学会主催2019年度学術講演大会,第3回インフォマティク・バイオマテリアル研究会2019
3. Cheng Zhou, Kayo Hirose, Shinjiro Umezu. Discussion of using OpenPose to analysis the walking parameter: International Symposium on BioComplexity (ISBC) 2019 SummerSymposium
4. Tsubasa Sui, Toshinori Fujie, Kayo Hirose, Shinjiro Umezu. Development of Electrodes for Long-term High Precision ECG Measurement that is Non-invasive to Everyday Life: International Symposium on BioComplexity (ISBC) 2019 SummerSymposium
5. Kayo Hirose. Decrease of serum cortisol is related to postoperative euphoria in anesthetized patients3. International Symposium on BioComplexity (ISBC) 2019 SummerSymposium
6. 須井翼, 藤枝俊宣, 廣瀬佳代, 梅津信二郎. 非侵襲的心電モニタリングに適した電極の基礎特製の検討: ロボティクス・メカトロニクス講演会 2019４.
7. 廣瀬佳代, 須井翼, 藤枝俊宣, 梅津信二郎,山田芳嗣. 医療機関受診前での心室細動患者拾い上げデバイスの開発: 日本麻酔科学会第66回学術集会

リハビリテーション科

＜総説＞

1. 桑田直弥：老年臨床心理学の実践2　福祉現場の実践から．老年臨床心理学研究．1(1):41-43，2019.
2. 桑田直弥：認知症予防の実践から．初期における認知症の人の支援；地域社会での実践から．日本認知症ケア学会誌．18(4):753-761，2020.

＜単行書・報告書＞

1. 第3期後期高齢者福祉委員会(香川克，松田修，小野寺敦志，桑田直弥，藤田雄，山中克夫，若松直樹，沼田悠梨子，高橋幸市)：高齢者領域における臨床心理士の活動実態に関するWEB調査報告書(2018)，一般社団法人日本臨床心理士会，9月，2019.
2. 桑田直弥：高齢者領域での働き方/学生の間に学ぶべきポイント．医療･福祉の仕事 見る知るシリーズ第5期全5巻セット「公認心理師の一日」，WILL子ども知育研究所編著，保育社，大阪，pp40-41/47-48，9月3日，2019.
3. 桑田直弥，小野寺敦志，高橋幸市：介護施設における高齢者臨床．Ⅱ関係行政論－福祉，高齢者，公認心理師現任者講習会テキスト(改訂版)，一般財団法人日本心理研修センター監修，金剛出版，東京，pp78-80，9月9日，2019.
4. 桑田直弥：Column 8-3 人生を語ることで気持ちの発散を―繰り返しの話にも意味がある．「基礎から学べる医療現場で役立つ心理学」，大川一郎・土田宣明・高見美保編著，ミネルヴァ書房，京都，pp230，3月31日，2020.

＜学会・研究会発表＞

1. 金丸和富，金丸晶子，仁科裕史，仙石錬平，村山繁雄：レビー小体型認知症におけるCSF Aβ40およびAβ42/40の検討．第60回日本神経学会学術大会．大阪，5月23日，2019.
2. 加藤貴行，金丸和富，村山繁雄：軽度認知障害(MCI)を対象とする外来における、嗜銀顆粒性認知症症例についての検討．第60回日本神経学会学術大会．大阪，5月24日，2019.
3. 桑田直弥：無料低額宿泊所を利用中の生活困窮者への支援事例．第20回日本認知症ケア学会，京都，5月25日，2019.
4. 加藤貴行，齊藤陽子，太田隆，小山照幸，金丸晶子：軽度認知障害(MCI)を対象とする外来における、非アルツハイマー型認知症症例についての検討．第61回日本老年医学会学術集会．　仙台，6月8日，2019.
5. 金丸晶子，荒木厚，千葉優子，黒岩厚二郎，引地和佳子，羽根田千恵，府川則子，許俊鋭，井藤英喜：経口摂取開始チャート導入前後の嚥下食活用および禁食の推移．　第61回日本老年医学会学術集会．　仙台，6月8日，2019.
6. 金丸和富，金丸晶子，村山繁雄：レビー小体型認知症におけるCSF Aβ40の低下．第61回日本老年医学会学術集会．　仙台，6月8日，2019.
7. 桑田直弥，野村麻衣：介護施設における中高年の生活困窮者への支援例　20年間のひきこもりから自立生活を営むまで．第38回日本心理臨床学会，横浜，6月8日，2019.
8. Akiko Kanemaru, Takahiro Ebuchi, Yoko Saito, Naoko Shoda, Takayuki Kato, Teruyuki Koyama, Yuka Okuno, Haruna Tanaka, Izumi Terasawa, Takashi Ohta：The effect of a team-round against hospital-associated disability in an acute medical care based on a survey of inpatients. ISPRM2019. Kobe, June 11-12, 2019.
9. Takayuki Kato, Akiko Kanemaru, Yasuhiro Sugawara, Yoshie Kawaji, Miyuki Iwamoto, Tomo Hiraoka, Ayaka Makita, Takashi Ota, Teruyuki Koyama, Naoko Shoda, Yoko Saito: Argyrophilic Grain Disease (AGD) Cases in Outpatients with Mild Cognitive Impairment(MCI). ISPRM2019. Kobe, June 11-12, 2019.
10. 金丸晶子，齊藤陽子，正田奈緒子，加藤貴行，小山照幸:急性期廃用防止ラウンド(Team-Round Against Hospital-Associated Disability:TRAHAD)が入院期間に及ぼす影響．第56回日本リハビリテーション医学会学術集会．神戸，6月13日，2019.
11. 江渕貴裕，金丸晶子，齊藤陽子，奥野由佳，太田隆：当院における入院関連機能障害の発症状況．第56回日本リハビリテーション医学会学術集会．神戸，6月13日，2019.
12. 工藤卓人，江渕貴裕，金丸晶子，齋藤陽子，太田隆：当院における廃用防止ラウンドの取り組み．　第56回日本リハビリテーション医学会学術集会．神戸，6月13日，2019.
13. 加藤貴行，齊藤陽子，正田奈緒子，小山照幸，金丸晶子：軽度認知障害(MCI)を対象とする外来における、

嗜銀顆粒性認知症症例についての検討. 第56回日本リハビリテーション医学会学術集会. 神戸, 6月14日, 2019.

14. 山口真依, 江渕貴裕, 小宮山潤, 小山照幸, 武田和大, 太田隆, 金丸晶子：経カテーテル大動脈弁置換術後の理学療法経過① クリニカルパスの達成とその要因について. 第56回日本リハビリテーション医学会学術集会. 神戸, 6月14日, 2019.
15. 小宮山潤, 江渕貴裕, 山口真依, 小山照幸, 武田和大, 太田隆, 金丸晶子：経カテーテル大動脈弁留置術後の理学療法経過② サルコペニアの有無が術後の身体機能に与える影響. 第56回日本リハビリテーション医学会学術集会. 神戸, 6月14日, 2019.
16. 江渕貴裕, 小山照幸, 二見崇太郎, 小宮山潤, 山口真依, 武田和大, 太田隆, 金丸晶子：経カテーテル大動脈弁置換術後の理学療法経過③ 集中的･継続的介入により身体機能が向上した症例. 第56回日本リハビリテーション医学会学術集会. 神戸, 6月14日, 2019.
17. 小山照幸, 正田奈緒子, 斎藤 陽子, 加藤貴行, 金丸晶子：骨関節疾患手術患者の心疾患合併について. 第56回日本リハビリテーション医学会学術集会. 神戸, 6月15日, 2019.
18. Akiko Kanemaru, Takayuki Kato, Yasuhiro Sugawara, Takuya Honda, Aya Shimizu, Tomo Hiraoka, Ayaka Makita, Wakana Higuchi, Honoka Uemura, Yoshie Kawaji, Ritsuko Yamazaki, Takashi Ota, Kazutomi Kanemaru: The Twelve Months' Follow-up after the Intervention Using a Rehabilitation Program of Physical and Cognitive Rec-Xercise (REPCREC) for the Elderly with Mild Cognitive Impairment (MCI). AAIC2019. Los Angeles, July 15, 2019.
19. Kazutomi Kanemaru, Akiko Kanemaru, Yasushi Nishina, Renpei Sengoku, Shigeo Murayama: Decreased Levels of CSF Aβ40 in Dementia with Lewy Bodies. AAIC2019. Los Angeles, July 15, 2019.
20. 植村ほのか, 金丸晶子, 田中春奈：認知症があり経口摂取完全移行に難渋した、術後合併症治療後摂食嚥下障害を来した一症例. 第25回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会. 新潟, 9月6日, 2019.
21. 奥野由佳, 江渕貴裕, 秋元美穂, 太田隆, 金丸晶子：廃用防止ラウンドは看護師の廃用症候群に対する意識を変えるか? 第53回日本作業療法学会. 福岡, 9月6日, 2019.
22. 江渕貴裕, 山口真依, 本田拓也, 小山照幸, 眞野暁子, 河田光弘, 太田隆, 金丸晶子：劇症型心筋炎により急性心不全を呈し、Central ECMOを装着した症例の理学療法経過. 第4回日本心血管理学療法学会学術大会. 沖縄, 9月14日, 2019.
23. 本田拓也, 谷村厚子：2009～2019年に掲載された急性期における高齢者を対象とした作業療法実践の文献レビューー価値ある作業に焦点をあてた実践と機能訓練に焦点をあてた実践の比較ー. 第29回日本保健科学学会学術集会. 東京, 10月5日, 2019.
24. 金丸和富, 金丸晶子, 仁科裕史, 仙石錬平, 村山繁雄：レビー小体型認知症におけるCSF Aβ40およびAβ42/40の検討. 第38回日本認知症学会学術集会. 東京, 11月7日, 2019.
25. 木村和哉, 江渕貴裕, 正田奈緒子, 太田隆, 金丸晶子：左大腿骨転子部骨折後に脳梗塞を発症し、左片麻痺・Pusher現象を呈した90歳代女性に対する移乗動作に着目した介入. 第3回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 静岡, 11月15日, 2019.
26. 田中春奈, 吉野眞理子, 加藤貴行：Logopenic型原発性進行性失語例の発話における音韻論的変化の検討. 第43回日本高次脳機能障害学会学術総会. 仙台, 11月29日, 2019
27. 桑田直弥：介護施設における認知症を患う高齢夫婦への地域臨床支援 ～認知トレーニングの導入から生活行為の支援へ. 第2回日本老年臨床心理学会, 大阪, 12月1日, 2019.
28. 羽根田千恵, 西元博子, 引地和佳子, 荒牧直子, 笹原みさと, 西郷友香, 伊藤真紀, 南向光代, 佐藤彰子, 古川志織, 林智美, 府川則子, 金丸晶子：嚥下機能低下を有する急性期高齢患者への栄養管理の取り組みについて. 第23回日本病態栄養学会年次学術集会. 京都, 1月15日, 2020.

＜講師等院外活動（講演・放送等）＞

1. 桑田直弥：臨床現場における HDS-R の実施方法. 日本臨床心理士会,東京, 6 月 1 日, 2019.
2. 金丸晶子：高齢者リハビリテーションにおける性差の意味. シンポジウム3（男女共同参画委員会企画）老年疾患の性差. 第61回日本老年医学会学術集会. 仙台, 6月6日, 2019.
3. 桑田直弥：介護施設での心理職の業務と役割. 第38回日本心理臨床学会, 横浜, 6月7日, 2019.
4. 桑田直弥：中高年の事例検討におけるPCAGIP法の活用. 大阪府臨床心理士会医療部会実践力UPセミナー, 大阪, 6月9日, 2019.
5. 桑田直弥：包括的視点を生かした心理士の勘所. 大阪府臨床心理士会医療部会実践力UPセミナー, 大阪, 6月9日, 2019.
6. 桑田直弥：マインドフルネスの効用と学び方. 大阪府臨床心理士会, 医療部会定例研修会, 大阪, 6月9日, 2019.

7. 熊木陽平：リハビリテーション概論．気仙沼医師会高等看護講義．気仙沼，6月21日，2019.
8. 菅原康宏：巡行法の実際．児童福祉施設等職員研修(マザーズホーム研修)．気仙沼，6月22日，2019.
9. 金丸晶子:認知症ケアにおけるリハビリの必要性とご家族への支援．認知症懇談会･交流会in階上･面瀬．気仙沼，6月22日，2019.
10. 桑田直弥：認知症にもっとほっと　ご家族・地域に向けて～認知症の方への支援のヒント．認知症懇談会･交流会in階上・面瀬．気仙沼，6月22日，2019.
11. 熊木陽平：認知症予防体操．認知症懇談会・交流会in大島．気仙沼，6月22･23日，2019.
12. 金丸晶子：役に立つリハビリの知識．認知症懇談会・交流会in大島．気仙沼，6月23日，2019.
13. 桑田直弥：がん患者に対するパーソン・センタード・アプローチ．第 12 回帝塚山学院大学大学院心理臨床研究会，大阪，6 月 23 日，2019.
14. 樋口和奏：海潮音体操．認知症懇談会･交流会 in 松岩・新月．気仙沼，8 月 31 日，2019.
15. 桑田直弥：認知症の人への心理アセスメントの基礎．第 2 回認知機能・神経心理アセスメント研修．日本臨床心理士会，大阪，7 月 17 日，2019.
16. 桑田直弥：認知機能・神経心理アセスメント～アチーブメントテスト．第 2 回認知機能・神経心理アセスメント研修．日本臨床心理士会，大阪，7 月 18 日，2019.
17. 桑田直弥：介護施設における心理職の役割と可能性．第2回東京都認知症介護指導者連絡会研修．東京，10月11日，2019.
18. 金丸晶子：フレイル・栄養・嚥下などにかかわる高齢者の病気．第5回健康長寿新ガイドライン研修．気仙沼，10月18日，2019.
19. 加藤貴行：脳・神経疾患．気仙沼医師会高等看護講義．気仙沼，10月18・19日，2019
20. 桑田直弥:高齢者福祉領域における多職種連携を学ぶ．第2回日本老年臨床心理学会･研修．大阪，12月1日，2019.
21. 桑田直弥：高齢者とその家族の支援．福祉領域における心理臨床を考えるシリーズ(6)，大阪府臨床心理士会福祉部会定例研修会．大阪，12月8日，2019.
22. 桑田直弥：臨床死生学における死の不安との向き合い方と対話法．大阪府臨床心理士会 福祉部会定例研修会．大阪，12月8日，2019.
23. 桑田直弥：.医療保健領域における心理職のワークエンゲージメント．大阪府臨床心理士会 医療部会･産業部会合同定例研修会．大阪，12月8日，2019.
24. 桑田直弥：介護施設の人的資源を活用した認知症への地域臨床～大阪モデルによる心理職のアウトリーチ．第3回東京都認知症介護指導者連絡会．東京，12月16日，2019.
25. 桑田直弥：認知症の方との会話を通じたアセスメント～ケアの現場に活かすコミュニケーション．第3回大阪府認知症介護指導者連絡会，大阪，2月8日，2020.
26. 桑田直弥:神経心理学を活用した在宅ケアへの実践事例．第 17 回高齢者福祉支援研修会,日本臨床心理士会,大阪，2 月 9 日，2020.

放射線診断科

＜雑誌論文＞

1. Tamura Y, Kimbara Y, Yamaoka T, Sato K, Tsuboi Y, Kodera R, Chiba Y, Mori S, Fujiwara Y, Tokumaru AM, Ito H, Sakurai T, Araki A, White Matter Hyperintensity in Elderly Patients with Diabetes Mellitus Is Associated with Cognitive Impairment, Functional Disability, and a High Glycoalbumin Glycohemoglobin Ratio, Front Aging Neurosci. 2017 Jul 6；9：220. doi:10.3389/fnagi.2017.00220. eCollection 2017.
2. Sakurai K, Kanoto M, Nakagawa M, Shimohira M, Tokumaru AM, Kameyama M, Shimoji K, Morimoto S, Matsukawa N, Nishio M, Shibamoto Y, Dinosaur Tail Sign: A Useful Spinal MRI Finding Indicative of Cerebrospinal Fluid Leakage, Headache. 2017 Jun；57(6)：917-925. doi:10.1111/head.13075. Epub 2017 Apr 16.
3. Sakurai K, Tokumaru AM, Shimoji K, Murayama S, Kanemaru K, Morimoto S, Aiba I, Nakagawa M, Ozawa Y, Shimohira M, Matsukawa N, Hashizume Y, Shibamoto Y, Beyond the midbrain atrophy: wide spectrum of structural MRI finding in cases of pathologically proven progressive supranuclear palsy, Neuroradiology. 2017 May；59(5)：431-443. doi:10.1007/s00234-017-1812-4. Epub 2017 Apr 6. Review
4. Morimoto S, Hatsuta H, Komiya T, Kanemaru K, Tokumaru AM, Murayama S, Simultaneous skin-nerve-muscle biopsy and abnormal mitochondrial inclusions in intranuclear hyaline inclusion body disease, J Neurol Sci. 2017 Jan 15；372：447-449. doi:10.1016/j.jns.2016. 10.042. Epub 2016 Oct 27. No abstract available.
5. Sakurai K, Imabayashi E, Tokumaru AM, Ito K, Shimoji K, Nakagawa M, Ozawa Y, Shimohira M, Ogawa M, Morimoto S, Aiba I, Matsukawa N, Shibamoto Y, Volume of Interest Analysis of Spatially Normalized PRESTO Imaging to Differentiate between Parkinson Disease and Atypical Parkinsonian Syndrome, Magn Reson Med Sci. 2017 Jan 10；16(1)：16-22. doi:10.2463/mrms.mp.2015-0132. Epub 2016 Mar 21
6. Imai M, Tanaka M, Ishibashi K, Tokumaru A, Ishii K, Glucose Hypometabolism in Developmental Venous Anomaly Without Apparent Parenchymal Damage, Clin Nucl Med. 2017 May；42(5)：361-363. doi:10.1097/RLU.0000000000001594.
7. Wagatsuma K, Miwa K, Sakata M, Oda K, Ono H, Kameyama M, Toyohara J, Ishii K. Comparison between new-generation SiPM-based and conventional PMT-based TOF-PET/CT. Phys Med. 2017 Oct；42：203-210.
8. Iizuka T, Iizuka R, Kameyama M. Cingulate island sign temporally changes in dementia with Lewy bodies. Sci Rep. 2017 Nov 7；7(1)：14745. doi:10.1038/s41598-017-15263-2. PubMed PMID：29116145；PubMed Central PMCID：PMC5677123.
9. Wake T, Tabuchi H, Funaki K, Ito D, Yamagata B, Yoshizaki T, Kameyama M, akahara T, Murakami K, Jinzaki M, Mimura M. The psychological impact of isclosing amyloid status to Japanese elderly: a preliminary study on symptomatic patients with subjective cognitive decline. Int sychogeriatr. 2018 May；30(5)：635-639. doi:10.1017/S1041610217002204. Epub 2017 Nov 2. PubMed PMID：29094656.
10. Ishibashi K, Kameyama M, Tago T, Toyohara J, Ishii K. Potential Use of 18F-THK5351 PET to Identify Wallerian Degeneration of the Pyramidal Tract Caused by Cerebral Infarction. Clin Nucl Med. 2017 Dec；42(12)：e523-e524. doi:10.1097/RLU.0000000000001868. PubMed PMID：29076904.
11. Iizuka T, Kameyama M. Metabolic correlate of memory-deficit awareness in dementia with Lewy bodies: Implication in cortical midline structure. Psychiatry Res Neuroimaging. 2017 Nov 30；269：43-47. doi:10.1016/j.pscychresns. 2017.09.007. Epub 2017 Sep 13. PubMed PMID：28938220.
12. Kameyama M, Umeda-Kameyama Y. A kinetic solution for the paradoxical difference between F-Dopa and methionine. Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2017 Dec；44(13)：2328-2330. doi:10.10 07/s00259-017-3796-z. Epub 2017 Aug 12. PubMed PMID：28803435.
13. Sakurai K, Morimoto S, Kameyama M, Mase M. Dinosaur tail sign on spinal MRI in a patient with postdural puncture headache. BMJ Case Rep. 2017 Aug 2；2017. pii:bcr-2017-221447. doi:10.1136/bcr-2017-221447. PubMed PMID：28768677.
14. Iizuka T, Morimoto K, Sasaki Y, Kameyama M, Kurashima A, Hayasaka K, Ogata H, Goto H. Preventive Effect of Rifampicin on Alzheimer Disease Needs at Least 450 mg Daily for 1 Year: An FDG-PET Follow-Up Study. Dement Geriatr Cogn Dis Extra. 2017 Jun 19；7(2)：204-214. doi:10.1159/000477343.

eCollection 2017 May-Aug. PubMed PMID：28690634；PubMed Central PMCID：PMC5498941.
15. Umeda-Kameyama Y, Ishii S, Kameyama M, Kondo K, Ochi A, Yamasoba T, Ogawa S, Akishita M. Heterogeneity of odorant identification impairment in patients with Alzheimer's Disease. Sci Rep. 2017 Jul 6；7(1)：4798. doi:10.1038/s41598-017-05201-7. PubMed PMID：28684764；PubMed Central PMCID：PMC5500500.
16. Mashima K, Ito D, Kameyama M, Osada T, Tabuchi H, Nihei Y, Yoshizaki T, Noguchi E, Tanikawa M, Iizuka T, Date Y, Ogata Y, Nakahara T, Iwabuchi Y, Jinzaki M, Murakami K, Suzuki N. Extremely Low Prevalence of Amyloid Positron Emission Tomography Positivity in Parkinson's Disease without Dementia. Eur Neurol. 2017；77(5-6)：231-237. doi:10.1159/000464322. Epub 2017 Mar 11. PubMed PMID：28285306.
17. Iizuka T, Kameyama M. Cholinergic enhancement increases regional cerebral blood flow to the posterior cingulate cortex in mild Alzheimer's disease. Geriatr Gerontol Int. 2017 Jun；17(6)：951-958. doi:10.1111/ggi.12818. Epub 2016 May 23. PubMed PMID：27215917.
18. Sakurai K, Imabayashi E, Tokumaru AM, Ito K, Shimoji K, Nakagawa M, Ozawa Y, Shimohira M, Ogawa M, Morimoto S, Aiba I, Matsukawa N, Shibamoto Y. Volume of Interest Analysis of Spatially Normalized PRESTO Imaging to Differentiate between Parkinson Disease and Atypical Parkinsonian Syndrome. Magn Reson Med Sci. 2017 Jan 10；16(1)：16-22.
19. Goto M, Abe O, Hata J, Fukunaga I, Shimoji K, Kunimatsu A, Gomi T. Adverse effects of metallic artifacts on voxel-wise analysis and tract-based spatial statistics in diffusion tensor imaging. Acta Radiol. 2017 Feb；58(2)：211-217.
20. Abe H, Shimoji K, Nagamine Y, Fujiwara S, Izumi SI. Predictors of Recovery from Traumatic Brain Injury-Induced Prolonged Consciousness Disorder. Neural Plast. 2017；2017：9358092.
21. Saito J, Hori M, Nemoto T, Katagiri N, Shimoji K, Ito S, Tsujino N, Yamaguchi T, Shiraga N, Aoki S, Mizuno M. Longitudinal study examining abnormal white matter integrity using a tract-specific analysis in individuals with a high risk for psychosis. Psychiatry Clin Neurosci.2017 Aug；71(8)：530-541.
22. Sakurai K, Tokumaru AM, Shimoji K, Murayama S, Kanemaru K, Morimoto S, Aiba I, Nakagawa M, Ozawa Y, Shimohira M, Matsukawa N, Hashizume Y, Shibamoto Y. Beyond the midbrain atrophy: wide spectrum of structural MRI finding in cases of pathologically proven progressive supranuclear palsy. Neuroradiology 2017 May；59(5)：431-443.
23. Takeda K, Matsumoto M, Ogata Y, Maida K, Murakami H, Murayama K, Shimoji K, Hanakawa T, Matsumoto K, Nakagome K. Impaired prefrontal activity to regulate the intrinsic motivation-action link in schizophrenia. Neuroimage Clin. 2017 Jul 4；16：32-42. doi:10. 1016/j.nicl.2017.07.003.
24. Morimoto S, Takao M, Nishina Y, Sakurai K, Komiya T, Kanemaru K, Murayama S. Spinocerebellar ataxia type 2 presenting with rapidly progressing muscle weakness and muscular atrophy Geriatr Gerontol Int 18(2)：361-364, 2018
25. Nakagawa M, Ozawa Y, Nomura N, Inukai S, Shiba A, Sakurai K, Shimohira M, Shibamoto Y. Investigation of an appropriate contrast-enhanced CT protocol for young patients following the Fontan operation. Jpn J Radiol 2018 Jan 11. doi:10.1007/s11604-018-0718-3. [Epub ahead of print]
26. Madokoro Y, Sakurai K, Kato D, Kondo Y, Oomura M, Matsukawa N. Utility of T1- and T2-Weighted High-Resolution Vessel Wall Imaging for the Diagnosis and Follow Up of Isolated Posterior Inferior Cerebellar Artery Dissection with Ischemic Stroke: Report of 4 Cases and Review of the Literature. J Stroke Cerebrovasc Dis 26(11)：2645-2651, 2017
27. Sekiguchi T, Nakagawa M, Miwa S, Shiba A, Ozawa Y, Shimohira M, Sakurai K, Shibamoto Y. Calcifying aponeurotic fibroma in a girl: MRI findings and their chronological changes Radiology Case Reports 12(3)：620-623, 2017
28. Tsuda Y, Oguri T, Sakurai K, Kajiguchi T, Kato H, Yuasa H. Low signal intensity lesions on brain susceptibility-weighted MRI in a patient with intravascular large B-cell lymphoma. Rinsho Shinkeigaku 57(9)：504-508, 2017
29. Sakurai K, Morimoto S, Kameyama M, Mase M. Dinosaur tail sign on spinal MRI in a patient with postdural puncture headache BMJ case reports Aug 2017. pii:bcr-2017-221447. doi:10.1136/bcr-2017-221447.

＜単行書＞

1. 青木茂樹、大場洋、徳丸阿耶ら：第1章拡散強調像.画像診断2018年3月増刊号頭部の鑑別診断のポイント（画像診断増刊号）. 学研メディカル秀潤社. (Vol.38No.4) pp22-29. 2018
2. 森墾、徳丸阿耶ら：臨床放射線 －高齢者診療における画像診断－ 「特集：高齢者の脳イメージング －認知症診断への第一歩」, 金原出版, 2017年12月号(62巻 13号) pp1737-1751. 2017
3. 粟田主一、徳丸阿耶ら：年医学雑誌2018第二十九巻四号,「認知症の画像疫学的研究」, 株式会社ワールドプランニング. pp391-401. 2018
4. Matsuda, Hiroshi, Asada, Takashi, Tokumaru, Aya Midori, Neuroimaging Diagnosis for Alzheimer's Disease and Other Dementias, Springer, 2017
5. 山本寛、佐塚まなみ、小林寿美子、籠尾南海夫、下地啓五、加藤貴行、東原真奈、櫻井圭太、新井冨生、高田忠幸. CONFERENCE ROOM 間質性肺炎急性増悪の治療経過中に発熱・意識障害をきたした１例：内科121巻1号167-180, 2018
6. 櫻井圭太、徳丸阿耶、下地啓五、青木茂樹.【PSPとCBD-その共通点と相違点】 進行性核上性麻痺(PSP). Clinical Neuroscience 35巻3号 277-280, 2017.
7. 徳丸阿耶、櫻井圭太、下地啓五、村山繁雄、藤ヶ崎純子、齊藤祐子.【あらためて認知症を考える-Living Well with dementia】 診断学　検査の限界と留意点を考える　MRI　臨床現場での意義と課題：老年精神医学雑誌28巻増刊I 91-99, 2017.
8. 櫻井圭太、徳丸阿耶　認知症の画像診断 up to date MRIによる認知症の画像診断 臨床放射線　63(2)：131-139, 2018
9. 櫻井圭太　認知症の画像評価における数値化データ解釈上の注意点 【撮像条件, 関心領域の位置により数値が変動する等の注意点を押さえた上で活用する】医事新報　4893(2)：56, 2018
10. 櫻井圭太、徳丸阿耶、下地啓五、亀山征史、飯島健入門講座　認知症の画像診断　MRI総合リハビリテーション　46(1)：45-51, 2018
11. 森墾、櫻井圭太、徳丸阿耶【中枢神経系の新たな疾患カテゴリーとその画像所見】 TDP-43 proteinopathy 臨床画像　33(12)：1418-1424, 2017
12. 櫻井圭太、徳丸阿耶、村山繁雄【中枢神経系の新たな疾患カテゴリーとその画像所見】 高齢者tauopathy 臨床画像　33(12)：1406-1417, 2017

＜学会・研究会発表＞

1. 櫻井圭太、徳丸阿耶ら：転移性脳腫瘍と原発性悪性神経膠腫瘍の鑑別. 第37回神経放射線ワークショップ. 岐阜県岐阜市. 6月29日-7月1日. 2017
2. 徳丸阿耶　櫻井圭太ら：シンポジウム22 認知症を呈する白質脳症　2.画像の視点から. 3.第36回日本認知症学会学術集会. 石川県金沢市. 11月24日-11月26日. 2017
3. 徳丸阿耶、櫻井圭太、村山繁雄ら：認知症診断における高齢者タウオパチーの重要性と臨床画像診断 －前方視的に追跡した剖検84例の検討－. 第47回日本神経放射線学会.茨城県つくば市. 2月15日-2月17日. 2018
4. 櫻井圭太、徳丸阿耶ら：正常圧水頭症に特徴的な形態変化を呈した症例群の臨床及び病理学的検討. 第47回日本神経放射線学会. 茨城県つくば市. 2月15日-2月17日.
5. 櫻井圭太、徳丸阿耶、下地啓五、亀山征史、飯島健：神経変性疾患における核医学診断の有用性 －形態画像を生業とする診断医からの視点－. 第57回日本核医学会学術総会.東京.10月5日. 2017
6. 徳丸明日香、山下典生、徳丸阿耶、櫻井圭太、下地啓五、亀山征史、村山繁雄、藤ヶ崎純子、齊藤祐子：認知症鑑別診断技術の開発：海馬・扁桃体・嗅内野・迂回回トレース法. 第2回日本メディカルイラストレーション学会.岡山県倉敷市.12月3日. 2017
7. Kenji Ishibashi, Masashi Kameyama, Tetsuro Tago, Jun Toyohara, Kenji Ishii 18F-THK5351 PET imaging of Wallerian degeneration of the pyramidal tract after a cerebral infarction. The 12th Human amyloid imaging, Miami, USA, 2018/1/17-19
8. T. Iizuka, M. Kameyama PREVENTIVE EFFECT OF RIFAMPICIN ON ALZHEIMER'S DISEASE NEEDS AT LEAST 450 M G DAILY FOR ONE YEAR: AN FDG-PET FOLLOW-UP STUDY XXIII World Congress of Neurology, 2017 9/16-21, Kyoto, Japan FP47
9. M. Kameyama, K. Ishibashi, K. Sakurai, J. Toyohara, K. Wagatsuma, M. Sakata, Y. Umeda-Kameyama, K. Shimoji, T. Tago, K. Kanemaru, S. Murayama, A. M. Tokumaru, K. Ishii VOXEL-BASED SPECIFIC REGIONAL ANALYSIS SYSTEM FOR ALZHEIMER'S DISEASE (VSRAD) FOCUSING MEDIAL TEMPORAL LOBE ATROPHY HAS LIMITED CAPABILITY ON DETECTING AMYLOID XXIII World Congress of Neurology, 2017 9/16-21, Kyoto, Japan WCN17-0930110, PP54
10. Y. Umeda-Kameyama, S. Ishii, M. Kameyama, K. Kondo, A. Ochi, T. Yamasoba, S. Ogawa, M. Akishita

DIVERSITY OF ODORANT IDENTIFICATION IMPAIRMENT IN PATIENTS WITH ALZHEIMER DISEASE AND LEWY BODY DISEASE XXIII World Congress of Neurology, 2017 9/16-21, Kyoto, Japan 067, PP72

11. M. Kameyama, K. Ishibashi, K. Sakurai, J. Toyohara, K. Wagatsuma, M. Sakata, Y. Umeda-Kameyama, K. Shimoji, T. Tago, K. Kanemaru, S. Murayama, A. M. Tokumaru, K. IshiiVOXEL-BASED Morphometry (VBM) FOCUSING MEDIAL TEMPORAL LOBE ATROPHY HAS LIMITED CAPABILITY ON DETECTING AMYLOIDβ Alzheimer's Association International Conference, 2017, 7/15-20, London, United Kingdom Alzheimer's & Dementia. 2017;13(7suppl):
12. T. Iizuka, M. Kameyama PREVENTIVE EFFECT OF RIFAMPICIN ON ALZHEIMER'S DISEASE NEEDS AT LEAST 450 M G DAILY FOR ONE YEAR: AN FDG-PET FOLLOW-UP STUDY Alzheimer's Association International Conference, 2017, 7/15-20, London, United Kingdom Alzheimer's & Dementia. 2017;13(7suppl):
13. Y. Umeda-Kameyama, S. Ishii, M. Kameyama, K. Kondo, A. Ochi, T. Yamasoba, S. Ogawa, M. Akishita DIVERSITY OF ODORANT IDENTIFICATION IMPAIRMENT IN PATIENTS WITH ALZHEIMER DISEASE Alzheimer's Association International Conference, 2017, 7/15-20, London, United Kingdom Alzheimer's & Dementia. 2017;13(7suppl):
14. 小野貴史、我妻慧、伊藤希、宮崎剛、鈴木諭貴、海野泰、亀山征史:Evaluation of Metal Artifact Reduction Software on PET Quantification for Artificial Knee Joint. 東京核医学研究会. 東京. 3月28日. 2018
15. 伊藤希、我妻慧、小野貴史、宮崎海峰、工藤善朗、海野泰、亀山征史:SiPM搭載型PER/CTにおける18F-FDG-PET検査の最適収集時間の検討. 東京核医学研究会. 東京. 3月28日. 2018
16. 亀山征史、竹内壯介、石井伸弥、肥田あゆみ、櫛山暁史:糖尿病性舞踏病の症例から血糖とHbA1cの関係まで. 日本老年医学会 第67回関東甲信越地方会. 東京. 3月3日. 2018
17. 和氣大成、田渕肇、船木佳、伊東大介、山縣文、吉崎崇仁、亀山征史、中原理紀、村上康二、陣崎雅弘、三村 將:自覚的認知機能低下 (SCD) 患者に対するアミロイドPET発症前診断の結果告知の安全性. 第36回認知症学会. 金沢. 11月24日. 2017
18. 亀山征史:脳核医学の最新情報. 日本放射線技術学会 第35回東京支部秋期学術大会 ランチョンセミナー. 東京. 11月23日. 2017
19. 亀山征史:IMPを用いた新しい脳血流定量法. 第7回核医学画像解析研究会. 福島. 11月11日. 2017
20. 亀山征史、石橋賢士、櫻井圭太、豊原潤、我妻慧、坂田宗之、亀山祐美、下地啓五、多胡哲郎、金丸和富、村山繁雄、徳丸阿耶、石井賢二:Amyloid PETとVBMによる内側側頭葉萎縮検出の比較VBM Focusing Medial Temporal Lobe Atrophy has Limited Capability on Detecting Amyloid β 第57回日本核医学会学術総会. 横浜. 10月5日-7日. 2017
21. 櫻井圭太、亀山征史、徳丸阿耶、下地啓五、飯島健:神経変性疾患における核医学診断の有用性-形態画像を生業とする診断医からの視点. 第57回日本核医学会学術総会.横浜. 10月5日-7日. 2017
22. 岩渕雄、中原理紀、亀山征史、山田祥岳、橋本正弘、緒方雄史、松坂陽二、長田高志、田渕肇、陣崎雅弘:Fractal Dimensionを用いたドーパミントランスポーター SPECTの定量評価. Advanced Medical Imaging 2017 (SAMI2017). 大阪. 7月22日-23日. 2017
23. 岩渕雄、中原理紀、亀山征史、山田祥岳、橋本正弘、緒方雄史、松坂陽二、長田高志、田渕肇、陣崎雅弘:Fractal Dimensionを用いたDAT SPECTの定量評価. 第87回日本核医学会関東甲信越地方会. 東京. 7月8日. 2017. 優秀プレゼンテーション賞
24. Ryo Ueda, Masaaki Hori, Koji Kamagata, Keigo Shimoji, Michimasa Suzuki, Ryusuke Irie, Misaki Nakazawa, Pradeepa Ruwan, Moeko Horita, Yuki Takenaka, Asami Saito, Christina Andica, Aki Hattori, Atsushi Senoo, Shigeki Aoki. A comparative study of TBSS analysis of NODDI using single-shell and multi-shell DWI data. The 5th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI2017) & 22nd Annual Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, Mar 23-25, 2017.
25. 櫻井圭太、徳丸阿耶、下地啓五、亀山征史、飯島健 シンポジウム25脳脊髄液漏出症の画像所見(指名講演) 第37日本画像医学会学術大会 2018/02/24 ステーションコンファレンス東京
26. 櫻井圭太、徳丸阿耶(教育講演)変性認知症の形態画像診断 ー画像診断のポイント及び症例提示ー Novartis Alzheimer's disease Symposium 関東甲信越 2018/02/04 トラストカンファレンス丸の内
27. 櫻井圭太、徳丸阿耶(教育講演)認知症の画像診断 ー診断に有用な画像所見を得るために ー Hi advanced MR セミナー in 関西 2018/02/03
28. 櫻井圭太 日常臨床で知っておきたい!認知症臨床で注目すべきMRIのポイント (教育講演) 第22回ニューロイメージングカンファレンス 2018/01/27 キャッスルプラザ
29. 櫻井圭太、徳丸阿耶、飯島健 (教育講演)変性認知症の画像診断 ーアルツハイマー病や鑑別となる疾患を中心にー 第24回New Horizon for Neurosciences 2017/12/02 東京スクエアガーデン
30. 櫻井圭太、亀山征史、徳丸阿耶、下地啓五、飯島健 (教育講演)神経変性疾患における核医学診断の有用

性 ー形態画像を生業とする診断医の視点ー 第57回日本核医学会学術総会 2017/10/05 パシフィコ横浜
31. 櫻井圭太　提示症例の画像解説　他の病態による大脳皮質基底核症候群との比較を含めて 第4回パーキンソン症候群・認知症の臨床病理フォーラム 2017/10/04 中野サンプラザ
32. 櫻井圭太、徳丸阿耶、下地啓五、亀山征史、飯島健（シンポジウム）認知症の画像診断 Up to date　MRI による認知症の画像診断 第53回 日本医学放射線学会秋季臨床大会 2017/09/09 ひめぎんホール
33. 櫻井圭太、徳丸阿耶、下地啓五、亀山征史　（指名講演）神経変性疾患をはじめとした認知症の画像診断 ー基礎的な MRI 撮像法と画像所見を中心にー 埼玉県神経内科医会2017 2017/05/18 パレス大宮
34. 櫻井圭太、徳丸阿耶、下地啓五、亀山征史 Diverse imaging finding of sporadic cerebral amyloid angiopathy　（教育講演）Hemorrhagic and non-hemorrhagic lesions 第76回日本医学放射線学会総会 2017/04/15 パシフィコ横浜
35. Sakurai K, Tokumaru AM, Shimoji K, Kameyama M, Murayama S, Kanemaru K, Morimoto S, Oguri T, Uchida Y, Hashizume Y, Yoshida M Educational presentation of multifaceted neuroimaging findings in pathologically proven TDP-43 proteinopathy patients 40th ESNR Annual Meeting, 2017, Clarion Hotel, Ma l mö, Sweden

＜講師等院外活動（講演・放送等）＞

1. 徳丸阿耶：認知症の画像診断：背景病理推定の意義. 第10回北海道NR懇話会. 北海道札幌市. 5月13日. 2017
2. 徳丸阿耶：ここまで解る　認知症の画像診断. 平成29年度関東甲信越診療放射線技師学術大会. 長野県・長野市. 6月24日. 2017
3. 徳丸阿耶：認知症の画像診断ー臨床、画像、病理連関の意義. 第23回先端医療用画像研究会. 兵庫県・神戸市. 7月7日. 2017
4. 徳丸阿耶：白質脳症の最新知見. 8.京都府立医科大学放射線科モーニングレクチャー. 京都府・上京区. 2月21日. 2018

＜飯島健　後期研修医としての取得資格＞

2017年5月：日本医師会認定産業医.
2017年5月：PET核医学認定医.
2017年8月：放射線科専門医.
2019年1月：乳腺診断認定医

化学療法科

＜学会・研究会発表＞

1. 第 81 回日本血液学会
   Epstein-Barr virus DNA analysis in elderly lymphoma patients: A single-institution case series,
   Tachibana M., Miyamoto K., et al

2. 第 59 回日本リンパ網内系学会
   減量イブルチニブで奏効の得られた高齢者 CLL/SLL および MCL 患者
   上江田優美、宮本鋼ら

臨床検査科

＜総説＞

1. 石川譲治　高齢者が食事後、特に昼食後に眠くなるのはなぜ？　日本医事新報　質疑応答　2019 年 6 月
2. 石川譲治、鳥羽梓弓、原田和昌　特集：高齢者の高血圧治療　－高血圧治療ガイドラインと実臨床での課題－　臨床に役立つ Q&A　2. 高血圧診療において高齢者総合的機能評価（CGA）は必要ですか？　Geriatric Medicine, 2019 年 57 号
3. 石川譲治　Eligibility and subsequent burden of cardiovascular disease of four strategies for blood pressure-lowering treatment: a retrospective cohort study　Lancet 2019 ケアネット　CLEAR！ジャーナル 4 天王　コメント
4. 石川譲治 高血圧診療　Update　～「高血圧治療ガイドライン 2019」で何が変わるのか？～　高齢者者高血圧の特徴、診断、治療について 内科、2019 年
5. 石川譲治　診察室血圧および 24 時間自由行動下血圧モニタリングにおける夜間血圧と予後　－なぜ夜間血圧の予後予測能がいいのか？－　Association of Office and Ambulatory Blood Pressure With Mortality and Cardiovascular Outcomes. JAMA 2019; 322: 409-420 ケアネット CLEAR！ジャーナル４天王　コメント
6. 石川譲治 積極的降圧治療は通常の降圧治療よりも深部白質病変の増加を抑制するが、総脳容積の減少は大きい.　Association of Intensive vs Standard Blood Pressure Control With Cerebral White Matter Lesions.　JAMA 2019; 322: 524-534. ケアネット CLEAR！ジャーナル 4 天王　コメント
7. 石川譲治　低 LDL や低収縮期血圧と関連する genetic　variants は生涯にわたる冠動脈疾患の低リスクと関連.　Association of Genetic Variants Related to Combined Exposure to Lower Low-Density Lipoproteins and Lower Systolic Blood Pressure With Lifetime Risk of Cardiovascular Disease. JAMA 2019. ケアネット CLEAR！ジャーナル 4 天王　コメント

＜雑誌投稿＞

1. Yoko Matsuda，Yoshishige Masuda，Keigo Shimoji，Miho Matsukawa，Yuko Kinowaki　，Yuki Fukumura，Masataka Kikuyama　，Tomio Arai:Severe Acute Pancreatitis in Autopsies Associated With Surgeries and Severe Inflammatory Diseases . Pancreas 48:1321-1328,2019.
2. Kosuke Mizutani, Kyojiro Kawakami,　Kengo Horie, Yasunori Fujita, Koji Kameyama, Taku Kato, Keita Nakane, Tomohiro Tsuchiya, Mitsuru Yoshida, Koichi Masunaga, Yutaka Kasuya, Yoshishige Masuda, Takashi Deguchi, Takuya Koie, Masafumi Ito：Urinary exosome as a potential biomarker for urinary tract infection. Cellular Microbiology　21(Suppl1A):e13020,2019
3. Takeshi Kusuda, Asami Ryoko, Masuda Yoshishige, Masashi Tanaka, Atsushi Yoshida, Ken Kikuchi & Takahiko Sugihara: Erosive polyarthritis caused by sepsis due to a　novel species　of　*Streptobacillus　notomytis.*　Modern　Rheumatology　Case Reports,DOI:10.1080/24725625.2019.1655246
4. Ayumi Toba, Joji Ishikawa, Yoshiaki Tamura, Atsushi Araki, Kazumasa Harada. Orthostatic blood pressure rise is associated with frailty in elderly patients. Journal: Geriatrics & Gerontology International; 2019; 19: 525-529.
5. Ishikawa J, Yamanaka Y, Watanabe S, Toba A, Harada K. Cornell product in an electrocardiogram is related to reduced LV regional wall motion. Hypertens Res. 2019; 42: 541-548.
6. 鳥羽梓弓、原田和昌、石川譲治、桑島巌　高血圧患者における血圧日誌の実態調査　理想的な血圧日誌作成に向けて　日本医事新報 2019; 4937: 37-41

7. Ishikawa J, Hirose H, Ishikawa S. Tissue Inhibitor of Matrix Metalloproteinase 1 Increases with Ageing and Can Be Associated with Stroke -Nested Case-Control Study- Circulation Reports; 2019; 1: 502-507.
8. Aoyama R, Ishikawa J, Harada K. The efficacy of tolvaptan in treating dasatinib-induced pleural effusions in patients with chronic myelogenous leukemia. Journal of Cardiology 2020; 75: 203-207.

＜学会発表＞

1. 奥野恵子、桜山千恵子、河野ますよ、前田哲平、鳥羽梓弓、山本文、二見崇太郎、石川譲治、原田和昌：経胸壁心エコー図検査で経過観察しえた両心型たこつぼ型心筋症の一例. 日本心エコー図学会第30回学術集会 松本 2019.5.10
2. 藤田昭寿、清水優、桜山千恵子、小野秀子、森英明：腹部超音波検査が有用であった壊疽性胆嚢炎 胆嚢周囲膿瘍の一例.日本超音波検査学会第44回学術集会 横浜 2019.4.28
3. 小林敬翔、桜山千恵子、藤田昭寿、河野ますよ、清水優、石川譲治、鳥羽梓弓、山本文 原田和昌、許俊鋭：新型エコーゼリーの臨床的比較.日本超音波医学会第92回学術集会 東京 2019.5.24
4. 藤田昭寿、清水優、桜山千恵子、江原美和、小林敬翔、松川美保、新井冨生、石川譲治 森英明：腹部超音波検査が有用であった壊疽性胆嚢炎に合併した胆嚢周囲膿瘍、腹壁膿瘍の一例.日本超音波医学会第92回学術集会 東京 2019.5.24
5. 浅見諒子, 野口穣, 古川友子, 矢作和規, 小金丸博, 吉田敦, 増田義重, 稲松孝思：10年間における市中感染型MRSAの経年的推移について.第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会 金沢 2020年1月31日
6. 野口穣, 矢作和規, 古川友子, 浅見諒子, 増田義重, 吉田敦, 稲松孝思：当センターにおけるFilmArray装置運用のための調査.第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会 金沢 2020年1月31日
7. 矢作和規, 浅見諒子, 野口穣, 古川友子, 小金丸博, 吉田敦, 増田義重, 稲松孝思：*Listeria monocytogenes*による人工弁心内膜炎の1例.第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会 金沢 2020年2月1日
8. Totsuka R, Ishikawa J, Shimazaki K,Harada K, et al. Risk of fall in hospitalized patients with heart failure. The 83rd annual scientific meeting of Japanese Circulation Society, March 23, 2019, Yokohama.
9. 小寺玲美,千葉優子,舘鼻彩,豊島弘一,大村卓也,大庭和人,豊島堅志,石川譲治,田村 嘉章,荒木厚 高齢糖尿病患者における多剤併用とその関連因子について 第 62 回糖尿病学会 2019 年 5 月 24 日～26 日、東京
10. 大庭和人, 田村嘉章, 舘鼻彩, 豊島弘一, 大村卓也, 小寺玲美, 豊島堅志, 千葉優子, 石川譲治, 藤田泰典, 伊藤雅史, 田中雅嗣, 森聖二郎, 井藤英喜, 荒木厚 GDF-15 は高齢糖尿病患者において筋力と下肢運動機能と関連し、サルコペニア肥満のマーカーとなる可能性を持つ 第 62 回糖尿病学会 2019 年 5 月 24 日～26 日、東京
11. 清水瑠理、青山里恵、二見崇太郎、村田哲平、石山泰三、石川譲治、坪光雄介、武田和大、藤本肇、原田和昌 集学的治療により自宅療養が可能となった離島在住の重症心不全の一例 日本循環器病学会関東甲信越地方会、2019 年 6 月
12. 大川庭熙、藤本肇、二見崇太郎、十菱千尋、村田哲平、青山里恵、石山泰三、石川譲治、坪公雄介、武田和大、原田和昌 冠攣縮による急性心筋梗塞を発症し、左室収縮不全が長期間遷延した一例 第 251 日本循環器病学会関東甲信越地方会、2019 年 2 月 2 日
13. 二見崇太郎、石川譲治、河野ますよ、桜山千恵子、原田和昌 Vector Flow Mapping を用いた左室空内のエネルギー損失と規定因子の検討 日本心エコー図学会 第 30 回学術集会、2019 年 5 月 10 日、松本
14. 山本文、石川譲治、奥野恵子、前田哲平、河野ますよ、桜山千恵子、二見崇太郎、鳥羽梓弓、村田哲平、原田和昌 S 字状中隔における心室中隔基部の Aliasing の臨床的意義について 日本超音波医学会第 92 回学術集会、2019 年 5 月 24 日、東京
15. 田村嘉章、豊島堅志、舘鼻彩、豊島弘一、大村卓也、小寺玲美、大庭和人、石川譲治、千葉優子、荒木厚 GA/HbA1c

高値は高齢糖尿病患者のフレイルと歩行速度に関連する。日本老年医学会、仙台、2019 年 6 月

16. 青山里恵、村田哲平、石川譲治、武田和大、藤本肇、原田和昌　重度大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁留置術の血圧及び心機能に与える短期的影響　第 61 回日本老年医学会　2019 年 6 月 6 日、仙台
17. 鳥羽梓弓、石川譲治、田村嘉章、荒木厚、原田和昌　外来通院中の高齢者における起立性血圧変動と認知症の関連　第 61 回日本老年医学会　2019 年 6 月 7 日、仙台
18. 石川譲治、廣瀬英夫、石川鎮清　組織繊維化マーカー（TIMP-1）の加齢による増加と脳卒中のリスク：ケースコントロールスタディー　第 61 回日本老年医学会 2019 年 6 月 7 日、仙台
19. 館鼻彩、千葉優子、小寺玲実、豊島弘一、大村卓也、大庭和人、豊島堅志、石川譲治、田村嘉章、荒木厚　多剤併用は高齢糖尿病患者におけるフレイルや腎機能と関連する　第 61 回日本老年医学会 2019 年 6 月 7 日、仙台
20. 豊島弘一、田村嘉章、石川譲治、大村卓也、小寺玲実、大庭和人、豊島堅志、千葉優子、井藤英喜、荒木厚　高齢糖尿病患者におけるサルコペニアの旧基準と新基準における関連因子の違い、および開度との関連について　第 61 回日本老年医学会 2019 年 6 月 7 日、仙台
21. 島崎良和、石川譲治、滝川美和、森淑子、岩切理歌、石崎達郎、荒木厚、井藤英喜　高齢者の薬物療法に関するアンケート調査　第 61 回日本老年医学会 2019 年 6 月 8 日、仙台
22. 岩切理歌、片岡愛、大川庭熙、小金丸博、石川譲治、滝川美和、島崎良和、増田義重、荒木厚、井藤英喜　高齢者急性期病院の入院患者における減薬後の経過について　第 61 回日本老年医学会 2019 年 6 月 8 日、仙台
23. Rie Aoyama, Joji Ishikawa, Kazuhiro Takeda, Hajime Fujimoto, Valvular heart disease (VHD) and mitral annulus calcification (MAC) in women. CVIT 2019.
24. 石川譲治、原田和昌　シンポジウム　高齢者の生活機能を高める血圧管理　高齢者高血圧に対する降圧薬治療はフレイルへの移行に影響を与えるか　第 42 回日本高血圧学会総会　2019 年 10 月 26 日、東京
25. 石川譲治、清野諭、鳥羽梓弓、豊島堅志、田村嘉章、北村明彦、荒木厚、新開省二、原田和昌　高齢者における認知機能と血圧の関連　－積極的降圧から減薬への移行ポイントの検討―　第 42 回日本高血圧学会総会　2019 年 10 月 27 日、東京
26. Futami S, Ishikawa J, Kawano M, Sakurayama C, Harada K. The Determinants of Left Ventricular Energy Loss in Elderly Patients with Preserved Ejection Fraction. American Society of Echocardiography June 23rd, 2019, Portaland.

（研究会発表）

1. 石川譲治、転倒予防を考慮した心房細動、血圧管理　超高齢者医療を考える会
健康寿命を延ばすための治療とはー2019 年 04 月 22 日、東京都健康長寿医療センタ　ー
2. 石川譲治　高齢者における血圧管理　JSH2014 から JSH2019 への期待　胎内市医師会講演会　2019 年 5 月 22 日、新潟
3. 石川譲治　高齢者における血圧管理　JSH2014 から JSH2019 への期待　ミネブロ新発売記念講演会　～新たな高血圧治療の幕開け～　2019 年 6 月 11 日、長岡市
4. 石川譲治　新しい高血圧治療ガイドラインと高血圧治療の今後　高齢者高血圧について　東京保険医協会循環器研究会　2019 年 11 月 20 日、東京保険医協会
5. 石川譲治　高齢者心不全の特徴と予後予測因子について　心不全の医療連携を考える会　2019 年 12 月 3 日、東京都健康長寿医療センター

＜講演会・院外活動等＞

1. 桜山千恵子：Complex Cardiovascular Therapeutics(CCT)2019：下肢静脈超音波　基礎から臨床.　神戸 2019.10.26
2. 桜山千恵子： Complex Cardiovascular Therapeutics(CCT)2019：ハンズオンセミナー（下肢静脈エコー）. 神戸2019.10.27
3. 桜山千恵子：神奈川ふれあいグループ病院　臨床検査技師会　研修会：弁膜症評価の実際―術前評価から術

後評価まで一　エコーでどうみるか.　神奈川湘南東部総合病院　2020.1.19
4. 高山紗桜理：一般検査スキルアップ研修会.　東京　2019/11/10
5. 太田和志：検体採取等に関する厚生労働省指定研修会218.　東京　2019/08/24-25

（院内活動）
1. 令和元年度第1回院内感染対策講演会
浅見諒子：当センターの現状と傾向を知り、感染対策に活かそう！～細菌検査編～
令和元年度第2回院内感染対策講演会
2. 野口穣：後悔などあろうはずがありません　～検査機器が変わってできるようになった
こと～

（座長、コメンテーター）
1. 石川譲治　座長　セッション III-1　心膜炎・心筋炎　第 251 回日本循環器病学会関東甲信越地方会　2019 年 2 月 2 日、ステーションコンファレンス東京
2. 石川譲治　座長　セッション IV-2　弁膜症　第 253 回日本循環器病学会関東甲信越地方会　2019 年 9 月 28 日　東京ステーションカンファレンス東京

看護部　エキスパート研修
心電図　　高梨大輔
心臓超音波　　前田哲平

（放送）
NHK　ガッテン　血圧・虫刺され・リハビリ　医療を変えたすごい人SP　2019年5月23日

輸血・細胞療法科

＜学会参加＞

1. 谷田部元野. 第115回日本輸血・細胞治療学会東北支部例会（2019.8.31 青森）
2. 伊藤（土田）紗貴、小菅隆雄、谷田部元野. 第148回日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部例会（2019.9.7 千葉）
3. 伊藤（土田）紗貴、小菅隆雄、谷田部元野、小林寿美子. 第26回日本輸血・細胞治療学会秋季（2019.11.14-15 東京）

＜学会発表＞

1. 小菅隆雄、松田美弥子、阿部真愛、谷田部元野、奈良岡綾子、伊藤紗貴、斎藤輔、小島稔、小倉和外、小林寿美子. 当センターにおける貯血式自己血輸血の現状と今後の課題. 第 67 回日本輸血細胞治療学会総会（2019.5.24 熊本）
2. 小林寿美子：第 24 回板橋宿医師会医学会　超高齢者時代における多職種が介入する同種造血幹細胞移植を考える.（要望演題）（2019.12.7 東京）
3. 斎藤輔、小林寿美子、赤川順子、小倉和外、宮腰重三郎.臍帯血移植後のPRCAに対してガンマグロブリンの反復投与により回復しえた高齢者AML：第81回日本血液学会総会(2019.10.13　東京）
4. 小倉和外、赤川順子、齋藤輔、小林寿美子、宮腰重三郎:Azacitidine in combination with induction chemotherapy in elderly patients with myeloid malignancy. 第81回日本血液学会総会：(2019.10.13東京　口演))
5. 赤星美帆、小林寿美子、斎藤輔、小倉和外、宮腰重三郎. CR3でCBT後2年間緩解を維持しているCBFβ/MYH11とminor bcr-ablの共発現の70歳台AML の一例. 第40回日本造血細胞移植学会総会（2019.3.7-9　大阪）
6. 伊藤真紀、羽根田千恵、赤川順子、斎藤輔、小倉和外、小林寿美子、宮腰重三郎. 高齢者同種造血幹細胞移植栄養管理評価第二方. 第41回日本造血細胞移植学会総会.（2019.3.7-9　大阪）
7. 小倉和外、赤川順子、斎藤輔、小林寿美子、宮腰重三郎. 当科における70歳以上患者に対する臍帯血移植症例の後方視的解析. 第41回日本造血細胞移植学会総会(2019.3.7-9　大阪）
8. 赤川順子、斉藤輔、小倉和外、小林寿美子、宮腰重三郎：高齢者患者のQOLの実態：第41回日本造血細胞移植学会総会(2019.3.7-9　大阪）
9. 伊藤真紀、羽田千恵、赤川順子、五十嵐麻奈美、高橋恵子、斎藤美香、斎藤輔、小倉和外、小林寿美子、宮腰重三郎. 高齢者同種造血幹細胞移植における経口摂取に影響を及ぼす要因. 第5回日本がん口腔支持療法学会。(2019.11.30-12.1　東京）

＜論文＞

1. 小林寿美子 ：高齢者の AML に対する造血細胞移植療法(総説)(臨床血液. 60(9) 108-118. 2019)
2. Keisuke Nonaka, Yoko Matsuda, Mototsune Kakizaki, Shoichiro Takakuma, Tomoyasu Matsubara, Shigeo Murayama, Toshiyuki Ishikawa, Masashi Kameyama, Kazuto Ogura, Sumiko Kobayashi, and Tomio Arai. Occult mucin-producing urothelial-type adenocarcinoma of the prostate with elevated serum levels of carcinoembryonic antigen and carbohydrate antigen 19-9 report of an autopsy-proven case. Urology Case Reports. 2019.23：6-9.

＜講演＞

1. 小林寿美子. 高齢者のAMLに対する造血細胞移植療法. 第81回日本血液学会総会 （教育講演）（2019.10.11 東京）
2. 小林寿美子. 骨髄・末梢血幹細胞の採取と処理、ドナーの安全性と管理. 第42回日本造血細胞移植学会総会（教育セミナー）（2020.3.8東京）

病理診断科

＜雑誌論文＞

1. Matsuda Y, Tanaka M, Sawabe M, Mori S, Muramatsu M, Mieno MN, Ishiwata T, Arai T. The stem cell-specific intermediate filament nestin missense variation p.A1199P is associated with pancreatic cancer. Oncol Lett 17:4647-4654, 2019
2. Takigawa M, Yatsu T, Takino Y, Matsumoto S, Kitano T, Lee J, Arai T, Tanaka H, Ishii T, Mori Y, Ishigami A. High-Dose Vitamin C Preadministration Reduces Vancomycin-Associated Nephrotoxicity in Mice. J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo) 65:399-404, 2019.
3. Matsuda Y, Nonaka K, Seki A, Kakizaki M, Takakuma S, Hamamatsu A, Wang T, Nakano Y, Takata T, Takahashi-Fujigasaki J, Murayama S, Sawabe M, Arai T. Disseminated varicella zoster virus infection and acute hepatitis: Autopsy-proven cases from a single institute. Pathol Int 69:378-380, 2019.
4. Shichi Y, Sasaki N, Michishita M, Hasegawa F, Matsuda Y, Arai T, Gomi F, Aida J, Takubo K, Toyoda M, Yoshimura H, Takahashi K, Ishiwata T. Enhanced morphological and functional differences of pancreatic cancer with epithelial or mesenchymal characteristics in 3D culture. Sci Rep 9:10871, 2019.
5. Yoshikawa T, Aoyama T, Sakamaki K, Oshima T, Lin J, Zhang S, Sapari NS, Soong R, Tan I, Chan XB, Bottomley D, Hewitt LC, Arai T, Teh BT, Epstein D, Ogata T, Kameda Y, Miyagi Y, Tsuburaya A, Morita S, Grabsch HI, Tan P. Comprehensive biomarker analyses identifies *HER2, EGFR, MET* RNA expression and thymidylate synthase 5'UTR SNP as predictors of benefit from S-1 adjuvant chemotherapy in Japanese patients with stage II/III gastric cancer. J Cancer 10:5130-5138, 2019.
6. Hamano Y, Ito F, Suzuki O, Koura M, Matsuoka S, Kobayashi T, Sugitani Y, Wali N, Koyanagi A, Hino O, Suzuki S, Sugamata R, Yoshizawa H, Yumura W, Maruyama N, Kameoka Y, Noda Y, Hasegawa Y, Arai T, Suzuki K. Vasculitis and crescentic glomerulonephritis in a newly established congenic mouse strain derived from ANCA-associated vasculitis-prone SCG/Kj mice. Autoimmunity 52:208-219, 2019.
7. Matsuda Y, Inoue Y, Hiratsuka M, Kawakatsu S, Arai T, Matsueda K, Saiura A, Takazawa Y. Encapsulating fibrosis following neoadjuvant chemotherapy is correlated with outcomes in patients with pancreatic cancer. PLoS One 14:e0222155, 2019.
8. Matsuda Y, Kimura W, Matsukawa M, Aida J, Takubo K, Ishiwata T, Furukawa T, Mino-Kenudson M, Arai T. Association between pancreatic cystic lesions and high-grade intraepithelial neoplasia and aging: An autopsy study. Pancreas 48(8):1079-1085, 2019.
9. Nonaka K, Matsuda Y, Kakizaki M, Takakuma S, Hamamatsu A, Sakashita Y, Matsubara T, Murayama S, Ishiwata T, Yamanaka N, Itabashi M, Takei T, Nakajima N, Hasegawa H, Arai T. Acute liver failure associated with Influenza A virus infection: an autopsy case report. Jpn J Infect Dis 72:347-349, 2019.
10. Matsuda Y, Fujii Y, Matsukawa M, Ishiwata T, Nishimura M, Arai T. Overexpression of carbohydrate sulfotransferase 15 in pancreatic cancer stroma is associated with worse prognosis. Oncol Lett 18:4100-4105, 2019.

11. Miura Y, Tsumoto H, Iwamoto M, Yamaguchi Y, Ko P, Soejima Y, Yoshida S, Toda T, Arai T, Hamamatsu A, Endo T, Sawabe M. Age-associated proteomic alterations in human aortic media. Geriatr Gerontol Int 19:1054-1062, 2019.
12. Akimoto Y, Yan K, Miura Y, Tsumoto H, Toda T, Fukutomi T, Sugahara D, Kudo A, Arai T, Chiba Y, Kaname S, Hart GW, Endo T, Kawakami H. *O*-GlcNAcylation and Phosphorylation of β-Actin Serine199 in Diabetic Nephropathy. Am J Physiol Renal Physiol 317:F1359-F1374, 2019.
13. Nonaka K, Aida J, Takubo K, Yamazaki Y, Takakuma S, Kakizaki M, Matsuda Y, Ishikawa N, Ishiwata T, Chong JM, Arai T, Sasano H. Correlation between differentiation of adrenocortical zones and telomere lengths measured by Q-FISH. J Clin Endocrinol Metab 104:5642-5650, 2019.
14. Hewitt LC, Saito Y, Wang T, Matsuda Y, Oosting J, Silva ANS, Slaney HL, Melotte V, Hutchins G, Tan P, Yoshikawa T, Arai T, Grabsch HI. KRAS status is related to histological phenotype in gastric cancer: results from a large multicentre study. Gastric Cancer 22:1193-1203, 2019
15. Matsuda Y, Masuda Y, Shimoji K, Matsukawa M, Kinowaki Y, Fukumura Y, Kikuyama M, Arai T. Severe Acute pancreatitis in autopsies associated with surgeries and severe inflammatory diseases. Pancreas 48:1321-1328, 2019.
16. Nagata Y, Takeuchi K, Yamamoto T, Ishikawa T, Kawabata T, Shimoyama Y, Inoshita N, Wakabayashi T.Peel-off resection of the pituitary gland for functional pituitary adenomas: pathological significance and impact on pituitary function. Pituitary 22:507-513, 2019.
17. Urabe M, Haruta S, Ohkura Y, Inoshita N, Yago A, Koga S, Tanaka T, Ueno M, Udagawa H. Clinicopathological presentations and surgical outcomes of esophageal melanoma. Asian Cardiovasc Thorac Ann 27:548-553, 2019.
18. Fujii T, Toda S, Inoshita N, Tomizawa K, Hanaoka Y, Matoba S, Kuroyanagi H. Appendiceal mucinous neoplasm with myxoglobulosis occurring 3 years after perforated barium appendicitis: a case report. Surg Case Rep 5:107, 2019.
19. Arai T. Where does signet-ring cell carcinoma come from and where does it go? Gastric Cancer. 2019; 22: 651-652, 2019.
20. Hozumi K, Fukuoka H, Odake Y, Takeuchi T, Uehara T, Sato T, Inoshita N, Yoshida K, Matsumoto R, Bando H, Hirota Y, Iguchi G, Taniguchi M, Otsuki N, Nishigori C, Kosaki K, Hasegawa T, Ogawa W, Takahashi Y. Acromegaly caused by a somatotroph adenoma in patient with neurofibromatosis type 1. Endocr J 66:853-857, 2019.
21. Tanaka S, Yamamoto M, Morita M, Takeno A, Kanazawa I, Yamaguchi T, Yamada S, Inoshita N, Oki Y, Kurosaki M, Sugimoto T. Successful reduction of ACTH secretion in a case of intractable Cushing's disease with pituitary Crooke's cell adenoma by combined modality therapy including temozolomide. Endocr J 29;66:701-708, 2019.
22. Aida J, Yokoyama A, Hara S, Ishizaki T, Fujiwara M, Arai T, Ishiwata T, Takubo K. Telomere shortening in the oral epithelium in relation to alcohol intake, alcohol dehydrogenase (ADH-1B), and acetaldehyde dehydrogenase (ALDH-2) genotypes and clinicopathologic features. J Oral Pathol Med 49:82-90, 2020.
23. Wang T, Matsuda Y, Nonaka K, Kakizaki M, Ishiwata T, Kanazawa N, Uegaki S, Muramatsu M, Sawabe M, Mori S, Tanaka M, Kitagawa M, Arai T. Clinicopathological characteristics of gastric cancer with carbohydrate antigen 19-9 expression occurring in elderly individuals: An autopsy study. Pathol Int 70:92-100, 2020.

24. Minn AKK, Sato N, Mieno MN, Arai T, Muramatsu M. Association study of long non-coding RNA HOTAIR rs920778 polymorphism with the risk of cancer in an elderly Japanese population. Gene 729:144263, 2020.
25. Akiyama M, Matsuda Y, Arai T, Saeki H. PD-L1 expression in malignant melanomas of the skin and gastrointestinal tract. Oncol Lett 19:2481-2488, 2020.
26. Abudushataer M, Sato N, Mieno M, Sawabe M, Muramatsu M, Arai T. Association of CYP2A6 gene deletion with cancers in Japanese elderly: an autopsy study. BMC Cancer 20:186, 2020.
27. Ochiai Y, Kikuchi D, Inoshita N, Hayasaka J, Suzuki Y, Tanaka M, Nomura K, Odagiri H, Yamashita S, Matsui A, Iizuka T, Kitagawa M, Hoteya S. Clinicopathological Features of Advanced Gastric Cancers which Were Misjudged and Subjected to Endoscopic Submucosal Dissection. Gastroenterol Res Pract 2020:6525098, 2020.
28. Ochiai Y, Inoshita N, Iizuka T, Nishioka H, Yamada S, Kitagawa M, Hoteya S. Clinicopathological features of colorectal polyps and risk of colorectal cancer in acromegaly. Eur J Endocrinol 182:313-318, 2020.
29. Kasai T, Suga H, Sakakibara M, Ozone C, Matsumoto R, Kano M, Mitsumoto K, Ogawa K, Kodani Y, Nagasaki H, Inoshita N, Sugiyama M, Onoue T, Tsunekawa T, Ito Y, Takagi H, Hagiwara D, Iwama S, Goto M, Banno R, Takahashi J, Arima H. Hypothalamic Contribution to Pituitary Functions Is Recapitulated In Vitro Using 3D-Cultured Human iPS Cells. Cell Rep 30:18-24.e5, 2020.
30. Ichijo M, Tsuchiya K, Kasai T, Inoshita N, Yoshimoto H, Yamada S, Kitamura K. Follicle-stimulating Hormone-secreting Pituitary Adenoma Accompanied by Painful Thyroiditis. Intern Med 15;59:545-550, 2020.
31. Nonaka K, Aida J, Takubo K, Yamazaki Y, Gao X, Komatsu A, Takakuma S, Kakizaki M, Inoshita N, Gomi F, Ishiwata T, Chong JM, Arai T, Sasano H. Correlation between telomere attrition of zona fasciculata and adrenal weight reduction in older men. J Clin Endocrinol Metab 105:dgz214, 2020
32. 前田裕介, 大倉遊, 宇田川晴司, 田中毅, 春田周宇介, 井下尚子, 上野正紀. 術前診断困難であった食道癌術後前縦隔 desmoid の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 80:2164-2169, 2019.
33. 井形悠, 小林祐太, 進藤潤一, 井下尚子, 橋本雅司. リンパ節転移を伴う散在性多発非機能性膵神経内分泌腫瘍の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 80:1748-1753, 2019.

＜総説＞

1. 新井冨生. 食道癌　組織型分類（食道癌取扱い規約）. 胃と腸 54:584-585, 2019.
2. 新井冨生. アミロイドーシス　化学型に基づく分類. 胃と腸 54: 786-788, 2019.
3. 西岡宏, 井下尚子. 下垂体腫瘍の 2017 年 WHO 組織分類. 脳神経外科 47: 597-606, 2019.
4. 松本主之, 小山恒男, 八尾隆史, 味岡洋一, 新井冨生, 江頭由太郎, 海崎泰治, 九嶋亮治, 菅井有, 二村聡, 津山翔. 座談会　十二指腸腺腫・癌の病理診断基準を検討する. 胃と腸 54: 1141-1168, 2019.
5. 新井冨生. マイクロサテライト不安定検査とその臨床的意義. モダンメディア 65:162-167, 2019.
6. 新井冨生, 井下尚子, 野中敬介, 柿﨑元恒, 髙熊将一朗, 小松明子, 相田順子, 石渡俊　行, 田久保海誉, 松川美保, 上垣佐登子, 金澤伸郎, 黒岩厚二郎, 熊谷洋一, 石田秀行. 特殊な食道腫瘍の臨床病理学的特徴. 胃と腸 54:1338-1348, 2019.
7. 鶴田修, 山野泰穂, 菅井有, 八尾隆史, 味岡洋一, 新井冨生, 江頭由太郎, 海崎泰治, 九嶋亮治, 二村聡, 永塚真. 大腸腫瘍の病理診断基準の確立に向けて. 胃と腸 54:1527-1560, 2019.
8. 岡本陽祐, 布袋屋修, 落合頼業, 早坂淳之介, 鈴木悠悟, 田中匡実, 野村浩介, 小田切啓之, 山下聡, 松

井啓，菊池大輔，三谷年史，井下尚子，五十嵐良典.【表在性十二指腸腫瘍の新展開】表在性十二指腸腫瘍の低侵襲治療　EMR、ESD の術中・術後偶発症　十二指腸ならではの対応. 消化器内視鏡 31:1066-1071，2019.

9. 野村浩介，井下尚子，飯塚敏郎. 【食道の炎症を視る】その他・非特異性　GVHD に合併した食道炎. 消化器内視鏡 31:1240-1243，2019.
10. 新井冨生，井下尚子，野中敬介，柿崎元恒，髙熊将一朗，小松明子，松川美保，上垣佐登子，金澤伸郎，黒岩厚二郎，相田順子，石渡俊行，田久保海誉，近藤福雄，馬場 聡，小宮山明. 食道良性腫瘍および腫瘍様病変の病理. 胃と腸 55:237-246，2020.
11. 都宮美華，有馬美和子，剛崎有加，石川文隆，神田浩明，井下尚子. 【いま知っておきたい食道良性疾患】食道良性腫瘍および腫瘍様病変の診断　食道黄色腫. 胃と腸 55:287-289，2020
12. 石原立，有馬美和子，飯塚敏郎，小山恒男，堅田親利，加藤元彦，郷田憲一，後藤 修,田中匡介，矢野友規，吉永繁高，武藤学，川久保博文，藤城光弘，吉田雅博，藤本一眞，田尻久雄，井上晴洋，新井冨生，小池智幸，田中英夫，飽本哲兵，池之山洋平，石戸謙次，岩坪太郎，岩谷勇吾，門田智裕，島村勇人，鈴木悠悟，中山敦史，水口康彦，日本消化器内視鏡学会食道癌に対する ESD/EMR ガイドライン委員会，日本消化器内視鏡学会ガイドライン委員会，日本食道学会，日本消化器病学会，日本消化管学会. 食道癌に対する ESD/EMR ガイドライン. Gastroenterol Endosc 62: 221-271，2020

＜単行書・報告書＞

1. 井下尚子，西岡宏，福原紀章，竹内靖博，伊藤純子. ソマトスタチンアナログ治療が成長ホルモン産生下垂体細胞に与える変化. 成長科学協会研究年報 42: 81-87，2019
2. 新井冨生. 病理組織検査. 東京都健康安全研究センター精度管理室編，東京都福祉保健局医療政策部発行：令和元年度第 38 回東京都衛生検査所精度管理事業報告書. pp204-227，2020
3. 新井冨生，松田陽子，田中雅嗣，村松正明，三重野牧子. 高齢者がんと遺伝子多型，喫煙の関連：病理解剖例を用いた遺伝子多型解析.「幹細胞特異的中間フィラメント nestin 遺伝子のミスセンス多型 p.A1199P と高齢者がんとの関連」，平成 30 年度喫煙科学研究財団研究年報，公益財団法人喫煙科学研究財団 pp51-55，2020.
4. 井下尚子，福原紀章，西岡宏，須賀英隆，筆宝義隆. 培養細胞の分化や悪性度評価に対する形態学的 Grading system の作成―培養細胞評価に対する形態学的アプローチ―、冲中記念成人病研究所「研究助成」報告書，2020 年 3 月
5. 新井冨生. 食道癌の原理. 一般社団法人日本消化器外科学会編 消化器外科医の心得 2020，東京，pp210-211.

＜学会・研究会発表＞

（国際学会）

1. Arai T. Workshop: signet-ring cell carcinoma. Pure SRC and poorly cohesive tumours: do they have a transitional relationship? The 13th International Gastric Cancer Congress, Prague (Czech), 2019.5.10
2. Arai T, Matsuda Y, Wang T, Aida J, Takubo K. Clinicopathological diversity of solid-type poorly differentiated adenocarcinoma of the stomach. The 13th International Gastric Cancer Congress, Prague (Czech), 2019.5.9-10
3. Hewitt L, Saito Y, Wang T, Matsuda Y, Oosting J, Silva A, Slaney H, Melotte V, Hutchins G, Tan P, Yoshikaw T, Arai T, Grabsch H. KRAS mutation, not KRAS amplification is related to histological phenotype in gastric cancer. The 13th International Gastric Cancer Congress, Prague (Czech), 2019.5.9-10
4. Arai T. Signet-ring cell carcinoma and poorly differentiated adenocarcinoma of the stomach: from

the Japanese viewpoint. In, 2019 Verona Workshop on Signet Ring Cell gastric adenocarcinoma. University of Verona, Verona (Italy), 2019.6.30

5. Kiso Y, Matsuda Y, Esaka S, Hamashima Y, Shirahata H, Kakizaki M, Ishizaki T, Arai T. Scoring system for cytological diagnosis of pancreatic cancer using EUS-FNA samples. American Pancreatic Association 50th Anniversary Meeting, Grand Wailea Maui Hawaii (USA), 2019.11.7

（国内学会）

1. 田久保海誉，相田順子，松田陽子，新井冨生，石渡俊行，前川尚志，石川雄一，藤原睦憲．脂肪腫と異型脂肪腫様腫瘍/高分化型脂肪肉腫（ALT/WDL）組織，染色体，テロメア長と染色体の不安定性（口演）．第108回日本病理学会総会，東京，2019.5.8
2. 野中敬介，松田陽子，柿﨑元恒，西村優基，髙熊将一朗，松原知康，村山繁雄，中島典子，長谷川秀樹，新井冨生．A型インフルエンザウイルス感染症に関連した急性肝不全の1剖検例．第108回日本病理学会総会，東京，2019.5.9
3. 本間尚子，松田陽子，河内洋，山本智理子，深沢由里，金田幸枝，赤坂喜清，新井冨生，石川雄一，三上哲夫．高齢女性結腸癌の病理学的特徴と臨床的特異性（口演）．第108回日本病理学会総会，東京，2019.5.9
4. 井下尚子．教育講演　下垂体腺腫の新たなWHO分類の概説 The 2017 WHO classification of pituitary adenoma ： Overview：第92回日本内分泌学会学術総会，2019.5.9
5. 山田正三，井下尚子．CPC 下垂体疾患における病理学的診断の役割とその理解に向けて The various roles of pathology in the diagnosis and treatment of pituitary lesions：第92回日本内分泌学会学術総会，2019.5.9
6. 井下尚子．ワークショップ：臓器病理学の最近の進歩12 内分泌　下垂体病理学の最近の進歩― 薬物治療への病理診断の関わり　第108回日本病理学会総会，2019.5.10
7. 石渡俊行，志智勇樹，佐々木紀彦，道下正貴，長谷川文雄，松田陽子，高橋公正，田久保海誉，新井冨生，相田順子．膵癌細胞の３次元培養による上皮間葉系性質の多様性解析（口演）．第108回日本病理学会総会，東京，2019.5.10
8. 相田順子，田久保海誉，松田陽子，新井冨生，石渡俊行．食道胃接合部における食道マーカーとしての柵状静脈の組織学的特徴（口演）．第108回日本病理学会総会，東京，2019.5.10
9. 髙熊将一朗，柿﨑元恒，野中敬介，松田陽子，種井善一，高梨成彦，村山繁雄，新井冨生．von Recklinghausen病に関連した消化管のGISTと食道の横紋筋増生を認めた1剖検例．第108回日本病理学会総会，東京，2019.5.10
10. 王坦，松田陽子，柿﨑元恒，野中敬介，髙熊将一朗，新井冨生．高齢者胃癌におけるCA19-9発現の臨床病理学的特徴：剖検例を用いた検討．第108回日本病理学会総会，東京，2019.5.10
11. 柿﨑元恒，野中敬介，髙熊将一朗，王坦，松田陽子，飯島健，下地啓五，小倉和外，小林寿美子，新井冨生．粘液産生を伴う尿路上皮型前立腺癌の一剖検例．第108回日本病理学会総会，東京，2019.5.11
12. 濱松晶彦，新井冨生，松田陽子，髙熊将一朗，柿﨑元恒，野中敬介，井藤英喜．病理解剖例における動脈硬化の時代変遷に関して．第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.7
13. 児島宏哉，鈴木明美，江坂四季音，木曽有里，浜島裕理，今泉雅之，白幡浩人，野中敬介，松田陽子，新井冨生．気管支鏡検査ROSEにおけるUltrafast Papanicolaou染色検討．第60回日本臨床細胞学会総会（春期大会），東京，2019.6.8
14. 野中敬介，相田順子，田久保海誉，山﨑有人，小松明子，髙熊将一朗，柿﨑元恒，井下尚子，石渡俊行，鄭子文，笹野公伸，新井冨生．副腎皮質3層および髄質の加齢性変化に関する検討．第23回日本臨床内分泌病理学会．東京，2019.10.4

15. 井下尚子. インストラクション４）内分泌腫瘍の病理分類～2017 年 WHO 新分類から見えること. 第 20 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 東京, 2019.10.5
16. 児島宏哉, 鈴木明美, 江坂四季音, 木村勇里, 木曽有里, 浜島裕理, 白幡浩人, 今泉雅之, 野中敬介, 井下尚子, 新井冨生. 呼吸器領域 ROSE における改良 UFP 染色の有用性. 第 58 回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019.11.16
17. 木村勇里, 木曽有里, 野中敬介, 鈴木明美, 白幡浩人, 江坂四季音, 浜島裕理, 今泉雅之, 児島宏哉, 井下尚子, 新井冨生. 皮下に認めた多形型平滑筋肉腫の一例. 第 58 回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019.11.16
18. 新井冨生. 高齢者がんと遺伝子多型：病理解剖例を用いた遺伝子多型解析. 東京医科歯科大学 2019 年度難治疾患共同研究拠点シンポジウム. 東京医科歯科大学（東京), 2019.11.18
19. 井下尚子, 天野耕作.「Meet-the-Surgeon/Pathologist」下垂体手術と病理の最近の進歩：第 29 回日本内分泌学会臨床内分泌代謝 Update, 2019.11.30
20. 井下尚子. 間脳下垂体腫瘍の病理診断、第 30 回日本間脳下垂体腫瘍学会 教育セミナー, 2020.2.22

＜講師等院外活動＞

1. 新井冨生. 食道表在癌の病理診断－扁平上皮癌、腺癌にまつわる諸問題－. 第 24 回信州消化管疾患懇話会 松本, 2019.5.18
2. 井下尚子. 臨床に必要な下垂体病理診断. ちば内分泌・免疫・骨代謝サマーセミナー, 千葉, 2019.8.20
3. 江坂四季音. 膵 EUS-FNA 検体の診断に重要な細胞診像. 第 77 回細胞検査士教育セミナー ワークショップ「EUS-FNA を用いた膵腫瘍の細胞診」神奈川, 2019.8.24
4. 井下尚子. 下垂体の病理, 下垂体セミナー, 東京, 2020.1.10

薬剤科

＜雑誌投稿＞

1. Takigawa M: High-dose vitamin C preadministration reduces vancomycin associated nephrotoxicity in mice. J Nutr Sci Vitaminol. 2019;65:399-404.
2. 瀧川美和：ソウル大学病院からのポリファーマシーカンファレンス見学訪問を受けて.老年薬学雑誌.2019;3:1-3.
3. 谷古宇美佳：認知症の人への薬学管理と支援のポイント．調剤と情報．じほう．Vol.26 No.2 2020年2月

＜講演会等＞

1. 宮本俊一：臨床研究をするためのきまりと最新の動向．東京都病院薬剤師会臨床研究専門養成研究会． 東京都済生会中央病院，5月16日，2019年
2. 島崎良知：ポリファーマシー対策における薬剤師の関わり．東京都病院薬剤師会高齢者薬物療法専門研修．AP新宿，6月25日，2019年
3. 谷古宇美佳：認知症のかたに対して薬剤師に求められること～薬学的管理と関係機関との連携～．令和元年度東京都薬剤師認知症対応力向上研修．ルミエール府中,9月8日・明治大学アカデミーコモン,10月6日,2019年
4. 島崎良知：ポリファーマシーの現状～板橋区医療機関へのアンケート結果より～　　ポリファーマシーを考える会．武田薬品工業株式会社，11月18日，2019年
5. 小原朋也:当センターにおけるポリファーマシーの取り組み.東邦大学鶴風会.東京都健康長寿医療センター,2月16日,2020年

＜学会発表＞

1. 小原朋也:高齢者専門病院のポリファーシー対策～症例を通してみえてきた今後の課題～．第3回日本老年薬学会学術大会．名古屋コンベンションホール，5月，2019年
2. 瀧川美和:「高齢者への不眠・せん妄に対する薬物療法」指針導入が睡眠薬の処方動向に与える影響．第3回日本老年薬学会学術大会．名古屋コンベンションホール，5月，2019年
3. 島崎良知:高齢者の薬物療法に関するアンケート調査．第61回日本老年医学会学術集会.仙台国際センター,6月，2019年
4. 瀧川正紀：ビタミンC前投与によるバンコマイシン誘発性腎障害の予防効果．第42回日本基礎老化学会大会.仙台国際センター，6月，2019年
5. 瀧川正紀:Age-related change of nephrotoxicity by vancomycin and its toxic reduction effect by vitamin C administration in mice. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei International Convention Center，10月，2019年
6. 小原朋也：大腿骨骨折入院患者におけるベンゾジアゼピン系薬剤の服用とポリファーマシーの現状．第29回日本医療薬学会年会．福岡国際会議場他，11月，2019年
7. 早舩美保子：病棟薬剤業務開始直後と現在における病棟薬剤業務内容の実状調査． 第29回医療薬学会年会.福岡国際会議場他，11月，2019年
8. 早舩美保子：TPNを離脱し、経口摂取に移行した患者における体重減少の要因調査.第35回日本臨床栄養代謝学会学術集会.国立京都国際会館他,2月,2020年

栄養科

＜学会発表＞

1. 伊藤真紀：日本がん口腔支持療法学会　第5回学術大会「高齢者造血幹細胞移植における経口摂取に影響を及ぼす要因」.

2. 伊藤真紀：第42回日本造血細胞移植学会総会「高齢者造血幹細胞移植における栄養管理評価　第2報」.

3. 羽根田千恵：第 23 回日本病態栄養学会年次学術集会「嚥下機能低下を有する急性期高齢患者への栄養管理の取り組みについて」

高齢者バイオリソースセンター

＜原著論文＞

1. Fujita K, Matsubara T, Miyamoto R, Sumikura H, Takeuchi T, Maruyama Saladini K, Kawarai T, Nodera H, Udaka F, Kume K, Morino H, Kawakami H, Hasegawa M, Kaji R, Murayama S, Izumi Y: Co-morbidity of progressive supranuclear palsy and amyotrophic lateral sclerosis: a clinical-pathological case report. BMC Neurol 2019, 19:168.
2. Hatsuta H, Takao M, Nogami A, Uchino A, Sumikura H, Takata T, Morimoto S, Kanemaru K, Adachi A, Arai T, Hasegawa M, Murayama S: Tau and TDP-43 accumulation of the basal nucleus of Meynert in individuals with cerebral lobar infarcts or hemorrhage. Acta Neuropathologica Communications. 2019; 7: 49. doi.org/10.1186/s40478-019-0700-z.
3. Hongo Y, Iizuka T, Kaneko A, Suga H, Uchino A, Murayama S, Namba K, Inoue Y, Nishiyama K: An autopsy case of MM2-thalamic subtype of sporadic Creutzfeldt-Jakob disease with Lewy bodies presenting as a sleep disorder mimicking anti-IgLON5 disease. J Neurol Sci 2019, 404:36-9.
4. Ikegawa M, Nirasawa T, Kakuda N, Miyasaka T, Kuzuhara Y, Murayama S, Ihara Y: Visualization of Amyloid beta Deposits in the Human Brain with Matrix-assisted Laser Desorption/Ionization Imaging Mass Spectrometry. J Vis Exp 2019.
5. Ishiura H, Shibata S, Yoshimura J, Suzuki Y, Qu W, Doi K, Almansour MA, Kikuchi JK, Taira M, Mitsui J, Takahashi Y, Ichikawa Y, Mano T, Iwata A, Harigaya Y, Matsukawa MK, Matsukawa T, Tanaka M, Shirota Y, Ohtomo R, Kowa H, Date H, Mitsue A, Hatsuta H, Morimoto S, Murayama S, Shiio Y, Saito Y, Mitsutake A, Kawai M, Sasaki T, Sugiyama Y, Hamada M, Ohtomo G, Terao Y, Nakazato Y, Takeda A, Sakiyama Y, Umeda-Kameyama Y, Shinmi J, Ogata K, Kohno Y, Lim SY, Tan AH, Shimizu J, Goto J, Nishino I, Toda T, Morishita S, Tsuji S: Noncoding CGG repeat expansions in neuronal intranuclear inclusion disease, oculopharyngodistal myopathy and an overlapping disease. Nat Genet 2019, 51:1222-32.
6. Kubo A, Misonou H, Matsuyama M, Nomori A, Wada-Kakuda S, Takashima A, Kawata M, Murayama S, Ihara Y, Miyasaka T: Distribution of endogenous normal tau in the mouse brain. J Comp Neurol 2019, 527:985-98.
7. Kubo A, Ueda S, Yamane A, Wada-Kakuda S, Narita M, Matsuyama M, Nomori A, Takashima A, Kato T, Onodera O, Goto M, Ito M, Tomiyama T, Mori H, Murayama S, Ihara Y, Misonou H, Miyasaka T: Ectopic Expression Induces Abnormal Somatodendritic Distribution of Tau in the Mouse Brain. J Neurosci 2019, 39:6781-97.
8. Kurihara M, Koda H, Aono H, Izumi S, Sakurai Y, Sano T, Saito Y, Murayama S, Mori M: Rapidly progressive miliary brain metastasis of lung cancer after EGFR tyrosine kinase inhibitor discontinuation: An autopsy report. Neuropathology. 2019; 39: 147-155
9. Matsubara T, Oda M, Takahashi T, Watanabe C, Tachiyama Y, Morino H, Kawakami H, Kaji R, Maruyama H, Murayama S, Izumi Y: Amyotrophic lateral sclerosis of long clinical course clinically presenting with progressive muscular atrophy. Neuropathology. 2019; 39: 47-53 . doi: 10.1111/neup.12523. Epub 2018 Dec 3.
10. Matsuda Y, Itabashi M, Tachibana Y, Sugihara T, Sakashita Y, Matsubara T, Murayama S, Yumura W, Shimizu A, Takei T, Arai T: Citrullinated histone H3 expression in anti-neutrophil cytoplasmic

antibody-associated vasculitis in older Japanese autopsy patients. Geriatr Gerontol Int 2019.

11. Matsuda Y, Nonaka K, Seki A, Kakizaki M, Takakuma S, Hamamatsu A, Wang T, Nakano Y, Takata T, Takahashi-Fujigasaki J, Murayama S, Sawabe M, Arai T: Disseminated varicella zoster virus infection and acute hepatitis: Autopsy-proven cases from a single institute. Pathol Int 2019, 69:378-80.
12. Nelson P, Dickson D, Trojanowski J, Jack Jr. C, Boyle P, Arfanakis K, Rademakers R, Alafuzoff I, Attems J, Brayne C, Chui H, Coyle-Gilchrist I, Fardo D, Flanagan M, Halliday G, Hokkanen S, Hunter S, Jicha G, Katsumata Y, Kawas C, Keene C, Kovacs G, Kukull W, Levey A, Makkinejad N, Montine T, Murayama S, Murray M, Nag S, Rissman R, Seeley W, Sperling R, White C, Yu L, Schneider J: Limbic-predominant Age-related TDP-43 Encephalopathy (LATE): Consensus Working Group Report. Brain. 2019; 142: 1503-1527
13. Nonaka K, Matsuda Y, Kakizaki M, Takakuma S, Hamamatsu A, Sakashita Y, Matsubara T, Murayama S, Ishiwata T, Yamanaka N, Itabashi M, Takei T, Nakajima N, Hasegawa H, Arai T: Acute liver failure associated with influenza A virus infection: an autopsy case report. Jpn J Infect Dis 2019.
14. Nonaka K, Matsuda Y, Kakizaki M, Takakuma S, Matsubara T, Murayama S, Ishiwata T, Kameyama M, Ogura K, Kobayashi S, Arai T: Occult mucin-producing urothelial-type adenocarcinoma of the prostate with elevated serum levels of carcinoembryonic antigen and carbohydrate antigen 19-9: Report of an autopsy-proven case. Urol Case Rep 2019, 23:6-9.
15. Saito T, Mihira N, Matsuba Y, Sasaguri H, Hashimoto S, Narasimhan S, Zhang B, Murayama S, Higuchi M, Lee VMY, Trojanowski JQ, Saido TC: Humanization of the entire murine Mapt gene provides a murine model of pathological human tau propagation. J Biol Chem 2019, 294:12754-65.
16. Sharma G, Huo A, Kimura T, Shiozawa S, Kobayashi R, Sahara N, Ishibashi M, Ishigaki S, Saito T, Ando K, Murayama S, Hasegawa M, Sobue G, Okano H, Hisanaga SI: Tau isoform expression and phosphorylation in marmoset brains. J Biol Chem 2019, 294:11433-44.
17. Tachibana M, Mohri I, Hirata I, Kuwada A, Kimura-Ohba S, Kagitani-Shimono K, Fushimi H, Inoue T, Shiomi M, Kakuta Y, Takeuchi M, Murayama S, Nakayama M, Ozono K, Taniike M: Clasmatodendrosis is associated with dendritic spines and does not represent autophagic astrocyte death in influenza-associated encephalopathy. Brain & development 2019, 41:85-95.
18. Tago T, Toyohara J, Harada R, Furumoto S, Okamura N, Kudo Y, Takahashi-Fujigasaki J, Murayama S, Ishii K: Characterization of the binding of tau imaging ligands to melanin-containing cells: putative off-target-binding site. Annals of nuclear medicine 2019, 33:375-82.
19. Tago T, Toyohara J, Sengoku R, Murayama S, Ishii K: MAO-B binding of ^{18}F-THK5351 visualized glioblastoma and associated gliosis: an autopsy- confirmed case. Clin Nucl Med. 2019; 44: 507-509
20. Takahashi Y, Uchino A, Shioya A, Sano T, Matsumoto C, Numata-Uematsu Y, Nagano S, Araki T, Murayama S, Saito Y: Altered immunoreactivity of ErbB4, a causative gene product for ALS19, in the spinal cord of patients with sporadic ALS. Neuropathology 2019, 39:268-78.
21. Yu WY, Xu Z, Lee HY, Tokumaru A, Tan JMM, Ng A, Murayama S, Lim CCT: Identifying patients with neuronal intranuclear inclusion disease in Singapore using characteristic diffusion-weighted MR images. Neuroradiology. 2019 Nov; 61(11), 1281-1290. Doi 10 1007/s00234-019-02257-2
22. Kurihara M, Mano T, Saito Y, Murayama S, Toda T, Iwata A: Colocalization of BRCA1 with tau aggregates in human tauopathies. Brain Sciences, 10(1) 2019 Dec 20. Doi:10. 3390/brainsci 10010007.

＜総説＞

1. 齊藤祐子，松原知康，村山繁雄：第 3 回αシヌクレイノパチー(1)Parkinson 病・Lewy 小体型認知症・純粋自律神経不全症．病理と臨床．37(6): 545-551, 2019
2. 德丸阿耶，村山繁雄，齊藤祐子：高齢者タウオパチー：これだけは知っておきたい．臨床画像．35(11): 1271-1280, 2019
3. 山﨑幹大，仙石錬平，金丸和富，村山繁雄：PD-6. ロチゴチン貼付で歩行時のふらつきが改善した起立性低血圧を伴うパーキンソン病の 72 歳男性例．神経治療学．36(6): S268-S268, 2019
4. 船山道隆，重藤寛史，岩田淳，佐藤謙一郎，村山繁雄，小原知之：治療のスキルアップを考えるーこの症例をどう診るか 2018ー．老年精神医学雑誌．30(増刊-1): 7-29, 2019
5. 德丸阿耶，栗田主一，村山繁雄：K-1．認知症診断における神経画像の意義ー臨床・画像・病理をつなぐー．老年精神医学雑誌．30(増刊-2): 90-90, 2019

（著書）

1. 村山繁雄：外科病理学．[第 5 版]（編集主幹）深山正久，森永正二郎（編集）小田義直，坂元亨宇，松野吉宏，森谷拓也．Ⅱ35 神経末梢・骨格筋, P1445-1482．文光堂，2020.04

＜学会発表＞

（海外）

1. Takata T, Suely M, Izumi Y, Saito Y, Murayama S: Limbic TDP 43 proteinopathy, clinically mimicking Alzheimer disease. 95th ANNUAL MEETING American Association of Neuropathologists, Atlanta, Georgia, 2019.6.6-9
2. Matsubara T, Izumi Y, Miyamoto R, Oda M, Nodera H, Higashihara M, Sengoku R, Oki R, Fujita K, Kawarai T, Watanabe C, Saito Y, Kaji R, Murayama S: Validation study of clinical diagnosis of amyotrophic lateral sclerosis: the Brain Bank for Aging Research (BBAR) Project. **30th International Symposium on ALS/MND, Australia,** 2019.12.4-6

（国内）

1. 村山繁雄（特別講演）：認知症の動的神経病理．第 22 回中・四国老年期認知症研究会，岡山，2019.4.13
2. 種井善一：肺高悪性度神経内分泌癌における細胞接着分子 CADM1 の発現と病理学的特徴．第 108 回日本病理学会総会，東京，2019.5-9-11
3. 德丸阿耶，村山繁雄，齊藤祐子，下地啓五：白質病変の画像診断　臨床・画像・病理関連の意義．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
4. 和泉唯信，村山繁雄：パーキンソン病と筋萎縮性側索硬化症の合併例．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
5. 渋川茉莉，松原知康，仙石錬平，石井賢二，德丸阿耶，金丸和富，村山繁雄：歩行時ふらつきと易転倒性で発症した 83 歳女性ブレインバンク生前同意登録例．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
6. 金丸和富，仙石錬平，仁科裕史，村山繁雄：レビー小体型認知症における脳脊髄液 Aβ40 の検討．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
7. Takigawa H, Ikeuchi T, Aiba I, Morita M, Onodera O, Shimohata T, Tokuda T, Murayama S, Hasegawa K, Kowa H, Tokumaru AM, Hanajima R, Nakashima K, JALPAC study group：Longitudinal study of PSP rating scale and clinical diagnosis in PSP cases. 第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
8. 山﨑幹大，仙石錬平，金丸和富，村山繁雄：簡易な嗅覚識別試験による嗅覚障害と MIBG 心筋シンチ所見の関連について．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
9. 和泉唯信，宮本亮介，藤田浩司，山本雄貴，垂髪祐樹，塚本愛，高松直子，森敦子，松原知康，織田雅也，西田善彦，野寺裕之，村山繁雄，梶龍兒：筋萎縮性側索硬化症はシヌクレイノパチーよりたこつぼ症候群を

発症しやすい．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25

10. 齊藤祐子，饗場郁子，佐野輝典，小松奏子，池内健，長谷川成人，德丸阿耶，村山繁雄：大脳皮質基底核変性症における多角的診断の重要性．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
11. 大崎裕亮，野寺裕之，山崎博輝，藤田浩司，宮本亮介，和泉唯信，村山繁雄，梶龍兒：神経核内封入体病の末梢神経興奮特性．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
12. 加藤貴行，金丸和富，村山繁雄：軽度認知障害（MCI）を対象とする外来における、嗜銀顆粒性認知症症例についての検討．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
13. 松原知康，村山繁雄，織田雅也，宮本亮介，野寺裕之，瓦井俊孝，渡辺千種，齊藤祐子，梶龍兒，和泉唯信：徳島県・広島県における筋萎縮性側索硬化症診断の実証的研究．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
14. 織田雅也，伊藤聖，渡辺千種，立山義朗，村山繁雄，和泉唯信：療養型病床死亡退院患者に対する病理解剖実践の取り組み．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
15. Harigaya Y, Matsubara T, Oka H, Aoki S, Mizushima K, Murayama S: Clinical and radiological features of adult-onset neuronal intranuclear inclusion desease. 第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
16. 小幡真希，松原知康，仙石錬平，金丸和富，村山繁雄：臨床心理士職としてのコーディネーター活動報告－高齢者ブレインバンクプロジェクト－．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
17. 村山繁雄(教育講演)：神経内科医のための神経病理入門. 第26回神経内科レジデント懇話会, 大阪, 2019.5.31
18. 金丸和富，金丸晶子，村山繁雄：レビー小体型認知症における CSF Aβ40 の低下．第 31 回日本老年学会総会・第 61 回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8
19. 河上緒，新井哲明，新里和弘，大島健一，品川俊一郎，池田学：前頭側頭型認知症における病理サブタイプ別の前駆症状．第 31 回日本老年学会総会・第 61 回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8
20. 村山繁雄：(特別講演) 認知症の動的神経病理－臨床・画像・病理関連－．第 34 回山陰核医学研究会，松山，2019.7.6
21. 村山繁雄, 松原知康, 仙石錬平, 齊藤祐子：2019 Annual Report, the Brain Bank for Aging Research, Tokyo, Japan. 第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
22. 山﨑幹大，仙石錬平，松原知康，坂下泰浩，種井善一，元田敦子，河上緒，齊藤祐子，村山繁雄：てんかん重積状態後に脳症を呈した高齢者の 1 剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
23. 本山りえ，種井善一，村山繁雄，河田光弘，柿崎元恒，新井冨生：左内頸動脈先天性欠損の 78 歳男性剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
24. 河上緒：神経病理学的検討から摂食障害の病態を考える．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
25. 種井善一，広吉祐子，元田敦子，坂下泰浩，山﨑幹大，松原知康，河上緒，齊藤祐子，村山繁雄：アルツハイマー病変化の軽度であった嗜銀顆粒性認知症の一剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
26. 徳本健太郎，仙石錬平，仁科裕史，金丸和富，石井賢二，高橋雅道，成田善孝，吉田朗彦，村山繁雄：「18F」THK-5351-PET で集積を認めた中枢神経原発悪性リンパ腫の 1 例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
27. 元田敦子，坂下泰浩，松原知康，山﨑幹大，種井善一，河上緒，仁科裕史，仙石錬平，金丸和富，高梨成彦，村山繁雄：急性期脳梗塞に対して機械的血栓回収術を施行された一剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16

28. 内野彰子，清水崇宏，西山和利，秋谷昌史，吉田功，一戸昌明，村山繁雄：難治性けいれん重積を呈した 42 歳男性剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
29. 仙石錬平，渋川茉莉，坂下泰浩，金丸和富，村山繁雄：めまい・失神を繰り返した経過 20 年の純粋自律神経不全の 88 歳男性剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
30. 河上緒，梅田健太郎，村端祐樹，新里和弘，大島健一，池田研二，長谷川成人，村山繁雄：摂食障害死後脳における免疫組織化学的研究．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
31. 坂下泰浩，広吉祐子，仙石錬平，齊藤祐子，村山繁雄：頚椎症性脊髄症を合併し、特徴的なリン酸化タウ蛋白の蓄積を認めた筋萎縮性側索硬化症の 1 例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
32. 松原知康，村山繁雄，織田雅也，渡辺千種，立山義朗，森野豊之，川上秀史，齊藤祐子，和泉唯信：VCP 遺伝子 G128A 変異を伴う家族性筋萎縮性側索硬化症の 1 例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
33. 小川倫弘，兼坂岳志，菱田知恵，赤津裕康，山本左近，山本孝之，髙尾昌樹，村山繁雄：福祉村 Brain Bank 2018 年報告．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
34. 田野光敏，井上拓也，布施葵，青柳真一，諏訪部圭，高橋陽子，相澤勝健，赤津裕康，村山繁雄，美原盤，美原恵里，美原樹，髙尾昌樹：美原記念病院ブレインバンクからの年次報告．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
35. 齊藤祐子，柿田明美，吉田眞理，村山繁雄，入谷修司，寺田整司，横田修，矢部博興， 國井泰人，大島健二，井上悠輔，田中紀子：日本ブレインバンクネットの運営の維持・発展．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
36. 初田裕幸，髙尾昌樹，野茜，内野彰子，隅蔵大幸，髙田忠幸，森本悟，金丸和富，足立正，新井冨生，長谷川成人，村山繁雄：粗大な脳梗塞および出血におけるマイネルト基底核のタウや TDP43 の蓄積．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
37. 黒田亮平，新井憲俊，村山繁雄：死後 CT で広範な急性期脳梗塞を認めた一剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
38. 山上圭，松原知康，田島和江，竹内亮子，村山繁雄，福武敏夫：脳血管障害後にてんかん発作を繰り返した 90 歳男性．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
39. 竹内亮子，田島和江，福本竜也，佐藤進，村山繁雄，福武敏夫：臨床診断が困難であった延髄原発膠芽腫の一剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
40. 玉城剛一，諏訪園秀吾，城戸美和子，熱海恵理子，松原知康，村山繁雄：30 歳代後半に筋痙攣で始まり当初は近位筋優位の脱力だが ALS にも類似し気管切開に至った家族歴濃厚な緩徐進行性筋萎縮症の 1 例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
41. 宮崎将行，岡本智子，種井善一，佐野輝典，小松奏子，水谷智彦，有馬邦正，石浦浩之， 三井純，辻省次，村山繁雄，長谷川成人，高橋祐二，齊藤祐子：SNCA 遺伝子の p.G51D 変異を伴う家族性（PD）の死亡時 67 歳女性の 1 剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
42. 鎌田正紀，松原知康，土居智和，川北梨愛，青江真吾，野中和香子，國土曜平，髙田忠幸，久米広大，串田吉生，村山繁雄：地方にて生前高齢者ブレインバンクに登録していた前頭側頭型認知症の 1 例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
43. 村山繁雄，松原知康，仙石錬平，齊藤祐子：レビー小体病理伝搬仮説の検証．第 13 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス．東京，2019.7.25-27
44. 山﨑幹大，仙石錬平，本山りえ，広吉祐子，徳丸阿耶，金丸和富，村山繁雄：純粋型レビー小体病の高齢者剖検例臨床・画像・髄液バイオマーカー・病理．第 13 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス．東京，

2019.7.25-27

45. 松原知康, 和泉唯信, 織田雅也, 渡辺千種, 立山義朗, 森野豊之, 川上秀史, 齊藤祐子, 村山繁雄 : VCP G128A 変異を伴う家族性筋萎縮性側索硬化症の 1 例. 第 97 回 Neuromuscular Conference (NMC), 東京, 2019.8.3
46. 山上圭，元田敦子，山崎博輝，和泉唯信，村山繁雄：脳幹出血により死亡したギラン・バレー症候群の 70 歳男性例．第 97 回 Neuromuscular Conference (NMC), 東京，2019.8.3
47. 水谷真志，阿部弘基，藤井裕之，大町佳永，佐野輝典，向井洋平，西野一三，村山繁雄，佐藤典子，高橋祐二，齊藤祐子：声帯外転麻痺による突然死が疑われた多系統萎縮症の一例．第 97 回 Neuromuscular Conference (NMC), 東京，2019.8.3
48. 渋川茉莉，種井善一，仙石錬平，元田敦子，松原知康，山﨑幹大，河上緒，齊藤祐子，村山繁雄：統合失調症の経過中にパーキンソニズムが出現した 74 歳女性．第 122 回日本神経病理学会関東地方会（関東臨床神経病理懇話会），東京，2019.8.24
49. 赤池瞬，松原知康，佐藤進，村山繁雄，福武敏夫：後頭葉に病変が目立った孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病の剖検時 71 歳女性. 第 122 回日本神経病理学会関東地方会(関東臨床神経病理懇話会), 東京, 2019.8.24
50. 山上圭，元田敦子，山崎博輝，和泉唯信，村山繁雄：脳幹出血により死亡したギラン・バレー症候群の 70 歳男性例．第 122 回日本神経病理学会関東地方会（関東臨床神経病理懇話会），東京，2019.8.24
51. 飯島圭哉，種井善一，澁谷誠，佐藤典子，後藤雄一，岩崎真樹，宮田元，鈴木博義，齊藤祐子：経過 20 年の難治性てんかんを合併した 26 歳男性の左側頭葉腫瘍．第 122 回日本神経病理学会関東地方会（関東臨床神経病理懇話会），東京，2019.8.24
52. 織茂賢太，河合三津保，中嶋秀樹，岩田信恵，種井善一，村山繁雄，村井弘之，後藤　順：亜急性の経過で著明な大脳白質病変の進行と microbleeds の増加を認め、脳生検にて脳アミロイドアンギオパチーを伴う髄膜炎症所見を確認した 76 歳男性例．第 230 回日本神経学会関東・甲信越地方会，東京，2019.9.7
53. 小幡真希，松原知康，種井善一，渋川茉莉，本山りえ，広吉祐子，仙石錬平，仁科裕史，古田光，新井冨生，村山繁雄 : 死後脳研究ドナー登録者の意識－高齢者ブレインバンク生前同意登録者を対象とした質的研究－. 日本心理学会第 83 回大回，大阪，2019.9.11-13
54. 山﨑幹大，仙石錬平，金丸和富，村山繁雄：ロチゴチン貼付で歩行時のふらつきが改善した起立性低血圧を伴うパーキンソン病の 72 歳男性例．第 37 回日本神経治療学会学術集会，横浜，2019.11.5-7
55. 村山繁雄 : (Dementia CPC)非流暢性失語で発症した経過 13 年の 77 歳女性剖検例．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
56. 松原知康 : (Dementia CPC) 覚醒時の歯軋りが著明であった前頭側頭型認知症の 1 例．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
57. 村山繁雄 : 高齢者タウオパチー．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
58. 村山繁雄 : 老化に伴う TDP43 蛋白蓄積症．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
59. 金丸和富，金丸晶子，仁科裕史，仙石錬平，村山繁雄：レビー小体型認知症における CSF Aβ40 及び Aβ42/40 の検討．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
60. 小幡真希，松原知康，種井善一，河上緒，渋川茉莉，本山りえ，広吉祐子，仙石錬平，仁科裕史，古田光，新井冨生，金丸和富，村山繁雄：ブレインバンク生前同意者への質研究～家族性アルツハイマー病患者の語りの一例．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
61. 祖父江顕，小峯起，遠藤史人，村山繁雄，齊藤貴志，西道隆臣，山中宏二 : アルツハイマー病患者と App^{NL-G-F} マウスにおける神経炎症関連遺伝子解析．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
62. Liu Lixin，宮下哲典，村上涼太，Zhu Bin，原範和，菊地正隆，月江珠緒，樋口陽，春日健作，中谷明弘，赤津裕康，柿田明美，村山繁雄，池内健：ヒト死後脳における APP・APOE の遺伝子発現解析．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9

63. 仙石錬平：Primary-age related tauopathy (PART) の剖検確定診断例の臨床像．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
64. 仙石錬平：Aβ，タウ，ApoE の病理学的な役割．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
65. 仙石錬平：認知症早期診断の意義は「ない」の立場から．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
66. 河上緒，新井哲明，新里和弘，大島健一，品川俊一郎，池田学：病理サブタイプ別にみた前頭側頭型認知症の前駆期における臨床症候．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
67. 村山繁雄（特別講演）：成人型核内封入体病の臨床・画像・病理について．最近の知見．第 9 回パーキンソン症候群・認知症の臨床・病理フォーラム，東京，2019.11.20
68. 河上緒，松原知康，元田敦子，山﨑幹大，種井善一，古田光，村山繁雄：意味性認知症の一剖検例．第 47 回臨床神経病理懇話会・第 10 回日本神経病理学会中国四国地方会，岡山，2019.11.23-24
69. 島かさ音，種井善一，村上氷尚，松原知康，村山繁雄，和泉唯信：腎移植 26 年後に呼吸抑制で死亡した延髄病変の一例．第 47 回臨床神経病理懇話会・第 10 回日本神経病理学会中国四国地方会，岡山，2019.11.23-24
70. 松原知康，倉重毅志，久保田暁，西野一三，村山繁雄：遺伝子で確認された oculopharyngodistal myopathy の臨床病理学的研究．第 98 回 Neuromuscular Conference (NMC)，東京，2019. 12.21
71. 徳田翔，内野彰子，長谷川一子，齊藤祐子，村山繁雄：MV2K+C 型孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病の 47 歳男性例．第 123 回日本神経病理学会関東地方会（関東臨床神経病理懇話会），東京，2020.1.11
72. 早川美佳，松原知康，望月葉子，竹内千仙，南谷幹之，今井祐之，村山繁雄：学齢期に発症し 40 代まで経過観察しえた SPG11 の臨床病理．第 123 回日本神経病理学会関東地方会（関東臨床神経病理懇話会），東京，2020.1.11
73. 海永光洋，鵜沼敦，久保田暁，作石かおり，戸田達史，池村雅子，種井善一，松原知康，村山繁雄：Cu/Zn superoxide dismutase (SOD1)遺伝子変異（exon 2,p.His43Arg）を伴う家族性筋萎縮性側索硬化症の，死亡時 53 歳女性の一剖検例．第 123 回日本神経病理学会関東地方会（関東臨床神経病理懇話会），東京，2020.1.11
74. 元田敦子，大矢雅樹，古田光，種井善一，河上緒，村山繁雄：精神症状が目立った早発性アルツハイマー病の 66 歳男性例．第 123 回日本神経病理学会関東地方会（関東臨床神経病理懇話会），東京，2020.1.11
75. 松原知康：筋萎縮性側索硬化症診断の実証的研究．文部科学省科学研究費助成事業　新学術領域研究「学術研究支援基盤形成」コホート・生体試料支援プラットフォーム　令和元年度　若手支援研究成果発表，2020.1.21
76. 種井善一：食道におけるリン酸化αシヌクレインの臨床病理学的解析－高齢者ブレインバンクの最近 10 年間の剖検 518 例の検討．文部科学省科学研究費助成事業　新学術領域研究「学術研究支援基盤形成」コホート・生体試料支援プラットフォーム　令和元年度　若手支援研究成果発表，2020.1.21

高齢者健康増進センター

＜学術集会＞

1. 「運動を行う事が出来ないと判断されたフレイル高齢者」対策としての乾式遠赤外線サウナ（FILTS）の可能性　杉江正光，原田和昌，高橋哲也，奈良毬那，　藤本肇，小山照幸，許俊鋭，井藤英喜（第 61 回日本老年医学会学術集会）
2. 高齢化日本一の中山間地域におけるフレイル実態調査　奈良毬那，杉江正光，高橋哲也，原田和昌，藤本肇，小山照幸，許俊鋭，井藤英喜（第 61 回日本老年医学会学術集会）
3. 第 25 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
   通院高齢者フレイル予防対策トレーニング介入後におけるフレイル改善群と悪化群の特徴 杉江正光，原田和昌，高橋哲也，奈良毬那，　藤本肇，小山照幸，許俊鋭，井藤英喜

＜講演会＞

（演者：杉江正光）

1. 2019 年 4 月 18 日「老年症候群とその対策」一般社団法人日本健康寿命延伸協会主催（板橋区）
2. 2019 年 9 月 3 日「フレイル予防の重要性」千代田区主催
3. 2019 年 9 月 16 日「高齢者の健康増進とフレイル対策に向けた取り組み」東京都健康長寿医療センター渋澤講演会
4. 2019 年 10 月 21 日「フレイルと健康寿命」広島県呉市社会福祉協議会主催
5. 2019 年 12 月 17 日「フレイルって何？～どうしてフレイル予防しないといけないの！？～」日本健康寿命延伸協会主催（板橋区）
6. 2019 年 12 月 22 日「今からでも遅くない!?フレイル予防」大和ハウス工業株式会社主催（練馬区）
7. 2019 年 12 月 2 日「フレイル（サルコペニア・カヘキシア）とは？ その予測に関わる因子とは？」一般社団法人　科学技術と経済の会（千代田区）
8. 2020 年 1 月 27 日「フレイル予防講座 『健康寿命をかなえよう』」埼玉県本庄市主催
9. 2020 年 1 月 28 日「フレイル健診の重要性」群馬県南牧村主催
10. 2020 年 2 月 20 日「生活習慣病の予防に必要なこと」一般社団法人日本健康寿命延伸協会主催（板橋区）
11. 2020 年 2 月 25 日「フレイル予防及びその対策」群馬県南牧村主催
12. 2020 年 2 月 28 日「フレイル予防及び健康寿命延伸を目的とした東京都健康長寿医療センターの取組み」東和薬品主催（大阪府門真市）

（演者：奈良毬那）

1. 2020 年 1 月 20 日　健康寿命延伸に向けた様々な取組みのご紹介と今後の課題　一般社団法人　科学技術と経済の会（千代田区）
2. 2020 年 2 月 28 日「フレイル予防事業の取組み」東和薬品主催（大阪府門真市）

＜論文・雑誌＞

1. 原田和昌，杉江正光：【慢性疾患とサルコペニア】心不全とサルコペニア．医学のあゆみ 2019;271(3):241-245.
2. 奈良毬那、杉江正光、原田和昌、井藤英喜「フレイル予防事業」　理学療法ジャーナル（2019 年 11 月 30 日アクセプト）2020 年 8 月号掲載

＜報告書作成＞

1. 令和元年度 群馬県南牧村フレイル予防事業
2. 令和元年度 東京都千代田区フレイル予防講座事業

＜単行本＞

専門家が教える超入門フレイル予防講座『健康寿命をかなえよう』監修　原田和昌　企画・編著　杉江正光　（発行）　一般社団法人　日本健康寿命延伸協会

＜取材・その他＞

1. NHK　2019 年 8 月 5 日
2. 朝日新聞　2020 年 1 月 16 日
3. アジア健康長寿イノベーション賞　国内優秀事例
4. 健康寿命の評価方法（特許第 6181690 号）
5. 運動可否判定プログラム、運動可否判定システム及び運動可否判定方法（特願 2020-078830）

病院部門課題研究費で行われた研究

指定研究　重点医療(血管病、高齢者がん、認知症)に関する研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
所属	氏名		
循環器内科	石川　譲治	鳥羽　梓弓・田村　嘉章 原田　和昌・荒木　厚	フレイル患者の至適血圧レベルに関する研究
糖尿病・代謝・内分泌内科	田村　嘉章	荒木　厚・豊島　堅志・小寺　玲美 千葉　優子・大庭　和人 石川　譲治	血糖変動性の指標であるグルコアルブミン/HbA1c(GA/HbA1c比)がフレイル状態の変化に与える影響に関する縦断研究
血管外科	赤木　大輔	根元　洋光	下肢閉塞性動脈疾患に対する血管内治療における「健常」な血管を定義するための基礎的検討
腎臓内科	武井　卓	板橋　美津世・相田　順子 新井　冨生・石渡　俊行	腎組織におけるテロメア依存性細胞老化の検討
循環器内科	青山　里恵	原田　和昌・石川　譲治 武田　和大・藤本　肇	肥大型閉塞性心筋症及び大動脈狭窄症に対する4D flow MRIを用いた経皮的中隔心筋焼灼術及び大動脈弁置換術前後の血流解析
精神科	扇澤　史子	古田　光・白取　絹江・筒井　卓実 大矢　雅樹・岡本　一枝・畠山　啓 伊佐治　千明・野村　絵里香 今村　陽子・齋藤　久美子 栗田　主一	DASC-21を用いた認知症重症度別の認知機能と生活機能の特徴：HDS-R、MMSE、DASC-21の下位項目の得点分布の比較より
血液内科/輸血・細胞療法科	小林　寿美子	宮腰　重三郎・齋藤　輔郎 小倉　和外	70歳以上の高齢者血縁ハプロ移植における安全性の検証と成績向上の前処置の開発
眼科	池上　靖子	植　沙織・佐野　友弘	光干渉断層計（OCT）、光干渉網膜血管撮影（OCTA）による糖尿病患者の網膜血管脈略血管解析および前房フレア値との関連

指定研究　高齢者急性期医療の提供に関する研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
所属	氏名		
呼吸器内科	石橋　昌幸	山本　寛・山田　浩和 佐塚　まなみ・野木森　智江美	内科全体で診療する肺炎患者の予後解析

指定研究　地域連携の推進に関する研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
所属	氏名		
リハビリテーション科	桑田　直弥	菅原　康宏・牧田　彩加 岩本　美由紀・平岡　共 河地　由恵・加藤　貴行 金丸　晶子	認知症リハビリテーション・プリント教材『わくわくホームワーク』(平成29年3月刊)の手引書作成と地域リハビリテーション等での活用に向けて
麻酔科	廣瀬　佳代		IoTハンドルを握り、運転することによるバイタルデータ測定

指定研究　安心かつ信頼できる質の高い医療に関する研究

所属		共同研究者	研究課題名
課（科）	氏名		
糖尿病・代謝・内分泌内科	千葉　優子	原口　正敏・今野　真希・寺澤　泉 笹原　みさと・小原　朋也 佐藤　麻美子・高岡　祐子 片岡　祐佳理・荒木　厚	多職種の転倒予防チームの多面的アプローチによる入院中の転倒予防の研究―パイロット研究
歯科口腔外科	森　美由紀	平野　浩彦	当院における抗擬固療法患者の抜歯後出血における検討

萌芽的研究　独創的な発想に基づく挑戦的で高い目標設定を掲げた芽生え期の研究

所属		共同研究者	研究課題名
課（科）	氏名		
薬剤科	鷲足　ひろみ	金澤　伸郎・上垣　佐登子 山本寛・吉岡　まみ・田中　達郎 甲斐田　浩輔	デジタルカメラ画像を用いたがん療法後の皮膚障害の重症度評価に関する研究
皮膚科	種井　良二	長谷川　康子	高齢者アトピー性皮膚炎の臨床的・病理組織学的研究

Ⅲ　統　　計

外来診療の状況

平成31年4月1日～令和2年3月31日

1．診療科別外来患者数

（単位：人）

区分＼診療科	総合診療科（内科）	感染症内科	腎臓内科	糖尿病内科・代謝分泌内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	脳卒中内科・神経内科	血液内科	化学療法科	緩和ケア内科	膠原病リウマチ科・原病	精神科	物忘れ外来	外科	血管外科	心臓外科	脳神経外科	呼吸器外科	整形外科	脊椎外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	麻酔科	歯科口腔外科	リハビリテーション科	骨粗鬆症外来	フレイル外来	放射線診療科	救急科	合計
外来患者数	2,749	549	8,379	16,124	31,702	10,013	12,391	13,718	4,297	2,389	755	7,638	6,284	2,353	7,776	3,237	1,490	3,441	1,074	11,226	3,913	9,135	14,325	17,010	8,129	1,820	12,653	3,479	3,210	574	2,407	5,958	230,199
延診療日数	240	92	240	240	240	240	240	240	203	240	240	240	236	240	240	123	148	211	166	229	42	190	215	240	231	140	240	238	148	240	240	366	290
1日平均数	11.5	6.0	34.9	67.2	132.1	41.7	51.6	57.2	21.2	10.0	3.1	31.8	26.6	9.8	32.4	26.3	10.1	16.3	6.5	49.0	93.2	48.1	66.6	70.9	35.2	13.0	52.7	14.6	21.7	2.4	10.0	16.3	793.8

※「フレイル外来」としては平成27年10月より計上している。

※「婦人科」は平成26年4月1日より取り下げ

2．診療科・初診・再診別外来患者数

（単位：人）

区分＼診療科		総合診療科（内科）	感染症内科	腎臓内科	糖尿病内科・代謝分泌内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	脳卒中内科・神経内科	血液内科	化学療法科	緩和ケア内科	膠原病リウマチ科・原病	精神科	物忘れ外来	外科	血管外科	心臓外科	脳神経外科	呼吸器外科	整形外科	脊椎外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	麻酔科	歯科口腔外科	リハビリテーション科	骨粗鬆症外来	フレイル外来	放射線診療科	救急科	合計	比率（%）
外来患者数	初診	575	47	160	283	869	156	760	685	142	41	213	182	291	728	507	285	42	307	66	1,024	129	351	453	1,310	580	37	2,488	89	77	5	318	2,961	16,162	7.0
	再診	2,174	502	8,219	15,841	30,833	9,857	11,631	13,033	4,155	2,348	542	7,456	5,993	1,625	7,269	2,952	1,448	3,134	1,008	10,202	3,784	8,784	13,872	15,700	7,549	1,783	10,165	3,390	3,133	569	2,089	2,997	214,037	93.0
	合計	2,749	549	8,379	16,124	31,702	10,013	12,391	13,718	4,297	2,389	755	7,638	6,284	2,353	7,776	3,237	1,490	3,441	1,074	11,226	3,913	9,135	14,325	17,010	8,129	1,820	12,653	3,479	3,210	574	2,407	5,958	230,199	100.0

年度別外来患者数の推移

（単位：人）

年度	合計	初診再掲	1日当り
18年度	215,821	14,416	734
19年度	211,005	13,757	718
20年度	197,483	13,041	674
21年度	196,672	11,950	671
22年度	200,359	12,135	681
23年度	206,835	13,405	701
24年度	208,334	13,456	711
25年度	201,059	14,193	703
26年度	220,759	14,781	753
27年度	235,697	15,966	801
28年度	238,896	15,298	815
29年度	238,600	15,907	814
30年度	235,248	16,029	808
令和元年度	230,199	16,162	794

３．外来初診予約時の状況

平成31年4月1日～令和2年3月31日

（１）年齢別新規予約患者数

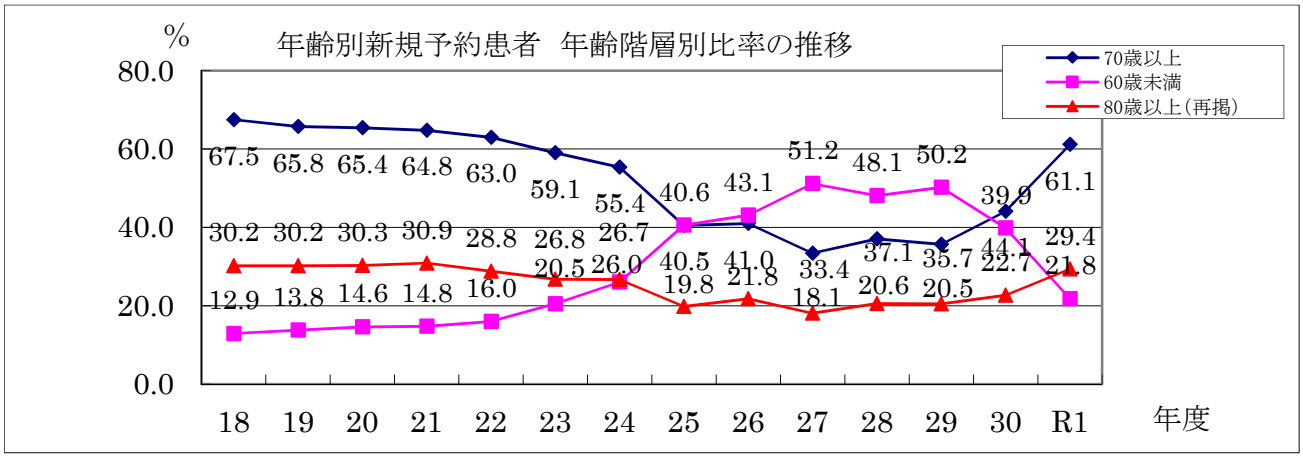
（単位：人）

区分 / 年齢階層	男	女	計
90歳以上	141	222	363
85～89歳	279	468	747
80～84歳	483	695	1,178
75～79歳	503	776	1,279
70～74歳	501	698	1,199
65～69歳	373	444	817
60～64歳	242	272	514
55～59歳	163	219	382
50～54歳	134	158	292
45～49歳	120	121	241
40～44歳	91	99	190
40歳未満	301	291	592
計	3,331	4,463	7,794

（２）年齢別新規予約患者数の年度別推移

（上段：人、下段：比率%）

年度	60歳未満	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
18年度	954	1,455	2,763	2,238	7,410
	12.9%	19.6%	37.3%	30.2%	100.0%
19年度	978	1,441	2,512	2,134	7,065
	13.8%	20.4%	35.6%	30.2%	100.0%
20年度	935	1,281	2,256	1,943	6,415
	14.6%	20.0%	35.2%	30.3%	100.0%
21年度	894	1,229	2,045	1,863	6,031
	14.8%	20.4%	33.9%	30.9%	100.0%
22年度	991	1,299	2,110	1,776	6,176
	16.0%	21.0%	34.2%	28.8%	100.0%
23年度	1,552	1,536	2,443	2,022	7,553
	20.5%	20.3%	32.3%	26.8%	100.0%
24年度	2,233	1,590	2,463	2,294	8,580
	26.0%	18.5%	28.7%	26.7%	100.0%
25年度	2,147	996	1,096	1,047	5,286
	40.6%	18.8%	20.7%	19.8%	100.0%
26年度	1,852	683	827	937	4,299
	43.1%	15.9%	19.2%	21.8%	100.0%
27年度	2,498	752	746	883	4,879
	51.2%	15.4%	15.3%	18.1%	100.0%
28年度	1,845	568	631	790	3,834
	48.1%	14.8%	16.5%	20.6%	100.0%
29年度	2,082	584	628	851	4,145
	50.2%	14.1%	15.2%	20.5%	100.0%
30年度	1,924	774	1,034	1,095	4,827
	39.9%	16.0%	21.4%	22.7%	100.0%
令和元年度	1,697	1,331	2,478	2,288	7,794
	21.8%	17.1%	31.8%	29.4%	100.0%



（３）新規予約患者の地域別患者数

平成31年4月1日～令和2年3月31日
（単位：人）

(1) 区部

区　名	一般
千代田	5
中央	7
港	9
新宿	44
文京	68
台東	10
墨田	11
江東	17
品川	11
目黒	16
大田	16
世田谷	36
渋谷	12
中野	34
杉並	26
豊島	845
北	436
荒川	19
板橋	4,243
練馬	838
足立	48
葛飾	19
江戸川	13
区部計	6,783

(2) 市・郡・島しょ部

市　名	一般
八王子	7
立川	1
武蔵野	6
三鷹	9
青梅	2
府中	3
昭島	0
調布	3
町田	9
小金井	6
小平	6
日野	4
東村山	10
国分寺	1
国立	0
福生	0
狛江	1
東大和	1
清瀬	7
東久留米	15
武蔵村山	0
多摩	1
稲城	0
羽村	1
あきる野	0
西東京	21
市部計	114
郡部	0
島しょ部	4
市・郡・島しょ部	118

(3) 他県

埼玉	627
神奈川	73
千葉	58
その他	135
他県計	893

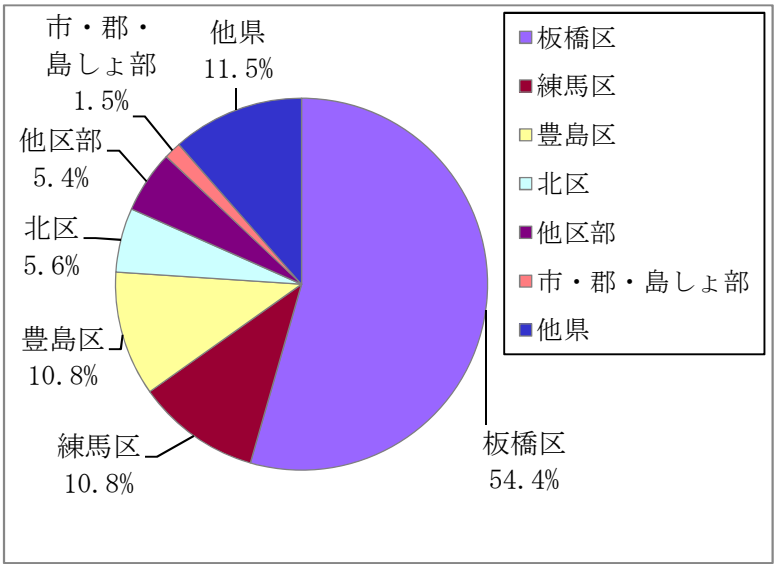
総計 (1)+(2)+(3)	7,794

平成31年4月1日～令和2年3月31日

新規予約患者の地域別患者数

（単位・比率：%、人数：人）

地域	比率	人数
板橋区	54.4	4,243
練馬区	10.8	838
豊島区	10.8	845
北区	5.6	436
他区部	5.4	421
市・郡・島しょ部	1.5	118
他県	11.5	893
合計	100.0	7,794



（４）新規予約患者の平均年齢

平成31年4月1日～令和2年3月31日
（単位：歳）

男	女	全　体
67.9	70.3	69.3

４．救急患者取扱状況

平成31年4月1日～令和2年3月31日　（単位：人）

			総数	うち入院
全体	時間内	救急車	1,466	771
		その他	2,652	1,332
		小計	4,118	2,103
	時間外	救急車	2,677	1,396
		その他	2,872	839
		小計	5,549	2,235
	計		9,667	4,338
休日（再掲）	時間内	救急車	304	177
		その他	636	123
		小計	940	300
	時間外	救急車	427	210
		その他	462	102
		小計	889	312
	計		1,829	612

救急患者数の推移

（単位：人）

年度			18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
総数			8,672	8,174	7,802	7,305	6,607	7,365	8,012	7,974	9,200	10,102	9,860	10,218	9,782	9,667
再掲	入院		4,373 (50.4)	4,031 (49.3)	3,872 (49.6)	3,444 (47.1)	3,105 (47.0)	3,587 (48.7)	3,799 (47.4)	3,507 (44.0)	4,293 (46.7)	4,709 (46.6)	4,492 (45.6)	4,697 (46.0)	4,558 (46.6)	4,338 (44.9)
	救急車		3,534 (40.8)	3,357 (41.1)	3,258 (41.8)	2,906 (39.8)	2,618 (39.6)	2,971 (40.3)	3,447 (43.0)	3,434 (43.1)	3,986 (43.3)	4,371 (43.3)	4,399 (44.6)	4,497 (44.0)	4,247 (43.4)	4,143 (42.9)
	時間外		4,473 (51.6)	4,388 (53.7)	4,203 (53.9)	3,754 (51.4)	3,388 (51.3)	3,657 (49.7)	4,333 (54.1)	4,521 (56.7)	5,560 (60.4)	5,990 (59.3)	5,744 (58.3)	6,021 (58.9)	5,193 (53.1)	5,549 (57.4)
	休日	時間内	878	858	733	616	595	647	786	833	924	915	902	971	934	940
		時間外	632	676	628	641	470	564	720	712	985	943	990	973	928	889
		計	1,510 (17.4)	1,534 (18.8)	1,361 (17.4)	1,257 (17.2)	1,065 (16.1)	1,211 (16.4)	1,506 (18.8)	1,545 (19.4)	1,909 (20.8)	1,858 (18.4)	1,892 (19.2)	1,944 (19.0)	1,862 (19.0)	1,829 (18.9)

※（　　）は年度内の比率(%)である。

入院退院の状況

５．病床利用状況

平成31年4月1日～令和2年3月31日

診療科＼項目	実稼動病床数	延利用数	病床利用率	入院者数	退院者数	死亡（再掲）	診療科移動		（再掲）緊急入院
							転入	転出	
	床	人	%	人	人	人	人	人	人
総合診療科	11	4,723	160.8%	83	208	13	160	36	187
感染症内科		1,749		15	72	3	61	2	68
腎臓内科	25	5,645	71.2%	168	282	16	135	34	178
糖尿病・代謝・内分泌内科	41	13,860	92.4%	289	751	19	506	44	565
循環器内科	64	21,929	93.6%	1,207	1,476	75	342	80	878
呼吸器内科	24	7,288	83.0%	282	395	32	143	28	217
消化器内科	43	14,812	87.3%	1,324	1,694	45	411	42	566
神経内科・脳卒中科	40	14,716	100.5%	488	703	15	254	44	450
血液内科	26	7,670	80.6%	233	265	21	38	2	72
化学療法科	10	3,083	84.2%	120	135	11	17	3	38
緩和ケア内科	20	6,214	84.9%	190	275	172	60	7	31
在宅医療連携病床	4	1,226	83.7%	50	72	2	30	3	16
膠原病・リウマチ科	8	2,079	71.0%	95	110	0	23	5	32
精神科	30	8,389	76.4%	264	278	3	16	6	38
外科・血管外科	43	12,930	82.2%	1,231	1,301	18	160	91	324
心臓外科	10	3,012	119.0%	75	94	14	31	15	32
呼吸器外科		1,344		84	83	1	11	10	10
脳神経外科	14	4,914	95.9%	247	272	16	39	23	190
整形外科・脊椎外科	62	14,912	65.7%	599	617	1	36	26	205
皮膚科	8	3,087	105.4%	135	128	1	7	10	43
泌尿器科	14	3,528	68.9%	349	371	7	29	7	69
眼科	16	5,285	90.2%	2,576	2,570	0	1	0	19
耳鼻咽喉科	4	810	55.3%	115	121	0	5	1	38
歯科口腔外科	2	345	47.1%	77	76	0	1	1	9
リハビリテーション科	13	1,122	23.6%	31	49	1	20	7	18
救急科	4	2,348	160.4%	2,143	36	14	10	2,019	45
放射線診療科	－	－	－	－	－	－	－	－	－
SCU	6	（再掲）1,880	－	（再掲）311	（再掲）13	（再掲）5	（再掲）58	（再掲）355	－
ICU	8	（再掲）1,776	－	（再掲）180	（再掲）42	（再掲）40	（再掲）438	（再掲）576	－
計	550	167,020	83.0%	12,470	12,434	500	2,546	2,546	4,338

※科別病床利用率は年度内における病床数変更を勘案して計算している。

６．病床利用率

算定病床	実稼動病床	550
A　延病床数	（実稼働病床×366日）	201,300
B　延入院患者数		167,020
B/A　病床利用率		83.0%

〔病床回転率〕

$$\frac{366日}{平均在院日数} = \frac{366}{12.4} = 29.5 \text{ 回}$$

〔病床利用率の推移〕

年度	延入院患者数	病床利用率 %	
		予算定床	実稼動病床
18年度	207,477	88.0	85.9
19年度	211,153	89.3	87.2
20年度	198,613	86.4	85.0
21年度	184,179	－	88.7
22年度	182,937	－	88.2
23年度	178,414	－	85.7
24年度	175,572	－	84.5
25年度	160,888	－	79.7
26年度	162,276	－	80.8
27年度	173,510	－	86.2
28年度	175,503	－	87.4
29年度	172,483	－	85.9
30年度	175,011	－	87.2
令和元年度	167,020	－	83.0

７．月別入退院状況

平成31年4月1日～令和2年3月31日　　（単位：人）

区分＼月別	入院	退院			月末在籍患者数	延入院患者数
		一般		計		
		退院	死亡			
4月	996	967	43	1,010	337	12,979
5月	1,003	906	44	950	390	13,104
6月	1,000	966	38	1,004	386	13,249
7月	1,096	985	31	1,016	466	14,530
8月	1,058	1,071	42	1,113	411	15,245
9月	977	943	31	974	414	13,371
10月	1,064	1,023	44	1,067	411	14,138
11月	1,034	1,015	46	1,061	384	13,792
12月	1,033	1,048	43	1,091	326	14,251
1月	1,152	956	54	1,010	468	14,388
2月	1,011	1,041	45	1,086	393	14,252
3月	1,046	1,013	39	1,052	387	13,721
計	12,470	11,934	500	12,434	－	167,020
比率（%）	－	96.0	4.0	100.0	－	－

入退院患者数の年度別推移

（単位：人）

年度	入院	退院		
		生存退院	死亡	計
18年度	10,648	10,193	507	10,700
19年度	9,978	9,507	447	9,954
20年度	9,346	8,916	470	9,386
21年度	8,816	8,916	405	9,321
22年度	9,013	8,609	414	9,023
23年度	9,150	8,760	414	9,174
24年度	9,494	9,098	396	9,494
25年度	9,569	9,145	447	9,592
26年度	11,576	11,112	456	11,568
27年度	13,053	12,512	517	13,029
28年度	13,179	12,642	539	13,181
29年度	13,135	12,680	566	13,246
30年度	12,605	12,105	534	12,639
令和元年度	12,470	11,934	500	12,434

８．平均在院日数

平成31年4月1日～令和2年3月31日

※平均在院日数＝24時在院患者延数/((新入院患者数+退院患者数)/2)(単位：日)

年　度	一般病棟	精神病棟	眼科(再掲)	リハビリ(再掲)	病院全体
18年度	17.9	36.6	3.2	44.9	18.4
19年度	19.5	48.0	3.3	45.6	20.2
20年度	19.7	43.5	2.8	49.2	20.2
21年度	19.2	51.7	2.1	46.8	19.9
22年度	18.7	41.6	2.0	51.1	19.3
23年度	17.9	38.6	1.8	42.5	18.5
24年度	17.0	36.5	1.8	48.0	17.5
25年度	15.1	32.7	1.7	48.4	15.8
26年度	12.3	31.6	0.9	37.5	13.0
27年度	11.7	30.6	0.9	29.8	12.3
28年度	11.4	32.0	1.0	24.9	12.3
29年度	10.9	34.5	1.0	17.8	12.1
30年度	11.7	32.3	1.0	26.7	12.9
令和元年度	11.2	29.9	1.1	26.8	12.4

※令和元年度の施設基準平均在院日数は***14.0日***　である。　　（平成23年度より7対１の施設基準日数）

９．入院患者の年齢別内訳

平成31年4月1日～令和2年3月31日　（単位：人）

区分 / 年齢階層	男	女	計
90歳以上	492	948	1,440
85～89	855	1,261	2,116
80～84	1,173	1,471	2,644
75～79	1,288	1,189	2,477
70～74	930	822	1,752
65～69	459	372	831
60～64	222	165	387
55～59	194	144	338
50～54	112	60	172
50歳未満	178	135	313
計	5,903	6,567	12,470

入院患者の年齢別内訳年度別推移

（単位：上段・人、下段・%）

年 度	60歳未満	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
24年度	305	1,145	3,178	4,860	9,488
	3.2	12.1	33.5	51.2	100.0
25年度	356	1,177	3,326	4,693	9,552
	3.7	12.3	34.8	49.1	100.0
26年度	501	1,308	4,117	5,650	11,576
	4.3	11.3	35.6	48.8	100.0
27年度	669	1,538	4,428	6,418	13,053
	5.1	11.8	33.9	49.2	100.0
28年度	723	1,755	4,163	6,538	13,179
	5.5	13.3	31.6	49.6	100.0
29年度	767	1,621	4,297	6,450	13,135
	5.8	12.3	32.7	49.1	100.0
30年度	716	1,494	4,062	6,333	12,605
	5.7	11.9	32.2	50.2	100.0
令和元年度	823	1,218	4,229	6,200	12,470
	6.6	9.8	33.9	49.7	100.0

10．入院患者平均年齢（入院時）

平成31年4月1日～令和2年3月31日

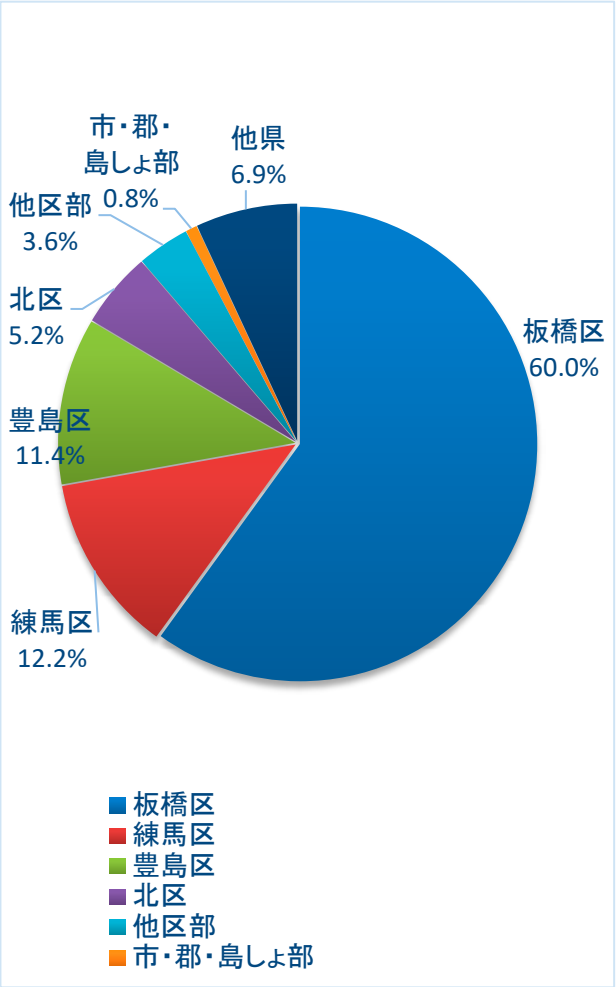
（単位：歳）

男	女	計
76.3	79.4	77.9

11. 地域別入院患者数

平成31年4月1日～令和2年3月31日
（単位・比率：%、人数：人）

地域	比率	人数
板橋区	60.0	7,480
練馬区	12.2	1,522
豊島区	11.4	1,416
北区	5.2	645
他区部	3.6	445
市・郡・島しょ部	0.8	97
他県	6.9	865
合計	100.0	12,470



(1) 区部

区名	一般
千代田	2
中央	3
港	0
新宿	44
文京	107
台東	10
墨田	3
江東	19
品川	6
目黒	3
大田	10
世田谷	31
渋谷	9
中野	52
杉並	26
豊島	1,416
北	645
荒川	19
板橋	7,480
練馬	1,522
足立	74
葛飾	19
江戸川	8
区部計	11,508

(2) 市・郡・島しょ部

市名	一般
八王子	0
立川	2
武蔵野	15
三鷹	5
青梅	0
府中	0
昭島	2
調布	0
町田	6
小金井	0
小平	10
日野	9
東村山	6
国分寺	3
国立	0
福生	0
狛江	0
東大和	0
清瀬	2
東久留米	19
武蔵村山	0
多摩	0
稲城	0
羽村	0
あきる野	1
西東京	9
市部計	89
郡部	0
島しょ部	8
市・郡・島しょ部	97

(3) 他県

埼玉	687
神奈川	33
千葉	54
その他	91
他県計	865

総計(1)+(2)+(3)	12,470

12. 退院者の在院期間

平成31年4月1日～令和2年3月31日　（単位：人）

	内科系	リハビリ	外科系			歯科口腔外科	救急科	計	比率(%)
			一般外科	眼科	外科計				
30日以下	6,002	42	2,721	2,570	5,291	75	37	11,447	92.1%
31日以上～60日以下	587	6	203	0	203	0	0	796	6.4%
61日以上～90日以下	97	0	37	0	37	1	0	135	1.1%
91日以上～180日以下	27	0	25	0	25	0	0	52	0.4%
181日以上～365日以下	2	1	1	0	1	0	0	4	0.0%
366日以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
合　　計	6,715	49	2,987	2,570	5,557	76	37	12,434	100.0%
比　率　(%)	54.0%	0.4%	24.0%	20.7%	44.7%	0.6%	0.3%	100.0%	－

退院者の在院期間年度別推移

（上段：人・下段：割合）

年　度	30日以下	31～60日	61日以上	計
18年度	8,502	1,578	620	10,700
	79.5%	14.7%	5.8%	100.0%
19年度	7,641	1,670	643	9,954
	76.8%	16.8%	6.5%	100.0%
20年度	7,164	1,723	696	9,583
	74.8%	18.0%	7.3%	100.0%
21年度	6,732	1,442	581	8,755
	76.9%	16.5%	6.6%	100.0%
22年度	7,035	1,361	566	8,962
	76.9%	16.5%	6.6%	100.0%
23年度	7,271	1,373	530	9,174
	78.5%	15.2%	6.3%	100.0%
24年度	7,619	1,419	454	9,492
	80.3%	14.9%	4.8%	100.0%
25年度	7,931	1,242	414	9,587
	82.7%	13.0%	4.3%	100.0%
26年度	10,068	1,241	259	11,568
	87.0%	10.7%	2.2%	100.0%
27年度	11,439	1,336	254	13,029
	87.8%	10.3%	1.9%	100.0%
28年度	11,540	1,362	279	13,181
	87.6%	10.3%	2.1%	100.0%
29年度	11,569	1,362	259	13,190
	87.7%	10.3%	2.0%	100.0%
30年度	10,977	1,352	336	12,665
	86.7%	10.7%	2.7%	100.0%
令和元年度	11,447	796	191	12,434
	92.1%	6.4%	1.5%	100.0%

入院患者の死亡状況

13. 死亡者内訳及び剖検数

平成31年4月1日～令和2年3月31日（単位：人）

項目 / 月	一般患者		救急外来患者		計		他病院からの受入件数
	死亡者数	うち剖検数	死亡者数	うち剖検数	死亡者数	うち剖検数	剖検数
4　月	43	4	2	0	45	4	0
5　月	44	6	3	0	47	6	1
6　月	38	1	3	0	41	1	1
7　月	31	3	3	0	34	3	1
8　月	42	5	2	0	44	5	0
9　月	31	6	2	0	33	6	1
10　月	44	4	0	0	44	4	0
11　月	46	4	5	0	51	4	0
12　月	43	2	7	0	50	2	1
1　月	54	5	1	0	55	5	2
2　月	45	7	4	1	49	8	1
3　月	39	4	3	0	42	4	0
合計	500	51	35	1	535	52	8
剖検率	10.2%		2.9%		9.7%		

死亡者、死亡率の年度別推移

年　度	退院患者数（人）	死亡退院患者数（人）	合計	死亡率（%）
21年度	8,425	405	8,830	4.6%
22年度	9,023	407	9,430	4.3%
23年度	8,760	414	9,174	4.5%
24年度	9,098	396	9,494	4.2%
25年度	9,145	447	9,592	4.7%
26年度	11,112	456	11,568	3.9%
27年度	12,512	517	13,029	4.0%
28年度	12,642	539	13,181	4.1%
29年度	12,625	565	13,190	4.3%
30年度	12,105	534	12,639	4.2%
令和元年度	11,934	500	12,434	4.0%

$$\text{死亡率} = \frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{退院患者合計数（死亡退院も含む）}} \times 100$$

14. 年齢別死亡者数

平成31年4月1日～令和2年3月31日　（単位：人）

区分 / 年齢階層	計	比率
60歳未満	25	5.0%
60～64	13	2.6%
65～69	30	6.0%
70～74	54	10.8%
75～79	73	14.6%
80～84	82	16.4%
85～89	108	21.6%
90歳以上	115	23.0%
計	500	100.0%
平均年齢	81.1	―

年齢別死亡者数の推移

（単位：人）

年度	60歳未満		60～69歳		70～79歳		80歳以上		計	
18年度	4	0.8%	29	5.6%	169	32.5%	318	61.2%	520	100.0%
19年度	5	1.1%	32	6.7%	122	25.7%	288	60.6%	447	100.0%
20年度	7	1.5%	35	7.4%	133	28.0%	300	63.2%	475	100.0%
21年度	1	0.2%	27	6.5%	122	29.4%	265	63.9%	415	100.0%
22年度	9	2.2%	29	6.9%	105	25.1%	275	65.8%	418	100.0%
23年度	10	2.4%	29	7.0%	99	23.9%	276	66.7%	414	100.0%
24年度	14	3.6%	24	6.1%	95	24.2%	260	66.2%	393	100.0%
25年度	17	3.8%	45	10.0%	104	23.2%	282	62.9%	448	100.0%
26年度	20	4.4%	45	9.9%	115	25.2%	276	60.5%	456	100.0%
27年度	24	4.6%	51	9.9%	136	26.3%	306	59.2%	517	100.0%
28年度	30	5.6%	65	12.1%	110	20.4%	334	62.0%	539	100.0%
29年度	26	4.6%	51	9.0%	144	25.5%	344	60.9%	565	100.0%
30年度	15	2.8%	74	13.9%	135	25.3%	310	58.1%	534	100.0%
令和元年度	25	5.0%	43	8.6%	127	25.4%	305	61.0%	500	100.0%

死亡者の平均年齢の推移

（単位：歳）

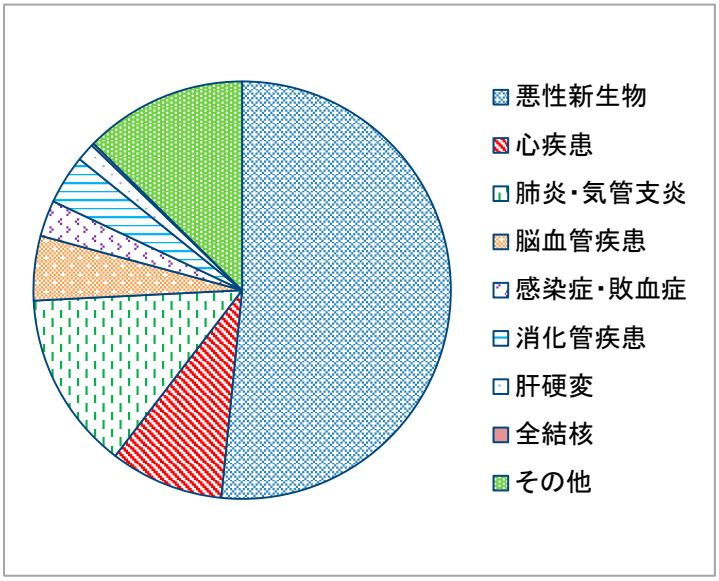
年度	計
18年度	81.4
19年度	82.0
20年度	82.0
21年度	82.3
22年度	81.6
23年度	82.3
24年度	82.0
25年度	80.6
26年度	80.4
27年度	80.3
28年度	79.8
29年度	80.5
30年度	80.5
令和元年度	81.1

15. 死亡原因別死亡者数

（単位：人）

死因	死亡者数	比率（%）
悪性新生物	258	51.6
心疾患	44	8.8
肺炎・気管支炎	69	13.8
脳血管疾患	25	5.0
感染症・敗血症	14	2.8
消化管疾患	19	3.8
肝硬変	7	1.4
全結核	1	0.2
その他	63	12.6
計	500	100.0

平成31年4月1日～令和2年3月31日



死亡原因比率の年度別推移

（単位：%）

年度／死亡原因	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
悪性新生物	39.2	38.4	37.6	30.4	39.4	27.1	30.8	44.3	44.9	50.7	54.7	57.3	57.1	51.6
肺炎・気管支炎	20.1	19.2	22.2	11.6	7.9	7.7	6.8	7.1	7.2	11.8	7.6	3.9	7.9	13.8
心疾患	8.9	9.9	9.7	10.9	10.3	10.1	12.4	8.2	9.1	9.7	6.5	7.1	8.1	8.8
脳血管疾患	10.4	9.6	5.7	8.8	7.0	7.2	7.3	4.7	4.8	1.9	4.1	4.6	2.6	5
計	78.6	77.1	75.2	61.7	64.6	52.1	57.3	64.3	66	74.1	72.9	72.9	75.7	79.2

16. 死亡者の入院期間

（単位：人）

期間	計	比率
1日	10	2.0%
2日～7日	107	21.4%
8日～1ヶ月	246	49.2%
～3ヶ月	124	24.8%
～6ヶ月	12	2.4%
～1年	1	0.2%
～3年	0	0.0%
3年以上	0	0.0%
計	500	100.0%
平均在院期間	25.2	－

部署別業務状況

17. 手術件数（単位　人）

令和元年４月１日～令和2年３月31日

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
手術件数	外科	38	40	41	29	29	30	50	44	43	31	39	43	457
	血管外科	24	24	25	37	25	36	44	46	39	40	46	54	440
	脳神経外科	15	14	11	15	17	15	13	13	13	10	5	11	152
	整形外科	21	32	33	35	31	34	28	28	29	25	31	36	363
	脊椎外科	14	10	7	14	13	11	5	8	6	7	12	8	115
	泌尿器科	16	19	26	25	22	18	28	34	20	27	29	31	295
	眼科	192	213	227	242	203	183	224	223	186	223	222	247	2585
	耳鼻咽喉科	11	7	9	6	6	7	5	7	8	6	4	0	76
	精神科	12	16	14	21	20	21	31	11	26	41	43	38	294
	麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	4
	循環器内科	15	13	9	15	13	4	11	3	15	12	7	10	127
	皮膚科	5	0	0	2	3	2	3	4	4	3	2	5	33
	心臓外科	10	8	9	11	5	6	12	6	5	10	7	6	95
	呼吸器外科	6	8	4	5	9	3	16	7	9	11	9	5	92
	歯科口腔外科	2	0	0	1	1	0	1	1	2	1	1	1	11
	消化器内科	1	2	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	7
	神経内科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	4
	血液内科	0	2	0	1	1	1	2	1	0	1	0	1	10
	腎臓内科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	リハビリ	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	計	382	409	416	460	398	371	474	440	405	451	459	498	5163

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
緊急手術件数	外科	4	7	5	2	2	2	9	9	7	2	4	8	61
	血管外科	0	1	3	3	3	0	1	1	2	3	5	2	24
	脳神経外科	7	0	1	4	6	4	4	5	5	1	1	4	42
	整形外科	0	1	2	1	1	1	1	0	0	4	1	1	13
	脊椎外科	3	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	7
	泌尿器科	0	0	2	4	2	0	1	1	2	2	2	1	17
	眼科	2	0	4	2	3	1	0	0	3	3	2	3	23
	耳鼻咽喉科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	4
	循環器内科	5	3	3	0	4	1	3	0	1	1	0	3	24
	皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	心臓外科	0	1	2	3	2	0	5	1	2	5	3	3	27
	呼吸器外科	0	1	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	5
	歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	消化器内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血液内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腎臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	リハビリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	21	14	23	20	26	10	25	18	24	24	18	25	248

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
麻酔科関与・非関与別手術件数	外科	関与	28	32	33	22	28	23	42	33	35	25	29	35	365
		非関与	10	8	8	7	1	7	8	11	8	6	10	8	92
		合計	38	40	41	29	29	30	50	44	43	31	39	43	457
	脳神経外科	関与	7	4	8	9	7	6	2	7	3	3	2	4	62
		非関与	8	10	3	6	10	9	11	7	10	7	3	7	91
		合計	15	14	11	15	17	15	13	14	13	10	5	11	153
	整形外科	関与	17	27	29	28	25	28	26	26	27	22	25	28	308
		非関与	4	5	4	7	6	6	2	2	2	3	6	8	55
		合計	21	32	33	35	31	34	28	28	29	25	31	36	363
	泌尿器科	関与	13	13	17	17	18	11	21	19	15	19	17	22	202
		非関与	3	6	9	8	4	7	5	12	5	8	10	9	86
		合計	16	19	26	25	22	18	26	31	20	27	27	31	288
	眼科	関与	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	3
		非関与	192	213	227	241	203	183	223	223	185	223	222	247	2582
		合計	192	213	227	242	203	183	224	223	186	223	222	247	2585
	耳鼻咽喉科	関与	8	6	7	5	6	6	4	7	7	4	2	0	62
		非関与	3	1	2	1	0	1	1	0	1	2	2	0	14
		合計	11	7	9	6	6	7	5	7	8	6	4	0	76
	麻酔科	関与	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	4
		非関与	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	4
	循環器内科	関与	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		非関与	15	13	9	15	13	4	11	3	15	12	7	10	127
		合計	15	13	9	15	13	4	11	3	15	12	7	10	127
	心臓外科	関与	10	7	9	11	5	5	11	6	5	9	7	6	91
		非関与	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	4
		合計	10	8	9	11	5	6	12	6	5	10	7	6	95
	呼吸器外科	関与	5	8	4	5	9	3	16	7	9	11	9	5	91
		非関与	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		合計	6	8	4	5	9	3	16	7	9	11	9	5	92
	その他	関与	29	31	23	43	40	34	45	23	35	56	64	54	477
		非関与	29	24	24	34	23	37	42	49	42	37	42	55	438
		合計	58	55	47	77	63	71	87	72	77	93	106	109	915
	計	関与	117	128	130	141	138	116	168	129	137	152	155	154	1665
		非関与	265	281	286	319	260	255	304	307	268	299	302	344	3490
		合計	382	409	416	460	398	371	472	436	405	451	457	498	5155

18. 疾病別手術件数

外　科　　2019年4月～2020年3月

部位		術式	件数
乳腺	悪性	乳房切除	14
食道	悪性	食道亜全摘術	1
胃・十二指腸	悪性	胃全摘術（残胃全摘含む）	7
		腹腔鏡下胃全摘術	1
		胃切除術	14
		腹腔鏡下胃切除	6
		腹腔鏡下胃部分切除術	1
	GIST	腹腔鏡下胃部分切除術	1
		開腹胃部分切除術	1
	潰瘍穿孔	切除術、大網充填等	3
	胃ESD後穿孔	開腹胃部分切除術	1
		バイパス術	1
		試験開腹術	1
小腸	悪性リンパ腫	小腸部分切除術	1
	穿孔	小腸部分切除術＋ドレナージ術	3
	絞扼性イレウス	イレウス解除術	13
		小腸部分切除術	5
虫垂	虫垂炎	虫垂切除術	9
		腹腔鏡下虫垂切除	7
		開腹回盲部切除術	1
	虫垂粘液腫	腹腔鏡下回盲部切除術	1
結腸・直腸	悪性	開腹結腸切除術	19
		腹腔鏡下切除術	19
		（低位）前方切除術	5
		腹腔鏡下前方切除術	8
	他臓器浸潤	開腹結腸切除術＋子宮全摘、膀胱部分切除術	1
		人工肛門造設術	9
		バイパス術	1
		試験開腹術	1
	良性	開腹縫合術＋膀胱部分切除術	1
		開腹結腸切除＋膀胱部分切除術	1
		S状結腸捻転根治術	4
		経肛門的（会陰的）腫瘍切除術	3
	穿孔	ハルトマン術	4
肛門		直腸脱手術	7
		内痔核	11
肝・胆・膵	悪性	肝切除術（転移）	3
		胆嚢・胆管癌切除（含肝切除）	5
		体尾部切除術	2
		膵頭十二指腸切除術	4
		試験開腹術	1
	良性	胆嚢摘出術（開腹）	13
		胆嚢摘出術（腹腔鏡）	30
		開腹胆管切石＋Tチューブ	1
ヘルニア		鼠径ヘルニア根治術（前方アプローチ）	52
		鼠径ヘルニア根治術（腹腔鏡）	36
		大腿ヘルニア根治術（前方アプローチ）	5
		腹壁瘢痕ヘルニア根治術	6
		腹壁瘢痕ヘルニア根治術（腹腔鏡）	1
		閉鎖孔ヘルニア根治術	5
		臍ヘルニア根治術	3
		Spiegelヘルニア根治術	1
その他		人工肛門閉鎖術	4
		CVポート挿入術	32
		内視鏡下胃瘻造設	35
		その他（局麻手術など）	34
計			459

総手術件数　459 例
内緊急手術　43 例

脳神経外科　（中央手術室，血管撮影室で行われた手術）　　2019年4月～2020年3月

術式	件数	術式	件数
脳腫瘍・脊髄腫瘍	9	慢性硬膜下血腫	37
脳動脈瘤・脳動静脈奇形（開頭術）	0	外傷性疾患(血腫除去)	1
脳出血・脳梗塞（開頭術）	6	シャント・ドレナージ	12
頸動脈狭窄（頸動脈内膜剥離術）	0	脳血管バイパス術	0
脳動脈瘤・血管奇形等（血管内手術）	21	その他	6
頸動脈狭窄（血管内治療）	17	計	122
その他の血管内治療（急性期再開通）	13		

皮膚科（中央手術室で行われた手術）

皮膚良性腫瘍切除術	19 件	その他	3 件
皮膚悪性腫瘍切除術	11 件		
		計	33 件

・皮膚悪性腫瘍切除術の対象疾患は有棘細胞癌、基底細胞癌が多かった。

皮膚科（中央手術室以外で行われた手術）

皮膚良性腫瘍切除術	7 件	皮膚生検	59 件
皮膚悪性腫瘍切除術	1 件	その他	3 件
皮膚切開	23 件	計	100 件
爪手術	7 件		

整形外科（中央手術室で行われた手術）　令和元年度2019.4.1-2020.3.31

大腿骨頸部骨折	
骨接合術（CCHS）	13
骨接合術（γネイル）	53
人工骨頭置換術	47
小計	113 件

その他の骨折	38 件 （手外科関連29件）

人工関節手術	
人工膝関節	110（両側同時26）
人工膝関節（単顆型）	3
人工股関節	56
人工肩関節	1
小計	170 件

脊椎関連手術	
（頚椎）	22
（胸椎）	14
（腰椎）	66
（経皮的後弯矯正術）	13
（椎体生検）	2
小計	117 件

手外科手術	
手根管症候群	30
肘部管症候群	2
神経剥離・移植	3
腫瘍切除	5
デュプイトレン拘縮	0
腱	6
骨折	29
胸郭出口症候群	1
ばね指	2
その他	0
小計	78 件

デブリドマン	30 件
その他	18 件

計　535 件

泌尿器科（2019年度中央手術室で行われた手術）

膀胱癌	55	件	副腎腫瘍	1	件
前立腺癌	4		膀胱結石砕石術	7	
膀胱結石	4		前立腺生検	67	
前立腺肥大	29		間質性膀胱炎膀胱水圧拡張術	0	
腎腫瘍	9		尿管ステント交換	68	
腎瘻増設術	3		膀胱直腸瘻閉鎖	2	
腎盂尿管腫瘍	12		膀胱瘻増設	2	
尿管鏡	5		陰嚢水腫根治術	1	
精巣腫瘍	3		膀胱大腸瘻	2	
陰嚢水腫	1				
包茎	4				
尿管結石	15				
尿道狭窄	1				
精巣固定術	1				
腎生検	2				
			計	279	件

眼科（中央手術室で行われた手術）

白内障関連	2,054	件
硝子体関連	94	件
緑内障関連	19	件
外眼部関連	73	件
硝子体注射関連	366	件
計	2,606	件

眼科（中央手術室以外で行われた手術）

マルチカラーレーザー	189	件
ヤグレーザー	125	件
計	314	件

耳鼻咽喉科（中央手術室で行われた手術件数）

鼓室形成術	11	件	喉頭微細手術	4	件
乳突削開術	1		甲状腺腫瘍摘出術（含む悪性）	2	
外耳道腫瘍摘出術	1		頸部郭清術	2	
顔面神経減圧術	1		頸部悪性腫瘍手術	1	
内耳窓閉鎖術	1		口腔悪性腫瘍手術（舌を含む）	1	
内視鏡下鼻内手術	39		口唇腫瘍摘出術	1	
頸部リンパ節生検	7		唾液腺腫瘍摘出術	8	
気管切開術	9		その他	1	
口蓋扁桃摘出術	18		計	108	件

耳鼻咽喉科（中央手術室以外で行われた手術）

鼓膜切開術	28	件
外耳道異物除去術	8	
鼓膜チューブ挿入術	10	
鼻腔粘膜焼灼術	13	
咽頭異物摘出術	5	
耳茸摘出術	2	
計	66	件

2019年04月01日～2020年03月31日

歯科口腔外科（中央手術室で行われた手術）

項目	件数
顎骨嚢胞摘出術	2
良性腫瘍摘出術	1
悪性腫瘍切除術	7
計	10件

歯科口腔外科（中央手術室以外で行われた手術）

項目	件数
抜歯手術	981
難抜歯（智歯含む）	628
顎関節脱臼非観血的整復術・歯	26
歯根嚢胞摘出手術（歯冠大）	22
腐骨除去手術（歯槽部）	20
顎炎等手術１／３顎未満	12
歯肉膿瘍等切開	11
その他	79
計	1,779件

19. リハビリテーション取扱実績

平成31年4月1日～令和2年3月31日

項目			患者数（人）	1ヶ月平均
訓練内訳	理学療法（PT）	入院	27,126	2,261
		外来	244	20
		計	27,370	2,281
	作業療法（OT）	入院	12,848	1,071
		外来	430	36
		計	13,278	1,107
	言語療法（ST）	入院	6,455	538
		外来	508	42
		計	6,963	580
	心理療法	入院	5,774	481
		外来	654	55
		計	6,428	536
訓練計		入院	52,203	4,350
		外来	1,836	153
		計	54,039	4,503
補装具製作		製作	49	4
		修理	48	4
		計	97	8

20. 理学療法実施状況

		入院	外来	計
脳血管	人数	8,296	209	8,505
	単位	14,345	411	14,756
	加算	9,721	0	9,721
廃用	人数	3,087	11	3,098
	単位	5,254	22	5,276
	加算	2,922		2,922
運動器	人数	9,453	24	9,477
	単位	18,506	54	18,560
	加算	13,845		13,845
呼吸器	人数	1,841	0	1,841
	単位	3,195	0	3,195
	加算	2,497		2,497
心大血管	人数	3,760	0	3,760
	単位	6,585	0	6,585
	加算	4,728		4,728
がん患者	人数	324		324
	単位	533		533
緩和ケア	人数	352		352
	単位	493		493
患者数		27,113	244	27,357
単位数		48,911	487	49,398
早期加算件数		33,713		33,713

21. 作業療法実施状況

		入院	外来	計
脳血管	人数	7,799	146	7,945
	単位	13,784	294	14,078
	加算	9,670	0	9,670
廃用	人数	1,993	0	1,993
	単位	3,585	0	3,585
	加算	2,050		2,050
運動器	人数	1,392	186	1,578
	単位	2,719	373	3,092
	加算	1,601	0	1,601
呼吸器	人数	883	0	883
	単位	1578	0	1,578
	加算	1290		1,290
心大血管	人数	290	0	290
	単位	398	0	398
	加算	265		265
がん患者	人数	124		124
	単位	218		218
緩和ケア	人数	367		367
	単位	591		591
患者数		12,848	332	13,180
単位数		22,873	667	23,540
早期加算件数		14,876		14,876

22. 言語療法実施状況

		入院	外来	計
脳血管	人数	5,350	451	5,801
	単位	8,799	1,111	9,910
	加算	6,073	19	6,092
廃用	人数	875	41	916
	単位	1,309	80	1,389
	加算	765		765
呼吸器	人数			0
	単位			0
	加算			0
心大血管	人数			0
	単位			0
	加算			0
がん患者	人数	7	0	7
	単位	13	0	13
	加算			0
摂食機能療法	人数	218	1	219
	単位	218	1	219
緩和ケア	人数	2		2
	単位	2		2
患者数		6,225	493	6,718
単位数		10,341	1,192	11,533
早期加算件数		6,838	19	6,857

23. 心理検査等取扱件数 （単位：件）

項目	入院	外来	合計
知能検査（極複雑）	0	3	3
知能検査（複雑）	4	1	5
知能検査（容易）	379	43	422
人格検査（極複雑）	1	0	1
人格検査（複雑）	38	1	39
人格検査（容易）	0	0	0
その他の心理検査（極複雑）	2	2	4
その他の心理検査（複雑）	252	323	575
その他の心理検査（容易）	835	25	860
検査　計	1511	398	1909
心身医学療法	0	0	0
合計	1511	398	1909

24. 調剤実施状況

平成31年4月1日～令和2年3月31日

	区　分	入院	外来	合計
1 処方箋枚数	院内処方箋枚数	96,814	3,848	100,662
	院外処方箋枚数		128,852	128,852
	小計	96,814	132,700	229,514
	院外処方箋発行率		97.1%	
	注射処方箋枚数	95,810	11,593	107,403
	合計	192,624	144,293	336,917

	2-(1)処方調剤							
	区　分		入　院		外　来		合　計	
			件数	剤数	件数	剤数	件数	剤数
2 調剤数	内用	散剤	16,903	103,963	349	2,931	17,252	106,894
		錠剤	214,976	1,485,898	5,280	61,457	220,256	1,547,355
		水剤	4,415	18,408	1,019	1,619	5,434	20,027
		頓服	8,017	56,578	1,016	6,048	9,033	62,626
		小　計	244,311	1,664,847	7,664	72,055	251,975	1,736,902
	外用	湿布・含嗽・吸入・洗浄	10,243	40,468	285	896	10,528	41,364
		軟膏・散剤・坐剤	7,915	37,284	225	1,242	8,140	38,526
		点眼耳鼻剤	11,150	13,798	53	61	11,203	13,859
		小　計	29,308	91,550	563	2,199	29,871	93,749
	注射剤（在宅注射等）		2,808	3,121	8	3	2,816	3,124
	計		276,427	1,759,518	8,235	74,257	284,662	1,833,775
	2-(2)注射処方せんによる調剤							
	個人セット調剤		305,459	607,055	15,651	25,205	321,110	632,260
	調剤計		581,886	2,366,573	23,886	99,462	605,772	2,466,035

25. 製剤実施状況

平成31年4月1日～令和2年3月31日

内用	散　剤　500g	1,480	外用	軟　膏　g	1,970
	水　剤　500ml	4		点眼・耳鼻 5mlまたは5g	124
	頓　剤　1回分	11,886	小　計		2,627
小　計		13,370	滅菌外用剤　50ml		12,275
外用	散　剤　500g	0	注射剤　50ml		99
	水　剤　500ml	533	合　計		12,374

26. 院外処方箋発行率

年　度	28年度	29年度	30年度	元年度
院外処方箋枚数	139,757	137,824	133,973	128,852
外来処方箋総枚数	144,221	142,359	137,961	132,700
院外処方箋発行率（%）	96.9%	96.8%	97.1%	97.1%

27. 薬品管理状況

(1) 採用薬品品目数

令和2年3月31日現在

区分	28年度	29年度	30年度	元年度
注射薬	566	578	599	621
内用薬	712	735	735	739
外用薬	261	256	248	250
その他	0	0	0	0
計	1,539	1,569	1,582	1,610

※ 緊急購入薬品は含まない

※ 平成22年度より薬価未収載薬品も含め、保険薬事典に準じた区分とする。

(2) 薬品入出庫状況

区分	28年度	29年度	30年度	元年度
入庫件数	23,930	23,214	23,117	23,133
出庫件数	279,411	273,360	273,512	268,966

28.薬効別薬品使用比率（薬価）

平成31年4月1日～令和2年3月31日

薬 効 名	金 額（薬価）	比 率 (%)
精神神経用剤	47,950,179.32	3.2%
循環器用剤	52,423,573.95	3.5%
呼吸器官用剤	29,288,241.88	2.0%
消化器官用剤	25,098,901.89	1.7%
外皮用剤	5,923,861.30	0.4%
ビタミン剤	4,220,356.96	0.3%
滋養強壮剤	18,620,559.40	1.2%
血液・体液用剤	139,409,004.25	9.3%
抗悪性腫瘍剤	508,735,539.70	33.9%
抗生物質・抗菌剤	96,050,817.90	6.4%
生物学的製剤	169,391,838.80	11.3%
その他	404,255,714.01	26.9%
合 計	1,501,208,249.36	100%

29.麻薬取扱状況

区分	品名	単位	28年度	29年度	30年度	令和元年度
注射薬	オピスタン注35mg	A	8	－	－	－
	ペチジン塩酸塩注射液35mg	A	5	8	8	99
	塩酸モルヒネ注10mg	A	780	407	482	197
	塩酸モルヒネ注50mg	A	452	586	752	334
	塩酸モルヒネ注200mg	A	1,871	891	3,318	107
	フェンタニル注0.1mg	A	9,801	8,091	6,140	5,103
	フェンタニル注射液0.1mg「ﾃﾙﾓ」	A	－	－	－	1,328
	アルチバ静注用2mg	V	936	1,197	1,427	450
	レミフェンタニル静注用20mg		－	－	－	893
	オキファスト注10mg	A	1,276	1,659	1,244	990
	オキファスト注50mg	A	1,488	1,313	1,106	805
	ナルベイン注20mg	A	－	－	2,161	1,976
	ケタラール静注用50mg	A	342	78	245	439
	ケタラール筋注用500mg	V	72	27	128	46
内用剤	アブストラル舌下錠100μg	T	401	504	552	154
	アブストラル舌下錠200μg	T	208	392	75	216
	MSコンチン錠10mg	T	1,538	1,088	953	501
	MSコンチン錠30mg	T	785	329	107	158
	オキシコンチン錠5mg	T	7,438	9,953	3,198	－
	オキシコンチン錠20mg	T	2,753	1,874	907	19
	オキシコンチン錠40mg	T	1,073	1,506	577	－
	オキシコドン徐放錠5mg	T	－	－	6,534	11,316
	オキシコドン徐放錠20mg	T	－	－	28	1,182
	オキシコドン徐放錠40mg	T	－	－	326	799
	オプソ内服液　5mg	包	687	425	428	387
	オプソ内服液　10mg	包	880	205	770	75
	タペンタ錠　25mg	T	46	0	－	－
	タペンタ錠　100mg	T	66	0	－	－
	メサペイン錠　5mg	T	258	274	605	1,175
	メサペイン錠　10mg	T	－	1,599	2,130	1,774
	ナルサス錠　2mg	T	－	105	953	988
	ナルサス錠　12mg	T	－	21	56	0
	ナルサス錠　24mg	T	－	47	83	0
	ナルラピド錠　4mg	T	－	30	15	30
	オキノーム散　2.5mg	包	3,136	3,689	3,348	3,114
	オキノーム散　5mg	包	2,507	1,382	1,160	1,620
	オキノーム散　10mg	包	264	927	666	508
	オキノーム散　20mg	包	1,691	438	596	592
	モルペス細粒2%（10mg0.5g）	包	0	70	339	866
	コデインリン酸塩散10%	g	492	528	204.14	262.60
	モルヒネ塩酸塩水和物	g	4.3	0.00	15.3	10.17
	モルヒネ塩酸塩水和物1%	g	297.8	15.0	－	484.98
	アンペック坐剤10mg	個	28	151	138	53
	デュロテップMTパッチ2.1mg	枚	28	11	26	4
	デュロテップMTパッチ4.2mg	枚	36	0	－	－
	フェントステープ0.5mg	枚	－	－	67	727
	フェントステープ1mg	枚	2245	1811	1,158	1,179
	フェントステープ2mg	枚	930	1438	773	620
	フェントステープ4mg	枚	456	357	716	184

30. 向精神薬・覚醒剤原料取扱業務

		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
向精神薬取扱件数	内用・外用	909	837	939	613	624
	注射	2,917	2,973	2,616	2,525	2,468
覚醒剤原料取扱件数	内用・外用	36	129	80	40	70

31. 外来服薬指導実施状況

(1) 月別患者数　　平成31年4月1日～令和2年3月31日

（単位：人）

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
患者数	211	239	204	238	235	207	227	200	301	290	209	231	2,792

(2) 項目別相談件数　　平成31年4月1日～令和2年3月31日

（単位：件）

総合相談	薬の変更	薬　効	用　法	副作用	院外説明	その他	合計
0	0	2,108	2,742	423	0	632	5,905

32. 外来がん患者指導業務

（単位：件）

年度	28年度	29年度	30年度	元年度
指導件数	597	671	519	595
がん患者指導管理料３算定件数	203	186	123	152
抗がん剤電話サポート件数	40	42	9	20

33. 病棟業務実施状況

平成31年4月1日～令和2年3月31日

（単位：件）

区　　分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
服薬指導回数	1,533	1,435	1,405	1,658	1,638	1,524	1,762	1,647	1,617	1,708	1,472	1,646	19,045
薬剤管理指導料													
325点算定件数	632	545	471	618	561	485	646	534	504	583	405	465	6,449
380点算定件数	494	474	502	577	582	585	619	600	633	644	641	669	7,020
麻薬加算件数	6	11	6	9	11	21	18	16	15	10	11	26	160
退院時薬剤情報管理指導料算定件数	287	227	258	268	288	238	275	257	334	262	267	269	3,230

*薬剤管理指導実施病棟：　ICU/CCU、ＳＣＵ

5東（心臓外科、呼吸器外科、循環器内科）

5西（循環器内科）

6東（整形外科、脊椎外科）

6西（地域包括ケア病棟、総合内科、リハビリテーション科、在宅医療連携）

7東（眼科、外科）

7西（外科、血管外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科）

8東（膠原病・リウマチ科、消化器内科）

8西（消化器内科）

9東（呼吸器内科、高齢診療科、感染症内科）

9西（腎臓内科、糖尿病・代謝・内分泌内科）

10東（脳神経外科、皮膚科、歯科口腔外科、脳神経内科、脳卒中科）

10西（脳神経内科、脳卒中科）

11東（精神科）

11西（血液内科、化学療法科、輸血・免疫療法科）

12階（緩和ケア内科）

34. 無菌製剤（抗がん剤・TPN・末梢点滴混注）処方箋取扱数

（単位：枚）

年　　度	28年度	29年度	30年度	元年度
枚数	6,839	7,416	7,441	6,615

35. 医薬品情報業務

（単位：件）

年　　度	28年度	29年度	30年度	元年度
情報収集件数	711	553	527	484
情報提供件数	832	739	662	548
情報誌発行件数	5	5	5	5
薬事委員会取扱件数	405	371	434	339

36. 輸血用血液およびアルブミン製剤取扱状況

平成31年4月1日～令和2年3月31日

製　剤　名	取扱数(延べ)	取扱数(実数)	使用数	使用率(%)
赤血球濃厚液	7,289	6,481	6,381	98.5
洗浄赤血球	0	0	0	0.0
新鮮凍結血漿	2,663	1,988	1,898	95.5
濃厚血小板	13,615	13,415	13,355	99.6
HLA適合血小板	505	505	505	100.0
自己血	424	419	343	81.9
輸血用血液　合計	24,496	22,808	22,482	98.6
5%アルブミン　(本)	593	599	553	92.3
20%アルブミン　(本)	1,307	1,372	1,269	92.5
アルブミン製剤　合計	1,900	1,971	1,822	92.4

・輸血用血液は200ｍｌを1単位として算出した。
・各製剤ごとの使用数の比較では、赤血球製剤は前年同等、新鮮凍結血漿は約40%増、血小
・全アルブミン製剤の使用グラム数は約10%増の19,602.5ｇであった。

37. 病理学的業務実施状況

(1) 病理解剖

項　　目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
件数	63	82	66	47	63
作製ブロック数（個）	4,348	5,125	7,339	6,114	7,208
ガラス標本数（枚）	12,090	12,076	21,662	16,876	20,136
肉眼・顕微鏡写真（枚）	4,721	4,525	5,406	4,258	5,715

平成28年度以前は神経病理分を含まない。

(2) 手術・生検組織学的検査

項　　目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
件数	3,565	3,336	3,441	3,213	3,154
作製ブロック数（個）	8,915	8,542	8,261	7,619	8,701
ガラス標本数（枚）	21,232	20,396	26,366	24,995	28,605
肉眼・顕微鏡写真（枚）	3,608	3,830	5,312	4,688	5,413

(3) 細胞診

項　　目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
件数	1,627	1,757	1,798	1,680	1,723
ガラス標本数（枚）	4,976	4,964	4,295	3,975	3,685
顕微鏡写真（枚）	2,097	2,357	2,086	1,894	1,775

(4) 特殊検査

項　　目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
術中迅速	57	58	86	82	100
免疫染色	736	635	752	699	966
電子顕微鏡検査	49	40	41	15	139
検査中迅速（ROSE）	—	—	—	15	20

ROSE（ Rapid on-site cytologic evaluation ）は，平成30年度から導入

(4) 診療科別剖検率一覧（暦年）

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年度
循環器内科	9 / 65 (13.8%)	8 / 57 (14.0%)	10 / 64 (15.6%)	5 / 76 (6.6%)	11 / 76 (14.5%)
神経内科	8 / 33 (24.2%)	12 / 37 (32.4%)	6 / 25 (24.0%)	5 / 20 (25.0%)	3 / 15 (20.0%)
呼吸器内科	2 / 24 (8.3%)	3 / 50 (6.0%)	3 / 22 (13.6%)	2 / 32 (6.3%)	0 / 32 (0.0%)
消化器内科	4 / 57 (7.0%)	6 / 55 (10.9%)	5 / 62 (8.1%)	3 / 54 (5.6%)	4 / 45 (8.9%)
血液内科	4 / 30 (13.3%)	6 / 26 (23.1%)	4 / 40 (10.0%)	3 / 29 (10.3%)	4 / 22 (18.2%)
総合診療科・感染症内科	0 / 22 (0.0%)	3 / 16 (18.8%)	3 / 17 (17.6%)	1 / 19 (5.3%)	0 / 18 (0.0%)
糖尿病・内分泌内科	4 / 18 (22.2%)	4 / 12 (33.3%)	3 / 14 (21.4%)	3 / 15 (20.0%)	6 / 19 (31.6%)
緩和ケア科	0 / 190 (0.0%)	2 / 198 (1.0%)	5 / 217 (2.3%)	0 / 202 (0.0%)	4 / 172 (2.3%)
外科	4 / 23 (17.4%)	5 / 28 (17.9%)	0 / 21 (0.0%)	2 / 17 (11.8%)	4 / 19 (21.1%)
心臓外科	11 / 15 (73.3%)	10 / 13 (76.9%)	4 / 9 (44.4%)	5 / 6 (83.3%)	5 / 14 (35.7%)
脳外科	0 / 8 (0.0%)	2 / 13 (15.4%)	3 / 17 (17.6%)	1 / 14 (7.1%)	1 / 16 (6.3%)
泌尿器科	5 / 10 (50.0%)	3 / 5 (60.0%)	0 / 5 (0.0%)	2 / 9 (22.2%)	1 / 7 (14.3%)
その他	2 / 11 (18.2%)	3 / 17 (17.6%)	8 / 52 (15.4%)	5 / 41 (12.2%)	8 / 45 (17.8%)
院内合計	53 / 506 (10.5%)	67 / 527 (12.7%)	54 / 565 (9.6%)	37 / 534 (6.9%)	51 / 500 (10.2%)
総計※	63	82	66	47	60

※総計には救急外来患者と外部医療機関からの委託解剖を含む.

38. 臨床検査検査実施状況

2019月1日～2020年3月31日

（単位：件）

区分	検査名	総件数
一般	尿定性	34,589
	尿沈渣（鏡検）	22,757
	糞便検査	1,313
	穿刺液	406
	小計	59,065
血液	末梢血液一般	109,521
	血液像（鏡検）	32,980
	出血・凝固検査	32,458
	骨髄像検査	253
	細胞採取液（鏡検）	28
	穿刺液	236
	穿刺液（鏡検）	177
	その他（混和試験・凝集能等）	2
	小計	175,655
臨床化学		115,383
免疫血清		10,390
一般細菌	泌尿器系	3,018
	呼吸器系	3,562
	消化器系	760
	血液・骨髄血	7,243
	穿刺液	416
	その他の部位	729
迅速	尿中抗原	1,178
	インフルエンザ	1,763
抗酸菌	抗酸菌培養	953
	結核PCR	217
	MACPCR	247
	小計	20,086

区分	検査名	総件数
生理機能	心電図	22,163
	自律神経	669
	血圧脈波	2,742
	運動負荷	266
	肺機能	1,975
	SAS	119
	脳波	287
	筋・神経	384
	心エコー	7,785
	腹部エコー	2,847
	体表エコー	1,425
	頸動脈エコー	1,395
	血管エコー	2,476
	平衡機能	58
	耳鼻科	2,716
小計		47,307

輸血	ABO血液型	3,501
	交差（血液型）	3,057
	交差適合試験	3,425
	Coombs試験（直接）	156
	Coombs試験（間接）	120
	不規則抗体（血液型）	3,513
	不規則抗体（交差）	2,791
	小計	16,563

採血業務	（外来採血） 65,219
総件数	509,668

39. 放射線部門取扱数

平成31年4月1日～令和2年3月31日

区分			患者数						件数						保険点数
						再掲							再掲		
			計	入院	外来	ﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙ	時間外	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ加算	計	入院	外来	ﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙ	時間外	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ加算	
画像診断	単純	(1)単純一般	50,823	20,867	29,956	8,374	7,050		113,032	36,216	76,816		11,948		0
		(2)断層	0						0						0
		(3)MG法	221		221				853		853				0
		(4)ﾊﾟﾝﾄﾓ・ｾﾌｧﾛｰ	1,004	283	721				1,000	281	719				0
	特殊	(5)骨塩定量	2,518	260	2,258				6,858	678	6,180				0
		(6)その他	4,758	2,183	2,575		158		5						0
		(7)歯科	1,842	391	1,451				2,371	526	1,845				0
		(8) 小 計	61,166	23,984	37,182	8,374	7,210	0	124,119	37,701	86,418	0	11,955	0	0
	造影	(9)上部消化管	120	102					691	577					0
		(10)下部消化管	57	50					386	347					0
		(11)消化管小計	177	152	25	0	11	0	1,077	924	153	0	37	0	0
		(12)肝胆膵	223	218					1,080	1,060					0
		(13)腎膀胱	0						0						0
		(14)脊髄控	52	51					437	428					0
		(15)子宮卵管	0						0						0
		(16)神経根ブロック	162		140				184		157				0
		(17)その他	230	210					1,091	1,041					0
		(18)消化管以外小計	667	501	166	0	53	0	2,792	2,556	236	0	177	0	0
		(19) 小 計	844	653	191	0	64	0	3,869	3,480	389	0	214	0	0
	血管造影	(20)脳血管	87	87			33		12,569	12,569			5,482		0
		(21)心臓血管	870	863			118		16,892	16,763			2,243		0
		(22)胸腹血管	118	118					4,249	4,249					0
		(23)四肢血管	171	171					7,905	7,905					0
		(24) 小 計	1,246	1,239	7	0	216	0	41,615	41,486	129	0	10,618	0	0
	C T M R I	(25)頭頚部単純	6,214	1,757	4,457		1,320		252,105	66,710	185,395		57,425		0
		(26)頭頚部造影	135	61	74				16,540	7,850	8,690				0
		(27)頭頚部小計	6,349	1,818	4,531	0	1,323	0	268,645	74,560	194,085	0	57,665	0	0
		(28)躯幹部単純	8,537	2,036	6,501		1,515		866,730	208,660	658,070		158,420		0
		(29)躯幹部造影	3,319	906	2,413		304		769,960	217,540	552,420		64,850		0
		(30)躯幹部小計	11,856	2,942	8,914	0	1,819	0	1,636,690	426,200	1,210,490	0	223,270	0	0
		(31)四肢単純	311	60	251				22,830	4,620	18,210				0
		(32)四肢造影	189	90	99				56,140	26,720	29,420				0
		(33)四肢小計	500	150	350	0	0	0	78,970	31,340	47,630	0	0	0	0
		(34) 小 計	18,705	4,910	13,795	0	3,142	0	1,984,305	532,100	1,452,205	0	280,935	0	0
		(35)頭部単純	5,152	1,000	4,152		459		16,900						0
		(36)頭部造影	294	104	190				300						0
		(37)頭部小計	5,446	1,104	4,342	0	460	0	17,200	100	17,100	0	0	0	0
		(38)躯幹部単純	1,952	379	1,573				5,600						0
		(39)躯幹部造影	138		97				0						0
		(40)躯幹部小計	2,090	420	1,670	0	17	0	5,600	100	5,500	0	0	0	0
		(41)四肢単純	123		88				0						0
		(42)四肢造影	9						0						0
		(43)四肢小計	132	40	92	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		(44) 小 計	7,668	1,564	6,104	0	478	0	22,800	200	22,600	0	0	0	0
	透視	(45)単純透視	247	241			69		33						0
		(46)造影透視	85	84					401	400					0
		(47) 小 計	332	325	7	0	103	0	434	432	2	0	52	0	0
		(48) 合 計	89,961	32,675	57,286	8,374	11,213	0	2,177,142	615,399	1,561,743	0	303,774	0	0

区分		患者数				件数				保険点数
		計	入院	外来	時間外(再掲)	計	入院	外来	時間外（再掲）	
核医学	(49)試料測定invitro	0				0				0
	(50)体外測定(形態検査)	4,161	686	3,475		192,163	23,652	168,511		0
	(51)体外測定(機能検査)	3				4				0
	(52)RI治療	0				0				0
	(53)その他	274	26	248		12,857		12,763		0
	(54)　小　計	4,438	712	3,726	7	205,024	23,746	181,278	34	0
放射線治療	(55)高エネルギーX線	1,721	1,155	566	0	3,846	2,489	1,357	0	1,835,220
	(56)高エネルギー電子線	113	20	93	0	113	20	93	0	89,460
	(57)密封小線源	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(58)温熱療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(59)その他	4	1	3	0	4	1	3	0	6,000
	(60)放射線治療管理料	164	107	57	0	164	107	57	0	587,590
	(61)　小　計	2,002	1,283	719	0	4,127	2,617	1,510	0	2,518,270
	(62)　総　合　計	96,401	34,670	61,731	11,220	2,386,293	641,762	1,744,531	303,808	2,518,270

血管造影IVR 再掲分		患者数			件数		
		計	入院	外来	計	入院	外来
血管造影IVR	(63)脳血管	14	14		1,635	1,635	
	(64)心臓血管	278	277		7,274	7,249	
	(65)胸腹血管	66	66		2,980	2,980	
	(66)四肢血管	48	45		1,999	1,946	
	(67)　合　計	406	402	4	13,888	13,810	78

放射線治療業務 再掲分		患者数			件数		
		計	入院	外来	計	入院	外来
放射線治療業務	(68)シミュレーター	5	5	0	5	5	0
	(69)計画用CT	208	164	44	15,554	12,108	3,446
	(70)リニアックグラフィー	185	148	37	252	202	50
	(71)線量分布計算	199	151	48	213	161	52
	(72)全身照射	15	15	0	27	27	0
	(73)定位放射線治療	8	6	2	75	55	20
	(74)固定器具加算	2	1	1	2	1	1
	(75)血液照射	0	0	0	0	0	0
	(76)その他	0	0	0	0	0	0
	(77)　合　計	622	490	132	16,128	12,559	3,569

区分	入院		外来		合計		保険点数
	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	
(78)画像診断	32,675	615,399	57,286	1,561,743	89,961	2,177,142	0
(79)核医学	712	23,746	3,726	181,278	4,438	205,024	0
(80)放射線治療	1,283	2,617	719	1,510	2,002	4,127	2,518,270
(81)　合　計	34,670	641,762	61,731	1,744,531	96,401	2,386,293	2,518,270

	患者数	件数	撮影料（点数換算）
乳がん検診 再掲分	1,784	4,791	44,631

40. 給食実施状況

区分		食種名	令和元年度			平成30年度		
			食数(食)	1日当り(食)	比 率(%)	食数(食)	1日当り(食)	比 率(%)
一般食		常食	127,483	349.3	32.1	125,871	344.9	30.1
		軟食	61,895	169.6	15.6	72,898	199.7	17.4
		流動食	2,601	7.1	0.7	2,274	6.2	0.5
		計	191,979	526.0	48.3	201,043	550.8	48.0
特別食	加算	塩分エネルギー調整食	78,421	214.9	19.7	81,847	224.2	19.5
		エネルギーたんぱく調整食	5,607	15.4	1.4	5,306	14.5	1.3
		たんぱく調整食	1,708	4.7	0.4	2,997	8.2	0.7
		肝臓食	2,067	5.7	0.5	4,678	12.8	1.1
		潰瘍食	1,102	3.0	0.3	1,512	4.1	0.4
		上部消化管術後食	1,128	3.1	0.3	1,128	3.1	0.3
		低繊維食	216	0.6	0.1	172	0.5	0.0
		透析食	7,228	19.8	1.8	8,356	22.9	2.0
		嚥下導入食	7,563	20.7	1.9	8,999	24.7	2.1
		その他	0	0.0	0	0	0.0	0
		小 計	105,040	287.8	26.4	114,995	315.1	27.5
	非加算	塩分エネルギー調整食	8,044	22.0	2.0	7,850	21.5	1.9
		低繊維食	3,093	8.5	0.8	5,429	14.9	1.3
		濃厚流動食	18,423	50.5	4.6	14,644	40.1	3.5
		嚥下導入食	47,513	130.2	12.0	50,562	138.5	12.1
		その他	23,268	63.7	5.9	24,218	66.4	5.8
		小 計	100,341	274.9	25.3	102,703	281.4	24.5
		特別食計	205,381	562.7	51.7	217,698	596.4	52.0
合 計			397,360	1,088.7	100.0	418,741	1,147.2	100.0

41. 再加工及び禁止・個別対応食の状況

区分	令和元年度			平成30年度		
	食数(食)	1日当り(食)	比 率(%)	食数(食)	1日当り(食)	比 率(%)
再加工食	113,127	309.9	28.5	125,862	344.8	30.1
禁止・個別対応食	143,617	393.5	36.1	137,122	375.7	32.7

42. 個人栄養食事指導実施状況

（単位：件）

指導名		令和元年度			平成30年度		
		入　院	外　来	合　計	入　院	外　来	合　計
算定	糖尿病	286	1,800	2,086	283	1,604	1,887
	腎臓病	95	489	584	84	546	630
	心臓・高血圧	189	322	511	201	408	609
	肝臓病	4	10	14	3	23	26
	胃腸病	15	107	122	33	67	100
	肥満	2	43	45	0	31	31
	脂質異常症	4	121	125	6	167	173
	がん	102	60	162	88	50	138
	摂食・嚥下	25	7	32	40	12	52
	低栄養	24	13	37	21	7	28
	その他	2	7	9	9	2	11
	小計	748	2,979	3,727	768	2,917	3,685
算定外		170	111	281	128	121	249
合　計		918	3,090	4,008	896	3,038	3,934

43. 集団栄養食事指導実施状況

		令和元年度			平成30年度		
		回　数	人　数		回　数	人　数	
			算 定	算定外		算 定	算定外
集団指導	糖尿病（入院）	47	165	16	50	158	39
	糖尿病（外来）	0	0	0	0	0	0
	小計	47	165	16	50	158	39
糖尿病教室		4	0	106	4	0	103
その他		2	0	35	4	0	48
合　計		53	165	157	58	158	190
			322			348	

44. 在宅看護相談室の看護実施状況

平成31年4月1日～令和2年3月31日

1　相談内容と業務内容件数

項目		延件数
相談内容	病状相談	16,840
	介護相談	16,825
	介護用品	3,025
	地域サービス	17,958
	受診相談	3,051
	入院相談	270
業務内容	連絡調整	17,316
	退院調整	18,140
	情報収集	17,375
	病状確認	17,270
	カンファレンス	284
	その他	20
連携	院内職員との連携	16,115
	地域関係者との連携	18,950
合計		163,439
利用者	患者・家族	15,590
	院内職員	3,345
	地域関係者	16,240
合計		35,175
方法	電話	16,670
	面談	19,665
	その他	0
合計		36,335

2　調整内容別件数

自宅退院・在宅調整（入院・外来）	577
転院調整	61
介護相談	294
退院前合同カンファレンス	432
合計	1,364

3　退院支援計画書作成件数：579

4　退院前合同カンファレンス件数

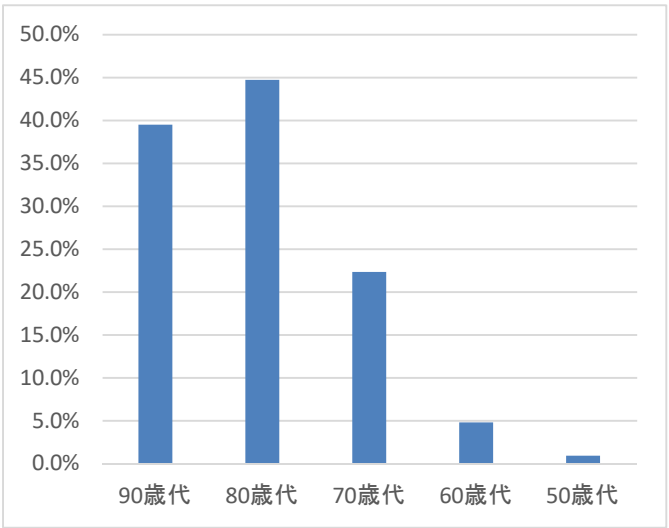
合同カンファレンス	353
共同指導料算定（再掲）	129
介護支援連携加算（再掲）	249

5　退院前後訪問件数

退院前	5
退院当日	62
退院後	3
外泊	－
合計	70

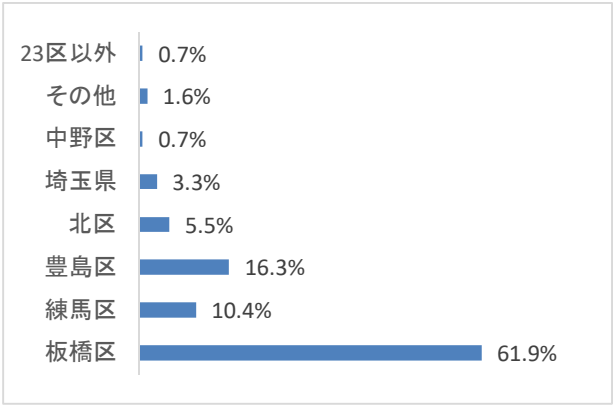
6　調整及び相談ケースの内訳

（1）　年齢別



年齢	人数	割合
90歳代	146	39.5%
80歳代	258	44.7%
70歳代	129	22.3%
60歳代	28	4.8%
50歳代	6	0.9%
合　計	577	100.0%

(2)　居住地域別



	件数	%
板橋区	357	61.9%
練馬区	60	10.4%
豊島区	94	16.3%
北区	32	5.5%
埼玉県	19	3.3%
中野区	4	0.7%
その他	9	1.6%
23区以外	4	0.7%
合　計	577	100.0%

(3)　疾患別（重複あり）

疾患名	件数
ガン（ターミナル含む）	70
呼吸器（肺炎含む）	82
認知症	78
脳血管障害	75
糖尿病	130
循環器	65
神経難病	78
整形外科	3
その他（皮膚疾患・膠原病等）	40
合　計	621

(4)　退院後に必要な医療処置（重複あり）

処置	件数
吸引	60
在宅酸素	30
褥瘡等処置	40
疼痛管理（麻薬）	20
バルーン	40
胃ろう	30
気管切開	5
ＨＰＮ（在宅ＩＶＨ）	30
人工呼吸器（ＮＩＰ・ＡＣ等）	5
インシュリン注射	90
ストマ	20
末梢点滴	10
その他（ＩＯＥ・ＰＴＣＤ等ドレーン管理等）	10

45．在宅酸素療法実績

新規導入者

月	31年 4月	元年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年 1月	2月	3月	計
人数	2	1	0	1	1	1	2	4	4	3	4	2	25

46．在宅人工呼吸療法実績

新規導入者

月	31年 4月	元年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年 1月	2月	3月	計
人数	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2

47. 病歴取扱状況

平成31年4月1日～令和2年3月31日

項目／月別	取扱件数			貸出件数
	一般退院	死亡退院	計	死亡者カルテ
4月	967	43	1,010	15
5月	906	44	950	11
6月	966	38	1,004	2
7月	985	31	1,016	23
8月	1,071	42	1,113	1
9月	943	31	974	1
10月	1,023	44	1,067	64
11月	1,015	46	1,061	34
12月	1,048	43	1,091	8
1月	956	54	1,010	2
2月	1,041	45	1,086	7
3月	1,013	39	1,052	18
計	11,934	500	12,434	186

48. 医療相談室相談件数

平成31年4月1日～令和2年3月31日

(1) 診療科目別

診療科目		入院			外来		
		新 規	継 続	入院計	新 規	継 続	外来計
内科系	内科	42	592	634	7	28	35
	腎臓内科	56	732	788	4	14	18
	内分泌科	106	1397	1503	4	38	42
	循環器科	289	2873	3162	9	45	54
	呼吸器科	92	1732	1824	1	5	6
	消化器科	152	1813	1965	3	8	11
	神経内科	281	3760	4041	54	189	243
	血液科	32	334	366	6	32	38
	感染症科	8	154	162	0	0	0
	膠原病・リウマチ科	13	148	161	6	13	19
	緩和ケア病棟入院相談	13	238	251	36	309	345
	緩和ケア内科	55	769	824	3	41	44
	小　　計	1139	14542	15681	133	722	855
外科系	外科	64	854	918	8	41	49
	脳外科	119	1298	1417	5	6	11
	整形外科	156	1333	1489	4	26	30
	心臓血管外科	23	180	203	1	0	1
	皮膚科	18	246	264	0	3	3
	泌尿器科	37	749	786	3	6	9
	脊椎外科	33	280	313	0	2	2
	眼科	0	0	0	0	0	0
	耳鼻咽喉科	0	0	0	1	7	8
	放射線科	0	0	0	0	0	0
	在宅医療連携病床	7	135	142	0	0	0
	歯科	0	0	0	0	0	0
	血管外科	17	161	178	0	0	0
	麻酔科	0	0	0	0	0	0
	小　　計	474	5236	5710	22	91	113
リハビリテーション科		26	178	204	25	8	33
精神科		0	0	0	0	0	0
化学療法科		21	139	160	0	0	0
合　　計		47	317	364	25	8	33
未受診・他					147	342	489
総　合　計		1660	20095	21755	327	1163	1490

(2) 対象別

本人	5520
家族	20288
友人・知人	196
院内・事務職員	37455
医療機関	27075
区市役所・保健所	3451
老人保健施設	1668
老人ホーム等	836
ケアマネージャー	2102
そ の 他	724
計	99,315

(3) 方法別

面接	26,573
電話	67,195
文書	2,635
訪問	12
その他	2,920
計	99,335

(4) 対応別

情報提供・連絡	52,056
情報収集	22,861
観察・状況把握	14,106
方針協議	7,238
問題整理・心理援助	2,944
直接援助	130
計	99,335

(5) 主訴別

受診		665
入院		8,764
退院		10786
転院		55,395
自宅		3,751
施設	長期	1,756
	短期・中期	5,045
	障害、他	4
療養上		2,695
家族		455
経済		3,183
日常生活		384
福祉制度一般		1,929
就労		58
心理的問題		293
その他		4,172
計		99,335

(6) 新ケースの紹介経路

病院内	医師	1,434
	看護婦	245
	リハビリ	31
	事務	4
	インテーク	0
	その他	0
	小 計	1,714
病院外	本人	27
	家族	142
	友人・知人	2
	医療機関	95
	区市役所・保健所	5
	老人保健施設	0
	老人ホーム等	0
	ケアマネージャー	1
	都関係	0
	その他	1
	小 計	273
計		1,987

(7) その他業務

ｸﾗｲｴﾝﾄ処遇会議		1474
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ調整		0
会議	院内	848
	院外	32
研修	院内	341
	院外	9
社会資源収集		68
実習生関連		1
見学者		0
他職ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ		0
講演・講義		1
調査・研究		0
業務統計		1622
学会・研究会		0

	入院	外来	未・他	計
新 規	1,660	180	147	1,987
継 続	20,095	821	342	21,258
計	21,755	1,001	489	23,245

診療費の収入状況

49. 診療実績

（単位：点）

項目		入院	外来	合計	比率（%）
基本料等	初診料	617,079	5,310,773	5,927,852	
	外来診療料	—	14,141,945	14,141,945	
	入院料等	624,613,322	—	624,613,322	
	計	625,230,402	19,620,376	644,850,778	51.5%
投薬料		8,612,585	10,214,886	18,827,471	1.5%
注射料		16,471,282	66,453,132	82,924,414	6.6%
処置料		8,090,584	11,096,622	19,187,207	1.5%
手術料		249,834,695	6,970,823	256,805,517	20.5%
検査料		12,788,771	92,234,674	105,023,444	8.4%
画像診断料		3,530,116	52,664,913	56,195,028	4.5%
諸収入		32,783,588	35,993,865	68,777,453	5.5%
合計		957,342,022	295,249,290	1,252,591,312	100.0%
（歯科口腔外科再掲）		1,602,971	6,600,069	8,203,040	-
延べ人数		167,020	230,199	397,219	-
1人1日平均点数		5,731.9	1,282.6	3,153.4	-
レセプト枚数		15,831	139,258	155,089	-

50. 診療実績：前年度比較

（単位：円）

区　　分		入　　院		
		平成30年度	令和元年度	増（△）減
診療実績（円）		9,756,599,040	9,573,420,217	△ 183,178,823
年間延患者数（人）		175,011	167,020	△ 7,991
稼動日数（日）		365	366	1
一日一人当収入（円）		55,748	57,319	1,571
収入内訳	基本料	6,518,527,904	6,252,304,015	△ 266,223,889
	投薬料	98,923,641	86,125,854	△ 12,797,787
	注射料	165,966,031	164,712,816	△ 1,253,215
	処置料	70,504,266	80,905,843	10,401,577
	手術料	2,406,396,995	2,498,346,945	91,949,950
	検査料	140,750,720	127,887,708	△ 12,863,012
	画像診断料	37,269,992	35,301,155	△ 1,968,837
	諸収入	318,259,491	327,835,881	9,576,390

※ 室料差額は含まない。

（単位：円）

区　　分		外　　来		
		平成30年度	令和元年度	増（△）減
診療実績(円)		2,958,704,346	2,952,492,904	△ 6,211,442
年間延患者数（人）		235,249	230,199	△ 5,050
稼動日数（日）		292	290	△ 2
一日一人当収入（円）		12,577	12,826	249
収入内訳	基本料	192,396,493	196,203,762	3,807,269
	投薬料	88,082,459	102,148,860	14,066,401
	注射料	644,369,956	664,531,322	20,161,366
	処置料	97,600,907	110,966,222	13,365,315
	手術料	70,753,260	69,708,229	△ 1,045,031
	検査料	957,913,810	922,346,735	△ 35,567,075
	画像診断料	543,344,476	526,649,128	△ 16,695,348
	諸収入	364,242,985	359,938,646	△ 4,304,339
院外処方（再掲）		86,659,525	84,125,011	△ 2,534,514

※ 保険外は「諸入」に含めて計上している。

51. 診療実績（入院）

平成31年4月1日～令和2年3月31日　　（単位：円、人、枚）

	基本料		投薬料	注射料	処置料	手術料	検査料	画像診断料	諸収入	計	延人数	レセプト数
	初診料（再掲）											
4月	538,940	473,146,556	8,542,980	17,090,160	5,692,762	204,484,590	10,620,080	2,721,610	26,008,360	748,307,098	12,979	1,218
5月	566,250	476,494,418	8,645,997	18,546,869	5,314,237	202,900,790	10,859,823	3,135,515	26,719,390	752,617,039	13,104	1,224
6月	478,050	483,564,732	7,281,490	10,736,190	4,078,402	203,435,080	9,831,330	3,014,010	25,007,000	746,948,234	13,249	1,279
7月	435,640	531,624,433	6,900,890	13,423,266	8,920,692	229,378,360	12,481,859	3,356,106	25,895,916	831,981,522	14,530	1,354
8月	586,590	554,330,074	6,612,249	10,669,145	6,560,007	202,255,010	11,339,857	2,848,915	27,163,815	821,779,072	15,245	1,399
9月	402,123	494,501,443	6,546,513	13,676,568	8,084,380	187,236,570	10,845,670	3,015,770	24,931,259	748,838,173	13,371	1,287
10月	491,300	531,617,441	7,838,481	12,453,956	5,829,580	230,923,105	11,652,411	2,468,718	25,418,399	828,202,091	14,138	1,357
11月	443,260	524,006,604	7,465,564	12,299,220	7,049,520	205,988,880	10,331,310	2,979,020	25,633,911	795,754,029	13,792	1,352
12月	585,760	550,462,511	6,888,976	11,893,990	8,157,900	192,768,510	10,126,830	2,458,970	28,555,064	811,312,751	14,251	1,309
1月	629,700	555,448,816	5,941,950	15,926,770	7,236,940	202,663,030	9,503,100	2,802,750	26,037,301	825,560,657	14,388	1,362
2月	549,060	547,650,699	7,081,640	16,204,180	7,530,600	217,922,150	9,627,870	2,946,120	26,015,228	834,978,487	14,252	1,382
3月	464,120	529,456,288	6,379,124	11,792,502	6,450,823	218,390,870	10,667,568	3,553,651	40,450,238	827,141,064	13,721	1,308
合計	6,170,793	6,252,304,015	86,125,854	164,712,816	80,905,843	2,498,346,945	127,887,708	35,301,155	327,835,881	9,573,420,217	167,020	15,831
歯科再掲	0	9,479,845	146,300	321,170	87,660	4,154,950	1,089,930	275,520	474,330	16,029,705	345	83

※　室料差額は含まない。

52. 診療実績（外来）

平成31年4月1日～令和2年3月31日　（単位：円、人、枚）

	基本料			投薬料	注射料	処置料	手術料	検査料	画像診断料	諸収入	合計	院外処方（再掲）	延人数	レセプト枚数
	初診料（再掲）	外来診療料（再掲）												
4月	4,188,448	12,009,052	16,292,210	7,222,655	53,400,630	8,572,324	5,348,989	77,096,323	42,278,374	30,389,420	240,600,925	7,382,211	19,749	11,971
5月	4,496,325	11,744,311	16,386,406	7,047,080	57,305,370	9,523,160	5,029,900	78,034,656	44,055,777	30,568,400	247,950,749	7,159,624	19,438	11,843
6月	4,106,320	11,582,990	15,840,300	9,738,980	53,281,690	8,954,055	5,488,150	75,698,847	45,436,580	29,757,419	244,196,021	6,871,238	19,166	11,723
7月	4,849,030	12,573,126	17,572,826	9,232,675	62,148,315	9,064,678	6,585,257	81,958,733	49,399,221	32,222,979	268,184,684	7,510,022	20,789	12,160
8月	4,441,088	11,355,015	15,893,883	9,368,890	62,697,829	9,227,818	5,369,560	73,215,721	43,202,310	29,723,668	248,699,679	6,963,468	18,663	11,265
9月	4,359,255	11,341,544	15,766,679	8,194,990	52,880,615	9,003,270	5,834,175	76,224,001	40,748,100	29,300,953	237,952,783	6,715,248	18,639	11,446
10月	4,453,697	12,572,456	17,026,153	7,811,998	61,414,057	9,693,770	5,383,260	79,201,592	44,336,537	31,966,370	256,833,737	7,418,224	20,099	12,049
11月	4,673,300	11,837,475	16,760,595	6,903,965	55,323,950	9,237,630	6,853,110	75,839,862	42,302,816	29,543,116	242,765,044	6,813,870	19,123	11,574
12月	5,106,512	12,451,396	17,884,588	9,696,723	51,683,590	9,508,855	7,059,690	81,052,523	43,681,337	30,725,115	251,292,421	7,199,938	19,910	11,947
1月	4,623,654	11,615,668	16,289,952	9,801,555	50,200,300	9,689,586	5,952,843	78,619,884	44,329,568	29,504,181	244,387,869	6,902,144	18,853	11,459
2月	4,076,072	10,832,339	15,106,931	7,938,641	48,327,910	9,364,235	4,724,230	71,273,141	43,208,872	27,814,654	227,758,614	6,285,370	17,519	10,759
3月	3,731,204	11,503,345	15,383,239	9,190,708	55,867,066	9,126,841	6,079,065	74,131,452	43,669,636	28,422,371	241,870,378	6,903,654	18,251	11,062
合計	53,104,905	141,418,717	196,203,762	102,148,860	664,531,322	110,966,222	69,708,229	922,346,735	526,649,128	359,938,646	2,952,492,904	84,125,011	230,199	139,258
歯科再掲	8,090,410	7,149,530	15,239,940	309,340	16,060	16,983,055	6,473,040	4,349,550	7,337,675	15,292,025	66,000,685	1,269,920	12,653	6,835

※　保険外は「諸収入」に含めて計上している。

53. 入院患者（入院時）保険種別内訳

平成31年4月1日～令和2年3月31日　（単位：人）

	社会保険								国民健康保険								後期高齢者								退職者保険		生保	原爆医療法（一般）	中国残留邦人	労災	公害	公務災害	自費	計	比率（%）
	本人	家族	（再掲）公費負担						本人	家族	（再掲）公費負担						本人	（再掲）公費負担							本人	家族	本人	本人	本人	本人	本人	本人	本人		
			生保	小児慢性特定疾患	難病（国疾病）	心身障害者	ひとり親	人工透析			原爆（一般）	難病（国疾病）	心身障害者	ひとり親	大気汚染	人工透析		原爆（一般）	特定疾患	難病（国疾病）	心身障害者	大気汚染	人工透析											
39歳以下	66	21	1	3	8	6	1		20	12			6												8			1			8	136	1.1
40～49	72	14			3		3		31	30		12	12			4									21						9	177	1.4
50～59	206	74	4		7	9	1	8	119	61		37	23	1		3									45			1		1	3	510	4.1
60～64	129	35			14	10		4	107	59		12	9			3								2	52			2			1	387	3.1
65～69	157	65			1	4		2	343	181		22	32		1	8	4				2			1	76			2			2	831	6.7
70～74	188	88			8	3		2	959	370	1	58	35			21	9			1					134	1		1			2	1,752	14.0
75～79																	2,273	9		74	43		21		198	2	4					2,477	19.9
80歳以上																	5,904	13	3	101	46	2	69		282	1	12		1			6,200	49.7
計	818	297	5	3	41	32	5	16	1,579	713	1	141	117	1	1	39	8,190	22	3	176	91	2	90	2	1	816	4	16	7	1	1	25	12,470	100.0
比率（%）	6.6	2.4	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.1	12.7	5.7	0.0	1.1	0.9	0.0	0.0	0.3	65.7	0.2	0.0	1.4	0.7	0.0	0.7	0.0	0.0	6.5	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	100.0	

54. 外来患者（新患）保険種別内訳

平成31年4月1日～令和2年3月31日　（単位：人）

	社会保険											国民健康保険										後期高齢者					退職者保険	生保	原爆医療法（一般）	中国残留邦人	労災	公務災害	自賠	自費	計	比率（%）
	本人	家族	（再掲）公費負担									本人	家族	（再掲）公費負担								本人	（再掲）公費負担												
			生保	精神通院	特定疾患	小児慢性特定疾患	難病（国疾病）	心身障害者	ひとり親	人工透析	乳幼児			原爆（一般）	B型・C型肝炎	精神通院	難病（国疾病）	心身障害者	ひとり親	人工透析	大気汚染	乳幼児		原爆（一般）	難病（国疾病）	心身障害者	人工透析								
39歳以下	306	109	4	2		1	2		3		10	68	48			1	1		3			2							15				3	14	29	592	7.6
40～49	219	55	1		1		4	1	2			66	38			1	1	2	4										23			1		8	21	431	5.5
50～59	305	100	1				1	8	2	1		139	65				4	8	2	1									43			3		3	16	674	8.6
60～64	190	79			1		5	3				117	83			1	2	7	1		1							1	28			2		1	13	514	6.6
65～69	164	85					1	2				293	191			1	1	8					4		1				52					1	27	817	10.5
70～74	147	53										555	338	2	1	2	2	12					9			1			65	1				3	28	1,199	15.4
75～79																							1,188	4	6	13	1		63		1			1	26	1,279	16.4
80歳以上		1																					2,132	6	7	19	1		100	1	1			2	51	2,288	29.4
計	1,331	482	6	2	2	1	13	14	7	1	10	1,238	763	2	1	6	11	37	10	1	1	2	3,333	10	14	33	2	1	389	2	2	6	3	33	211	7,794	100.0
比率（%）	17.1	6.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.1	0.0	0.1	15.9	9.8	0.0	0.0	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0	0.0	0.0	42.8	0.1	0.2	0.4	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.4	2.7	100.0	

疾病統計

55. 退院患者の疾患内訳　(ICD10コードによる大分類)

平成31年4月1日～令和2年3月31日　　(単位：人)

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主病			副病		
		男	女	計	男	女	計
感染症及び寄生虫症	A00－B99	113	127	240	225	268	493
新生物	C00－D48	1,463	938	2,401	798	757	1,555
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障	D50－D89	27	48	75	221	264	485
内分泌,栄養及び代謝疾患	E00－E90	188	199	387	1,662	1,456	3,118
精神及び行動の障害	F00－F99	54	95	149	232	313	545
神経系の疾患	G00－G99	259	362	621	407	528	935
眼及び付属器の疾患	H00－H59	966	1,556	2,522	95	146	241
耳及び乳様突起の疾患	H60－H95	27	80	107	21	19	40
循環器系の疾患	I00－I99	1,081	941	2,022	2,243	2,232	4,475
呼吸器系の疾患	J00－J99	447	435	882	638	478	1,116
消化器系の疾患	K00－K93	631	762	1,393	910	927	1,837
皮膚及び皮下組織の疾患	L00－L99	60	74	134	114	134	248
筋骨格系及び結合組織の疾患	M00－M99	172	327	499	308	634	942
腎尿路生殖器系の疾患	N00-N99	245	279	524	640	568	1,208
妊娠，分娩及び産じょく	O00-O99	0	0	0	0	0	0
先天性奇形,変形及び染色体異常	Q00-Q99	2	5	7	12	10	22
症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99	10	7	17	396	476	872
損傷，中毒及びその他の外因の影響	S00-T98	136	305	441	177	261	438
傷病及び死亡の外因	V01-Y98	0	0	0	0	0	0
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	Z00-Z99	9	4	13	1,004	1,692	2,696
合　　計		5,890	6,544	12,434	10,103	11,163	21,266

〔内訳〕　（ICD10コード中分類）

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主病 男	主病 女	主病 計	副病 男	副病 女	副病 計
感染症及び寄生虫症	A00－B99	113	127	240	225	268	493
腸管感染症		43	54	97	31	49	80
結核		4	6	10	14	14	28
主として性的伝播様式をとる感染症		3	0	3	2	4	6
皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症		12	14	26	12	31	43
ウイルス性肝炎		2	2	4	26	42	68
その他のウイルス疾患		1	2	3	9	7	16
真菌症		5	3	8	42	39	81
感染症及び寄生虫症の続発・後遺症		0	0	0	7	5	12
その他の感染症及び寄生虫症		43	46	89	82	77	159
新生物<腫瘍＞	C00－D48	1,463	938	2,401	798	757	1,555
胃の悪性新生物＜腫瘍＞		129	73	202	77	98	175
結腸の悪性新生物＜腫瘍＞		121	150	271	144	187	331
直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物＜腫瘍＞		59	16	75	15	11	26
肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞		41	15	56	21	7	28
気管,気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞		206	119	325	53	50	103
乳房の悪性新生物＜腫瘍＞		1	37	38	0	21	21
子宮の悪性新生物＜腫瘍＞		0	8	8	0	4	4
悪性リンパ腫		88	66	154	15	14	29
白血病		78	55	133	17	23	40
その他の悪性新生物＜腫瘍＞		478	172	650	344	201	545
良性新生物＜腫瘍＞及びその他の新生物＜腫瘍＞		262	227	489	112	141	253
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	D50－D89	27	48	75	221	264	485
貧血		15	35	50	162	210	372
その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害		12	13	25	59	54	113

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主病			副病		
		男	女	計	男	女	計
内分泌,栄養及び代謝疾患	E00－E90	188	199	387	1,662	1,456	3,118
甲状腺障害		2	3	5	63	124	187
糖尿病		131	124	255	797	578	1,375
脂質異常症		0	1	1	433	409	842
その他の内分泌,栄養及び代謝障害		55	71	126	369	345	714
精神及び行動の障害	F00－F99	54	95	149	232	313	545
血管性及び詳細不明の認知症		17	27	44	162	211	373
精神作用物質使用による精神及び行動の障害		3	1	4	17	4	21
統合失調症,統合失調症型障害及び妄想性障害		7	16	23	22	13	35
気分［感情］障害（躁うつ病を含む）		24	45	69	22	50	72
神経症性障害,ストレス関連障害及び身体表現性障害		3	6	9	4	32	36
知的障害＜精神遅滞＞		0	0	0	3	0	3
その他の精神及び行動の障害		0	0	0	2	3	5
神経系の疾患	G00－G99	259	362	621	407	528	935
パーキンソン病		39	40	79	61	78	139
アルツハイマー病		26	35	61	93	175	268
てんかん		20	22	42	38	36	74
脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群		1	0	1	4	10	14
自律神経系の障害		15	11	26	3	8	11
その他の神経系の疾患		158	254	412	208	221	429
眼及び付属器の疾患	H00－H59	966	1,556	2,522	95	146	241
結膜炎		0	1	1	1	3	4
白内障		694	1,348	2,042	46	71	117
屈折及び調節の障害		0	0	0	1	0	1
その他の眼及び付属器の疾患		272	207	479	47	72	119
耳及び乳様突起の疾患	H60－H95	27	80	107	21	19	40
外耳炎		1	0	1	1	0	1
その他の外耳疾患		0	1	1	1	0	1

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10コードNo.	主病			副病		
		男	女	計	男	女	計
中耳炎		2	8	10	3	3	6
その他の中耳及び乳様突起の疾患		0	0	0	0	1	1
メニエール病		2	3	5	0	2	2
その他の内耳疾患		13	57	70	7	5	12
その他の耳疾患		9	11	20	9	8	17
循環器系の疾患	I00－I99	1,081	941	2,022	2,243	2,232	4,475
高血圧性疾患		8	16	24	734	756	1,490
虚血性心疾患		329	151	480	276	198	474
その他の心疾患		239	357	596	695	833	1,528
くも膜下出血		1	6	7	0	6	6
脳内出血		44	22	66	18	9	27
脳梗塞		112	127	239	81	60	141
脳動脈硬化（症）		29	7	36	58	27	85
その他の脳血管疾患		9	26	35	6	9	15
動脈硬化（症）		136	55	191	71	38	109
低血圧（症）		7	1	8	19	23	42
その他の循環器系の疾患		167	173	340	285	273	558
呼吸器系の疾患	J00－J99	447	435	882	638	478	1,116
急性鼻咽頭炎[かぜ]＜感冒＞		0	1	1	2	0	2
急性咽頭炎及び急性扁桃炎		4	3	7	2	1	3
その他の急性上気道感染症		17	17	34	7	14	21
肺炎		197	203	400	107	101	208
急性気管支炎及び急性細気管支炎		7	23	30	6	8	14
アレルギー性鼻炎		0	0	0	5	7	12
慢性副鼻腔炎		10	6	16	10	10	20

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主病			副病		
		男	女	計	男	女	計
急性又は慢性と明示されない気管支炎		8	9	17	3	9	12
慢性閉塞性肺疾患		8	5	13	120	37	157
喘息		1	11	12	45	74	119
その他の呼吸器系の疾患		195	157	352	331	217	548
消化器系の疾患	K00－K93	631	762	1,393	910	927	1,837
う蝕		5	3	8	4	4	8
歯肉炎及び歯周疾患		9	10	19	11	16	27
その他の歯及び歯の支持組織の障害		14	19	33	21	10	31
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍		11	19	30	35	25	60
胃炎及び十二指腸炎		32	72	104	104	86	190
痔核		15	57	72	44	59	103
アルコール性肝疾患		12	5	17	14	5	19
慢性肝炎（アルコール性のものを除く）		4	3	7	8	10	18
肝硬変（アルコール性のものを除く）		3	11	14	17	26	43
その他の肝疾患		13	12	25	58	64	122
胆石症及び胆のう炎		73	85	158	45	46	91
膵疾患		21	8	29	21	19	40
その他の消化器系の疾患		419	458	877	528	557	1,085
皮膚及び皮下組織の疾患	L00－L99	60	74	134	114	134	248
皮膚及び皮下組織の感染症		30	29	59	21	16	37
皮膚炎及び湿疹		6	4	10	42	34	76
その他の皮膚及び皮下組織の疾患		24	41	65	51	84	135
筋骨格系及び結合組織の疾患	M00－M99	172	327	499	308	634	942
炎症性多発性関節障害		22	54	76	51	134	185
関節症		32	130	162	14	42	56
脊椎障害（脊椎症を含む）		57	60	117	81	72	153
椎間板障害		6	5	11	3	3	6

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主病			副病		
		男	女	計	男	女	計
頚腕症候群		0	0	0	0	1	1
腰痛症及び坐骨神経痛		2	11	13	11	17	28
その他の脊柱障害		0	2	2	2	1	3
肩の傷害＜損傷＞		0	0	0	1	2	3
骨の密度及び構造の障害		2	0	2	44	209	253
その他の筋骨格系及び結合組織の疾患		51	65	116	101	153	254
腎尿路生殖器系の疾患	N00-N99	245	279	524	640	568	1,208
糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患		48	63	111	36	41	77
腎不全		83	76	159	326	282	608
尿路結石症		8	15	23	5	14	19
その他の腎尿路系の疾患		73	122	195	104	221	325
前立腺肥大（症）		22	0	22	166	0	166
その他の男性生殖器の疾患		11	0	11	3	0	3
月経障害及び閉経周辺期障害		0	0	0	0	1	1
乳房及びその他の女性生殖器の疾患		0	3	3	0	9	9
妊娠，分娩及び産じょく	O00-O99	0	0	0	0	0	0
その他の妊娠，分娩及び産じょく		0	0	0	0	0	0
先天性奇形,変形及び染色体異常	Q00-Q99	2	5	7	12	10	22
心臓の先天奇形		0	4	4	2	2	4
その他の先天奇形，変形及び染色体異常		2	1	3	10	8	18
症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99	10	7	17	396	476	872
損傷，中毒及びその他の外因の影響	S00-T98	136	305	441	177	261	438
骨折		62	209	271	43	118	161
頭蓋内損傷及び内臓の損傷		18	13	31	12	12	24
熱傷及び腐食		1	3	4	2	1	3
中毒		2	3	5	1	1	2
その他の損傷及びその他の外因の影響		53	77	130	119	129	248
傷病及び死亡の外因	V01-Y98	0	0	0	0	0	0
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	Z00-Z99	9	4	13	1,004	1,692	2,696

56. 退院患者の悪性新生物患者数内訳　（ICD10コードによる中分類）

平成31年4月1日～令和2年3月31日　（単位：人）

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10コードNo.	主病			副病		
		男	女	計	男	女	計
口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	C00－C14	19	10	29	8	6	14
消化器の悪性新生物＜腫瘍＞	C15－C26	544	329	873	310	329	639
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞	C30－C39	211	123	334	56	51	107
骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞	C40－C41	1	0	1	0	0	0
皮膚の黒色腫及びその他の皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞	C43－C44	1	7	8	0	0	0
中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞	C45－C49	2	3	5	0	3	3
乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	C50－C50	1	37	38	0	21	21
女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞	C51－C58	0	12	12	0	8	8
男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞	C60－C63	125	0	125	69	0	69
腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞	C64－C68	93	39	132	29	11	40
眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物＜腫瘍＞	C69－C72	1	1	2	0	1	1
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞	C73－C75	2	0	2	4	1	5
部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞	C76－C80	30	22	52	175	146	321
リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞、原発と記載された又は推定されたもの	C81－C96	168	123	291	33	38	71
独立した（原発性）多部位の悪性新生物＜腫瘍＞	C97－C97	0	0	0	0	0	0
上皮内新生物＜腫瘍＞	D00－D09	3	5	8	2	1	3
合　　計		1,201	711	1,912	686	616	1,302

〔内訳〕　（ICD10コード中分類）

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主病			副病		
		男	女	計	男	女	計
口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍＞	C00－C14	19	10	29	8	6	14
口唇の悪性新生物＜腫瘍＞		1	0	1	0	0	0
舌根〈基底〉部の悪性新生物＜腫瘍＞		2	0	2	0	0	0
舌のその他及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞		8	5	13	2	2	4
歯肉の悪性新生物＜腫瘍＞		2	1	3	0	1	1
口（腔）底の悪性新生物＜腫瘍＞		0	1	1	0	0	0
口蓋の悪性新生物＜腫瘍＞		1	1	2	0	0	0
その他及び部位不明の口腔の悪性新生物＜腫瘍＞		0	1	1	0	1	1
耳下腺の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	1	1
その他及び部位不明の大唾液腺の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
扁桃の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
中咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞		2	1	3	3	0	3
鼻〈上〉咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
梨状陥凹〈洞〉の悪性新生物＜腫瘍＞		1	0	1	0	0	0
下咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞		1	0	1	3	1	4
その他及び部位不明確の口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞		1	0	1	0	0	0
消化器の悪性新生物＜腫瘍＞	C15－C26	544	329	873	310	329	639
食道の悪性新生物＜腫瘍＞		43	9	52	20	8	28
胃の悪性新生物＜腫瘍＞		129	73	202	77	98	175
小腸の悪性新生物＜腫瘍＞		1	0	1	2	0	2
結腸の悪性新生物＜腫瘍＞		121	150	271	144	187	331
直腸Ｓ状結腸移行部の悪性新生物＜腫瘍＞		14	5	19	3	0	3
直腸の悪性新生物＜腫瘍＞		45	11	56	12	11	23
肛門及び肛門管の悪性新生物＜腫瘍＞		0	2	2	0	0	0
肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞		41	15	56	21	7	28
胆のう〈嚢〉の悪性新生物＜腫瘍＞		13	6	19	5	3	8
その他及び部位不明の胆道の悪性新生物＜腫瘍＞		53	11	64	15	7	22

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主病			副病		
		男	女	計	男	女	計
膵の悪性新生物＜腫瘍＞		83	46	129	11	8	19
その他及び部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞		1	1	2	0	0	0
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞	C30－C39	211	123	334	56	51	107
鼻腔及び中耳の悪性新生物＜腫瘍＞		0	1	1	0	0	0
副鼻腔の悪性新生物＜腫瘍＞		1	0	1	0	0	0
喉頭の悪性新生物＜腫瘍＞		3	0	3	3	0	3
気管の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞		206	119	325	53	50	103
胸腺の悪性新生物＜腫瘍＞		1	3	4	0	0	0
心臓、縦隔及び胸膜の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	1	1
その他及び部位不明確の呼吸器系及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞	C40－C41	1	0	1	0	0	0
（四）肢の骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
その他及び部位不明の骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞		1	0	1	0	0	0
皮膚の黒色腫及びその他の皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞	C43－C44	1	7	8	0	0	0
皮膚の悪性黒色腫		0	0	0	0	0	0
皮膚のその他の悪性新生物＜腫瘍＞		1	7	8	0	0	0
中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞	C45－C49	2	3	5	0	3	3
中皮腫		2	0	2	0	0	0
カポジ〈kaposi〉肉腫		0	0	0	0	0	0
末梢神経及び自律神経系の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
後腹膜及び腹膜の悪性新生物＜腫瘍＞		0	3	3	0	1	1
その他の結合組織及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	2	2
乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	C50	1	37	38	0	21	21
乳房の悪性新生物＜腫瘍＞		1	37	38	0	21	21

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主病			副病		
		男	女	計	男	女	計
女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞	C51－C58	0	12	12	0	8	8
外陰（部）の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	1	1
膣の悪性新生物＜腫瘍＞		0	1	1	0	0	0
子宮頚部の悪性新生物＜腫瘍＞		0	1	1	0	0	0
子宮体部の悪性新生物＜腫瘍＞		0	4	4	0	4	4
子宮の悪性新生物＜腫瘍＞、部位不明		0	3	3	0	0	0
卵巣の悪性新生物＜腫瘍＞		0	3	3	0	2	2
その他及び部位不明の女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	1	1
胎盤の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞	C60－C63	125	0	125	69	0	69
陰茎の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
前立腺の悪性新生物＜腫瘍＞		122	0	122	69	0	69
精巣〈睾丸〉の悪性新生物＜腫瘍＞		3	0	3	0	0	0
その他及び部位不明の男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞	C64－C68	93	39	132	29	11	40
腎盂を除く腎の悪性新生物＜腫瘍＞		16	1	17	11	4	15
腎盂の悪性新生物＜腫瘍＞		6	10	16	4	1	5
尿管の悪性新生物＜腫瘍＞		14	2	16	3	2	5
膀胱の悪性新生物＜腫瘍＞		57	26	83	11	4	15
その他及び部位不明の尿路の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物＜腫瘍＞	C69－C72	1	1	2	0	1	1
眼及び付属器の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
髄膜の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
脳の悪性新生物＜腫瘍＞		1	1	2	0	1	1
脊髄、脳神経及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主病			副病		
		男	女	計	男	女	計
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞	C73－C75	2	0	2	4	1	5
甲状腺の悪性新生物＜腫瘍＞		2	0	2	3	1	4
副腎の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
その他の内分泌腺及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	1	0	1
部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞	C76－C80	30	22	52	175	146	321
その他及び部位不明確の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
リンパ節の続発性及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞		1	2	3	19	12	31
呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物＜腫瘍＞		7	3	10	103	76	179
その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物＜腫瘍＞		14	4	18	51	48	99
悪性新生物＜腫瘍＞，部位が明示されていないもの		8	13	21	2	10	12
リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞，原発と記載された又は推定されたもの	C81－C96	168	123	291	33	38	71
ホジキン＜Hodgkin＞リンパ腫		0	7	7	0	2	2
ろ〈濾〉胞性リンパ腫		1	7	8	2	1	3
非ろ〈濾〉胞性リンパ腫		62	31	93	8	4	12
成熟T/NK細胞リンパ腫		1	0	1	0	1	1
非ホジキン＜non-Hodgkin＞リンパ腫のその他及び詳細不明の型		22	13	35	5	6	11
T/NK細胞リンパ腫のその他の明示された型		2	8	10	0	0	0
悪性免疫増殖性疾患		2	2	4	1	1	2
多発性骨髄腫及び悪性形質細胞性新生物＜腫瘍＞		16	24	40	2	12	14
リンパ性白血病		6	10	16	2	1	3
骨髄性白血病		48	18	66	12	9	21
単球性白血病		2	2	4	0	0	0
細胞型の明示されたその他の白血病		3	0	3	0	1	1
細胞型不明の白血病		3	1	4	1	0	1
リンパ組織、造血組織及び関連組織のその他及び詳細不明の悪性新生物＜腫瘍＞		0	0	0	0	0	0
独立した（原発性）多部位の悪性新生物＜腫瘍＞	C97	0	0	0	0	0	0

第三部　研 究 部 門

（令和元年度　活動報告）

Ⅰ　チ ー ム 研 究 等

チーム研究

研究系	研究チーム名	研　究　テ　ー　マ	チ ー ム リーダー
自然科学系	老化機構	分子機構 プロテオーム システム加齢医学	井上聡
	老化制御	分子老化制御 生体調節機能	石神昭人
	老化脳神経科学	自律神経機能 記憶神経科学	遠藤昌吾
	老年病態	心血管老化再生医学 筋老化再生医学 運動器医学	重本和宏
	老年病理学	高齢者がん 神経病理学	石渡俊行
	神経画像	PET薬剤科学 PET画像診断	石井賢二
社会科学系	社会参加と地域保健	社会参加・社会貢献 ヘルシーエイジングと地域保健 大都市高齢者基盤	藤原佳典
	自立促進と精神保健	フレイルと筋骨格系の健康 口腔保健と栄養 認知症と精神保健	粟田主一
	福祉と生活ケア	介護予防 医療・介護システム 介護・エンドオブライフ	石崎達郎

老化機構研究チーム

チームリーダー：井上聡

研究チームの概要・目的

チームは、分子機構・プロテオーム・システム加齢医学研究の 3 テーマから構成される。分子機構研究は糖鎖、プロテオーム研究はタンパク質、システム加齢医学研究は性ホルモン作用および代謝経路に着目し、老化および老化関連疾患のメカニズムの解明および新たな診断・治療法の開発を目指している。これらの実現に向け、先進的な方法論、概念を取り入れた基礎・応用研究を進めるとともに、基盤技術を提供し、高齢者の健康増進、健康長寿に寄与することを目的とする。

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

分子機構

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度	2021 年度	2022 年度
(1) 認知症における糖鎖機能の解明	アミロイド前駆体タンパク質(APP)代謝における糖鎖の役割を明らかにすることを目標とする。	糖鎖遺伝子のクローニングと、導入細胞の作製。 APP代謝関連分子の糖鎖解析条件の検討。	糖鎖遺伝子の機能および遺伝子改変によるAPP代謝変化の解析。遺伝子改変細胞におけるAPP代謝関連分子の糖鎖解析。	糖鎖遺伝子の機能および遺伝子改変によるAPP代謝変化の解析。モデルマウス脳検体を用いた糖鎖解析条件の検討。	糖鎖変化の解析とAPP代謝への影響の解析。 モデルマウス脳検体におけるAPP代謝関連分子の糖鎖解析。	糖鎖変化の解析とAPP代謝への影響の解析。 ブレインバンク検体におけるAPP代謝関連分子の糖鎖解析。
(2) 老化および老化疾患に関連する糖鎖機能の解明	加齢や老化関連疾患における糖鎖変化を詳細に解析し、加齢に伴う機能低下や疾患の要因となる糖鎖変化を特定することを目標とする。	Klotho欠損による肺の糖鎖異常の解析。 *O*-マンノース型糖鎖合成酵素の機能解析。	加齢による糖鎖変化の解析と疾患に伴う糖鎖変化の比較解析。 *O*-マンノース型糖鎖分析法の開発。	加齢による糖鎖変化と疾患との関係の解析。 *O*-マンノース型糖鎖検出法の開発。	糖鎖変化によるタンパク質および細胞機能への影響の解析。 *O*-マンノース型糖鎖構修飾タンパク質の探索。	糖鎖変化による機能変化への影響の解析。 *O*-マンノース型糖鎖構発現制御と加齢の関係の解析。

プロテオーム

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度	2021 年度	2022 年度
老化関連疾患の病態解明とバイオマーカー探索	糖尿病の合併症（糖尿病性腎症及び糖尿病性認知症）やフレイルについて、独自に開発した翻訳後修飾プロテオミクスや縦断プロテオミクスによる病態の解明とバイオマーカーの開発を目指す。	糖尿病合併症のプロテオーム解析。 ミトコンドリア機能制御因子の探索。	糖尿病合併症のプロテオーム解析。 ミトコンドリア機能制御因子の探索。	糖尿病合併症のプロテオーム解析。 フレイルのプロテオーム解析。 ミトコンドリア機能制御因子の探索。	フレイルのプロテオーム解析。 ミトコンドリア機能制御因子の探索。	病態メカニズムの解明。 バイオマーカー候補の策定。

健康長寿と糖鎖に関する研究	糖ペプチドを対象としたSALSA法を開発すると共に、横断的・縦断的アプローチから健康長寿に特徴的な糖鎖・糖ペプチドを明らかにし、糖鎖を介した健康管理システムの開発を目指す。	横断的アプローチによる糖鎖解析。 SALSA-糖ペプチド法の開発。	縦断的アプローチによる糖鎖解析。 糖鎖リモデリングマウスの解析。 SALSA-糖ペプチド法の開発。	縦断的アプローチによる糖鎖解析。 糖鎖リモデリングマウスの解析。 SALSA-糖ペプチド法の開発。	糖鎖リモデリングマウスの解析。 SALSA-糖ペプチド法の応用。	健康長寿糖鎖の生物学的意義の解明。

システム加齢医学

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度	2021 年度	2022 年度
(1A) 性ホルモンのロコモティブ症候群における役割の解明	性ホルモン応答遺伝子および関連因子の骨・筋肉等における作用について臨床データを考慮しながら細胞・動物モデルを活用して解析する。	骨・筋肉細胞を用いて性ホルモン受容体の発現解析、受容体を高発現する株の樹立と解析を行う。	性ホルモンの標的遺伝子・関連因子を系統的に同定する。	性ホルモン関連因子の遺伝子改変細胞・動物の作成を行うとともに、機能解析を進める。	遺伝子改変動物の表現型を解析する。老化モデルマウスにおいて、標的遺伝子の機能を解析する。	ヒト臨床検体を用いた臨床応用について検討し、細胞・動物レベルでの結果と比較する。
(1B) ミトコンドリア呼吸鎖超複合体の健康長寿における役割の解明	エストロゲン応答遺伝子COX7RPがミトコンドリア呼吸鎖超複合体形成促進因子であることを手掛かりとして、ミトコンドリア呼吸鎖超複合体とロコモティブ症候群、健康長寿との関連を解析する。	ミトコンドリア呼吸鎖複合体構成蛋白の可視化を行う。	複合体構成蛋白同士の相互作用の可視化と空間定量化を行う。	超複合体形成促進因子の遺伝子改変細胞・動物の作成を行う。	複数の複合体形成促進因子の相互作用の解析を行う。	遺伝子改変動物の表現型および寿命を評価する。
(2) ホルモン依存性がんにおける性ホルモンシグナルと治療抵抗性メカニズムの解明	前立腺がん、乳がん等のホルモン依存性がんに対し、システム医学・生物学の手法を活用し、悪性化・治療抵抗性メカニズムを解明する。	ホルモン作用標的とホルモン療法耐性候補因子の同定を行う。	ホルモン作用とホルモン療法耐性の候補因子の機能解析を行う。	患者由来のがん細胞との比較解析を行う。	動物モデルを用いた治療効果の評価を行い、比較検討を行う。	ヒト臨床サンプルを用い、細胞・動物レベルとの比較検証を行う。

分子機構

構成メンバー

テーマリーダー：萬谷博

研究員：赤阪啓子、今江理恵子

1　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

年度別研究計画に沿って順調に進捗している。

【その根拠】

① 認知症における糖鎖機能の解明

これまでに、O型糖鎖修飾酵素GALNTファミリーがアミロイド前駆体タンパク質（APP）のO型糖鎖修飾を介してアミロイドβ（Aβ）の産生に影響することを報告していることから、そのメカニズムを解明するため、昨年度よりGALNTとAPPの安定共発現細胞の作製を進めている。GALNT遺伝子は約20個のアイソフォームが報告されており、複数のアイソフォームの相互作用が必要な場合もあることから、AD脳で変化が認めら

れたアイソフォーム中心にクローニングを進めている。また、APPのO型糖鎖修飾部位の変異体を作製し、O型糖鎖修飾が部分的に修飾されない場合の影響についての解析を始めた。

② 老化および老化疾患に関連する糖鎖機能の解明

・α-Klotho欠損により肺のADAM17(マトリクスメタロプロテアーゼ)が減少し、その結果、抗炎症作用をもつヘパラン硫酸の分泌が低下することで肺気腫の増悪化に関与することが示された。このADAM17の減少は自然老化マウスとビタミンC欠損老化モデルでも確認され、老化による肺気腫のメカニズムの一端が明らかとなった。(論文2, 学会発表1,4,7,8,13)。

・O-マンノース(O-Man)型糖鎖合成酵素の一つであるFKRP(先天性筋ジストロフィー小原因遺伝子産物)の結晶構造を解明し、患者変異による機能異常のメカニズムを明らかにした(論文1)。最近我々は哺乳類にCDP-リビトール(CDP-Rbo)とCDP-グロセロール(CDP-Gro)が存在することを明らかにし、これらがO-マンノース型糖鎖合成の原料になることを報告してきた。本年度は組織中のCDP-RboとCDP-Groの定量解析法を開発した(学会発表10, 11)。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜認知症における糖鎖機能の解明＞

【センター内】老化機構研究チーム(プロテオーム)、老年病理学研究チーム(神経病理学)、ブレインバンク

【センター外】福島県立医科大学、首都大学東京

＜老化および老化疾患に関連する糖鎖機能の解明＞

【センター内】老化機構研究チーム(システム加齢医学、プロテオーム)、老化制御研究チーム(分子老化)、老年病態研究チーム(運動器医学、心血管老化再生医学、筋老化再生医学)

【センター外】神戸薬科大学、京都大学、精神神経センター、東京大学、神戸大学、奈良医科大学、岡山大学、中部大学、東京薬科大学、東京大学、京都大学、三重大学、北海道大学、帝京大学、名古屋大学、高エネルギー加速器研究機構、理化学研究所、杏林大学、野口研究所、東海大学、鳥取大学、北京大学、Radboud 大学、Baylor大学

3 その他

(1) 2019年度「きぼう」利用マウスサンプルシェアテーマ「マルチオミクスによる微小重力／老化関連因子の同定」, 宇宙航空研究開発機構(JAXA)に採択(萬谷)

(2) 2019年度 日本老年医学会総会優秀合同ポスター賞受賞(萬谷)
受賞課題「加齢による・-Klothoの減少と肺気腫との関連」

(3) プレスリリース1件：筋ジストロフィー症に関わる糖鎖を合成する仕組みを解明(2020. 1.17)

(4) 154回老年学・老年医学公開講座「知っておきたい筋肉のこと：基礎から疾患まで」(萬谷)

(5) 所内セミナー開催(2019.9.17)海外研究者(コペンハーゲン大)と国内研究者(神戸大学)を招致してセミナーを開催.“Glycoengineering using GlycoCRISPR toolbox”,“ジストログリカン異常症の発症メカニズムと治療戦略”

(6) 学会活動や招待講演などにより基礎研究の発展に貢献し、研究機関としての東京都健康長寿医療センターの知名度にも貢献している。日本糖質学会評議員(萬谷)、日本薬学会ファルマシア委員(萬谷)、日本基礎老化学会評議委員(萬谷)シンポジウム座長：第42回日本基礎老化学会「老化モデル動物」(萬谷)招待講演：長寿研セミナー「糖鎖異常と疾患」(萬谷)

(7) 連携大学院の教員を兼任し、外部研究生を積極的に受け入れ、若手研究者の育成および研究テーマの推進力増加に努めている。(令和2年度:研究生2名)東京農工大学連携大学院客員教授(萬谷)、明治薬科大学客員教授(萬谷)

プロテオーム

構成メンバー

テーマリーダー：三浦ゆり

研究員：津元裕樹、梅澤啓太郎、川上恭司郎

1　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

研究項目A. 老化関連疾患の病態解明とバイオマーカー探索

①糖尿病性腎症の病態解明

ヒト腎組織のホルマリン固定パラフィン包埋（FFPE）切片をサンプルとして用い、独自に開発した分析手法による糖尿病性腎症の病因・病態解明を目的とする。本年度、プロテオーム解析により糖尿病性腎症群で変動するタンパク質を同定した。また、N-結合型糖鎖解析にも着手した。

②ミトコンドリア機能制御因子の探索

近年新たに発見された生体内硫黄化合物（多硫化物質：R-Sn-SH群）に着目し、これらの関与するミトコンドリア内の新しい抗酸化機構の解明ならびにミトコンドリア機能制御因子の探索を行うことを目的とする。本年度は、タンパク質の翻訳後修飾のひとつである多硫化修飾に着目し、多硫化修飾されたタンパク質の検出法を確立するうえで重要な、化学標識分子の合成に着手した。

③細胞外小胞に着目したバイオマーカー探索

細胞外小胞に含まれるタンパク質に着目し、バイオマーカーを探索してその検出システムを構築することを目的とする。本年度は細胞外小胞上の前立腺特異的膜抗原（PSMA）の検出システムを構築し、その臨床的有用性を検証した。

④長期縦断研究(SONIC)による糖尿病認知症のバイオマーカー探索

SONIC縦断研究の検体を用いて、糖尿病患者の認知機能低下を早期に発見するためのバイオマーカーを策定することを目的とする。本年度は、解析対象の血漿サンプルについて蛍光標識二次元電気泳動法によるプロテオーム解析を行い、バイオマーカー候補タンパク質を明らかにした。

研究項目B. 健康長寿と糖鎖

⑤SALSA-糖ペプチド解析法の開発

シアル酸結合異性体を識別する化学誘導体化法（SALSA）を糖ペプチド解析に発展させ、シアル酸結合様式まで含めたグライコプロテオミクスを可能とする新規分析法の開発・応用を目的とする（島津製作所との共同研究）。本年度は、SALSAの特徴的なフラグメントイオンを検出することでα2,3-またはα2,6-結合シアル酸を有する糖ペプチドを容易に区別・検出することに成功し、特許出願を行った（島津製作所との共同出願）。また、ヒト血漿由来タンパク質を用い、N-結合型糖ペプチド解析法を確立した。

⑥超百寿糖鎖リモデリングマウスの作製と解析

超百寿者に特徴的な糖鎖を多く持つ「超百寿糖鎖リモデリングマウス」を作製し、これらの糖鎖の生物学的役割を明らかにすることを目的とする。今年度はまず、超百寿糖鎖リモデリングマウスを作製するため、N-結合型糖鎖の分岐に関与しているN-アセチルグルコサミン転移酵素V（GnT-V)に着目し、そのトランスジェニックマウスの飼育に着手した。

【その根拠】

研究項目A. 老化関連疾患の病態解明とバイオマーカー探索

①糖尿病性腎症の病態解明

糖尿病性腎症群（8例、80±6歳）及び糖尿病性非腎症群（7例、84±8歳）のFFPE切片から抽出したタンパク質を用い、LC-MS/MSを基盤とする網羅的なタンパク質発現比較解析を行い、腎症群で増加あるいは減少するタンパク質を明らかにした（学会発表（国内）：4)。また、SALSAを用いたN-結合型糖鎖解析を行い、MALDI-MSおよびLC-MS/MSによる糖鎖プロファイルを取得した。現在、これらのデータを用いた多変量解析を検討している。

②ミトコンドリア機能制御因子の探索

多硫化構造への選択的な化学標識を志向した候補分子を合成した。さらに、分子内にビオチンを導入した化合物を合成し、多硫化修飾タンパク質の蛍光標識やストレプトアビジンビーズによる濃縮を実施した（学会発表（国内）：1)。

③細胞外小胞に着目したバイオマーカー探索

細胞外小胞上のPSMAの検出システムを構築し、前立腺がん患者血清を用いて臨床的有用性を検証したところ、前立腺肥大や前立腺がんに比較して、転移性去勢抵抗性前立腺がんで有意に高値を示すことを見出した。現在、特許出願した。

④長期縦断研究(SONIC)による糖尿病認知症のバイオマーカー探索
6年間にわたるSONIC調査において、糖尿病の背景があり(HbA1C ≥ 6.5%)かつ認知機能（MoCA-Jスコア）が3年後、6年後の調査で連続的に低下した解析対象者について、初回調査と6年後の調査における血しょうプロテオームの比較を行った。その結果、糖尿病認知機能低下に伴って変動する33種類のバイオマーカー候補タンパク質を明らかにした(学会発表（国内）：9)。

研究項目B. 健康長寿と糖鎖
⑤SALSA-糖ペプチド解析法の開発
ヒト血漿由来タンパク質の酵素消化物を用いてSALSAによる誘導体化を行い、LC-MS/MSおよびデータベース検索によりα2,3-またはα2,6-結合シアル酸を区別してN-およびO-結合型糖ペプチドを同定できること、さらに同じ修飾部位を占める糖鎖の割合を算出できることを実証した（学会発表（国内）：7)。
⑥超百寿糖鎖リモデリングマウスの作製と解析
阪大・三善教授よりGnT-Vトランスジェニックマウス凍結胚の供与を受け、飼育を始めた。

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携
＜老化関連疾患の病態解明とバイオマーカー探索＞
【センター内】福祉と生活ケア研究チーム（医療・介護システム)、自立促進と精神保健研究チーム（認知症と精神保健)、病理診断科、糖尿病・代謝・内分泌内科
【センター外】杏林大学、東京大学大学院、岐阜大学、帝京大学、大阪大学大学院、慶応義塾大学
＜健康長寿と糖鎖に関する研究＞
【センター内】実験動物施設
【センター外】島津製作所、大阪大学大学院、慶應義塾大学
＜糖供与体の分析法の開発＞
【センター内】老化機構研究チーム（分子機構）
＜ヒト血中MuSKタンパク質の探索研究＞
【センター内】老年病態研究チーム（運動器医学)
＜プロテオーム解析による心筋老化機序の解明＞
【センター内】循環器内科、病理診断科
【センター外】東京医科歯科大学
＜脂肪組織における新規肥満応答因子WWP1の機能解析＞
【センター外】東京理科大学大学院
＜脱メチル化酵素阻害剤の開発＞
【センター外】京都府立医科大学
＜プロテオーム情報を基盤とした放射線感受性メカニズム解析＞
【センター外】東京大学大学院
＜神経突起における酸化ストレス応答の解析＞
【センター外】芝浦工業大学大学院
＜細胞外小胞を用いた診断法開発＞
【センター外】富士フイルム和光純薬
＜精製タンパク質の解析＞
【センター外】名古屋市立大学大学院
＜抗がん剤による心毒性のバイオマーカー探索＞
【センター外】国立医薬品食品衛生研究所
＜光遺伝学を用いたタンパク質の網羅的解析＞
【センター外】東京大学大学院
＜唾液エクソソームのプロテオーム解析＞
【センター外】帝京平成大学大学院
＜スプライシング調節によるエネルギー代謝を介した寿命制御＞
【センター外】首都大学東京大学院

３　その他

○「プロテオーム」は、タンパク質の網羅的解析に関する分析技術の他にも、翻訳後修飾などのタンパク質に関する様々な分析を行う装置と技術を有しており、これらを研究所内外の共同研究に供している。令和元年度は、プロテオーム解析の技術支援として、13件の共同研究を行った。

○外部研究生を積極的に受け入れ、若手研究者の育成と研究テーマの推進力増加に努めている。（令和元年度:連携大学院生 3名）

システム加齢医学

構成メンバー

テーマリーダー：井上聡

研究員：高山賢一、東浩太郎

１　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

・加齢性疾患と性ホルモンに関するプロジェクトに関しては、ホルモン応答遺伝子等の遺伝子改変動物の作成および表現型の解析に加え、メカニズムの解明が進んでおり、順調に進行している。
・ミトコンドリア呼吸鎖複合体の研究に関しては、複合体の評価系を確立して順調に進行している。
・ミトコンドリア呼吸鎖超複合体と老化・長寿に関する研究が進んでいる。
・前立腺がんの研究に関しては、ホルモン療法および化学療法耐性にかかわる因子を同定、メカニズムの解明を行い、順調に進行している。
・乳がん研究に関しては、新たな診断・治療の標的を同定するとともに、そのメカニズムの解析が進んでおり、順調に進行している。
・患者由来のがん細胞を用いた実験系を確立し、順調に進行している。
・他部門との連携に関しては、当センターの臨床部門およびセンター内外・国内外の共同研究グループと共同して、ホルモン応答遺伝子とがん、およびロコモティブ症候群に関するプロジェクトを準備・推進しており、順調な進捗状況である。

【その根拠】

・エストロゲン応答遺伝子EBAG9を欠損するマウスにおいて、マイクロCTを用いて大腿骨の計測を行い、各種パラメータの変化に関する結果を得た。
・性ホルモンと老化関連疾患に関して、APPのメッセンジャーRNAがアンドロゲンにより誘導され、転写後にRNA結合蛋白質PSFにより制御を受けることを見出し、論文発表を行った。
・筋老化に関する臨床研究計画が倫理委員会における承認を受け、研究を開始している。
・ミトコンドリア呼吸鎖複合体構成因子に蛍光タンパク質を付加したタンパク質によるモデル系を作成し、評価系を確立した。
・前立腺がんに関しては、治療抵抗性克服が大きな課題であり、去勢抵抗性および化学療法耐性を担う転写因子(OCTファミリー)・タンパク質(DLGAP5他)、非コードRNAを同定し、学会発表および論文発表を行った。
・乳がんに関しては、エストロゲン応答遺伝子COX7RPが新たながん代謝メカニズムを担う治療標的になることを見出し、Nature Commu-nications誌に論文発表を行った。また、乳がんのホルモン療法耐性をもたらす長鎖非コードRNAを発見し、その新たなメカニズム解明をもとに米国微生物学会の基幹雑誌に論文発表を行い、同誌のNewsにとりあげられ、その表紙を飾った。
・患者由来のがん組織から複数のがん種において長期継代可能な三次元培養系を確立した。この系で、がん幹細胞様細胞の濃縮を達成し、その応用と新規メカニズムの解明から論文発表を行った。
・当センターおよび共同研究先の病院と共同して、がん性胸水より三次元培養を行う計画が進んでいる。

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜性ホルモンのロコモティブ症候群における役割の解明＞

【センター内】実験動物施設、老年病態研究チーム

【センター外】東京大学医科学研究所、順天堂大学、埼玉医科大学、南東北病院外傷センター

＜ミトコンドリア呼吸鎖超複合体の健康長寿における役割の解明＞

【センター内】実験動物施設、老化制御研究チーム（生体調節機能）
【センター外】埼玉医科大学、理化学研究所、千葉大学
＜前立腺がんの新規治療法の探索＞
【センター内】実験動物施設
【センター外】東京大学、日本大学、自治医科大学、東北大学、東京大学、国際医療福祉大学、千葉大学
＜乳がんにおける新規治療法の探索＞
【センター内】実験動物施設
【センター外】埼玉医科大学、虎ノ門病院、東北大学、埼玉医科大学、千葉大学、名古屋大学、ナミビア大学
＜婦人科がんにおけるエストロゲンの作用の解明＞
【センター内】実験動物施設
【センター外】埼玉医科大学、順天堂大学、埼玉医科大学、千葉大学
＜呼吸器がんにおける性ホルモン応答遺伝子の作用の解明＞
【センター内】呼吸器内科
＜老化と幹細胞研究＞
【センター外】昭和大学、長崎大学、埼玉医科大学

論文・学会発表

分子機構

1　学会発表

(1) 海外

1. Keiko Akasaka-Manya, Hiroshi Manya, Satomi Nadanaka, Hiroshi Kitagawa, Yoshitaka Kondo, Akihito Ishigami, Tamao Endo. Reduction of α-Klotho and pulmonary emphysema in aging. International Conference on Proteoglycans, Kanazawa, Ishikawa, (Ishikawa Ongakudo), 2019.9.29-10.3

(2) 国内

1. 赤阪啓子, 今江理恵子, 萬谷博：糖鎖変化と老化. 科学技術週間参加行事（東京都健康長寿医療センター主催)、東京都板橋区（板橋区立文化会館)、2019. 4. 16
2. 萬谷博：知っておきたい筋肉のこと：基礎から疾患まで. 154回老年学・老年医学公開講座（東京都健康長寿医療センター主催), 東京都練馬区（練馬文化センター), 2019.5.29
3. 赤阪-萬谷啓子、萬谷博、近藤嘉高、石神昭人、遠藤玉夫: 加齢によるα-Klothoの減少と肺気腫との関連. 第42回日本基礎老化学会大会, 宮城県仙台市（仙台国際センター), 2019.6.6-8
4. 萬谷博: 加齢によるα-Klothoの減少と肺気腫との関連. 第31回日本老年学会総会, 宮城県仙台市（仙台国際センター), 2019.6.6-8
5. 萬谷博：ラミニン結合性機能糖鎖を応用した筋ジストロフィー治療薬の開発, 2019年度AMED糖鎖創薬事業合同分科会, 東京都文京区（順天堂大学), 2019.8.7
6. 今江理恵子、萬谷博、津元裕樹、石渡俊行、遠藤玉夫: グリセロールリン酸供与体CDP-グリセロールの哺乳動物における定量分析. 第38回日本糖質学会年会, 愛知県名古屋市（名古屋大学), 2019.8.19-21
7. 萬谷博：マルチオミックスによる膜糖鎖環境の加齢変化の解析. 2019年度AMEDメカノ合同班会議, 三重県志摩市（賢島・ホテルベイガーデン), 2019.8.28-29
8. 今江理恵子、萬谷博、津元裕樹、石渡俊行、遠藤玉夫: 哺乳動物培養細胞および組織におけるCDP-グリセロールの定量分析. 第92回日本生化学会大会, 神奈川県横浜市（パシフィコ横浜), 2019.9.18-20
9. 赤阪啓子: 加齢によるα-Klothoの減少と肺気腫との関連. 首都大学東京バイオコンファレンス2019, 東京都八王子市（首都大学東京), 2019. 11. 15
10. 遠藤玉夫、萬谷博、赤阪-萬谷啓子、今江理恵子 ： α-ジストログリカノパチーの病態解明と糖鎖による治療法の開発研究. 精神・神経疾患研究開発費令和元年度西野班班会議, 東京都小平市（国立精神・神経医療研究センター), 2019.11.25-26
11. 萬谷博：糖鎖異常と疾患. 長寿研セミナー. 愛知県大府市（国立長寿医療研究センター), 2019.12.26
12. 今江理恵子, 萬谷博, 津元裕樹, 遠藤玉夫：α-ジストログリカン糖鎖合成阻害因子CDP-グリセロールの定量分析. 日本薬学会第140年会, 京都府京都市（国立京都国際会館),2020.3.25-28

2　誌上発表

(1) 原著

1. Naoyuki Kuwabara*, ◎Rieko Imae*, Hiroshi Manya, Tomohiro Tanaka, Mamoru Mizuno, Hiroki Tsumoto, Motoi Kanagawa, Kazuhiro Kobayashi, Tatsushi Toda, Toshiya Senda, Tamao Endo, Ryuichi Kato : Crystal structures of fukutin-related protein (FKRP), a ribitol-phosphate transferase related to muscular dystrophy. Nat. Commun., 11(1),303,2020 (査読あり) (IF : 11.878, 2018), (*共同筆頭著者)
2. ◎Keiko Akasaka-Manya, ★Hiroshi Manya, Satomi Nadanaka, Hiroshi Kitagawa, YoshitakaKondo, Akihito Ishigami, Tamao Endo : Decreased ADAM17 expression in the lungs of α-Klotho reduced mouse. J. Biochem., 167(5),483-493, 2020, (査読あり) (IF : 2.23, 2018)
3. Hiroshi Manya : Mechanisms of *O*-mannosyl glycan Biosynthesis in mammals. Trends in Glycosci. Glycotech., 31(181), SE63-SE64, 2019 (総説) (IF : 0.619, 2018)

3　著書等

1. 萬谷博 : 知っておきたい筋肉のこと : 基礎から疾患まで. 第154回老年学・老年医学公開講座講演集「今、筋肉が熱い!?～あなたの知らない筋肉の世界」. 2019.5.29 (講演集)
2. 萬谷博 : 国立研究開発法人日本医療研究開発機構　難治性疾患実用化研究事業　新規修飾体リビトールリン酸の病態生理機能に着目した福山型筋ジストロフィーの発症機序の解明と治療法の開発　2018年度再委託研究開発実績報告書 2019.4.25 (報告書)
3. 萬谷博 : 日本学術振興会科学研究費 基盤研究 (B)　*O*-マンノース型糖鎖の構造多様性とその決定機構の解明. 平成30年度科学研究費助成事業実績報告書. 2019.5.10 (報告書)
4. 萬谷博 : 国立研究開発法人日本医療研究開発機構　次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業　糖鎖利用による革新的創薬技術開発事業 (ラミニン結合性機能糖鎖を応用した筋ジストロフィー治療薬の開発)　2018年度委託研究開発実績報告書 2019.5.10 (報告書)
5. 萬谷博 : 国立研究開発法人日本医療研究開発機構　革新的先端研究開発支援事業　筋萎縮モデルにおける機械受容・応答の分子基盤　2018年度委託研究開発実績報告書 2019.5.19 (報告書)
6. 金川基, 片野坂公昭, 萬谷博, 古川潤一, 永森收志, 田口徹, 片野坂友紀 : 国立研究開発法人日本医療研究開発機構　革新的先端研究開発支援事業ユニットタイプ「メカノバイオロジー機構の解明による革新的医療機器及び医療技術の創出」(機械受容応答を支える膜・糖鎖環境の解明と筋疾患治療への展開) 中間評価報告書 2019.5.19 (報告書)
7. 金川基, 深田宗一郎, 萬谷博, 水野真盛 : 国立研究開発法人日本医療研究開発機構　難治性疾患実用化研究事業　新規修飾体リビトールリン酸の病態生理機能に着目した福山型筋ジストロフィーの発症機序の解明と治療法の開発事後評価報告書 2019.10.31 (報告書)
8. 遠藤玉夫、萬谷博、赤阪-萬谷啓子、今江理恵子 : 精神・神経疾患研究開発費29-4筋ジストロフィー関連疾患の分子病態解明とそれに基づく診断法・治療法開発.令和元年度分担研究報告書, α-ジストログリカノパチーの病態解明と糖鎖による治療法の開発研究. 2020.3.31 (報告書)

プロテオーム

1　学会発表

(1)　海外

1. Fujita, Y., Kawakami, K., Ito, M. Detection of CD11b-expressing exosomes in plasma of mice with sepsis. ISEV2019 Annual Meeting, Kyoto, Japan, 2019.4.25-28.
2. Mizutani, K., Kawakami, K., Horie, K., Fujita, Y., Kameyama, K., Kato, T., Nakane, K., Tuchiya, T, Yasuda, M., Masunaga, K., Kasuya, K., Masuda, Y., Deguchi, T., Koie, T., Ito, M. Akt and CD9 in urine exosomes as potential markers for urinary tract infection. ISEV2019 Annual Meeting, Kyoto, Japan、2019.4.25-28.
3. Edo, N., Kawakami, K., Fujita, Y., Morita, K., Uno, K, Tsukamoto, K, Onose, H, Ishikawa, T., Ito, M. Thyrotropin receptor-positive exosomes alleviate autoantibody-mediated stimulation of cAMP production. ISEV2019 Annual Meeting, Kyoto, Japan, 2019.4.25-28.
4. Umezawa, K. Fluorescent probes for selective and reversible imaging of reactive sulfur species. 1st International Conference on Persulfide and Sulfur Metabolism in Biology and Medicine, Tohoku University (Sendai), 2019.9.9-11.

(2) 国内

1. 梅澤啓太郎, 津元裕樹, 神谷真子, 浦野泰照, 三浦ゆり. 生体中の多硫化物質を検出可能な化学プローブ群の創製. 第 8 回 TOBIRA 研究交流フォーラム, ソラシティカンファレンスセンター(文京区), 2019.5.10.
2. 星野駿介, 古屋和寛, 三浦久実, 若澤広樹, 岩本真知子, 三浦ゆり, 小林正樹, 樋上賀一. 肥満応答性 E3 ユビキチンリガーゼ Wwp1 が脂肪細胞に及ぼす影響. 第 42 回日本基礎老化学会大会, 仙台国際センター (仙台市), 2019.6.6-8.
3. 川上恭司郎, 藤田泰典, 津元裕樹, 三浦ゆり, 伊藤雅史. アルツハイマー病患者血清由来の細胞外小胞のプロテオーム解析によるバイオマーカー探索. 第 42 回日本基礎老化学会大会, 仙台国際センター (仙台市), 2019.6.6-8.
4. 津元裕樹, 梅澤啓太郎, 千葉優子, 新井富生, 秋元義弘, 三浦ゆり, 遠藤玉夫. 糖尿病性腎症患者剖検例のホルマリン固定パラフィン包埋切片を用いたプロテオーム解析, 第 42 回日本基礎老化学会大会, 仙台国際センター(仙台市), 2019.6.6-8.
5. 佐藤瑞穂, 津元裕樹, 鳥羽梓弓, 梅澤啓太郎, 川上恭司郎, 副島友莉恵, 新井冨夫, 原田和昌, 三浦ゆり, 沢辺元司. 左室駆出率が保たれた心不全のヒト心筋プロテオーム解析, 日本プロテオーム学会 2019 年大会・第 70 回日本電気泳動学会総会, シーガイアコンベンションセンター (宮崎市), 2019.7.24-26.
6. 川上恭司郎, 江戸直樹, 盛田幸司, 石川敏夫, 小野瀬裕之, 福森龍也, 津元裕樹, 三浦ゆり, 藤田泰典, 伊藤雅史. 甲状腺癌患者血清から単離した細胞外小胞のプロテオーム解析, 日本プロテオーム学会 2019 年大会・第 70 回日本電気泳動学会総会, シーガイアコンベンションセンター (宮崎市), 2019.7.24-26.
7. 津元裕樹, 西風隆司, 関谷禎規, 岩本慎一, 田中耕一, 三浦ゆり, 遠藤玉夫. シアル酸結合様式特異的誘導体化法を用いた糖ペプチド解析法の開発, 日本プロテオーム学会 2019 年大会・第 70 回日本電気泳動学会総会, シーガイアコンベンションセンター (宮崎市), 2019.7.24-26.
8. 今江理恵子, 萬谷博, 津元裕樹, 石渡俊行, 遠藤玉夫. グリセロールリン酸供与体 CDP-グリセロールの哺乳動物における定量分析. 第 38 回日本糖質学会年会, 名古屋大学 (名古屋市), 2019.8.19-21.
9. 井出野佑太, 増井幸恵, 稲垣宏樹, 津元裕樹, 梅澤啓太郎, 川上恭司郎, 新井康通, 池邉一典, 石崎達郎, 神出計, 権藤恭之, 遠藤玉夫, 三浦ゆり. 長期縦断コホートを用いた糖尿病性認知機能低下のプロテオーム解析. 第 63 回日本薬学会関東支部大会, 北里大学薬学部 (港区), 2019.9.14.
10. 今江理恵子, 萬谷博, 津元裕樹, 石渡俊行, 遠藤玉夫. 哺乳動物培養細胞および組織における CDP-グリセロールの定量分析. 第 92 回日本生化学会大会, パシフィコ横浜 (横浜市), 2019.9.18-20.
11. 江戸直樹, 川上恭司郎, 藤田泰典, 盛田幸司, 宇野健司, 塚本和久, 小野瀬裕之, 伊藤雅史, 石川敏夫. 甲状腺濾胞細胞由来 TSHR 発現エクソソームの証明と、抗 TSHR 抗体による cAMP 産生への競合作用について. 第 62 回日本甲状腺学会学術集会, 昌賢学園まえばしホール(前橋市), 2019.10.10-12.
12. 三浦ゆり. 糖鎖が拓く人生 100 年時代 ―超百寿者に学ぶ健康長寿の秘訣とは―. 科学的根拠に基づく健康寿命を伸ばす会第 16 回講演・研究会, 東京大学薬学部 (文京区), 2019.12.2.
13. 三浦ゆり, 早川敦子, 津元裕樹, 梅澤啓太郎, 川上恭司郎, 福井浩二, 秋元義弘, 遠藤玉夫. 糖尿病モデル Goto-Kakizaki ラットにおける腎組織線維化のメカニズム. 日本薬学会第 140 年会, 国立京都国際会館 (京都市), 2020.3.25-28.
14. 今江理恵子, 萬谷博, 津元裕樹, 遠藤玉夫. α-ジストログリカン糖鎖合成阻害因子 CDP-グリセロールの定量分析. 日本薬学会第 140 年会, 国立京都国際会館 (京都市), 2020.3.25-28.

2 誌上発表

(1) 原著

1. Mizutani, K., ◎Kawakami, K., Horie, K., Fujita, Y., Kameyama, K., Kato, T., Nakane, K., Tsuchiya, T., Yasuda, M., Masunaga, K., Kasuya, Y., Masuda, Y., Deguchi, T., Koie, T., Ito, M. Urinary exosome as a potential biomarker for urinary tract infection. *Cell Microbiol.* **2019**, *21*, e13020. (査読あり, IF: 4.288, 2018)
2. Edo, N., ◎Kawakami, K., Fujita, Y., Morita, K., Uno, K., Tsukamoto, K., Onose, H., Ishikawa, T., Ito, M. Exosomes Expressing Thyrotropin Receptor Attenuate Autoantibody-Mediated Stimulation of Cyclic Adenosine Monophosphate Production. *Thyroid.* **2019**, *29*, 1012-1017. (査読あり, IF: 7.786, 2018)
3. ◎★Miura, Y., Tsumoto, H., Iwamoto, M., Yamaguchi, Y., Ko, P., Soejima, Y., Yoshida, S., Toda, T., Arai, T., Hamamatsu, A., Endo, T., Sawabe, M. Age-associated proteomic alterations in human aortic media. *Geriatr. Gerontol. Int.* **2019**, *19*, 1054-1062. (査読あり, IF: 2.118, 2018)
4. Enomoto, A., Fukasawa, T., Tsumoto, H., Karube, M., Nakagawa, K., Yoshizaki, A., Sato, S., Miura, Y., Miyagawa, K. Prevention of calpain-dependent degradation of STK38 by MEKK2-mediated phosphorylation. *Sci. Rep.* **2019**, *9*, 16010. (査読あり, IF: 4.011, 2018)

5. Hanamatsu, H., Nishikaze, T., Tsumoto, H., Ogawa, K., Kobayashi, T., Yokota, I., Morikawa, K., Suda, G., Sho, T., Nakai, M., Miura, N., Higashino, K., Sekiya, S., Iwamoto, S., Miura,Y ., Furukawa, J., Tanaka, K., Sakamoto, N. Comparative glycomic analysis of sialyl linkage isomers by sialic acid linkage-specific alkylamidation in combination with stable isotope labeling of α2,3-linked sialic acid residues. *Anal. Chem.* **2019**, *91*, 13343-13348. (査読あり, IF: 6.35, 2018)
6. Akimoto, Y., Yan, K., Miura, Y., Tsumoto, H., Toda, T., Fukutomi, T., Sugahara, D., Kudo, A., Arai, T., Chiba, Y., Kaname, S., Hart, G. W., Endo, T., Kawakami, H. *O*-GlcNAcylation and Phosphorylation of β-Actin Serine199 in Diabetic Nephropathy. *Am. J. Physiol. Renal Physiol.* **2019**, *317*, F1359-1374. (査読あり, IF: 3.323, 2018)
7. ◎★Miura, Y., Hayakawa, A., Kikuchi, S., Tsumoto, H., Umezawa, K., Chiba, Y., Soejima, Y., Sawabe, M., Fukui, K., Akimoto, Y., Endo, T. Fumarate accumulation involved in renal diabetic fibrosis in Goto-Kakizaki rats. *Arch. Biochem. Biophys. in press* (査読あり, IF: 3.559, 2018)
8. Mizutani, K., Horie, K., Kato, T., Nakane, K., Kawakami, K., Fujita, Y., Ito, M. Serum PD-1 levels measured by ELISA using Nivolumab increased in advanced RCC patients: novel approach to develop companion diagnostics for antibody therapy, *J. Cancer Res. Clin. Oncol.* **2019**, *145*, 1661-1663. (査読あり, IF: 3.332, 2018)
9. Kuwabara, N., Imae, R., Manya, H., Tanaka, T., Mizuno, M., Tsumoto, H., Kanagawa, M., Kobayashi, K., Toda, T., Senda, T., Endo, T., Kato, R. Crystal structures of fukutin-related protein (FKRP), a ribitol-phosphate transferase related to muscular dystrophy. *Nature Commun.* **2020**, 11, 303. (査読あり, IF: 11.880, 2018)
10. Ozawa, K., ◎Tsumoto, H.*, ◎Miura, Y.*, Yamaguchi, J., Iguchi-Ariga, S.M.M., Sakuma, T., Yamamoto, T., Uchiyama, Y., DJ-1 is indispensable for S-nitrosylation of parkin, which maintains the function of mitochondria, Sci. Rep. **2020**, 10, 4377. (査読あり, IF: 4.011, 2018) (*共同筆頭著者)

3 著書等

1. 三浦ゆり：科研費成果報告書　基盤研究C「健康長寿の指標となる糖鎖構造とその生物学的意義の解明」(代表：三浦ゆり)
2. 三浦ゆり:科研費成果報告書　挑戦的研究(萌芽)「糖尿病合併症としての認知症に関する診断指標の開発と予防戦略への発展」(代表：岩本真知子)
3. 三浦ゆり：2018年度ノバルティス研究助成報告書「定量的*O*-GlcNAc修飾プロテオーム解析法を用いた糖尿病性腎症の病態解明と合併症予測マーカーの開発」(代表：三浦ゆり)
4. 津元裕樹:科研費成果報告書　基盤研究C「２段階クリック反応を利用した新規*O*-GlcNAc化プロテオーム解析法の開発と応用」(代表：津元裕樹)
5. 梅澤啓太郎：2018年度理事長研究奨励費報告書「タンパク質の多硫化修飾に着目した新規翻訳後修飾オミクス解析法の開発」(代表：梅澤啓太郎)
6. 川上恭司郎：科研費成果報告書　基盤研究C「神経炎症におけるエクソソーム上ヒストンの役割の解明」(代表：川上恭司郎)
7. 川上恭司郎：科研費成果報告書　基盤研究B「エクソソームによる前立腺がんの質的診断システムの開発」(代表：伊藤雅史)
8. 津元裕樹：特許出願　質量分析方法、質量分析装置およびプログラム. 特願2019-135344（発明者：西風隆司, 津元裕樹)
9. 川上恭司郎:特許出願　転移性去勢抵抗性前立腺癌の診断を補助する方法. 特願2019-237968 (発明者:川上恭司郎, 藤田泰典, 伊藤雅史, 水谷晃輔, 石川友一)

システム加齢医学

1 学会発表

(1) 海外

1. Ikeda K, Shiba S, Okamoto K, Horie-Inoue K, Inoue S: Metastasis and hormonal regulation of spheroid culture cells established from endometrial cancer patients.(2019.4.18-20) State-of-the-Art 3D Tissue Culture & Organoids 2019, Okinawa, Japan, Poster
2. Kobayashi A, Azuma K, Ikeda K, Inoue S: In situ visualization of mitochondrial respiratory chain supercomplex assembly using the fluorescence resonance energy transfer (FRET) technique.(2019.5.19-24) FASEB Summer Research Conference, The mitochondrial biogenesis and dynamics in health and disease conference, Palm Springs, California, Poster.
3. Inoue S: An RNA-binding protein promotes breast cancer growth by posttranscriptional regulation of estrogen receptor.(2019.9.29-10.2) EMBO Workshop RNP network dynamics in development and disease, Ljubljana, Slovenia.

4. Ogura T, Azuma K, Sato J, Kinowaki K, Ikeda K, Kawabata H, Inoue S: TRIM39 is a poor prognostic factor for breast cancer patients and promotes proliferation and migration of breast cancer cells.(2019.12.10-14) San Antonio Breast Cancer Symposium, San Antonio, USA
5. Kamada S, Namekawa T, Ikeda K, Horie-Inoue K, Okamoto K, Ichikawa T, Yano A, Kawakami S, Inoue S: ALDH1 expression and activity inversely associate with the sensitivity for tyrosine kinase inhibitor sunitinib in CSC-enriched patient-derived renal cell carcinoma cells.(2019.1.19-23) Keystone Symposia on Moleculer and Cellular Biology, Vancouver, Canada.

(2) 国内

1. 鎌田修平, 滑川剛史, 池田和博, 堀江公仁子, 岡本康司, 市川智彦, 矢野晶大, 川上理, 井上聡:［総会賞受賞］Pathophysiological analysis for renal cell carcinoma based on the generation of tree-dimensional spheroid culture system of patient-derived cancer cells. (患者由来がん細胞の三次元長期培養系による難治腎がんモデルの構築と病態メカニズムの解析)(2019.4.18-21)第107回日本泌尿器学会総会　名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）
2. 滑川剛史, 池田和博, 堀江公仁子, 鈴木貴, 岡本康司, 市川智彦, 矢野晶大, 川上理, 井上聡: Development of new method for diagnosing and treating intractable bladder cancer by targeting cancer stem-like cells based on patient-derived cancer cells and their xenograft mouse models.(患者由来培養・移植モデルに基づく難治性膀胱がん幹細胞様細胞を標的とした新規診断・治療法の開発)(2019.4.18-21)第107回日本泌尿器学会総会　名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)
3. 滑川剛史, 池田和博, 堀江公仁子, 鈴木貴, 岡本康司, 市川智彦, 矢野晶大, 川上理, 井上聡: 精巣がん患者由来培養・移植モデルの作製およびその細胞学的特徴の解析　(2019.5.9-11)第92回日本内分泌学会学術総会　仙台国際センター（宮城県仙台市）
4. 高山賢一, 井上聡:前立腺癌の進行に関わるアンドロゲン受容体と協調して機能する転写因子OCT1のシグナル解析(2019.5.9-11)第92回日本内分泌学会学術総会　仙台国際センター（宮城県仙台市）
5. 井上聡:[教育講演]前立腺がんにおけるステロイドホルモンのクロストーク:新規治療標的の探索へ(Novel Therapeutic Targets for Prostate Cancer: Hormone/Receptor Crosstalk) (2019.5.9-11)第92回日本内分泌学会学術総会　仙台国際センター（宮城県仙台市）
6. 井上聡:[シンポジウム]ミトコンドリア呼吸鎖超複合体形成因子の生体と病態における役割 (Role of Mitochondrial Respiratory Supercomplex Assembly Factor in Health and Disease) (2019.6.6-8)第42回日本基礎老化学会大会　仙台国際センター（宮城県仙台市）
7. 井上聡:[シンポジウム]ミトコンドリア代謝とアンチエイジング(2019.6.14-16)第19回日本抗加齢医学会総会　パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）
8. 北山沙知, 滑川剛史, 池田和博, 堀江公仁子, 鈴木貴, 岡本康司, 市川智彦, 矢野晶大, 川上理, 井上聡: 患者由来精巣がん３次元培養系における低酸素シグナル制御による精巣がん新規治療法の探索　(2019.6.21-6.22)日本アンドロロジー学会第38回学術大会　大阪国際会議場（大阪府大阪市）
9. 井上聡:[特別講演：プレシジョンメディスン］ 患者由来がん培養・移植モデルの樹立と難治がん分子標的探索 (2019.6.27-28) 第28回日本癌病態治療研究会　ウェスタ川越（埼玉県川越市）
10. 東浩太郎、池田和博、鈴木貴、堀江公仁子、井上聡: 乳がんにおける新規タモキシフェン耐性予測因子TRIM47のNF-κBシグナル活性化メカニズム(2019.6.28-29) 第20回ホルモンと癌研究会　新大阪ワシントンホテルプラザ（大阪府大阪市）
11. 井上聡:[シンポジウム]「ゲノム・エピゲノム解析の進歩」乳がんにおける新しいホルモン作用メカニズムの解明(2019.7.11-13)第27回日本乳癌学会学術総会　京王プラザホテル（東京都新宿区）
12. 佐藤順一朗、東浩太郎、木脇圭一、小倉拓也、池田和博、藤井丈士、北川昌伸、川端英孝、井上聡:乳癌におけるRetinoic acid-inducible gene I (RIG-I)蛋白質の免疫組織化学的な発現解析(2019.7.11-13) 第27回日本乳癌学会学術総会　京王プラザホテル（東京都新宿区）
13. 東浩太郎、柴祥子、池田和博、佐藤航、堀江公仁子、田中伸哉、井上聡:EBAG9によるオートファジー制御および欠損マウスにおける骨量減少(2019.7.27) 第19回東京骨関節フォーラム、東京女子医科大学（東京都新宿区）
14. 池田和博、堀江公仁子、井上聡:子宮内膜がん患者由来細胞の樹立ならびにエストロゲン応答遺伝Efpを標的とするsiRNAの治療効果 (2019.8.28-30) 第11回日本RNAi研究会グランドプリンスホテル広島（広島県広島市）
15. 堀江公仁子、池田和博、井上聡:Integrative study of genomic information and sequencing data defines functional estrogen-inducible enhancer RNAs in breast cancer.(2019.9.9-11) 日本バイオインフォマティクス学会 2019 年年会・第8 回生命医薬情報学連合大会(IIBMP2019) 東京工業大学（東京都目黒区）
16. 池田和博、堀江公仁子、井上聡:[シンポジウム]ミトコンドリア呼吸鎖超複合体形成は代謝制御を介してがん増殖能・低酸素抵抗性を促進させる (Mitochondrial supercomplex assembly regulates metabolism leading to growth stimulation and

hypoxia tolerance in cancers)（2019.9.18）第92回日本生化学会大会　パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

17. 高山賢一、鈴木豊、藤村哲也、井上聡：網羅的トランスクリプトーム解析による前立腺癌進展に関わる新規分子マーカーの同定（Identification of molecular signatures involved in prostate cancer progression by comprehensive transcriptome analysis.）（2019.9.26-28）第78回日本癌学会学術総会　国立京都国際会館（京都府京都市）
18. 池田和博、堀江公仁子、井上聡：スフェロイド培養系による患者由来子宮体がん細胞の樹立と前臨床モデルへの応用（Establishment of patient-derived endometrial cancer cells by spheroid culture and application to preclinical models）（2019.9.26-28）第78回日本癌学会学術総会　国立京都国際会館（京都府京都市）
19. 飯野薫、水戸部悠一、池田和博、鈴木貴、高山賢一、川端英孝、堀江公仁子、井上聡：NONOは増殖関連遺伝子のRNAプロセシングを調節し乳がん増悪化をもたらす(NONO defines breast cancer progression by modulating RNA processing of proliferation-associated genes)（2019.9.26-28）第78回日本癌学会学術総会　国立京都国際会館（京都府京都市）
20. 後藤典子、村山貴彦、矢野正雄、多田敬一郎、池田和博、岡本康司、堀江公仁子、井上聡、東條有伸：乳がん患者検体由来三次元培養細胞とがん間質細胞の共培養系を用いたがん幹細胞ニッチシグナルの解析（Cancer stem cell niche signals in cancer associated fibroblasts (CAFs) to maintain cancer stem-like cells (CSCs)）（2019.9.26-28）第78回日本癌学会学術総会　国立京都国際会館（京都府京都市）
21. 村山貴彦、山脇芳、西村建徳、矢野正雄、笹原麻子、小川利久、多田敬一郎、鐘巻将人、井上聡、岡本康司、東條有伸、後藤典子：複製因子 MCM10 は恒常的に DNA 複製ストレスにさらされる乳がん幹細胞の維持に寄与する（The replicative factor MCM10 maintains breast cancer stem-like cells that constantly experience DNA replicative stress）（2019.9.26-28）第78回日本癌学会学術総会　国立京都国際会館（京都府京都市）
22. 東浩太郎、柴祥子、池田和博、佐藤航、堀江公仁子、田中伸哉、井上聡：免疫抑制因子EBAG9によるオートファジーの制御および欠損マウスにおける骨量減少(2019.10.11-13) 第21回日本骨粗鬆症学会　神戸国際会議場、神戸国際展示場（兵庫県神戸市）
23. 高山賢一、鈴木譲、井上聡：[日本ステロイドホルモン学会優秀演題賞] OCTファミリー転写因子による前立腺がん細胞内でのアンドロゲン受容体下流シグナル制御機構(2019.11.2)第27回日本ステロイドホルモン学会学術集会　アクトシティ浜松（静岡県浜松市）
24. 池田和博、水戸部悠一、飯野薫、鈴木貴、高山賢一、堀江公仁子、井上聡：乳がん悪性化に関わるRNA結合タンパク質による転写後調節ダイナミクスの解明(2019.11.2)第 27 回日本ステロイドホルモン学会学術集会　アクトシティ浜松（静岡県浜松市）
25. 高山賢一、井上聡：APPはアンドロゲン受容体およびRNA結合タンパク質PSFにより発現制御を受ける(2019.11.7-9)第38回日本認知症学会学術集会（京王プラザホテル）（東京都新宿区）
26. 池田和博、北山沙知、滑川剛史、柴祥子、佐藤航、堀江公仁子、岡本康司、矢野晶大、川上理、井上聡：[若手講演]生殖器がん患者由来スフェロイド培養・移植モデルの確立とその応用（2019.11.18）第3回がん三次元培養研究会　国立がん研究センター（東京都中央区）
27. 鎌田修平、滑川剛史、池田和博、堀江公仁子、岡本康司、市川智彦、矢野晶大、川上理、井上聡：三次元スフェロイド培養系を用いた患者由来腎がん幹細胞様細胞モデルの構築とスニチニブ抵抗性の解析(2019.11.18) 第 3 回がん三次元培養研究会　国立がん研究センター（東京都中央区）
28. 北山沙知、滑川剛史、池田和博、堀江公仁子、鈴木貴、岡本康司、市川智彦、矢野晶大、川上理、井上聡：患者由来精巣がん細胞３次元培養系における低酸素応答シグナルの活性化(2019.11.18) 第3回がん三次元培養研究会　国立がん研究センター（東京都中央区）
29. 堀江公仁子、水戸部 悠一、鈴木貴、 池田和博、井上聡：【ワークショップ】 技術革新がもたらすがん治療難治性の理解克服にむけた新しい方向性（New types of estrogen receptor signaling modulators that contribute to the pathophysiology of advanced breast cancers）（2019.12.3-6)第42回日本分子生物学会年会　福岡国際会議場・マリンメッセ福岡（福岡県福岡市）
30. 高山賢一、鈴木穣、井上聡：【ワークショップ】治療抵抗性へ向かう前立腺がん核内転写複合体形成の統合的解析(2019.12.3-6)第42回日本分子生物学会年会　福岡国際会議場・マリンメッセ福岡（福岡県福岡市）
31. 高松芳樹、井上喜博、和田涼子、井上聡、橋本款：レビー小体型認知症とシヌクレインのスプライシング産物(2019.12.3-6)第42回日本分子生物学会年会　福岡国際会議場・マリンメッセ福岡（福岡県福岡市）
32. 北山沙知、滑川剛史、池田和博、堀江公仁子、矢野晶大、川上理、井上聡：患者由来スフェロイド培養・移植モデルが明らかにした精巣がんにおける低酸素応答シグナル活性化とその標的因子（2020.1.25）第20回関東ホルモンと癌研究会　がん研有明病院　吉田富三記念講堂（東京都江東区）

2　誌上発表

(1) 原著

1. ◎Namekawa T, Ikeda K, Horie-Inoue K, Suzuki T, Okamoto K, Ichikawa T, Yano, A, Kawakami S, ★Inoue S: ALDH1A1 in patient-derived bladder cancer spheroids activates retinoic acid signaling leading to TUBB3 overexpression and tumor progression. ***Int J Cancer*** 146(4):1099-1113 2019. doi: 10.1002/ijc.32505. (原著、査読あり) (IF : 4.982、2018/2019)
2. ◎Shiba S, Ikeda K, Suzuki T, Shintani D, Okamoto K, Horie-Inoue K, Hasegawa K, ★Inoue S: Hormonal regulation of patient-derived endometrial cancer stem-like cells generated by three-dimensional culture. ***Endocrinology*** 160(8):1895-1906, and ***Highlighted*** in "***eNews***", 2019. pii: en.2019-00362. doi: 10.1210/en.2019-00362. (原著、査読あり) (IF : 3.800、2018/2019)
3. ◎Nagasawa S, Ikeda K, Horie-Inoue K, Sato S, Itakura A, Takeda S, Hasegawa K, ★Inoue S: Systematic identification of characteristic genes of ovarian clear cell carcinoma compared with high-grade serous carcinoma based on RNA-sequencing. ***Int J Mol Sci*** 4;20(18), 2019. pii: E4330. doi: 10.3390/ijms20184330. (原著、査読あり) (IF : 4.183、2018)
4. ◎Ikeda K, Horie-Inoue K, Suzuki T, Hobo R, Nakasato N, Takeda S, ★Inoue S: Mitochondrial supercomplex assembly promotes breast and endometrial tumorigenesis by metabolic alterations and enhanced hypoxia tolerance. ***Nat Commun*** 10:4108, 2019. DOI: 10.1038/s41467-019-12124-6 (原著、査読あり) (IF : 11.878、2018/2019)
5. ◎Mitobe Y, Ikeda K, Suzuki T, Takagi K , Kawabata H, Horie-Inoue K, ★Inoue S: ESR1-stabilizing lncRNA TMPO-AS1 promotes hormone-refractory breast cancer progression. ***Mol Cell Biol*** 39(23):e00261-19 and ***Highlighted*** in ***"Spot-light"*** and ***Cover,*** 2019. doi: 10.1128/MCB.00261-19. PMID: 31501276 (原著、査読あり) (IF : 3.735、2018/2019)
6. ◎Yamamoto S, Takayama K, Obinata D, Fujiwara K, Ashikari D, Takahashi S, ★Inoue S: Identification of new OCT1-target genes upregulated in castration-resistant prostate cancer. ***Cancer Sci*** 110(11):3476-3485, 2019. DOI: 10.1111/CAS.14183. ***Highlighted*** in ***"In this issue"*** (原著、査読有り) (IF : 4.751、2018/2019)
7. ◎Takayama K, Hujiwara K, ★Inoue S: APP, an androgen-regulated gene, is targeted by RNA-binding protein PSF/SFPQ in neuronal cells. ***Genes Cells*** (11):719-730 doi: 10.1111/gtc.12721 (原著、査読あり) (IF : 1.922、2018/2019)
8. ◎Nagasawa S, Ikeda K, Horie-Inoue K, Sato S, Takeda S, Hasegawa K, ★Inoue S: Identification of novel mutations of ovarian cancer-related genes from RNA-sequencing data for Japanese epithelial ovarian cancer patients. ***Endocr J*** 67(2):219-229, 2020, 10.1507/endocrj.EJ19-0283 (原著、査読あり) (IF : 1.17、2018)
9. ◎Iino K, Mitobe Y, Ikeda K, Takayama K, Suzuki T, Kawabata H, Suzuki Y, Horie-Inoue K, ★Inoue S: RNA-binding protein NONO promotes breast cancer proliferation via posttranscriptional regulation of SKP2 and E2F8. ***Cancer Sci*** (1):148-159, 2020, doi: 10.1111/cas.14240, (原著、査読あり) (IF : 4.751、2018/2019)
10. ◎Yamada Y, Kimura N, Takayama KI, Sato Y, Suzuki T, Azuma K, Fujimura T, Ikeda K, Kume H, ★Inoue S: TRIM44 promotes cell proliferation and migration by inhibiting FRK in renal cell carcinoma. ***Cancer Sci*** 111(3):881-890, 2020, doi: 10.1111/cas.14295, (査読あり, IF: 4.751, 2018/2019)

(2) 総説

1. ◎Namekawa T, Ikeda K, Horie-Inoue K, ★Inoue S: Application of prostate cancer models for preclinical study: Advantages and limitations of cell lines, patient-derived xenografts, and three-dimensional culture of patient-derived cells. Cells 8(1) pii: E74, 2019. DOI:10.3390/cells8010074. (査読あり) (IF : 4.829、2017)
2. ◎Azuma K, ★Inoue S: Multiple Modes of Vitamin K Actions in Aging-Related Musculoskeletal Disorders. Int J Mol Sci 20(11): pii: E2844, 2019. (査読有り) (IF: 4.183, 2018)
3. ◎Ikeda K, Horie-Inoue K, ★Inoue S: Functions of estrogen and estrogen receptor signaling on skeletal muscle. J Steroid Biochem Mol Biol 191:105375 2019 Jul, doi: 10.1016/j.jsbmb.2019.105375, Epub 2019. (査読あり) (IF : 3.785、2018/2019)
4. ◎Takayama K, ★Inoue S: Response to Letter to the Editor: Integrative Genomic Analysis of OCT1 Reveals Coordinated Regulation of Androgen Receptor in Advanced Prostate Cancer. Endocrinology 160(5):1066, 2019. doi: 10.1210/en.2019-00207 (査読あり) (IF : 3.800、2018/2019)

３　著書等

1. 鎌田修平、池田和博、井上聡：実験医学別冊患者由来がんモデルを用いたがん研究実践ガイド4. 膀胱がん，腎がん臨床検体のスフェロイド培養　69-76，2019，and ***Cover***
2. 東浩太郎：骨粗鬆症発症のメカニズム、日本老年医学会雑誌 56(2)、p116-123、2019年
3. 東浩太郎、井上聡：骨の成長・成熟・老化とホルモン．腎と骨代謝32(2) ホルモンによる骨代謝制御、p103-112、2019年4月
4. 東浩太郎：フレイル・ロコモ・サルコペニアの分子機構解明と応用．Medical Science Digest 45(6) フレイル・ロコモ・サルコペニアを考える，p7-10、ニューサイエンス社、2019年6月
5. がん研究の最前線－がんは治る時代に－　第156回老年学・老年医学公開講座　小冊子　p15-2，2019.Nov.20
6. 三井生命厚生財団　第50回医学研究助成研究報告集「女性ホルモン作用とミトコンドリア呼吸鎖スーパー複合体を標的としたFrailの予防」

受賞

分子機構

1. 萬谷博、第31回日本老年学会総会優秀合同ポスター賞（日本老年学会）「加齢によるα-Klothoの減少と肺気腫との関連」2019.6

システム加齢医学

1. 髙山賢一、日本ステロイドホルモン学会優秀演題賞「OCTファミリー転写因子による前立腺がん細胞内でのアンドロゲン受容体下流シグナル制御機構」2019.11.2

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)
二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

老化制御研究チーム

チームリーダー：石神昭人

研究チームの概要・目的

老化制御研究チームでは、老化の機構を明らかにして、日常生活に制限のない期間、すなわち健康寿命を延伸させるための方法論をエビデンスに裏打ちされた科学的根拠に基づいて開発することを目標とする。その目標を達成するために様々な生物種を研究対象として用い、そこから得られた研究成果を最終的にヒトへと外挿する。さらに、ヒトでの有用性を確認して、健康寿命の延伸に貢献する。また、研究内容は、高齢者特有の疾患の発症を予防するための早期診断薬や発症後の有用な治療方法の開発にまで拡大し、高齢者の健康水準の更なる向上を図る。さらに、研究成果を迅速に学術論文として発信し、世界の老化研究をリードする。

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

分子老化制御

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 （平成30年度）	2019 年度 （令和元年度）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
老化機構の解明	老化関連遺伝子の探索 老化細胞の同定とその除去法などの検討	分裂終了細胞での老化マーカー遺伝子の探索	組織幹細胞での老化マーカー遺伝子の探索	高齢動物の組織に存在する老化細胞の同定	老化細胞を積極的に除去する方法の検討	老化細胞を若い細胞に戻す方法の検討
老化制御の達成	栄養と老化 臨床検査試薬のヒト臨床試験 薬剤性腎障害発症機序の解明	栄養と老化①	アルツハイマー病臨床検査試薬のヒト臨床試験	栄養と老化②	薬剤性腎障害発症機序の解明	栄養と老化③

生体調節機能

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 （平成30年度）	2019 年度 （令和元年度）	2020 年度	2021 年度	2022　年度
(I)水素分子の作用機序解明と臨床応用に向けた研究	水素分子の標的となる特定分子の化学的修飾あるいはその分子構造変化を示し、その下流に存在するシグナル分子種とシグナル経路を明らかにすることで、作用メカニズムを明確にする。 動物を用いて、投与法の違いにより水素分子が作用する臓器と細胞種、作用メカニズムが異なることを明確にし、的確な投与法を導き出す。 動物実験と臨床研究から、水素分子によって効果的に予防・治療される疾患や老化現象を明	培養細胞において、水素分子の標的となる特定分子の存在を示す。 水素水を飲用させた薬物投与モデルで作用する細胞種と細胞内外の制御シグナルについて肝臓を中心に明らかにする。 老化モデル動物で血管における老化細胞の検出を通して、水素分子による老化抑制効果の有	培養細胞および動物組織において、水素分子の標的となる特定分子または特定構造変化を明らかにする。 疾患モデル動物で水素ガスの作用が脳機能保護作用であることを示す。 老化モデル動物で血管における老化細胞の検出を通して、水素分子による老化抑制効果の作用機序を検証す	培養細胞および動物組織において、水素分子の標的となる特定分子または特定構造変化の下流シグナルを示す。 疾患モデル動物を用いて、水素水と水素ガスによる投与法の違いで水素分子の作用が異なることを示す。 老化モデル動物で、複数臓器における老化細胞の検出を通し	水素分子の標的となる特定分子または特定構造変化が水素分子の機能を示すために必要十分であることを示す。 疾患モデル動物を用いて、水素水と水素ガスによる投与法の違いが作用機序の差異であることを示す。 老化モデル動物と臨床研究で、複数臓器における老化細胞	水素分子の標的となる特定分子または特定構造とその下流シグナルがストレス防御の普遍的分子機構であることを示す。 疾患モデル動物を用いて、水素水と水素ガスによる投与法の違いをもたらす作用機序を明らかにする。 老化モデル動物と臨床研究から、水素分子によって効果的に予

	確にし、水素分子の最適な投与法を示す。特に水素分子による老化抑制効果の有無を検証する。	無を検証する。	る。	て、水素分子による老化抑制効果の有無を検証する。	の検出を通して、水素分子による老化抑制効果の作用機序を検証する。	防・治療するための水素分子の最適な投与量と投与法を示す。
(II)ミトコンドリア機能構造相関と老化の分子機構解明及びその制御研究	ミトコンドリア内膜クリステ構造のリモデリングを動的変化として解析し、構造機能相関を明らかにする。 加齢による脳神経細胞機能の低下がミトコンドリアの生理的変化に依存することを、呼吸鎖複合体の活性とその構造的変化として示す。 ミトコンドリア電子伝達系を制御する「水溶化」CoQの抗老化作用機構解明とヒトへの臨床応用を目指す。	生細胞のクリステを安定的に蛍光ラベルし、クリステのリモデリングを超解像G-STED顕微鏡で経時的に捉える。 マウス脳ミトコンドリアの加齢変化に伴うタンパク質とその相互作用の変化を解析する。 上記の水溶化CoQによる変化を解析する。	エネルギー代謝と細胞死を制御することで生じるクリステのリモデリングを経時的に捉える。 ミトコンドリアの加齢変化に伴うタンパク質とその相互作用の変化を水溶化CoQを用いて解析する。	エネルギー代謝と細胞死を制御することで生じるクリステ構造のリモデリングを定量的に捉える。	ミトコンドリアの分裂・融合とクリステ構造リモデリングの相互作用を経時的に捉える。	ミトコンドリアの分裂・融合とクリステ構造リモデリングの相互作用を定量的に捉える。

分子老化制御

構成メンバー

テーマリーダー：石神昭人
研究員：谷津智史、佐藤綾美
非常勤研究員：滝野有花、半田節子、野田恵

1　**令和元年度の研究成果**

【令和元年度の進捗状況】

- **［老化機構の解明］**シングルセル遺伝子発現解析(Nx1-seq: Next generation single cell sequencing)による、肝臓での老化関連遺伝子の探索研究は順調に進行している。私たちが用いている「老化関連遺伝子」とは、必ずしも老化を制御するなど、老化機構に直接関与する遺伝子を意味するのではなく、加齢による二次的、および三次的に変動する遺伝子もすべて含む総称として老化関連遺伝子と定義する。昨年度、老齢(27月齢)と若齢(6月齢)のラット肝臓の実質細胞を用いて、老齢で発現量が大きく変動する遺伝子を探索した。そして、4種類の有力な老化関連遺伝子(AGs: Age-associated genes)にまで絞り込んだ。本年度は、これら4種類の老化関連遺伝子について、老化や加齢との関連性を明らかにするため、また異なる動物種でも同様の現象が見られるかを確認するため、解析動物をラットからマウスに変更した。そして、若齢から老齢まで様々な月齢(3, 6, 12, 24, 32-34月齢)のマウス肝臓を用いてqPCRによる遺伝子発現の加齢変化を解析した。そして、最終的に加齢変化を示す3種類の老化関連遺伝子(遺伝子名を明らかにできないためAG-1, AG-2, AG-3と表す)にまで絞り込むことができた。これら3種類の老化関連遺伝子は、今までに老化や加齢との関連性を示す研究報告はない。また、これら3種類の遺伝子に関する論文数は少なく、既存の報告から推測する機能としては、AG-1は細胞増殖の抑制に関与、AG-2は炎症の抑制に関与、AG-3はアポトーシスの促進に関与することが考え得るが、老齢マウスの肝臓でも同様の機能を示すのか、その確証は得られていない。さらに、今回得られた膨大な老若ラット由来肝臓実質細胞のシークエンスデータから1細胞毎にAG-1, AG-2, AG-3を高発現している細胞を解析したところ、とても興味深いことに老齢ラットの肝実質細胞では、同一の細胞にこれら3種類の遺伝子が高発現している割合が高いことがわかった。これは、3種類の遺伝子を高発現している細胞が老齢動物に存在する老化細胞である可能性を示唆している。一方、若齢ラットの肝実質細胞では、これら3種類の遺伝子を発現している同一の細胞は、ほとんど見られなかった。

- **［老化制御の達成］**標準的な男性や女性の骨格筋量は、体重の約30～40%を占める。あまり知られていないが、骨格筋にはビタミンCが多く存在し、他の組織に比べてビタミンC総量はかなり多い。私たちは、以前に東京都板橋区在住の70～84歳の高齢女性を対象とした横断調査(お達者健診)により、血漿ビタミンC濃度の高い高齢者女性は、握力、開眼片足(片足で立っていられる時間)、通常歩行速度などの筋力

や身体能力が高いことを、社会科学系の自立促進と介護予防研究チームとの共同研究により明らかにした(J Gerontol A Biol Sci Med Sci 67: 295, 2012)。しかし、このとき、逆に血漿ビタミンC濃度の低い高齢女性は、筋力や身体能力が低いなど、有意な相関を得ることができなかった。そこで、今回この点を明らかにするため、ヒトと同様に体内でビタミンCを合成できないSMP30ノックアウトマウスを用いて、血中や骨格筋のビタミンCが減少すると、骨格筋にどのような影響を及ぼすのか、筋重量や運動機能を詳細に調べた。即ち、今回は女性を想定し、雌のSMP30ノックアウトマウスをビタミンC投与群と非投与群の2群に分け、腓腹筋、ヒラメ筋、足底筋、前脛骨筋、長趾伸筋などの骨格筋の筋重量を定期的に測定した。その結果、ビタミンC不足期間が長くなると筋肉を構成する筋線維が細くなり、骨格筋の重量が減少した。また、とても興味深いことに、再びビタミンCを与えると筋線維や骨格筋の重量が劇的に回復することがわかった。さらに、筋力や自発的な活動量などで評価した身体能力も同様にビタミンC不足期間が長くなると低下し、そして再びビタミンCを与えると劇的に身体能力も回復した。そして、これらの研究成果を纏めて英語論文(Sci Rep 9: 4702, 2019)として発表した。また、都民や国民に研究成果を広報するため、研究所からもプレスリリース(「骨格筋でのビタミンC不足は筋萎縮や身体能力の低下をもたらす」)を行った。

- ［老化制御の達成］高齢者は、グリコペプチド系抗生物質でありメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症の治療薬として多用されるバンコマイシンによる薬剤性腎障害を発症しやすい。しかし、高齢者でのバンコマイシンによる薬剤性腎障害の発症機序は未だ明らかではない。分子老化制御では、高齢者でのバンコマイシンなどの薬剤性腎障害発症機序の解明、および腎障害を軽減する方法論を開発するため、以前から病院薬剤科、病理診断科、腎臓内科と共同研究を行っている。昨年度、高齢マウスを含む様々な月齢のマウスを用いて、加齢に伴うバンコマイシンによる腎障害の発症や増悪度を比較、検討した。そして、ヒトと同様に高齢マウスは、バンコマイシンによる薬剤性腎障害を発症しやすく、その程度も加齢に伴い酷くなることを明らかにした(J Toxicol Pathol 32: 57-66, 2019)。以前より、バンコマイシンによる薬剤性腎障害には活性酸素の関与が示唆されていた。そこで本年度は、臨床応用も視野に入れ、強力な抗酸化物質であるビタミンCの高用量投与により、バンコマイシンによる薬剤性腎障害を軽減できるのか、マウスを用いて検討した。そして、とても興味深いことに高用量ビタミンC投与がバンコマイシンによる尿細管障害、線維化、円柱形成などの腎障害、尿細管上皮細胞のアポトーシスを軽減することを明らかにした。そして、これら研究成果を纏めて英語論文(J Nutr Sci Vitaminol 65: 399-404, 2019)として発表した。

【その根拠】

- シングルセル遺伝子発現解析(金沢大学との共同研究)により、加齢に伴い遺伝子発現が高くなる3種類の老化関連遺伝子(AG-1, AG-2, AG-3)を明らかにした。また、老齢ラット肝臓では、同一の細胞にこれら3種類の遺伝子が高発現している割合が高いことを明らかにした。老齢動物の肝臓に存在するAG-1, -2, -3高発現細胞は、老化細胞である可能性がある。これら研究成果を第42回日本基礎老化学会、及び第92回日本生化学会大会で発表した。第92回日本生化学会大会では、本研究成果が「老化細胞の同定」や「老化メカニズムの解明」などに大きく貢献することが期待され、発表者である連携大学院生(首都大学東京)の土志田裕太が「若手優秀発表賞」を受賞した(発表演題: 包括的シングルセル遺伝子発現解析による老齢動物の肝臓で発現が亢進している遺伝子の同定)。

- 骨格筋にはビタミンCが多く存在する。しかし、その生理的役割については、ほとんど報告がない。私たちは、骨格筋でのビタミンCの役割を解明するため、今年度、首都大学東京、東邦大学、順天堂大学との共同研究により、骨格筋でのビタミンC不足は、筋萎縮や身体能力の低下をもたらすことを明らかにした。また、ビタミンCの再投与により劇的に回復できることも明らかにした。ビタミンCは、日常的に手軽に摂取できる食品成分である。この研究成果は、骨格筋におけるビタミンCの生理的役割の解明に大きく貢献することが期待される。そして、この研究成果を纏めて英語論文として発表(Sci Rep 9: 4702, 2019)した。また、研究所からもプレスリリース(「骨格筋でのビタミンC不足は筋萎縮や身体能力の低下をもたらす」)を行った。

- 今年度、病院薬剤科、病理診断科、腎臓内科との共同研究により、高用量ビタミンC投与が、バンコマイシンによる薬剤性腎障害を軽減できることを明らかにした。そして、これら研究成果を第42回日本基礎老化学会、2019 IAGG Asia/Oceania Regional Congressで発表した。さらに、これら研究成果を纏めて英語論文として発表(J Nutr Sci Vitaminol 65: 399-404, 2019)した。

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜高齢者でのバンコマイシンなどの薬剤性腎障害発症機序の解明、および腎障害を軽減できる方法論の探索＞

【センター内】薬剤科、病理診断科、腎臓内科

【センター外】東邦大学

＜慢性腎臓病とビタミンCとの関連研究＞
【センター内】腎臓内科
＜シトルリン化タンパク質を指標としたアルツハイマー病早期臨床検査試薬の開発＞
【センター内】老化制御研究チーム（生体環境応答）、老年病理学研究チーム（神経病理学）
【センター外】富士レビオ株式会社
＜高島平こころとからだの健康調査、認知症と共に暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業＞
【センター内】社会科学系副所長、自立促進と精神保健研究チーム、社会参加と地域保健研究チーム
＜高齢者の血漿ビタミン及びカロテノイド濃度と筋力及び運動との関係＞
【センター内】自立促進と介護予防研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム
【センター外】横浜市立大学、カゴメ研究開発本部
＜klothoマウスの腎臓、肺におけるシトルリン化タンパク質の動態解析＞
【センター内】老化機構研究チーム
＜老齢動物の組織に存在する老化細胞の同定と機能低下機構の解明＞
【センター外】金沢大学大学院、首都大学東京、東京医科歯科大学
＜筋肉におけるビタミンCの役割解明＞
【センター外】順天堂大学大学院
＜敗血症に対するビタミンC療法の有効性＞
【センター外】大分大学
＜シトルリン化タンパク質とプリオン病＞
【センター外】Laboratory of Cellular Aging and Neurodegeneration,Ilsong Institute of Life Science,Hallym Universit
＜脳におけるSMP30の機能解明、加齢変化＞
【センター外】Laboratory of Molecular Neurobiology, College of Pharmacy, Pusan National University
＜関節リウマチ早期診断薬の開発＞
【センター外】東京医科歯科大学、東京女子医科大学、富士レビオ株式会社

生体調節機能

構成メンバー
テーマリーダー：大澤郁朗
研究員：藤田泰典、池谷真澄
非常勤研究員：伊藤雅史

1　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

＜水素＞

水素分子の作用機序解明と臨床応用に向けた研究は順調に進行している。動物モデルでは水素分子による抗炎症および抗老化の作用機序に関する免疫系を中心とした研究を血管老化モデルやリウマチモデルで進めている。作用機序に関する研究では、水素分子による脂質変化と細胞内輸送への影響に関する新たな知見を得ている。共同研究として進めている水素含有眼灌流液の白内障手術における臨床データを報告した。特に臨床研究では、病院部門心臓外科と水素ガス治療に関する臨床研究体制を整えた。

＜ミトコンドリア＞

ミトコンドリアと老化に関する研究は今年度より体制が変わり、新たな研究に着手した。この中で、老化に伴うミトコンドリア周囲の構造変化やミトコンドリア局在タンパク質の臓器ごとの多様性など、今後の研究進展が期待できる知見を得ている。また、ミトコンドリア病マーカーとして同定したGDF15と炎症との関連について検討した。

＜その他＞

上記以外の研究としては、細胞内では抗がん剤によるゴルジストレスや臭覚受容体の膜輸送、細胞外ではエクソソームによる免疫疾患の促進や疾患マーカーとしての可能性を報告した。

【その根拠】

＜水素＞

・昨年度、水素水の飲用で高脂血症による血管老化が抑制されることを報告したが、そのメカニズムとして免疫恒常性の維持が考えられる。動脈硬化症モデル動物であるAPOE KOマウスに水素水を飲用させると脾臓の肥大が抑制され、テロメア逆転写酵素（Tert）の発現低下も抑制された。
・水素分子の抗炎症作用については、II型コラーゲンを投与した関節リウマチモデル動物(D1CCマウス)に水素水を飲用させることで関節リウマチに伴う間質性肺炎への効果を検証した。投与群では関節リウマチの抑制と共に肺の炎症が顕著に抑制されたことを論文報告した。
・水素分子の分子レベルでの作用機序解明についてはリポクオリティ制御に着目した研究を進めている。コレラ毒素Bの取り込みを指標とするエンドサイトーシスは膜構造変化により容易に変動する。水素分子の添加で、コレラ毒素Bの細胞内凝集が促進され、リサイクリングキャリアの長大化が観察された。一方、LC-MS/MSの解析から水素分子の添加でホスファチジルセリンの増加が観察されたことから、これによる膜構造変化のエンドサイトーシスを含む細胞内輸送に対する影響が示唆された。また、重水素分子を添加した細胞から、これが取り込まれたと考えられるピークがLC-MS/MSの解析で得られており、構造を解析中である。
・白内障手術では超音波による水晶体破砕でヒドロキシルラジカルが発生し、角膜に損傷を与える。水素分子はこのヒドロキシルラジカルの発生を抑制する。そこで高濃度に水素分子を含む水素含有眼灌流液を臨床で用いて、術後の角膜損傷を調べた。水素灌流液を用いた患者では角膜内皮細胞密度の低下が抑制され、角膜損傷が緩和されたことを論文報告した。
・水素ガスの非感染性炎症抑制効果を臨床に応用するため、病院部門、ガス会社と協力して覚醒下で十分量の水素ガスを安全に吸引できるシステムを構築中である。高齢者の大動脈解離緩和を目的とした医薬品開発のための臨床研究プロトコルを作成準備中。

＜ミトコンドリア＞

・老化した培養細胞のミトコンドリアは細長く分岐したミトコンドリアが増大し、多少の膜電位低下が認められたが、電顕や超解像顕微鏡で観察したミトコンドリア内部構造には変化が見られていない。一方、予期しなかったリソソームあるいはファゴソームの近接が多数、観察された。
・昨年度、骨格タンパク質であるアクチンがミトコンドリア内にも存在することを発見し、報告したが、新たにこれが組織特異的であることが分かってきた。
・炎症ではミトコンドリア機能異常が観察される。そこでミトコンドリア病マーカーとして同定したサイトカインGDF15を敗血症モデルで解析したところ、薬物投与後に血中で短時間かつ継続的なGDF15の上昇が観察された。

＜その他＞

・ユリ科植物由来の抗がん剤候補OSW-1は作用機序が未解明である。細胞の経時的観察から、OSW-1の添加で結合タンパク質OSBPが小胞体近傍から解離し、速やかなゴルジ形態変化が引き起こされることを明らかにした。ゴルジストレスが細胞死誘導機構である事を突き止め、論文報告した。
・匂い受容体膜輸送には分子シャペロンとしてアクセサリータンパク質RTP1Sが関与するが、その役割が受容体の二量体であることを突き止め、論文報告した。
・甲状腺細胞エクソソームに甲状腺刺激ホルモン受容体（TSHR）が存在し、TSHR発現エクソソームは、TSHR自己抗体（M22）刺激による甲状腺細胞でのcAMPの増加を抑制することを見出し、論文報告した。
・尿エクソソーム中のCD9およびAktが、無症候性細菌尿と尿路感染症を鑑別するマーカーになる可能性が示唆され、論文報告した。
・抗PD-1抗体オプジーボ（Nivolumab）を使用したELISAを構築し、進行性腎がん患者の血中PD-1の増加を鋭敏に捉えることができることを論文報告した。

2　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜水素分子の作用機序解明と臨床応用＞

【センター内】老化制御研究チーム（分子老化制御）、実験動物施設、心臓外科、病理診断科

【センター外】東洋大学、岡山大学、日本医科大学、（株）伊藤園

＜ミトコンドリア機能構造相関と老化の分子機構及びその制御＞

【センター内】老化制御研究チーム（分子老化制御）、老年病理学研究チーム、実験動物施設

【センター外】東京農工大学、防衛医科大学

＜その他：細胞輸送とオルガネラ制御＞

【センター外】東京農工大学

＜その他：エクソソームなど＞
【センター内】老化機構研究チーム（プロテオーム）、泌尿器科
【センター外】帝京大学、岐阜大学

論文・学会発表

分子老化制御

1　学会発表

(1) 海外

1. Sato A, Da Fonseca IIM, Yeh E, Dagli MLZ. ： α-Connexin carboxyl-terminal peptide enhances antiproliferative effect of Bowman-Birk inhibitor from soybeans in canine oral melanoma cells. International Gap Junction Conference 2019, Victoria, Canada, 2019.7.27-31
2. Kawabata A, Tsubota M, Uebo K, Miki K, Sekiguchi F, Ishigami A.：Dietary ascorbic acid restriction in GNL/SMP30-knockout mice unveils the role of ascorbic acid in regulation of Cav3.2-dependent pain. The 11th Congress of the European Pain Federation, Valencia, Spain, 2019.9.4-7
3. Akasaka-Manya K, Manya H, Nadanaka S, Kitagawa H, Kondo Y, Ishigami A, Endo T. Reduction of α-Klotho and pulmonary emphysema in aging. The 11th International Conference on Proteoglycans, Kanazawa, Japan, 2019.9.29-10.3
4. Funakoshi T, Doshida Y, Yatsu T, Sano H, Iwabuchi S, Hashimoto S, Lee J, Ishigami A. ：Investigation for Senescence Maker Protein 30-related genes in mouse hepatocytes by comprehensive single cell transcriptome analysis. 2019 IAGG Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, Taiwan, 2019.10.23-27
5. Takigawa M, Yatsu T, Takino Y, Matsumoto S, Kitano T, Lee J, Arai T, Tanaka H, Ishii T, Mori Y, Ishigami A. ：Time and aged dependent alterations and prevention of vancomycin-induced nephrotoxicity in mice. 2019 IAGG Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, Taiwan, 2019.10.23-27
6. Yang S, Lee S, Jeon H, Suh YJ, Kondo Y, Ishigami A, Lee J：Dibutyl phthalate suppresses hipocampal neurogenesis and proliferation of C17.2 neural progenitor cell. 2019 IAGG Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, Taiwan, 2019.10.23-27
7. Harigai M, Sakai R, Sugihara T, Ishigami A.：Expression of peptidyl-arginine deiminases in peripheral blood neutrophils and its association with single nucleotide variants in patients with rheumatoid arthritis. 2019 ACR/ARP Annual Meeting, Atlanta, Georgia, 2019.11.8-13
8. Yatsu T, Takino Y, Ishigami A. ：Involvement of Vitamin C in Skeletal Muscle Regeneration. The 2nd joint research symposium between Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology and Pusan National University, Busan, South Korea, 2019.11.14-15
9. Jang B, Kim MJ, Lee YJ, Ishigami A, Kim YK, Choi EK. ：Vimentin citrullination, specific indicator for the reactive astrocytes, probed by novel monoclonal antibodies assessed *in vitro* and in neurodegeneration. The 2nd joint research symposium between Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology and Pusan National University, Busan, South Korea, 2019.11.14-15
10. Sato A, Ishigami A. ：A redox-inactive derivative of tocotrienol suppresses tumor growth of mesothelioma cells in a xenograft model. The 2nd joint research symposium between Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology and Pusan National University, Busan, South Korea, 2019.11.14-15
11. Doshida Y, Funakoshi T, Iwabuchi S, Hashimoto S, Lee J, Aigaki T, Ishigami A. ：Search of age-related genes in the liver of aged rats and mice using single cell analysis. The 2nd joint research symposium between Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology and Pusan National University, Busan, South Korea, 2019.11.14-15
12. Urasawa K, Takino Y, Ishigami A. ：Vitamin C treatment improves inflammation on UVB-induced reconstituted human epidermis. The 2nd joint research symposium between Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology and Pusan National University, Busan, South Korea, 2019.11.14-15
13. Kokubo Y, Morimoto S, Sasaki R, Kuzuhara S, Ishigami A.：Abnormal Accumulation of Citrullinated Proteins of Amyotrophic Lateral Sclerosis (ALS) and Parkinsonism-dementia complex (PDC) of the Kii peninsula of Japan. The 30th International Symposium on ALS/MND 2019, Perth, Australia, 2019. 12. 4-6

(2) 国内

1. 石井（船越）智子、石神昭人 ： SMP30 発現細胞の解析. TOBIRA 第 8 回研究交流フォーラム, ソラシティカンファレンスセンター内ソラシティホール, 東京, 2019.5.10
2. Y. Kokubo, S. Morimoto, R. Sasaki, S. Kuzuhara, A. Ishigami. ：Abnormal Accumulation of Citrullinated Proteins of Amyotrophic Lateral Sclerosis (ALS) and Parkinsonism-dementia complex (PDC) of the Kii peninsula of Japan. 第 60 回日本神経学会学術大会, 大阪国際会議場, 大坂, 2019. 5.22-25

3. 瀧川正紀、谷津智史、滝野有花、Jaewon Lee、田中博之、石井敏浩、森淑子、石神昭人 ： ビタミン C 前投与によるバンコマイシン誘発性腎障害の予防効果. 日本基礎老化学会第 42 回大会, 仙台国際センター, 仙台, 2019.6.6-8
4. 谷津智史、船越智子、滝沢晶子、Jaewon Lee、永田喜三郎、相垣敏郎、町田修一、石神昭人: ビタミンＣの欠乏は骨格筋の萎縮と運動機能の低下を引き起こす. 日本基礎老化学会第 42 回大会, 仙台国際センター, 仙台, 2019.6.6-8
5. 赤阪（萬谷）啓子、萬谷博、近藤嘉高、石神昭人、遠藤玉夫 ： 加齢によるα-Klotho の減少と肺気腫との関連. 日本基礎老化学会第 42 回大会, 仙台国際センター, 仙台, 2019.6.6-8
6. 土志田裕太、船越智子、岩淵禎弘、橋本真一、Jaewon Lee、相垣敏郎、石神昭人 ： 肝実質細胞における老化関連遺伝子の探索. 日本基礎老化学会第 42 回大会, 仙台国際センター, 仙台, 2019.6.6-8
7. 佐野遥香、船越智子、土志田裕太、岩淵禎弘、橋本真一、Jaewon Lee、吉田雅幸、石神昭人 ： 包括的シングルセル遺伝子発現解析を用いたマウス脂肪組織由来幹細胞の分類. 日本基礎老化学会第 42 回大会, 仙台国際センター, 仙台, 2019.6.6-8
8. Y. Kokubo, S. Morimoto, R. Sasaki, S. Kuzuhara, A. Ishigami. ：Abnormal Accumulation of Citrullinated Proteins of Amyotrophic Lateral Sclerosis (ALS) and Parkinsonism-dementia complex (PDC) of the Kii peninsula of Japan. 第 13 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス, 東京, 浜松町コンベンションホール, 2019.7.25-27.
9. 谷津智史、船越智子、滝野有花、石神昭人: ビタミンＣの骨格筋再生における役割. 第 159 回ビタミンＣ研究委員会, 東京都健康長寿医療センター研究所, 東京, 2019.7.27
10. 谷津智史、船越智子、滝野有花、町田修一、石神昭人 ： 骨格筋再生に及ぼすビタミン C 不足の影響. 日本筋学会第 5 回学術集会, 伊藤国際学術研究センター　伊藤謝恩ホール, 東京, 2019.8.2-3
11. 佐野遥香、船越智子、土志田裕太、岩淵禎弘、橋本真一、Jaewon Lee、吉田雅幸、石神昭人 ： 包括的シングルセル遺伝子発現解析を用いたマウス脂肪組織由来幹細胞の同定及び加齢変化. 第 92 回日本生化学会大会, パシフィコ横浜, 神奈川, 2019.9.18-20
12. 土志田裕太、船越智子、岩淵禎弘、橋本真一、Jaewon Lee、相垣敏郎、石神昭人 ： 包括的シングルセル遺伝子発現解析による老齢動物の肝臓で発現が亢進している遺伝子の同定. 第 92 回日本生化学会大会, パシフィコ横浜, 神奈川, 2019.9.18-20
13. 谷津智史、船越智子、滝野有花、町田修一、石神昭人 ： 骨格筋再生におけるビタミンＣの役割. 第 92 回日本生化学会大会, パシフィコ横浜, 神奈川, 2019.9.18-20
14. 幸地真吾、佐藤安訓、木村駿、高木恭子、石井強、木村敏行、石神昭人 ： ヒト三次元培養表皮モデルに及ぼすアスコルビン酸の影響. 日本薬学会北陸支部第 131 回例会, 北陸大学薬学キャンパス, 金沢, 2019.11.17
15. 浦澤佳苗、石神昭人 ： 表皮におけるビタミン C の抗炎症作用. 第 42 回日本分子生物学会年会, 福岡国際会議場・マリンメッセ福岡・福岡サンパレス, 福岡, 2019.12.3-6
16. 石神昭人 ： ビタミンＣとＥの不足、欠乏は神経炎症を増加し、恐怖条件付け記憶を損なう. 第 31 回ビタミンＥ研究会, 愛媛大学　城北キャンパス, 愛媛, 2020.1.10-11
17. 佐藤綾美、谷津智史、矢野友啓、福井浩二、石神昭人 ： ビタミンＣ合成不全マウスを用いたビタミンＣとビタミンＥの生体内相互作用解析. 第 31 回ビタミンＥ研究会, 愛媛大学　城北キャンパス, 愛媛, 2020.1.10-11
18. 谷津智史、滝野有花、町田修一、石神昭人 ： 骨格筋の再生とビタミン C. 第 140 回日本薬学会, 国立京都国際会館, 京都, 2020.3.25-28

２　誌上発表

(1) 原著

1. ★◎Uchio R, Hirose Y, Murosaki S, Ishigami A. ：High dietary vitamin C intake reduces glucocorticoid-induced immunosuppression and measures of oxidative stress in vitamin C-deficient senescence marker protein 30 knockout mice. Br J Nutr. 2019 Nov 28;122(10):1120-1129. doi: 10.1017/S0007114519001922. (査読あり) (impact Factor: 3.319, 2018)
2. ★◎Sadamoto K, Araki Y, Kubota K, Yanagawa C, Ishigami A, Murata M, Sadamoto S. ：Lifestyles and Preferences of Independent Elderly Patients with Chronic Diseases in Japan - Sex and Age-Related Differences. J. Sci. Inno. Res., 2019;8(2):33-36 (査読あり)
3. ◎Takigawa M, Yatsu T, Takino Y, Matsumoto S, Kitano T, Lee J, Arai T, Tanaka H, Ishii T, Mori Y, ★Ishigami A. ：High-Dose Vitamin C Preadministration Reduces Vancomycin-Associated Nephrotoxicity in Mice. J Nutr Sci Vitaminol. 2019;65(5):399-404. doi: 10.3177/jnsv.65.399. (査読あり) (impact Factor: 1.125, 2018)
4. ◎Lee W, Cho JH, Lee Y, Lee S, Kim DH, Ha S, Kondo Y, Ishigami A, Chung HY, ★Lee J. ：Dibutyl phthalate impairs neural progenitor cell proliferation and hippocampal neurogenesis. Food Chem Toxicol. 2019 Jul;129:239-248. doi: 10.1016/j.fct.2019.04.040. (査読あり) (impact Factor: 3.775, 2018)

5. ◎Kaneko S, Yamazaki T, Kohno K, Sato A, Kato K, ★Yano T. : Combination Effect of Bowman-Birk Inhibitor and α-Tocopheryl Succinate on Prostate Cancer Stem-Like Cells. J Nutr Sci Vitaminol. 2019;65(3):272-277. doi: 10.3177/jnsv.65.272. (査読あり) (impact Factor: 1.125, 2018)
6. ◎Takisawa S, Funakoshi T, Yatsu T, Nagata K, Aigaki T, Machida S, ★Ishigami A. : Vitamin C deficiency causes muscle atrophy and a deterioration in physical performance. Sci Rep. 2019 Mar 20;9(1):4702. doi: 10.1038/s41598-019-41229-7. (査読あり) (impact Factor: 4.525, 2018)
7. ◎Tsubota M, Uebo K, Miki K, Sekiguchi F, Ishigami A, ★Kawabata A. : Dietary ascorbic acid restriction in GNL/SMP30-knockout mice unveils the role of ascorbic acid in regulation of somatic and visceral pain sensitivity. Biochem Biophys Res Commun. 2019 Apr 9;511(3):705-710. doi: 10.1016/j.bbrc.2019.02.102. (査読あり) (impact Factor: 2.705, 2018)
8. ★◎Sato A, Arai T, Fusegi M, Ando A, Yano T. : A redox-inactive derivative of tocotrienol suppresses tumor growth of mesothelioma cells in a xenograft model. Biol Pharm Bull. 2019;42(6):1034-1037. doi: 10.1248/bpb.b18-00924. (査読あり) (impact Factor: 1.540, 2018)
9. ◎Takahashi K, Yanai S, Takisawa S, Kono N, Arai H, Nishida Y, Yokota T, Endo S, ★Ishigami A. : Vitamin C and vitamin E double-deficiency increased neuroinflammation and impaired conditioned fear memory. Arch Biochem Biophys. 663, 120-128, 2019 Jan 7. pii: S0003-9861(18)30847-6. doi: 10.1016/j.abb.2019.01.003. (査読あり) (impact Factor: 3.559, 2018)
10. ★◎Ito S, Sairenchi T, Machida T, Takino Y, Kondo Y, Mukai K, Kobashi G, Ishigami A, Senoo T. : Reduced aqueous humour ascorbic-acid concentration in women with smaller anterior chamber depth. Sci Rep. 2019 Jan 23;9(1):372. doi: 10.1038/s41598-018-36899-8. (査読あり) (impact Factor: 4.525, 2018)
11. ◎Takigawa M, Masutomi H, Shimazaki Y, Arai T, Lee J, Ishii T, Mori Y, ★Ishigami A. : Age-dependent changes in vancomycin-induced nephrotoxicity in mice. J Toxicol Pathol. 2019 Jan;32(1):57-66. doi: 10.1293/tox.2018-0036. (査読あり) (impact factor 1.153, 2018)
12. Akasaka-Manya K, Manya H, Nadanaka S, Kitagawa H, Kondo Y, Ishigami A, Endo T. Decreased ADAM17 expression in the lungs of α-Klotho reduced mouse. J Biochem. 2020 Jan 17. pii: mvz113.

(2) 総説

1. ★◎石神昭人 : ビタミンCが長期的に不足すると寿命が短くなる. 家庭科通信 65 3-7 (2019)
2. ★◎石神昭人 : 骨格筋でのビタミンC不足は筋萎縮や身体能力の低下をもたらす. 野菜情報 186 38-42 (2019)
3. ◎谷津智史、滝沢晶子、船越智子、永田喜三郎、相垣敏郎、町田修一、★石神昭人 : ビタミン C 不足は筋萎縮と身体能力の低下をもたらす. ビタミン 93 401-403 (2019)
4. ◎佐藤安訓、河島早紀、船越智子、齊藤紀克、大澤肇、栗田克己、永田喜三郎、吉田雅幸、★石神昭人 : 紫外線の皮膚障害に対するビタミンCの前塗布, 後塗布による保護効果. ビタミン 93 334-336 (2019)
5. ◎伊藤栄、西連地利己、町田武久、滝野有花、近藤嘉高、向井公一郎、小橋元、★石神昭人、妹尾正 : 眼の前房深度と房水中アスコルビン酸濃度の検討：短い前房深度の女性における房水中アスコルビン酸濃度の低下. ビタミン 93 246-248 (2019)
6. ★◎石神昭人 : 急成長するアンチエイジング産業. Smoking Science 33(4), 2, 2019
7. ★◎石神昭人 : 老化制御研究による健康長寿への貢献. 基礎老化研究 44 7-12 (2020)
8. ★◎石神昭人 : 筋肉にはビタミン C が必要！-ビタミン C 不足が骨格筋にもたらす影響とは-. コーチング・クリニック 34 20-23 (2020)
9. ★◎石神昭人 : 【大会報告】第 42 回日本基礎老化学会大会を終えて. 基礎老化研究 43 51-53 (2019)

3 著書等

1. ★◎石神昭人: 老化のメカニズムと制御『高齢者医療薬学』京都廣川書店 (2019)
2. ★◎石神昭人、只石幹、田所忠弘、谷岡由梨、服部一夫、古庄律、峯洋子、山内淳 (監修) : 野菜ブック　独立行政法人農畜産業振興機構 (2019)
3. ★◎石神昭人 : 「シトルリン化蛋白質を指標としたアルツハイマー病早期臨床検査試薬の開発」平成 29 年度文部科学省科学研究費挑戦的萌芽報告書、平成 31 年 4 月
4. ◎近藤嘉高、★石神昭人: microRNA による新しい COPD 治療を目指した気道分泌型エクソソーム解析. 喫煙科学研究研究財団報告書 (2019)

生体調節機能

1　学会発表

(1) 海外

1. Mizutani K, Horie K, Kato T, Nakane K, Kawakami K, Fujita Y, Ito M. Nivolumab-based ELISA revealed increased serum PD-1 levels in advanced RCC patients. American Association for Cancer Research (AACR) Annual Meeting 2019, Atlanta, USA, 2019.3.29-4.3.
2. Mizutani K, Kawakami K, Horie K, Fujita Y, Kameyama K, Kato T, Nakane K, Tuchiya T, Yasuda M, Masunaga K, Kasuya Y, Masuda Y, Deguchi T, Koike T, Ito M. Akt and CD9 in urine exosomes as potential markers for urinary tract infection. International Society for Extracellular Vesicles (ISEV) 2019 Annual Meeting. Kyoto, Japan, 2019.4.25-28.
3. Fujita Y, Kawakami K, Ito M. Detection of CD11b-expressing exosomes in plasma of mice with sepsis. International Society for Extracellular Vesicles (ISEV) 2019 Annual Meeting. Kyoto, Japan, 2019.4.25-28.
4. Fujita Y, Kawakami K, Ito M. Small extracellular vesicles expressing CD11b increase in plasma of mice with sepsis. 2019 Spring International Conference of the Korean Society for Gerontology. Seoul, Korea, 2019.6.27-28.
5. Fujita Y, Sakane I, Ito M, Ohsawa I. Induction of GDF15 in hepatocytes during experimental sepsis. The 16th Conference of Asian Society for Mitochondrial Research and Medicine (The 19th Conference of Japanese Society fo Mitochondrial Research and Medicine). Fukuoka, Japan, 2019.10.3-5.
6. Noda Y, Nemoto T, Endo T, Ohsawa I. Protective effect of molecular hydrogen on oxidative stress-induced impairment in mouse sperm motility. 70th AALAS National Meeting, Denver CO, USA, 2019.10.13-17

(2) 国内

1. 大澤郁朗. 分子状水素の最新研究と医療への応用 . スイーツセミナー. 第 46 回日本血液浄化技術学会学術大会. 東京、2019.4.20
2. 池谷真澄、関本香奈子、小松真希、高橋真由美、金子律子、川口英夫、大澤郁朗. 水素水はアテローム形成に伴う炎症反応の抑制を介した大動脈内皮細胞の老化を制御する. 第 42 回日本基礎老化学会大会、仙台、2019.6.6-6.8
3. 大庭和人、田村嘉章、石川譲治、舘鼻彩、豊島弘一、大村卓也、小寺玲美、豊島堅志、千葉優子、藤田泰典、伊藤雅史、田中雅嗣、井藤英喜、荒木厚　血清 GDF15 値は高齢糖尿病患者の筋力と下肢運動機能の新しいマーカーとなりうる　第 92 回日本内分泌学会学術総会、仙台市、2019.5.9-11.
4. 大庭和人、田村嘉章、舘鼻彩、豊島弘一、大村卓也、小寺玲美、豊島堅志、千葉優子、石川譲治、藤田泰典、伊藤雅史、田中雅嗣、森聖二郎、井藤英喜、荒木厚　血中 GDF15 値は高齢糖尿病患者において筋力と下肢運動機能と関連しサルコペニア肥満のマーカーとなりうる　第 62 回日本糖尿病学会年次学術集会、仙台市、2019.5.23-25.
5. 大庭和人、田村嘉章、豊島堅志、千葉優子、石川譲治、藤田泰典、伊藤雅史、田中雅嗣、井藤英喜、荒木厚　血清 GDF-15 値は高齢者のサルコペニア肥満やダイナペニア肥満のマーカーとなりうる　第 61 回日本老年医学会学術集会、仙台市、2019.6.6-8.
6. 小松真希、池谷真澄、高橋真由美、羽富 舞、川口英夫、大澤郁朗. 水素水飲用による Apoe 遺伝子欠損マウスのアテローム形成抑制と脾臓テロメアに与える影響. 第 42 回日本基礎老化学会大会、仙台、2019.6.6-6.8
7. 大澤郁朗. 水素分子医学の現在地. ランチョンセミナー. 第 42 回日本基礎老化学会大会、仙台、2019.6.6-6.8
8. 川上恭司郎、藤田泰典、津元裕樹、三浦ゆり、伊藤雅史　アルツハイマー病患者血清由来の細胞外小胞のプロテオーム解析によるバイオマーカー探索、第 42 回日本基礎老化学会大会、仙台市、2019.6.6-8.
9. 藤田泰典、川上恭司郎、伊藤雅史　敗血症モデルマウスの血液中で増加する CD11b 陽性細胞外小胞の同定、第 42 回日本基礎老化学会大会、仙台市、2019.6.6-8.
10. 川上恭司郎、江戸直樹、盛田幸司、石川敏夫、小野瀬裕之、福森龍也、津元裕樹、三浦ゆり、藤田泰典、伊藤雅史　甲状腺癌患者血清から単離した細胞外小胞のプロテオーム解析　日本プロテオーム学会 2019 年大会、宮崎市、2019.7.24-27.
11. 池谷真澄、小松真希、羽富 舞、坂根 巌、藤田泰典、伊藤雅史、川口英夫、大澤郁朗. 水素水飲用は免疫細胞の制御を介して大動脈の血管老化を制御する. 第 9 回日本分子状水素医学生物学会年会. 福岡、2019.8.31-9.1
12. 青景聡之、瀬谷海月、池谷真澄、寺崎泰弘、石川倫子、大澤郁朗、中尾篤典. 間質性肺炎急性期における間欠的・連日の水素吸入は肺間質の炎症と肥厚を抑制する. 第 9 回日本分子状水素医学生物学会年会. 福岡、2019.8.31-9.1
13. 大澤郁朗、池谷真澄. 生体内環境応答と水素分子. ミニシンポジウム. 第 9 回日本分子状水素医学生物学会年会. 福岡、2019.8.31-9.1
14. 大澤郁朗. 分子状水素による酸化ストレス防御の分子機構. シンポジウム. 第 92 回日本生化学会大会. 横浜、2019.9.18-20.
15. 池谷真澄、小松真希、藤田泰典、川口英夫、伊藤雅史、大澤郁朗. CD36 を介したマクロファージの制御による分子状水素の血管老化制御. シンポジウム. 第 92 回日本生化学会大会. 横浜、2019.9.18-20.
16. 大澤郁朗. 分子状水素医学の現在地. ランチョンセミナー. 第 47 回日本救急医学会総会・学術集会. 東京、2019.10.2-4.
17. 江戸直樹、川上恭司郎、藤田泰典、盛田幸司、宇野健司、塚本和久、小野瀬裕之、伊藤雅史、石川敏夫　甲状腺濾胞細胞由来 TSHR 発現エクソソームの証明と、抗 TSHR 抗体による cAMP 産生への競合作用について　第 62 回甲状腺学会学術集会、前橋市、2019.10.10-12.
18. 大澤郁朗. 分子状水素による認知症を含む神経疾患予防の可能性. シンポジウム. 第 37 回日本神経治療学会学術集会. 横浜、2019.11.5-7
19. 小松真希、池谷真澄、羽富 舞、藤田泰典、伊藤雅史、川口英夫、大澤郁朗. 分子状水素の免疫機能恒常性維持による APOE 遺伝子欠損マウス動脈硬化症抑制. 第 42 回日本分子生物学会年会、福岡、2019.12.3-6
20. 澤田麻里, 菊本真人, 木下実紀, 松井優花, 松本友治, 大澤郁朗, 高橋佳子, 米村重信, 川本晃大, 難波啓一, 井川やよい, 濱田博司, 稲葉一男, 本山昇, 成田哲博, 今田勝巳, 井上尊生, 篠原恭介. 原発性繊毛運動不全症の原因遺伝子 Dpcd の機能解析. 第 42 回日本分子生物学会年会、福岡、2019.12.3-6
21. 藤田泰典. ミトコンドリア病研究から老化・高齢者研究への展開. NCGG セミナー、大府、2019.12.20
22. 小松真希、大澤郁朗、川口英夫. 免疫加齢変化に対する水素分子の作用とメカニズムの解明. 東洋大学工業技術研究所研究発表会、川越、2020.2.27

２　誌上発表

(1) 原著

1. Igarashi T, Ohsawa I, Kobayashi M, Umemoto Y, Arima T, Suzuki H, Igarashi T, Otsuka T, Takahashi H. Effects of hydrogen in prevention of corneal endothelial damage during phacoemulsification: a prospective randomized clinical trial. *Am J Ophthalmol.* pii: S0002-9394(19)30194-1, 2019（査読あり）(IF：4.48、2018)
2. Kimura M, Sasaki K, Fukutani Y, Yoshida H, Ohsawa I, Yohda M, Sakurai K. Anticancer saponin OSW-1 is a novel class of selective Golgi stress inducer. *Bioorg Med Chem Lett.* 29(14):1732-1736, 2019（査読あり）(IF：2.45、2018)
3. Fukutani Y, Tamaki R, Inoue R, Koshizawa T, Sakashita S, Ikegami K, Ohsawa I, Matsunami H, Yohda M. The N-terminal region of RTP1S plays important roles in dimer formation and odorant receptor-trafficking. *J Biol Chem.* 294(40):14661-14673, 2019（査読あり）(IF：4.11、2018)
4. Terasaki Y, Terasaki M, Kanazawa S, Kokuho N, Urushiyama H, Kajimoto Y, Kunugi S, Maruyama M, Akimoto T, Miura Y, Igarashi T, Ohsawa I, Shimizu A. Effect of H(2) treatment in a mouse model of rheumatoid arthritis-associated interstitial lung disease. *J Cell Mol Med.* 23(10):7043-7053, 2019（査読あり）(IF：4.66、2018)
5. Mizutani K, Horie K, Kato T, Nakane K, Kawakami K, Fujita Y, ★Ito M. Serum PD-1 levels measured by ELISA using Nivolumab increased in advanced RCC patients: novel approach to develop companion diagnostics for antibody therapy. *J Cancer Res Clin Oncol* 145:1661-1663, 2019（査読あり）(IF ： 3.332、2018)
6. Mizutani K, Kawakami K, Horie K, Fujita Y, Kameyama K, Kato T, Nakane K, Tsuchiya T, Yasuda M, Masunaga K, Kasuya Y, Masuda Y, Deguchi T, Koie T, ★Ito M. Urinary exosome as a potential biomarker for urinary tract infection. *Cell Microbiol* 21:e13020, 2019. （査読あり）(IF ： 4.288、2018)
7. Edo N, Kawakami K, Fujita Y, Morita K, Uno K, Tsukamoto K, Onose H, Ishikawa T, ★Ito M. Exosomes Expressing Thyrotropin Receptor Attenuate Autoantibody-Mediated Stimulation of Cyclic Adenosine Monophosphate Production. *Thyroid* 29:1012-1017, 2019. （査読あり）(IF ： 7.786、2018)

３　著書等

1. ★◎大澤郁朗、伊藤雅史．分子状水素による抗炎症メカニズムの解明とその臨床応用のための基盤研究．科学研究費助成事業研究成果報告書、基盤研究(B)．令和１年６月 27 日）
2. ★◎大澤郁朗．ミトコンドリアと老化機構．Geriat Med. 57(8):791-795, 2019）
3. ★◎大澤郁朗．水素ガス：臨床における期待．臨床麻酔 44（増）：251-260, 2020

受賞

分子老化制御

1. ★上志田 裕太、第 92 回日本生化学会大会「若手優秀発表賞」発表した研究成果は、「老化細胞の同定」や「老化メカニズムの解明」などに大きく貢献することが期待され、第 92 回日本生化学会大会において発表内容が高く評価された。

   2019 年 9 月 19 日

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)
二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

老化脳神経科学研究チーム

チームリーダー：遠藤昌吾

研究チームの概要・目的

脳神経系は、痛みや排泄のような基本的な機能に加え運動や記憶のような高次の機能をも支えている。それゆえ、加齢、疾病、外傷等により引き起こされる脳神経系の機能障害は、患者の日常生活に極めて重大な問題を引き起こす。様々な生理機能を支える脳神経の役割は不明な点が多く残され、その役割解明は疾病の治療や薬物療法のために重要である。

基盤研究グループに属する本研究チームでは、「脳・神経系に生じる障害を克服して、超高齢化社会におけるサクセスフルエイジングを達成する」ことを目的として、老化研究や疾病研究の基盤となる成果、その臨床応用も視野に入れて研究を行っている。

昨年度末、神経回路機能テーマリーダーが定年退職したことに伴い、テーマが廃止され、今年度は自律神経機能と記憶神経科学の2テーマとなった。**神経回路機能所属の研究員（1名）は新しいテーマリーダーの赴任まで記憶神経科学に所属して研究を行なっている。**既存の2テーマでは、第二期中期計画中の研究結果を基礎に研究を進展させ、積極的に新しいテーマにも取り組んでいる。

自律神経機能

I. 自律神経機能の老化とその制御の解析

自律神経機能の解明を進めることで薬物に代替しうる又はより有効な非薬物療法を生み出すことを目指す。

II. 認知機能に関わる脳内コリン作動性ニューロンの機能とその制御の解明

認知機能に重要な大脳皮質や海馬、嗅球にアセチルコリンを放出する前脳基底部コリン作動性ニューロンの機能の老化過程、およびコリン作動性神経系を賦活する臨床応用可能な手法の開発とそのメカニズムの解明を目指す。

記憶神経科学

I. 認知機能の維持・改善に関する研究

社会系コホート研究の成果を動物に置き換えた研究を行うためのモデル構築を行い、また、記憶機能の低下防止や回復に寄与する基礎研究を行う。

II. 運動記憶の制御とリハビリテーションへの応用

効率的なリハビリテーションを目指した基礎研究および運動記憶に関与する新しい分子機構の解明をおこなう。

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

自律神経機能

テーマ	研究目標・目的	2018 年度（平成30年度）	2019 年度（令和元年度）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
(1) 自律神経機能の老化とその制御	物理療法の有効性の検証とメカニズムの解明という大きな目標を掲げ、自律神経機能の解明を進めることで薬物に代わる、又はより有効な、非薬物療法や生活環境の創生を目指す。	甲状腺などからのホルモン分泌に及ぼす物理刺激の効果を調べる。	甲状腺などからのホルモン分泌に及ぼす物理刺激の効果の神経機序を調べる。	慢性筋痛モデル動物や老化モデル動物における効果を調べる。	サルコペニア・フレイルと自律神経との関係を解析する。	体力増進や慢性痛を緩和する方法の開発研究につなげる。

(2) 脳内コリン作働系機能とその制御	認知機能に重要な大脳皮質や海馬、嗅球にアセチルコリンを放出する前脳基底部コリン作動性ニューロンの機能の老化過程、およびコリン作動性神経系を賦活する臨床応用可能な手法の開発とそのメカニズムの解明を目指す。	脳内コリン作動系の機能解析およびその賦活法としての体性刺激・咀嚼の有用性の解析。	老化モデル動物を用いた脳血流・神経活動の解析。	咀嚼運動時の脳内コリン作動系の賦活メカニズムの解析。	老化モデル動物でのメカニズムの解析。	安全・安価で効果的な認知症予防法の開発につなげる。

記憶神経科学

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度	2021 年度	2022 年度
I. 認知・心理的フレイルに関する研究	1) 歩行と認知機能に関する研究―コホート研究から得られた歩行などと認知機能の関係を探り、社会での研究への還元を目指す。	1) マウスの歩行を解析するシステムの確立	1)マウスとヒトの歩行の比較行動学的研究	1)注意機能評価課題の確立	1)歩行と高次脳機能の関係に関する研究	1)歩行と高次脳機能の関係の細胞・分子機構の研究
	2) ERK系の機能強化物質Aによる認知機能改善とその解析―加齢により低下するERK機能を強化して、認知機能の維持・改善を図る。	2)物質Aの投与方法、濃度及び標的分子に関する検討	2)物質Aの標的分子に関する検討 (安全性検討)	2)物質A投与への記憶の効果の研究	2)物質Aの効果の細胞・分子機構に関する研究	2)物質Aと薬物の併用の記憶の効果の研究
	3) 薬物併用による認知機能改善―薬物併用による認知機能改善を見出し、臨床応用を目指す。	3)アルツハイマー病モデルマウスの確立	3)薬物単独投与の記憶への効果の研究	3)薬物単独投与の効果の細胞・分子機構の研究	3)薬物併用の記憶への効果の研究	3)薬物併用の細胞・分子機構の研究
II. 運動記憶の制御とリハビリテーション	1) 経頭蓋電気刺激による運動記憶改善―電気刺激の併用を用いた効率的なリハビリテーションを目指す。	1)マウス小脳電気刺激用装置の開発	1)マウス小脳電気刺激用装置の開発	1)視機性眼球応答に対する小脳電気刺激の至適条件の検討	1)視機性眼球応答に対する小脳電気刺激の至適条件の検討	1)視機性眼球応答に対する小脳電気刺激の至適条件の検討
	2) 生理活性物質としての活性酸素種 (ROS) と小脳依存性記憶―身体にとって毒物とされるROSの本来の生理機能を明らかにする。	2)ROSと小脳神経可塑性の解析	2)ROSと小脳神経可塑性の解析	2)神経可塑性に伴うROSのイメージング解析	2)視機性眼球応答への、ROS関連試薬の影響の解析とROS下流分子の同定	2)視機性眼球応答への、ROS関連試薬の影響の解析とROS下流分子の同定

自律神経機能

構成メンバー

テーマリーダー：堀田晴美
専門副部長：内田さえ
研究員：渡辺信博
非常勤研究員：飯村佳織

１　令和元年度の研究成果

概ね順調に進捗している。興味深い新知見が得られ、論文発表のみならず普及・還元にも努めている。さらに、新知見をもとに新たな研究にも挑戦している。

【その根拠】

1. 咀嚼運動の中枢指令（咀嚼をイメージすること）が、前脳基底部マイネルト核を賦活させ、大脳皮質血流を増加させることを明らかにし、論文発表するとともにプレス発表した。
2. 口から摂食するときのような咽頭への機械的刺激が甲状腺からのホルモン分泌を促進すること、およびその神経性メカニズムを明らかにし、論文発表するとともにプレス発表した。上記１の咀嚼に関する成果と併せて、「口から摂食することの重要性」を示す新知見が得られた。
3. 意識下ラットの自律神経を慢性的に電気刺激するモデルが確立され、骨粗鬆症モデル動物に対する作用を検証した。
4. 嗅覚機能を高めるアセチルコリン受容体サブタイプを明らかにし、論文発表した.
5. 嗅覚と認知機能の関連性を、認知症で脱落するコリン作動系に着目して調べる臨床研究計画が進んだ。
6. 認知機能に重要な大脳皮質血流を高める刺激部位として耳介・顔面・頸部領域の有効性を見出した。
7. アルツハイマー病モデルマウスを用いたin vivoイメージング実験で、体性感覚刺激や虚血再潅流による脳血流反応に対するアミロイドβ蓄積の影響についての解析を進めている。

【新しい知見】

1. 咀嚼は、摂食・消化を助けるだけでなく、注意力を高めたり、認知機能を向上させたりするなど脳機能への作用が示されている。また、咀嚼時に大脳皮質血流が増加するとの報告から、咀嚼時に前脳基底部マイネルト核（NBM）が賦活されることで大脳皮質血流を増加させると考えた。そこで我々は、麻酔ラットで咀嚼を起こす大脳皮質の咀嚼野を電気刺激し、大脳皮質血流とNBMのニューロン活動との関係を調べた。その結果、咀嚼野への電気刺激により、大脳皮質の血流が広範な領域にわたって増加し、このとき、脳血流増加に先行して、NBMのニューロン活動が増加することが分かった。NBMのニューロン活動を薬理的に抑制すると、咀嚼野への刺激で誘発される脳血流増加が減弱した。一方、筋弛緩薬を投与して咀嚼運動を阻害した場合にも、咀嚼野刺激による脳血流増加は筋弛緩前と同様に認められた。これらの結果より、咀嚼運動に関する中枢指令は、NBMを賦活し、大脳皮質血流の増加に関わることが示唆された。

2. 甲状腺から分泌される甲状腺ホルモンとカルシトニンは、基礎代謝や骨代謝を調節する。甲状腺を支配する自律神経（副交感神経を含む上喉頭神経；SLN）を電気刺激することにより、甲状腺からのホルモン分泌を促進させることを我々は明らかにしてきた。SLNには、口から入った食物の通り道である、咽頭・喉頭の粘膜の感覚情報を脳に伝える感覚神経が含まれる。そこで今回我々は、食物を飲み込む時のような機械的刺激を咽頭に加え、甲状腺からのホルモン分泌に及ぼす影響を調べた。その結果、甲状腺ホルモン（サイロキシン）およびカルシトニン分泌が咽頭刺激中にいずれも増加した。一方その増加は、SLNを切断すると完全に消失した。さらに、甲状腺に接続するSLNの分枝（副交感神経節後線維）の活動を記録したところ、咽頭刺激中に神経活動が増加した。以上の結果は、摂食時の咽頭への機械的刺激が、SLN中に含まれる甲状腺支配の副交感神経を遠心路とする咽頭―自律神経反射を誘発して、甲状腺からのホルモン分泌を促進する可能性を示す。

3. 認知症の極めて初期に障害される嗅覚機能と脳内コリン作動系との関連性を明らかにする基礎研究が進んだ。認知症患者で脱落する脳内（前脳基底部）コリン作動性神経は、認知・記憶に関わる大脳新皮質・海馬とともに嗅覚一次中枢の嗅球にも投射する。我々は嗅球のアセチルコリン（ACh）放出量が大脳新皮質よりも少ないことを見出し論文発表した。この結果からACh量の少ない嗅球では、コ

リン作動系機能の低下が早期に現れることが示唆される。ACh受容体（ニコチン型のα4β2サブタイプ）刺激が、匂い刺激に対する嗅球の血流反応を増大させることを見出し、論文発表した。同受容体の刺激効果は、匂い刺激の代わりに、匂いを受容して嗅球に情報を送る末梢神経（嗅神経）の刺激でも同様に起こることを見出し、嗅球レベルで嗅覚機能の増強が起こることを明らかにした。

4. 脳内コリン作動系が嗅覚機能を高める作用をもつことを見出した基礎研究を元に、認知症の早期診断や予防・治療法への応用を目指した嗅覚刺激法を解明する臨床研究計画が進んだ。コリン作動系が認知機能の中でも注意や意識の集中に関わることに着目し、嗅覚機能と注意力が相関するか検討する予定である。更に、日常の匂いの感じ方や注意力に関する質問約20項目からなる調査票を作成しており、簡便に早期に認知症リスクを評価することを目指している。

5. 大脳新皮質に酸素や栄養を送る血流は認知機能の維持に重要である。耳介への体性感覚刺激が、昇圧反応を伴わずに大脳新皮質血流を増加させることを昨年度論文発表した。この研究を発展させて今回、同反応が耳介とともに三叉神経や頚神経の分布する顔面・頸部の刺激でも起こることを明らかにした。ただし口唇の刺激は昇圧反応を伴うことも見出した。

6. アルツハイマー病（AD）発症の原因としてアミロイドβの過剰な蓄積が考えられている。アミロイドβは脳実質内に加え、脳血管周囲にも蓄積する。この研究では、ADモデルマウスを用いて、脳血管機能に着目して研究を行った。レーザースペックル血流画像化装置で、マウスの大脳皮質血流をin vivoで撮影した。マウスの後肢にブラシ刺激（体性感覚刺激）を与えると、野生型（正常）マウスにおいては大脳皮質の広範な領域において血流が増加したが、ADモデルマウスでは脳血流が増加する領域が狭く、血流増加の程度も小さかった。また血管の拡張性を調べる実験では、片側総頚動脈を30秒間閉塞した後に開放し、脳血流の増加を計測した。ADモデルマウスでは、この脳血流増加が野生型マウスよりも減弱していることより、血管拡張機能が低下していることが明らかになった。さらに、２光子顕微鏡で脳血管とアミロイドβをin vivoイメージングしたところ、脳表を走行する血管や脳実質内に潜入する血管の周囲にアミロイドβが蓄積している様子が観察された。これらの結果より、脳血管周囲に蓄積するアミロイドβは脳血管の拡張機能を阻害している可能性が示唆された。

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜咀嚼筋活動時の脳血流増加の機序＞
【センター外】昭和大、NY州立大学、人間科学大学
＜慢性腰痛と自律神経＞
【センター外】ケベック大学
＜甲状腺・副甲状腺の神経性調節＞
【センター外】GSK
＜角膜の痛みと脳血流＞
【センター外】慈恵医大学
＜ADモデルマウスのインスリン抵抗性の影響＞
【センター内】実験動物施設
【センター外】長寿研
＜骨格筋支配の自律神経の役割＞
【センター内】老年病態研究チーム（運動器医学）
＜咽頭刺激が骨格筋血流に及ぼす影響＞
【センター外】芝浦工業大学
＜皮膚熱刺激の膀胱への効果機序＞
【センター外】東京有明医療大学
＜脳内コリン作動性神経機能の解析＞
【センター外】慶應義塾大学
＜耳介刺激が脳血流に及ぼす影響＞
【センター外】人間総合科学大学、東京有明医療大学
＜高齢者の嗅覚と認知機能の関連性の調査＞
【センター内】福祉と生活ケア研究チーム（介護・エンドオブライフ）、自立促進と精神保健（認知症と

精神保健）

記憶神経科学

構成メンバー
テーマリーダー：遠藤昌吾
研究員：柳井修一
技術員：新崎智子

1　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

Ⅰ．認知・心理的フレイルに関する研究

コホート調査を基礎にした研究課題を社会科学系と共有して、記憶障害を含む認知機能低下の早期発見、認知機能の維持・改善に対して統合的・融合的なアプローチを目指した研究を行っている。また、加齢に伴い機能が低下するERK1/2系とcAMP系に着目し、社会還元性の高い実用化・臨床応用を視野にいれた認知・心理的フレイル対策をマウスモデルにおいて検討している。

1）**歩行(運動)・世代間交流・独居と認知機能（コホート研究のモデル化）**
　a）**認知機能と歩行（運動）**の関係を解析するためのマウス実験系の構築と解析
　b）**世代間交流や独居と認知機能の関連**を解析するためのマウスモデルの構築
2）加齢に伴い体内濃度が低下する**脂質A投与による記憶の改善効果**の解明
3）**cAMP系薬物と認知機能および**その神経機構の解明
4）**メスマウスの行動解析**および記憶などの経時的変化の解明
1)-4）いずれも順調に進んでいる。

Ⅱ．運動記憶の制御とリハビリテーションへの応用

身体リハビリテーションは運動記憶を再び身につける過程と考えられ、長い道のりが必要である。経頭蓋電気刺激と身体リハビリテーションを組み合わせることによってリハビリテーションの効率化を図り、患者の負担を軽減することを目指す。

また、生体が産生する毒性物質であるROSが有する生理機能解明は、運動記憶のみならず様々な疾病の治療法等についてパラダイムシフトを迫るものとなる。

1）**経頭蓋電気刺激による運動機能の改善**とその機構の解明
非拘束下マウス用電気刺激装置には困難が伴うと判断。
拘束下での刺激を検討するとともに、新技術の導入を検討する。
2）**活性酸素種(ROS)の運動記憶への関与**とその分子ターゲットの解明
「悪玉とされるROSが運動記憶を制御する重要分子である」という仮説に矛盾しない結果が多数得られた。刺激によるNADPH oxidase依存性ROSの存在などの新知見も得られてきた。**順調に進んでいる。**

【その根拠】

I-1）　a)歩行と認知機能―**特許出願を完了した**（特願2019-000190、小動物用運動測定装置)。
製品部材等について検討し**製品化を進めている**。また、運動と脳内Aβ分解酵素（Insulin-degrading enzyme）を解析し、**軽度の運動**でも主要なベータアミロイド分解酵素である

Insulin-degrading enzymeの活性を増加させること（海馬）を見い出した。

S.Goto, S.Chang, S.Shinozaki, S.Yanai, H. Nakamoto, A. Matsumoto, H. Naito, H. Kobayashi, M. Kaneki, S. Endo, & Z. Radak. Amelioration of potentially harmful oxidative and nitrosative protein modifications by regular exercise in aged animals: A molecular mechanism of the beneficial effects. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, Taiwan, 2019.10.23-27

b）世代間交流―**メスマウスの認知機能**の検討を開始。

高齢メスと幼若メスを同居させ、高齢メスの認知機能解析を行う必要性から、ほとんど研究されていないメスの認知機能解析を開始した。

c）独居―マウスの**独居の条件検討**（視覚、音など）を開始した。

I-2） 共同研究契約「脂質の認知機能低下抑制作用の検証」（アデカ（株））

リン脂質A投与の方法、濃度、期間等を検討した。

安全性確認・薬理行動実験のために、長期投与を開始した。

I-3） 柳井修一. 転職する既存薬剤：シロスタゾールによる記憶・学習機能改善. 第98回薬物・精神・行動の会, 東京, 2019.2.22

高橋彩恵・柳井修一・福井浩二・遠藤昌吾. ICER過剰発現マウスの記憶に与えるシロスタゾールの効果. 日本行動科学学会第35回ウィンターカンファレンス, 奈良, 2019.2.28-3.2

柳井修一・池谷真澄. 機能性食品による老化制御戦略（シンポジウム）. 第42回日本基礎老化学会大会, 宮城, 2019.6.6-8

S.Yanai and S.Endo. PDE3 inhibitors repurposed as treatments for age-related cognitive impairment.

Mol.Neurobiol. **129,** 57-68, 2018.

I-4） 12カ月齢までは、オスとメスの長期記憶に差がないことを見出した。

II-1） 拘束下での電気刺激を検討し始めた。

II-2） S.Kakizawa, S.Endo. Involvement of ROS - 8-nitro-cGMP signals in cerebellar long-term

depression. 第42回日本神経科学大会, 新潟市, 2019.7.25-28

柿澤昌, 遠藤昌吾、レドックスシグナルによる小脳機能制御. 生理学研究所 研究会「シグナル動態の可視化と操作に基づく多階層機能解析の新展開」, 岡崎市, 2019年9月27-28日.〃

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜認知・心理的フレイルに関する研究＞

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム（社会参加と社会貢献）、老化制御研究チーム（分子老化制御）、神経画像研究チーム（PET薬剤）、循環器内科、高齢者健康増進センター

【センター外】順天堂大学、アデカ株式会社、松谷化学工業

＜運動記憶とリハビリテーション＞

【センター内】老化制御研究チーム（分子老化制御）

【センター外】のぞみ病院、京都大学、東北大学、大阪府立大学

論文・学会発表

自律神経機能

1　学会発表

(1) 海外

1. Watanabe N, Sasaki S, Masamoto K, Hotta H. The differential contribution of vascular gap junctions to pial and penetrating artery dilation induced by forepaw electrical stimulation in isoflurane-anesthetized rats. BRAIN & BRAIN PET 2019, Yokohama, 2019. 7. 4-7.
2. Uchida S, Kagitani F “Blood pressure-independent increase in cerebral blood flow by acupuncture to the segmental region” The 11th Congress of the International Society for Autonomic Neuroscience (ISAN), Los Angeles, California, 2019.7. 25-27.
3. Iimura K, Hotta H, Suzuki H. Pharyngeal stimulation promotes secretion of thyroxin and calcitonin, via thyroid parasympathetic nerve reflex. The 11th Congress of the International Society for Autonomic Neuroscience (ISAN), Los Angeles, California, 2019. 7. 25-27.
4. Watanabe N, Polus BI. The contribution of neck proprioceptive inputs on cardiovascular responses during orthostasis. Australian Chiropractors Association Conference 2019, Melbourne, 2019. 10. 19-20.
5. Watanabe N, Polus BI. The contribution of neck proprioceptive inputs on cardiovascular responses during orthostasis. 2019 Sensorimotor satellite meeting of Australian Neuroscience Society, Adelaide, 2019. 12 2.
6. Tokunaga R, Takahashi Y, Touj S, Hotta H, Leblond H, Kato F, Piché M. Reversal of widespread mechanical hyperalgesia induced by chronic back pain during inhibition of GABAergic neurons in the central nucleus of the right amygdala. National Institute of Physiological Sciences International Workshop on Frontiers in Defensive Survival Circuit Research, Okazaki, 2020. 1. 7-8.
7. Ota H, Matsubara T, Hotta H, Mizumura K, Taguchi T. Mechanically-insensitive afferents in the rat skeletal muscle. National Institute of Physiological Sciences International Workshop on Frontiers in Defensive Survival Circuit Research, Okazaki, 2020. 1. 7-8.

(2) 国内

1. 堀田晴美，遠田明子，鈴木はる江，Sridhar A，Milliken P. 自律神経のニューロモデュレーション治療に向けた基礎研究. 第 8 回 TOBIRA 研究交流フォーラム，東京，2019. 5. 10
2. 桝永浩一，堀田晴美，渡辺信博，飯村佳織，宮崎彰吾，金憲経，永田卓士，吉田香苗，粕谷豊，久米春喜. 陰部皮膚への軽い触刺激が夜間頻尿に与える影響(無作為二重盲検交差試験による検討). 第 107 回日本泌尿器科学会総会，名古屋，2019. 4. 18-21
3. 堀田晴美.「食べる」ことの重要性―生理学研究でわかった新知見. 合同シンポジウム 12「オーラルヘルス・在宅口腔ケア・誤嚥性肺炎予防」第 31 回日本老年学会総会，仙台，2019.6.7
4. 内田さえ，谷口博志，伊藤芳恵，鍵谷方子. 耳介の鍼刺激で誘発される血圧非依存性の大脳新皮質血流増加反応. 第 42 回日本基礎老化学会大会，仙台，2019.6.6-8.
5. 渡辺信博、飯村佳織、堀田晴美. 皮膚への軽微な機械刺激がもたらす膀胱機能への作用. 第 42 回日本基礎老化学会大会，仙台，2019. 6.6-8
6. 飯村佳織、鈴木はる江、堀田晴美. 咽頭への機械的刺激は上喉頭神経を介し代謝調節ホルモンのサイロキシンとカルシトニンの分泌を促進する. 第 42 回日本基礎老化学会大会，仙台，2019.6.6-8.
7. 堀田晴美. 軽い皮膚刺激に応じる小径タッチ線維と自律神経調節. 鍼灸シンポジウム１－経絡・経穴とは何か？－その科学的アプローチー」第 70 回日本東洋医学会学術総会，東京，2019. 6. 29.
8. 太田大樹，松原崇紀，堀田晴美，水村和枝，田口徹. 骨格筋における非活動性侵害受容器と交感神経の電気生理学的解析. 第 42 回日本神経科学大会，新潟，2019.7.25-28.
9. 太田大樹、松原崇紀、堀田晴美、水村和枝、田口徹. 正常ならびに病態モデルラットの骨格筋における非活動性侵害受容器と交感神経の軸索伝導特性. 第 7 回若手による骨格筋細胞研究会，京都，2019.10.22.
10. 堀田晴美，鈴木はる江，井上富雄，Mark Stewart. ラット咀嚼筋活動に伴う大脳皮質局所血流増加反応に対するマイネルト基底核の関与. 第 72 回日本自律神経学会総会，小倉，2019.11.2-3.
11. 内田さえ，鍵谷方子. 嗅覚調節に関わるニコチン受容体の機能. 第 72 回日本自律神経学会総会，小倉，2019.11.2-3.

12. 谷口授，渡辺信博,谷口博志，堀田晴美．灸様刺激と TRPV1 受容体の関係－麻酔下ラットの膀胱内圧を指標として－ 第 72 回日本自律神経学会総会，小倉，2019.11.2-3.
13. 鍵谷方子，内田さえ．ニコチン受容体を介する大脳新皮質血流調節に対する麻酔薬の影響．第 72 回日本自律神経学会総会，小倉，2019.11.2-3.
14. 谷口博志，鍵谷方子，内田さえ．麻酔下ラットの大脳皮質血流に対するマニュアル鍼刺激による影響―耳介部ならびに顔面部への刺激による反応特性の検討．第 72 回日本自律神経学会総会，小倉，2019.11.2-3.
15. 堀田晴美．咽頭の機械的刺激による甲状腺ホルモンとカルシトニン分泌の促進．首都大学東京バイオコンファレンス，東京，2019.11.15.
16. 飯村佳織，渡辺信博，堀田晴美．腰臀部皮膚への非侵害性の温度刺激がウレタン麻酔下ラットの排尿効率へ与える影響．第 47回自律神経生理研究会，東京，2019.12.7.
17. 渡辺信博，野田義博，泉尾直孝，清水孝彦，堀田晴美．アミロイド β が脳血流反応に及ぼす影響．第 47 回自律神経生理研究会，東京，2019.12.7.
18. 堀田晴美．歩行・咀嚼・嚥下は、なぜ脳やからだの健康に大切なのか？第 37 回都市高齢者の健康長寿医療研究会，東京，2019 年 12.19.
19. 内田さえ．認知症とにおいの関係．文京区認知症講演会，東京，2020. 1. 25.
20. 内田さえ．知ってますかープラセボ効果の仕組み．千葉県鍼灸師会生涯研修学術講習会，千葉，2020. 2. 9.
21. 渡辺信博，飯村佳織，Philip Milliken，Arun Sridhar，堀田晴美．上喉頭神経の慢性電気刺激は閉経後骨粗鬆症に対する治療アプローチになりうるか？第 15 回環境生理学プレコングレス，大分，2020.3.16.
22. Hotta H, Iimura K, Suzuki H. The modulation of thyroid functions by sensory input from pharynx. シンポジウム，第 97 回日本生理学会大会，大分，2020.3.17-19.
23. Uchida S, Kagitani F. Nicotinic cholinergic modulation of olfactory bulb function. 第 97 回日本生理学会大会，大分，2020.3.17-19.
24. Uchida S. Research on the physiological functions of basal forebrain cholinergic neurons. ランチョンセミナー．第 97 回日本生理学会大会，大分，2020.3.17-19.
25. Watanabe N, Sasaki S, Masamoto K, Hotta H. Vascular gap junctions contribute to pial artery dilation response to somatosensory stimulation in isoflurane-anesthetized rat cortex. 第 97 回日本生理学会大会，大分，2020.3.17-19.
26. Iimura K, Watanabe N, Hotta H. Thermal stimulation to lower back and rump skin improves voiding efficiency in urethane anesthetized rats. 第 97 回日本生理学会大会，大分，2020.3.17-19.
27. Tanaka Y, Watanabe N, Suzuki H, Fukui K, Hotta H. Effects of pharyngeal mechanical stimulation on skeletal muscle blood flow and blood pressure. 第 97 回日本生理学会大会，大分，2020.3.17-19.

２ 誌上発表

(1) 原著

1. ◎Iimura K, Suzuki H, ★ Hotta H. Thyroxin and calcitonin secretion into thyroid venous blood is regulated by pharyngeal mechanical stimulation in anesthetized rats. *Journal of Physiological Sciences* 2019 Sep; 69(5): 749-756. (査読あり) (IF：3.341、2018)
2. ★◎Hotta H, Suzuki H, Inoue T, Stewart M. Involvement of the basal nucleus of Meynert on regional cerebral cortical vasodilation associated with masticatory muscle activity in rats. *Journal of Cerebral Blood Flow and Metabolism*, in press (査読あり) (IF：6.040、2018)

(2) 総説

1. ★◎Uchida S, Kagitani F. Neural Mechanisms Involved in the Noxious Physical Stress-Induced Inhibition of Ovarian Estradiol Secretion. *Anatomical Record*, 2019 Jun;302(6):904-911. (査読あり) (IF: 1.329, 2018)
2. Sato-Suzuki I, Kagitani F, ★Uchida S. Somatosensory regulation of resting muscle blood flow and physical therapy. *Auton Neurosci*. 2019 Sep; 220: 102557. (査読あり) (IF: 2.247, 2018)

3. ★◎Hotta H, Watanabe N. Gentle perineal skin stimulation for control of nocturia. *Anatomical Record*, 2019 Oct; 302(10): 1824-1836. (査読あり) (IF: 1.329, 2018)
4. ★◎堀田晴美、飯村佳織、鈴木はる江 (2019)「自律神経反射による甲状腺機能の調節」自律神経、56: 132-137 (査読あり) (IF値なし)
5. ★◎内田さえ. エストロゲンの機能とストレス～生涯を通じて健康を維持するために～, 国際抗老化再生医療学会雑誌, 2巻, 11-18, 2019 9月 (査読あり) (IF値なし)
6. ★◎渡辺信博、堀田晴美 (2019) 「皮膚への軽い機械刺激 (タッチ) が侵害情報伝達を抑えるメカニズム」日本カイロプラクティック学会雑誌, 印刷中 (査読あり) (IF値なし)
7. ★◎内田さえ. エストラジオールと自律神経の相互作用. 自律神経, 56(4): 243-247 (査読あり) (IF値なし)

3 著書等

1. 堀田晴美. 加齢と疾患, 武田克彦, 岩田淳, 小林靖 (編), 人体の構造と機能及び疾病, 東京, 医歯薬出版, 2019年: p71-80.
2. 内田さえ, 鍵谷方子. 認知症予防法の確立に向けた新皮質・嗅球・海馬コリン作動系機能の比較. 平成30年度喫煙科学研究財団研究年報, 2019年.
3. 堀田晴美 (2020)「食べ物を飲み込むときに甲状腺からのホルモン分泌が増える」研究所News, No.297, 1-2, 2020.3.

記憶神経科学

1 学会発表

(1) 海外

1. S.Goto, S.Chang, S.Shinozaki, S.Yanai, H.Nakamoto, A.Matsumoto, H.Naito, H.Kobayashi, M.Kaneki, S.Endo, Z.Radak. Amelioration of potentially harmful oxidative and nitrosative protein modifications by regular exercise in aged animals: A molecular mechanism of the beneficial effects. 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, Taiwan, 2019.10.23-27
2. R.Sakurai, H.Kawai, S.Yanai, H.Suzuki, S.Ogawa, H.Kim, H.Hirano, K.Ihara, S.Obuchi, Y.Fujiwara. The effects of hearing loss and mobility decline on cognitive function of older adults. Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting, Austin, Texas, 2019.11.13-17

(2) 国内

1. 柳井修一、池谷真澄、機能性食品による老化制御戦略 (シンポジウム) 、第42回日本基礎老化学会大会, 宮城, 2019.6.6-8
2. 井上律子、三浦正巳、 加齢に伴う皮質運動野の神経活動低下とコエンザイムQ10投与による改善, 機能性食品による老化制御戦略 (シンポジウム) 、 第42回日本基礎老化学会大会, 宮城, 2019. 6. 6-8
3. S.Yanai, T.Arasaki, S.Endo. Concurrent administration of sub-effective doses of donepezil and phosphodiesterase 3 inhibitor cilostazol restores memory impairment in aged mice. 第42回日本神経科学大会, 新潟, 2019.7.25-28
4. S.Kakizawa, S.Endo.Involvement of ROS - 8-nitro-cGMP signals in cerebellar long-term depression. 第42回日本神経科学大会, 新潟市, 2019.7.25-28
5. 張碩文、篠崎昇平、柳井修一、松本綾子、中本英子、小林裕幸、金木正夫、遠藤昌吾、後藤佐多良、内藤久士、有酸素トレーニングが老齢マウス脳内のインスリン分解酵素のS-ニトロソ化に及ぼす影響、第74回 日本体力医学会大会, 茨城, 2019.9.19-21
6. 柿澤昌、遠藤昌吾、レドックスシグナルによる小脳機能制御、生理学研究所 研究会「シグナル動態の可視化と操作に基づく多階層機能解析の新展開」、岡崎市, 2019.9.27-28
7. 井上律子、柳井修一、三浦正巳. マウス皮質運動野の加齢変化と水溶化コエンザイム Q10 による介入の効果、第 17 回日本機能性食品医用学会総会、東京, 2019. 12. 7-8
8. 柳井修一、新崎智子、遠藤昌吾. 老化促進モデルマウス SAMP8 の記憶障害に対するシロスタゾールの効果、次世代脳プロジェクト冬のシンポジウム、東京、2019.12.18-20
9. 井上律子、柳井修一、三浦正巳. 加齢に伴う皮質・運動機能低下に対する CoQ10 投与の効果、第 17 回日本コエンザイム Q 協会研究会、東京、2020.2.4
10. 吉田彩乃、宮本武典、新崎智子、遠藤昌吾. MAP kinase：ERK1／2 遺伝子改変マウスを用いた小脳依存性記憶の解析、第 72 回日本動物学会・関東支部大会、横浜、2020.3.14(web 開催)

2 誌上発表

(1) 原著

1. ◎K.Takahashi, S.Yanai, S.Takisawa, N.Kono, H.Arai, Y.Nishida, T.Yokota, S.Endo, ★A.Ishigami. Vitamin C and vitamin E double-deficiency increased neuroinflammation and impaired conditioned fear memory.

Archiv.Biochem.Biophys. **663,** 120-128, 2019. （査読あり、IF3.559）

2. ◎Y.Kishimoto, S.Kasamatsu, S.Yanai, S.Endo, T.Akaike, ★H.Ihara. 8-nitro-cGMP attenuates context-dependent fear memory in mice.
Biochem.Biophys.Res.Commu. **511,** 141-147, 2019. （査読あり、IF2.705）

3. ◎T.Katagiri T, S.Yamazaki, Y.Fukui, K.Aoki, H.Yagita, T.Nishina, T.Mikami, S.Katagiri, A.Shiraishi , S.Kimura, K.Tateda, H.Sumimoto, S.Endo, H.Kameda, ★H.Nakano. JunB plays a crucial role in development of regulatory T cells by promoting IL-2 signaling.
Mucosal Immunol. **12**, 1104-1117, 2019. （査読あり、IF 7.352）

4. ◎M.Fukuda, N.Ando, Y.Sugasawa, R.Inoue, S.Nakauchi, M.Miura, ★K.Nishimura.
Volatile anesthetic sevoflurane pretreatment alleviates hypoxia-induced potentiation of excitatory inputs to striatal medium spiny neurons of mice.
Eur. J. Neurosci. **50**, 3520-3530, 2019. （査読あり、IF 2.784）

(2) 総説

1. ◎★遠藤昌吾、モデルマウスを用いた記憶障害メカニズムの解析、
ファルマシア **55**, 859-863, 2019. （査読あり、IF なし）

3 著書等

1. 遠藤昌吾、「やる気」を支える脳内分子ドーパミン、心の健康ニュース（少年写真新聞社、2019年5月8日号）
2. 遠藤昌吾、脳のことをよく知ろう！、季刊エール（2019年秋号、エール）文部科学省科研費実績報告書
3. 井上律子（代表）、文部科学省科研費実績報告書　若手研究（B）、常同行動の神経基盤-線条体局所神経回路の生理的役割
4. 遠藤昌吾（代表）、文部科学省科研費実績報告書　基盤研究（B）、抗酸化物質が運動記憶へ及ぼす影響の解析とその分子機構の解明
5. 柳井修一（代表）、文部科学省科研費実績報告書　基盤研究（C）、ドラッグ・リポジショニングによるアルツハイマー型認知症新規治療薬の基礎研究
6. 遠藤昌吾（分担）、文部科学省科研費実績報告書　基盤研究（C）、疼痛の神経メカニズムにおけるERK細胞内情報伝達機構の役割に関する包括的研究
7. 遠藤昌吾、「神経細胞レベルのシナプス可塑性（海馬と小脳におけるシナプス可塑性）」、ヒトの動きの神経科学シリーズ-IV- 運動学習の脳・神経科学（大築、鈴木、柳原編集）、pp20-39, 2020.
8. 柳井修一、遠藤昌吾
「認知症と老化に伴う記憶低下の予防と制御―細胞内シグナル伝達系を標的として―」Prevention and control of age-related memory decline and dementia医学の歩み、印刷中
9. 遠藤昌吾、「記憶を守る」内藤財団時報、105号、37, 2020.

受賞

記憶神経科学

1. 井上律子、第19回日本機能性食品医用学会総会 優秀演題賞「マウス皮質運動野の加齢変化と水溶化コエンザイムＱ１０による介入の効果」　2019年12月

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)
二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

老年病態研究チーム

チームリーダー：重本和宏

研究チームの概要・目的

老年病態研究チームは第三期中期計画において中核的な研究課題として掲げているサルコペニア・フレイルの研究を精力的にすすめている。身体的フレイルはサルコペニアと強い因果関係があり、心血管の老化はサルコペニアと身体的フレイルの両方のメカニズムを統合的に理解する上で必須の領域である。以上の背景を基に､老年病態研究チームは第二期中期計画から引き続き骨格筋･心血管の老化に焦点を定めて、サルコペニアとフレイルの病態メカニズム、早期診断、予防・治療法の研究を行うことを目的とする。
第三期に独立した筋老化再生医学がテーマとして新設され， 骨格筋の筋幹細胞と間葉系幹細胞と神経筋シナプスに着目したサルコペニア研究を展開している。 運動器医学は神経筋シナプスの研究を長年行っており、MusColorマウスを開発してフレイル研究へ領域を広げている。心血管老化再生医学は高齢者の心不全とフレイルの因果関係を明らかにすべく心臓の老化機構と心血管ネットワークに着目して研究を進めている.筋老化再生医学、運動器医学と心血管老化再生医学は、切磋琢磨して我が国のサルコペニア・フレイル研究を新たな段階へ飛躍させることを目標とする。

【参考】令和元年度における年度別研究計画

心血管老化再生医学

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 （平成30年度）	2019 年度 （令和元年度）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
心血管老化再生医学	(1) 心臓の老化・病態の分子機構と再生機序の解明	加齢にともなう心臓組織（マウス）の形態学的変化を明らかにする。	加齢による心臓組織（マウス）の形態学的変化に関与するタンパク質等分子の同定を行う。	心臓組織構成するヒト細胞を用いた、心臓老化関連タンパク質等の分子機序解明を進める。	心臓老化タンパク質等の機能をもとに、心血管病発症機序の解明を進める。	心疾患病態の重症化予防と心臓組織再生を誘導するための因子の探索を行い、その機序解明に取り組む。
	(2) フレイル予防に向けた心血管ネットワーク制御機構の解明	心臓組織の恒常的機能を支える各種血管内皮細胞間のネットワークを制御する因子の探索を行う。	血管内皮細胞間およびその周囲細胞とのネットワーク制御の解明を進める。	血管内皮細胞と心臓組織間のネットワークを制御する因子の探索を進める。	血管内皮-心臓組織間ネットワーク制御因子の、心血管病の重症化、フレイル予防との関連性を明らかにする。	心血管病の重症化、フレイル予防に関与する血管内皮-心臓組織間ネットワーク制御因子の分子機序の解明を進める。
	(3) 再生医療の実用化にむけた基盤構築	再生医療製品による治療の実用化に必要となる基盤整備を進める。	再生医療製品による治療導入にむけ、関連する臨床部門と連携した体制を整備する。	再生医療製品による治療にむけ、安全性を担保する施設運用の確認を行う。	再生医療製品による治療にむけた施設運用の安全性の最終確認を行う。	再生医療製品による治療にむけ、臨床部門と連携した実践的な運用の確認を行う。

筋老化再生医学

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 （平成30年度）	2019 年度 （令和元年度）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
(1)間葉系前駆細胞による筋の維持・適応メカニズム解明とサルコペニア克服への応用	間葉系前駆細胞の筋維持機構、老化メカニズムを解明する。また、間葉系前駆細胞の筋増強作用を研究する。得られた知見をサルコペニアの予防・治療に発展させる。	・間葉系前駆細胞で発現する筋維持遺伝子GDF10の機能解析。 ・筋増強刺激により間葉系前駆細胞で誘導される遺伝子の探索。	・筋維持遺伝子GDF10の生理的機能解明、老化間葉系前駆細胞で発現増加する因子の同定。 ・筋増強刺激により間葉系前駆細胞で誘導される遺伝子の同定。	・老化間葉系前駆細胞で発現増加する因子の発現解析。間葉系前駆細胞の老化メカニズム解析。 ・同定遺伝子の中から筋増強作用を仲介し得る候補遺伝子の絞り込み。	・筋維持遺伝子GDF10のサルコペニア予防・治療効果検討、老化間葉系前駆細胞で発現増加する因子の機能解析。 ・候補遺伝子の機能解析による筋増強作用仲介メカニズムの解析。	・筋維持遺伝子、老化間葉系前駆細胞で発現増加する因子のサルコペニア克服のための分子標的としての可能性検討。 ・間葉系前駆細胞が筋増強作用を仲介するメカニズム解明。
(2)老化筋における変動因子の解析を通したサルコペニアのメカニズム解明と診断への応用	老化筋で変動する因子を研究し、原発性サルコペニアのメカニズム解明を目指す。また、変動因子のバイオマーカーとしての可能性を検討する。	・老化で上昇するMFG-E8 isoformのクローニング。 ・マウスでの筋中および血中MFG-E8の測定。	・ MFG-E8 Tgの作製。老化MFG-E8 KOマウスの準備。 ・ヒトでの血中マーカー候補因子測定に向けた準備。	・MFG-E8 Tgマウスを用いたMFG-E8の機能解析。 ・ヒトでの血中マーカー候補因子の測定。	・老化MFG-E8 KOマウスを用いたMFG-E8の機能解析。 ・ヒトでの血中マーカー候補因子測定結果の統計解析。	・MFG-E8がサルコペニア、フレイユに及ぼす生理的意義の解明。 ・血中マーカー候補因子のバイオマーカーとしての有用性検証。
(3)骨格筋の幹細胞・ニッチシステムに立脚した老化筋再生促進戦略	骨格筋幹細胞とニッチ細胞の老化を研究し、筋再生システムの若返りを目指す。また、ヒト骨格筋由来細胞を用いた研究基盤を確立する。	・筋幹細胞におけるCalcrの発現解析。 ・レチノイン酸受容体作動薬の選定。 ・ヒト筋由来幹・前駆細胞の研究基盤構築	・Calcrの発現制御機構の解析。Calcr Tgマウスの作製。 ・作動薬の筋の脂肪化抑制実験。 ・ヒト筋由来幹・前駆細胞の研究基盤改良	・老化Calcr Tgの準備。 ・作動薬の筋の脂肪化抑制効果を検証。 ・ヒト筋由来幹・前駆細胞の研究基盤維持	・老化Calcr Tgの解析。 ・間葉系前駆細胞制御による筋の脂肪化抑制法開発。 ・ヒト筋由来幹・前駆細胞の研究基盤発展	・加齢性筋幹細胞減少メカニズムの解明。 ・間葉系前駆細胞制御による筋の脂肪化抑制法の臨床への展開。 ・ヒト筋由来幹・前駆細胞の研究基盤確立
(4)骨格筋-腱組織間の恒常性維持機構および加齢に伴う機能低下メカニズムの解明	筋-腱組織連関による恒常性維持機構の解明、および、腱再生のメカニズム解明を目指す。得られた知見を老化による運動器機能低下の予防に繋げる。	・腱関連遺伝子操作マウスのセットアップ。	・遺伝子操作マウスを用いた筋-腱相互作用解析。 ・腱再生実験系の確立。	・遺伝子操作マウスを用いた筋-腱相互作用の解明。 ・腱再生関連遺伝子の同定。	・腱再生関連遺伝子の機能解析。	・腱の老化および腱再生のメカニズム解明。

運動器医学

研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度	2021 年度	2022 年度
神経筋シナプスの研究	①神経筋疾患患者のヒト血中MuSKとXの測定と解析 ②ヒト血中MuSKとXの同定 ③切断酵素候補遺伝子ノックアウトマウスの準備・解析 ④マウス疾患モデルの血中MuSK蛋白の論文発表の準備	①神経筋疾患患者のヒト血中MuSKとXの測定と解析 ②マスによるヒト血中MuSKの定量法確立と血中とXの同定③切断酵素候補遺伝子ノックアウトマウスの準備・解析④社会科学部門・病院とバイブ機関との共同研究によるMuSKバイオマーカーの解析⑤マウス疾患モデルの血中MuSK蛋白の論文発表の準備投稿	①神経筋疾患患者のヒト血中MuSKとXの測定と解析 ②マスによるヒト血中MuSKの定量法確立と血中とXの同定③切断酵素の解析④社会科学部門・病院とバイブ機関との共同研究によるMuSKバイオマーカーの解析 ⑤論文発表の準備と投稿⑥企業と製品化の準備	①神経筋疾患患者のヒト血中MuSKとXの測定と解析②マスによるヒト血中MuSKの定量法確立と血中とXの同定③切断酵素の解析④社会科学部門・病院とバイブ機関との共同研究によるMuSKバイオマーカーの解析 ⑤論文発表の準備と投稿⑥企業と製品化の準備	①切断酵素の同定 ②社会科学部門・病院とバイブ機関との共同研究によるMuSKバイオマーカーの解析、論文準備投稿 ③企業と製品化
骨格筋代謝の可塑性に基づくサルコペニア・フレイルの解明	① MusColorマウス論文の投稿開始②CCL19のサルコペニア・フレイルに関する解析	① MusColorマウス論文の論文準備②代謝変換因子のサルコペニアに関する論文準備投稿③社会科学部門・病院とバイオマーカーの解析④代謝変換のメカニズムの解析	①代謝変換因子のサルコペニア・フレイルに関する論文準備②代謝変換因子の解析（継続）③社会科学部門・病院とバイオマーカーの解析④代謝変換のメカニズムの解析	①代謝変換因子のサルコペニア・フレイルに関する論文準備②代謝変換因子の解析（継続）③社会科学部門・病院とバイオマーカーの解析代謝変換のメカニズムの解析	①代謝変換因子のサルコペニア・フレイルに関する解析②社会科学部門・病院とバイオマーカーの解析③代謝変換のメカニズムの解析

心血管老化再生医学

構成メンバー

テーマリーダー：豊田雅士
研究員：佐々木紀彦、板倉陽子
非常勤研究員：大瀬賢介（常勤：外部資金）

1　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

心血管老化再生医学研究テーマでは以下の３項目について研究を進めている。

(1)　心臓の老化・病態の分子機構と再生機序の解明
　　非心筋細胞群の想定以上の加齢変化が明らかになるなど、着実に進展している。
(2)　フレイル予防に向けた心血管ネットワーク制御機構の解明
　　血管内皮機能に関与する分子の新たな役割を見出すなど、順調に進んでいる。
(3)　再生医療の実用化にむけた基盤構築
　　外部評価委員の指摘に基づき（視点２−２指摘事項参照)、テーマ研究とは切り離し、センターの課題としてHAIC研究開発ユニットとともに病院部門と連携し、実施に必要な環境整備を図るなどした。一方、基盤整備につながる基礎的研究については、抗炎症作用、遊走作用を誘導する分子候補を同定するなど、着実に進んでいる。

【その根拠】

(1) 心臓の老化・病態の分子機構と再生機序の解明

・ 非心筋細胞群の加齢による変化について、マウスの心臓組織切片で、左室壁領域での血管、特に微小血管網について検討した。その結果、
  1) 左室壁において、微小血管網が加齢とともに減少していること
  2) 血管周辺領域で炎症マーカーであるタンパク質の発現が認められ、加齢による血管構造の変化と炎症反応との関連性が示唆されたこと
  を明らかにした。

(2) フレイル予防に向けた心血管ネットワーク制御機構の解明

・ 心臓機能を支える様々な由来の血管内皮細胞における、細胞膜上の糖タンパク質糖鎖の発現を検討した結果、その特徴が大きく異なることを見出した。血管の内皮機能としての役割が異なる可能性が示唆された。

・ 血管内皮細胞機能での細胞膜上の糖脂質ガングリオシドGM1の役割について、炎症惹起による炎症細胞の内皮細胞への接着性・透過性の変化を検討した。その結果、GM1が、血管内皮細胞の炎症細胞との接着を抑制するという新たな役割があることを見出した。

・ 老化細胞が、SASPと呼ばれるサイトカイン等を含む液性因子を分泌して周囲環境、そして他組織へと影響を及ぼし、個体老化にも影響を与えている。そこでSASPを抑制するラパマイシンで血管内皮細胞を処理し、分泌する糖鎖関連分子の発現変化を検討した。その結果、私たちが見出した血管内皮細胞の老化に伴って増加する糖鎖関連分泌因子の発現は抑制されず、SASPとは異なる機構で制御されていることがわかった。さらに、ラパマイシン処理で、血管内皮細胞はオートファジーを介した平滑筋様細胞への形質転換を誘導することを示した。

(3) 再生医療の実用化にむけた基盤構築

・ （HAICと共同）今年度センターに特定認定再生医療等委員会及び認定再生医療等委員会が設置された。また再生医療等に関係する国内外の動向に関する情報の収集を進めた。
  （研究）細胞シートによる組織再生の分子機序解明のため、細胞シートおよびその上清中に含まれる因子を遺伝子発現解析により進め、抗炎症作用や周囲の細胞の遊走作用を誘導する候補分子を複数同定した。

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜ヒト組織由来各種細胞の特性解析＞

【センター内】老年病態研究チーム（筋老化再生医学)、心臓外科、血管外科、外科、病理診断科＜心臓組織の解析＞

【センター内】老年病理学研究チーム（高齢者がん)、老年病態研究チーム（筋老化再生医学、運動器医学)、病理診断科、血管外科

【センター外】産業技術総合研究所、横浜市立大学

＜血管ネットワーク解析＞

【センター内】血管外科

【センター外】北里大学、東北大学

＜幹細胞特性解析＞

【センター内】老化機構研究チーム、老年病態研究チーム（筋老化再生医学)

【センター外】横浜市立大学

＜膵がんの特性解析＞

【センター内】老年病理学研究チーム（高齢者がん)、病理診断科

【センター外】日本獣医生命科学大学、東海大学

＜消化器神経内分泌腫瘍の特性解析＞

【センター内】老年病理学研究チーム（高齢者がん)

【センター外】日本医科大学、帝京大学

＜難治性疾患研究＞

【センター外】国立成育医療研究センター

＜再生医療＞

【センター内】HAIC研究開発ユニット
【センター外】国立成育医療研究センター

筋老化再生医学

構成メンバー

テーマリーダー：上住聡芳
研究員：上住円
非常勤研究員：周赫英、吉本由紀（学振RPD）

１　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

（１）間葉系前駆細胞による筋の維持・適応メカニズム解明とサルコペニア克服への応用

→計画を上回る進展を見せた。

（２）老化筋における変動因子の解析を通したサルコペニアのメカニズム解明と診断への応用

→計画通りに進展している。

（３）骨格筋の幹細胞・ニッチシステムに立脚した老化筋再生促進戦略

→計画通り順調に進展している。

（４）骨格筋-腱組織間の恒常性維持機構および加齢に伴う機能低下メカニズムの解明

→計画通り順調に進展している。

【その根拠】

（１）間葉系前駆細胞による筋の維持・適応メカニズム解明とサルコペニア克服への応用

→間葉系前駆細胞欠損マウスを作製し、本細胞が筋組織の恒常性維持に必須であることを証明した。間葉系前駆細胞特異的因子であるBmp3bを同定し、その筋量維持・筋肥大作用を明らかにした。また、間葉系前駆細胞がシュワン細胞への作用を介し神経・筋接合部の維持にも機能していることを見出した。さらに、老化マウスに組み替えBMP3Bを投与することで、サルコペニア症状を改善（筋力の向上、一部の筋量の増加、代謝能の改善）できることを示した。これらの成果をまとめ論文投稿し、現在、査読中である(Nature Communications, in revision)。当初、次年度以降に計画していた内容も前倒しで達成することができたため、予定を上回る進捗状況にある。

（２）老化筋における変動因子の解析を通したサルコペニアのメカニズム解明と診断への応用

→老化骨格筋で変動するタンパクを網羅解析し、MFG-E8の顕著な増加を見出した。機能解析のため、MFG-E8を発現するconditional Tg (cTg)用のコンストラクトを作製し、現在、受精卵へのインジェクションを進めている。老化によってMFG-E8が血管内皮およびターミナルシュワン細胞に異常蓄積することが明らかになったため、これらの細胞にMFG-E8を発現可能なCre driverマウス、VE-Cadherin-Creマウス(血管内皮用)とPlp-CreERマウス(シュワン細胞用)を導入し繁殖している。MFG-E8 conditional Tg個体が得られ次第、Cre driverマウスと交配しMFG-E8の機能解析を進める。Tgマウス以外の方法でMFG-E8の過剰発現の影響を調べることも試みている。Myostatinのsystemicな影響を明らかにした手法を参考に、CHO細胞にレンチウイルスを用いMFG-E8を導入し、MFG-E8導入CHO細胞をnudeマウス大腿部に移植する系を開発中である。レンチウイルスによるMFG-E8導入CHO細胞作製に成功し、大量のMFG-E8の分泌を確認した。

間葉系前駆細胞の筋組織維持における重要性を証明したが（項目（１））、様々な臓器の組織維持機構の理解を深める目的で、様々な臓器由来間質細胞の遺伝子発現比較解析を行い、臓器特異的な特徴を明らかにした（投稿準備中)。これらは、各臓器の老化機構解明に資する情報を提供すると考える。

（３）骨格筋の幹細胞・ニッチシステムに立脚した老化筋再生促進戦略

→老化による筋幹細胞数減少のメカニズムとして、筋幹細胞で発現するカルシトニン受容体の低下を明らかにし、論文発表(JSCM Rapid Commun, 2019)およびプレスリリースを行った。

間葉系前駆細胞の病的表現型（脂肪化・線維化）を抑制するシグナルとしてレチノイン酸（RA）シグナルを見出し、間葉系前駆細胞に強力に作用し得るRA受容体（RAR）作動薬を発見した。筋ジストロフィー

モデルマウスを用いて本作動薬のin vivoでの脂肪化・線維化抑制効果を明らかにした（投稿準備中)。
　ヒト骨格筋由来幹・前駆細胞の不死化による株化を行った。複数ラインが樹立できており品質確認を行なっている。ヒト細胞を用いた独自のスクリーニング系を用いた筋強化物質探索について微生物化学研究所と共同研究を開始した。

（４）骨格筋-腱組織間の恒常性維持機構および加齢に伴う機能低下メカニズムの解明
→腱研究の専門家である吉本研究員（学振RPD）が7月より本グループに加わり、本研究項目を本格的に始動した。腱の発生に重要な転写因子ScxのプロモーターでGFPが発現するScx-GFPマウスを作製し、本マウス胎児線維芽細胞由来のiPS細胞を樹立した。Scx-GFP iPS細胞からの腱分化誘導法を確立した（投稿準備中)。本培養法は、腱の分化・再生メカニズムの解明に資する技術基盤を提供すると考える。また、老化に伴う腱の遺伝子発現変化をプロファイリングした。

以上のように、計画通り順調に進行しており、一部の項目に関しては予想を上回る進展を見せた。よって、新たにさらに挑戦的な研究計画を立案した（別紙3)。

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携
＜(1)間葉系前駆細胞による筋の維持・適応メカニズム解明とサルコペニア克服への応用＞
【センター内】実験動物施設
【センター外】大阪大学
＜(2)老化筋における変動因子の解析を通したサルコペニアのメカニズム解明と診断への応用＞【センター内】老年病態研究チーム（運動器医学)、実験動物施設
【センター外】東京大学
＜(3)骨格筋の幹細胞・ニッチシステムに立脚した老化筋再生促進戦略＞
【センター内】老年病態研究チーム（運動器医学)、老年病態研究チーム（心血管老化再生医学)、老化制御研究チーム（システム加齢医学)、実験動物施設、心臓外科、血管外科、病理診断科
【センター外】大阪大学、九州大学、東京大学、Institut Pasteur、微生物化学研究所
＜(4)骨格筋-腱組織間の恒常性維持機構および加齢に伴う機能低下メカニズムの解明＞
【センター外】広島大学

運動器医学

構成メンバー
テーマリーダー：重本和宏
研究員：大村卓也
非常勤研究員：岸田広美

１　令和元年度の研究成果
【令和元年度の進捗状況】
①神経筋シナプスに着目したサルコペニア・筋萎縮の研究
ヒト血中MuSKの論文投稿に向けて準備および関連プロジェクトを着実に進めている。

②骨格筋代謝の可塑性に基づくサルコペニア・フレイルの解明
1.筋幹細胞の分化に伴う代謝変換についの5年間の成果を論文発表した
(Motohashi et al.2019、IF:8.309).
2.MusColorマウスと代謝変換（筋線維タイプ変換）測定技術の論文投稿の準備および関連プロジェクトを着実に進めている。

③骨の維持に関わる研究
第1期中期計画に開始した研究成果を論文発表した（Miyazaki et al,2019,IF:11.5)

【その根拠】
①神経筋シナプスに着目したサルコペニア・筋萎縮の研究

1. 昨年度、長年探求していたヒト血中のMuSK(muscle-specific kinase)蛋白の証明(western,質量分析解析)を得て、マウス疾患モデル(運動神経線維切断及び神経線維が再生可能な遮断モデル、MuSKおよびLRP4重症筋無力症モデル)、培養筋細胞とヒト重症筋無力症患者の血中MuSK蛋白の測定結果と一緒にまとめて論文投稿の準備を進めている。
2. 運動介入ありなしの若年、中年、高齢マウスを使い、血中バイオマーカー（MuSKなど）およびマウス歩行解析データによる多変量解析による、モデル動物のサルコペニア・フレイルの新指標の開発を進めている。
3. ヒト血中MuSKのバイオマーカーとしての評価を当センター病院のサルコペニア・フレイル外来との共同研究を進めている。
4. MuSKによる筋→運動神経終末への逆行性シグナルの同定と解析を進めている。

②骨格筋代謝の可塑性に基づくサルコペニア・フレイルの解明
1. マウスの速筋および遅筋線維由来の筋幹細胞は成体の遅筋・速筋由来の各筋幹細胞はそれぞれすでに遅筋・速筋線維へ分化（代謝変換）誘導が決定されており、その決定因子の一つがTbx1遺伝子であることを発見して5年間の研究成果を論文発表した。
(Motohashi et al, Cell Death & differentiation 2019, IF:8.309)
2. 第１期中期計画から開始したMusColorマウスの開発(myosin heavy chain I-YFP, IIa-Sirius, IIdx-Cerulean, IIb-mCherry), MusColorマウス由来の筋管細胞を使ったin vitro代謝変換技術開発および誘導薬物の同定と、Flux analyzerによる代謝変換の機能データをまとめて論文投稿の準備を進めている。
3. 生体内の代謝変換誘導因子である代謝変換因子（マイオカイン等）について論文発表を目指して解析を進めている。

③骨の維持に関わる研究
骨粗鬆症・ロコモティブシンドロームの予防・治療法に関わる研究成果を発表した. 運動時に骨に加わる衝撃が骨細胞を刺激して骨量維持と抗炎症作用に作用する新規シグナル伝達機構を発見して論文発表した。筆頭著者及びco-corresponding authorの宮崎が運動器医学の研究員（現在、当センター病院整形外科部長で運動器医学の協力研究員を兼務）として第一期,第二期中期計画期間に5年以上をかけて外部機関との共同研究で行った研究成果が、本年度にScience誌の姉妹雑誌に発表することができた。
(Miyazaki et al, Science Advances 2019, IF:11.5)

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携
＜神経筋シナプスに着目したサルコペニア・筋萎縮の研究＞
【センター内】老年病態研究チーム（筋老化再生医学)、社会科学系副所長、自立促進と精神保健研究チーム（フレイルと筋骨格系の健康)、サルコペニア外来、糖尿病・代謝・内分泌内科、リハビリテーション科、神経内科
【センター外】東京都医学総合研究所、千葉大学、国立健康・栄養研究所、順天堂大学、Kansas大学、長崎県川棚病院、神経内科千葉病院、慶応大学、東邦大学
＜骨格筋代謝の可塑性に基づくサルコペニア・フレイルの解明＞
老年病態研究チーム（心血管老化再生医学、筋老化再生医学)、自立促進と精神保健研究チーム（フレイルと筋骨格系の健康)、サルコペニア外来、糖尿病・代謝・内分泌内科、心臓外科、血管外科
【センター外】横浜理研免疫研究所、大阪大学
＜骨の維持に関わる研究＞
【センター内】整形外科
【センター外】国立シンガポール大学、国立リハビリテーションセンター、鳥取大学、東北大学、名戸ヶ谷病院、岡山大学、東京大学、インディアナ大学、東京女子医科大学

論文・学会発表

心血管老化再生医学
１　学会発表
(1) 海外

1. Sasaki N, Toyoda M, Yoshimura H, Matsuda Y, Arai T, Itakura Y, Gomi F, Aida J, Ishiwata T. “Metastasis-promoting role of H19 long non-coding RNA in pancreatic cancer cells”, The American Association for Cancer Research Annual Meeting 2019, Atlanta, USA, 2019.3.29-4.3. 【テーマ研究】
2. Miura K, Matsuura K, Yamasaki Y, Sasaki D, Furutani Y, Hayama E, Ito M, Morita H, Toyoda M, Umezawa A, Nakanishi T, Hagiwara N, Komuro I, Shimizu T. “Functional evaluation of human bioengineered cardiac tissue using iPS cells derived from dilated cardiomyopathy patients with lamin variant”, 2019 XXIII ISHR World Congress, Beijing, China, 2019.6.3-6. 【共同研究】
3. Itakura Y, Sasaki N, Toyoda M. “Alteration of glycans localization with cellular senescence and human aging” International Glycoconjugate Organization (Glyco25), Milano, Italy, 2019.8.25-31. 【テーマ研究】
4. Miura K, Matsuura K, Yamasaki Y, Sasaki D, Furutani Y, Hayama E, Ito M, Morita H, Toyoda M, Umezawa A, Nakanishi T, Hagiwara N, Komuro I, Shimizu T. “iPS cell-derived cardiac tissue from dilated cardiomyopathy patients with lamin variant showed impaired systolic function”, American Heart Association Scientific Sessions Meeting (AHA2019), Philadelphia, USA, 2019.11.16-18. 【共同研究】

(2) 国内

1. Ishiwata T, Shichi Y, Sasaki N, Mishishita M, Hasegawa T, Matsuda Y, Takahashi K, Takubo K, Arai T, Aida J. ”Heterogeneity of epithelial-mesenchymal features of pancreatic cancer cells under the 3D culture”, 第108回日本病理学会総会、東京、2019.5.9-11. 【共同研究】
2. 板倉陽子、佐々木紀彦、豊田雅士.「細胞および個体老化に伴う細胞の品質保持に関わる糖鎖変化の解析」、 第42回日本基礎老化学会大会、仙台、2019.6.6-8. 【テーマ研究】
3. 石渡俊行、志知優樹、佐々木紀彦、道下正貴、長谷川文夫、松田陽子、新井富生、五味不二也、相田順子、田久保海誉、豊田雅士、吉村久志、高橋公正.「３次元培養による膵癌培養細胞の上皮間葉系形態と機能解析」、第50回日本膵臓学会大会、東京、2019.7.13. 【共同研究】
4. Miura K, Matsuura K, Yamasaki Y, Sasaki D, Furutani Y, Hayama E, Ito M, Morita H, Toyoda M, Umezawa A, Nakanishi T, Hagiwara N, Komuro I, Shimizu T. “Contractile measurement of human bioengineered cardiac tissue using iPS cells derived from dilated cardiomyopathy patients with lamin variant”、第３回日本循環器学会基礎研究フォーラム(BCVR 2019)、東京、2019.9.6-8. 【共同研究】
5. Ishiwata T, Sasaki N, Toyoda M, Hasegawa F, Gomi F. “Fetal bovine serum enlarges the size of pancreatic cancer spheres with an increase of the cancer stem cell markers”, 第78回日本癌学会学術総会、京都、2019.9.26-28. 【共同研究】
6. Sasaki N, Toyoda M, Yoshimura H, Matsuda Y, Arai T, Itakura Y, Gomi F, Aida J, Ishiwata T, “H19 long non-coding RNA contributes to the metastasis of pancreatic cancer cells by regulating cell adhesion”, 第78回日本癌学会学術総会、京都、2019.9.26-28. 【共同研究】
7. Gomi F, Sasaki N, Takubo K, Aida J, Arai T, Ishiwata T. “Characterization of floating round cells in MIA PaCa-2, human pancreatic cancer cell line”, 第78回日本癌学会学術総会、京都、2019.9.26-28. 【共同研究】
8. 石渡俊行、佐々木紀彦、五味不二也、長谷川文雄、新井冨生.「膵癌細胞の多様性と可変性の検討」、第5回がんゲノム・エピゲノム研究会, 盛岡、2019.10.5. 【共同研究】
9. 石渡俊行、佐々木紀彦、志智優樹、豊田雅士、長谷川文雄、五味不二也.「3次元培養による膵癌培養細胞の上皮間葉系性質の解析」、第3回がん３次元培養研究会、東京、2019.11.18. 【共同研究】
10. 青砥早希、豊田雅士、梅澤明弘、岡村浩司.「色素性柑皮症患者由来ERCC2欠損細胞における内在性遺伝子のレトロトランスポジション」、第42回日本分子生物学会年会、福岡、2019.12.3-6. 【共同研究】
11. 佐々木紀彦、水上進、板倉陽子、豊田雅士.「血管疾患の早期診断および予防に向けた、老化内皮細胞特異的糖鎖の同定」、第19回東北大学多元物質科学研究所研究発表会、仙台、2019.12.12-13. 【テーマ研究】
12. 佐々木紀彦、板倉陽子、豊田雅士.「ヒト冠状動脈内皮細胞の老化に対するラパマイシンの効果について」,第27回日本血管生物医学会学術集会、神戸、2019.12.14-15. 【テーマ研究】

２ 誌上発表

(1) 原著

1. ◎Sasaki N, Toyoda M, Hasegawa F, Fujiwara M, Gomi F, Ishiwata T. Fetal bovine serum enlarges the size of human pancreatic cancer spheres accompanied by an increase in the expression of cancer stem cell markers. *Biochem Biophys Res Commun*, 514(1):112-117, 2019. (査読あり) (IF: 2.705, 2018) 【共同研究】
2. Aoto S, Katagiri S, Wang Y, Pagnamenta AT, Sakamoto-Abutani R, Toyoda M, Umezawa A, Okamura K. Frequent retrotransposition of endogenous genes in ERCC2-deficient cells derived from a patient with xeroderma pigmentosum. *Stem Cell Res Ther,* 10(1):273, 2019. (査読あり) (IF: 4.627, 2018) 【共同研究】
3. Shichi Y, ◎Sasaki N, Michishita M, Hasegawa F, Matsuda Y, Arai T, Gomi F, Aida J, Takubo K, Toyoda M, Yoshimura H, Takahashi K, Ishiwata T. Enhanced morphological and functional differences of pancreatic cancer with epithelial or mesenchymal characteristics in 3D culture. *Sci Rep,* 9(1):10871, 2019. (査読あり) (IF: 4.011, 2018) 【共同研究】
4. Shinji S, Sasaki N, Yamada T, Koizumi M, Ohta R, Matsuda A, Yokoyama Y, Takahashi G, Hotta M, Hara K, Takeda K, Ueda K, Kuriyama S, Ishiwata T, Ueda Y, Murakami T, Kanazawa Y, Yoshida H. Establishment and characterization of a novel neuroendocrine carcinoma cell line derived from a human ascending colon tumor. *Cancer Sci.*, 110(12):3708-3717, 2019. (査読あり) (IF:4.751, 2018) 【共同研究】
5. ◎Sasaki N, Gomi F, Hasegawa F, Hirano K, Fujiwara M, Toyoda M, Ishiwata T. Characterization of the metastatic potential of the floating cell component of MIA PaCa-2, a human pancreatic cancer cell line. *Biochem. Biophys. Res. Commun.,* 522(4):881-888, 2020. (査読あり) (IF: 2.705, 2018) 【共同研究】

6. ◎★Sasaki N, Hirabayashi K, Michishita M, Takahashi K, Hasegawa F, Gomi F, Itakura Y, Nakamura N, Toyoda M, Ishiwata T. Ganglioside GM2, highly expressed in the MIA PaCa-2 pancreatic ductal adenocarcinoma cell line, is correlated with growth, invasion, and advanced stage. *Sci. Rep.*, 9(1):19369, 2019. （査読あり）(IF:4.011, 2018) 【共同研究】
7. Kosugi M, Otani M, Kikkawa Y, Itakura Y, Sakai K, Ito T, Toyoda M, Sekita Y, Kimura T. Mutations of histone demethylase genes encoded by X and Y chromosomes, Kdm5c and Kdm5d, leads to noncompaction cardiomyopathy in mice. *Biochem Biophys Res Commun*, in press, 2020. （査読あり）(IF: 2.705, 2018) 【共同研究】
8. ◎Sasaki N, Itakura Y, ★Toyoda M. Rapamycin promotes endothelial-mesenchymal transition during stress-induced premature senescence through the activation of autophagy. *Cell Commun Signal*, 18:43, 2020. （査読あり）(IF: 5.111, 2018) 【テーマ研究】

(2) 総説

1. ◎★Sasaki N, Itakura Y, ★Toyoda M. Gangliosides Contribute to Vascular Insulin Resistance. *Int J Mol Sci*, 20(8): 1819, 2019. (査読あり) (IF: 4.183, 2018) 【テーマ研究】
2. ◎★Sasaki N, Itakura Y, Gomi F, Hirano K, Toyoda M, Ishiwata T. Comparison of functional glycans between cancer stem cells and normal stem cells. *Histol Histopathol,* 34(9):995-1007, 2019. (査読あり) (IF: 1.777, 2018) 【共同研究】
3. ◎★板倉陽子.「老化に伴う糖鎖変化がもたらす細胞機能制御の解明に向けて」、基礎老化学会誌、in press, 2019. （査読あり）【テーマ研究】
4. ◎★Sasaki N, ★Toyoda M. Vascular diseases and gangliosides. *Int J Mol Sci*, 20(24):E6362, 2019. （査読あり）(IF: 4.183, 2018) 【テーマ研究】

3 著書等

1. Toyoda M. A characteristic glycan profile of stem cells (Chapter 11.2), Glycoscience: Basic Science to Application (Taniguch N, Endo T, Hirabayashi J, Nishihara S, Kadomatsu K, Akiyoshi K, Aoki-Kinoshita K Editors), pp194-195, Springer, 2019.
2. 佐々木紀彦.「膵癌の早期診断法と治療法の開発に向けた、nestin 陽性膵癌幹細胞特異的糖鎖の同定」、基礎医学医療研究助成金報告書、金原一郎記念医学医療振興財団
3. 佐々木紀彦.「膵癌幹細胞の糖鎖を標的とした新規診断・治療法の開発」、日本膵臓病研究財団第 26 回研究報告書、日本膵臓病研究財団
4. 板倉陽子.「健康を管理する細胞糖鎖変化における老化関連因子の解明」、平成 30 年度研究助成報告書、一般社団法人 ホーユー科学財団
5. ◎★豊田雅士.「間葉系細胞における糖鎖構造とその機能」医学のあゆみ, 272(10):981-986,2020.

筋老化再生医学

1 学会発表

(1) 海外

1. Uezumi A, Ikemoto-Uezumi M, Kurosawa T, Fukada S, Kasai T, Ohno K, Tsuchida K. Retinoic acid signaling regulates fate of mesenchymal progenitors during muscle regeneration and pathogenesis. Frontiers in Myogenesis Meeting “Skeletal muscle: development, regeneration and disease” Costa Rica. Sep 24, 2019

(2) 国内

1. 武田伸一, 今村道博, 柴﨑浩之, 有馬さゆり, 上住聡芳, 上住円、ジストロフィン欠損の病態を標的とした治療法の開発－筋ジストロフィーイヌモデルで見出したmiRNAクラスターの機能の検討－、精神・神経疾患研究開発費「ジストロフィン欠損モデル動物を基盤とした筋ジストロフィーの新しい治療法開発」令和元年度研究班会議、東京、2019年11月28日
2. 上住聡芳、筋ジストロフィー治療のための間葉系前駆細胞制御法開発－レチノイン酸シグナルによる間葉系前駆細胞の運命制御－、精神・神経疾患研究開発費「ジストロフィン欠損モデル動物を基盤とした筋ジストロフィーの新しい治療法開発」令和元年度研究班会議、東京、2019年11月27日
3. 深田宗一朗, 福田純明, 梶貴志, 張礫丹, 上住聡芳、骨格筋幹細胞研究を起点とした移植細胞創成技術の開発－筋損傷・筋肥大に対する筋幹細胞のレスポンスの違い－、精神・神経疾患研究開発費「ジストロフィン欠損モデル動物を基盤とした筋ジストロフィーの新しい治療法開発」令和元年度研究班会議、東京、2019年11月27日
4. 上住聡芳、上住円、周赫英、黒澤珠希、中谷直史、日野純、深田宗一朗、土田邦博、間質の間葉系前駆細胞による骨格筋健全性維持メカニズム、第47回日本関節病学会 Combined with the 11th APOKAシンポジウム10「サルコペニアと骨格筋の基礎研究」、福岡、2019年11月22日
5. 周赫英、上住円、黒澤珠希、豊田雅士、吉本由紀、上住聡芳、ヒト骨格筋由来前駆細胞の品質に関与する因子の同定、第7回若手による骨格筋細胞研究会、京都、2019年10月22日
6. 梶貴志、上住聡芳、深田宗一朗、筋肥大時の筋幹細胞活性化機構の解明、第7回若手による骨格筋細胞研究会、京都、2019年10月22日

7. 黒澤珠希、梶典幸、上住円、周赫英、堀正敏、上住聡芳、様々な臓器に存在するPDGFRa陽性間質細胞の比較解析、第7回若手による骨格筋細胞研究会、京都、2019年10月22日
8. 上住円、周赫英、黒澤珠希、吉本由紀、上住聡芳、神経筋接合部におけるMFG-E8の異常蓄積が骨格筋老化に及ぼす影響、第7回若手による骨格筋細胞研究会、京都、2019年10月22日
9. 後藤もも、黒澤珠希、愛清哲、梶典幸、上住円、上住聡芳、堀正敏、肝線維症に起因する筋サルコペニアの病態解明、第7回若手による骨格筋細胞研究会、京都、2019年10月22日
10. 藤井健、上住聡芳、深田宗一郎、前原一満、大川恭行、スパースロジスティック回帰による未知骨格筋衛星細胞亜集団の同定、第7回若手による骨格筋細胞研究会、京都、2019年10月22日
11. 吉本由紀、滝本晶、山家新勢、西田圭一郎、永田和宏、上住聡芳、腱・靭帯形成におけるコラーゲン線維形成の役割、第7回若手による骨格筋細胞研究会、京都、2019年10月22日
12. 吉本由紀、山家新勢、宿南知佐、滝本晶、開祐司、西田圭一郎、永田和宏、上住聡芳、コラーゲン特異的分子シャペロンHsp47の腱・靭帯形成における役割、第20回運動器科学研究会、静岡、2019年9月7日
13. 常陸圭介、中谷直史、上田洋司、上住聡芳、土田邦博、筋分化・筋萎縮における新規長鎖非コードRNA Myoparrの機能解析、第5回日本筋学会、東京、2019.8.3【最優秀Young Investigator’s Award受賞】
14. 上住円、上住聡芳、張礫丹、周赫英、橋下有弘、岡村菊夫、松井康素、塚崎晃士、細山徹、中谷直史、森田充浩、山田治基、土田邦博、深田宗一朗、カルシトニン受容体の発現低下は加齢性の骨格筋幹細胞減少に寄与する、第5回日本筋学会、東京、2019.8.3
15. 梶貴志、上住聡芳、深田宗一朗、骨格筋肥大時の筋幹細胞の活性化機構の解明、第5回日本筋学会、東京、2019.8.2
16. 黒澤珠希、梶典幸、上住円、周赫英、堀正敏、上住聡芳、様々な臓器に存在するPDGFRa陽性間質細胞の比較解析、第5回日本筋学会、東京、2019.8.2
17. 紙崎孝基、土井亮助、金川基、戸田達史、上住聡芳、 深田宗一朗、遠藤光晴、南康博、骨格筋組織幹細胞におけるRor1およびRor2の機能解析、第5回日本筋学会、東京、2019.8.2
18. 上住聡芳、上住円、深田宗一朗、土田邦博、筋内の異所性脂肪形成を制御するメカニズム、第42回日本分子生物学会年会ワークショップ「幹細胞による筋骨格システムの形成・再生・病態メカニズム解明の新展開」、福岡、2019年12月3日

２　誌上発表

（1）原著

1. Zhang L, Noguchi Y, Nakayama H, Kaji T, Tsujikawa K, Ikemoto-Uezumi M, Uezumi A, Okada Y, Doi T, Watanabe S, Braun T, Fujio Y, Fukada SI. The CalcR-PKA-Yap1 axis is critical for maintaining quiescence in muscle stem cells. ***Cell Rep***. 29(8):2154-2163.e5. (原著、査読有) (IF: 7.815, 2018)
2. Fukuda S, Kaneshige A, Kaji T, Noguchi YT, Takemoto Y, Zhang L, Tsujikawa K, Kokubo H, Uezumi A, Maehara K, Harada A, Ohkawa Y, Fukada SI. Sustained expression of HeyL is critical for the proliferation of muscle stem cells in overloaded muscle. ***Elife***. 8. pii: e48284. doi: 10.7554/eLife.48284. 2019. (原著、査読有) (IF: 7.616, 2017)
3. Zhang L, Uezumi A, Kaji T, Tsujikawa K, Andersen DC, Jensen CH, Fukada SI. Expression and Functional Analyses of Dlk1 in Muscle Stem Cells and Mesenchymal Progenitors during Muscle Regeneration. ***Int J Mol Sci***. 20(13). pii: E3269. doi: 10.3390/ijms20133269. 2019. (原著、査読有) (IF: 4.183, 2018)
4. Noguchi YT, Nakamura M, Hino N, Nogami J, Tsuji S, Sato T, Zhang L, Tsujikawa K, Tanaka T, Izawa K, Okada Y, Doi T, Kokubo H, Harada A, Uezumi A, Gessler M, Ohkawa Y, Fukada SI. Cell-autonomous and redundant roles of Hey1 and HeyL in muscle stem cells: HeyL requires Hes1 to bind diverse DNA sites. ***Development***. 146(4). pii: dev163618. doi: 10.1242/dev.163618. 2019. (原著、査読有) (IF: 5.763, 2018)
5. ★◎Ikemoto-Uezumi M, Uezumi A, Zhang L, Zhou H, Hashimoto N, Okamura K, Matsui Y, Tsukazaki K, Hosoyama T, Nakatani M, Morita M, Yamada H, Tsuchida K, Fukada SI. Reduced expression of calcitonin receptor is closely associated with age-related loss of the muscle stem cell pool. ***JCSM Rapid Commun***. 2(1). 2019. (原著、査読有) (IF: 未)
6. Hitachi K, Nakatani M, Takasaki A, Ouchi Y, Uezumi A, Ageta H, Inagaki H, Kurahashi H, Tsuchida K. Myogenin promoter-associated lncRNA Myoparr is essential for myogenic differentiation. ***EMBO Rep***. 20(3). pii: e47468. doi: 10.15252/embr.201847468. 2019. (原著、査読有) (IF: 8.568, 2016)
7. Kusano T, Nakatani M, Ishiguro N, Ohno K, Yamamoto N, Morita M, Yamada H, Uezumi A, Tsuchida K. Desloratadine inhibits heterotopic ossification by suppression of BMP2-Smad1/5/8 signaling. ***J Orthop Res***. 2020 Feb 11. doi: 10.1002/jor.24625. (原著、査読有) (IF: 3.14, 2017)

３　著書等

1. 上住聡芳、生理的条件下における筋量調節機構の解明、アステラス製薬共同研究報告書
2. 上住聡芳、ヒト筋管細胞を用いた筋量増加が期待される素材探索、サントリーウエルネス共同研究実施報告書
3. 上住聡芳、筋ジストロフィー治療のための間葉系前駆細胞制御法開発、精神・神経疾患研究開発費「ジストロフィン欠損モデル動物を基盤とした筋ジストロフィーの新しい治療法開発」班 H30開発費実績報告書
4. 上住聡芳、上住円、筋肉の脂肪化と健康長寿、Clinical Neuroscience

運動器医学

1　学会発表

（1）海外

1. Y. Badawi, S. Tungtur, T. Tanaka, R. Soder, R.Barohn, K. Shigemoto and H. Nishimune. Degeneration of ALS mouse neu romuscular junctions analyzed using super resolution microscopy and ameliorated using human mesenchymal stem

cells. Neuroscience 2019, Chicago USA, Oct 22, 2019.

(2) 国内

1. 重本和宏. サルコペニア・フレイルのバイオマーカー探索に向けて. 第27回日本臨床化学会関東支部総会、自治医科大学、2019年5月11日.
2. 岸 雅彦, 森 秀一, 重本 和宏, 古賀 道明, 高橋 修, 舘野 冬樹, 相羽 陽介. Miller Fisher症候群における前シナプス障害-MEPP burst & Paired pulse facilitation-. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019.5.22-25.
3. Mori S, Motohashi N, Takashima R, Shigemoto K. Serum protein derived from skeletal muscle is a candidate biomarker for neuromuscular communication. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019.5.22-25.
4. 重本和宏. サルコペニアと認知的フレイルおよび精神・心理的フレイルの因果関係とは？ 第31回日本老年学会総会　合同シンポジウム, 仙台, 2019年6月6日.
5. 重本和宏. 筋肉の老化と分子メカニズム. 日本老年医学サマーセミナー, 大府（愛知県）、2019年8月3日
6. 森 秀一, 本橋 紀夫, 重本 和宏. MuSKを介した逆行性シグナル伝達機構の解析. 第74回日本体力医学会大会, つくば, 2019.9.19-21.
7. 大村卓也, 田村嘉章, 舘鼻彩, 豊島弘一, 小寺玲美, 大庭和人, 豊島堅志, 千葉優子, 荒木厚高齢者とインスリン一インスリンポンプを使用中の超高齢1型糖尿病の1例― 日本老年医学会第70回関東甲信越地方会, 東京, 2019年8月31日.
8. 重本和宏. サルコペニア・フレイルの病態と機序について. 日本サルコペニアフレイル学会, Meet the Expert5(シンポジウム),新潟,2019年11月9日.

2　誌上発表

(1) 原著

1. ★◎Motohashi N, Uezumi A, Asakura A, Ikemoto-Uezumi M, Mori S, Mizunoe Y, Takashima R, Miyagoe-Suzuki Y, Takeda S and Shigemoto K: Tbx1 Regulates Inherited Metabolic and Myogenic Abilities of Progenitor Cells Derived from Slow- and Fast-type Muscle. Cell Death Differ. 26(6):1024-1036. 2019（査読あり）, （IF 8.309）
2. ★◎Miyazaki T, Zhao Z, Ichihara Y, Yoshino D, Imamura T, Sawada K, Hayano S, Kamioka H, Mori S, Hirata H, Araki K, Kawauchi K, Shigemoto K, Tanaka S, Bonewald LF, Honda H, Shinohara M, Nagao M, Ogata T, Harada I, Sawada Y. Mechanical regulation of bone homeostasis through p130Cas-mediated alleviation of NF-kB activity. Sci Adv 5: eaau7802, 2019,（査読あり）,（IF: 12.804）
3. ★◎Omura T, Tamura Y, Kodera R, Oba K, Toyoshima K, Chiba Y, Matsuda Y, Uegaki S, Kuroiwa K, Araki A. Pancreatic cancer manifesting as Sister Mary Joseph nodule during follow up of a patient with type 2 diabetes mellitus: A case report. Geriatrics & gerontology international, 19(4), 363-364, 2019年,（査読あり）, (IF:2.118).
4. ★◎Omura T, Tamura Y, Kodera R, Oba K, Toyoshima K, Chiba Y, Sugihara T, Itabashi M, Shigemoto K, Araki A. Oldest-old type 1 diabetes patient receiving insulin pump treatment with positive myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody complication: A case report. Geriatrics & gerontology international, 19(9), 957-958, 2019,（査読あり）,(IF:2.118)

(2) 総説

1. ★◎Mori S, Shigemoto K. Utility of experimental animal models of myasthenia gravis for the elucidation of pathogenic mechanisms and development of new medications. Clin Exp Neuroimmunol .10: 85-95, 2019. （査読あり）(IF:なし)

3　著書等

1. 森 秀一. 神経筋シナプスの活性化能を有する生薬および漢方薬の探索. 富山大学和漢医薬学総合研究所年報 45: 84, 2019.

受賞

心血管老化再生医学

1. 板倉陽子、第42回基礎老化学会奨励賞「細胞および個体老化に伴う細胞の品質保持に関わる糖鎖変化の解析」2019.6

筋老化再生医学

1. 吉本由紀、第37回日本骨代謝学会学術集会優秀演題賞「ScxGFP iPS細胞を用いたin vitro分化誘導系の構築と腱・靭帯・軟骨細胞の分化制御の解析」2019.10.12
2. 黒澤珠希、第7回若手による骨格筋細胞研究会若手優秀発表賞「様々な臓器に存在するPDGFRα陽性間質細胞の比較解析」2019.10.22

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)
二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

老年病理学研究チーム

チームリーダー：石渡俊行

研究チームの概要・目的

本研究チームは老化の機序を解明するとともに、老化に伴って発生、また増加する老年性疾患についてその病因を解明し、早期に発見する方法と新たな治療法の開発を行なうことを目的としている。本チームの特徴である解剖学・組織学、そして病理学の知識と技術を生かし、ヒトの老化・老年病の基礎的、基盤的研究を深めるとともに、臨床に還元できる医学的研究と、病理診断学的な研究を行なう。
（１）研究所の「神経病理」と「高齢者がん」そして病院の「病理診断科」の３者が密接に連絡をとり、協力しながら研究を進めている。さらに、これらの研究を深化、発展させるために、「高齢者ブレインバンク」、「高齢者バイオリソースセンター」、「電子顕微鏡室」と連携し、研究所における形態学、病理組織学的な研究の中核となることを目指している。高齢者を対象とする研究施設と診療施設の両者を備える本センターの利点を活かし、ヒトの老化のメカニズムと老化の過程で生じてくる多くの老年性疾患を研究し、その予防法、診断法と治療法の発見、開発を行なっている。
（２）病理診断の分野において、「病理診断科」、「神経病理」、「高齢者がん」の３グループが互いの専門分野を生かしながら協力し一体となって、センターの患者の診療に貢献している。

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

高齢者がん

テーマ	研究目標・目的	2018 年度（平成30年度）	2019 年度（令和元年度）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
(1) 加齢と前がん状態におけるテロメア	加齢と前がん状態におけるテロメア短縮の機序解明	抗テロメラーゼ抗体の作成	抗テロメラーゼ抗体による正常組織の免疫染色	抗テロメラーゼ抗体によるがん組織の免疫染色	抗テロメラーゼ抗体のがん細胞の核内への導入	テロメラーゼの転写調節領域の解析
(2) 老化マーカー、前がん状態のマーカーとしてのテロメア	老化マーカー、前がん状態のマーカーとしてのテロメア長測定	血液検体でのテロメア長測定方法の確立	正常人血液でのテロメア長測定	がん患者血液でのテロメア長測定	バイオバンク検体でのテロメア長測定	高齢者健診でのテロメア長測定の準備
(3) 正常組織と非がん組織におけるテロメア	正常組織と非がん組織におけるテロメア長解析	正常組織でのテロメア長測定	正常組織でのテロメア長測定	スペクトル顕微鏡を用いた、正常組織でのテロメア長測定	認知症症例でのテロメア長測定	サルコペニアにおけるテロメア長測定
(4) 膵がん幹細胞の性質の解明	膵がん幹細胞の解析と特異的治療法の開発	がん幹細胞の形態解析	がん幹細胞の機能解析（Nestin陽性細胞）	がん幹細胞の機能解析（糖鎖解析）	がん幹細胞に有効な薬剤の探索	がん幹細胞に有効な薬剤のin vitro, in vivoの効果判定
(5) 膵がん転移機序の解明	膵がん転移機序の解明と抑制方法の開発	転移関連分子H19の作用機序の解明	転移関連分子の網羅的解析	新規転移関連分子のin vitroでの役割の検討	新規転移関連分子のin vivoでの役割の検討	新規転移関連分子の細胞内での作用機序解明

神経病理学

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度	2021 年度	2022 年度
神経病理（高齢者ブレインバンク病理コア）	1. 高齢者ブレインバンク病理コアの役割を通じ、遺伝子発現研究にも使用可能な高品位リソースを蓄積し、全国の神経科学研究者と神経病理の立場から共同研究することで、老化に関わる運動・機能障害の、病因の解明に貢献する。 2. 高齢者ブレインバンクプロジェクトでの臨床診断基準の作成、治療の有効性の検討、病因の追求を行うことによる臨床への直接的還元において、神経病理コアの立場より貢献する。	新規アストログリアマーカーペットリガンドの樹立への神経病理学的研究による高齢者医療への貢献	高齢者TDP43蛋白蓄積症の国際神経病理診断コンソーシアムの樹立と本邦診断基準の作成による本邦認知症診断への貢献	オールジャパン皮質基底核変性症神経病理診断基準の作成による本邦高齢者医療への貢献。	前頭側頭型認知症・筋萎縮性側索硬化症オールジャパンコンソーシアムによる、本邦神経病理診断基準の作成による、本邦高齢者認知症医療への貢献。	変性型多重蛋白蓄積症の高齢者コホートにおける神経病理研究による、高齢者フレイルの背景病理の解明

高齢者がん

構成メンバー

テーマリーダー：石渡俊行
研究員：五味不二也、相田順子
非常勤研究員：田久保海誉、寺井政憲、長谷川文雄、長谷川康子、直井美穂、西村幸子

1　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

現在、取り組んでいる研究について〈①論文採択済〉、〈②論文執筆中〉、〈③論文投稿中〉、〈④実験中〉、〈⑤実験計画中〉の進捗状況に分けて記載する。

〈①論文採択済〉

- **テロメア研究：**

1. 副腎皮質の各層の分化とテロメア長の研究. J Clin Endocrinol Metab. (IF: 5.605)東北大学社会人大学院生の病理診断科医局員を、グループのテーマで研究指導（テーマプロジェクト、以下TP）
2. 高齢男性の副腎束状層テロメア短縮と副腎重量減少. J Clin Endocrinol Metab. (IF: 5.605)相田副部長と病理診断科医局員が共同筆頭著者（TP）
3. 口腔上皮のテロメア短縮とアルコール摂取、ADH-1B, ALDH-2の遺伝子型. J Oral Pathol Med. (IF: 2.030)相田副部長が筆頭、責任著者（TP）

- **膵癌研究：**

4. 三次元培養による上皮様と間葉系膵癌細胞の差異増加. Scientific Rep. (IF: 4.011)
   石渡部長が責任著者（TP）
5. 糖鎖（ガングリオシド、GM2）の膵癌の増殖における役割. Scientific Rep. (IF: 4.011)
   石渡部長が責任著者（TP）
6. 血清添加による膵癌細胞のスフェア増大と癌幹細胞マーカー増加. BBRC. (IF: 2.705)
   石渡部長が責任著者（TP）
7. 膵癌培養細胞の浮遊細胞の特徴と転移能検討. BBRC. (IF: 2.705)
   五味研究員が共同筆頭著者、石渡部長が責任著者（TP）
8. 剖検を用いた膵嚢胞、High grade PanIN、加齢の関係の検討. Pancreas. (IF: 2.675)
   （共同研究共著）

9. SMAD4免疫染色による膵臓セルブロック標本の良悪性判定. Cytopathology. (IF: 1.473) (共同研究共著)
10. 膵癌患者と幹細胞マーカーのnestinのSNPの関連. Oncol Lett. (IF: 1.871, 共同研究共著)
11. 膵癌間質のcarbohydrate sulfotransferase 15と予後増悪の関係. Oncol Lett. (IF: 1.871) (共同研究共著)

● **診断学的、外科病理、その他：**

12. 上行結腸由来の神経内分泌癌培養細胞株の樹立と解析. Cancer Science. (IF: 4.751) (共同研究共著)
13. CA19-9産生胃癌の臨床病理学的特徴. Pathol Int (IF: 2.082) (共同研究共著)
14. A型インフルエンザに伴い発症した急性肝不全の剖検例解析. Jpn J Infect Dis (IF: 1.140) (共同研究共著)
15. イヌの乳癌細胞スフェアのメタボローム解析. J Vet Med Sci. (IF: 0.910) (共同研究共著)
16. イヌ乳癌の未分化細胞におけるS100A4タンパクの解析. Vet Pathol (IF: 2.116) (共同研究共著)
17. アムールトラのLeydig cell tumorの形態、機能的解析. J Vet Med Sci. (IF: 0.910) (共同研究共著)

〈②論文投稿中〉

18. 副甲状腺のテロメア長と加齢の研究：Experimental Gerontolに投稿中. 石渡部長が責任著者 (TP)

〈③論文執筆中〉

1. 脂肪腫と脂肪腫様脂肪肉腫のテロメア長による鑑別.論文完成、投稿直前. (TP)
2. バレット癌の発生母地である周囲粘膜における染色体不安定性とテロメア長. (TP)
3. iPS化した線維芽細胞におけるテロメア動態. 論文作成を開始. (TP)
4. ヒト膵癌のバイオマーカーとしてのmiR 4710について論文作成を開始. (TP)

〈④実験中〉

1. バレット食道の生検組織を用いてその後の発癌が予測可能か染色体不安定性の検証 (TP)
2. 多発性骨髄腫の初代培養細胞において各染色体のテロメア長を東京大学と共同研究中. (TP)
3. H.pylori除菌前後のテロメア長の変化の検討. : 実験中 (TP)
4. 慢性ストレスと、副腎のテロメア長について検討中 (TP)
5. ヒト腎臓組織のテロメア長についてセンター腎臓内科と共同研究中 (TP)
6. ヒト大腸組織のテロメア長について研究中 (TP)
7. 膵癌のスフェアにおけるテロメア長、テロメラーゼ活性について実験中 (TP)
8. 膵癌における長鎖非コードRNAのH19を制御する上流因子について実験中 (TP)
9. 線維芽細胞増殖因子(FGFR-4)の抑制剤を用いて追加実験中. (TP)
10. 膵癌のスフェアに有効な既存薬剤のスクリーニングを金沢大学がん研究所と共同研究中. (TP)
11. 膵癌のスフェア形成におけるポリビニルアルコールの有用性について実験中 (TP)
12. 食道胃接合部のマーカーである柵状静脈の鑑別法について検討中 (TP)

〈⑤実験計画中〉

1. イヌ、ネコ乳癌の癌幹細胞の同定と治療法開発:実験方法の検討中。(共同研究)
2. 大腸癌の原発巣と肝転移巣におけるテロメア長、TERT発現の比較：実験方法の検討中。(共同研究)

【その根拠】

研究の進捗段階に分けて、各研究プロジェクトを記載し、その根拠を明示した。「実験計画中」は実験方法の詳細が未だ確定していない。「実験中」は材料収集が終了し、実験方法が確定し実験が進行中の状態である。「論文執筆中」は実験が終了しており、論文を作成中である。「論文投稿中」は投稿したジャーナルの採否を待っている、または査読後の修正を行なっている状態である。「論文採択」は着実な進捗状況を示す、最も確かな根拠と考える。

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜iPS細胞の研究＞

【センター内】老年病態研究チーム（心血管老化医学研究）

【センター外】慶應義塾大学、理化学研究所

＜剖検、手術、生検検体の臨床病理学的研究＞

【センター内】病理診断科

【センター外】バイロイト病理学研究、マサチューセッツ総合病

＜副甲状腺の研究＞

【センター内】糖尿病・代謝・内分泌内科、病理診断科

【センター外】日赤医療センター検査部
＜肝移植細胞の研究＞
【センター外】自治医科大学、日本医科大学
＜膵管細胞・膵内分泌細胞の老化＞
【センター内】病理診断科
【センター外】自治医科大学、相澤病院、順天堂大学、国立がん研究センター
＜バレット食道の定義研究＞
【センター内】福祉と生活ケア研究チーム、病理診断科
【センター外】バイロイト病理研究所
＜バレット癌の深達度、その他の臨床病理組織学的所見と予後との関連性に関する多施設共同研究＞
【センター内】福祉と生活ケア研究チーム、消化器内科、病理診断科
【センター外】埼玉県立がんセンター、がん研有明病院、東京医科歯科大学、東海大学、佐久医療センター、新潟大学
＜バレット食道マウスモデルとヒトバレット食道の比較について＞
【センター外】東京大学
＜胸膜悪性中皮腫と石綿曝露例胸膜中皮のセルブロックによるテロメア長解析＞
【センター外】国際医療福祉大学三田病院
＜アルコール症患者におけるバレット食道と食道静脈瘤に関する研究＞
【センター外】国立病院機構久里浜医療センター、川崎市立井田病院
＜線維芽細胞増殖因子(FGFR-4)の抑制による膵癌治療の研究＞
【センター内】老年病態研究チーム（心血管老化再生医学）
【センター外】日本獣医生命科学大学
＜長鎖非コードRNAの制御による膵癌治療の基礎研究＞
【センター内】老年病態研究チーム（心血管老化再生医学）
【センター外】日本獣医生命科学大学
＜イヌ、ネコ乳癌の癌幹細胞の同定と治療法開発＞
【センター外】日本獣医生命科学大学
＜イヌ乳腺癌の長鎖非コードRNA＞
【センター外】日本獣医生命科学大学
＜癌免疫療法に対する生体内癌動態可視化＞
【センター外】東京大学
＜循環血液中癌細胞の新たな検出方法の検討＞
【センター外】日本医科大学
＜膵癌の新たなバイオマーカーの探索＞
【センター外】静岡県立大学、日本獣医生命科学大学
＜膵癌の治療に有効なラットモノクロ抗体作製＞
【センター外】近畿大学
＜多発性骨髄腫の初代培養細胞における各染色体のテロメア長＞
【センター外】東京大学、日赤医療センター検査科
＜大脳組織の老化に関する研究＞
【センター外】日赤医療センター病理部
＜脳下垂体の老化に関する研究＞
【センター内】病理診断科
【センター外】日赤医療センター病理部
＜副腎のテロメア長解析＞
【センター内】病理診断科
【センター外】東北大学
＜慢性ストレスと副腎のテロメア長の関連＞
【センター内】病理診断科
【センター外】東北大学

＜H.pylori除菌前後のテロメア長の変化の検討＞
【センター内】病理診断科、消化器内科
【センター外】東京女子医科大学附属成人医学センター
＜バレット食道ランダム生検組織の染色体不安定性による発癌予測＞
【センター外】ドイツ・バイロイト大学
＜PCR法を用いた、テロメア長の測定＞
【センター内】老年病態研究チーム（心血管老化再生医学）
【センター外】日本獣医生命科学大学、日本医科大学
＜膵癌のスフェアに対する抗がん剤の効果＞
【センター内】老年病態研究チーム（心血管老化再生医学）
【センター外】金沢大学がん進展制御研究所
＜ネスチン陽性の膵癌の癌幹細胞に発現する糖鎖解析＞
【センター内】老年病態研究チーム（心血管老化再生医学）
＜膵癌に発現するガングリオシドの役割の研究＞
【センター内】老年病態研究チーム（心血管老化再生医学）
【センター外】東海大学病理学教室、日本獣医生命科学大学
＜膵癌におけるＯ－マンノース型糖鎖の役割＞
【センター内】老化機構研究チーム（分子機構）＜イルカ精子の冷蔵輸送方法と生存精子の形態検索＞
【センター内】実験動物施設
【センター外】近畿大学
＜下垂体由来iPS細胞から作成したオルガノイドの研究＞
【センター内】病理診断科

神経病理学

構成メンバー

テーマリーダー：村山繁雄（神経内科・高齢者バイオリソースセンター部長兼務）
研究員：松原知康、種井善一、河上緒、小幡真希（高齢者バイオリソースセンター）
非常勤研究員：内野彰子、谷口大祐
非常勤職員：原田三枝子、森島真帆、直井信子、岡本京子、今井佐知子、中島梓

１　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

老化に関わるTDP43蛋白蓄積症について、米国Rush Memorial Study of Aging神経病理担当Nelson博士の主導する国際共同研究に本邦代表として参加し、共著発表した。

辺縁系に出現しアルツハイマー病と類似した認知症としての報告で、本邦では存在自体無視されてきたので、発表の意味はあると判断した。しかし高齢者ブレインバンクが国際発信している嗜銀顆粒性認知症が、診断に必要なGallyas鍍銀染色は技術的問題で、4リピートタウアイソフォルム特異抗体（RD4）は金額が高いことから米国では用いられておらず、全く無視されおり、嗜銀顆粒性認知症に合併しているTDP43蛋白蓄積症の方がはるかに多いことに関し､少なくとも本邦におけるコンセンサスを構築する必要がある。

【その根拠】

国際共同研究を、高齢者ブレインバンク代表、日本神経病理学会理事長、米国神経病理学会誌副編集長の立場で本邦代表として参加し、高齢者ブレインバンクデータを提供することで貢献したことは、本年度目標である、老化に伴うTDP43蛋白蓄積症の解明に十二分に貢献できたと判断する。

老化におけるアミロイドβ蛋白、タウ蛋白、αシヌクレインに次ぐ第4の蛋白として、TDP43の生物学的意義を、本邦の老化・認知症関係者と国民に広く発信できたことからは、目標は100%以上達成出来たと評価する。

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜老化の画像・病理連関＞
【センター内】神経画像研究チーム、神経内科、放射線診断科
＜神経変性蛋白シード研究＞
【センター内】神経画像研究チーム、神経内科、放射線診断科、診断病理科
【センター外】東京都医学総合研究所
＜レビー小体病皮膚生検診断＞
【センター内】神経内科
【センター外】福井医科大学
＜核内封入体病皮膚生検診断＞
【センター内】神経内科、放射線診断科
【センター外】東京大学

３　その他

＜パーキンソン病診断のための皮膚生検＞
高齢者ブレインバンク、神経内科

＜認知症の surrogate biomarker 確立にむけての「バイオリソース」データベース構築の検討＞
高齢者ブレインバンク、神経内科、神経画像研究チーム

＜筋萎縮性側索硬化症の臨床生理学的診断基準の確立＞
高齢者ブレインバンク、神経内科

＜3D-SPGR 画像統計解析に基づく認知症の早期診断、鑑別の有用性＞
高齢者ブレインバンク、神経内科、放射線診断科

高齢者ブレインバンク外部機関共同研究（43 件）は高齢者ブレインバンクホームページに記載。

論文・学会発表

高齢者がん

１　学会発表

（1）海外

1. Sasaki N, Toyoda M, Yoshimura H, Matsuda Y, Arai T, Itakura Y, Gomi F, Aida J, Ishiwata T. Metastasis-promoting role of *H19* long non-coding RNA in pancreatic cancer cells. American Association for Cancer Research Annual Meeting 2019, Atlanta, USA, 2019.3.29-4.3
2. Arai T, Matsuda Y, Wang T, Aida J, Takubo K. Clinicopathological diversity of solid-type poorly differentiated adenocarcinoma of the stomach. The 13th International Gastric Cancer Congress, Prague, 2019.5.9-10
3. Aida J, Arai T, Takubo K, Ishiwata T. Distinguishing palisade veins as histologic marker of oesophageal origin in endoscopically resected specimens. 31st European Congress of Pathology, Nice, France 2019.9.7-11

（2）国内

1. 石渡俊行、志智優樹、佐々木紀彦、道下正貴、長谷川文雄、松田陽子、高橋公正、田久保海誉、新井冨生、相田順子. 膵癌細胞の3次元培養による上皮間葉系性質の多様性解析. 第108回　日本病理学会総会. 東京. 2019.5.9-5.11
2. 田久保海誉、相田順子、松田陽子、新井冨生、石渡俊行、前川尚志、石川雄一、藤原睦憲. 脂肪腫と異型脂肪腫様腫瘍/高分化型脂肪肉腫(ALT/WDL)の組織、染色体、テロメア長と染色体の不安定性. 第108回　日本病理学会総会. 東京. 2019.5.9-5.11
3. 相田順子、田久保海誉、松田陽子、新井冨生、石渡俊行. 食道胃接合部における食道マーカーとしての柵状静脈の組織学的特徴. 第108回　日本病理学会総会. 東京. 2019.5.9-5.11
4. 相田順子、田久保 海誉、剛崎有加、西村 誠、 新井 冨生、 石渡 俊行. 食道胃接合部ESD標本における粘膜内静脈の長さによる索状静脈の組織学的同定法. 第73回日本食道学会学術集会. 福岡.2019.6.6-7
5. 斉藤美香、別府第嘉繁、千代侑香、森美由紀、平野浩彦、相田順子、小田哲也.　上唇に発生した腺房細胞癌の一例　第30回日本老年歯科医学会学術大会、仙台　2019. 6. 6-8
6. 野田義博, 小西優以, 細野雅之, 尾崎美樹, 永井匡, 東里香, 大澤郁朗, 石渡俊行, 安齋政幸. バンドウイルカ(Tursiops truncatus)非保存液下条件による冷蔵輸送および生存精子形態の観察の一例. 第3回野生動物保全繁殖研究会大会.横浜.1019.7.4-5.

7. 石渡俊行、志智優樹、佐々木紀彦、道下正貴、長谷川文雄、松田陽子、新井冨生、五味不二也、相田順子、田久保海誉、豊田雅士、吉村久志、高橋公正．3次元培養による膵癌培養細胞の上皮間葉系形態と機能解析．第50回　日本膵臓学会大会．東京.2019.7.12-13
8. 今江理恵子、萬谷 博、津元裕樹、石渡俊行、遠藤玉夫．グリセロールリン酸供与体CDP-グリセロールの哺乳動物における定量分析．第38回　日本糖質学会年会．名古屋．2019.8.19-21.
9. 今江理恵子、萬谷 博、津元裕樹、石渡俊行、遠藤玉夫．哺乳動物培養細胞および組織におけるCDP-グリセロールの定量分析．第92回　日本生化学会大会．横浜．2019.9.18-20.
10. 相田順子、田久保海誉、石渡俊行　アルコール摂取による口腔粘膜のテロメア短縮：ADH1B, ALDH2の遺伝子型との関連性　第30回日本臨床口腔病理学会、　東京　2019.9.20-23
11. 石渡俊行、佐々木紀彦、豊田雅士、長谷川文雄、五味不二也．胎児ウシ血清による、膵癌のスフェア増大効果と癌幹細胞マーカーの増加．第78回日本癌学会学術総会．京都．2019.9.26-28
12. 伊藤邦彦、平井啓太、吉村久志、石渡俊行．CSPG4はトリプルネガティブ乳がんを含めた乳がんの免疫組織化学的検出における有望なマーカーである．第78回日本癌学会学術総会．京都．2019.9.26-28
13. 五味不二也，佐々木紀彦、田久保海誉、相田順子、新井冨生、石渡俊行．　膵癌細胞MIA PaCa-2浮遊細胞の特徴．第78回日本癌学会学術総会．京都．2019.9.26-28
14. 吉本蒼司、原　雄大、石渡俊行、益子　高．新規抗ASCT2モノクローナル抗体のヒト大腸癌と膵癌に対する抗癌効果とinternalizaion活性．第78回日本癌学会学術総会．京都．2019.9.26-28
15. 松田陽子、増富健吉、山川けいこ、成澤裕子、相田順子、石川　直、田久保海誉、石渡俊行、新井冨生．膵発癌過程におけるテロメアとテロメレース逆転写酵素の役割．第78回日本癌学会学術総会．京都．2019.9.26-28
16. 佐々木紀彦、豊田雅士、吉村久志、松田陽子、新井冨生、板倉陽子、五味不二也、相田順子、石渡俊行．　長鎖非コードRNAのH19は細胞接着を制御することでヒト膵癌細胞の転移に関わる．第78回日本癌学会学術総会．京都．2019.9.26-28
17. 石渡俊行、佐々木紀彦、五味不二也、長谷川文雄、新井冨生．　膵癌細胞の多様性と可変性の検討．第5回　がんゲノム・エピゲノム研究会．岩手．2019.10.5-6
18. 相田順子　下垂体とテロメア（ワークショップ　下垂体、招待講演）第23回日本臨床内分泌病理学会　東京　2019.10.4-5
19. 野中敬介、相田順子、田久保海誉、山崎有人、小松明子、高熊将一朗、柿崎元恒、井下尚子、石渡俊行、鄭　子文、笹野公伸、新井冨生．副腎皮質3層および髄質の加齢性変化に関する検討．第23回　日本臨床内分泌病理学会．東京．2019.10.4-5
20. 石渡俊行、佐々木紀彦、志智優樹、豊田雅士、長谷川文雄、五味不二也．3次元培養による膵癌培養細胞の上皮間葉系性質の解析．東京．2019.11.18

2　誌上発表

(1) 原著

1. Yoshimura H, Otsuka A, Michishita M, Yamamoto M, Ashizawa M, Zushi M, Moriya M, Azakami D, Ochiai K, Matsuda Y, Ishiwata T, Kamiya S, Takahashi K. Expression and Roles of S100A4 in Anaplastic Cells of Canine Mammary Carcinomas. Vet Pathol. 2019 May;56(3):389-398. （査読あり）（IF値:2.116, 2018）
2. Matsuda Y, Tanaka M, Sawabe M, Mori S, Muramatsu M, Mieno MN, Ishiwata T, Arai T. The stem cell-specific intermediate filament nestin missense variation p.A1199P is associated with pancreatic cancer. Oncol Lett. 2019 May;17(5):4647-4654. （査読あり）（IF値:1.871, 2018）
3. Sasaki N, Toyoda M, Hasegawa F, Fujiwara M, Gomi F, ★Ishiwata T. Fetal bovine serum enlarges the size of human pancreatic cancer spheres accompanied by an increase in the expression of cancer stem cell markers. Biochem Biophys Res Commun. 2019 Jun 18;514(1):112-117. （査読あり）（IF値:2.705, 2018）
4. Nonaka K, Aida J, Takubo K, Yamazaki Y, Takakuma S, Kakizaki M, Matsuda Y, Ishikawa N, Ishiwata T, Chong JM, Arai T, Sasano H. Correlation between Differentiation of Adrenocortical Zones and Telomere Lengths measured by Q-FISH. J Clin Endocrinol Metab. 2019 Jun 20. pii: jc.2019-00592. （査読あり）（IF値: 5.455, 2018）
5. Michishita M, Fujiwara-Igarashi A, Suzuki S, Hatakeyama H, Machida Y, Yoshimura H, Yamamoto M, Azakami D, Ochiai K, Ishiwata T, Fujita M. Diffuse Pulmonary Meningotheliomatosis with Sarcomatous Transformation in a Shiba Dog. J Comp Path 2019, 171, 1-5. （査読あり）（IF値: 1.249, 2018）
6. Shichi Y, Sasaki N, Michishita M, Hasegawa F, Matsuda Y, Arai T, Gomi F, Aida J, Takubo K, Toyoda M, Yoshimura H, Takahashi K, ★Ishiwata T. Enhanced morphological and functional differences of pancreatic cancer with epithelial or mesenchymal characteristics in 3D culture. Sci Rep. 2019 Jul 26;9(1):10871. （査読あり）（IF値: 4.011, 2018）
7. ★◎Aida J, Yokoyama A, Hara S, Ishizaki T, Fujiwara M, Arai T, Ishiwata T, Takubo K. Telomere Shortening in the Oral Epithelium in Relation to Alcohol Intake, Alcohol Dehydrogenase (ADH-1B) and Acetaldehyde Dehydrogenase (ALDH-2) Genotypes and Clinicopathologic Features. J Oral Pathol Med. 2019 Aug 11. （査読あり）（IF値: 2.030, 2018）
8. Matsuda Y, Kimura W, Matsukawa M, Aida J, Takubo K, Ishiwata T, Furukawa T, Mino-Kenudson M, Arai T. Association Between Pancreatic Cystic Lesions and High-grade Intraepithelial Neoplasia and Aging: An Autopsy Study. Pancreas. 2019 Sep;48(8):1079-1085. （査読あり）（IF値: 2.675, 2018）
9. Michishita M, Saito N, Nozawa S, Furumoto R, Nakagawa T, Sato T, Ochiai K, Azakami D, Katayama K, Nakahira R, Tazaki H, Machida Y, Ishiwata T. Metabolite profiling in sphere-forming cells from canine mammary adenocarcinoma cell lines using gas chromatography-mass spectrometry. J Vet Med Sci. 2019 Sep 3;81(9):1238-1248. （査読あり）（IF値: 0.910, 2018）
10. Nonaka K, Matsuda Y, Kakizaki M, Takakuma S, Hamamatsu A, Sakashita Y, Matsubara T, Murayama S, Ishiwata T, Yamanaka N, Itabashi M, Takei T, Nakajima N, Hasegawa H, Arai T. Acute Liver Failure Associated with Influenza A Virus Infection: an Autopsy Case Report. Jpn J Infect Dis. 2019 Sep 19;72(5):347-349. （査読あり）（IF値: 1.140, 2018）
11. Matsuda Y, Fujii Y, Matsukawa M, Ishiwata T, Nishimura M, Arai T. Overexpression of carbohydrate sulfotransferase 15 in pancreatic cancer stroma is associated with worse prognosis. Oncol Lett. 2019 Oct;18(4):4100-4105. （査読あり）（IF値: 1.871, 2018）
12. Shinji S, Sasaki N, Yamada T, Koizumi M, Ohta R, Matsuda A, Yokoyama Y, Takahashi G, Hotta M, Hara K, Takeda K, Ueda K, Kuriyama S, Ishiwata T, Ueda Y, Murakami T, Kanazawa Y, Yoshida H. Establishment and characterization of a novel

neuroendocrine carcinoma cell line derived from a human ascending colon tumor. Cancer Sci. 2019 Oct 24. doi: 10.1111/cas.14221. （査読あり） (IF値: 4.751, 2018)

13. Nonaka K, ◎Aida J, Takubo K, Yamazaki Y, Gao X, Komatsu A, Takakuma S, Kakizaki M, Inoshita N, Gomi F, Ishiwata T, Chong JM, Arai T, Sasano H. Correlation between Telomere Attrition of Zona Fasciculata and Adrenal Weight Reduction in Older Men. J Clin Endocrinol Metab. 2019 Nov 20. pii: dgz214. doi:10.1210/clinem/dgz214. （査読あり） (IF値: 5.455, 2018)
14. Sasaki N, ◎Gomi F, Hasegawa F, Hirano K, Fujiwara M, Toyoda M, ★Ishiwata T. Characterization of the metastatic potential of the floating cell component of MIA PaCa-2, a human pancreatic cancer cell line. Biochemical Biophysical Research Communications. 2020, Feb 19;522(4):881-888. （査読あり） (IF値:2.705, 2018)
15. Sasaki N, Hirabayashi K, Michishita M, Takahashi K, Hasegawa F, Gomi F, Itakura Y, Nakamura N, Toyoda M, ★Ishiwata T. Ganglioside GM2, highly expressed in the MIA PaCa-2 pancreatic ductal adenocarcinoma cell line, is correlated with growth, invasion, and advanced stage. Sci Rep. 2019, Dec 18;9(1):19369 (査読あり） (IF値: 4.011, 2018)
16. Wang T, Matsuda Y, Nonaka K, Kakizaki M, Ishiwata T, Kanazawa N, Uegaki S, Muramatsu M, Sawabe M, Mori S, Tanaka M, Kitagawa M, Arai T. Clinicopathological characteristics of gastric cancer with carbohydrate antigen 19-9 expression occurring in elderly individuals: an autopsy study. Pathol Int. 2020, Feb;70(2):92-100 (査読あり)(IF値：2.082, 2018)

(2) 総説

1. Sasaki N, Itakura Y, Gomi F, Hirano K, Toyoda M, ★Ishiwata T. Comparison of functional glycans between cancer stem cells and normal stem cells. Histol Histopathol. 2019 Sep;34(9):995-1007. doi: 10.14670/HH-18-119. Epub 2019 Apr 26. Review. PubMed PMID: 31025698. （査読あり） (IF値:1.777, 2018)

神経病理学

1 学会発表

(1) 海外

1. Takata T, Suely M, Izumi Y, Saito Y, Murayama S: Limbic TDP 43 proteinopathy, clinically mimicking Alzheimer disease. 95th ANNUAL MEETING American Association of Neuropathologists, Atlanta, Georgia, 2019.6.6-9
2. Matsubara T, Izumi Y, Miyamoto R, Oda M, Nodera H, Higashihara M, Sengoku R, Oki R, Fujita K, Kawarai T, Watanabe C, Saito Y, Kaji R, Murayama S: Validation study of clinical diagnosis of amyotrophic lateral sclerosis: the Brain Bank for Aging Research (BBAR) Project. 30th International Symposium on ALS/MND, Australia, 2019.12.4-6

(2) 国内

1. 村山繁雄（特別講演）：認知症の動的神経病理．第 22 回中・四国老年期認知症研究会，岡山，2019.4.13
2. 徳丸阿耶，村山繁雄，齊藤祐子，下地啓五：白質病変の画像診断　臨床・画像・病理関連の意義．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
3. 和泉唯信，村山繁雄：パーキンソン病と筋萎縮性側索硬化症の合併例．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
4. 渋川茉莉，松原知康，仙石錬平，石井賢二，徳丸阿耶，金丸和富，村山繁雄：歩行時ふらつきと易転倒性で発症した 83 歳女性ブレインバンク生前同意登録例．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
5. 金丸和富，仙石錬平，仁科裕史，村山繁雄：レビー小体型認知症における脳脊髄液 Aβ40 の検討．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
6. Takigawa H, Ikeuchi T, Aiba I, Morita M, Onodera O, Shimohata T, Tokuda T, Murayama S, Hasegawa K, Kowa H, Tokumaru AM, Hanajima R, Nakashima K, JALPAC study group : Longitudinal study of PSP rating scale and clinical diagnosis in PSP cases. 第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
7. 山﨑幹大，仙石錬平，金丸和富，村山繁雄：簡易な嗅覚識別試験による嗅覚障害と MIBG 心筋シンチ所見の関連について．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
8. 和泉唯信，宮本亮介，藤田浩司，山本雄貴，垂髪祐樹，塚本　愛，高松直子，森　敦子，松原知康，織田雅也，西田善彦，野寺裕之，村山繁雄，梶　龍兒：筋萎縮性側索硬化症はシヌクレイノパチーよりたこつぼ症候群を発症しやすい．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
9. 齊藤祐子，饗場郁子，佐野輝典，小松奏子，池内　健，長谷川成人，徳丸阿耶，村山繁雄：大脳皮質基底核変性症における多角的診断の重要性．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
10. 大崎裕亮，野寺裕之，山崎博輝，藤田浩司，宮本亮介，和泉唯信，村山繁雄，梶　龍兒：神経核内封入体病の末梢神経興奮特性．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
11. 加藤貴行，金丸和富，村山繁雄：軽度認知障害（MCI）を対象とする外来における、嗜銀顆粒性認知症症例についての検討．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
12. 松原知康，村山繁雄，織田雅也，宮本亮介，野寺裕之，瓦井俊孝，渡辺千種，齊藤祐子，梶　龍兒，和泉唯信：徳島県・広島県における筋萎縮性側索硬化症診断の実証的研究．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
13. 織田雅也，伊藤　聖，渡辺千種，立山義朗，村山繁雄，和泉唯信：療養型病床死亡退院患者に対する病理解剖実践の取り組み．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
14. Harigaya Y, Matsubara T, Oka H, Aoki S, Mizushima K, Murayama S: Clinical and radiological features of adult-onset neuronal intranuclear inclusion desease. 第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25
15. 小幡真希，松原知康，仙石錬平，金丸和富，村山繁雄：臨床心理士職としてのコーディネーター活動報告－高齢者ブレインバンクプロジェクト－．第 60 回日本神経学会学術大会，大阪，2019.5.22-25

16. 村山繁雄（教育講演）：神経内科医のための神経病理入門．第 26 回神経内科レジデント懇話会，大阪，2019.5.31
17. 金丸和富，金丸晶子，村山繁雄：レビー小体型認知症における CSF Aβ40 の低下．第 31 回日本老年学会総会・第 61 回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8
18. 村山繁雄：（特別講演）認知症の動的神経病理－臨床・画像・病理関連－．第 34 回山陰核医学研究会，松山，2019.7.6
19. 村山繁雄，松原知康，仙石錬平，齊藤祐子：2019 Annual Report, the Brain Bank for Aging Research, Tokyo, Japan．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
20. 山﨑幹大，仙石錬平，松原知康，坂下泰浩，種井善一，元田敦子，河上　緒，齊藤祐子，村山繁雄：てんかん重積状態後に脳症を呈した高齢者の 1 剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
21. 本山りえ，種井善一，村山繁雄，河田光弘，柿崎元恒，新井冨生：左内頸動脈先天性欠損の 78 歳男性剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
22. 種井善一，広吉祐子，元田敦子，坂下泰浩，山﨑幹大，松原知康，河上　緒，齊藤祐子，村山繁雄：アルツハイマー病変化の軽度であった嗜銀顆粒性認知症の一剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
23. 徳本健太郎，仙石錬平，仁科裕史，金丸和富，石井賢二，高橋雅道，成田善孝，吉田朗彦，村山繁雄：「18F」THK-5351-PET で集積を認めた中枢神経原発悪性リンパ腫の 1 例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
24. 元田敦子，坂下泰浩，松原知康，山﨑幹大，種井善一，河上　緒，仁科裕史，仙石錬平，金丸和富，高梨成彦，村山繁雄：急性期脳梗塞に対して機械的血栓回収術を施行された一剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
25. 内野彰子，清水崇宏，西山和利，秋谷昌史，吉田　功，一戸昌明，村山繁雄：難治性けいれん重積を呈した 42 歳男性剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
26. 仙石錬平，渋川茉莉，坂下泰浩，金丸和富，村山繁雄：めまい・失神を繰り返した経過 20 年の純粋自律神経不全の 88 歳男性剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
27. 河上　緒，梅田健太郎，村端祐樹，新里和弘，大島健一，池田研二，長谷川成人，村山繁雄：摂食障害死後脳における免疫組織化学的研究．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
28. 坂下泰浩，広吉祐子，仙石錬平，齊藤祐子，村山繁雄：頚椎症性脊髄症を合併し、特徴的なリン酸化タウ蛋白の蓄積を認めた筋萎縮性側索硬化症の 1 例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
29. 松原知康，村山繁雄，織田雅也，渡辺千種，立山義朗，森野豊之，川上秀史，齊藤祐子，和泉唯信：VCP 遺伝子 G128A 変異を伴う家族性筋萎縮性側索硬化症の 1 例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
30. 小川倫弘，兼坂岳志，菱田知恵，赤津裕康，山本左近，山本孝之，髙尾昌樹，村山繁雄：福祉村 Brain Bank 2018 年報告．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
31. 田野光敏，井上拓也，布施　葵，青柳真一，諏訪部　圭，高橋陽子，相澤勝健，赤津裕康，村山繁雄，美原　盤，美原恵里，美原　樹，髙尾昌樹：美原記念病院ブレインバンクからの年次報告．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
32. 齊藤祐子，柿田明美，吉田眞理，村山繁雄，入谷修司，寺田整司，横田　修，矢部博興，　國井泰人，大島健二，井上悠輔，田中紀子：日本ブレインバンクネットの運営の維持・発展．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
33. 初田裕幸，髙尾昌樹，野上　茜，内野彰子，隅蔵大幸，髙田忠幸，森本　悟，金丸和富，足立　正，新井冨生，長谷川成人，村山繁雄：粗大な脳梗塞および出血におけるマイネルト基底核のタウや TDP43 の蓄積．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
34. 黒田亮平，新井憲俊，村山繁雄：死後 CT で広範な急性期脳梗塞を認めた一剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
35. 山上　圭，松原知康，田島和江，竹内亮子，村山繁雄，福武敏夫：脳血管障害後にてんかん発作を繰り返した 90 歳男性．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
36. 竹内亮子，田島和江，福本竜也，佐藤　進，村山繁雄，福武敏夫：臨床診断が困難であった延髄原発膠芽腫の一剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
37. 玉城剛一，諏訪園秀吾，城戸美和子，熱海恵理子，松原知康，村山繁雄：30 歳代後半に筋痙攣で始まり当初は近位筋優位の脱力だが ALS にも類似し気管切開に至った家族歴濃厚な緩徐進行性筋萎縮症の 1 例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
38. 宮崎将行，岡本智子，種井善一，佐野輝典，小松奏子，水谷智彦，有馬邦正，石浦浩之，三井　純，辻　省次，村山繁雄，長谷川成人，高橋祐二，齊藤祐子：SNCA 遺伝子の p.G51D 変異を伴う家族性（PD）の死亡時 67 歳女性の 1 剖検例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
39. 鎌田正紀，松原知康，土居智和，川北梨愛，青江真吾，野中和香子，國土曜平，髙田忠幸，久米広大，串田吉生，村山繁雄：地方にて生前高齢者ブレインバンクに登録していた前頭側頭型認知症の 1 例．第 60 回日本神経病理学会総会学術研究会，名古屋，2019.7.14-16
40. 村山繁雄，松原知康，仙石錬平，齊藤祐子：レビー小体病理伝搬仮説の検証．第 13 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス．東京，2019.7.25-27
41. 山﨑幹大，仙石錬平，本山りえ，広吉祐子，徳丸阿耶，金丸和富，村山繁雄：純粋型レビー小体病の高齢者剖検例臨床・画像・髄液バイオマーカー・病理．第 13 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス．東京，2019.7.25-27
42. 松原知康，和泉唯信，織田雅也，渡辺千種，立山義朗，森野豊之，川上秀史，齊藤祐子，村山繁雄：VCP G128A 変異を伴う家族性筋萎縮性側索硬化症の 1 例．第 97 回 Neuromuscular Conference（NMC），東京，2019.8.3
43. 山上　圭，元田敦子，山崎博輝，和泉唯信，村山繁雄：脳幹出血により死亡したギラン・バレー症候群の 70 歳男性例．第 97 回 Neuromuscular Conference（NMC），東京，2019.8.3

44. 水谷真志，阿部弘基，藤井裕之，大町佳永，佐野輝典，向井洋平，西野一三，村山繁雄，佐藤典子，高橋祐二，齊藤祐子：声帯外転麻痺による突然死が疑われた多系統萎縮症の一例．第 97 回 Neuromuscular Conference（NMC），東京，2019.8.3
45. 渋川茉莉，種井善一，仙石錬平，元田敦子，松原知康，山﨑幹大，河上　緒，齊藤祐子，村山繁雄：統合失調症の経過中にパーキンソニズムが出現した 74 歳女性．第 122 回日本神経病理学会関東地方会（関東臨床神経病理懇話会），東京，2019.8.24
46. 赤池　瞬，松原知康，佐藤　進，村山繁雄，福武敏夫：後頭葉に病変が目立った孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病の剖検時 71 歳女性．第 122 回日本神経病理学会関東地方会（関東臨床神経病理懇話会），東京，2019.8.24
47. 山上　圭，元田敦子，山崎博輝，和泉唯信，村山繁雄：脳幹出血により死亡したギラン・バレー症候群の 70 歳男性例．第 122 回日本神経病理学会関東地方会（関東臨床神経病理懇話会），東京，2019.8.24
48. 織茂賢太，河合三津保，中嶋秀樹，岩田信恵，種井善一，村山繁雄，村井弘之，後藤　順：亜急性の経過で著明な大脳白質病変の進行と microbleeds の増加を認め、脳生検にて脳アミロイドアンギオパチーを伴う髄膜炎症所見を確認した 76 歳男性例．第 230 回日本神経学会関東・甲信越地方会，東京，2019.9.7
49. 小幡真希，松原知康，種井善一，渋川茉莉，本山りえ，広吉祐子，仙石錬平，仁科裕史，古田　光，新井冨生，村山繁雄：死後脳研究ドナー登録者の意識－高齢者ブレインバンク生前同意登録者を対象とした質的研究－．日本心理学会第 83 回大回，大阪，2019.9.11-13
50. 山﨑幹大，仙石錬平，金丸和富，村山繁雄：ロチゴチン貼付で歩行時のふらつきが改善した起立性低血圧を伴うパーキンソン病の 72 歳男性例．第 37 回日本神経治療学会学術集会，横浜，2019.11.5-7
51. 村山繁雄：(Dementia CPC)非流暢性失語で発症した経過 13 年の 77 歳女性剖検例．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
52. 村山繁雄：高齢者タウオパチー．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
53. 村山繁雄：老化に伴う TDP43 蛋白蓄積症．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
54. 金丸和富，金丸晶子，仁科裕史，仙石錬平，村山繁雄：レビー小体型認知症における CSF　　Aβ40 及び Aβ42/40 の検討．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
55. 小幡真希，松原知康，種井善一，河上　緒，渋川茉莉，本山りえ，広吉祐子，仙石錬平，仁科裕史，古田　光，新井冨生，金丸和富，村山繁雄：ブレインバンク生前同意者への質研究～家族性アルツハイマー病患者の語りの一例．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
56. 祖父江　顕，小峯　起，遠藤史人，村山繁雄，齊藤貴志，西道隆臣，山中宏二：アルツハイマー病患者と App^{NL-G-F} マウスにおける神経炎症関連遺伝子解析．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
57. Liu Lixin，宮下哲典，村上涼太，Zhu Bin，原　範和，菊地正隆，月江珠緒，樋口　陽，春日健作，中谷明弘，赤津裕康，柿田明美，村山繁雄，池内　健：ヒト死後脳における APP・APOE の遺伝子発現解析．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京，2019.11.7-9
58. 村山繁雄（特別講演）：成人型核内封入体病の臨床・画像・病理について．最近の知見．第 9 回パーキンソン症候群・認知症の臨床・病理フォーラム，東京，2019.11.20
59. 河上　緒，松原知康，元田敦子，山﨑幹大，種井善一，古田　光，村山繁雄：意味性認知症の一剖検例．第 47 回臨床神経病理懇話会・第 10 回日本神経病理学会中国四国地方会，岡山，2019.11.23-24
60. 島かさ音，種井善一，村上氷尚，松原知康，村山繁雄，和泉唯信：腎移植 26 年後に呼吸抑制で死亡した延髄病変の一例．第 47 回臨床神経病理懇話会・第 10 回日本神経病理学会中国四国地方会，岡山，2019.11.23-24
61. 松原知康，倉重毅志，久保田暁，西野一三，村山繁雄：遺伝子で確認された oculopharyngodistal myopathy の臨床病理学的研究．第 98 回 Neuromuscular Conference（NMC），東京，2019. 12.21
62. 徳田　翔，内野彰子，長谷川一子，齊藤祐子，村山繁雄：MV2K+C 型孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病の 47 歳男性例．第 123 回日本神経病理学会関東地方会（関東臨床神経病理懇話会），東京，2020.1.11
63. 早川美佳，松原知康，望月葉子，竹内千仙，南谷幹之，今井祐之，村山繁雄：学齢期に発症し 40 代まで経過観察しえた SPG11 の臨床病理．第 123 回日本神経病理学会関東地方会（関東臨床神経病理懇話会），東京，2020.1.11
64. 海永光洋，鵜沼　敦，久保田暁，作石かおり，戸田達史，池村雅子，種井善一，松原知康，村山繁雄：Cu/Zn superoxide dismutase (SOD1)遺伝子変異（exon 2, p.His43Arg）を伴う家族性筋萎縮性側索硬化症の，死亡時 53 歳女性の一剖検例．第 123 回日本神経病理学会関東地方会（関東臨床神経病理懇話会），東京，2020.1.11
65. 元田敦子，大矢雅樹，古田　光，　種井善一，河上　緒，村山繁雄：精神症状が目立った早発性アルツハイマー病の 66 歳男性例．第 123 回日本神経病理学会関東地方会（関東臨床神経病理懇話会），東京，2020.1.11

2　誌上発表

(1) 原著

1. Hatsuta H, Takao M, Nogami A, Uchino A, Sumikura H, Takata T, Morimoto S, Kanemaru K, Adachi A, Arai T, Hasegawa M, ★Murayama S: Tau and TDP-43 accumulation of the basal nucleus of Meynert in individuals with cerebral lobar infarcts or hemorrhage. Acta Neuropathologica Communications. 2019; 7: 49. doi.org/10.1186/s40478-019-0700-z.（査読あり）(IF:5.883)
2. Ikegawa M, Nirasawa T, Kakuda N, Miyasaka T, Kuzuhara Y, Murayama S, Ihara Y: Visualization of amyloid beta deposits in the human brain with matrix- assisted laser desorption/ ionization imaging mass spectrometry. J Vis Exp 2019 in press.（査読あり）(IF:0.879)
3. Ishiura H, Shibata S, Yoshimura J, Suzuki Y, Qu W, Doi K, Almansour MA, Kikuchi JK, Taira M, Mitsui J, Takahashi Y, Ichikawa Y, Mano T, Iwata A, Harigaya Y, Matsukawa MK, Matsukawa T, Tanaka M, Shirota Y, Ohtomo R, Kowa H, Date H,

Mitsue A, Hatsuta H, Morimoto S, Murayama S, Shiio Y, Saito Y, Mitsutake A, Kawai M, Sasaki T, Sugiyama Y, Hamada M, Ohtomo G, Terao Y, Nakazato Y, Takeda A, Sakiyama Y, Umeda-Kameyama Y, Shinmi J, Ogata K, Kohno Y, Lim SY, Tan AH, Shimizu J, Goto J, Nishino I, Toda T, Morishita S, Tsuji S: Noncoding CGG repeat expansions in neuronal intranuclear inclusion disease, oculopharyngodistal myopathy and an overlapping disease. Nat Genet 2019, 51:1222-32. (査読あり) (IF:25.455)

4. Kubo A, Misonou H, Matsuyama M, Nomori A, Wada-Kakuda S, Takashima A, Kawata M, Murayama S, Ihara Y, Miyasaka T: Distribution of endogenous normal tau in the mouse brain. J Comp Neurol 2019, 527:985-98. (査読あり) (IF:3.239)
5. Kubo A, Ueda S, Yamane A, Wada-Kakuda S, Narita M, Matsuyama M, Nomori A, Takashima A, Kato T, Onodera O, Goto M, Ito M, Tomiyama T, Mori H, Murayama S, Ihara Y, Misonou H, Miyasaka T: Ectopic expression induces abnormal somatodendritic distribution of tau in the mouse brain. J Neurosci 2019, 39:6781-97. (査読あり) (IF:6.074)
6. Matsuda Y, Nonaka K, Seki A, Kakizaki M, Takakuma S, Hamamatsu A, Wang T, Nakano Y, Takata T, Takahashi-Fujigasaki J, Murayama S, Sawabe M, Arai T: Disseminated varicella zoster virus infection and acute hepatitis: Autopsy-proven cases from a single institute. Pathol Int 2019, 69:378-80. (査読あり) (IF:2.082)
7. Nelson P, Dickson D, Trojanowski J, Jack Jr. C, Boyle P, Arfanakis K, Rademakers R, Alafuzoff I, Attems J, Brayne C, Chui H, Coyle-Gilchrist I, Fardo D, Flanagan M, Halliday G, Hokkanen S, Hunter S, Jicha G, Katsumata Y, Kawas C, Keene C, Kovacs G, Kukull W, Levey A, Makkinejad N, Montine T, Murayama S, Murray M, Nag S, Rissman R, Seeley W, Sperling R, White C, Yu L, Schneider J: Limbic-predominant Age-related TDP-43 Encephalopathy (LATE): Consensus Working Group Report. Brain. 2019; 142: 1503-1527 (査読あり) (IF:11.814)
8. Nonaka K, Matsuda Y, Kakizaki M, Takakuma S, Hamamatsu A, Sakashita Y, Matsubara T, Murayama S, Ishiwata T, Yamanaka N, Itabashi M, Takei T, Nakajima N, Hasegawa H, Arai T: Acute liver failure associated with influenza A virus infection: an autopsy case report. Jpn J Infect Dis 2019 in press. (査読あり) (IF:1.004)
9. Nonaka K, Matsuda Y, Kakizaki M, Takakuma S, Matsubara T, Murayama S, Ishiwata T, Kameyama M, Ogura K, Kobayashi S, Arai T: Occult mucin-producing urothelial-type adenocarcinoma of the prostate with elevated serum levels of carcinoembryonic antigen and carbohydrate antigen 19-9: Report of an autopsy-proven case. Urol Case Rep 2019, 23:6-9.(査読あり) (IF:なし)
10. Saito T, Mihira N, Matsuba Y, Sasaguri H, Hashimoto S, Narasimhan S, Zhang B, Murayama S, Higuchi M, Lee VMY, Trojanowski JQ, Saido TC: Humanization of the entire murine Mapt gene provides a murine model of pathological human tau propagation. J Biol Chem 2019, 294:12754-65.(査読あり) (IF:4.106)
11. Sharma G, Huo A, Kimura T, Shiozawa S, Kobayashi R, Sahara N, Ishibashi M, Ishigaki S, Saito T, Ando K, Murayama S, Hasegawa M, Sobue G, Okano H, Hisanaga SI: Tau isoform expression and phosphorylation in marmoset brains. J Biol Chem 2019, 294:11433-44. (査読あり) (IF:4.106)
12. Tago T, Toyohara J, Harada R, Furumoto S, Okamura N, Kudo Y, Takahashi-Fujigasaki J, Murayama S, Ishii K: Characterization of the binding of tau imaging ligands to melanin-containing cells: putative off-target-binding site. Annals of nuclear medicine 2019, 33:375-82. (査読あり) (IF:1.648)
13. Takahashi Y, Uchino A, Shioya A, Sano T, Matsumoto C, Numata-Uematsu Y, Nagano S, Araki T, Murayama S, Saito Y: Altered immunoreactivity of ErbB4, a causative gene product for ALS19, in the spinal cord of patients with sporadic ALS. Neuropathology 2019, 39:268-78. (査読あり) (IF:2.161)
14. Yu WY, Xu Z, Lee HY, Tokumaru A, Tan JMM, Ng A, Murayama S, Lim CCT: Identifying patients with neuronal intranuclear inclusion disease in Singapore using characteristic diffusion-weighted MR images. Neuroradiology. 2019 Nov; 61(11),1281-1290. (査読あり) (IF:2.504)
15. Matsuda Y, Itabashi M, Tachibana Y, Sugihara T, Sakashita Y, Matsubara T, Murayama S, Yumura W, Shimizu A, Takei T, Arai T: Citrullinated histone H3 expression in anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in older Japanese autopsy patients. Geriatr Gerontol Int 2019;19(3):259-264(査読あり) (IF:2.118)
16. Matsubara T, Oda M, Takahashi T, Watanabe C, Tachiyama Y, Morino H, Kawakami H, Kaji R, Maruyama H, Murayama S, Izumi Y: Amyotrophic lateral sclerosis of long clinical course clinically presenting with progressive muscular atrophy.Neuropathology. 2019 Feb;39(1):47-53. doi: 10.1111/neup.12523. Epub 2018 Dec 3.
17. Kurihara M, Mano T, Saito Y, Murayama S, Toda T, Iwata A: Colocalization of BRCA1 with tau aggregates in human tauopathies. Brain Sciences, 10(1) 2019 Dec 20. Doi:10. 3390/brainsci 10010007.(IF:2.786)
18. Tanaka H, Homma H, Fujita K, Kondo K, Yamada S, Jin X, Waragai M, Ohtomo G, Iwata A, Tagawa K, Atsuta N, Katsuno M, Tomita N, Furukawa K, Saito Y, Saito T, Ichise A, Shibata S, Arai H, Saido T, Sudol M, Muramatsu SI, Okano H, Mufson EJ, Sobue G, Murayama S, Okazawa H: YAP-dependent necrosis occurring in early stages regulates Alzheimer's-like pathology in mice. Nature Comm. 2020 Jan 24;11(1):507. doi: 10.1038/s41467-020-14353-6. (IF:11.878)
19. Fujita K, Matsubara T, Miyamoto R, Sumikura H, Takeuchi T, Maruyama, Saladini K, Kawarai T, Nodera H, Udaka F, Kume K, Morino H, Kawakami H, Hasegawa M, Kaji R, Murayama S, Izumi Y: Co-morbidity of progressive supranuclear palsy and amyotrophic lateral sclerosis: a clinical-pathological case report. BMC Neurol 2019, 19:168.
20. Hongo Y, Iizuka T, Kaneko A, Suga H, Uchino A, Murayama S, Namba K, Inoue Y, Nishiyama K: An autopsy case of MM2-thalamic subtype of sporadic Creutzfeldt-Jakob disease with Lewy bodies presenting as a sleep disorder mimicking anti-IgLON5 disease. J Neurol Sci 2019, 404:36-9.
21. Kurihara M, Koda H, Aono H, Izumi S, Sakurai Y, Sano T, Saito Y, Murayama S, Mori M: Rapidly progressive miliary brain metastasis of lung cancer after EGFR tyrosine kinase inhibitor discontinuation: An autopsy report. Neuropathology. 2019; 39: 147-155
22. Tachibana M, Mohri I, Hirata I, Kuwada A, Kimura-Ohba S, Kagitani-Shimono K, Fushimi H, Inoue T, Shiomi M, Kakuta Y, Takeuchi M, Murayama S, Nakayama M, Ozono K, Taniike M: Clasmatodendrosis is associated with dendritic spines and does not represent autophagic astrocyte death in influenza-associated encephalopathy. Brain & development 2019, 41:85-95.
23. Tago T, Toyohara J, Sengoku R, Murayama S, Ishii K: MAO-B binding of ^{18}F-THK5351 visualized glioblastoma and associated gliosis: an autopsy- confirmed case. Clin Nucl Med. 2019; 44: 507-509

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)
二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

神経画像研究チーム

チームリーダー：石井賢二

研究チームの概要・目的

ポジトロン断層法（PET）を用いて加齢及び高齢者特有の疾患、特に認知症の脳の病態生理を明らかにすること、また、がんの病態を適切に診断するため、これまで開発してきたPET診断法をベースにして新しい診断法を開発することを目的とする。これらの研究を通して認知症の早期診断・病態診断やフレイルの発症機序解明、高齢者がんの病態診断、また様々な介入や治療の効果判定に科学的根拠を与えるなど、センターの重点医療に貢献する。

PET薬剤科学研究テーマでは、主に新規PET薬剤の開発と初期臨床試験と応用、有用な薬剤の導入とそれらの新しい臨床課題への応用、PETデータ解析法の開発等を行なう。

本中期計画では、PETを用いた認知症に関する新たな画像解析手法と放射性薬剤の開発に取り組み、１つ以上の有用な新規放射性薬剤の臨床使用（first-in-human）に到達するほか、放射性薬剤の画像解析法に関する研究を行う。更に、PET薬剤科学研究や診療・治験などを支える基盤研究についても充実させる。

一方、PET画像診断テーマでは、臨床的に有用性が確立されたPET診断法を、センター病院や外部の医療研究機関等と連携し、一般診療への橋渡しになり、かつ直接的に成果が社会に還元されるような研究を担う。

本中期計画では、認知症の超早期診断および発症リスク評価を可能とする画像バイオマーカーを確立する研究を更に進展させる。特にアミロイドイメージングとタウイメージングの実用化研究を継続すると共に、グリアイメージングによる病態評価に取り組む。また、前臨床期での発症予測法を開発するために、健常者の追跡及びバイオリソース蓄積を行う。

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

PET薬剤科学

テーマ	研究目標・目的	2018 年度（平成30年度）	2019 年度（令和元年度）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
放射性薬剤の開発に関する研究	P-gpイメージング剤の開発	MC225前臨床試験	MC225初期臨床試験	MC225再現性	MC225加齢変化	MC225疾患応用
	PET脳血流診断剤の開発	MMP有効性評価	MMPサル試験	MMP前臨床試験	MMP初期臨床試験	MMP定量解析
	HDAC6リガンドの開発	HDAC6リガンド創薬	HDAC6リガンド創薬	HDAC6リガンド有効性	HDAC6リガンド前臨床試験	HDAC6リガンド初期臨床試験
	新規放射性薬剤の開発	ターゲット探索	ターゲット評価	リード化合物	創薬研究	候補化合物同定
画像解析法の開発に関する研究	A2Aイメージング剤のバリデーション	PLN再現性試験	PLN薬物負荷試験	PLN加齢変化	PLN加齢変化	PLN解析法確立
	機械学習による診断支援システムの開発	機械学習開発	機械学習開発	機械学習検証	機械学習検証	機械学習応用
基盤技術の開発に関する研究	JST委託開発	合成装置試験	合成装置試験			
	治験薬製造	FMM製造	FMM製造			
	Tauイメージング剤の導入	MK6240立ち上げ	治験薬MK6240製造			
	小動物イメージング	ADモデルマウス導入	画像解析法の開発			

PET画像診断

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度	2021 年度	2022 年度
(1) 脳の加齢と認知症の早期診断および発症予測法の研究	①画像バイオマーカーの開発	・アミロイドPETの診療有用性検証 ・MK6240 タウ PET 診断導入 ・THK5351 グリア機能診断	・アミロイド PET の診療有用性検証 ・MK6240 タウ PET 診断症蓄積 ・THK5351 グリア機能診断	・アミロイド PET 定量解析意義の検証 ・MK6240 タウ PET 診断蓄積 ・新規グリア機能評価法開発	・アミロイド PET 定量解析意義の検証 ・MK6240 タウ PET 診断解析 ・新規グリア機能評価法開発	・アミロイド PET 定量解析応用 ・MK6240 タウ PET 診断実施 ・グリア機能診断実用化
(1) 脳の加齢と認知症の早期診断および発症予測法の研究	②健常老年者100名の画像追跡	・健常老年者画像追跡 ・縦断的加齢変化の解析	・健常老年者画像追跡 ・縦断的加齢変化の解析	・健常老年者画像追跡 ・認知症・フレイル予測因子検討	・健常老年者画像追跡 ・認知症・フレイル予測因子検討	・健常老年者画像追跡 ・認知症・フレイル予測法の提案
(2) PET診断技術の開発と臨床研究への応用	PET診断技術の開発と臨床研究への応用	・PET 撮像解析技術開発 ・糖代謝と認知機能の関係研究 ・脳神経領域臨床研究への応用				
(3) 大規模臨床研究と治験	認知症克服に向けた多施設・国際研究への参画と診療への橋渡し	・認知症多施設共同研究、国際治験への参画 ・アミロイドイメージング適性使用ガイドライン随時改訂				

PET薬剤科学

構成メンバー

テーマリーダー：豊原潤
研究員：坂田宗之、多胡哲郎
非常勤研究員：三品雅洋、成相直、木村裕一、日浦幹夫、田中浩士、山本由美

1 令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

- 放射性薬剤の開発に関する研究（おおむね順調に進展している）
  1. P-gpｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ剤の開発（おおむね順調に進展している）
  2. PET脳血流診断剤の開発（おおむね順調に進展している）
  3. HDAC6ﾘｶﾞﾝﾄﾞの開発（おおむね順調に進展している）
  4. その他新規放射性薬剤の開発（おおむね順調に進展している）
- 画像解析法の開発に関する研究（やや遅れている）
  1. A_{2A}Rｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ剤のﾊﾞﾘﾃﾞｰｼｮﾝ（やや遅れている）
  2. 機械学習による診断支援ｼｽﾃﾑの開発（やや遅れている）
- 基盤技術の開発に関する研究（おおむね順調に進展している）
  1. JST委託開発（当初の計画以上に進展している）
  2. 治験薬製造（治験薬の開発中止に伴い縮小）
  3. Tauｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ剤の導入（おおむね順調に進展している）
  4. 小動物ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ（おおむね順調に進展している）

【その根拠】

- 放射性薬剤の開発に関する研究
  1. 短寿命放射性薬剤臨床利用委員会（PET薬剤委員会）にて臨床使用承認を得た（平成31年2月5日開催）。認定臨床研究審査委員会にて初期臨床試験（特定臨床研究）の承認を得た（令和元年11月8日）。

2. 安全性試験や委託試験で使用するMMP標準品の合成を終了した。齧歯類での評価に関する論文投稿を実施した。覚醒ｻﾙを用いたPET撮像について委託試験（浜松ﾎﾄﾆｸｽ）を開始した。
3. HDAC6選択的阻害剤であるﾂﾊﾞｽﾀﾁﾝAの放射性標識類縁体2種について論文が受理された（原著論文：10）。HDAC6選択的阻害剤であるSW-100のﾌｯ素化体について、標品と標識前駆体の合成に成功し、銅触媒による^{18}F-化反応が進行することを確認した。
4. 希少糖であるD-alloseの誘導体、3-deoxy-3-[^{18}F]fluoro-D-allose（3-[^{18}F]FDA）と6-deoxy-6- [^{18}F]fluoro-D-allose（6-[^{18}F]FDA）の合成と腎機能ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞに関する論文が受理された（原著論文：5,8）。脳内炎症に関連してCOX-2ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ剤として*p*-[^{11}C]methyl-nimesulideの評価を行った。脳ﾐﾄｺﾝﾄﾞﾘｱ機能ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ剤の導入に向けて浜松ﾎﾄﾆｸｽ株式会社とMTAを締結した（令和元年11月8日）。

- 画像解析法の開発に関する研究
  1. 再現性試験8例の完全ﾃﾞｰﾀを取得した。線条体における$A_{2A}R$計測の再現性は中程度であり、個人差が大きくかつ血中のｶﾌｪｲﾝ濃度に大きく影響を受けることが明らかとなった。
  2. 機械学習による診断支援ｼｽﾃﾑの精度向上のために学習ﾃﾞｰﾀの増強と複数機種のPETｽｷｬﾅで計測されたﾃﾞｰﾀの統合利用について検討中。
- 基盤技術の開発に関する研究
  1. JST委託研究にて開発した合成装置のﾌﾟﾛﾄﾀｲﾌﾟを用いて、ﾈｵﾍﾟﾝﾁﾙ基を有する新規ｱﾐﾛｲﾄﾞｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ剤の合成を行い、目標数値である放射性収率20%、放射化学的純度95%以上を達成した。
  2. 治験薬FMMの製造は対象となるE2609試験が中止となったため、9月末をもって一時中断。次年度BAN2401試験にて製造を再開する。GMP治験薬受託製造施設監査（令和元年11月20-21日）を受けた（重大指摘事項無し）。
  3. 短寿命放射性薬剤臨床利用委員会（PET薬剤委員会）にて臨床使用承認を得た（平成31年2月5日開催）。Cerveau社より製造施設承認を得た（令和元年11月13日）。国立長寿医療研究ｾﾝﾀｰとMTAを締結し、確立した製造法の技術移転を実施する。また、確立した製造法をﾍﾞｰｽに合成用ｶｾｯﾄとﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの商品化を目指して住友重機械工業との共同研究を開始した。
  4. ﾋﾄに近いADﾏｳｽ（tm3ﾏｳｽ）24ヵ月齢での小動物用PETｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞや*in vitro*ｵｰﾄﾗｼﾞｵｸﾞﾗﾌｨｰにて、開発化合物[^{18}F]JST-7のｱﾐﾛｲﾄﾞ病変への結合性評価を実施した。小動物ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞにおける脳画像統計解析についてGroningen大学から技術導入（短期国外研究員招致）する協議を開始した。

2　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜P-gpイメージング剤の開発＞
【センター内】神経画像研究チーム（PET画像診断）、臨床試験管理センター、薬剤科
【センター外】フローニンゲン大学医療センター
＜PET脳血流診断剤の開発＞
【センター外】浜松ホトニクス
＜HDAC6リガンドの開発＞
【センター内】神経画像研究チーム（PET画像診断）
【センター外】東工大、NMPビジネスサポート
＜新規放射性薬剤の開発（COX-2）＞
【センター外】東北医科薬科大学
＜新規放射性薬剤の開発（D-allose）＞
【センター外】秋田脳血管研究センター
＜新規放射性薬剤の開発（ﾐﾄｺﾝﾄﾞﾘｱ）＞
【センター外】浜松ホトニクス
＜A2ARイメージング剤のバリデーション研究＞
【センター内】神経画像研究チーム（PET画像診断）【センター外】福島県立医大、フローニンゲン大学医療センター
＜機械学習による診断支援システム＞
【センター内】神経画像研究チーム（PET画像診断）
＜JST委託開発＞
【センター内】神経画像研究チーム（PET画像診断）【センター外】東京工業大学、NMPビジネスサポート

＜治験薬製造＞
【センター内】神経画像研究チーム（PET画像診断）、臨床試験管理センター、薬剤科
【センター外】GEHC
＜Tauイメージング剤導入＞
【センター内】神経画像研究チーム（PET画像診断）【センター外】Cerveau、住友重機
＜小動物イメージング＞
【センター内】脳神経科学研究チーム（記憶神経科学）
【センター外】理化学研究所、フローニンゲン大学
＜画像再構成に関する研究＞
【センター内】神経画像研究チーム（PET画像診断）【センター外】GEHC

PET画像診断

構成メンバー
テーマリーダー：石井賢二
研究員：石橋賢士、我妻慧
非常勤研究員：織田圭一、鈴木幸久、稲次基希、日野和乃（看護師）、横山きみ子（看護師）、松原一貴（技師）、徳田明日香（技師）、佐藤弘子（事務）

1　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

課題1：脳の加齢と認知症の早期診断および発症予測法の研究

①　画像バイオマーカーの開発
・アミロイドPETのコホート研究への適用　（おおむね順調に進展）
・MK6240タウPET診断臨床導入（やや遅れている）
・グリアイメージング（おおむね順調に進展）
②　健常老年者100名の画像追跡
・追跡データの蓄積（おおむね順調に進展）
・縦断的加齢変化の解析（おおむね順調に進展）

課題2：PET診断技術の開発と臨床研究への応用

・PET撮像技術開発（おおむね順調に進展）
・糖代謝と認知症の関係研究（おおむね順調に進展）
・脳神経領域臨床研究への応用（おおむね順調に進展）

課題3：認知症克服に向けた多施設・国際研究への参画と診療への橋渡し

・多施設共同研究・国際治験参画（おおむね順調に進展）
・アミロイドイメージングガイドライン改訂（保険収載/薬剤承認待機状態）

【その根拠】
課題1：脳の加齢と認知症の早期診断および発症予測法の研究
①　画像バイオマーカーの開発

・アミロイドPETのコホート研究への応用
地域コホート健常老年者41名にアミロイドPETを実施し、陽性率を推定し、興味深い結果を得た。

・MK6240タウPET診断導入
Cerveau社との共同研究契約に基づき、合成を立ち上げ（PET薬剤科学）、製造に関する認証を得た。Cerveau社との臨床研究契約を締結し今年度中に倫理委員会申請を予定。契約と倫理申請準備に時間を要し、今年度中臨床開始見込みがやや遅れる。

・グリアイメージング
THK5351を各種脳疾患に適用し、症例蓄積すると共に3編の論文発表（原著論文3、4、10）を行った。

また、MAO-Bに特異的結合を有する^{11}C-L-deprenylをアスロトサイト機能評価薬として臨床研究を開始した。

② 健常老年者100名の画像追跡

・追跡データの蓄積

272名をエントリー、今年度新たに106件を加え、延べ1613件の画像（3DMRI、FDG-PET）検査実施。10回以上のフォローは89名、新規被験者を追加（25名）。

・縦断的加齢変化の解析

追跡中にMCI due to ADを発症した2例の縦断データを健常者107名9年の縦断データと比較し、FDGによる発症予測可能性について論文発表した（原著論文26)。

課題2：PET診断技術の開発と臨床研究への応用

課題2：PET診断技術の開発と臨床研究への応用

・PET撮像技術開発

GE社との共同研究を行い、開発用画像再構成ツールボックスの提供を受けることができた。最新のPET撮像装置の脳検査に特化した最適画像再構成条件を検討した。

・糖代謝と認知症の関係研究

東京医科大学との共同研究で、糖尿病性認知症におけるタウタンパク病変について検討した結果を論文発表した（誌上発表14）。

・脳神経領域臨床研究への応用

センター内外との共同研究を行い、多数の学会発表、論文発表を行った（原著論文1-26)。

課題3：認知症克服に向けた多施設・国際研究への参画と診療への橋渡し

・多施設共同研究・国際治験参画

AMED関連認知症多施設研究（プレクリニカルAD研究、オレンジレジストリー研究、DIAN-Japan研究、層別化バイオマーカー研究)を実施(原著論文1､13)。疾患修飾薬国際治験(Aducanumab, Elenbecestat, Crenezumab, Ban2401）に参画しアミロイドPET検査を実施した。

・アミロイドイメージングガイドライン改訂

次回の診療報酬改定と疾患修飾薬上市に対応した改定を準備中。

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜認知症画像バイオマーカー研究＞

【センター内】神経画像研究チーム（PET薬剤科学）老年病理学研究チーム（神経病理学)、ブレインバンク、薬剤科、脳卒中科、神経内科、放射線診断科

【センター外】東北大学、東北医薬大学

＜Tauイメージング剤導入＞

【センター内】神経画像研究チーム（PET薬剤科学）

【センター外】Cerveau

＜認知症臨床画像病理連携＞

【センター内】神経科学研究チーム（PET薬剤科学)、老年病理学研究チーム（神経病理学)、ブレインバンク、神経内科、脳卒中科、神経内科、精神科、放射線診断科

＜Na[^{18}F]Fの整形外科領域への応用（TR課題）＞

【センター内】神経科学研究チーム（PET薬剤科学)、整形外科、放射線診断科

＜PETの脳神経外科領域への応用＞

【センター内】神経画像研究チーム（PET薬剤科学）【センター外】東京医歯大学

＜PETの神経内科領域への応用＞

【センター内】神経科学研究チーム（PET薬剤科学）【センター外】日本医科大学、慈恵医科大学

＜PETの神経眼科領域への応用＞

【センター内】神経画像研究チーム（PET薬剤科学）

【センター外】東京医科歯科大学

＜PETの大脳生理学への応用＞

【センター内】神経画像研究チーム（PET薬剤科学）
【センター外】青森大学
＜糖尿病性認知症の研究＞
【センター内】PET薬剤科学
【センター外】東京医科大学
＜NAT（脳波3次元パワー解析）による認知症診断＞
【センター内】神経画像研究チーム（PET薬剤科学）
【センター外】脳機能研究所
＜AMEDﾚｼﾞｽﾄﾘｰ研究＞
【センター内】神経画像研究チーム（PET薬剤科学）自立促進と精神保健研究チーム、社会参加と地域荒木副院長、保健研究チーム
【センター外】国立長寿医療研究センター
＜AMED DIAN-J研究＞
【センター内】神経画像研究チーム（PET薬剤科学）【センター外】大阪市立大学、神戸市立医療センター
＜AMEDﾌﾟﾚｸﾘﾆｶﾙAD研究＞
【センター内】神経画像研究チーム（PET薬剤科学）、老年病理学研究チーム（神経病理学）、ブレインバンク、神経内科、放射線診断科
【センター外】大阪市立大学

論文・学会発表

PET薬剤科学

1 学会発表

(1) 海外

1. Tago T, Toyohara J, Fujimaki R, Hirano K, Iwai K, Ishibashi K, Tanaka H. A simple SPE purification method for ^{18}F-radiolabeleing: Proof-of-concept study in stilbene amyloid-β ligands with a neopentyl labeling group. The 23rd International Symposium on Radiopharmaceutical Sciences 2019, Beijing, 2019.5.26-31.
2. Toyohara J, Sakata M, Tago T, Colabufo N, Luurtsema G. Dosimetry and toxicology of [^{18}F]MC225 for measuring P-glycoprotein function at the blood-brain barrier in humans. The 23rd International Symposium on Radiopharmaceutical Sciences 2019, Beijing, 2019.5.26-31.
3. Mitamura K, Yamamoto Y, Okuda H, Norikane T, Toyohara J, Nishiyama Y. Correlation of ^{11}C-4DST uptake with p16-expression in patients with oropharyngeal squamous cell carcinoma in comparison with ^{18}F-FDG uptake. SNMMI 2019 Annual Meeting, Anaheim, 2019.6.22-25.
4. Kameyama M, Ishibashi K, Toyohara J, Ishii K. The white matter reference region used in amyloid PET is susceptible to flow and input function fluctuation: a consideration of kinetics. The 29th International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function/The 14th International Conference on Quantification of Bain Function with PET, Yokohama, 2019.7.4-7.
5. Sakata M, Wagatsuma K, Hirayama A, Kawakami H, Toyohara J, Ishii K. Edge artifacts attributable to point spread function correction included in regularized reconstruction for brain PET imaging. The 29th International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function/The 14th International Conference on Quantification of Bain Function with PET, Yokohama, 2019.7.4-7.
6. Hiura M, Nariai T, Sakata M, Muta A, Ishibashi K, Wagatsuma K, Tago T, Toyohara J, Ishii K, Katayama Y. Alterations in cerebral blood flow evoked by dynamic exercise in post-stroke patients implies a mechanism for cerebral auto-regulation: a PET study. The 29th International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function/The 14th International Conference on Quantification of Bain Function with PET, Yokohama, 2019.7.4-7.
7. Toyohara J, Yamamoto H, Tago T, Ibaraki M, Kinoshita T, Ishii K. Biological evaluations of fluorine-18 labeled D-allose. World Molecular Imaging Congress, Montreal, 2019.9.4-7.
8. Garcia Varle L, Arif WM, Garcia Vallez D, Kakiuchi T, Ohba H, Nishiyama S, Tago T, Elsinga PH, Tsukada H, Colabufo NA, Dierckx RAJO, van Waarde A, Toyohara J, Boellaard R, Luurtsema G. Pharmacokinetic modeling of P-glycoprotein function at the blood-brain barrier with [^{18}F]MC225 in non-human primates. Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine, Barcelona, 2019.10.12-16.
9. Sakata M, Wagatsuma K, Tago T, Ishibashi K, Ishii K, Ishiwata K, Toyohara J. Test-retest reliability of adenosine A_{2A} binding in the human brain with ^{11}C-preladenant PET. Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine, Barcelona, 2019.10.12-16.
10. Toyohara J, Tago T, Nishino K, Sakai M, Ishii K. Fully automated radiosynthesis of [^{18}F]MK-6240 for clinical use.

Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine, Barcelona, 2019.10.12-16.

11. Ishibashi K, Tago T, Wagatsuma K, Sakata M, Toyohara J, Ishii K. Cerebral type 1 metabotropic glutamate receptor availability in early Alzheimer's disease. Neuroscience 2019, Chicago, USA, 2019.10.19-23.
12. Yokota Y, Kawai K, Sakata M, Kimura Y, Hontani H. Dynamic PET image reconstruction using nonnegative matrix factorization incorporated with deep image prior. International Conference on Computer Vision 2019 (ICCV2019), Seoul, Korea, 2019.10.27-11.02.

(2) 国内

1. 豊原潤. PET薬剤の製造および試験検査の基礎. 第19回日本核医学会春季大会, 東京, 2019.4.27-28.
2. 豊原潤. 医学・医療研究を支えるPET薬剤の開発. TOBIRA第8回研究交流フォーラム, 東京, 2019.5.10.
3. 多胡哲郎, 豊原潤, 藤牧諒, 平野圭市, 岩井久美子, 田中浩士. ^{18}F-標識PETプローブ合成のための簡便な固相抽出精製法の開発. TOBIRA第8回研究交流フォーラム, 東京, 2019.5.10.
4. Song Ruichong, 多胡哲郎, 藤牧諒, 龍田真帆, 豊原潤, 平野圭市, 岩井久美子, 田中浩士. ネオペンチル標識基を用いるスチリルピリジン型Aβ PETトレーサーの合成研究. 第77回有機合成化学協会関東支部シンポジウム, 横浜, 2019.5.18.
5. 石橋賢士, 三浦義治, 亀山征史, 多胡哲郎, 豊原潤, 石井賢二. ^{18}F-THK5351 PET can identify Wallerian degeneration of the pyramidal tract in a post-stroke patient. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019.5.22-25.
6. 豊原潤, 山本浩之, 多胡哲郎, 茨木正信, 木下俊文. 放射性フッ素-18標識希少糖の生物学的評価. 第14回日本分子イメージング学会総会・学術集会, 札幌, 2019.5.23-24.
7. 多胡哲郎, 豊原潤, 石井賢二. HDAC6イメージングを目的とした^{18}F-標識ツバスタチンA類縁体の標識合成と生物学的評価. 第14回日本分子イメージング学会総会・学術集会, 札幌, 2019.5.23-24.
8. 多胡哲郎. アルツハイマー病イメージングのためのPETプローブ開発. 第35回都市高齢者の健康長寿医療研究会, 東京, 2019.6.20.
9. 坂田宗之. 脳PET画像解析・動態解析の実際. PETサマーセミナー2019 in 福島, 2019.8.23-25.
10. 下村智茂, 河合和也, 坂田宗之, 木村裕一. 横田達也, 本谷秀堅. Deep Image Prior を利用した非負行列分解に基づくダイナミックPET画像再構成. 医用画像研究会(MI), 岡山, 2019.9.4-5.
11. 林志保里, 稲次基希, 成相直, 我妻慧, 坂田宗之, 石井賢二, 前原健寿. SPM 統計解析を用いた18F-FDG PET による内側側頭葉てんかんの焦点側診断. 第78回日本脳神経外科学会, 大阪, 2019.10.09-12.
12. Song Ruichong, 多胡哲郎, 藤牧諒, 龍田真帆, 岩井久美子, 平野圭市, 石橋賢士, 豊原潤, 田中浩士. ネオペンチル標識基を用いるスチリルピリジン型Aβ PETトレーサーの合成研究. 第9回CSJ化学フェスタ2019、東京、2019.10.15-17.
13. 林志保里, 稲次基希, 成相直, 我妻慧, 坂田宗之, 石井賢二, 前原健寿. 18F-FDG PET を用いた内側側頭葉てんかんの焦点側診断におけるSPM 統計解析, 第53回日本てんかん学会学術総会, 神戸, 2019.10.31-11.02.
14. 徳田明日香, 田中美香, 多胡哲郎, 石橋賢士, 我妻慧, 坂田宗之, 井上一雅, 福士政広, 豊原潤, 石井賢二. Off-target binding を有するアミロイド・タウPETトレーサーのための特異的集積量推定法. 第59回日本核医学会学術総会, 松山, 2019.11.1-3.
15. 亀山征史, 石橋賢士, 我妻慧, 豊原潤, 石井賢二. [^{18}F]florbetapir PETにおける白質参照領域の優位性の源泉. 第59回日本核医学会学術総会, 松山, 2019.11.1-3.
16. 豊原潤, 多胡哲郎, 西野浩輔, 酒井昌成, 石井賢二. 臨床使用を目的とした[^{18}F]MK-6240の自動合成とバリデーション. 第59回日本核医学会学術総会, 松山, 2019.11.1-3.
17. 安賀文俊, 山本由佳, 三田村克哉, 豊原潤, 西山佳宏. 高悪性度神経膠腫再発における4DSTの取り込み：治療誘発性壊死との比較. 第59回日本核医学会学術総会, 松山, 2019.11.1-3.
18. 多胡哲郎, 豊原潤, 龍田真帆, Song Ruichong, 平野圭一, 岩井久美子, 石橋賢士, 田中浩士. SPE精製による^{18}F-標識ネオペンチルスチルベンアミロイドβリガンドの合成. 第59回日本核医学会学術総会, 松山, 2019.11.1-3.
19. 石橋賢士, 多胡哲郎, 我妻慧, 坂田宗之, 豊原潤, 石井賢二. 早期アルツハイマー病における代謝型グルタミン酸受容体１型. 第59回日本核医学会学術総会, 松山, 2019.11.1-3.
20. 坂田宗之, 我妻慧, 多胡哲郎, 石橋賢士, 石井賢二, 石渡喜一, 豊原潤. ^{11}C-preladenantを用いたアデノシンA_{2A}受容体定量測定の再現性検討. 第59回日本核医学会学術総会, 松山, 2019.11.1-3.
21. 多胡哲朗. F-18. PET化学ワークショップ2020, 葉山, 2020.2.7-9
22. 多胡哲朗. ネオペンチル基を使用した^{18}F-標識合成における基礎的検討. PET化学ワークショップ2020, 葉山, 2020.2.7-9
23. 豊原潤. [^{18}F]MC225特定臨床研究への道. PET化学ワークショップ2020, 葉山, 2020.2.7-9
24. 多胡哲朗, 豊原潤, 龍田真帆, ソウエイソウ, 平野佳市, 岩井久美子, 石橋賢士, 田中浩士. 18F-標識ネオペンチルスチルベンアミロイドPETプローブの固相抽出精製による合成. 日本薬学会140年会, 京都, 2020.3.25-28 (web開催)
25. ソウエイソウ, 多胡哲朗, 豊原潤, 田中浩士. フッ化物イオンの求核置換反応を用いる18F-標識化において生じる副生成物に関する研究. 日本化学会第100春季年会, 千葉, 2020.3.22-25 (web開催)

2 誌上発表

(1) 原著

1. ◎Tago T, ★Toyohara J, Harada R, Furumoto S, Okamura N, Kudo Y, Takahashi-Fujigasaki J, Murayama S, Ishii K. Characterization of the binding tau imaging ligands to melanin-containing cells: putative off-target-binding site. Ann Nucl Med. 33(6), 375-382, 2019.(査読あり),(IF = 1.648, 2018)
2. Wagatsuma K, Ishiwata K, Nobuhara F, Koumura I, Kunugi M, Oda K, Miwa K, Toyohara J, Ishii K. Pre-discarded estimation of radioactivated materials in positron emission tomography cyclotron systems and concrete walls of a cyclotron vault. Med Phys. 46(5), 2457-2467, 2019.(査読あり), (IF = 3.177, 2018)
3. Ishibashi K, Miura Y, Toyohara J, Ishiwata K, Ishii K. Unchanged type 1 metabotropic glutamate receptor availability in patients with Alzheimer's disease: a study using ^{11}C-ITMM positron emission tomography. Neurimage Clin. 22, 101783, 2019. (査読有り) (IF = 3.943, 2018)
4. ◎Tago T, ★Toyohara J, Sengoku R, Murayama S, Ishii K. Monoamine oxidase B binding of ^{18}F-THK5351 to visualize gliob;astoma and associated gliosis: an autopsy-confirmed case. Clin Nucl Med, 44(6), 507-509, 2019. (査読有り) (IF = 6.498, 2018)

5. Yamamoto H, Wada K, Toyohara J, Tago T, Ibaraki M, Kinoshita T, Yamamoto Y, Nishiyama Y, Kudomi N. Radiosynthesis of ^{18}F-labeled D-allose. Carbohydr Res. 486, 107827, 2019. (査読あり) (IF = 1.873, 2018)
6. Fukuda Y, Yamamoto Y, Mitamura K, Ishikawa R, Asano E, Toyohara J, Norikane T, Nishiyama Y. 4'-[methyl-^{11}C]-thiothymidine as a proliferation imaging tracer for detection of colorectal cancer: comparison with [^{18}F]FDG. Ann Nucl Med. 33(11), 822-827, 2019. (査読あり),(IF = 1.648, 2018)
7. Kameyama M, Ishibashi K, Wagastuma K, Toyohara J, Ishii K, A pitfall of white matter reference regions used in [^{18}F]florbetapir PET: a consideration of kinetics. Ann Nucl Med. 33(11), 848-854, 2019.(査読あり),(IF = 1.648, 2018)
8. ◎★Toyohara J, Yamamoto H, Tago T. Searching for diagnostic properties of novel fluorine-18-labeled D-allose. Ann Nucl Med. 33(11), 855-865, 2019.(査読あり),(IF = 1.648, 2018)
9. Ishibashi K, Mirura Y, Hirata K, Toyohara J, Ishii K. ^{18}F-THK5351 PET can identify astrogliosis in multiple sclerosis plaques. Clin Nucl Med. 2020;45(2):e98-e100. (査読有り) (IF = 6.498, 2018)
10. ◎Tago T, ★Toyohara J, Ishii K. Radiosynthesis and preliminary evaluation of an 18F-labeled Tubastatin A analogue for PET imaging of histone deacetylase 6. J Labelled Comp Radipharm. 2020;63(2):85-95. (査読有り) (IF = 1.291, 2018)
11. Imai M, Tanaka M, Sakata M, Wagatsuma K, Tago T, Toyohara J, Sengoku R, Nishina Y, Kanemaru K, Ishibashi K, Maruyama S, Ishii K. Metabolic network topology of Alzheimer's disease and dementia with Lewy bodies generated using fluorodeoxyglucose positron emission tomography. J Alzheimers Dis. 2020;73(1):197-207. (査読有り) (IF = 3.517, 2018)
12. Ryu Y, Maekawa T, Yoshino D, Sakitani N, Takashima A, Inoue T, Suzurikawa J, Toyohara J, Tago T, Makuuchi M, Fujita N, Sawada K, Murase S, Watanabe M, Hirai H, Sakai T, Yoshikawa Y, Ogata T, Shinohara M, Nagao M, Sawada Y. Mechanical regulation underlies effects of exercise on serotonin-induced signaling in the prefrontal cortex neurons. iScience. 2020;23(2):100874. (査読有り) (IF = 未算出)

3 著書等

1. 坂田宗之, 我妻慧. PETの計測原理と臨床応用. 計測と制御 2019;58(7):504-8. (査読なし)
2. 坂田宗之. AIとPETを用いた認知症画像診断. 老年精神医学雑誌. 2020;31(1):16-22. (査読無し)

PET画像診断

1 学会発表

(1) 海外

1. Yamao T, Miwa K, Akamatsu G, Wagatsuama K, Matsuda H. Standard expression of ^{18}F-THK5351 PET imaging with Centiloid scale. The 13th Asia Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology, Shaghai, Chaina, 2019.5.9-12.
2. Tago T, Toyohara J, Fujimaki R, Hirano K, Iwai K, Ishibashi K, Tanaka H. A simple SPE purification method for ^{18}F-radiolabeleing: Proof-of-concept study in stilbene amyloid-β ligands with a neopentyl labeling group. The 23rd International Symposium on Radiopharmaceutical Sciences 2019, Beijing, 2019.5.26-31.
3. Wagatsuma K, Sakata M, Ishibashi K, Hirayama A, Kawakami H, Miwa K, Ishii K. Direct comparison between SiPM- and PMT-PET/CT in [^{18}F]FDG brain imaging. 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, Anaheim, USA, 2019.6.22-25.
4. Miwa K, Hotta M, Wagatsuma K, Kudo Y, Kamitaka Y, Hiratsuka S, Yamao T, Minamimoto R. Texture analysis of ^{11}C-methionine PET images can distinguish recurrent brain tumors from radiation necrosis. 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, Anaheim, USA, 2019.6.22-25.
5. Yamao T, Miwa K, Matsuda H, Akamatsu G, Wagatsuma K, Takino H. Feasibility of ^{18}F-THK5351 PET quantitation using the Centiloid scale. 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, Anaheim, USA, 2019.6.22-25.
6. Miyaji N, Iimori T, Miwa K, Tsushima H, Yokotsuka N, Wagatsuma K. Determination of a reliable assessment of radiation doses to the eye lens in nuclear medicine. 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, Anaheim, USA, 2019.6.22-25.
7. Hiratsuka S, Miwa K, Wagatsuama K. Evaluation of smart metal artifact reduction on CT images in ^{18}F-NaF PET/CT: effects on the accuracy of SUV for tissue around an artificial knee joint. 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, Anaheim, USA, 2019.6.22-25.
8. Wagatsuma K, Sakata M, Ishibashi K, Miwa K, Ishii K. Quantitative validation of standardized uptake value ratio derived from [^{18}F]Florbetapir images acquired over a short duration. Brain & `Brain PET 2019, Yokohama, 2019.7.4-7.
9. Sakata M, Wagatsuma K, Hirayama A, Kawakami H, Toyohara J, Ishii K. Edge artifacts attributable to point spread function correction included in regularized reconstruction for brain PET imaging. Brain & Brain PET 2019, Yokohama, 2019.7.4-7.
10. Hayashi S, Inaji M, Nariai T, Wagatsuma K, Sakata M, Ishii K, Maehara T. SPM statistical analysis in focus side diagnosis of temporal lobe epilepsy with PET. Brain & Brain PET 2019, Yokohama, 2019.7.4-7.
11. Hiura M, Nariai T, Sakata M, Muta A, Ishibashi K, Wagatsuma K, Tago T, Toyohara J, Ishii K, Katayama Y. Alterations in cerebral blood flow evoked by dynamic exercise in post-stroke patients implies a mechanism for cerebral autoregulation: a PET study. Brain & Brain PET 2019, Yokohama, 2019.7.4-7.

12. Hanyu H, Takenoshita N, Shimizu S, Sakurai H, Ishii K. Classification of clinically diagnosed Alzheimer's disease associated with diabetes based on amyloid and tau PET. Alzheimer's Association International Conference 2019, Los Angeles, 2019.7.14-18.
13. Nakamura A, Kaneko N, Kato T, Ishii K, Ishii K, Arahata Y, Iwamoto S, Ito K, Tanaka K, Hon D, Yanagisawa K. What kind of information does the plasma amyloid-ß biomarker tell us? Alzheimer's Association International Conference 2019, Los Angeles, 2019.7.14-18.
14. Toyohara J, Yamamoto H, Tago T, Ibaraki M, Kinoshita T, Ishii K. Biological evaluations of fluorine-18 labeled D-allose. World Molecular Imaging Congress, Montreal, 2019.9.4-7.
15. Mishina M, Suzuki M, Ishii K, Sakata M, Wagatsuma K, Ishibashi K, Toyohara J, Zhang MR, Kimura K, IshiwataK: Relationship between symptoms and regional density of metabotropic glutamate receptors subtype 1 measured with ^{11}C-ITMM PET in de novo Parkinson's disease. The MDS International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders 2019, Sept 22 - 26, 2019, Nice
16. Wagatsuma K, Sakata M, Ishibashi K, Miwa K, Kojima N, Osuka Y, Kim HK, Ishii K. Acquisition period of amyloid PET imaging using [^{18}F]Florbetapir can be shortened without altering standardized uptake value ratios. EANM'19, Barcelona, 2019.10.12-16.
17. Yoshii T, Miwa K, Wagatsuma K, Yamaguchi M, Suga M, Kamitaka Yamao T, Hiratsuka S. Optimization of image reconstruction for rapid image acquisition by ^{18}F-NaF bone PET: Comparison of OSEM and Bayesian penalized likelihood algorithms. EANM'19, Barcelona, 2019.10.12-16.
18. Toyohara J, Tago T, Nishino K, Sakai M, Ishii K. Fully automated radiosynthesis of [^{18}F]MK-6240 for clinical use. EANM'19, Barcelona, 2019.10.12-16.
19. Sakata M, Wagatsuma K, Tago T, Ishibashi K, Ishii K, Ishiwata K, Toyohara J. Test-retest reliability of adenosine A2A binding in the human brain with ^{11}C-preladenant PET. EANM'19, Barcelona, 2019.10.12-16.
20. Kenji Ishibashi, Tetsuro Tago, Kei Wagatsuma, Muneyuki Sakata, Jun Toyohara, Kenji Ishii. Cerebral type 1 metabotropic glutamate receptor availability in early Alzheimer's disease. Neuroscience 2019. Society for Neuroscience. Chicago, USA. 2019.1019-23.

(2) 国内

1. 石井賢二：アミロイド・タウPETの最新情報. 日本脳神経核医学研究会脳PETワークショップ. 横浜、2019.4.12
2. 石井賢二:アルツハイマー病画像診断の展望.より早期の治療と予防に向けて.第78回日本医学放射線学会総会.横浜、2019.4.12
3. 山尾天翔, 三輪建太, 赤松剛, 我妻慧, 松田博史. ^{18}F-THK5351 タウ PET における Centiloid scale を用いた定量方法の検討, 第 75 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2019.4.12-15.
4. 石井賢二：Florbetapirアミロイドイメージングの意義、使用ガイドライン. 第18回日本核医学会春季大会、東京、2019.4.27
5. 石井賢二：Flutemetamolアミロイドイメージングの意義、使用ガイドライン. 第18回日本核医学会春季大会、東京、2019.4.27
6. 石井賢二：Florbetabenアミロイドイメージングの意義、使用ガイドライン. 第18回日本核医学会春季大会、東京、2019.4.28
7. 石井賢二：脳腫瘍・てんかん・認知症. 第17回日本核医学会春季大会、東京、2019.4.28
8. 石井賢二：先端の画像診断技術でわかった認知症の脳内変化. 第30回日本医学会総会2019 in 中部（市民公開講座）、名古屋、2019.4.29
9. 渋川茉莉, 仙石錬平, 松原知康, 石井賢二, 徳丸阿耶, 金丸和富, 村山繁雄：歩行時ふらつきと易転倒性で発症した83歳女性ブレインバンク生前同意登録例、第60回日本神経学会学術大会、大阪、2019.5.22-25
10. 鈴木一詩, 井原涼子, 岩田淳, 岩坪威, 石井賢二, 池内健, 桑野良三, Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative: CSF biomarkers in J-ADNI: diagnostic accuracy in AD and predictability of cognitive decline in MCI. 第60回日本神経学会学術大会、大阪、2019.5.22-25
11. 羽生春夫, 竹野下尚仁, 清水聰一郎, 平尾健太郎, 櫻井博文, 石井賢二：Classification of clinically diagnosed AD associated with diabetes based on amyloid and tau PET. 第60回日本神経学会学術大会、大阪、2019.5.22-25
12. 石橋賢士, 三浦義治, 亀山征史, 多胡哲郎, 豊原潤, 石井賢二：^{18}F-THK5351 PET can identify Wallerian degeneration of the pyramidal tract in a post-stroke patient. 第60回日本神経学会学術大会、大阪、2019.5.22-25
13. 多胡哲郎, 豊原潤, 石井賢二：HDAC6イメージングを目的とした^{18}F-標識ツバスタチンA類縁体の標識合成と生物学的評価. 第14回日本分子イメージング学会総会・学術集会、札幌、2019.5.23-24
14. 我妻慧：学術研究論文を読むための基礎講座～研究活動のススメ～. 国立病院関東甲信越放射線技師会「第52回学術研究会」, 東京, 2019.05.25.
15. 石井賢二：認知症診断医おける画像診断の位置付け-核医学診断を中心に-. 青森県核医学研究会、弘前市、2019.7.6
16. 石井賢二：認知症診療における核医学診断の役割. 長崎ニューロイメージングカンファレンス、長崎、2019.6.17
17. 我妻慧：アミロイド・タウPETにおける撮像技術. PETサマーセミナー2019 in 福島, 福島, 2019.08.23-25.
18. 鈴木幸久、清澤源弘、石井賢二. 同名半盲患者における視覚の改善予測. 第57回日本神経眼科学会総会、札幌、2019.10.5
19. 住友沙織、鈴木幸久、清澤源弘、若倉雅登、大野京子、石井賢二. 自覚的視野狭窄を呈した症例の脳糖代謝分布. 第57回日本神経眼科学会総会、札幌、2019.10.4
20. 林志保里, 稲次基希, 成相直, 我妻慧, 坂田宗之, 石井賢二, 前原健寿. SPM 統計解析を用いた18F-FDG PET による内側側頭葉てんかんの焦点側診断. 第78回日本脳神経外科学会, 大阪, 2019.10.09-12.
21. ソウエイソウ, 多胡哲郎, 藤牧諒, 龍田真帆, 岩井久美子, 平野圭市, 石橋賢士, 豊原潤, 田中浩士：ネオペンチル標識基を用いるスチリルピリジン型AβPETトレーサーの合成研究. 第9回CSJ化学フェスタ2019、東京、2019.10.15-17
22. 渡邉ゆり、田中美枝子、小林洋平、佐野明子、石井賢二、朝田隆、八木透、小杉幸夫：脳波の平均周波数と3重相関値によるアルツハイマー型認知症の解析. 第9回日本認知症予防学会学術集会、名古屋市、2019.10.18-20
23. 林志保里, 稲次基希, 成相直, 我妻慧, 坂田宗之, 石井賢二, 前原健寿. ^{18}F-FDG PET を用いた内側側頭葉てんかんの焦点側診断における SPM 統計解析, 第 53 回日本てんかん学会学術総会, 神戸, 2019.10.31-11.02.

24. 石井賢二：ＰＥＴによる認知症画像診断の展望. シンポジウム 16 認知症診断における画像診断の最前線、第 9 回日本認知症予防学会学術集会、名古屋市、2019.10.18-20
25. 豊原潤、多胡哲郎、西野浩輔、酒井昌成、石井賢二. 臨床使用を目的とした[^{18}F]MK-6240の自動合成とバリデーション. 第59回日本核医学会学術総会、松山市、2019年11月1-3日
26. 石橋賢士、多胡哲郎、我妻慧、坂田宗之、豊原潤、石井賢二：早期アツルハイマー病おける代謝型グルタミン酸受容体1型、第59回日本核医学会学術総会、松山市、2019年11月1-3日
27. 石井賢二:[^{18}F]標識Florbetapir, Flutemetamol, Florbetabenを用いたアミロイドPET.第59回日本核医学会学術総会、松山市、2019年11月1-3日
28. 岡田佑介、加藤隆司、木村泰之、中村昭範、服部英幸、外山宏、石井一成、石井賢二、千田道雄、伊藤健吾、岩坪威. The effect of APOE4 to the amyloid PET positive rate: A J-ADNI Study. 第59回日本核医学会学術総会、松山市、2019年11月1-3日
29. 竹中章倫、岡田佑介、岩田香織、加藤隆司、木村泰之、中村昭範、石井一成、石井賢二、千田道雄、伊藤健吾、岩坪威. MRI、FDG画像で解剖学的標準化する方法とCapAIBLとのアミロイドPET SUVR値の比較検討. 第59回日本核医学会学術総会、松山市、2019年11月1-3日
30. 坂田宗之、我妻慧、多胡哲郎、石橋賢士、石井賢二、石渡喜一、豊原潤. ^{11}C-preladenantを用いたアデノシンA_{2A}受容体定量測定の再現性検討. 第59回日本核医学会学術総会、松山市、2019年11月1-3日
31. 多胡哲郎、豊原潤、龍田真帆、ソウエイソウ、平野圭一、岩井久美子、石橋賢士、田中浩士. SPE生成による18F-標識ネオペンチルスチルベンアミロイドβリガンドの合成. 第59回日本核医学会学術総会、松山市、2019年11月1-3日
32. 徳田明日香、田中美香、多胡哲郎、石橋賢士、我妻慧、坂田宗之、井上一雅、福士政広、豊原潤、石井賢二. Off-target bindingを有するアミロイド・タウPETトレーサーのための特異集積量推定法. 第59回日本核医学会学術総会、松山市、2019年11月1-3日
33. 亀山征史、石橋賢士、豊原潤、石井賢二. [^{18}F]florbetapir PETにおける白質参照領域の優位性の源泉. 第59回日本核医学会学術総会、松山市、2019年11月1-3日
34. 宮司典明, 飯森隆志, 對間博之, 横塚記代, 我妻慧, 三輪建太, 村田泰輔, 笠原哲治. 班報告.核医学領域における水晶体被ばくの実態に関する基礎検討, 第 47 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 大阪, 2019.10. 17-19.
35. 山尾天翔, 三輪建太, 我妻慧, 安保哉太, 松田博史. [^{11}C]PiB アミロイド PET と[^{18}F]THK5351 タウ PET に対する Centiloid scale による定量的比較. 第 39 回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019.11.1-3.
36. 吉井斗輝也, 三輪建太, 宮司典明, 我妻慧, 山尾天翔. Bayesian Penalized Likelihood 画像再構成法における定量精度の機種依存性. 第 39 回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019.11.1-3.
37. 我妻慧, 石橋賢士, 三輪建太, 坂田宗之, 石井賢二. 異なる PET 装置におけるアミロイド PET の短時間収集の可能性. 第 39 回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019.11.1-3.
38. 我妻慧. SiPM-PET.CT 装置『Discovery MI』の臨床的な有用性. 第 39 回日本核医学技術学会総会学術大会, 松山, 2019.11.1-3.
39. 長谷川智之、岡本美桜、高橋健太郎、宮武比呂樹、菊池敬、井上優介、織田圭一、我妻慧、和田康弘. アクリル吸収体 Ge-68/Ga-68 タイプトレーサブル点状線源を用いる定量性・校正定数評価法の開発状況報告. 第 59 回日本核医学会学術総会、松山市、2019 年 11 月 1-3 日
40. 石井賢二：アミロイド・タウ PET の現状と展望. プレナリーレクチャー9、第 38 回日本認知症学会学術集会、東京、2019.11.7-9
41. 竹野下尚仁、石井賢二、羽生春夫. アミロイド・タウ PET を用いた糖尿病を伴う認知症の病型分類. シンポジウム 2 糖代謝異常と認知症、第 38 回日本認知症学会学術集会、東京、2019.11.7-9
42. 岡田佑介、岩田香織、木村泰之、中村昭範、服部英幸、外山宏、石井一成、石井賢二、千田道雄、伊藤健吾、岩坪威、Japanese Alzheimer’s Disease Neuroimaging Initiative. The effect of APOE4 to the amyloid dynamics and positivity rate: A J-ADNI Study. 第 38 回日本認知症学会学術集会、東京、2019.11.7-9
43. 竹中章倫、岡田佑介、岩田香織、加藤隆司、木村泰之、中村昭範、外山宏、石井一成、石井賢二、千田道雄、伊藤健吾、岩坪威. 当施設で開発した PiB PET 皮質平均 SUVR 値の算出法と CapAIBL との互換性の検討. 第 38 回日本認知症学会学術集会、東京、2019.11.7-9
44. 田中美枝子、石井賢二、佐野明子、小林洋平、朝田隆. PET 所見が悪化し始める認知機能正常者は脳波にも変化の兆候が見られるか. 第 38 回日本認知症学会学術集会、東京、2019.11.7-9
45. 我妻慧, 石橋賢士, 坂田宗之, 多胡哲郎, 豊原潤, 石井賢二. アミロイド陽電子断層撮像（PET）の臨床使用へ向けた撮像条件の検討, 首都大バイオコンファレンス 2019, 八王子, 2018.11.15
46. 安保哉太, 三輪建太, 山尾天翔, 我妻慧, 吉井斗輝也, 久保田珠央. てんかん焦点検索の ^{18}F-FDG PET に対する BPL 画像再構成法が統計学的画像解析に与える影響. 日本放射線技術学会第 66 回関東支部研究発表大会, 千葉, 2019.11.16-17.
47. 石井賢二. アミロイド PET で認知症診療はどう変わるか. 第 24 回信州脳循環代謝カンファレンス. 長野、2019.11.16
48. 吉井斗輝也, 三輪建太, 我妻慧, 山口将司, 安保哉太, 久保田珠央. ^{18}F-NaF 骨 PET 検査における Bayesian penalized likelihood 再構成法の最適化. 日本放射線技術学会第 66 回関東支部研究発表大会, 千葉, 2019.11.16-17.
49. 石井賢二. バイオマーカー診断による認知症診療の向上. Dementia Expert Meeting 2017. 東京、2019.11.23
50. 我妻慧. 明日からはじめるための認知症 PET 検査技術. 第 15 回 21 世紀山口核医学セミナー, 宇部, 2020.02.06.

2 誌上発表

(1) 原著

1. Hara S, Hori M, Ueda R, Hayashi S, Inaji M, Tanaka Y, Maehara T, Ishii K, Aoki S, Nariai T. Unraveling Specific Brain Microstructural Damage in Moyamoya Disease Using Diffusion Magnetic Resonance Imaging and Positron Emission Tomography. J Stroke Cerebrovasc Dis. 2019 April; 28(4): 1113-1125 (査読あり), (IF = 1.646)
2. Tago T, Toyohara J, Harada R, Furumoto S, Okamura N, Kudo Y, Takahashi-Fujigasaki J, Murayama S, Ishii K. Characterization of the binding of tau imaging ligands to melanine-containing cells: putative off-target-binding site. Ann. Nucl. Med. 2019 Jun; 33(6):375-382. (査読あり) (IF = 1.656)
3. Tago T, Toyohara J, Sengoku R, Murayama Y, Ishii K. MAO-B binding of ^{18}F-THK5351 to visualize glioblastoma and

associated gliosis: an autopsy-confirmed case. Cln. Nucl. Med. 2019Jun;55(6):507-509 (査読あり) (IF = 6.309)

4. ★◎Wagatsuma K, Ishiwata K, Nobuhara F, Koumura I, Kunugi M, Oda K, Miwa K, Toyohara J, Ishii K. Pre-discard estimation of radioactivated materials in PET cyclotron systems and concrete walls of a cyclotron vault. Med Phy.2019 May;46(5)2457-2467. (査読あり) (IF = 2.884)
5. Kaneko S, Kanetaka M, Wagatsuma K, Ishii K, Anamizu Y, Tokimura F, Miyazaki T. NaF PET assessment of bone metabolic changes around the femoral canal by intramedullary femoral alignment technique in total knee arthroplasty. Clin Case Rep. 2019;7(6):1211-14. (査読あり) (IFなし)
6. ★◎Ishibashi K, Kameyama M, Ishii K; J-ADNI Study Group. Brain ^{18}F-FDG distribution: which region is most affected by increased plasma glucose levels? Ann Nucl Med. 2019 Apr;33(4):303-304. (査読あり)(IF = 1.648)
7. Hashimoto S, Inaji M, Nariai T, Kobayashi D, Sanjo N, Yokota T, Ishii K, Taketoshi M. Usefulness of [^{11}C] Methionine PET in the Differentiation of Tumefactive Multiple Sclerosis from High Grade Astrocytoma. Neurol Med Chir (Tokyo). 2019 May 15;59(5):176-183. (査読あり), (IF = 1.651, 2018)
8. ★◎Ishibashi K, Miura Y, Toyohara J, Ishiwata K, Ishii K. Unchanged type 1 metabotropic glutamate receptor availability in patients with Alzheimer's disease: A study using ^{11}C-ITMM positron emission tomography. Neuroimage Clin. 2019. 22:101783. doi: 10.1016/j.nicl.2019.101783. (査読あり) (IF = 3.943)
9. ★◎Ishibashi K, Miura Y, Hirata K, Toyohara J, Ishii K. ^{18}F-THK5351 PET can identify astrogliosis in multiple sclerosis plaques. Clin Nucl Med. 2019 Jul 24. doi: 10.1097/RLU.0000000000002751. (査読あり) (IF = 6.498)
10. Suzuki Y, Kiyosawa M, Wakakura M, Ishii K. Glucose hypometabolism in the visual cortex proportional to disease severity in patients with essential blepharospasm. Neuroimage Clin. 2019 Aug 26;24:101995. (査読あり)(IF = 3.943)
11. Kameyama M, Ishibash K, Wagatsuma K, Toyohara J, Ishii K. A pitfall of white matter reference regions used in [^{18}F] florbetapir PET: a consideration of kinetics. Ann Nucl Med 2019 Nov; 33(11): 848-854. (査読あり)(IF = 1.648)
12. Sato K, Mano T, Matsuda H, Senda M, Ihara R, Suzuki K, Arai H, Ishii K, Ito K, Ikeuchi T, Kuwano R, Toda T, Iwatsubo T, Iwata A; Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative. Visualizing modules of coordinated structural brain atrophy during the course of conversion to Alzheimer's disease by applying methodology from gene co-expression analysis. Neuroimage Clin. 2019 Jul 25;24:101957. doi: 10.1016/j.nicl.2019.101957. (査読あり)(IF = 3.943)
13. Takenoshita N, Shimizu S, Kanetaka H, Sakurai H, Suzuki R, Miwa T, Odawara M, Ishii K, Shimada H, Higuchi M, Suhara T, Hanyu H. Classification of Clinically Diagnosed Alzheimer's Disease Associated with Diabetes Based on Amyloid and Tau PET Results. J Alzheimers Dis. 2019 Jul;71(1):261-271. doi: 10.3233/JAD-190620. PubMed PMID: 31356213 (査読あり)(IF = 3.517)
14. Hara S, Hori M, Ueda R, Hagiwara A, Hayashi S, Inaji M, Tanaka Y, Maehara T, Ishii K, Aoki S, Nariai T. Intravoxel incoherent motion perfusion in patients with Moyamoya disease: comparison with ^{15}O-gas positron emission tomography. Acta Radiol Open. 2019 May 23;8(5):2058460119846587. doi: 10.1177/2058460119846587. eCollection 2019 May. PMID: 31205752 (査読あり)(IF = 0.64)
15. 三輪建太, 平塚勢哉, 木村周平, 我妻慧. アルツハイマー型認知症の超早期診断のためのアミロイド・タウPETの定量評価法の開発・評価. 医療の広場 2019;59(4):14-17. (査読なし)
16. 坂田宗之, 我妻慧. PET の計測原理と臨床応用. 計測と制御 2019;58(7):504-8. (査読なし)
17. ★◎石橋賢士、石井賢二、アルツハイマー病と糖尿病：脳機能と血糖値の関係について教えてください、Geriatric Medicine (老年医学) 、ライフサイエンス、2019、57(8): 797-801. (査読なし)
18. ★◎石橋賢士、石井賢二、認知症と糖尿病-その実態の多様な側面と最先端情報-、臨床画像、2019年11月、35(11):1298-1306. (査読なし)
19. ★◎石井賢二. 認知症の早期発見と診断法の進歩. CURRENT THERAPY 2019 Aug; 37(8):755-760 (査読なし)
20. ★◎石井賢二. アミロイドのPETイメージング. 脳神経内科 2019 Jul; 91(1): 62-71 (査読なし)
21. ★◎石井賢二. 神経変性疾患の脳機能イメージング. 医学のあゆみ 2019 Aug; 270(9):739-745 (査読なし)
22. ★◎石井賢二. PETによる認知症の早期画像診断. ファルマシア 2019 Sep; 55(9): 819-822 (査読なし)
23. Imai M, Tanaka M, Sakata M, Wagatsuma K, Tago T, Toyohara J, Sengoku R, Nishina Y, Kanemaru K, Ishibashi K, Murayama S, Ishii K. Metabolic network topology of Alzheimer's disease and dementia with Lewy bodies generated using fluorodeoxyglucose positron emission tomography. J Alzheimer Dis 2020;73(1):197-207. (査読あり)(IF = 3.517)
24. Hara S, Tanaka Y, Ueda Y, Abe D, Hayashi S, Inaji M, Maehara T, Ishii K, Nariai T. Detection of hemodynamic impairment on ^{15}O gas PET using visual assessment of arterial spin-loabeling MR imaging in patients with moyamoya disease. J Clin Neurosci 2020 Feb;72:258-263. (査読あり)(IF = 1.593)
25. Tago T, Toyohara J, Ishii K. Radiosynthesis and Preliminary Evaluation of an ^{18}F-labeled Tubastatin A Analog for PET Imaging of Histone Deacetylase 6. J Labelled Comp Radiopharm. 2020;63(2):85-95. (査読あり)(IF : 1.291)
26. ★◎Ishibashi K, Miura Y, Hirata K, Toyohara J, Ishii K. ^{18}F-THK5351 PET can identify astrogliosis in multiple sclerosis plaques. Clin Nucl Med. 2020 Feb; 45(2):e98-e100. (査読あり) (IF = 6.498)

3 著書等

1. 日本画像医療システム工業会 (SC-4405) : 佐藤知彦, 佐々木貴裕, 横塚弘一, 石原芳幸, 勅使河原学, 清水啓司, 寺岡悟見, 熊谷雅章, 福喜多博義, 我妻慧, 大崎洋充, 谷本克之. 日本画像医療システム工業会規格 PET装置の性能評価法 JESRA X-0073*G^{2019}. 日本画像医療システム工業会. 2019. (査読なし)
2. 我妻慧. スタンフォード大学研修で得たモノ. 関東支部雑誌 2019;22:13-14. (査読なし)

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)

二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

社会参加と地域保健研究チーム

チームリーダー：藤原佳典

研究チームの概要・目的

当研究チームは、第三期中期計画において、第二期中期計画から継続する二つのテーマ研究（TR）社会参加と社会貢献TR(旧社会参加・社会貢献の促進TR)(以降、社会参加TR)とヘルシーエイジングと地域保健TR(旧老化・虚弱の一次予防と地域保健TR)(以降、地域保健TR)に加えて社会参加TRから、大都市高齢者基盤研究TR(以降、大都市基盤TR)が独立し、三つのTRの体制でスタートした。
三つのTRは相互に協働・補完しながら、高齢者人口のほぼ8割を占める”生活機能の自立した”高齢者を主な対象とし、ICFモデルに示された「参加」、「活動」の増進に向けた研究および地域でアクションリサーチを行い、健康日本21（第二次）で掲げられている「健康寿命（余命）の延伸」と「健康格差の縮小」に寄与することを目的としている。
第三期中期計画においては、大都市基盤TRが把握・推測した社会参加・社会関係に関する知見を社会参加TRや地域保健TRが介入プログラムやアクションリサーチにより実証および実装する連携体制をとっている。これにより本年度は行政施策(例えば、大田区モデル事業における介護予防・日常生活支援総合事業)におけるSPDCAサイクル[Survey（調査）→計画（Plan）→実施（Do）→評価（Check）→見直し（Act）]を支援してきた。

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

社会参加と社会貢献研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度	2021 年度	2022 年度
プロダクティブエイジングの促進に資する開発研究	(a) 高齢者と社会にとって望ましい働き方の解明とその支援策の提示を行う (b) 生涯学習型プログラムの開発と実装、活動の継続および波及効果を検証する。 (c) 多世代交流と互助の仕組みを開発する。	(a)高齢者・雇用者調査により実態と課題を把握 (b)生涯学習であるが副次的に介護予防・健康維持増進が期待できる好事例の探索 (c)国内外の優良事例への郵送調査	(a)アンケート調査実施、好事例を探索 (b)好事例に基づく介入プログラムの開発および効果検証（属性･健康度･社会参加) (c)優良事例の代表者と自治体担当職員への聞き取り調査	(a)データ解析・論文執筆 (b)各介入プログラムの自主活動の関与者および受け手への影響に関する検討 (c)郵送･聞き取り調査と各プログラム運営マニュアル開発	(a)データ解析・論文執筆 (b)各プログラムの地域実装に向けた普及・展開に資する研究 (c)各プログラム運営マニュアルの試行と効果評価	(a)一般企業･福祉事業所向け就労支援マニュアルの作成 (b)多様な社会参加の機会の増加に向けた各種プログラムテキストの作成 (c)各運営プログラム改良と自治体への普及
社会参加が健康に影響を与える心身社会的機序の解明および評価手法に関する研究	(a)社会的フレイルの概念整理と定義を行う。 (b)評価尺度の開発（MoCA-J 応用、ICT 利用等）を行う。	・社会参加実験・調査のモデルの確立 ・MoCA-Jの平行版開発、長期追跡	・ソーシャルフレイルの定義の確立および検証 ・新規認知機能検査試作	・認知機能が低下した状態であっても社会参加が行える決定要因解明 ・左記試作継続	世代間交流および他者交流が与える認知・神経学的影響の解明 ・本検査解析	・各実験・調査による社会参加活動の心身社会的機序を総括し公表 ・本検査公表

ヘルシーエイジングと地域保健研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 （平成30年度）	2019 年度 （令和元年度）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
機能的能力、内在的能力の加齢変化と関連要因の解明【基礎的研究】	フレイルの予防・改善のための地域課題と予防戦術の明確化（郵送調査等による地域診断）	・大田区での調査、研究の実施 ・データ分析、成果公表	・大田区、養父市での調査データ分析、成果公表 ・気仙沼市での調査 ・横浜市栄区での調査	・大田区、養父市、気仙沼市での調査データ分析、成果公表 ・埼玉県での事業評価	・養父市での追跡調査 ・データ分析、成果公表	・大田区での追跡調査、データ分析 ・成果公表、社会還元（フレイル予防ガイドブック作成）
ヘルシー・エイジングを推進する社会システムの開発と実装化【応用研究】	地域づくりを主軸としたフレイル予防・改善のための社会システムの開発と実装化	・大都市モデルのプロトタイプ評価 ・中山間地域モデルの評価と他地域への普及 ・全国自治体向けのツール開発	・大都市モデルの全区への拡大 ・中山間地域モデルの評価と他地域への普及 ・全国向けツールの成果公表	・大都市モデル、中山間地域モデルの実装化継続 ・被災地復興モデルの実装化開始 ・東京都の他地域への実装化	・大都市モデル、中山間地域モデルの東京都の他地域への実装化 ・被災地復興モデルの評価	・大都市モデル、中山間地域モデル、被災地復興モデルの完成 ・東京都での実装化、応用

大都市高齢者基盤研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 （平成30年度）	2019 年度 （令和元年度）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
高齢期のワーク・ライフ・バランス推進のための課題の明確化	(a) 就労参加の地域活動への影響と両立のための方策の検討 (b) 就労、地域・家庭内活動のバランスとウェルビーイングとの関係の解明	(a,b) JAHEAD第8回調査の解析・公表と第9回までの解析 (a) 都内中高年者調査の実施	(a,b) JAHEAD解析・公表 (a) 都内中高年者調査の解析 (a) 質的調査：地域グループヒアリング	(a,b) JAHEAD解析・公表 (a) 都内中高年者調査の解析・公表 (a) 質的調査：地域グループヒアリング	(a,b) JAHEAD第10回調査の実施 (a) 都内中高年者調査の解析・公表	(a,b) JAHEAD解析・公表 総合報告書の作成
世代間支援の実態と効果の解明	【親族内の関係】 (a) 子どもとの支援の授受と同別居の関連要因の解明 【親族外の関係】 (b) 世代間交流・支援の促進要因の解明と効果の検証	(a) JAEAHD解析 (b) 既存データの解析と公表 (b) 北区・川崎市多摩区住民調査の実施（社会貢献テーマと共同）	(a) JAEAHD解析と論文執筆 (b) 住民調査データの解析・公表	(a) JAEAHD解析・公表 (b) 住民調査データの解析・公表	(a) JAEAHD解析・公表 (b) 住民調査データの解析・公表 (b) 世代間支援に関するシンポジウムの実施	(a) JAEAHD解析・公表
単身者と社会的孤立に関する基礎的研究	(a) 単身者の地域ネットワーク構築に関する課題 (b) 援助要請の促進・阻害要因 (c) 独居・孤立の健康・ウェルビーイングへの効果	(a) 質的調査：Web調査、グループインタビュー（単身・同居群） (c) JAHEAD等既存データの解析	(b) 質的調査：養護老人ホーム入居者／あんしん電話利用者面接 (a,b) 質的調査の解析・公表 (c) データ解析・公表	(a,b) 地域単身中高年者調査の実施 (a,b) 質的調査の解析・公表 (c) データ解析・公表	(a,b) 地域単身中高年者調査解析・公表 (a,b) 質的調査の解析・公表 (c) データ解析・公表	(a,b) 地域単身中高年者調査解析・公表 (c) データ解析・公表

社会参加と社会貢献研究

構成メンバー

テーマリーダー：藤原佳典
研究員：鈴木宏幸、野中久美子、桜井良太
非常勤研究員：倉岡正高、小川将、村山幸子、高橋知也、飯塚あい、根本裕太、小林桃子、森裕樹、長大介、西中川まき、渡邉彩、松永博子、田中元基、長谷部雅美、村山洋史、服部真治

1　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

(A) プロダクティブエイジングの促進に資する開発研究

(a)高齢者と社会にとって望ましい働き方の解明とその支援策の提示：

有識者・事業者・行政関係者による研究会(通称：ESSENCE研究会)を継続し、福祉領域(特に介護分野)における高齢者就労の動向・あり方について、今年度は計5回議論した(Task①および④～⑥)。また、心身社会的に望ましい高齢者の就労のあり方を探るため、首都圏(東京都大田区)高齢者の縦断調査結果を用いて、就労の動機・目的とその後の健康状態変化を検討した。結果、金銭報酬目的以外の就労動機・目的が健康維持のためには重要であることが明らかとなった(Task②)。

介護の周辺業務支援を目的とした介護助手の雇用は、高齢者の社会参加を通じた心身機能維持への寄与に加え、介護職スタッフの業務負担を軽減し、専門性の高い業務に専念することを可能にする取り組みであると想定される。そこで、介護施設における高齢者介護助手の導入実態および、その波及効果を明らかにすることを目的に郵送調査とヒアリング調査を行った。結果、高齢者介護助手は施設の業務効率の改善に寄与し、介護職スタッフの業務負担感の軽減につながっている可能性が示唆された(Task③)。

(b) 生涯学習型プログラムの開発と実装、活動の継続および波及効果に関する研究(スライド8)：

これまでに開発した絵本の読み聞かせ方法の習得を題材として、生涯学習型プログラム(以降、絵本プログラム)を自治体受託事業として展開している。今年度は都内において更に拡大し、遠隔地での実施に向けた取り組みも行った(Task⑤)。研究成果では今後の認知機能低下抑制のターゲットである50～64歳のプレ・シニア層においても介入効果がみられた(Task①)。囲碁を活用した生涯学習型プログラム(以降、囲碁プログラム)においては囲碁の学習による脳機能への好影響についてPETを用いた研究により示した(Task⑥)。また、認知機能低下抑制の介入研究として、AMED研究事業（国立長寿・荒井班、J-MINT研究）に東京フィールドとして加わった。生涯学習活動の継続および波及効果に関する研究として、自治体と協働して絵本の読み聞かせを活用した中学生向け「命・つながり・SOSの出し方」改訂版啓発プログラムに取り組み、その効果をRCTにより検証した(Task⑫)。

(c) 多世代交流と互助の仕組みづくりに関する研究

第一に、昨年度終了したJST-RISTEX等で得た多世代互助の知見を他地区へ展開するために、東京都大田区と北区での生活支援コーディネーター研修を行い、コーディネーター業務の管理と評価を支援するツールを開発した(Task③)。また、地域包括支援センター（以下、包括）職員ら専門職向け社会参加マッチング支援ツール「地域資源見える化サイト（名称：ミルモネット)」を北区でも導入し、その効果評価に向けたベースライン調査を行った。大田区では、ミルモネットの包括業務効率化と質向上に対する効果評価のための追跡調査を実施中(Task④)。

第二に、新たなリサーチクエスチョンを設定し以下のTask①②③に取り組んだ。住民間互助を促す多世代交流拠点の運営方法の解明に関し量的調査（板橋区サロンの継続・消滅要因の検討）と質的調査（都市部サロンの運営手法の深堀調査）(Task①)、住民主体の生活支援活動を生み出す協議体立上げの機序解明を目的に、先駆的自治体への調査(Task③)、住民主体の有償・無償ボランティアの運営者と利用者への調査(Task②)を実施中である。

(B) 社会参加が健康に影響を与える心身社会的機序の解明および評価手法に関する研究

(a) 社会的フレイル(フレイルの社会的側面)の概念整理と定義に関する研究

①板橋区在住高齢者を対象とした縦断調査（お達者健診）から、特に独居高齢者におけるリスク要因と見なされていた「孤食」に関して、単に社会的ネットワーク（他者との交流の幅）の多寡が問題であり、孤食は独居の結果であることを明らかにした。また、②今後のコミュニケーション方法の変容を見据えて、

府中市民を対象とした郵送調査からSNS利用と健康度の関連を明らかにする試みや、③社会参加や他者交流と従来の身体的フレイル状態との関連を明らかにするため、草津町縦断調査を用いた検証を準備中である。

【その根拠】

(A) (a)上記、ESSENCE研究会において、無資格の高齢者を介護補助人材として上手く活用している事業所の視察やインタビューを通じて、効率的・効果的な介護周辺業務の切り出しと業務体制の好事例について手引きを取りまとめた(2019年5月出版)(Task①および④～⑥)(招聘講演2件)。縦断調査による心身社会的に望ましい就労のあり方の解明については、学会発表7件、シンポ3件(Task②)、介護助手調査については、厚労省・介護現場刷新会議の基礎資料となった。学会発表2件、国際シンポ招聘(2019年12月)

(A) (b) 絵本プログラムは、北区、文京区、板橋区、新宿区、立川市、府中市からの委託事業が継続し、新たに3自治体（千代田区、練馬区、狛江市）においても委託事業として拡大した。遠隔地での開催に向けた取り組みとして絵本プログラムのワークブックを作成した。絵本プログラムに関して学会発表(16件)を行った。また国際学会において優秀ポスター賞を受賞し、多数のメディアの取材を受けている(Task①)。既に自主団体として展開する読み聞かせボランティア「NPOりぷりんとネットワーク」と府中市と協働した絵本の読み聞かせを活用した中学生向け「命・つながり・SOSの出し方」プログラム(革新的自殺研究推進プログラム助成)は、府中市の保健部局・教育委員会の協働施策に反映され、他の中学校でも導入された(Task⑫)。囲碁プログラムの認知機能介入における脳機能への効果については国際誌に投稿している(Task⑥)。

(A) (c) Task③については、JST-RISTEXの成果物として、大田区で生活支援コーディネーターや行政職員等を対象に研修を実施した（全6回)。それにより、新たに開発した評価ツールが各圏域コーディネーター会で導入されている。更に、多数の包括職員が研修を受講し、研修の評価についてベースライン調査に回答した。一方、全国の先進事例について10自治体へヒアリング調査を実施した。その成果を「目指す地域の姿を実現するための工程表」にまとめ、「いきがい・助け合いサミット」(公益財団法人さわやか福祉財団主催)にてシンポジウム発表した。Task④については地域資源の登録・把握状況の調査を実施中。Task①については、三菱財団の助成金を獲得し、全国の先進事例へのヒアリングを始めることができた。一般介護予防事業においては通いの場など「サロン」の立上げのみに関心が高まりがちであるが、継続策を量的に検討する研究は見られない。そこで、参加者個人に加えて、さらに、板橋区社会福祉協議会の協力のもとで同区内の206サロンに対して運営状況に関する5年間の追跡調査を完了した。これら206サロンの継続状況が77%であることと、その継続要因を明らかにした。Task②については、東京都内5自治体の包括および社会福祉協議会の職員への質問紙調査、および生活支援サービス提供団体運営者（2名）と利用者（5名）へのヒアリング調査を行っている。学会発表6件、シンポ3件

(B) (a)①孤食と社会的ネットワークの多寡が健康に与える影響については、既に国際誌に投稿中である。更に、日本老年医学会学術集会や日本認知症予防学会学術集会シンポジウムにて報告し、社会的フレイル要件の見直しを提言している(学会発表5件、シンポ3件)。同時に関連領域の国内外の研究者と意見交換を行い、社会的フレイルの概念整理を進めており、老年社会科学会にてワーキンググループの立上げを行った。②府中市郵送調査は10月に完了し、データクリーニングを終了したため、速やかに解析を行う。③ヘルシーエイジングと地域保健テーマ研究者らと協働し、フレイルの指標としても確立している介護予防チェックリストの社会的側面を主眼とした縦断データ解析を進めている。

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜プロダクティブエイジングの促進＞

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム（ヘルシ―エイジングと地域保健、大都市基盤)、自立促進と精神保健研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、神経画像研究チーム、HAIC、糖尿病・代謝・内分泌内科、フレイル外来

【センター外】東京大学、桜美林大学、日本大学、JSSC、ダイヤ財団、多数自治体

＜社会参加が健康に影響を与える心身社会的機序の解明および評価手法＞

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム（ヘルシ―エイジングと地域保健、大都市基盤）
自立促進と精神保健研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、老化脳神経科学研究チーム（記憶神経科学)、糖尿病・代謝・内分泌内科、フレイル外来、もの忘れ外来

【センター外】東大、大阪大学、国立長寿医療研究センター、フロリダ国際大学、多数自治体

ヘルシーエイジングと地域保健研究

構成メンバー

テーマリーダー：北村明彦
研究員：青柳幸利、天野秀紀、西真理子、清野諭、横山友里、野藤悠
非常勤研究員：成田美紀、遠峰結衣、山下真里、秦俊貴、朴晟鎭、趙善英、小久保奈緒美、藤田かんな、児玉優紀、新井祐美、西村恵美子
日本学術振興会特別研究員：阿部巧

１　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

本研究の目標・目的を整理し、目標については、東京都におけるヘルシー・エイジング社会の推進を目指し、エイジング・イン・プレイス（区部、市町村部、島部）に向けた自治体計画に反映できるフレイル予防モデルの完成とした。そのための基礎的研究として、大田区、養父市、気仙沼市において、１）フレイルの予防・改善のための地域課題と予防戦術の明確化（郵送調査等による地域診断）、応用研究として、２）地域づくりを主軸としたフレイル予防・改善のための社会システムの開発と実装化に取り組んだ。並行して研究成果の公表を進め、当初の計画通りの成果を挙げた。

【その根拠】

○大田区では、大都市モデルとして、「フレイル予防 in All Activities」のポリシーのもと、既存の社会資源（団体や企業）に働きかけ、フレイル予防の要素を種々の活動の中に組み込んだ。大田区プロジェクトの短期効果として、①フレイルの認知度向上、促進因子・抑制因子の解明、②食品摂取多様性、週に150分以上歩く人の割合、社会的非孤立者割合の向上、③スクワット競争システムの効果が認められた。並行して、区全体の要介護認定率が低下した。成果物としては、一般化に向けた「フレイル予防普及啓発冊子」を作成し、Web上でも公開した。さらに、様々なフレイル予防グッズ、アプリ、ロゴマークを製作し、普及につなげた。

○養父市では、中山間モデルとして、シルバー人材センターによる徒歩圏域ごとのフレイル予防教室が地域全体へ波及してきた。フレイル予防教室の効果として、①教室参加者のフレイルの有病リスクの低減、②高い教室参加率・継続率の維持が認められた。当教室で使用中のフレイル予防教室のプログラム指南書をもとに、埼玉県のシルバー人材センター就業指南書を新たに作成し、同様の取り組みを埼玉県内で普及させた。

○気仙沼市においては、被災地復興モデルとして、住民ボランティアによるフレイル予防教室を来年度計画しており、今年度は、フレイル予防サポーター指南書の作成と地域課題を把握するための実態調査を行った。市内の65～84歳の要介護認定を受けていない約２万人の中から無作為に9754人を抽出して郵送調査を実施し、83%の返送率を得た。

○平成30年度老人保健健康増進等事業において、全国自治体向けに、フレイル予防対策関連の手引書を２種作成した。「地域住民の加齢による変化を継続的に把握するための調査の手引き」では、高齢期の加齢に伴う機能低下の気づきと行動変容を促す機能チェックフィードバック票を開発、提示し、「介護予防活動を効果的・効率的に実施するための手引き」では、協力自治体へのヒアリングや住民へのインタビュー調査に基づき社会参加が乏しい高齢者へのアプローチ手法を提示した。

本テーマ研究に関連した外部研究費として、基盤B「大都市在住高齢者のフレイル予防のための地域介入研究：５年間の有効性評価」（代表）、戦略的創造研究「健康貯金のための運動誘発AI基盤構築」（分担）を獲得した。また、本テーマ研究を中心に、平成31年1月以降、学会発表74報（海外10、国内65）、原著論文26編、総説7編、著書等43編が公表または採択され、国内受賞5件、国外受賞1件を受けた。

大田区研究から得られた主な知見は以下の通りである。

- 区全体の要介護認定率がプロジェクト期間中に有意に低下した（大田区以外の23区平均では上昇）。また、区内の介入地区の要介護認定率は対照地区よりも有意に低下した。
- 当地域在住高齢者のフレイルの認知度は20.1%と推定された。年齢、性、学歴、等価所得、運動習慣、食品摂取多様性、社会活動は独立してフレイルの認知度に対して正の関連を示し、社会的孤立、フレイル状態は負の関連を示した。フレイル対策が必要な者（社会的孤立者やフレイル高齢者）ほど、フレイルの認知度が低いという実態が示された。
- 運動実践群は非実践群よりも、身体活動、身体機能、精神的健康水準がいずれも良好であった。さらに、運動を集団で実践している群では、個人での実践群よりも身体活動量と精神的健康度がさら

に良好であった。特に、男性では他者との運動実践群が個人での実践群よりも身体機能の低下を抑制していた。
- 多様な食品摂取は孤立を防ぎ精神的健康を保つことに加え，摂取食品数を増やすことは精神的健康度の低下を抑制していた。

養父市研究から得られた主な知見は以下の通りである。
- フレイル予防教室参加群のフレイル有病率の増加が非参加群よりも約50%抑制された。
- 参加群では非参加群に比し、運動習慣、交流習慣、食品摂取多様性が有意に向上した。
- 教室が各地に広がり、参加率、継続率も高かったことから、シルバー人材センター活用のフレイル予防教室運営モデルは有効かつ他地域への応用可能性の高いモデルであることが示唆された。

老人保健健康増進等事業から得られた主な知見は以下の通りである。
- 郵送調査により、大田区、養父市、鳩山町、草津町の要介護認定を受けていない高齢者のフレイル該当率（介護予防チェックリストで４点以上）を調べた結果、大田区の男性のフレイル該当率が２７．６％と最も高率であった。大田区の男性では、閉じこもり得点が最も高値を示していたことから、男性の社会的交流状況が乏しいという大都市部の特徴を反映した結果であると考えられる。
- 社会参加が乏しい高齢者129名へのインタビュー調査の結果、①顕在的かつ具体的なニーズは乏しいが、地域資源の情報には関心がある人が約70%を占める、②非運動系趣味を好み（約40%）、自分でウォーキングを行っている人（約40%）が比較的多い、③定期健診や通院、食事に気遣っている人が多いこと等が判明した。

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜ヘルシー・エイジングと地域保健＞

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム（社会参加と社会貢献）、自立促進と精神保健研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、神経画像研究チーム、フレイル外来、眼科、放射線診断科

【センター外】大田区、養父市、埼玉県シルバー人材センター連合、気仙沼市、東京農大、順天堂大学、日本医科大学、共立女子大学、国立長寿医療研究センター

大都市高齢者基盤研究

構成メンバー

テーマリーダー：小林江里香

研究員：村山陽

非常勤研究員：岡本翔平

１　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

既存の2課題より独立させて新しく設定した3)の単身者と社会的孤立に関する課題に集中的に取り組み、大きく進展させた。1）2）の課題については、おおむね順調にデータの分析を進め、学会発表や論文執筆を行ったが、平成31年度より開始予定だった地域活動グループへのヒアリングは次年度以降に延期した。

【その根拠】

1）高齢期のワーク・ライフ・バランス

全国高齢者パネル調査（以下JAHEAD、全国60歳以上対象）のデータを用いた、就労と他の活動への参加との関係に関わる3編の論文をJAHEAD第9回調査研究報告書に掲載した（2020年1月）。分析結果より、ボランティアや趣味・稽古事では退職年齢が高齢になるほど退職後にこれらの活動にスムーズに移行するのが難しいことなどが示された。

また、就労内容と地域活動参加の関係を明らかにするため、2018年に都内3区市で実施した55-84歳住民の郵送調査データの分析を進めた。

2）世代間支援の実態と効果の解明

親族内の世代間関係としては、2006年にJAHEADの一部として実施した、「子ども調査」のデータを用いて、老親（JAHEAD回答者）への経済的・非経済的支援に関わる要因を息子・娘別に検討した。

親族外の関係を含む世代間支援とその効果については、日本老年社会科学会(2019年6月開催)において、社会参加と社会貢献テーマと共同で、自主企画フォーラム「変容する地域社会における世代間関係を考える」を企画・開催し、北区等で実施した介入研究の効果評価などの発表を行った。

さらに、和光市調査のデータ分析から、多世代の近隣との情報的サポートの授受が孤立感・孤立不安を緩和すること、互助関係の乏しさと独居に経済的困窮が重なることで健康感がより低下することを明らかにした（学会発表、論文投稿中)。

3) 単身者と社会的孤立に関する基礎的研究

既存の高齢者調査データ（JAHEAD等）を用いて、独居・孤立の健康・well-beingへの効果の分析・学会発表を行うとともに、新たな質的データの収集を行った。具体的には、地域交流事例の収集や近所づきあいの心理的障壁の検討を目的として、首都圏（１都3県）の50-70代の単身者、非単身者（同居者あり）を対象としたインターネット（Web）調査およびフォーカスグループインタビューの実施・分析を行った。また、他者への援助要請を促進・阻害する要因を検討するため、養護老人ホーム入所者（約80名）や、「あんしん電話」サービスを利用する地域の単身高齢者（約40名）を対象に、半構造化面接を実施した。

Web調査の分析より、近隣との交流については、世帯構成や性別、年齢に関わらず「災害時や緊急時の助け合い」に対するニーズが高いことが示された（日本世代間交流学会誌,9（1）で公表)。

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜高齢期のワーク・ライフ・バランス＞

【センター内】HAIC研究ユニット

【センター外】東京大学、ミシガン大学、首都大学東京、実践女子大学、国立長寿医療研究センター

＜世代間支援の実態と効果＞

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム（社会参加と社会貢献、ヘルシーエイジングと地域保健）

【センター外】ミシガン大学、東京大学、桜美林大学、日本大学、実践女子大学

＜単身者と社会的孤立＞

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム（社会参加と社会貢献）

【センター外】文京学院大学、聖学院大学、ミシガン大学

論文・学会発表

社会参加と社会貢献研究

１ 学会発表

(1) 海外

1. Amagasa S, Inoue S, Murayama H, Fujiwara T, Kikuchi H, Fukushima N, Machida M, Chastin S, Shobugawa Y: Compositional associations of objectively-measured activities with declined cognitive function in older adults: NEIGE study. ACSM’s 66th Annual Meeting, Orlando, FL, USA. 2019.5.28-6.1.
2. Kuraoka M: Japan’s Measures on Aging Population and Care: An Intervention Study of Community-based Integrated Care Approach in Tokyo Metropolitan Area. International Symposium on the Application of Big Data in Social Security, Wuhan, China. 2019.6.1.
3. Kuraoka M: Designing Multigenerational Co-creation Community: Inside Look, Generation’s United 20th Global Intergenerational Conference, Portland, USA. Poster. 2019.6.12-14.
4. Fujiwara Y: Work shop, Hindsight and Foresight of Intergenerational Studies in Japan: Birth of a Movement. Intergenerational studies in Japan and its potential for promoting intergenerational cooperation, respect and harmony. Generation’s United 20th Global Intergenerational Conference, Portland, USA. 2019.6.12-14.
5. Murayama H: Trajectories of body mass index and their association with mortality among older Japanese: Do they differ from those of Western populations? In 1st International Conference on Aging in Times of The New Old, Tainan, China. 2019.6.25. (招待講演).
6. Sakurai R, Kodama K, Ozawa Y: Effect of Horizontal-Vertical Illusion on Stepping- Over Action. ISPGR World Congress 2019. Edinburgh, UK. 2019.6.30-7.4.

7. Ohara Y, Shirobe M, Edahiro A, Motokawa K, Hirano H, Kawai H, Kim H, Ihara K, Fujiwara Y, Obuchi S, Watanabe Y: Factors associated to poor oral health-related to quality of life among community-dwelling older Japanese. 2019 International Symposium on Dental Hygiene, Brisbane, Australia. 2019.8.15-17.
8. Shirobe M, Ohara Y, Watanabe Y, Motokawa K, Edahiro A, Hirano H, Kawai H, Kim H, Ihara K, Fujiwara Y, Obuchi S: Factors affecting discontinuation of regular dental visits in the elderly, 2019 International Symposium on Dental Hygiene, Brisbane Australia. 2019.8.15-17.
9. Takeuchi T, Hashimoto K, Ihara K, Obuchi S, Hirano H, Fujiwara Y, Kawai H, Kojima M, Hashizume M: Characteristics of eating behavior among people with typical and atypical depression. The 25th world congress of the international college of psychosomatic medicine, Florence, Italy. 2019.9.12.
10. Ejiri M, Kawai H, Fujiwara Y, Hirano H, Araki A, Koyama T, Sugie M, Kojima M, Nakada H, Suzuki T, Obuchi S: Social participation reduces depression among community-dwelling older adults with lower back pain: a cross-sectional study. 7th Asian Congress of Health Psychology, Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia. 2019.9.19-21.
11. Sakai E, Kim H, Kamesawa A, Kim D, Nakayama R, Terazawa S, Ogawa K, Masuda K, Akizuk Y, Yang Y, Yang Y, Suzuki Y, Shah R, Masuda T, Gandy C, Maeda K, Takase M, Saisho S, Ogino R, Murayama H, Goto J: Exploring the significance of the community center to Japanese senior citizens from the perspective of place attachment. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, China. 2019.10.21-25.
12. Ogawa S, Suzuki H, Iizuka A, Kobayashi M, Fujiwara Y: The Effect of Cognitive Picture-Book Intervention in Community-dwelling Older Adults With and Without Depression. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, China. Poster. 2019.10.23-27.
13. Murayama Y, Hasebe M, Nishi M, Matsunaga H, Fujiwara Y: The impact of the informational social support exchanges with neighbors on the feeling of isolation among the elderly: a two-year follow-up survey, The 11th Asia/Oceania Congress of Gerontology and Geriatrics, Taipei, China. 2019.10.23-27.
14. Yasunaga M, Kawai H, Ejiri M, Kera T, Watanabe Y, Fujiwara Y, Hirano H, Kojima M, Nakada H, Obuchi S: Effect of frequency of participating in the region activity on subjective well-being: A 3-year prospective study of urban Japanese older adults, the 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania, Taipei, China. 2019.10.23-27.
15. Watanabe S, Fujiwara Y, Nonaka K, Kuraoka M, Kobayashi E, Nemoto Y, Minami U, Koike T: Factors related to work retention for elderly workers in the metropolitan area in Japan over two years, 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, China, 2019.10.23-27.
16. Hashimoto Y, Watanabe S, Nonaka K, Koike T, Hasebe M, Murayama Y, Suzuki H, Fukaya T, Kobayashi E, Fujiwara Y: Relationship between types of elderly living alone and their mental health or social role. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, China. Poster. 2019.10.23-27.
17. Igarashi K, Watanabe Y, Kugiyama Y, Kawai H, Motokawa K, Ito M, Ihara K, Fujiwara Y, Obuchi S, Hirano H, Kawai Y: Prevalence of oral hypofunction in Japanese community-dwelling elderly in an urban area, the 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania, Taipei, China. 2019.10.23-27.
18. Kitamura A, Seino S, Abe T, Taniguchi Y, Yokoyama Y, Amano H, Narita M, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S: Sarcopenia and the risk of mortality and incident disability in community-dwelling older Japanese. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, China. Poster. 2019.10.23-27.
19. Taniguchi Y, Kitamura A, Ishizaki T, Fujiwara Y, Seino S, Mitsutake S, Suzuki H, Yokoyama Y, Age T, Ikeuchi T, Shinkai S: Association of Trajectories of Cognitive Function with Cause-Specific Mortality and Medical and Long-Term Care Costs. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, China. Poster. 2019.10.23-27.
20. Kawai H, Obuchi S, Watanabe Y, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Kobayashi Y, Mochimaru Y, Tsushima E, Nakamura K: Association between frailty and daily living walking speed measured by smartphones with built-in GPS, the 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, China. 2019.10.23-27.
21. Suzuki H, Ogawa S, Sakurai R, Nemoto Y, Kobayashi M, Sato K, Takahashi T, Iizuka A, Kobayashi K, Fujiwara Y: Cognitive intervention through a training program for picture book reading improves not only cognitive function but also gait function in community-dwelling older adults, 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, China. 2019.10.23-27.
22. Carandang RZ, Shibanuma A, Kiriya J, Vardelon K, Asis EL, Murayama H, Jimba M: Efficacy of peer counseling, social engagement, and combination interventions in Filipino senior citizens at risk for depression: A quasi-

experimental study. The 2019 Annual Meeting & Exposition of the American Public Health Association, Philadelphia, PA, USA. 2019.11.2-6.

23. Sakurai R, Kawai H, Yanai S, Suzuki H, Ogawa H, Kim H, Hirano H, Ihara K, Obuchi S, Fujiwara Y: The effects of hearing loss and mobility decline on cognitive function of older adults. The Gerontological Society of America (GSA) 2019 Annual Scientific Meeting, Austin, USA. 2019.11.13-17.
24. Murayama H, Taguchi A, Yamaguchi T: Effectiveness of a community health worker intervention in improving dietary habits: A cross-over trial in Japan. The Gerontological Society of America (GSA) 2019 Annual Scientific Meeting, Austin, USA. 2019.11.13-17.
25. Nemoto Y, Sakurai R, Hasebe M, Nonaka K, Matsunaga H, Fujiwara Y: The burden of engaging in volunteer attenuate the relationship between volunteer engagement and health outcomes. The Gerontological Society of America (GSA) 2019 Annual Scientific Meeting, Austin, USA. 2019.11.13-17.
26. Carandang RZ, Shibanuma A, Kiriya J, Vardelon K, Asis EL, Murayama H, Jimba M: Project ENGAGE: An action research toward improving the psychological well-being of Filipino senior citizens. The Gerontological Society of America (GSA) 2019 Annual Scientific Meeting, Austin, USA. 2019.11.13-17.
27. Takase M, Murayama H, Kimata M, Hirukawa S, Tanaka T, Sugimoto M, Ono S: Not enjoying the meal was associated with depressive symptoms, despite the size of social connections. The Gerontological Society of America (GSA) 2019 Annual Scientific Meeting, Austin, USA. 2019.11.13-17.
28. Yasunaga M, Kawai H, Ejiri M, Kera T, Watanabe Y, Fujiwara Y, Hirano H, Kojima M, Nakada H, Obuchi S: Effect of frequency of participating in the region activity on functional decline: A 3-year prospective study of urban Japanese older adults, GSA 2019 Annual Scientific Meeting, Austin, USA, 2019.11.13-17.
29. Fujiwara Y: Multiple benefits of Working and support system for job seeking of Japanese older people. The 14th Seoul International Gerontology Symposium, Seoul, Korea. 2019.12.13.

(2) 国内

1. 村山洋史, 宇良千秋, 宮前史子, 佐久間尚子, 杉山美香, 稲垣宏樹, 岡村毅, 新川祐利, 栗田主一: ソーシャルキャピタルと認知機能低下者割合の地域相関分析: Dementia Friendly Communitiesに向けた定量的検証. 第20回日本認知症ケア学会大会, 京都, 2019.5.25-26.
2. 藤原佳典: 合同シンポジウム10「それぞれの地域包括ケアから見出す実践の知見と共通の理念」, 大都市における多世代型介護予防・日常生活支援総合事業の試み. 第61回日本老年学会合同学術集会, 仙台, 2019.6.6-8.
3. 根本裕太, 佐藤慎一郎, 中村睦美, 北畠義典, 荒尾孝: 地域在住高齢者における地域活動への参加状況の変化と身体活動ならびに座位行動の変化との関連性：2年間の縦断研究. 第61回日本老年医学会学術集会, 宮城, 2019.6.6-8.
4. 藤原佳典: シンポジウム6「社会的フレイルの定義」, 社会的フレイルの定義～導入編. 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019.6.6-8.
5. 藤原佳典: 自主企画フォーラム「変容する地域社会における世代間関係を考える」指定発言：地域包括ケア時代の世代間関係の目指すもの. 第61回日本老年社会科学会, 仙台, 2019.6.6-8.
6. 飯塚あい, 石井賢二, 我妻慧, 石橋賢士, 大西愛鈴, 田中美香, 鈴木宏幸, 栗田主一, 藤原佳典: 囲碁を活用した認知機能低下抑制プログラムの評価―FDG-PETを用いた脳糖代謝に対する介入効果の検討―. 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019,6.6-8.
7. 北村明彦, 清野諭, 阿部巧, 谷口優, 天野秀紀, 西真理子, 横山友里, 成田美紀, 藤原佳典, 新開省二: 高齢健診受診者におけるサルコペニアの有病率と関連因子. 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019.6.6-8.
8. 谷口優, 北村明彦, 藤原佳典, 清野諭, 鈴木宏幸, 横山友里, 天野秀紀, 成田美紀, 阿部巧, 新開省二: 認知機能の経時的変化パターンと身体・心理・社会的機能との関連. 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019.6.6-8.
9. 桜井良太: 高齢者の歩行機能低下と認知機能低下の関連に関する研究. 第61回日本老年医学会学術集会. 宮城. 2019.6.6-8.
10. 桜井良太: 予防的観点から考える社会的フレイルの定義. 第61回日本老年医学会学術集会. 宮城. 2019.6.6-8.
11. 清野諭, 北村明彦, 阿部巧, 谷口優, 天野秀紀, 西真理子, 横山友里, 成田美紀, 藤原佳典, 新開省二: 地域在住高齢者の身体組成指標と総死亡リスクとの量・反応関係. 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019.6.6-8.
12. 阿部巧, 清野諭, 北村明彦, 谷口優, 天野秀紀, 西真理子, 横山友里, 成田美紀, 藤原佳典, 新開省二: 高齢期の体組成、身体機能と総死亡リスクとの関連. 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019.6.6-8.
13. 天野秀紀, 北村明彦, 横山友里, 成田美紀, 西真理子, 谷口優, 清野諭, 吉田裕人, 藤原佳典, 新開省二: 要介護認定で見られる「認知症」の発症様式・発症前認知機能変化に基づく類型化と類型別危険因子. 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019.6.6-8.
14. 桜井良太, 渡邊裕, 大須賀洋祐, 谷口優, 河合恒, 金憲経, 北村明彦, 稲垣宏樹, 栗田主一, 新開省二: アポリポ蛋白E4の保有と歩行速度低下の重積が高齢者の認知機能に与える影響. 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019.6.6-8.

15. 鈴木隆雄，西田裕紀子，大塚礼，島田裕之，金憲経，北村明彦，藤原佳典，吉村典子，飯島勝矢，牧迫飛雄馬：わが国高齢者の身体機能、サルコペニア、フレイルに関する経時的変動について－長寿コホートの総合的研究（ILSA-J）より－．第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8.
16. 河合恒，大渕修一，渡邊裕，平野浩彦，藤原佳典，井原一成，小林吉之，持丸正明，対馬栄輝，中村耕三：スマートフォン内蔵GPSによって測定した日常生活歩行速度とフレイル関連指標との関係，第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8.
17. 解良武士，河合恒，平野浩彦，渡邊裕，小島基永，藤原佳典，井原一成，大渕修一：SARC-Fはサルコペニアよりも身体機能の虚弱状態を反映する，第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8.
18. 桜井良太，渡邊裕，大須賀洋祐，谷口優，河合恒，金憲経，北村明彦，稲垣宏樹，粟田主一，新開省二：アポリポ蛋白E4の保有と歩行速度低下の重積が高齢者の認知機能に与える影響．第61回日本老年医学会学術集会．宮城．2019.6.6-8.
19. 藤原佳典，桜井良太，河合恒，金憲経，鈴木宏幸，小川将，渡邊裕，平野浩彦，井原一成，大渕修一：独居は認知機能低下のリスクとなるか？：ソーシャルネットワークの多寡に着目した検討，第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8.
20. 村山洋史，小林江里香，深谷太郎，岡本翔平，石崎達郎，Jersey Liang，新開省二：全国代表サンプルを用いた日本人高齢者のFrailtyの分布推計と健康アウトカムとの関連．第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8.
21. 小林江里香，村山洋史，深谷太郎，岡本翔平，石崎達郎，Jersey Liang，新開省二：全国高齢者代表サンプルにおけるFrailtyの5年間の変化と社会・心理的要因．第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8.
22. 高橋競，村山洋史，田中友規，高瀬麻以，飯島勝矢：地域高齢者の孤食に関する質的研究：なぜ、同居家族がいるのに孤食になるのか？．第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8.
23. 小川将，鈴木宏幸，高橋知也，飯塚あい，小林桃子，藤原佳典：基本属性に着目した絵本読み聞かせ講座の介入効果の比較．第34回日本老年精神医学会，仙台，2019.6.6-8.
24. 長谷部雅美，野中久美子，桜井良太，松永博子，藤原佳典：高齢者の社会参加における心理的負担と主観的健康感との関連．第61回日本老年社会科学会，仙台，2019.6.7-8.
25. 根本裕太，野中久美子，長谷部雅美，小池高史，南潮，村山陽，村山洋史，小林江里香，藤原佳典：地域高齢者における世代内／世代間交流が精神的健康および健康度自己評価に与える影響－都市部在住高齢者を対象とした2年間の縦断調査の結果から．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
26. 高橋知也，鈴木宏幸，小川将，飯塚あい，小林桃子，藤原佳典：高齢者の世代間交流を促す介入プログラムが子どもイメージに及ぼす影響．日本老年社会科学会，仙台，2019.6.7-8.
27. 小川将，鈴木宏幸，高橋知也，村山陽，松永博子，藤田幸司，本橋豊，藤原佳典：高齢者ボランティアとの協働による「SOSの出し方に関する授業」の開発と評価：REPRINTS研究より．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
28. 西中川まき，長谷部雅美，村山陽，松永博子，西真理子，深谷太郎，成田美紀，小林江里香，藤原佳典：地域高齢者における就労および趣味・ボランティア活動と健康度自己評価との関連．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
29. 野中久美子，倉岡正高，村山幸子，根本裕太，田中元基，村山陽，小林江里香，藤原佳典：多世代住民間での情緒的サポート授受経験が他者への日常生活支援提供意向に与える影響．第61回日本老年社会科学会，仙台，2019.6.7-8.
30. 村山幸子，高橋知也，小林江里香，安永正史，長谷部雅美，小川将，藤原佳典：サロン活動への継続参加意欲を規定する要因の検討．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
31. 江尻愛美，河合恒，藤原佳典，井原一成，渡邊裕，平野浩彦，金憲経，大渕修一：都市高齢者における孤立の発生に対する社会参加の予防効果－3年間の縦断研究－，第61回日本老年社会科学会大会，仙台，2019.6.7-8.
32. 岡本翔平，小林江里香，深谷太郎，村山洋史，菅原育子，新開省二：高齢期の就労が健康行動に与える影響：疑似実験的アプローチによる分析．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
33. 村山陽，長谷部雅美，西真理子，藤原佳典：単身高齢者の親族および近隣多世代との互助関係パターンと主観的健康感との関連．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
34. 藤原佳典：導入編：地域包括ケア時代の高齢者就労モデルとは，自主企画フォーラム「介護福祉領域における高齢者就労の現状と課題―地域包括ケア時代の高齢者就労モデルとは―」第61回日本老年社会科学会，仙台，2019.6.6-8.
35. 高橋知也：介護事業所における高齢者就労の実情：企業・事業所調査の結果から，自主企画フォーラム「介護福祉領域における高齢者就労の現状と課題―地域包括ケア時代の高齢者就労モデルとは―」．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
36. 松永博子：東京都大田区A地区のシニアステーションジョブカフェの取組み，自主企画フォーラム「介護福祉領域における高齢者就労の現状と課題―地域包括ケア時代の高齢者就労モデルとは―」．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
37. 野中久美子：都市部にて多世代住民間互助を促す仕組みとは，自主企画フォーラム「変容する地域社会における世代間関係を考える」．第61回日本老年社会科学会，仙台，2019.6.7-8.
38. 松永博子，藤田幸司，佐々木久長，本橋豊：地域高齢者の孤食・同居者の有無と心の健康の関連について．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.

39. 天笠志保，井上茂，村山洋史，藤原武男，菊池宏幸，福島教照，町田征己，菖蒲川由郷：豪雪地域在住高齢者における非積雪期と積雪期の加速度計で評価した身体活動パターンの比較：NEIGE study：Compositional data analysisを用いた縦断研究．第22回日本運動疫学会学術総会，東京，2019.6.22-23.
40. 根本裕太，西中川まき，佐藤慎一郎，藤原佳典，荒尾孝：地域在住高齢者を対象とした複合的認知機能低下予防プログラムの効果検証：無作為化比較対照試験．第28回日本健康教育学会学術大会，東京，2019.6.29-30.
41. 根本裕太：運動と認知症，シンポジウム「超高齢社会の日本にこれから必要な健康教育・ヘルスプロモーションとは何か？」．第28回日本健康教育学会学術大会，東京，2019.6.29-30.
42. 桜井良太：身体活動量の低下と歩行機能低下が認知機能に及ぼす影響―その疫学的知見と背景メカニズム―．認知症と口腔機能研究会第1回学術集会，東京，2019.8.4.
43. 土谷瑠夏，田口敦子，松永篤志，村山洋史：農業地域在住の壮年期住民におけるロコモティブシンドロームの実態と関連要因の検討．第22回日本地域看護学会学術集会，横浜，2019.8.17-18.
44. 野中久美子：工程表のつくり方～目指す地域の姿を実現するためのステップはどのように考えたらよいか～．いきがい・助け合いサミット(公益財団法人さわやか福祉財団)，大阪，2019.9.10.
45. 藤原佳典：社会参加のステージに応じた「居場所」とは～世代間交流ボランティア「りぷりんと」より．いきがい・助け合いサミット(公益財団法人さわやか福祉財団)．大阪，2019.9.10.
46. 佐藤研一郎，鈴木宏幸，小川将，高橋知也，山城大地，長大介：高齢者を対象とした筆記・口頭で回答する語想起における加齢の影響．日本心理学会第83回大会，大阪，2019.9.11-13.
47. 長大介，小川将，高橋知也，山城大地，佐藤研一郎，鈴木宏幸：地域在住高齢者を対象とした集団版認知機能検査の特徴(1)．日本心理学会第83回大会，大阪，2019.9.11-13.
48. 小川将，長大介，高橋知也，山城大地，佐藤研一郎，鈴木宏幸：地域在住高齢者を対象とした集団版認知機能検査の特徴(2)．日本心理学会第83回大会，大阪，2019.9.11-13.
49. 鈴木宏幸，小川将，高橋知也，山城大地，佐藤研一郎，長大介：高齢者を対象とした語想起課題における筆記で実施した際の特徴．日本心理学会第83回大会，大阪，2019.9.11-13.
50. 藤原佳典：高齢者の学びと地域貢献活動，シンポジウム「高齢社会と社会教育」．日本社会教育学会第66回研究大会，東京，2019.9.13-15.
51. 桜井良太，雨宮誠一朗，児玉謙太郎，藤原佳典：錯視が高齢者の歩行に及ぼす影響：錯視歩行路を用いた検討．第74回日本体力医学会大会．茨城．2019.9.19-21.
52. 清野諭，阿部巧，北村明彦，谷口優，横山友里，天野秀紀，西真理子，野藤悠，成田美紀，池内朋子，藤原佳典，新開省二：75歳以上男女の身体組成指標と総死亡リスクとの量・反応関係．第74回日本体力医学会大会，茨城，2019.9.19-21.
53. 村山陽，長谷部雅美，高橋知也，小林江里香：単身中高年者における近隣との関わりにくさとは：グループインタビュー調査による分析，日本質的心理学会第16回大会，東京，2019.9.21-22.
54. 小川将，小林桃子，鈴木宏幸，高橋知也，飯塚あい，藤原佳典：高齢者の絵本読み聞かせボランティアの入会者の特徴．第32回健康心理学会，東京，2019.9.28-29.
55. 倉岡正高，飯塚あい，藤原佳典，杉啓以子：世代間で予防接種の大切さを考えよう日本キャンペーンに関する取り組みと課題．日本世代間交流学会第10回大会，東京，2019.10.6.
56. 高橋知也，小川将，鈴木宏幸，野中久美子，藤原佳典：「高齢者における子ども観尺度」の作成に向けた予備的検討―既存尺度の適用可能性および高齢者による子どもイメージの自由記述から―．日本世代間交流学会第10回大会第61回大会，東京，2019.10.6.
57. 飯塚あい，倉岡正高，安永正史，藤原佳典：囲碁を活用した世代間交流プログラムが児童の高齢者イメージに及ぼす影響．日本世代間交流学会第10回大会，東京，2019,10.6.
58. 相良友哉，大澤絵里，藤原佳典：保健センターが多世代の住民を対象にした事業における他分野連携の実態．日本世代間交流学会第10回大会，東京，2019.10.6.
59. 村山陽，長谷部雅美，山口淳，藤原佳典：自己有用感を伴う世代間交流と精神的健康との関連：自尊感情の媒介効果の検討．日本世代間交流学会第10回全国大会，東京，2019.10.6.
60. 藤原佳典，村山陽，安永正史，倉岡正高：ジェネラティビティは地域高齢者の健康状態を予測するか？．日本世代間交流学会第10回大会，東京，2019.10.6.
61. 桜井良太：社会的孤立・社会参加と健康，シンポジウム4「社会的孤立と社会参加」．第9回日本認知症予防学会学術集会，愛知，2019.10.18-20.
62. 藤原佳典：生涯学習を通じた社会参加型認知症予防～知的活動と社会交流に着目して，シンポジウム4「社会的孤立と社会参加」．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋，2019.10.18-20.
63. 村山洋史，宮前史子，宇良千秋，佐久間尚子，杉山美香，稲垣宏樹，岡村毅，栗田主一：地域レベルのソーシャルキャピタルと認知機能低下との関連：Population-basedデータによるマルチレベル分析．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋，2019.10.18-20.

64. 高橋知也，野中久美子，松永博子，長谷部雅美，村山洋史，小池高史，藤原佳典：都市在住高齢者における就業の有無および継続に関連する要因：２年間の前向きコホート調査の結果から．第14回日本応用老年学会，京都，2019.10.19-20.
65. 松永博子，藤田幸司，佐々木久長，播摩優子，金子善博，本橋豊：青壮年者の望む老後像と社会的格差との 関連に関する研究．第14回日本応用老年学会，京都，2019.10.19-20.
66. 小川将，鈴木宏幸，飯塚あい，山内美紗子，村山幸子，高橋知也，藤原佳典：地域在住高齢者の反すうと注意機能との関連：Trail Making Test (TMT)を用いた検討．日本応用老年学会第14回大会，京都，2019.10.19-20.
67. 相良友哉，深谷太郎，大澤絵里，藤原佳典：高齢者支援事業における保健センターと他分野連携好事例の類型化．第14回日本応用老年学会大会，京都，2019.10.19-20.
68. 藤原佳典，倉岡正高，野中久美子，田中元基，村山幸子，松永博子，根本裕太，高橋知也，村山洋史，稲葉陽二，村山陽，渡辺修一郎，小林江里香：働く高齢者における職種別にみたジェネラティビティの差異．日本応用老年学会第14回大会，京都，2019.10.19-20.
69. 橋本由美子，渡辺修一郎，野中久美子，小池高史，長谷部雅美，村山陽，鈴木宏幸，深谷太郎，小林江里香，藤原佳典：独居高齢者の配偶関係からみた類型と精神的健康状態および社会的役割との関連．第14回日本応用老年学会大会，京都，2019.10.19-20.
70. 河合恒，大渕修一，平山亮，渡邊裕，平野浩彦，藤原佳典，井原一成，金憲経，小林吉之，持丸正明，対馬栄輝，中村耕三：スマートフォン内蔵GPSによって測定した日常生活における歩行速度の日内変動．第14回日本応用老年学会大会，京都，2019.10.19-20.
71. 解良武士，河合恒，平野浩彦，小島基永，渡邊裕，本川佳子，金憲経，藤原佳典，井原一成，大渕修一：サルコペニア・フレイルのスクリーニングツールとしてのSARC-FとSARC-F-3の有用性．第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
72. 白部麻樹，江尻愛美，伊藤久美子，河合恒，井原一成，金憲経，渡邊裕，平野浩彦，藤原佳典，大渕修一：地域在住高齢者の運動習慣と身体機能および口腔機能に関する検討．第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
73. 高橋淳太，河合恒，鈴木宏幸，藤原佳典，渡邊裕，平野浩彦，金憲経，井原一成，三木明子，大渕修一：タブレット型コンピュータを利用した認知機能検査による2年後のMCI発症の予測能について．第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
74. Kobayashi-Cuya K, Sakurai R, Nonaka K, Koike T, Hasebe M, Murayama Y, Kobayashi E, Fujiwara Y: The role of education on financial perception and mental health in older adults. The 78th Annual Meeting of Japanese Society of Public Health, Kochi, 2019.10.23-25.
75. 高橋知也，村山陽，長谷部雅美，小林江里香：中高年者はどのような場面で周囲からの孤立を感じるか？―定性的分析による検討―．第78回日本公衆衛生学会，高知，2019.10.23-25.
76. 根本裕太，倉岡正高，野中久美子，田中元基，村山幸子，松永博子，村山陽，小林江里香，村山洋史，渡辺修一郎，稲葉陽二，藤原佳典：若年層と中年層における世代間交流が精神的健康に与える影響：2年間の縦断研究．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
77. 小川将，鈴木宏幸，高橋知也，福嶋史江，横道淳子，石堂純子，小澤彩，松永博子，藤田幸司，本橋豊，藤原佳典：高齢者ボランティアとの協働による「SOSの出し方に関する教育」の実践：その2．第78回公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
78. 西中川まき，桜井良太，長谷部雅美，村山陽，西真理子，渡辺修一郎，藤原佳典：若年層・中年層・高年層における栄養バランスの良い食事摂取頻度の関連要因の検討．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
79. 倉岡正高，野中久美子，村山幸子，根本裕太，田中元基，小林江里香，藤原佳典：多世代共創社会のまちづくり：助け合いを促す協議体の立ち上げと運営手法．第78回公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
80. 倉岡正高：多世代交流を促すコーディネーターなど人材育成手法，ミニシンポジウム1「高齢者支援と子ども・子育て支援における地域多世代型アプローチは可能か？」．第78回公衆衛生学会総会，高知市，2019.10.23-25.
81. 野中久美子：住民間の緩やかな助け合いを促す多世代交流拠点とプログラムの運営手法．ミニシンポジウム1「高齢者支援と子ども・子育て支援における地域多世代型アプローチは可能か？」，第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
82. 藤原佳典：今、なぜ多世代アプローチなのか？．ミニシンポジウム1「高齢者支援と子ども・子育て支援における地域多世代型アプローチは可能か？」，第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
83. 松永博子，藤田幸司，佐々木久長，播摩優子，本橋豊：地域における勤労世代の希死念慮とその関連要因の分析．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
84. 飯塚あい，倉岡正高，藤原佳典：高齢者の世代間交流活動に対する保健機関の支援と予防接種状況の関連～RIPRINTSより～．第78回日本公衆衛生学会総会，2019,10.23-25.
85. 深谷太郎，相良友哉，大澤絵里，中板育美，藤内修二，尾島俊之，村山洋史，村中峯子，松永洋子,清水由美子，藤原佳典：包括的支援体制構築に向けた保健センターと他分野連携に関する研究(1)量的研究．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.

86. 相良友哉，深谷太郎，大澤絵里，中板育美，藤内修二，尾島俊之，村山洋史，村中峯子，松永洋子,清水由美子，藤原佳典：包括的支援体制構築に向けた保健センターと他分野連携に関する研究(2)質的研究．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
87. 野中久美子，倉岡正高，村山幸子，根本裕太，村山陽，小林江里香，村山洋史，渡辺修一郎，福島富士子，藤原佳典：多世代共創社会のまちづくり：多世代交流サロンで助け合いを促す運営手法．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
88. 村山幸子，倉岡正高，野中久美子，根本裕太，村山陽，小林江里香，村山洋史，渡辺修一郎，福島富士子，藤原佳典：多世代共創社会のまちづくり：住民主体による挨拶運動の立ち上げと運営手法．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
89. 村山陽，野中久美子，倉岡正高，村山幸子，根本裕太，小林江里香，村山洋史，渡辺修一郎，稲葉陽二，福島富士子，藤原佳典：多世代共創社会のまちづくり：多世代交流がジェネラティビティの醸成に与える影響．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
90. 藤原佳典，桜井良太，倉岡正高，野中久美子，村山幸子，根本裕太，村山陽，村山洋史，渡辺修一郎，小林江里香：地域高齢者における健康無関心層の実態と関連要因の解明．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
91. 岡本翔平，小林江里香，深谷太郎，村山洋史，新開省二：中高年者の認知機能低下における男女差の要因分解．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
92. 北村明彦，西真理子，清野諭，横山友里，野藤悠，谷口優，遠峰結衣，天野秀紀，藤原佳典，新開省二：高齢住民に介護予防につながる行動変容を促す機能チェックフィードバック票の開発．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
93. 山下真里，西真理子，北村明彦，横山友里，清野諭，野藤悠，増井幸恵，藤原佳典，新開省二：地域資源や社会参加へのニーズが乏しい高齢者の特徴－インタビュー調査の分析．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
94. 河合恒，西村悦子，江尻愛美，安永正史，藤原佳典，大渕修一：知識工学を用いた住民主体の地域介護予防を支援するための知識の構造化．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
95. 桜井良太，河合恒，金憲経，鈴木宏幸，小川将，渡邊裕，平野浩彦，井原一成，大渕修一，藤原佳典，孤食と抑うつの関連―居住形態とソーシャルネットワークの多寡に着目した検討―．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
96. 村山洋史，田口敦子，児玉康子：豪雪地域在住高齢者の生活支援ニーズの実態．第78回日本公衆衛生学会，高知，2019.10.23-25.
97. 藤原佳典：「我が事・丸ごと」共生社会の胆は？．ミニシンポジウム2「地域共生社会に向けた「保健活動」の展開」，第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
98. 村山洋史：「包括的支援体制構築に向けた保健センターと他分野の連携に関する研究」でみえたこと．ミニシンポジウム2「地域共生社会に向けた「保健活動」の展開」，第78回日本公衆衛生学会，高知，2019.10.23-25.
99. 野藤悠，横山友里，成田美紀，清野諭，村山洋史，吉田由佳，谷垣知美，北村明彦，新開省二：住民主体で運営するフレイル予防教室の栄養プログラムの効果．第78回日本公衆衛生学会，高知，2019.10.23-25.
100. 横山友里，清野諭，光武誠吾，西真理子，村山洋史，成田美紀，石崎達郎，野藤悠，北村明彦，新開省二．フレイル改善のための複合プログラムが要介護・死亡リスクと介護給付費に及ぼす影響．第78回日本公衆衛生学会，高知，2019.10.23-25.
101. 菖蒲川由郷，村山洋史，藤原武男，井上茂，天笠志保，齋藤玲子．高齢者の幸福感と関連する要因の分析:NEIGE studyより．第78回日本公衆衛生学会，高知，2019.10.23-25.
102. 伊藤海，田口敦子，大森純子，村山洋史：豪雪地域在住高齢者への生活支援の担い手に関する実態調査（第１報）．第78回日本公衆衛生学会，高知，2019.10.23-25.
103. 田口敦子，伊藤海，大森純子，村山洋史：豪雪地域在住高齢者への生活支援の担い手に関する実態調査（第２報）．第78回日本公衆衛生学会，高知，2019.10.23-25.
104. 田中元基，金子善博，藤田幸司，木津喜雅，本橋豊：児童生徒のSOSの出し方に関する教育における授業実践についての検討．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
105. 解良武士，河合恒，平野浩彦，小島基永，藤原佳典，渡邊裕，本川佳子，井原一成，大須賀洋祐，金憲経，小島成実，大渕修一：SARC-Fは地域高齢者のスクリーニングツールとしては十分ではない．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
106. 解良武士，河合恒，平野浩彦，小島基永，藤原佳典，渡邊裕，本川佳子，井原一成，金憲経，大渕修一：サルコペニアは呼吸筋サルコペニアを誘発する．第28回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会，千葉，2019.11.9-10.
107. 藤原佳典：地域包括ケア時代におけるペットとの共生．パネルディカッション「人と動物の関係学」，第8回ペットとの共生推進シンポジウム，東京，2019.11.17.
108. 解良武士，河合恒，平野浩彦，渡邊裕，小島基永，藤原佳典，井原一成，大渕修一：呼吸筋サルコペニアが身体・口腔機能に及ぼす影響．第35回日本私立医科大学理学療法研究会学術集会，名古屋，2019.11.25.

109. 藤原佳典：りぷりんと活動の15年シニアが子どもの発達、コミュニティ再生に果たす役割．ミニシンポジウム1「絵本読み聞かせによる世代間交流」，第11回日本子育て学会，東京，2019．11.30-12.1.
110. 西中川まき，桜井良太，村山陽，長谷部雅美，西真理子，松永博子，成田美紀，藤原佳典：教育歴および主観的経済状況が野菜料理の摂取量に及ぼす影響の世代別検討．第30回日本疫学会学術総会，京都，2020.2.20-22.
111. 北村明彦，稲垣宏樹，桜井良太，下地啓五，徳丸阿耶，栗田主一，新開省二：高齢者健診受診者の脳MRI画像所見と認知機能・生活機能障害との関連：高島平スタディー．第30回日本疫学会総会，京都，2020.2.20-22.
112. 天野秀紀，北村明彦，西真理子，野藤悠，清野諭，横山友里，藤原佳典，新開省二：要介護認定で見られる「認知症」の多様性：発症時重症度と発症前認知機能・抑うつ関連症状の推移に基づく類型化．第30回日本疫学会総会，京都，2020.2.20-22.
113. 清野諭，北村明彦，遠峰結衣，西真理子，野藤悠，横山友里，天野秀紀，藤原佳典，新開省二：高齢者における運動実践形態と2年間の身体機能低下との関連．第30回日本疫学会総会，京都，2020.2.20-22.
114. 藤原佳典，鈴木宏幸，河合恒，小川将，桜井良太，金経憲，平野浩彦，渡邊裕，井原一成，大渕修一：フレイルは認知機能低下のリスクとなるか？：認知機能の領域別にみた検討．第30回日本疫学会学術総会，京都，2020.2.20-22.
115. 田中元基，徳永聖子：放課後等デイサービスの送迎を徒歩で行う実践の分析：一人の子どもの下校路に対する語りから捉えた意義．日本発達心理学会第31回大会，大阪，2020.3.2-4.
116. 徳永聖子，田中元基：放課後等デイサービスの送迎を徒歩で行う実践の分析：一人の子供の支援を通して支援者が捉えた意義．日本発達心理学会第31回大会，大阪，2020.3.2-4.
117. 吉野さやか，田中元基，馬場優子，関口久恵，本橋豊：児童生徒のSOSの出し方に関する教育の実施者による質的評価の検討．日本発達心理学会第31回大会，大阪，2020.3.2-4
118. 森裕樹，野中久美子，倉岡正高，村山幸子，西中川まき，根本裕太，藤原佳典：住民への地域づくりの普及啓発を目的とした情報媒体の特徴：住民同士が助け合える地域づくりの推進に向けて．日本環境心理学会第13回大会，北海道，2020.2.1.

2　誌上発表

(1) 原著

1. ★◎Nonaka K, Fujiwara Y, Watanabe S, Ishizaki T, Iwasa H, Amano H, Yoshida Y, Kobayashi E, Sakurai R, Suzuki H, Kumagai S, Shinkai S, Suzuki T: Is unwilling volunteering protective for functional decline? The interactive effects of volunteer willingness and engagement on health in a 3-year longitudinal study of Japanese older adults. Geriatrics & Gerontology International, 19(7), 673-678, 2019.4. (査読あり)(IF: 2.118, 2018/2019).
2. 原田謙，小林江里香，深谷太郎，村山陽，高橋知也，★藤原佳典：高齢者の若年者に対する否定的態度に関連する要因；世代間関係における「もうひとつのエイジズム」．老年社会科学，41(1)，28-37，2019.4.（査読あり）．
3. Asaoka H, Takahashi T, Chen J, Fujiwara A, Watanabe M, Noro F: Difficulties spontaneously performing level 2 perspective-taking skills in children with autism spectrum disorder. Advances in Autism, 5(4), 243-254, 2019.4. (査読あり)(IF: 0.450, 2018/2019).
4. Taniguchi Y, Watanabe Y, Osuka Y, Kitamura A, Seino S, Kim H, Kawai H, Sakurai R, Inagaki H, Awata S, Shinkai S: Characteristics for gait parameters of community- dwelling elderly Japanese with lower cognitive function. PLoS One, 14(3):e0212646. 2019.5. doi: 10.1371/journal.pone.0212646. eCollection. (査読あり)(IF: 2.776, 2018/2019).
5. Kitamura A, Taniguchi Y, Seino S, Yokoyama Y, Amano H, Fujiwara Y, Shinkai S: Combined effect of diabetes and frailty on mortality and incident disability in older Japanese adults. Geriatrics & Gerontology International, 19(5), 423-428, 2019.5. (査読あり)(IF: 2.118, 2018/2019).
6. Abe T, Kitamura A, Taniguchi Y, Amano H, Seino S, Yokoyama Y, Nishi M, Narita M, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S: Pathway from gait speed to incidence of disability and mortality in older adults: A mediating role of physical activity. Maturitas, 123, 32-36, 2019.5. (査読あり)(IF: 3.654, 2018/2019).
7. Kera T, Kawai H, Hirano H, Kojima M, Watanabe Y, Motokawa K, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Obuchi S: Definition of respiratory sarcopenia with peak expiratory flow rate. J Am Med Dir Assoc, 2019.5. doi: 10.1016/j.jamda.2018.12.013. [Epub ahead of print] (査読あり) (IF: 4.899, 2018/2019).
8. Carandang RR, Shibanuma A, Kiriya J, Asis EL, Chavez DC, Meana M, Murayama H, Jimba M: Determinants of depressive symptoms in Filipino senior citizens of the community-based ENGAGE study. Archives of Gerontology & Geriatrics, 82, 186-191, 2019.5/6. (査読あり) (IF=2.611, 2008/2019).
9. ◎Iizuka A, Suzuki H, Ogawa S, Kobayashi-Cuya KE, Kobayashi M, Takebayashi T, ★Fujiwara Y: Can cognitive leisure activity prevent cognitive decline in older adults? A systematic review of intervention studies. Geriatrics & Gerontology International, 19(6): 469-482, 2019.6. (査読あり)(IF: 2.118, 2018/2019).

10. ★◎村山洋史, 小宮山恵美, 平原佐斗司, 野中久美子, 飯島勝矢, 藤原佳典: 在宅医療推進のための多職種連携研修プログラム参加者におけるソーシャルキャピタル醸成効果:都市部での検証. 日本公衆衛生雑誌, 66(6), 317-326, 2019.6.
11. Seino S, Kitamura A, Tomine Y, Tanaka I, Nishi M, Taniguchi Y, Yokoyama Y, Amano H, Fujiwara Y, Shinkai S: Exercise Arrangement Is Associated with Physical and Mental Health in Older Adults. Med Sci Sports Exerc, 51(6), 1146-1153, 2019.6. (査読あり) (IF: 4.478, 2018/2019).
12. Taniguchi Y, Kitamura A, Kaito S, Yokoyama Y, Yokota I, Shinozaki T, Seino S, Murayama H, Matsuyama Y, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S: Albumin and Hemoglobin Trajectories and Incident Disabling Dementia in Community-Dwelling Older Japanese. Dement Geriatr Cogn Disord, 17:1-10, 2019.7. doi: 10.1159/000499837. [Epub ahead of print] (査読あり) (IF: 2.260, 2018/2019).
13. ★◎Murayama H, Sugiyama M, Inagaki H, Ura C, Miyamae F, Edahiro A, Motokawa K, Okamura T, Awata S: The differential effects of age on the association between childhood socioeconomic disadvantage and subjective symptoms of dementia among older Japanese people. Journal of Epidemiology, 29(7), 241-246, 2019.7. (査読あり)(IF: 3.078, 2018).
14. Kawai H, Taniguchi Y, Seino S, Sakurai R, Osuka Y, Obuchi S, Watanabe Y, Kim H, Inagaki H, Kitamura A, Awata S, Shinkai S: Reference values of gait parameters measured with a plantar pressure platform in community-dwelling older Japanese adults. Clin Interv Aging, 2019:14, 1265-1276, 2019.7. (査読あり)(IF: 2.585, 2018/2019).
15. 稲葉陽二, 藤原佳典, 小林江里香, 野中久美子, 倉岡正高, 田中元基, 村山幸子, 松永博子, 安永正史, 村山洋史, 渡辺修一郎: 世代間交流と社会関係資本の継承－長野県須坂市調査と首都圏２自治体調査の比較からの知見. 政経研究, 56(1), 46-74, 2019.7. (査読なし).
16. ◎★Sakurai R, Watanabe Y, Osuka Y, Taniguchi Y, Kawai H, Kim H, Kitamura A, Inagaki H, Montero-Odasso M, Awata S, Shinkai S: Overlap between Apolipoprotein Eε4 Allele and Slowing Gait Results in Cognitive Impairment. Frontiers in Aging Neuroscience, 2019.9. (査読あり)(IF: 3.633, 2018/2019).
17. Ejiri M, Kawai H, Fujiwara Y, Ihara K, Watanabe Y, Hirano H, Kim H, Ishii K, Oka K, Obuchi S: Social participation reduces isolation among the Japanese elderly: a 3-year longitudinal study. PLoS ONE, 14(9): e0222887, 2019.9. (査読あり) (IF: 2.776, 2008/2019).
18. Kera T, Kawai H, Hirano H, Kojima M, Watanabe Y, Motokawa K, Fujiwara Y, Ihara K, Kim H, Obuchi S: SARC-F: A validation study with community-dwelling older Japanese adults. Geriatr Gerontol Int, 2019.9. doi: 10.1111/ggi.13768. [Epub ahead of print]. (査読あり)(IF: 2.118, 2018/2019).
19. ◎Takahashi T, Nonaka K, Matsunaga H, Hasebe M, Murayama H, Koike T, Kobayashi E, ★Fujiwara Y: Factors relating to social isolation in urban Japanese older people: A 2-year prospective cohort study. Archives of Gerontology and Geriatrics, 86, 2019.9. (査読あり)(IF: 2.611, 2018/2019).
20. 田口敦子, 備前真結, 松永篤志, 森下絵梨, 岩間純子, 小川尚子, 伊藤海, 村山洋史: 文献検討に基づく介護予防サポーター養成プログラムの作成と効果. 日本公衆衛生雑誌, 66(9), 582-592, 2019.9.
21. 野藤悠, 清野諭, 村山洋史, 吉田由佳, 谷垣知美, 横山友里, 成田美紀, 西真理子, 中村正和, 北村明彦, 新開省二: 兵庫県養父市におけるシルバー人材センターを機軸としたフレイル予防施策のプロセス評価およびアウトカム評価. 日本公衆衛生雑誌, 66(9), 560-573, 2019.9.
22. ★◎Murayama H, Ura C, Miyamae F, Sakuma N, Sugiyama M, Inagaki H, Okamura T, Awata S: Ecological relationship between social capital and cognitive decline in Japan: A preliminary study for dementia-friendly communities. Geriatrics & Gerontology International, 19(9), 950-955, 2019.9. (査読あり)(IF=2.118, 2018/2019).
23. Takase M, Murayama H, Hirukawa S, Sugimoto M, Ono S, Tanaka T, Kimata M: Which aspects of dining style are associated with depressive mood? A study at an assisted living facility in Japan. Journal of Nutrition in Gerontology & Geriatrics 38(4), 377-386, 2019.9. (査読あり)(IF=1.030, 2018/2019).
24. ◎松永博子, 高橋知也, 相良友哉, 西中川まき, 南潮, 野中久美子, ★藤原佳典: 専門職支援に向けた高齢者の就労支援窓口「ジョブカフェ」の試み. 世代間交流学会誌, 9(1), 29-34, 2019.10.(査読あり).
25. Abe T, Kitamura A, Seino S, Yokoyama Y, Amano H, Taniguchi Y, Nishi M, Narita M, Ikeuchi T, Tomine Y, Fujiwara Y, Shinkai S: Differences in the Prevalence of and Factors Associated with Frailty in Five Japanese Residential Areas. Int. J. Environ. Res. Public Health, 16(20), 2019.10. (査読あり)(IF: 2.468, 2018/2019).
26. ◎Murayama H, Amagasa S, Inoue S, Fujiwara T, Shobugawa Y: Sekentei and objectively-measured physical activity among older Japanese people: a cross- sectional analysis from the NEIGE Study. BMC Public Health, 19, 1331, 2019.10. (査読あり)(IF: 2.567, 2018/2019).
27. Carandang RZ, Asis E, Shibanuma A, Kiriya J, Murayama H, Jimba M: Unmet needs and coping mechanisms among community-dwelling senior citizens in the Philippines: A qualitative study. International Journal of Environmental Research and Public Health, 16(19), 3745, 2019.10. (査読あり)(IF: 2.468, 2018/2019).

28. Carandang RZ, Shibanuma A, Kiriya J, Vardeleon KR, Marges MA, Asis E, Murayama H, Jimba M: Leadership and peer counseling program: Evaluation of training and its impact on Filipino senior peer counselors. International Journal of Environmental Research and Public Health, 16(21), 4108, 2019.10. (査読あり)(IF: 2.468, 2018/2019).
29. Igarashi K, Watanabe Y, Kawai H, Motokawa K, Umeki K, Ito M, Kera T, Kojima M, Ihara K, Fujiwara Y, Kim H, Obuchi S, Hirano H, Kawai Y: Relation between knee extension torque and occlusal force in community-dwelling elderly adults. J Oral Sci, 2019.10. doi: 10.2334/josnusd.18-0381. [Epub ahead of print] (査読あり)(IF: 2.750, 2018/2019).
30. 村山陽, 長谷部雅美, 高橋知也, 小林江里香: 首都圏に居住する単身世帯の中高年者における近隣との世代間交流の必要性の認識：同居世帯の中高年者との比較から. 日本世代間交流学会誌, 2019.10. (査読あり).
31. ◎★Sakurai R, Kawai H, Suzuki H, Kim H, Watanabe Y, Hirano H, Ihara K, Obuchi S, Fujiwara Y: Poor Social Network, Not Living Alone, Is Associated With Incidence of Adverse Health Outcomes in Older Adults. J Am Med Dir Assoc, 20(11), 1438-1443, 2019.11. (査読あり)(IF: 4.899, 2018/2019).
32. Okamura T, Sugiyama M, Inagaki H, Murayama H, Ura C, Miyamae F, Edahiro A, Motokawa K, Awata S: Anticipatory anxiety about future dementia-related care needs: Toward a dementia-friendly community. Psychogeriatrics, 19(6), 2019.11. (査読あり)(IF: 1.518, 2018/2019).
33. ★◎Murayama H, Miyamae F, Ura C, Sakuma N, Sugiyama M, Inagaki H, Okamura T, Awata S: Does community social capital buffer the relationship between educational disadvantage and cognitive impairment? A multilevel analysis in Japan. BMC Public Health, 19, 1442, 2019.11. (査読あり)(IF: 2.567, 2018/2019).
34. ◎小川将, 鈴木宏幸, 高橋知也, 村山陽, 松永博子, 藤田幸司, 本橋豊, ★藤原佳典: 高齢者ボランティアとの協働によるSOSの出し方に関する教育授業の開発と評価：中学生への3ヶ月持続効果の検討. 自殺総合政策研究, (印刷中)(査読あり).
35. 北村明彦, 清野諭, 谷口優, 横山友里, 天野秀紀, 西真理子, 野藤悠, 成田美紀, 池内朋子, 阿部巧, 藤原佳典, 新開省二: 高齢者の自立喪失に及ぼす生活習慣病、機能的健康の関連因子の影響：草津町研究. 日本公衛誌, 67(2), 134-145. (査読あり).
36. Seino S, Kitamura A, Abe T, Taniguchi Y, Yokoyama Y, Amano H, Nishi M, Nofuji Y, Narita M, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S. Dose-Response Relationships between Body Composition Indices and All-Cause Mortality in Older Japanese Adults. J Am Med Dir Assoc. 2020 Feb 14. pii: S1525-8610(19)30827-8. doi: 10.1016/j.jamda.2019.11.018. (査読あり) (IF: 4.899、2018/2019)
37. ★◎Taniguchi Y, Kitamura A, Ishizaki T, Fujiwara Y, Shinozaki T, Seino S, Mitsutake S, Suzuki H, Yokoyama Y, Abe T, Ikeuchi T, Yokota I, Matsuyama Y, Shinkai S. Association of Trajectories of Cognitive Function with Cause-Specific Mortality and Medical and Long-Term Care Costs. Geriatr Gerontol Int. 2019 Dec;19(12):1236-1242. (査読あり) (IF：2.118、2018/2019)
38. Kera T, Kawai H, Hirano H, Kojima M, Watanabe Y, Motokawa K, Fujiwara Y, Osuka Y, Kojima N, Kim H, Ihara K, Obuchi S: Limitations of SARC-F in the diagnosis of sarcopenia in community-dwelling older adults. Archives of Gerontology and Geriatrics, 87, 2020.3/4. (査読あり)(IF=2.611, 2008/2019).
39. ◎Murayama H, Sugiyama M, Inagaki H, Edahiro A, Okamura T, Ura C, Miyamae F, Motokawa K, Awata S: Childhood socioeconomic disadvantage as a determinant of late-life physical function in older Japanese people. Archives of Gerontology & Geriatrics, 87, 2019.3/4. (in press). (査読あり)(IF=2.611, 2008/2019).
40. Murayama Y, Yamazaki S, Yamaguchi J, Hasebe M, Fujiwara Y: Chronic Stressors, Stress Coping, and Depressive Tendencies among the Elderly. Geriatrics & Gerontology International, 2020.1. [Epub ahead of print]. (査読あり)(IF: 2.118, 2018/2019).
41. ◎Murayama H, Taguchi A, Spencer MS, Yamaguchi T: Efficacy of a community health worker-based intervention in improving dietary habits among community-dwelling older people: A controlled, cross-over trial in Japan. Health Education & Behavior, 47(1), 47-56. (査読あり)(IF=2.190, 2008/2019).
42. Nagamine Y, Fujiwara T, Tani Y, Murayama H, Tabuchi T, Kondo K, Kawachi I: Gender difference in the association between subjective socioeconomic mobility across life course and mortality at older ages: Results from the JAGES longitudinal study. Journal of Epidemiology. 2019.10. [Epub ahead of print] . (査読あり)(IF=3.078, 2008/2019).
43. Shobugawa Y, Murayama H, Fujiwara T, Inoue S: Cohort profile of the NEIGE study in Tokamachi city, Japan. Journal of Epidemiology, 2019.5. [Epub ahead of print]. (査読あり)(IF=3.078, 2018/2019).
44. 田口敦子, 村山洋史, 竹田香織, 伊藤海, 藤内修二: 地域保健に関わる住民組織の特徴と課題: 全国市町村への調査. 日本公衆衛生雑誌. 66(11), 712-722, 2019.11. (査読あり).
45. Amagasa S, Inoue S, Murayama H, Fujiwara T, Kikuchi H, Fukushima N, Machida M, Chastin S, Owen N, Shobugawa Y: Associations of sedentary and physically-active behaviors with cognitive-function decline in community-

dwelling older adults: Compositional data analysis from the NEIGE study. Journal of Epidemiology, (in press). (査読あり)(IF=3.078, 2008/2019).

46. Suthuvoravut U, Takahashi K, Murayama H, Tanaka T, Akishita M, Iijima K: Association between traditional Japanese diet Washoku and sarcopenia in community-dwelling older adults: Findings from the Kashiwa Study. Journal of Nutrition, Health and Aging, **24**, 282-289, 2020.1. (査読あり)(IF=2.660, 2008/2019).
47. Takahashi J, Kawai H, Suzuki H, Fujiwara Y, Watanabe Y, Hirano H, Hunkyung K, Ihara K, Miki A, Obuchi S: Development and validity of the Computer-Based Cognitive Assessment Tool for intervention in community dwelling elderly individual. Geriatrics & Gerontology International, (in press). (査読あり)(IF=2.118, 2018/2019)
48. Takahashi J, Kawai H, Suzuki H, Fujiwara Y, Watanabe Y, Hirano H, Hunkyung K, Ihara K, Ishii Kaori, Oka Koichiro, Obuchi S: Reliability and Validity of the Activity Diversity Questionnaire for Older Adults in Japan. International Journal of Environmental Research and Public Health, (in press). (査読あり)(IF=2.468, 2018/2019)
49. Ishibashi K, Onishi A, Wagatsuma K, Fujiwara Y, Ishii K: Longitudinal 18F-FDG images in patients with Alzheimer's disease over more than nine years from a preclinical stage. Clinical Nuclear Medicine, (in press). (査読あり)(IF=6.498, 2018/ 2019)
50. Kaito S, Taniguchi Y, Kitamura A, Seino S, Amano H, Yokoyama Y, Fukuda H, Yokokawa H, Fujiwara Y, Shinkai S, Naito T: Trajectories of Kidney Function and Associated Factors Among Community-Dwelling Older Japanese: A 16-year Longitudinal Study. Clinical and Experimental Nephrology, 2019.12. (査読あり)(IF=1.971, 2018/ 2019)
51. ◎Iizuka A, Ishii K, Wagatsuma K, Ishibashi K, Onishi A, Tanaka M, Suzuki H, Awata S, ★Fujiwara Y: Neural substrate of a cognitive intervention program using Go game: a positron emission tomography study. Aging Clinical and Experimental Research, 2020.1. [Epub ahead of print]. (査読あり) (IF=2.331, 2018/ 2019).
52. ◎Sagara T, Kaigo M, Tsujinaka Y: Meta-Cognition of Efficacy and Social Media Usage among Japanese Civil Society Organizations. Information, 11(2):118, 2020.2. (査読あり).
53. ◎★Inaba Y, Togawa K: Social capital in the creation of AI perception. Behaviormetrika, 2020.3. (査読あり).
54. ◎★Sakurai R, Kawai H, Suzuki H, Kim H, Watanabe Y, Hirano H, Ihara K, Obuchi S, Fujiwara Y: Association of eating alone with depression among older adults living alone: Role of poor social networks. Journal of Epidemiology, (in press). (査読あり)(IF=3.078, 2008/2019).

(2) 総説

1. ◎★根本裕太, 北畠義典, 稲山貴代, 荒尾孝: 小学校高学年児童および中学生における身体活動, スクリーンタイムと睡眠指標との関連の検討：横断研究. 運動疫学研究, 21(1), 28-37, 2019.6 (査読あり)

3 著書等

1. 野中久美子, 倉岡正高, 松村零那, 藤原佳典: 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 実社会対応プログラム 平成30年度実績報告書「多世代協働による生活支援モデルの開発と社会実装に向けた研究」. 2019.4.
2. 藤原佳典, 東憲太郎(監修): シニアは素敵な介護助手になる！. 社会保険出版社, 2019.4.
3. 鈴木宏幸, 小川将, 高橋知也, 村山陽, 山口淳, 藤原佳典: 平成30年度革新的自殺研究推進プログラム委託研究成果報告書「高齢者ボランティアと協働するソーシャル・キャピタル強化による自殺対策の推進に向けた研究」. 20-26, 2019.4.
4. 根本裕太, 藤原佳典, 丸尾和司, 荒尾孝: 地域在住高齢者を対象とした複合的認知機能低下予防プログラムの効果検証：無作為化比較対照試験. 第34回若手研究者のための健康科学研究助成成果報告書, 34, 26-31, 2019.4.
5. 藤原佳典: 知的活動と社会交流. Geriatric Medicine(老年医学), 57(4), 369-372, 2019.4. (査読なし).
6. 村山洋史: つながりで健康づくり(第1回) 運動でもない栄養でもない健康づくりの新常識. 健康づくり, 492, 17, 2019.4.
7. 倉岡正高, 野中久美子, 村山幸子, 根本裕太, 田中元基, 藤原佳典: 戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)研究平成30年度実施報告書「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域「ジェネラティビティで紡ぐ重層的な地域多世代共助システムの開発」, 2019.5.
8. 藤原佳典: 文部科学省科学研究費 基盤A「大都市求職高齢者の実態解明およびシームレスな社会参加支援に向けた研究」報告書. 2019.5.
9. 村山洋史: つながりで健康づくり(第2回) つながりの量と質、どっちが大切？. 健康づくり, 493: 28, 2019.5.
10. 鈴木宏幸: 高齢期の認知機能低下を適切に評価するための心理検査開発に係る包括的研究科学研究費助成事業実績報告書. 2019.6.
11. 鈴木宏幸: 囲碁を用いた認知機能低下抑制プログラムの開発と介入効果に関する総合的研究科学研究費助成事業実績報告書. 2019.6.
12. 鈴木宏幸: 高齢者を対象としたアミノ酸含有食品摂取による脳機能への効果検討―二重盲検比較試験―, KSO受託研究報告書. 2019.6.
13. 村山洋史: つながりで健康づくり(第3回) 日本人はつながっているのか？. 健康づくり, 494, 28, 2019.6.

14. 鈴木宏幸: 認知症の正しい理解と認知症予防, 全国市町村国際文化研修所WEBコラム. 2019.7.
15. 藤原佳典: 社会的フレイルの診断項目に独居は含まれるか―社会的フレイルと居住形態. 日本サルコペニア・フレイル学会誌, 3(1), 31-36, 2019.7.
16. 鈴木宏幸, 小川将: 平成31年度立川市絵本読み聞かせ講座実施報告書. 2019.7.
17. 田口敦子, 村山洋史, 竹田香織, 伊藤海, 藤内修二: 全国調査によるソーシャルキャピタルの醸成・活用方法. 公衆衛生情報, 49(4), 30-32. 2019.7.
18. 村山洋史: つながりで健康づくり(第4回) つながりが健康に影響するメカニズム. 健康づくり, 495, 28, 2019.7.
19. 村山洋史: つながりで健康づくり(第5回) 人づきあいにはユルさも大事. 健康づくり, 496, 28, 2019.8.
20. 野中久美子, 倉岡正高, 村山幸子, 西中川まき, 森裕樹, 根本裕太, 藤原佳典: 目指す地域の姿を実現するための工程表. 公益財団法人さわやか福祉財団, 2019.9.
21. 村山洋史: つながりで健康づくり(第6回) バーチャルなつながりは健康に有益か?. 健康づくり, 497, 28, 2019.9.
22. 藤原佳典: 多世代関係における高齢者のプロダクティビティー持続可能な地域共生社会をめざして. Aging & Health, 91, 22-29, 2019.10.
23. 藤原佳典: 第3章「社会参加」の意味・効果, 板橋区・板橋区社会福祉協議会(作成),藤原佳典(監修)「板橋区支え合い会議(第2層協議体)取り組みガイドブック」, 19-22. 2019.10.
24. 村山洋史: つながりで健康づくり(第7回) 地域のつながり「ソーシャルキャピタル」に注目. 健康づくり, 498, 28, 2019.10.
25. 野中久美子, 倉岡正高, 村山幸子, 西中川まき, 森裕樹, 根本裕太, 藤原佳典: 住民主体の助け合い活動が起きる機序の解明. 公益財団法人さわやか福祉財団受託事業報告書, 2019.11.
26. 北村明彦, 清野諭, 野藤悠, 藤原佳典, 新開省二: フレイルの概念について－公衆衛生的視点から－. 地域保健11月号, 2019.11.
27. 高橋知也: 第5章 統計の基礎知識. 佐野富士子・小田寛人(編)『英語教師力アップシリーズ5 授業力アップのための英語教師必携自己啓発マニュアル』, 37-53, 開拓社, 2019.11.
28. 村山洋史: つながりで健康づくり(第8回) ソーシャルキャピタルが高い地域に住むとなぜ健康なのか?. 健康づくり, 499, 28, 2019.11.
29. 村山洋史: つながりで健康づくり (第9回) なぜ夫と別れても妻は変わらず健康なのか?. 健康づくり, 500, 28, 2019.12. (印刷中).
30. 藤原佳典: 高齢者の就労と健康－就労支援の視点から－. 季刊 個人金融, 2019年秋号, 57-66.
31. 藤原佳典: 多世代交流・互助コミュニティプロジェクトー持続可能な多世代共創社会に向けて, 世代間交流, 2020. (印刷中).
32. 野中久美子, 澤登久雄: コラム 大都市部のメリットを最大限活かした「都市型見守りネットワーク」構築―東京都大田区の事例から. 藤原佳典(監修) 倉岡正高・石川貴美子(編)『保健福祉職のための「まち」の健康づくり入門―ソーシャル・キャピタルを活かした地域のネットワーク醸成法』ミネルヴァ書房, 2020. (印刷中).
33. 藤原佳典: 第2章 なぜソーシャルキャピタルが必要なのか. 藤原佳典(監修) 倉岡正高・石川貴美子(編)『保健福祉職のための「まち」の健康づくり入門―ソーシャル・キャピタルを活かした地域のネットワーク醸成法』ミネルヴァ書房, 2020. (印刷中).
34. 村山幸子 : 第4章 1節 収集した情報を統合し問題点を整理する―地域アセスメント. 藤原佳典(監修) 倉岡正高・石川貴美子(編)『保健福祉職のための「まち」の健康づくり入門―ソーシャル・キャピタルを活かした地域のネットワーク醸成法』ミネルヴァ書房, 2020. (印刷中).
35. 野中久美子: 第5章 3節 地域の様々な施設等と協働する―地域資源活用による計画・運営の強化. 藤原佳典(監修) 倉岡正高・石川貴美子(編)『保健福祉職のための「まち」の健康づくり入門―ソーシャル・キャピタルを活かした地域のネットワーク醸成法』ミネルヴァ書房, 2020. (印刷中).
36. 長谷部雅美: 第6章 課題を発見し現状を把握する. 藤原佳典(監修) 倉岡正高・石川貴美子(編),『保健福祉職のための「まち」の健康づくり入門―ソーシャル・キャピタルを活かした地域のネットワーク醸成法』ミネルヴァ書房, 2020. (印刷中).
37. 野中久美子: 第7章 事業・活動の維持・停滞克服のための手法. 藤原佳典(監修) 倉岡正高・石川貴美子(編)『保健福祉職のための「まち」の健康づくり入門―ソーシャル・キャピタルを活かした地域のネットワーク醸成法』ミネルヴァ書房, 2020. (印刷中).
38. Kuraoka M: Chapter 20 Multigenerational Cyclical Support System: Programs in Japan for "Designing a Sustainable Society through Intergenerational Co-creation" in M.Kaplan, L.L.Thang, J.Hoffman, & M.Sanchez(Eds.), Intergenerational Contact Zones: Place-based Strategies for Promoting Social Inclusion and Belonging, U.K. Routledge. 2020. (in press).

ヘルシーエイジングと地域保健研究

1 学会発表

(1) 海外

1. Kitamura A, Seino S, Abe T, Taniguchi Y, Yokoyama Y, Amano H, Narita M, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S. Sarcopenia and the risk of mortality and incident disability in community-dwelling older Japanese. The 11th

International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, Taiwan. Poster. 2019.10.23-27.

2. Aoyagi Y. Habitual intake of fermented milk products, regular engagement in moderate physical activity, and a reduced risk of lifestyle-related diseases in older people. 28th Symposium on Intestinal Flora, Yakult Hall (Tokyo). Lecture. 2019.11.1.
3. Ikeuchi T, Seino S, Taniguchi Y, Narita M, Abe T, Amano H, Kitamura A, Shinkai S. Influencing factors of subjective age: Findings from the Kusatsu Longitudinal Study on Aging and Health. The Gerontological Society of America's 2019 Annual Scientific Meeting, Phoenix, USA. Poster. 2019.9.22-25.
4. Ikeuchi T, Seino S, Taniguchi Y, Narita M, Abe T, Amano H, Yokoyama Y, Kitamura A, Shinkai S. Feeling younger at older age: Findings from the Kusatsu longitudinal Study on Aging and Health. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, Taiwan. Oral. 2019.10.23-27.
5. Taniguchi Y, Kitamura A, Ishizaki T, Fujiwara Y, Seino S, Mitsutake S, Suzuki H, Yokoyama Y, Abe T, Ikeuchi T, Shinkai S. Association of Trajectories of Cognitive Function with Cause-Specific Mortality and Medical and Long-Term Care Costs. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, Taiwan. Poster. 2019.10.23-27.
6. Abe T, Kitamura A, Seino S, Yokoyama Y, Amano H, Taniguchi Y, Sugiyama T, Shinkai S. Travel Modes by Frail Older Adults in Japan: Differences between Metropolitan, Suburban, and Rural Areas. 5th International Conference on Transport & Health, Melbourne, Australia. Poster. 2019.11.4-8.
7. Shinkai S, Seino S, Taniguchi Y, Amano H, Yokoyama Y, Narita M, Ikeuchi T, Kitamura A, Ito H. Hemoglobin A1c levels and the risk of total mortality in community-dwelling older adults without known diabetes. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, Taiwan. Poster. 2019.10.23-27.
8. Amamoto R, Park S, Matsubara S, Honda Y, Kushiro A, Miyazaki K, Shephard R.J, Aoyagi Y. Habitual intake of fermented milk products containing Lactobacillus casei strain Shirota and a reduces risk of hypertension in older people. 8th Symposium on probiotics, Mexico City. Poster. 2019.4.11-12.
9. Kugimiya Y, Watanabe Y, Ohara Y, Igarashi K, Hoshino D, Motokawa K, Edahiro A, Ueda T, Takano T, Sakurai K, Taniguchi Y, Kitamura A, Nasu I, Shinkai S, Hirano H. Investigation of masticatory performance-related factors associated with mixing ability and shearing ability in a community-dwelling elderly population. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, Taiwan. Poster. 2019.10.23-27.
10. Inaba K, Tomine Y, Seino S, Sugiura Y. Tablet Application for Heel-Raise Training by Detecting Facial Movement. SIGGRAPH Asia 2019, Brisbane. Poster. 2019.11.17-20.

(2) 国内

1. 北村明彦、清野諭、阿部巧、谷口優、天野秀紀、西真理子、横山友里、成田美紀、藤原佳典、新開省二．高齢健診受診者におけるサルコペニアの有病率と関連因子．第61回日本老年医学会学術集会（仙台国際センター等：仙台市）口演．2019.6.6-8.
2. 北村明彦、西真理子、清野諭、横山友里、野藤悠、谷口優、遠峰結衣、天野秀紀、藤原佳典、新開省二．高齢住民に介護予防につながる行動変容を促す機能チェックフィードバック票の開発．第78回日本公衆衛生学会総会（高知市文化プラザかるぽーと等：高知市）口演．2019.10.23-25.
3. 天野秀紀、北村明彦、横山友里、成田美紀、西真理子、谷口優、清野諭、吉田裕人、藤原佳典、新開省二．要介護認定で見られる「認知症」の発症様式・発症前認知機能変化に基づく類型化と類型別危険因子．第61回日本老年医学会学術集会（仙台国際センター等：仙台市）口演．2019.6.6-8.
4. 清野諭、北村明彦、阿部巧、谷口優、天野秀紀、西真理子、横山友里、成田美紀、藤原佳典、新開省二．地域在住高齢者の身体組成指標と総死亡リスクとの量・反応関係．第61回日本老年医学会学術集会（仙台国際センター等：仙台市）口演．2019.6.6-8.
5. 清野諭、北村明彦、遠峰結衣、西真理子、新開省二．大都市在住高齢者におけるフレイルの認知度とその関連要因．日本老年社会科学会第61回大会（仙台国際センター等：仙台市）口演．2019.6.6-8.
6. 清野諭、阿部巧、北村明彦、谷口優、横山友里、天野秀紀、西真理子、野藤悠、成田美紀、池内朋子、藤原佳典、新開省二．75歳以上男女の身体組成指標と総死亡リスクとの量・反応関係．第74回日本体力医学会大会（つくば国際会議場：つくば市）口演．2019.9.19-21.
7. 清野諭、遠峰結衣、田中泉澄、西真理子、北村明彦、新開省二．大都市高齢者のフレイル予防のための地域介入研究：2年間のアクションリサーチの評価．第78回日本公衆衛生学会総会（高知市文化プラザかるぽーと等：高知市）示説．2019.10.23-25.
8. 清野諭．高齢者を対象としたサルコペニア・フレイル予防のための複合的介入：ランダム化比較試験．第68回東日本整形外科学会（東京ドームホテル：東京都）シンポジウム．2019.9.5-6.
9. 野藤悠、横山友里、成田美紀、清野諭、村山洋史、吉田由佳、谷垣知美、北村明彦、新開省二．住民主体で運営するフレイル予防教室の栄養プログラムの効果．第78回日本公衆衛生学会総会（高知市文化プラザかるぽーと等：高知市）示説．2019.10.23-25.
10. 野藤悠．フレイルを先送りする社会システムの開発．第1回日本体力医学会北九州地方会（九州大学椎木講堂：福岡市）シンポジウム．2019.8.7.
11. 横山友里、吉﨑貴大、成田美紀、北村明彦、新開省二．地域在住高齢者における改良版食品摂取の多様性得点の開発．第66回日本栄養改善学会学術総会（富山県民会館等：富山市）口演．2019.9.5-7.
12. 横山友里、谷口優、北村明彦、新開省二．低栄養および食品摂取多様性の加齢変化パターンと認知機能．第9回日本認知症予防学会学術集会（名古屋国際会議場：名古屋市）シンポジウム．2019.10.18-20.

13. 横山友里、清野諭、光武誠吾、西真理子、村山洋史、成田美紀、石﨑達郎、野藤悠、北村明彦、新開省二．フレイル改善のための複合プログラムが要介護・死亡リスクと介護給付費に及ぼす影響．第78回日本公衆衛生学会総会（高知市文化プラザかるぽーと等：高知市）示説．2019.10.23-25.
14. 横山友里．地域高齢者の食品摂取多様性とサルコペニア・フレイル．第6回日本サルコペニア・フレイル学会（朱鷺メッセ：新潟市）ランチョンセミナー．2019.11.9-10.
15. 成田美紀、横山友里、西真理子、谷口優、清野諭、天野秀紀、北村明彦、新開省二．地域在宅女性高齢者における食品摂取多様性と骨粗鬆症との横断的関連．第61回日本老年医学会学術集会（仙台国際センター等：仙台市）口演．2019.6.6-8
16. 成田美紀、北村明彦、清野諭、西真理子、遠峰結衣、田中泉澄、横山友里、新開省二．在宅高齢者の食品摂取多様性と社会的・精神的健康との縦断的関連．日本老年社会科学会第61回大会（仙台国際センター等：仙台市）示説．2019.6.6-8.
17. 成田美紀、新開省二、横山友里、北村明彦．高齢者における肉類摂取および食品摂取多様性とフレイルの有無との関連．第66回日本栄養改善学会学術総会（富山県民会館等：富山市）口演．2019.9.5-7.
18. 成田美紀、横山友里、新開省二．高齢者の牛乳・乳製品摂取及び食品摂取の多様性とフレイル・サルコペニアの予防に関する研究．ジャパンミルクコングレス2019.（東京大学 伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホール：東京都）特別講演．2019.6.1.
19. 成田美紀．健康長寿の食生活～いろいろ食べて、やせと栄養不足を防ごう！～．日本化学会秋季事業 第9回CSJ化学フェスタ2019.（タワーホール船堀：東京都）特別講演．R.1.10.15-17.
20. 池内朋子、北村明彦、清野諭、谷口優、阿部巧、天野秀紀、成田美紀、横山友里、新開省二．主観年齢に影響する要因の検討：草津町研究．日本老年社会科学会第61回大会（仙台国際センター等：仙台市）示説．2019.6.6-8.
21. 池内朋子、清野諭、谷口優、野藤悠、北村明彦、新開省二．地域在住高齢者の主観的な「若返り」は身体的健康の予測因子となりうるか．第14回日本応用老年学会大会（京都ノートルダム女子大学：京都市）．口演．2019.10.19-20.
22. 遠峰結衣、清野諭、北村明彦、西真理子、秦俊貴、新開省二．食品摂取多様性得点の日毎記録とその得点を利用した競争の効果．第78回日本公衆衛生学会総会（高知市文化プラザかるぽーと等：高知市）示説．2019.10.23-25.
23. 山下真里、西真理子、北村明彦、横山友里、清野諭、野藤悠、増井幸恵、藤原佳典、新開省二．地域資源や社会参加へのニーズが乏しい高齢者の特徴－インタビュー調査の分析．第78回日本公衆衛生学会総会（高知市文化プラザかるぽーと等：高知市）口演．2019.10.23-25.
24. 谷口優、北村明彦、藤原佳典、清野諭、鈴木宏幸、横山友里、天野秀紀、成田美紀、阿部巧、新開省二．認知機能の経時的変化パターンと身体・心理・社会的機能との関連．第61回日本老年医学会学術集会（仙台国際センター等：仙台市）口演．2019.6.6-8.
25. 谷口優、清野諭、遠峰結衣、田中泉澄、西真理子、横山友里、池内朋子、北村明彦、新開省二．大都市部在住高齢者における犬猫の飼育経験とFrailty発生との関連．日本老年社会科学会第61回大会（仙台国際センター等：仙台市）口演．2019.6.6-8.
26. 谷口優、中山祥嗣、関山牧子、新田裕史、道川武紘、齋藤麻耶子、山崎新．犬猫の飼育と子どもの喘鳴及び喘息との関連－エコチル調査（パイロット調査）－．第78回日本公衆衛生学会総会（高知市文化プラザかるぽーと等：高知市）示説．2019.10.23-25.
27. 阿部巧、清野諭、北村明彦、谷口優、天野秀紀、西真理子、横山友里、成田美紀、藤原佳典、新開省二．高齢期の体組成、身体機能と総死亡リスクとの関連．第61回日本老年医学会学術集会（仙台国際センター等：仙台市）口演．2019.6.6-8.
28. 秦俊貴、清野諭、遠峰結衣、田中泉澄、西真理子、横山友里、成田美紀、北村明彦、新開省二．高齢者における食品摂取多様性のチェック経験と2年後の食品摂取多様性得点の変化．第78回日本公衆衛生学会総会（高知市文化プラザかるぽーと等：高知市）示説．2019.10.23-25.
29. 新開省二、清野諭、谷口優、横山友里、西真理子、天野秀紀、野藤悠、成田美紀、阿部巧、北村明彦．地域高齢者における血清総コレステロール値と総死亡リスクとの量・反応関係．第78回日本公衆衛生学会総会（高知市文化プラザかるぽーと等：高知市）示説．2019.10.23-25.
30. 青木鐘子、山岸良匡、丸山広達、臼杵里恵、池田愛、梅澤光政、崔仁哲、久保田康彦、羽山実奈、清水悠路、村木功、今野弘規、山海知子、岡田武夫、北村明彦、木山昌彦、磯博康．ビタミンE群の摂取と要介護認知症リスク:CIRCS研究．第55回日本循環器病予防学会学術集会（久留米シティプラザ：久留米市）口演．2019.5.11-12.
31. 臼杵里恵、山岸良匡、村木功、丸山広達、池田愛、梅澤光政、久保田康彦、羽山実奈、崔仁哲、今野弘規、山海知子、岡田武夫、北村明彦、木山昌彦、磯博康．豆類の摂取量と要介護認知症発症に関するコホート内症例対照研究：CIRCS研究．第55回日本循環器病予防学会学術集会（久留米シティプラザ：久留米市）口演．2019.5.11-12.
32. 森陽愛子、山岸良匡、池田愛、村木功、久保田康彦、羽山実奈、清水悠路、梅澤光政、崔仁哲、今野弘規、山海知子、岡田武夫、北村明彦、木山昌彦、磯博康．心房細動と要介護認知症発症に関するコホート内症例対照研究：CIRCS研究．第55回日本循環器病予防学会学術集会（久留米シティプラザ：久留米市）口演．2019.5.11-12.
33. 桜井良太、渡邊裕、大須賀洋祐、谷口優、河合恒、金憲経、北村明彦、稲垣宏樹、栗田主一、新開省二．アポリポ蛋白E4の保有と歩行速度低下の重積が高齢者の認知機能に与える影響．第61回日本老年医学会学術集会（仙台国際センター等：仙台市）口演．2019.6.6-8.
34. 武井卓、板橋美津世、谷口優、北村明彦、新開省二．高齢者慢性腎臓病と認知機能障害の関連性．第61回日本老年医学会学術集会（仙台国際センター等：仙台市）示説．2019.6.6-8.
35. 板橋美津世、武井卓、谷口優、北村明彦、新開省二．高齢者慢性腎臓病とフレイルの関連性．第61回日本老年医学会学術集会（仙台国際センター等：仙台市）示説．2019.6.6-8.
36. 鈴木隆雄、西田裕紀子、大塚礼、島田裕之、金憲経、北村明彦、藤原佳典、吉村典子、飯島勝矢、牧迫飛雄馬．わが国高齢者の身体機能、サルコペニア、フレイルに関する経時的変動について－長寿コホートの総合的研究（ILSA-J）より－．第61回日本老年医学会学術集会（仙台国際センター等：仙台市）口演．2019.6.6-8.
37. 山中法子、橘靖子、板橋美津世、谷口優、北村明彦、武井卓．地域高齢者における腎機能とサルコペニアの関連性．第62回日本腎臓病学会学術総会（名古屋国際会議場：名古屋市）口演．2019.6.21-23.
38. 樋口恭介、山本かおり、上野紀子、成澤良悟、大瀬良知子、横山友里、吉﨑貴大．若年層における主食・主菜・副菜を組み合わせた食事と食品摂取の多様性および自覚症状との関連．第66回日本栄養改善学会学術総会（富山県民会館等：富山市）口演．2019.9.5-7.
39. 井上大樹、阿部巧、城實佳也、藤井啓介、藤井悠也、薛載勲、劉珏、大藏倫博．靴のサイズ適合性は高齢女性の静的バランス能力に影響を及ぼすか？．第6回日本予防理学療法学会学術大会（広島国際会議場：広島市）口演．2019.10.19-20.

40. 陣内裕成、柿花宏信、北村明彦、松平浩、羽山実奈、村木功、本田瑛子、山岸良匡、今野弘規、大平哲也、岡田武夫、木山昌彦、齋藤多聞、磯博康．慢性腰痛・ひざ痛の重症化予防と住民健診におけるブリーフインタベーションの開発．第78回日本公衆衛生学会総会（高知市文化プラザかるぽーと等：高知市）口演．2019.10.23-25.
41. 下田紗映子、北村明彦、山岸良匡、梅澤光政、今野弘規、崔仁哲、村木功、木山昌彦、岡田武夫、久保田康彦、磯博康．頸動脈内膜中膜複合体厚と心血管イベント発症との関連－CIRCS－．第78回日本公衆衛生学会総会（高知市文化プラザかるぽーと等：高知市）口演．2019.10.23-25.
42. 安岡実佳子、村木功、今野弘規、陣内裕成、久保田康彦、羽山実奈、梅澤光政、山岸良匡、崔仁哲、大平哲也、北村明彦、岡田武夫、木山昌彦、磯博康．中高年における筋肉量及び腹囲と糖尿病との関連：CIRCS研究．第78回日本公衆衛生学会総会（高知市文化プラザかるぽーと等：高知市）口演．2019.10.23-25.
43. 李嘉琦、今野弘規、崔仁哲、山岸良匡、梅澤光政、村木功、羽山実奈、大平哲也、木山昌彦、岡田武夫、山海知子、谷川武、北村明彦、磯博康．地域住民における白血球数と循環器疾患発症リスクとの関連(CIRCS)．第78回日本公衆衛生学会総会（高知市文化プラザかるぽーと等：高知市）示説．2019.10.23-25.
44. 井上大樹、髙木朝加、阿部巧、大藏倫博．高齢者を対象とした新しい認知機能訓練機器”Peg Amore”の効果：運転免許更新時の認知機能検査を指標としたパイロットスタディ．第78回日本公衆衛生学会総会（高知市文化プラザかるぽーと等：高知市）示説．2019.10.23-25.
45. 石川譲治、清野諭、鳥羽梓弓、豊島堅志、田村嘉章、北村明彦、荒木厚、新開省二、原田和昌．高齢者における体力年齢と血圧の関連．第42回日本高血圧学会総会．（京王プラザホテル：東京都）口演．2019.10.25-27.
46. 石川譲治、清野諭、鳥羽梓弓、豊島堅志、田村嘉章、北村明彦、荒木厚、新開省二、原田和昌．高齢者における認知機能と血圧の関連－積極的降圧から減薬への移行ポイントの検討―．第42回日本高血圧学会総会．（京王プラザホテル：東京都）口演．2019.10.25-27.
47. 北村明彦、稲垣宏樹、桜井良太、下地啓五、德丸阿耶、栗田主一、新開省二．高齢者健診受診者の脳MRI画像所見と認知機能・生活機能障害との関連：高島平スタディー．第30回日本疫学会総会．(京都大学百周年時計台記念館：京都市)．2020.2.21-22.
48. 天野秀紀、北村明彦、西真理子、野藤悠、清野諭、横山友里、藤原佳典、新開省二．要介護認定で見られる「認知症」の多様性：発症時重症度と発症前認知機能・抑うつ関連症状の推移に基づく類型化．第30回日本疫学会総会．（京都大学百周年時計台記念館：京都市）．2020.2.21-22.
49. 清野諭、北村明彦、遠峰結衣、西真理子、野藤悠、横山友里、天野秀紀、藤原佳典、新開省二．高齢者における運動実践形態と2年間の身体機能低下との関連．第30回日本疫学会総会．（京都大学百周年時計台記念館：京都市）．2020.2.21-22.
50. 清野諭、遠峰結衣、渡邉愼二、古谷千寿子、北村明彦、新開省二．スマートフォン・アプリによる食品摂取多様性のチェック回数と食品摂取多様性得点の変化．第21回日本健康支援学会学術大会．（那覇市ぶんかテンブス館：那覇市）．2020.3.7-8.
51. 秦俊貴、清野諭、遠峰結衣、西真理子、横山友里、成田美紀、北村明彦、新開省二．都市部在住高齢者における独居および社会参加活動と食品摂取多様性との関連．第30回日本疫学会総会．(京都大学百周年時計台記念館：京都市)．2020.2.21-22.
52. 田邊直仁、原田亜紀子、大橋靖雄、百都健、丹野高三、佐藤眞一、喜多義邦、天野秀紀、木下裕貴、伊藤俊貴、渡邉慎也、上島弘嗣．健診成績から要介護リスクを測定する「介護リスク年齢」算出ツールの作成．第90回日本衛生学会学術総会．(いわて県民情報交流センター：盛岡市)．2020.3.26-28.
53. 柿花宏信、陣内裕成、北村明彦、松平浩、木山昌彦、羽山実奈、村木功、久保田康彦、山岸良匡、岡田武夫、今野弘規、磯博康．地域住民における過体重と慢性運動器痛の関連と高血圧による交互作用：CIRCS研究．第30回日本疫学会学術総会，（京都大学：京都市）示説．R.2.2.21-22.

2 誌上発表

(1) 原著

1. ★◎Kitamura A, Taniguchi Y, Seino S, Yokoyama Y, Amano H, Y, Fujiwara Y, Shinkai S. Combined effect of diabetes and frailty on mortality and incident disability in older Japanese adults. Geriatr Gerontol Int. 2019; 19(5):423-428. （査読あり）(IF：2.118、2018/2019)
2. ★◎Seino S, Kitamura A, Tomine Y, Tanaka I, Nishi M, Taniguchi Y, Yokoyama Y, Amano H, Fujiwara Y, Shinkai S. Exercise Arrangement Is Associated With Physical and Mental Health in Older Adults. Med Sci Sports Exerc, 2019 Jun;51(6):1146-1153. （査読あり）(IF：4.478、2018/2019)
3. ★◎野藤悠、清野諭、村山洋史、吉田由佳、谷垣知美、横山友里、成田美紀、西真理子、中村正和、北村明彦、新開省二．兵庫県養父市におけるシルバー人材センターを機軸としたフレイル予防施策のプロセス評価およびアウトカム評価．日本公衆衛生雑誌．2019(9);66:560-573. （査読あり）
4. ★◎青栁幸利．慢性痛とウォーキング ～中之条研究から考える生活指導～．痛みの専門誌ペインクリニック．2019.4.1;40(4):459-464. （査読あり）
5. ★◎Aoyagi Y, Amamoto R, Park S, Honda Y, Shimamoto K, Kushiro A, Tsuji H, Matsumoto H, Shimizu K, Miyazaki K, Matsubara S, Shephard R.J. Independent and Interactive Effects of Habitually Ingesting Fermented Milk Products Containing Lactobacillus casei Strain Shirota and of Engaging in Moderate Habitual Daily Physical Activity on the Intestinal Health of Older People. Frontiers in Microbiology. 2019;10:1477. （査読あり）(IF:4.019、2018/2019)
6. Cho S, Park S, Takahashi S, Yoshiuchi K, Shephard R.J, ★Aoyagi Y. Changes in and Interactions between Physical and Mental Health in Older Japanese: the Nakanojo Study. Gerontology. 2019;65(4):340-352. （査読あり）(IF：3.353、2019)
7. ★◎Taniguchi Y, Kitamura A, Kaito S, Yokoyama Y, Yokota I, Shinozaki T, Seino S, Murayama H, Matsuyama Y, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S. Albumin and Hemoglobin Trajectories and Incident Disabling Dementia in Community-Dwelling Older Japanese. Dement Geriatr Cogn Disord. 2019 Jul 17:1-10. doi: 10.1159/000499837. [Epub ahead of print] （査読あり）(IF：2.260、2018/2019)
8. ★◎谷口優、石井千惠、茅沼弓子．人型コミュニケーションロボットを用いた運動プログラムが地域在宅高齢者の身体機能及び認知機能に及ぼす影響：予備的試験．日本公衆衛生雑誌．2019(5);66:267-273. （査読あり）

9. ★◎Abe T, Kitamura A, Taniguchi Y, Amano H, Seino S, Yokoyama Y, Nishi M, Narita M, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S. Pathway from gait speed to incidence of disability and mortality in older adults: A mediating role of physical activity. Maturitas. 2019 May;123:32-36. (査読あり) (IF : 3.654、2018/2019)
10. ★◎Abe T, Kitamura A, Seino S, Yokoyama Y, Amano H, Taniguchi Y, Nishi M, Narita M, Ikeuchi T, Tomine Y, Fujiwara Y, Shinkai S. Differences in the Prevalence of and Factors Associated with Frailty in Five Japanese Residential Areas. Int. J. Environ. Res. Public Health 2019 Oct, 16(20), E3974; https://doi.org/10.3390/ijerph16203974 (査読あり) (IF : 2.468、2018/2019)
11. Noguchi M, Kojima S, Sairenchi T, Kinuta M, Yamakawa M, Nishizawa H, Takahara M, Imano H, Kitamura A, Yoshida T, Shintani A, Saito I, Yokoyama T, Shimomura I, Iso H for J-HARP Research Group. Japan Trial in High-risk Individuals to Accelerate their Referral to Physicians (J-HARP) - a Nurse-led, Community-based Prevention Program of Lifestyle-related Disease J Epidemiol. 2019 Apr 13. doi: 10.2188/jea.JE20180194. (査読あり) (IF : 3.078、2018/2019)
12. Kawai H, Taniguchi Y, Seino S, Sakurai R, Osuka Y, Obuchi S, Watanabe Y, Kim H, Kitamura A, Inagaki H, Awata S, Shinkai S. Reference values of gait parameters measured with a plantar pressure platform in community-dwelling older Japanese adults. Clinical Interventions in Aging 2019 Jul:14:1265-1276. (査読あり) (IF : 2.585、2018/2019)
13. Sakurai R, Watanabe Y, Osuka Y, Taniguchi Y, Kawai H, Kim H, Kitamura A, Inagaki H, Montero-Odasso M, Awata S, Shinkai S. Overlap between Apolipoprotein Eε4 Allele and Slowing Gait Results in Cognitive Impairment. Frontiers in Aging Neuroscience. 2019 2019 Sep 13;11:247. (査読あり) (IF : 3.633、2018/2019)
14. Seol J, Abe T, Fujii Y, Joho K, Okura T. Effects of sedentary behavior and physical activity on sleep quality in older people: A cross-sectional study. Nurs Health Sci. 2019 Sep 16. doi: 10.1111/nhs.12647. [Epub ahead of print] (査読あり) (IF : 1.321、2018/2019)
15. 稲葉このみ、清野諭、遠峰結衣、杉浦裕太. タブレット端末内蔵カメラによる踵上げ動作トレーニング支援. エンタテイメントコンピューティングシンポジウム2019論文集. 2019;393-397. (査読あり)
16. ★◎Yokoyama Y, Kitamura A, Yoshizaki T, Nishi M, Seino S, Taniguchi Y, Amano H, Narita M, Shinkai S. Score-Based and Nutrient-Derived Dietary Patterns Are Associated with Depressive Symptoms in Community-Dwelling Older Japanese: A Cross-Sectional Study. J Nutr Health Aging, 2019;23(9):896-903. (査読あり) (IF : 2.660、2018/2019)
17. ★◎北村明彦、清野諭、谷口優、横山友里、天野秀紀、西真理子、野藤悠、成田美紀、池内朋子、阿部巧、藤原佳典、新開省二. 高齢者の自立喪失に及ぼす生活習慣病、機能的健康の関連因子の影響：草津町研究. 日本公衛誌. 2020;67(2):134-145. (査読あり)
18. ★◎Seino S, Kitamura A, Abe T, Taniguchi Y, Yokoyama Y, Amano H, Nishi M, Nofuji Y, Narita M, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S. Dose-Response Relationships between Body Composition Indices and All-Cause Mortality in Older Japanese Adults. J Am Med Dir Assoc. 2020 Feb 14. pii: S1525-8610(19)30827-8. doi: 10.1016/j.jamda.2019.11.018. (査読あり) (IF: 4.899、2018/2019)
19. ★◎成田美紀、北村明彦、武見ゆかり、横山友里、森田明美、新開省二. 地域在宅高齢者における食品摂取多様性と栄養素等摂取量, 食品群別摂取量及び主食・主菜・副菜を組み合わせた食事日数との関連. 日本公衛誌. 2020;67(3);171-182. (査読あり)
20. ★◎山下真里、川西智也、稲垣千草、加藤真衣、根本留美、並木香奈子、井上志津子、長久美江子、樫村正美、北村伸、野村俊明、三品雅洋. 若年認知症の人の体験とニーズ:混合研究法による検討. 日本老年精神医学会誌. 2020:31(2);187-199. (査読あり)
21. ★◎Taniguchi Y, Kitamura A, Ishizaki T, Fujiwara Y, Shinozaki T, Seino S, Mitsutake S, Suzuki H, Yokoyama Y, Abe T, Ikeuchi T, Yokota I, Matsuyama Y, Shinkai S. Association of Trajectories of Cognitive Function with Cause-Specific Mortality and Medical and Long-Term Care Costs. Geriatr Gerontol Int. 2019 Dec;19(12):1236-1242. (査読あり) (IF : 2.118、2018/2019)
22. ★◎Taniguchi Y, Seino S, Nishi M, Tomine Y, Tanaka I, Yokoyama Y, Ikeuchi T, Kitamura A, Shinkai S. Association of Dog and Cat Ownership with Incident Frailty among Community-Dwelling Elderly Japanese. Scientific Reports. 2019 9;9(1):18604. doi: 10.1038/s41598-019-54955-9. (査読あり) (IF : 4.011、2018/2019)
23. Kaito S, Taniguchi Y, Kitamura A, Seino S, Amano H, Yokoyama Y, Fukuda H, Yokokawa H, Fujiwara Y, Shinkai S, Naito T. Trajectories of kidney function and associated factors among community-dwelling older Japanese: a 16-year longitudinal study. Clin Exp Nephrol. 2019 doi: 10.1007/s10157-019-01837-z. (査読あり) (IF : 1.971、2018/2019)
24. Kugimiya Y, Watanabe Y, Igarashi K, Hoshino D, Motokawa K, Edahiro A, Ueda T, Takano T, Sakurai K, Taniguchi Y, Kitamura A, Nasu I, Shinkai S, Hirano H. Factors associated with masticatory performance in community-dwelling older adults: a cross-sectional study. The Journal of the American Dental Association. 2020 Feb;151(2):118-126. (査読あり) (IF : 2.572、2018/2019)
25. Kugimiya Y, Watanabe Y, Ueda T, Motokawa K, Shirobe M, Igarashi K, Hoshino D, Takano T, Sakurai K, Taniguchi Y, Kitamura A, Shinkai S, Hirano H. Rate of Oral Frailty and Oral Hypofunction in Rural Community-Dwelling Older Japanese Individuals. Gerodontology. 2020 Mar 6. doi: 10.1111/ger.12468. (査読あり) (IF : 1.460、2018/2019)
26. Osuka Y, Kim H, Kawai H, Taniguchi Y, Yokoyama Y, Seino S, Obuchi S, Kitamura A, Shinkai S. Sarcoscore: a novel approach for assessing sarcopenia and functional disability in older adulsts. J Clin Med. 2020;9(3):692;doi:10.3390/jcm9030692 (査読あり) (IF: 5.583、2018/2019)
27. Okamura T, Ura C, Sugiyama M, Ogawa M, Inagaki H, Miyamae F, Edahiro A, Kugimiya Y, Okamura M, Yamashita M, Awata S. Everyday challenges facing high-risk older people living in the community: a community-based participatory study. BMC Geriatrics,2020(20);68. (査読あり) (IF:2.02、2018/2019)
28. Mitsutake S, Ishizaki T, Tsuchiya-Ito R, Teramoto C, Shimizu S, Yamaoka T, Kitamura A, Ito H. Association of pharmacological treatments for hypertension, diabetes, and dyslipidemia with health checkup participation and identification of disease control factors among older adults in Tokyo, Japan. Preventive Medicine Reports. 2019 Dec 23;17:101033. doi: 10.1016/j.pmedr.2019.101033. (査読あり) (IF:1.52、2018/2019)

29. Ohara Y, Motokawa K, Watanabe Y, Shirobe M, Inagaki H, Motohashi Y, Edahiro A, Hirano H, Kitamura A, Awata S, Shinkai S. Association of eating alone with oral frailty among community-dwelling older adults in Japan. Arch Gerontol Geriatr. 2020 Mar - Apr;87:104014. doi: 10.1016/j.archger.2020.104014. (査読あり)(IF:2.611、2018/2019)
30. Nagao M, Kobashi G, Umesawa M, Cui R, Yamagishi K, Imano H, Okada T, Kiyama M, Kitamura A, Sairenchi T, Haruyama Y, Ohira T, Iso H. Urinary 8-hydroxy-2'-deoxyguanosine levels and cardiovascular disease incidence in Japan. J Atheroscler Thromb. 2020 Mar 11. doi: 10.5551/jat.51664. (査読あり) (IF:3.478、2018/2019)
31. Hirokawa K, Ohira T, Kajiura M, Imano H, Kitamura A, Kiyama M, Okada T, Iso H. Cardiovascular reactivity to acute stress associated with sickness absence among Japanese men and women: A prospective study. Brain Behav. 2020 Feb 20:e01541. doi: 10.1002/brb3.1541. (査読あり) (IF:2.072、2018/2019)
32. Ikeda S, Ikeda A, Yamagishi K, Hori M, Kubo S, Sata M, Okada C, Umesawa M, Sankai T, Kitamura A, Kiyama M, Ohira T, Tanigawa T, Iso H. Longitudinal Trends in Blood Pressure Associated with the Frequency of Laughter: Longitudinal Study of Japanese General Population: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). J of Epidemiol. 2020 Feb 22. doi: 10.2188/jea.JE20190140. (査読あり) (IF:3.078、2018/2019)

(2) 総説

1. ★◎清野諭、野藤悠. 地域における介護予防のエビデンス. 体力科学. 2019;68(5):327-335.
2. ★◎成田美紀. 要介護化予防のための栄養・食事介入の実情と課題. 体力科学. 2019;68(5):319-325.
3. Kojima G, Taniguchi Y, Iliffe S, Urano T, Walters K. Factors Associated With Improvement in Frailty Status Defined Using the Frailty Phenotype: A Systematic Review and Meta-analysis. J Am Med Dir Assoc. 2019(in press) (査読あり) (IF : 4.899、2018/2019)
4. Kojima G, Walters K, Iliffe S, Taniguchi Y, Tamiya N. Marital status and risk of physical frailty: A systematic review and meta-analysis. J Am Med Dir Assoc. 2019(in press) (査読あり) (IF : 4.899、2018/2019)

3 著書等

1. 北村明彦、新開省二、谷口優、清野諭. 高齢者の健康余命に及ぼすフレイル、生活習慣病の影響の検討－糖尿病とフレイルの合併が健康余命に及ぼす影響－. 平成30年度 日本フルハップ調査研究報告書. 公益財団法人日本中小企業福祉事業財団. 2019.9.
2. 北村明彦、清野諭、野藤悠、藤原佳典、新開省二. フレイルの概念について－公衆衛生的視点から－. 地域保健11月号. 2019.11. (査読なし)
3. 北村明彦. 高齢者がかかりやすいがん～その関連因子と見つけ方～. 第156回老年学・老年医学公開講座 高齢者がんの予防と治療. 東京都健康長寿医療センター研究所. 2019.11. (査読なし)
4. 清野諭. 筋力＋歩行力で生活体力をキープするために (フレイル・サルコペニアの予防). 群馬県「元気に“動こう・歩こう”実践マニュアル」. 2019.5;13-21. (査読なし)
5. 清野諭. 大都市在住高齢者のフレイル予防・改善のための地域介入研究：クラスター比較試験. 長寿科学研究者支援事業平成30年度研究報告集. 公益財団法人長寿科学振興財団. pp57-60. 2019.7. (査読なし)
6. Seino S. Implications of Exercise Arrangement for Physical Activity, Physical Function, and Mental Health in Older Adults. Sports Medicine Bulletin. 2019.6. http://www.multibriefs.com/briefs/acsm/active073019.htm. 2019.7;57-60. (査読なし)
7. 横山友里. フレイルの観点(低栄養等)から. 深井穫博編著. 健康長寿のための口腔保健と栄養をむすぶエビデンスブック. 医歯薬出版株式会社 (東京). 2019.8:32-37. (査読なし)
8. 横山友里、亀井明子. 高齢者の運動と栄養. 臨床栄養. 医歯薬出版株式会社 (東京). 2019.9;135(4):503-505. (査読なし)
9. Aoyagi Y, Shephard R.J. Health-Related Quality of Life and Habitual Physical Activity among Older Japanese. Encyclopedia of Quality of Life and Well-Being Research, 2nd ed., Springer Science+Business Media Dordrecht 2019. 2019. (in press)
10. 青栁幸利. 1 - 12.日常身体活動. テクノロジー・ロードマップ2019-2028年版. 日経BP社 (東京). 2019.11.29.
11. 成田美紀. ずっと元気に！ご長寿レシピ第14回 包丁いらずでラクラク調理. NHKきょうの健康2019年5月号. NHK出版(東京). 2019.4.20:26-30.
12. 成田美紀. ずっと元気に！ご長寿レシピ第15回 乾物でボリュームアップ！NHKきょうの健康2019年6月号. NHK出版 (東京). 2019.5.21:26-30.
13. 成田美紀. ずっと元気に！ご長寿レシピ第16回 火を使わない！ラクラク夏おかず. NHKきょうの健康2019年7月号. NHK出版 (東京). 2019.6.21:26-30.
14. 成田美紀. 牛乳・乳製品を毎日摂取する習慣が高齢者のフレイル、サルコペニア予防に役立つ.「あたらしいミルクの研究」2018年度. 牛乳乳製品健康科学会議 乳の学術連合 (東京). 2019.3.25:1-3.
15. 成田美紀. 運動器をじょうぶにする栄養指導第14回 高齢者の熱中症－食事で水分・ミネラル補給. ライフサイエンス出版 (東京). 2019.6.29;4(2):50-52.
16. 成田美紀. ずっと元気に！ご長寿レシピ第17回 夏の食欲アップメニュー. NHKきょうの健康2019年8月号. NHK出版 (東京). 2019.7.20:26-30.
17. 成田美紀. NCDsの観点 (過栄養等) から. 深井穫博編著. 健康長寿のための口腔保健と栄養をむすぶエビデンスブック. 医歯薬出版株式会社 (東京). 2019.8:26-31. (査読なし)
18. 成田美紀. ずっと元気に！ご長寿レシピ第18回 簡単&ヘルシー！手づくりおやつ. NHKきょうの健康2019年9月号. NHK出版 (東京). 2019.8.21:26-30.
19. 成田美紀. 老けない人は知っている！タンパク質の摂り方ルール. 婦人公論No.1524 2019年9月10日号. 中央公論新社 (東京)、2019.8.27:26-27.
20. 成田美紀. ずっと元気に！ご長寿レシピ第19回 たんぱく質をとって丈夫な身体に！. NHKきょうの健康2019年10月号. NHK出版 (東京). 2019.9.21:26-30.
21. 成田美紀. 運動器をじょうぶにする栄養指導第15回 摂食・嚥下障害－かむ力、飲み込む力をつける. Osteoporosis Japan Plus. ライフサイエンス出版 (東京). 2019.9.30;4(3):58-60.

22. 成田美紀. ずっと元気に！ご長寿レシピ第20回 カルシウムを欠かさず、上手にとろう！NHKきょうの健康2019年11月号. NHK出版（東京）. 2019.10.21:26-30.
23. 成田美紀. 夫婦ふたりのシニアごはんを“もっと”楽しむ10の心得. クックパッド株式会社監修. TJ MOOK クックパッド夫婦ふたりでちょうどいいシニアごはん2. 宝島社（東京）. 2019.11.1:2-13.
24. 成田美紀. ずっと元気に！ご長寿レシピ第21回 年末年始のつくりおき. NHKきょうの健康2019年12月号. NHK出版（東京）. 2019.11.21:26-30.
25. 遠峰結衣、清野諭. フレイル予防のためのコミュニケーションデザイン. 情報処理. 情報処理学会（東京）. 2019;60(4):4-8.
26. 谷口優. たった5センチ歩幅を広げるだけで「元気に長生き」できる! サンマーク出版（東京）. 2019.6.30.
27. 阿部巧、新開省二. 運動による認知症予防：疫学的知見を中心とした見解. Geriatric Medicine. ライフサイエンス出版（東京）. 2019;57(4):357-360. （査読なし）
28. 新開省二、成田美紀. 健康と栄養. 深井穫博編著. 健康長寿のための口腔保健と栄養をむすぶエビデンスブック. 医歯薬出版株式会社（東京）. 2019.8:22-25. （査読なし）
29. 清野諭. 社会環境からみた身体機能低下の予防・介入戦略. フレイル・サルコペニア指導士テキスト. 新興医学出版（東京）. （印刷中）
30. 横山友里. 高齢者の身体機能と食事の関連. 国民の栄養白書2019年度版. 株式会社日本医療企画（東京）. 2019.12.15. （査読なし）
31. 成田美紀. ずっと元気に！ご長寿レシピ第22回. 体ポカポカ、あったかレシピ. NHKきょうの健康2020年1月号. NHK出版（東京）. 2019.12.21:26-30.
32. 成田美紀. 運動器をじょうぶにする栄養指導第15回 高齢者の便秘－食物繊維と発酵食品で腸内環境を整える. Osteoporosis Japan Plus. ライフサイエンス出版（東京）. 2019.12.25;4(4):54-56.
33. 成田美紀. ずっと元気に！ご長寿レシピ第23回. 食材をむだなく使いきる！. NHKきょうの健康2020年2月号. NHK出版（東京）. 2020.1.21:26-30.
34. 成田美紀. ずっと元気に！ご長寿レシピ第24回. これで手軽に栄養アップ！. NHKきょうの健康2020年3月号. NHK出版（東京）. 2020.2.21:26-30.
35. 成田美紀, 北村明彦. 住民、専門職（栄養士）、多職種連携－様々な形による高齢者の食に対する取り組み事例を中心に－. 高齢者の食事と栄養, 口腔ケア. 公益財団法人長寿科学振興財団（愛知）. 2020.3:61-71. （査読なし）

大都市高齢者基盤研究

1 学会発表

(1) 海外

1. Kobayashi E: Changes in social relationships among older adults in Japan: A focus on birth cohort and gender. The 1st International Conference on Aging in Times of The New Old: The Aging Panorama in Taiwan, Japan & Singapore, Tainan, 2019.6.25. (Host: Institute of Gerontology, National Cheng Kung University)

2. Okamoto S: Employment and health in later life in Japan. The 1st International Conference on Aging in Times of The New Old: The Aging Panorama in Taiwan, Japan & Singapore, Tainan, 2019.6.25. (Host: Institute of Gerontology, National Cheng Kung University)

3. Okamoto S, Shimmei K, Kobayashi E, Komamura K, Okamura T: Epidemiological transition and universal health coverage in Japan. The 5th International Conference on Public Health, Kuala Lumpur, 2019.7.10-12.

4. Kobayashi E, Fukaya T, Okamoto S, Liang J: Living alone and psychological well-being among older adults in Japan. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, 2019.10.23-27.

5. Murayama Y, Hasebe M, Nishi M, Matsunaga H, Fujiwara Y: The impact of the informational social support exchanges with neighbors on the feeling of isolation among the elderly: a two-year follow-up survey, The 11th Asia / Oceania Congress of Gerontology and Geriatrics, Taipei, 2019.10.23-27.

6. Harada K, Kobayashi E, Saito T: Marital status, social networks, and loneliness among urban older adults in Japan. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, 2019.10.23-27.

7. Hashimoto Y, Watanabe S, Nonaka K, Koike T, Hasebe M, Murayama Y, Suzuki H, Fukaya T, Kobayashi E, Fujiwara Y: Relationship between types of elderly living alone and their mental health or social role. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, 2019.10.23-27.

8. Watanabe S, Fujiwara Y, Nonaka K, Kuraoka M, Kobayashi E, Nemoto Y, Minami U, Koike T: Factors related to work retention for elderly workers in the metropolitan area in Japan over two years. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, 2019.10.23-27.

9. Okamoto S, Kobayashi E, Liang J: Social isolation and cognitive functioning among older Japanese adults. Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting, Austin, 2019.11.13-17.

10. Nakagawa T, Kobayashi E: Cohort differences in changes in life satisfaction among older Japanese. Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting, Austin, 2019.11.13-17.

(2) 国内

1. 小林江里香，村山洋史，深谷太郎，岡本翔平，石崎達郎，Jersey Liang，新開省二：全国高齢者代表サンプルにおけるFrailtyの5年間の変化と社会・心理的要因．第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8.
2. 村山洋史，小林江里香，深谷太郎，岡本翔平，石崎達郎，Jersey Liang，新開省二：全国高齢者代表サンプルを用いた日本人高齢者のFrailtyの分布推計と健康アウトカムとの関連．第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8.
3. 小林江里香，深谷太郎，菅原育子，Jersey Liang：仕事からの引退年齢の上昇が社会活動への参加に及ぼす効果－全国高齢者の縦断調査データによる検証．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
4. 小林江里香，田渕恵，原田謙，野中久美子，村山陽，藤原佳典：自主企画フォーラム－変容する地域社会における世代間関係を考える． 日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
5. 村山陽，長谷部雅美，西真理子，藤原佳典：単身高齢者の親族および近隣多世代との互助関係パターンと主観的健康感との関連．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
6. 岡本翔平，小林江里香，深谷太郎，村山洋史，菅原育子，新開省二：高齢期の就労が健康行動に与える影響－疑似実験的アプローチによる分析．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
7. 深谷太郎，小林江里香：高齢者におけるインターネットと電子メールの利用状況の変化－縦断調査の結果より．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
8. 原田謙，小林江里香，斎藤民：中高年者の居住満足度に関連する地域環境要因－集合的効力感に着目したマルチレベル分析．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.（合同ポスター、優秀演題発表）
9. 村山幸子，高橋知也，小林江里香，安永正史，長谷部雅美，小川将，藤原佳典：サロン活動への継続参加意欲を規定する要因の検討．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
10. 根本裕太，野中久美子，長谷部雅美，小池高史，南潮、村山陽，村山洋史，小林江里香，藤原佳典：地域高齢者における世代内／世代間交流が精神的健康および健康度自己評価に与える影響－都市部在住高齢者を対象とした2 年間の縦断調査の結果から．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
11. 西中川まき，長谷部雅美，村山陽，松永博子，西真理子，深谷太郎，成田美紀，小林江里香，藤原佳典：地域高齢者における就労および趣味・ボランティア活動と健康度自己評価との関連．日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
12. 野中久美子，倉岡正高，村山幸子，根本裕太，田中元基，村山陽，小林江里香，藤原佳典：多世代住民間での情緒的サポート授受経験が他者への日常生活支援提供意向に与える影響－潜在的な日常生活支援サービス担い手の特徴の検証． 日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
13. 小川将，鈴木宏幸，高橋知也，村山陽，松永博子，藤田幸司，本橋豊，藤原佳典：高齢者ボランティアとの協働による「SOSの出し方に関する授業」の開発と評価：EPRINTS研究より－中学生への3ヶ月持続効果の検討． 日本老年社会科学会第61回大会，仙台，2019.6.7-8.
14. 村山陽，長谷部雅美，高橋知也，小林江里香：単身中高年者における近隣との関わりにくさとは－グループインタビュー調査による分析．日本質的心理学会第16回大会，東京，2019.9.21-22.
15. 深谷太郎，小林江里香：高齢者のICT利用状況の変化要因について－縦断調査データを用いて．日本社会福祉学会第67回秋季大会，大分，2019.9.21-22.
16. 村山陽， 長谷部雅美， 山口淳， 藤原佳典：自己有用感を伴う世代間交流と精神的健康との関連－自尊感情の媒介効果の検討．日本世代間交流学会第10回全国大会，東京，2019.10.6.
17. 藤原佳典，倉岡正高，野中久美子，田中元基，村山幸子，松永博子，根本裕太，高橋知也，村山洋史，稲葉陽二，村山陽，渡辺修一郎， 小林江里香：働く高齢者における職種別にみたジェネラティビティの差異， 第14回日本応用老年学会大会， 京都，2019.10.19-20.
18. 橋本由美子，渡辺修一郎，野中久美子，小池高史，長谷部雅美，村山陽，鈴木宏幸，深谷太郎，小林江里香，藤原佳典：独居高齢者の配偶関係からみた類型と精神的健康状態および社会的役割との関連． 第14回日本応用老年学会大会， 京都，2019.10.19-20.
19. 村山陽，野中久美子，倉岡正高，村山幸子，根本裕太，小林江里香，村山洋史，渡辺修一郎，稲葉陽二，福島富士子，藤原佳典：多世代共創社会のまちづくり－多世代交流がジェネラティビティの醸成に与える影響．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
20. 岡本翔平，小林江里香，深谷太郎，村山洋史，新開省二：中高年者の認知機能低下における男女差の要因分解．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
21. 藤原佳典，桜井良太，倉岡正高，野中久美子，村山幸子，根本裕太，村山陽，村山洋史，渡辺修一郎，小林江里香：地域高齢者における健康無関心層の実態と関連要因の解明．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
22. Kobayashi-Cuya K, Sakurai R, Nonaka K, Koike T, Hasebe M, Murayama Y, Kobayashi E, Fujiwara Y: The role of education on financial perception and mental health in older adults. 第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
23. 倉岡正高，野中久美子，村山幸子，根本裕太，田中元基，小林江里香，藤原佳典：多世代共創社会のまちづくり－助け合いを促す協議体の立ち上げと運営手法．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
24. 村山幸子，倉岡正高，野中久美子，根本裕太，村山陽，小林江里香，村山洋史，渡辺修一郎，福島富士子，藤原佳典：多世代共創社会のまちづくり－住民主体による挨拶運動の立ち上げと運営手法． 第78回日本公衆衛生学会総会， 高知， 2019.10.23-25.
25. 根本裕太，倉岡正高，野中久美子，田中元基，村山幸子，松永博子，村山陽，小林江里香，村山洋史，渡辺修一郎，稲葉陽二，藤原佳典：若年層と中年層における世代間交流が精神的健康に与える影響－2年間の縦断研究． 第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
26. 野中久美子，倉岡正高，村山幸子，根本裕太，村山陽，小林江里香，村山洋史，渡辺修一郎，福島富士子，藤原佳典：多世代共創社会のまちづくり－多世代交流サロンで助け合いを促す運営手法．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
27. 高橋知也，村山陽，長谷部雅美，小林江里香：中高年者はどのような場面で周囲からの孤立を感じるか？－定性的分析による検討．第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
28. 小林江里香：地域住民における多世代交流と子育て支援．第8回日本公衆衛生看護学会学術集会，松山，2020.1.11-12.
29. 西中川まき，桜井良太，村山陽，長谷部雅美，西真理子，松永博子，成田美紀，藤原佳典：教育歴および主観的経済状況が野菜料理の摂取量に及ぼす影響の世代別検討．第30回日本疫学会学術総会，京都，2020.2.20-22.

2 誌上発表

(1) 原著

1. ★◎Kobayashi E, Sugihara Y, Fukaya T, Liang J: Volunteering among Japanese older adults: How are hours of paid work and unpaid work for family associated with volunteer participation? *Ageing & Society*, 39(11), 2420-2442, 2019. (査読あり) (IF: 1.895, 2018)
2. ★◎Okamoto S, Avendano M, Kawachi I: Intergenerational income mobility and health in Japan: A quasi-experimental approach. *Social Science & Medicine*, 230, 37-48, 2019. (査読あり) (IF: 3.087, 2018)
3. Ishizaki T, Kobayashi E, Fukaya T, Takahashi Y, Shinkai S, Liang J. Association of physical performance and self-rated health with multimorbidity among older adults: Results from a nationwide survey in Japan. *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 84, September-October 2019, 103904. https://doi.org/10.1016/j.archger.2019.103904 (査読あり) (IF: 2.611, 2018)
4. Nonaka K, Fujiwara Y, Watanabe S, Ishizaki T, Iwasa H, Amano H, Yoshida Y, Kobayashi E, Sakurai R, Suzuki H, Kumagai S, Shinkai S, Suzuki T. Is unwilling volunteering protective for functional decline? The interactive effects of volunteer willingness and engagement on health in a 3‐year longitudinal study of Japanese older adults. *Geriatrics & Gerontology International*, 19(7), 673-678, 2019. (査読あり) (IF: 2.118, 2018)
5. Sakurai R, Yasunaga M, Nishi M, Fukaya T, Hasebe M, Murayama Y, Koike T, Matsunaga H, Nonaka K, Suzuki H, Saito M, Kobayashi E, Fujiwara Y: Co-existence of social isolation and homebound status increase the risk of all-cause mortality. *International Psychogeriatrics*, 31(5), 703-711, 2019. (査読あり) (IF: 2.478, 2018)
6. Sugisawa H, Sugihara Y, Kobayashi E, Fukaya T, Liang J: The influence of life course financial strains on the later-life health of the Japanese as assessed by four models based on different health indicators. *Ageing & Society*, 39(12), 2631-2652, 2019. (査読あり) (IF: 1.895, 2018)
7. 原田謙, 小林江里香, 深谷太郎, 村山陽, 高橋知也, 藤原佳典: 高齢者の若年者に対する否定的態度に関連する要因－世代間関係における「もうひとつのエイジズム」. 老年社会科学, 41(1), 28-37, 2019. (査読あり)
8. 原田謙, 小林江里香: 高齢就業者の職場における世代間関係と精神的健康－媒介変数としての職場満足度. 老年社会科学, 41(3), 306-313, 2019. (査読あり)
9. 稲葉陽二, 藤原佳典, 小林江里香, 野中久美子, 倉岡正高, 田中元基, 村山幸子, 松永博子, 安永正史, 村山洋史, 渡辺修一郎: 世代間交流と社会関係資本の継承－長野県須坂市調査と首都圏2自治体調査の比較からの知見. 政経研究, 56(1), 46-74, 2019. (査読なし)
10. ★◎村山陽, 長谷部雅美, 高橋知也, 小林江里香: 首都圏に居住する単身世帯の中高年者における近隣との世代間交流の必要性の認識－同居世帯の中高年者との比較から. 日本世代間交流学会誌, 9(1), 3-11, 2019. (査読あり)
11. ★◎Murayama Y, Yamazaki S, Yamaguchi J, Hasebe M, Fujiwara Y: Chronic stressors, stress coping, and depressive tendencies among the elderly. *Geriatrics & Gerontology International*, 2019. DOI: 10.1111/ggi.13870 (査読あり) (IF: 2.118, 2018)
12. Takahashi T, Nonaka K, Matsunaga H, Hasebe M, Murayama H, Koike T, Murayama Y, Kobayashi E, Fujiwara Y: Factors relating to social isolation in urban Japanese older people: A 2-year prospective cohort study. *Archives of Gerontology and Geriatrics,*2019,86. DOI: 10.1016/j.archger.2019.103936 (査読あり) (IF: 2.611, 2018)

3 著書等

1. 小林江里香, 岡本翔平: 第9回調査の研究対象と実施方法. 東京都健康長寿医療センター研究所　社会参加と地域保健研究チーム (編)「高齢者の健康と生活に関する縦断的研究－第9回調査 (2017) 研究報告書」, 1-18, 2020年1月.

2. 小林江里香: 仕事からの引退と社会活動への参加－退職年齢による差異の検討. 東京都健康長寿医療センター研究所　社会参加と地域保健研究チーム (編)「高齢者の健康と生活に関する縦断的研究－第9回調査 (2017) 研究報告書」, 44-64, 2020年1月

3. 岡本翔平: 高齢期の就労が健康行動に与える影響についての実証分析. 東京都健康長寿医療センター研究所　社会参加と地域保健研究チーム (編)「高齢者の健康と生活に関する縦断的研究－第9回調査 (2017) 研究報告書」, 65-84, 2020年1月

4. 岡本翔平: デミスパンによる身長の予測－体力・身体測定におけるデータ補完. 東京都健康長寿医療センター研究所　社会参加と地域保健研究チーム (編)「高齢者の健康と生活に関する縦断的研究－第9回調査 (2017) 研究報告書」, 19-24, 2020年1月

5. 岡本翔平: 高齢期の就労と健康. 『健康長寿ネット』2019年12月

6. 菅原育子, 小林江里香: 高齢者の家庭内外での活動の類型化と5年後の健康および主観的well-beingへの影響. 東京都健康長寿医療センター研究所　社会参加と地域保健研究チーム (編)「高齢者の健康と生活に関する縦断的研究－第9回調査 (2017) 研究報告書」, 25-43, 2020年1月

7. 村山陽: 地域における世代間交流の可能性.『元気ながさきの会』2020年2月発行

8. 岡本翔平: 日本人中高年者における社会的孤立と認知機能の関連.「東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター 2019年度参加者公募型共同研究 (二次分析研究会) 成果報告書」2020年3月

9. 小林江里香:「全国高齢者パネル調査」の概要.「東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター 2019年度参加者公募型共同研究 (二次分析研究会) 成果報告書」2020年3月

受賞

社会参加と社会貢献研究

1. 藤原佳典、桜井良太、河合恒、金憲経、鈴木宏幸、小川将、渡邊裕、平野浩彦、井原一成、大渕修一
第61回日本老年学会合同優秀ポスター賞「独居は認知機能低下のリスクとなるか？ソーシャルネットワークの多寡に着目した検討」2019.6
2. 桜井良太、日本老年医学会YIA(Young Investigator Award)「高齢者の歩行機能低下と認知機能低下の関連に関する研究」2019.6
3. Suzuki H, Ogawa S, Sakurai R, Nemoto Y, Kobayashi M, Sato K, Takahashi T, Iizuka A, Kobayashi K, Fujiwara Y、Outstanding Poster Award、Cognitive intervention through a training program for picture book reading improves not only cognitive function but also gait function in community-dwelling older adults 2019.10
4. Kitamura A, Seino S, Abe T, Taniguchi Y, Yokoyama Y, Amano H, Narita M, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S、Outstanding Poster Award、Sarcopenia and the risk of mortality and incident disability In community-dwelling older Japanese 2019.10

ヘルシーエイジングと地域保健研究

1. 田中泉澄、北村明彦（責任著者）、清野諭、西真理子、遠峰結衣、谷口優、横山友里、成田美紀、新開省二、日本公衆衛生雑誌優秀論文賞「大都市部在住の高齢者における孤食の実態と食品摂取の多様性との関連」日本公衆衛生雑誌2018;65(12):744-754.2019.10
2. 横山友里、清野諭、光武誠吾、西真理子、村山洋史、成田美紀、石﨑達郎、野藤悠、北村明彦、新開省二、第78回日本公衆衛生学会総会優秀ポスター賞「フレイル改善のための複合プログラムが要介護・死亡リスクと介護給付費に及ぼす影響」2019.10
3. 清野諭、北村明彦、遠峰結衣、西真理子、新開省二、第31回日本老年学会総会優秀合同ポスター賞「大都市在住高齢者におけるフレイルの認知度とその関連要因」2019.6
4. 清野諭、北村明彦、遠峰結衣、西真理子、新開省二、日本老年社会科学会第61回大会優秀演題賞「大都市在住高齢者におけるフレイルの認知度とその関連要因」2019.6
5. 陣内裕成、柿花宏信、北村明彦、松平浩、羽山実奈、村木功、本田瑛子、山岸良匡、今野弘規、大平哲也、岡田武夫、木山昌彦、齋藤多聞、磯博康、第78回日本公衆衛生学会総会口演賞「慢性腰痛・ひざ痛の重症化予防と住民健診におけるブリーフインタベーションの開発」2019.10
6. Kitamura A, Seino S, Abe T, Taniguchi Y, Yokoyama Y, Amano H, Narita M, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S、Outstanding poster in 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress「Sarcopenia and the risk of mortality and incident disability in community-dwelling older Japanese」2019.10

大都市高齢者基盤研究

1. 原田謙、小林江里香、斎藤民、日本老年社会科学会第 61 回大会優秀演題賞「中高年者の居住満足度に関連する地域環境要因－集合的効力感に着目したマルチレベル分析」2019.6.7

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)
二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

自立促進と精神保健研究チーム

チームリーダー：粟田主一

研究チームの概要・目的

高齢者が希望と尊厳をもって生きることができる社会を創出するには、身体的・精神的・社会的健康の保持・増進とともに、たとえ疾病に罹患しても，障害をもっても，本人が主体として自分自身の人生を選択し、必要な社会支援にアクセスすることができ、可能な限り自立した生活を継続することを可能にする社会環境が求められよう。そのような意味で、我々の研究チームは、「高齢者の自立促進」を共通の目標に掲げて、老年病や老年症候群の予防プログラムの開発とともに、認知症や障害があっても、希望と尊厳をもって暮らせる社会-Dementia Friendly Communities (DFCs)の創出をめざした研究を遂行することとした。

研究チームは、「フレイルと筋骨格系の健康」、「口腔保健と栄養」、「認知症と精神保健」という３つのテーマのグループで構成されている。テーマの研究課題は以下の通りである。

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

フレイルと筋骨格系の健康研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 （平成30年度）	2019 年度 （令和元年度）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
会場型RCT介入研究	介入プログラムの開発と効果検証	○サルコペニアに対するRCT ○骨格筋量減少者に対するRCT	重複フレイルに対するRCT	MCIに対するRCT	認知的フレイルに対するRCT	○腰痛・膝痛に対するRCT ○プログラムの普及活動
家庭中心の介入研究	家庭用の介入プログラム開発と効果検証		介入プログラムの開発	身体的フレイルに対する介入	身体的フレイルに対する介入	プログラムの普及活動
身体・精神機能低下と関連する要因の解明	縦断分析によるADL低下あるいは認知機能低下と関連する要因の解明	運動習慣とADLやIADL低下との関連性	MCI発症と関連する要因の縦断解析	うつ発症と関連する要因の縦断解析	死亡関連要因の縦断解析	成果普及活動
フレイルと関連する要因の解明	○フレイルと尿失禁との関連性の解明 ○認知的フレイル発症と関連する要因の解明	○食習慣や運動習慣とフレイルとの関連性 ○認知的フレイルと関連する要因（横断分析）	フレイルと尿失禁との関連性（横断解析、縦断解析）	フレイルと痛みとの関連性	認知的フレイルの発症と関連する要因（縦断解析）	成果普及活動
筋骨格系の障害と関連する要因の解明	痛み・複数回転倒・骨折・と関連する要因の解明	腰痛と関連する要因の解明	痛みと関連する要因の解明	複数回転倒と関連する要因の解明	怪我を伴う転倒と関連する要因の解明	成果普及活動

口腔保健と栄養研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度	2021 年度	2022 年度
(1)高齢者の口腔機能と栄養の改善に関する研究 ①オーラルフレイル予防プログラムの開発検証 ②口腔機能および栄養評価の確立 要介護高齢者の口腔・栄養管理のガイドライン作成（第二期作成） ③食形態決定ガイドライン作成	神奈川県における介入 複数地域におけるオーラルフレイル実態調査 要介護高齢者、地域在住高齢者の口腔、栄養調査 クリニカルクエスチョン（CQ）の再検討、調整、調査、啓発 食形態、嚥下調整食に関する実態調査	①オーラルフレイル予防プログラムの無作為化比較対照試験を終了、地域介入を開始。 ②要介護高齢者の口腔・栄養管理のガイドライン公開。 口腔機能低下症のポジションペーパーを海外誌で公開。食欲の指標と自立摂食能力評価等の論文を公開。 ③食形態判定のための多施設共同研究を開始	複数地域における介入研究 介入効果の検証 要介護高齢者、地域在住高齢者の口腔、栄養調査 各指標妥当性の検証 CQの再検討、調整、調査 普及、評価、啓発 ガイドライン案の作成、検証	複数地域における介入研究 介入効果の検証 要介護高齢者、地域在住高齢者の口腔、栄養調査 平成33年度介護報酬改定へのエビデンス提供 平成33年度介護報酬改定へのエビデンス提供 介入効果の検証	複数地域における介入研究 プログラム、関連資料の作成 要介護高齢者、地域在住高齢者の口腔、栄養調査 各指標を用いた口腔・栄養改善プログラム、関連資料作成 介入効果の検証 ガイドライン普及、啓発	複数地域における介入研究 介入・予防プログラム、関連資料完成 要介護高齢者、地域在住高齢者の口腔、栄養調査 口腔機能、栄養評価の確立 CQの再検討、調整、調査 ガイドライン普及、啓発
(2)認知症の口と栄養の支援に関する研究 ①調査、認知症患者の歯科的対応および歯科治療に関するガイドライン	施設入居要介護高齢者、もの忘れ外来受診者調査（第二期から継続） CQの再検討、調整、調査・普及、評価、啓発	①認知症患者の歯科的対応および歯科治療に関するガイドラインを完成 認知症高齢者の口腔管理及び栄養マネジメントに必要な評価法を検証し論文を公開 定期的な口腔管理が認知機能低下予防等に対する効果を検証することを目的とした無作為化比較対照試験を開始 高島平Studyの2年後追跡調査を実施	施設入居要介護高齢者、もの忘れ外来調査 モデル施設のリクルート CQの再検討、調整、調査・普及、評価、啓発	施設入居要介護高齢者、もの忘れ外来調査 モデル事例検討 平成33年度介護報酬改定へのエビデンス提供	施設入居要介護高齢者、もの忘れ外来受診者調査 モデル事例の検討 普及、評価、啓発	施設入居要介護高齢者、もの忘れ外来調査 トレーニングプログラム、教材、関連資料の完成 普及、啓発
(3) 口腔と栄養関連施策に関する検討 ①介護報酬改定の効果検証 ②平成33年改定に向けた調査	入所施設のデータ収集、横断データの解析 通所施設のコホート構築 通所施設のデータ収集、横断データの解析	平成30年度老人保健健康増進等事業 介護保険施設等における口腔の健康管理に関する実施状況の把握及び協力歯科医療機関等の役割に関する調査研究事業を実施、入所施設のコホート継続 通所サービス利用者等の口腔の健康管理及び栄養管理の充実に関する調査研究事業、通所施設のコホート開始	入所施設のデータ収集、介護・死亡データの収集 縦断データの解析（1年後） 通所施設のデータ収集、介護・死亡データの収集 縦断データの解析（1年後）	入所施設のデータ収集、介護・死亡データの収集、縦断データの解析、所施設のデータ収集 縦断データ解析 平成33年介護報酬改定へのエビデンス提供	入所施設のデータ収集、介護・死亡データの収集 縦断データの解析（3年後） 平成33年度介護報酬の効果検証 縦断データ解析・平成33年介護報酬の効果検証	入所施設のデータ収集、介護・死亡データの収集 縦断データの解析（4年後） 通所施設のデータ収集、介護・死亡データの収集 縦断データの解析（4年後）

認知症と精神保健

テーマ	研究目標・目的	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度	2021年度	2022年度
(1)大都市におけるDFCsの創出に向けた総合的研究	大都市において，認知症である本人及び多様なステークホルダーと協働して，DFCs創出モデルを開発する.	RBAに依拠するDFCsモデル開発に向けたアクション・リサーチ	包括的指標を用いたDFCsモデルの多面的評価（ベースライン調査）	DFCsモデルの多面的効果評価（アウトカム評価）	多様な地域へのDFCsモデルの普及	大都市におけるDFCs創出に向けた政策提言
(2)認知機能障害や精神障害をもつ高齢者にも適用可能な包括的QOL指標の開発	認知症や精神障害をもつ高齢者にも適用可能な，わが国の文化に適合した包括的QOL指標を開発する.	包括的QOL指標の作成と因子的妥当性の検証	包括的QOL指標の構成概念妥当性の検証→(1)の研究の指標として応用			
(3)認知機能評価尺度の標準化	地域在住高齢者を対象にして，わが国でも一般的に使用されている認知機能評価尺度の標準データを作成する.	TMT-A, TMT-Bの標準データの作成	MMSE-J,TMT-A, TMT-Bの標準化			
(4)重層的生活課題をもつ人々に対する居住支援・生活支援システムの開発	重層的生活課題をもつ人々に対する居住支援・生活支援システムのモデルを可視化させ，その効果を縦断的に評価する.	居住支援・生活支援システムのモデル化／システムの効果に関するパイロット研究	包括的指標を用いた居住支援・生活支援モデルの多面的評価	居住支援・生活支援モデルの多面的効果評価（アウトカム評価）	多様な地域への居住支援・生活支援モデルの般化	重層的生活課題をもつ人々に対する居住支援・生活支援システムに関する政策提言
(5)WEB会議システムを用いた離島における認知症支援システムの開発	離島の認知症初期集中支援推進事業のチーム員会議を，WEB会議システムを導入して継続的に支援し，その有用性を評価する.	WEB会議システムを用いた認知症支援システム実現可能性に関するパイロット研究	システムの効果を縦断的に評価するためのベースライン評価	システムの効果の縦断的評価	システムの効果の長期縦断的評価	離島におけるTV会議システムを般化するための政策提言
(6)認知症や精神障害とともに生きる高齢者に対する農業ケアプログラム開発	認知症高齢者等を対象とする農業ケアの効果を縦断的に評価する.	農業ケアの実現可能性に関するパイロット研究	包括的指標を用いた多面的効果評価	多地域共同研究の実施	多地域おける農業ケアの多面的効果評価	農業ケアの般化に向けた研究
(7)認知症・フレイルに関する共同研究	研究所内の他のテーマおよび病院部門と連携して，「認知症の複雑化」「フレイルの重複化・重症化」の要因を明らかにするとともに，予防プログラムを開発する.	認知症・フレイルの複雑化・重複化に関する観察研究／ツール開発／画像疫学的分析	認知症の複雑化／フレイルの重複化・重症化を予防する統合的な介入モデルの考案	認知症の複雑化／フレイルの重複化・重症化を予防する統合的介入モデルの評価	統合的介入モデルの長期的効果評価	認知症の複雑化／フレイルの重複化・重症化予防に関する政策提言
(8)認知症疾患医療センターの効果的運用に関する研究	認知症疾患医療センターの質を確保するための具体策を考案して政策提言を行うとともに，機能評価指標を用いて事業の質をモニタリングする.	質を評価するための検討委員会の設置／事業の質の向上に向けた具体策の検討	事業の質向上に向けた取り組みの実践／機能評価モニタリング	機能評価データの分析/PDCAサイクル稼働/政策提言		

(9) 若年性認知症の有病率・生活実態調査と社会支援システムの開発	東京都および全国の協力研究機関・自治体と連携して，若年性認知症の有病率と生活実態を把握し，社会支援の確保に向けた政策提言を行う.	東京都および全国の若年性認知症の有病率調査	東京都および全国の若年性認知症の生活実態調査／若年性認知症支援の先進事例集の作成	若年性認知症のための社会支援システムに関する政策提言		

フレイルと筋骨格系の健康

構成メンバー

テーマリーダー：金憲経
研究員：笹井浩行、小島成実、大須賀洋祐
非常勤研究員：大藏倫博、田中茂穂、山田実

1　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

①RCT介入研究

a. 重複フレイル高齢者88名を対象に筋力強化運動、コグニサイズ、筋力強化+コグニサイズの効果を検証する3ヶ月間のRCTを行った。現在、そのデータを分析中である。RCTに参加した者と参加しなかった者の特性を比較し、学会に報告した。
b. サルコペニア高齢者156名を対象に運動実践とHMB摂取によるRCTを実施し、その成果を国際学会で発表するとともに国際誌に投稿した。本RCTのプロトコルペーパーが受理された。
c. 骨格筋量が少ない高齢者130名を対象に運動実践とアミノ酸摂取によるRCTを実施した。現在、その結果を投稿準備中である。
d. MCI高齢者71名を対象にチーズ摂取がBDNFに及ぼす効果を分析し、国際誌に公表した。

②フレイル及び筋骨格系障害と関連する要因の解明

a. 重複フレイルの該当割合とその関連要因を横断的に分析し、結果を学術誌に公表した。
b. 食品と運動の多様性とフレイル発生との関連を縦断的に分析し、結果を学術誌に公表した。
c. 認知的フレイルと転倒との関連を横断的に分析し、結果を学術誌に公表した。
d. 食品摂取とADL低下の関連を縦断的に分析し、その結果を学術誌に投稿した。
e. MCIと食品摂取との関連を横断的に分析し、その結果を学会に報告した。
f. MCIと判定された高齢者における腸内細菌叢と血中composite markerおよびアミロイドβ蓄積量との関連性を解明する共同研究が進行中である。
g. 高齢就労者における転倒災害の発生を予測する就業安全指標の開発に関する研究を開始した（3年プロジェクト)。本年度は、就業安全調査を担当する調査員を約140名養成した。

【その根拠】

①RCT介入研究

a. 2017年・2018年にお達者健診に参加した高齢者1587名から、身体的・オーラル・社会的・MCI・心理的フレイルの該当状況を把握し､2種類以上のフレイルが重なる者を重複フレイルと定義したところ、245名が該当した。245名のうち、3月25～26日の事前調査に参加した88名を対象としたRCTを4月8日～6月27日に実施し、7月1～2日に事後調査を完了した。
b. 骨格筋量が5.7 kg/m^{2}未満の高齢女性156名を対象とした運動実践とHMB摂取によるRCTを2018年3月8日～12月5日に実施した。その結果をまとめた論文をJ Cachexia Sarcopenia Muscle誌に投稿し、現在査読中である。また、12月6～8日に開催された12th International SCWD Conferenceにエントリーした結果、Young Investigators Awardsにノミネートされた。
c. 骨格筋量指数が平均値-２標準偏差に該当する高齢者130名を対象に、運動にアミノ酸摂取を付加することによる上乗せ効果を検証するためのRCTを2018年9月7日～12月6日に実施した。その結果をまとめた論文を、現在執筆中である。
d. 白カビチーズ摂取が、BDNF上昇に有効であるとの結果を**JAMDA誌 (20: 1509-14、2019)**に掲載した。

②フレイル及び筋骨格系障害と関連する要因の解明

a. 2017年・2018年にお達者健診に参加した高齢者1365名から、身体的・オーラル・社会的・MCI・心理的フレイルの該当状況について把握し、2種類以上のフレイルを保有する重複フレイル該当者を196名選定した。その特徴と関連要因をMSD誌（45: 37-41、2019）に掲載した。
b. 2008年と2010年のお達者健診に参加した75歳以上の高齢女性1289名のうち、2年後の追跡調査に参加した604名について、食品と運動の多様性とフレイル発生との関連を分析し、その結果をJ Nutr Health Aging誌（23: 425-30、2019）に掲載した。
c. 2016年の高島平研究の参加者1192名の中から、身体的フレイル(55名)、MCI(342名)、認知的フレイル(25名)の該当者を抽出した。認知的フレイルと関連する要因を探索し、得られた結果を論文にまとめ、Geriatr Gerontol Int誌（19: 647-53、2019）に掲載した。
d. 2008年のお達者健診に参加した1289名の内、ADLが自立している女性1111名について、4年後のADL障害有無に関連する要因を探索した結果を、Clin Interv Aging誌に投稿中である。
e. 2017年に地域在住高齢女性1035人を対象に、チーズ摂取とMMSE得点やMCIとの関連性を横断的に分析し、その結果を第61回日本老年医学会学術集会で報告した(6.6-8、仙台、2019)。
f. 2019年のお達者健診に参加した1517名より、MCIに該当する高齢者50名と認知機能が正常な高齢者50名を選定し、両者間の腸内細菌叢や血中composite marker、アミロイドβ蓄積量との関連を検証する産学共同研究を行う。すでに倫理審査書類を提出済みである。
g. 埼玉県シルバー人材センター連合会の協力を得て、会員を対象に、就業安全調査に関するテキストを作成し、会員を対象に測定の研修会を実施した。その結果、140名の調査員を養成した（令和元年)。次年度は、その調査員が就業安全調査を補助する予定である。

2　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜サルコペニア＞
【センター内】自立促進と精神保健研究チーム（認知症と精神保健）
【センター外】筑波大学、株式会社協和
＜骨格筋量減少＞
【センター内】自立促進と精神保健研究チーム（認知症と精神保健）
【センター外】味の素株式会社
＜重複フレイル＞
【センター内】自立促進と精神保健研究チーム（認知症と精神保健、口腔保健と栄養)、歯科口腔外科、糖尿病・代謝・内分泌内科
【センター外】国立長寿医療研究センター研究所、桜美林大学
＜BDNF＞
【センター外】桜美林大学、株式会社明治
＜認知機能＞
【センター内】神経画像研究チーム
【センター外】国立長寿医療研究センター研究所
＜座位行動＞
【センター外】筑波大学
＜尿失禁＞
【センター内】老化脳神経科学研究チーム、泌尿器内科

口腔保健と栄養研究

構成メンバー

テーマリーダー：平野浩彦
研究員：岩崎正則、小原由紀、本川佳子
非常勤研究員：鈴木隆雄、那須郁夫、村上正治、森下志穂、本橋佳子、
釘宮嘉浩、三上友里江、早川美知、高橋知佳、中島純子、
高城大輔、広中早苗、山本かおり、松川千夏

1　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

①　高齢者の口腔機能と栄養の改善に関する研究

オーラルフレイル予防プログラムの開発検証については無作為化比較対照試験を実施し、さらに複数地域での地域介入も行い、地域への波及効果や導入プロセスの課題などを収集した。**地域在住高齢者の食環境整備**においては、地域在住高齢者における市販弁当等を活用した食環境整備の課題解決への取り組みに関し、市販弁当等の利用状況を含めた実態把握、市販弁当等利用時の栄養素等摂取量把握を目的に食品分析、以上を実施した。また、通いの場に参加する高齢者を中心とした摂食機能等に応じた適切な食事選択の方策に関する調査事業を実施している。

②　認知症の人の口と栄養の支援に関する研究

秋田、東京、神奈川、山梨、愛知の介護保険施設、特定施設、グループホーム利用者、国立長寿医療研究センターのもの忘れ外来受診者を対象とした調査で収集した。横断および縦断データを整理しデータベース作成を実施した。日本医療研究開発機構（AMED）の事業にて「認知症の人の歯科治療ガイドライン」を取りまとめた。また、軽度の認知機能低下の者への口腔衛生および機能指導介入が、認知機能（注意機能）向上に寄与する結果（無作為化比較対照試験）を得た。さらに、全国で実施される歯科医師の認知症対応力向上研修の講師としてガイドラインも含めた知見の周知を行った。さらに今年度より歯科医師のみならず多職種の認知症対応力向上研修の教材開発を行っている。要介護高齢者の追跡データに基づき、自立摂食能力低下群、栄養状態（MNA-SF）悪化群は死亡のリスクが有意に高い結果など、施設での看取り等に資する知見を提示した。

③　口腔と栄養関連施策に関する検討

前年度までに当テーマで実施した老人保健増進等事業において通所サービス利用者の口腔機能には課題があることが示された。そこで、令和元年度老人保健増進等事業において、通所介護事業所における口腔機能向上加算導入の効果を介入研究により実証するとともに、広く活用できるマニュアルの作成を行っている。「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」に向け、口腔機能向上サービス（オーラルフレイル管理)、会食などを中心とした通いの場の施策提言に資するデータ構築、啓発媒体などの作成を行った。

【その根拠】

①　高齢者の口腔機能と栄養の改善に関する研究

オーラルフレイル予防プログラムの開発検証：無作為化比較対照試験結果を論文化、複数地域での地域介入および課題把握に関しては、報告書（神奈川県）を作成した。また、日本歯科医師会と連携し、「歯科診療所における オーラルフレイル対応マニュアル2019年版」を作成した。**地域在住高齢者の食環境整備：**市販弁当等を活用した調査事業は厚生労働省科学研究費にて実施している。厚労省からのヒアリングは終了しており、報告書としてまとめる予定である。また、通いの場関連事業は厚労省への報告書を作成している。

②　認知症の人の口と栄養の支援に関する研究

「認知症の人の歯科治療ガイドライン」を出版（医歯薬出版）した。多職種の認知症対応力向上研修において医師・歯科医師・薬剤師・訪問看護師・介護支援専門員等からなる委員会において教材開発を行っている。口腔衛生および機能指導介入が、認知機能（注意機能）向上に関連する結果を論文化し投稿準備している。縦断データに基づく自立摂食能力低下群、栄養状態（MNA-SF）悪化群と死亡のリスクに関する結果を論文化した。

③　口腔と栄養関連施策に関する検討

「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」に向け、日本歯科医師会と連携し、「通いの場で活かすオーラルフレイル対応マニュアル」を作成、東京都福祉保健局と連携し「東京都介護予防・フレイ

ル予防ポータル」サイト（お口の健康（口腔））の作成を行った。

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜高齢者の口腔機能と栄養の改善に関する研究＞

【センター内】自立促進と精神保健研究チーム（フレイルと筋骨格系の健康、認知症と精神保健)、社会参加と地域保健研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、老化制御研究チーム、歯科口腔外科、フレイル外来

【センター外】東京大学高齢社会総合研究機構、東京医科歯科大学、昭和大学歯学部、日本歯科大学、神奈川県庁、神奈川県歯科医師会、秋田県歯科医師会、鳥取県歯科医師会、海老名市歯科医師会、日本栄養士会

＜認知症の口と栄養の支援に関する研究＞

【センター内】自立促進と精神保健研究チーム（フレイルと筋骨格系の健康、認知症と精神保健)、社会参加と地域保健研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、老化制御研究チーム、歯科口腔外科

【センター外】日本老年歯科医学会、日本歯科衛生士会、新潟大学大学院医歯学総合研究科、日本歯科医師会、日本歯科総合研究機構、東京医科歯科大学、大阪大学歯学部、九州大学大学院歯学研究院、国立長寿医療研究センター、東京歯科大学

＜口腔と栄養関連の施策に関する研究＞

【センター内】自立促進と精神保健研究チーム（フレイルと筋骨格系の健康、認知症と精神保健)、社会参加と地域保健研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、歯科口腔外科

【センター外】日本老年歯科医学会、広島大学大学院医歯薬保健学研究院、鳥取県歯科医師会、日本歯科衛生士会、新潟大学大学院医歯学総合研究科、高知学園短期大学、日本歯科医師会、日本歯科大学、日本歯科総合研究機構、東京医科歯科大学、大阪大学歯学部、岩手県歯科医師会、山梨県歯科医師会、鶴見大学歯学部、東北福祉大学、国立長寿医療研究センター

認知症と精神保健

構成メンバー

テーマリーダー：粟田主一

研究員：岡村毅、稲垣宏樹、宇良千秋、杉山美香、枝広あや子、佐久間尚子、小川まどか

非常勤研究員：新川祐利、岩佐一、釘宮由紀子、岡村睦子、的場由木、森倉三男、

見城澄子、多賀努、山村正子、柳澤知恵子、井上悠美子、野本恵美、續木宜子、新名正弥、長田久代

１　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

1)　DFCsの創出に向けた総合的研究

① 独居認知症高齢者等が安全・安心に暮らせる環境づくりのための研究（厚労／研究代表者：粟田）（文科／研究代表者：粟田、杉山、宮前、小川）（都受託研究／研究代表者：粟田）

a. 独居認知症高齢者等の実態把握を目的に、板橋区高島平地区では認知機能低下高齢者198人を対象とする追跡調査、65歳以上高齢者11,198人を対象とする郵送調査、足立区梅田地区では65歳以上高齢者5,429人対象とする郵送調査（悉皆）を実施した。

b. マンション管理組合，管理会社，住民、自治体、地域包括、社協、自治会・町内会のヒアリング調査を実施して、独居認知症高齢者等の生活課題を多角的に分析した。

c. 「暮らしの保健室」と連携して、独居認知症高齢者の事例分析を行った。

d. 福祉と生活ケア研究チームと連携して、文献レビューと国民生活基礎調査個票を用いた独居認知症高齢者等の実態分析を行った。

e. 生活支援ネットワークづくりの地域拠点「高島平ココからステーション」の効果をストラクチュア、プロセスという観点から分析した。「認知症地域支援推進事業」として事業化し、「認知症とともに暮らせる社会に向けて：地域づくりの手引」を刊行した。

f. NPO法人ふるさとの会と連携して、2003年1月から2018年12月までに24時間体制で生活支援員が常駐している共同居住に入居した65歳以上高齢者906人の実態調査を行った。現在事例調査を通して、「生活困窮者生活支援・居住支援」のモデルを検討している。

g. 島嶼部9町村のFGD逐語データを分析して課題を整理。好事例として神津島の関係者を対象とするヒアリング調査を実施する準備を進めている。
h. 千代田区と協働し、郵送法による生活実態調査、未返送者への訪問看護師による訪問調査と見守り支援による認知症支援体制構築を進めている。

② 認知症の包括的QOL尺度の開発研究（文科／代表：粟田）：日本語版DEMQOL, DEMQOL-PROXYを開発した。

③ 認知機能評価尺度の標準化に関する研究（文科／研究代表者：佐久間）

高島平スタディの縦断調査において、2年間のMMSE-Jの得点の変化と新たな認知機能低下の関連要因を分析した。

④ 農業ケアに関する研究（文科／代表：宇良ほか）：MCI・認知症の人を対象に、稲作ケアプログラムと通常のデイケアの効果を比較検討した。認知機能障害・精神疾患の人を対象に農業プログラムを提供している事業所を視察調査し、福祉と農業の融合によるケアの施策化の方法・課題を検討した。

⑤ 認知症ケアにおける寺院の可能性に関する研究（文科／研究分担者：岡村）：大正大学と協働し、東京近郊の高齢者施設のスタッフに対して質的および量的混合調査を行い、認知症ケアにおける寺院の可能性について分析した。

⑥ 日本郵便との共同研究：日本郵便（株）との共同研究で、「みまもり訪問サービス」の心理社会的効果を分析するために、利用者約1万人を対象に郵便局員による訪問調査を実施した。

2） 認知症・フレイルに関する共同研究（文科／研究代表者：枝広、ほか）：高島平地区をフィールドにして、研究部門及び病院部門と連携し、認知症及びフレイルの要因解明をめざした研究と画像疫学的研究を行った。

3） 若年性認知症の有病率・生活実態調査と社会支援システムの開発

①若年性認知症の有病率・生活実態調査（AMED／研究代表者：粟田）：全国12地域の医療機関・事業所・相談機関26,416箇所の悉皆調査を行い、計7,535人の若年性認知症者を把握。これに基づいてわが国の若年性認知症有病率を推計し、生活実態を分析した。

② 介護保険データ及び全国の認知症疾患医療センター統計に基づく若年性認知症実態調査（厚労科研／研究代表者：粟田）：第2号被保険者「認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上」で定義される若年性認知症の有病率、全国の認知症疾患医療センター・ベースで把握される若年性認知症の年間発生率を分析した。

③ 若年性認知症支援マニュアルの開発（都受託研究／研究代表者：粟田）：都内介護保険・障害福祉事業所3,668箇所を対象に若年性認知症支援の実態調査、28箇所の事業所についてはヒアリング調査を行い、若年性認知症支援プログラムのマニュアルを作成した。

4） 認知症施策の評価に関する研究

① 認知症疾患医療センターの質の管理及び地域連携のあり方に関する調査研究事業（老健事業／研究代表者：粟田）：検討委員会を設置し、認知症疾患医療センターの活動状況調査・分析、認知症疾患医療センターで実施される診断後支援の調査・分析、都道府県認知症疾患医療連携協議会の実態調査を行い、認知症疾患医療センターで実施される診断後支援及び都道府県認知症疾患医療連携協議会の先進事例集を作成した。また、2021年度実施要綱改訂に向けた討議を行い、政策提言を行った。

② 認知症施策推進大綱に基づく取組の評価方法検討に向けた研究（厚労／研究代表者：粟田）:「共生と予防」に関する先行研究実施責任者で討議し、認知症施策の評価・課題抽出のための研究実施に向けた政策提言を行った。

【その根拠】

1） **DFCsの創出に向けた総合的研究**

①は2019年度厚労科研報告書において報告する。bについては日本マンション学会誌マンション学64号に特集号を企画して報告した。eは認知症ケア学会誌に論文採択された。手引は下記。
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/zaishien/ninchishou_navi/torikumi/manual_text/pdf/besshi1.pdf
②は、原著論文がGGI19:487-491(2019)に掲載された。日本語版DEMQOL、DEMQOL-PROXYは右のURLより入手できる。https://www.tmghig.jp/research/release/2019/1010.html
③は、2019年IAGGで報告した。研究成果の一部を日本認知症ケア学会誌に掲載予定（印刷中）。
④は、GGI誌に掲載された。認知症ケア学会でシンポジウムを企画した。
⑤は、年度末に共同研究報告書で報告する。

2） 認知症・フレイル予防に関する共同研究

一連の研究を、日本老年精神医学会、日本老年歯科学会、日本老年医学会で報告した。また、他の研究チーム・テーマと共同して、複数の原著論文が英文誌に掲載された。

3） 若年性認知症の有病率・生活実態調査と社会支援システムの開発

第34回日本老年精神医学会（会長：粟田主一）でシンポジウムを企画した。調査結果は年度末にAMED報告書及び厚労科研報告書で公表する。都受託研究事業の調査結果は年度末に都に報告書を提出し、マニュアルは都のURLで公表する。

4）認知症施策の評価に関する研究

①は、第34回日本老年精神医学会（会長：粟田主一）でシンポジウムを企画した。研究成果は年度末の老健事業報告書で報告する。先進事例集は年度末に刊行し、研究所URLで公表する。

②は、内閣官房に中間報告書を提出した。研究成果は令和2年度厚生労働科学研究公募課題に反映されている。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000103641_00001.html

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜DFCsの創出に向けた総合的研究＞

【センター内】自立促進と精神保健研究チーム（フレイルと筋骨格系の健康，口腔保健と栄養)、地域保健と社会参加研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、認知症疾患医療センター、認知症支援推進センター、精神科、放射線診断科

【センター外】東京都、板橋区、板橋区医師会、慶応義塾大学、神奈川大学、大正大学、NPO法人ふるさとの会、暮らしの保健室、UR都市機構、日本郵便、マンション管理業組合など

＜認知症・フレイルに関する共同研究＞

【センター内】自立促進と精神保健研究チーム（フレイルと筋骨格系の健康、口腔保健と栄養）

＜若年性認知症の有病率・生活実態把握と社会支援システムの確立＞

【センター内】福祉と生活ケア研究チーム、認知症疾患医療センター、精神科、神経内科、脳神経外科、脳卒中科、放射線診断科

【センター外】秋田大学、福島県立医科大学、東北大学、筑波大学、群馬大学、新潟大学、大阪大学、愛媛大学、認知症介護研究・研修大府センター、東京都、山梨県、砂川市立病院他

＜認知症施策の評価に関する研究＞

【センター内】認知症疾患医療センター、認知症支援推進センター

【センター外】大阪大学、浜松医科大学、横浜市立大学、山梨大学他

論文・学会発表

フレイルと筋骨格系の健康

１　学会発表

(1) 海外

1. H Kim, S Awata, H Inagaki, Y Watanabe, N Kojima, Y Osuka, A Edahiro, K Motokawa, S Shinkai: Association between cognitive frailty and falls in community-dwelling older persons, 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei Taiwan, 2019.10.23-27, ポスター
2. Kojima N, Saito K, Yoshida Y, Hirano H, Obuchi S, Shimada H, Suzuki T, Iwasa H, and Kim H, Predictors of knee pain in older women living in urban areas, 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, , Taipei Taiwan, 2019.10.23-27, ポスター
3. N Kojima, K Saito, Y Yoshida, H Hirano, S Obuchi, H Shimada, T Suzuki, H Iwasa, H Kim: Predictors of knee pain in older women living in urban areas, 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei Taiwan, 2019.10.23-27, ポスター
4. M Shirobe, Y Ohara, Y Watanabe, A Edahiro, K Motokawa, H Hirano, H Kawai, H Kim, K Ihara, Y Fujiwara, S Obuchi: Factors Affecting Discontinuation of Dental Visits in the Elderly, International Symposium of Dental Hygiene, Brisbane Australia, 2019.8.15-17, ポスター
5. K Wagatsuma, M Sakata, K Ishibashi K Miwa, N Kojima, Y Osuka, H Kim, K Ishii: Acquisition period of amyloid Pet imaging using [F]Florbetapir can be compressed without altering standardized uptake value ratios, EANM 2019, Barcelona Spain, 2019.10.12-16, 口頭
6. H Kawai, S Obuchi, Y Watanabe, H Hirano, Y Fujiwara, K Ihara, H Kim, Y Kobayashi, M Mchimaru, E Tsushima, K Nakamura: Association between frailty and daily living walking speed measured by smartphones with built-in global positioning system(GPS), 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei Taiwan, 2019.10.23-27, ポスター
7. Kosaki K, Tanahashi K, Matsui M, Akazawa N, Osuka Y, Tanaka K, Dunstan D, Owen N, Shibata A, Oka K, Maeda S. Objectively-assessed sedentary behavior, physical activity, and renal function in Japanese middle-aged and older

adults. 2019 ASICS SMA Conference, Australia, 2019.10.23-26.

8. Takahashi K, Kosaki K, Tanahashi K, Osuka Y, Tanaka K, Kuro-o M, Maeda S. Relationship between aerobic fitness and nephron index in middle-aged and older adults. 2019 ASICS SMA Conference, Australia, 2019.10.23-26.
9. R Sakurai, H Kawai, S Yanai, H Suzuki, S Ogawa, H Kim, H Hirano, K Ihara, S Obuchi, Y Fujiwara: The effects of hearing loss and mobility decline on cognitive function of older adults, GSA 2019 Annual Scientific Meeting, Austin Texas, 2019.11.13-17, 口頭
10. Doi T, Nakakubo S, Tsutsumimoto K, Kim M, Kurita S, Ishii H, Shimada H. Low function based on spatio-temporal gait variables and disability. International Society of Posture & Gait Research (ISPGR) WORLD CONGRESS 2019, Edinburgh, Scotland, July 1, 2019. Poster presentation.
11. Nakakubo S, Doi T, Tsutsumimoto K, Kim M, Kurita S, Ishii H, Shimada H. Association of walk ratio during normal gait speed and fall in community-dwelling elderly people. International Society of Posture & Gait Research (ISPGR) WORLD CONGRESS 2019, Edinburgh, Scotland, July 2, 2019. Poster presentation.
12. Blumen H, Schwartz E, Allali G, Beauchet O, Brickman A, Callisaya M, Doi T, Lipton R, Shimada H, Srikanth V, Verghese J. Cortical Thinning in the Motoric Cognitive Risk (MCR) Neuroimaging Consortium. Alzheimer's Association International Conference 2019, Los Angeles, United States of America, July 14-18, 2019. Poster presentation.
13. Lee S, Bae S, Makino K, Harada K, Chiba I, Katayama O, Shinkai Y, Shimada H. The Related Factors on Onset Dementia By Age Among Community-Dwelling Older Adults: A Prospective Study(NCGG-SGS). Alzheimer's Association International Conference, Sydney, Australia, September 25-27, 2019. Poster presentation.
14. Shimada H, Lee S, Doi T, Bae S, Tsutsumimoto K, Arai H. Prevalence of Psychological Frailty in the Older Adults. Alzheimer's Association International Conference, Sydney, Australia, September 25-27, 2019. Poster presentation.
15. Ohta T, Nagashima J, Aoki H, Yoshihisa T, Imagawa Y, Ono N, Fukuda W, Konagi R, Sawada SS, Sasai H, Ishii N. Muscle strength and bone strength assessed with osteo-sono assessment index among recreationally athletic Japanese women. The 66th annual meeting of American College of Sports Medicine, Orlando, 2019.5.29.
16. Brychta RJ, Muniyappa R, McGehee S, Huang S, Hattenbach JD, Bell SL, Courville AB, Yang S, Leitner BP, Duckworth CJ, Cassimatis T, Fletcher LA, Sasai H, Cypess AM, Reitman ML, Chen KY. Acute effects of propranolol and pindolol on heart rate, metabolic rate, and cold-induced thermogenesis in lean, young men. The 30th International Symposium on the Autonomic Nervous System, Clearwater, 2019年11月6日.
17. Yoon. J, Sasaki. K, Seol J, Tateoka K, Liu J, Isoda H, Okura T. Evaluation of the effects on physical activity and cognitive function in elderly women. ACRM 96th Annual Conference. America, Chicago, HILTON, 2019, 11. Poster presentation.
18. Liu J, Fujii Y, Fujii K, Seol JH, Okura T. Differences Between Frail and Healthy Elder Drivers in the Relationship of Falls to Automobile Accidents in Japan. 11th IAGG asia/Oceania Regional Congress, Taipei, October 2019, oral presentation.
19. Tateoka K, Shen S, Yoon J, Okura T. Relationship of lower-limb dexterity and cognitive function in older adults ver1.0 11th IAGG Asia/Oceania regional Congress, Taipei, Taiwan, October 2019, poster presentation
20. Fujii Y, Fujii K, Jindo T, Kitano N, Seol JH, Tsunoda K, Okura T. The impact of exercise with others on mortality in rural older adults: a 3-year follow-up survey from Kasama study. the 11th IAGG Asia/Oceania regional Congress, Taipei, Taiwan, October 2019, Oral presentation.
21. J. Seol, Y. Fujii, I. Park, Y. Suzuki, F. Kawana, K. Yajima, S. Fukusumi, T. Okura, M. Satoh, K. Tokuyama, T. Kokubo, M. Yanagisawa. Different effects of orexin receptor antagonist and GABAA agonist on physical and cognitive functions after forced awakening. World Sleep 2019, Vancouver, Canada, September, Poster presentation
22. Yoon J, Fujii K, Tanigawa S, Yoshida T, Fujii, Y, Tateoka K, Okura T. Assessment of the relationship between athlete's physical ability and physical condition. ECSS Prague 2019. Czech Republic, Praha, Congress Centre, 2019, 7 Mini oral
23. 大藏倫博. 高齢者の健康増進運動プログラムの紹介～マットス～. Asian Society for Health and Exercise. 中国, 鄭州大学, 2019年6月
24. 大藏倫博. 高齢者の健康度評価機器の紹介～ペグ・アモーレ～. Asian Society for Health and Exercise. 中国, 鄭州大学, 2019年6月
25. Doi T, Nakakubo S, Tsutsumimoto K, Kim M, Kurita S, Ishii H, Shimada H. Low function based on spatio-temporal gait variables and disability. International Society of Posture & Gait Research (ISPGR) WORLD CONGRESS 2019, Edinburgh, Scotland, July 1, 2019. Poster presentation.
26. Nakakubo S, Doi T, Tsutsumimoto K, Kim M, Kurita S, Ishii H, Shimada H. Association of walk ratio during normal gait speed and fall in community-dwelling elderly people. International Society of Posture & Gait Research (ISPGR) WORLD CONGRESS 2019, Edinburgh, Scotland, July 2, 2019. Poster presentation.
27. Blumen H, Schwartz E, Allali G, Beauchet O, Brickman A, Callisaya M, Doi T, Lipton R, Shimada H, Srikanth V, Verghese J. Cortical Thinning in the Motoric Cognitive Risk (MCR) Neuroimaging Consortium. Alzheimer's Association International Conference 2019, Los Angeles, United States of America, July 14-18, 2019. Poster presentation.
28. Lee S, Bae S, Makino K, Harada K, Chiba I, Katayama O, Shinkai Y, Shimada H. The Related Factors on Onset Dementia By Age Among Community-Dwelling Older Adults:A Prospective Study(NCGG-SGS). Alzheimer's Association

International Conference, Sydney, Australia, September 25-27, 2019. Poster presentation.

29. Shimada H, Lee S, Doi T, Bae S, Tsutsumimoto K, Arai H. Prevalence of Psychological Frailty in the Older Adults. Alzheimer's Association International Conference, Sydney, Australia, September 25-27, 2019. Poster presentation.
30. Okura T. Frontiers in frailty prevention in area of sport sciences, Luncheon seminar. The 7th International Conference on Food Factors, Kobe, December 2019. (12月4日開催見込み)
31. Shimada H. International Conference on Frailty and Sarcopenia Research, Toulouse, France, March 11-13, 2020.
32. Y Osuka, N Kojima, K Wakaba, D Miyauchi, K Tanaka, H Kim: Effects of exercise and/or beta-hydroxy-beta-methyl-butyrate supplements on muscle mass, muscle strength, and physical performance in older women with muscle atrophy: A randomized, double-blind, placebo-controlled trial. The 12th international SCWD Conference on Cachexia, Sarcopenia and Muscle Wasting, Berlin, 2019.12.6-8
33. Y Osuka, N Kojima, K Nishihara, K Wakaba, D Miyauchi, K Tanaka, H Kim: Effects of exercise and beta-hydroxy-beta-methylbutyrate supplements on muscle thickness and quality in older women with muscle atrophy: Secondary analyses of a randomized, double-blind, placebo-controlled trial. International Conference on Frailty and Sarcopenia Research, France, 2020.3.11-13.
34. Sasai H, Osuka Y, Kojima N, Kim H. Frailty status and two-year cognitive decline in community-dwelling older Japanese women.10th edition of International Conference on Frailty and Sarcopenia Research, France, 2020.3.11-13.

(2) 国内

1. 金憲経：サルコペニアの疫学と予防対策、第30回日本医学会総会2019中部、名古屋、2019.4.27-28、シンポジウム
2. 金憲経、渡邊裕、小島成実、大須賀洋祐、本川佳子、鈴木隆雄：地域在住高齢女性における食習慣と認知機能との関連性、第61回日本老年医学会学術集会、仙台、2019.6-8、口頭
3. 藤原佳典、桜井良太、河合恒、金憲経、鈴木宏幸、小川将、渡邊裕、平野浩彦、井原一成、大渕修一：独居は認知機能低下のリスクとなるか？：ソーシャルネットワークの多寡に着目した検討、第61回日本老年医学会学術集会、仙台、2019.6-8、ポスター
4. 大須賀洋祐、小島成実、吉田祐子、平野浩彦、鈴木隆雄、金憲経：後期高齢者における食品と運動の多様性とフレイルの発生-2年間のコホート研究-、第61回日本老年医学会学術集会、仙台、2019.6-8、口頭
5. 桜井良太、渡邊裕、大須賀洋祐、谷口優、河合恒、金憲経、北村明彦、稲垣宏樹、粟田主一、新開省二：アポリポ蛋白E4の保有と歩行速度低下の重積が高齢者の認知機能に与える影響、第61回日本老年医学会学術集会、仙台、2019.6-8、口頭
6. 解良武士、河合恒、平野浩彦、渡邊裕、小島基永、藤原佳典、井原一成、金憲経、大渕修一：SARC-Fはサルコペニアよりも身体機能の虚弱状態を反映する、第61回日本老年医学会学術集会、仙台、2019.6-8、口頭
7. 鈴木隆雄、西田裕紀子、大塚礼、島田裕之、金憲経、北村明彦、藤原佳典、吉村典子、飯島勝矢、牧迫飛雄馬：わが国高齢者の身体機能、サルコペニア、フレイルに関する経年的変動について-長寿コホートの総合的研究(ILSA-J)より-、第61回日本老年医学会学術集会、仙台、2019.6-8、口頭
8. 鈴木隆雄、徳井友香、高杉論、川島昭浩、山地健人、小島成実、金憲経：カビ発酵乳製品が血中脳由来神経栄養因子(BDNF)に及ぼす影響～ランダム化研究～、第61回日本老年医学会学術集会、仙台、2019.6.6-8、口頭
9. 富崎真澄、須藤元喜、仁木佳文、金憲経、島田裕之、岩上優美、今泉一哉：歩行時の足指設置面積の年代変化と歩容、転倒との関連性、第61回日本老年医学会学術集会、仙台、2019.6.6-8、ポスター
10. 小島成実、齋藤京子、吉田祐子、平野浩彦、大渕修一、島田裕之、鈴木隆雄、岩佐一、金憲経：都市部在住の高齢女性における膝痛の予知因子、第61回日本老年医学会学術集会、仙台、2019.6.6-8、ポスター
11. 金憲経：筋量・筋力アップのための運動と栄養の効果、第19回日本抗加齢医学会総会、横浜、2019.6.14-16、シンポジウム
12. 金憲経：失禁タイプ別にみた行動療法、 第32回日本老年泌尿器科学会、旭川、2019.6.14-15、イブニングシンポジウム
13. 松井公宏, 小﨑恵生, 赤澤暢彦, 棚橋嵩一郎, 大須賀洋祐, 田中喜代次, 黒尾誠, 前田清司. 中高齢者における血中 FGF21 濃度と身体活動量の関連性. 第 19 回日本抗加齢医学会学術総会. 神奈川. 2019.6.14-16.
14. 松原ちあき、白部麻樹、古屋純一、小原由紀、大渕修一、金憲経、粟田主一、平野浩彦、水口俊介、渡邊裕：地域在住高齢者における歯科保健指導による認知機能低下予防効果の検証、日本歯科衛生学会第14回学術大会、名古屋、2019.9.14-16、口頭
15. 金泰浩, 大久保善郎, 鄭松伊, 大須賀洋祐, 田中喜代次. 高齢者における運動習慣との膝痛の有無を組み合わせたタイプが身体機能に及ぼす影響. 第 74 回日本体力医学会大会. 茨城. 2019.9.19-21.
16. 小﨑恵生, 大須賀洋祐, 田中喜代次, 前田清司. 高齢者におけるレジタンストレーニングと有酸素性トレーニングの併用が大動脈スティフネスに及ぼす影響. 第 74 回日本体力医学会大会. 茨城. 2019.9.19-21.
17. 大須賀洋祐, 小島成実, 桜井良太, 渡邊裕, 金憲経. Stepping Trail Making Test の再現性および構成概念妥当性. 第 74 回日本体力医学会大会. 茨城. 2019.919-21.
18. 金憲経、小島成実、大須賀洋祐、鈴木隆雄：都市部在住高齢女性における食品摂取頻度と認知機能との関連性について、第74回日本体力医学会大会、つくば、2019.9.19-21、口頭
19. 金憲経：乳・乳製品摂取の視点からみた認知症予防、第 9 回日本認知症予防学会学術集会、2019.10.19、ランチョンセミナー
20. 高橋淳太、河合恒、鈴木宏幸、藤原佳典、渡邊裕、平野浩彦、金憲経、井原一成、三木明子、大渕修一：タブレット型コンピューターを利用した認知機能検査による2年後のMCI発症の予測能について、第54回日本理学療法学術大会、徳島、2019.10.19-20、口頭

21. 河合恒、大渕修一、渡邊裕、平野浩彦、藤原佳典、井原一成、金憲経、小林吉之、持丸正明、対馬栄輝、中村耕三：スマートフォン内臓GPSによって測定した日常生活における歩行速度の日内変動、第14回日本応用老年学会大会、京都、2019.10.19-20、口頭
22. 高橋淳太、河合恒、鈴木宏幸、藤原佳典、渡邊裕、平野浩彦、金憲経、井原一成、三木明子、大渕修一：老研式認知機能検査(Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology cognitive assessment tool: TMIG-CAT)の開発とその妥当性の検討、第78回日本公衆衛生学会総会、高知、2019.10.23-25、口頭
23. 内藤孝雄、鈴木ゆめ、齋藤京子、小島成実、金憲経、山末耕太郎、石川義弘、杤久保修：高齢者の立位バランスと認知機能の関係性の評価、第78回日本公衆衛生学会総会、高知、2019.10.23-25、口頭
24. 解良武士、河合恒、平野浩彦、小島基永、藤原佳典、渡邊裕、本川佳子、井原一成、大須賀洋祐、金憲経、小島成実、大渕修一:SARC-Fは地域高齢者のスクリーニングツールとしては十分ではない、第78回日本公衆衛生学会総会、高知、2019.10.23-25、口頭
25. 桜井良太、河合恒、金憲経、鈴木宏幸、小川将、渡邊裕、平野浩彦、井原一成、大渕修一、藤原佳典：孤食と抑うつの関連－居住形態とソーシャルネットワークの多寡に着目した検討－、第78回日本公衆衛生学会総会、高知、2019.10.23-25、口頭
26. 解良武士、河合恒、平野浩彦、小島基永、渡邊裕、本川佳子、金憲経、藤原佳典、井原一成、大渕修一：サルコペニア・フレイルのスクリーニングツールとしてのSARC-FとSARC-F-3の有用性、第6回日本予防理学療法学会学術大会、広島、2019.10.19-20、口頭
27. 白部麻樹、江尻愛美、伊藤久美子、河合恒、井原一成、金憲経、渡邊裕、平野浩彦、藤原佳典、大渕修一：地域在住高齢者の運動習慣と身体機能および口腔機能に関する検討、第6回日本予防理学療法学会学術大会、広島、2019.10.19-20、ポスター
28. 金憲経：「身体的フレイルとその予防」、第6回日本サルコペニア・フレイル学会、新潟、2019.11.9-10、シンポジウム
29. 金憲経、小島成実、大須賀洋祐：重複フレイル改善を目的としたプログラム参加者と不参加者の特性比較、第6回日本サルコペニア・フレイル学会、新潟、2019.11.9-10、口頭
30. 小島成実、大須賀洋祐、金憲経：地域在住高齢女性の集団データを用いたフレイル予防のための食品摂取頻度パターン作成の試み、第6回日本サルコペニア・フレイル学会、新潟、2019.11.9-10、ポスター
31. 青木登紀子、小島成実、大須賀洋祐、金憲経：地域在住高齢女性におけるヨガ習慣とフレイル有症率との関連、第6回日本サルコペニア・フレイル学会、新潟、2019.11.9-10、ポスター
32. 上田由美子、小島成実、大須賀洋祐、金憲経：地域在住高齢女性における重複フレイルの有症率とその特徴について、第6回日本サルコペニア・フレイル学会、新潟、2019.11.9-10、ポスター
33. 田中喜代次：加齢に伴う体力変化とフレイル予防策、第 92 回日本整形外科学会学術総会、横浜、2019.5.11
34. 吉川徹，熊谷仁，妙圓園香苗，膳法亜沙子，辻本健彦，田中喜代次，前田清司：肥満男性における 12 週間の食習慣改善または有酸素性運動が糖負荷前後の中心血圧に与える影響．第 74 回日本体力医学会大会，茨城，2019.9.19-21
35. 武政徹，武田紘平，田中喜代次，麻見直美，沼田治:高年女性が行う軽運動の効果に及ぼす高分子ポリフェノール MAF の影響．第 74 回日本体力医学会学術大会、つくば、2019.9.19-21
36. Jon S, Okubo Y, Osuka Y, Seino S, Shigematsu R, Kim T, Wakaba K, Kobayashi H, Tanaka K: Effects of a mailing support program on long-term exercise adherence in community-dwelling older Japanese adults: A two-year randomized controlled trial. 第 74 回日本体力医学会学術大会、つくば、2019.9.19-21、ポスター
37. 中沢孝，田中喜代次：中高年男性市民ランナーの平均走速度と年齢、走距離の関係
第 74 回日本体力医学会学術大会、つくば、2019.9.19-21
38. 小澤多賀子，大月直美，田中喜代次：生涯にわたり、誰もが運動・スポーツを楽しむことができる社会づくりに向けた取り組み、第 74 回日本体力医学会学術大会、つくば、2019.9.19-21
39. 塚本真浩，中川ひろみ，田中喜代次：ストーマを有する大腸がん患者の体力水準と運動の必要性、第 74 回日本体力医学会学術大会、つくば、2019.9.19-21
40. 染谷典子，金泰浩，中沢孝，小澤多賀子，大月直美，鄭松伊，若葉京良，藪下典子，田中喜代次：メディカフィットネス 30 年の変遷～茨城県 HT 病院の例～、第 74 回日本体力医学会大会、茨城、2019.9.19-21.（口頭発表）
41. 島田裕之，土井剛彦，李相侖，牧迫飛雄馬．MCI から正常の認知機能への回復に対する予測因子の検討．第 61 回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019 年 6 月 6 日．口述発表．
42. 李相侖，裵成琉，牧野圭太郎，千葉一平，島田裕之．地域在住高齢者の大規模コホートを用いた認知症発症時期における関連要因の分析．第 61 回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019 年 6 月 6 日．合同ポスターセッション．
43. 堤本広大，土井剛彦，中窪翔，金珉智，栗田智史，石井秀明，島田裕之．高齢期の食欲低下は，フレイルを介して間接的に将来の要介護を引き起こす．第 61 回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019 年 6 月 6 日．口述発表．
44. 中窪翔，土井剛彦，堤本広大，栗田智史，金珉智，石井秀明，島田裕之．地域在住高齢者における睡眠時間と身体的フレイルの関連性―4 年間の縦断研究―．第 61 回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019 年 6 月 6 日．口述発表．
45. 石井秀明，堤本広大，土井剛彦，中窪翔，金珉智，栗田智史，島田裕之．高齢期における身体的フレイルと筋量低下の併発は，新規要介護発生に影響を与えうるのか？―2 年間の縦断研究―．第 61 回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019 年 6 月 7 日．口述発表．
46. 須藤元喜，富崎真澄，仁木佳文，島田裕之，岩上優美，今泉一哉．足型判定指標による歩行時のアーチ機能評価の基準値作成と年代変化及び歩容との関連性．第 61 回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019 年 6 月 7 日．ポスター発表．
47. 金珉智，土井剛彦，堤本広大，中窪翔，栗田智史，石井秀明，島田裕之．余暇活動とうつ徴候との関連性―社会的フレイルに基づいて―．第 61 回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019 年 6 月 7 日．ポスター発表．
48. 千葉一平，李相侖，裵成琉，牧野圭太郎，新海陽平，島田裕之．地域在住高齢者における内臓脂肪蓄積と糖尿病リスクとの

関連．第61回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019年6月7日．ポスター発表．

49. 島田裕之．シンポジウム8「老年医学が主導する予防と共生をテーマとした認知症研究の全国展開」認知症の前臨床コホート研究の概況と研究応用．第61回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019年6月8日．
50. 島田裕之．ジョイントシンポジウム3「幸福な超高齢社会創設のためのリハビリテーション医学と老年医学との連携」高齢者のフレイル予防におけるリハビリテーション科と老年医学の関わり．第61回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019年6月8日．
51. 川出義浩，間辺利江，馬場隆幸，植屋節子，田村清美，森圭子，山下英美，山田和政，島田裕之，赤津裕康．介護・認知症予防の為の介入プログラムの有用性についての検証．第61回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019年6月8日．口述発表．
52. 牧野圭太郎，李相侖，裵成琉，新海陽平，千葉一平，島田裕之．地域在住後期高齢者の要介護発生に対するNCGG-ADLスケールの予測妥当性の検証．第61回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019年6月8日．口述発表．
53. 土井剛彦，中窪翔，堤本広大，金珉智，栗田智史，石井秀明，島田裕之．歩行能力の低下は死亡リスクの予測因子となりうるのか？．第61回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019年6月8日．ポスター発表．
54. 裵成琉，李相侖，原田健次，牧野圭太郎，千葉一平，島田裕之．認知機能低下を有する高齢者の皮質厚に対する複合的運動プログラムの効果検証．第61回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019年6月8日．ポスター発表．
55. 栗田智史，土井剛彦，堤本広大，中窪翔，金珉智，石井秀明，島田裕之．身体活動・知的活動の多寡と新規要介護発生の関連．第61回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019年6月8日．口述発表．
56. 島田裕之．シンポジウム3「脳ドックにおける生活指導」認知症予防のための早期スクリーニングの必要性．第28回日本脳ドック学会総会，松江市，2019年6月21日．
57. 島田裕之，土井剛彦，堤本広大，中窪翔，石井秀明，牧野圭太郎，千葉一平，片山侑．心理的フレイルと新規要介護認定．日本予防理学療法学会　第5回サテライト集会，東京都，2019年8月18日．ポスター発表．
58. 金珉智，土井剛彦，堤本広大，中窪翔，栗田智史，石井秀明，島田裕之．社会的活動と認知症発症の関連．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年10月18日．口述発表．
59. 金珉智，土井剛彦，堤本広大，中窪翔，栗田智史，石井秀明，島田裕之．高齢期の知的活動と認知機能の関連―性差を踏まえた検討―．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年10月18日．口述発表．
60. 栗田智史，土井剛彦，堤本広大，中窪翔，金珉智，石井秀明，島田裕之．身体活動・知的活動の多寡と軽度認知障害の関連．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年10月18日．口述発表．
61. 堤本広大，土井剛彦，中窪翔，金珉智，栗田智史，石井秀明，島田裕之．社会的フレイルがアルツハイマー病発症に与える影響．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年10月18日．口述発表．
62. 土井剛彦，堤本広大，中窪翔，金珉智，栗田智史，石井秀明，島田裕之．ダンスプログラム、楽器演奏プログラムが認知機能に及ぼす効果と関連要因―ランダム化比較試験による検討―．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年10月18日．口述発表．
63. 島田裕之．シンポジウム4 「社会的孤立と社会参加」．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年10月18日．座長．
64. 島田裕之．シンポジウム6「認知症予防からみた高齢者の運転」．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年10月18日．座長．
65. 島田裕之，李相侖，牧野圭太郎，裵成琉，新海陽平，千葉一平，片山脩，原田健次．AIによる要介護認定と認知症の発症予測．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年10月18日．口述発表．
66. 米田哲也，篠原彩恵，牧野圭太郎，李相侖，島田裕之．簡易的MRIアミロイドイメージングの開発．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年10月18日．口述発表．
67. 片山脩，李相侖，裵成琉，牧野圭太郎，千葉一平，新海陽平，原田健次，島田裕之．正常な認知機能に回復した軽度認知障害（MCI）を有する高齢者のライフスタイルの経時的変化パターンの分類―MCIタイプ別の検討―．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年10月18日．口述発表．
68. 牧野圭太郎，李相侖，裵成琉，新海陽平，千葉一平，片山脩，原田健次，島田裕之．手段的日常生活動作の低下による軽度認知障害発生の予測：4年間の縦断研究．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年10月18日．口述発表．
69. 李相侖，裵成琉，原田健次，牧野圭太郎，千葉一平，片山脩，新海陽平，原田和弘，島田裕之．複合的運動プログラムによる介入研究の効果検証：二重課題の結果．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年10月18日．口述発表．
70. 李相侖，裵成琉，牧野圭太郎，原田健次，千葉一平，片山脩，新海陽平，島田裕之．地域在住高齢者の多剤併用の状態および軽度認知障害、フレイルとの関係：大規模高齢者コホート研究．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年10月18日．口述発表．
71. 裵成琉，李相侖，原田健次，牧野圭太郎，千葉一平，片山脩，新海陽平，島田裕之．日常の身体、知的、社会的活動の実施は高齢者の大脳皮質の菲薄化を抑制できるのだろうか．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年10月18日．口述発表．
72. 裵成琉，李相侖，原田健次，牧野圭太郎，千葉一平，片山脩，新海陽平，島田裕之．健康活動促進プログラムの実践が高齢者の白質神経線維の結合性に及ぼす影響：無作為化比較試験．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年10月18日．口述発表．
73. 栗田智史，土井剛彦，堤本広大，中窪翔，金珉智，石井秀明，島田裕之．歩行速度が低下した高齢者における座位での知的活動と認知機能障害の関連．第9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年10月19日．口述発表．
74. 原田健次，李相侖，裵成琉，牧野圭太郎，千葉一平，片山脩，新海陽平，原田和弘，島田裕之．軽度認知機能低下がある高

齢者における日常生活の身体活動量と脳構造および脳構造・活動ネットワークの関連．第 9 回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019 年 10 月 19 日．口述発表.

75. 原田健次，李相侖，裵成琉，牧野圭太郎，千葉一平，片山脩，新海陽平，島田裕之．地域在住高齢者において日常生活の歩数により頭蓋内灰白質容積は異なる．第 9 回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019 年 10 月 19 日．口述発表.
76. 石井秀明，土井剛彦，堤本広大，中窪翔，金珉智，栗田智史，島田裕之．高齢ドライバーにおける自動車事故経験に関連する因子の検討．第 9 回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019 年 10 月 19 日．口述発表.
77. 石井秀明，土井剛彦，堤本広大，中窪翔，金珉智，栗田智史，島田裕之．地域在住高齢者における下肢機能の低下と多領域の認知障害の関連．第 9 回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019 年 10 月 19 日．口述発表.
78. 石原眞澄，斉藤民，櫻井孝，島田裕之，荒井秀典．高齢者のうつ予防：ポジティブな対話型写真鑑賞プログラムの気分改善効果．第 9 回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019 年 10 月 19 日．口述発表.
79. 千葉一平，李相侖，裵成琉，牧野圭太郎，新海陽平，片山脩，原田健次，島田裕之．地域在住高齢者における継続した身体活動セルフモニタリングと抑うつ傾向の変化との関連．第 9 回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019 年 10 月 19 日．口述発表
80. 千葉一平，李相侖，裵成琉，牧野圭太郎，新海陽平，片山脩，原田健次，島田裕之．活動促進プログラムに参加した地域在住高齢者における身体活動セルフモニタリング継続要因の検討．第 9 回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019 年 10 月 19 日．口述発表.
81. 中窪翔，土井剛彦，堤本広大，栗田智史，金珉智，石井秀明，島田裕之．地域在住高齢者における長時間睡眠と認知症発症：BDNF が与える影響．第 9 回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019 年 10 月 19 日．口述発表.
82. 中窪翔，土井剛彦，堤本広大，栗田智史，金珉智，石井秀明，島田裕之．睡眠時間と過度の日中の眠気が相乗的に認知機能低下に影響する―4 年間の縦断研究―．第 9 回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019 年 10 月 19 日．口述発表.
83. 堤本広大，土井剛彦，中窪翔，金珉智，栗田智史，石井秀明，島田裕之．脳由来神経栄養因子（BDNF）減少とうつ傾向は認知症に影響を与えうるのか？．第 9 回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019 年 10 月 19 日．口述発表.
84. 土井剛彦，堤本広大，中窪翔，金珉智，栗田智史，石井秀明，島田裕之．Motoric Cognitive Risk Syndrome は認知症発症リスクになりうるのか？．第 9 回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019 年 10 月 19 日．口述発表.
85. 島田裕之．ランチョンセミナー7　認知症予防を目的とした運動方法：現状のエビデンスと今後の課題．第 9 回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019 年 10 月 19 日.
86. 島田裕之．シンポジウム 10　日本地域理学療法学会合同シンポジウム「運動と認知機能 疫学と介入研究からの知見」．第 9 回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019 年 10 月 19 日．座長.
87. 島田裕之，李相侖，牧野圭太郎，裵成琉，新海陽平，千葉一平，片山脩，原田健次，山城由華吏，高柳直人，須藤元喜，仁木佳文．介護予防を目的としたセルフモニタリングの効果検証：ランダム化比較試験．第 9 回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019 年 10 月 19 日．口述発表.
88. 片山脩，李相侖，牧野圭太郎，裵成琉，千葉一平，新海陽平，原田健次，島田裕之．要介護認定の申請を勧奨するための最適な評価基準の検討―基本チェックリストと NCGG-ADL スケールを用いた検討―．第 9回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019 年10 月 19日．口述発表.
89. 牧野圭太郎，李相侖，裵成琉，新海陽平，千葉一平，片山脩，原田健次，島田裕之．疼痛による活動制限と抑うつ傾向の合併が認知症発症に及ぼす影響：3 年間の縦断研究．第 9 回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019 年10月 19 日．口述発表.
90. 島田裕之．ワークショップ２「認知症予防への挑戦」．第 9 回日本認知症予防学会学術集会，名古屋市，2019年 10 月 20日．座長.
91. 島田裕之．シンポジウム3「神経疾患の予防医学」認知症の発症遅延へ向けた取り組み．第 37回日本神経治療学会学術集会 ，横浜市，2019年 11 月 5日.
92. 島田裕之．シンポジウム 25「認知症の疫学とコホート研究」認知症予防を目的とした臨床研究促進レジストリ研究．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京都，2019 年 11 月 9 日.
93. 島田裕之．プレナリーレクチャー　活動的なライフスタイルによる認知症予防．第 38 回日本認知症学会学術集会，東京都，2019 年 11 月 9 日.
94. 島田裕之．共同企画３「フレイル・サルコペニアと呼吸器疾患(呼吸器疾患とフレイル)」フレイル・サルコペニアの疫学・病態生理　第 29 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会，名古屋市，2019 年 11 月 11 日.
95. 島田裕之．シンポジウム「運動トレーニングの新たなる可能性」．第 26回日本未病システム学会学術総会，名古屋市，2019年 11 月 17日.
96. 大藏倫博．スポーツ科学に基づく高齢者の包括的な健康度評価法と支援策の開発　共催セミナー　「運動トレーニングの新たなる可能性」．第 26 回日本未病システム学会学術総会　名古屋，2019 年 11 月
97. 大藏倫博，佐賀若菜，尹之恩．スクエアステップを長期継続実践する高齢者の血中アミロイド β および脳由来神経栄養因子．日本認知症予防学会学術集会 名古屋，　2019 年 10 月
98. 尹之恩，立岡光臨，薛載勲，劉珏，戴宇輝，陳曦，藤井悠也，大藏倫博．スクエアステップエクササイズの実践が認知・身体機能に及ぼす影響―1 年間 RCT の中間報告．日本認知症予防学会学術集会 名古屋，2019 年 10 月
99. 藤井悠也，大藏倫博．ニュースポーツ"MATTOSS"実践中の脳血流量変化−近赤外分光法(fNIRS)を用いた検討−．第 9 回日本認知症予防学会学術集会．名古屋．2019 年 10 月.
100. 井上 大樹，髙木 朝加，阿部 巧，大藏 倫博．高齢者を対象とした新しい認知機能訓練機器” Peg Amore”の効果：運転免許更新時の認知機能検査を指標としたパイロットスタディ．第 78 回日本公衆衛生学会総会．高知．2019 年 10 月.

101. 井上 大樹，阿部 巧，城寶 佳也，藤井 啓介，藤井 悠也，薛 載勲，劉 珏，大藏 倫博．靴のサイズ適合性は高齢女性の静的バランス能力に影響を及ぼすか？．第 6 回日本予防理学療法学会学術大会．広島．2019 年 10 月．
102. 大藏倫博，永田衛，井上大樹，立岡光臨，松下仁士，鶴田壮広，水谷敦司，石川敦雄．3 カ月間の階段利用促進プログラムが男性オフィスワーカーの生活習慣病関連指標及び心身機能に与える影響．第 74 回日本体力医学会大会．茨城．2019 年 9 月．
103. 井上 大樹，藤井 啓介，城寶 佳也，劉 珏，大藏 倫博．椅子立ち上がり動作時の地面反力は地域高齢者の身体的フレイルを反映するか．第 74 回日本体力医学会大会．茨城.2019 年 9 月．
104. 藤井悠也，藤井啓介，神藤隆志，北濃成樹，角田憲治，大藏倫博．地域在住高齢者における運動仲間の存在と要介護発生率との縦断的関連：「誰と運動するか」に着目した 3 年間の追跡研究．第 74 回日本体力医学会大会．つくば．2019 年 9 月．
105. 劉珏，藤井悠也，藤井啓介，薛載勲，立岡光臨，大藏倫博．身体的フレイルを有する高齢運転者の身体・認知機能および交通事故経験率．第 74 回日本体力医学会大会．つくば．2019 年 9 月．
106. 金美珍，礒田博子，大藏倫博．運動実践と L-シトルリン・L-ロイシン摂取がやせ体型の女性高齢者の体組成に及ぼす影響-プラセボ対照二重盲検 2 試験区並行試験-．第 74 回日本体力医学会大会．つくば．2019 年 9 月．
107. 尹之恩，慎少帥，劉珏，大藏倫博．脳賦活を企図したマルチタスク運動がモーター生産工場従業員の注意力及び心理状態に及ぼす影響 つくば，第７４回日本体力医学会大会．つくば，2019 年 9 月
108. 城寶佳也，藤井啓介，藤井悠也，大藏倫博．性別にみた地域高齢者における定期的なスタティックストレッチング実践と抑うつ度の関連．第７４回日本体力医学会大会．つくば．2019 年 9 月
109. 立岡光臨，慎少帥，劉珏，井上大樹，藤井啓介，尹之恩，大藏倫博．体重計を用いた高齢者の下肢の巧緻性評価法に関する基礎的研究資料ー性・年代別による検討ー．７４回日本体力医学会大会．つくば．2019 年 9 月
110. 戴宇輝，金美珍，藤井悠也，大藏倫博．地域在住高齢者における性・年代別による巧緻性および認知機能の変化ー6 年間の追跡調査に基づく検討ー 第 74 回日本体力医学会大会．つくば．2019 年 9 月
111. 陳曦，金美珍，藤井悠也，大藏倫博．地域在住高齢者における性・年代別にみた身体機能の変化～6 年間の追跡調査に基づく検討～ 第 74 回日本体力医学会大会．つくば．2019 年 9 月
112. 笹井浩行，中田由夫，北畠義典，種田行男．運動疫学セミナーの評価に関する調査研究．第 22 回日本運動疫学会学術総会，横浜，2019 年 6 月 22 日．
113. 笹井浩行．ウェアラブルデバイスおよび質問票を用いたエネルギー消費量の推定．日本スポーツ栄養学会第 6 回大会，東京，2019 年 8 月 24 日．
114. 笹井浩行．身体活動評価演習～マクロを使った Active style Pro の解析～．第 20 回運動疫学セミナー，神奈川，2019 年 8 月 31 日．
115. 笹井浩行．運動疫学研究に活用可能な最近の解析モデル．第 20 回運動疫学セミナー，神奈川，2019 年 9 月 1 日．
116. 水島諒子，中田由夫，笹井浩行，左炘雨，前田清司，黒谷佳代，瀧本秀美，田中喜代次．減量プログラム参加者における心理的ストレス反応の変化と体重減少との関連．第 66 回日本栄養改善学会学術総会，富山，2019 年 9 月 5 日．
117. 水島諒子，中田由夫，笹井浩行，左炘雨，前田清司，田中喜代次．専門家主導と比較した住民主導型減量支援プログラムの効果．第 74 回日本体力医学会大会，茨城，2019 年 9 月 19 日．
118. 中川ひろみ，田中喜代次，笹井浩行，西澤祐吏，山中圭子，服部幸子，笠川友．大腸がん患者に対する周術期準備外来看護師による減量支援に関する質的調査．第 74 回日本体力医学会大会，茨城 2019 年 9 月 19 日．
119. 笹井浩行．東京大学体力テスト研究（UTokyo Fitness Study）．第 74 回日本体力医学会大会，茨城，2019 年 9 月 20 日．
120. 小澤多賀子，栗盛須雅子，佐藤克弥，黒江悦子，田中喜代次，大田仁史：シルバーリハビリ体操普及活動と介護給付費との関連～2025年に向けた住民主体の介護予防の取り組み～、茨城県総合リハビリテーションケア学会（2020年1月）
121. 笹井浩行．Python概要．臨床疫学研究における報告の質向上のための統計学の研究会第37回研究集会（2020年3月21日）

２　誌上発表

(1) 原著

1. ◎★Hunkyung Kim, Chang Won Won, Miji Kim, Narumi Kojima, Ken Fujino, Yosuke Osuka, Erika Hosoi, Takao Suzuki: The effects of exercise and milk-fat globule membrane (MFGM) on walking parameters in community-dwelling elderly Japanese woman with declines in walking ability: A randomized placebo controlled trial. Archives of Gerontology and Geriatrics, 83(2019): 106-113, 2019. （査読あり）（IF：2.611）2019.4.5
2. ◎★Hunkyung Kim, Shuichi Awata, Yutaka Watanabe, Narumi Kojima, Yosuke Osuka, Keiko Motokawa, Naoko Sakuma, Hiroki Inagaki, Ayako Edahiro, Erika Hosoi, Chang-Won Won, Shoji Sinkai: Cognitive frailty in community-dwelling older Japanese people: Prevalence and its association with falls. Geriatr Gerontol Int, 19(7): 647-653, 2019.（査読あり）（IF：2.118）2019.5.13
3. Suzuki T, Kojima N, Osuka Y, Tokui Y, Takasugi S, Kawashima A, Yamaji T, Hosoi E, Won CW, ★Kim H: The Effects of Mold-Fermented Cheese on Brain-Derived Neurotrophic Factor in Community-Dwelling Older Japanese Women With Mild Cognitive Impairment: A Randomized, Controlled, Crossover Trial. J Am Med Dir Assoc, pii: S1525-8610(19)30518-32019, 2019.（査読あり）（IF：4.899）2019.9.24
4. ◎★Osuka Y, Kojima N, Yoshida Y, Kim M, Won CW, Suzuki T, Kim H: Exercise and/or Dietary Varieties and Incidence of Frailty in Community-Dwelling Older Women: A 2-Year Cohort Study. J Nutr Health Aging, 23(5): 425-430, 2019.（査読あり）（IF：2.660）2019.5.31
5. ◎★Osuka Y, Kojima N, Wakada K, Miyauchi D, Tanaka K, Kim H: Effects of resistance training and/or beta-hydroxy-

beta-methylbutyrate supplementation on muscle mass, muscle strength and physical performance in older women with reduced muscle mass: protocol for a randomized, double-blind, placebo-controlled trial. BMJ Open 2019; 9: e025723, 2019. (査読あり) (IF : 2.376) 2019.9.31

6. Hisashi Kawai, Yu Taniguchi, Satoshi Seino, Ryota Sakurai, Yosuke Osuka, Shuichi Obuchi, Yutaka Watanabe, Hunkyung Kim, Hiroki Inagaki, Akihiko Kitamura, Shuichi Awata, Shoji Shinkai: Reference values of gait parameters measured with a plantar pressure platform in community-dwelling older Japanese adults. Clin Interv Aging, 2019: 14, 1265-1276, 2019. (査読あり) (IF : 2.585) 2019.7.12
7. Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Motonaga Kojima, Yutaka Watanabe, Keiko Motokawa, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Hunkyung Kim, Shuichi Obuchi: Definition of Respiratory Sarcopenia With Peak Expiratory Flow Rate. J Am Med Dir Assoc, 20(2019): 1021-1025, 2019. (査読あり) (IF : 4.899) 2019.8
8. R Sakurai, H Kawai, H Suzuki, H Kim, Y Watanabe, H Hirano, K Ihara, S Obuchi, Y Fujiwara: Poor Social Network, Not Living Alone, Is Associated With Incidence of Adverse Health Outcomes in Older Adults. J Am Med Dir Assoc, pii: S1525-8610(19)30247-6, 2019. (査読あり) (IF : 4.899) 2019.11
9. R Sakurai, Y Watanabe, Y Osuka, Y Taniguti, H Kawai, H Kim, A Kitamura, H Inagaki, M Montero-Odasso, S Awata, S Shinkai: Overlap Between Apolipoprotein E ε 4 Allele and Slowing Gait Results in Cognitive Impairment. Front Aging Neurosci. 11:247, 2019. (査読あり) (IF : 3.633) 2019.9.13
10. H Kera, H Kawai, H Hirano, N Kojima, Y Watanabe, K Motokawa, Y Fujiwara, K Ihara, H Kim, S Obuchi: SARC-F: A validation study with community-dwelling older Japanese adults. Geriatr Gerontol Int, 2019. (査読あり) (IF : 2.118) 2019.9.18
11. M Ejiri, H Kawai, Y Fujiwara, K Ihara, Y Watanabe, H Hirano, H Kim, K Ishii, K Oka, S Obuchi: Social participation reduces isolation among Japanese older people in urban area: A 3-year longitudinal study. PLoS One, 14(9): e0222887, 2019. (査読あり) (IF : 2.776) 2019.9.20
12. Kosaki K, Osuka Y, Tanaka K, Maeda S. Effect of resistance training combined with aerobic exercise on aortic arterial stiffness in older adults: a secondary analysis of randomized controlled trial. J Phys Fit Sports Med, 2019. (査読あり) (IF=0)
13. Mikami Y, Watanabe Y, Motokawa K, Shirobe M, Motohashi Y, Edahiro A, Nakajima J, Osuka Y, Inagaki H, Fujiwara Y, Shinkai S, Awata S. Association Between Decrease in Frequency of Going Out and Oral Function in Older Adults Living in Major Urban Areas. Geriatr Gerontol Int, 2019. (査読あり) (IF=2.118)
14. Nakata Y, Sasai H, Tsujimoto T, Hashimoto K, Kobayashi H. Web-based intervention to promote weight-loss maintenance using an activity monitor: A randomized controlled trial. Preventive Medicine Reports 14: 100839, 2019年6月. (査読あり) (IF : なし)
15. Murakami H, Kawakami R, Nakae S, Yamada Y, Nakata Y, Ohkawara K, Sasai H, Ishikawa-Takata K, Tanaka S, Miyachi M. Accuracy of 12 wearable devices for estimating physical activity energy expenditure using a metabolic chamber and the doubly labeled water method: validation study. JMIR mHealth and uHealth 7(7): e13938, 2019年8月. (査読あり) (IF : 4.301)
16. Ohta T, Nagashima J, Sasai H, Ishii N. Relationship of cardiorespiratory fitness and body mass index with the incidence of dyslipidemia among Japanese women: A cohort study. International Journal of Environmental Research and Public Health 16(23): 4647, 2019年11月. (査読あり) (IF : 2.468)
17. Nishimura M, Sasai H, Nakata Y, Maeda S. Effects of vibrotactile feedback on sedentary behaviors in adults: A pilot randomized controlled trial. International Journal of Environmental Research and Public Health 16(23): 4612, 2019年11月. (査読あり) (IF : 2.468)
18. J. Seol, Y. ◎Fujii, I. Park, Y. Suzuki, F. Kawana, K. Yajima, S. Fukusumi, T. Okura, M. Satoh, K. Tokuyama, T. Kokubo, M. Yanagisawa. Distinct effects of orexin receptor antagonist and GABAA agonist on sleep and physical/cognitive functions after forced awakening. PNAS, 2019. (査読有り、IF 9.580)
19. J. Seol, T. Abe, Y. Fujii, K. Joho, ★T. Okura. Effects of sedentary behavior and physical activity on sleep quality in older people: cross-sectional study. Nursing & Health Sciences, in press. (査読あり、IF 0.86)
20. Yoon J, ★Okura T, Kanamori A. Evaluation of knee function for whole-body vibration training using three scoring methods. The Korean Journal of Measurement and Evaluation in Physical Education and Sport Science, 21(3).1-15, 2019. (査読あり、IFなし)
21. Matsui M, Yoshikawa T, Mizushima R, Tanahashi K, Myoenzono K, Tanaka K, Maeda S. Association between duration of excessive weight and arterial stiffness in middle-aged and older adults, Clin Exp Hypertension, 20 1-5, 2019. (査読あり、IF 1.522)
22. Makino K, Lee S, Bae S, Jung S, Shinkai Y, Chiba I, Shimada H. Pain characteristics and incidence of functional disability among community-dwelling older adults. PLoS One, 14(4): e0215467, 2019 Apr. (査読あり) (IF : 2.776)
23. Doi T, Tsutsumimoto K, Nakakubo S, Kim MJ, Kurita S, Shimada H. Rethinking the Relationship Between Spatiotemporal Gait Variables and Dementia: A Prospective Study. J Am Med Dir Assoc, 20(7): 899-903, 2019 Jul. (査読あり) (IF : 4.899)
24. Harada K, Lee S, Lee S, Bae S, Harada K, Suzuki T, Shimada H. Psychological and Environmental Correlates of Moderate-to-Vigorous Physical Activity and Step Counts Among Older Adults With Cognitive Decline. Percept Mot

Skills, 126(4): 639-655, 2019 Aug. (査読あり) (IF : 1.049)

25. Nakakubo S, Doi T, Makizako H, Tsutsumimoto K, Hotta R, Kurita S, Kim M, Suzuki T, Shimada H. Sleep condition and cognitive decline in Japanese community-dwelling older people: Data from a 4-year longitudinal study. J Sleep Res, 28(4): e12803, 2019 Aug. (査読あり) (IF : 3.432)
26. Tsutsumimoto K, Doi T, Nakakubo S, Kim M, Kurita S, Ishii H, Shimada H, Kawachi I. Impact of Social Frailty on Alzheimer's Disease Onset: A 53-Month Longitudinal Cohort Study. J Alzheimers Dis, 70(2): 585-593, 2019. (査読あり) (IF : 3.517)
27. Park H, Park JH, Na HR, Shimada H, Kim GM, Jung MK, Kim WK, Park KW. Combined Intervention of Physical Activity, Aerobic Exercise, and Cognitive Exercise Intervention to Prevent Cognitive Decline for Patients with Mild Cognitive Impairment: A Randomized Controlled Clinical Study. J Clin Med, 8(7), 2019 Jun. (査読あり) (IF : 2.046)
28. ◎Shimada H, Lee S, Doi T, Bae S, Makino K, Chiba I, Arai H. Study protocol of the self-monitoring activity program: Effects of activity on incident dementia. Alzheimers Dement (N Y), 5: 303-307, 2019 Jul. (査読あり)
29. Nakakubo S, Doi T, Makizako H, Tsutsumimoto K, Kurita S, Kim M, Ishii H, Suzuki T, Shimada H. Association of sleep condition and social frailty in community-dwelling older people. Geriatr Gerontol Int, 19(9): 885-889, 2019 Sep. (査読あり) (IF=2.118)
30. Doi T, Tsutsumimoto K, Nakakubo S, Kim MJ, Kurita S, Hotta R, Shimada H. Physical Performance Predictors for Incident Dementia Among Japanese Community-Dwelling Older Adults. Phys Ther, 99(9): 1132-1140, 2019 Sep. (査読あり) (IF=3.043)
31. ◎★金憲経:「地域在住高齢女性における重複フレイル有症率と関連要因」、Medical Science Digest 誌、45(6): 37-41, 2019. (原著、査読あり) (IF : なし)
32. 江藤幹, 笹井浩行, 辻本健彦, 蘇リナ, 田中喜代次. 食習慣改善と運動実践による減量支援に伴う体重変化: 1年後の追跡調査. 体力科学 68(4): 251-259, 2019年8月. (原著、査読あり) (IF : なし)
33. J. Seol, T. Abe, Y. Fujii, K. Joho, ★T. Okura. Effects of sedentary behavior and physical activity on sleep quality in older people: cross-sectional study. Nursing & Health Sciences, in press. (査読あり、IF 0.86)
34. Uemura K, Doi T, Tsutsumimoto K, Nakakubo S, Kim M, Kurita S, Ishii H, Shimada H. Predictivity of bioimpedance phase angle for incident disability in older adults. J Cachexia Sarcopenia Muscle, 2019. [Epub ahead of print]. (査読あり) (IF : 10.754)
35. Ogawa M, Maruo K, Sone D, Shimada H, Suzuki K, Watanabe H, Matsuda H, Mizusawa H. Longitudinal analysis of risk factors for dementia based on Mild Cognitive Impairment Screen results and questionnaire responses from healthy Japanese individuals registered in an online database. Alzheimers Dement (N Y), 5: 347-353, 2019 Aug. (査読あり)
36. ◎Shimada H, Lee S, Doi T, Bae S, Tsutsumimoto K, Arai H. Prevalence of Psychological Frailty in Japan: NCGG-SGS as a Japanese National Cohort Study. J Clin Med, 8(10), 2019 Sep. (査読あり) (IF : 5.688)
37. Kurita S, Tsutsumimoto K, Doi T, Nakakubo S, Kim M, Ishii H, Shimada H. Association of physical and/or cognitive activity with cognitive impairment in older adults. Geriatr Gerontol Int, 2019. [Epub ahead of print]. (査読あり) (IF=2.118)
38. Suzuki M, Kanamori M, Furuta Y, Abe K, Kato M, Taniguchi Y, Hiramatsu T, Maruoka N, Kobayashi S, Naito T, Shimada H, Izumi K. Effects of a Fall-Prevention Program for Older Adults with Dementia Based on Person-Centered Care. Int J Gerontol, 2019. [Epub ahead of print]. (査読あり) (IF=0.933)
39. Kume Y, Takahashi T, Itakura Y, Lee S, Makizako H, Ono T, Shimada H, Ota H. Characteristics of Mild Cognitive Impairment in Northern Japanese Community-Dwellers from the ORANGE Registry. J Clin Med, 8(11): 1937, 2019 Nov. (査読あり) (IF=5.688)
40. Osuka Y, Kim H, Kawai H, Taniguchi Y, Yokoyama Y, Seino S, Obuchi S, Kitamura A, Shinkai S. Sarcoscore: a novel approach for assessing sarcopenia and functional disability in older adulsts. J Clin Med. 9(3), 692, 2020. doi:10.3390/jcm9030692 (査読あり) (IF: 5.688)
41. Osuka Y, Kojima N, Sakurai R, Watanabe Y, Kim H. Reliability and construct validity of a novel motor-cognitive dual-task test: A Stepping Trail Making Test. Geriatr Gerontol Int, 20: 291-296, 2020. (査読あり) (IF=2.118)
42. Nakata Y, Sasai H, Tsujimoto T, Hashimoto K, Kobayashi H. A single motivational lecture can promote modest weight loss: A randomized controlled trial. Obesity Facts (in press) (査読あり) (IF=2.653)
43. Wakaba K, Sasai H, Nakata Y. Associations of objectively measured physical activity and sleep with weight loss maintenance: a preliminary study of Japanese adults. Behavioral Sciences 10(1): 3, 2020. (査読あり) (IF=NA)
44. Matsuoka YJ, Okubo R, Shimizu Y, Tsuji K, Narisawa T, Sasaki J, Sasai H, Akashi-Tanaka S, Hamaguchi T, Iwasa T, Iwata S, Kato T, Kurotani K, Maruyama D, Mori A, Ogawa A, Sakurai N, Shimazu T, Shimizu C, Tabuchi T, Takahashi M, Takano T, Tatematsu N, Uchitomi Y, Watanabe C, Fukui T. Developing the structure of Japan's cancer survivorship guidelines using an expert panel and modified Delphi method. Journal of Cancer Survivorship (in press). (査読あり) (IF=3.585)

(2) 総説

1. ◎★金憲経、荒井秀典、原田敦：「サルコペニアの予防、治療」、学会報告・第 20 回日本骨粗鬆症学会、シンポジウム 10「サルコペニアとフレイル-診療ガイドラインを踏まえて-」、日本骨粗鬆症学会雑誌 5(2)：103-111，2019. 総説、査読あり）（IF：なし）
2. 島田裕之．特集：認知症を予防する Seminar 2．防御因子 2 コグニサイズとゴルフ．Geriatric Medicine（老年医学） 2019 年 4 月号，57(4)：361-364，2019.
3. 島田裕之．フレイルとサルコペニアに対する非薬物療法．Medical Science Digest 2019 年 6 月号，45(6)：15(311)-318(314)，2019.
4. 島田裕之．その患者、じつはフレイル？ もしかしてサルコペニア？ ・身体的フレイルとは．Nutrition Care 2019 年 6 月号，12(6)：82-85，2019
5. 島田裕之．認知機能低下．臨床栄養別冊 はじめてとりくむ身体活動支援，別冊：50-59，2019.
6. 島田裕之．社会的フレイルの構成要素としての独居のとらえ方．日本サルコペニア・フレイル学会誌，3(1)：27-30，2019.
7. 金谷さとみ，仙波浩幸，山上徹也，島田裕之，横井輝夫．座談会：認知症の ADL と IADL－どの時期にどのように介入すべきか．理学療法ジャーナル，53(8)：801-808，2019.

3 著書等

口腔保健と栄養研究

1 学会発表

(1) 海外

1. Keiko Motokawa, Ayako Edahiro, Maki Shirobe, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe. Examination concerning indicators for body composition and nutritional status in each category of Functional Assessment Staging (FAST) among older people with Alzheimer's disease. Asian congress of nutrition, Bali, 2019.8.4-7.
2. Yuki Ohara, Maki Shirobe, Ayako Edahiro, Keiko Motokawa, Hirohiko Hirano, Hisashi Kawai, Hunkyung Kim, Kazushige Ihara, Yoshinori Fujiwara, Shuichi Obuchi, Yutaka Watanabe. Factors associated to poor oral health-related quality of life among community-dwelling older Japanese. 21st International Symposium on Dental Hygiene, Brisbane, 2019.8.15-17.
3. Maki Shirobe, Yuki Ohara, Yutaka Watanabe, Ayako Edahiro, Keiko Motokawa, Hirohiko Hirano, Hisashi Kawai, Hunkyung Kim, Kazushige Ihara, Yoshinori Fujiwara, Shuichi Obuchi. Factors Affecting Discontinuation of Dental Visits in the Elderly. 21st International Symposium on Dental Hygiene, Brisbane, 2019.8.15-17.
4. Daichi Hoshino, Ayako Edahiro, Yoshihiro Kugimiya, Kentaro Igarashi, Keiko Motokawa, Yuki Ohara, Hirohiko Hirano, Mie Myers, Shouji Hironaka, Yasubumi Maruoka. Association between simple evaluation of eating and swallowing function and mortality among patients with advanced dementia in nursing homes: 1-year prospective cohort study. 9th European society for swallowing disorders, Vienna, 2019.9.20.
5. Keiko Motokawa, Yuki Ohara, Maki Shirobe, Ayako Edahiro, Masanori Iwasaki, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe. Qualitative research on nutrition improvement measures at adult daycare facilities in Japan. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
6. Yoshihiro Kugimiya, Yutaka Watanabe, Yuki Ohara, Kentaro Igarashi, Daichi Hoshino, Keiko Motokawa, Ayako Edahiro, Takayuki Ueda, Tomofumi Takano, Kaoru Sakurai, Yu Taniguchi, Akihiko Kitamura, Ikuo Nasu, Shoji Shinkai, Hirohiko Hirano. Investigation of masticatory performance-related factors associated with mixing ability and shearing ability in a community-dwelling older population. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
7. Maki Shirobe, Takeshi Kikutani, Tetsuro Sato, Tomoki Tanaka, Katsushi Tamaki, Haruka Tohara, Kazuko Nakajo, Misa Nishimoto, Hirohiko Hirano, Shouji Hironaka, Tatsuo Yamamoto, Yutaka Watanabe, Takuo Ishii, Shunsuke Minakuchi, and Katsuya Iijima. Dealing with deterioration of oral frailty in dental clinics ―a randomized comparative control study―. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
8. Kentaro Igarashi, Yutaka Watanabe, Yoshihiro Kugimiya, Hisashi Kawai, Keiko Motokawa, Masayasu Ito, Kazushige Ihara, Yoshinori Fujiwara, Shuichi Obuchi, Hirohiko Hirano, Yasuhiko Kawai. Prevalence of oral hypofunction in japanese community-dwelling elderly in an urban area. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
9. Hirohiko Hirano, Ayako Edahiro, Shuichi Awata, Tetsuo Itikawa, Yutaka Wanabe. The statement of position for dental care and the dental treatment guideline for the elderly peoples with dementia. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
10. Hisashi Kawai, Shuichi Obuchi, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Hunkyung Kim, Yoshiyuki Kobayash, Masaaki Mochimaru, Eiki Tsushima, Kozo Nakamura. Association between frailty and daily living walking speed measured by smartphones with built-in global positioning system (GPS). 11th International of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
11. Narumi Kojima, Kyoko Saito, Yuko Yoshida, Hirohiko Hirano, huichi Obuchi, Hiroyuki Shimada, Takao Suzuki, Hajime Iwasa, Hunkyung Kim. Predictors of knee pain in older women living in urban areas. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
12. Masashi Yasunaga, Hisashi Kawai, Manami Ejiri, Takashi Kera, Yutaka Watanabe, Yoshinori Fujiwara, Hirohiko Hirano, Motonaga Kojima, Harumi Nakada, Shuichi Obuchi. Effect of frequency of participating in the region

activity on subjective well-being: 3-years prospective study of urban Japanese older adults. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.

13. Misa Nishimoto, Tomoki Tanaka, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Takeshi Kikutani, Tetsuro Sato, Kazuko Nakajo, Katsuya Iijima. Oral frailty is associated with deterioration of both oral health behaviors. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
14. Ryota Sakurai, Hisashi Kawai, Shuichi Yanai, Hunkyung Kim, Hirohiko Hirano, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi, Yoshinori Fujiwara. The effects of hearing loss and mobility decline on cognitive function of older adults. GSA 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, USA. 2019.11-13-17.
15. Masashi Yasunaga, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Hiroyuki Suzuki, Yoshinori Fujiwara, Shuichi Obuchi. Effect of Frequency of Participating in the Region Activity on Functional Decline. GSA 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, USA. 2019.11-13-17.
16. Misa Nishimoto, Tomoki Tanaka, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Takeshi Kikutani, Tetsuro Sato, Kazuko Nakajo, Katsuya Iijima. Oral Frailty Is Associated With Multifaceted Frailty in Elderly Outpatients at Community Dental Clinics. GSA 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, USA. 2019.11-13-17.

(2) 国内

1. 五十嵐憲太郎，渡邊　裕，釘宮嘉浩，伊藤誠康，金田　恒，長谷川陽子，　櫻井　薫，小野高裕，平野浩彦，河相安彦．疫学調査における咀嚼能力測定用グミゼリーを用いた視覚スコア法の妥当性の検証．　日本補綴歯科学会第127回学術大会，　札幌，2019.5.10-12.
2. 伊藤誠康，五十嵐憲太郎，渡邊　裕，中島純子，梅木賢人，古賀麻奈花，郡司敦子，平野浩彦，河相安彦．地域在住高齢者の咬合支持状態の把握と評価～義歯装着時の機能的咬合支持の分類～．　日本補綴歯科学会第127回学術大会，　札幌，2019.5.10-12.
3. 釘宮嘉浩，渡邊 裕，髙野智史，上田貴之，櫻井薫．地域在住高齢者の咀嚼能力に関連する口腔関連因子の検討．　日本補綴歯科学会第127回学術大会，札幌，2019.5.10-12.
4. 本川佳子，白部麻樹，枝広あや子，田中弥生，河合恒，解良武士，大渕修一，渡邊裕．地域在住高齢者、通所事業所利用者、介護保険施設入所者の栄養指標の比較．第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8.
5. 松原ちあき，白部麻樹，濱芳央子，五十嵐憲太郎，釘宮嘉浩，星野大地，渡邊裕，小原由紀，本川佳子，本橋佳子，枝広あや子，古屋純一，平野浩彦，水口俊介．地域在住高齢者における唾液中潜血の変化と口腔機能に関する縦断的研究．第30回日本老年歯科医学会学術大会,仙台,2019.6.7-8.
6. 中山玲奈，古屋純一，小原由紀，吉田直美．歯科衛生士と社会福祉の融合教育に関する教員の意識．　第30回日本老年歯科医学会学術大会,仙台,2019.6.7-8.
7. 枝広あや子，本川佳子，白部麻樹，松原ちあき，釘宮嘉浩，五十嵐憲太郎，本橋佳子，小原由紀，平野浩彦，渡邊裕,粟 田主一．都市高齢者の認知機能低下と身体・口腔機能低下との関連．第30回日本老年歯科医学会学術大会,仙台,2019.6.7-8.
8. 五十嵐憲太郎．義歯装着後に口腔機能管理を行い口腔機能・口腔関連QOLが改善した症例．第30回日本老年歯科医学会学術大会,仙台,2019.6.7-8.
9. 濱芳央子，岩佐康行，枝広あや子，本橋佳子，白部麻樹，村上正治，高松直美，平野浩彦．病棟職員による口腔ケアにユマニチュードケアを導入する効果と課題．第30回日本老年歯科医学会学術大会,仙台,2019.6.7-8．神奈川県「口腔ケアによる健康寿命延伸事業」に関する報告．第30回日本老年歯科医学会学術大会,仙台,2019.6.7-8.
10. 小島成実，齋藤京子，吉田祐子，平野浩彦，大渕修一，島田裕之，鈴木隆雄，岩佐一，金憲経．都市部在住の高齢女性における膝痛の予知因子．第第61回日本老年医学会学術集会,仙台,2019.6.7-8.
11. 佐藤哲郎，菊谷武，白部麻樹，田中友規，玉置勝司，戸原玄，中條和子，西本美紗，平野浩彦，弘中祥司，山本龍生，渡邊裕，石井拓男，飯島勝矢．第30回日本老年歯科医学会学術大会,仙台,2019.6.7-8.
12. 星野大地，渡邊裕，本川佳子，白部麻樹，枝広あや子，本橋佳子，高橋知佳，平野浩彦，村上浩史，弘中祥司，丸岡靖史．終末期ケアのための簡易摂食嚥下機能評価の検討．第30回日本老年歯科医学会学術大会,仙台,2019.6.7-8.
13. 本川佳子，白部麻樹，枝広あや子，田中弥生，河合恒，解良武士，大渕修一，平野浩彦，渡邊裕．地域在住高齢者、通所事業所利用者、介護保険施設入所者の栄養指標の比較．第第61回日本老年医学会学術集会,仙台,2019.6.7-8.
14. 解良武士，河合恒，平野浩彦，渡邊裕，小島基永，藤原佳典，井原一成，金憲経，大渕修一．SARC-Fはサルコペニアよりも身体機能の虚弱状態を反映する．第61回日本老年医学会学術集会,仙台,2019.6.7-8.
15. 大須賀洋祐，小島成実，吉田祐子，平野浩彦，鈴木隆雄，金憲経．後期高齢者における食品と運動の多様性とフレイルの発生　2年間のコホート研究．第61回日本老年医学会学術集会,仙台,2019.6.7-8.
16. 河合恒，大渕修一，渡邊裕，平野浩彦，藤原佳典，井原一成，小林吉之，持丸正明，対馬栄輝，中村耕三．スマートフォン内蔵GPSによって測定した日常生活歩行速度とフレイル関連指標との関係．第61回日本老年医学会学術集会,仙台,2019.6.7-8.
17. 藤原佳典，桜井良太，河合恒，金憲経，鈴木宏幸，小川将，渡邊裕，平野浩彦，井原一成，大渕修一．居は認知機能低下のリスクとなるか?　ソーシャルネットワークの多寡に着目した検討．第61回日本老年医学会学術集会,仙台,2019.6.7-8.
18. 江尻愛美，河合恒，藤原佳典，井原一成，渡邊裕，平野浩彦，金憲経，大渕修一．都市高齢者における孤立の発生に対する社会参加の予防効果　3年間の縦断研究.
19. 高橋知佳，小原由紀，白部麻樹，本橋佳子，枝広あや子，本川佳子，稲垣 宏樹，粟田 主一，平野浩彦，渡邊 裕．地域在住高齢者の縦断的な調査によるオーラルフレイルの関連因子の検討．日本歯科衛生学会第15回学術大会．　名古屋　2019.9.15-16．第31回日本老年医学会学術集会,仙台,2019.6.7-8.
20. 山本かおり，本川佳子，平野浩彦，小原由紀，吉﨑貴大，矢野友啓，稲垣宏樹，新開省二，粟田主一，渡邊裕．地域在住高齢者の食品摂取の多様性と睡眠の質：前向きコホート研究．第66回日本栄養改善学会学術総会．富山．2019.9.5-7.
21. 森下志穂，小原由紀，高橋 知佳，白部 麻樹，本橋 佳子，枝広 あや子，本川 佳子，川村 孝子，平野 浩彦，渡邊 裕．通所介護施設の継続に影響する口腔機能および栄養に関する因子の検討．　日本歯科衛生学会第15回学術大会．　名古屋　2019.9.15-16.
22. 松原ちあき，白部麻樹，古屋純一，小原由紀，大渕修一，金憲経，粟田主一，平野浩彦，水口俊介，渡邊裕．地域在住高齢者における歯科保健指導による認知機能低下予防効果の検証．日本歯科衛生学会第15回学術大会．　名古屋　2019.9.15-16.
23. 小原由紀，白部麻樹，本川佳子，本橋佳子，枝広あや子，稲垣宏樹，渡邊裕，平野浩彦，粟田主一，新開省二．地域在住高齢者におけるオーラルフレイルの実態と食生活との関連について．第78回日本公衆衛生学会総会．高知．2019.11.23-25.

24. 川村孝子，甫仮貴子，遠藤孝子，山口柳子，森下志穂，小原由紀，白部麻樹，本橋佳子，枝広あや子，本川佳子，平野浩彦，渡邊　裕，畠山桂郎．通所介護施設の継続に影響する口腔機能および栄養に関する因子の検討．第72回東北地区歯科医学会．秋田．　2019.11.30-12.1.
25. 五十嵐憲太郎，鈴木亜沙子，永田俊介，古谷佳輝，郡司敦子，木本　統，河相安彦．「リライン」「リベース」の用語の教科書における使用の変遷．第12回日本義歯ケア学会学術大会．名古屋．2020.2.22-23.
26. 安藤雄一，池田奈由，田野ルミ，岩崎正則，西信雄，三浦宏子．国民健康・栄養調査における高齢者の歯の保有状況と歯科疾患実態調査への協力の関連．第30回日本疫学会学術総会．京都市．2020.2.20-22

2　誌上発表

(1) 原著

1. Yoshihiro Kugimiya, Takayuki Ueda, Yutaka Watanabe, Tomofumi Takano, Ayako Edahiro, Shiuchi Awata, Kaoru Sakurai. Relationship between mild cognitive decline and oral motor functions in metropolitan community-dwelling older Japanese: The Takashimadaira study. Arch Gerontol Geriatr. 81:53-58. 2019. **(査読あり) (IF:2.611)**
2. Kentaro Igarashi, Yutaka Watanabe, Yoshihiro Kugimiya, Maki Shirobe, Ayako Edahiro, Koh Kaneda, Yoko Hasegawa, Masayasu Ito, Hirohiko Hirano, Kaoru Sakurai, Takahiro Ono, Hiroki Inagaki, Shuichi Awata, Yasuhiko Kawai. Validity of a visual scoring method using gummy jelly for evaluating chewing efficiency in a large‐scale epidemiological survey. Journal of Oral Rehabilitation. 46(5):409-416. 2019. **(査読あり) (IF:2.341)**
3. Yosuke Osuka, Narumi Kojima, Miji Kim, Chang Won Won, Takao Suzuki, Hunkyung Kim. Exercise type and activities of daily living disability in older women: An 8‐year population‐based cohort study. Scandinavian Journal of Medicine and Science in Sports. 29(3):400-406, 2019. **(査読あり) (IF:3.631)**
4. Kumiko Nonaka, Yoshinori Fujiwara, Shuichiro Watanabe, Tatsuro Ishizaki, Hajime Iwasa, Hidenori Amano, Yuko Yoshida, Erika Kobayashi, Ryota Sakurai, Hiroyuki Suzuki, Shu Kumagai, Shoji Shinkai, Takao Suzuki. Is unwilling volunteering protective for functional decline? The interactive effects of volunteer willingness and engagement on health in a 3‐year longitudinal study of Japanese older adults. Geriatrics Gerontology International. 19(7):673-678., 2019. **(査読あり) (IF:2.118)**
5. Ryota Sakurai, Hisashi Kawai, Hiroyuki Suzuki, Hunkyung Kim, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi, Yoshinori Fujiwara. Poor Social Network, Not Living Alone, Is Associated With Incidence of Adverse Health Outcomes in Older Adults. Journal of the American Medical Directors Association. 20(11):1438-1443, 2019. **(査読あり) (IF:4.899)**
6. Hiroshi Murayama, Mika Sugiyama, Hiroki Inagaki, Ayako Edahiro, Tsuyoshi Okamura, Chiaki Ura, Fumiko Miyamae, Keiko Motokawa, Shuichi Awata. Childhood socioeconomic disadvantage as a determinant of late-life physical function in older Japanese people. Archives of Gerontology and Geriatric. S0167-4943(19)30128-1. 2009. **(査読あり) (IF:2.611)**
7. Hunkyung Kim, Chang Won Won, Miji Kim, Narumi Kojima, Ken Fujino, Yosuke Osuka, Erika Hosoi, Takao Suzuki. The effects of exercise and milk-fat globule membrane (MFGM) on walking parameters in community-dwelling elderly Japanese women with declines in walking ability: A randomized placebo controlled trial. Archives of Gerontology and Geriatrics. 83:106-113. 2019. **(査読あり) (IF:2.611)**
8. Kasuhiro Harada, Sangyoon Lee, Sungchul Lee, Seongryu Bae, Kenji Harada, Takao Suzuki, Hiroyuki Shimada. Psychological and environmental correlates of moderate-to-vigorous physical activity and step counts among older adults with cognitive decline. Perceptual and Motor Skills. 126(4):639-655. **(査読あり) (IF:1.049)**
9. Hunkyung Kim, Shuichi Awata, Yutaka Watanabe, Narumi Kojima, Yosuke Osuka, Keiko Motokawa, Naoko Sakuma, Hiroki Inagaki, Ayako Edahiro, Erika Hosoi, Chang‐Won, Shoji Shinkai. Cognitive frailty in community-dwelling older Japanese people: Prevalence and its association with falls. Geriatrics Gerontology International. 19(7):647-653, 2019. **(査読あり) (IF:2.118)**
10. Hiroshi Murayama, Mika Sugiyama, Hiroki Inagaki, Chiaki Ura, Fumiko Miyamae, Ayako Edahiro, Keiko Motokawa, Tsuyoshi Okamura,Shuichi Awata. The differential effects of age on the association between childhood socioeconomic disadvantage and subjective symptoms of dementia among older Japanese people. Journal of Epidemiology. 29(7):241-246, 2019. **(査読あり) (IF:3.078)**
11. Yurie Mikami, Yutaka Watanabe, Keiko Motokawa, Maki Shirobe, Yoshiko Motohashi, Ayako Edahiro, Junko Nakajima, Yosuke Osuka, Hiroki Inagaki, Yoshinori Fujiwara, Shoji Shinkai, Shuichi Awata. Association between decrease in frequency of going out and oral function in older adults living in major urban areas. Geriatrics Gerontology International. 19(8):792-797, 2019. **(査読あり) (IF:2.118)**
12. Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Motonaga Kojima, Yutaka Watanabe, Keiko Motokawa, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Hunkyung Kim, Shuichi Obuchi. Definition of respiratory sarcopenia with peak expiratory flow rate. Journal of the American Medical Directors Association. 20(8):1021-1025. 2019. **(査読あり) (IF:4.899)**
13. Kazunori Kikuchi, Mutsuo Ijuin, Shuichi Awata, Takao Suzuki. Exploratory research on outcomes for individuals missing through dementia wandering in Japan. Geriatrics Gerontology International. Epub 2019 Jul 29. 2019. **(査読あり) (IF:2.118)**
14. Kayoko Ito, Ayako Edahiro, Yoshihiko Watanabe, Yuki Ohara, Yoshiko Motohashi, Shiho Morishita, Keiko Motokawa, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Makoto Inoue. Qualitative analysis of the vocabulary used in work logs of a preventive programme for elderly oral function and nutrition. Journal of Oral Rehabilitation. 46(8):723-729. 2019. **(査読あり) (IF:2.341)**
15. Manami Ejiri, Hisashi Kawai H, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Hunkyung Kim, Kaori Ishii, Koichiro Oka, Shuichi Obuchi. Social participation reduces isolation among Japanese older people in urban area: A 3-year longitudinal study. PLoS One. 20;14(9):e0222887. 2019. **(査読あり) (IF:2.776)**
16. Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Hirihoko Hirano, Motonaga Kojima, Yutaka Watanabe, Keiko Motokawa, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Hunkyung Kim, Shuichi Obuchi. SARC-F: A validation study with community-dwelling older Japanese adults. Geriatrics Gerontology International. 19(11):1172-1178. 2019. **(査読あり) (IF:2.118)**

17. Sho Nakakubo, Takehiko Doi, Hyuma Makizako, Kota Tsutsumimoto, Ryo Hotta, Satoshi Kurita, Minji Kim, Takao Suzuki, Hiroyuki Shimada. Sleep condition and cognitive decline in Japanese community‐dwelling older people: Data from a 4‐year longitudinal study. Journal of Sleep Research. 28(4):e12803. **(査読あり) (IF:3.432)**
18. ★◎Keiko Motokawa, Jun Yasuda, Yurie Mikami, Ayako Edahiro, Shiho Morishita, Maki Shirobe, Yuki Ohara, Kanji Nohara, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe. The Mini Nutritional Assessment-Short Form as a predictor of nursing home mortality in Japan: A 30-month longitudinal study. Archives of Gerontology and Geriatrics. Epub 2019 Sep 12. **(査読あり) (IF:2.611)**
19. Kentaro Igarashi, Yutaka Watanabe, Hisashi Kawai, Keiko Motokawa, Kento Umeki, Masayasu Ito, Takeshi Kera, Motonaga Kojima, Kazushige Ihara, Yoshinori Fujiwara, Hunkyug Kim, Shuichi Obuchi, Hirohiko Hirano, Yasuhiko Kawai. Relation between knee extension torque and occlusal force in community-dwelling elderly adults. Journal of Oral Science. 27;61(4):508-511. 2019. **(査読あり) (IF:1.104)**
20. Tsuyoshi Okamura, Mika Sugiyama, Hiroki Inagaki, Hiroshi Murayama, Chiaki Ura, Fumiko Miyamae, Ayako Edahiro, Keiko Motokawa, Shuichi Awata. Anticipatory anxiety about future dementia-related care needs: towards a dementia-friendly community. Psychogeriatrics. 19(6):539-546, 2019. **(査読あり) (IF:1.518)**
21. Kaori Yamamoto, ★Keiko Motokawa, Takahiro Yoshizaki, Tomohiro Yano, Hirohiko Hirano, Yuki Ohara, Maki Shirobe, Hiroki Inagaki, Shuichi Awata, Shoji Shinkai, Yutaka Watanabe. Association of dietary variety and appetite with sleep quality in urban-dwelling older Japanese adults. The Journal of Nutrition, Health & Aging, https://doi.org/10.1007/s12603-019-1297-4, 2019. **(査読あり) (IF:2.660)**
22. Takao Suzuki, Narumi Kojima, Yosuke Osuka, Yuka Tokui, Satoshi Takasugi, Akihiro Kawashima, Taketo Yamaji, Erika Hosoi, Chang Won Won, Hunkyung Kim. The effects of mold-fermented cheese on brain-derived neurotrophic factor in community-dwelling older Japanese women with mild cognitive impairment: A randomized, controlled, crossover trial. Journal of the American Medical Directors Association. 20(12):1509-1514. **(査読あり) (IF:4.899)**
23. Sho Nakakubo, Takehiko Doi, Hyuma Makizako, Kota Tsutsumimoto, Satoshi Kurita, Minji Kim, Hideaki Ishii, Takao Suzuki, Hiroyuki Shimada. Association of sleep condition and social frailty in community‐dwelling older people. Geriatrics Gerontology International. 19(9):885-889. 2019. **(査読あり) (IF:2.611)**
24. Masanori Iwasaki, Yumi Kimura, Hiroshi Ogawa, Takayuki Yamaga, Toshihiro Ansai, Taizo Wada, Ryota Sakamoto, Yasuko Ishimoto, Michiko Fujisawa, Kiyohito Okumiya , Hideo Miyazaki, Kozo Matsubayashi. Periodontitis, periodontal inflammation, and mild cognitive impairment: a 5-year cohort study. Journal of Periodontal Research 54(3): 233-240, 2019. **(査読あり) (IF:2.613)**
25. Masanori Iwasaki, George W. Taylor, Misuzu Sato, Kumiko Minagawa, Toshihiro Ansai, Skihiro Yoshihara. Effect of chronic kidney disease on progression of clinical attachment loss in older adults: a 4-year cohort study. Journal of Periodontology. 90(8):826-833, 2019. **(査読あり) (IF:2.768)**
26. Kazuhiko Kaneda, Yusuke Kondo, Chihiro Masaki, Taro Mukaibo, Shintaro Tsuka, Akiko Tamura, Fumiko Aonuma, Kouhei Shinmyouzu, Masahori Iwasaki, Toshihiro Ansai, Ryuji Hosokawa. Ten-year survival of immediate-loading implants in fully edentulous mandibles in the Japanese population: A multilevel analysis. Journal of Prosthodontic Research 3(1), 35-39, 2019. **(査読あり) (IF:2.636)**
27. YulanChe, Noriko Sugita, Akihiro Yoshihara, Masanori Iwasaki, Hideo Miyazaki, Kazutoshi Nakamura, Hiromasa Yoshie. MAEA rs6815464 polymorphism and periodontitis in postmenopausal Japanese females: a cross-sectional study. Archives of Oral Biology 102:128-134, 2019. **(査読あり) (IF:1.663)**
28. Akihiro Yoshihara, Noboru Kaneko, Kaname Nohno, Masanori Iwasaki. Interaction between beta-3 adrenergic receptor genotype and environmental factors on periodontal progression. Journal of Clinical Periodontology. 46(6):623-630. 2019. **(査読あり) (IF:4.164)**
29. Lisdrianto anindriyo, Akihiro Yoshihara, Hiro-o Ito, Kana Suwama, Satoko Kakuta, Makoto Fukui, Masanori Iwasaki, Naofumi Tamaki, Toshihiro Ansai. Predicting gingivitis using visual gingival redness examination on 11 years old Japanese schoolchildren: a ROC analysis. Pediatric Dental Journal. 29(2): 66-71. 2019. **(査読あり) (IF:なし)**
30. Yoshinori Kugimiya, Yutaka Watanabe, Kentaro Igarashi, Daichi Hoshino, Keiko Motokawa, Ayako Edahiro, Takayuki Ueda, Tomofumi Takano, Kaoru Sakurai, Yu Taniguchi, Akihiko Kitamura, Nasu Ikuo, Shoji Shinkai, Hirohiko Hirano. Factors associated with masticatory performance in community-dwelling older adults: a cross-sectional study. The Journal of American Dental Association. In press. 2019. **(査読あり) (IF:2.572)**
31. Daichi Hoshino, Yutaka Watanabe, Ayako Edahiro, Yoshihiro Kugimiya, Kentaro Igarashi, Keiko Motokawa, Yuki Ohara, Hirohiko Hirano, Mie Myers, Shouji Hironaka, Yasubumi Maruoka. Association between simple evaluation of eating and swallowing function and mortality among patients with advanced dementia in nursing homes: 1-year prospective cohort study. Archives of Gerontology and Geriatrics. In press. 2019. **(査読あり) (IF:2.611)**
32. Tsuyoshi Okamura, Chiaki Ura, Fumiko Miyamae, Mika Sugiyama, Hiroki Inagaki, Ayako Edahiro, Hiroshi Murayama, Keiko Motokawa, Shuichi Awata. To give or to receive: Relationship between social support giving/receiving and psychometrics in a large-scale survey. International Journal of Geriatric Psychiatry. 33(5):798-799. 2019. **(査読あり) (IF:3.141)**
33. 竹之内茜、須永昌代、小原由紀、木下淳博. 某歯科衛生士専門学校における日本語による講義と並行して行うスマートフォンを用いた英語学習システムの評価に関する無作為非核化試験. 日本歯科衛生教育学会誌. 10(1): 51-56. 2019. **(査読あり)**
34. 角田聡子, 邵仁浩, 葭原明弘, 福井誠, 岩崎正則, 諏訪間加奈, 鶴田実穂, 平山綾, 片岡正太, 茂山博代, 横田誠, 牛島直文, 玉木直文, 伊藤博夫, 安細敏弘. 小児の歯肉炎評価におけるGCFの応用に関する検討. 口腔衛生学会雑誌 69(1), 19-26, 2019. **(査読あり)**
35. 岩崎正則, 佐藤美寿々, 皆川久美子, 安細敏弘, 小川祐司, 葭原明弘. 加齢に伴う歯数の変化の軌跡と生命予後の関連：高齢期に28歯を維持することの意義. 口腔衛生学会雑誌. 69(3); 131-138, 2019. **(査読あり)**
36. 山田志麻, 岩崎正則, 角田聡子, 片岡正太, 酒井理恵, 濱寄朋子, 岡田圭子, 筒井修一, 安細敏弘. 在宅要支援・要介護者における舌圧と栄養素の摂取量の関連. 口腔衛生学会雑誌 69(4);189-197, 2019. **(査読あり)**
37. 荒井 康之, 鈴木 隆雄, 長島 晃司, 福地 将彦, 小坂 由道, 太田 秀樹. 在宅ケアを受けたがん患者の療養場所の希望と実際　在宅療養中の希望の変化を含めた検討. 日本プライマリ・ケア連合学会誌. 42(3): 150-157, 2019. **(査読あり)**

38. Kimura Y, Iwasaki M, Ishimoto Y, Sasiwongsaroj K, Sakamoto R, Wada T, Fujisawa M, Okumiya K, Miyazaki H, Matsubayashi K. Association between Anorexia and Poor Chewing Ability among the Community-Dwelling Elderly in Japan. Geriatrics & Gerontology International In press, 2019. **（査読あり）（IF:2.118）**
39. Senoo S, Iwasaki M, Kimura Y, Kakuta S, Masaki C, Wada T, Sakamoto R, Ishimoto Y, Fujisawa M, Okumiya K, Ansai T, Matsubayashi K, Hosokawa R. Combined effect of poor appetite and low masticatory function on sarcopenia in community-dwelling Japanese adults aged ≥75 years: A 3-year cohort study. Journal of Oral Rehabilitation. In press. 2020. **（査読あり）（IF:2.341）**
40. Ohara Y, Motokawa K, Watanabe Y, Shirobe M, Inagaki H, Motohashi Y, Edahiro A, Hirano H, Kitamura A, Awata S, Shinkai S. Association of eating alone with oral frailty among community-dwelling older adults in Japan. Arch Gerontol Geriatr. In press, 2020. **（査読あり）（IF:2.611）**
41. Kugimiya Y, Watanabe Y, Igarashi K, Hoshino D, Motokawa K, Edahiro A, Ueda T, Takano T, Sakurai K, Taniguchi Y, Kitamura A, Nasu I, Shinkai S, Hirano H. Factors associated with masticatory performance in community-dwelling older adults: A cross-sectional study. J Am Dent Assoc. In press, 2020. **（査読あり）（IF:2.572）**
42. Kugimiya Y, Watanabe Y, Ueda T, Motokawa K, Shirobe M, Igarashi K, Hoshino D, Takano T, Sakurai K, Taniguchi Y, Kitamura A, Shinkai S, Hirano H. Rate of oral frailty and oral hypofunction in rural community-dwelling older Japanese individuals. Gerogontology. In press, 2020. **（査読あり）（IF:1.46）**
43. Kamada M, Furokawa S, Kurata Y, Iizuka K, Suzuki A, Igarashi K, Koga M, Koide Y, Kawai Y. Is the Simple Anterior Deprogramming Device Applicable for Diagnosis and to Predict the Prognosis? The Reproducibility of the Mandibular Tracing Recorded by the Device. International Journal of Oral-Medical Sciences 18(3-4),227-232, 2020. （査読有り）
44. Kamada M, Furokawa S, Isaji D, Nagata S, Kurata Y, Iizuka K, Suzuki A, Igarashi K, Kawai Y. Comparison of Mandibular Movement Traced by the Anterior Deprogramming Device and Jaw Function Tracking System. International Journal of Oral-Medical Sciences 18(3-4),310-316 , 2020. （査読有り）
45. Matsubara C, Furuya J, Watanabe Y, Obana M, Shirobe M, Ohara Y, Edahiro A, Nakajima J, Motokawa K, Inagaki H, Hirano H, Minakuchi S, Shinkai S, Awata S.
46. A cross-sectional study of age-specific differences in salivary occult blood test results in older people. Journal of Oral Science. In press, 2019. （査読あり）（IF:1.104）

(2) 総説

1. Kocher T, Iwasaki M, Yoshihara A, Hoshino T. A Comparison of Oral Health in Japan and Germany and Its Cost Efficiency. 老年歯学. 印刷中. 2020. **（査読あり）**
2. Sato M, Iwasaki M, Minagawa K, Miyamoto A. Associations between periodontal health/treatment and cognitive impairment: Latest evidence from epidemiological studies. Current Oral Health Reports. In press. 2020. **（査読あり）**
3. 岩崎正則. 口腔保健と栄養　これまでのエビデンスと今後の展望. 日本健康教育学会誌. 印刷中. 2020. **（査読あり）**

3　著書等

1. 平野浩彦（研究代表者）：日本医療研究開発機構研究費長寿科学研究開発事業「認知症高齢者に対する歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究」報告書
2. 平野浩彦、小原由紀、本川佳子、本橋佳子、村上正治、高城大輔（著分担）：　認知症の人への歯科治療ガイドライン、医歯薬出版株式会社、2019.
3. 平野浩彦（編著）：歯科医院で認知症の患者さんに対応するための本　ガイドラインに基づいた理解・接遇・治療・ケア、3章治療の可否の見極めについて、P50-56,医歯薬出版株式会社、2019.
4. 小原由紀（著分担）：歯科医院で認知症の患者さんに対応するための本　ガイドラインに基づいた理解・接遇・治療・ケア、2章認知症患者さんに対する接遇のケア、P37-37,医歯薬出版株式会社、2019.
5. 本川佳子（著分担）：歯科医院で認知症の患者さんに対応するための本　ガイドラインに基づいた理解・接遇・治療・ケア、4章認知症患者さんへの嚥下・栄養・緩和ケア、P121-129,医歯薬出版株式会社、2019.
6. 本橋佳子（編著）：歯科医院で認知症の患者さんに対応するための本　ガイドラインに基づいた理解・接遇・治療・ケア、4章外科治療について、P50-56,医歯薬出版株式会社、2019.
7. 高城大輔（著分担）：歯科医院で認知症の患者さんに対応するための本　ガイドラインに基づいた理解・接遇・治療・ケア、3章認知症患者さんへの歯科治療、P90-99,医歯薬出版株式会社、2019.
8. 小原由紀（著分担）：歯科衛生士のための口腔内科　全身と口腔をつなぐオーラルメディシン、６章口腔疾患の早期発見と予防および生活指導、P224-226、医歯薬出版株式会社、2019.
9. 五十嵐憲太郎（著分担）：聞くに聞けない補綴治療100、第1章治療の基礎、P30-31, デンタルダイヤモンド社、2019.
10. 本川佳子, 山本かおり（著分担）：食品摂取の多様性の評価とその意義、臨床栄養135巻3号、P266-267、医歯薬出版株式会社、2019.
11. 本川佳子（著分担）：栄養指導の早期介入がアルツハイマー病にどう影響を与えるか、食と医療 vo10、講談社、2019.
12. 本川佳子（著分担）：高齢期の栄養と口腔機能の関わり、エイジングアンドヘルス No.90、P14-17、公益財団法人長寿科学振興財団、2019.
13. 平成31年度厚生労働省老人保健健康増進等事業補助金報告書, 居宅系サービス利用者等の口腔の健康管理等に関する調査研究事業（研究代表者：平野浩彦）
14. 令和元年度厚生労働省老人保健健康増進等事業（追加公募）補助金報告書, 通いの場に参加する高齢者を中心とした摂食機能等に応じた適切な食事選択の方策に関する調査研究事業（研究代表者：本川佳子）

認知症と精神保健

1　学会発表

(1) 海外

1. Edahiro A, Sugiyama M, Miayamae F, Taga T, Okamura T, Kikuchi K, Awata S: Incidence of early-onset dementia in the Medical Centers for Dementia in Japan. The 11st IAGG Asia/Oceania regional Congress, 2019.10 (Taipei) (poster).
2. Sugiyama M, Inagaki H, Awata S: Construction of an early support system for persons living with dementia starting with evaluation of life function of elderly people through investigation by mail. A community-based survey in Japan. The 11st IAGG Asia/Oceania regional Congress, 2019.10 (Taipei) (poster).
3. Inagaki H, Sugiyama M, Miyamae F, Taga T, Okamura T, Kikuchi K, Awata S: The significance of the Exerecise Group Activities for the older persons administered by local government. The 11st IAGG Asia/Oceania regional Congress, 2019.10 (Taipei) (poster).
4. Miyamae F, Sugiyama M, Awata S: What are the supports for independent living of older people with dementia? The 11st IAGG Asia/Oceania regional Congress, 2019.10 (Taipei) (poster).
5. Okamura T, Matoba Y, Awata S: Six months change on physical and mental health among the older homeless people sho moved into Tokyo homeless shelters. The 11st IAGG Asia/Oceania regional Congress, 2019.10 (Taipei) (poster).
6. Ogawa M, Gondo Y, Yasumoto S, Onoguchi W, Masui Y, Kamide K, Ikebe K, Ishizaki T: Sleep quality and environment of bedroom in winter among community-dwelling older people in Japan. The 11st IAGG Asia/Oceania regional Congress, 2019.10 (Taipei) (poster).
7. Kim H, Awata S, Inagaki H, Watanabe Y, Kojima N, Osuka Y, Edahiro A, Motokawa K, Shinkai S : Association between cognitive frailty and falls in community-dwelling older persons. The 11th International Asociation of Gerontology and Geriatric Asia/Oceania Regional Congress, 2019.10.23-27 (Taipei) (poster).
8. Onoguchi W, Fukukawa Y, Masui Y, Inagaki H, Yoshida Y, Ogawa M, Kabayama M, Yasumoto S, Kamide K, Arai Y, Ikebe K : Spatial analysis of accessibility to destinations determining mental health of older Japanese adults living in urban and rural areas. The 11th International Asociation of Gerontology and Geriatric Asia/Oceania Regional Congress, 2019.10.23-27 (Taipei) (poster).
9. Tsai J, Gondo Y, Yasumoto S, Matsumoto K, Masui Y, Inagaki H, Nihei M, Sugawara I, Ehara N, Inoue T, Maclachlan M: Using assistive devices related to residence type. The 11th International Asociation of Gerontology and Geriatric Asia/Oceania Regional Congress, 2019.10.23-27 (Taipei) (poster).
10. Nihei M, Sugawara I, Nihei M, Ehara N, Gondo Y, Masui Y, Inagaki H, Inoue T, Maclachlan M, Macauliffe E : Formal and informal support among the community-dwelling oldest-olds in Japan. The 11th International Asociation of Gerontology and Geriatric Asia/Oceania Regional Congress, 2019.10.23-27 (Taipei) (poster).
11. Yazawa M, Sakuma N, Suzuki H, Ogawa S, Yasunaga M, Sakurai R, Takahashi N, Murayama Y, Fujiwara Y: A pilot study of subjective age and health-related factors in healthy Japanese older adults from the 10th health check-up. Aging & Social Change: 9th Interdisciplinary Conference, 2019.9.16-17, (Vienna, Austria) (poster)
12. Motokawa K, Edahiro A, Shirobe M, Hirano H, Watanabe Y. Examination concerning indicators for body composition and nutritional status in each category of Functional Assessment Staging (FAST) among older people with Alzheimer's disease. Asian congress of nutrition, Bali, 2019.8.4-7.
13. Yuki Ohara, Maki Shirobe, Ayako Edahiro, Keiko Motokawa, Hirohiko Hirano, Hisashi Kawai, Hunkyung Kim, Kazushige Ihara, Yoshinori Fujiwara, Shuichi Obuchi, Yutaka Watanabe. Factors associated to poor oral health-related quality of life among community-dwelling older Japanese. 21st International Symposium on Dental Hygiene, Brisbane, 2019.8.15-17.
14. Maki Shirobe, Yuki Ohara, Yutaka Watanabe, Ayako Edahiro, Keiko Motokawa, Hirohiko Hirano, Hisashi Kawai, Hunkyung Kim, Kazushige Ihara, Yoshinori Fujiwara, Shuichi Obuchi. Factors Affecting Discontinuation of Dental Visits in the Elderly. 21st International Symposium on Dental Hygiene, Brisbane, 2019.8.15-17.
15. Daichi Hoshino, Ayako Edahiro, Yoshihiro Kugimiya, Kentaro Igarashi, Keiko Motokawa, Yuki Ohara, Hirohiko Hirano, Mie Myers, Shouji Hironaka, Yasubumi Maruoka. Association between simple evaluation of eating and swallowing function and mortality among patients with advanced dementia in nursing homes: 1-year prospective cohort study. 9th European society for swallowing disorders, Vienna, 2019.9.20.
16. Keiko Motokawa, Yuki Ohara, Maki Shirobe, Ayako Edahiro, Masanori Iwasaki, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe. Qualitative research on nutrition improvement measures at adult daycare facilities in Japan. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
17. Yoshihiro Kugimiya, Yutaka Watanabe, Yuki Ohara, Kentaro Igarashi, Daichi Hoshino, Keiko Motokawa, Ayako Edahiro, Takayuki Ueda, Tomofumi Takano, Kaoru Sakurai, Yu Taniguchi, Akihiko Kitamura, Ikuo Nasu, Shoji Shinkai, Hirohiko Hirano. Investigation of masticatory performance-related factors associated with mixing ability and shearing ability in a community-dwelling older population. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.
18. Hirohiko Hirano, Ayako Edahiro, Shuichi Awata, Tetsuo Itikawa, Yutaka Wanabe. The statement of position for dental care and the dental treatment guideline for the elderly peoples with dementia. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, 2019.10.23-27.

(2) 国内

1. 栗田主一：認知症ケアを受ける人の権利について考えたことはありますか．第20回日本認知症ケア学会，2019.5.25-5.26，京都（教育講演）．
2. 畠山啓，古田光，筒井卓実，白取絹恵，扇澤史子，今村陽子，岡本一枝，谷古宇美佳，木村陽子，栗田主一：認知症サポートチームの現状と課題．精神保健福祉士の立場から．第20回日本認知症ケア学会，2019.5.25-5.26，京都（ポスター）．

3. 扇澤史子，古田光，白取絹恵，筒井卓実，畠山啓，今村陽子，岡本一枝，谷古宇美佳，斉藤久美子，栗田主一：本人・家族の意思をサポートする認知症ケアチームの介入のあり方についての一考察．主科との協働が奏効して自宅退院できた事例を通して．第20回日本認知症ケア学会，2019.5.25-5.26，京都（ポスター）．
4. 村山洋史，宇良千秋，宮前史子，佐久間尚子，杉山美香，稲垣宏樹，岡村毅，新川祐利，栗田主一：ソーシャルキャピタルと認知機能低下者割合の地域相関分析．Dementia Friendly Communitiesに向けた定量的検証．第20回日本認知症ケア学会，2019.5.25-5.26，京都（ポスター）．
5. 杉山美香，岡村毅，枝広あや子，宮前史子，小川まどか，稲垣宏樹，宇良千秋，釘宮由紀子，森倉三男，岡村睦子，栗田主一：高島平スタディ１．認知症支援のための地域拠点における医療・保健・心理相談．高島平ココからステーションの実践．第20回日本認知症ケア学会，2019.5.25-5.26，京都（ポスター）．
6. 岡村毅，杉山美香，小川まどか，稲垣宏樹，宇良千秋，宮前史子，枝広あや子，釘宮由紀子，岡村睦子，森倉三男，栗田主一：高島平スタディ２．医療を受けるための支援．医師が地域相談をしてわかったこと．第20回日本認知症ケア学会，2019.5.25-5.26，京都（ポスター）．
7. 枝広あや子，釘宮由紀子，森倉三男，岡村睦子，杉山美香，岡村毅，小川まどか，宮前史子，稲垣宏樹，宇良千秋，栗田主一：高島平スタディ３．地域拠点における歯科相談．歯の相談から生まれる生活の希望．第20回日本認知症ケア学会，2019.5.25-5.26，京都（ポスター）．
8. 斎藤久美子，古田光，畠山啓，扇澤史子，今村陽子，岡本一枝，福寿容子，湊理恵，三澤美奈，栗田主一：認知症疾患医療センターにおける認知症初期集中支援チーム活動支援内容の検討．第20回日本認知症ケア学会，2019.5.25-5.26，京都（ポスター）．
9. 的場由木，岡村毅，瀧脇憲，水田恵，栗田主一：住まいを失った都市部の高齢者の健康：縦断的調査．第20回日本認知症ケア学会，2019.5.25-5.26，京都（ポスター）．
10. 金児千鶴，石山日南子，田中靖，納屋樹，栗田主一，湊理恵：Dementia Friendly Islandをめざして．認知症になっても暮らし続けられる島づくり，２つの事例から．第20回日本認知症ケア学会，2019.5.25-5.26，京都（ポスター）．
11. 新名正弥、宇良千秋、岡村毅、山崎幸子：認知症の人を包摂し、共生する基盤としての福祉と農業の融合―我が国の「農福連携」政策を対人援助サービスの視点から紐解く―第20回認知症ケア学会　2019年5月25日～26日　京都
12. 岡村毅：精神科医からみた認知症ケアにおける信仰・宗教の役割．シンポジウム6「わたしたちは認知症ケアにどんな人生の意味を見出せるのか；宗教都市京都で考える」　第20回日本認知症ケア学会　2019年5月26日
13. 川﨑采香，佐久間尚子，大神優子，鈴木宏幸，藤原佳典:高齢者の日常記憶の縦断的研究（１）：RBMT「物語」の再生内容における10年目の変化，日本認知心理学会第17回大会，2019.5.25-26，京都（ポスター）
14. 佐久間尚子，川﨑采香，大神優子，鈴木宏幸，藤原佳典高齢者の日常記憶の縦断的研究（２）：物語の再生成績と記憶の自己評価との関連，日本認知心理学会第17回大会，2019.5.25-26，京都（ポスター）
15. 栗田主一：希望と尊厳をもって暮らせる社会をめざして．第34回日本老年精神医学会，2019.6.6-6.8，仙台（大会長講演）．
16. 徳丸阿耶，栗田主一，村山繁雄：認知症診断における神経画像の意義；臨床・画像・病理をつなぐ．第34回日本老年精神医学会，2019.6.6-6.8，仙台（教育講演）．
17. 内海久美子，栗田主一：認知症疾患医療センターの現状と課題；質の確保をめざして．第34回日本老年精神医学会，2019.6.6-6.8，仙台（シンポジウム）．
18. 武田章敬，鈴木和代，栗田主一：介護家族・救急病院から見た認知症の救急医療・急性期医療の課題．第34回日本老年精神医学会，2019.6.6-6.8，仙台（シンポジウム）．
19. 多賀努，枝広あや子，杉山美香，岡村毅，宮前史子，山村正子，菊地和則，栗田主一：若年性認知症の診断後支援のあり方に関する検討；東京都若年性認知症の有病率及び生活実態に関する調査の経過報告．第34回日本老年精神医学会，2019.6.6-6.8，仙台（一般演題口演）．
20. 扇澤史子，古田光，今村陽子，岡本一枝，高岡陽子，堀内隆裕，青島希，川端麻美，白取絹恵，畠山啓，筒井卓実，松井仁美，大矢雅樹，長谷川裕美，栗田主一：２大変性性認知症とMCI，正常範囲内の各群の認知機能と生活機能の特徴；もの忘れ外来患者のHDS-R，MMSE，DASC-21(8)の得点分布の比較．第34回日本老年精神医学会，2019.6.6-6.8，仙台（ポスター）．
21. 岡本一枝，古田光，扇澤史子，今村陽子，筒井卓実，松井仁美，大矢雅樹，長谷川裕美，松本健二，高岡陽子，堀内隆裕，青島希，川端麻美，栗田主一：アルツハイマー型認知症およびレビー小体型認知症の抑うつについての検討；高齢者用うつ尺度（GDS）を用いての検討．第34回日本老年精神医学会，第34回日本老年精神医学会，2019.6.6-6.8，仙台（ポスター）．
22. 枝広あや子，杉山美香，多賀努，山村正子，宮前史子，岡村毅，菊地和則，栗田主一：認知症疾患医療センターにおける若年性認知症の年間鑑別診断数と発生率の検討．第34回日本老年精神医学会，2019.6.6-6.8，仙台（ポスター）．
23. 佐久間尚子，稲垣宏樹，本川佳子，渡邊裕，枝広あや子，宇良千秋，小川まどか，杉山美香，宮前史子，岡村毅，新開省二，栗田主一:高島平Studyにおける会場健診参加者の２年後の追跡(1);MMSE-J得点の変化.第34回日本老年精神医学会,2019.6.6-6.8，仙台（ポスター）．
24. 稲垣宏樹，佐久間尚子，本川佳子，渡邊裕，枝広あや子，宇良千秋，小川まどか，杉山美香，宮前史子，岡村毅，新開省二，栗田主一．高島平Studyにおける会場健診参加者の２年後の追跡（2）；認知機能低下と社会的孤立との関連．第34回日本老年精神医学会，2019.6.6-6.8，仙台（ポスター）．
25. 今村陽子，扇澤史子，岡本一枝，高岡陽子，堀内隆裕，青島希，川端麻美，古田光，筒井卓美，松井仁美，長谷川裕美，大矢雅樹，伊佐治千明，松本健二，栗田主一：初期DLBにおける図形模写の経過の質的検討．第34回日本老年精神医学会，2019.6.6-6.8，仙台（ポスター）．
26. 杉山美香，宮前史子，佐久間尚子，稲垣宏樹，宇良千秋，小川まどか，枝広あや子，岡村毅，栗田主一：地域在住高齢者の認知機能低下と日常生活支援ニーズ．第34回日本老年精神医学会，2019.6.6-6.8，仙台（ポスター）．
27. 菊地和則，中西亜紀，小長谷陽子，多賀努，枝広あや子，杉山美香，岡村毅，宮前史子，山村正子，栗田主一：介護保険第2号保険者データを用いた若年性認知症の状態像に関する研究．第34回日本老年精神医学会，2019.6.6-6.8，仙台（ポスター）．
28. 小川まどか，稲垣宏樹，宇良千秋，杉山美香，宮前史子，岡村毅，枝広あや子，釘宮由紀子，森倉三男，岡村睦子，栗田主一：権利ベースのアプローチによる認知症支援の担い手育成の効果の検証．第34回日本老年精神医学会，2019.6.6-6.8，仙台（ポスター）．
29. 岡村毅．精神的課題を持つ人の住まいと生活支援　ホームレス支援の現場から　合同シンポジウム6－2　高齢者の住まいと生活支援　第34回老年精神医学会　2019年6月6日～8日
30. 栗田主一：認知症の診断と治療．第61回日本老年医学会学術集会，2019.6.6-6.8，仙台（高齢者医療研修会）．

31. 桜井良太，渡邊裕，大須賀洋祐，谷口優，河合恒，金憲経，北村明彦，稲垣宏樹，栗田主一，新開省二：アポリポ蛋白E4の保有と歩行速度低下の重積が高齢者の認知機能に与える影響．第61回日本老年医学会学術集会，2019.6.6-6.8，仙台（一般演題口演）．
32. 飯塚あい，石井賢二，我妻慧，石橋賢士，大西愛鈴，田中美香，鈴木宏之，栗田主一，藤原佳典：囲碁を活用した認知機能低下抑制プログラムの評価―FDG-PETを用いた脳代謝に対する介入効果の検討―．第61回日本老年医学会学術集会，2019.6.6-6.8，仙台（一般演題口演）．
33. 枝広あや子，本川佳子．白部麻樹，松原ちあき，釘宮嘉浩，五十嵐憲太郎，本橋佳子，小原由紀，平野浩彦，渡邊裕，栗田主一：都市高齢者の認知機能低下と身体・口腔機能低下との関連．第30回日本老年歯科医学会，2019.6.6-6.8，仙台．
34. 星野大地，渡邊裕，本川佳子，白部麻樹，枝広あや子，本橋佳子，高橋知佳，平野浩彦，村上浩史，弘中祥司，丸岡靖史．終末期ケアのための簡易摂食嚥下機能評価の検討．第30回日本老年歯科医学会学術大会，仙台，2019.6.7-8.
35. 本川佳子，白部麻樹，枝広あや子，田中弥生，河合恒，解良武士，大渕修一，平野浩彦，渡邊裕．地域在住高齢者、通所事業所利用者、介護保険施設入所者の栄養指標の比較．第第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.7-8.
36. 島田千穂，中里和弘，平山亮，杉山美香，伊藤美緒，菊地和則，栗田主一：人生の最期を考えるワークショップによる終末期準備行動の変化．意思伝達機能低下の将来認識による差異．第61回日本老年社会科学会，2019.6.6-6.7，仙台．
37. 吉田祐子，増井幸恵，稲垣宏樹，小川まどか，小野口航，樺山舞，神出計，池邉一典，新井康通，権藤恭之，石崎達郎：地域高齢者における多剤服用の状況とその関連要因の検討．日本老年社会科学会第61回大会，2019.6.7-8，仙台（ポスター）
38. 石岡良子，髙山緑，菅原育子，増井幸恵，小川まどか，菅沼真樹：後期高齢者の認知機能の経時的変化の個人間差 －K2 studyにおける3 時点データを用いて－．日本老年社会科学会第61回大会，2019.6.7-8，仙台（ポスター）
39. 髙山緑，石岡良子，菅原育子，孫怡，増井幸恵，小川まどか，菅沼真樹：後期高齢者の幸福感と地域への愛着，および物理的・社会的環境の関連性 － The Keio-Kawasaki Aging Study（K2 study）を用いて－．日本老年社会科学会第61回大会，2019.6.7-8，仙台（ポスター）
40. 菅原育子，二瓶美里，江原望，権藤恭之，増井幸恵，稲垣宏樹，井上剛伸，Malcom MacLachlan，Eilish McAuliffe：地域在住の超高齢者の暮らしと支援(1)-生活支援サービス利用およびソーシャルサポートの実態-．日本老年社会科学会第61回大会，2019.6.6-8，仙台（ポスター）
41. 二瓶美里，菅原育子，江原望，権藤恭之，増井幸恵，稲垣宏樹，井上剛伸，Malcom MacLachlan，Eilish McAuliffe：地域在住の超高齢者の暮らしと支援(2)-柏市における長寿者の支援機器の利活用の実態-．日本老年社会科学会第61回大会，2019.6.6-8，仙台（ポス）ター
42. 蔡羽淳，権藤恭之，安元佐織，松本清明，増井幸恵，稲垣宏樹，二瓶美里，菅原育子，江原望，井上剛伸：支援機器の使用と主観的幸福感の関係-地域在住の超高齢者の暮らしと支援(3)-．日本老年社会科学会第61回大会，2019.6.6-8，仙台（ポス）
43. 岡村毅，宇良千秋，鳥島佳佑，石黒太一，山崎幸子，新名正弥，川室優．認知症の人の社会的包摂を目指した、上越における3年間の稲作ケアの成果　第１１５回日本精神神経学会学術総会２０１９年６月２０日－２２日新潟
44. 栗田主一：認知症総論．第34回JSCRS学術総会，2019.6.28-6.30，京都（シンポジウム）．
45. 新川祐利，河野禎之，山中克夫，岡村毅，稲垣宏樹，井藤佳恵，栗田主一：日本語版DEMQOL，DEMQOL-PROXYの作成と信頼性・妥当性の検討．第1回日本在宅医療連合学会，2019.7.14-7.15，東京．
46. 中里和弘，島田千穂，平山亮，杉山美香，伊東美緒，菊地和則，栗田主一：プライマリケアの現場から始めるACP：高齢者向けの「人生の最期を考えるワークショップ」の評価に関連する要因の検討．第1回日本在宅医療連合学会，2019.7.14-7.15，東京．
47. 武藤拓之，権藤恭之，稲垣宏樹，増井幸恵，小川まどか，沼田恵太郎，小野口航，石岡良子，安元佐織，蔡羽淳，松本清明：地域在住超高齢者における同居家族と空間的視点取得能力の関連-SONIC研究．日本心理学会第83回大会，2019.9.11-13，大阪（ポスター）
48. 廣川空美，春日彩花，権藤恭之，大森慈子，増井幸恵，中川威，小川まどか，石岡良子，稲垣宏樹：高齢者の認知機能と唾液中テストステロン濃度の関連．日本心理学会第83回大会，3019.9.11-13，大阪（ポスター）
49. 高橋知佳，小原由紀，白部麻樹，本橋佳子，枝広あや子，本川佳子，稲垣宏樹，栗田主一，平野浩彦，渡邊裕：オーラルフレイルの発現および身体的・精神的要因の関連性の検討．日本歯科衛生学会第14回学術大会，2019.9.14-16，名古屋
50. 松原ちあき，白部麻樹，古屋純一，小原由紀，大渕修一，金憲経，栗田主一，平野浩彦，水口俊介，渡邊裕：地域在住高齢者における歯科保健指導による認知機能低下予防効果の検証．第14回日本歯科衛生学会，2019.9.14-2014.9.16，名古屋．
51. 山本かおり，本川佳子，平野浩彦，小原由紀，吉﨑貴大，矢野友啓，稲垣宏樹，新開省二，栗田主一，渡邊裕．地域在住高齢者の食品摂取の多様性と睡眠の質：前向きコホート研究．第66回日本栄養改善学会学術総会．富山．2019.9.5-7.
52. 森下志穂，小原由紀，高橋 知佳，白部 麻樹，本橋 佳子，枝広 あや子，本川 佳子，川村 孝子，平野 浩彦，渡邊 裕．通所介護施設の継続に影響する口腔機能および栄養に関する因子の検討．日本歯科衛生学会第15回学術大会．名古屋 2019.9.15-16.
53. 田村嘉章，豊島堅志，栗田主一，荒木厚：糖尿病における認知機能障害の評価法とその対策．第34回日本糖尿病合併症学会，2019.9.27-9.28，大阪（シンポジウム）．
54. 栗田主一：認知症医療における患者中心の医療とは．第30回日本老年医学会東海地方会，2019.10.5，名古屋（教育講演）．
55. 杉山美香，宮前史子，釘宮由紀子，岡村睦子，森倉三男，岡村毅，小川まどか，枝広あや子，宇良千秋，稲垣宏樹，栗田主一．認知機能等の低下した高齢者への大規模集合住宅地の地域拠点での日常生活支援．日本認知症予防学会第9回大会，名古屋国際会議場．2019.10.18-20
56. 村山洋史，宮前史子，宇良千秋，佐久間尚子，杉山美香，稲垣宏樹，岡村毅，栗田主一，地域レベルのソーシャルキャピタルと認知機能低下との関連：population-based調査データによるマルチレベル分析．日本認知症予防学会第9回大会，名古屋国際会議場．2019.10.18-20
57. 河合恒，谷口優，大須賀洋祐，清野諭，渡邊裕，金憲経，栗田主一，新開省二，大渕修一：地域高齢者における足底圧測定装置によって測定した歩行パラメータの基準値．第6回日本予防理学療法学会，2019.10.19-10.20，広島．
58. 扇澤史子，古田光，白取絹恵，今村陽子，岡本一枝，畠山啓，斎藤久美子，筒井卓実，松井仁美，長谷川裕美，大矢雅樹，栗田主一：DASCを用いた認知症高齢者の日常生活自立度ランクⅢ以上のスクリーニング方法の検討．第38回日本認知症学会，2019.11.7-11.9，東京（ポスター）．
59. 小原由紀，白部麻樹，本川佳子，本橋佳子，枝広あや子，稲垣宏樹，渡邊裕，平野浩彦，栗田主一，新開省二．地域在住高齢者におけるオーラルフレイルの実態と食生活との関連について．第78回日本公衆衛生学会総会．高知．2019.11.23-25.

60. 川村孝子，甫仮貴子，遠藤孝子，山口柳子，森下志穂，小原由紀，白部麻樹，本橋佳子，枝広あや子，本川佳子，平野浩彦，渡邊　裕，畠山桂郎．通所介護施設の継続に影響する口腔機能および栄養に関する因子の検討．第72回東北地区歯科医学会．秋田．　2019.11.30-12.1.

2　誌上発表

(1) 原著

1. Yamamoto K, Motokawa K, Yoshizaki T, Yano T, Hirano H, Ohara Y, Shirobe M, Inagaki H, Awata S, Shinkai S, Watanabe Y: Association of Dietary Variety and Appetite with Sleep Quality in Urban-Dwelling Older Japanese Adults. J Nutr Health Aging. 1-8, 2019.　(原著，査読あり) (IF:2.996, 2018)
2. Murayama H, Miyamae F, Ura C, Sakuma N, Sugiyama M, Inagaki H, Okamura T, Awata S. Does community social capital buffer the relationship between educational disadvantage and cognitive impairment? A multilevel analysis in Japan. BMC Public Health. 2019 Nov 1;19 (1):1442.　(原著，査読あり) (IF:2.578, 2018)
3. Sakurai R, Watanabe Y, Osuka Y, Taniguchi Y, Kawai H, Kim H, Kitamura A, Inagaki H, Montero-Odasso M, Awata S, Shinkai S. Overlap Between Apolipoprotein Eε4 Allele and Slowing Gait Results in Cognitive Impairment. Front Aging Neurosci. 2019 Sep 13;11:247.　(原著，査読あり) (IF:4.504, 2018)
4. Kawai H, Taniguchi Y, Seino S, Sakurai R, Osuka Y, Obuchi S, Watanabe Y, Kim H, Inagaki H, Kitamura A, Awata S, Shinkai S. Reference values of gait parameters measured with a plantar pressure platform in community-dwelling older Japanese adults. Clin Interv Aging. 2019 Jul 12;14:1265-1276.　(原著，査読あり) (IF:2.585, 2018)
5. Kikuchi K, Ijuin M, Awata S, Suzuki T. Exploratory research on outcomes for individuals missing through dementia wandering in Japan. Geriatr Gerontol Int. 2019 Sep;19(9):902-906.　(原著，査読あり) (IF:2.118, 2018)
6. Murayama H, Ura C, Miyamae F, Sakuma N, Sugiyama M, Inagaki H, Okamura T, Awata S. Ecological relationship between social capital and cognitive decline in Japan: A preliminary study for dementia-friendly communities. Geriatr Gerontol Int. 2019 Sep;19(9):950-955.　(原著，査読あり) (IF:2.118, 2018)
7. Mikami Y, Watanabe Y, Motokawa K, Shirobe M, Motohashi Y, Edahiro A, Nakajima J, Osuka Y, Inagaki H, Fujiwara Y, Shinkai S, Awata S. Association between decrease in frequency of going out and oral function in older adults living in major urban areas. Geriatr Gerontol Int. 2019 Aug;19(8):792-797.　(原著，査読あり) (IF:2.118, 2018)
8. Murayama H, Sugiyama M, Inagaki H, Edahiro A, Okamura T, Ura C, Miyamae F, Motokawa K, Awata S. Childhood socioeconomic disadvantage as a determinant of late-life physical function in older Japanese people. Arch Gerontol Geriatr. 2019 May 29. pii: S0167-4943(19)30128-1.　(原著，査読あり) (IF:2.611, 2018)
9. Kim H, Awata S, Watanabe Y, Kojima N, Osuka Y, Motokawa K, Sakuma N, Inagaki H, Edahiro A, Hosoi E, Won CW, Shinkai S. Cognitive frailty in community-dwelling older Japanese people: Prevalence and its association with falls. Geriatr Gerontol Int. 2019 Jul;19(7):647-653.　(原著，査読あり) (IF:2.118, 2018)
10. Niikawa H, Kawano Y, Yamanaka K, Okamura T, Inagaki H, Ito K, ★Awata S. Reliability and validity of the Japanese version of a self-report (DEMQOL) and carer proxy (DEMQOL-PROXY) measure of health-related quality of life in people with dementia. Geriatr Gerontol Int. 2019 Jun;19(6):487-491.　(原著，査読あり) (IF:2.118, 2018)
11. Toishiba S, Shimmei M, Ogawa Y, Takase A, Hayashida K, Okamura T, Awata S. Factors associated with positive attitudes toward care of dying persons among staff of geriatric care facilities in Japan. Geriatr Gerontol Int. 2019 Apr;19(4):364-365.
12. Taniguchi Y, Watanabe Y, Osuka Y, Kitamura A, Seino S, Kim H, Kawai H, Sakurai R, Inagaki H, Awata S, Shinkai S. Characteristics for gait parameters of community-dwelling elderly Japanese with lower cognitive function. PLoS One. 2019 Mar 27;14(3):e0212646.　(原著，査読あり) (IF:2.776, 2018)
13. ◎Okamura T, Sugiyama M, Inagaki H, Murayama H, Ura C, Miyamae F, Edahiro A, Motokawa K, Awata S. Anticipatory anxiety about future dementia-related care needs: towards a dementia-friendly community. Psychogeriatrics. 2019 Nov;19(6):539-546.　(原著，査読あり) (IF:1.518, 2018)
14. Igarashi K, Watanabe Y, Kugimiya Y, Shirobe M, Edahiro A, Kaneda K, Hasegawa, Y, Ito M, Hirano H, Sakurai K, Ono T, Inagaki H, Awata S, Kawai Y. Validity of a visual scoring method using gummy jelly for evaluating chewing efficiency in a large-scale epidemiological survey. J Oral Rehabil. 2019 May;46(5):409-416.　(原著，査読あり) (IF:2.051, 2018)
15. Kugimiya Y, Ueda T, Watanabe Y, Takano T, Edahiro A, Awata S, Sakurai K. Relationship between mild cognitive decline and oral motor functions in metropolitan community-dwelling older Japanese: The Takashimadaira study. Arch Gerontol Geriatr. 2019 Mar - Apr;81:53-58. doi: 10.1016/j.archger.2018.11.008. Epub 2018 Nov 16. PubMed PMID: 30504034.　(原著，査読あり) (IF:2.611, 2018)
16. Iizuka A, Suzuki H, Ogawa S, Kobayashi-Cuya KE, Kobayashi M, Inagaki H, Sugiyama M, Awata S, Takebayashi T, Fujiwara Y. Does social interaction influence the effect of cognitive intervention program? A randomized controlled trial using Go game. Int J Geriatr Psychiatry. 2019 Feb;34(2):324-332.　(原著，査読あり) (IF:3.141, 2018)
17. Murayama H, Sugiyama M, Inagaki H, Ura C, Miyamae F, Edahiro A, Motokawa K, Okamura T, Awata S. The Differential Effects of Age on the Association Between Childhood Socioeconomic Disadvantage and Subjective Symptoms of Dementia Among Older Japanese People. J Epidemiol. 2019 Jul 5;29 (7):241-246.　(原著，査読あり) (IF:3.078, 2018)
18. Matoba Y, Okamura T, Funaki Y, Ishigami T, Awata S, Takeshima T. Socially isolated older people with mental illness in Tokyo homeless shelters. Psychogeriatrics. 2019 May;19(3):286-288.　(原著，査読あり) (IF:1.518, 2018)
19. Sala G, Jopp D, Gobet F, Ogawa M, Ishioka Y, Masui Y, Inagaki H, Nakagawa T, Yasumoto S, Ishizaki T, Arai Y, Ikebe K, Kamide K, Gondo Y: The impact of leisure activities on older adults' cognitive function, physical function, and mental health. PLoS One. 2019 Nov 08; 14(11):e0225006.　(原著，査読あり) (IF:2.776, 2019)
20. Kiyoshige E, Kabayama M, Gondo Y, Masui Y, Inagaki H, Ogawa M, Nakagawa T, Yasumoto S, Akasaka H, Sugimoto K, Ikebe K, Arai Y, Ishizaki T, Rakugi H, Kamide K: Age group differences in association between IADL decline and depressive symptoms in community-dwelling elderly. BMC Geriatrics. 2019 November 13; 19, 309, doi:10.1186/s12877-019-1333-6 (原著，査読あり) (IF:2.818, 2019)

21. Maeda S, Takeya Y, Oguro R, Akasaka H, Ryuno H, Kabayama M, Yokoyama S, Nagasawa M, Fujimoto T, Takeda M, Onishi-Takeya M, Itoh N, Takami Y, Yamamoto K, Sugimoto K, Inagaki H, Ogawa M, Nakagawa T, Yasumoto S, Masui Y, Arai Y, Ishizaki T, Ikebe K, Gondo Y, Kamide K, Rakugi H: Serum albumin/globulin ratio is associated with cognitive function in community-dwelling older people: The Septuagenarians, Octogenarians, Nonagenarians Investigation with Centenarians study. Geriatr Gerontol Int. 2019 Oct;19(10):967-971. (原著, 査読あり) (IF2.118, 2019)
22. Yamazaki S, Ura U, Okamura T, Shimmei M, Ishiguro T, Torishima K, Kawamuro Y. Long-term effects of Rice-farming care on cognitive function and mental health of elderly people with cognitive impairment: a follow-up study. Psychogeriatrics 2019;19:513-515 (原著, 査読あり) (1.518、2018)
23. ◎Okamura T, Ura C, Yamazaki S, Shimmei, Torishima K, Kawamuro Y. Green care farm as a new tool for inclusion of older people with various challenges in the super-aged community. International Journal of Geriatric Psychiatry 2019; 34: 777-8 (原著, 査読あり) (3.141、2018)
24. Kayoko Ito, Ayako Edahiro, Yoshihiko Watanabe, Yuki Ohara, Yoshiko Motohashi, Shiho Morishita, Keiko Motokawa, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Makoto Inoue. Qualitative analysis of the vocabulary used in work logs of a preventive programme for elderly oral function and nutrition. Journal of Oral Rehabilitation. 46(8):723-729. 2019. (査読あり) (IF:2.341)
25. Keiko Motokawa, Jun Yasuda, Yurie Mikami, Ayako Edahiro, Shiho Morishita, Maki Shirobe, Yuki Ohara, Kanji Nohara, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe. The Mini Nutritional Assessment-Short Form as a predictor of nursing home mortality in Japan: A 30-month longitudinal study. Archives of Gerontology and Geriatrics. Epub 2019 Sep 12. (査読あり) (IF:2.611)
26. ★◎杉山美香, 岡村毅, 小川まどか, 宮前史子, 枝広あや子, 宇良千秋, 稲垣宏樹, 釘宮由紀子, 岡村睦子, 森倉三男, 見城澄子, 佐久間尚子, 栗田主一. 大都市の大規模集合住宅地に認知症支援のための地域拠点をつくる－Dementia Friendly Communities創出に向けての高島平ココからステーションの取り組み－. 日本認知症ケア学会誌. 2020.Jun8(4): 847-854. (実践・事例報告, 査読あり)
27. Wakeda T, Okamura T, Kawahara T, Heike Y. Camouflage makeup improves quality of life in cancer patients with treatment-related skin changes. Tumori Journal In Press https://doi.org/10.1177/0300891619867844 【1.234】(原著・査読 あり)
28. 新名正弥、宇良千秋、岡村毅、矢冨直美、山崎幸子、髙橋正彦：オランダにおけるケア・ファーミング： 農作を認知症ケアに応用するための要件 日本認知症ケア学会誌. 2020; 18(4): 855-861 (資料, 査読あり)
29. Murayama H, Miyamae F, Ura C, SakumaN, Sugiyama M, Inagaki H, Okamura T, Awata S. Does community social capital buffer the relationship between educational disadvantage and cognitive impairment? A multilevel analysis in Japan. BMC Public Health 19, 1442 (2019) doi:10.1186/s12889-019-7803-0【2.567 - 2-year Impact Factor 3.275 - 5-year Impact Factor】(原著査読あり)
30. Okamura T, Ura C, Sugiyama M, Ogawa M, Inagaki H, Miyamae F, Edahiro A, Kugimiya Y, Okamura M, Yamashita M, Awata S. Everyday challenges facing high-risk older people living in the community: A community-based participatory study. BMC Geriatrics 20, 68 (2020). https://doi.org/10.1186/s12877-020-1470-y 【2.818 - 2-year Impact Factor 3.458 - 5-year Impact Factor】(原著査読あり)
31. Ura C, Okamura T, Inagaki H, Ogawa M, Niikawa H, Edahiro A, Sugiyama M, Miyamae F, Sakuma N, Furuta K, Hatakeyama A, Ogisawa F, Konno M, Suzuki T, Awata S. Characteristics of detected and undetected dementia among community-dwelling older people in Metropolitan Tokyo. Geriatrics & Gerontology International (in press) 【2.118】(原著・査読 あり)

3 著書等

1. 栗田主一編：超高齢期の認知症を考える。老年精神医学雑誌特集、30: 231-285, 2019
2. 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター・千代田区:令和元年度千代田区介護予防事評価事業中間報告書. 2019年11月千代田区受託研究事業、2019年3月 (研究代表者：栗田主一)
3. 栗田主一, 枝広あや子. 第2章 認知症患者をとりまく諸制度と社会資源. 認知症の人への歯科治療ガイドライン. 日本医療研究開発機構研究費「認知症の容態に応じた歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究」ガイドライン作成班編, P14-28, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2019.6.
4. 枝広あや子. 第4章 認知症ケア・コミュニケーションメソッド CQ4-1 歯科治療のために、家族や多職種と連携して認知症患者のアセスメントを行うことは有効か. 認知症の人への歯科治療ガイドライン. 日本医療研究開発機構研究費「認知症の容態に応じた歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究」ガイドライン作成班編, P38-42, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2019.6.
5. 枝広あや子. 第4章 認知症ケア・コミュニケーションメソッド CQ4-2 歯科診療を実施するうえで認知症ケアの手法を学ぶのは有効か. 認知症の人への歯科治療ガイドライン. 日本医療研究開発機構研究費「認知症の容態に応じた歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究」ガイドライン作成班編, P43-46, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2019.6.
6. 枝広あや子. 第4章 認知症ケア・コミュニケーションメソッド CQ4-3 認知症患者の症状に合わせて歯科治療時の環境調整をすべきか. 認知症の人への歯科治療ガイドライン. 日本医療研究開発機構研究費「認知症の容態に応じた歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究」ガイドライン作成班編, P47-51, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2019.6.
7. 野原幹司, 枝広あや子. 第10章 認知症患者の摂食嚥下リハビリテーション CQ10-1 変性性認知症の摂食困難の要因には何があるか. 認知症の人への歯科治療ガイドライン. 日本医療研究開発機構研究費「認知症の容態に応じた歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究」ガイドライン作成班編, P129-132, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2019.6.
8. 野原幹司, 枝広あや子. 第10章 認知症患者の摂食嚥下リハビリテーション CQ10-2 認知症患者の病型（原因疾患）による摂食嚥下障害の特徴は何か. 認知症の人への歯科治療ガイドライン. 日本医療研究開発機構研究費「認知症の容態に応じた歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究」ガイドライン作成班編, P133-135, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2019.6.

9. 野原幹司, 枝広あや子. 第10章　認知症患者の摂食嚥下リハビリテーション　CQ10-3　認知症患者の摂食困難および摂食嚥下機能に対する評価はどのように行うか. 認知症の人への歯科治療ガイドライン. 日本医療研究開発機構研究費「認知症の容態に応じた歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究」ガイドライン作成班編, P136-138, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2019.6.
10. 野原幹司, 枝広あや子. 第10章　認知症患者の摂食嚥下リハビリテーション　CQ10-4　認知症患者の摂食困難の対応法には何があるか. 認知症の人への歯科治療ガイドライン. 日本医療研究開発機構研究費「認知症の容態に応じた歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究」ガイドライン作成班編, P139-143, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2019.6.
11. 野原幹司, 枝広あや子. 第10章　認知症患者の摂食嚥下リハビリテーション　CQ10-5　認知症患者の摂食嚥下リハビリテーション（狭義）には何が有効か. 認知症の人への歯科治療ガイドライン. 日本医療研究開発機構研究費「認知症の容態に応じた歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究」ガイドライン作成班編, P144-146, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2019.6.
12. 野原幹司, 枝広あや子. 第10章　認知症患者の摂食嚥下リハビリテーション　CQ10-6　認知症患者の摂食嚥下障害において注意する薬剤は何か. 認知症の人への歯科治療ガイドライン. 日本医療研究開発機構研究費「認知症の容態に応じた歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究」ガイドライン作成班編, P147-149, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2019.6.
13. 枝広あや子. 第12章　認知症患者の緩和ケア　CQ12-1　認知症患者の緩和ケアにおいて歯科に求められることは何か. 認知症の人への歯科治療ガイドライン. 日本医療研究開発機構研究費「認知症の容態に応じた歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究」ガイドライン作成班編, P168-172, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2019.6.
14. 粟田主一：認知症施策推進大綱に基づく取組の評価方法検討に向けた研究. 令和元年度厚生労働科学特別研究事業総括・分担研究報告書, 2020年3月（研究代表者：粟田主一）.
15. 粟田主一：若年性認知症の人の生活実態調査と大都市における認知症の有病率及び生活実態調査. 令和元年度厚生労働科学研究費補助金認知症施策研究事業総括・分担研究報告書, 2020年3月（研究代表者：粟田主一）.
16. 粟田主一：独居認知症高齢者等が安全・安心な暮らしを送れる環境づくりのための研究. 令和元年度厚生労働科学研究費補助金認知症政策研究事業総括・分担研究報告書, 2020年3月（研究代表者：粟田主一）.
17. 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター：認知症疾患医療センターの質の管理及び地域連携のあり方に関する調査研究事業報告書. 令和元年度老人保健健康増進等事業報告書, 2020年3月（研究代表者：粟田主一）.
18. 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター: 認知症とともに暮らせる社会に向けて地域づくりの手引き. 令和元年度東京都受託研究事業「認知症地域支援推進事業」報告書、2020年3月（研究代表者：粟田主一）
19. 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター：若年性認知症の方の支援の状況に関する実態調査報告書. 令和元年度東京都受託研究事業「若年性認知症支援事業」報告書（研究代表者：粟田主一）
20. 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター：若年性認知症とともに生きる方々の通いの場をつくる実践ポイント. 令和元年度東京都受託研究事業「若年性認知症支援事業」報告書（研究代表者：粟田主一）
21. 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター・千代田区:令和元年度千代田区介護予防把握事業「こころとからだのすこやかチェック」報告書. 千代田区受託研究事業、2020年3月（研究代表者：粟田主一）
22. 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター・千代田区:令和元年度千代田区認知症支援サービス推進に関する報告書. 千代田区受託研究事業、2020年3月（研究代表者：杉山美香）
23. 独立行政法人東京都健康長寿医療センター・千代田区:令和元年度千代田区介護予防事評価事業最終報告書. 千代田区受託研究事業、2020年3月（研究代表者：粟田主一）
24. 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター：令和元年度東京都受託事業「島しょ地域の認知症対応力向上に向けた支援事業」報告書, 2020年3月（研究代表者：粟田主一）
25. 一般財団法人保健福祉広報協会：認知症高齢者にやさしいまちづくり～その実践とアートを活用した支援に見る可能性～2020年2月（分担執筆：杉山美香）
26. 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター・日本郵便株式会社: 日本郵便株式会社「みまもり訪問サービス」の心理社会的効果の検討～令和元年度報告書、平成30年度受託研究事業、2020年3月（研究代表者：粟田主一）
27. 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター・足立区: 認知症の方とともに安心して暮らせる梅田地区を目指してー「地域包括ケアシステムへの意識と健康に関する調査」報告書, 2020年3月（研究代表者：粟田主一）

受賞

フレイルと筋骨格系の健康

1. 笹井浩行, 澤田亨, 吉岡伸輔, 寺田新, 八田秀雄、公益財団法人明治安田厚生事業団体力医学研究所 若手研究者のための健康科学研究助成 研究成果報告書 優秀賞「大学生の体力と卒後のメンタルヘルスの関連：50年以上追跡する大規模コホート研究」2019.4.30

口腔保健と栄養研究

1. 星野大地, 渡邊　裕, 本川佳子, 白部麻樹, 枝広あや子, 本橋佳子, 高橋知佳, 平野浩彦, 村上浩史, 弘中祥司, 丸岡靖史、一般部門優秀ポスター賞「第30回日本老年歯科医学会学術大会「終末期ケアのための簡易摂食嚥下機能評価の検討」2019.6

2. 五十嵐憲太郎、第12回日本義歯ケア学会学術大会優秀口演賞「リライン」「リベース」の用語の教科書における使用の変遷」2020.2

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)
二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

福祉と生活ケア研究チーム

チームリーダー：石崎達郎

研究チームの概要・目的

本研究チームは、要支援・要介護状態にある高齢者や後期・超高齢期高齢者における生活機能、精神的健康状態、生活の質、そして生活環境向上に資する研究の実践と社会への成果還元をチーム研究のミッションとして、Aging in Place実現に向けた研究実践を目的としている。対象は高齢者ケアに関わるすべての人々や組織とし、居宅・施設・地域における高齢者支援のあり方やケアの質の向上に資する研究を推進する。

3つの研究テーマ、「介護予防研究」、「医療・介護システム研究」、そして「介護・エンドオブライフ研究」に分かれて研究活動を行っている。

「介護予防研究」では、介護予防の基盤開発、共助の互助化を目的とする介護予防プログラムの社会実装を、「医療・介護システム研究」では、高齢者・介護者を支える医療・介護システムの実現を目指す中で、地域単位で医療・介護システムを分析し、地域包括ケアシステムに係る課題とその対応策の提言を目的としている。「介護・エンドオブライフ研究」では、衰える過程においても、本人の意思に基づくケア実践を可能とする支援ツールや教育方法の開発を行う。

【参考】第三期中期計画における年度別研究計画

介護予防研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度（平成30年度）	2019 年度（令和元年度）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
基礎研究	日常歩行速度測定の確立	日常生活歩行速度の信頼性の検証	実験室内と日常生活における歩行速度の一致度の検討	日常生活歩行速度の季節変動の検討	性・年代別日常生活歩行速度の基準値と臨床最小変化量の検討	縦断研究への応用
	簡易生活機能評価の開発	簡易運動機能測定の信頼性の検証	簡易運動機能測定による基準値と臨床最小変化量の決定	簡易認知機能測定の信頼性の検証	簡易認知機能測定による基準値と臨床最小変化量の決定	簡易生活機能評価の社会実装の可能性の検討
	時系列データの活用による介護予防評価の開発	データセット作成、特徴点抽出の検討	認知機能低下についての横断分析	認知機能低下についての縦断分析	認知機能低下予測モデルの作成	予測システム化
応用研究	CAP モデルによる介護予防効果のアクションリサーチ	CAP モデルに基づく、提示資料の作成、介入方法の検討	CAP モデルに基づく、介入の実施	住民主体の活動の継続支援技術の知識発現による知識化	他モデルとの比較（専門家主導型、リーダ養成型、サポータ型の住民主体型）	区市町村が活用可能な CAP モデルに基づく住民主体マニュアルの作成
	サブスタッフによる要支援者への介護予防プログラムの確立	サブスタッフ制度参加デイサービスでの人材育成	利用者への影響評価	サブスタッフへの影響評価	事業所への影響評価	サブスタッフ制度の普及

普及研究	東京都介護予防推進センターへの支援	地域づくりによる介護予防推進支援	地域づくりによる介護予防推進支援	地域づくりによる介護予防展開支援	介護予防ケアマネジメントモデルの提案	介護予防ケアマネジメントモデルの普及
	介護予防運動指導員事業の支援	地域づくりによる介護予防に関する情報提供	地域づくりによる介護予防に関する情報提供	介護予防・日常生活支援総合事業に関する情報提供	介護予防・日常生活支援総合事業に関する情報提供	新しい介護予防ケアマネジメントモデルの提案

医療・介護システム研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 （平成30年度）	2019 年度 （令和元年度）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
多病に対応可能な保健・医療システムの構築	高齢者における多剤処方の心身機能への影響	薬剤データ・分析用データの抽出、多剤処方の身体機能への影響分析	新規データ追加収集、多剤処方の精神的健康への影響分析、学会報告、論文執筆	新規データ追加収集、多剤処方の高次生活機能への影響分析、学会報告、論文執筆	新規データ追加収集、多剤処方の高次生活機能への影響分析、学会報告、論文執筆	学会報告、論文執筆、研究成果のまとめ
	生活機能・認知機能が医療のプロセス・アウトカムに及ぼす影響の検討	センター内関係部署調整、倫理審査、データ匿名化システム開発・データベース開発	DPCデータベース新規データ蓄積、データ分析（医薬品使用頻度の比較等）、学会報告、厚労省DPCデータ研究班との意見交換	DPCデータベース新規データ蓄積、データ分析（医療費・在院日数比較等）、学会報告、厚労省DPCデータ研究班との意見交換	DPCデータベース新規データ蓄積、データ分析（医療費・在院日数比較等）、学会報告、厚労省DPCデータ研究班との意見交換	DPCデータベース新規データ蓄積、データ分析（医療費・在院日数比較等）、学会報告、厚労省DPCデータ研究班との意見交換
多様な介護のあり方を支援する介護システムの構築	多様な介護の実態を把握し、その実態に応じた支援の提供、および持続可能な介護システムを検討する	日本の家族介護の多様性の現状と既存の介護者支援の実態を把握するとともに、私的介護支援に資する個別研究を実施	国内外の介護システムに関する情報収集と、私的介護支援に資する個別研究を実施。これらを元に、公的介護保険と私的介護のバランスを検討する研究会の開催	国内外の介護システムに関する情報収集と、私的介護支援に資する個別研究の実施と支援の提案。これらを元に、公的介護保険と私的介護のバランスを検討する研究会の開催	国内外の介護システムに関する情報収集と、私的介護支援に資する個別研究、支援の提案、その評価研究を実施。これらを元に、公的介護保険と私的介護のバランスを検討する研究会の開催	多様な介護の実態に応じた、公的介護保険と私的介護のバランスを検討し、持続的な介護システムの提言
切れ目のないアクセスを保証する医療・介護システムの構築	退院時・入院時等の移行期における医療介護の連携やケア調整を促進し、有害事象を予防する手立てを検討する	調査データとレセプトデータの統合データベースの開発	移行期ケアプログラムのニーズが高い集団の特性の解明、移行期におけるケアの継続性に関する実態把握	移行期ケアプログラムのニーズが高い集団の特性の解明、移行期におけるケアの継続性に関する実態把握	移行期に関わる医療・介護サービスの効果に関する研究	移行期ケアのあり方に対する提言

介護・エンドオブライフ研究

テーマ	研究目標・目的	2018 年度 (平成30年度)	2019 年度 (令和元年度)	2020 年度	2021 年度	2022 年度
エンドオブライフケアに関する意思表明支援の要件の明確化	意思表明支援（アドバンスケアプランニング；ACP）の段階に沿って帰納的探索的に支援要件を明らかにする	ACPの段階別のアプローチ方法を検討し、試行する	ACPの段階別のアプローチ方法の影響分析、病院及び地域における実践事例の収集	ACPの実践の場及びアプローチ方法の再検討、病院及び地域における実践事例の収集	ACPの実践事例の分析と効果的アプローチ方法の検討と試行	対象類型別のACPアプローチ方法の試行とその影響分析
認知症高齢者と介護する家族の負担軽減の方法論の提案	認知症高齢者と介護者との関係性を考慮した介護負担軽減の方法論を提示する	方法論を試行し、介護への影響を探索的に明らかにする	認知症高齢者や介護者の状況を考慮した方法論の精査と効率的な実施方法の検討	認知症高齢者の介護負担軽減の方法論の試行的導入と検討	認知症高齢者の介護負担軽減の方法論の影響分析	認知症高齢者の介護負担軽減の方法論の影響分析
エンドオブライフの状態変化の把握	エンドオブライフの状態変化を記述し、将来予測の共有を可能にする要件を明らかにする	データ収集方法の検討、ケアマネジャーとの研究ネットワーク構築を行う	介護サービスの利用者に関する経時的データ収集	介護サービスの利用者に関する経時的データ分析	状態変化の類型を分析し、多職種共有における課題を抽出する	状態変化の将来予測の職種間の差異を明らかにする
ケア実践者・市民への研究成果の普及・還元	衰えつつ生きることの意味を市民ベースで考える素材を提供する	講演等を通じて、ケア実践者の意欲向上、市民の意識啓発を図る	講演等を通じて、ケア実践者の意欲向上、市民の意識啓発を図る	講演等を通じて、ケア実践者の意欲向上、市民の意識啓発を図る	講演等を通じて、ケア実践者の意欲向上、市民の意識啓発を図る	講演等を通じて、ケア実践者の意欲向上、市民の意識啓発を図る

介護予防

構成メンバー

テーマリーダー：大渕修一
研究員：河合恒
非常勤研究員：解良武士

1　令和元年度の研究成果

本テーマでは、従来の介護予防に応じない、無関心期、関心期にある対象者の行動変容をいかに起こすのかを課題とし、a)日常生活や身近な場所において生活機能を評価し、介護予防行動を起こすための社会基盤を作るための基礎研究、b)地域の役割モデルによる住民主体の介護予防の推進や、住民がサービスの担い手として活動するための具体的なプログラムの提案と実施による応用研究、c)東京都介護予防推進支援センター、介護予防運動指導員養成事業への支援を通した、研究成果の区市町村や専門職への実装による普及啓発の3領域に分けて研究を進めている。

今年度は以下の研究を行い、当初の計画をやや上回る形で進行している。

1）日常歩行速度測定の確立

歩行速度は要介護リスクを予測する重要な指標であるが、従来の歩行速度は実験室内の一定の歩行路を歩いたときに測定されたもので、日常生活での歩行速度を反映しているかは不明である。そこで、GPS内蔵のスマートフォンによって日常生活歩行速度測定するシステムを活用し、地域高齢者の実験室歩行速度と日常生活歩行速度を測定し、その一致度や、フレイル関連指標との関係を検討した。また、日本人成人の大規模データから基準値や季節変動を分析した。

２）簡易生活機能評価の開発
客観的測定による介護予防のスクリーニング機器開発のため、今年度は、地域高齢者のコホート研究において、タブレット端末による認知機能検査「CompBased-CAT」による認知機能低下予測能、および立ち上がり時の床反力測定によるサルコペニア予測能について検討した。
３）時系列データの活用による介護予防評価の開発
従来の介護予防評価では、歩行時の加速度変化のような高サンプリング時系列データを活用できているとは言い難かった。そこで、歩行時の時系列データにより認知機能低下を検知する技術を特許出願した。MMSEなどによる認知機能評価は、訓練された検査者、テスト環境、学習効果などの課題があるが、歩行から認知機能を評価することができれば、日常生活で簡易的に認知機能評価を行え、本テーマが目標としている介護予防行動のための社会基盤につながる。

４）CAP(Community As Partner)モデルによる介護予防効果のアクションリサーチ
地域包括ケアの構築に向け、住民主体の活動（互助）を強化し、従来の介護予防サービス（共助）を担えるようにしていく「共助の互助化」が必要である。そこで、住民が地域診断を通して自身に対する地域の期待を知ることで、フレイル予防行動の意欲を作るCAPモデルによる介護予防プログラムを開発し、フレイル高齢者を対象に介入研究を行っている。今年度は、介入後のフレイル予防実践活動への効果、1年後の健康アウトカム指標への効果について検討した。

５）サブスタッフによる要支援者への介護予防プログラムの確立
「共助の互助化」を進めるためには、事業者によって提供されてきた介護サービスを地域住民に移転することが課題となる。そこで、デイサービスの職員が地域住民に教育を行い、修了生がサブスタッフとなって要支援者へのサービス提供を担うプログラムを開発し３つの自治体でモデル実施を行っている。今年度は、事業所への影響についてインタビュー調査を行った。

６）東京都介護予防推進支援センターへの支援
東京都の依頼により東京都介護予防推進支援センターを設置し、区市町村の地域の通いの場における介護予防活動を推進する取組「地域づくりによる介護予防」に対しテーマ研究による知見を提供し支援した。その結果「通いの場」が東京都においても急速に伸びている。

７）介護予防運動指導員養成事業への支援
医療・介護専門職への介護予防の全国的な普及を目的とした介護予防（主任）運動指導員養成事業に対して、テーマ研究の知見に基づいた支援を行った。

【その根拠】
１）日常歩行速度測定の確立
計画通り、板橋お達者健診において地域高齢者90名の実験室歩行速度と日常生活歩行速度を測定し、実験室歩行速度は日常生活歩行速度よりも有意に速いことを示した。また、次年度以降に計画していた日常生活歩行速度の基準値および季節変動の解析にも着手し、日常生活歩行速度の加齢変化や、年間を通して0.1標準偏差の範囲で変動することを明らかにした。

２）簡易生活機能評価の開発
次年度以降に予定していた簡易認知機能検査の信頼性の検討を前倒しで行い、板橋お達者健診において測定したCompBased-CATと2年後のMCI発生への予測能を検討し、AUC0.79、感度72%、特異度80%の予測能があることを示した。また、簡易運動機能検査の信頼性について、板橋お達者健診において測定した立ち上がり時床反力パラメータによるサルコペニアの予測能について検討した。サルコペニアに対するAUCは0.90、感度93%、・特異度75%であった。

３）時系列データの活用による介護予防評価の開発
通常歩行時の骨盤と足部の加速度および角速度の時系列データを画像化し、汎用AIを用いて認知症疑いが検知できる技術について特許出願を行った。

４）CAP(Community As Partner)モデルによる介護予防効果のアクションリサーチ
CAPによる住民主体のフレイル予防活動支援プログラム参加者に対して、フレイル予防活動量のフォローアップ調査、傾向スコアマッチングによる対照群との健康アウトカムの比較を行った。介入後のフレイル予防活動量は有意に向上し、JST版活動能力について介入群で有意な向上を認めた。
さらに、このような住民主体の活動支援に必要な暗黙知を知識構造化手法により構造化マニュアルとして記述した。これにより、支援者による行動記録を知識に対応づけることが可能となった。これらの成果は将来的にアクションリサーチの定量化や、人工知能の活用による支援者を支援するロボットへの実装につながる。

５）サブスタッフによる要支援者への介護予防プログラムの確立
サブスタッフモデルによるプログラムを実施した14事業所へインタビュー調査を行い、地域住民が介護サービスを提供することによる事業所への効果について聴取した。その結果、約8割が職員の仕事量が軽減されたと回答し、約7割が、サブスタッフの体調によって業務が困難となることはなかったと回答するなど、プログラムの実行可能性が高いことが確認できた。

６）東京都介護予防推進支援センターへの支援、７）介護予防運動指導員養成事業への支援
計画に掲げたように情報を共有しながら進めた。特に、東京都介護予防推進支援センターが実施した、「通いの場参加者に対する実態調査」や「壮年期に対する通いの場参加意向調査」、「通いの場の進捗状況評価のためのプロセス指標の開発と調査」など、事業によって収集されたデータの提供を受けて分析を行い、区市町村支援に活用した。

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携
＜日常生活歩行速度測定の確立＞
【センター内】高齢者健康増進事業支援室
【センター外】太陽生命保険（株)、産業技術総合研究所、弘前大学
＜簡易生活機能評価の開発＞
【センター内】社会参加と地域保健研究チーム、自立促進と精神保健研究チーム、高齢者健康増進事業支援室、東京都介護予防推進支援センター、眼科
【センター外】株式会社トプコン
＜時系列データの活用による介護予防評価の開発＞
【センター内】社会参加と地域保健研究チーム、自立促進と精神保健研究チーム、東京都介護予防推進支援センター、高齢者健康増進事業支援室
【センター外】北里大学、ローム株式会社
＜CAPモデルによる介護予防効果のアクションリサーチ＞
【センター内】高齢者健康増進事業支援室、健康増進センター
【センター外】昭和大学、高崎健康福祉大学、NPO法人コミュニティランドスケープ、産業技術総合研究所
＜サブスタッフによる要支援者への介護予防プログラムの確立＞
【センター内】高齢者健康増進事業支援室、介護予防推進支援センター
【センター外】小金井市、東久留米市、千葉県浦安市

医療・介護システム

構成メンバー
テーマリーダー：石崎達郎
研究員：増井幸恵、涌井智子、吉田祐子、光武誠吾
非常勤研究員：土屋瑠見子

１　令和元年度の研究成果
【令和元年度の進捗状況】
１）医療システムに関する研究：多病に対応可能な保健・医療システムの構築
①多剤処方の実態把握

東京都後期高齢者医療広域連合レセプトデータを用い、75歳以上の外来患者（約100万人）を対象に外来処方（内服薬）を把握し、多剤処方の状況を性別・年齢階級別に把握した。医薬品の併用処方パターンを因子分析で同定した後に、多剤処方の関連要因を分析した。Geriatrics Gerontology International誌に原著論文を投稿中で、研究は順調に進んでいる。

②多剤の生活機能への影響

長期縦断研究SONIC研究のベースラインデータを使って、地域高齢者を対象に多剤処方と健康指標との関連を検討した。競争的外部資金（三井住友海上福祉財団、科研費・挑戦的研究）を使って研究を進めている。進捗状況は、当初の予定通りである。

③生活機能・フレイルが医療のプロセス・アウトカムに及ぼす影響の検討

DPCデータと認知機能評価データ（DASC）の突合データの分析：病院のデータ管理部署と、データ提供・匿名化の手続き、情報管理、オプトアウト対応の掲示と倫理委員会の承認を得た後に、匿名化済みデータを入手し、データベース開発を進めている。現在は主要DPCコードを対象に、認知機能と在院日数の関係を分析している。競争的外部資金（ファイザーヘルスリサーチ振興財団）を使って研究を進めている。進捗は当初の予定よりやや遅れている。

２）介護システムに関する研究：多様な介護のあり方を支援する介護システムの構築

介護システムに関する研究では、以下の3つのテーマで研究を進めている。

①介護の多様性を実現する経年的介護実態の把握を目的に、日本の介護状況をマクロ的に把握し今後の介護状況を予測、

②私的介護支援に資する研究として、ミクロ的に個々の多様な介護状況に資する研究、

③公的介護保険と私的介護のバランスによる持続可能な介護システムの実現に向けた介護システムに関する研究に取り組んでいる。

これらの研究は概ね予定通り進んでいる。

３）医療と介護の連携に関する研究：移行期ケアの評価に関する研究

①再入院と退院支援サービス

退院時の移行期ケアの有害事象として再入院を取り上げ、DPC病院入院中にリハビリを受けた退院患者を対象に、退院直後の再入院の発生状況を把握し、診療報酬制度下で提供された退院支援サービスの利用と再入院の発生との関連を検討した。英文原著論文として研究成果を報告し、採択された。研究は予定通り進んでいる。

②退院直後の介護保険リハビリの要介護度悪化への影響

医療・介護レセプト連結データを用いて、退院直後の介護保険リハビリ（通所リハ・訪問リハ）が退院1年後の要介護度悪化に及ぼす効果を検証し、研究成果を国際学会で発表した。さらに1年半分のデータを追加した医療・介護レセプト連結データ(3年分)を用いて、再分析中であり、研究は予定通り進んでいる。

【その根拠】

１）医療システムに関する研究：多病に対応可能な保健・医療システムの構築

①多剤処方の実態把握

国際学術誌「Geriatrics Gerontology International誌」に投稿中であり、2019年12月16日現在、「Minor Revision」判定にて修正中である。

②多剤の生活機能への影響

長期縦断研究SONIC研究の70歳群・80歳群データを使い、薬剤分類データを作った後に、多剤処方と健康指標（身体機能や精神的健康）との関連を分析した。研究成果は2019年6月の日本老年医学会学術集会と同年10月のIAGG/AORで口頭報告を終え、現在、論文執筆中である。

③生活機能・フレイルが医療のプロセス・アウトカムに及ぼす影響の検討

DPCデータと認知機能評価データ（DASC）の突合データの分析：2019年9月に匿名化済みデータを入手してデータベース開発を進めると同時に、基礎集計を進めている。第一段として、認知機能障害を4区分の重症度に分け、主要DPCコードについて認知機能障害の重症度別在院日数を比較している。

２）介護システムに関する研究：多様な介護のあり方を支援する介護システムの構築

本年度は、①経年的介護実態の把握から、息子介護者の増加の実態、仕事と介護の両立の課題や子ども介護者の自身の生活維持の課題について検討し国内外でのシンポジウム・学会での報告を、また、②私的介護支援に資する研究として、在宅介護の日常的データ把握のための方法論的課題の検討、在宅介護者の

日常の介護実態と対処行動について解析を進め、国内外でのシンポジウム・学会で報告を行った。③介護システムに関する研究では、公的介護保険認定と主観的支援ニーズのギャップから私的介護の潜在的介護力について検討を進め、学会での報告を行っている。これらの研究の一部については、総説や英文書籍等で報告を行った。

3）医療と介護の連携に関する研究：移行期ケアの評価に関する研究

①再入院と退院支援サービス

米国・リハビリテーション医学会が刊行する学術雑誌「Archives of Physical Medicine and Rehabilitation」に採択された。

②退院直後の介護保険リハビリの要介護度悪化への影響

医療・介護レセプト連結データを用いて、退院直後の介護保険リハビリが退院1年後の要介護度悪化に及ぼす効果を検証した。国際学会11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019にてOutstanding Poster Presentation Awardを受賞した。

2　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜高齢発症リウマチ患者における生活機能改善を目的とする治療戦略の評価研究＞
【センター内】膠原病・リウマチ科
【センター外】東京医科歯科大学
＜生活機能・フレイルが医療のプロセス・アウトカムに及ぼす影響の検討＞
【センター内】精神科、薬剤科
【センター外】産業医大
＜細胞診検査所見を用いた膵臓癌リスクスコアの開発＞
【センター内】病理診断科
【センター外】香川大学
＜介護実態の経年的把握＞
【センター外】筑波大学、ジョンズ・ホプキンス大学、ベルゲン大学、香港教育大学
＜働く介護者支援を目的とした介護の仕事影響評価＞
【センター内】福祉と生活ケア研究チーム（介護・エンドオブライフ）
【センター外】ジョンズ・ホプキンス大学、東京大学
＜介護の見える化研究＞
福祉と生活ケア研究チーム（介護・エンドオブライフ）
【センター外】ジョンズ・ホプキンス大学、東京大学
＜介護システム研究＞
【センター内】福祉と生活ケア研究チーム（介護・エンドオブライフ）
【センター外】青森県立保健大学、東京大学、筑波大学
＜地域高齢者の幸福感に関する研究＞
【センター外】亀岡市高齢福祉課
＜和光市：フィールド調査データ＋医療費・介護費データ突合分析＞
【センター内】社会参加と地域保健研究チーム
＜草津町・鳩山町：フィールド調査データ＋医療費・介護費データ突合分析＞
【センター内】社会参加と地域保健研究チーム

介護・エンドオブライフ

構成メンバー

テーマリーダー：島田千穂
研究員：菊地和則、平山亮、池内朋子（10月より）、伊東美緒（6月まで）
非常勤研究員：木下　衆

1　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

１．エンドオブライフケアに関する意思表明支援（アドバンスケアプランニング）

アドバンスケアプランニング（ACP）は、将来の医療・ケアについて、本人を人として尊重した意思決定の実現を支援するプロセスと定義されている（ACP推進に関する提言、2019）。事前の治療選択はACPの一部に過ぎず、本人の価値観、意向、人生の目標などを共有し、理解した上で、意思決定ができるよう対話を行い、最終的には本人の意思をくみ取り本人が望む医療・ケアを受けるまでのプロセス全体のことを意味する。

今後高齢者になりうる全ての人と家族にとって必要なプロセスであると理解することができ、段階を踏んで理解と対話を繰り返す必要があるものであると考えられる。今年度は、啓発の効果、ケアマネジャーの実践、家族の準備状況に焦点を当てた研究を行った。

１）地域住民に対する啓発の効果

地域住民を対象として、カードゲームと対話を組み合わせたワークショップを行い、前後比較を行った。参加者のエンドオブライフに関する思考の程度、会話の程度、書面作成の有無を比較すると共に、参加者の意思伝達機能低下に対する認識の、前後の変化への影響を反復測定分散分析を用いて分析した。思考の程度や家族との会話の程度に前後で有意差はなかったものの、意思伝達機能の低下についての重大性や備えの必要性認識が低い人ほど変化するという交互作用が有意であった。カードゲームを用いたワークショップが、事前準備への認識が低い人への啓発活動としての活用可能性が示唆された。一方、意思伝達機能の低下についての重大性や備えの必要性認識が高い人については効果がみられず、個別の状況に応じた機会の提供が求められると考える。

２）ケアマネジャーのエンドオブライフに向けた事前準備支援の実態把握

人生の終盤に向けた対話へのケアマネジャーの関与の実態と、その程度に関連する要因を把握した。2014年3月までに指定を受けた事業所5,612ヶ所（東京都3,079、埼玉県1,544、栃木県504、青森県485）に所属するケアマネジャー3名／1事業所を対象として、3,320名から回答を得た。基礎資格は介護福祉士67.1%、社会福祉士9.3%、看護師8.3%であった。在宅看取り希望利用者の今後の担当意向は96.3%であった。

8割以上の利用者との対話経験のあるケアマネジャーは12.0%で、経験には個人差があり、利用者との対話経験は家族より少ない傾向にあった。利用者との対話の程度は、家族が看取りに関わるべきだと考えるケアマネジャーほど小さくなる関連が有意であった。ケアマネジャーの事前対話への関与は、ケアマネジャー個人が有する規範的意識に影響されている可能性が考えられた。

３）支える家族の介護準備に関する研究

これまで、親のケアに関する準備行動は、介護役割の予期によって動機づけられることが示唆されてきたが、予期の関連要因の実証知見は乏しい。そこで、この予期を左右する家族の要因について、特にきょうだいの要因について、高齢の親をもつ介護未経験の被雇用者を対象とした調査データを用いて検討した。介護役割の予期は、きょうだいの生活状況、例えば単身で家庭がないと低くなり、自分自身の生活状況は、その予期に有意な効果はみられなかった。介護に関する役割の判断は、自分以外の家族の状況に依存することを踏まえ、親の介護に向けた準備を促す方法を考える必要が示唆された。この研究は、National Council on Family Relations 2019の Professional Issues in Aging Award を受賞した。

２．認知症高齢者の介護者負担軽減の方法論

長寿が実現されるほど認知症の人は増加し、介護が課題となる。今年度は、認知症の人の介護の負担軽減に寄与することを目的とした研究を行った。

１）認知症の人の行動・心理症状への対応に対するケア従事者教育プログラムの開発

認知症の行動・心理症状（以下BPSD)は様々な要因によって影響を受けるが、身近な人との関係性によっても悪化しうる。認知症の人は、ケアの場面でケア従事者の誘導に従いたくない時、言語だけでなく表情・行動・態度によって“不同意メッセージ（服従・謝罪・転嫁・遮断・憤懣)”を表現している。しかしケア従事者は予定されたケアを時間通りに実行することを優先しがちで、当事者の表現を無視する形でケアを推し進める現状がある。

そこで、ケア従事者が日常のかかわり方によって生じさせている可能性のあるBPSDに気づくための記録シートを開発し、講義と演習を組み合わせた教育プログラムを提供した。療養型病院に勤務する介護・看護スタッフ116名、患者89名の協力を得て、事前事後を行ったところ、BPSDの重症度、負担感共に有意に減少し、研修の有効性が示唆された。この研究は、認知症ケア学会大会2019年度石崎賞を受賞した。

２）認知症高齢患者の自宅退院に関連する要因

認知症の人が、できる限り住み慣れた地域で生活できることを目指すためには、在宅療養環境の充実化

だけでなく、入院生活から在宅生活への移行への支援も不可欠である。本研究では、認知症の人が、急性期病院への入院から自宅退院を可能にする要因を分析した。

調査期間中の入院患者899名のうち、自宅から急性期病院に入院した人は60.3%であったのに対し、自宅退院した人は36.6%と減少した。自宅退院した人は、施設や別の病院に退院した人と比べて、平均入院日数が短く、退院後の生活の希望を本人から聞いている割合が高くなっていた。またベッドへの体幹固定、四点柵、ミトン着用、向精神薬投与のいずれも自宅退院者で少なく、身体拘束しないことを前提とした治療選択の重要性が示された。

この研究は平成30年度老人保健事業推進費等補助金の報告書で提言を行った。

3）認知症高齢者の独り歩きによる行方不明の実態把握

認知症高齢者の行方不明は、統計が開始された2012年に9,607人、死亡者300人以上であることが明らかとなった。本研究は、厚生労働省は警察庁の協力を得て、2013年中に警察に認知症が原因で行方不明者届が出された10,322名から、生死が判明した776名（生存者388名、死亡者388名）の家族を対象にした郵送調査から得られたデータを用いて、認知症による行方不明者の生死に関連する要因を分析した。

欠損値の無い生存者88名、死亡者72名のデータを用いて、生死を目的変数としたロジスティック回帰分析を行ったところ、行方不明時に独居であり、日常的な行動の範囲内で発見されたこと、行方不明から発見までの時間が長いことが、発見時の死亡と有意に関係していた。

2040年には独居高齢者が全国で896万3千人、東京だけでも116万7千人に達すると推計されており、独居認知症高齢者の行方不明問題への取り組みが求められる。なお、来年度には全国の市区町村を対象とした、独居認知症高齢者の行方不明の課題に関する調査を実施予定である。

３．エンドオブライフの状態変化の状態把握

老衰や認知症、複合的疾患を持つ高齢者のエンドオブライフの心身の状態の把握は、臨床的な課題である。エンドオブライフの定義や苦痛のアセスメントなど、経験に頼ることが多いゆえに、多職種間や家族との状態の共有が困難で、ケア方針の決定時にも影響する。

そこで、エンドオブライフの状態変化を把握するためのデータ収集のために、要介護度３以上の高齢者を対象として、１か月ごとの前向き調査を実施中である。今年度10月に開始し、来年度９月に終了予定である。混合成長モデリングを用いて、利用者の属性別に軌跡パターンを解析する。

心理的状態としては、支援開始や受け入れ態度に関連すると考えられる老いの認識の経年変化について取り上げる。今年度は、ヘルシーエイジングと地域保健研究との連携で、草津町研究のデータの一部を用いて横断分析した。群馬県草津町の高齢者健診受診者を対象とし、2017年に実施された高齢者健診（ベースライン）を受診した男女545名とした。ベースライン時の平均暦年齢は75.1歳、平均主観年齢は70.1歳、暦年齢に対する主観年齢の平均割合は－6.7パーセントであった。従属変数に暦年齢に対する主観年齢の割合を投入し、性別、歩行速度、教育年数を調整した際の暦年齢5歳階級ごとの予測値は、高齢になるほど値が小さくなり、個人差が大きくなることが示された。現在投稿論文準備中である。

４．ケア実践者・市民への研究成果の普及還元

今年度もケア実践者と市民向けに、研究成果を還元する活動を行った。

【その根拠】

今年度の成果は、学会発表中心であるが、現在投稿中または準備中の論文があり、来年度の成果につながる見込みである。

２　他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜地域におけるアドバンスケアプランニングの普及啓発に関する研究＞

【センター内】自立促進と精神保健研究チーム

【センター外】国立長寿医療研究センター、地域医療振興協会、東京女子医科大学

＜BPSDの解決につなげる各種評価法と、BPSDの包括的予防・治療指針の開発＞

【センター外】社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター、群馬大学

＜高齢者の健康と生活に関する縦断的研究＞

【センター内】社会参加と地域保健研究チーム（大都市高齢者基盤研究）

＜医療・介護サービスの利用と決定における家族の役割＞

【センター外】石川県立看護大学、金沢大学、浜松医科大学、東京大学

＜認知症高齢患者の急性期病院から自宅退院関連要因に関する研究＞
【センター外】名古屋市立大学
＜独居の認知症高齢者への支援に関する研究＞
【センター内】自立促進と精神保健研究チーム
＜老いの認識の経年変化に関する研究＞
【センター内】社会参加と地域保健研究チーム

論文・学会発表

介護予防

1 学会発表

(1) 海外

1. Yuki Ohara, Maki Shirobe, Ayako Edahiro, Keiko Motokawa, Hirohiko Hirano, Hisashi Kawai, Hunkyung Kim, Kazushige Ihara, Yoshinori Fujiwara, Shuichi Obuchi, Yutaka Watanabe: Factors associated to poor oral health-related to quality of life among community-dwelling older Japanese, 2019 International Symposium on Dental Hygiene, Brisbane Australia, 2019.8.15-17.
2. Maki Shirobe, Yuki Ohara, Yutaka Watanabe, Keiko Motokawa, Ayako Edahiro, Hirohiko Hirano, Hisashi Kawai, Hunkyung Kim, Kazushige Ihara, Yoshinori Fujiwara, Shuichi Obuchi: Factors affecting discontinuation of regular dental visits in the elderly, 2019 International Symposium on Dental Hygiene, Brisbane Australia, 2019.8.15-17.
3. Takeaki Takeuchi, Kazuaki Hashimoto, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi, Hirohiko Hirano, Yoshinori Fujiwara, Hisashi Kawai, Motonaga Kojima, Masahiro Hashizume: Characteristics of eating behavior among people with typical and atypical depression, The 25th world congress of the international college of psychosomatic medicine, Florence, Italy, 2019.9.12.
4. Hisashi Kawai: Prevention of psychological frailty in Japan, Symposium 2: Strategies for healthy aging, 7th Asian Congress of Health Psychology, Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia, 2019.9.19-21.
5. Manami Ejiri, Hisashi Kawai, Yoshinori Fujiwara, Hirohiko Hirano, Atsushi Araki, Teruyuki Koyama, Masamitsu Sugie, Motonaga Kojima, Harumi Nakada, Takao Suzuki, Shuichi Obuchi: Social participation reduces depression among community-dwelling older adults with lower back pain: a cross-sectional study, , 7th Asian Congress of Health Psychology, Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia, 2019.9.19-21.
6. Kumiko Ito, Yasutake Tomata, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shu Zhang, Yumi Sugawara, Ichiro Tsuji: Time spent walking and disability-free survival in elderly Japanese: the Ohsaki Cohort 2006 Study, the 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania, Taipei, 2019.10.23-27.
7. Hisashi Kawai, Shuichi Obuchi, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Yoshiyuki Kobayashi, Masaaki Mochimaru, Eiki Tsushima, Kozo Nakamura: Association between frailty and daily living walking speed measured by smartphones with built-in GPS, the 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania, Taipei, 2019.10.23-27.
8. Masashi Yasunaga, Hisashi Kawai, Manami Ejiri, Takeshi Kera, Yutaka Watanabe, Yoshinori Fujiwara, Hirohiko Hirano, Motonaga Kojima, Harumi Nakada, Shuichi Obuchi: Effect of frequency of participating in the region activity on subjective well-being: A 3-year prospective study of urban Japanese older adults, the 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania, Taipei, 2019.10.23-27.
9. Kentaro Igarashi, Yutaka Watanabe, Yoshihiro Kugiyama, Hisashi Kawai, Keiko Motokawa, Masayasu Ito, Kazushige Ihara, Yoshinori Fujiwara, Shuichi Obuchi, Hirohiko Hirano, Yasuhiko Kawai: Prevalence of oral hypofunction in Japanese community-dwelling elderly in an urban area, the 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania, Taipei, 2019.10.23-27.
10. Narumi Kojima, Kyoko Saito, Yuko Yoshida, Hirohiko Hirano, Shuichi Obuchi, Hiroyuki Shimada, Takao Suzuki, Hajime Iwasa, Hunkyung Kim: Predictors of knee pain in older women living in urban areas, the 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania, Taipei, 2019.10.23-27.
11. Masashi Yasunaga, Hisashi Kawai, Manami Ejiri, Takeshi Kera, Yutaka Watanabe, Yoshinori Fujiwara, Hirohiko Hirano, Motonaga Kojima, Harumi Nakada, Shuichi Obuchi: Effect of frequency of participating in the region activity on functional decline: A 3-year prospective study of urban Japanese older adults, GSA 2019 Annual Scientific Meeting, Austin, USA, 2019.11.13-17.
12. Ryota Sakurai, Hisashi Kawai, Shuichi Yanai, Hunkyung Kim, Hirohiko Hirano, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi, Yoshinori Fujiwara: The effects of hearing loss and mobility decline on cognitive function of older adults. The Gerontological Society of America (GSA) 2019 Annual Scientific Meeting, Austin, USA. 2019.11.13-17.

(2) 国内

1. 河合 恒, 大渕修一, 渡邊 裕, 平野浩彦, 藤原佳典, 井原一成, 小林吉之, 持丸正明, 対馬栄輝, 中村耕三: スマートフォン内蔵GPSによって測定した日常生活歩行速度とフレイル関連指標との関係, 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019.6.6-8.
2. 解良武士, 河合 恒, 平野浩彦, 渡邊 裕, 小島基永, 藤原佳典, 井原一成, 大渕修一: SARC-Fはサルコペニアよりも身体機能の虚弱状態を反映する, 第61回日本老年医学会学術集会, 仙台, 2019.6.6-8.

3. 本川佳子，白部麻樹，枝広あや子，田中弥生，河合　恒，解良武士，大渕修一，平野浩彦，渡邊　裕:地域在住高齢者、通所事業所利用者、介護保険施設入所者の栄養指標の比較，第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8.
4. 藤原佳典，桜井良太，河合　恒，金　憲経，鈴木宏幸，小川　将，渡邊　裕，平野浩彦，井原一成，大渕修一：独居は認知機能低下のリスクとなるか？：ソーシャルネットワークの多寡に着目した検討，第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8.
5. 大渕修一，河合　恒，西田和正，解良武士，中田晴美：地域高齢者におけるフレイル予防プログラムへの不参加者の特性，第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8.
6. 小島成実，齋藤京子，吉田祐子，平野浩彦，大渕修一，島田裕之，鈴木隆雄，岩佐　一，金　憲経：都市部在住高齢女性における膝痛の予知因子，第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8.
7. 桜井良太，渡邊　裕，大須賀洋祐，谷口　優，河合　恒，金　憲経，北村明彦，稲垣宏樹，栗田主一，新開省二：アポリポ蛋白E4の保有と歩行速度低下の重積が高齢者の認知機能に与える影響，第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8.
8. 江尻愛美，河合　恒，藤原佳典，井原一成，渡邊　裕，平野浩彦，金　憲経，大渕修一：都市高齢者における孤立の発生に対する社会参加の予防効果－3年間の縦断研究－，第61回日本老年社会科学会大会，仙台，2019.6.7-8
9. 松原ちあき，白部麻樹，古屋純一，小原由紀，大渕修一，金　憲経，栗田主一，平野浩彦，水口俊介，渡邊　裕：地域在住高齢者における歯科保健指導による認知機能低下予防効果の検証，日本歯科衛生学会第14回学術大会，愛知，2019.9.14-16.
10. 大渕修一，河合　恒，村川謙治：固有歩行速度（ザ歩行速度）は存在するか？，第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
11. 解良武士，河合　恒，平野浩彦，小島基永，渡邊　裕，本川佳子，金　憲経，藤原佳典，井原一成，大渕修一：サルコペニア・フレイルのスクリーニングツールとしてのSARC-FとSARC-F-3の有用性，第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
12. 河合　恒，西田和正，解良武士，佐藤和之，中田晴美，大渕修一：コミュニティーアズパートナーモデルを活用した住民主体のフレイル予防プログラム「みんフレ」の1年後の効果，第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
13. 西田和正，河合　恒，伊藤久美子，大渕修一：介護予防自主グループへの参加に関連する要因の検討，第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
14. 江尻愛美，河合　恒，安永正史，白部麻樹，伊藤久美子，三木明子，植田拓也，大渕修一：住民主体の通いの場における参加形態と課題認識、心理社会的健康の関連，第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
15. 伊藤久美子，河合　恒，白部麻樹，江尻愛美，安永正史，三木明子，植田拓也，大渕修一：地域づくりによる介護予防の担い手として関わりたいと考える者の特性～壮年期から前期高年期を対象とした調査より～，第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
16. 白部麻樹，江尻愛美，伊藤久美子，河合　恒，井原一成，金　憲経，渡邊　裕，平野浩彦，藤原佳典，大渕修一：地域在住高齢者の運動習慣と身体機能および口腔機能に関する検討，第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
17. 高橋淳太，河合　恒，鈴木宏幸，藤原佳典，渡邊　裕，平野浩彦，金　憲経，井原一成，三木明子，大渕修一：タブレット型コンピュータを利用した認知機能検査による2年後のMCI発症の予測能について，第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
18. 大渕修一：介護予防論―治す医療からより良く生きる医療へ―，第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
19. 大熊健士，杉山大陸，太田貴之，中島仁美，大渕修一：バランス能力の比較から見た靴下の選択～生活指導の検討～，第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
20. 宇部優輝，山本大智，大渕修一：オーバーヘッドリーチと歩行自立度の相関について，第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
21. 卜部吉文，大渕修一，植田拓也，中村睦美：東京都介護予防推進支援センターにおける広域アドバイザーとしてA区の支援を行った活動報告【第二報】，第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
22. 河合　恒，大渕修一，平山　亮，渡邊　裕，平野浩彦，藤原佳典，井原一成，金　憲経，小林吉之，持丸正明，対馬栄輝，中村耕三：スマートフォン内蔵GPSによって測定した日常生活における歩行速度の日内変動，第14回日本応用老年学会大会，京都，2019.10.19-20.
23. 伊藤久美子，河合　恒，西田和正，大渕修一：地域住民の介護サービスへの参加は事業所職員の仕事量を軽減させるか，第14回日本応用老年学会大会，京都，2019.10.19-20.
24. 植田拓也，安永正史，江尻愛美，白部麻樹，伊藤久美子，高橋淳太，三木明子，河合　恒，大渕修一：東京都における住民主体の通いの場づくりの支援の報告：東京都介護予防推進支援センターの支援の有無による通いの場数の変化，第14回日本応用老年学会大会，京都，2019.10.19-20.
25. 解良武士，河合　恒，平野浩彦，小島基永，藤原佳典，渡邊　裕，本川佳子，井原一成，大須賀洋祐，金　憲経，小島成実，大渕修一：SARC-Fは地域高齢者のスクリーニングツールとしては十分ではない，第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
26. 江尻愛美，安永正史，白部麻樹，伊藤久美子，三木明子，植田拓也，河合　恒，大渕修一：住民主体の通いの場参加者が抱える課題は活動期間により異なるか―継続支援に向けて―，第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
27. 河合　恒，西村悦子，江尻愛美，安永正史，藤原佳典，大渕修一：知識工学を用いた住民主体の地域介護予防を支援するための知識の構造化，第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
28. 西田和正，河合　恒，佐藤和之，解良武士，中田晴美，大渕修一：CAPを用いた住民主体のフレイル予防プログラム修了後の自主活動への参加者特性，第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
29. 桜井良太，河合　恒，金　憲経，鈴木宏幸，小川　将，渡邊　裕，平野浩彦，井原一成，大渕修一，藤原佳典，孤食と抑うつの関連―居住形態とソーシャルネットワークの多寡に着目した検討―，第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.
30. 解良武士，河合　恒，平野浩彦，小島基永，藤原佳典，渡邊　裕，本川佳子，井原一成，金　憲経，大渕修一：サルコペニアは呼吸筋サルコペニアを誘発する，第28回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会，千葉，2019.11.9-10.
31. 橋本和明，竹内武昭，大渕修一，河合　恒，平野浩彦，藤原佳典，金　憲経，井原一成，渡邉　裕，端詰勝敬：高齢者の社会的孤立と中枢性感作の関連－基礎疾患を考慮して，第26回日本行動医学会学術総会，東京，2019.12.6-7.
32. 藤原佳典，鈴木宏幸，河合　恒，小川 将，桜井良太，平野浩彦，渡邊　裕，井原一成，大渕修一：フレイルは認知機能低下のリスクとなるか？：認知機能の領域別にみた検討，第30回日本疫学会学術総会，京都，2020.2.20-22.
33. 大渕修一、河合恒、江尻愛美、安永正史：虚弱高齢者に対する筋力トレーニングの実際，第10回日本腎臓リハビリテーション学会学術総会，東京，2020.2.22-23.

34. 大渕修一、河合恒、村川謙治：歩行は気温依存である。第９回 Movement Motion Action 研究会、山梨、2020.2.29.

２　誌上発表

(1) 原著

1. Ryota Sakurai, Hisashi Kawai, Hiroyuki Suzuki, Hunkyung Kim, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi, Yoshinori Fujiwara: Poor Social Network, Not Living Alone, Is Associated With Incidence of Adverse Health Outcomes in Older Adults, J Am Med Dir Assoc. 2019 Nov;20(11):1438-1443. doi: 10.1016/j.jamda.2019.02.021. Epub 2019 Apr 15.（査読あり）（IF:4.899、2018）
2. ◎Hisashi Kawai, Yu Taniguchi, Satoshi Seino, Ryota Sakurai, Yosuke Osuka, Shuichi Obuchi, Yutaka Watanabe, Hunkyung Kim, Hiroki Inagaki, Akihiko Kitamura, Shuichi Awata, Shoji Shinkai: Reference values of gait parameters measured with a plantar pressure platform in community-dwelling older Japanese adults, Clin Interv Aging. 2019 Jul 12;14:1265-1276. doi: 10.2147/CIA.S213216. eCollection 2019.（査読あり）（IF：2.585、2018）
3. ◎Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Motonaga Kojima, Yutaka Watanabe, Keiko Motokawa, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Hunkyung Kim, ★Shuichi Obuchi: SARC-F: A validation study with community-dwelling older Japanese adults, Geriatr Gerontol Int. 2019 Nov;19(11):1172-1178. doi: 10.1111/ggi.13768. Epub 2019 Sep 18.（査読あり）（IF:2.118、2018）
4. Ryota Sakurai, Yutaka Watanabe, Yosuke Osuka, Yu Taniguchi, Hisashi Kawai, Hunkyung Kim, Akihiko Kitamura, Hiroki Inagaki, Manuel Montero-Odasso, Shuichi Awata, Shoji Shinkai; Takashimadaira Study Group: Overlap between apolipoprotein E ε4 allele and slowing gait results in cognitive impairment, Front Aging Neurosci. 2019 Sep 13;11:247. doi: 10.3389/fnagi.2019.00247. eCollection 2019.（査読あり）（IF:3.633、2018）
5. Manami Ejiri, Hisashi Kawai, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, HunKyung Kim, Kaori Ishii, Koichiro Oka, ★Shuichi Obuchi: Social participation reduces isolation among Japanese older people in urban area: A 3-year longitudinal study, PLoS One. 2019 Sep 20;14(9):e0222887. doi: 10.1371/journal.pone.0222887.（査読あり）（IF:2.776、2018）
6. Kentaro Igarashi, Yutaka Watanabe, Hisashi Kawai, Keiko Motokawa, Kento Umeki, Masayasu Ito, Takeshi Kera, Motonaga Kojima, Kazushige Ihara, Yoshinori Fujiwara, Hunkyung Kim, Shuichi Obuchi, Hirohiko Hirano, Yasuhiko Kawai: Relation between knee extension torque and occlusal force in community-dwelling elderly adults, J Oral Sci. 2019 Nov 27;61(4):508-511. doi: 10.2334/josnusd.18-0381. Epub 2019 Oct 21.（査読あり）（IF:1.104、2018）
7. ◎Takeshi Kera, Hisashi Kawai, Hirohiko Hirano, Motonaga Kojima, Yutaka Watanabe, Keiko Motokawa, Yoshinori Fujiwara, Yosuke Osuka, Narumi Kojima, Hunkyung Kim, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi: Limitations of SARC-F in the diagnosis of sarcopenia in community-dwelling older adults, Arch Gerontol Geriatr, in press.（査読あり）（IF:2.611、2018）
8. Junta Takahashi, Hisashi Kawai, Hiroyuki Suzuki, Yoshinori Fujiwara, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Hunkyung Kim, Kazushige Ihara, Akiko Miki, ★Shuichi Obuchi: Development and validity of the Computer-Based Cognitive Assessment Tool for intervention in community-dwelling older adults, Geriatr Gerontol Int, 2020 Mar;20(3):171-175.（査読あり）（IF: 2.118、2018）
9. Yosuke Osuka, Hunkyung Kim, Hisashi Kawai, Yu Taniguchi, Yuri Yokoyama, Satoshi Seino, Shuichi Obuchi, Akihiko Kitamura, Shoji Shinkai: Sarcoscale: A novel approach for assessing sarcopenia and predicting functional disability in older adults, J Clin Med, in press.（査読あり）（IF: 5.688、2020）
10. 佐藤和之，万行里佳，河合　恒，大渕修一：退院後の高齢骨折受傷者における転倒恐怖感に影響する要因の検討，理学療法学，印刷中.（査読あり）

(2) 総説

1. ◎解良武士，河合　恒，大渕修一：SARC-F；サルコペニアのスクリーニングツール，日本老年医学会雑誌，56（3），227-233，2019.（総説、査読あり）

３　著書等

1. 土屋典子，大渕修一，長谷憲明：介護予防理解編．平成30年度改訂版　居宅介護支援専門員のためのケアマネジメント入門1 ケアプランのつくり方・サービス担当者会議の開き方・モニタリングの方法，144-160．瀬谷出版，2019．（著書、査読なし）
2. 大渕修一：介護予防＆リハビリ最前線　第85回　JST版活動能力指標．月刊介護保険，Vol278，16-17，2019（総説、査読なし）
3. 大渕修一：介護予防＆リハビリ最前線　第86回　あなたは趣味に打ち込めますか？．月刊介護保険，Vol279，16-17，2019（総説、査読なし）
4. 大渕修一：介護予防＆リハビリ最前線　第87回　ダイナミックストレッチ．月刊介護保険，Vol280，16-17，2019（総説、査読なし）
5. 大渕修一：介護予防＆リハビリ最前線　第88回　歩行のモニタリングを用いた地域づくりによる介護予防の評価．月刊介護保険，Vol281，16-17，2019（総説、査読なし）
6. 大渕修一：介護予防＆リハビリ最前線　第89回　二次予防型介護予防と通いの場型介護予防の違い．月刊介護保険，Vol282，16-17，2019（総説、査読なし）
7. 大渕修一：介護予防＆リハビリ最前線　第90回　通いの場に携わることを希望するリハビリ専門職の意識調査．月刊介護保険，Vol283，16-17，2019（総説、査読なし）
8. 大渕修一：介護予防＆リハビリ最前線　第91回　生活支援体制整備の次のステップ．月刊介護保険，Vol284，16-17，2019（総説、査読なし）
9. 大渕修一：介護予防＆リハビリ最前線　第92回　通いの場の充実のための調査項目．月刊介護保険，Vol285，16-17，2019（総説、査読なし）
10. 大渕修一：介護予防＆リハビリ最前線　第93回　昔の助け合いに戻るのか？．月刊介護保険，Vol286，16-17，2019（総説、査読なし）

11. 大渕修一: 介護予防＆リハビリ最前線　第94回　若者の閉じこもりとは異なる高齢者の閉じこもり. 月刊介護保険, Vol287, 16-17, 2020（総説、査読なし）
12. 大渕修一: 介護予防＆リハビリ最前線　第95回　医療の歴史とリハビリテーション　そして介護予防. 月刊介護保険, Vol288, 16-17, 2020（総説、査読なし）
13. 大渕修一: 介護予防＆リハビリ最前線　第96回　通いの場のPDCAサイクル. 月刊介護保険, Vol289, 16-17, 2020（総説、査読なし）
14. 大渕修一: サイエンス　化粧ケア　化粧療法の効果と科学的検証. リハビリナース, 13(2), 75-79, 2020（総説、査読なし）
15. 大渕修一: 第1部第7章高齢者と介護予防　第2節高齢者と介護予防. 「社会福祉学習双書」編集委員会編, 社会福祉学習双書2020 第14巻医学一般, 160-167. 社会福祉法人　全国社会福祉協議会, 2020（著書、査読なし）

医療・介護システム

1　学会発表

(1) 海外

1. Masui Y: Personality traits are influencing physical functions through attitude of healthy life style and physical leisure activities in older adults.(Submit Symposium: Multiple pathways of the personality and healthy aging relationship). The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, 2019.10.23-27.
2. Tsai J, Gondo Y, Yasumoto S, Matsumoto K, Masui Y, Inagaki H, Nihei M, Sugawara I, Ehara, N, Inoue T, Maclachlan M: Using assistive devices related residence type. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, 2019.10.23-27.
3. Nihei M, Sugawara I, Ehara, N, Gondo Y, Masui Y, Inagaki H, Inoue T, Maclachlan M, Macauliffe E: Formal and informal support among the community-dwelling oldest-old. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, 2019.10.23-27.
4. Ogawa M, Gondo Y, Yasumoto S, Onoguchi W, Masui Y, Kamide K, Ikebe K, Ishizaki T: Sleep Quality and environment pf bedroom in winter among community-dwelling older people in Japan. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, 2019.10.23-27.
5. Onoguchi W, Fukukawa Y, Masui Y, Inagaki H, Yoshida Y, Ogawa M, Kabayama M, Yasumoto S, Kamide K, Arai Y, Ikebe K: Spatial analyses of accessibility of destinations determining health of older Japanese adults living in urban and rural areas. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, 2019.10.23-27.
6. Fukutake, M., Hatta, K., Sato, H., Mihara, Y., Takeshita, H., Enoki, K., Matsuda, K., Gondo, Y., Kamide, K., Arai, Y., Ishizaki, T., Masui, Y., Maeda, Y., Ikebe, K.: Influence of occlusal force on decline in BMI among elders. The 97th General Session of the International Association for Dental Research, Vancouver, Canada, 2019.6.19-22.
7. Yoshida Y. Personality and multiple medications among older Japanese adults. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional, Taipei, Taiwan, 2019.10.22-27.
8. Ishizaki T, Yoshida Y, Onoguchi W, Masui Y, Arai Y, Godai K, Kiyoshige E, Kabayama M, Kamide K, Gondo Y, Ikebe K, Rakugi H. Predictive value of the number of drugs and the use of each drug type for poor physical performance during a 3-year period in older Japanese adults. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional, Taipei, Taiwan, 2019.10.22-27.
9. Matsumoto, K, Gondo Y, Yoshida Y, Masui Y, Isizaki T. Proposing standard references values of physical performance for 80yrs old. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional, Taipei, Taiwan, 2019.10.22-27.
10. Kojima N, Saito K, Yoshida Y, Hirano H, Obuchi S, Shimada H, Suzuki T, Iwasa H, Kim H. Predictors of knee pain in older women living in urban areas. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional, Taipei, Taiwan, 2019.10.22-27.
11. Tomoko Wakui, Suguru Okubo, Nanako Tamiya, Taeko Watanabe, Tatsuro Ishizaki, Ichiro Kai. (2019). Do the Presence of Adult Children and their Marital Status Matter for Access to the Public Long-term Care System? Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, Texas, USA. November. 13-17, 2019.
12. Ryo Hirayama, Tomoko Wakui. (2019). "What Counts Is Not My Own But Siblings' Circumstances": Adult Children's Perceived Responsibility for Parental Care in Japan. National Conference of Family Relations Annual Conference. Fort Worth, Texas, USA. Nov. 20-23, 2019.
13. Tomoko Wakui, Emily M Agree, Ichiro Kai. (2019). A New Feature of Japanese Caregiving? Compound Caregiving of Older Adults in an Aging Society with Fewer Children. Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, Texas, USA. November. 13-17, 2019.
14. Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Emily M Agree, Ichiro Kai. (2019). What Shapes Adult Sons' Incentive for Parent Care in Japan? Effects of Work and Family Circumstances. Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, Texas, USA. November. 13-17, 2019.

15. Ryo Hirayama, Tomoko Wakui. (2019). Nontraditional Views? How Siblings Matter for Perceived Parental Care Responsibility in Japan. Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, Texas, USA. November. 13-17, 2019.
16. Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Nanako Tamiya, Emily M Agree, Ichiro Kai. (2019). Supporting Caregivers to Support Family Members with Dementia -Diversification of family care arrangements and new approach to support. The 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, Taiwan. October. 23- 27, 2019.
17. Ichiro Kai, Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Emily M Agree. (2019). Delineating Daily Caregiving as Experienced: Analysis of Daily Data from Family Caregivers in Japan. The 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, Taiwan. October. 23- 27, 2019.
18. Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Emily M Agree, Ichiro Kai. (2019). Japan's Experiences in Integrating Technology and Long-term Care -Practical Challenges of Collecting Daily-data Using Tablets among Family Caregivers of Community-dwelling Older Adults with Long-term Care Needs. 18th STS Conference 2019, Graz, Austria. May. 6-7, 2019.
19. Seigo Mitsutake, Tatsuro Ishizaki, Rumiko Tsuchiya-Ito, Kazuaki Uda, Hiroaki Ueshima, Tomoyuki Matsuda, Hiroshige Jinnouchi, Satoru Yoshie, Katsuya Iijima, Nanako Tamiya. Associations of rehabilitation of long term care with care-need level deterioration at twelve months after discharge in Japan. 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, Oct 23-27 2019.【Outstanding Poster Presentation Award】
20. Yu Taniguchi, Akihiko Kitamura, Tatsuro Ishizaki, Yoshinori Fujiwara, Satoshi Seino, Seigo Mitsutake, Hiroyuki Suzuki, Yuri Yokoyama, Takumi Abe, Tomoko Ikeuchi, Shoji Shinkai. Association of Trajectories of Cognitive Function with Mortality and Health Care Costs. 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, Oct 23-27 2019.
21. Kiso M, Matsuda Y, Esaka S, Hamashima Y,Shirahata H, Kakizaki M, Ishizaki T, Arai T. Scoring System for Cytological Diagnosis of Pancreatic Cancer Using EUS-FNA Samples. American Pancreatic Association 2019 Annual Conference. Maui, HI, USA. 2019.11.6-11.9.
22. Sugihara T, Ishizaki T, Baba H, Matsumoto T, Iga S, Kusuda T, Tsuchida M, Kamiya M, Komiya Y, Hirano F, Hosoya T, Miyasaka N, Harigai M. Three years outcomes of elderly-onset rheumatoid arthritis who were treated with a therapeutic strategy targeting low disease activity, and impact of adverse events on physical function -prospective cohort (CRANE). 2019 American College of Reumatology Annual Meeting. Atlanta, GA. 2019.11.8-11.13.

(2) 国内

1. 増井幸恵, 山崎幸子, 吉中康子：地域在住高齢者を対象とした集団マインドフルネストレーニングによる精神的健康および老年的超越向上効果の検討. 日本心理学会第83回大会, 茨木市, 2019.9.11-13.
2. 増井幸恵：高齢期におけるパーソナリティと機能状態：前期高齢期と後期高齢期の相違について－SONIC研究データを用いた検討（日本心理学会公募シンポジウム：生涯発達とパーソナリティ：成人期以降の諸課題への適応にパーソナリティはどう関わるか). 日本心理学会第83回大会, 茨木市, 2019.9.11-13.
3. 武藤拓之, 権藤恭之, 稲垣宏樹, 増井幸恵, 小川まどか, 沼田恵太郎, 小野口航, 石岡良子, 安元佐織, 蔡羽淳, 松本清明：地域在住超高齢者における同居家族と空間的視点取得能力の関連 SONIC 研究. 日本心理学会第 83 回大会, 茨木市, 2019.9.11-13.
4. 廣川空美, 春日彩花, 権藤恭之, 大森慈子, 増井幸恵, 中川 威, 小川まどか, 石岡良子, 稲垣宏樹:高齢者の認知機能と唾液中テストステロン濃度の関連. 日本心理学会第 83 回大会, 茨木市, 2019.9.11-13.
5. 吉田祐子, 増井幸恵, 稲垣宏樹, 小川まどか, 小野口航, 樺山 舞, 神出 計, 池邉一典, 新井康通, 権藤恭之, 石崎達郎：地域高齢者における多剤服用の状況とその関連要因の検討. 日本老年社会科学会第 61 回大会, 仙台市, 2019.6.7-8.
6. 増井幸恵：超高齢者, 百寿者の心理的 well-being の関連要因と老年的超越, 日本老年社会科学会第 61 回大会 自主企画フォーラム③高齢者理解のためのパーソナリティ研究の展望. 仙台市, 2019.6.7-8.
7. 増井幸恵：高齢者におけるパーソナリティが身体機能へ影響する経路の検討－SONIC 研究データを用いた検討ー. 日本老年社会科学会大会企画シンポジウムー百寿者研究ー, 仙台市, 2019.6.7-8.
8. 蔡羽淳, 権藤恭之, 安元佐織, 松本清明, 増井幸恵, 稲垣宏樹, 二瓶美里, 菅原育子, 江原望, 井上剛伸：支援機器の使用と主観的幸福感の関係. 日本老年社会科学学会第 61 回大会, 仙台, 2019.6.7-8.
9. 石岡良子, 高山緑, 菅原育子, 増井幸恵, 小川まどか, 菅沼真樹:後期高齢者の認知機能の経時的変化の個人間差 K2 study における 3 時点データを用いて. 日本老年社会科学学会第 61 回大会, 仙台, 2019.6.7-8.
10. 高山緑, 石岡良子, 菅原育子, 孫怡, 増井幸恵, 小川まどか, 菅沼真樹：後期高齢者の幸福感と地域への愛着、および物理的・社会的環境の関連性 The Keio-Kawasaki Aging Study(K2 study)を用いて. 日本老年社会科学学会第 61 回大会, 仙台, 2019.6.7-8.

11. 二瓶美里，菅原育子，江原望，権藤恭之，増井幸恵，稲垣宏樹，井上剛伸，MacLachlan Malcolm，McAuliffe Eilish：地域在住の超高齢者の暮らしと支援　柏市における長寿者の支援機器の利活用の実態．日本老年社会科学学会第 61 回大会，仙台，2019.6.7-8.
12. 菅原育子，二瓶美里，江原望，権藤恭之，増井幸恵，稲垣宏樹，井上剛伸，MacLachlan Malcolm，McAuliffe Eilish：地域在住の超高齢者の暮らしと支援　生活支援サービス利用およびソーシャルサポートの実態．日本老年社会科学学会第 61 回大会，仙台，2019.6.7-8.
13. 山崎幸子，増井幸恵，吉中康子：地域高齢者に対するマインドフルネストレーニングの効果．日本老年社会科学学会第 61 回大会，仙台，2019.6.7-8.
14. 石崎達郎，吉田祐子，小野口航，増井幸恵，呉代華容，樺山　舞，神出　計，新井康通，池邊一典，権藤恭之：地域在住高齢者における処方パターンの分析：SONIC 研究．第 61 回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019.6.6-8.
15. 綱井仁美，赤木優也，樺山舞，杉本研，増井幸恵，新井康通，権藤恭之，石﨑達郎，樂木宏実，神出計:地域在住高齢者における APOE 遺伝子型と認知機能に関する研究．第 31 回日本老年学会総会/第 61 回日本老年医学会学術集会,仙台,2019.6.6-8.
16. 清重映里，樺山舞，増井幸恵，権藤恭之，杉本研，池邉一典，新井康通，石﨑達郎，樂木宏実，神出計:地域在住高齢者における IADL 経時変化の類型化とその特徴（SONIC 研究）． 第 31 回日本老年学会総会/第 61 回日本老年医学会学術集会,仙台,2019.6.6-8.
17. 小島成実，齋藤京子，吉田祐子，平野浩彦，大渕修一，島田裕之，鈴木隆雄，岩佐一，金憲経．都市部在住の高齢女性における膝痛の予知因子．第 61 回日本老年医学会，仙台，2019.6-8.
18. 大須賀洋祐，小島成実，吉田祐子，平野浩彦，鈴木隆雄，金憲経．後期高齢者における食品と運動の多様性とフレイルの発生 2 年間のコホート研究，第 61 回日本老年医学会，仙台，2019.6-8.
19. 岩佐一，吉田祐子．子育て期の女性におけるパーソナリティと認知的失敗の関連.日本心理学会第 83 回大会．大阪，2019.9.11-13.
20. 吉田祐子，西田裕紀子，高橋雄介，岩佐一，増井幸恵，小塩真司.「高齢者における多剤服用と性格特性」．生涯発達とパーソナリティ：成人期以降の諸課題への適応にパーソナリティはどう関わるか．日本心理学会第 83 回大会．大阪、2019.9.11-13.
21. 涌井智子．(2019)．家族介護のトレンド解析による家族の介護力の検討．第 29 回日本家族社会学会大会，神戸学院大学，神戸．2019 年 9 月 14－15 日.
22. 涌井智子，平山亮，甲斐一郎．(2019)．在宅介護の見える化が明らかにする介護の日周変動と家族介護者の対処行動．第 61 回日本老年社会科学会大会，東北福祉大学仙台駅東口キャンパス，仙台．2019 年 6 月 7-8 日.
23. 横山友里，清野諭，光武誠吾，西真理子，村山洋史，成田美紀，石崎達郎，野藤悠，北村明彦，新開省二．フレイル改善のための複合プログラムが要介護・死亡リスクと介護給付費に及ぼす影響．第 78 回日本公衆衛生学会総会，高知、2019 年 10 月 23 日-25 日
24. 吉江悟，二宮英樹，北村智美，宮城禎弥，浜田将太，森隆浩，金雪瑩，岩上将夫，安富元彦，松本佳子，川越雅弘，福井小紀子，石崎達郎，田宮菜奈子，飯島勝矢．介護保険利用後期高齢者のAmbulatory Care-Sensitive Conditionsと療養場所との関連．第78回日本公衆衛生学会総会．高知、2019.10.23-10.25.
25. 飯島勝矢，吉江悟，二宮英樹，佐々木健佑，宮城禎弥，浜田将太，森隆浩，金雪瑩，岩上将夫，安富元彦，松本佳子，川越雅弘，福井小紀子，石崎達郎，田宮菜奈子．介護保険利用後期高齢者のAmbulatory Care-Sensitive Conditionsと療養場所との関連．第78回日本公衆衛生学会総会．高知、2019.10.23-10.25.
26. 金澤 伸郎，黒岩 厚二郎，石崎 達郎，荒木 厚，井藤 英喜，　許 俊鋭：フレイルと手術適応 -術前評価としてのフレイルの有用性に関する検討-　日本麻酔科学会第66回学術集会、2019.5.30-6.1、神戸。
27. 村山 洋史，小林 江里香，深谷 太郎，岡本 翔平，石崎 達郎，Liang Jersey，新開 省二：全国代表サンプルを用いた日本人高齢者のFrailtyの分布推計と健康アウトカムとの関連.第61回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019.6.6-8.
28. 小林 江里香，村山 洋史，深谷 太郎，岡本 翔平，石崎 達郎，Liang Jersey，新開 省二：全国高齢者代表サンプルにおけるFrailtyの5年間の変化と社会・心理的要因.　：第61回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019.6.6-8.
29. 島崎 良知，石川 譲治，瀧川 美和，森 淑子，岩切 理歌，石崎 達郎，荒木 厚，井藤 英喜：高齢者の薬物療法に関するアンケート調査.　：第61回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019.6.6-8.

30. シートゥムンク・ウィアラユ，樺山 舞，赤木 優也，樋口 温子，清重 映里，杉本 研，石崎 達郎，権藤 恭之，樂木 宏実，神出 計：地域在住高齢者における脳卒中既往と認知機能低下の関連の関連性　SONIC研究.　第61回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019.6.6-8.
31. 赤木 優也，樺山 舞，赤坂 憲，山本 浩一，杉本 研，池邉 一典，権藤 恭之，石崎 達郎，樂木 宏実，神出 計：地域在住高齢者における飲酒と認知機能の関連　SONIC研究.　第61回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019.6.6-8.
32. ノンラック・クリンプタン，樺山 舞，赤木 優也，和田 直子，清重 映里，杉本 研，石崎 達郎，権藤 恭之，樂木 宏実，神出 計：地域在住高齢者における心疾患と身体的フレイルの関連性の検討　SONIC研究.　第61回日本老年医学会学術集会，仙台市，2019.6.6-8.
33. 石崎 達郎：後期高齢者のデータヘルス　レセプト分析等から見た高齢者の健康課題と健診.　第30回日本医学会総会学術集会、名古屋、2019.4.27-4.29.
34. 石崎 達郎：老年社会科学における研究倫理セミナー　ハゲタカ出版社の餌食にならないために.　日本老年社会科学会第61回大会，仙台市，2019.6.7-8.
35. 光武誠吾，石崎達郎，土屋瑠見子，吉江悟，飯島勝矢，田宮菜奈子．外来維持期リハビリテーション患者の介護保険リハビリテーションへの移行可能性について．第 7 回 慢性リハビリテーション学会．岡山 2020 年 2 月 27 日-28 日
36. 陣内裕成，田宮菜奈子，光武誠吾，土屋瑠見子，伊藤智子，金雪瑩，山岸良匡，石崎達郎，吉江悟，飯島勝矢．高齢者の施設入所利用に影響する生活機能と行動心理症状：介護保険サービス利用者のコホート内症例対照研究．第 30 回日本疫学会学術総会．京都 2020 年 2 月 20 日-22 日
37. 石崎 達郎：高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について．四国公衆衛生学会第61回大会，徳島，2020.2.13-2.14.

2　誌上発表

(1) 原著

1. Teramoto C, ★Ishizaki T, Mitsutake S, Shimizu S, Fukuda H, Ito H. Impact of a national medical fee schedule revision on the cessation of physician home visits among older patients in Tokyo: a retrospective study. Health Soc Care Community 2019; 27 (4): 899-906. （査読あり）(IF：1.57, 2018)
2. ◎★増井幸恵，権藤恭之，中川　威，小川まどか，石岡良子，稲垣宏樹，蔡羽　淳，安元佐織，栗延孟，小野口航，髙山緑，新井康通，池邉一典，神出計，石崎達郎：地域高齢者の精神的健康の縦断変化に及ぼす老年的超越の影響の検討：疾患罹患・死別イベントに対する緩衝効果に注目して．老年社会科学，41(3):247-258，2019.（査読あり）
3. Kiyoshige E, Kabayama M, Gondo Y, Masui Y, Inagaki H, Ogawa M, Nakagawa T, Yasumoto S, Akasaka H, Sugimoto K, Ikebe K, Arai Y, Ishizaki T, Rakugi H, Kamide K.:Age group differences in association between IADL decline and depressive symptoms in community-dwelling elderly.BMC Geriatr. 19:309, 2019. （査読あり）(IF：2.82, 2018)
4. Sala G, Jopp D, Gobet F, Ogawa M, Ishioka Y, Masui Y, Inagaki H, Nakagawa T, Yasumoto S, Ishizaki T, Arai Y, Ikebe K, Kamide K, Gondo Y.:The impact of leisure activities on older adults' cognitive function, physical function, and mental health.PLoS One. 14(11),2019. （査読あり）(IF：2.78, 2018)
5. Hatta K, Gondo Y, Kamide K, Masui Y, Inagaki H, Nakagawa T, Matsuda KI, Inomata C, Takeshita H, Mihara Y, Fukutake M, Kitamura M, Murakami S, Kabayama M, Ishizaki T, Arai Y, Sugimoto K, Rakugi H, Maeda Y, Ikebe K.:Occlusal force predicted cognitive decline among 70- and 80-year-old Japanese: A 3-year prospective cohort study.J Prosthodont Res. S1883-1958(18)30258-5, 2019. （査読あり）(IF：2.64, 2018)
6. Maeda, S., Takeya, Y., Oguro, R., Akasaka, H., Ryuno, H., Kabayama, M., Yokoyama, S., Nagasawa, M., Fujimoto, T., Takeda, M., Takeya, M., Itoh, N., Takami, Y.,Yamamoto, K., Sugimoto, K., Inagaki, H., Ogawa, M., Nakagawa, T., Yasumoto, S., Masui, Y., Arai, Y., Ishizaki, T.,Ikebe, K., Gondo, Y., Kamide, K., Rakugi, H.: Serum albumin/globulin ratio is associated with cognitive function in community-dwelling elderly people: The SONIC study. Geriatrics Gerontology International,19(10), 967-971,2019. （査読あり）(IF：2.12, 2018)
7. Hatta, K., Ikebe, K., Mihara, Y., Gondo, Y., Kamide, K., Masui, Y., Sugimoto, K., Matsuda, K., Fukutake, M., Kabayama, M., Shintani, A., Ishizaki, T., Arai, Y., Rakugi, H., Maeda, Y.: Lack of posterior occlusal support

predicts the reduction in walking speed in 80-year-old Japanese adults: A 3-year prospective cohort study with propensity score analysis by the SONIC Study Group. Gerodontology, 36(2):156-162, 2019. （査読あり）(IF：1.46, 2018)

8. Fukutake, M., Ikebe, K., Okubo, H., Matsuda, KI., Enoki, K., Inomata, C., Takeshita, H., Mihara, Y., Hatta, K., Gondo, Y., Kamide, K., Masui, Y., Ishizaki, T., Arai, Y., Maeda, Y.: Relationship between oral stereognostic ability and dietary intake in older Japanese adults with complete dentures. Journal of Prosthodontic Research, 63(1):105-109, 2019. （査読あり）(IF：2.64, 2018)
9. Fukutake, M., Ogawa, T., Ikebe, K., Mihara, Y., Inomata, C., Takeshita, H., Matsuda, K., Hatta, K., Gondo, Y., Masui, Y., Inagaki, H., Arai, Y., Kamide, K., Ishizaki, T., Maeda, Y.: Impact of cognitive function on oral perception in independently living older people. Clinical Oral Investigations, 23(1):267-271, 2019. （査読あり）(IF：2.45, 2018)
10. Kiyoshige, E., Kabayama, M., Gondo, Y., Masui, Y., Ryuno, H., Sawayama, Y., Inoue, T., Akagi, Y., Sekiguchi, T., Tanaka, K., Nakagawa, T., Yasumoto, S., Ogawa, M., Inagaki, H., Oguro, R., Sugimoto, K., Akasaka, H., Yamamoto, K., Takeya, Y., Takami, Y., Itoh, N., Takeda, M., Nagasawa, M., Yokoyama, S., Maeda, S., Ikebe, K., Arai, Y., Ishizaki, T., Rakugi, H., Kamide, K.:Association between long-term care and chronic and lifestyle-related disease modified by social profiles in community-dwelling people aged 80 and 90: SONIC study. Archives of Gerontology and Geriatrics, 81:176-181,2019. （査読あり）(IF：2.61, 2018)
11. Okubo, H., Murakami, K., Inagaki, H., Gondo, Y., Ikebe, K., Kamide, K., Masui, Y., Arai, Y., Ishizaki, T., Sasaki, S., Nakagawa, T., Kabayama, M., Sugimoto, K., Rakugi, H., Maeda, Y.,SONIC Study Group., Ogawa, M., Ishioka, YL., Inomata, C., Ogawa, T., Matsuda, KI., Ryuno, H., Oguro, R., Yamamoto, K., Takeya, Y., Takami, Y., Ito, N.: Hardness of the habitual diet and its relationship with cognitive function among 70-year-old Japanese elderly: findings from the SONIC study. Journal of Oral Rehabilitation, 46(2):151-160,2019. （査読あり）(IF：2.34, 2018)
12. Osuka Y, Kojima N, Yoshida Y, Kim M, Won CW, Suzuki T, Kim H. Exercise and/or Dietary Varieties and Incidence of Frailty in Community-Dwelling Older Women: A 2-Year Cohort Study. J Nutr Health Aging. 2019;23(5):425-430. （査読あり）(IF：2.66, 2018)
13. Nonaka K, Fujiwara Y, Watanabe S, Ishizaki T, Iwasa H, Amano H, Yoshida Y, Kobayashi E, Sakurai R, Suzuki H, Kumagai S, Shinkai S, Suzuki T. Is unwilling volunteering protective for functional decline? The interactive effects of volunteer willingness and engagement on health in a 3-year longitudinal study of Japanese older adults. Geriatr Gerontol Int. 2019 Jul;19(7):673-678. （査読あり）(IF：2.28, 2018)
14. 岩佐一，吉田祐子，鈴鴨よしみ．地域高齢者における「食事関連 QOL 尺度」とその短縮版の計量心理学的特性．日本公衆衛生雑誌．66 巻 3 号 p. 151-160. 2019.（査読あり）
15. 岩佐一，吉田祐子，石岡良子，鈴鴨よしみ．地域高齢者における「現代高齢者版余暇活動尺度」の開発：認知機能との関連の検討．日本公衆衛生雑誌 66 巻 10 号 p. 617-628. 2019.（査読あり）
16. Taniguchi Y, Kitamura A, Ishizaki T, Fujiwara Y, Seino S, Mitsutake S, Suzuki H, Yokoyama Y, Abe T, Ikeuchi T, Shinkai S. Association of Trajectories of Cognitive Function with Mortality and Health Care Costs, Geriatrics and Gerontology International 2019 (in press). （査読あり）(IF：2.12, 2018)
17. Hamada S, Takahashi H, Sakata N, Jeon B, Mori T, Iijima K, Yoshie S, Ishizaki T, Tamiya N. Household income relationship with health services utilization and healthcare expenditures in people aged 75 years or older in Japan: A population-based study using medical and long-term care insurance claims data. Journal of Epidemiology. 2019; 29(10): 377-383. （査読あり）IF=3.078 (2018)
18. Kuroda N, Hamada S, Sakata N, Jeon BY, Iijima K, Yoshie S, Ishizaki T, Tamiya N. Antipsychotics use and related factors among people with dementia aged 75 years or older in Japan: a comprehensive population-based estimation based on medical and long-term care data. International Journal of Geriatric Psychiatry 2019 Mar;34(3):472-479. （査読あり）IF=3.141 (2018)

19. Maeda E, Fukuda H, ★Ishizaki T. A comparative analysis of treatment costs for home-based care and hospital-based care in enteral nutrition patients: a retrospective analysis of claims data. Health Policy 2019 Apr;123(4):367-372. （査読あり）IF=2.075 (2018)
20. Mori T, Hamada S, Yoshie S, Jeon B, Jin X, Takahashi H, Iijima K, Ishizaki T, Tamiya N. The Associations of Multimorbidity with the Sum of Annual Medical and Long-Term Care Expenditures in Japan. BMC Geriatrics. 2019; 19(1): 69. （査読あり）IF=2.818 (2018)
21. Adomi M, Iwagami M, Kawahara T, Hamada S, Iijima K, Yoshie S, Ishizaki T, Tamiya N. Factors associated with long-term urinary catheterisation and its impact on urinary tract infection among older people in the community: a population-based observational study in a city in Japan. BMJ Open. 2019 Jun 19;9(6):e028371. （査読あり）IF=2.376 (2018)
22. ◎★Ishizaki T, Kobayashi E, Fukaya T, Takahashi Y, Shinkai S, Liang J. Association of physical performance and self-rated health with multimorbidity among older adults: Results from a nationwide survey in Japan. Archives of Gerontology and Geriatrics 2019; 84: 103904. （査読あり）: IF=2.611 (2018)
23. 岩佐一，石井佳世子，吉田祐子，安村誠司．子育て期の女性における認知的失敗尺度日本語版の開発．日本公衆衛生雑誌 67 巻 1 号 p. 42-50. 2020.（査読あり）
24. ◎Mitsutake S, ★Ishizaki T, Tsuchiya-Ito R, Teramoto C, Shimizu S, Yamaoka T, Kitamura A, Ito H. Association of pharmacological treatments for hypertension, diabetes, and dyslipidemia with health checkup participation and identification of disease control factors among older adults in Tokyo, Japan. Preventive Medicine Reports 2019; 23: 17: 101033. （査読あり）(IF：なし, 2018)
25. ◎Mitsutake S, ★Ishizaki T, Tsuchiya-Ito R, Uda K, Teramoto C, Shimizu S, Ito H. Associations of hospital discharge services with potentially avoidable readmissions within 30 days among older adults after rehabilitation in acute care hospitals in Tokyo, Japan. Archives of Physical Medicine and Rehabilitation. 2020; 101: 5: 832-840. （査読あり）(IF：2.70, 2018)
26. ◎★Ishizaki T, Mitsutake S, Hamada S, Teramoto C, Shimizu S, Akishita M, Ito H. Drug prescription patterns and factors associated with polypharmacy in >1 million older adults in Tokyo. Geriatrics and Gerontology International. 2020; 20(4): 304-311. （査読あり）(IF：2.12, 2018)
27. Mori H, ★Ishizaki T, Takahashi R. Association of long-term care needs, approaching death and age with medical and long-term care expenditures in the last year of life: An analysis of insurance claims data. Geriatrics and Gerontology International. 2020; 20(4): 277-284. （査読あり）(IF：2.12, 2018)
28. Srithumsuk W, Kabayama M, Gondo Y, Masui Y, Akagi Y, Klinpudtan N, Kiyoshige E, Godai K, Sugimoto K, Akasaka H, Takami Y, Takeya Y, Yamamoto K, Ikebe K, Ogawa M, Inagaki H, Ishizaki T, Arai Y, Rakugi H, Kamide K. The importance of stroke as a risk factor of cognitive decline in community dwelling older and oldest peoples: the SONIC study. BMC Geriatr. 2020 Jan 22;20(1):24. （査読あり）(IF：2.82, 2018)
29. Godai K, Kabayama M, Gondo Y, Yasumoto S, Sekiguchi T, Noma T, Tanaka K, Kiyoshige E, Akagi Y, Sugimoto K, Akasaka H, Takami Y, Takeya Y, Yamamoto K, Arai Y, Masui Y, Ishizaki T, Ikebe K, Satoh M, Asayama K, Ohkubo T, Rakugi H, Kamide K; SONIC study group. Day-to-day blood pressure variability is associated with lower cognitive performance among the Japanese community-dwelling oldest-old population: the SONIC study. Hypertens Res. 2019 （査読あり）(IF：3.22, 2018)
30. Mihara Y, Matsuda KI, Takahashi T, Hatta K, Fukutake M, Sato H, Gondo Y, Masui Y, Kamide K, Sugimoto K, Kabayama M, Ishizaki T, Arai Y, Maeda Y, Ikebe K. Occlusal support predicts tooth loss in older Japanese people. Community Dent Oral Epidemiol. 2020 Apr;48(2):163-170. （査読あり）(IF：2.28, 2018)
31. Kiyoshige E, Kabayama M, Gondo Y, Masui Y, Inagaki H, Ogawa M, Nakagawa T, Yasumoto S, Akasaka H, Sugimoto K, Ikebe K, Arai Y, Ishizaki T, Rakugi H, Kamide K. Age group differences in association between IADL decline and depressive symptoms in community-dwelling elderly. BMC Geriatr. 2019 Nov 13;19(1):309. （査読あり）(IF：2.82, 2018)

32. Aida J, Yokoyama A, Hara S, Ishizaki T, Fujiwara M, Arai T, Ishiwata T, Takubo K. Telomere shortening in the oral epithelium in relation to alcohol intake, alcohol dehydrogenase (ADH-1B), and acetaldehyde dehydrogenase (ALDH-2) genotypes and clinicopathologic features. J Oral Pathol Med. 2020 Jan;49(1):82-90. （査読あり）(IF：2.03, 2018)
33. ◎★Mitsutake S, Shibata A, Ishii K, Amagasa S, Kikuchi H, Fukushima N, Inoue S, Oka K. Clustering of Domain-Specific Sedentary Behaviors and Their Association with Physical Function among Community-Dwelling Older Adults. Journal of Physical Activity and Health. (in press). （査読あり）(IF：2.08, 2018)
34. ◎★Mitsutake S, Shibata A, Ishii K, Miyawaki R, Oka K. Associations of eHealth Literacy with Obtaining Knowledge about Colorectal Cancer among Internet Users Accessing a Reputable Cancer Website: Internet-Based Survey Study. International Journal of Enviromental Research and Public Health 2020, 17(9): 3302 （査読あり）(IF: 2.47, 2018)

(2) 総説

1. Tomoko Wakui, Sheng-Tak Cheng. (2019). Well-Being and Filial Piety. In Encyclopedia of Quality of Life and Well-being Research, 2nd Edition. Edited by Filomena Maggino, Springer, (in press).
2. Ikeuchi T, Wakui T, Boe JB, Husebo B & Shinkai S. (2019). In Eldreboken. Edited by Bettina S. Husebo., What can we learn from Japan? Technological solutions in the field of elderly care. In A textbook in elderly care and nursing home medicine. Fagbokforlaget akademisk.

3 著書等

1. 増井幸恵：老年的超越と高齢期のメンタルヘルス， 精神医学,61（1）,65-72, 2019.
2. 増井幸恵：多様な老いと死を考える：百寿者から学ぶ.看護のチカラ, 24(523):52-53,2019.
3. 増井幸恵：平成30年度高齢期の幸福度に関する調査報告書, 亀岡市, 1-59, 2018.
4. 石崎達郎：レセプトデータ研究における慢性疾患把握方法に関する考察. 平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金　政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)医療費適正化に向けた生活保護受給者の医薬品処方および生活習慣病の実態調査：大規模レセプト分析.平成30年度研究分担報告書、2019年5月.
5. 石崎達郎：厚生労働省保険局高齢者医療課編（分担）. 高齢者の特性を踏まえた保健事業ガイドライン. 第2版、厚生労働省、2019

介護・エンドオブライフ

1 学会発表

(1) 海外

1. Chiho Shimada, Mio Ito, Hiroko Kodama：How can we practice individualized care in end-of-life of people with dementia? (Symposium；A Sustainable Approach to Well-being Centered Care - Integrating Family, Technology and Best Practice) . 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, 2019.10.23-27
2. Mio Ito, Chiho Shimada, Ryo Hirayama, Yuko Harasawa：Use of physical restraints for the patients with dementia in acute hospitals in Japan. 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, 2019.10.23-27
3. Yuko Harasawa, Chiho Shimada, Ryo Hirayama, Mio Ito：Where do patients with dementia live after hospitalization in Japan? 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, 2019.10.23-27
4. Wakui Tomoko, Ryo Hirayama, Emily M. Agree, and Ichiro Kai, Japan’s experiences in integrating technology and long-term care: Practical challenges of collecting daily-data using tablets among family caregivers of community-dwelling older adults with long-term care needs, 18th Annual STS Conference Graz 2019, Graz, Austria, 2019.05.06-07.

5. Harasawa, Yuko, Chiho Shimada, Ryo Hirayama, and Mio Ito, Where do patients with dementia live after hospitalization in Japan?, 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei International Convention Center, 2019.10.23-27
6. Kai, Ichiro, Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, and Emily M. Agree, Delineating daily caregiving as experienced: Analysis of daily data from family caregivers in Japan, 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei International Convention Center, 2019.10.23-27
7. Mio Ito, Chiho Shimada, Ryo Hirayama, and Yuko Harasawa, Use of physical restraints for the patients with dementia in acute hospitals in Japan, 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei International Convention Center, 2019.10.23-27
8. Wakui, Tomoko, Ryo Hirayama, Nanako Tamiya, Emily M. Agree, and Ichiro Kai, Supporting caregivers to support family members with dementia: Diversification of family care arrangement and new approach to support, 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei International Convention Center, 2019.10.23-27
9. Hirayama, Ryo, and Tomoko Wakui, Nontraditional view? How siblings matter for perceived parental care responsibility in Japan, GSA 2019 Annual Scientific Meeting, Austin, TX, USA, 2019.11.13-17
10. Wakui, Tomoko, and Ryo Hirayama, What shapes adult sons' incentive for parent care in Japan? Effects of work and family circumstances, GSA 2019 Annual Scientific Meeting, Austin, TX, USA, 2019.11.13-17
11. Hirayama, Ryo, and Tomoko Wakui, "What counts is not my own but siblings' circumstances": Adult children's perceived responsibility for parental care in Japan, 2019 NCFR Annual Conference, Fort Worth, TX, USA, 2019.11.20-23
12. Ikeuchi T, Seino S, Taniguchi Y, Narita M, Abe T, Amano H, Kitamura A, Shinkai S. Influencing factors of subjective age: Findings from the Kusatsu Longitudinal Study on Aging and Health. The 71st Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America (GSA), Austin, USA. Poster. November 13-17, 2019.
13. Ikeuchi T, Seino S, Taniguchi Y, Narita M, Abe T, Amano H, Yokoyama Y, Kitamura A, Shinkai S. Feeling younger at older age: Findings from the Kusatsu longitudinal Study on Aging and Health. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress (IAGG), Taipei, Taiwan. Oral. October 23-27, 2019.
14. Shinkai S, Seino S, Taniguchi Y, Amano H, Yokoyama Y, Narita M, Ikeuchi T, Kitamura A and Ito H. Blood hemoglobin A1c levels and the risk of total mortality in community-dwelling older adults without known diabetes. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress (IAGG), Taipei, Taiwan. Oral. October 23-27, 2019.
15. Kitamura A, Seino S, Abe T, Taniguchi Y, Yokoyama Y, Amano H, Narita M, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S. Sarcopenia and the risk of mortality and incident disability in community-dwelling older Japanese. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress (IAGG), Taipei, Taiwan. Poster. October 23-27, 2019.
16. Taniguchi Y, Kitamura A, Ishizaki T, Fujiwara Y, Seino S, Mitsutake S, Suzuki H, Yokoyama Y, Abe T, Ikeuchi T, Shinkai S. Association of Trajectories of Cognitive Function with Cause-Specific Mortality and Medical and Long-Term Care Costs. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress (IAGG), Taipei, Taiwan. Poster. October 23-27, 2019.
17. Edahiro,A.,Sugiyama,M.,Miyamae,F.,Taga,T.,Okamura,T.,Kikuchi,K.,Awata,S.,The Incidence of Early Onset Dementia in The Medical Centers for Dementia in Japan, The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress, 2019.10.23-27, Taiwan.

(2) 国内

1. 島田千穂：人生の最終段階における生活を中心にした医療を考える．第64回長野県国保地域医療学会（基調講演），長野県松本市，2019.6.22-23
2. 中里和弘、島田千穂、平山亮、杉山美香、伊東美緒、菊地和則、栗田主一：高齢者向けの「人生の最期をテーマとしたワークショップ」の評価に関連する要因の検討．第一回日本在宅医療連合学会大会，東京都新宿区，2019.7.14-15
3. 島田千穂：看取り介護への期待．第51回中国地区老人福祉施設研修大会（招待講演），山口県山口市，2019.8.29-30
4. 島田千穂：エンドオブライフにおけるケアマネジメントの基盤としての価値．日本社会福祉学会第67回秋季大会，大分県大分市，2019.9.21-22
5. 島田千穂、伊東美緒、藤村朗子：超高齢者の治療の選択に伴う医療者のジレンマ．日本エンドオブライフケア学会第三回学術集会，愛知県名古屋市，2019.9.14-15
6. 島田千穂、原沢優子、伊東美緒、平山亮：協働的内省セッションによる特別養護老人ホームでの看取りケアのリーダー実践意識の変化．日本エンドオブライフケア学会第三回学術集会，愛知県名古屋市，2019.9.14-15
7. 伊東美緒、島田千穂、藤生大我、山口晴保：ＢＰＳＤ（認知症の行動心理症状）の予兆を捉え回避するための“不同意メッセージ”という概念の学習効果．日本エンドオブライフケア学会第三回学術集会，愛知県名古屋市，2019.9.14-15
8. 島田千穂：介護施設におけるエンドオブライフケア（委員会企画）．日本エンドオブライフケア学会第三回学術集会，愛知県名古屋市，2019.9.14-15
9. 伊東美緒、島田千穂、山口晴保、藤生大我、内藤典子、滝口優子：「不同意メッセージ」の概念学習とBPSD発現予防シートの開発．第20回日本認知症ケア学会大会，京都府京都市，2019.5.25-26
10. 伊東美緒、島田千穂、平山亮、中里和弘、木下衆、菊地和則：認知機能が低下した患者の意思の表明について考える；現在の困りごとやこれからの生活への希望についての語り．日本老年看護学会第24回学術集会，宮城県仙台市，2019.6.6-8
11. 平山亮、伊東美緒、島田千穂、木下衆、認知症の人の意思を読み解く作法：ケアにおける推測・推察、日本老年社会科学会第61回大会、東北福祉大学仙台駅東口キャンパス、2019.06.07-08
12. 島田千穂、中里和弘、平山亮、杉山美香、伊東美緒、菊地和則、栗田主一、人生の最期を考えるワークショップによる終末期準備行動の変化：意思伝達機能低下の将来認識による差異、日本老年社会科学会第61回大会、東北福祉大学仙台駅東口キャンパス、2019.06.07-08
13. 涌井智子、平山亮、甲斐一郎、在宅介護の見える化が明らかにする介護の日周変動と家族介護者の対処行動、日本老年社会科学会第61回大会、東北福祉大学仙台駅東口キャンパス、2019.06.07-08
14. 平山亮、男性性による抑圧と男性性からの解放で終わらない男性性研究へ、2019年度日本女性学会大会シンポジウム、一橋大学国立キャンパス、2019.06.15-16
15. 菊地和則，池田直樹，岸恵美子，他，認知症高齢者の一人歩きによる行方不明への市区町村の対応とSOSネットワークの関係に関する研究、日本エンドオブライフケア学会第3回学術集会、2019.9.14-15，名古屋.
16. 菊地和則，岸恵美子，池田恵利子，他，養介護施設従事者等による高齢者虐待の要因に関する研究，第16回日本高齢者虐待防止学会、2019.9.7，東京.
17. 菊地和則，中西亜紀，小長谷陽子，他，介護保険第2号被保険者データを用いた若年性認知症の状態像に関する研究、第34回日本老年精神医学会、2019.6.6-8，仙台.
18. 多賀努，枝広あや子，杉山美香，岡村毅，宮前恵史子，山村正子，菊地和則，栗田主一，若年性認知症の診断後支援のあり方に関する検討、第34回日本老年精神医学会、2019.6.6-8，仙台.
19. 枝広あや子，杉山美香，多賀努，山村正子，宮前史子，岡村毅，菊地和則，栗田主一，認知症疾患医療センターにおける若年性認知症の年間鑑別診断数と発生率の検討，第34回日本老年精神医学会、2019.6.6-8，仙台.
20. 菊地和則,認知症高齢者の一人歩きによる行方不明―研究者の視点から―、シンポジウム 本人らしさを社会全体で支える介護、日本エンドオブライフケア学会第3回学術集会、2019.9.14，15:30-17:50.
21. 新開省二、清野諭、谷口優、横山友里、西真理子、天野秀紀、野藤悠、成田美紀、池内朋子、阿部巧、北村明彦．地域高齢者における血清総コレステロール値と総死亡リスクとの量・反応関係．第78回日本公衆衛生学会総会（高知市文化プラザかるぽーと：高知市）．ポスター．R1.10.23-25.

22. 池内朋子、清野諭、谷口優、野藤悠、北村明彦、新開省二. 地域在住高齢者の主観的な「若返り」は身体的健康の予測因子となりうるか. 第14回日本応用老年学会大会（京都ノートルダム女子大学：京都市）. 口演. R1.10.19-20
23. 池内朋子、北村明彦、清野諭、谷口優、阿部巧、天野秀紀、成田美紀、横山友里、新開省二. 主観年齢に影響する要因の検討：草津町研究. 日本老年社会科学会第61回大会（東北福祉大学仙台駅東口キャンパス：仙台市）. ポスター. R1.6.7-8.
24. 谷口優、清野諭、遠峰結衣、田中泉澄、西真理子、横山友里、池内朋子、北村明彦、新開省二. 大都市部在住高齢者における犬猫の飼育経験とFrailty との関連. 日本老年社会科学会第61回大会（東北福祉大学仙台駅東口キャンパス：仙台市）. ポスター. R1.6.7-8.
25. 島田千穂、原沢優子、伊東美緒、平山亮：施設介護職の看取りの熟達を支援する目標段階別教育プログラムの開発. 第26回ﾍﾙｽﾘｻｰﾁﾌｫｰﾗﾑ研究成果報告発表, 東京都千代田区, 2019.12.7

2 誌上発表

(1) 原著

1. ◎Kikuchi, K., Ijuin, M., Awata, S., ★Suzuki T., Exploratory research on outcomes for individuals missing through dementia wandering in Japan, Geriatr Gerontol Int 19(9): 902-906, 2019. (査読あり) (IF=2.118)
2. Seino S, Kitamura A, Abe T, Taniguchi Y, Yokoyama Y, Amano H, Nishi M, Nofuji Y, Narita M, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S. Dose-Response Relationships between Body Composition Indices and All-Cause Mortality in Older Japanese Adults. J Am Med Dir Assoc, in press. (査読あり) (IF:4.899、2018)
3. Taniguchi Y, Seino S, Nishi M, Tomine Y, Tanaka I, Yokoyama Y, Ikeuchi T, Kitamura A, Shinkai S. Association of Dog and Cat Ownership with Incident Frailty among Community-Dwelling Elderly Japanese. Scientific Reports. In press. (査読あり) (IF:4.011、2018)
4. 北村明彦、清野諭、谷口優、横山友里、天野秀紀、西真理子、野藤悠、成田美紀、池内朋子、阿部巧、藤原佳典、新開省二. 高齢者の自立喪失に及ぼす生活習慣病、機能的健康の関連因子の影響：草津町研究. 日本公衆衛生雑誌. 2019 (印刷中) (査読あり)
5. Taniguchi Y, Kitamura A, Ishizaki T, Fujiwara Y, Shinozaki T, Seino S, Mitsutake S, Suzuki H, Yokoyama Y, Abe T, Ikeuchi T, Yokota I, Matsuyama Y, Shinkai S. Association of Trajectories of Cognitive Function with Cause-Specific Mortality and Medical and Long-Term Care Costs. Geriatr Gerontol Int, 2019. In press. (査読あり) (IF：2.118、2018)
6. Abe T, Kitamura A, Seino S, Yokoyama Y, Amano H, Taniguchi Y, Nishi M, Narita M, Ikeuchi T, Tomine Y, Fujiwara Y, Shinkai S. Differences in the Prevalence of and Factors Associated with Frailty in Five Japanese Residential Areas. Int. J. Environ. Res. Public Health 2019, 16(20), 3974; https://doi.org/10.3390/ijerph16203974. (査読あり) (IF:2.468、2018)
7. Taniguchi Y, Kitamura A, Kaito S, Yokoyama Y, Yokota I, Shinozaki T, Seino S, Murayama H, Matsuyama Y, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S. Albumin and Hemoglobin Trajectories and Incident Disabling Dementia in Community-Dwelling Older Japanese. Dementia and Geriatric Cognitive Disorders, 2019 Jul 17:1-10. doi: 10.1159/000499837. (査読あり) (IF：2.260、2018)
8. Abe T, Kitamura A, Taniguchi Y, Amano H, Seino S, Yokoyama Y, Nishi M, Narita M, Ikeuchi T, Fujiwara Y, Shinkai S. Pathway from gait speed to incidence of disability and mortality in older adults: A mediating role of physical activity. Maturitas. 2019 May. doi.org/10.1016/j.maturitas.2019.02.002 (査読あり) (IF：3.654、2018)
9. Maekawa, K., Ikeuchi, T., Shinkai, S., Hirano, H., Ryu, M., Tamaki, K., Yatani, H., Kuboki, T., Kusatsu ISLE Study Working Group Collaborators. Number of functional teeth more strongly predicts all-cause mortality than number of present teeth in Japanese older adults, Geriatr Gerontol Int, in press. (査読あり) (IF=2.118)

3　著書等

1. 島田千穂：エンドオブライフにおける医療の選択支援．医療ソーシャルワーク67，8-12
2. 島田千穂：認知症高齢者の疾患治療の選択支援を考える（特集：認知症高齢者の栄養ケア）．臨床栄養134（7），964-968
3. 島田千穂：緩和ケアについて（第4章認知症の患者さんへの摂食嚥下・栄養・緩和ケア；第3節）．133-135，医歯薬出版，2019.9.5
4. 島田千穂：超高齢者の治療の選択に伴う倫理的課題；地域包括ケアシステムにおける急性期医療のあり方，三菱財団研究・事業報告書2018
5. 島田千穂、伊東美緒、藤村朗子：これからの治療選択に迷っている人とその家族の方へ．東京都健康長寿医療センター研究所，トヨタ財団助成パンフレット，2019.10.31
6. 島田千穂：多様な老いと死を考える；アドバンスケアプランニングの進め方の多様性．看護のチカラ，24（527），54-55１．
7. 菊地和則，市町村の権利擁護課題に対する体制整備状況調査報告，実践成年後見83，52-61，2019，民事法研究会
8. 菊地和則，栗田主一，その他，大阪市若年性認知症生活実態調査～介護保険第2号被保険者調査～報告書，東京都健康長寿医療センター研究所，1-95，2019.
9. 菊地和則，栗田主一，その他，中野区若年性認知症生活実態調査 7自治体比較～介護保険第2号被保険者調査～報告書，東京都健康長寿医療センター研究所，1-13，2019.
10. 菊地和則，栗田主一，その他，板橋区若年性認知症生活実態調査～介護保険第2号被保険者調査～報告書，東京都健康長寿医療センター研究所，1-95，2019.
11. 菊地和則，栗田主一，その他，豊島区若年性認知症生活実態調査～介護保険第2号被保険者調査～報告書，東京都健康長寿医療センター研究所，1-95，2019.
12. 菊地和則，栗田主一，その他，北区若年性認知症生活実態調査～介護保険第2号被保険者調査～報告書，東京都健康長寿医療センター研究所，1-95，2019.
13. 菊地和則，栗田主一，その他，名古屋市若年性認知症生活実態調査～介護保険第2号被保険者調査～報告書，東京都健康長寿医療センター研究所，1-95，2019.
14. 菊地和則，栗田主一，その他，練馬区若年性認知症生活実態調査～介護保険第2号被保険者調査～報告書，東京都健康長寿医療センター研究所，1-95，2019.
15. 菊地和則，栗田主一，その他，介護保険データを用いた調査，若年性認知症の生活実態に関する調査報告書，東京都健康長寿医療センター研究所，77-144，2019.
16. 高橋紘士，山崎智美，菊地和則，その他，平成30年度老人保健事業推進費等補助金報告書 高齢者虐待の要因分析及び高齢者虐待の再発防止に向けた効果的な取組に関する調査研究事業報告書，公益社団法人日本社会福祉士会，1-214，2019.
17. 菊地和則，島田千穂，平山亮，その他，平成30年度老人保健事業推進費等補助金 高齢者の権利擁護における基礎自治体での相談体制・事例対応の実態把握等に関する調査研究事業 自治体の包括的権利擁護体制に関する調査研究報告書，東京都健康長寿医療センター研究所，1-117，2019.
18. 平山亮、Sentient activityは（どのように）分けられるのか、けいそうビブリオフィル、https://keisobiblio.com/2019/05/30/namonakikaji08/、2019.05
19. 平山亮、「多様性」が意味すること：社会によってつくられた非対称な「違い」、看護のチカラ、516、32-33、2019.06
20. Ikeuchi T, Wakui T, Boe JB, Husebo B, & Shinkai S: What can we learn from Japan? Technological solutions in the elderly care. In A textbook in Eldreboken (elderly care and nursing home medicine), Liv Tønjum, in press.
21. 島田千穂、菊地和則、伊東美緒、平山亮、他：認知症の行動・心理症状緩和のための非薬物療法の効果に関する研究事業結果報告書（令和元年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業），東京都健康長寿医療センター研究所，2020.3
22. Hirayama, R.: Counting on women while not counting women’s personhood; A critical analysis of the masculine ideal of self-made man in Japan. In Routledge handbook of East Asian gender studies, ed. by Liu, J., Yamashita, J., 333 - 349, Routledge, London, UK (2019).

受賞

介護予防

1. 河合　恒、第78回日本公衆衛生学会総会ポスター賞
   ポスター発表「知識工学を用いた住民主体の地域介護予防を支援するための知識の構造化」2019.10.24
2. 河合　恒、11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress(第11回国際老年・老年医学会・アジア・オセアニア会議)　Outstanding Poster Award
   ポスター発表「Association between frailty and daily living walking speed measured by smartphones with built-in GPS(フレイルとスマートフォン内蔵GPSで測定した日常生活歩行速度との関連)」2019.10.25

医療・介護システム

1. 増井幸恵、日本心理学会特別優秀発表賞「前期高齢者における老年的超越の発達に対する介護経験の影響―SONIC研究70歳コホート6年間の縦断データを用いた検討―」2019.9.10
2. 光武誠吾、第26回日本老年医学会優秀論文賞「論文：大都市圏における在宅医療患者の退院後30日以内の再入院に影響する医療施設要因」2019.6.7
3. 平山亮、涌井智子、Professional Issues in Aging Award in 2019 National Council on Family Relations「“What Counts Is Not My Own But Siblings’ Circumstances”: Adult Children’s Perceived Responsibility for Parental Care in Japan」2019.11
4. 光武誠吾、11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019「Associations of rehabilitation of long term care with care-need level deterioration at twelve months after discharge in Japan」2019.10

介護・エンドオブライフ

1. 伊東美緒、日本認知症ケア学会石崎賞「不同意メッセージ」の概念学習とBPSD発現予防シートの開発2019.5.25-26
2. 平山亮、涌井智子、Professional Issues in Aging Award in 2019 National Council on Family Relations「“What Counts Is Not My Own But Siblings’ Circumstances”: Adult Children’s Perceived Responsibility for Parental Care in Japan」2019.11

★コレスポンディングオーサー(責任著者)、◎ファーストオーサー(第一著者)
二重下線＝常勤研究員、下線＝非常勤職員、破線＝研究生、連携大学院生等

Ⅱ　研究支援施設等

研究支援施設等

アイソトープ施設

１　施設紹介

施設長（安全管理責任者）：功刀　正行
放射線取扱主任者（研究副部長）：三浦　ゆり（兼務）

アイソトープ施設の目標は、放射線障害防止に関連した法律を遵守し、利用者や公衆の安全を確保する一方、放射線・放射性同位元素の利用促進と施設の維持管理を行うことである。放射線・放射性同位元素を利用する研究手法は、老化研究の進展に大きく貢献するものであり、本施設はその安全利用のための維持管理を行う。

２　活動概要

放射線業務従事者の管理について

・ 教育訓練を実施。
放射線業務従事者に対する教育訓練を病院部門と共同で実施した。
初期教育訓練　 4/15、5/21、6/25、7/18、9/20、8/19
放射線安全講習(再教育訓練)　 3 月 5 日（33 名)、追加訓練（DVD 視聴）10 名
・健康診断（問診、血液検査）を 2 回実施。
前期：6 月 18-22 日、後期：12 月 11-13 日

施設管理について

・作業環境測定（毎月 1 回 / 12 回） 。
・自主点検を 2 回実施（前期 9 月 20 日、後期３月 7 日)。
・RI 関連廃棄施設のフィルター交換（8 月 31 日)。
・RI 管理総合システム保守点検（11 月 11 日)。
・RI 廃棄物集荷（1 月 23 日)。

法令対応について

・定期検査・定期確認実施（4 月 24 日)。
・理事長交代に関わる氏名等の変更届提出（6 月 4 日)。
・原子力規制委員会に平成 30 年度放射線管理状況報告書を提出（6 月 14 日)。
・改正予防規定を原子力規制委員会に提出（8 月 16 日)。
・医療法の監査（8 月 30 日)。

実験動物施設

１　施設紹介

施設長：重本和宏
研究員：野田義博
非常勤研究員：根本妙子

実験動物施設概要

実験動物施設はセンター研究所棟5階に位置する。管理区域は、清浄区域と準清浄区域に分かれている。前者は、マウス飼育室4室、ラット飼育室1室、共用実験室4室、実験室6室、処置室2室、胚操作関連室3室など、より構成される。後者は、検疫室、処置室、ウサギ飼育室、検査室、洗浄室などで構成される。この両区域はP1Aレベルの拡散防止措置が執られている。管理区域の床は全域においてUV硬化樹脂フロアコートを施工し、滑りにくく、清掃消毒効果を向上させ、労働安全衛生に配慮した清浄度の高い飼育環境を維持することを可能にした。

マウスとラットについては、特定の病原体を統御し、動物を感染症から防御するため、IVC（Individually Ventilated Caging）システムラックにより飼育されている。

施設の収容能力は、マウス21,700匹（4,340ケージ）、ラット840匹（280ケージ）、ウサギ9匹（9ケージ）である。飼養、保管されているマウスの大部分が遺伝子組換えマウスであり、約80系統が維持されている。また、実験動物施設は、マウス（C57BL/6NCrSlc, C57BL/6J JAX）、ラット(F344/DuCrlCrlj)について、生涯飼育による老化動物育成事業を推進している。現在までにマウスで161ロット、Fischerラットで140ロットの老化動物を育成し続け、老年学および老年医学研究の推進において重要な役割を担っている。

２　他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

老化機構研究チーム、老化制御研究チーム、老化脳神経科学研究チーム、老年病態研究チーム、老年病理学研究チーム、順天堂大学医学部 病理・腫瘍学講座、千葉大学大学院医学研究院 先進加齢医学寄附講座、近畿大学生物理工学部 先端技術総合研究所 生物工学技術センター、実験動物中央研究所、東京大学大学院医学系研究科 加齢医学講座、東京大学医学部付属病院 老年病科、シーエル研究所、ダイセルオルネクス株式会社、アドベンチャーワールド

３　活動概要

施設管理業務は、老化動物育成供給を含む実験動物の準備供給、新規購入動物の発注、実験動物の飼育管理、実験動物感染病対策としての検疫検査、微生物学的クリーニング、生殖工学技術による研究支援、その他、動物実験全般に渡る技術支援、空調設備を始めとする設備機器の維持管理、施設運営予算の管理、購買物品の検収作業、また、実験動物飼育管理および建物管理を業務委託し、各社への指揮監督など多岐にわたる。これらの業務の内、特に、病原体感染事故と空調関連の事故を防止することを最優先課題とし、研究活動が円滑に行われる様、運営している。また、厚生労働省の所管する実施機関として厚生労働省動物実験基本指針に従い、動物愛護の観点に配慮しつつ、科学的観点に基づく適正な動物実験が実施される様、情報収集に努め、教育訓練等で利用者への周知徹底を行っている。

以下、2019年度の主な活動を述べる。

1. 動物実験委員会、教育訓練（実験動物講習会）の開催

動物実験委員会

第１回：2019.6.25　　第４回：2020.1.6
第２回：2019.9.11 中止　　第５回：2020.2.6
第３回：2019.11.7

教育訓練

実験動物施設利用者講習会(2019.3.27、2019.4.10、2019.5.21、2019.6.4、2019.10.10、2019.12.13)、参加者 93 名
実験動物慰霊祭(2020.3.2)、参加者 55 名

2. 実験動物使用数
昨年度から継続して 71 件の動物実験が実施された。今年度は新規に 9 件の動物実験が申請され、動物実験委員会にて審査の後、機関長によって承認された。以上の動物実験計画に供試された実験動物使用数を表 1 に、病原微生物検査数を表 2 に示した。
3. 生殖工学技術を応用した研究支援業務
体外受精または凍結胚融解・胚移植による実験個体の作製（13 件)。
体外受精・胚凍結による凍結胚の作製（2 件)。
マイクロインジェクション法による遺伝子改変マウス、ゲノム編集マウスの作製（2 件)。

４　厚労省基本指針への対応

当センターは、「厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本方針」（以下厚労省指針)に従い、動物実験実施規定を定めている。さらに、これら管理体制の厚労省指針への適合性について、自己点検ならびに評価を実施している。2020年1月9日には、第三者機構の調査を受け、厚労省指針への適合性に関してヒューマンサイエンス振興財団の動物実験実施施設認証センターより認証された。

５　業績

（１）誌上発表

1. Hashizume T, Son B, Taniguchi S, Ito T, Noda Y, Endo T, Nanao-Hmai M, Ogawa S, Akishita M. Establishment of Novel Murine Model showing Vascular Inflammation-derived Cognitive Dysfunction. Scientific Reports 9:4023, 2019
2. 野田義博
実験動物技術者が支える生命科学研究
日本実験動物技術者協会 関東支部会報 特集 No.190 9-10, 2018
3. Yoshitomo Hamano, Fuyu Ito, Osamu Suzuki, Minako Koura, Shuji Matsuoka, Toshiyuki Kobayashi, Yoshinobu Sugitani, Nadila Wali, Ai Koyanagi, Okio Hino, Shoichi Suzuki, Ryuichi Sugamata, Hiromichi Yoshizawa, Wako Yumura, Naoki Maruyama, Yosuke Kameoka, Yoshihiro Noda, Yasuko Hasegawa, Tomio Arai & Kazuo Suzuki Vasculitis and crescentic glomerulonephritis in a newly established congenic mouse strain derived from ANCA-associated vasculitis-prone SCG/Kj mice. Autoimmunity 52(5-6):1-12, 2019

（２）学会・講演会発表

1. 野田義博：実験動物技術者が支える生命科学研究. 日本実験動物技術者協会関東支部 第44回懇話会特別講演,東京,2019.3.16
2. 野田義博：自然加齢動物育成における飼育環境の検討. 第34回東京LA研究会,東京,2019.7.6
3. 野田義博：老化研究と老化動物～自然老化モデル動物の育成における飼育環境の維持. 第77回岡山実験動物研究会,岡山,2019.6.28
4. 野田義博,小西優以,細野雅之,尾崎美樹,永井匡,東里香,安齋政幸：バンドウイルカ(Tursiops truncatus)非保存液下条件による冷蔵輸送および生存精子形態観察の一例. 第3回野生動物保全繁殖研究会大会,神奈川,2019.8.23-24
5. 安齋政幸,野田義博,東里香,山鹿優真,齋藤勝彦,尾崎美樹,安達那央子：キングペンギン(Aptenodytes petagonics)由来精液のグリセロール不含凍結保存法の開発～凍結誘拐精子の形態学的観察～. 第3回野生動物保全繁殖研究会大会,神奈川,2019.8.23-24
6. 小西優以,安齋政幸,野田義博,永井匡,尾崎美樹,清水智子,細野雅之：バンドウイルカ(Tursiops truncatus)射出精液を用いた簡便な凍結保存操作および精液量、精子数の変動. 第3回野生動物保全繁殖研究会大会,神奈川,2019.8.23-24

7. Yoshihiro Noda, Taeko Nemoto, Tamao Endo, and Ikuroh Ohsawa：Protective effect of molecular hydrogen on oxidative stress-induced impairment in mouse sperm motility. 70th American Association for Laboratory Animal Science National Meeting,2019.10.13-17
8. 野田義博,根本妙子,大村卓也,大石奈都美,重本和宏：自然老化マウスの加齢性筋萎縮に伴う運動機能の評価. 第53回日本実験動物技術者協会総会,松山,2019.10.24-26
9. 野田義博：アンチエイジングの実践で錆びない毎日へ。～学術的視点から観た機能性食品物質の効果～. 東京都板橋区立常盤台小学校 成人教養講演会,東京,2019.10.30
10. 野田義博：自分で選択する未来。～研究者という道を選んだ場合～. 東京都板橋区立上板橋第三中学校 東京都道徳授業地区公開講座講演会,東京,2019.12.21

表1. 2019年度実験動物使用数

(匹)

		マウス		ラット	ウサギ
		一般	組換え		
実験動物施設	研究チーム	2,117	1,952	65	―
	老化動物	862	―	51	―
合計		2,979	1,952	116	―
		4,931			

表２. 2019年度病原微生物検査数

(匹)

	定期検査	検疫	合計
マウス	125	0	125
ラット	18	0	18
合計	143	0	143

所内研究会開催

名称・主催者	形式	演者	対象	年月日
平成31年度実験動物慰霊祭記念講演・野田義博	講演	林元 展人 (実験動物中央研究所ICLASモニタリングセンター　センター長) 保田 昌彦 (実験動物中央研究所病理解析センター　主任)	所員	2020.3.2(新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応により中止)

高齢者健康増進事業支援室

１　施設紹介

研究部長：大渕修一
技術員：西田和正
非常勤研究員：菅亜希子、関口晴子、田中康夫、中田晴美、坂井志麻
非常勤技術員：原井瑛広
非常勤事務員：髙島明子、佐藤由紀子

高齢者健康増進事業支援室では、高齢者の介護予防・健康増進を目的として、１）地域における介護予防活動の発展を目指した区市町村等への事業支援及びその効果検証、２）介護予防の専門職である介護予防主任運動指導員、介護予防運動指導員の効果的な養成とフォローアップ、３）民間企業との共同研究を行っている。

２　他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

・東京都介護予防推進支援センター
・自立促進と介護予防研究チーム
・社会参加と地域保健研究チーム
・福祉と生活ケア研究チーム
・健康増進センター

３　活動概要

１）地域における介護予防活動の発展を目指した区市町村等への事業支援及びその効果検証（自治体支援プロジェクト）
小金井市「介護予防による地域づくり推進事業」、多摩市・東大和市「介護予防リーダー養成講座」、北区「介護予防事業評価」などの事業を受託し、自治体の介護予防事業支援を実施した。
２）介護予防主任運動指導員、介護予防運動指導員の効果的な養成とフォローアップ
テキスト改訂後のフォローアップ研修やホームページやツイッターによる定期的な情報提供、指導員のフォローアップ研修の体制整備、介護予防主任運動指導員・指定事業者との協力による学会や展示会での普及活動などを行った。
３）民間企業との共同研究
羽立工業株式会社「JICA 中小企業海外展開支援事業（普及・実証事業）の取得データの分析」、旭化成ホームズ株式会社「都市型自立賃貸住宅居住者の健康効果に関する研究」、中電技術コンサルタント株式会社「クラウド型認知機能測定システムの開発」など民間企業との共同研究を行った。

４　業績

学会発表

1. ◎大渕修一，河合恒，西田和正，解良武士，中田晴美：地域高齢者におけるフレイル予防プログラムへの不参加者の特性，第61回日本老年医学会学術集会，仙台，2019.6.6-8.
2. ◎大渕修一，井田真由美，諸見川喜紀：高齢者の筋力増強トレーニングの評価と運動処方，第4回Re-Care Japan,東京，2019.7.9.
3. ◎大渕修一，西田和正，原井瑛広，高島明子，佐藤由紀子：介護予防主任運動指導員・介護予防運動指導員養成事業，第4回Re-Care Japan，東京，2019.7.9-10.
4. ◎西田和正，河合恒，伊藤久美子，★大渕修一：介護予防自主グループへの参加に関連する要因の検討，第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島県 2019.10.19-20.
5. ◎河合恒，西田和正，佐藤和之，解良武士，中田晴美，★大渕修一：コミュニティーアズパートナー

モデルを活用した住民主体のフレイル予防プログラム「みんフレ」の1年後の効果，第6回日本予防理学療法学会学術大会，広島県 2019.10.19-20.

6. ◎伊藤久美子，河合恒，西田和正，★大渕修一：地域住民の介護サービスへの参加は事業所職員の仕事量を軽減させるか，第14回日本応用老年学会大会，京都府，2019.10.20.
7. ◎西田和正，河合恒，伊藤久美子，★大渕修一：CAPを用いた住民主体のフレイル予防プログラム修了後の自主活動への参加者特性，第78回日本公衆衛生学会総会，高知県，2019.10.23-25.
8. ◎大渕修一，西田和正，原井瑛広，高島明子，佐藤由紀子：介護予防主任運動指導員・介護予防運動指導員養成事業，第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.

研究情報管理室

１　施設紹介

室長：重本和宏（副所長兼務）
研究員：森澤拓
兼務研究員：坂田宗之（神経画像研究チームネットワーク担当）
非常勤研究員：久保田ゆかり

研究情報管理室は、研究所LANの運用・管理、セキュリティの確保等を行い、研究所における情報環境を整え、研究活動を支援している。

２　他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

東京都健康長寿医療センター、経営企画課情報管理係とネットワーク管理を連携
東京都健康長寿医療センター病院、放射線診断科とネットワーク管理を連携

３　活動概要

１）研究所LANの運用・セキュリティ管理
東京都健康長寿医療センター研究所LANの運用を行っている。インターネットに1Gbpsで接続し、電子メールの運用管理を行っている。全フロアに無線アンテナを設置し、モバイル機器にも対応を行っている。また、研究所LANの情報セキュリティの向上のために、セキュリティ運用の見直しを行っている。

２）共同利用パーソナルコンピューター・大判プリンター機器等の運用・管理
共用のWindowsパソコン、MACパソコン、カラーレーザープリンター、B0対応大判プリンター等の運用管理を行っている。一部機器は、病院、事務からの利用要望にも対応している。

３）統計処理等アプリケーションソフトウェアの管理
共用パソコンに統計処理ソフトウエアのSPSS、SASを導入し、共同利用サービスを行っている。また、個々の研究者が利用するSPSS、SASについても計画導入、ライセンス管理を行っている。

４）薬品管理支援サーバ、老研瓦版サーバ、共用ファイルサーバの運用
薬品管理支援サーバは、毒物及び劇物の適正な管理、その他各種薬品の適正な管理のために導入されており、運用管理を行っている。老研瓦版サーバは、研究所内のお知らせ掲示板として、実験動物施設からの動物管理情報など、研究所内部の連絡のためのホームページとして、東京都健康長寿医療センターのお知らせホームページの補完的役割を担い運用管理を行っている。さらに、共用ファイルサーバを運用管理しており、各種委員会連絡等に用いられている。

５）文献検索
PsycINFO、AGELINE、医学中央雑誌などの文献検索データベースについて、インターネットから利用できる方式で契約を行い、管理運用を行っている。

６）その他
研究用コンピューターシステムの導入相談、パソコンの利用トラブル相談等に対応している。

東京都介護予防推進支援センター

１　施設紹介

施設長：大渕修一
研究員：植田拓也、江尻愛美、白部麻樹、伊藤久美子、髙橋淳太
事務員：三木明子
非常勤研究員：安永正史、本川晃市、鶴田陽和

東京都介護予防推進支援センターでは、区市町村内での住民主体の介護予防に取り組む規範的統合を促し、地域の実情や取組段階に応じた専門的知識の付与と、実情に合わせた技術的な支援を区市町村に対して提供することにより、介護予防活動の普及に向けた取組を支援していく。

２　他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

・高齢者健康増進事業支援室
・自立促進と介護予防研究チーム
・社会参加と地域保健研究チーム
・福祉と生活ケア研究チーム
・昭和大学
・筑波大学大学院

３　活動概要

１）人材育成
① 研修会：介護予防の基礎を学ぶ「総論編」と通いの場の立ち上げから継続支援までを実践的に学ぶ「実践編」「ワークショップ 1～3」、通いの場立ち上げ後の横展開や継続支援、他事業との連携に焦点を当てた「アドバンス研修 1～4」を開催した。年間の活動報告の場である「実践報告会」は新型コロナウィルスの影響のため中止となった。
② 連絡会：各区市町村における介護予防の取組状況や課題を共有するために「介護予防による地域づくり推進員連絡会」「地域づくりリハビリテーション専門職連絡会」「地域づくりリハビリテーション専門職連絡会事前セミナー」を実施した。
③ 情報交換会：介護予防活動に係わる住民が活動に対する意欲を高め、主体的に活動を継続・拡大するための支援として「情報交換会」を開催した。

２）派遣調整
各区市町村において、地域づくりにつながる介護予防活動等をリハ専門職と協働して進めることができるよう、区市町村からの要望内容に応じて、東京都介護予防推進支援センターからリハ専門職（アドバイザーもしくは地域のリハ専門職）の派遣調整を実施した。

３）相談支援
東京都健康長寿医療センター研究所におけるこれまでの研究成果やノウハウを活かし、各区市町村において介護予防事業を進めていく上での課題解決を支援するため、知識・技術を有する研究職が相談への助言や必要性に応じた現地での直接的支援を実施した。

４）事業評価・効果検証
① 事例集の発行：
通いの場の継続支援、横展開、介護予防・生活支援サービス等との連動に関する先進自治体での事例を体系的に整理することを目的に、東京都内および全国で先進的な取り組みを行う 11 自治体にインタビューを実施し、その結果を事例集にまとめ都内の全自治体に配布した。
② 通いの場参加による新規要介護認定の抑制効果の検証：
通いの場への参加により新規要介護認定が抑制されるかを検証するため、年齢調整を行った参加者の要介護認定率と自治体における高齢者全体の要介護認定率との比較を行い、その結果を都内の全自治体

③ 介護予防活動（通いの場への参加等）の効果検証手法の紹介：
通いの場参加者群と高齢者全体での要介護認定率を比較する方法を、文書及びメールにて都内の全自治体に紹介を行った。

４　業績

誌上発表（総説）

1. ◎大渕修一：介護予防＆リハビリ最前線　第 90 回　通いの場に携わることを希望するリハビリ専門職の意識調査．月刊介護保険，Vol283，16-17，2019（査読なし）
2. ◎大渕修一：介護予防＆リハビリ最前線　第 96 回　通いの場の PDCA サイクル．　月刊介護保険，Vol289，16-17，2020（査読なし）

学会発表

1. ◎伊藤久美子，河合　恒，白部麻樹，江尻愛美，安永正史，三木明子，植田拓也，★大渕修一：地域づくりによる介護予防の担い手として関わりたいと考える者の特性～壮年期から前期高年期を対象とした調査より～，第 6 回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
2. ◎江尻愛美，河合　恒，安永正史，白部麻樹，伊藤久美子，三木明子，植田拓也，★大渕修一：住民主体の通いの場における参加形態と課題認識、心理社会的健康の関連，第 6 回日本予防理学療法学会学術大会，広島，2019.10.19-20.
3. ◎植田拓也，安永正史，江尻愛美，白部麻樹，伊藤久美子，高橋淳太，三木明子，河合　恒，★大渕修一：東京都における住民主体の通いの場づくりの支援の報告：東京都介護予防推進支援センターの支援の有無による通いの場数の変化，第 14 回日本応用老年学会大会，京都，2019.10.19-20.
4. ◎江尻愛美，安永正史，白部麻樹，伊藤久美子，三木明子，植田拓也，河合　恒，★大渕修一：住民主体の通いの場参加者が抱える課題は活動期間により異なるか―継続支援に向けて―，第 78 回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10.23-25.

著書等

1. ◎植田拓也，江尻愛美，白部麻樹，伊藤久美子，髙橋淳太，三木明子，安永正史，★大渕修一：東京都介護予防推進支援センター事業案内書，2019.5
2. ◎江尻愛美，植田拓也，白部麻樹，伊藤久美子，髙橋淳太，三木明子，　安永正史，★大渕修一：通いの場の継続支援、横展開、介護予防・生活支援サービス等との連動に関する事例集，2020.2

健康長寿イノベーションセンター

１　施設紹介

高齢者医療・研究の拠点としての特色を生かし、数多くのイノベーションを創出し、健康長寿社会の実現に貢献していくため、健康長寿イノベーションセンター（HAIC）を創設した（平成30年8月）。

センター長：原田和昌（副院長兼務）
副センター長：新開省二（副所長兼務）

■研究開発ユニット長：金井信雄
健康データ科学研究室長：田中紀子
特命担当部長：櫻井政考（※）
産学連携アドバイザー：川村愛（※）
顧問：芝崎太（非常勤）
○産学連携・知財部門
深谷太郎、嶋村眞壽美、佐藤裕子（シニア）、中田智子（非常勤）
○研究推進部門
＜事務局＞
吉岡まみ（薬剤科兼務）、長谷川菜生美（兼務）、人見千寿（兼務）、廣瀬典子（非常勤）、
野口一美（非常勤）、工藤友美（非常勤）
＜CRC＞遠藤洋美、橋本美和、大嶋優江（非常勤）、権守寿一（非常勤）、野田香苗（非常勤）
（※）平成31年度からは、センターにおける産学公連携活動の抜本的強化を目的とし、首都大学東京より、櫻井政考特命担当部長、川村愛産学連携アドバイザーの2名を新規に迎え入れた。業務内容は、産学公連携、知財戦略、各種委員会事務局、臨床研究および治験まで幅広い分野を担当している。

■事務ユニット長：阪本和嘉子（経営企画課長兼務）
○事務ユニット
足立真弓、福島成人、長谷川菜生美、人見千尋、岡田佳生、萩原麻貴、小俣恵己、井出ひろ美、相馬真理恵、谷正隆、山口聖司（シニア）、石渡理花子（非常勤）、小暮幸治（非常勤）、三森弓恵（非常勤）、田中美絵（非常勤）、赤川多美子（非常勤）、近澤輝人（非常勤）、田島千佳子（非常勤）、森本則子（非常勤）、*菅井麻未（非常勤・育休中）*
事務ユニットの業務については、第一部　概要　８事務局（ア）④参照

２　外部機関との連携

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター、東京都医学総合研究所、東京都立産業技術研究センター、首都大学東京、大阪大学、神奈川県立保健福祉大学、早稲田大学、東京医科歯科大学など

３　活動概要

1. 新規医療研究開発に関する相談
2. 開発早期からの知財戦略に関する相談
3. 臨床試験の立案、文書作成、体制構築、マネジメント等の相談および支援
4. 企業とのパートナリング、ライセンス契約支援
5. 再生医療、先端医療、IoT×AI、医療機器などに関する研究
6. 健康データ科学分野に関連する研究
7. トランスレーショナル・リサーチ課題研究助成金の配布及び執行管理
8. 東京バイオマーカー・イノベーション技術研究組合（TOBIRA）等の活動支援

４　実績

＜産学連携・知財部門＞

1. 特許等状況
   特許：登録2件、出願13件、
   商標：登録0件、出願0件、知財収入：9件
2. 職務発明審査会11回（うち臨時書面開催2回）
3. 契約：秘密保持契約7件、成果有体物提供契約4件、覚書3件、実施等許諾契約1件

＜研究推進部門＞

研究倫理から病院倫理まで倫理審査の事務局を一括で管理し、あらゆる倫理審査に対応した。特に研究倫理は研究所部門の申請も一部対応したことや､外部からの審査依頼に対応したため審査件数は増加した。

一方、特定臨床研究は当センターで実施する研究が増え、CRCがサポートする案件が増加した。CRCがサポートすることで研究が適正に実施され、研究の質の確保につながっている。この他、倫理審査前の研究相談については、プロトコールや同意説明文書の作成支援から、データマネジメントまで対応した。院内でモニタリングを実施し、当センターで行う介入研究にはモニタリング担当者を配置し、定期的なモニタリングを行った。次年度以降も、モニタリングや監査の相談を受け付け、適切なアドバイスができるよう支援するとともに、データマネジメントも強化して、より適切に研究が実施されるようサポートする。

また、研究者には、研究倫理研修の受講を促し、研究を適正に実施できるよう研究者の教育活動を強化した。

1. 治験・特定臨床研究の進捗状況及び製造販売後調査実施状況
   1）企業主導治験の進捗状況：19 試験
      内訳　組入進行中：6 試験、組入終了：2 試験、終了：11 試験
   2）医師主導治験：1 試験
   3）製造販売後調査：47 件（実施中のみ）
   4）特定臨床研究：10 試験
      内訳　組入進行中：6 試験、組入終了：4 試験

2. 各種委員会審査実績
   1）治験審査委員会　審査件数：223 件　報告件数：49 件
   2）認定臨床研究審査委員会　審査件数：42 件　報告件数：8 件
      内訳　当センター：20 件、小児：14 件、多摩総合 8 件
   3）研究倫理審査委員会　審査件数：224 件　報告件数 31 件
   4）研究所部門倫理委員会　審査件数：86 件
   5）未承認新規医薬品等評価委員会　審査件数：17 件
   6）高難度新規医療技術評価委員会　審査件数：4件
3. 臨床研究支援実績
   1）CRC 支援（被検者対応、症例報告書作成等）：12 試験
   2）EDC 構築：2 試験
   3）モニタリング支援：1 試験
   4）その他研究相談等：10試験

５　研修・教育活動

＜産学連携・知財部門＞

法人の効果的な知的財産創出を支援するため､講演会を開催し職務発明に対する意識高揚を図っている。

講演会開催

● 産学連携におけるアカデミアと企業の役割と責任について～なぜ企業はアカデミアにお金を支払う必要があるのか～（櫻井政考）

● 基礎ネタを本当に社会実装させませんか？ ～実用化研究で必須な「商品化(Commercialize) 」という呪縛を解く～（芝﨑太）
● 統計ソフト講習会4回（田中紀子）
(STATA1回、JMP3回)

＜研究推進部門＞
倫理指針では、研究の実施に先立ち、教育・研修を受けることが義務付けられている。このため、研究倫理研修の開催及びe-leaningの受講を研究者に求めている。

研究倫理研修開催状況
令和元年度　研究倫理研修開催実績及び出席者数
●第１回　参加者 76 人（出席者 73 名、DVD3 名）
令和元年 5 月 21 日　演者　浅野　健人
「臨床研究法の実際と大阪大学医学部附属病院の対応」

●第２回　参加者100人（出席者51名、DVD49名）
令和元年7月24日　演者　渡邉　達也
臨床研究に関する最新の動向と研究倫理(基礎編)

●第３回　参加者29人（出席者27名、DVD2名）
令和元年9月25日　演者　友次　直輝
臨床研究データの品質管理と品質保証

●第４回　参加者　32人（出席者31名、DVD1名）
令和元年10月28日　演者　宮守　康夫
研究に係る損害保険契約について

論文・学会発表
１　学会発表
（1）海外（国際：６学会）
1. Mieno M, Tanaka N, Ishikawa S, Arai T, Sawabe M. Censored quantile regression model for competing events with long follow-up period. International Society of Clinical Biostatistics. Leuven. Belgium. July. 2019.
2. Uemura Y, Shinozaki T, Tanaka N. The International Society for Biopharmaceutical Statistics シンポジウム　招待講演「Instrumental variable analysis in clinical trials incorporating patient registry databases as controls」京都、2019.8.29.
3. Nobuo Kanai. Quality control test for human epithelial cell sheet. TERMIS EU 2019, Rhodes, Greece, 2019/5/30
4. Nobuo Kanai, K. Ohse. Development of quality control test for autologous somatic epithelial cell sheet. Cell Symposia 2020, San Francisco, 2020/3/2
5. Hashimoto Y, Watanabe S, Nonaka K, Koike T, Hasebe M, Murayama Y, Suzuki H, Fukaya T, Kobayashi E, Fujiwara Y. Relationship between types of elderly living alone and their mental health of social role, 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, 2019.23-27
6. Kobayashi E, Fukaya T, Okamoto S, Liang J. Living alone and psychological well-being among older adults in Japan, 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, Taipei, 2019.23-27

（2）国内（１３学会）
1. Yasushi Fuchimoto, Nobuo Kanai. FIH on autologous cultivated oral mucosal epithelial transplantation in anastomotic stenosis in postoperative congenital esophageal atresia.

第 119 回日本外科学会定期学術集会，大阪，2019/4/19 国内学会、シンポジウム
2. 金井信雄：実用化が進む医科領域での細胞治療、第 62 回秋季日本歯周病学会学術大会、北九州、2019/10/25
3. 深谷太郎、小林江里香：高齢者におけるインターネットと電子メールの利用状況の変化　～縦断調査の結果より～、日本老年社会科学会第61回大会、仙台、2019.6.7-8
4. 小林江里香，深谷太郎，菅原育子，Jersey Liang：仕事からの引退年齢の上昇が社会活動への参加に及ぼす効果 ～全国高齢者の縦断調査データによる検証～、日本老年社会科学会第61回大会、仙台、2019.6.7-8
5. 岡本翔平，小林江里香，深谷太郎，村山洋史，菅原育子，新開省二：高齢期の就労が健康行動に与える影響 ～疑似実験的アプローチによる分析～、日本老年社会科学会第61回大会、仙台、2019.6.7-8
6. 西中川まき，長谷部雅美，村山　陽，松永博子，西真理子，深谷太郎，成田美紀，小林江里香，藤原佳典：地域高齢者における就労および趣味・ボランティア活動と健康度自己評価との関連、日本老年社会科学会第61回大会、仙台、2019.6.7-8
7. 小林江里香、村山洋史、深谷太郎、岡本翔平、石崎達郎、Jersey Liang、新開省二：全国高齢者代表サンプルにおけるFrailtyの5年間の変化と社会・心理的要因、第61回日本老年医学会学術集会、仙台、2019.6.7-8
8. 深谷太郎、小林江里香：高齢者のICT利用状況の変化要因について　～縦断調査データを用いて～、日本社会福祉学会　第67回秋季大会、大分、2019.9.21-22
9. 橋本由美子、渡辺修一郎、野中久美子、小池高史、長谷部雅美、村山陽、鈴木宏幸、深谷太郎、小林江里香、藤原佳典：独居高齢者の配偶関係からみた類型と精神的健康状態および社会的役割との関連、第14回日本応用老年学会大会、京都ノートルダム女子大学、2019.10.19-20
10. 相良友哉・深谷太郎・大澤絵里・藤原佳典：効果的な他分野連携が見られる高齢者を対象とした保健センター事業の類型化、第14回日本応用老年学会大会、京都ノートルダム女子大学、2019.10.19-20
11. 深谷太郎、相良友哉、大澤絵里、中板育美、藤内修二、尾島俊之、村山洋史、村中峯子、松永洋子、清水由美子、藤原佳典：包括的支援体制構築に向けた保健センターと他分野の連携に関する研究（1）量的研究、第78回日本公衆衛生学会総会、高知、2019.10.22-25
12. 相良友哉、深谷太郎、大澤絵里、中板育美、藤内修二、尾島俊之、村山洋史、村中峯子、松永洋子、清水由美子、藤原佳典：包括的支援体制構築に向けた保健センターと他分野の連携に関する研究（2）質的研究、第78回日本公衆衛生学会総会、高知、2019.10.22-25
13. 岡本翔平、小林江里香、深谷太郎、村山洋史、新開省二：中高年者の認知機能低下における男女差の要因分析、第78回日本公衆衛生学会総会、高知、2019.10.22-25

２　誌上発表

（1）論文（原著）

1. Sjoqvist S, Kasai Y, Shimura D, Ishikawa T, Ali N, Iwata T, Kanai N. Oral keratinocyte-derived exosomes regulate proliferation of fibroblasts and epithelial cells. Biochemical and biophysical research communications. 514(3) 706-712. 2019 （原著、査読あり）(IF:2.559)
2. Sjöqvist S, Ishikawa T, Shimura D, Kasai Y, Imafuku A, Bou-Ghannam S, Iwata T, Kanai N. Exosomes derived from clinical-grade oral mucosal epithelial cell sheets promote wound healing. Journal of extracellular vesicles. 8(1) 1565264. 2019 (原著、査読あり) (IF:11.00)
3. Nakano M, Kubo K, Shirota Y, Iwasaki Y, Takahashi Y, Igari T, Inaba Y, Takeshima Y, Tateishi S, Yamashita H, Miyazaki M, Sato H, Kanda H, Kaneko H, Ishii T, Fujio K, Tanaka N, Mimori A. Delayed lupus nephritis in the course of systemic lupus erythematosus is associated with poorer treatment response: a multi-center, retrospective cohort study in Japan. Lupus. 2019. 28(9):1062-1073.
4. Ishizaki T, Kobayashi E, Fukaya T, Takahashi Y , Shinkai S, Liang J. Association of physical performance and self-rated health with multimorbidity among older adults:

Results from a nationwide survey in Japan.、Archives of Gerontology and Geriatrics、2019.6.26（原著、査読有り）（IF：2.61、2019）

5. ◎Yamasaki M, Makino T, Khor SS, Toyoda H, Miyagawa M, Liu X, Kuwabara H, Kano Y, Shimada T, Sugiyama T, Nishida H, Sugaya N, Tochigi M, Otowa T, Okazaki Y, Kaiya H, Kawamura Y, Miyashita A, Kuwano R, Kasai K, Tanii H, Sasaki T, Honda M, Tokunaga K. Sensitivity to gene dosage and gene expression affects genes with copy number variants observed among neuropsychiatric diseases. BMC Medical Genomics. 2020. (In Press)

Ⅲ　長期縦断研究等

SONIC研究

プロジェクトリーダー：石崎達郎

1　研究計画に基づく研究項目と年度別計画

<table>
<tr><td>研究項目（目標）</td><td colspan="5">年度別計画</td></tr>
<tr><td rowspan="4">前期高齢者から100歳以上高齢者までに至る高齢期全体を対象とした、身体・生理機能、認知機能、感情状態、心理的well-beingの経年変化と関連要因に関する総合的・包括的検討する。</td><td>平成25年度</td><td>平成26年度</td><td>平成27年度</td><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td></tr>
<tr><td>①70歳コホート追跡調査１（73歳：1000人）②同コホート追加サンプリング調査</td><td>①80歳コホート追跡調査１（83歳：973人）、②同コホート追加サンプリング調査</td><td>①2012年90歳コホート追跡調査１(93歳:272人)、②2012年90歳コホート追加サンプリング調査、③2015年90歳コホート初回調査</td><td>①70歳コホート追跡調査２（76歳：1229人）</td><td>①80歳コホート追跡調査２（86歳：1213人）</td></tr>
<tr><td>2018 年度
（平成30年度）</td><td>2019 年度
（令和元年度）</td><td>2020 年度</td><td>2021 年度</td><td>2022 年度</td></tr>
<tr><td>①2012年90歳コホート追跡調査２(96歳:329人)、②2015年90歳コホート追跡調査１（93歳：268人）・追加サンプリング調査、③2018年90歳コホート初回調査</td><td>①70歳コホート追跡調査３（79歳：1229人）</td><td>①80歳コホート追跡調査３（89歳：1213人）</td><td>①2012年90歳コホート追跡調査３(99歳:329人)、②2015年90歳コホート追跡調査２（96歳：約290人)、③2018年90歳コホート追跡調査１（93歳：約250人）</td><td>①70歳コホート追跡調査４（82歳：1229人）</td></tr>
</table>

2　研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
福祉と生活ケア研究チーム 石崎達郎	福祉と生活ケア研究チーム 増井幸恵、吉田祐子、堀紀子 自立促進と介護予防研究チーム 稲垣宏樹、小川まどか 老化機構研究チーム 三浦ゆり	慶応義塾大学 新井康通、高山緑、石岡良子 大阪大学 権藤恭之、池邉一典、神出計、安元佐織 日本学術振興会特別研究員・国立長寿医療研究センター 中川威 早稲田大学文学部：小野口航

3　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

①令和元年度に実施する調査について

令和元年度は、平成22年、25年、29年に実施した70歳コホート調査参加者の追跡調査（今年度：79±1歳）を会場健診型調査で実施した。調査計画は別紙4の計画通りに順調に実施されている。

また、これまで収集してきたデータについて分析を進め、①糖尿病性認知症および運動機能低下のバイオマーカー探索、②多剤処方の背景要因の解明と健康状態に対する影響の検討、③運動機能の低下を防御

する心理・社会学的因子の解明、④精神的健康の低下を防御する心理・社会学的防御因子の解明について知見を産出し、学会や学術論文で発表を行った。

【その根拠】

本年度の調査計画については、12月1日までに関東地区、関西地区の全地域で完了した。これまでの調査参加者1229人中、2019年に対象地域に在住していることが確認された1052人に郵送にて会場招待型調査の依頼を行った。その結果、550人が参加した（参加率52.3%）。今回の追跡調査の非参加者に対して郵送調査及び電話調査によるフォローアップを3月までを目途に実施する。

知見の産出について

①糖尿病性認知症および運動機能低下のバイオマーカー探索については、SONIC縦断研究の検体を用いて、解析対象の血漿サンプルについて蛍光標識二次元電気泳動法によるプロテオーム解析を行い、バイオマーカー候補タンパク質を明らかにした。この知見については、第63回日本薬学会関東支部大会にて報告した。

②多剤処方の背景要因の解明と健康状態に対する影響の検討については、地域在住高齢者を対象に多剤処方による生活機能などへの健康状態に及ぼす影響および多剤処方の背景要因を検討した。また、多剤処方に至る背景要因を検討する目的で心理的側面に着目し、多剤処方者の性格特性を検討した。この結果は、第62回日本老年医学会学術集会、The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress、日本老年社会科学会第61回大会、日本心理学会第83回大会にて報告した。

③運動機能の低下を防御する心理・社会学的因子の解明については、性格特性が健康アウトカムとしての運動機能に、どのような媒介要因を経由して影響するかを検討した。この結果については、The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congressにて報告した。

④精神的健康の低下を防御する心理・社会学的防御因子の解明について、高齢期の価値観の変化である老年的超越の高さが3年後の精神的健康の縦断的変化に影響を与えるかについて検討した。この結果をまとめた論文は、査読付き論文として老年社会科学誌で発表された。

虚弱（frailty）の予防戦術の解明を目的とした長期縦断研究

プロジェクトリーダー：北村明彦

1　研究計画に基づく研究項目と年度別計画

<table>
<tr><th>研究項目（目標）</th><th colspan="5">年度別計画</th></tr>
<tr><td rowspan="3">(1)長期の経時的蓄積データを用いたフレイル・要介護化の危険因子の解明（詳細な調査・検査データによる分析）

(2)高齢者総合的機能評価やRCT（Randomized Controlled Trial）に基づく地域での介護予防対策の実施と評価

以上の成果をもって、東京都におけるヘルシー・エイジング社会の推進に資する「効果的な虚弱の予防戦術の立案」を行う。</td><td>平成25年度</td><td>平成26年度</td><td>平成27年度</td><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td></tr>
<tr><td>・草津町会場調査
・鳩山コホート郵送調査</td><td>・草津町会場調査
同悉皆調査
・鳩山コホート会場調査</td><td>・草津町会場調査
・鳩山コホート郵送調査</td><td>・草津町会場調査
・鳩山コホート会場調査</td><td>・草津町会場調査
同悉皆調査
・鳩山コホート郵送調査</td></tr>
<tr><td>2018 年度
（平成30年度）</td><td>2019 年度
（令和元年度）</td><td>2020 年度</td><td>2021 年度</td><td>2022 年度</td></tr>
<tr><td></td><td>・草津町会場調査
・鳩山コホート会場調査（終了）
・データ分析、成果公表、社会還元
・ツールの開発、実装化</td><td>・草津町会場調査
・鳩山健診調査（新規）
・データ分析、成果公表、社会還元
・ツールの開発、実装化</td><td>・草津町会場調査
同悉皆調査
・鳩山健診調査
・データ分析、成果公表、社会還元
・ツールの開発、実装化
（中間評価）</td><td>・草津町会場調査
・鳩山健診調査
・データ分析、成果公表、社会還元
・ツールの開発、実装化</td><td>・草津町会場調査
・鳩山健診調査
・データ分析、成果公表、社会還元
・ツールの開発、実装化
（研究の総括）</td></tr>
</table>

2　研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
社会参加と地域保健研究チーム 北村明彦	社会科学系副所長 新開省二 社会参加と地域保健研究チーム 野藤悠、西真理子、天野秀紀、清野諭、横山友里、成田美紀、遠峰結衣、阿部巧、山下真里、藤原佳典、鈴木宏幸、桜井良太、飯塚あい 自立促進と精神保健研究チーム 平野浩彦、小原由紀、本川佳子 福祉と生活ケア研究チーム 石﨑達郎、光武誠吾、池内朋子 自然科学系副所長 重本和宏 老化制御研究チーム 藤田泰典、石神昭人 老年病態研究チーム 周赫英 神経画像研究チーム 石井賢二	顧問 稲松孝思 フレイル外来 荒木厚、田村嘉章、豊島堅志、石川譲治 眼科 沼賀二郎 放射線診断科 徳丸あや 腎臓内科 武井卓、板橋美津世、山中法子 日本補綴歯科学会 窪木拓男、玉置勝司 東京農業大学 川野因 国立環境研究所 谷口優 ヴィデビムス虎ノ門クリニック 児島剛太郎 東京理科大学 篠崎智人 日本大学 陣内裕茂 順天堂大学 野田愛 大阪がん循環器病予防センター 木山昌彦 新潟県立大学 田邊直仁 筑波大学 山岸良匡

３　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

本長期縦断研究は、東京都におけるヘルシー・エイジング社会の推進に資する「高齢者の虚弱化の予防戦術の立案」を目標とし、その予防戦術の根拠となる学術的に質の高いエビデンスの構築、曝露因子の長期影響や経年変化の解明、中長期的な地域対策の効果判定を行うことが目的である。そのための基礎的研究として、系統的かつ精度の高い疫学研究が可能である草津町と鳩山町において、１）長期の経時的蓄積データを用いた虚弱・要介護化の危険因子の解明（詳細な調査・検査データによる分析）、応用研究として、２）高齢者総合的機能評価やRCT（Randomized Controlled Trial）に基づく地域での虚弱予防対策の実施・評価に取り組んだ。今年度もデータ取得、分析、研究成果の公表に注力して研究に取り組み、一定の成果を挙げた。

【その根拠】

草津町では、研究の中核を成す高齢者健診を2019年7月2日～6日に所内外の関係機関と協働で実施した。受診者数は昨年度と同程度の752人に達した（同町の高齢者人口の約1/3）。そして、2002年以降の蓄積データと併せて累積1,1018人の縦断型データセットを構築した。アウトカムデータとしては、2018年までの異動情報、介護保険情報、医療保険情報及び死因の提供を受けた。また、高齢者健診の個人結果票を改訂し、高齢者が見やすく理解しやすい形式とした。本結果表は、高齢者総合的機能評価の先駆的なアウトプットと位置づけられ、他地域での高齢者健診にも応用可能である。

鳩山町では、65歳以上の集団健診受診者819人を対象にフレイル評価を行い、機能チェックフィードバック票、行動変容を促すリーフレット、行動記録表を返却した。また、アウトカムデータとして、2018年までの異動情報と後期高齢者医療保険情報、介護保険情報及び死因の提供を受けデータセットを更新し、フレイル改善教室への参加が介護発生と介護給付費に及ぼす影響を明らかにした。

虚弱・要介護化の危険因子の解明については、自立喪失発生（要介護認定・死亡）、認知症発生、医療費・介護費、フレイル、サルコペニア、 抑うつ等をアウトカムとして、生活習慣病要因、身体機能、認知機能，高次生活機能、口腔機能、BMI、体組成、腎機能、食品摂取多様性、食事パターン、各種食品の摂取頻度、地域環境が及ぼす長期的な影響について縦断的な解析を行い、順次結果の公表（学会発表、誌上発表等）につなげた。

本長期縦断研究に関連した外部研究費として、基盤Ｂ「高齢者の健康余命に及ぼすフレイルと生活習慣病の中長期的影響の解明」（代表）、挑戦的（萌芽）「要介護認定で見られる「認知症」の発症前過程に基づく類型化と類型別予防法の検討」（代表）、若手研究「改良版食品摂取の多様性得点の開発と妥当性および有用性の検討」（代表）、基盤B「要介護認知症の介入可能な促進・抑制因子解明のための大規模コホート共同研究」（分担）、基盤B「要介護認定に至るリスクおよび認定後の進行過程の多様性：多施設共同研究」（分担）、長寿医療研究開発費「長寿コホートの総合的研究」（分担）等を獲得した。

草津町研究から得られた主な知見は以下の通りである。

- 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施が進められる中、生活習慣病やフレイル関連因子が地域在住高齢者の自立喪失に及ぼす影響の大きさ（寄与危険度割合）を検討した結果、自立喪失への寄与危険度割合はフレイルが12%、プレフレイルが19%と生活習慣病の各因子よりも圧倒的に高値を示した。すなわち、地域高齢者の健康余命の延伸のためにフレイル対策が有効であることが示唆された。
- 悉皆調査（郵送及び訪問）回答者（回答率81%）と高齢者健診受診者（受診率33%）間でフレイルの頻度（介護予防チェックリスト4点以上）を比較した結果、いずれの年齢区分においても、フレイルの頻度は悉皆調査の方が健診よりも3～11ポイント高率であった。このことから、健診受診者のみならず、健診を受けない人にも及ぶようなフレイル対策の必要性が確認された。
- 多様な食品摂取、および魚、大豆製品、いも、野菜、きのこ、海藻、果物、緑茶の高摂取と米飯の低摂取の食事パターンは、うつ症状のリスク低下に関わっていた。
- 歩行速度の低下は直接的に要介護認定と関連し、総死亡には身体活動量の低下を介して間接的に関連していた。
- 高齢健診受診者は、暦年齢よりも平均7%の年齢分若いと感じていた。また、若い主観年齢が将来的な歩行速度の低下抑制と関連することが示された。

鳩山町研究から得られた主な知見は以下の通りである。

- 3ヶ月間のフレイル改善プログラムによる介入後の32か月間の追跡により、要介護・死亡リスクおよび介護給付費に及ぼす影響を検討した結果、フレイル改善プログラムへの参加が要介護発生リスクおよび介護給付費を抑制する可能性が示唆された。

草津町と鳩山町の統合研究から得られた主な知見は以下の通りである。

- AWGS（Asian Working Group for Sarcopenia）2014の診断基準による65歳以上のサルコペニアの年齢調整有病率は、草津町男性で10.2%、同女性で16.9%、鳩山町男性で3.8%、同女性で11.6%と地域差を認めた。サルコペニアの関連因子としては、男性では喫煙と少ない外出、女性では認知機能低下と抑うつと有意の関連を認めた。
- BMI低値は女性の総死亡の有意の危険因子であった。男女とも、除脂肪および骨格筋指数と総死亡リスクとの間には、有意な負の量・反応関係が認められた。

板橋お達者健診（コホートおよび介入研究）

プロジェクトリーダー： 金憲経

1　研究計画に基づく研究項目と年度別計画

研究項目（目標）	年度別計画				
高齢期における健康と生活機能の自立の維持を阻害する因子を把握し、これらに基づいて老年症候群を予防するためのRCT介入研究を実施する。得た成果を地域に普及し、健康期間の延伸に寄与する。	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	※2011年、既存コホート（対象者追加）追跡調査	※既存コホート追跡調査 ※2011年コホート対象者への介入研究	※2011年コホート（対象者追加）追跡調査	※既存コホート追跡調査 ※2011年コホート対象者への介入研究	※2011年コホート（対象者追加）追跡調査
	2018 年度 （平成30年度）	2019 年度 （令和元年度）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
	①2008年コホート追跡調査 ②2011年コホート追跡調査 ③郵送追跡調査 ④2017年コホート追加調査 ⑤データ解析及び成果公表	①2011年コホート（対象者追加）追跡調査 ②郵送追跡調査 ③2017年コホート（対象者追加）追跡調査 ④介入対象者選定及び介入 ⑤データ解析及び成果公表	①2011年コホート（対象者追加）追跡調査 ②郵送追跡調査 ③データ解析及び成果公表	①2011年コホート（対象者追加）追跡調査 ②郵送追跡調査 ③2017年コホート（対象者追加）追跡調査 ④データ解析及び成果公表	①2011年コホート（対象者追加）追跡調査 ②郵送追跡調査 ③データ解析及び成果公表

2　研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
自立促進と介護予防研究チーム 金憲経	社会参加と地域保健研究チーム 藤原佳典、鈴木宏幸 自立促進と精神保健研究チーム 小原由紀、笹井浩行、小島成実、枝広あや子、大須賀洋祐、那須郁夫 福祉と生活ケア研究チーム 大渕修一、河合恒、吉田祐子 老化制御研究チーム 石神昭人 神経画像研究チーム 石井賢二	糖尿病・代謝・内分泌内科 荒木厚 歯科口腔外科 平野浩彦 桜美林大学 鈴木隆雄 国立長寿医療センター研究所 島田裕之 人間総合科学大学 熊谷修 弘前大学 井原一成 東京医療学院大学 小島基永 高崎健康福祉大学 解良武士 埼玉県立大学 西原賢 北海道大学 渡邊裕

3　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

①コホート調査

a. 2017年コホート（65歳～）の2年目の追跡調査を実施した。追跡不参加者に対する郵送調査を実施する予定である。
b. 2011年コホートの追跡調査を行った。また、板橋フィールドの郵送調査を行った。
c. 2019年コホートの新規調査を開始した。

②コホートデータ分析研究

a. 運動種目とADL障害の発症との関連性を縦断分析し、学術誌に掲載した。
b. サルコペニアの程度を連続的に評価できるサルコスコアを所内統合データを利用して新たに開発し、生活機能障害発生に対する予測能を検討し、学術誌に投稿した。また、そのアルゴリズムについては**特許申請準備中**である
c. SARC-F関する妥当性を検討し、学術誌に掲載した。
d. 最大呼気流量に基づき、呼吸器サルコペニアを定義し、国際誌に掲載した。
e. 高齢者の社会参加と孤立感との関連性を縦断的に分析し、国際誌に掲載した。
f. 糖尿病既往やHbA1cと転倒との関連性を分析し、国際誌に投稿した。
g. オーラルフレイルと社会的フレイルとの関連性を検証し、投稿予定である。
h. 新たな二重課題検査法であるS-TMTの信頼性と構成妥当性を検討し､学術誌に投稿し､査読中である。
i. お達者健診データの一部はAMED地域コホートデータとして提供する。

【その根拠】

①コホート調査

a. 2017年コホートの2年目の追跡調査を9月2日～9月11日（8日間）に行い760名のデータを収集した。会場調査不参加には、2020年1月に郵送調査を行う予定で、準備を進めている。
b. 2011年コホートの追跡調査を9月29日～10月6日に行い720名のデータを収集した。また、板橋フィールドにおける深掘り郵送調査4,200名を対象に行い、返送者は2,500名（約60%）であった。
c. 2019年新規コホート調査を2019年9月12日～25日に行い757名のデータを収集した。

②コホートデータ分析研究

a. 2007～2008年のお達者健診参加者のうち、ADL障害がない1,003名を8年間追跡し、運動種目とADL障害発生との関連性を分析した。その結果を**Scand J Med Sci Sports誌（29: 400-406、2019）**に掲載した。
b. BADL・IADL障害発生に対するサルコスコアの予測能をAWGS基準と比較分析し、Age & Aging誌の査読中である。
c. 日本人地域高齢者を対象にSARC-Fの妥当性を検討し、**GGI誌（19: 1172-1178、2019）**に掲載した。
d. 呼吸器サルコペニアを定義するために､最大呼気流量のROC曲線より最大呼気流量の閾値を算出した。その結果を**JAMDA誌（20: 1021-1025、2019）**に掲載した。
e. 地域活動、シニアクラブ活動、趣味活動、スポーツ活動と孤立感との関連性について、縦断データを分析し、**PLOS ONE誌（14(9): e0222887、2019）**に掲載した。
f. HbA1c、境界型糖尿病、糖尿病と複数回転倒との関連性を分析した。その結果をJDIC誌に投稿し、現在査読中である。
g. オーラルフレイルと身体的・社会的フレイルとの関連性を分析し、投稿準備中である。
h. 高島平コホート参加者1,243名のS-TMTを分析したところ、運動機能としては移動性を、認知機能としては視覚依存の実行機能を総合評価する二重課題であることを明らかにし、**GGI誌に投稿し、minor revision中**である。
i. 2019年の新規登録のために、757名のデータを収集した。

認知症を中心とした老年医学・老年学研究のプラットフォームの構築（高島平長期縦断研究）

プロジェクトリーダー： 新開省二

1　研究計画に基づく研究項目と年度別計画

<table>
<tr><th>研究項目（目標）</th><th colspan="5">年度別計画</th></tr>
<tr><td rowspan="3">① 認知症を中心とした老年医学・老年学研究のプラットフォームの構築
② 病院および自然科学系部門と連携した共同研究の推進
③ エイジングインプレイスを実現するための革新的な老年学研究
④ 健康長寿延伸ビジネスの創出に寄与</td><td>2018 年度
（平成30年度）</td><td>2019 年度
（令和元年度）</td><td>2020 年度</td><td>2021 年度</td><td>2022 年度</td></tr>
<tr><td>・板橋区と包括連携協定を締結（連携事業に明記）

・2年前の会場招聘型調査を受けた1,300人に対する追跡調査

・板橋区の個人情報保護審査会（3月開催）に向け書類等を準備</td><td>・対象地域在住の65歳以上全員を対象とした郵送調査

・2018年の対象者の健康アウトカム（死亡、転出、要介護）の把握</td><td>・会場招聘型調査（通常の健診項目＋総合的機能評価）

・2018、19年の対象者の健康アウトカム（死亡、転出、要介護）の把握</td><td>・対象地域在住の65歳以上全員を対象とした郵送調査

・2018～2020年の対象者の健康アウトカム（死亡、転出、要介護）の把握</td><td>・会場招聘型調査（通常の健診項目＋総合的機能評価）

・2018～21年の対象者の健康アウトカム（死亡、転出、要介護）の把握</td></tr>
<tr><td colspan="4">認知症やフレイルのリスクを有するもの、単独世帯で孤立しがちなものや生活困窮者などを抽出し、各種介入研究を実施（内容、実施時期などは未定）</td></tr>
<tr><td colspan="4">病院および自然科学系部門と連携した共同研究の推進、エイジングインプレイスを実現するための革新的な老年学研究（内容、実施時期などは未定）</td></tr>
</table>

2　研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
社会科学系副所長 新開　省二	社会参加と地域保健研究チーム 北村明彦、横山友里、成田美紀 自立促進と精神保健研究チーム 栗田主一、稲垣宏樹、平野浩彦、小原由紀、本川佳子、金憲経 福祉と生活ケア研究チーム 大渕修一、河合恒 老化制御研究チーム 石神昭人	腎臓内科 武井卓、板橋美津世 HAIC研究ユニット 金井信雄

3　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

予定よりも少し遅れているが、以下の点で進展があった。

・本研究の対象者に関する個人情報の提供について、板橋区個人情報保護審査会で承諾が得られた（2019年3月）。

・本研究の対象者（高島平1～5丁目に住所を有する年齢が65歳以上の全高齢者、約1.1万人）に対するアンケート調査（郵送および訪問式）の準備が整い、2020年1月から実施される予定である。

・本研究の板橋区サイドの担当部署である「おとしより保健福祉センター」とは、本研究の推進のため連携体制を強化していくことになった。

【その根拠】

・昨年、板橋区との間で包括連携協定を締結し、その中で本研究を連携しておこなう事業の一つに位置付けることができた。また、区側の担当部署として「板橋区おとしより保健福祉センター」が指名され、同センターを窓口として研究対象者に関する個人情報の開示に向けて、さまざまな書類を板橋区に提出

していたが、2019年3月、最終的な承認を得ることができた。これにより2022年度まで年度ごと、対象地域の年齢が65歳以上の全住民の個人情報、異動情報および介護保険情報が得られる。これにより、研究に必要な郵送・訪問調査や会場招聘型調査への案内が可能となり、また、そこで得られたデータと健康アウトカム（死亡、転出、要介護）とのリンケージにより、「大都市部高齢者の健康長寿の要因の解明」に向けた研究が飛躍的に進むことが期待される。

注）区から提供される個人情報
対象地域（高島平1～5丁目）（※の2項目は、2019年度は提供しない）
氏名、住所、性別、生年月日、要介護認定状況、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活、自立度、介護保険サービスの利用状況、※異動事由、※死亡年月日、被保険者番号
対象外地域（2019年度のみ）
住所（対象外地域は丁目まで）、性別、生年月日、要介護認定状況、障害高齢者の日常生活自立度、認知症、高齢者の日常生活自立度、介護保険サービスの利用状況

提供の頻度：対象地域については、2019年度から2022年度までの4回（各年7月1日付）、対象外地域については2019年度（7月1日付）のみ1回

・本年度に入り、調査票の設計（6月、7月）、倫理委員会での審査（8月）、住民向け説明会の開催（10月末）と、アンケート調査に向けて準備を進めた。しかし、種々の理由から調査業務を委託する業者の選定が遅れ、11月を予定していた調査実施が2020年1月にずれ込むことになった。
・本年度のアンケート調査の実施については、5月23日に開催した「H30高島平（会場）調査結果報告会」において参加者にアナウンスをするとともに、一般住民向けの説明会を別途、10月28日、30日の2日間（各日午前と午後の2回、合計4回）実施した。ただ、後者への参加者は極めて少なかった。
・そのため、12月16日に板橋区おとしより保健福祉センターと今後の対応を協議した。その際、本研究事業を含む「高島平 健康長寿のまちづくり研究事業」の全体像を提示するとともに、それをCommunity-based participatory research（CBPR）とするために、今後は、協議体を設立することや、住民への調査結果の還元（個人結果票の返却、健康教室の開催（＝介入研究として実施）、通信の発行など）を考えていることを説明し、理解と協力を求めた。

全国高齢者の健康と生活に関する長期縦断研究（JAHEAD）

プロジェクトリーダー：小林江里香

1　研究計画に基づく研究項目と年度別計画

研究項目（目標）	年度別計画				
	2018 年度 （平成30年度）	2019 年度 （令和元年度）	2020 年度	2021 年度	2022 年度
①高齢期の健康・生活の縦断的変化と関連要因の解明 ②全国高齢者代表標本におけるフレイル出現率と個人・地域間格差 ③高齢者の研究手法の開発 ④データの公開と利用促進	・第9回を含む縦断データ構築 ①②③データ解析・公表 ④第7回データ公開、セミナー開催	・第9回調査研究報告書 ①②③データ解析・公表 ④二次分析研究会の開催	・第10回調査実施（20または21年） ①②データ解析・公表 ③体力・身体測定手引きの公開	・第10回調査実施（20または21年） ①②③データ解析・公表 ④第8回データ公開、セミナー開催	・第10回を含む縦断データ構築（前年度の可能性あり） ①データ解析・公表

2　研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
社会参加と地域保健研究チーム 小林　江里香	副所長 新開省二 社会参加と地域保健研究チーム 村山陽、岡本翔平 福祉と生活ケア研究チーム 石崎達郎、平山亮 HAIC研究ユニット 深谷太郎	東京大学 秋山弘子、菅原育子、村山洋史 ミシガン大学 Jersey Liang 桜美林大学 杉澤秀博 首都大学東京 杉原陽子 早稲田大学 津田好美 慶應義塾大学 山田篤裕 実践女子大学 原田謙 学芸大学名誉教授 直井道子 プリンストン大学 James Raymo

3　令和元年度の研究成果

【令和元年度の進捗状況】

全体としてはおおむね計画通りに進んでいる。

【その根拠】

2017年に実施した第9回調査の研究報告書を作成し、第9回調査の対象や方法、単純集計結果などを報告するとともに、8編の論文を掲載した[1]。

課題別の取り組み状況は以下の通りである：

1）高齢期の健康・生活の縦断的変化と関連要因の解明
多病（multimorbidity：慢性疾患併存）と身体機能、主観的健康との関係に関する論文1件が公開された[2]。生活機能低下と社会経済的状態との関連に関する論文が掲載可となった[3]。また、認知機能の男女差に関して日本公衆衛生学会で発表した。
2）全国高齢者代表標本におけるフレイル出現率と個人・地域間格差
日本老年医学会学術集会で2件の報告を行い、うち1件については論文を投稿した。
3）高齢者の研究手法の開発
第9回調査で測定したデミスパン（胸骨の頚切痕から手の中指の根元までの長さ）について、本標本での身長の予測式を導出し、身長の補完方法としての有効性を検討した。また、第8回調査時に導入した、訪問調査による体力測定（握力・歩行）データについては、多病との関連やフレイル基準の検討を行う中で、有効性の検証を進めた。
4）データの公開と利用促進
2019年現在、第7回調査まで（1987～2006年）の個票データが、東京大学のSSJデータアーカイブ（https://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/）で公開されている。本データは、東京大学社会科学研究所が主催する2019年度二次分析研究会（参加者公募型）での使用データに選定され、「全国高齢者パネル調査による高齢期の健康と生活に関する二次分析」というテーマのもと、約15名の研究者が参加して分析を進めた。プロジェクトリーダー（小林）もアドバイザーとして参加し、本データの理解促進と研究支援に努めた。
さらに、国立成功大学（台湾）の研究グループと、公開データを用いた共同研究「健康と生活満足度の加齢変化における台湾と日本の比較研究」を進めた。6月に同大学で開催された国際シンポジウムでは、日本より参加したJAHEADメンバー3名が講演を行い、JAHEADを用いた研究を紹介した。

４　その他

調査のホームページ：https://www2.tmig.or.jp/jahead/

上記で引用した文献：

[1]東京都健康長寿医療センター研究所　社会参加と地域保健研究チーム：高齢者の健康と生活に関する縦断的研究－第9回調査（2017）研究報告書－，2020年1月
[2]Ishizaki T et al.: Association of physical performance and self-rated health with multimorbidity among older adults: Results from a nationwide survey in Japan. *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 84, September-October 2019, 103904.
[3] Murayama H et al.: Socioeconomic differences in trajectories of functional capacity among older Japanese: A 25-year longitudinal study. *Journal of the American Medical Directors Association*. (in press)

健康長寿のまちづくり研究事業（気仙沼モデルの創生）

気仙沼スタディ統括責任者：新開省二

気仙沼スタディ事務局長：菅原康宏

〈構成メンバー〉

表１．健康長寿のまちづくり研究事業（気仙沼モデルの創生）の運営体制（発足時）

研究所所属職員	役職	本研究における担当内容
新開 省二	副所長 ◆健康長寿のまちづくり研究事業（気仙沼モデルの創生）研究統括	研究統括責任者（気仙沼スタディ統括責任者）
菅原 康宏	社会参加と地域保健研究チーム（東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科兼務）　研究員（公認心理師） ◆健康長寿のまちづくり研究事業（気仙沼モデルの創生）事務局長◎ ◆気仙沼市健康長寿のまちづくり連携事業コーディネーター◎ ◆「気仙沼支援 医療・福祉関係５団体（以下、５団体）」事務長	1)事務部門の責任者（気仙沼スタディ事務局長） 2)子ども支援担当 3)気仙沼市との調整 4)「気仙沼支援 医療・福祉関係 5 団体」の運営及び交流支援活動の企画・調整
粟田 主一	自立促進と精神保健研究チーム　研究部長（チームリーダー）（現研究所副所長）	5)記録・保存 協力
石崎 達郎	福祉と生活ケア研究チーム　研究部長（チームリーダー）	
藤原 佳典	社会参加と地域保健研究チーム　研究部長（チームリーダー）	協力
大渕 修一	福祉と生活ケア研究チーム 研究部長 ◆東京都介護予防推進支援センター長 ◆５団体副代表	社会的ネットワーク担当 協力
島田 千穂	福祉と生活ケア研究チーム 終末期ケアのあり方テーマリーダー	
北村 明彦	社会参加と地域保健研究チーム 研究部長	協力
宇良 千秋	自立促進と介護予防研究チーム 研究員	協力
伊東 美緒	福祉と生活ケア研究チーム 研究員	協力
増井 幸恵	福祉と生活ケア研究チーム 研究員	協力
涌井 智子	福祉と生活ケア研究チーム 研究員	協力
江尻 愛美	（介護予防推進支援センター 研究員	協力
大須賀 洋祐	自立促進と精神保健研究チーム 研究員	協力）
清野 諭	社会参加と地域保健研究チーム 研究員	身体活動・運動担当
横山 友里	社会参加と地域保健研究チーム 研究員	地域診断・ニーズ調査担当
野藤 悠	社会参加と地域保健研究チーム 研究員	食・栄養担当
成田 美紀	社会参加と地域保健研究チーム 非常勤研究員	フレイル予防担当
倉岡 正高	社会参加と地域保健研究チーム 非常勤研究員	食・栄養担当
山下 真里	社会参加と地域保健研究チーム 非常勤研究員	社会的孤立担当
稲松 孝思	東京都健康長寿医療センター 顧問医師、研究所研究協力員	事務補佐、会計 協力

研究所所属職員以外	役職・所属機関等	本研究における担当内容
井藤 英喜	東京都健康長寿医療センター 理事長（現名誉理事長）	顧問
許 俊鋭	東京都健康長寿医療センター センター長	顧問
越坂部 剛	東京都健康長寿医療センター 事務部長	顧問
髙橋 龍太郎	医療法人社団 充会 多摩平の森の病院 院長 ◆けせんぬま復興アドバイザー ◎ ◆5 団体 代表	顧問
金丸 晶子	東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科部長 ◆5 団体 副代表	協力
平野 浩彦	東京都健康長寿医療センター歯科 口腔外科部長	協力
阪本 和嘉子	経営企画局事務部 経営企画課長 （健康長寿イノベーションセンター 事務ユニット長兼務）	協力
加藤 貴行	東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科医長	協力
熊木 陽平	東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科 理学療法士	協力
篠山 絵里奈	東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科 理学療法士	協力
樋口 和奏	東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科 理学療法士	協力
本田 拓也	東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科 作業療法士	協力
田中 春菜	東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科 言語聴覚士	協力
牧田 彩加	東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科 公認心理師	協力

◎気仙沼市からの任命あるいは依頼に拠る役職・役割

※「気仙沼支援 医療・福祉関係５団体」では、このほか日本老年行動科学会会長の大川一郎氏（筑波大学大学院教授）、医療法人社団つくしんぼ会理事長の鈩 裕和氏及び鶴見大学歯学部の飯田良平氏が副代表を務める。

※「気仙沼市 医療・福祉関係 5 団体」は下記で構成されている。
主催団体……「東京都健康長寿医療センター研究所」「日本老年医学会」「日本老年行動科学会」「医療法人社団つくしんぼ会」「獨協医科大学埼玉医療センター（旧獨協医科大学越谷病院）子どものこころ診療センター」「鶴見大学歯学部」「特定非営利活動法人 CE センター（NPO Child-rearing & Education support Center)」
共催団体……「気仙沼市」「一般社団法人気仙沼市医師会」「気仙沼地区地域医療委員会」「気仙沼市医療・介護連携センター」「気仙沼市社会福祉協議会」「気仙沼・南三陸介護サービス法人連絡協議会」「一般社団法人気仙沼歯科医師会」「気仙沼市立病院」

【健康長寿のまちづくり研究事業（気仙沼モデルの創生）にかかわる関係機関及び団体】

◆気仙沼市の関係機関・団体
・気仙沼市
・一般社団法人気仙沼市医師会
・気仙沼地区地域医療委員会
・気仙沼市社会福祉協議会
・気仙沼・南三陸介護サービス法人連絡協議会
・一般社団法人気仙沼歯科医師会
・気仙沼市立病院
・気仙沼市医療・介護連携センター
・その他

◆首都圏他（運営協力機関・団体）
・東京都
・日本老年医学会
・日本老年行動科学会
・医療法人社団つくしんぼ会
・獨協医科大学埼玉医療センター（旧獨協医科大学越谷病院）子どものこころ診療センター
・鶴見大学歯学部
・特定非営利活動法人 CE センター（NPO Child-rearing & Education support Center)」
・その他

１　目的と意義

気仙沼市との包括連携協定に基づく本研究及びその前身である東日本大震災被災者支援プロジェクト研究は、研究所副所長の直轄事業として、被災地及び地方都市特有の課題への取り組みに加え、高齢者を中心とする保健福祉システムの再建・機能強化に資するため、要援護者・高齢者を支える福祉・介護スタッフへの支援と、現在、災害公営住宅などに暮らす高齢者への支援を通して、継続的な支援のための拠点づくりを図るとともに、健康長寿のまちづくり（気仙沼モデル）の着実な推進・構築を目指し、これまでに得られた知見を首都圏防災及び首都圏における孤立対策等の社会問題の解決に役立てることを目的とするものである。

当センターでは、東日本大震災直後から現在までの9年間に渡って、宮城県気仙沼市を中心に支援及び研究活動を継続している。気仙沼市では三陸沿岸道路、大島架橋といった交通インフラ、防潮堤等のハード面は整備されたが、一方で、震災後加速した人口流出や地域経済の縮小が進み、破壊されたコミュニティは元に戻らない状況が続いている。またその過程で、移転先の地域になじめず閉じこもり、不活動、孤立する高齢者などの問題が経過とともに深刻化している。

2019年10月、このような気仙沼市の実態を把握すべく実施された実態調査から明らかなように、気仙沼市では、高齢化の進展に伴い、加齢による身体機能や認知機能の低下から移動に困難を来す高齢者が増えており、一人ではイベントや地域の集い、交流サロンなどに参加できない人たちも多い。加えて、人的資源不足の問題もあり、医師、看護師、リハビリ専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)、介護職、いずれについても充足率は低く、対人援助専門職が中心になって住民に対してきめ細かいケアを行っていくという支援モデルには限界がある。

今、被災地気仙沼では「復興」から「創生」への道筋を模索しており、地域コミュニティの再生を図りつつも、地域高齢者の心身の健康及び生活の質をいかに維持・改善していくか、そして、孤立予防への対策をいかに進めていくか、そのための財政基盤をどのように安定させるか、が喫緊の課題となっている。

２　支援対象地域と対象者

研究対象地域と対象者：宮城県気仙沼市（岩手県陸前高田市の一部を含む）に在住する高齢者や一般市民及び現地の施設･在宅サービスに関わる医療･福祉専門職

3　2019年度（令和元年度）の研究及び支援内容と成果

＜研究及び連携事業の内容＞

気仙沼市においては、これまで、「気仙沼支援 医 療・福祉関係5団体」の代表を務める機関として、 他の支援組織と共同で活動を行ってきた。 そして、2018(平成30)年11月に、気仙沼市と東京都健康長寿医療センターは、包括的な連携・協力によって健康長寿のまちづくりを推進・構築することを目的とする「包括的連携に関する協定」を締結した。これを背景に、2019(令和元)年度は、気仙沼市との間で7回の連携協議、2回の市長表敬訪問を実施した。また、1月には、気仙沼市で許センター長記念講演を開催した。

協定締結後の初年度は、（１）地域診断（他地域との比較・分析を含む)、（２）実践的な施策立案と地域リーダーの養成、（３）問題解決に向けての協働、（４）アセスメント（トータル・バリデーション)、（５）将来設計の構築に重点を置いた取り組みがなされた。具体的には、2019(令和元)年10月、気仙沼市の高齢者が抱える課題や生活実態を把握し、課題解決に向けた取り組みにつなげるため、65-84歳の非要介護認定者（要支援者は含む）から50%層化無作為抽出した9754名を対象に「気仙沼市健康長寿のまちづくりのための生活実態調査」を実施した。また、令和2年3月、この結果をまとめた報告書を発刊した。この報告書は、地域社会を俯瞰的に眺め、医療、健康等のヘルスニーズを地域別に明らかにしたものである。本調査では、回収率83.6%という極めて高い値が得られ、今後の施策を展開するうえでの、市在住の高齢者の実態を反映した貴重なデータベースとなるものである。

さらに、気仙沼市との共同事業として平成24年度から実施されている「介護予防サポーター養成講座（令和元年度は3回)」に加え、令和元年度からは、通いの場の高機能化を目指し、年8回の「フレイル予防サポーター養成講座」を開講し、教育内容のさらなる充実を図った。

その他の事業に関しての詳細は省くが、令和元年度、「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」と共同で実施された研修・講座の開催数は、以下の通りである。

【高齢者施策及び健康長寿のまちづくり関連】

・「気仙沼市健康長寿のまちづくりのための生活実態調査」に向けたキックオフ講演会（計3講座）
・健康長寿新ガイドライン講座（12回）＋フォローアップ講座（1回）
・認知症ケアに関する講座（1回）
・保健・医療・福祉系職員対象のスキルアップ研修（1回）
・保健推進員等専門研修（2回）
・医療・介護連携センター主催研修会（1回）
・介護・フレイル予防啓発講座（社協関連2回）
・フレイル予防サポーター養成講座（8回）
・認知症懇談会・交流会（5回）
・フレイル予防大作戦in本吉（1回）
・市民公開講座（1回）
・介護予防サポーター養成講座（2回）+フォローアップ講座（１回）
・地域活動リーダー研修（2回）
・通所事業所等職員研修（1回）
・お達者出前相談会（陸前高田市生出地区・1回）
・高齢者施設慰問（1回）
・気仙沼市役所職員・地域包括ケア推進協議会庁内会議メンバー対象の研修（2回）

【子ども支援関連】

・保育士等対象の研修（1回）
・子育て支援センター事業スキルアップ研修（1回）
・児童虐待に関する研修＜支援者対象＞（1回）
・マザーズホーム研修（2回）
　◆お達者出前講座（４回）（日本老年行動科学会主催）
　◆個別支援４名（マザーズホーム、おひさま保育園）

さらに、気仙沼市医師会附属准看護学校、高等看護学校からの依頼でセンター病院部門医師等を中心に一般臨床医学の教育を行った（医師会附属准・高等看護学校カリキュラム支援13講座）。

なお、新型コロナ等の影響で中止となった講座名も列記しておく。

【新型コロナの影響で中止になった企画】
・フレイル予防サポーターフォローアップ研修
（1講座）
・鹿折地区における健康長寿講座
・医療介護連携支援センター主催研修会
・お達者出前相談会（陸前高田市生出地区・後期）
・交流サロン対象の講座

【国等との調整がつかず、市が開催を見送った研修】
・構造改革特区関連の研修（4講座）

＜支援の成果＞
１．医療と介護の連携、地域包括ケアシステム
地域包括ケアシステムの構築、持続可能な地域コミュニティの再構築に向けて、気仙沼市では、多職種協働によるネットワークづくり、地域リーダーやサポーターの養成、コーディネート機能などの重要性を踏まえ、地域包括支援センターが2018（平成30）年10月1日付でさらに2ヵ所増え、直営1、委託5の計6ヵ所になった。そして、市は地域包括支援センターを、子ども、障がい者などの分野を超えて包括的に相談を受け止める総合的な窓口として位置づけた。
さらに、気仙沼市では、地域包括ケアシステムの構築・推進の中心的な役割を担い、官民問わず、連携の拠点となる「地域包括ケア推進課」を2019(平成31)年4月に新設した。この課が、「気仙沼市と東京都健康長寿医療センターとの包括的連携に関する協定」に基づく「健康長寿のまちづくり研究事業（気仙沼モデルの創生)」及び「気仙沼支援 医療・福祉関係５団体」の調整窓口も兼ねている。
「気仙沼・南三陸在宅医療福祉推進委員会」と「気仙沼市地域包括ケア推進協議会」の起動が、気仙沼市や南三陸町における連携の見える化であり、気仙沼・南三陸在宅医療福祉推進委員会の設立は震災年の8月、気仙沼市地域包括ケア推進協議会の設立は2014（平成26）年12月に遡ることができる。
2011（平成23）年、震災直後の3月下旬に気仙沼で立ち上がった「気仙沼巡回療養支援隊（JRS)」は、その役割を終え、在宅介護力のさらなる強化に向けて、気仙沼市医師会が事務局となる「気仙沼地区地域医療委員会」及びその内部組織である専門委員会「気仙沼・南三陸地域在宅医療福祉推進委員会」(2011（平成23）年8月設立）に引き継がれた。この専門委員会は、気仙沼市立病院、南三陸病院(旧公立志津川病院・旧公立南三陸診療所)の医師や看護師、開業医、介護事業者、市、県などの担当者らで構成されている。さらにその下部組織として、2013(平成25)年5月に「在宅療養システム部会」「住民啓発部会」が設立した。この中で、シームレスな橋渡しを可能とする各種連携ツールを構築し、医療と介護の連携に関する取り組みを強めている。
他方、「気仙沼市地域包括ケア推進協議会」には、「高齢者健康維持・増進専門部会」、「コミュニティ・生活支援専門部会」、「在宅ケア基盤構築専門部会」のワーキング・グループがあり、これによって、Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）を可能にする体制が整えられた。この協議会は、医療介護・多職種連携においては「気仙沼・南三陸地域在宅医療福祉推進委員会」の活動と連動している。
当研究所は、「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」の代表幹事を務めるとともに、東日本大震災被災者支援プロジェクト研究（2019(平成31)年度で終了）として、現地の医療・福祉専門職や一般の市民に対する研修支援を中心に、1)サービスの包括化と市民へのオープン化、2）ネットワーク戦略、3）広域的な多職種連携、4）行政的な配慮に準ずる支援（2013(平成25)年10月発行のプロジェクト報告に記載）の立場からさまざまな活動を展開し、これまでの気仙沼市における医療・介護連携などの先進的な動きを支えた。
２．健康長寿の全国的な先進地を目指す
地域の医療体制、地域包括ケアの充実を図るため、気仙沼市ではクルーカードを利用した健康ポイント事業を開始した。この他にも、介護予防サポーターあるいはフレイル予防サポーターの養成、ウォーキン

グマップづくり、健康長寿新ガイドラインの実装化などを梃として、健康で安心して暮らし続けることができるまちづくりを進めようとしている。

2015年度に市民とともに制作した『ころぶんすなよ！海潮音体操あんだもはまらいん！』が気仙沼市の介護予防体操として定着した。海潮音（みしおね）を活動ツールの一つとした介護予防サポーターは、今年度までに203名が養成され、地域で自主活動を活発に行っている。また、昨年度より気仙沼ケーブルネットワーク（K－NET）の市政情報番組の一つとして海潮音体操が週5日放映されており、広く気仙沼市民の介護予防・健康増進に役立てられている。

その他の事業計画についても、当センターとの間で継続的に協議が進められている。

３．持続可能なコミュニティの構築と地域発展（世代間交流とソーシャルキャピタル）

気仙沼市は、地域の全ての人々が支え合いながら、一人ひとりが、自分らしく暮らし、活躍できる地域共生社会の実現を目指し、地域包括支援センターを、子ども、障がい者などの分野を超えて包括的に相談を受け止める総合的な窓口として位置づけただけでなく、図書館に併設された児童センター、各地区の児童館、公民館などの活用を通じて多世代型の交流へと誘導しようとしている。

気仙沼市の被災住民の多くは、現在、住み慣れた地域とは別の住所地（災害公営住宅など）に移り生活を再建しつつある。しかし、中には新たな地域になじめず、社会的に孤立する人、家族も多い。これは、子育て世代にも言えることである。コミュニティの再構築と地域発展に向けて、地域での結びつきの変化による孤立や社会参加の減少によるさまざまな実態を明らかにし、対策を検討する必要に迫られており、そのための調査として、2019(平成31)年10月から11月までの約1ヵ月間、気仙沼市と当センターとの共同事業として「気仙沼市健康長寿のまちづくりのための生活実態調査」を実施した。

４．出版物の発行

気仙沼市在住の高齢者約1万人を対象とした、上記の実態調査については、当センターが調査の設計と分析を行い、「気仙沼市健康長寿のまちづくりのための生活実態調査」報告書としてまとめた。

＜研究・支援の特徴、対象地域の近況＞

当センターが中心となり、震災の翌年1月16日、気仙沼地域に特化し、さまざまな団体の協力を得て「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」を立ち上げた。「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」は、気仙沼市を中心とする現地の医療介護従事専門職への知識や技術の提供によるエンパワメントと広域的な多職種連携及び住民主体の活動の立ち上げ支援を行う、という点に特徴がある。

また、前出の「包括的連携に関する協定」締結後は、健康長寿のまちづくり（気仙沼モデル）を推進・構築することを目的する研究事業を協働で進める関係へと転換を図ったところである。

震災後、気仙沼市の生産年齢人口の減少（2010(平成22)年3月末の人口74,926人→2020(令和2)年3月末62,009人)や高齢化率の上昇(2010(平成22)年3月末30.1%→2020(令和2)年3月末38.13%(大島地区51.41%)）が急速に進んでいる地域であり、前述したように、地域コミュニティの再生を図りつつも、地域住民の心身の健康及び生活の質をいかに維持・改善していくか、そして、孤立予防への対策をいかに進めていくか、そのための財政基盤をどのように安定させるか、が喫緊の課題となっている。

このような実態を反映し、気仙沼市における医療・介護あるいはリハビリテーション資源へのニーズは高いのだが、一方で、2020(令和2)年2月現在、気仙沼市内の医師数は96人、介護保険における訪問リハビリテーション資源は、訪問リハビリテーション2事業所、訪問看護4事業所と極めて少ない現実がある。あわせて、少子化あるいは仙台や東京への人材流出に歯止めがかからず、気仙沼市に限らず周辺地域では職種を問わず人材確保が困難な状況にある。人材難については、地場産業である水産業についても同様である。とりわけ震災による被害が大きかった市内の施設系事業所では、介護人材の確保を最優先課題として賃金等で改善を図っているが、他の産業分野と人材の奪い合いをしている状況であり、加えて、福祉関係のカリキュラムがある高校もなく、とりわけこれからの福祉を背負っていく若手職員の確保はとても厳しい。このような人手不足から、在宅支援だけではなく通所・施設系事業所全てにおいて事業規模の縮小化を余儀なくされている。

それに加えて、新型コロナによる観光、水産業へのダメージ、全国の自治体から派遣されている応援職員（2020(令和2)年度は91人）の打ち切りは、「復興」から「創生」へと舵を切った気仙沼市にとって大きな痛手である。

2021(令和3)年春から放送予定のNHK連続テレビ小説が、宮城県気仙沼市などを舞台にした「おかえりモネ」に決まったという明るいニュースもあるが、他方で新型コロナの感染リスクは、市民の社会・経済活

動は勿論のこと、当センターとの共同事業にもマイナスの影響を与えた。
なお、新型コロナに関連し、気仙沼市の方から、当センター経由で東京都に対し医療防護服の提供があった。

＜研究及び支援のプロセス＞

これまで、気仙沼市にコーディネーターを派遣し、様々な専門機関からなる「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」を組織し、気仙沼を中心とする被災地域を対象に実践的な情報及び専門的な技術・技能を提供してきた。また、気仙沼においては、地域住民の有志とともに住民主体で普及が可能な介護予防体操を開発し、その普及啓発を行った。そして、気仙沼においては、気仙沼市、一般社団法人気仙沼市医師会、気仙沼地区地域医療委員会、社会福祉法人気仙沼市社会福祉協議会、気仙沼・南三陸介護サービス法人連絡協議会、一般社団法人気仙沼歯科医師会など、気仙沼市の福祉・保健・医療を担う地元の関係機関と連携すべく、医療と介護の連携、地域包括ケアシステムの構築を後押しし、今日のような互恵的関係に至っている。

そして、2018(平成30)年11月には、包括的な連携・協力によって健康長寿のまちづくり（気仙沼モデル）を推進・構築することを目的に、当センターは気仙沼市との間で「包括的連携に関する協定」を締結した。

前述のような厳しい状況下にある気仙沼市では、住民の力に着目し、住民主体の健康づくりに取り組んできた。例えば、地域の健康づくりのリーダー的な役割を養成するための「介護予防サポーター養成講座」は、その一つである。また、住民どうしが集まり健康に資する活動を行う、通いの場づくりを積極的に拡大し、2020(令和2)年2月現在で56ヵ所の「交流サロン」が立ち上げられており、介護予防サポーターが活躍している。当プログラムの一つである「海潮音（みしおね）体操」も介護予防サポーターが当センターの支援のもと制作したものである。2019(令和元年)年度からは、さらに通いの場の高機能化を目指し、活動内容の充実を図っている。また、地域課題に応じた取り組みを行うために、2019(令和元年)年10月に前出の「健康長寿のまちづくりのための生活実態調査」を実施した。抑うつや意欲低下、認知機能などのメンタルヘルスが悪化しており、女性では歩行や階段昇降等移動能力に困難を抱えて外出が不足し、男性は社会参加や対人交流の機会が少ないことが判明した。このような結果を受け、地域コミュニティ再生の一環として、高齢者の心身機能の維持と孤立対策に踏み出しているところである。

なお、震災後から長期間に及んだ東日本大震災被災者支援プロジェクト研究の終了後、「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」を構成する各団体の支援は個別的に継続されることになる。それに伴い、しばらくの間は、代表幹事としての役割の一部を現事務長が継続することとした。

4　今後の展望

当センターでは、これまでの気仙沼市との互恵的関係をさらに発展させ、互いに有する資源を有効活用して、被災地方都市における健康福祉の向上事業、学術研究の発展及び活力ある地域社会の形成に寄与し、これを大都市東京における超高齢社会の都市モデルの創造に生かすことを目的として、2018(平成30)年11月30日、気仙沼市との間に包括的連携に関する協定を締結した。

当センターは、高齢者医療の提供、研究の推進、臨床と研究の連携を通じて高齢者の健康増進、健康長寿の実現を目指し、大都市東京における超高齢社会の都市モデルの創造の一翼を担うことを基本理念としている。これまでの被災地支援研究では、来るべき、首都圏直下型地震などの大規模災害に応用できるノウハウを数多く学んだ。しかし、現在、気仙沼市では「復興から創生へ」のステージにあり、被災地の復興フェーズも発災直後の段階から、まちづくりなど新たな段階に移行している。首都直下型地震後を見据え、高齢者の特性に留意した被災後の東京の復興・まちづくりについて、気仙沼と東京の都市構造等の違いに留意しつつ、より一層の研究を新たに実施していく必要がある。

東日本大震災から9年、当センターが代表幹事となる「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」の各団体の支援活動により、気仙沼市の保健・医療・福祉の基盤整備は着実に進んでおり、また、官民が一体となって地域づくりに取り組む機運も醸成されてきている。反面、「包括連携協定」に基づく事業は、予想だにしない新型コロナの影響によりステイホームが実施される中、事業規模を縮小・重点化せざるを得ない状況になりつつある。

今現在、気仙沼市の方から「ステイホーム型の教材設計（ビデオ製作など）」の依頼が来ており、派遣型

からリモート型への転換を含め、実施形態を大幅に変えた連携事業の在り方を模索している最中である。また、生活実態調査結果の市民説明会を開催する方向で調整を進めているが、とりわけ、連携協定で謳われている（３）問題解決に向けての協働、（５）将来設計の構築に重点を置いた取り組みについては、新型コロナの影響で3月の協議が中止されて以降、協議未着手のままになっている。

なお、10年間に及ぶ「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」の活動については、今年度記念誌としてまとめる予定である。

Ⅳ　普及活動等

1　新聞・雑誌・テレビ等

チーム名	概要	情報提供者	取材機関
所長代理	Nature Communicationsで発表した筋ジストロフィー研究について	遠藤玉夫	日経バイオテク
	1/17プレスリリース「筋ジストロフィー症に関わる糖鎖を合成する仕組みを解明」について	遠藤玉夫	日経バイオテク
	「筋ジストロフィー症に関わる糖鎖を合成する仕組みを解明」について	遠藤玉夫	日経新聞
自然科学系副所長	特集記事「逃れられない「老化」」の中で骨格筋の老化について	重本和宏	株式会社ニュートンプレス
社会科学系副所長	低栄養予防には「1日10品目の多様食」	新開省二	保健同人社
	虚弱に転ばぬ先の杖　備えあればフレイルなし	新開省二	株式会社サンライフ企画
	元気ごはん　栄養素密度が高い食事のすすめ	新開省二	時事通信社
	親世代の健康を子世代が注意すべき点について	新開省二	株式会社保健同人社
	健康寿命を延ばすための食生活	新開省二	NHK
	フレイルについて	新開省二	大和ハウスライフサポート
	フレイルと食・栄養について	新開省二	読売新聞社
	やせの健康リスクとそのメカニズムについて	新開省二	講談社
	60歳からの健康的な食生活について	新開省二	株式会社ど～も
	NHK　Eテレ「あしたも晴れ！人勢レシピ」	新開省二	株式会社トラストクリエイション
	60歳からの健康的な食生活について (2020年2月7日発行　vol. 143)	新開省二	株式会社ど～も
	「こころつなぐ２０２０年冬号」	新開省二	大和ハウスライフサポート株式会社
	「高齢期におけるやせのリスクについて」	新開省二	講談社
	高齢期の生活機能の加齢変化について	新開省二	読売新聞東京本社
	健康長寿につながる食生活について	新開省二	株式会社からだにいいこと
	ひとりぐらしシニアの食をめぐって	新開省二	NHKエジュケーショナル
	健康長寿になる秘訣	新開省二	株式会社ジャンプコーポレーション
老化機構研究チーム	ミトコンドリアの働きを示すマウス実験映像の提供	井上聡	BSテレビ東京
	1/17プレスリリース「筋ジストロフィー症に関わる糖鎖を合成する仕組みを解明」について	萬谷博	科学新聞社
	筋肉量減で基礎代謝が低下	萬谷博	世界日報
	高齢者の骨折原因と予防法について	東浩太郎	株式会社アドマス
老化制御研究チーム	ビタミンCについて	石神昭人	NHK
	健康から考える～70歳雇用促進を生きる ビタミンCについて	石神昭人	産経新聞社
	夏を乗り切るためのビタミン活用術	石神昭人	産経新聞社
老化脳神経科学研究チーム	「ローラーでの皮膚刺激による夜間頻尿の緩和」について	堀田晴美	NHK

チーム名	概要	情報提供者	取材機関
老化脳神経科学研究チーム	軽い皮膚刺激を利用した過活動膀胱の緩和について	堀田晴美	株式会社主婦の友社
	頻尿・尿もれのメカニズムと会陰さすりが効く理由	堀田晴美	主婦の友社
	夜中のトイレが減る、１分間骨盤底マッサージ	堀田晴美	光文社
	軽い皮膚刺激による脳内でのNGF分泌の促進について	堀田晴美	わかさ出版
	長生きする「歯・口」の秘密	堀田晴美	女性セブン
	頻尿を改善するローラー「ソマプレーン」の開発	堀田晴美	東京メトロポリタン テレビジョン株式会社
	効果は薬と同等！膀胱を収縮させる副交感神経の働きを抑え夜間頻尿を改善するとわかった骨盤底さすり	堀田晴美	わかさ出版
	皮膚刺激によるNGFの分泌促進	堀田晴美	朝日放送テレビ（株式会社ユーコム）
	子ども向け医学番組「バビブベボディ」	堀田晴美	NHKエデュケーショナル 科学健康部（健康）
	頻尿が改善する会陰さすり	堀田晴美	主婦の友社
	「東洋医学でカラダと心をセルフケア！」	堀田晴美	主婦と生活社
	歩く速度と脳血流の関係について	堀田晴美	NHK
	難聴予防は大きな音を避けること 周囲の理解が対応が不可欠	柳井修一	世界日報
神経画像研究チーム	認知症学会におけるプレナリーレクチャー講演 「アミロイド・タウPETの現状と展望」について	石井賢二	株式会社ファーマインターナショナル
社会参加と地域保健研究チーム	アクティブな高齢期を送るためのフレイル対策～ 「栄養摂取」や「運動」、そして「社会参加」	藤原佳典	東京コア
	人生100年時代の高齢者の生き方・支え方	藤原佳典	株式会社 労務行政
	高齢者就業で意見交換―介護助手など紹介	藤原佳典	高齢者住宅新聞
	「どうすれば、日本において高齢者と若者が交流できるか」How sharing can bring Japan’s elderly and youth together	藤原佳典	Shareable(オンラインニュース)
	世代間交流が導く、持続可能な互助コミュニティ	藤原佳典	株式会社　平凡社
	避けたい「交流難民」化	藤原佳典	読売新聞社
	鎌田實の輝く人生の終い方～対談：第５回社会的役割に生きる	藤原佳典	株式会社潮出版社
	読み聞かせで心身共にイキイキ！～認知症・介護予防に 繋がるボランティア	藤原佳典	致知出版社
	趣味活動と認知症予防の関係について	藤原佳典	All about ライフワークス
	社会問題としての高齢者の閉じこもり傾向について	藤原佳典	光文社
	健康リスク　独居よりも孤立が影響	藤原佳典	共同通信社
	助け合いを広げよう	藤原佳典	さわやか福祉財団情報誌編集部
	読み聞かせで認知症予防～記憶力向上　交流も育む	藤原佳典	狛江市企画財政部秘書広報室
	認知機能を維持する効果あり！ 絵本読み聞かせボランティアとは？	藤原佳典	毎日が発見編集部
	囲碁を用いた認知機能維持・低下予防研究の展望	藤原佳典	NHK
	あしたも晴れ！人生レシピ	北村明彦	NHK

チーム名	概要	情報提供者	取材機関
社会参加と地域保健研究チーム	「心臓と血管」の老化と予防について	北村明彦	小学館
	フレイル健診について	北村明彦	週刊ポスト
	新型コロナの感染拡大、室内でも体動かし筋力低下を食い止めよう	北村明彦	読売新聞
	感染症対策期間中のフレイル予防	北村明彦	朝日新聞
	新型コロナ、自宅待機で重病になりやすい人	北村明彦	週刊ポスト
	外出自粛どう過ごす？高齢者孤立させぬ配慮	北村明彦	日本経済新聞社
	認知機能を評価するための映像作成	鈴木宏幸	朝日放送テレビ（株式会社ユーコム）
	絵本の読み聞かせによる認知症対策	鈴木宏幸	読売新聞社
	絵本の読み聞かせによる認知症対策	鈴木宏幸	主婦と生活社
	絵本の読み聞かせによる認知症対策	鈴木宏幸	東京新聞
	なぜ「年を取ると周囲と会話が合わなくなる」のか？	鈴木宏幸	日刊ゲンダイ
	健康長寿のためのウォーキング 8000歩と20分の法則とは	青柳幸利	BS11
	正しいウォーキングとは	青柳幸利	公明新聞社
	ウォーキングで健康長寿	青柳幸利	聖教新聞社
	デポルターレの扉「健康の黄金律」	青柳幸利	北日本新聞
	歩く速度と脳血流の関係について	青柳幸利	NHK
	適度な運動は脳の萎縮防ぐ	桜井良太	世界日報
	感染症対策期間中のフレイル予防に活用可能な アプリ・ツールについて	清野諭	読売新聞
	老いとともに独居　ひとり暮らし健やかに	村山陽	朝日新聞
	フレイル予防と食・栄養について	横山友里	読売新聞社
	認知機能維持向上で注目の囲碁	飯塚あい	神奈川新聞
	囲碁による認知症対策	飯塚あい	NHK
	高齢者における肉の摂取について	成田美紀	読売新聞社
	ずっと元気にご長寿レシピ　包丁いらずでラクラク調理	成田美紀	NHKテキスト
	ずっと元気にご長寿レシピ　乾物でボリュームアップ！	成田美紀	NHKテキスト
	ずっと元気にご長寿レシピ 「火を使わないラクラク夏おかず」	成田美紀	NHK出版
	ずっと元気にご長寿レシピ「夏の食欲アップメニュー」	成田美紀	NHK出版
	ずっと元気にご長寿レシピ 「簡単&ヘルシー！手作りおやつ」	成田美紀	NHK出版
	ずっと元気にご長寿レシピ 「たんぱく質をとって丈夫な体に！」	成田美紀	NHK
	ずっと元気にご長寿レシピ 「カルシウムを欠かさず、上手にとろう！」	成田美紀	NHK出版
	年末年始のつくりおき	成田美紀	NHKテキスト
	シニア層の食事の注意点	成田美紀	宝島社
	牛乳・乳製品と認知症予防	成田美紀	株式会社グラムスリー

チーム名	概要	情報提供者	取材機関
社会参加と地域保健研究チーム	高齢者が気を付けたい栄養不足やそのリスクについて	成田美紀	時事通信社
	高齢者こそ肉、は本当！？50歳からのたんぱく質の摂り方　正解・不正解	成田美紀	中央公論社
	低栄養予防のための「お達者料理教室」	成田美紀	ライフサイエンス出版
	ずっと元気にご長寿レシピ 身体ポカポカ、あったかレシピ	成田美紀	NHK出版
	ずっと元気にご長寿レシピ「これで手軽に栄養アップ！」	成田美紀	NHK出版
	牛乳・乳製品の摂取習慣と高齢期の健康について	成田美紀	日刊　酪農経済速報
自立促進と精神保健研究チーム	認知症でも希望ある社会へ　本人参加のシンポも	栗田主一	環境新聞社
	サルコペニア予防策について	金憲経	韓国MBC
	「生涯現役で輝く人生を」	金憲経	株式会社世界文化社
	白カビチーズを食べて認知症予防について	金憲経	産経新聞社
	『高齢者こそ「筋肉」と「肉食」！』について	金憲経	週刊文春
	「サルコペニア肥満」について	金憲経	世界文化社
	認知機能の低下抑制、 カマンベールチーズvs.運動について	金憲経	株式会社ケアネット
	筋トレ＋栄養＝イキイキについて	金憲経	読売新聞社
	フレイルと筋骨格系の健康研究について	金憲経	韓国放送KBSTV
	カマンベールチーズと認知症について	金憲経	小学館
	介護予防-シニアこそ身体を鍛えよう！サルコペニアを 予防・克服し、生き生きとした人生を！	金憲経	NPO医療機関支援機構
	『　カマンベールチーズとＢＤＮＦ （脳由来神経栄養因子）との関係』について	金憲経	朝日新聞科学医療部
	『高齢者への効果的な歩き方』について	金憲経	韓国放送KBSTV
	『カマンベールに認知予防の期待』について	金憲経	文化出版局
	『１００歳まで元気に歩く全力特集』について	金憲経	株式会社主婦の友社
	【口年齢】に関するチェック方法について	平野浩彦	TBSテレビ
	口から始まる心身の衰えーオーラルフレイルに関心をー	小原由紀	公明新聞社
	研究者として働く歯科衛生士について	小原由紀	WHITE CROSS株式会社
	通所施設における口腔・栄養管理について	本川佳子	シルバー新報
	ヒートショック対策について	小川まどか	エフエム富士
	高齢者のヒートショック対策について	小川まどか	東京ガス株式会社
福祉と生活ケア研究チーム	「後期高齢者の多剤処方、退院支援と再入院」について	石崎達郎	環境新聞社
	転倒を予防する運動メニュー	大渕修一	株式会社テーミス
	フレイルチェックについて	大渕修一	読売新聞社
	転倒のメカニズムについて	大渕修一	NHK
	加齢に伴う心の変化とその対応	大渕修一	朝日新聞出版　週刊朝日編集部
	効果ばつぐん！仲間と運動する魅力	大渕修一	J-COM

チーム名	概要	情報提供者	取材機関
福祉と生活ケア研究チーム	高齢者の低栄養	大渕修一	朝日新聞出版
	65歳からの筋トレ術	大渕修一	週刊文春
	介護施設におけるアドバンスケアプランニング、アドバンスケアプランニングと救急対応について	島田千穂	読売新聞東京本社
	パンフレット「これからの治療選択に迷っている人とその家族の方へ」について	島田千穂	共同通信社

２　プレス発表

	プレス発表日	発表者	件名
1	平成 31 年 4 月 19 日	社会参加と地域保健研究チーム 研究員　桜井良太	一人暮らしによる健康リスクは、人のつながりにより緩和される
2	平成 31 年 4 月 26 日	老年病態研究チーム 研究員　上住円	カルシトニン受容体の発現低下は加齢性の骨格筋幹細胞減少に寄与する
3	令和元年 7 月 18 日	老化脳神経科学研究チーム 研究部長　堀田晴美	咽頭への刺激で甲状腺からのホルモン分泌が増えることを発見
4	令和元年 8 月 7 日	社会参加と地域保健研究チーム 専門副部長　青栁幸利	乳酸菌飲料の摂取と適度な運動の組み合わせが高齢者の便秘リスクの低減に効果的
5	令和元年 9 月 27 日	整形外科 診療部長　宮崎剛	適度な運動タンパク質を見つけた！運動が身体の炎症・老化を抑制する分子メカニズムを発見！！健康のために 1 日 10 分、骨に衝撃を与えよう！！！
6	令和元年 11 月 6 日	自立促進と精神保健研究チーム 研究部長　金憲経	軽度認知障害の高齢者においてカマンベールチーズ摂取による BDNF（脳由来神経栄養因子）上昇を確認
7	令和元年 11 月 25 日	糖尿病・代謝・内分泌内科 医師　大村卓也	「食」で向き合う糖尿病「あなたの適量がわかった！！」 食べ過ぎ・食べなさ過ぎの危険性
8	令和元年 12 月 10 日	病理診断科 医師　野中敬介	副腎のテロメアが男女の寿命差に県警する？
9	令和元年 12 月 25 日	老年病理学研究チーム 研究部長　石渡俊行	膵臓がんの進行を食い止める糖鎖の目印を発見
10	令和元年 12 月 25 日	老化脳神経科学研究チーム 研究部長　堀田晴美	咀嚼にともなう脳血流増加の神経メカニズムを解明
11	令和 2 年 1 月 17 日	老化機構研究チーム 研究員　今江理恵子	筋ジストロフィー症に関わる糖鎖を合成する仕組みを解明
12	令和 2 年 3 月 5 日	福祉と生活ケア研究チーム 研究部長　石崎達郎	メタボ健診に準じた健診は、後期高齢者に適しているか？
13	令和 2 年 3 月 5 日	福祉と生活ケア研究チーム 研究部長　石崎達郎	100 万人のレセプト情報から解明：東京都の 75 歳以上の高齢者の 6 割超が 5 種類以上の薬剤を内服
14	令和 2 年 3 月 5 日	福祉と生活ケア研究チーム 研究部長　石崎達郎	退院支援サービスの退院直後の再入院抑制効果の検証
15	令和 2 年 3 月 18 日	福祉と生活ケア研究チーム 研究部長　石崎達郎	死亡前 1 年間にかかった医療費と介護費の総額は？85 歳以上で死亡した人が最も安かった
16	令和 2 年 3 月 25 日	社会参加と地域保健研究チーム 研究部長　北村明彦	高齢者全体の要介護発生と死亡にフレイルが大きく寄与、集団対策としての対策の有効性を示唆

3　老年学・老年医学公開講座等

回	テーマ・講演者	日程	会場	参加者数
154	『今､筋肉が熱い！？～あなたの知らない筋肉の世界～』 司会：老化制御研究チーム研究部長　石神昭人 ＜講演＞ 『知っておきたい筋肉のこと：基礎から疾患まで』 老化機構研究チーム研究副部長　萬谷博 『運動不足解消で認知症予防－日々の生活で気を付けたいこと－』 社会参加と地域保健研究チーム研究員　桜井良太 『筋活で延ばす健康寿命　今からでも遅くない筋肉づくり』 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科教授 町田修一	令和元年 5月29日（水）	練馬文化センター	954
155	『認知症、こうすれば予防できる！？』 司会：副所長　新開省二 ＜講演＞ 『毎日食べて認知症予防～何食べる？どう食べる？～』 国立長寿医療研究センター　大塚礼 『運動実践による認知症予防への期待』 自立促進と精神保健研究チーム研究員　大須賀洋祐 『楽しみながらはじめる・つづける社会参加型認知症予防』 社会参加と地域保健研究チーム研究員　鈴木宏幸	令和元年 10月2日（水）	文京シビックホール	1094
156	『ここまでわかった！高齢者がんの予防と治療』 司会：副所長　重本和宏 ＜講演＞ 『がん研究の最前線　－ がんは治る時代に』 社会参加と地域保健研究チーム研究部長　北村明彦 『高齢者がかかりやすいがん、その関連因子と見つけ方』 老化機構研究チーム研究部長　井上聡 『膵癌A to Z　～診断から最新の治療まで～』 内視鏡科専門医長　松川美保	令和元年 11月20日（水）	北とぴあ	546
157	『腎臓を守って、認知症を予防！めざせ、健康長寿！』 司会：腎臓内科専門部長　板橋美津世 ＜講演＞ 『糖尿病性腎症と認知症』 糖尿病・代謝・内分泌内科専門部長　田村嘉章 『微小血管と認知症』 神経内科専門部長　仙石錬平 『心房細動と認知症』 副院長　原田和昌	令和2年 １月29日（水）	板橋区立文化会館	905

科学技術週間参加行事	・講演 『音が聞こえづらいと思ったら－耳寄りな耳の話－』 老化脳神経科学研究チーム研究員　柳井修一 ・ポスター発表 各研究チームによるポスター発表	平成31年 ４月16日（火）	板橋区立文化会館	346

４　友　の　会

「東京都老人総合研究所　友の会」は、老化、老年病、高齢者問題の最新成果をお知らせし、民間企業や個人との情報交換や交流、老年学に関する知識の共有および研究所の活動にご支援・ご賛同いただくことを目的とした会員制度。平成14年４月より開始。

１．活動内容
・研究所と会員との交流および会員相互の親睦
・研究所の主催する行事への招待
・講演会、セミナー等の開催
・会員のための情報の提供
・その他本会の目的を達成するために必要な事業

２．会員特典
１　会員相互の交流の場の提供
２　会員向け機関誌の提供
３　東京都健康長寿医療センター研究所発行「研究所NEWS」の提供
４　研究所が開催する講演会、セミナーに関する情報の提供
５　老年学情報センターの図書閲覧（平日９時～17時）
６　東京都健康長寿医療センター研究所発行の出版物の会員割引（２割引）

３．年会費
・個人会費：年会費　一口3,000円で一口以上
・法人会員（団体含む）：一口10,000円で二口以上

４．会員構成（令和２年３月31日現在）
個人会員：266名
法人会員：７社

５．友の会交流会
令和２年３月３日（火）に実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応により、中止となった。

第四部　補 助 金 等

研究補助金・助成金等受入状況

1 受託研究

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題	委託申請者
1	研究部門	老化脳神経科学研究チーム	人参養栄湯が脳血流増加機序の解明	株式会社ツムラ
2		副所長（社会科学系）	食肉の健康寿命及びその関連要因に与える影響	公益財団法人伊藤記念財団
3		社会参加と地域保健研究チーム	ラバーインソール着用による歩幅変化検証	株式会社大橋知創研究所
4			高齢者を対象としたアミノ酸組成物介入による脳機能への効果検討	株式会社ケイ・エス・オー
5			地域別の県境課題の抽出を目的とした府中市民アンケート調査	府中市
6			認知症予防教室（絵本の読み聞かせ講座）	千代田区
7			おおたフレイル予防事業	大田区福祉部
8			新地域支援事業における住民主体の地域づくりに向けた取組み把握に関する調査	公益財団法人さわやか福祉財団
9		自立促進と精神保健研究チーム	平成31年度 介護予防把握事業	千代田区
10			平成31年度 介護予防事業の体系整備に向けた研究調査・分析事業	千代田区
11			認知症とともに暮らす地域安心事業(認知症地域支援推進事業分)	東京都
12			若年性認知症対応マニュアル作成	東京都
13			足立区介護予防・認知症郵送調査評価事業	足立区
14			認知症支援サービス推進調査業務	千代田区
15		高齢者健康増進事業支援室	都市型自立賃貸住宅居住者に関する健康効果の検証	旭化成ホームズ株式会社

2 共同研究

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題	共同研究先
1	研究部門	老化機構研究チーム	老化関連疾患や健康長寿マーカー探索に向けた糖鎖・糖ペプチド解析法の開発	株式会社島津製作所田中耕一記念質量分析研究所
2			EV関連タンパク質・核酸を標的としたマーカー検出系開発	富士フイルム和光純薬株式会社
3		老化制御研究チーム	健康長寿を達成するため、筋力維持に最適な栄養バランスの探索	株式会社ニチレイフーズ
4			ビタミンＣの皮膚への効果	株式会社リソウ
5			ビタミンＣ欠乏マウスにおける歯周組織の解析	ライオン株式会社
6			ビタミンを活用した新しい飲食品の開発	ハウスウェルネスフーズ株式会社
7		老化脳神経科学研究チーム	甲状腺および副甲状腺機能の神経性調節の研究	Galvani Bioelectronics Limited
8		副所長（社会科学系）	高齢者の低栄養リスクを評価する簡易アセスメントツールの開発とその応用	一般財団法人糧食研究会
9			高齢期の歯科口腔・嚥下機能がQOL及び健康余命に及ぼす影響	公益社団法人日本補綴歯科学会
10			スマホ・アプリケーション「バランス日記」の改良と普及を目的としたユーザビリティ評価	日清オイリオグループ株式会社
11			軽度認知機能障害と腸内微生物叢やバイオマーカーの関連性の検討	大塚製薬株式会社

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題	共同研究先
12	研究部門	社会参加と地域保健研究チーム	鳩山町健康なまちづくり共同研究事業	鳩山町
13			栄区中高年者の健康長寿に向けた生活実態調査	横浜市栄区
14			タブレット版認知機能検査の開発と評価	株式会社キャピタルメディカ
15			乳酸菌飲料摂取と健康に関する疫学調査	株式会社ヤクルト本社
16		自立促進と精神保健研究チーム	高齢者のフレイルと認知機能や代謝機能に関する疫学研究	花王株式会社
17		実験動物施設	乳酸菌摂取による筋肉量ならびに筋力の低下抑制効果の検討	わかもと製薬株式会社

3 奨学寄附

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題等	寄附申出者
1	研究部門	副所長	循環器系疾患領域に関する研究	アステラス製薬株式会社
2		老化機構研究チーム	ホルモンシグナルのサルコペニアと骨粗鬆症における役割の解明とその応用	大塚製薬株式会社
3			ホルモン作用経路とミトコンドリア・筋肉・肝臓からのアプローチによる糖尿病・メタボリック症候群の新規診断・治療標的の探索・同定とその応用	ＭＳＤ株式会社
4		老化機構研究チーム	男性・女性ホルモン作用の骨粗鬆症・ロコモティブ症候群における役割の解明とその応用	帝人ファーマ株式会社
5			女性・男性ホルモン作用経路とミトコンドリアからのアプローチによる糖尿病・メタボリック症候群の新規診断・治療標的の探索・同定とその応用	日本イーライリリー株式会社
6			研究所老化機構研究チームに対する研究助成	武田薬品工業株式会社
7		老化制御研究チーム	分子老化制御に関する研究 （ビタミンＣの長期摂取と加齢に伴う胸腺の萎縮や免疫細胞数の低下抑制に関する研究）	ハウスウェルネスフーズ株式会社
8			血液及び造血器疾患領域に関する研究助成	アステラス製薬株式会社
9			分子状水素の機能性に関する研究	株式会社伊藤園中央研究所
10			ナノバブル化水素水の体内動態	日本特殊陶業株式会社
11		老化脳神科学研究チーム	老化に伴う神経機能改善に関する研究（自律神経、記憶神経科学）	石井フミ
12		老年病理学研究チーム	内分泌・代謝疾患領域に関する研究	アステラス製薬株式会社
13		社会参加と地域保健研究チーム	高齢者に対する囲碁を活用した認知機能低下抑制プログラムの開発と評価	一般社団法人湖山財団
14		健康長寿イノベーションセンター	立体ミニ臓器を用いた組織修復メカニズムの解明	ＭＳＤ株式会社
15			泌尿器疾患領域に関する研究	アステラス製薬株式会社
16	病院部門	糖尿病・代謝・内分泌内科	高齢糖尿病患者のフレイル、軽度認知障害（MCI）と栄養成分との関連に関する研究	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
17			糖尿病におけるサルコペニアの病態解明に関する研究-脳白質病変の関与	第一三共株式会社
18			糖尿病におけるサルコペニア・フレイルのバイオマーカーの研究	大日本住友製薬株式会社
19		血液内科	高齢者血液疾患に対する臍帯血移植の安全性の確立	中外製薬株式会社
20			高齢者血液疾患に対する臍帯血移植の安全性の確立	塩野義製薬株式会社
21			高齢者臍帯血移植の安全性の確立	大日本住友製薬株式会社
22		腎臓内科	腎硬化症の背景因子の探索	中外製薬株式会社
23			慢性腎臓病患者とフレイルの関連性についての研究	テルモ株式会社

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題等	寄附申出者
24	病院部門	血液透析科	慢性腎臓病患者とフレイルの関係	中外製薬株式会社
25		泌尿器科	高齢者前立腺肥大症における外科的治療効果の検討	日本新薬株式会社
26			高齢者の結石性急性腎盂腎炎に関する研究	中外製薬株式会社
27			高齢者BPHに対する外科的治療効果の検討	旭化成ファーマ株式会社
28			金属酵素阻害剤（MMP阻害剤)を用いた膀胱癌細胞癌培養株を用いて細胞増殖能、細胞周期、細胞周期特異的各種サイクリンの発現の検討	サノフィ株式会社
29			高齢者ＢＰＨの外科的治療効果の検討	あすか製薬株式会社
30			高齢者の結石性急性腎盂腎炎に関する研究	塩野義製薬株式会社
31			排尿障害の研究	杏林製薬株式会社
32		神経内科	Lewy小体病の嗅覚障害についてー簡易匂い検査法の確立ー	エーザイ株式会社
33		心臓外科	TAVI時代の高齢者に対する安全な開心術の追求	ｴﾄﾞﾜｰｽﾞﾗｲﾌｻｲｴﾝｽ株式会社
34			超高齢者社会における狭小大動脈弁の治療戦略についての研究	ｱﾎﾞｯﾄﾒﾃﾞｨｶﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ株式会社
35			心臓手術における僧帽弁形成のデータ解析	日本メドトロニック株式会社
36		整形外科	PETを用いた骨内インプラント周囲の骨代謝動態の解明	帝人ファーマ株式会社
37		眼科	眼科研究臨床と基礎	株式会社コダマメディカル
38			眼科研究臨床と基礎	HOYA株式会社
39			眼科研究	参天製薬株式会社
40			眼科研究臨床と基礎	日本アルコン株式会社
41			眼科研究臨床と基礎	エイエムオー・ジャパン株式会社
42			眼科研究臨床と基礎	千寿製薬株式会社
43		皮膚科	皮膚科領域における臨床研究	鳥居薬品株式会社
44		輸血・細胞療法科	70歳以上の高齢者血縁ハプロ移植における安全性の検証と成績向上への前処置の開発	中外製薬株式会社
45		化学療法科	高齢者悪性リンパ腫及び骨髄腫症例に対する治療適応に関する研究活動	中外製薬株式会社
46			骨髄腫患者の免疫コントロールに関する研究	帝人ファーマ株式会社
47			高齢者血液疾患症例における各種抗体療法の適応に関する研究	エーザイ株式会社
48			高齢者血液疾患症例における分子標的治療の適応に関する研究	全薬工業株式会社
49		血管外科	核酸医薬による血管形成術後内膜肥厚抑制のための新たなドラッグデリバリーシステム構築	サノフィ株式会社
50		病理診断科	下垂体腺腫切除検体を用いたテロメア長の定量	帝人ファーマ株式会社
51		膠原病・リウマチ科	リウマチ性多発筋痛症の身体機能評価としてのBarthelIndexの有用性	旭化成ファーマ株式会社

4 国庫補助

No.	部門	研究チーム	所管省庁等	研究課題
1	研究部門	自立促進と精神保健研究チーム	厚生労働省	居宅系サービス利用者等の口腔の健康管理等に関する調査研究事業
2				認知症疾患医療センターの質の管理及び地域連携のあり方に関する調査研究事業
3				通いの場に参加する高齢者を中心とした摂食機能等に応じた適切な食事選択の方策に関する調査研究事業
4		福祉と生活ケア研究チーム		認知症の行動・心理症状緩和のための非薬物療法の効果に関する研究事業

5 民間助成金

No.	部門	研究チーム・診療科	研究担当者	助成機関	研究課題
1	研究部門	老化機構研究チーム	井上　聡	ノバルティスファーマ株式会社	糖尿病におけるミトコンドリア呼吸鎖超複合体の役割とその治療法への応用
2			東　浩太郎	公益財団法人テルモ生命科学振興財団	ミトコンドリア呼吸鎖超複合体形成促進化合物の探索とその応用
3			梅澤　啓太郎	公益財団法人武田科学振興財団	老化機構解明研究に資する多硫化修飾タンパク質の網羅的解析技術の確立
4		老化脳神経科学研究チーム	内田　さえ	公益財団法人ひと・健康・未来研究財団	高齢者の脳の健康維持・認知症予防を目指した嗅覚刺激法の開発
5		老年病態研究チーム	吉本　由紀	一般社団法人日本骨代謝学会	ScxGFP iPS 細胞を用いた腱・靭帯細胞分化に関与する分子メカニズムの探索
6			上住　聡芳	公益財団法人三井住友海上福祉財団	間質細胞の臓器特異性から探るフレイルのメカニズム
7				公益財団法人小野医学研究財団	筋内の異所性脂肪蓄積を制御する分子メカニズム
8				一般社団法人日本損害保険協会	高齢の重度外傷患者が負う筋損傷に対する再生促進療法の開発
9		老年病理学研究チーム	村山　繁雄	ノバルティスファーマ株式会社	高齢者ＴＤＰ43 蛋白蓄積症の認知症への関与に関する臨床・画像・病理研究
10		神経画像研究チーム	石橋　賢士	ノバルティスファーマ株式会社	アルツハイマー病における代謝型グルタミン酸受容体Ｉ型の役割
11				公益財団法人ブレイ ンサイエンス振興財団	脳卒中における錐体路ワーラー変性画像
12		社会科学系副所長	新開　省二	公益財団法人日本整形外科学会	健康に与えるロコモティブシンドロームの影響に関する研究
13		社会参加と地域保健研究チーム	北村　明彦	公益財団法人日本中小企業福祉事業財団	高齢者の健康余命に及ぼすフレイル、生活習慣病の影響の検討
14			野中　久美子	公益財団法人三菱財団	多世代住民間での自然発生的な互助が生まれる機序の解明
15			高橋　知也	公益財団法人前川ヒトづくり財団	「より就業に結び付きやすい高齢者就労支援」のモデル検討－好事例の質的分析から－
16		自立促進と精神保健研究チーム	小原　由紀	公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団	歯科衛生士による口腔ケア支援が介護者の介護負担軽減にもたらす効果
17			本川　佳子	公益信託仲谷鈴代記念栄養改善活動振興基金	地域在住高齢者におけるオーラルフレイルと栄養状態低下の重複がフレイルにもたらす影響の探索
18			宇良　千秋	公益財団法人ユニベール財団	「農」を用いた地域支援事業・支援マニュアルの作成
19			小島　成実	公益財団法人不二たん白質研究振興財団	高齢者における各種大豆製品の摂取状況が２年後の運動機能と認知機能に与える影響の探索的研究
20			大須賀　洋祐	公益財団法人長寿科学振興財団	高齢者の就労現場で簡便に評価可能な労働安全指標の開発
21					令和元年度長寿科学関連国際学会派遣事業助成金（フレイル・サルコペニア国際学会：フランス(都市トゥール―ズ)）
22		福祉と生活ケア研究チーム	菊地　和則	公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団	独居認知症高齢者の行方不明に対する市町村の取り組みに関する研究
23			増井　幸恵	公益財団法人三井住友海上福祉財団	虚弱な高齢者が持続的に参加可能な地域活動プログラムの開発と効果検証－マインドフルネスを活用した「ありのままの受容」を促進する体操プログラムとサロン活動プログラムの開発・実施を通じて

No.	部門	研究チーム・診療科	研究担当者	助成機関	研究課題
24	研究部門	福祉と生活ケア研究チーム	光武　誠吾	公益財団法人大和証券ヘルス財団	地域在住高齢者における近隣のウォーカビリティと医療・介護サービスの利用及びその費用との関連
25			涌井　智子	公益財団法人テルモ生命科学振興財団	睡眠管理を目的とした在宅介護eサポートツールの開発
26	病院部門	循環器内科	石川　譲治	ノバルティスファーマ株式会社	高齢者の左室内血流、Energy loss、Work loadに影響を与える因子に関する研究
27			鳥羽　梓弓		プロテオーム解析による心臓老化機序の解明
28			原田　和昌	ファイザー株式会社	循環器疾患に関する研究
29		泌尿器科	粕谷　豊		泌尿器疾患に関する研究
30		眼科	沼賀　二郎		眼疾患に関する研究
31		麻酔科	小倉　信		循環器疾患に関する研究
32		化学療法科	宮本　鋼		がん疾患に関する研究
33		整形外科	宮崎　剛	ジンマー・バイオメット合同社	Naf-PETを用いた人工関節術後インプラント周囲の骨代謝活性の検討
34				スミス・アンド・ネフュー株式会社	
35			濱路　博	スミス・アンド・ネフュー株式会社	人工股関節手術手技および術後成績に関する研究
36		高齢者バイオリソースセンター	河上　緒	公益財団法人内藤記念科学振興財団	アルツハイマー病等のタウオパチー疾患脳における神経細胞内アポリポ蛋白Ｅの病態解明（2年目）
37		病理診断科	新井　冨生	公益財団法人喫煙科学研究財団	高齢者がんと遺伝子多型、喫煙の関連：病理解剖例を用いた遺伝子多型解析
38			野中　敬介	公益財団法人大和証券ヘルス財団	高齢者と非高齢者の副腎テロメア長の比較検討 - 健康長寿マーカーの探索 -

6 受託事業

No.	部門	研究チーム・診療科	担当職員	委託者	業務内容
1	研究部門	神経画像研究チーム	石井　賢二	学校法人東京医科大学	糖尿病性認知症患者におけるPET検査の実施
2		社会参加と地域保健研究チーム	藤原　佳典	大田区	大田区地域支え合い推進事業運営補助業務委託
3			鈴木　宏幸	板橋区	板橋区シニアの絵本読み聞かせ事業業務委託
4			鈴木　宏幸	北区	絵本読み聞かせ教師室の運営委託
5			鈴木　宏幸	立川市	立川市認知症予防教室事業委託
6			鈴木　宏幸	文京区	絵本の読み聞かせ講座運営委託
7			鈴木　宏幸	新宿区	令和元年度絵本読み聞かせ講座委託
8			鈴木　宏幸	練馬区	平成３１年度認知症予防プログラム（絵本読み聞かせ編）事業の業務委託
9			鈴木　宏幸	狛江市	絵本読み聞かせ事業業務委託
10			北村　明彦	群馬県草津町	平成３１年度国庫補助事業草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務委託
11			藤原　佳典	株式会社三菱総合研究所	高齢介護助手導入に関する実態調査
12			野中久美子	社会福祉法人北区社会福祉協議会	北区における生活支援体制整備事業に係る研修委託
13		福祉と生活ケア研究チーム	増井　幸恵	亀岡市	高齢期の幸福度に関する調査に係る分析業務委託
14			伊東　美緒	港区	高齢者介護家族サポーター養成事業委託
15			大渕　修一	多摩市	介護予防リーダー養成講座実施業務委託
16			大渕　修一	東大和市	介護予防リーダー養成講座修了論文指導業務委託

No.	部門	研究チーム・診療科	担当職員	委託者	業務内容
17	研究部門	福祉と生活ケア研究チーム	河合　恒	一般社団法人日本規格協会	フレイルの測定方法・高齢者実データとの比較に関する調査
18		高齢者健康増進事業支援室	大渕　修一	北区	北区介護予防事業評価業務委託
19		介護予防推進支援センター	大渕　修一	東京都	東京都介護予防推進支援センター運営業務委託
20			大渕　修一	東京都	平成31年度介護予防・フレイル予防推進事業実施委託
21	病院部門	認知症支援推進センター	粟田　主一	東京都	認知症支援推進センター運営事業委託
22			粟田　主一	東京都	平成31年度看護師認知症対応力向上研修Ⅱ

7 学術指導

No.	部門	研究チーム・診療科	担当職員	委託者	業務内容
1	研究部門	社会参加と地域保健研究チーム	藤原　佳典	株式会社博報堂	ユニ・チャーム株式会社認知症予防プロジェクトに関する監修
2			鈴木　宏幸	株式会社博報堂	ユニ・チャーム株式会社認知症予防プロジェクトに関する学術指導
3				味の素株式会社	健常高齢者へのアミノ酸組成物介入による脳機能への効果に関する臨床研究について、その実施および成果に関する学術指導
4		自立促進と介護予防研究チーム	宇良　千秋	特定非営利法人認知症予防サポートセンター	認知症予防事業研修講師派遣と研修に係る助言
5				特定非営利活動法人認知症予防サポートセンター	認知症予防事業研修講師派遣と研修に係る助言
6			金　憲経	トヨタ紡織株式会社	フレイル推定アルゴリズムとフレイル予防デバイスの研究開発に向けた学術指導
7		福祉と生活ケア研究チーム	大渕　修一	小金井市	デイサービス元気づくり拠点化事業委託
8				一般社団法人健康長寿支援センター	「高齢者の包括的な健康測定会」実施に関わる助言・指導
9				旭化成ホームズ株式会社	ヘーベルVillageパンフレットに対するアドバイス
10		高齢者健康増進事業支援室	大渕　修一	中電技術コンサルタント株式会社	クラウド型認知機能測定システムの開発の助言
11		老年病態研究チーム	上住　聡芳	サントリーウエルネス株式会社	PDGFRα陽性細胞、および筋関連細胞の単離・培養における指導・助言
12		老化制御研究チーム	石神　昭人	株式会社資生堂アドバンストリサーチセンター	ペプチジルアルギニンデイミナーゼ（PAD）研究における学術指導
13	病院部門	病理診断科	井下　尚子	ソニーイメージングプロダクツ＆ソリューションズ株式会社	デジタルパソロジーシステムを病理診断に使用する観点での評価

8 科学研究費

(1) 文部科学省：科学研究費助成事業　【研究代表者】

研究種目	氏　名	所属研究チーム	研究課題
基盤研究（S）	遠藤　玉夫	シニアフェロー	糖アルコールリン酸修飾のバイオロジー
基盤研究（A）	新開　省二	社会科学系	全国高齢者代表標本におけるフレイルの出現率と心理・社会・経済的資源による格差
基盤研究（B）	遠藤　昌吾	老化脳神経科学	認知的フレイルとシグナル伝達機能低下－早期発見から予防と克服へ－
	重本　和宏	自然科学系	骨格筋の代謝の可塑性に基づくサルコペニアの病態解明と応用
	石神　昭人	老化制御	老齢動物の組織に存在する老化細胞の同定とその除去による個体寿命延長効果

研究種目	氏　名	所属研究チーム	研究課題
基盤研究（B）	鈴木　宏幸	社会参加と地域保健	高齢期の認知機能低下を適切に評価するための心理検査開発に係る包括的研究
	高山　賢一	老化制御	前立腺癌のホルモン療法抵抗性獲得に至るエピゲノム調節機構の統合的解明と臨床応用
	上住　聡芳	老年病態	筋再生システムの老化を若返らせる分子機構
	金　憲経	自立促進と精神保健	フレイル重層化の早期予防を目的とした多面的支援システムの構築と効果検証
	北村　明彦	社会参加と地域保健	高齢者の健康余命に及ぼすフレイルと生活習慣病の中長期的影響の解明
	小林江里香	社会参加と地域保健	高齢期における就労、地域、家庭内活動のバランスとコンフリクト
	清野　諭	社会参加と地域保健	大都市在住高齢者のフレイル予防のための地域介入研究：5年間の有効性評価
	村山　陽	社会参加と地域保健	貧困と社会的孤立状態にある単身男性高齢者からの援助要請を促すための支援方法の検討
	萬谷　博	老化機構	O-マンノース型糖鎖の構造多様性とその決定機構の解明
	倉岡　正高	社会参加と地域保健	多世代型居場所・交流プログラムの優良事例の検証と研修プログラムの開発
	野中久美子	社会参加と地域保健	都市部高齢者に適した住民主体の生活支援サービス提供モデルの検討
基盤研究（B）特設	涌井　智子	福祉と生活ケア	地域循環型家族介護支援システムの構築に関する研究
			ケアのサイエンスを実現する介護とテクノロジー融合が福祉のトラストに与える影響
基盤研究（C）	森　秀一	老年病態	サルコペニアの予防・治療法の開発に向けた神経筋シナプスの維持システムの解明
	三浦　ゆり	老化機構	健康長寿糖鎖を介した慢性炎症の制御メカニズムの解明
	河合　恒	福祉と生活ケア	スタチン誘発性ミオパチーの初期症状は高齢期の生活機能低下に影響するか
	津元　裕樹	老化機構	特異的誘導体化法を用いた新規シアリル化糖鎖・糖ペプチド解析法の開発と応用
	新井　富生	老年病理学（協力研究員）	高齢者胃癌の分子病理学的特徴に基づく治療戦略の探索
	仙石　錬平	老年病理学（協力研究員）	Lewy小体病（パーキンソン病）の病理学的アプローチによるバイオマーカーの確立
	石渡　俊行	老年病理学	膵癌の癌幹細胞特異的糖鎖による早期診断法と新規治療法の開発
	佐々木紀彦	老年病態	老化血管内皮細胞由来因子を介した心血管系細胞間ネットワーク機構の解明
	渡邉　信博	老化脳神経科学	疼痛性循環反応の可塑的変化に関する神経性機序の解明
	上住　円	老年病態	加齢に伴う筋再生能力低下の機序解明と抑制法の開発
	時村　文秋	老年病態（協力研究員）	整形外科領域における手術部位感染予防に関する多施設共同研究
	東　浩太郎	老化制御	乳癌悪性化を担うTRIMファミリー蛋白質の作用メカニズムと臨床応用
	藤田　泰典	老化機構	腸内細菌由来OMVの生理・病理的役割の解明
	島田　千穂	福祉と生活ケア	認知症高齢者の生活と医療の選択を支える終末期の段階的事前準備の方法の開発
	野田　義博	実験動物施設	酸化ストレスによって障害を受けた精子機能に対する分子状水素の改善効果

研究種目	氏　名	所属研究チーム	研究課題
基盤研究（C）	堀田　晴美	老化脳神経科学	嚥下に伴う甲状腺からのホルモン分泌促進メカニズムの解明とフレイル予防への応用
	相田　順子	老年病理学	5年以上追跡されたバレット食道例のテロメア長とバレット癌の発生予測
	石井　賢二	神経画像	異なるタウイメージングトレーサーの同一被験者における直接比較と画像病理検証
	多賀　努	自立促進と精神保健	行動分析学理論を援用した介護保険サービス事業所の離職率ゼロの実現方策に関する研究
	杉山　美香	自立促進と精神保健	地域に暮らす認知症高齢者の日常生活支援ニーズの可視化と背景要因の検討
	柳井　修一	老化脳神経科学	ドラッグ・リポジショニングによるアルツハイマー型認知症新規治療薬の基礎研究
	亀山　征史	神経画像（協力研究員）	リファンピシンによる認知症の予防効果
	豊原　潤	神経画像	PETによるDNA合成イメージングに基づいた神経新生評価法の確立
	坂田　宗之	神経画像	FDG-PETと機械学習を用いて非典型例や亜種に着目した認知症自動鑑別診断
	中内さくら	老化脳神経科学	線条体微小梗塞後の運動機能回復機序の解明
	本橋　紀夫	老年病態	加齢性筋萎縮のメカニズム解明及び予防・治療法開発
	池谷　真澄	老化制御	膜脂質をメディエーターとする水素分子の酸化ストレス応答機構解明
	似鳥　純一	老年病理学（協力研究員）	術中迅速蛍光診断のための癌特異的蛍光プローブ開発
	伊東　美緒	福祉と生活ケア	認知症ケアに関する情報伝達の過疎地域モデルの構築
	井上　律子	老化脳神経科学	コエンザイムQ10投与による運動野の可塑性変化を介した老齢期の運動学習向上
	梅澤啓太郎	老化機構	ケミカルツールを駆使したミトコンドリア機能制御因子の探索
	石橋　賢士	神経画像	新規PETリガンドによるグリアイメージング：種々の脳疾患における臨床応用の試み
	周　赫英	老年病態	高品質な培養ヒト筋細胞を用いたサルコペニアの予防・治療法の開発
	佐々木紀彦	老年病態	血管疾患に対するGM1を標的とした新たな予防・治療法開発に向けた基盤研究
	今江理恵子	老化機構	グリセロールリン酸含有糖鎖の生物学的意義の解明
	佐久間尚子	自立促進と精神保健	高齢者が住み慣れた地域社会で暮らし続けるための生活機能評価法の開発
	赤坂　啓子	老化機構	O型糖鎖修飾によるAPP代謝制御機構の解明
	石井　智子	老化制御	老齢動物における筋再生能低下機構の解明
	枝広あや子	自立促進と精神保健	認知症とともに暮らす地域高齢者の口腔衛生および口腔機能把握に向けた訪問調査研究
	小川まどか	自立促進と精神保健	権利ベースのアプローチに基づく認知症支援の住民研修プログラムの開発
	井下　尚子	老年病理学（協力研究員）	ヒトiPS細胞由来3次元培養下垂体組織の超微形態学的検討
	小久保奈緒美	社会参加と地域保健	認知症を予防する新たな遠隔医療・医師-患者間プログラム「i-CAN」の開発と応用
	小原　由紀	自立促進と精神保健	オーラルフレイルの早期スクリーニングを目的とした簡易評価方法の開発
	笹井　浩行	自立促進と精神保健	青年期の体力と客観的に測定した中高齢期の運動習慣に関するコホート研究

研究種目	氏　名	所属研究チーム	研究課題
基盤研究（C）	岩﨑　正則	自立促進と精神保健	遺伝子多型に着眼した、歯周病が透析患者の心血管死リスクに与える影響
若手研究（A）	涌井　智子	福祉と生活ケア	社会保障システムの継続性に資する家族・保険制度・地域社会の相互関係に関する研究
	桜井　良太	社会参加と地域保健	高齢者における歩行機能低下と認知機能低下の因果関係の解明
若手研究（B）	中里　和弘	福祉と生活ケア	在宅における終末期ケアとの連続性から捉えたグリーフケア
	小川まどか	自立促進と精神保健	高齢者が暮らす居宅の温熱環境が血圧・認知機能に及ぼす影響に関するフィールド研究
	板倉　陽子	老年病態	健康長寿を目指す高齢者心疾患における治療および予防のための糖鎖関連老化因子の解明
	大須賀洋祐	自立促進と精神保健	高齢期における認知機能の低下を予測する新たなパフォーマンステストの開発
	平山　亮	福祉と生活ケア	非正規雇用の成人子における介護離職リスクの分析：「介護レディネス」に着目して
若手研究	本川　佳子	自立促進と精神保健	地域在住高齢者のフレイル予防を目的とした栄養障害早期発見アセスメントツールの開発
	多胡　哲郎	神経画像	脳内ユビキチン陽性病変のイメージングを目的としたPET用HDAC6プローブの開発
	光武　誠吾	福祉と生活ケア	医療・介護ビッグデータを用いた再入院の実態把握とわが国の再入院予防策への提案
	谷口　優	社会参加と地域保健	Frailtyの加齢変化パターンの類型化及び医療費・介護費との関連
	飯村　佳織	老化脳神経科学	排尿の促進に効果的な皮膚刺激方法の確立；低活動膀胱に有用なセルフケア開発に向けて
	遠田　明子	老化脳神経科学	関節不動化によるMMP13の発現変化と骨リモデリングに向けた治療法の開発
	横山　友里	社会参加と地域保健	改良版食品摂取の多様性得点の開発と妥当性および有用性の検討
	谷津　智史	老化制御	サルコペニア発症機構の解明
	白部　麻樹	介護予防推進支援センター	アルツハイマー病を中心とした認知症高齢者に対する円滑な口腔衛生管理方法の開発
	池内　朋子	社会参加と地域保健	高齢期の未来時間展望とWell-beingの関連の解明：幸福な老いのために
	宮前　史子	自立促進と精神保健	DFC構築のための基盤的研究；認知症当事者の回復と参画のプロセスの可視化
	山崎茉莉亜	研究開発ユニット	循環器疾患及びがんにおける血中Lp(a)濃度・KIV2多型の統合的な関連の探索
挑戦的研究（萌芽）	桜井　良太	社会参加と地域保健	認知機能低下高齢者の社会貢献活動継続の秘訣を探る―社会学的・神経生理学的検討―
	粟田　主一	自立促進と精神保健	権利ベースのアプローチを適用した「認知症とともに暮らせる地域社会」のモデル開発
	天野　秀紀	社会参加と地域保健	要介護認定で見られる「認知症」の発症前過程に基づく類型化と類型別予防法の検討
	伊藤　雅史	老化機構	Mitochondrialparticleを介した細胞間クロストークの解明
	宇良　千秋	自立促進と精神保健	認知症の人の包括的QOLに対する稲作ケアの効果
	石崎　達郎	福祉と生活ケア	学際的アプローチによるポリファーマシー発生機序の探求
	遠藤　昌吾	老化脳神経科学	活性酸素シグナルー毒性物質から脳内生理活性物質へのパラダイムシフトー
研究活動スタート支援	山下　真里	社会参加と地域保健	震災創生期における地域在住高齢者のアパシー等心理的要因とフレイルとの関連

研究種目	氏　名	所属研究チーム	研究課題
特別研究員奨励費	阿部　巧	自立促進と精神保健	フレイル該当率の差異に関連する地域特性の解明：環境と健康行動の視点から
	山崎茉莉亜	研究開発ユニット	アレイデータによる繰り返し数の多いコピー数多型の同定手法の開発と疾患との関連解析
	大村　卓也	老年病態	ALCAM/CD166のシェディング感受性を規定する分子機構と機能的意義の解明
	吉本　由紀	老年病態	歯根形成・維持を制御する分子機構の解明

(2) 厚生労働省：厚生労働科学研究費補助金　【研究代表者・研究分担者】

研究事業	代表・分担の別	氏　名	所属研究チーム	研究課題
健康安全・危機管理対策総合研究事業	研究代表者	藤原　佳典	社会参加と地域保健研究チーム	包括的支援体制構築に向けた市町村保健センターと他分野の連携に関する研究
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	研究分担者	新開　省二	社会科学系副所長	エビデンスに基づいたロコモティブシンドロームの対策における簡便な確認・介入方法の確立と普及啓発体制の構築に資する研究
	研究代表者	本川　佳子	自立促進と精神保健研究チーム	地域高齢者の市販弁当等の購買状況を踏まえた適切な食事の普及啓発のための研究
	研究分担者	横山　友里	社会参加と地域保健研究チーム	栄養素及び食品の適切な摂取のための行動変容につながる日本版栄養プロファイル策定に向けた基礎的研究
長寿科学政策研究事業	研究分担者	石崎　達郎	福祉と生活ケア研究チーム	介護保険事業（支援）計画に役立つ地域指標-全国介護レセプト等を用いて-
				エビデンスを踏まえた効果的な介護予防の実施に資する介護予防マニュアルの改訂のための研究
	研究分担者	粟田　主一	自立促進と精神保健研究チーム	アルツハイマー病患者に対する生活行為工程分析に基づいたリハビリテーション介入の標準化に関する研究
難治性疾患等政策研究事業	研究分担者	村山 繁雄	老年病理学研究チーム	神経変性疾患領域における基盤的調査研究
				プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究
認知症政策研究事業	研究代表者	粟田　主一	自立促進と精神保健研究チーム	若年性認知症の人の生活実態調査と大都市における認知症の有病率及び生活実態調査
				独居認知症高齢者等が安全・安心な暮らしを送れる環境づくりのための研究
地域医療基盤開発推進研究事業	研究分担者	石崎　達郎	福祉と生活ケア研究チーム	在宅および慢性期の医療機関で療養する患者の状態の包括的評価方法の確立のための研究
厚生労働科学特別研究事業	研究代表者	粟田　主一	自立促進と精神保健研究チーム	認知症施策推進大綱に基づく取組の評価方法検討に向けた研究
	研究分担者	石崎　達郎	福祉と生活ケア研究チーム	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施推進のための後期高齢者の質問票活用に向けた研究

9　日本医療研究開発機構委託研究開発　【研究代表者・研究分担者】

研究事業	代表・分担の別	氏　名	所属研究チーム	研究課題
革新的医療シーズ実用化研究事業	研究分担者	新井　冨生	病理診断科	薬剤抵抗性の切除不能膵癌に対する核酸医薬STNM01の超音波内視鏡ガイド下投与の第Ⅰ/Ⅱa相臨床試験
医師主導治験	研究分担者	松川　美保	内視鏡科	薬剤抵抗性の切除不能膵癌に対する核酸医薬STNM01の超音波内視鏡ガイド下投与の第Ⅰ/Ⅱa相臨床試験
革新的先端研究開発支援事業	研究分担者	萬谷　博	老化機構研究チーム	機械需要応答を支える膜・糖鎖環境の解明と筋疾患治療への展開
再生医療実用化研究事業	研究分担者	金井　伸雄	HAIC 研究開発ユニット	先天性食道閉鎖症術後の小児を対象とした自己上皮細胞シートによる再生治療のFIH臨床研究

研究事業	代表・分担 の別	氏　名	所属研究チーム	研究課題
次世代がん医療創生研究事業	研究代表者	井上　聡	老化制御研究チーム	がん悪性化を担うRNA制御メカニズムの包括的解明と革新的創薬
次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業	研究分担者	石井　賢二	神経画像研究チーム	血液バイオマーカによる認知症の統合的層別化システムの開発
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	研究分担者	荒木　厚	糖尿病・代謝・内分泌内科	後期高齢者のADL維持・改善に着目した栄養療法の開発
戦略的国際脳科学研究推進プログラム	研究分担者	種井　善一	高齢者バイオリソースセンター	双極性障害に対する体細胞変異の意義の解明と神経ゲノム病理学的手法の開発
創薬基盤技術開発事業	研究代表者	萬谷　博	老化機構研究チーム	ラミニン結合性機能糖鎖を応用した筋ジストロフィー治療薬の開発
長寿・障害総合研究事業長寿科学研究開発事業	研究分担者	増井　幸恵	福祉と生活ケア研究チーム	高齢者の自立度を測定する効果的調査票の開発と検証
長寿・障害総合研究事業認知症研究開発事業	研究分担者	高橋　正時	耳鼻咽喉科	高齢者における聴覚障害と総合機能・認知機能の包括的評価：難聴補正による認知症予防を目指した研究
	研究分担者	金　憲経	自立促進と精神保健研究チーム	適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究
	研究分担者	鈴木　宏幸	社会参加と地域保健研究チーム	高齢者における聴覚障害と総合機能・認知機能の包括的評価：難聴補正による認知症予防を目指した研究
	研究分担者	石井　賢二	神経画像研究チーム	プレクリニカル期におけるアルツハイマー病に対する客観的画像診断・評価法の確立を目指す臨床研究
				若年性優性遺伝性アルツハイマー病に関する多元的臨床データ収集と共有化による効率的な病態解明（DIANJ）
				適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究
	研究分担者	荒木　　厚	糖尿病・代謝・内分泌内科	高齢者2型糖尿病における認知症予防のための多因子介入研究-パイロット研究-
				適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究
	研究分担者	石神　昭人	老化制御研究チーム	アポE遺伝子型と性差にかかわる認知症リスクを低減する食品関連因子の解明
	研究代表者	粟田　主一	自立促進と精神保健研究チーム	若年性認知症の有病率・生活実態把握と多元的データ共有システムの開発
難治性疾患実用化研究事業	研究分担者	村山　繁雄	神経内科	ブレインバンク脳を用いたプロテイノパチーの解析に基づくパーキンソン病修飾薬の研究開発
				進行性核上性麻痺と関連タウオパチーの患者レジストリと試料レポジトリを活用した診療エビデンスの構築
				剖検脳・罹患組織を用いたマルチオミックス解析による神経変性タウオパチーの病態解明と創薬標的の同定
				大脳皮質基底核変性症の細胞、動物モデルの研究
				オミックス解析に基づく稀少難治性神経疾患の病態解明
	研究分担者	萬谷　博	老化機構研究チーム	新規修飾隊リビトールリン酸の病態生理機能に着目した福山型筋ジストロフィーの発症機序の解明と治療法の開発

研究事業	代表・分担 の別	氏　名	所属研究チーム	研究課題
脳科学研究戦略推進プログラム	研究分担者	村山　繁雄	神経内科	日本ブレインバンクネットの構築
	研究分担者	田中　紀子	HAIC 研究開発ユニット	
認知症対策官民イノベーション実証基盤整備事業	研究分担者	藤原　佳典	社会参加と地域保健研究チーム	認知症予防を目指した多因子介入によるランダム化比較研究

10 研究委託費

事業名等	事業実施機関（委託者）	研究担当者	研究チーム・診療科	研究課題
研究成果展開事業（先端計測分析技術・機器開発プログラム）	科学技術振興機構/東京工業大学	豊原　潤	神経画像研究チーム	ＰＥＴプローブの小型シンプル自動合成装置の開発
戦略的創造推進事業	科学技術振興機構	清野　諭	社会参加と地域保健研究チーム	実環境でのフィジビリティスタディとUX評価による健康貯金環境の構築
成育医療研究開発費	国立成育医療研究センター	豊田　雅士	老年病態研究チーム	成育疾患に対する再生医療に関する研究
精神・神経疾患研究開発費	国立精神・神経医療センター	遠藤　玉夫	シニアフェロー	筋ジストロフィー関連疾患の分子病態解明とそれに基づく診断法・治療法開発
		村山　繁雄	神経内科・高齢者ブレインバンク	ＮＣＮＰブレインバンクの運営および生前登録システムの推進
		上住　聡芳	老年病態研究チーム	ジストロフィン欠損モデル動物を基盤とした筋ジストロフィーの新しい治療法開発
長寿医療研究開発費	国立長寿医療研究センター	鳥羽　研二	理事長	オレンジレジストリを活用した認知症予防とケアにする研究
		荒木　厚	内科総括部長	
		村山　繁雄	神経内科・高齢者ブレインバンク	高齢者ドライマウスの原因究明とその克服に向けた基盤研究
		仙石　錬平	神経内科	国立長寿医療研究センター・東京都健康長寿医療センターの共同事業による長寿バイオリソースの構築並びに認知症の発症病態研究
		藤原　佳典	社会参加と地域保健研究チーム	長寿コホートの総合的研究
		北村　明彦	社会参加と地域保健研究チーム	
		金　憲経	自立促進と精神保健研究チーム	
		小原　由紀	自立促進と精神保健研究チーム	
		大渕　修一	福祉と生活ケア研究チーム	
革新的自殺研究推進プログラム研究事業	自殺総合対策推進センター	藤原　佳典	社会参加と地域保健研究チーム	高齢者ボランティアと協働するソーシャル・キャピタル強化による自殺対策の推進に向けた研究

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター年報

2020年９月発行

この年報について、ご意見・お問い合わせ等がございましたら、下記までお寄せください。

編集・発行　　地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
経営企画局事務部総務課
〒173-0015 東京都板橋区栄町35番２号
☎03（3964）1141（代）